

菊池謙一・幸子夫妻の戦時下往復書簡

三輪泰史 編

解説

三輪 泰史

一 戦時下往復書簡の概要

菊池謙一（一九二〇—一九七九）は日中戦争前夜の時代に、羽仁五郎の影響をうけつつ歴史研究をはじめ、マルクス主義の方法によるアメリカ近代史研究の草分けとしての仕事をのこした人である。敗戦後は長野県下伊那で青年層にたいする啓蒙運動、あるいはミチューリン農法の普及を軸とする農村社会運動にとりくみ、一九六二年から七四年まで五回連続で、参議院議員選挙長野県地方区の共産党候補者として活動した。

本篇はその菊池謙一が、アジア太平洋戦争末期の一九四四年五月からおよそ一年にわたり、妻・幸子（一九〇八—一九九六）と交わした往復書簡を翻刻するものである。それ以前、謙一は世界経済調査会、幸子は鉄工聯盟に籍をおく共働き夫婦として、東京都渋谷区原宿の借家で生活を共にしていた。ところがアメリカ軍機による東京空襲が現実味を増すおりから、幸子が病床に伏したことがきっかけとなり、また謙一の研究に専念したいとの希望もあって、幸子は長野県下伊那郡鼎村（現飯田市）の実家に疎開することとなったのである。

往復書簡の第一便は、幸子を疎開先の実家に送っていった謙一が、東京にもどった翌日に書いたものらしい。それを受けとった幸子は、五月二〇日に返信を認めている。こうして東京（はじめ原宿、七月末からは世田谷区経堂）の謙一と、信州の幸子との戦時下往復書簡がはじまった。なお謙一の第一便には、「一週に一回、君に手紙を書きませう」とある。そのあと七月二九日夜に記した手紙には、「今夜から、あなたへの手紙を日記の形に書いて

三分毎ぐらいに出しませう」と記されている。以来、謙一も下伊那に滞在した期間、そろって関西を旅行した期間などをのぞき、両者ともほぼ毎日手紙を書いていたらしい。

私が菊池謙一関係史料の調査のために下伊那を訪れたのは二〇〇〇年春のことだが、そのとき戦時下往復書簡は住む者のいなくなった旧菊池宅（飯田市鼎）の押し入れにしまわれており、謙一から幸子あて書簡は、口絵1のように最後の一通をのぞいて、他はすべて便箋だけが日付け順に重ねられていた。おそらくは謙一みずからが、飯田へ疎開したあと、一通ずつ封筒から抜きだして整理したのであろう。幸子から謙一あて書簡のほうは、口絵2のようにそれぞれ郵便封筒に挿入された状態で、結婚前の書簡をふくめ、いくつか束ねられていた。その数量は現存するものだけでも、謙一から幸子あての書簡が一〇二通一五九日分、幸子から謙一あての書簡は一二六通一二四日分（ただし内一通は封筒のみで中身は不明）にのぼり、そこに幸子から謙一あての「はがき」七葉が加わる（たとえば三日にわたり認めた手紙をまとめて投函した場合は、一通三日分として数えた。同じ日に時間をおいて書いた一つの手紙が、それぞれ別便で郵送された場合は、二通一日分とみなした）。

ただし謙一から幸子あては一九四五年一月三〇日記の書簡のあと、五月二一日～二四日記および五月三一日日記の二通があるだけで、幸子から謙一あても同年二月二四日記のものまでしかない。謙一が下伊那の幸子のもとに疎開するのは一九四五年六月初めであり、それまでは手紙のやりとりも継続したであろうが、たとえば同年三月と四月の日付けのある書簡は皆無である。ちなみに幸子の手紙の記述から、謙一が一九四五年二月の一、一、五、七、八、九、一五、一七日に手紙を出していたこと、また五月二四日、信州から東京に帰着した謙一の手紙文により、彼の留守中に幸子発の書簡四通が届いていたことが確認できる。これらを含め多数の書簡が紛失ないし処分されたのであろう。

菊池夫妻の戦時下往復書簡については、すでに拙稿「菊池謙一の戦時下抵抗」（大阪市立大学日本史学会『市大日本史』第五号、二〇〇二年）、同じく「菊池謙一の歴史思想―戦時下抵抗から職業革命家としての戦後へ―」（長野県現代

史研究会編『戦争と民衆の現代史』現代史料出版、二〇〇五年）が、これに依拠して謙一の戦時下抵抗のありようを考察している。しかし拙稿の書簡の用い方、そこからの原文引用の仕方は、そのときの私の限定的な関心の範囲内で、菊池謙一の戦時下における思想的営み、および交友関係にかかわる記述のみを切り取ったものにすぎず、その切り取った部分でさえ、正確にその意味を読みとり紹介できているのかどうか疑わしい。往復書簡の豊かな内容は、その多くが未紹介のままなのである。

一般にアジア太平洋戦争末期における社会の動向、人びとの日々の生活や思いを知りうる史料は稀少である。行政文書や雑誌・新聞はもちろん、私的な記録のたぐいも量的に限られていて、この時代の社会生活のありようを実証的に解明し、歴史具体的に叙述するのは困難を極める。その意味で菊池謙一・幸子夫妻の往復書簡に記された多彩な記事、その一つ一つにみられる詳細で具体的な描写は貴重であろう。私としてはすでに拙稿に用いた史料であるにもかかわらず、その全文の翻刻・刊行をおこなうに至ったゆえんである。ただし往復書簡の翻刻・原稿化の作業の過程で、その分量が当初の見込みを大幅に超過したため、手紙文のうち書籍からの抜き書きや、読書ノート風の記述の一部を省略せざるをえなかった。紙数の制約上やむをえない措置として、ご了解を乞う次第である。

以下、菊池謙一・幸子の戦時下往復書簡の内容の概略、およびその特徴や史料の意義について、私なりに解説を加えておきたい。ただし謙一の戦時下抵抗の思想にまつわる内容については、前期拙稿を参照していただくこととして、ここで詳しく触れることはしない。

二 日々の暮らしが

遠く離れて暮らすことを余儀なくされた夫婦間の書簡である。とおり一遍のあいさつや用件伝達のための手紙

とは訳がちがう。それぞれが今日一日をどう過ごしたか、身の回りでどんな出来事があったかを相手に伝え、その都度の感慨や思索について理解・共感をえたいとの動機があればこそ、毎日のように便箋上にペンを走らせたのであろう。それだけに記述は詳細かつ具体的で、これを読みつづけていくと、まるで菊池謙一の、あるいは菊池幸子の戦時下の日々を、追体験しているかのように感ずるほどである。まずはそんな二人の日々の暮らしぶりを垣間みておこう。

幸子の父・石井虎秋は外科の開業医であった。その実家での暮らしは、食事の支度や掃除・洗濯、頻繁に訪れる客の接待、それに姪・早苗の子守など、結構多忙だったようだ。一九四四年九月二一日からは看護婦見習として、手術の助手などの仕事も引き受けることになった。それでも台所は当番でない日もあり、東京で勤めに出ていたころと比べれば、時間的には余裕があった。もともと文学好きなうえ、謙一の要請をうけ、歴史や哲学を勉強することを決意していた幸子は、その時間を机の前で有効に使うことを希望したが、計画どおりにはすまない。一番の障害は家内を牛耳る母・キヨの気まぐれだと、しばしば謙一あての手紙で不満をうたえている。東京の職場の仲間から切り離された孤独感も、幸子には堪えがたいものだったらしい。

謙一のほうは一九四四年七月、引越にさんざん苦労した末、身内の学生二人との共同生活を解消し、勤務先である世界経済調査会経堂分室に住み込むことになった。生活費や家事労働が削減でき、通勤時間も不要となったのだから、アメリカ史研究に専念するという点では、恰好の条件・環境をえたといえる。経堂分室は自由な雰囲気職場だったようで、同僚たちとの交流、職場のちょっとしたトラブルなどの報告も面白い。職場の若い人たちを「弟子」としての学習会、学生時代からの友人たちとの交流の記述は、孤独を意識することの多い幸子には、愉快に思えないときもしばしばだったようだ。

そうした日々の暮らしのなかで、一番の問題は食材の確保、食事の準備のことであった。幸子の実家も田畑はもたなかったが、食料事情は東京ほどには逼迫しておらず、患者からいろいろ貰うものもあったようで、当時と

しては比較的恵まれていたのである。それにたいし謙一の方は苦勞つぎだった。謙一発の書簡には毎日のように、その日の食事のメニューや近隣の農家への買い出しの模様、銀座その他での外食のよしあしが記されている。そのうち自炊にも慣れて、友人たちにその「極意」を語るまでになるが、栄養不良が原因とみられる身体のみくみを案ずる記事もある。その延長線上に、一九四五年二月の病臥があったのだろう。

戦時下の暮らしは衣服の面でも苦勞があった。幸子が古着を解いて洗い張りし、それで謙一の「モンペ」や「ブルーズ」をつくる、あるいは自分の「ねまき」にするという記載がある。謙一が信州に送ったシャツや「Yシャツ」を、幸子が繕って洗濯・アイロンがけのうえ返送したとも記されている。そんなときはたいいてい果物や餅・豆などを一緒に詰める。むろん衣料よりも食料の送付のほうが頻繁だ。逆に謙一から送られるのは、主には配給品の煙草である。これは幸子の父にとっては必需品で、他にクリーム・書籍・小物類など、都会でないといふ手しにくい品もあった。

このように見ると、戦時下の困窮生活を多少なりとも緩和したという意味で、郵便小包みの重要性が浮かびあがってくる。郵便局の混雑や荷物制限に辟易し、小包みが届かないときもきずする記述もあるが、東京の中心街が爆撃された二〇一五年一月二七日のすぐあと、二月一日の幸子発書簡には「此のごろ又、前通り郵便小包みはあたり前に届く様ですね。此の分なら昨日のも三日か四日目には着くでせう」と記されている。三月一〇日の東京大空襲のころはともかく、日本の郵便制度は戦時下においてもだいたいは機能していたのである。このころになると妻子を疎開させた男性の一人ずまいが増えてくるが、彼らには郵便小包みのありがたさはひとしおだったにちがいない。

このほか東京での防空宿直の大変さ、信州での地域組織のわずらわしさなど、いかにもこの時代らしい日常の記載が目を引く。それに夫妻の日々の読書熱心には驚かされる。とりわけ謙一の博覧強記ぶり、たとえばギリシヤ悲劇・ギリシヤ哲学からフランス近代文学やドイツ観念論哲学、さらには星座や気象にまでおよぶ該博な知識と、

それに裏付けられた理路整然の文学史談義・哲学史談義は圧倒的だ。私たちの世代では想定しにくい、旧制高校・大学出身者ならではの「教養」というものなのであろう。

三 市井の出来事

当然ながら往復書簡の話題は、日常茶飯な物事だけではない。幸子が信州で、謙一が東京で、それぞれ見聞きした変事・惨事のたぐいも、しばしば詳しく報告されている。病気治療のために疎開し、やがて妊婦となる幸子の場合、活動範囲は実家とその近辺にはほぼ限られるが、石井家は大家族で人の出入りも多かったため、トピックは割合豊富であった。

一番多いのは患者にかかわるものだが、たとえば一九四四年九月一六日、「頭からずぶ濡れ」た美しい娘が診察につれてこられた。彼女は召集のため帰郷していた若者を横浜から追ってきたのだが、その男は結婚の約束をしておきながら、「召集にかこつけて逃げをうった」らしく、一日遅れで逢えなかった娘は悲観して川に飛びこんだのだという。また幸子らは野外散策のおり、嬰兒殺しの事件に遭遇したが、あとで捜査に関与した医師から聞いたところによると、犯人の娘は姉の出産の手伝いに行ったさい、義兄に襲われて妊娠し、義兄はすぐ出征したため相談相手なく誰にも言えず、産み落とした前後も普段どおりふるまっていたという。そんな悲しく恐ろしい思いをした娘が一八年の刑ときいて、幸子らは「大ファンガイ」だった（一〇月四日の記）。

母の知人の話では、彼が村の床屋にいくと、その「お婆アさん」は出征中の息子の自慢話から始め、散髪の間でも家畜への給餌や昼寝のために時間をとり、終了後は夕飯を食べていくようすすめる始末で、結果六時間もかかってしまった。ある朝、その床屋の前を通ると、「婆アさん」は大声で南洋の島々の名を呼び、その地の兵士たちの無事を祈っていたという（九月一四日の記）。さらに健民修練所につとめる妹が怒りを込めているには、

同所の顧問その他の役についている飯田市医師会の医者たちが、修鍊所を「自分達の私設料理屋位に心得」で、修鍊生たちが眠る時間でも、公の材料を用いて「どんちやん騒ぎ」の宴会をしていた（二月三日の記）。これらの例はいずれも、戦時下ならではの悲喜劇というところであろうか。

謙一が書いて寄こしたもののうちでは、同僚たちに誘われて行った国民酒場の記述が秀逸である（一月十九日の記）。その日は戦果祝いの増配があるとかで、経堂駅そばの国民酒場には八〇〇人近くが押しかけたが、大勢が並んで待つあいだの喧騒、それを四列横隊にととのえて番号をかける店の主人の手ぎわ、呑む順番を決める番号くじが引き起こす一喜一憂、そして呑んで勇ましく朗らかになった「オッサン連」の様子などが、セリフのような対話形式で詳述されていて、まるで映画でも見ているようだ。「酒のみの話は意地汚くて、のむ話ばかりで余り時局談が出ない」と謙一は愚痴っているが、それでも「女のは入る行列の方が殺気立っていかんな」と誰かも言っていたように、食料の行列よりは余裕があって「呑気でいい」という。なおこの謙一発の書簡に頻出する対話形式の文は、「今の時代の日本を形象化した小説」を書く必要があると思う謙一にとって、「小説の勉強」の意味もあつたらしい（二月二八日の記）。

ほかにいくつか例示すると、鎌倉に住む幸子の妹が乳児を亡くしたので、一月二七日、謙一は空襲騒ぎのなかを弔問におとずれたが、妹夫婦が語るには容態が急変したとき、「アパートの人達も一ぱいつめかけてゐて、「僕が帰つて来ると大変なんですよ。みんな泣いてゐて、僕を見ると、旦那さんは一体どこをうろくしてゐたんだなんて怒り出す人もゐる」という。近隣の人間関係あり方が、現代社会のそれとは大きく異なっていたことがうかがえる。

また一月二三日、経堂分室の「小使ばあさん」たちと茶のみ話をしたさい、近ごろは「三つか四つの嬢ちゃん嫁入り道具まで、そつくりそろへた人」や、「男の赤ん坊」が生まれると、すぐ「大学の制服」を作った人のことが話題になった。それをうけて「ばあさん」が語ったところによると、知り合いの大手の息子は婚礼を目

前に召集されたが、それでも嫁入りしてきた娘の「それはお立派な、大変な金目」の嫁入り道具は、まだ「十五、六の嬢ちゃんの時」「物はみんな事変前のもので」揃えたのだという。庶民がその日その日の食糧にも困窮していたとき、金持ちはもっと先のことに心をくだいていたということだろうか。

だが何といっても注目すべきは空襲にまつわる記述であろう。一月二十五日の手紙には、前日昼間の「帝都空襲第一回のもやう」、たとえば超高空を通過する大型米軍機の編隊、「大部分低い所を哨戒的にとぶだけ」の日本軍機、それらを下から仰ぎ見る人たちの、まだ呑気そうな気配などが詳細に記されている。だが同三〇日未明の「恐らく今までに一番猛烈に思はれた空襲」には、分室の家主たちも大騒ぎしたが、謙一は気づかないまま眠り込んでいて、のちにある種の武勇伝のように語られたらしい。その日は「外食券で近処の食堂へ朝食をたべに行」ったが、謙一が耳にした「凄かったね。おばさん。おれんちなんかゆれたぜ」から始まる、その食堂内の会話からも人びとのうけた衝撃がわかる。

会話といえは空襲警報下、なんとか動いてくれた省線電車の中の人びとの様子を、例の対話形式を駆使してえがいた記事も興味ぶかい（二月三日の記）。友人が屋根の上において爆死したという男は、「焼夷弾は大したことないなあ。ふみ消せるよ。だけどバクダンはこわいよ」と話している。二月八日、謙一を訪ねてきた伊藤書店の編集担当者は、荻窪から四谷左門町へ「疎開」するという。荻窪でうけた爆撃は「生きた空もなかった」ほど恐ろしかったが、焼夷弾は消火可能であり、日本橋・神田の焼夷弾による被害もそれ程ではなかったから、かえって都心に近い四谷のほうが安全だと考えたらしい。この種の焼夷弾への楽観視は、大空襲の惨劇を経験する前の段階では、ごく一般的だったのであろう。

翌一九四五年一月九日記の手紙には、米軍機の編隊が強風にあおられながら高空を飛びかう様子や、そのうちの一機へ「白い点のやうな友軍機」が、「正面からツツと近づいたかと思ふと、あつと云ふ間に接触し」、とたんに炎上・空中分解した経緯が記されている。米軍機のほうも飛行機雲とは別の白線を引いて、編隊から遅れは

じめたという。同じく三月一〇日には、死者推定一〇万人という大空襲があったが、その様相は当該時期の書簡が欠落していて読みとることができない。しかし五月二四日未明の大空襲については、「ゆつくり観戦」したうえで詳しい報告がある。

その日は深夜一時ごろのサイレンで目がさめ、鉄カブトをかぶり非常袋を持って露台にでると、ボーイング機が次々と「探照灯に照らされ乍ら二千米ぐらいの低空で都心に向つたかと思ふと、もう渋谷の方は火になつて」、やがて経堂の南東北三方も火の海と化した。他方、日本軍機の攻撃などにより撃墜された米軍機を、経堂分室の露台から七、八機も目撃できたという。とくに午前二時過ぎ、分室近くの高射砲の砲弾が命中した米軍機は、「凄い火の塊になつて此の辺^邊の地面の石ころまで見えるほど明るくなり」、いったんは上空を通りすぎたが、「異様に弯曲する轟音を発して、その火だるまがこの少し東北の上空でぐつと旋回し、僕の真上へうづまきながら落ちはじめ」たという。夜間低高度からの無差別焼夷弾爆撃は、地上の日本人にとってはもちろんだが、同時に米軍機の搭乗員にとっても、この上ない恐怖だったのであろう。

四 夫婦（男と女）の関係史

ここまで日々の暮らし、時々^々の出来事など、いわばストーリー性とはほとんど無縁のような記述を、往復書簡のうちから抽出・紹介してきた。しかし長期にわたる手紙のやりとりゆえ、そこには当然ながら、ひとつづきの変転を読みとれる要素の記述もある。その最たるものが夫婦の関係史であろう。それも往復書簡の期間中だけでなく、それより前、二人の出会いから恋愛・結婚に至る経過、そして結婚後の生活の様子なども、ある程度記されている。さらにいえば敗戦後、謙一が社会運動に邁進してゆく時期のことを、それなりに見とおすことも不可能ではない。

さて「二人の交友の恋愛としての出発」があった一九三六年当時、幸子が既婚で謙一より年上だったという事情は、二人の恋愛・結婚の重大な障害となった。にもかかわらず恋愛を成就できたのは、「僕はあなたから欲求されてゐることを感じ、僕もあなたを全世界を敵としても欲求すると感じ、この相互欲求の確認」（一九四五年一月二日の記）があればこそであった。

しかし結婚生活はというと、当初から二人のあいだに齟齬があったらしい。謙一の側が願ったのは、夫婦として「二人一単位」になっての人生である。それは日々の暮らしや友人たちとの交流を共にすることはもちろん、思想・世界観や社会へのかかわり方についても夫婦間の一致、相互理解と相互協力を求めるものであった。もともと親しい人への「自己没入的結合」願望の強い人だったらしいが（一九四四年八月九日の記）、そこに社会主義者らしい同志的夫婦像の理想を重ねあわせたのであろう。謙一は幸子に世界観の勉強を要求し、「おしどり夫婦」のように行動することを好んだ。

幸子の側はそんな謙一の対応を、「一方的で押しつけがましく無理解で独善で云々」と思うこともあったらしい（一九四五年一月三日の記）。謙一によると幸子は結婚生活において「当初からずつと受身」で、「二人」という単位ではなく「一人」として「物を考へ、二人の結合を解消可能のものとしてとりあつかふことをやめはしなかつた」（二月二日の記）。幸子としては謙一にたいしある種の負い目を感じ、結婚が一時的なものに終るのを予期するところがあったというから、「時々女権論者風に個人単位の考へかた」（二月二〇日記の謙一発書簡）をした背景には、将来おこりうる別離の痛みにたいし、予防線を張るといような動機が、意識下で働いていたのかもしれない。そんな葛藤をかかえつつ、それでも当面は仲のよい夫婦としての生活があったのであろう。

しかし謙一がアメリカ史研究を職業とし、みずからの専門研究の社会的意義や、研究者としての自己の使命を自覚するにいたったとき、しかも応召による研究中断が明日にでもおこりうるという切迫感ゆえに、妻の理解・協力のもと、今このときを仕事に没入したいと切望するようになったとき、二人のあいだの齟齬は收拾の

つかないものにまで拡大する。謙一は「僕の全生活の没入を要求する仕事が出て来」たにもかかわらず、「その仕事があなたの生活と無縁だったこと」に不満をつのらせた（一九四四年八月九日の記）。しかし幸子のほうは「自分の仕事に私の興味を引きこもうとする事は、一人ではやれぬから誰か相手を求める、あなたの弱味だ位に思つてゐた」という（一九四五年一月二五日の記）。研究に集中しえないまま焦慮だけがふくらむ謙一は、みずから仕事をかかえ、健康上の問題がある妻には、夫の仕事をささえるだけの余力がないことに気づかなかつたようだ。

幸子が病に伏したことで、謙一は幸子を信州に疎開させることを決断する。幸子の病氣治癒を一番に考えたことはもちろんだが、仕事の「邪魔」をされたくないとの打算があつたことも否定できないようで、在東京のままの問題解決を希望していた幸子が、疎開を強行した謙一に「恨み」に似た感情を覚えたとしても無理はない。往復書簡がはじまつた一九四四年五月、実は二人の関係はかなりの危機にあつたわけである。

転機となつたのは謙一の労作「プランテーション」（一九四四年中に出版の予定だったがかなわず、ようやく敗戦後の一九五五年、『アメリカにおける前資本制遺制』として未来社から刊行）であつた。幸子が同書原稿を読むことは、謙一の熱望するところだったが、疎開前の幸子はそれに応えられないでいた。なにせ本格的な専門書である。疎開後も容易にはかどらず、そのことに痺れを切らせた謙一は、「せめて早く通読して下さい。若しそれも望めないなら、あなたの愛情へも失望するやうな気がします」とまで述べている（一九四四年一〇月六日の記）。それだけに幸子がノートをとりつつ半年もかけ、同書を読み終えたときの謙一の喜びは大きかつた。「僕のプランテーションを丁ねいによんでくれたことを、僕がどんなに嬉しく思つてゐるか。僕にはああなたが難渋や多忙の中で一生けん命に読んでくれて、僕の生活へ熱心に共感してくれたことに、あなたの僕に対する愛情の最大の証左を得たのです。それでこそ僕は、これからの仕事に全力をうちこめます」とある（一月八日の記）。

「プランテーション」は幸子の考えも大きく変えたようだ。幸子自身これに本式にかかることで、「あなたは私

の知らないまに、はるか彼方へ行つてしまつてゐた」ことに気づいたと述べるように（一九四五年一月二日の記）、謙一の才能の大きさを、その仕事の社会的意義に、はじめて眼をひらいたのである。そのことは謙一を誇りに思う反面、幸子の自信喪失にも結果し、自分は謙一の妻としてふさわしくない、との思いこみから悶着を引きおこすことになるが、それ自体は謙一の愛情と誠実とによって容易に克服しうる問題であり、書簡上の関連するやりとりの頻度ほどには重要でない。

決定的なのは「内心からの欲求として勉強を求めた事」はなく、「貴方から云はれる毎にうるさい事だと思」つていた幸子が、「あなたの仕事」あなたの世界観努力と生活努力の統一にあること、そしてそれを私は積極的に理解し、共に前進するのではなくてはいけない事、其のためには今までの私の考へ方一切を根本的に徹底的に変へる他はありません」というように、みずから世界観獲得の努力を誓つたことである（二月二五日の記）。謙一のほうも『『プランテーション』』以後のあなたの本の読みかた、精神的欲求のありかたは、内向的になつた場合を除いて、僕が結婚の当初から願望して来たものの実現を感じてゐるのです」と述べ（二月二四日の記）、「最適の伴侶的理解者を得た喜び」を囁みしめている（一九四四年一月八日の記）。

こうして劇的な恋愛から始まり、結婚生活の長年にわたる齟齬・葛藤をへて、ようやく疎開・別居中に「二人一単位」の關係の夫婦、同志的に結合する夫婦が成立した。謙一にとっては長年の願望の実現であり、疎開を強行したことも結果的には間違ひではなかつたということになる。そんなときに幸子の妊娠が確かなものとなった。文字どおりのサクセス・ストーリーの一種とみなせなくもない。

しかし私には気にかかることがある。一つは、二人の關係性は対等と評してよいものかどうか、というような問題である。当然ながら謙一は、旧來の家父長制的家や男性優位の夫婦關係を志向してはいない。みずからの恋愛を成就させる過程で、家の圧力や世間の因習を正面突破した體驗を有するだけに、むしろそれらにたいする徹底した批判者である。また恋愛から出発した結婚以外の結婚、それぞれの都合で便宜的に男女を組み合わせたよ

うな結婚を、人間関係の合理化・近代化という歴史発展の方向に逆行するものとみなし、友人の見合を阻止すべく懸命の説得をこころみている。

しかし幸子との関係においては、「いつでも友であり、対等の人間だった筈」とはいいながら（一九四五年一月二〇日の記）、実際の書簡の文面には幸子にたいし、指示・指導するような内容・口ぶりが多いことは否定できない（たとえば一九四四年九月五日記の書簡）。幸子が辛辣な言葉で謙一を批判することもしばしばで、謙一もそれを謙虚に受けとめるところがあり、謙一が幸子にたいし權威主義的であったわけではない。それでも謙一の側が、いわば「上から目線」で幸子に対していたような印象はこのころ。

他方で謙一には、幸子に過度に甘え、依存しているように感じられるところがある。たとえば「あなたは普通の読者ではないことを忘れないやうに。僕の妻であり、僕の伴侶的理解者たるべきであり、僕の今その前でむなしくあがいてゐる新しい著述の精神的エネルギーの源泉たるべきなのを忘れないやうに」などという（二〇月六日の記）。「学問でも、芸術でも、創造的生活、創作をする生活」には「真の理解者同情者」、すなわち「伴侶的理解者」が必要で、「性愛によつて結ばれた妻こそ」がその適格者だといふのである（八月一三日の記）。

なんども催促して「プランティション」を読ませたことに象徴されるような、謙一の幸子にたいする強引さ、押しつけがましさは、權威主義や男性優位の発想によるというよりは、このように妻を強く求めるがゆえのものなのであろう。「それを僕がうみ出す為には、あなたが必要なのです。あなたの大きな愛情が。あなたの深く純一で理解に徹した愛情が。それが不満だから僕がこんなに苦しむのです」「だからあなたに強引に、乱暴に求めてやまないのです。（中略）あなたの僕への真の結合を、真の合体を、僕の仕事への合体を求めて求めてやまないのです」というように（一九四五年一月一七日の記）。

幸子の苦勞や健康について、いつも細やかな気遣いをみせる謙一である。自己の性格や行動をかえりみ、それを冷静に分析し、問題点を明らかにする能力も高い（たとえば一九四四年九月三日の記）。にもかかわらず世界観獲

得のための勉強、夫の専門理解のための勉強、すなわち「伴侶的理解者」としての素養にかかわる努力については、幸子にたいし容赦なく高い水準を求めるところがある。こうした幸子への要求は謙一にとって、同志的夫婦という理想像の追求にはかならず、いわば純然たる善意からであっただけに、そのぶん幸子との関係において、これを相対化したり自己反省したりすることが、容易ではなかったのかもしれない。いわば善意にひそむ「盲点」である。

その結果、幸子のほうは懸命の勉強をつづけるとともに、出産前の不安な時期も謙一の研究の邪魔にならないよう心をくだし、不自由な実家での暮らしに一人で堪えることを決意した。そこには通常の男性優位とは異質だが、男女の関係性に非対称な面があったことは否定できない。

関連して、いま一つの気がかりは、敗戦後の夫婦の関係史である。疎開前は信州で中学の教師になる、あるいは知人に就職を世話してもらうなどと述べていた謙一である。しかし敗戦後は生活のことは脇においてでも、青年層にたいする啓蒙運動、共産党の政治闘争に傾注してゆくことになった。そんな夫をささえ、家庭をきりもりした幸子の苦労は察するに余りある。こうした無理さえ可能にした夫婦間の信頼関係・同志的關係が、戦時下往復書簡の時期に成立したことはすでに述べたとおりである。しかしそこに往復書簡のころに通底するような、謙一の側の強引なイニシアティブ、幸子の側の消極的な受容・受忍という側面はなかったのだろうか。

菊池謙一と幸子とは、愛情にもとづく男女の真の結合を希求し、広く社会の人間関係の解放と合理化のためにたたかった。しかし二人の関係の内側に立ちいってみると、そこには彼らが理想とした男女の対等な関係性とは位相の異なる、非対称な要素が含まれていた。二人の戦時下往復書簡は、そうした関係の実際をつぶさに観察しうる稀有の史料である。たとえばジェンダーの視点からする研究は、菊池夫妻の関係をどのようにとらえ、社会全体の男女関係史のなかにどう位置づけるのだろうか。そんな議論が展開されることを期待したい。

五 歴史への信頼とその陥穽

一九三〇年代の初頭、マルクス主義の思想的影響がひろく社会、とりわけ若い学生・労働者のあいだに浸透した時代、そのころに東京で学生生活を送り、共産主義運動にかかわって挫折を体験した人たちのその後の人生という、私などは即座に野上弥生子の長編小説『迷路』の登場人物を思い浮かべる。心の屈折をかかえながら、生きづらい時代を誠実に歩もうともがきつつ、ついには戦争に呑みこまれてゆく、そのような人生である。『迷路』の主人公・菅野省三と菊池謙一とは、ともに滝川事件にたいする抗議運動にかかわっており、ほぼ同世代と考えてもよい。しかし菊池には菅野のような心の屈折はなかった。菊池はいう。

歴史を学ぶ人間として、僕達は根本的に楽天的です。自分の身に關する限りは全く望みなきに近くとも、人類と云ふことを考へ、歴史と云ふことを考へると、今程晴れ晴れと明るい気持になれることはかつてなかつたと云へるでせう（一九四四年一月一日の記）。

応召による研究の中断、さらには人生の中断がいつあるかもしれない、そんな状況にあった人の言葉である。菅野省三と菊池謙一をわけたのは（もっとも菅野は実在の人物ではないのだが）、一つには、この歴史の進歩・発展、その必然性・法則性にたいする信頼の有無にあったのである。滝川事件のあと一〇年間のみずからの歩みについて、菊池は「現実には僕達を負かし傷つけ転倒もさせたが、とにかく世界観努力をすてず、その中へ現実の敗北をも吸収し、新たな歴史的時代へと自己を保存し鍛へた。今その道にある」と述べている（一九四五年一月一日の記）。菊池の世界観の真骨頂は、「大状況の解釈論にとどまらないところ、つまり自己の生活空間にまでおりてくる浸透性、自己の日常を律する実践性」にあるが（前掲拙稿「菊池謙一の戦時下抵抗」）、それも歴史へのゆるがぬ信頼あればこそであろう。戦時下の日本にこのような抵抗者・抵抗思想があったことの意義を、ここであらためて強調

しておきたい。

ただ問題なのは、その信頼の根拠である。菊池謙一の場合、主要には学生のころより学んだ歴史、とりわけ奴隷解放のプロセスをふくむアメリカの歴史についての知識・理解にあることは、容易に推察しうる。しかしそれだけののだろうか。歴史への信頼ということに関連して、私が気になるのは謙一や幸子のソ連とスターリンにたいする目線、その甘さ安直さである（たとえば一九四四年一〇月一八日記の謙一発書簡）。書簡上に関連する記述はごく稀にしかでてこないのだが、そこには他への言及に比べると、やや奇異に思えるような好意的な評価がある。あるいは菊池夫妻の抵抗の支柱となった歴史への信頼が、社会主義ソ連の存在という現実に関連を置いていた可能性、それこそが資本主義から社会主義へという、歴史の発展法則の正しさの動かぬ証拠と考えられていた可能性はないのだろうか。

歴史の発展を確信するがゆえに、先行する将来モデルとしてのソ連にたいする評価が、おのずと甘いものになるということは充分想定しうる。さらにいえば戦時体制への反発・抵抗が真剣であっただけに、その支柱としての歴史への信頼が強固であることを誰よりも望み、結果としてソ連への深い思い入れが生じたのかもしれない。だとすると夫妻のソ連への思い入れは、相当根ぶかいことになる。さらにはその思い入れが戦時下抵抗のエネルギーとなっただけではなく、当然のもののように戦後へ持ち来たらされ、たとえば夫妻がとりくんだミチュエリン運動などに影響することはなかったのだろうか、それら諸運動の蹉跎の要因となることはなかったのだろうか。検証が必要であろう。

ソ連のような特権集団による強権的支配体制、その体制イデオロギーと化した「マルクス主義」ほど醜悪なものはない。菊池夫妻のマルクス主義はそれとは真逆である。戦時体制にたいする抵抗のなかで鍛えられ高められたマルクス主義であり、特権・利権とは無縁な反体制の思想であった。そしてその思想のままに、戦後の後半生も歩みつづけたのである。それにしても良心的で純粋な抵抗が、ソ連の強権的支配体制に勇気づけられ、その刻

印があとあとまで消えないという皮肉な、いな、残酷なパラドックス。それが恐慌と戦争の時代、革命とファシズムの時代の苛烈さ、その時代を生きた人の運命ということなのだろうか。

一九四五年五月二一日、信州から東京に戻った謙一は、翌二二日記の手紙に「僕はもう本拠をそちらへ移してつて、こちらへ出張して来たやうな感じです。何だかすっかり片づいて了ったやうな。我々の住居は思つたより住みよくて（中略）申し分ありません」と書いています。幸子もすでに鼎の実家をでて、謙一とともに暮らすための住居を、下伊那郡松尾村（現飯田市）に構えていたようだ。謙一の手紙は五月中には困難だが、米の配給との関係で六月「十日までにはどんなことがあつてもそちらへ移つてゐるでせう」と記しているから、六月初旬には謙一も信州に疎開したのであろう。こうして菊池謙一と幸子との往復書簡は終りをつげた。

従来 of 歴史書の多くは、国民・人民あるいは人類など、抽象化された主体を主語とする歴史であった。それを実在した個々人の体験にそくして、あるいは体験に立ち戻つてとらえなおす試みが、近年ひろまりつつある（たとえば大門正克『戦争と戦後を生きる』小学館、二〇〇九年）。個々の体験の単純な総和が全体史になるわけではないが、生きた人間のリアルな歴史をえがくためには必要な作業であらう。

ここに翻刻・刊行した『菊池謙一・幸子夫妻の戦時下往復書簡』は、苛酷な時代を懸命に生きた一組の夫婦が、みずからの体験、たとえば日々の暮らしぶりや市井の出来事、時々感慨や思索のあと、さらには夫妻の関係性までを、その都度詳細に書きしるした貴重な史料である。この時代に関心のある人、この時代の研究を志す人には、これを読んで菊池夫妻の生活世界のなかに、一度は足をふみいれたいと思う。

〔付記〕菊池謙一・幸子夫妻の戦時下往復書簡の原史料は、菊池夫妻のその他の史料とともに、現在、飯田市立歴史研究所に収蔵されており、遠からず閲覧が可能になるものと思われる。

凡例

一、本篇には、現存する菊池謙一・幸子夫妻の往復書簡のうち、一九四四年五月から翌一九四五年五月までのものを、およそ日付順に翻刻・排列した。一部省略した箇所もある。

一、書簡一通ごとに標題を付し、発受信者および当該手紙文が書かれた年月日を明記した。手紙が書かれた日は特定できないが、封筒に日付けが記されていたものについては、「〳日付け」と標記した。また消印の日付けが読みとれる場合は、「〳日の消印」と付記した。

一、原文の翻刻にあたっては、便宜上、次のように改めた。

- ① 原文中の旧字体ないし俗字による漢字は、原則として常用漢字にあるものは新字体で、常用漢字にないものは元のまま記載した。
- ② 句読点については、適宜加除した。段落についても同様に、適宜変更を加えた。
- ③ 誤字・脱字・衍字や意味不明の箇所は、傍注で正しい文字を示すか、(ママ)(脱)(衍)などとした。これらの傍注に疑念が残るものについては、(カ)とした。ただし同じ誤字などが繰り返される場合は、原則として一通ごとに初出のみ指摘するにとどめた。
- ④ 原文中の塗末や末梢は、原則としてその箇所を示すことはせず、訂正された文字がある場合は、本文中の該当箇所記入した。用箋の欄外の加筆なども、本文中の適当と思われる箇所に書き入れた。
- ⑤ 判読できない文字があった場合は、その字数を推定して□□で示し、当該文字をおよそ推測しうるものについては、その推測を傍注で示した。
- ⑥ 原文中の文字に付されたルビは、必要なものに限定して記載した。この場合のルビは()でくくられておらず、

その点で（ ）内に記された傍注と区別しうる。

⑦原文中の文字に付された傍点・強調印は、「、」「・」「○」「◎」など多様だが、原則として「、」に統一した。

⑧文の切れ目を示すため、行間に付された「×」「○」などの記号は、初出の一九四四年五月二三日記の書簡をのぞき、原則として省略した。

一、手紙文中に登場する人物の氏名のうちには、「K」「YM」「S子」などと記載し、これを特定できないように配慮した個所がある。ただし原文で「F」「Tさん」などとイニシャル表記されていたものについては、傍注に（原文）と記して、編者による作偽でないことがわかるようにした。

一、編者による注記については、該当個所のすぐあとの（ ）内に、「編者注」と断わったうえで記入するか、あるいは該当個所に「※」印を付し、その書簡の末尾に一段下げて記載するかした。いずれの場合も、編者による注記の文字は、ポイントを落して印刷した。これにたいし原文にあった（ ）内の注記は、本文と同じポイントの文字で印刷しており、両者は明瞭に区別できる。

一、手紙文中には、身体障害者などにたいする差別的な表現を含むものもあるが、不当な差別や偏見の歴史を、科学的に究明するのに資するためにも、本篇ではそのまま掲載した。

書簡本文

（一九四四年五月～一九四五年五月）

謙一から幸子あて（一九四四年五月二〇日以前の記）

電車、汽車、ともに楽でした。学さんとは新宿で別れました。東京は雨でしたが、大してぬれるほどではありませんでした。二人とも階下で勉強しつつ、待つてゐました。午後九時少し前でしたが、ちやんと御飯といわし（配給）の煮たのと、みそ汁とを用意してくれてゐました。みそ汁の中にはなつぽとでかい昆布とがは入つてゐました。辻岡さんへの野菜も、僕の出したチッキも此の日の夕方ついたのださうで、丁度その頃野菜の配給もあり、魚も辻岡さんが配給をとつて来てくれてゐたさうですが、その夕方まで家中の食糧は米以外殆どなくなり、みそ汁の実にダシ昆布をぶつ切りにして入れた所だつたのださうです。

留守中は夕食は寛ちやん、朝食とベン当は利ちやん、が夫々うけ持つて中々うまくやつたらしく、昨夜も、丁度辻岡さんを通じてのたけのこを、昔の雨ざらしのにしんと一緒に醤油で煮たベン当菜をつくつてゐました。寛ちやんのいわしの煮付けはしほからいがうまく出来てゐました。二人ともガスやその他を中々苦心してつかつて、例へば、何かの煮物の汁は必ず二、三回外のものにもつかふとか、してゐました。棚に妙な煮汁がとつてあつたので、何だらうと思つてきいてみると、何だかにがい乾物を煮たと云ひ、それが実は百合根の乾したやつだつたのです。寛ちやんは、キンピラごぼうを作る時トウガランのつもりでいなり丸を入れて、物凄く苦いものが出来上り、それでも勿体ないからと二人で食べて了つたと云ふ話もききました。或ひはまた雑炊にいろんな粉をつかつて了つて、最後に、代用ココアの薬くさい粉を何だかわからないが食へるだらうとほうりこんで、食べたさうです。相当な風味だと云つてゐます。だが大分ふえたからよかつたといつて加へてゐました。とにかく野菜が来たので二人とも大よろこびでした。

猫は十五日に一度帰つて来たきりで、ずつと外泊して飯も食いに来ないさうです。多分シーズンのせいだらうと云ひますが、何だかあはれでいけません。隣の猫も見えないさうです。

今朝も小雨で、ひえます。利ちやんの買ったカバンは早くも持つ所がこわれて、今朝もキリで穴をあけつつ苦心して縫つてゐました。便所はまだ掃除屋が来ないので、あふれてゐます。チリ紙は専らひろちやんの書きつぶしの原稿を使つてゐます。六畳の床板の抜けた所は利ちやんがうまくなほしてゐました。家中わりあひ片づいてゐました。
ダバコはこちらも全然買へないさうです。

ひろちゃんは今週火曜日ぐらゐ(ら)に行きます。米も持たせませう。証明書の口実(ぐち)に二人頭をひねつてゐます。今夜はひろちゃん(ら)が、タケノコ、ふき、めしをつくりませう。明日の夕方は三人で銀座で食べるつもりです。一週に一回、君に手紙を書きませう。では皆様よろしく。

幸子から謙一あて(一九四四年五月二〇日の記、二二日の消印)

御手紙有難う。皆、お勝手仕事随分うまくやつてゐたんですね。ストックが何もなかったから困つた事でせう。それでもよく、うまく考へて工夫してゐたんですね。感心致しました。板前でも裁縫でも男の方が本当はうまいんだ相です。すから、利ちゃんたちにも其のかたぎがあつたのかも知れませぬね。

キンピラごぼ(ら)うのいなり丸は家中で大笑でした。さぞ、それを食べて心臓が強くなつた事でせう。

手紙を読んで、此の分ならあなたの方が、私などより、ずつとうまいから心配もへちまもないと安心致しました。野菜はいまのところ、先日持つて帰つた玉葱と、つけ菜ばかりで、筍ももう季節をはづれた様です。もうすこし立つ(た)つとサヤエンドウ(ら)が始めるとのこと、紀州より随分おくれてゐます。玉葱は何日位あり相ですか。もうそろ／＼ない様なら、またこもで巻いて送りますか。大鹿へ行つたら筍をすこし手にいれて来ようと思ひます。あの辺は、又、こゝより大分季節ものがおくれるのでせうから、これから盛りかも知れませぬ。

あれつきり(くろ田以来)何処へも出ませんでした。今朝はお母さんのコンモウもだしがたく、藤山稲荷と云ふつまらぬところへ散歩して来ました。歩いてゐるうちに暫く忘れてゐた、脊骨の痛みが出て来て、家へ帰つてからのびてしまひました。家は植木屋が一週間は(ら)いりましたし、キョウジ屋も来たので、大分きれいになりました。

今日(二十日)から時間割通りに実行し始めました。朝は五時起床、 $5\frac{1}{2}$ — $1\frac{1}{2}$ は英語、五ヶ月も中絶してゐたので、又もや始めつからやり直します。

七時—八時は二階の掃除(これは私のうけもち)

八—一〇時 経済学入門

一〇—一二時 洗濯、手伝ひ、その他

一時—三時 英国史

三時―四時 お茶その他手つだひ

四時―五時 小説、その他

五―六時 夕方掃除

七時―九時 アメリカ史

九―一〇時 共同勉強（桃ちやんと羽仁ミケランゼロ）

第一回目の時間割ですが、これで、暫くやつて見て具合がわるい様なら又改めて、組直しをするつもりです。そちらもまだ砂糖の配給はありませんか。お母さん、毎日甘いものく〜と云つてゐます。

さつき、此のつづきを書かうと二階へ上つて来たらサイレンが鳴り始め、つづいて警鐘も鳴り始めましたので光のもれぬ用意をし終ったところです。

東京空襲かと心配してゐます。

暗幕やカバーそちらでチャンとしてあるでせうね。どうかあまりそちらが恐ろしい事にならぬ様と念じてペンを置きます。寛ちやんが来る日をまつてゐます。

お母さんは天竜峽へ案内せよと云つてますが、若い人には面白くないところですが。

では、お二人にどうぞよろしく。

三人で思つきり勉強出来ることを祈ります。

五月廿日七時

幸子

謙一様

つい手の時、クリーニング屋に、三年程前に頼んだ村山大島の洗張りはどうなつたか聞いて置いて下さい。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年五月二三日の消印）

今朝、寛ちやん無事到着。早苗へのお土産やコールドクリームなど、どうも有難う。葺も。今日は遠方から来客のある日と見えて、寛ちやんの外にも満洲から前川さんが来ました。早苗ちやんは寛ちやんが珍らしいと見えてチョイく〜そばへ来てゐます。昨日は風邪と下痢で弱りましたが、今日はもうよくなりましたから、夕方、飯田の町へ寛ちやんと行

つてみ様と思ひます。

五、六日と云はず長く遊んで行つて貰ふつもりです。庭は今、ばらの花盛り、マーガレットも咲いてゐます。警報がとけて安心致しました。ではとりいそぎ

謙一から幸子あて（一九四四年五月二三日の記）

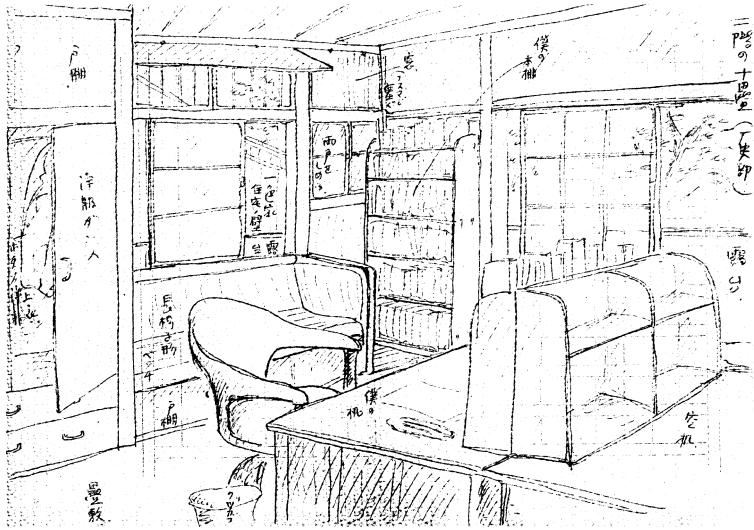
中々いい勉強プランです。しつかりおやりなさい。ギリシヤ史などの本箱は出ましたか。「学生と歴史」の中の羽仁氏の論文、ラングロア、セーネヨボスの「歴史学入門」等もその中出してごらんになるといいと思ひます。みんなそちらへ行つてゐる筈です。また今度送つた分の中のどこかに「史学雑誌」があつて、その中に羽仁氏の「東洋に於ける資本主義の形成」が四回に亘つてありますから御一読あるやう。

ひろちゃん七つ道具を背負つた弁慶——但しこの近代的弁慶は「知識の道具」の重みで大分くたびれてあごを出しながら——と云つたかくかうで辿りついたことせう。彼も君と同様、家の中畳の上では軽々とトランクをさげてみせて「大して重くはない。もつとつめこんでも行けますよ」と人がとめるのにとんくくつめこみ、あれでも僕がむりやりすめて本を三貫メ近く減らした（人類学叢書十四冊）もの。それでいざ外へ出て現実の道路を踏まえてみて、きつと重さに閉口したに違ひありません。ちよつと家弁慶外何とかの観ありますが、彼の意図はあくまで親切で、我々も大いに感謝せねばなりません。とにかくせいぜい、おいしいものはなくてもせめて「物量の力をたのんで」ねぎらつて下さい。一応の量だけでも東京ですかせた腹には「御チソー」になる筈ですから。（行きの切符は僕が出しましたから、婦りの切符は貴女が買ってあげて下さい。）

おみやげは、丁度まる二日警戒警報で外食券食堂と若干の雑炊食堂とを除いて全市の商店が殆ど揃つて休業（学校まで休業）したので、予定のものも買へませんでした。コールドクリームは、日本橋の白木屋の対角線向ひの柳屋で毎日二つづつ貯蓄券つきで買ひました。質がいいか悪いかわからないので、そちらで使つてみて、よかつたらまた買つておきます。他では大てい品切れです。

ひろちゃんは四日分の米と一日半分のパン（券では三日半分）をもつて行きました。パンは早苗へのおみやげ。

× ×



その分室は一色家（恵泉女学校の経営者とやら）の住宅の一部（大部分）を借りたもので、その経営町三九六番地の分室へ疎開しました。二階は七畳と十畳の二間、附属的に二畳のたたみじきの小

プシはもう十日以上も帰りません。とうとう（たうとう）どっかへ行つて了つたのでせう。何と可哀さうな奴だらうと思ひます。今朝もさんく夢に見て、そのプシの夢姿がまぶたについて一日寂しい思ひをしました。毎夜寝る時に奴さんのニヤア／＼云ふ声と顔と、飯皿に夢中になつた後姿、などが想ひ出されます。君とプシとが同時に去つたこの家は、僕には荒涼たる感です。近処を歩くとどこかにプシの姿でも見られないか、死がいつでもみつかりはせんかと心探しし、人通りがなければ「プシ／＼」とあてもなく呼んだりしてゐます。今夜もさつきから二、三度猫の声や猫らしいガサガサ云ふ音に、呼んでみましたが、ちがふ猫でした。もうあきらめてはゐるものの、何とも哀れで切ないことです。どこをどううろつたことか。我々の生活の変化をどう感じたものか。君が居なくなつたことがプシにとつて、彼の食べた本能、生きる本能よりもつと重大なことだつたのか。とにかくプシの見すてられたことを知つたかのやうな頼りない気持を考へ、利ちやんが呼んだ時、ちつとうづくまつて家へは入らずにゐたと云ふ話などをきくと、我にもあらず涙もこぼれます。動物の心理の一種の神秘に
 × ×
 もうたれます。

僕は昨日（廿二日）から、いつかはプシを葬つてやるつもりだつた豪徳寺の近く、と云つても実は経堂なのですが、その経堂町三九六番地の分室へ疎開しました。

部屋と三畳の板の間の部屋、その七畳に分室責任者格の安間参事(将棋の上田君の好敵手)、十畳に僕と西井君との二人、西井君はまだ当分来ないから僕の一人天下。階下は英研四名と英文タイプの女の子二人。外に貴重書物及び重要文書も一緒に疎開したわけです。悪口屋の上田君の曰く「大切な本と不急不用の人間とを抱きあはせて疎開させたんだよ」。

※
僕の部屋は、明るく風通しはよく、おまけに西日がは入らなくて絶好です。こんな二階を二人で借りられたら、理想的だとも思へます。炊事が出来ないだけで、露台でカボチャその他の箱造りは出来るし、荷物や本棚を置く板ノ間もあり、洋フクダンス、小ダンスはたつぷりあつてしかもはめ込みだし。見取図は家へ帰つて書いたもので、階下の方は不正確です。なほ、この階上・階下・芝生・花、図にあるすべてを含めて家賃は月六百元、それ故この二階だけでも百円近いのでせう。

× ×

我々の往復書簡を整理しました。僕のは余りにも甘え(ここからあとの文は番号10の用箋に記されたもの―編者注)手紙なので、我ながら照れて大部分焼却。初期のものを若干残しました。当時の生活について一種の資料にもなるので。日記のかはりになります。幸ちゃんの書いた分は、さすがに大人の手紙なので、それにあの頃の貴女の心情生活の良さがよく出てゐるので、焼くにしのびず、且つ僕の焼いた分についての補ひにもなるので、残したいと思ひます。いつかさうした青春の生活の記録が何かになる時もあるでせう。その中本と一緒に小荷物で信州へ疎開させておきます。

僕のは原稿は目下印刷中。来月中旬校正が出ますが、きつと大変だらうと思つてゐます。今年表を作つてゐます。アメリカ史へつけたのと似てゐるが、南部を中心としたもの。では又書きます。皆様によろしく。

五月二十三日夜

※ここまでの手紙文を記した用箋には1〜6の番号が付してあり、そのあと番号10の用箋およびスケッチ画一枚がつづいている。しかし別の個所に紛れ込んでいた番号7の用箋の文は、内容からみて五月二三日づけ手紙の番号6と10のあいだに位置するものと思われるので、ここに筆写・挿入しておいた。番号8・9の用箋が欠落している可能性があるが、スケッチ画にも番号が想定されていたとすると、文中にある「階下の方」の「見取図」一枚のみの欠落であり、手紙文には欠落がないものとみなしうる。

幸子から謙一あて（一九四四年五月二七日の記）

お手紙有難う。プシはどうしたのでせう。寛ちやんから聞いた時も涙をこぼしましたが、あなたのお手紙をよんで、思はず声をあげて泣き度い位でした。子供の死んだ時のように、本当に切ない心持が致します。何処かでいぢめられる位なら一そ、一思ひに死んでゐてくれた方がよい。

寛ちやんは毎日、朝や夕方、一人で自転車を乗りまはして方々散歩（？）して、大いに見聞をひろくしてゐます。さつきは二人で飯田へ行き（銀行へ用が有つた次手）あちらこちら歩きまはし、クボ食堂でオレンヂユース、東京庵でうどん（すばらしくおいしい手うちうどん、葱、海苔、人参、ごぼう入）を二杯、だしは本物の鰹節、高田屋でもう一度うどん（ここのは蓮根、みょうが）を食べました。おなかがボン／＼になつて出たら、寿司屋のみどりは開いてゐましたが、どうにも食べられ相もないので、やめて帰りました。彼は今、お父さんと天竜峽へゆきました。帰つて来たら、吉田屋で肉なべです。

お母さんが昨朝から具合わるくねてゐますし、不二やんは長期託児所の所員になるので、鼎村役場へ会合のためチョク／＼不在で、私も、彼のおともをして遊びに出かけられません。これと云つたおもてなしも出来ませんが、いいあんなばいに、彼が来てから粉も貰つたし、お米のユーザーも出来、ミソも三貫匁手に入れるし、お赤飯は二度も貰ふ、と云ふ調子で、あなたがゐた時よりも豊富にあります。

先日、大鹿村の今井さんが一寸見えました。其時そちらに就職口はないかと云つたら、今足りんのは、自動車の運転手位のものだとの事でした。

勉強プランは立てましたが、確実に実行出来るのは、朝の英語と九時―十時のミケランゼロだけで、あとは客が来た、配給だ、何だ彼だと呼ばれますし、何時も二階に引きこんでゐると云はれるのも嫌ですから、もうすこし様子を見て、確実なプランをもう一度、或は二度と立て直すつもりでゐます。第一回目のは、あれは自分一人の家でのプランになりすぎてゐること、あんなにキチン／＼と、自分の方では其の時間を取れても、客観的にはとれぬこと等で、目下、特に手術がいそがしい、来客多い、お母さん病キ、ふうちゃん外出勝で、ひるまは二階に殆んどゆけません。

夕食も、病院の手術の都合で七時半頃に始まる日もあつて、そんな時は後片つけがすむと八時半になります。

こちらに来て、さつそく友の会に入れさせられ、其の仕事、会合、それから区常会等々。中々思ふ様に本もよめません。まあ、間借りをするか家を持つまでは、プラン通りにはゆくまいと思はれて、いささかイライラする心持もあります。

コールドクリームは大麥質がよい様でした。有難う。当分は、まにあいさうですが、飯田にはゼン／＼ない様ですから、買ひ易かつたら、時々買つておいて下さい。

本は置くところがないから、との事で当分はひろげぬ方針で、看護婦部屋の押入に箱にいれておきました。まだ、後から来た小荷物分や箱七杯は、出してゐません。二階にある硝子戸入りの大きい本箱(一間の間)は三ツ位羽生さんにあづけてある相ですから、家を持つたらあれを貰ふことにしませう。埃もはいらぬし、立派です。カギもかかりますから。(お父さんには貰ふ約束してゐます)私もこちらで仕事は沢山あり相ですが、秋になつてからもつと丈夫になつてからとお父さんは云ひますから、当分は止めてゐます。病院の健保の事もやればあります。これは其の中(八月から)やるつもりでゐます。

桃ちゃんとの共同勉強は量的にははかばかしくありませんが、質的には前の大金さんたちよりもスラ／＼とスムーズにゆくので面白いです。

事務所が良いところに越してよかつたこと。それに部屋の条件の良いこと。——うんと勉強出来るでせう。野菜類は出来る丈送りますから、買出しには時間をとられぬようにして勉強して下さい。私も気持の上でのキン張や向上、対人関係等について、よく／＼考へつつあるつもりです。

昨日の朝の十時頃、松川のほとりへもち草つみにゆきました。寛ちゃんも苗ちゃんも三人で。野ばら(シユーベルト)の白い花、アカシヤの花が咲き盛りで甘いに充ち／＼蜂のブン／＼云ふ声、うす青い河の流れをみてゐると、そこはかとなない五月の哀愁と云ふ様なものを感じ、若い時に感じた様な、やるせないような悲しみを覚ええました。

お母さんと不二ちゃん、チヨイ／＼意見の相違から喧嘩をします。お母さんも不二ちゃんも怒り出すと方々へ余波が来るので困ることもあります。私は絶体に怒らぬ方針です。尤も怒る様な事も私にはありません。

大金さん、西山さん、度々手紙をくれます。西山さんも、八月までには九州へ疎解する相です。二人とも勉強癖はしっかりついてゐる、そうして英語の方もドン／＼進めてゐるとのこと、安心致しました。

寛ちゃんは二、三日うちに帰京する様な事を云つてましたが、もうすこしゆつくりしてゆく様にすゝめてゐます。

今日はトシちゃんからお手紙貰ひました。トシちゃんには明日書くつもりですから、よろしく云つて下さい。トシちゃん云へば、医者へ行つたかしら？ すゝめておいて下さい。どうも顔色が気になりますから。辻岡奥さんに、あなたのキモノの件、時々云つて見たらどうかしら——。私の方から手紙出しておきませうね。

廿七日

謙一様

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年五月二四〜九日の間に記）

下痢はもういいのですか。背中はまだ痛みますか。その中いいものを御送りします。背中を軽めるための機具です。

コールドクリームはもう買はなくていいですか。日本橋へは週に一回（火曜）出るだけで、専ら経堂に来てゐますが、クリームぐらゐ買へます。

野菜はナップパ類が割合配給されるやうになりました。竹ノ子とか、ごぼう、にんじん、大根、かぶら等はムロン配給ありません。だが、さう御心配には及びません。無いなら無いなりにやつて行くことに大分馴れて来ました。尤も米だけは深刻です。僕が経堂へ来るやうになつてから、弁当以外に昼食出来なくなり、緩和の手段がなくなりました。パン二斤を米一升にかへる工夫をしてゐます。サトウを米にかへることも考へてゐます。近頃、ひろちゃんが信州へ行つたあと、二人はずつと夕食を米半分の雑炊にし、ナップパやふりかけやねぎや凡ゆるものをぶちこんでのばすことに懸命です。何しろ廿八日の配給には七キロ近くさしひかれて、結局三人の十五日分として六キロしか来ないことになつてゐるのです。利ちゃんもひろちゃんも、そこまで考へてはゐなかつたらしい。利ちゃんには当分腹の減ることを覚悟させました。（コップ一杯は八勺より多いらしいのです）だが貴女は心配しないやうに。そしてひろちゃんも、さう米を持つて行つてゐるのでないから、そちらの食糧事情を陰悪にさせないやうに、いい加減に帰らせて下さい。今月は僕も厄介になつて、大分信州のお米の予定を狂はせたのですから。

プシが帰つて来ました。やつぱり平凡なただの猫で、神秘でも何でもなかつたのです。だが帰つて来てよかつたと思ひ

ます。十日も帰らなかつたのは、プシのヘソのヲ切つて始めてですからね。さんざん泣いて甘えました。丁度いわしの配給があつて、利ちやんは一パンでかいのを放蕩息子の帰宅のお祝に、プシに食べらせました。大分やせたし、声が一時はすっかり変にシヤガれてゐましたが、もうなほつてゐます。前よりかわいくなりました。だが、それと共に彼の食物の心配がまたふえました。僕の朝飯か弁当の分から少しづつ残してやつてゐます。尤も十日も出歩いたのに大してたべないので、半ば不安、半ば安心と云つたかたちです。

経堂の研究室は中々よろしく、これなら、ここへすつかり泊り込みの方がいいのですが、下宿するとなるとまた難物は食糧と猫です。この辺の下宿は二食しかたべらせてくれません。

幸ちやんも、もう少し元氣になり、空襲の危険もなささうだつたら、一度遊びに出て来て、経堂へもやつて来ませんか。乗り換へ二度は面仆ですが、電車は空いてゐて、楽です。家からゆつくり歩いて四十五分で来られます。

新庄君が召集されたので、明日曜日、バクさんやいねちやんと練馬へ行きます。古野君も六月入隊です。おつつけ僕の番でせう。利ちやんは延期があることにきまりました。では又。

幸子から謙一あて（一九四四年五月三〇日の記・消印）

五月卅日

昨日は御手紙有難う。お米は何で七キロもへらされたのでせう。私のゐなくなつたためですか。その代り粉が配給されたではありませんか。粉を何とかして入手したいものと思ひますが、こちらに来てから日も浅く、なじみもないし、この家でさへ早苗のオハツに粉がなくて困つてゐるので、そんなには頼めず、——何とも致してあげ様もありますん。お米も、私に来てから羽生さんから三升都合して貰ひ、特配（疎解者の出入りのため）六キロ貰ひましたが、寛ちやんの帰つたおひるから全くなつたので、おひるは、新飯田橋のそばのうどん屋に、夜はおぢやに、——今日のおひるは、吉川と云ふ矢張り橋のそばの飯屋に揃ろつてゆきました。家になくても出れば、一度五十匁か六十匁でうどんでも丼飯でも必ずあるのですから、楽なものです。吉川はベルトをゆるめなければ苦しい位のポリウムがありました。お母さんは、看護婦たちとぞろ／＼飯屋にやるのはみつともないとか、家に持つて来させるとか云つてゐますが、田舎でも人手不足で運んでなんか来ませんし、そんな事を云つてゐると忽ち嫌はれて、断はられる様になりますから、定期

的に極力ひるは外食にゆく様にすゝめてゐます。お母さんと云へば大分お母さんも変りました。一言に云へば老人になつたのです。昔の習慣を変へること、人の意見を容れることは大の嫌ひ、何一つでも自分の思つた通りすぐにやらなければひどく機嫌わるく、それが積ると病氣になります。病氣になつても、二階で一人で寝てゐる事をせず、帯ひろはだかと云つた様子で下の部屋に来てゴロ／＼して、一、一、うるさく云ふので不二ちゃんも困つてゐる様でした。

大分二、三年前の陽気なところは影をひそめ、大体に於て毎日甚だ御機嫌わるい様です。それと云ふのももう年も年で、疲れ易く全体に弱つてしまつたので、気ばかりあせるが思ふ様に働けぬこと、人のやつた事は何一つ気に入らぬせいでせう。早苗ちゃんの事でも、不二ちゃんの教育方針とは相容れず、事々に衝突して二人とも怒り出す始末、下手に私が口をいれたら、どの子も親不孝とて大変です。

お母さんは疲れて神経もいら立ち易くなつてゐるので、本当を云へば、看護婦さんもおかず、お父さんと二人で十五、六の女ノ子を一人位使つて静に暮すのが、一番よからうと思はれます。子供のなき声、電話のベル、食べ物心配、人の出入りは禁物でせう。時々私にも、私たちがすこし広目の家を持つて、不二子たちと一諸（お）に住んでくれゝば、家賃は出してやるなんて事を云つてゐます。

今のところ、私の一番のトラブルは結局、お母さんです。忝はわるい人ではありませんが、相等（お）わがまゝで、お母さんの嫌ひな事は誰にもやらせたくないので。一例をあげれば、本を読む事はぐうたら（お）の一種だと思つてゐるので、不二ちゃんはお母さんの起きてゐるうちは本はよめません。『子供をみてやらぬ』からと云ふのです。子供の無い私にして、も、本ばかり読んでゐる！』と云ふ事は、甚だ氣に入らぬことで、ひるま二階にゐると面白くないのです。下にゐても用はありませんが、とに角下で喋つてお茶をのんだり、ブラ／＼してゐる方が好きで、お母さんが『ホイ』と云つて何か云つた時、すぐに興味を起して、あれ、これ、一諸に騒げば調子は大変によろしい（お）ようです。

始めはどうもそれでは困ると思つて一諸につくろひものをする時、誰か一人本を読みませう、と云つて始めましたが、お母さんは忽ち外の事を喋り出す、返事をしないとごきげんわるくなる。不二ちゃんが『やかましいなア、ちつたア本をよみまいか！』と云つた事から、又、一けんかで、それでも三度程強行しましたが、漸次悪結果の方向をたどる一方でありましたので、止める事に致しました。

で、もつぱらひるまは下にゐて、つぎもの、早苗のちらかした後を追ひかけ／＼掃除、お勝手、配給と云ふ事になりまして。で、始めのプランは、次の様に変更致しました。

前	5 $\frac{1}{2}$ —1 $\frac{1}{2}$	英語
後	6—7	經濟
〃	7—8	英國史
〃	8—9	アメリカ史
9—10		ミケランゼロ

来ぬ形になりました。

お母さんは自分が中心になつて出来ぬ事は一切嫌ひ、嫌ひ丈と云ふ消極性でなくて、止めさせようと云ふ積極性が多いに強く、反対に強行すると、外の人にまで当つてゆくので、人迷惑となると云ふ結果になります。

で、結局、自分のプランでは何事もスムーズにはゆかぬのです。私が今日は下の廊下のゴタ／＼を整理するからと断つて始めても、お母さんは其の日／＼の出来心で始めかけたものを止めさせて外の事をさせようとする。それをやりかけると次々追ひかけて變つてゆくので、何一つ完全に出来ません。併し、やりかけはそのままにしてあれば又、いけないのです。私もホト／＼困りました。そんな次第で本を出す事は当分出来相ありません。家がみつかるまで、このまゝ持ちこす事になるのではないかと案じてゐます。

そちらにゐても私は皆の迷惑のまゝでありました。人の神経を刺戟し、感情的に不愉快にさせ、よかれと思つてした事は、全部悪結果ばかり生みました。私としては四月から会社の方も辞め家で用事をして、たとひ消極的でも、皆の役に立ちたいと思ひました。あなたも何時応召になるかわからぬから、それまでも一諸に暮し度いと思ひました。でも私はうるさがれ、嫌はれ、帰り度くないと極力申しましたが、帰されました。〃ぢやまだから帰れ」と云つた調子は今でも耳の中に残つてゐます。今さらチヨ／＼東京へいつたり、あちらこちらゆく心持はサラ／＼ありません。晩くも秋までには鼎村附近で就職するつもりですから、今後は尚更の事と思ひます。又、あんな思ひはまつ平ですから。そこらは三人で理想的な生活に立ち直つて、皆、勉強専心でせう。

それから、鉄工聯から私の月給(五月分)届きましたでせうか。飯田の方へは何とも云つて来ませんので、内藤嬢でも、又、持つてゆきませんでしたかしらと思つて、おたづね致す次第です。

不平がましい手紙になりましたが、実を云へば、私には自信もなく、心樂しまず、と云ふ神経衰弱的徴候が濃厚にて、

甚だ淋しい毎日ですから、あしからず、お赦し下さい。

謙一から幸子あて（一九四四年六月二日に幸子受信）

ひろちゃん、帰京にまたいろいろお土産を御心配下さって有難うございました。お母様及び不二子さんにどうかよろしく御礼を申し上げて下さい。

あなたも肥つたさうで大変結構です。

この日曜日、練馬の新庄君の所へ行つて出征を送つて来ました。彼は第二国民兵です。隣家の富次さんも応召しました。前便に書いたやうに古野君も、晶子の所の大島君も応召です。非常に広汎に来てゐるので、我々も覚悟してゐます。

一両日中に小包がとどくでせう。ネールの、「娘インディアラへの手紙」は桃ちゃんと二人で読みなさい。そして読んだ後は桃ちゃんと進呈して下さい。中の葉巻は去る廿九日、調査会の第三周年記念日の将棋大会にA組で優勝して金十円也と一緒に貰つた賞品なのです。之で二度優勝して自信をつけたかたちです。

早苗ちゃんにパンでもと思つたのですが、目下我々は一日に三人で四合七勺か八勺しか米を食べられない窮状にあつて（パンを米にかへても）、残念ながら当分駄目です。

この廿八日の配給はやはり七キロでした。だが厳密に計算して（パンを米にかへ、空襲用を出し）、先づうまくやつて行けさうです。夜寝る前に、翌日の朝と昼との分として三合半の米を炊きます（じやがいも、ふき等を入れる）。朝、その中から三人の弁当をつめ、残りをねぎ、かぶらその他を入れて雑炊にします。夕食は一合二勺を三人分の雑炊にひきのびします。結局みそ汁もおかずも要らないので、ガスも節約になり、多分ガスをとめられなくてすむでせう。経堂附近では昼の外食は全然出来ませんが、その中農家にわたりをつけ、酒やサトウをいもやメリケン粉にかへるサンタンをやらうと計画してゐます。（竹中君が一番困つてゐます。何しろ彼は維持せねばならない巨体（今や虚体）をもつてゐますから。竹中君がこへ来たことは、僕の金庫がくつついて来たやうなもので、甚だ都合です。彼も調査会へは入つたことの唯一の意義は僕と話し合へることだと云つてゐるので、僕も大威バリで金庫をつかつてゐます。）

（竹村君から、ネール自叙伝上下二巻（彼の翻訳）を、菊池御夫妻へと署名して送つて来ました。面白さうなので、読

み了つたら御送りします。)

猫はまた帰つて来ません。メシが助かるので、却つてその方がいいやうな感じもします。冷酷なやうですが。

僕は三月末以来ストップして来た勉強を新しい条件で再建すべく努力してゐますが、まだ軌道にのらず、六月一日からキンコン一番せねばなりません。利ちやんも毎朝時計無しでも五時に起き、時々表を掃除したりします。ひろちやんは今日今井正の所へ行きました。近い中東宝へ遊びに行く予定。ではあなたも御元気に。せいぜい僕の分まで肥つておい下さい。皆様によろしく。

(謙)

(和歌山からどう云ふわけか、「疎開費用でヤミのものを買つたりしてケシカラン」と大分怒つて来ました。疎開費は僕の旅費、ヒロチヤンの旅費、彼等の慰労費を含めて四百円から五百円要つたのであり、ヤミのものを買つたのは別に借金をしたのだと弁解しておきました。離れてゐると何かと誤解や行きがちがひでやつかないものです。原稿料が入つたら少しづつでも返して行きませう。)

幸子から謙一あて(一九四四年六月二日の記)

十九・六・二

明朝、お米一斤とさやゑん豆少々郵便小包でお送りします。さやえん^(豆)どうは此からドシ／＼出盛りになりますから、数回送れる事と存じます。蕪類は小荷物で送つても、いたんでゆきませんかしら。大丈夫なら、不二ちやんの苦心の蕪類を多少送れます。今、農家は、春蚕、しろかき、田植、麦かり等、猫の手も借り度い時期だ相で、畑に行つても自分とつて呉れ、とてロク／＼返事もしませんし、売りもあまり出てゐません。

坂田さん再度の出征でお気の毒ですね。ちようど一年、自家^{うち}に帰して呉れたわけなんです。新庄さんですか。新庄さんは丙の何だつたのでせう。古野さん、大島さんは丙ではないのでせう。いよく／＼あなたにも来ますね。

今日ひるねをして、あなたが応召する事になつて、和歌山から其の事について手紙が来てゐる夢をみました。私には来ないように、と云つてあるので行かぬ方がよい、とお母さん達が云つてゐるところでした。起きて下へ行つてあなたの手紙を見て、いよく／＼と云ふ感じが致しました。さうなれば、原宿の家もいよく／＼解散になりますね。荷物はどうするのですか。私も又、そちらに行つて、片づけをせねばならぬのでせうか。

しようぎで勝つたのですつてね。うれしかつたでせう。寛ちやんからの手紙にも、さう書いてありました。本と葉巻煙草お送り下さった相で、どうも有難う。お父さんもよろこぶ事です。お父さんもおぢいさんになりました。すぐ疲れるのか、よく藤の長椅子でひるねをしてゐます。其の顔を見ると、つくづく弱りはてた様子で、淋しくなつてしまひます。田舎では、休診と看札を出しても平気で患者は来るし、お父さんも平日と変りなく手術もすれば、診察もしてゐるようですから、疲れるでせう。

今日も本来なら休日ですが、朝食前に松尾まで往診やら回診、今は午後の九時半ですが、これから脱腸の手術です。患者は黒田の篠田さんの長男で、今日、苗代をやつてゐたら、急に脱腸した相で、そろそろッといぢかりまたで夕方やつて来ました。夜になつてから篠田さんが来て、手術用意、これから始まるところです。

お米は全般的にそんなに減らされたのでせうか。私一人へつたのを配給所の方で二人減だと感違ひしてゐるのではないでせうか。通帳を調べて見たんですか。七キロで三人、十五日分とは割当量ではないでせう。それとも東京の割当量がそんな風に変更されたのですか。そんな様なら、生きてゆく訳にはゆかないぢやありませんか。応召にならぬうち、さつさと疎解する様になさる訳にはゆかないの？ 仕事の方、出来る丈早く段取りつけて、さうなさいませ。そんな様子では、兵になつても身体は持たないでせう。秋まで、とか頑張つてゐないで、早く疎解なさるよう、結局、おすゝめ致します。

私の五月分の月給どうなつたかしら。そちらへも行つてないなら、鉄工聯の会計にサイ足しなくしてはなりません。鉄工聯も六月一杯で解散、七月一日から鉄鋼統制会になる相です。

和歌山から怒つて来なすつた相ですね。あれは、私がお母様宛に、こちらから手紙を出した時、東京の食料不足の深刻さの説明の時、東京で生きてゆくためには、まるでお金を食べるようなものだ、戴いたお金もその足しになつた、と書いたためです。それにしても、御自分の方でも海苔のヤミやなんかなすつておめでだし、上手に物資を入手しておるんだから、——まして東京程の深刻さは経験ないんだから、そんなに怒つてよこしなさるのは、あんまり勝手すぎると思ふけれど。ヤミがいけないのなら、すこしは物資をユウズーして送つてあげればいいぢやありませんか。*

※ここが三枚目の便箋の末尾で、四枚目は見あたらないが、手紙文の終わり方としては、いささか唐突の感もあり、四枚目以降が欠落しているのかも知れない。以下、同様の欠落の可能性があつても、いちいち注記しない。

謙一から幸子あて（一九四四年六月四日の記）

貴重品を御送り下さったさうで申し訳けありません。信州も不足のこととて心配させるつもりはなかつたのです。七キロ配給と云ふのは、本来は三人で（一人、半分パン）十五日間に十二・三キロの所を、前回先渡量和と、貴女の分（十五日異動申告、従つて十三日分）とで合計六・八八キロ引かれたのです。結局はつきり云へば、僕達の留守中、少し余猶がある^⑧と云ふ意識から二人が腹一杯食べすぎたらしい。いろんなストックもずい分食ひ込んでゐました。あつちやんが来た時ムシパンを作つたとか、雑炊も米節約のためでなく、より多く食べたいためにやつたのでせう。利ちゃんも二十八日まであればいいつもりだつたらしく、二十八日の配給でうんと引かれることを全然考へてゐなかつたのです。ひろちゃんが行つてから僕が計算して之では足りないからと、それまで彼等がコップ一杯と云つても多めにはかつてゐたのを減らし、一日の分量をきめて嚴重にやり始めたのですが遅かつた。でも今度は二人とも大分こたへたから、之から僕がゐなくても注意するでせう。腹がへるので無理もないのですが、弁当も持つて行けないことになると、今一番困るのは僕ですから、当分僕が毎日米をはかつて、それを勝手につけ加へたりしないやうにしつかり云ひ渡してあります。二人は弁当は十時頃にたべて、昼はどこかで食べてゐるさうです。僕が大い留守で、二人で留守番する時が多いのですから、その留守中メリケン粉でおやきをつくつたり何かすることにちつとも干渉しないつもりですが、米だけは僕がすつかりきめるわけです。僕も昼は全然外食出来ないが、夕方は帰りに、六丁目の支那料理が^⑨あいてゐれば、うまに（野菜煮）を食べて、夜の雑炊をいくらかでも二人によけい食べさせるやうにしてゐるし、弁当も二人の分を余計入れ^⑩るやうにしてゐます。弁当はどうしても二人の分を多くしないと^{（かっか）}かっこうがつかないのです。

米はひろちゃんもパンとかへるルートが出来たし、もうちきに、一日二回雑炊の境地から脱し得るでせう。現在は一日五合と計算して丁度十三日まであります。間もなく、一日六合程度に出来るでせう。

幸ひ、雑炊やごはんにまぜるものがこの頃ずつと多いので大助かりです。いただいたジャガとふきとはまだ数日分あります。之はごはんに入れます。雑炊へ入れるものはかぶら、ねぎ、きやべつ、菜葉等ですが、之は経堂で殆ど毎日自由販売で買つて来てゐます。経堂は昼の外食のあてが全然ないかはり、野菜がやすく豊富にかへるので、その点研究室移転は有難いわけです。少くとも職業費は殆ど交通費だけになりました。外には帰りの六丁目のうまに^⑪ぐらいのもの

す。

以上の如くですから、やって行けます。どうか御心配なきやう。野菜もさう苦心して御送り下さらなくてもいいです。僕もなるだけ早く信州へ行きたいと思つてゐます。職と家さへ見つければ行きます。職は、今、戦争史を今井先生の監輯でやつてゐるのが終れば、今井先生に相談するつもりです。

上田君達の独研が、上北沢へ疎開します。僕等の所から歩いて三十分。応召は、あとかたづけは利ちゃんたちにたのみますから、大丈夫です。友人達にもたのめるでせう。それにまだ丙の甲までしか来てゐないと云ふ説もあります。今年の点呼のある人達（昭和五年以前の丙）の訓練は、毎日朝四時から七時まで十二日間、之が第一次、第二次は七月にと云ふ回覧がまはつて来ました。僕達の方が楽だったわけ。

貴女の月給来ませんから、直接会計へサイソクなさい。解散がのびたのなら、辞職届けも出さねばなりませんね。之は休職切れの時でもいいでせう。

ひろちゃん旅行を大変喜んでゐました。夏にはどうしても姉さんに和歌山へ来てもらふのだと云つてゐます。所が、彼の入営は十一月になりさうです。さうすると十月半ばがいいのぢやないかと云つてゐます。その頃ならみかんも色づき、絶好でせう。僕も行きたい所です。夏は暑いばかりですから。

僕は今ドストエフスキーばかり読んでゐます（カラマーゾフ、罪と罰、悪霊、ネートチカ等）。ドストエフスキーの欠陥が次第にはつきりわかつて来、また彼が今のインテリや文学青年に好かれる点もよくわかつて来ました。ドストエフスキーの世界は結局日本ならみやびの世界なのです。いづれにしても歴史的現実の正道ではありません。彼の世界の人物には我々が正しい感情と理性とをもつて打ちこめるやうな夢中になれるやうな人物がまるでない。どんなに深刻さうに見えても、現実の深刻さでなく、何か作られた深刻さのやうで、探偵小説を読んでもゐるやうな気楽さがあり、読後ここに提起された問題は我々の胸に残りません。問題はドストエフスキー的に提起され、ドストエフスキー的に解決されて了つてゐるわけです。バルザックやトルストイやシェークスピア、ロマン・ローラン等は、読んだあと我々の胸に打ちこまれた刀を残します。問題は提起され、我々のものにされるのです。そのうちこまれた刀を抜き、傷を解決するのは我々の任務です。リアリズムの質の差が彼等とドストエフスキーとの間に感ぜられる。

仕事は今月が一番多忙でせう。

君の勉強もいろいろ障害多いでせうが、当分先づ君の身体と神経とを恢復させることに全力をあげてください。勉強は僕

達二人になつてから改めてプランをたててやりませう。僕も今の仕事が終れば、我がまま云はず、自分の卑小な自我の克服の努力をやるつもりです。君にはこの半年乃至一年来（或ひはもつと前から）僕の我がままで苦勞させ、神経を悩ませましたが、今度はもうさう云ふことのないやうにするつもりです。僕も自分の感情の狭い、神経のケチくさい、無私も献身も無い、ナーヴァスな卑小な自己中心主義につくづくいやになつてゐます。今の三人共同生活も、僕にはいい修養です。こんな風に自分の自我に囚はれて、それを克服出来ずに苦しんでゐる時は、ドストエフスキーの中の宗教的忍従の理想化された観念的人物さへ、時々関心の対象になります。

幸子から謙一あて（一九四四年六月四日、五日の記）

六月四日

昨夜十一時半頃すりばんの音で目をさました。天竜社の裏が真赤で、病院の屋根も庭も火の粉をかぶつてゐるので、びっくり致しました。とに角、モンペその他で身支度して、不二ちゃんを起して、裏庭からはしごをかけ、屋根へ一足かけましたが夜露ですべるし、馬穴うまぶちと云つても私と不二ちゃんとお母さん丈では、後が続かず、桃ちゃんはぐつすりねむつてゐるし、看護婦さんたちは外へ飛び出して火事場見物にいつてしまふし、つくづく男手のない事の不便を感じました。其の中、風の方向が變つて火の粉も来ず、下火となつて、一時間後には鎮火致しました。

近所は皆屋根に水をかけました。火元は線路の向ふの北原農園の隣で一番大きい家が二軒まる焼だ相でした。お父さんは何時のまにか、北原農園（原宿の家に富ゆ柿を送つた人）へ見まひ（？）に行つてお茶まで呑んで帰つて来ました。家ではあはててゐたのに、呑気な人です。北原さんでは風上で庭をあげはなして、見物してゐたんですつて。

医院の前の羽生さん（荷物をあづけてある家）は昨夜赤紙が来て十三日に出発ださうです。いよ／＼私共も応召が現実的になりましたね。不安とも何とも名じようし難い氣持に圧迫されて、そんな風な夢ばかり見てゐます。

外の誰でも感じてゐるのでせうが、——あなた自身は如何ですか。来たとしても九月になつてからの様な氣がします。が、それ以前に早く切をつけて（或はつけなくても）早く疎解そげしていらつしやいませんか。こんな風に離れ離れで暮してゐて、そんな事になるのは何とも云へず嫌でなりません。

六月五日午後五時

本日小包み落手、いろいろ有難う。ネールの本は中々面白さうですね。よむ時間を早く探しませう。目下又、時間割変更、次の様になりました。

午前中一時間	午後二時間	夜半時間	夜任意の時間
月 英語	経済学	ミケランゼロ	シュベグラ―西洋哲学史
火 "	アメリカ史	"	● アメリカ関係参考書
水 "	英国史	"	▲ イギリス関係参考書
木 "	経済学	"	● シュベグラ―
金 "	アメリカ史	"	▲
土 "	英国史	"	
日	週間まとめ	自由	

●は目下、アメリカを支配する六十家
▲は、エドワード七世とその時代

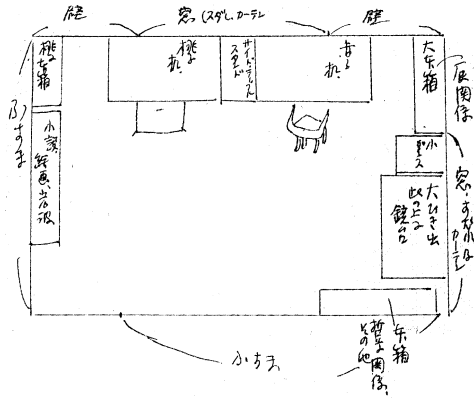
●・▲は、順々によんで変へてゆく予定
尤も今度の研究室はすばらしくよささうですから、それも惜しいですね。どうもうまくはゆかぬものね。あつちよければこつちわるし、でね。では身体に注意してせいぜい勉強なさいまし。寛ちやんの診断書同封致しますからお渡し下さい。お豆をフートウ一杯手に入れました。その中、何か、外のものと一諸にお送りませう。
小荷物はとどきましたか？

六月五日夕

幸子から謙一あて（一九四四年六月七日の記）

六月七日

さき程、大豆一缶お送り致しました。強火でいためて、お塩をふると、一寸お八ツにおいしいです。患者さんから貰ひ



卯 世個

その他、草もち、普通のもち、干魚等々、あります。だからゆうずうは勿論して貰へませう。桃ちやんの部屋はこんな風に改良致し、とても都合よくなりました。殊に午前中は直射光はなし、うすみどりつぽい光でとてもくいいきもちに落ちつきます。今月の終り頃にでも、あなたちよいと来ませんか。こちらでほしいものは、

箸箱 (一人用) 父用

千代紙ではつた箱 (看ゴフ3人)

香水 (不二子)

来る時は、こんなものでも用意して来て下されば結構です。

新飯田橋の郵便局へ五〇〇円貯金致しました。

ましたので、すこし上前をはねてもらひました。

明日から早苗は幼稚円ゆきで、家も静かになるし、あまり汚くならないから、追ひかけ掃除もなくなつてずいぶん助かる事でせう。今度はお母さんとも相談して、時間を多少合理的に使へるかと思つて、よろこんで居ります。お米の件、困つた人たちですね。それならば足りなくなるのは当たり前です。まあ、もう暫くの事でせうから、其の点の事はがまんするのでせうね。家は村長さんにも頼むつもりです、あなたが来るときまればすぐにもあらうと思はれます。仕事もあまり文句さへ云はなければいろいろある様です。私だつて、秋の始めまでには適当な仕事をみつけて貰ふ事になつてゐますから、田舎で二人で働いてゐたら、何とかなつてゆくでせう。

それに、此の家の近くにゐれば、食べ物の方は、患者さんから貰ふものだけでも、此の三日間位に、

大豆 五、六升

えんどう 一、二、三貫

鉄工聯から月給、今月二日附で来ました。こちらから、領収証と診断書送りました。(病名は相不変胃下垂です。期間一ヶ月)食事代、勤勉手当がなくなつたので、手取り五十三円二十銭でした。こちらへ来てからの小使内訳は左の通り。

以上、八十円八十八銭使ひました。其中、私用でないもの四四・一〇銭です。あと四十円足らずは食費と小使ひです。これからはこんなに使ふ事はありますまい。食費と小使ひで三十円すこし位なものでせう。

今日も一日、これと云つて用も出来ず、本は一枚もよまず、もう五時になりました。

5-15	葱1貫匁	.50
5-15	謙みやげ	2.10
5-16	汽車代	14.50
5-17	謙へ (コールド付)	20.00
19	切手	.70
19	花	.30
20	たばこ	.46
21	経木帽子	.50
22	光	.45
	切手	.03
26	そば (寛と)	1.40
26	切手	.70
26	茶 (寛と)	.30
26	クリップ	.25
27	汽車代 (H)	7.00
27	たばこ	.30
29	桃子へ	5.00
29	食費	15.00
31	貯金	5.00
		<hr/>
		78.49 (ママ)

6月		
6-3	小荷物	1.00
6-4	早苗オモチヤ	.19
6-7	かきとめ	.50
6-7	切手	.70
		<hr/>
		2.39
		<hr/>
		78.49
		<hr/>
		80.88

鉄工聯から(大金、内藤)便箋やフットウ、クリップなど十冊位送つてくれました。(勿論会社用です)では今日はこれでさようなら。

謙一から幸子あて (一九四四年六月一〇日前後の記)

小包を有難うございました。之で先づ食糧事情の困難も解決出来ました。今日あたりから各人、規定通り毎日一人当り

二合三勺程度になつたわけです。パンをも計算して。サヤ(豆)エンドウは、ふきがなくなつたのでかはりにごはんに炊き込んで、えんどうめしにして弁当につめてゐます。御迷惑をかけて相すみません。お母様、不二子さんよろしく御わびと御礼とを申し上げておいて下さい。之からはあんな悲鳴をあげずにすむやうにやります。野菜は、さやえんどうとか豆類等以外は、こちらで充分間にあはせられさうですから、御心配なく。豆なども、特に沢山は入つた時だけで結構です。余り御心配されないやうに。今日も経堂の知り合ひになつた農家で、中々美事の大根を夫々三本、金四十五銭で(五、六人一緒に)買つて、相当重いおみやげが出来ました。此の間買つたつけ菜はずい分沢山だったので、ひろちゃん二人で漬物にしてまだ半分ぐらゐあります。ひろちゃんも高園寺で菜葉をもらつて来ました。なくなればいつでももらへます。なつばのつけものを弁当のおかずにもしてゐます。利ちゃんは数日前、夕食前にどこかで食べたもの(かにか何か)に当つて大腸炎を起し、今村医院で薬をもらつて二日ばかり絶食して寐ました。昨日からパンをたべてゐます。今日から学校へ出てゐます。

今日、小包を送りました。あなたの背中のいたみを一人でもむための機械(?)です。火事があつたさうで、心配したでせう。今頃の火事はもつたいないですね。

召集は切迫してゐるやうです。北山君(丙の甲、和歌山)も応召しました。応召は、こちらにゐる中の方が、調査会の月給がつつともらへるからいいやうに思ひます。戦局切迫し、またあなたの生活を軌道へのせるためにも早く疎開したいとは思ひますが。

僕は相かはらず仕事のテンポがのろくてあせて神経的になつてゐます。考へれば考へるほど、僕の研究の意義が重大であり、面白いので、なるだけ早く、生活の決定的中絶の来るまでに、せめて問題提起だけでもやつておきたいのですが、力が及ばない。僕は昨年来、自分の研究の独創的意義をはつきりつかんで以来、それを掘り下げ、思ふ存分展開したいと云ふやみがたい欲求をもつて来ました。しかも生活の決定的中絶は、ダモクレスの剣の如く頭上にあり、それがたださへ本来的無力から来る僕の焦慮をいやが上にも刺戟して来ました。實際いくら何でも充実に自分の研究と著述とに精神及び精力を集中出来たのは、十二月下旬から三月中旬までのまる三ヶ月足らずで、それさへ厳密に云へば障害や気泡だらけだったのであり、あとの時日は大部分、何か外的な故障とそれとつながる内的なスランプとで多かれ少なかれ空費して来てゐるのです。特殊な外的故障を除けば、日常的障害の主なもの、結局調査会への勤務と家庭生活と、すなはち自分の生命を維持するに必要な市民生活、個人生活そのものだったのです。そして僕自身は自分の研究の独創

的歴史的意義の大きさを自負し、この研究発表と云ふ僕の社会的または歴史的行動は、市民生活や家庭生活よりもっとと普辺性^⑧のある、価値多きことと見、そのために市民生活や家庭生活の従属（多少の犠牲）を要求する権利がある、もっと周囲の人に援助を要求していい程のものと観じたのです。所が自分の研究の意義を、あなたさへ充分理解してくれない、いやその意義を妻にすら理解させ得ない以上、僕の要求は単なるわがまま、自己中心主義にしか思はれなくても仕方ないことでした。しかも我々の結婚生活の根本原理は二人の平等と云ふことであり（家計上の平等要求は徒らに我々を勘定高い夫妻にしてしまったが）、その原理はばくの自己中心主義を許さなかつた。僕は結局自縄自縛に陥り、論理的に自分に全く分がなく、しかも仕事はすまないとなつて、焦燥がつつのり、やがて僕の研究を充分させてくれないすべてのこと、僕の精神力の集中を妨げ、わづらはせる一切のことにカンシヤクを起し、神経を立て、そこへ僕本来のわがままも相乗して、横暴な、ヒステリックな、ケチくさい、我利々々なわがままや、氣むぶかしやになつたのです。之があなたをこの一年近く（それまでも無論あつたが）苦しめ悩ませて来たのです。いはば、あなたに僕を甘やかしてもらふこと、勝手にさせてもらふこと、世話してもらふことだけを要求し、その要求が容れられないので、あなたを邪魔にもしたのです。今も僕は、二人の学生との共同生活にわづらはされ、何とか一人きりで、誰か食事とかセントアクとかを一切やつてくれて、自分はやりただけやれる、さう云ふ下宿生活をしたいものに痛切に感じてゐます。実際には二人は配給とり、留守ばん、その他いろくゝとやつてくれるし、疎開も事実上大いに彼等に負つてゐるのですが、それでも僕は仕事の邪魔に感じます。体臭さへいやになります。自分ながら何とわがままでもケチな人間だらうと呆れ、嫌悪を覚えます。あなたが僕をどんなに卑少な禦^⑨しがたい専制者に見、恨み、憎んだかもよくわかる氣がします。あやまります。あなたを病気にさせ、邪魔あつかひして疎開させ、今も不便な中途半端な生活に置いてゐるのもすべて僕の上のごときわがままなんです。だがもう暫く待つて下さい。僕の本が出、一通り今の仕事の材料をあつめ、調査会や芦野氏への義理を果たしたら、今度は大いに精神修養して、市民生活や家庭生活の義務に対して良心的になり、あなたの善良な夫になりたいと思ひます。自我をすてることの出来る人間、ちよつと宗教的な人間にでもなつていいと思ひます。それまではどうか寛大に待つて下さい。僕の本も誰よりも先にあなたに読んでもらひ理解してほしいと思ひます。ユービン局の二階は、ホコリツポクはないかしら（道路に近いから）。それに本がおけますか。僕に必要な条件は、本がおけること、小さい畑がつくれること、地理的にさう不便でないこと、多少ゆつくり出来ること、これくらいで、あとはあなた次第です。あなたには今月から三十円ぐらいづつ、食費か小づかい^⑩かのつもりで送りますが、部屋をかりら

ればもう十円ぐらいよけい送りませう。月給でもあがれば、五十円ぐらい送りたいが。饒舌に書きました。あなたの先便に僕への恨みが含まれてゐたので、長々と自己弁護し、あやまつたわけです。どうか御諒承下さい。昨日島村君が来たのでドンブリとカヤとを渡しました。大変喜んで、あなたにどうかよろしくと云つてゐました。ドンブリの九円はあづかつてゐます。

幸子から謙一あて（一九四四年六月一三日の記）

六月十三日夕方

昨日小包も有難う。人名辞典は多いに必要を感じて居ましたが、そちらでもおいらよふの事と思つてゐたところでした。丸パンは残念乍ら青かびが生え、悪臭を放つてゐました。もう暑くなつたから郵送はむりでした。食量のないところから、へずつたもので、大変に貴重品なのに、おいしいことを致しました。

それから物理療養器は如何にして使ふのかわかりません。説明書がありませんでした。此のごろは例の脊骨の痛みはすつかり忘れてゐました。

煙草は十八日まで買へないので、お父さんはとても困つてゐましたから、ちようどよかつたです。私はきざみにも慣れましたので、それ程困りません。

九日の夜に臨時休暇で、森男が弘前から帰つて来ました。色の白い兵隊で、細いこと、利ちゃんなどより、ずつと細いので驚きました。腰のまはりには私と同じ位です。

それでもすばらしく元気でユーモラスで、大分、前より変りました。森男の「軍隊の話」は中々面白くて、それ位なら兵隊もわるくないと思ひました。共同生活は矢張りいいところがうんとあるのですね。それに弘前は、他とは、大分異つてゐるせいもあるのです。仲まも、美校出や帝大出が多くて、あまり妙なひねくれ者はゐないようでした。

ちようど兄夫妻や子供達も大町を引き上げて泊りこみ、隣家の下平ちいさんは亡くなつて、葬式当日まで家の客間を控室に提供、お勝手にも組合関係の炊事の人たちが十五人も来てゐる。家への訪問客もどうしたのか嫌に多くて、二階も下も人間だらけ、テナヤワンの騒ぎのうちに、今朝四晩泊つて出発致しました。

郵便局の二階はまだあたつて見ませんが、交通の点はバスのとまる地点であること、こしらへの点は此の辺には珍らし

くがつちり作りであること、埃の点は此の家と同じ程度であること、です。あんなきれいで、き持の良い郵便局は、日本中探してもあまりないでせう。事務をとつてゐるところのとなりは、とてもきれいな応接ま風な部屋です。私の目をつけたのは、其の上に当るところです。東と南に大き目の窓があつて風通しよきさうで、こんな風に四ま位あり相です。中に廊下かなんかあるのでせう（略図省略―編者注）。

今はまたすばらしく美しい夕暮です。ふうちゃんはまだ帰つて来ません。朝六時半から夕方六時七時ころまでです。帰つて来ると、早苗が一日中の不まんをぶちまける様に何か口実を作つてはキャア〜と泣き出すので、全く気の毒です。

今日は北西への道を少々読みました。以前読んだ時と大感^②じが違つてゐます。矢張り、読む時の心構へと云ふか、求めかたと云ふ物の相違でせう。まだ極く始めの部分ですが、殖民地軍と英本国から派遣された士官達との差が感じられます。これも四月にすこしアメリカ史をやつたので、本国とアメリカ植民地との対立的關係を知つたせいでもあるでせう。今、とに角、これを一応読み返してから、アメリカ史へ戻らうと思つてゐます。アキラの戦と云ふのは何戦争を扱つたものだったでせうか。独立戦争だったかしら。歴史を作る人々も独立戦争でしたね。

時間割には英国史を組み入れましたが、此の頃、どうも、それ程、早急に必要でないように思へるし、少い時間の勉強の、力の分散になる様に考へられるので、英国史は当分割愛しようと思つてゐます。必要に応じて、すこしづつ読んでゆかうと思ひます。

全く今はすばらしい黄昏、一人で味はふのはもつたない位です。まるで空気が透明すぎて硝子に近い物を感じさせ、麦の黄いろい段々畑や青い木々、白壁の家、畑をゆく農夫など、ゴッホの青い手押車のある風景とか云ふ絵のようです。大豆は着いたのでせうね。近いうち、粉を封筒一ぱい、大豆を同量、と云ふ風にすこしづつ集めたものを送るつもりです。

謙一から幸子あて（一九四四年六月一五〜一六日の記）※

五月二十七^①日

地下鉄を出て青山の通りを歩き出したら、今度もやつぱり甚だまぎらはしい頼りないサイレンがなり出し、その長すぎる継続がどうやらサイレンだなど云ふ感じをはつきりさせはじめるところ、漸く街に警報の反応らしいものがざわめい

て来ました。家々からモンペ姿がちよつと不安なやうな何かを求めるやうな表情で出て来てお互ひに寄り合ひ、鉄カブトを背へかけながらまだ整はぬ姿の警防団がやはりあいまいな感じを街の空気で確かめたがつてゐるやうにキョト／＼して出て来たり、子供が「敵機が来たよ」「いや来たんぢやないよ、来さうなんだよ」と云ひ合つたり。それらのだん／＼はつきりして行く街の気配に駆り立てられるやうに、今日の経堂みやげの大根三本とねぎ一かかえの可なりかさばつたふろしきづつみを膝にかちあてかちあて、足をはやめて帰つて来ました。利ちゃん(5)は十三日から徴兵検査で和歌山へ帰つて居り、ひろちゃん(6)は十四日から一週間富士のすその野外演習、プシはあれ以来もう二週間余り行方不明と云ふわけで、家は僕一人。先づ暗幕を張り、明日の米を洗ひ、ほつけの塩づけを水出しして煮つけ、丸パン二つと、そのほつけと昨日経堂で買つて帰つた大根のおろしとで、食事をすまず。(今日の野菜みやげはいねちゃん達にあげるつもりのもの。)食事をすまずとワカマツと云ふ昨日からのみかけた薬のみ、やはり昨日から敷つばなしのふとんの上にはらばつて、「白痴」の第二巻を読み始めました。

十二日頃から便秘になり、十三日、十四日から、下痢のやうな感じで始終便所へ行きたいくせにちつとも出ないやな状態になつて、どうやら熱も出はじめたらしく悪感(悪)を生じ、十四日の夜は便所へ無駄に通ひづめで殆ど睡ることも出来ず、人にすすめられてワカ末をのんでからやつと通じがあるやうになつたが、便所通ひは一日十数回を下らず、十五日は休みたかつたのですが、ポーナスを貰ふ必要から途中便所へ行きたくなる危険を冒して出勤し、その夕方帰りに警報になつたわけでした。

ポーナスがほしかつたわけは、この半年来本郷の或る本屋の店の奥にみつけておいた Lecky の History of England in 18th Century (全八巻 金九十円) がどうしてもほしく、一刻も早く確保したかつたからです。で十六日にはワカ末の効果が十分あらはれて、午前中僅か五回しか便所へ通はなくてすむ程度になつたし、ラヂオで警戒警報の理由もはっきりしたし、とにかく Lecky を買ひに、防空姿に身をかため八冊持ち帰るに不便のないやう、ひろちゃんのズックカバンの中にふろしき二つおしこんでおひるすぎに家を出ました。途中床屋で三月末鼎の永代橋際で刈つて以来の頭を刈りましたが、顔剃りになつた時相当大きな地震で鏡張りの床屋の店がヒシガタにいがむほどゆれて、煙草臭い息で僕を悩ましてゐた床屋のおかみさんは、カミソリをもつたまゝ店からとび出し、「おにげになりませんか」と叫んだほどで、僕も椅子の上で思はずへつぴり腰になつたが、前のがみにシヤボンだらけと云ひたいが実はそのシヤボンがうすくて既にかはいた痕(5)しかない顔と自分のへつぴりごしとが醜態にうつつて、ちよつと我乍ら滑稽になると共にどうやらゆれ

もおさまるらしいので、とび出さないで終つたのですが、上からと下からの脅威に「これはいよ／＼東京にも居られないな」とつく／＼感じました。それから本郷へかけたのですが、一ヶ月前にはつきりたしかめてあつたその場所に既に Lecky はなく、思ひきりガツカリし、やつぱりあの時借金してでも買つておけばよかつたと云ふ、ここ何年来幾度となく繰返して来た後悔の感にすつかり憂鬱になり乍ら、惰性的に十軒ばかり本屋を覗いて、大分腹の様子があやしくなつた午後四時頃、漸く帰つた次第でした。幸ひ家へ帰りつくまで、お腹ももつて、どうやら腹痛も峠をこしたことをたしかめました。

今日は経堂へ朝から出て来てゐます。今朝は三回便所へ行きました。一回毎にさう沢山出ないし、食欲は大しておとろへずに目下パンと大根おろしばかり食べてゐるのですが、それにしてもここ数日ずい分便所へ通つたものです。どうやら寐冷えぢやないかと思ひます。ここずつと外で食べないので、とにかく便所へ行つても排泄物の実体が出るやうになつてからは大分楽になつたわけで、その前二、三日、出たくてもちつとも出なかつた頃は全く弱りました。ガスさへ出なかつたのです。

来週火曜日日本橋へ出て、ハシ箱や香水を買つて来ます。今日はまだ腹に力がなく、おまけにまだ時々腹の中で圧縮が起つて便所を余りはなれられないので。パンが腐つてゐたとは残念でした。セナカ押へのキカイは、ここ(略図省略―編者注)の所へ背骨をはめて、仰臥すると丁度指圧療法になるのです。頭がつかれた時は首の後上部にあてて□にするのです。説明書は入れておいたはずですが。でも背中が痛まなくなつたのなら何よりです。

お送り下さつたオリザニン豆は、ごはんへ入れておいしくいただいてゐます。どうも有難う。

ユービン局の二階、大分よささうですね。若しよかつたら、借りておいて下さい。僕も秋頃にはどうしても行きたいと思ひますし、本も送つておきたいから。

僕も、やつとプランテーション年表を書き終り、半年越しの仕事をどうやら一まづ脱却した形です。もう初校が出て来ます。次の原稿にも急いでかからねばなりません、当分一人の生活で勉強出来ると思つたら、今度の腹痛と警報でオジャンになりました。そのかはり、ドストエフスキーの「白痴」とトルストイの「アンナ・カレニナ」とを読みくらべる機会を得て、この二人の比較について大分わかつて来た気がします。では又。皆様によろしく。

森ちゃんが帰省出来たのはよかつたですね。あなたへ返すお金はもう暫く御待ち下さい。今度のポーナスは僕の欠勤遅刻が多かつたのと、税金が一割五分になつた

のと、竹中君へ四〇円、伊藤君へ二〇円返すのとで甚だ残り僅少です。

※冒頭に「五月二十七日」とあるが、これはのちに謙一がみずから手紙を整理するさいに、誤って書き加えたものであろう。内容からみて、

幸子が一九四四年六月一三日に認めた手紙への返書に相違なく、謙一が六月一日から一六日にかけて書いたものと推定できる。

なお謙一発の手紙の冒頭に記された日付けのうち、謙一がのちに書き加えたものであることが明らかなのは、この「五月二十七日」を除いて記載を省略した。

幸子から謙一あて（一九四四年六月一八日の消印）※

東京は今梅雨の頃でせう。こちらもちヨイ／＼雨が降ります。昨日は診察室の脇の青梅をさまで叩き落してバケツ一杯とりました。

お父さんは昨日から浪合村に遊びにゆき、よう／＼、今日の午後に帰りました。あららぎ峠と云ふところへ行つたので相で、海抜二一五〇とか、すばらしくいいところだ相で、其処から帰つて来ると、此の辺はもう俗つぼくてかなわんと仙人みたいな事を云ひ、あゝ云ふところにゐると実に身体が丈夫になると云つて、お母さんから、あんな何処から行つたんな！ 東京からでも行つたのかな！”とからかはれてゐました。

菊池君が遊びに来るならもう一度ゆかう、なんて云つてますから、あなたも近々来ませんか。食べ物にはそれ程不自由しないから五、六日来て腹一杯食べてゆくといいと思ひます。

今、万年筆を二本買って来ました。今使つてゐるのはシーマーとか云ふので、五・四二銭也、これもシーマーで五・七一銭也、どっちか一本あげませうか。まあ／＼一本は後日のためにとつておいてもいいですね。其中、イリヂュームもろ／＼ついてゐるのが出来るにきまつてるから。

大金さんたちから手紙が来て、二人とも書記補になつて、ボーナスも沢山貰つて、あまりうれしいのでエノケンを見に行つたと書いてありました。

九州へとう／＼ボーイングが来たんですね。ここへ来たなら現金なもので、空襲の夢はぼつたり見なくなりました。それでもサイレンが鳴り始めると、すぐ東京空襲かと思つて心配になります。新飯田橋（知つてゐるでせう）のそばにお

多賀さまと云ふ寿命延命の神さまがあるので、先日桃ちやんと行つて、あなたの延命寿命を祈つて来ました。

鉄工聯でも半分片端みだつた¹と云ふ需品課の青年が応召した相です。本人は目下病氣療養中でもあるし、帰されるものと思つてゐる様だが、はたの者は周²の情勢から押して、まづ帰れぬだらうと云つてゐる相です。森ちやんの話でも菊池さんも必ずとられる、と云つてゐました。今からせいぜい神信心して武運長久をおがんでおきませう。

お父さんはとう／＼ロイド・ジョージの世界大戦メモリアム(メモリアム)を読んでしまひました。此度は、人類学・先史学講座と、人種学的に見たる民族發達史にとりかかつて、しきりとよろこんで居ります。お父さんは割合と知識慾がおとろへないです。

先日送つたお豆はどう云ふ様にして食べました？ さつと洗つて、鉄鍋でいつて塩味又はおショウユで味をつけても、割合においしいです。もう暫くしたら、又、あれ位送つてさしあげます。其の時一諸³に椎茸五、六個、コイヤ豆腐少し位送れると思ひます。

野菜は其のうち、キウリ・茄子・玉葱が買へるでせう。又、此の頃の廻覧事項で、野菜物の輸送禁止が来ましたから、小包みで衣類とか薬とかで送るのですから、極く少量しか送れないと思ひます。

西大久保へも何か送り度いと思つてますが、茄子・キウリが出だしたら送りませう。

近日、一寸来ませんか。証明書は疎解⁴した家族に病人が出来たとでも、何とでもなるでせう。アララギ峠に行つてみ様ではありませんか。お父さんももう一度是非ゆきたいと云つてゐます。利□さんの徴検はどうでしたか。

※手紙文の内容からは、これを認めた月日を特定できない。しかし六月一八日の消印を付した幸子から謙一あて空封筒があり、同手紙文はこれに封入されていたものと思われる。

謙一から幸子あて（一九四四年六月二〇日の記）

僕の腹もなほつて、今夜は久しぶりにいろ／＼と食べました。利ちやんが今朝帰京の予定で、とつてあつた昼食分（丼一杯）が、夜まで帰らない為に浮いて来て、二人は并に大山盛りの大豆入り飯、おかずはひろちやんの家から送つて来たばかりのおいしい大根みそ漬け、僕がビールとかへて来たホッケだら煮つけ、更に今日常盤橋の調査会長室へ小此

木君との定期会合の所へ電話がかかつて朝ちゃんがわざわざ届けてくれたタケの子の煮つけ弁当箱一杯、カブラとねぎのミソ汁、大根おろし（何れもひろちゃんの手料理）、そこへ夕方配給になったサメの煮つけ、之だけが卓上せましと並びました。それがすんでお茶を入れてゐる所へあつし君がやつて来て、マッチとおはぎのでかいのを二人に二つづつ持つて来てくれました。法事のお相バンです。久しぶりの甘味でした。

野菜は経堂でたつぷり買へますから、本当に御心配なく。豆類とかコーヤ豆腐などはいくらあつても大丈夫ですが、野菜はありすぎると始末に困ります。朝ちゃん達のために買っておいたねぎは、警戒警報でこの日曜に彼女達が来なかつたために大分痛んで、二人でワン／＼食つてゐるのですが、まだ中々征服出来ません。大根も朝夕大根オロシにしてゐます。その他ひろちゃん所からメリケン粉、新じゃが、わけぎ、サヤえん豆、ゴボウなどが来て、何から平げて行かうかと迷ふほどなんです。こちらから送つてあげたいくらい。

今日写真が出来て来ましたから、明日銀座で箸バコと千代紙箱とを買つて一緒に送りませう。

来月の十日頃に信州へ行けるかも知れません。明日から新しい原稿にかかり、今月中に独立戦争史百枚を仕上げ、来月四日には慶応大学出身者の何とか会で「米國政治と南部の問題」と云ふ演題で一時間ばかりシヤベリ、来月十日までに南北戦争の軍事的局面をでつち上げ、その間、シンス・イエスタデイのホンヤク約三百枚（前にかいてあつたもの）を芦野氏に見せ、例の本の初校をすませる予定です。その間早川君の所へも行かねばならず、竹中君が此の間中からしきりに来い来いと云つてゐるし、本探しにも行く必要ありと云つた風で、なまけ者の僕には目のまわりさうな忙しさです。所が僕は毎年、夏とか冬とか、他の人が余り仕事の出来ないと言ふ氣候に却つて精力的（？）になれるので、何とか全力を集中してみようと思つてゐます。で、それらがすめば、ちよつと一休みと云ふ形で信州へお邪魔にあがると云ふ段取りなんです。

警戒警報中は、前便に書いたやうに「白痴」と「アンナ・カレニナ」とを読み比べました。次には「虐げられし人々」と「未成年」と「父と子」「処女地」を読む予定です。何のためにさんなものを読み出したか（先月以来一ヶ月間に「カラマゾフ」「罪と罰」「悪霊」「白痴」と食いついてゐますが）と云ふと、ロシアの農奴解放の前と後とで、ロシアのインテリゲンチヤがいかなる差を持つつか、農奴解放の幻滅がロシアの文学にどんな形であられたか、を追求したいと云ふことと、竹中君が大分前からドストエフスキーについての僕の意見をききたがつてゐること、そして最後に経堂疎開組の英研部員に昭和八年東大英文学を出た八木氏と云ふまじめ一てつの英文学者がゐて、熱血漢で俳人で、「英語青

年」の古い(?)寄稿者で、アカデミックな教養の外にくせも二くせもある個性の強い彼自身の教養もしつかりつけた人物、云はばともかく手ごたへのある人物なのですが、彼がドストエフスキーが好きで、たま／＼僕とドストエフスキーに関して一種の文学論争をひき起してつたこと、之等の理由によるのです。この間中から昼の時間とか帰りの時間間に大いに討論をかはして熱をあげ、腹痛や熱(病的)のあつた日もわざ／＼出て行つたのは、その討論をつづけたかつたせいもある程でしたが、結局、彼も、僕のドストエフスキー評価を正しいものと承服するに到つて、今や一種の快い勝利感(決してケチな自意識でなく)を得つつあると云ふ状態なのです。僕も、この問題を通じて、芸術のシェクスピア的方法とシラー的方法、リアリスト的な方法と観念的な方法、芸術家の歴史理解の問題等々に自分でも掘り下げ、はつきりさせることの出来た収穫をもちました。その中貴女にも書いてみませう。八木氏は自分の友人に僕を紹介しましたがつてゐますが、僕は討論の過程で少々自分を出しすぎたので、ちよつとひかえてゐるところです。手前ミソになります、僕の話をきくと歴史と云ふものが実に面白さうだと人々が云つてくれるのですが、では僕の書いたものはどうかとなるとその点甚だ不安です。第一、まづ読ませるだけの力なり魅力なりを持たねばならないが、その点頗る自信がない。妻たる君にさへ中々読んで貰へないのだから。今度初校が終れば原稿を今井先生に見せて序文を貰ひますが、そのあと君の所へ郵送しますから、出来たら読んで下さい。素人なら素人なりに、どう云ふ所が見せて序文を貰ひますが、としての面白さ、また叙述の面白さ)、どう云ふ所がわからないかなどの感想をほしいのです。今にして去年、北山氏が僕の批評をあんなに喜んでくれた気持がよくわかります。

雨がびしょ／＼降りつづいて、本格的な梅雨です。ヨーロッパの第二戦線、太平洋のサイパンなど、歴史家にとつてもまたこの上なく緊張を要求される世界史の展開です。北山君は即日帰郷になりました。新庄君も、二人とも丙の甲。だが兵隊になるにせよ何にせよ、大したちがひではないと思つてゐます。死ぬにしても生きるにしても。だが生活への愛情だけはもつともつと徹底させて行かねばならない、僕に最も欠けてゐるものは生活への愛情、熱情だと思つてゐます。では又。二、三日中に小包を送ります。

早々。

幸子から謙一あて(一九四四年六月二三日の記、二四日の消印)

六月廿日附のお手紙、さき程拝見致しました。

いろいろお野菜もあつて、珍らしくごち走もあつたとのこと、安心致しました。寛ちやんのお家で、そんなにいろいろ送つて下さつて、本当にすみませんね。おかげで大助かりでせう。あなたからお礼申上げる事をお忘れなく。こちらもないくとは云ひ乍ら、此の頃はお萩もちよこく貫ふし、砂糖の交つたきな粉のお握りも毎日一個位は食べられ、昨日棒パン（（中））二袋、水飴大井一杯（各人大スプーンで五杯位）貫ひました。お砂糖入りのうどんと豆のおいりも、たいていの日は長火鉢の引出しにはいつてゐます。最もこれは早苗用ですが、チヨイく失敬出来ませう。

写真が出来た相で、楽しみにまつてゐます。どんな風になつたか何とも書いてないので、尚更早く見たい気がします。箸箱や千代紙箱は来る時でよかつたんです。ほら、よく、何がいいかなアつて困るでせう、お土産を買ふ時に。だから御参考と云つたところだつたのです。注文したみたいでいけませんでしたね。プランでは物凄く立てこんでゐるんですね。今月中に独立戦争100枚なんて、出来るかしら？ 又徹夜しなくちや駄目なんでせう。營養悪いのに、そんな事をするとむ茶だと思ひますが。独立戦争は相当面白いでせうね。100枚できつちりいれるとすると、主要なポイントは戦争に至るまでのところですか。慶応で話すのは、此の前書いてゐたプランテーション問題が同じテーマでせう。それだつたら別に下ごしらへは、それ程大変ではないのでせうね。なる艾プラン通りキチくやつて、お休みとれる様に、期タイ致します。

中村商さんから其の後手紙が来ますか。

一昨日、夏期のボーナスが送つて来ました。額は三一八円で、税金と前渡と国債とを差引いて百十円位、かわせで来ました。鉄工聯の細田さんから手紙が来て、六月廿八日で休職になるから、そのまゝ身柄は鉄鋼統制会へ引きわたす、其の方がよからう、と云つて来ました。

大分ドストイエフスキーに熱中の様で面白さうですね。私は今のところ、一寸読む気は起りません。併し、あなたのとりにあげた農奴解放前後のロシアのインテリゲンチヤの差や……は、是非きき度いものです。ルーゲンや父と子、其の前後、にあらはれたものとは大分異ふでせうか。ツルゲーニエフはそれを至極客観的に表現してゐる様に思つてゐます。新しい歴史の動きを感じ乍ら、参加したいと願ふ心持は非常にあり乍ら、ついてゆけぬ、結極彼等は古い落ちてゆく階級の側にあることを感じさせられました。

昨日まで（今月八日から）の二週間は、毎日、ふうちやんが留守で、帰りは夜の八時一ひどい時は九時半になるので、炊事も掃除も早苗のお守りも一手引きうけて、殆んど読書や勉強の暇がなく、日記の勉強欄は／線ばかりでした。明日

から解放されずから、午後二時間位、うまくすれば朝四〇分位、夜は無限に時間がとれるでせう。アメリカ史の夜の講義は続いてゐますか？ 私の方は北西への路―を大体終り、あれでまず英国のアメリカ植民地がインデアンや隣接植民地と抗争の件について、少々知識を得たわけですが、植民地の内部での対立や、植民地と英本国の対立の辺、求めてあまり得るところはありませんでした。第二巻の方は略したのですが、第二巻はロンドンに於てですから、英本国の政策なんか出て来るでせうね。矢張り下巻もていねいによんでいた方が良かったかしら。其の辺のこと（アメリカ史の勉強について、今私のとつてゐるプラン）、御意見きかせて下さい。

何れにしてもあまりプラン通り進行してゐないので詰らなく思ふ事もありますが、のろ／＼でも、ストップする気は全くありませんから、吾々ら其の点はうれしく思つてゐます。二階の勉強までも中々整頓出来て、朝なんかは光線もうすみどりいろで実に落ちつくのですが、午前中は一寸も部やを活用出来ません。もつたない事です。

では、今日は、これでさようなら。
寛ちゃん、利ちゃんによろしく。

六月廿三日

幸

謙一から幸子あて（一九四四年六月二九日の記）

御手紙有難う。

元気に御勉強のやうで安心してゐます。身体も調子いいのですね。

「歴史を作る人々」の第三巻を見つけたら買つて送らせて下さい。二、三日前「怒りのぶだう」の原書（一九四〇年）を五円で買つて、掘り出しものを得た快感を味はりました。

東京も本格的な夏になりました。麻服とヘルメットを明日ぐらゐから着用です。野菜を買ひに畑へ行くと緑の暑さ―支那では夏の暑熱の神を「青帝」と云ひましたね―は全くはげしいが、その暑さの中で、バルザックの「農民」に出て来る何とか爺さんみたいな、まるで土地へ根を下したやうな、桑の根を想はせるやうなガニ股の、首と顔と手とのひどく陽やけのした、強烈で表情の豊かな大きな眼を除くとまるで彫物のやうに硬い顔のお百姓（之が僕の配給酒を進呈した相手ですが）と、その息子の眼鏡をかけてもつと近代的な表情をもつた四〇近くの人（この人と僕達はよく話し込むの

ですが）とがキャベツを畑から切つてくれたり、ねぎをひきぬいてくれたりします。爺さんはその硬い彫りの深い顔で、無口なくせに実に懐しい愛嬌を僕達に見せてくれます。（彼の眼は篠田さんの眼に似てゐます）。

前の手紙を書いた頃が我々の物資の最好況期で、利ちやんの持ち帰つた有田（ひろちやんの家）と和歌山の家とからの野菜、米、豆、等々も、若干のごぼう⁽⁴⁾だけ残してすつかり一週間で平げて了ひました。その後は、野菜の配給も極度に悪く、魚は全然なく、専ら僕が経堂から重い思ひでさげて帰るキャベツや大根やねぎ（もうちきトマト、キュウリも買へます）が主要食糧で、脂肪分と蛋白質との不足とが、若い二人に苦痛だらうと思つてゐます。若し大豆でも少しづつでも送れたら送つて下さい。だが無理には送つてくれる必要ありません。辻岡さんへ送つたと云ふ野菜はつかかなかつたさうです。辻岡さんは留守が多く、近く福井へ疎開するさうです。この頃はひろちやんが家にゐる時が多いので、辻岡さんへは何にも頼みません。一度僕が信州にゐた間にタケノ子の煮たのを届けてもらつて以来何にも厄介をかけてゐませんから、途中没収される危険まで冒して送る必要はないと思ひます。若し必要なら僕が経堂から買つて来てわけてあげるつもりです。

前の日曜にひろちやんをつれて鎌倉へ行きました。みつちやんは働きすぎて（米をとりに行くのに十町近くも歩いて行き七キロかついで来たり、配給物で重い思ひをしたり、水を汲んだり）少し下つたらしく、七月にお産ださうです。何だか生活の苦勞を感じさせられました。何か訴へたいかのやうにも見えませんでした。戦局から云つても、早く身二つになつておく方がいいと思ふと云ふ島村君の言葉に僕も賛成です。僕達の鎌倉行きの目的は本を探すことにありましたが、バルザックのコント、ドロラティクの英訳全文をみつめてホク／＼しました。

僕は独立戦争をついてゐる中に、オランダ独立戦争に大いに関心をそそられて、また米國独立戦争が書けなくなりさうですが、之はガマンしなければなりません。オランダの場合は、あれだけ苦難の後に戦ひとつた共和制が、一七四七年には完全に十六世紀中葉のフィレンツェのやうに、悲しき王国に転落して了ふ。何故か。第一に共和制が商人等有産市民の独占に帰して彼等は民衆から分離し民衆を疲弊させて了つた、その為オランダ家の如き土地貴族が、民衆勢力の有産市民への反感を利用して共和制をつぶすことが出来た。第二に商人的有産市民が工業の發達を導かなかつた、云ひかへれば産業革命が行はれなかつた。グロチウスやヤン・デ・ウェットもまたスピノザさへオランダ民衆の眞のエネルギーと直接結びつかなかつた。レンブラントが乞食の絵をうんと書いたことは、あの時代の絢爛たるオランダ社会の本質を示唆してゐる。レンブラントの意義の究明に対する関心が今更ら刺戟されます。ブリューゲルとレンブラント。

そのつながりは、ブリューゲルの「乞食党」とレンブラントの乞食。実際「乞食党」は、イギリス革命の「レヴェラー」、アメリカ革命の「自由の息子」、フランス革命の「エベールチスト」等と共に、革命の推進力の問題に解答を与へるものでせう。僕はいつか之等のすべてを分析してみたいと思つてゐます。面白いものが出来るにちがひない。

今日、竹中君に召集が来しました。十三年度の丙種の甲です。七月五日入隊（東京）。サイパンの戦局は更に大動員を予想させますから、僕もおつつけ来るでせう。こんな風を書いてゐる間にも来てゐるかも知れないのです。さうなるとオランダ革命など慾張つてゐられない、ともかく独立戦争だけでも早く仕上げねばなりません。僕の著書の印刷も遅れて先週出る筈の初校がまだ出来ません。何もかも今更らあはただしく感ぜられます。日曜の夜竹中君の家へ行きます。

「アンナ」を読んでいろんな事を考へさせられてゐます。アンナの魅力はアンナの心の状態にある、アンナの心は常に憧憬し切望し欲求する。アンナの欲求は「虚偽でないもの」「真実なるもの」へとひた向きに向ふ。だがアンナの生活環境はアンナの欲求に対して確答を与へない。アンナの社会的歴史的地位からは、眞の生活、普遍へ通ずる個の生活、歴史的本道にしっかりと足をつけた生活への道がなかつた。アンナの欲求はだから単なる脱却、虚偽からの、「真実ならざるもの」からの脱却でしかなかつた。アンナの生活に於ては、さうした脱却は、眞情の解放と主張、情熱的恋愛より外にあり得なかつた。アンナの余りにも不断に傾斜する心、憧憬する心は、眞実の状態を恋愛の白熱の中に見出さうとした。アンナの最も人間的な「生きる欲求」は強烈な全身的な全世界的な愛、他者との完全な合一に見出さうとした。さう云ふものは歴史的生活の内容をもたない限り幻影であり、バク然たる夢にすぎぬ。しかのみならずウロンスキーは、アンナよりも更に生活を有さず、しかも彼はアンナの如き眞実なる「心の傾斜」、欲求がなかつた。従つて彼には全世界的な愛、他者との完全な合一の状態への欲求などあり得ず、アンナの心情への眞の共感、その理解はあり得なかつた。その点でもアンナの自殺は必然であつた。

第二にアンナは、戦ひこそが人生であることを深く理解し得たが、何と戦ふかについて理論を有するまでに到らなかつた。アンナの生活からはさう云ふ理論の成育の可能は乏しい。だから彼女は、戦はねばならぬことを知り、また彼女流に戦ひながら、彼女の敵の大きさ（夫、法律、社交界、偏見、ウロンスキー、そして彼女自身）を理解し得ず、支離滅裂に、悲しき劣弱感の中で戦はねばならなかつた。戦ひに対して彼女は、余りにも無力であつた。ここからアンナの自殺のもう一つの必然が帰結される。僕達もまたアンナのそれに共通する「心の傾斜」、欲求する心の状態を持つてゐます。それが我々の現実的な生活力を伴ふ時、我々の生活は充実せる統一を以て進展するが、その力を伴はぬ時、焦慮と

不安とが避けられない。欲求する心の状態にエネルギーの一つの根源がある。物理学的にも傾斜には位置エネルギーがあるやうに。だがより重要なエネルギーの根源は無論精神の内質、一種の電子運動にある。とにかくアンナを読みつつ、僕はファウスト、メルモット、マンフレッドのやうな、疲れを知らず欲求する魂の巨人達、バルザックやシェクスピアの多くの主人公達への新たな関心をかきたてられてゐます。これらの無限に不断に憧憬し欲求し運動する魂が、現実的な生活力を伴はない時、歴史の本道から遊離する時、ニイチェになり、ドストエフスキーになる。あのスタヴローギン（悪霊）の安定―これは十九世紀後半のインテリゲンチヤ達の不安、耽美、惑溺、エキゾチズム等々と共通の土壤に咲いた同じ世紀末のあだ花の一つ。決して美しくない。トルストイも、アンナとレーヴィンとの間を彷徨しつつ、チュルニーシェフスキーやゴリキーの道を進めず、歴史にとり残され、遂に宗教的安定へ、無抵抗的人道主義へ（ドストエフスキーの解決へ近いものへ）、落ちついて了つた。「アンナ」の中にトルストイの到達せる頂きがあり、「アンナ」の中にトルストイの後退の全契機（レーヴィンの悟り）があつたと云ふ通念の正しさ。とまれ「アンナ」の世界は、憂鬱なほど僕の心に迫るものがあり、その意味では、ドストエフスキーの「深刻」さうな「憂鬱」さうな世界の方は、はるかに傾斜のない、安易な、いはば淀みにまでたたへられたなまぬるい世界だと感じます。

フウチヤンの香水やお父さんの箸箱、千代紙箱等々は七月十日頃直接に持つて行きます。本を鉄道便で二、三送ります（二、三日中）。絵の本と人類学。後者はお父さんがお読みだとのことですから先に疎開させませう。そちらも本の置き場なく御迷惑でせうが、応召が近いとすれば、なるだけあなたの所へ送つておきたいのです。預ける所でもみつけて下さい。和歌山は安全でない。

竹中君が征くことは僕にとつて、僕の懐にとつて痛手です。まだ残してあつた借金も返さねばならない。早く本が出来るといふと思ひます。

では皆様によろしく。

六月廿九日

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年六月末ごろの記）

昨日は写真有難う。皆で眺めて、楽しみました。こちらへ来てうつつしたのも、一昨日出来ました。あの頃の写真に比

較すると私も随分ふとりました。

郵便局の二階は十帖三間、八帖一ま、の四までです。大きすぎますね。借りられるかどうか、はつきり当つて見ませんが、あいてゐる事は事実で、時々集会に使つてゐるだけで、もつたいない、と郵便局の女の人が云つてゐました。

七月の十日頃に来るのなら、其の時話してみ、見にゆきませうか。其の後にある小さい家もあいてゐる様な口ぶりでしたが、あまりしつこく聞くのは、止めておきました。

住宅と云ふ雑誌の古いのをみると凄い家が沢山ありますが、書齋のすばらしいのは始んどありません。書齋特輯号と云ふのにすらも。日本人は客ま（めつたに使はぬ）には善い場所をとるのに、書齋と云ふものは、実にギャクタイするものらしいです。私は書齋兼応接まのかつちり天井の高い一ま、ベッドルーム—これはせまくても疲れた時よめる本などもおいた部屋にして、キモノ類もおくと云ふ風に、寢室兼納戸、化粧部やが一つ、あとはマイルでたたんだ台所（そこで食事を出来る）一つ、この三つがあればいいと思つてゐます（間取り図省略—編者注）。

今日は歴史を作る人々の第一巻を終りに近いところまで読みました。これも前に一度読んでゐて、ところ／＼覚えてはゐましたが、全体に於てはまるで異つた感じを受けました。まだ其の異つた感じ、と云ふのをよく確めてあるわけではありませんが。

—トオリイ党のことも植民地軍の事も知らなかつたので、どつちがどつちたがム関心によみすごしたらしい—今度は其の相違がわかつてゐたから諸々の点について同感もし、又異議も持ち得ました。

あの中に出て来る忠誠派（アメリカ人であつて英本国の政治に暴力的に反対する事もせず、妥協点を見出す事に最後まで希望をつないだ人々）、特に主人公オリヴァの父S・ウキスウエルなどは、何時の時代にもある典型的なインテリゲンチヤではないか、などと思ひました。彼等の社会的な位置が彼等をあの様な不安定、不徹底にとどめるのではないか、—登場する水夫や商人や、ブエルの様な職工たちは、曲りなりにも歴史の動きに敏感であるが、前者は固定した観念の世界からしかみる事が出来ないで、真実の歴史の動きを見出し得ないのではないか。

レートン、ウキズウエルや、ロードアイランドの沼地にかくれてゐる善良さうな判事たちは、個人的には申分のない立派な紳士であるが、歴史の変動期（？）には悲劇的な存在でしかない。悲劇的ではあるがヒロキックではない。彼等の行動には同情も理解も持てるが、全的に肯定出来ない。彼等はすぎてしまつた時に於ては典型的な美しい存在であつた

にすぎない。

王の政府は絶対に信頼すべきものであると考へ、政府の方針には無批判であるが、植民地の独立派に対して批判したり考へるときは、暴徒を対象にしてゐること、暴徒のうちでも群盲丈を。ロードアイランドの沼地になつて親愛なるロジャース大佐が登場して来ました。どうやらロジャースのユウレイの如きものが。

不二ちゃん託児所の先生たちとあちばらの温泉に行つて来て、甘い卵やきを食べたと言つてゐました。七月にあなたが来たら行つてみませうか。大鹿の方だつていいけれど。

今、庭はくちなしの花盛り、二本の木にゴチャ／＼について、すばらしくブン／＼にほつてゐます。

野菜はまだ好調子ですか。こちらの畑はレタス、大根、茄子、キウリがとれ出しました。いんげんも夕方十五本とりました。トマトもかぼちやも実がつきました。原宿のかぼちやはどう？

謙一から幸子あて（一九四四年七月八日の記）

その後御元氣のことと思ひます。

いねちゃんが一昨日、経堂へ訪ねてくれました。あなたは二貫目肥つたさうですが、もう一貫か二貫肥らないと安心出来ませんね。こちらは相かはらずです。トマトが出はじめ、まだ高い（一貫目二円五十銭、その家はキウリでもなすびでも皆一貫目二円五十銭です。前便に書いた農家の方はキウリ一貫目一円ですから、同じ百姓でもずい分ちがひます。安い方のそして僕の馴染みの方の農家ではなすもトマトも少しおくれから買へるのです。その爺さんに「あなたの損にならぬやうに値段をつけてくれ」なんて云ふと、「損なんかにやなりませんよ、支入れものぢやないんだから損になるわけはありませんよ」と云ふ答へで、自分の労働をタダに見つめてゐる典型的な農民的イデオロギーの所有者です）が毎日おやつにもたべられます。そのせいか昨日から下痢になりました。余りひどいのではないが。

応召は相ついで、櫛の齒を引く如くです。竹中君は僕にとつてこの調査会では最良の友人でしたから、二日の招待された夜はムロンのこと、入隊前日の四日、警報が出てゐましたが、どんな風でゐるかちよつと気がかりだつたのと、キウリのいいのが買へたのでそれをおみやげにたづねてみました。割合元氣で、ひきとめられるままにいつい遅くまで話しこみました。その日は交ジュン社で僕の講演（？）があつた日で、彼は出られなかつたのです。その朝警戒警報が出て、

クラブの出席者は幹部ばかりの三人しかなく（幹事のダイアモンド編輯長松沢氏、朝日新聞論説委員島田氏、東京新聞論説委員福良氏）、気の毒だから次週へのばしませうかと云はれもしたのですが、僕は実はそのくらいの方が思ふ存分しやべれるし、今までこんな風な畑ちがひの大人を相手にしやべつたことがないのでそれも一つの魅力だったし、また三人ぐらいの方がインテイメイトにしやべれるとも思つたので、敢へてやりました。聴き手は何れも聴き上手で、ノートをとつたり質問したり大変熱心にきいてくれたので、こちらも夢中にトツ弁の熱弁をふるひました。そのため肝腎のプランテーションの内容説明に入るまでにすでに予定の時間をとつぱして、結局一時間半みつしりしやべつたわけです。新聞人だけにカンがよく、それに大体四十四、五かその前後の人達なので言葉もよく通じるし、こちらの話すことの急処を理解してくれてゐるのがわかり、大変面白がつてくれたので愉快でした。その中歴研でもシヤベつてみようかと思つてゐます。人前でシヤベル訓練を心がけてゐるのです。

竹中君の征つたあと、今日も調査会で一人出ました。調査会はまだ少い方だが、立教のアメ研は、浅野、神野、川端、三君が出たし、その中の神野君は和歌山の丙の乙で、昭和十一年。三月に応召して帰された北山君は和歌山の丙の甲、昭和九年でしたから、僕は当然九月の番です。だがサイパンその他の戦局の緊迫から恐らく一ヶ月早くなるだらうと予想され、何れにせよ、あと半月か一ヶ月と云ふ状態です。

それに今度、経堂の方に防空宿直制度が出来、家族疎開者で、ここに下宿したい者は、さう出来るやうにはからふと云ふ話になつて、或ひは僕が、原宿を引き上げてここにすみこむかも知れません。さうすれば、荷物の運パンその他はすべて調査会でやつてくれるし、僕も思ひ切り勉強出来ます。食事は二階に水道があるし、下に小使さん夫婦がゐる、たのめるのです。原宿の方も床板は頼りないし、ごみはすてられない、二人とも掃除はしない（この頃は、大てい毎朝僕が階下と表、玄関、裏をはきます。朝食を作つてゐる間に。その代り、ひろちゃんには夕方水打ちをやること、時々ホウキの音をひびかせることを命じてゐます）、何にしろかにしろ、やつぱり云はなければ二人はしないし、つまらんことを云ひすぎるのも自分に不愉快だし、生活が面づくさく仕事が進まず、警報の時の二重生活も不安定で、一切をてつとり早く解決するために結局僕がここへ来る外ないと思ふのです。さうすれば食ひ物の心配もありません。野菜やその他のものが買へますから。今は三人のおかずを毎日買ひ出して来て、原宿まで持つて帰るのですから大変です。キヤベツ一つでも、トマト一貫目でも、外の荷物と一緒に可成りな荷であり、電車を二度のりかへるのもおこくうです。また召集が来た時は、同僚に後をたのみ、荷物もここへあづけておくことが出来るからいいと思ひます。利ちゃんの宿

先も池袋に候補がありさうですし、若し何なら吉祥寺の磯谷へでもたのめるでせう。ひろちゃんは学校の方はのんびりしてゐるし、どこかに探せなくもないでせう。何だか二人に対して冷淡なやうですが、かう毎日食ひ物の心配や家事の煩はしさ(大家さんの告げ口式なうるささ、隣家の頼りなさ、また配給は綜合配給になつてから、魚やでも八百ヤ(魚清の隣)でも列も長くなり不便にもなりました)で、仕事に専念出来ず、愛情の点の不満に加へるに仕事の緊張感の満足させられない不満が僕の神経を一そう不安にすることに疲れました。

まだここへ世帯をうつすことを具体的に決定したわけではありませんが、僕自身はずい分その気になつてゐます。ここから信州へ引き上げることも、原宿からの場合より簡単です。結局年末までがんばつて出来るだけ資料をあつめておかうと思ひます。あなたも中途半端で大変気の毒ですが、どうかもう暫くがまんして下さい。召集がないか即日帰郷になるかすれば、遅くとも年末までには信州へ行つて新しい生活を建設するつもりです。戦局も近く大転換がありさうで、見透しももう暫くすればはつきりするでせう。

僕の信州行きはお盆すぎになります。仕事がおくれてゐるのです。それに今月に入つて他を訪問することが多く、夕食も外で食へることが多いのです。一日には利ちゃんをつれて鈴木圭介の家へ、二日は竹中家、三日は竹中壮行会、四日の夜また竹中家(恵美寿)、五日は村瀬家(小林君の壮行会で吉武と二人招待されたもの、夫人にあなたへのプレゼントのお礼を云ひ、トマトをおみやげにしました)。六日は北条家(北条夫妻が誰かにきいて前日経堂分室をたづねてくれ、招待を受けてこの日五時から十時までシャベリこみ、ごちさうになりました)、昨日だけ家へ夕方帰りました。今日も北条君の所へ帰りに寄る予定です。明日日曜は、小林君が千葉へ是非来てくれと云ふので、吉武、村瀬と行く予定です。今夜吉武が僕の家へ泊ることになつてゐます。小林の妻君に対する態度について、もう一度はつきり云つてみる予定です。村瀬家では村瀬夫人がゐたので、話がその方へ行かなかつた。伊藤のんき君もその中出てくるでせう。早川家へはまだ行けません。東部戦線の模様で、早川家へも行きたいのです。

調査会では竹中君去つたが、八木氏と云ふ相手が出来たので、話相手と云ふ点では困りません。この人間関係は本室よりはるかに簡単だが、それでも若干あつて、女の子が時々不満を訴へに来ます。ひろちゃんはあなたの会社のことを戯曲にして読んでくれと云ふので読みましたが、やはり浅薄です。どの人物もソザツに類型化されて、典型的環境乃至状況に於ける典型的性格と云ふ点でも、細部の真实性と云ふ点でも全く出来てゐません。人物は何れも対立物の統一として生きた形で描かれず、デクの如く言動します。可哀さうだが、その点をはつきり指摘して批判してやりました。ま

だ現実の観方が出来てゐないので。
追伸六月廿日かその頃の前便はつきましたか。

謙一から幸子あて（一九四四年七月一〇日の記）

前略

僕が経堂分室に住みこむ件、正式に決定しました。いつか書いた図の二階の二畳が私物を置く所謂私室、十畳は研究室で机を少し寄せて寝る場所をつくり、板の間三畳へ書棚三つを置きます。リヤカー三台が調査会からまわされる予定。既に書籍を毎日少しづつ運んでゐます。洋服ダンスはいねちゃんかあつちゃんかあつちゃんが預つてくれればあづけますが、大きすぎるなら処分したいと思ひます。いかがですか。ダンスはあつちゃん達にあづけます。持つて来るものは、机一つ、テーブル一つ、椅子（坐り□□^{椅子}など）二つ、本棚三つ、ラジオ、ふとん、行り三つ、食器棚一つ、大鏡、下駄箱、タラヒ、火鉢、冷蔵庫、洗面器、食器等です。あなたの御意見いかがですか。

利ちゃん、ひろちゃんは、下宿します。利ちゃんは学校の近くへ行き、鈴木君や立教の連中によろしくたのみます。ひろちゃんは高円寺の叔父さんの所へ行くでせう。前から向ふ³で来いと云つてるさうです。尤も子供があるので、下宿をさがさうかとも云つてゐます。とにかく外食下宿は割合簡単にみつかるさうです。

大体ひっこしは、廿日―廿五日の期間にやります。戦局重大で早い方がよささうです。こちらでは露台で自炊するつもりです。買出しは小使さんの妻君^妻にたのみます。なほ一色さんと云ふ人は、その奥さんが恵泉女学校の理事か何かで、西大久保の知り合ひだつたと思ふので、土居叔父にもよろしく頼んでおきますから、応召その他の時はうまく行くでせう。どうせせいぜい冬までの生活ですが、出来るだけ勉強しておきたいと思ひます。勉強と云ふ点では恐らく現在の僕の境^境偶^偶で、之以上望めないほどの好条件です。炊事はガスがないので、小使さんにたのめればそれにこしたことはないが、配給制度だといろくめん^{めん}どう^{どう}なので、自分でやるわけです。これで半年やれば、南北戦争も目鼻がつくでせう。あなたには中途半端で気の毒ですが、もう半年だけ我がままを通させて下さい。

そちら御迷惑でなければ、十五、六日頃に信州へ行きたいと思ひます。御都合御知らせ下さい。昨日、ふとんわたを送りました。

一昨夜吉武君がとまり、昨朝村瀬君も加へて一緒に千葉菅田の小林君の招待に応じました。思つたより遠く(二時間ばかりかかる)、思つたより田舎でしたが、彼の叔父さんと云ふ元の代議士の鶴岡氏が大いに歓待してくれて、おひるに着くとすぐ、しばらくたての牛乳一升と甘くふかしたジャガイモ山盛りをおやつに、それから風呂には入つてユカタにきかへ、のりまきずしとジャガイモをつまんである間に、酒と冷奴と今朝とりたてと云ふいわしの塩焼を山盛り、それから卵つきの鳥なべ、鳥を二羽つぶしたさうですが、やきどうふがあり、さとうをたつぶりつかつて朝鮮の石なべで、本當にうごけないほどたべました。そこへカレーライスとおしんこ、甘いみかんジュース、之でおはりです。食事は一時半から四時近くまでかかつて(シャベリシャベリ)、七時半の汽車で帰りましたが、家へ帰つても(九時半)ちつとも腹がすかず、まづ近來にないアホウの天国を味ひました。

小林君と好子さんとの關係は、向ふへつくつとすぐ迎へに来てゐた彼と二人きりで(吉武、村瀬両君は好子さんとキャベツの自由販売に買ひ出しをやつてゐたので)途々ききただしましたが、彼は好子さんともつとよく話し合ひ、自分の要求と相手の要求とを交換してもう一努力やるつもりになつてゐたので、僕もそれについて極力すすめておきました。彼は何とか妻君の文句を云ひながら、既に三人目の子供があと四ヶ月ぐらいでうまれるやうな状態になつてゐるのです。

どうも僕には彼の心理にピンと来ないところが多いのだが、この前云つてゐたやうな、だまつて上海へ行つて、そのままやむやに解決すると云ふやうなことをやらないだけの反省はしたやうで、その点安心しました。実は牛乳ぐらいは御馳走になるつもりでも、こんな饗応にあづかる意図も予想もなく、三人とも弁當なり米なりを持つて行つたのでしたが、そんな風だつたのです。彼の二世は二人とも全く田舎の子で、スダカみたいにして遊んでゐました。可愛い(可愛いが、目まぐるしく、そこらの子供と見分けもつかない。好子さんはもう可成り自立つおなかをしながら、相かはらずくつた)の無い愛嬌ぶりで、もう五十近いのに大変いきでシャキ／＼して我々をちつともそらさない伯母さんと、大働きでした。あなたによろしくと二人とも云つてゐました。

牛乳にしてもとりにしても、やきどうふ、じゃがいも、すべて留守の二人に食はしたいものばかりでした。おみやげはカボチャとなすび。

昨日僕の留守中陸士の政二君が来たさうです。コーリヤン入りの米をもつて来て、トマトやなすびをおかずに食べたさうです。

では数日中に会へるでせう。お母様、お父様、ふうちゃんによろしく。たまに便りを下さい。

早々

七月十日

幸子から謙一あて（一九四四年七月二一日付け）

謙

六月廿九日附及七月八日附共お手紙落手。十日ころこちらに来ると思つて、返事はさしひかへてゐたのです。三人の合宿の不便さ、さこそとおさつし致します。

勉強出来るためにした合宿ですから、それが障害になつたら、一も二もなく解散する方が最善の処置でせうね。二人とも21才にもなり兵隊なんだから、余けいな心配はいらんでせう。今月中に片をつける事ですね。

経堂の事ム所の当直の件、絶好のチャンスではありませんか。早速引越さない。おすゝめします。

独立戦争、少しづつあちこちと当りました。独立戦争は、私はそれに至る経過に意味があると思つてゐたのですが、今になると、戦争直後が実に大きな意味を持つのではないか、と思はれます。

参考によんだものは、北西への道、歴史を作る人々、フランクリン伝、○ユートピア、○ガリヴァー、アダムズの米国史（これは独立戦争の前後まで）、文化史大系の中のアメリカ、です。○印は、一寸変なようですが、独立戦争の後の事をよんでゐたら、一寸よみたくなつて、よみました。

もつと家にあるもので役に立つものはないかしら？

一、北西部条令（内容） 一、憲法制定、此の二つはどうもまだよくわかりません。今度来た時に教へて下さい。

結局英国のクロムウエル革命の時の浪の高まりの其の余波が、アメリカ独立戦争への波のショックになつてゐ、アメリカのそれはフランス革命に浪うつてゐたのではないかしらん、と一寸考へましたが。クロムウエル革命に至る前にはオランダの独立——があつたし、——歴史とは真実に人類の進展の過程を云ふのだなアと、つくづく思つてゐます。

浪の高まりは消えたかに見えても、又、より大きい形で寄せ返してくるのだと思ひます。

ヤチ／＼乍ら、此の頃は全く一生けんめいにアメリカ史に全心思をうちこんでゐます。あなたの集めた材料も相当あるのだし、語学もポツ／＼でもつづけて、原書もすこしはよめるようにしておき、若しもあなたが戦争で仕事のうち切られるような事になつても、おくれはせ乍ら、其のあとをつづけてゆきたいものと思つて張り切つてゐます。先づ、これで私の生涯のうちこむ目的が出来たと思つてます。

四日から熱が出て、——アスピリンやヴェルナルの服用で、又すこしやせたし、のうひんけつも二、三度起しましたが、此のごろは一日に四時間位はアメリカ史関係の勉強をつづけられるようになりました。

謙一から幸子あて（一九四四年七月二三日の記）

お手紙有難う。

僕は十五日の夜行か十六日の昼の汽車で行きます。経堂への移転は二十三日の予定。ですから四、五日御厄介になつて月給日頃に帰ります。米はまた窮屈になつて来てゐますから、僕の留守中は充分注意してくれと云つてあります。彼等は下宿すればそれ以後の食糧は保証されてゐるが、僕の方はさう云ふ保証がないのだから。信州でメリケン粉でも買へれば買つて帰りたいと思ひます。無理かも知れませんが。

ひろちゃんはこの（経堂）近くの下宿をあたつてみると云つて今日昼頃、ヤサイ買出しもかねてやつて来る筈です。利ちゃんは学校近くをあたつてゐます。

僕は信州へ初校（プランテーション）を持つて行つて校正するつもりです。印刷が大分おくれました。目下独立戦争を書いてゐます。

あなたの勉強、うれしく思ひます。今度こちらへ鈴木圭介君の「独立戦争の経済的背景」と僕の「独立戦争」とを持つて行きます。北条君の「芸術の科学」の原稿の第二章までをノートしましたから、それも持つて行きます。小此木君のホンヤク（この間話してゐたレーンの心理学）は十五日までには借りられないので、いつかその中大意かノートをお伝えします。

こちらへすみ込めば大いに勉強出来ると思ひます。本も手もとに揃へられるし（安全だから）、時間は全然豊かになります。現在のやうに、夜は九時半から十時まで弁当のめしを炊き、十時半か十一時に寝て、朝は五時半に起きて弁当をつめ、雑炊をたき、弁当のおさいをつくり、掃除もして、結局二人を飯に呼ぶ七時少し前まで全然本がよめず、食後と云つても八時半に出かけるまでの半端な時間は余りつかへないと云ふ状態と比べて雲泥の差です。目下毎日日本を経堂へうんく云つてはこび、帰りには野菜をもつて帰ると云ふので、ちよつと疲れます。ふるもめつたには入れず、せんたくもさうひんぱんに出来ません。

こちらなら、朝五時か五時半に起きて一日分の飯を炊けば、あとは夜十時か十時半に寝るまで全部勉強につかへるし、銭湯もトコヤも近処にあつてすいてゐるし、買ひ出しは小使さんの妻君がやつてくれると云ふわけです。一週に一度ぐらい本室へ出て銀座で買ひ物し、山陽堂で本をとつてくるぐらいでせう。雨なら出なくていいし、くつもへらないし、腹もへらないし、とにかく、之だけいい点がそろつてゐれば、あと少々悪いことが出て来たとしてもまづ大丈夫でせう。これで落ちついた途端に召集が来ればそれまでですが。

では二、三日中にまたおめにかかります。本を買ひすぎてもみやげは大して出来ませんでした。てん子へパンぐらい持つて行きませう。皆様によろしく。

七月十三日

謙一

追 村山大シマはあります。センタクやで貰つて来ませう。

鉄道小荷物届いてゐますか。

幸子から謙一あて（一九四四年七月二一日の記）

汽車は如何でした。御ぶじでお帰りなすつた事と存じます。あれからずつと時計を見る毎に、もう何処まで行つたらう、とか、もう着いただらうとか、お母さんが度々申してゐました。東京へ着いた時刻はこちらはちようど相当の凄いいめでしたから、東京もさうではないかと心配致して居りました。

あの合羽では、シト／＼あめ位なら役に立ちますけれど、夕立降りでは駄目だったでせう。

皆の引越はうまくゆき相でせうか。早く皆終つてあなたがほつとすれば、と思つて居ります。引越さわぎは考へただけでも疲れますね。あなたも三月の終りから疎解のための旅行や荷造り其の他、神経の疲れる事ばかりで、本当にお気の毒でしたのね。早く経堂に移つて、すべての点からホツとなさればと、心から思つてゐます。

道具の事は、あなたの思つた通りにおやりになつて下さい。決して、後から文句云ふ様な事は致しません。運送其の他のわずらわしさからすこしでものがれられるんだつたら、うるさい事は決して申さぬつもりでゐます。洋单筒も鏡も、一切売るのも人にあげるのも、あなたのお心まかせで結構です。

勉強の事もつといろ／＼話したかつたのですが一諸^{（註）}にゐる時も少なかつたし、思ふ様に出来なかつた事はかへす／＼も残念でした。

けれど、私の勉強方法のまちがつてゐる点の事を指摘して戴いた丈でも充分であつたぢやないかと慰めてゐます。今までの私のやり方では、全く知識の堆積にすぎませんね。其の方法のまちがひに気がつかずゐたから、早く何も彼もおくれた分をとり戻すキになつてあせつたわけですね。

今までの考へ方だつたら、どんなに時間があつても足りない筈だし、何時まで立つてもあのあせりや自信のなさから、抜け切れないのはあたり前ね。

よく、もう一度考へてみて再出發致します。

先日、あなたの滞在中、ずつと考へてゐて、遂に云はずにしまつた事がありました。もうすこしよく考へてみなくてはと思つてゐますが、たしかに私たちの——否、あなたの考へ方（夫婦生活、愛情の）は、前とは質が變つたのですね。私の方から云へば、とりのこされた気持、冷淡に遠くつきのけられた気持、こんな筈ではなかつたと云ふき持、充たされないき持がしてたまりません。これは私の思ひすごしかしら？ さうではありませんね。きつと、あなたが大人に變つたせいでせうね。

私は、あなたが来たら／＼と思つて、此のごろのかわいた様な淋しいきもちや、精神的飢餓感（？）の一切をそこへかけてゐたのでせうか。それなのに一向充たされず、とりのこされた様な気がして悲しくなりません。

言葉では、そんな事はないと、あなたは云つたけれど、どうも私はピツタリしなかつた不満を激しく感じました。四月ころまではどんなに喧嘩してもそんな事はなかつた、と思ひます。私の何がいけないの？ 疎解のゴタ／＼や遠くわかれてすむ事がさうさせたのかしら。

よく考へてから整理してから云つた方がよかつたかも知れないとも考へますが、——何だか其の事がわだかまつてゐて、どうにも息苦しくてならないのです。カンタンに云へば、あなたはもう「私が必要でないのだ」と感じるのです。

そんな事はない、と云つて貰ひ度いき持も充分ありますが、同時に本当の事もきかせてほしいき持も充分あります。召集も来さうだし、仕事も追はれてゐるし、日常生活のわずらはしさもあるし、——あなたが前の様に個人的な問題にあまりキヨミもないのかも知れないと思ふけれど、——だつたとしても、私はあなたにとつては他の人たちとは別であつてもいい筈でせう。うるさがらずによく説明して下さい。私のいけない事は、よく考へてなをしますから。

梅干やなんかは、あなたが経堂に落ちついたところにお送り致します。

あなたが帰つてからがっかりして今日は勉強出来ません。復活をよみました。さうしたら、あと他のトルストイのをい
ろくよみ度くなりました。では

七月廿一

幸子

謙一さま

幸子から謙一あてはがき（一九四四年七月三日付け）

お引越はすみましたか。

昨日からお母さんも不二ちゃんも胃痛やら神経痛やらで、お洗濯もお勝手も私一人、夜はひっきりなしのお客様でうんざりしてゐます。

別便で梅干と白す干（？）少々送りました。白す干は岩手県からのです。お気に入ったら、もうすこし送りませうか。
Oliver Wiswellの第三巻、みつけてあるとか云つてたでせう。探してお送り下さいませんか。皆がなをるまで、当分勉強出来相ありませんが。

では、洗濯ものをよこして下さい。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年七月二四日付け）

鉄道小荷物二個二十四日午前中に届きました。スクラップ類の方は少々破れた位でしたが、箆（金網の）の方のは目茶くくに破れ、上半分は本をいれたらしいのがなくて、箆の中の原稿だけ辛うじて届いた次第で、運送屋から包装に注意する様と云はれました。新聞紙一枚と、白い和紙一枚だけですから無理だったのでせう。本はどれ位這入つてゐたのかしら。何なら、小包紙買つてお送りしませうか。さうして、中は三枚か四枚、新聞でまいて、ひもをかけないといけませんね。落ちてしまつては惜しい本もあつたでせうから。

謙一から幸子あて（一九四四年七月二四日の記）

お手紙有難う。

こちらから御礼の手紙を出さねばならないのに逆になりました。お母様や不二ちゃんにもあなたから御礼を申し上げて下さい。と云ふのは、まだ引越しが完成しないのです。明廿五日中にはすつかりすむとは思ふのですが。

あの日はうまいぐあひに、原宿についてから雨脚がまばらになつて、ぬれると云ふより、しめる程度ですみました。合羽で丁度よかつたわけです。汽車も電車も割合ひすいてゐたし、信州へ行くときよりは多い睡眠もとれましたが、朝六時に家につき、飯は僕の分が出来てゐなかつたので、ちよいとお勝手をやり、八時半に経堂へ出かけ、人と雑然と会つたりシヤベつたりして、また家の野菜ストックが全然なくなつてゐたので、トマト、カボチャ、ナス等を買ひ出しに行き、帰つて荷造りをはじめ、夕方二人を連れて銀座に出て梅林のトンカツならぬマカロニ料理と、今新のふぐ料理、トリコロルの甘いフルーツゼリーの食べあるきに一応満腹し、帰ると朝ちゃんが来てゐて間もなくいねちゃんも来、あさちゃんのものを出して来たり、大塚へあづける荷物について相談し、二人が帰つたあと翌日のひる（弁当）と朝の飯ごしらへをし、さうして十一時に寝た時はさすがにすつかりくたびれてゐて、朝六時までぐつすり寝ました。

廿二日は、朝経堂へ本をはこび、月給を受取り、伊藤書店の鶴田君が初校の一部（八十頁、全体の五分の一）をもつて来て、おひるまで二人でヨモヤマ話をし、それからまた野菜を買つて帰らうとすると雨になり、やみ間を待つて二時半頃青山へ帰りつき、運送屋へ行つてみると、いつもの爺さんは神経痛で一週間ばかり前から国へ帰つて、約束の廿三日にリヤカー三杯は、人手がないので一杯しか都合出来ないと云ふ話で、とにかくその一杯だけ頼んで、今度は雨の中を下の八百屋（亀屋）へ行つたが、夜にならないと帰らないと云ふので、出なほすことにして帰宅。丁度あさちゃんが来てくれたので物置を整理、庭といはず台所といわず戦場のやうにごつた返したままあさちゃんが夕食をつくり、食後再び亀屋へ行つたがまだ帰らず駄目。

利ちゃんはこの日漸く大塚文理大前の四郎さんのアパートに部屋をみつけたが、管理人が廿三日のあさにならないと旅行から帰らないので未決定だし、ひろちゃんは二、三日前から大体きまつたやうに云つてゐた吉祥寺のナラツケ会社社長宅の貸間が駄目になり、廿三日にもう一度探さねばならないと云ふ状態。校正なんかやる気にもならず、翌日の食

事をつくつて寐る。

廿三日、早朝に運送屋が来て、昨夜弟が召集されたと言つて来て、之から入隊なので今日の運送が出来なくなつただけでなく、ここ数日見込みが立たない、と言ふのです。それで稲荷神社近くの炭屋へ頼みに行つたが、之も四、五日しない手があかない、次に亀屋へ行くと、今日明日はふさがつてゐるが、外の連中をきいてあげませうとのこと。しかも大塚アパートへあづける分（洋服ダンス、ふうちやんのタンス、ジュウタン、下駄箱、たらひ、いねちやんの机、椅子その他あさちやんがほしいと言つて物置き3の整理から選んだ小物など）は日曜でないとい困るので、今度は日野屋の向ふ3の肉屋へ行つてみると、昼まで帰らないからわからないと言ふ風で、全く困りました。

二人は朝から下宿を決定するために弁当持ちで出かけたし、僕はとにかく昼まで本をつめたり、鉄道小荷物（衣類、カヤ、下駄、本、アルバム、スクラップ、その他）を十個近く作つたり。この日を殆どあきらめてゐると、利ちやんはアパートがきまつたと云つて帰つて来、一時半頃肉屋も来て、大塚まで運んでくれることになり、それを送り出したのが二時半。三時にいねちやんがお弁当（夜の分）をもつて来てくれて、四時半まで本をつめたり小物をつめたりを手伝つてくれ、もうリヤカーがつくかも知れないからと帰りました。その頃ひろちやんも漸く吉祥寺に部屋がきまつたと云つて帰宅しました。夕食前に僕は大家さんへ家賃をとどけて引つこす話をし、サイトウさん、辻岡さんへも一応あいさつしておきました。夜は、二人は夫々、吉祥寺（磯谷）、高円寺へ出かけ、僕は釘をぬいてはあき箱をつくつたり紙くづをまとめたり。

ひろちやんはこの夜は帰らず、十一時半まで待つたがそのまま、辛うじてあきまをつくつてしいた床へ寐る。

今朝、朝飯のすんだ所へひろちやんが帰り、昨夜高円寺の子供が腹をこはして入院したんだとのこと。僕は亀屋へ行つて、火曜日にリヤカー三台をとうとう約束出来ました。鉄道で送るものも、亀屋でやつてくれます。洋服ダンスは、この間の話では送れると云つてゐたのに、やつぱり証明なしでは送れないことになりました。結局証明なしで送れるものは本の箱かふとんぶくろぐらいで、今また学童疎開を始め疎開荷物フクソウして、鉄道輸送が困難なのださうです。本の箱三つと机（二階の足なしの）とだけ送つてくれることになりました。机は足なしのおかげでせう。さう云ふわけです。洋服ダンスも下駄箱も不二ちやんのタンスも、あさちやん達にあづけることにしたのです。

ナガシは深水さんの所で買ふと云ふ話もありましたが、運送屋の都合が中々つかないので、大家さんに買つてもらふことにしました。防水桶その他も一緒に。いくらになるかわかりません。大家さんは今朝は大きなトマトの冷したのをく

れて、おまけにお勝手ですつかり切つたり洗つたりしてくれました。辻岡さんから着物を返してもらつたので、之も小荷物にしました。

今日も荷物を若干持つて経堂へ来て、今お手紙を見てやつとペンをとつたのです。以上が、いはばお父様、お母様、不二子さん、あなた、へお札の手紙も書きそびれて来た矢札の云ひわけなのです。

とにかく明日廿五日中には、どうやら一切すみさうですから御安心下さい。今日は之からまた帰つて、町会その他の手続きをやり、掃除やあとかたづけの出来る分をやつておき、夜は大久保へ、何か今日買へるやさいをもつて行つて来ます。

僕達の関係について。

僕が、レイタンな気持になりかかつてゐたのは事実のやうです。昨年あたりから、以前からもあつた僕のあなたへの不満が、この前書いたやうな仕事のおせりから大きくなつて来て、それが今年になつてから一層固定的にならうとして来たやうです。その不満の根源は、結局、あなたに対する僕の独占慾に近いもの、主我的な結合要求が満足させられないと云ふ点にあります。僕は我がまゝになつたのです。そして僕の我がまゝは、自分の仕事の意義の確信と、それに対する時代の障害の急増との中で、従来の我々の結婚の倫理たる完全なる対等、個別の自由の尊重等をあきたらないものと思ふまでになつたのです。

僕がアンナに感激したのは、彼女の「完全な結合」への飽くことのない欲求です。僕もまた、あなたとの結婚以来、いや結婚前から、同じやうな欲求を持つて来てゐます。所が、それはアンナの場合とちがつて僕の場合は「我がまゝ」と交錯する。それをあなたの倫理は、そして僕の倫理もまた、排撃する。だから僕はいつでも欲求が充たれない感じをどこかに持つたまゝ（肉体的なそれも含めて）、しかも自分の欲求を自分達の倫理でいためつけ、叱りつけながら来てゐたのです。僕の我がまゝはうんと強いので、それをがまんするだけでも、僕としては可成りな努力なのです。僕の性来がさう云ふ我がまゝと自己中心とに深く貫かれてゐるのです。しかもその自己中心の中にまた僕の人としての生活の原動力もありさうなのです。だから我がまゝをおさへることは生活の原動力をおさへることにもなり、そこからあせりが来て君を、そして僕をも悩ますのではないかしら。要するに聖人でない人間が、聖人たらうと懸命になつて来た形です。所がなか／＼うまく行かない。そこへ外的な諸条件が僕のおせりを決定的にした。自分の道德的完成（之は青年時代は大

きな魅力ですが」と云ふことよりも、もつと大きな創造的な生活への欲求も生長した点もあります。僕の理想では、自分の道徳的自己完成と、創造的生活との真の統一を期したのですが、それは実に困難で、さうする中に創造的生活（仕事）がより重大になつて、道徳的自己完成を後者に従属させなくなつたのです。あつさり云へば、自分の仕事に、自分の他の生活及び妻たるあなたの生活をも従属させなくなつたのです。之が性来の我が儘と一緒にになりました。あせらざるを得ない外的事情は、ゆつくりと自分の我が儘と創造的欲求とを区別し、前者を一々叩きつぶすと云ふ風な生活を許さない。しかもあなたに対しては、僕は自分の我が儘をすつかり手綱ゆるめることは、二人の最初からの結合の倫理がゆるさないし、あなた自身がゆるしてくれない。だから今のやうな一人きりの生活への要求がいつの間にか成長して来たのでせう。

けれど今度信州へ行つて、久しぶりにあなたにあつて、やつぱりあなたのよさをつくつく感じ、あなたの必要さを感じました。あなたが僕のがままをしばらく（仕事が一応出来るまで）許し、僕に思ふ存分のことをさせてくれれば、どんなにいいかと思ひましたが、この頃の僕はうんと神経質になつてゐて、どんな小さいことでも、反対されると神経がいらく／＼するので、ついマスク、ハンケチのことなどもガンバツテしまひましたが、あれはやはり僕が別にしてトランクへ入れるつもりでなしに、いつの間に入れてゐたのでした。こんな調子なので、僕と云ふ人間は今迎もつきあひにくいものになつてゐると思ひます。人とゐるといつてもさう云ふことを感じて、ます／＼自分で不快になります。仕事が出来てゐる時だけ、さう云ふ不快なしにすごせるのです。

僕はとにかく、うそいつはりなしに、あなたを欲求してゐます。実さい泣きたいくらいにさうなんです。だがその欲求のしかたは我がまに、神経的に、あなたには耐えることの出来ないやうなものになるのです。もう少し僕も修練して道徳的自己完成と創造的生活との統一に努力し、さうしてあなたと本当の生活に入りたいと思ひます。あなたが僕の望むやうな、そしてあなたとしてもより真実な勉強の方法について理解されたことを誇張なくうれしく思ひます。僕の初校が終つたら、原稿を送りますから読んで下さい。僕の書くものは、誰よりもあなたに読んでもらひ、理解してもらひたいと云ふ僕の熱求は、あなたもわかかつてくれるでせう。

では又落ちついてから書きます。大急ぎで書いたので支離メツレツですが御許し下さい。

幸子から謙一あて（一九四四年七月二四日の記、二五日の消印）

昨夜（廿三日夜）はあなたの事を考へるとドキンとする程、不安を感じて、中々ねむれませんでした。一口に言ふと、何とも云へぬ将来への不安と絶望感で奈落へでも落ちてゆく様に恐ろしい不安と孤独感で、ロク／＼ねむれませんでした。

今朝は其のため早苗ちゃんに「メーメオバちゃん、ドハンよ」と起されるまでね坊をしてしまひました。睡眠不足でだるくてたまらない様な気持でのそのそと起きましたが、起きたらすつかり元気が出て、何時もの如く、さつさと日課にかかる事が出来ました。あれは矢張り、夜のせいで、あんな風に何事も悲感的に考へてしまつたのかなアと、軽く片つけてしまつてゐました。

今日は貴方が来て以来さぼつてゐた時間割を忠実に守つて勉強始めました。今日は月曜日ですから波多野さんの日で、さぼつた分を含めて三時間に渡つて勉強しました。どうにも一個所わからないところがあります。書くときゴテ／＼長くなつて、要領を得ない質問になり相だし、ま、困りました。

夕方陽が落ちてから又、例の如くお庭の草取りを二時間近くも致しました。私は草取りは好きらしい。だまつて草をむしつてゐると、気持が静かに統一されて来る様で、これと云つて集中して何かを考へたり追求する程にはなりません。何となく落ちついて来て、そよ／＼吹く風や遠い話声を、チラ／＼小耳にし乍らぼーッとしてゐる状態はとてもいいき持に思へます。さうしてゐると昨夜の事が自然浮んで来ました。思つたまゝをあとさきつけずに書くこと次の様な風になります。

若しもあなたがこちらに来て一諸（註）に生活しない前に、現在のまゝの生活から応召になつたとしたら、一其の後の自分の生活を考へると、味気ないとも何とも云ひ様のない恐ろしさを感じる。此の半年、あなたはどうも感情的にピツタリせぬ考へ方がいけないと小言を言ひ、其のほては病氣と疎解（註）で別々の生活を強行した。それでもまだ、自分は何も何の実のところは感じてゐなかつた。一いくらか感じてゐたかも知れないが。

こちらに来て、始めて別々の生活の淋しさや、今までどんなに自分は貴方に云ひたい放だいを云つてゐたかもわからないが、一其の実どれ程貴方を頼りにしてゐたかわからなかつた事を知つた。さうして精神的飢餓感を切実に感じた。此

度あなたがこちらに来ると云つて来た時、どんなにうれしかつた事か。若しも突発的事件でもあつて来られないなんて事のない様に祈つてゐた。さうしてあなたは約束通りやつて来た。二人つきりではないから、思ふ様に話し合へなかつたとしてもどんなに短い時間であつても、あなたに逢ひさへすれば此の飢餓感^①は満足させられるものと期待してゐたのに、一びつたりしないもの、後味のわるい不安が残つてしまつた。と云ふよりも、あなたは變つてしまつた！ と云ふ気持ちを刻一刻感じずにはゐられなかつた。私もあなたをどんなに大切に思つてゐるか、どんなに信頼してゐることか、どんなに必要としてゐるか！ さうしてあなたもさうである”と思つてゐたのに、もうあなたはさうではないのだ！ と云ふ感じがした。アララギ峠へ行く時も帰りのバスの中でも私は其の事ばかり考へて、”もうあの人は私がいらぬんだ！”と云ふ事が、頭の中でガン／＼する程大きくなつてゐたのです。

”此の人は私に逢ふ事よりも本を探しに、さうして本をどんな風になつてゐるか見に来たのだ” 今までの足かけ八年間の二人の生活に、どんなに喧嘩したつてこんな事は一度もなかつた。こんな不安な後味の残つた事はなかつた” 私にとつては、私達の愛情には自信があつたのだ！” ”もう今は自信がない。あの人はもう私を愛してもゐないし信じてもゐない。必要とも思つてゐない。”

そんな事を考へてゐたのです。さうしてあなたの帰る日までに何とか聞いたり話したり、私の安心の行く様な返事を聞き度いものだとあせりました。さうして私は実に下手に聞いて、風のように頼りないあなたの返事を聞いたのです。それが私をかうも不安にし、どうかした時は昨夜の様にねむれなくなつて、淋しさと不安で涙をこぼしてしまふ事になつたのです。私があなただを今までのどんな時よりもとても必要に感じ、大切に思ひ、愛情が深まつた時には、あなたはもう私を必要としなくなつた！ 私の悲しさ、もどかしさ、不安、孤独感、絶望感を、どうぞ知つて戴きたい。

では何があなたの愛情を消させてしまつたのか。私の口うるさい事、わがまゝ、病氣、仕事に対する無理解ですか。それなら——。又は戦争のせい^②か、短い時間と切端詰^③つた勉強と仕事^④が、それ以前の物への関心をうばつたのか？ 女手のない家庭生活の日常茶飯^⑤時的雑用の繁雑さが、それに対する腹立ちが、無意識的に私に集中されたためか。さうして始めての別居生活がそれ等に拍車をかけて、私を必要とさせなくなつたのか？ 何があなたの愛情を、かうも変へさせたのでせう。私はそれが知り度い。知り度い。此のまゝ永久に解決出来ずにしまふかも知れぬと云ふ事が、私は不安で恐ろしいのです。

以前の様に二人の間柄が何のくもりも影もなく信じ合つてゐられた時なら、戦争と云ふものが二人の生活を切り離して

しまはうとも、心によりどころも自信もあるから不安はなかつたと思ふ。あなたの身が心配であり、淋しくはあつてもがん張つて勉強してゆける。だが、今は！

これは私の思ひすごしかしら。さうあつてくれたらどんなにうれしい事です。私は夜、淋しさに耐へかねてプロシオンをよみました。さうして中島さんの事を思ひ、あの方がゐたならと思はずにはゐられません。一切私がわるいのだとしても、あの方は私に力をつけ、元氣を与へてくれると思ひます。もう十一時になりました。ごきげんよく、おやすみなさい。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年七月二七日の記）

七月廿七日午前八時半。

経堂へ移り住んで二日目の朝、さつき一しきり降つたけれど今は日が照つて、せみの声もさわやかです。今、朝食がすみました。ジャガ芋三個、いり豆（大豆）少しばかり、なすの油いため、トマト、これで腹一杯。夕食分までもう出てゐます。同じものですが。昨夜まで二、三日と云ふもの火を使へないのでパンとトマトを三食三食続けましたが、そのパンもなくなり、今朝は小使さんに火をかりました。昨日届いた白すぼしと梅干、どうも有難う。火を使はなくてすむ食糧は殊に有難いです。

廿三日の予定の狂つたことは書きましたね。今から思ふとあの日運送屋が来なくてよかつたとも想ひます（洋服ダンスその他の大塚行きは別として）。廿四日一杯と廿五日の朝、下の八百屋さん（内藤一男）からリヤカー一台、荷車一台（リヤカー二百分）をさしまわされるまでの時間、小物の整理に忙殺されて、お勝手道具の主なものやくつ、防空資材、その他の小物が辛うじて積み込みに間に合つた次第でした。何しろ数日前から階下の六畳と三畳とは足のふみ場もない程三人の荷物で一ぱいで、毎日運送屋が来さうで来ないものだから整理もつかず雑然と積み込み待機の形でゐたのです。利ちゃんが中々よく働いてくれて九時半頃荷車が原宿を出発しました。積み込んだものの大略は、鏡、テーブル、書棚、四（組立式大三、中一）、本箱八（大四、小四）、ふとん包、行李三（大二、小一）、トランク二（大一、小一）、冷蔵庫、食器棚、炭箱、火鉢、茶わん類のは入つた箱二つ、雑品のつまつた米びつ、オヒツ二、こたつ、足台、食糧品のは入つた非常ぶくろ、くつ下駄雨具、防空用のシヤベルその他、上敷六畳、スタレ四枚、暗幕四枚、ベニヤ板、旗竿、厨芥桶

やバケツ、洗ひ桶、スノコ、など。全体で約百六、七十貫と云ふ見当。

それでもあとに雑書類、紙類、食器(コップなど)、あきかん、花瓶、あきびん、ラジオ、レコード、スタンド等々、階下六畳の押入の上段殆ど一杯ぐらゐの分量が残り、外に鉄道便で送る筈の本箱三つ、大机、引出しと椅子(足なし)、また鉄道小荷物にした十三個の書物衣類の包みも残りました。利ちゃんも出たあと(ひろちゃんも朝から吉祥寺へ行つた)一人でそれらを正午まで整理しましたが、六年余の生活の想ひ出と結ばれた家をたたむことに、この急をつける戦時下、人間や物の別離、裂断が日常事と化して久しい殺伐な決戦下にも拘らず、やつぱり切ない忍びない感に囚はれて、一つ一つの物にもさまざまな想ひ出が呼び起され、しかも六年間をこの家に共にくらしただあなた、同じ想ひを頒つてくれるべきあなたも、プシットもゐないことに一層センチにされ、早朝からのほりまみれ汗まみれの労苦にすかした腹を、味なしのパンをむしやく／＼つめこむことでごまかしながら、我にもあらず涙もこぼれました。そんな風で中々小物の整理がつかないままに、運送屋が経堂へもうそろ／＼つくかもしれないと、おひるすぎ、舌切雀の慾張り婆さんほど風呂敷づつみやかばんにつめこんだ荷物をもつて、暑いさなかを足を引ずりつつ経堂まで辿りつきましたが、運送屋が到着したのは実に三時半。六時間ばかりかかったのです。二人とも汗しぼるが如く、ゆでだこのやうにまつかになつて、一息いれないと下すことも出来ぬほどでした。

僕の帰京以来連日雨で(夕立やら梅雨のやうなびしょ／＼雨やら)、この日だけ幸ひお天気だったので恵まれたと思つてゐたが、その代り暑さはひとしほで、全く運送屋さんにも御苦労でした。運賃五十円(之は調査会払ひ)。

大して休む間もなく、下された荷物を二階へはこぶのにもう一汗も二汗かかねばなりません。此の日は丁度、男の同僚はすべて本室へ行つて、女の子達は小物の運ぶのに手伝つてくれましたが、四時半頃に局長が分室へ来ると電話がかかったので、それまでに一応おさめられるだけおさめようと大ふん斗(闘)甲斐あつて局長が来た時は、すつかり二階へはこび終り、ひげこそ二、三日剃らないのでうすぎたなかつたが顔も洗つてシャツもかへて、局長を迎へることが出来ました。

局長のお相手を、余く下手くそにとめて約一時間、送り出してから、女の子にパンとかへる約束で持つて来てもらつた五目めしの弁当をたべ、今夜寐る場所だけつくつて、その昼買ったトマトをふるしき包にして七時頃原宿へとつてかへす。

その日の午後運送屋が来て移つて了つた筈の利ちゃんが、一人でまだ荷物の山の中でラジオをきいてゐました。運送屋

(肉屋) — 肉屋の運送屋、八百屋の運送屋、炭屋の運送屋などいろ／＼あるでせう^(註)が妻君の急病で来られなくなり、明日(廿六日)朝になつたとのこと。利ちやんに手伝つてもらつて、ラジオの半七捕物帖をきき乍ら鉄道小荷物包装に一時間余り。大家さんへは荷物運び出しの終つたあいさつをして、とまと一貫目ばかりをおみやげにし、さいとうさんへ町会費を渡し、九時すぎにまたもふろしき包で腕や肩をきませつつ経堂へかへる。ひろちやんは中々いろんな事で今夜も高円寺へとまるとのこと、利ちやんは再びふとん包みからふとんを出して、ガランドウの一階で寐たのです。僕も経堂で初めての夢をむすぶためには、帰つてから余り音のしないやうに(小使さんの安眠を尊長して)いろんな物をおさめ本棚と本だけのこして応急の処置を完成したのが十一時半。さうして寐しましたが、相かはらず転宅の荷物と悪戦苦斗の夢を見ました。

廿六日は五時半に起きて、昨夜につづいて片づけをやり、次に難物の書棚の組立てに朝から汗をしばり、掃除を終つたのが九時半近く。同僚の出動間ぎわでした。それから丸パン二つとトマト二つの朝食をとり、間もなくあなたからの小包が来て、早速白すぼしを食べ、雨がやまないのです、十一時頃レインコートとコモリとで、ビールびんなどを持つて原宿へ。

渋谷の東京パンでびつくりする程貧弱な定食をたべ(原価二十銭足らずぐらいだのに、金八十五銭也)ました。三河屋でビールを買ひました。二人ともゐない家には利ちやんの荷物はなかつたが、ひろちやんのが三畳一杯にあり、六畳も利ちやんの荷の出たあと、相かはらず足のふみ場もないランゴクぶりで、とにかく少しづつ整理し、紙類は防空壕で焼きました。

ひろちやんは三時すぎに帰つて来ました。雨で、吉祥寺まで遠すぎるからと運送屋にことわられ、結局廿七日の朝になるとのこと。リヤカー一台で行くかどうかを大分気に病んでゐたが、可哀さうでも僕には自分のことで一杯で、彼自身に任せるより仕方がない。五時半頃、もうとつくに雨がやんでゐたので、小荷物二つをさげて原宿駅へ行く途中、下の八百屋に寄つて昨日の礼をのべ、鉄道便の荷造りをたのんで廿八日夕方と日時をきめました、丁度今リヤカーがあいてゐるからと(彼は疎開荷物の荷造中)貸してくれたので、鉄道小荷物十三個はおかけですつかりすみました。

経堂へ帰ると風のない夜で、レコードやビール、醤油ビン、まな板、タンブラン等々ほぼ三貫五百(駅ではかつたら)の荷物を下げて帰つたその大汗を中々おさめることが出来ませんでした。

小使さんには買物その他をたのむから、よろしくと金十円也をムリヤリに受取らせました。

例によつて火を起すのが面^{めん}作^{さく}で、トマトとパンと白すぼしの夕食をとり、タオル、くつ下、シャツをセンタクして、はめ込みの引出へ整理して入れ（引出が多いので大助かりです）、森ちやんと佐藤君とにハガキを書きました。

そこへひろちやんから電話がかかつて、辻岡さんが二階の四畳半へおいてやると云つてくれるがどうしませうと云ふので、渡りに船と、お願ひしなさいと云つて、これでさしもの大転宅も一まづ大団円となつたわけなのです。

今日廿七日、おひる頃からまた原宿へ行つて、あと片づけと大掃除とをやつて来ます。朝雨だったし、今も雲の様子はさらつとしないが、まづ降^{くだ}つてゐないから出るのに楽です。

今日はビール二本と米一升とかへる約束が出来ました。利ちやんが外食^{がいしょく}巻^まを廿八日まででもらへない（町会によるのです）ので、八合だけ持たせて、之が今度の僕の配給から引かれますが、今日の交換約束でそれも補へることにになりました。以上が引越しの報告です。

お母さん、不二ちゃん、御病気がかかですか。どうか御大事に。あなたも御注意下さい。僕は人が僕のひげだらけ汗だらけの青い顔を見て心配してくれる割に、シンが丈夫らしくて、腕や肩のいたみ以外は故障ありません。之であと原稿にまた二、三日テツヤせねばなりません。先づ今年ほど身体を酷使^{こくし}したことはないが、之で立派に健康を恢復したのでせう。さう云ふ所へ召集が来て、行つて了ふことになるのかも知れませんが、あなたの昔くれた犬と、昔の斜めうつつ向いたあなたの写真とがそばにあります。その中、いい写真をとつて送つて下さい。では又。

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年七月二七日の記・消印）

昨日（廿六日）、あなたがチッキで送つてよこした私の昔の手紙（9年前の）を一本／＼日附順に一日かかつて読み返しました。忘れてしまつてゐた新井宿の生活を思い出し、誠に感慨無量でありました。今の私の生活と、何と云ふ相違^{さむらひ}でせう。浮調子^{うきぢょうし}乍ら、強い生活力にあふれてゐたし、生んと若^{わか}さにみちてゐたあのころ。性格のケツカンも精神の貧弱さも意識^{いしぎ}してゐなかつたが、明るさと元氣に充ちてゐる。毛虫のからむ蔦の窓、コニイ夫人、ウクレレ、コーヒール、仕事、多忙^{たひやう}、お菓子。

うすつぺらなおシャベリに充ちてはゐるが張り切つて自信があつた。生活する事は楽しさにあふれてゐた。若くて純粹であつた、あのころのあなたに対して傾けた熱情、それを不道德と思つて、ひたすら押へて書いてゐる気持は、行間に

あふれる。読んであとの深い／＼淋しさ。9年前に、9年後、このような心持で、此の様な手紙を書く日があるとは、私にもあなたにも全く思ひもよらぬ事でした。

何とも云へない裏苦しいユウウツから逃れられるかも知れぬと、手紙を書き始めました。此の一週間、絵も、歌も、勉強も一寸も心を慰めない。唯、気が沈んでゆくばかり。今日は其の絶頂にあるよう。あなたは今、何を、何処でしてゐるかしら。経堂の露台で夕食の支度かしら。その姿を想像すると、我にもあらず涙が出て来ます。私はあなたを失ひかかつてゐる。それなのに、私を振り捨てるあなたの不自由を思つて悲しむのです。凡て、そんなものでせう。後悔は先に立、ずとはよく云つたもの。あなたは、私を振り捨てようと努力した。さうして今はもう努力なしに、それが出来る。何故、私は、あなたを失つたのでせう。利己的。自己中心。思ひやりのなさ。やさしさの不足。—あなたの幻滅、失望、腹立、嫌悪、かう云ふ形で進んで来たのです。

やさしさ！ 私はきつと死ぬまで（九十九才まで永生きしても）やさしい、と人に云はれないでせうね。とるに足らぬ自己を捨てられないから、やさしさ、献身、思ひやりが生れないのです。人も陽気で、自分も陽気の時、やさしさも献身も必要ないでせうが、今のあなたにはそれが一番必要であるのに、私にはそれが全くない。

あなたが私を嫌ふに至つたのは、当然だつたのです。当然なら、どうぞ、うんと／＼嫌つて下さい。手紙で生はんかの慰めはいりません。私は今まで徹底的に人からつ□^{痛考}なされた事は一度もありません。何時も何処かに逃げ場がありました。つばなされて本当に苦しい思ひをして見て、自己を捨てる事が出来るかも知れません。今の私は原宿時代の様に職業を持つてゐず、掃除も炊事も全責任がありません。時間はたつぷりあるし、身体は疲れてはゐないためか、今なら、あなたの望んだ様に家庭のわずらはしさを一切あなたにかけず、仕事に専心させてあげられる自信があります。あなたの云ふ通りの勉強もし、家も整頓し、食事も身をいれてこしらへ、センタクも不平を云つたり、恩に着せずにやめます。私がやつた、私が何した、と一、一、計算せずにつくす気持になれます。併し、もう、其の時はすぎ去つたのです。今となつては、あなたは、そんな事はどうでもいい状態なんです。そんな事は神経にもさはらず、一人ののう／＼の生活に楽しみを見出したんです。

あなたは経堂に引越す事にきまると、九月末ころまでに疎解^間するときめてゐた気持がなくなつた。一諸^諸に上京して移転の手伝ひをすると云つた事にも、原宿□方の挨拶其の他のうるさい事を云つて断つた。分室なぞへ私が訪ねるのは、勿論迷惑さうであつた。経堂ゆきは、あなたの理想を完全にはたしたのですね。

昔のあなたとちがつて、今のあなたは経験もある、年から来る自信もある、ましてや私には失望してゐる、家庭的な淋しさもある、何時召集来るかわからないと云ふ時間的余裕なさの焦燥もある。あなたが好きな人が出来たとしても、これもし様がありません。あなたは前に私をだました(う)事があつた。

私がヤキモチやくと云つて、T子さんが上京してあなたと一諸にゐた事も一年以上かくしてゐた。又鎌倉にゐた時、Mさんがあの家に暮した事も、九年もかくしてゐましたね。私から見れば、さう見える。あなたに云はすと、云ふ必要なかつた事でせうが。又、そんな事が始まつてゐるのではないかしら。さうだつたら、どうぞ今の中にほめかしておいで下さい。とどり乱したり騒いだりせずじに覚悟をつけたいと思ひます。

昔あなたが何と云つた、とか過去の約束を持ち出して馬鹿なまねをするには、私も大人になりました(せ)ようです。私の性質や年令や不健康や、仕事に対する無理解やらは、あなたがさうなつてもし方ない事を示してゐます。私には全く分はありません。あなたにはもつと学問的でやさしくてホーヨー力のある人が必要なのですもの。例へばT子さんの様な女の人、以前はとに角として、どん／＼進歩し、成長発展出来る人が必要なのです。私は9年前と性質や精神の動き、考へ方に至つては、全く變つてゐませんもの。それなのにT子さんは、私の知つてゐたT子さんと、あなたの信じてゐたT子さんとは別人の如く變つて、みごとに作り變へて立派に成長したんです。

(何故T子さんの事を今ごろ持ち出したと云ふと、あの手紙の束の中に当然あると思つてゐたT子さんの手紙がなかつたので、それはあなたが経堂へ持つて行つたと思ふので、あなたのきもちは又、T子さんに帰つたと思ひます。さうなつても当然で、ヤキモチもうらみも出来ないではありませんか。)

私が以前の生活を、あなたを知るに及んでこはす事が出来たのは、全く幸でありました。私はあなたと生活する事によつて、すこしは自身をきたへる事が出来たように思へ、追求する情熱と云ふものも知つた様に思ひます。併し実は一寸も變らなかつた。あなたは私との生活によつてマイナスばかりを得たのです。私は常にあなたを傷け、悪い影響を与へ、信用をなくさせ、一生涯の精心こめての仕事のぢやまばかりをして来たのですね。若しもあなたの伴侶がT子さんの様な人であつたなら、あなたは随分幸福になれたのです。T子さんのたゆまぬ知識慾は、夫妻共に凄く勉強家にしたでせう。あの人は家庭の仕事も合理化したでせう。ましてや家庭的雑用で、あなたを苦しめる様な事はきつとない。あなたの思ひ通り理想的な、学者的な家庭を建設してゐたでせう。あなたは何の心おきなく、仕事に専心し、立派な仕事を今までにしたにちがひありません。愛情の点でも、充分満足を与へ得たでせう。

それなのに私はあなたにとって（否、誰とでも、私の夫となつた者は）、カラミテイだつたのですね。鬼子母神にゐた占者が、私の鼻のほくろを見て、此のほくろを持つてゐると、夫にとつて其の女は厄病神だ、早くとれと云ひましたよ。ほくろに一切の責を負はせる訳ではありませんが、私の小さなガンコな自我は、其の時、既に誰にでも見えてゐたのですね。私は雀百まで跳りを忘れずの類で、ついに自我から抜けられないのですね。私は進歩も成長も發展もない人間だつたのですね。

それなら何で不足を言ふ事がありませう。あなたが冷淡であつても、若しか他に好意を持つ人が出来たとしても、当然受くべきものだつたのです。

ここまで一気に書いて来たたら、何時のまにか始めに書きしるした様な重苦しい憂鬱は影をひそめました。いろいろはつきりした形にしたので、返つて落つたのです。探しようのない不安のもとをはつきり探さなかつた苦しさだつたのでせうね。今は気持も落ちつきました。

あなたが私を嫌ふなら、どうぞ徹底的に嫌つて下さい。好きになれる人がゐたなら、好きになる事にテイコウを感じる事のないように。さうして私への責任感や憐びん感でござなりを行はぬ様に。本当の事をおきかせ下さつても、割合に平静に受けとれる覚悟をつける様努力します。さうなつたら悲しむのは私だけで、他は皆そのやり方に同意するでせう。悲しいけれど、私の身から出た錆です。悲しいと云つても、浮調子で無考へな私の事です。此のチャンスによく考へると云ふ態度をとらず、まもなく浮上する材料をみつけて、新に出発するかも知れませんね。其の一つとして、九月から役場で仕事をみつめて、多忙乍ら^{（急務）}猛勉しようと思つてゐたら、東京からも仕事がかかつて来ました。仕事そのものは応接役でつまらないが、身体は楽だし暇も多いようだし、相手は学校時代の友人（渋谷のお寺の娘）ですし、サラリイは200円以上だ相ですから、もう一度東京に出てみようか、とも思ふのです。

折角こちらに来ましたが、恢復すべき健康は恢復したようですし、一人の生活なら、そして仕事を持つたなら、又、再出発出来るかも知れません。こちらにゐても、私は一寸も役にはたためし、さうかと云つて勉強時間がたつぷりとれる訳でもないし、中途半端な立場ですから。家は何とでも云ひつくるふ事は出来るでせう。勿論東京に行つたからとて、あなたにうるさい事を持ちこむ様な事はしない覚悟です。あなたの方都合次第で、お訪ねする事もしませんし、一切の迷惑はおかけ致さうとは思いません。仕事は割に返事を急ぎますから、あなたのお意向を問ひ度く存じます。

ここまで書いて、東京の仕事の件の方は、私が又、例の癖を出して、あなたに對抗的に報復的に行動しようとしてゐる

のかも知れないと感ずます。これは早速断つた方がいいでせうね。かう云ふ種類の手紙をあげる事それ自身が、もうあなたの仕事のボウ害です。もうぐちは止めませう。あきらめる事に専心致します。さうして明日から、勉強に突進致します。憐びんからの方便的な慰め手紙は下さらないように。私は此のチャンスに自我とは何か、よくよく考へる事に致します。さうして考へられたら、こんなすねた様に見える手紙でなく、けんきよな気持でお手紙かきませう。ちつともお便りありませんが、引越はお済みでせうね。いろいろと大変だつた事でせう。お気の毒でした。

いま3時のお茶にゆきましたら小荷物が十三、四個届きました。単衣もの(箱)は、洗濯して送るのですね。明日、洗濯屋に持つてゆきますから、来月始めには送れるでせう。梅干とちりめんチャコは届きましたか。ちりめんぢやこはもうすこしある様ですから、御入用なら送ります。

本はあなたがどんなお気持でる様とも、そんな事にかゝわりなく大切に保管致しますから御心配なさらぬように。あなたが帰つてからこつち、毎日くあれこれ考へて憂鬱でたまりませんでした。何も手につきませんでした。あなたを失ふ事を恐れたんですね。だけど、私がどんなに下らない女であるかすこし解つた様に考へられましたから、一其の私に無理やりあなたを縛りつける事は本当に悪い事だとわかりました。あなたは本当に大切な仕事があり、意義ある仕事の果せる人なので、その人の生活を邪魔する事は、歴史の進展をばむ事なのでせうね。今後、妻としてでなくとも友達の一人にしておいてくれ、ば、私も一生懸命、今の状態から立ち上る様に努力致します。

本当に八年間もあなたの邪魔ばかりして来た事をおわび致します。結局十年近い年月一諸に暮し乍ら、私はあなたとも、ましてあなたの仕事をも全然理解せず、しようともしなかつたのですね。これはすねて嫌がらせを云つてゐるんではありませぬ。私の事に気を使はないで、あなたの望む通りになすつても一寸も異議はありません。あなたがはつきりさせる事が嫌なら、誰にも何も云はなくてもいいでせう。私も何も云ひませぬから。

確に私はけちな話らぬ宣伝如きの口先ばかりの人間ですね。みせかけだけで中味のない、みつちゃんの云つた通り冷酷で意地悪で利己主義でかたまつてゐるんですね。シルヴィと云はれた時は情ないと思つたけれど、シルヴィ程の対人関係の巧さもない。あの人程の生活力などとてもない。ぐちつばい他力本願の、云々。

もうこんな風になると自己嫌悪も正道をはづれ、やけに近いから止めませう。明日から勉強します。変なヒステリイも起きぬ位の自信はつきましたから、どうぞ御心配なきよう。

唯、余りにも淋しい、悲しい事は事実。一人芝居と云はれようと、これがうそのない心境の過程です。どんな顔をしてゐるかと小さい鏡を一寸のぞいたら、何時もと一寸も変らぬヒョキン顔で、唇を光らして目を光らせてゐました。もうくくやめませう。あまりぐちも長すぎた。眉をよせてゐる不機嫌顔が目に見えます。では、本当にさようなら。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年七月二八日の記）

廿八日朝

昨日君へ長い引越し報告の手紙を書いて間もなく、本室へ行つて引越運送費をもらひ、いろんな人と会つて話したあげく、三時頃銀座に出て本を二冊買ひ、食べ物を買ひましたが何もなくて、四時すぎ原宿へ行きました。もうひろちやんの荷物もなくなつて居りましたが、誰もゐない家の中は、荷物の出たあとの紙くづ、木片、わらぎれ、布切、箱のふた、こわれたびん等々が、相かはらず足のふみ場もなく散乱してゐました。防空壕で焼けるもの、坂田家のふろで焼いてもらふもの、何かの役に立ちさうなもの、新聞紙、びん等を夫々選りわけ、先づ二階をテッテイ的に掃除し、ススハラヒもし、押入の中もハキ出し、次に階下とお勝手をも大掃除し、焼くものは焼いて、どうやら一通りの整理ができました。辻岡さんが来て話すのには、ひろちやんはもう辻岡さんの四畳半へ移り、今日は高円寺へ行つて泊つて来るとのことで、僕からもよろしく頼んでおきました。

すつかり終つたのは七時近く、幸ひ雨もやんだので、肩からのカバンヘコーモリを引っかけ、右手にラジオ、左手に紙屑籠（小物とスタンドとで一杯の）をさげて、大家さんからひろちやんについての愚痴をながく聞かされ（電灯を昨夜つけっぱなししてゐたと云ふ）、今後のことや配給物のことをよろしく頼んで、またもラッシュにメチャくにもまれながらうんざりして帰り、眼まひする程くたびれてゐたが、朝の残りのジャガイモとトマトとパンとの遅い夕食でやつと人心地をつけ、さてあなたの手紙を見たのです。昨夜の中に返事を書きかけたのですが、何としてもくたびれて、寐て了ひました。

今、朝飯前です。今日はどうやらお天気らしい。雨の中を荷物を下げに出かけるのにはもう閉口しました。今日もう一回取りに行つて（米の配給もある）、それであとは辻岡さんにでもあづけておしまいにしたい。

ところであなたのお手紙。

一口に云へばあなたの不安は不要です。基本的には僕のあなたへの愛情は不動であり、将来も決してゆるぐことないと思ひ切ることが出来ます。あなたの方で僕を愛し信じてくれる限り、僕はあなたを愛し信じます。前便にもかいたやうに、今年になつてから、あなたへの僕の気持ちが多少冷淡になつてゐたのは事実です。けれどその冷淡さも大体は、基本的な愛情の不動の上での冷淡だつたのです。

あなたの方で、僕が遠のいて行つたと云つてゐるが、僕に云はせると、僕の相対的冷却の原因は、あなたが僕から遠のいて行つたことにあつたのです。あなたが僕の欲求に関心を示さず、僕の生活へ合体して来ず、僕のあなたへの心尽しをも感受しようと思はず、その結果の僕の不満のあらはれを、ただ気むづかしいとかかんしやくもちだとか我がままだとか、そんな風にばかりとつて、僕の本当の要求、あなたの愛情への飢渴を察しようとしなかつたのです。そして食物がなくなれば信州へ帰ると云ふ風な、僕には美に淋しい意向を不用意に洩したりして、僕を、あなたとの協同生活に希望をもてなくさへさせたのです。僕は昨年後半から仕事のことであせり、仕事の出来る生活条件をつくることにあせりにあせつて、そのため、みつちやん達との生活をも早く終結させたかつたが、そんなことを云ふのは人間が小さいと思つてなるだけさう思はぬやうに努めて来てゐた。みつちやん達がやつと去つて今度はあなたに世話してもらへると思つたら、あなたは世話してはくれない。あなたとの結婚の第一原則が、二人の完全な平等であつたから、世話すると云ふことは原則的に我々の関係にはない、病気の時の世話は例外であり、それもあとで恩にきせかねまじい、ましてや普通に仕事をするのに、世話をあなたに期待し得なかつた。あなたは僕の悩む一切の障害を、後退的モチーフだとか云つて、それはさうにちがひないけれど、妻であり、愛する共同生活者であるなら、何故その後退的モチーフの克服に僕を助けしてくれないのか、さう云ふ不満を僕に感じさせた。いはば僕が一番あなたの協力(労作の内容への協力に限らず、その労作の条件をつくることへの協力)を要求し、熱求してゐる時、あなたは信州行きの希望さへもらした。これが僕の相対的冷淡の原因だつたのです。だがその後事情はかはつた。戦局は二人の心理の行きちがひなんかにはこぼはつておれない程切迫し、おまけにあなたが病氣になつた。あなたの病氣をいかに僕が自分のせいにし、ひげ目に感じたかはあなたは知らなかつたでせう。僕は信州のお母さんや不二ちゃんにまであやまりの手紙を書いた。あなたの生命と生活を保全したいと云ふ気持が現実化し、その頃まで出来るかどうか余りよくわからぬが、出来れば疎開したいくらいに気持だつたのが、決定的に疎開せねばならないと思ふに到つた。さうすれば本も疎開出来る。

かうして僕は自分の原稿や仕事でいううつになるほどせきたてられあせり乍ら、とにかく貴女と荷物とを疎開させることに全力をあげねばならなかつたのです。その間にも我々の生活に他人がは入つて、二人の心情の合体をさまたげた。大体昨年のみつちやん達との生活は我々には実にマイナスだつた。あの生活自身、僕とあなたとを引きはなした。利ちやんの来たこともやはりさう云ふ結果になつた。かうして疎開したので。

この間僕の仕事中心の気持が強くはたらきました。僕としては「仕事を中心に二人の生活の協力と統合を強めて行きたいし、さうあるべきと思つた」のに、それが出来ないもので、つい仕事第一になつて、あなたへの感情の冷却となつたのです。

だが此の頃のあなたの手紙、この間の信州でのあなたとの生活で、また僕達は元へ戻つた気がする。貴女が僕を必要とし欲してくれることがわかつたから。さうなれば、僕の感情もまた貴女を欲して復活する。その感情が仕事の原動力になるやうにして、残された生活を創造して行かうと云ふ決意を得ました。

あなたの手紙で、僕は自信(あなたについての)をとり返しました。そのことは心から感謝します。だからあなたの方でも僕について自信をもつて下さい。これから、こちらの事情と信州の事情の許す限り、時々会ひに行きます。そして応召がなささうだつたら早くそちらへ移ることを考へませう。応召の時はどうにでもして貴女に会ひに行きます。

もう一つ書き忘れたが、あなたへの不満は、あなたが僕の両親の気持を僕達へ近よらせることに努力が不十分だと云ふ点です。之はあなたの方でも云ひ分あるにちがひないが、こちらもう大人なんだからもう少し何とかなりさうなものと云ふ感じがするのです。だが之は決定的に重要なことではありませんが、僕に万一のことあつた場合、それが可なり僕には重要になつて来さうです。

それはとにかくとして、僕の愛情の不動を信頼して元気になつて下さい。僕はあなたの協力を信じて大いに仕事を完成にまで努めますから。

では又。元気に、よく眠りなさい。もうぼつ／＼朝飯の仕度です。今日はパンと大豆とトマト、ナス。それに白すぼし。米の飯はメンドウめんどうくさい。

皆様によろしく。

謙一

僕にとつて大切なものすべてを信州へ、あなたの下へ疎開させてゐることを思つて下さい。僕の将来はあなたとの生活にすべてである。その点僕はうたがつたことさへない。僕については、安心して勉強して下さい。そして僕の本の最初の

理解者になつて下さい(ちょっとむつかしいことですよ)。

ところでもう一枚余白があるから、この手紙の本文を書いたあとの生活を記してみませうか。

この手紙書き終つたのが七時前、それから日課の排泄をすませ、下からコンロを借りて(小使さんがすんだあと一時間以上も使へるので)そのままの火で先づ大豆(米からよりわけたもの)をいり、塩をふりかけ、その出来上る頃にパンを蒸すためのなべをかけ、パンが蒸せてゐる間に支那なべに油をひいて、なすのわぎり(なす三個分)を焼けるやうにし、パンが終るとすぐそのなすをかけ、その間にパンをオヒツにうつして今度はカボチャとジャガイモとを蒸す。之が今日一日分の食糧で、丁度一時間で出来上る。

朝食はパン(丸)一つ、カボチャ一切半、大豆、なす、白すぼし、それに下からもらつたお茶、冷したトマト二つ、どうです、大分たつぷりでせう。

朝食がすんで今朝はセンタクをしました。開襟シャツ、肌シャツ、それに信州で速成してもらつた肌着、くつ下二足(昨日の雨でぐしよ)、ハンカチ二つ、タオル一つ。それで九時になり、お茶を一杯のんで、この手紙を書き終り、之から仕事です。その間湯島詣を大半読みました。これが毎日続く生活なのです。で、若し出来るなら、かう云ふ生活に都合のいいやうなもの(薬品)があつたら、時々補給を願ひます。

幸子から謙一あて(一九四四年七月二九日の記、三〇日の消印)

七月廿九日

お手紙二本拝見。引越は大変でしたこと。一週間以上も(事実上)かかつたのですね。でも、もう全部おすみの事です。御苦労様でございました。後の整理はきれいにゆきましたか。ガラクタの始末は? ラジオは何ちらにゆきましたか?

Jさんではとうとう(たうとう)お金を返しませんでしたか。大家さんは何と云つてゐました? 其の中、私からも大家さんあて、永年のお礼の言葉を出しておきませう。

本日(廿九日)トランク一個到着致しました。まだ先日来の小荷物の中五、六個も其のまゝ解いてありません。今日、卵を十個貰ひましたので、送れるものなら送つてあげ度いと思ひましたが、如何せん、もみがらもないし。こちらでは

たいてい何処かから入つて来ますし、あれば—今日なんか早苗が三ツもかんしやくを起して握り潰し、猫たちのごち走になつた位で、もつたいなく使つてしまふ事うけあひです。今日は相当大きな鯉三匹、つきたてのお餅、自家製おこし、などのもらひものがありました。

毎日、トマトやパン食ばかりではやめますね。何か送つてあげたいのですが、料理したもので送れるもの、主食になるものと云つたらお餅位のものでせうか。お餅など当（到底）てい送る程はいりませんし、お母さんも此の頃の様に米の心配ばかりしてゐると、せち辛くなりましたので、尔（お）くくと云ひにくい事です。何かうまいことあつた時、お送りする様心がけておきますが、其の程度ですから遠慮や気兼ねはなさらぬ様に。

利ちやんの新任所お知らせ願ひます。

草々

謙一から幸子あて（一九四四年七月二九〜三一日の記）

廿九日夜。

今夜から、あなたへの手紙を日記の形に書いて三日分毎（る）ぐらに出しませう。

昨廿八日午後、殆ど最後として原宿へ行きました。やはり雨でコーモリをぶらさげ、小さいトランクの中にふろしきを入れました。この日は、鉄道便をすつかり出し、物置きを片づけ、米の配給をとり、大家さんと勘定をすませる予定でした。

物置きの片づけは予想より何層倍か厄介でした。時々雨もふるし、大家の婆さんが風呂のたきつけにするからと何でもかでも持つて行かうとするし、数年間たまつた瓶やあきかん、こわれた食器など、全くどうしようもない。結局大家さんと話して、防空壕へ埋めることにしましたが、一々物を選び出してゐるひまがないので、片つぱしから穴へぶちこんで、シャベルですつかり埋めて了ひました。身体は泥だらけ汗だらけになつたけれど、さしもらんぐくを極めた庭も、どうにかさつぱりときれいになりました。大家さんはせつせと運んで「五、六日分のふろのたきつけが出来た」と云つてゐました。あきびん等も自分で選り出して、いつの間にか持ち去つてゐました。新聞紙もみつけて、ゆづつてくれと云ふので、持ち去るにまかせました。何しろ僕は、去年大汗流してほつた防空壕を埋めるのに大汗かいて、他をかへり

みる余(お)うがありませんでした。ながしも大家の云ひなりに廿円で売り、防空桶やさをなどはただでやりました。すつかり庭を片づけた頃、ひろちやんが帰って来ました。利ちやんは廿六日にひつこして行つたきり音沙汰なし（あとで、寐込んでゐたことを知りました）。

間もなく亀屋さんがリヤカーで鉄道便の荷物六個を受取りに来ました。荷造りと運送とで卅五円ぐらいたらうとのこと。米は齋藤さんへ廿五キロ来てゐました。三人分として一ヶ月分来たのです。僕一人としては二ヶ月半分ぐらいになりま(お)す。それより持つて行くのが大変で、おまけに米屋のふくろが破れてゐるので、どうしても別のふくろへうすさねば(お)ならない。齋藤さんの板の間を米だらけ豆だらけにしながら三つの袋と大ぶろしきとに辛うじてつめ込みました。米は大豆二割。もう暗くなつた家の中で、それらの米を凡ゆるアキカンや箱につめてトランクと大ぶろしきとに十五キロおさめ、あとは辻岡さんにあづけることにしました。米をまとめ終つたら八時半をすぎてゐました。そこへひろちやんが外食から帰つて来たので、明朝おし入れの残り物を辻岡さんへあづけ、すつかりもう一度掃除しておいてくれるやうに頼みました。まだ起きてゐた辻岡、齋藤、遠藤の三家へあいさつして、よたよた帰りました。真野のバアチャンがあなたによろしくを云つてゐました。その夜も夜半にこぶら返りが起りました。疲れが足に出たらしいが、二晩つづいてのこぶら返りで、痛いし嫌でした。引つこして荷物に悩まされてゐる夢も見ました。之も続けざまです。

廿九日、雨と晴。大体晴れましたが晴れ切らない天気

本日の食物、いり大豆、ジャガゆで、小さいジャガとなすと白すぼしとの煮物、なす油焼き、トマト。例によつて朝の一時間の借り火でこさへて了ふ。

昼前に利ちやんが、昨夜辻岡さんへあづけた米の残り10キロを持つて来てくれました。僕の食物は割合たつぷり作つてあるので、利ちやんに昼食をお相伴させても大してこたえ(お)ません。帰りになす、きうり、玉ねぎ（信州）、トマトをみやげにもたせました。彼の所はずぐに外食券をもらへなくて廿七日まで自炊だったのでせう。どちらかと云ふと廿五日彼の身体余りよくなく、相かはらず七度三分ぐらい出ます。今度の引越しても疲れたのでせう。どちらかと云ふと廿五日まで、利ちやんの方が積極的によく手伝つてくれました。ひろちやんは大ていどつかへ行つて家に居らず（平常は大てい家にゐたのですが）、しかも結局ひろちやんの引越が一番遅れて辻岡さんの救ひの手で助かつたのです。辻岡さんは義母から下宿人を一人おくのは世間態がよくないから二人おくやうに云はれてゐたのださうです。だが弁当は作れ

ないと云ふのでひろちゃんも外食です。

校正はやつと五分の一すみしました。数字が多いのと、一頁の字数が多いのとで校正も楽でない。一頁の字数は(菊判)一千四十五字(四百字詰原稿紙二枚半)、昨年のアメリカ史の字数は一頁六百字(一枚半)、二倍に近いほどです。これで四百二、三十頁になるのですから、アメリカ史のやうにくめば、七百頁になったでせう。それにしてもこの本無事に出せるかどうか。戦局益々容易なりません。

世日(日曜)雨。

雨の中でせみがじいじいいてゐます。昨夕はひぐらしがなきました。ひぐらしをきくと鎌倉を想ひ、鎌倉を想ふと中島君の顔が浮びます。

漸く引越しづかれが出て、身体のおちらこちらいたみ、原稿をかかねばならないのにちよいとひるねしたら、二時間寝てしまひました。机と椅子とのかけにごぞをしいて寝てゐたのですが、ふと誰か来たらしいので眼をさますことはさましたが、起き上げれないのです。手足が呪縛されたやうで、どんなにもがいても身体が動かない。机の向ふ側⑤に誰かが立つてゐるが声をかけない、何だか害心を持つてゐるか或ひはただの人でないやうな気がする、だんく不安になつて早く起きやうともがくけれどどうにもならない。とど、どうでもなるやうになれと、まるで俎上にのせられた魚のやうな氣になつた時、眼がさめました。夢の中の机や椅子の位置が全く現実の通りで、思はず起き上つて机の向ふを覗くと、たしかしてあつた筈のドアが二つとも半びらきになつてゐました。プーシキンを読みながら寝たのと、疲れとのせいでせうか。

あなたの手紙を心待ちするが、昨日も今日も来ない。静かで、頭がうつとう⑥とうしくだるい雨の日。

今日の食事。大豆(米の中からふるひ出したもの)、ジャガゆで、なすびと白すぼしの煮つけ、玉ねぎのいため、代用ココア入りのオヤキパン(之は朝と昼だけ)、トマト。夕方雨がやみました。夕食のジャガを食べ終つてラジオのニュースをきかうとしたら、利ちゃんひろちゃんやが雑品を持つて来てくれました。神棚やら小さいバケツ、等々。大家のバアチャンが僕のことでは岡さんや斎藤さんを悩ませて、辻岡さんの如きはヒスを起してバケツに水を一ぱい入れ、大家にぶっかけるといきまいて斎藤さんにとめられたよし。文句やぐちの材料に困らない人だらうけれど、僕が行くと何にも云はないくせに、どうしたのかと思つたら、廿八日の米の配給に、僕が沢山貰つたのに大家では十五日分しかなかつた

し、おまけに富次さんの分(乙)をさし引いてあつたので大ファンガイで、それ以来一切のふんまんを居なくなつた僕におしつけ、辻岡さんや斎藤さんに何時間もグチとふんがいとを洩しに来、いやみを云つたり配給物(僕への)を経営まで届けてあげると云つたり、僕への手紙が辻岡さんへ配達されると、とり返しに来たり、大分荒びてゐるさうです。こんなことだらうと思つたから、あなたに来させなかつたのです。

ひろちゃんには、辻岡さんによろしくおわびしておいてくれ、僕は八月一日にもう一度行くから、大家のバアチヤンも悪い人ぢやないが、人間が卑少ひせうでそこへいろく不幸や不偶ふぐが重つたからヒスになつてゐるのだ、人間とはそんなものだから、よく観察して、その根源を考へるやうにと云つておきました。

卅一日、雨。

今朝も雨であけました。今日の食事はジャガイも、ジャガとココアと大豆と白すぼし入りのオヤキパン、トマト、之だけです。朝はその三分の一をたべました。そこへあなたの廿七日附手紙がつきました。

あなたをこんな苦しませて、僕もすつかり苦しくなりました。僕の態度がよくなかつたのです。この半年、いろんな不満をあなたへばかりさしむけて、本当に悪いことをしました。もつと感情的にでなく理性的に行動することによつて、必要な疎開なり何なりをはこぶべきだつたのです。僕の人間の卑少が、ついあなたへ感情的にアタリちらすことになり、意地悪にもなつたのです。事実、前便に書いたやうなあなたへの不満、感情の冷却はあつたが、その裏にはあなたへの痛切な欲求があり、あなたの方からの僕への熱情的な働きかけを心待ちしてゐたのです。こちらから要求するのでなく、あなたの心の働きから与へられることを待つたのです。何故なら、こちらから要求すると、我が儘と云ふことで片づけられさうだつたから。

だが前便にも書いたやうに、僕の貴女に対する飢渴は、戦局とにらみあはせねば、そのまま実現させ得ない事態になつてゐます。あなたの疎開の話がはじまつて以来の一切は、何よりも第一に戦局の切迫によつて決定され、他のことはすべて第二次的なのです。戦局の切迫、空襲必至、しかも応召もまちか、こう云ふ事情の中で、我々の生活をまもり、僕の仕事を少しでも多く仕上げておくこと、之が一切を決定する主要理由だつたのです。その仕事も、本格的なものは材料をあなたと一緒に信州に送つて、そちらで何年かかかつてやるつもりだつたのです。今でもそのつもりです。

あなたの手紙で、僕があなたを嫌ひになり、あなたなしでやつて行けるやうになり、僕の氣持がTさんへ帰り、他の愛

情関係が出来かかつてゐる等々は、すべてうそです。まちがひです。僕があなたを愛し、あなたを益々必要としてゐることは前便で書いたとおりです。僕がTさんと一緒にゐたとか、M女史と暮したなどは乱暴な中傷です。Tさんが下宿へ来たこと、Mさんも鎌倉へ来たこと、後者は家へは入らなかつた、之が真実です。現在の環境もあなたから自由になることではなく、あなたを安全にしておいて自分の余命を仕事にうちこめるやうにと思つて作つたのです。ああ云ふ風なことは書くものではない。僕を信じて下さい。その点では僕の方がはるかにしつかりとあなたを信じてゐる。

東京の就職をことわつて下さつてよかつた。でないとなのために苦しんで疎開したかわからなくなつて了ふ。僕はいろいろとあなたに文句を云ひ、意地悪を云ひ、アタリちらしたけれど、僕がどんなにあなたを愛し思ひ、ほこりにしてゐるかは、僕の日常生活を見られるなら直ちにわかる筈。僕はあなたを誇りにしてゐます。どうかあなたらしく、僕の気持、意図を、僕の云ひ足りない所まで洞察して、今の淋しさ苦しさを克服して下さい。そして勉強して下さい。あなたの勉強のやり方に、僕の不満をのべましたが、実際は女の子達を導いて行くあなたのやり方に心から感服して来ました。僕には人と一緒に勉強すると云ふ要素がない。人がやつても必ず僕が見なほさねば気がすまない。之はまだ器が小さいのでせう。

また僕があなたと結婚したことを自分でいかによかつたと思つてゐるかもあなたは充分見てくれる必要がある。僕の現在が、あなたによつて作られた、あなたとの協同生活を通じてこそつくられた、このことを僕はうたがふたことさへありません。僕の思想なり世界観なりにいかにあなたから吸収し、あなたと共に得て来たものが多いかをあなたならよくわかる筈です。あなたが僕を理解しないと云つたのは、僕の仕事、アメリカ史へ関心をもたないと云ふことが主で、他のことではなかつた。性慾のことでも、あなたによつて抑制の訓練を受けたればこそ、今その点だけは、あなたをさへ必要としなくなつた。

いづれにせよ、あなたの今のいううつは、あなたの想ひすごし(たとひその想ひすごしの理由がぼくの態度にも責任あるにせよ)のせいが多い。想ひすごしでなしに、この機会にお互ひにお互ひを検討し、将来の生活へそなへませう。はなれてゐると、想像の駒の手綱をひかえにくくて、いきほひいろくくと思ひすごしや臆断が多くなりますが、お互ひにそれを警戒し、戦局を思ひ、世界の歴史、人類を想つて普遍に通ずる生活をきづいて行きませう、元気に。

あなたの今日の手紙にあなたの精神のたたかひを見てうれしく思ひました。生意気な云ひぐさかも知れませんが。そしてあなたがその精神のたたかひに勝つことを信じ、僕もまた仕事へのたたかひにかりたてられます。

ただ、T子さんの手紙は、焼いてしまったと云ふことを納得して下さい。T子さんと僕との関係は、生活でなしにエピソードでしかなかったから、その手紙も今後の生活に関係がない、僕はあなたとだけ生活して来たのであり、今後もうであることをちかひます。今後あなたが、さうしたことで僕にあらぬ疑ひをもつとしたら、僕はその点に限りとりあはないつもりです。若しさう云ふことが目的なら、どうしてこんな研究室などへ住み込むでせう。昔のうそはあやまります。だがそのうそさへ、あなたが想ひすごすやうなことはなかったのです。あなたがそんな風にあらぬ想ひすごしをやる怖れがあつたので、かくしもしたと云へるのです。では又書きませう。

なほ、洗濯物は殆ど必要ありません。こちらにゐるとじつとしてゐるし涼しいので汗もかかず、シャツとズボンでねるまでゐられます。シャツだけほしいので、破れたやつを送りました。下着は隔日に洗たくしますが、昨今雨が多いので、余りやりません。

何か買つてほしいものあれば云つて下さい。火曜日に銀座と本屋とへ出ますから。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年七月三十一日の記・消印）

本日（廿一日）郵便小包でPANTY二枚（廃物利用）送りました。脇あけのある方が左です。ゴムを使ったのは、適当な紐がなかつたので、あまり具合よくなかつたら、お返し下さい。

其の他緑茶1—4半斤、白す干、ふりかけを一諸（各）に入れました。

薬はメタポリンなら買へます。寛ちゃん（お）は辻岡さんへ下宿したんですか。何故高円寺へゆかないのでせう。嫌な子ですね。此の間の様なシャツ、御入用なら、もう二枚位作りませうか。

謙一から幸子あて（一九四四年七月三十一日〜八月一日の記）

七月卅一日夜、晴。

雨であけた今日、だが間もなく日が覗き、おひる前からはもうレッキとした土用の照りに、買ひ出しも苦勞となりました。八月二日にジャガの強制供出があるので、そのドサクサに少し買へました。一貫メ三円。この頃ジャガばかり食べ

るので、少し買ひ置く必要があります。

午後、伊藤書店の鶴田君が校正を持つて来ました。「ここは涼しいから楽しみにして来ますよ」と云ひながら三時間余り話し込んで、夕暮時に帰りました。ジャガとトマトとの夕食をすますと、小使さんの妻君（妻）がナスとキウリの漬物をもつて来てくれました。ツケモノは信州以来です。

食後畑の方へ散歩に行つて、馴染の家（鈴木氏）でキウリを十本買ひました。その場でもいでもつたのだが、帰つて早速カワをムイテ、そのままガリ／＼食べました。小使さんに半分進呈しました。漬けてあげると云ふから、之からキウリ、ナスの漬物に困らないでせう。鈴木と云ふ農家は、ここから丁度千四百歩の所にあります。いかにも百姓らしい、まるで大地からはえたやうな脚を持つた爺さんと、眼鏡をかけた息子さんとのゐる家で、大勢で行くと余り歓迎せず、僕一人で夕方おいでなさいと云ふのです。明日も夕方、ナスとトマトともいでおける約束をしました。外の連中はここでは余り貰へないが、僕は大きい何か貰へます。酒のせい（せ）かも知れないが、僕自身この爺さんと息子さんが好きなせいもあると思つてゐます。

八月一日、晴。

此の頃よく眠つて、大てい六時半に起きます。小使さんはもうぼつ／＼飯を終つて、僕が起きて下の便所へ行くと「火があいてますよ、さつきからあいてゐるんですが、寐てゐるのを起すのも悪いと思つてね」と云ひます。だからあはててジャガを洗ひ、メリケン粉をとぎ、ナスをワ切りにして、先づジャガをゆでます。ゆでて湯を切り、そのまゝ再び火にかけて塩をふる、と云ふやり方を教へてもらつて、中々うまくなりました。かうすると水っぽくないおいしいジャガが食べられます。キウリをまた一本、生でかじりました。トマトも豊富です。

今日、本室から魚粉が届けられました。本室では、僕がこの頃ヒゲをそらないので、自炊の栄養不良だらうからと云つて食ひ物の心配をしてくれるのです。この魚粉も、中々おいしい魚粉ですが、僕にだけこつ届けられたのです。

今日久しぶりに銀座へ出ました。白木屋の朝ちゃんを訪問して、この間の靴下のお礼を云ひました。今日は醬酒（醬）の素（粉）をもらひました。何だか人に貰つてばかりゐるやうで、悪いやうです。

銀座は更にひどくなりました。食物も、オリムピックなど半月前と比べてさへめつきり粗悪になつて、それさへずい分並ぶのです。買ひたいものは何にもありません。人間ばかり通りにあふれてゐます。半分あきらめたやうな、それで

て物欲しげにキョロ／＼しながら歩いてゐます。斎藤さんで異動申告の印をもらひ、大家さんの竹輪事件のおわびをし、辻岡さんでも同じことをやり、それから大家さんで愚痴をきかされて、表札をはづし、大皿や花瓶その他をふるしき包みにして、今度は大塚さん大野さんへもあいさつして引上げました。竹輪事件とは前便で書いたかと思ふが、竹輪の配給があつたのを、大家さんで僕の家の分三本（三人分）受取り、二本をマノさんへゆづり、あとの一本を、辻岡さんと斎藤さんとへ行つては「菊池さんへ届けてあげろ」とわめき立て、辻岡さんがバケツの水をぶつけかけようとした、あの事件なのです。どの家へ顔を出しても、まづ「待つてゐました」と云はぬばかりに竹輪の話をきかされました。大家のバアちゃんのヒスぶりには、皆もあきれてゐるやうです。とは云へ、僕がうつかりして「配給物はそちらでよろしく処分してくれ」と云ひおくのを忘れたために起つた事件なので、専ら僕の手落ちをわびておきました。

町会から三河や、日ノヤ、米屋（米屋の爺さんは「菊池さんは自由時代からのおとくいで、どうも長い間お世話になりましたね」と云ひながら、実に面々な通ひ帳の整理——廿四日に二人を異動させ、廿八日に廿五キロ配給され、八月一日からパン食をやめ、八月二日に転出と云ふヤヤコシサ——を「これは大変だ」「こいつは大変だ」とひょうきんにさわぎ乍ら気嫌よくやつてくれました）、それから下の亀屋、炭屋、それから参道の新聞販売所、これだけまわつて、歩いて渋谷に出、本屋を二、三のどいて午後五時に帰りました。所が二階に水が出ないため身体がふけず、とにかく、朝つくつたオヤキパンとジャガとを食べて、午後の九時頃になつて漸く水が出たので、すつかり身体を石ケン洗ひしました。

今朝あなたの手紙と森ちゃんの便りが届きました。今日は疲れたので、あとは明日。ではおやすみ。

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年八月一日の記・消印）

廿八日附お手紙有難う。引越は随分永くかかつたんですね。あんなに整理して何も物がなくなつてゐた様でも、随分いろんなガラクタが沢山にあつたんですね。どうもごくらう様でした。本当にさぞ／＼疲れたでせう。こんな時甘いものでもあれば。

お砂糖は七月分は配給ありませんか。こちらでもぜん／＼砂糖の砂の字も音沙汰ありません。それでも二日位前業務用が

五十七匁配給あつたようですが、皆てんこものになつたようです。

お菓子も果物も卵も砂糖も粉も、一寸めづらしくはいつたと思つても、おぢいちゃんてんこばかり。たまにはシヤクにさわつて来ます。あんなに無駄に使ふ位ならー私が有効に使つてやるものを。桃もりんごも一寸かぢつちやあちらこちらに捨てたり、おやきなんかも手でもみくちやにして、ふんでしまふのだから。

今日は三尾貫つたすてきもなく立派な鮎の塩やきを気にいらぬと云つておぢいちゃんの分まで、たたまにほうり投げて、其の上をころがつてあるきました。猫は大よろこびで、ウー／＼ニヤゴ／＼云つて、又もや思はぬごち走にありついた次第、いくら子供でもあんな事をすると、本当に嫌になります。

先日来からM・E伝(原文)よみ始めました。とつつきわるいと思つてゐたのですが、思つた程でもなく、相当興味を持つて毎日すこしづつ続けてゐます。今度また時間割が変更になりました。リンカーンも一週に二度、二時間やつてゐますが、一今日で二度目、写真入りの一ページが二回がかりです。地代論ユダヤ人問題なんて変でせうが、波多野入門をよんでゐるとき、どうも地代があまりよく納得出来ぬのでゐたところ、これをみつけ、一寸みたらわかり相なので、エイ、よんでしまへ、と思つてくり入れました。それからローザの入門も経済史のところからチヨイ／＼。

9-10	10-12	2-3	3-4	7-8	8-10
月 リンカーン	波多の経済入門	地代論	M・E伝	ユダヤ人問題	小説・手紙その他
火 英文法	アメリカ史(K)	アダムズ アメリカ史	〃	〃	〃
水 英文法	アメリカ史(K)	アメリカ史(A)	〃	〃	〃
木 リンカーン	波 経済入門	地代論	〃	〃	〃
金 英文法	アメリカ史(K)	アメリカ史(A)	〃	〃	〃
土 英文法	アメリカ史(K)	アメリカ史(A)	〃	〃	〃

日 サーヴィス・デイ(一日、お勝手、掃除、センタクその他サーヴィスする)

ざつとこんな風です。日曜日は勉強は一切やめて、大童で働いて、お母さんにサーヴィスして、其の代り月―土までは、普通掃除(朝二階)、ふとん□き、たゝみ、夕方掃除役でかんべんしてもらふ。其の他、代筆は何時でも引きうける、と云ふ事にしました。昨日の日曜(卅日)は、白緋―これはあまりにいたんでゐるからときました。さうして洗つて、アイロンのしをして、あなたのパンツ二枚作りしました。サラツとして着持よいと思ひます。但し、ひもがなくて高価なゴムをつけました。小さいと不二ちゃんが云ひますが、小さかつたら私のにするから返して下さい。

今日の月曜日はヨ定通がん張つたので、とうたうく四時から一寸と思つてたみにのびたら十五分か二十分たちまちトロくとしてしまつた位、頭がポッとなつてしまひました。

アンナ・カレニナ、あまりあなたが感激するので、二日、三日、夜ねる前によみ、今第四巻にかかり、ウロンスキイとアンナがイタリイに行つてゐるところまで(尤もこちらには四巻までしかありませんが)す。アンナ―あなたの云ふそれ程、私にはあんなの合一をを慾する意慾はくみとれません。カレニニに対しても中途半端なくしみを持つてゐる様に思へるし、ウロンスキイにも中途半端な愛情で対してゐる様にみえます。そして、それも無理ない様に思はれます。私はむしろドリーにに心惹かれました。疲れ切つてゐるかわいいドリーに。ドリーにもステイワを不まん足にさせるものがあつても、ドリーの体力では、あれ以上はのぞめない。

パクストンボーイズ運動や、トーマス・ヂェファーンソン、パトリック・ヘンリーたちの民主主義運動、レギュレイター運動等、精しく知りたいと思ひます。ほん訳されたもので、こちらに来てゐるものうち何かあるでせうか。至急御一報願ひます。

ペインのコンモンセンスは矢張り原書だけですか。アダムズの米国史はあなたはどんな風に解釈したか、私には今までのところ、大変立派の様に思へるけれど、一寸きかして下さい。

謙一から幸子あて(一九四四年八月二―三日の記)

八月二日晴。

今朝、パンツ、白すぼし、ごましほ、赤ヂヂソ、茶等受取りました。御心尽しを何より有難く思ひます。猛烈に照りつけて、その太陽の熱射へとび出せば、地面へ押しつぶされて了ひさうな、さう云ふ午後、今日も原宿へ行

かねばなりませんでした。昨日、炭屋の通帳を忘れて行ったために無駄足ふんだので、今日は渋谷からバスで先づ炭屋へ行つて手続きをすませ、斎藤さんで集成切符をもらひ、辻岡さんで湯タンポ、丈さし(ジャージ)、雑誌類等を受取り、三河屋でショウ油とミソを買ひ、山陽堂で勘定を払つて、四時半に帰りました。

今日、この小使さん(三十六才)に召集が来ました。十日入隊(東京)。

夕食(ジャガとむしパン)後、午後七時少し前に、例によつて散歩に出ました。まだ日がくれ切らず、樹木や畑の緑も固有の色を見せ、西空では甲府盆地のあたりに上昇気流が物凄くて積乱雲が物々しく湧き上り崩れ、或ひは雄大なカナトコ雲になつて入日にアカネ色にふちどられつつ天空へのびひろがり、その他は巻雲が空のト□アル一杯になぐり描きにかきちらされてはゐるもの平和な、昼の炎熱とまるで無関係なやうな静まりやうです。畑にはまだ／＼農夫が黙々と草を刈つたり、恐らく夕飼(ヨク)のおさいらしいなすびやきうりをもいだり、ユゲ立つタイ肥をつみかへたり、オカボののびた葉を鎌で切つたりしてゐます。玉蜀黍畑を夕風がわたると洗はれるやうな爽快さを感じます。

鈴木さんの所で、ナス五百匁、トマト一貫五百匁とつてあつたのを受取りました。見事なナスで「焼いてあがんなさいよ、大きいのを選んでおいたから」とふろしきにつつんでくれました。金三円也を払ひました。二貫目下げて帰るのは相当重いです。明日照子ちゃんが寄ると云ふので、あげるために余計買つておいたのです。

帰途はもう木立の緑も黒く、西空だけにほのかな明るさが残つて、アークトック、スピーカ、アンタレス、ヴェーガ、アルタイル等が見える程でした。月がステキに冴えてゐます。この辺は屋間水が出ません。井戸水をバケツに二杯とヤカンに一杯くんで二階へ持つてあがり、それでナガシの所で身体を石ケンぶきしてさつぱりしました。買つて来たトマトの赤いやつを二つ三つ水で冷してかぶりつきます。ラジオは今日はずまらない。

ネールの自伝とゴリキーの四十年とを読みはじめました。校正と原稿とがあるので、さう進まないけれど、面白い。読みれば送ります。ネール(ネール)と云へば、昨日ツル田君(伊藤書店)が、「竹村和夫と云ふ人はどんな人ですか、御存知なんですか」と云つて、「菊池さんがネール自伝を読んで迎も面白かつたとほめてくれたと云つて喜んでゐるさうですよ、面白かつたから奥さんに送つて読ませるんださうだと云つて」「所が実は、本を買つてそのお礼に、大変面白さうですね。僕が読んだらフラウへ送らせよう」と書いただけなんですよ」と云ふ風な会話がありました。竹村君、少しスランであるらしく、ツル田君もちよつと信用おけない人ですねと云つてゐました。何でも直接知つてゐるのでなく、書店の女の子の友達の女の子が竹村君の所にゐて、その女の子同士の会話から知つたとのこと、あの中江兆民の孫にあたる

妻君と、離婚話が持ち上つてゐるさうです。この間ここへ電話がありました。

八月三日、晴。

今日も暑かった。風の方向が西で昨日と少しちがつてゐました。夕方銭湯（原宿の時より少し遠いが、カランが多いし、余り混まないらしい）から帰つて、気温を見ると、廿八度以下つてゐましたが、日中は三十何度だったにちがひない。溜め置きの水が廿六度です。所が、この二、三日水道の水が出なくて（階下は夜と朝と出ますが、階上は廿四時間を通じて一テキも出ない）、井戸水を汲んで来ますが、それは一六度です。一六度でも、手をしばらく入れてゐるとしびれる程です。

今日午後テル子ちゃんもムツちゃんも来ました。此の間から、トマトを買つておいてあげるから、電話をかけて寄りなさいと云つておいたのです。オバさんはまた殆ど寐つづけらしいです。胆石です。テル子ちゃんが一切やつてゐるやうです。この間訪問した時は、その二、三日調子がよくて、オジさんと他処を訪問した留守でした。トマトとナスとキウリとを約一貫目近く持たせました。ムツちゃんがナスを持ちました。ここで井戸水で冷したのを食べさせたら、迎もおいしがつて、ゴチソウサマとていねいにおじぎしました。

今日で校正百七十頁を終りました。明日また百頁ぐらい持つて来る筈。大いに印刷屋を督促してゐるのださうです。ツル田君も僕も、召集の来る迄に出しておきたいと一生懸命です。それでもオツツクかどうか。

今日、ダイヤモンド編輯長の松沢氏から電話で原稿を依頼して来しました。あそこで出してゐる何とか日報へ連載したいと云ふのです。この間の慶応クラブでの講演の内容です。とにかく来週火曜日銀座で会ふ約束をしました。

異動申告は厄介で、まだ完了しません。明日、塩を買ひ、三河屋で原票をとつて来てから、どうにか完成するでせう。午前中に行つて来ませう。

今日の食事。ジャガゆで、オヤキパン（信州でいただいたメリケン粉をまだ使つてゐます。あと袋に半分あります。僕は結局米代替のメリケン粉六日分と云ふ怖るべき配給のはがれたのですが、さうなると多少残念です。こんな風に水や火の便の悪い自炊には、米よりメリケン粉の方がハルカに簡単でいいです）、ナス油やき、ナスと小さいジャガと大豆と白すばしとの煮付、キウリの生、トマト。今日風呂で目方をはかると十三貫五百を越えてゐました。カクシヤクたるものでせう。

僕は相かはらず人と接するとセツカチでいらいと怒りつぽくなります。但し相手が百姓とか運送屋とかその他の勤労者であると、実にゆつたりしたおだやかな同情深い気持になります。貴女へ書きたいことが大分たまつて来てゐますが、明日からにませう。今朝オハガキ受取りました。ではおやすみ。

謙

八月三日。一つ書き終つて、今夜はねむくないので又書きます。

十年前の手紙にあらはれたあの頃の元氣な陽気なハツラツとした生活への郷愁、それはよくわかります。だがその郷愁の甘美の中へ、事の本質への批判を溺没させるべきでない。

あの頃のあなた方の生活はたしかに生氣にあふれてゐた。だが、それは、あなた方の青春もあつたとはいへ、一つには、時代がまだ個人の自由な生氣を容れる余地があつたのです。僕から見れば、あなた方のあの頃の生活は、生と云ふものに頼つた不安定な陽気さ、観念的な生活緊張に思へました。生と云ふものは、人がそれによつていかなるよきものを意味しよう、結局あいまいな、内容空疎なものです。生と云ふものは、真に確乎とした前進的な戦斗的な現実的な見透しのある理論と結びついてのみ、内容あるものとなるのです。「生」とはいはば「欲望」のやうなもので、「欲望」とは心の強い傾斜の一つであるが、それ自身では明確な内容をもたない。欲望は現実の正しい認識と結びついて始めて、一個の具体的な内容をもつ。たゞ欲しいと云ふだけでは具体的な行動は生れない。何を、いかなるものを欲しいかと云ふことがはつきりして、始めて具体的な行動に發展する。

あの頃のあなたには、生のハツラツたる躍動があつたが、その生を真に自信あるたしかなものたらしめる現実の認識があつたとは僕には見えなかつた。さう云ふ現実の認識は、あなたのその後の生活と勉強との中で世界観へと獲得されて来てゐる。その意味で僕には、今あなたが、どんなに憂愁にとらはれ、自己嫌悪に囚はれたとしても、あなたの生活に信頼出来る。僕は、あの頃のあなたの理性には、あなたの感情に対するよりは信頼し難かつた。あなたの生を信頼し得たが、あなたの人間としての生活、理性的生活にはまだ信頼し切れなかつた。今ならそれが出来る。あなたは今、世界観をきたへて行くことも押し進めて行くことも出来る。それだけ精神に弾力があり、基本的な正道をしつかり保持してゐる。従つてあなたの手紙にあらはれたり、ゆつくり自分の思想を言表したりする時に、既に現実の弁証法の原初的把握を認められる。いはば一人立ちして独自の進む起動力と方法を既にとらまへてゐる。(あなたが人々と雑然たる会話をする時は、セツカチで誇張や感情的言辭が多く、その点ではかつての方が話が面白いが、まじめな話をする時は、

かつてよりもこの頃の方がはるかに若々しく弾力的で、多少のセツカチはあるがとにかく理解力がはるかに進んでゐる。かつては、理論的なことについてはあなたの理解力に柔軟性がなく、また精神の若々しい吸着性も乏しかった。）

これがあなたのここ二、三年の精神的努力の成果です。その成果を自分ではつきりと確認する必要がある。さうすれば生活への自信が生まれ、例へば僕についても僕を信頼して、この困難な時期を生きぬけるのだと思ふ。

僕もこの二、三年に到つてはじめて自分の学問に自力で進む自信を得た。それはあなたとの生活の成果である。あなたはそのことをよく知つてゐる筈だ、この二、三年、あなたと折にふれて話したことを想ひ出してくれさへすれば。

僕は、我々二人が、二人の八年間の生活を通じてこれだけ成長したのだとはつきり言明出来る。そしてお互ひに、お互ひの成長を夫々お互ひへと相負ふてゐる。

この間中、僕は時局と自分の生活と自分の仕事とのつびきならないカットウからいら立つてあなたへあたりちらし、あなたの僕に対する関心の稀薄、殊に僕の仕事への無関心をせめたが、今はあなたこそ僕の仕事の第一の理解者であらうと云ふことに自信が出て来た。僕は自分の本を果してどれだけの人が本当に理解してくれるか甚だ悲観的な予想をもつてゐるが、羽仁氏、北山氏、小此木氏、早川氏、牧瀬氏（但し今の彼はよくわからない）、伊藤氏、北条氏ぐらゐは理解し評価してくれるだらうと思ひ、あなたもこれら少数者の一人であることを確信してゐる。北山君が去年、彼の論文への僕の批評をあんなに喜んでくれたけれど、僕も若し羽仁、北山、小此木氏あたりからあの程度の理解ある批判をもらふことが出来れば、戦死しようが何しようが心残らない。あなたが理解してくれたら之等の諸兄からもきつと理解してもらへるだらうと考へる。之等の人達の精神の働きにあなたや僕の精神の働きと何らか共通のものがあるのを感じる（無論共通しないものもずい分あるが）。中島君と永島にも生きてゐたら同じことを云へたらう。（T子さんはちがふ）。だからこそ之等の人達を、たとひ始終会ふのでなくても、心の友と云ひ得るのです（小此木君はどこがちがふやうだが。北条君もちよつとちがふ所もある）。そして心の友と話す時は、僕はちつともセツカチにならない、自分でも驚くほど豊かな、弾力ある、柔軟な、自由な気持で話したりきいたり出来る。あなたと話して僕がセツカチになるのは、まだ多少スキがあるのかも知れないが、他方あなたへは僕の要求が特に大きいせいもある。

他の種類の人々と話す時は僕はこの頃ますますセツカチで自分でもいけないと思ひつつ、ついカンシヤク持ちな話しかたをして相手を侮辱したり、自分で不快になつたり、結論へとび込みすぎたりします。何だかはじめに書かうと思つたことと、書いて来たことが、まるでちがふものになつた。今校正してゐるので、つい

自分の本が僕の思考の中心に入りこんで来て何でも本に關係したことにしてしまふ。

十年前と今と、僕がかはつたとあなたは云ふ（尤もうそを云つたり八方美人的だつたり気が多かつたり、さう云ふことは一向かはらないのだらうが）。どうかはつたか。

十年前には僕は人なつこかつた。到る所へ友を求めた。自分の内的生活をうちあげ、相手のそれと合一出来るやうな、さう云ふ友を。だから、云ひしれない寂リヨウ感と人恋ひしさで一ぱいだつた。さう云ふ人恋ひしさから得た友は、永島、浅原であり、T子さんだつた。ついでマキセ君であり新庄君であり、中島君であり、あなただつた。そして正直なところ、或程度満足な相手としては、永島、中島両君とあなたとだけであつた。（その中二人が死んだことは痛嘆）。そしてあなたとの結婚によつてこの時期が終つた。僕があなたへ始終求めたものは、全的な合一だつた。それはアンナが求めてゐたやうな、けれども少しディアレクティブなものであつた。さう云ふ熱求の満足と不満足との交錯継起が、あなたとの生活だつた。さう云ふ継起を通じて、二人の生活は大体予期通り進んで来たと思つてゐる。

所がこの二、三年来僕に学問的生活が出来た（それまでは学問でなく教養にすぎなかつた）。その点で新たな要素が我々の生活に生れた。あなたは之をすぐに理解出来なかつたのは当然かも知らぬ。ここから僕のあなたへの要求が一だんと多くなり大きくなつた。それがあなたへの不満ともなり、前便でのべた感情の冷却ともなつた。そして仕事は僕をセツカチに、わがままにし、その点でもあなたを反撥した。だが今、あなたの精神の弾力性と前進とを確認して、その不満の克服の自信を得た。

十年後の今、あの頃とちがふ点は、その学問乃至仕事と云ふ面、それから人恋しさ、あなたを得て落ちついた点、却つて仕事のために人嫌ひになつた点、あつさり云ふと之だけです。

蚊がひどい、今夜はとくべつだ。もう十一時半。ねませう。
之からのあなたへの手紙を僕の精神生活の覚え書きにもしますから、とつておいて下さい。あとで系統づけるつもり。ここへは書いたものを残さない方がよささう。

幸子から謙一あて（一九四四年八月四日付け、同消印）

度々のお手紙誠に有難く拝読致しました。

あなたの方で分もよく解つた様に存じ、又、私の現在の位置も納得出来た様に存じます。あなたの其の度毎のお手紙に一、一、相對する手紙を書くには書きましたが、まとめてと思つて、抽出しに入れてゐたと思つたのですが、探しましただが見当りません。まともになく、のべつに書き立てます。

あなたの云ひ分は解つた。無理解やつつばねる態度は確に私のわるかつた点です。それは正當に認めます。今度は私の側の云ひ分として、何故当時その様に私の欠点が最高潮に達し、全面的に押し出されてゐたかを、あなたの方では今もつて考へてゐるないこと、一其の点、もう一度御考へ願ひ度く存じます。

前便にドリーに同情した、と書きましたね。何故かと云ふと、ドリーは結局、チャンスです。ドリーを通じて、私は妻と云ふ者、伴侶と云ふもの、そして女と云ふものを感じたからです。ドリーの様な善良な女でも十分健康（彼女に課せられた責任を充分果すためには）でなかつた事が、疲れ易いことが、思考力までもうばつてゆくこと、そして目の前の事に丈追はれて夫の欲する処を察する事が出来ず、知らず／＼の中に、ドリーをとりまく生活全体に恐ろしい影響を与へてゐる。そしてそれは彼女自身をも、悲しい境遇に落してゆく。

そんな事を思はずにはゐられなかつたからです。私はドリーの様なやさしさも善良さもないし、六―七人の絶えず見てやらねばならぬ手のかかる子供もありません。

私はあなたのいら立つてゐた時―まさしく私も身体も精神も疲れ切つて居りました。私は其の時、あなたのいら立ちを知つたが、それが何処から来るかを考へる余裕もなく、要求をやさしくうけられる余地なぞまつたくなかつた―程、疲れてゐました。身体の疲れは即ち心までも消極的にしてしまふのです。私自身、頼（たよ）りてほしく、身心をあげてよりかかりたい要求で充ちてゐました。

あなたの云ふ通り、S夫妻との共同生活はマイナスでありました。私一人にとつても、其のすこし前から始まつてゐた身体のスイ弱に、あの人たちとの生活は更に拍車をかけ、彼女たちのヒステリーのフニキは、私をもヒステリーに駆り立てました。

併し私の立場、よんどころなくではあつたが、彼等を吾々の生活に呼びこんだ事、彼女は私の妹であること等が、私をして彼女の様に気楽にヒステリーのばく発をさせ得なかつた事、あなたに対する―勉強の邪まをする事のすまなさ等も加つて、珍らしくもこらへると云ふ事を（しかも不自然に）やつてゐたこと等、―彼女たちが去ると一諸に精神のキン張感も一度にときこはれてしまつて、自分の押へてゐたファンマン的ヒステリーの感情の洪水となつた次第でありました。

さうし乍らも、これでは全く真実ではないと心苦しく、「勉強する事」を楽しむよりと云ふよりも、むしろ逃避場としての様に、ものぐさ、イージイゴイングを極力避け乍ら、馬車馬の様に必死に一路英国史とシェークスピアに駆け寄り立ててゐた次第でありました。今考へると、勉強に何故あんなに、文字通り馬車馬の如く、自分でむちをふりまはし乍ら、狂気の様に何物をも反りみるとまなく突進したか、とも思へます。あんなにあせらずとも、身体を休めて気を落ちつけて、二人の生活を安全な軌道に乗せてから——とも思ふのですが、それは先日あなたの云はれた通り、私の勉強と云ふ考へ方の誤りから発してゐた事だと、今は考へられます。つい先日まで、即ちあなたから勉強と云ふ事の真の目的を話されるまで、私はとに角何も知らないんだから知らねばならぬ。知らねばならぬ事は絶べきの如く目の前をまっくらにする程巨大に立ちふさがつてゐる。一分も立ちどまつてはゐられない、さう思へて、併も前々からあなたによく云はれた、私の不勉強癖を激しく後悔する心も起きてゐたし、大金さんたちとの共同勉強はそれ自身すばらしく面白く、一分も立ちどまりたくない程、よんだり書いたり考へたりする事に充ちあふれてゐたこと、すこし知るともつと知り度い慾望をあほり立てられること、——さうしてもう一ツ重要な事は、ルカツチに依つて知つた馬鹿の一つ覚えの如き後退的モチ、ヴと云ふ觀念でありました。

生理的に最も当時必要であつた休息すら、私には後退的モチ、ヴに見えたのでありました。さうして勉強する事は、一歩くあなたへ私を近づけることであり、私の勉強の延長は、あなたの仕事の理解に発展してゆくものであると信じてゐました。さうして胡張の様ではありませんが、私としては真実にコンシンの努力を傾けて、勉強くくと連呼し乍ら息もたえくくと走つてゐた次第でありました。

そして利ちやんの来た事も、更に又、私の身心のフタンとなりました。利ちやんは『世話をしてあげなくてはならない』種類の人に見えたからであります。彼も又、私たちと同様、入試と云ふ怪物のつめにかつちりとつかまれて、他を反り見る精神の余佑のない人であり、性質から云ふと明朗ではありませんでした。彼の長所は当時の私には私の身心をよりなやますものと思はれました。私は当時彼との生活は嫌でたまりませんでした。さうして其の様な事の積り積つた結果は、私をしてあなたの(へ脱)フンマンをより一さうつのらせる形をとりました。

『信州へ帰る』と云つたと云ふ、あなたにとつては決定的な響を持つ言葉も、其の時のその様な、自分でも一寸もわからない現在の一切のふんまんへの感情を、其の様な形であなたに向つてほとばしらせた訳であつたと存ぜられます。こと事を云はれる毎にほんとに云つたかと考へる程、そのことを覚えてゐません。それに対してあなたの怒り、又それ

に反撥する私の感情、その又反射、くくと云ふ風に凡ては破壊的に進行して行つたものと思はれます。

—あなたが今度の手紙の中で、しばく指摘してゐる平等の観念—は、あなたにとつてはあの様に作用してゐたのかも知れませんが、私の方では全くちがつてゐます。疲れてゐて身体を動かす事は嫌でくたまらぬ乍ら、併し仕事に熱中してゐるあなたを、それに引きずりこむ事は、大さう気の引ける事である、だが事實は何もしたくない。併し、しなければまちがつてゐるんだ、と云ふとに角一応は反省の形が出来て、自責の念が起る、—併し中々思ふ程出来ない。—眞実は自分へのふんまんが知らずくあなたに又向つてゆき、家事的雑用をあなたにもふたんさせたくなり、遂にはフタンを強要する、と云ふ風であつたのです。

平等と云ふ事には、私はあまり事實とはわかれてはゐなかつた次第であり、むしろそれはしばく当時あなたによつてあほられた形であつた、—私にとつては良い口実を与へてくれた様な結果であります。

以上の進展は、其の後何か一つ内心嫌々乍ら家事的雑用をする毎に、あなたに向つて恩きせがましくもなり、私が掃除をした、私が炊事をした、と数へ立てる事になり、勢ひあなたも朝の炊事は僕がした云々と、二人で指折り始める事になりました。

—現在は身心共に余祐あり、疲労はなし、其のためか又は他の理由からか、不当な小言や嫌味を云はれても、云ふ相手の状態も考へられるし、一、一、怒つたり反撥する程の事は一度も経験致しません。勉強中らちもないお喋りに無理に引きこまれても、困るなどと云ふコンワークも感じません。それはそれでよし、と云ふ心持であります。

まづ、これで私の立場から如何に疲れること—即ち充分体力のない事は悪い結果を惹起する事であるかを、事実を以つて、うそや胡張なしに証明致した次第であり、ドリーに対する同情の程も、—あなたは多少解つて下さつたと存じます。さうしてこの事—(私の考へ方から云へば、私の当時の生涯に於ける始めての疲労が原因となつた愛情の冷却、夫婦間のソゴ)は、こちらに来てから解つたと云ふ事ではありません。病氣になつて床について、身体も精神も多少の余祐を取り戻した時、既に感じ始めた事でありました。このまゝほうつて於いてはいけないと感じ始め、つづいてあなたの云ふ私への不まんの原因にも及んだ次第であります。

疎解が問題となつた時—疎解の原動力となつたものを解決せずして、私一人こちらに来る事にはひどく不賛成でありました。私がどれ程嫌がつたかはあなたも承知してゐるし、利ちやんもよく知つてゐる通りであります。時局的に見て、如何に人命や財産(本)が大切であつたとしても、二人の生活の根本的なもの不安を解決せずして別離する事は、全

く吾々の生活の場合は主客転倒の感を感じたのでありました。其の解決への一步として、

『鉄工聯を辞めること、病気を早くなをすこと、身心の余祐を取り戻しつゝ、あなたと利ちゃんの研究、勉強生活を第一義とする態勢へはいること、次に私自身の勉強ものんびり充実させること、荷物丈一時疎解させること』

をあなたにうるさい程云ひつゝのりませう。併し、あなたはもうそれを聞く程の心の余祐がなくなつてゐて、一切を自分で決定致しました。私の破壊から建設の方向に向つての提案を一蹴し、ますゝ破壊の方へあなたはまつしぐらに走つてゆきました。私はあなたのいこちと云ふか、又は自分本位の遍狭さをにくくうらめしく、くやしき情なく感じ、さう云ふあなたの態度に、私も善戦の結果（敢へてかう云ふ次第であります）、とり返すすべも失はれたと見て、貝のふたの如く心を閉ぢて、こちらに帰つた次第であります。

さうです。私は疲れを休め、余祐を取り戻し、さうしてあなたの要求もよく知り、うけいれる―即ち自分の方の非を知つて、それを是正する方向に向つてゐた。併しあなたは。そして今に至るも其の当時の二人の置かれた状態の検討が充分には出来てゐません。あなたは私一人に『ふんまんをさしむけた事をわかつた』とは云つて下さるが、―もう一歩進んで如何なる私の状態が、かくもごてゝと二人の間にソゴを来たす事になつたか、―即ち現在の状態は―過去の兩者の如何なる状態の下に起つたかを、考へて下さるべきではないでせうか。あなた一人の状態の吟味だけでなしに、相對的に私の状態も。如何に私がハートのない様な女に見えても、―あなたの要求を無考へにはねつけたり、あなたの仕事に無条件に理解を持たぬ女ではありません。

あなたが基本的な点での愛情の不動をちかつて下さるとしても、眞実の私を理解もして下さらなければ、うれしくは思はれないのです。これは云ひすぎではないでせう。さうです。あなたは外には外には見えて見える言葉や態度だけで、人を判断する事の大きな誤りを、私に度々指摘して下さいましたが、あなた自身も、あなた自身が云ふ『愛しも、信じもする』と云ふ妻である私を表面丈で判断を下し、其の判断をゆるぎなきものとして、不動のものとして、それ以上一度も考へた事すらないでせう。

あなたは私に内心の苦しみとか、斗争（闘）とかは全く持たぬもの、と決めてかかつておるのです。何時も何時も、あなたは私を浅く、早のみこみ、感情の優位性、理性の跛行の綜合だと思つておるのです。今頃私が自己宣伝をあなたにするのもこつけないものではありませんが、―これは要するに、とことんまで追ひ詰めて考へる結果の産物でありますから―意味がすこしは含まれてゐるのであります。私の様な自信のない者は、永年の職業生活の結果、矢張り人からみすかさ

れないため、快活に見えること、多弁、高び車の口のきゝ方、即断などの武器を使つて（あまり見栄えのせぬ、使ひ栄えのせぬ武器ではありませんが）、相手を防ぐ態勢を取るものらしく、元気が良いとか云々は、天性のものでなく、相当量後天的のもの、つけやき刃であります。

あなたは其のコスチュームだけを見て下さつて—私の真実のところは、他の人々同様あまり知つてはくれませんか。いねちやんも云つてゐたとか、朝ちやんもこう云つた—とか、表面の現はれしか見てゐない彼女たちと同意見である事を、あなたはしばしば私に多少誇り顔に告げたものです。

たとへば三月末の病気の件について、朝ちやん、いねちやん、そしてあなた三人の同じになつた意見のことをお考へ下さい。私が何故『あのように悲観したか、みつちやんとよく似てゐる、極端から極端に走る』—こう云つて笑ひました。病氣になつた、スイ弱してゐると云はれて急に悲観する程は、病氣に対して私は神経質ではありません。其の他の病氣であつた時の諸事実を考へて思い出してごらん下さい。

—私の悲観、憂鬱は病氣をチャンスとしてぼんやりと乍ら考へ、且つ知つた私たち二人の其の当時の状態でありました。破壊的な方向に走つてゐる二人の状態であつたのであります。むしろあなたの愛情の冷却の点であります。あの当時の病氣でねる度毎のあなたの不機嫌、小言「女房の一人二人は死んでもよい」「邪まだから帰れ」と云ふ言葉に現はれ、^(ママ)そうして其の言葉を生み出した心情を悲しんでゐたのであります。不充分乍ら、何故かうなつたか—私の側の悪をも反りみました。其の点の不充分乍らの解決への方向を提唱してゐたのです。

併しあなたは其の状態を解決に導く一切の手段は全く反り見ず、反り見る余地なきものとして、高圧的に独断的に私の病氣を主として疎解の段どりをつけ、さつさと信州へ行つて来て、考慮する余地をも全く残さぬ様にしたこと、を悲しんでゐたのであります。

今もあなたは「冷淡になつてゐる事は事実である」と人事の様に、—さうです、私一人の問題で吾関せず顔にうそぶきつつ断言してゐるのです。前にあなたは度々、私が私だけを対象に行動する、単位は吾々二人の生活である事を忘れてゐる、とよくお小言を申されましたが、—其の後私が単位を二人の生活にして考へる様になつたら、—今度はあなたの方で、自分一個の単位に変へてしまつたんですね。私は何時になつたら、—アキレスの亀とかの如く、永久にあなたの考へに合致する時はないのでせうか。

さて、大分長くなりました。私の云ひ度い事は、要するに私も人をいれない点はあるが、あなたも私以上にいごぢであ

り、私よりもあなたの方が、たいていの場合事態を悪化させる。私の方があなたよりもす、直（問題多い）にあり、今は略）である。

以上、今回の私共の（或は私の）トラブルは、これもヘーゲルの正、反、合への一現象、ディアレクティクかともうめぼれます。だとすれば、すこしは進化したのかも知れませんが。又は其の逆であるのかも知れませんが。併し現在の心境は、あなたを恨みにくくではりません。此の前の手紙の様に感情的にいきり立つてもりません。まあ云つて見れば、今、外を吹いてゐる風の如く、サラリとしてゐる―これが真実、かけねなしと云ふところです。

あまり長々と書いて来ましたから、いささかだれもし、あちこち妙なところ、本道から大はづれ、と云ふところだらけでせう。実は今晚は七時から多めに勉強せんものといきまいてゐたのですが、一寸障害あつて八時半まで駄目になつたので―手紙をかく事にしたのです。

ネールのインディラへの手紙2―3よみました。中々すばらしいです。ネールは世界觀的に如何なる立場の人か、よくわかりませんが―□アン・ルーンなんかより、よつぽどはつきりしてゐるし、方々で万才、よくもかう書いた、と云へるところあり、まとめ方も非常に良心的であります。さうして一番良い点は基本的な点のつかみ方が正しく、且つ非常にわかり易いと云ふ事です。

近頃は何をよんでも感心ばかりしてゐます。ユダヤ人問題（但し、これは中々むづかしい）も、M・E伝もすばらしいし、アダムズのアメリカ史もすばらしいし、あなたのアメリカ史も立派です。―（全部よんでゐないのでありますが、現在までのところでも前に研究社用を書いたのとは、矢張り今度の方がまさつてゐる如く感じられます）

下痢が30日からつづいてゐますが―そして毎日睡眠不足ですが、すばらしく元キもよく、五時に起きて食事前に掃除、食後9時までパンツを縫つたりときものをしたり、9―11½まで勉強―（今日はリンカンのほんやく）、ひる食後1½まで炊事後片づけ、1½―3½まではまたく汗を流しつつ勉強、3½―5夕方掃除、庭水まき、すつかりすまして身体を洗つて、―6読書、7―10勉強と云つたハリキリようです。

朝になつてよみ返すと、長い割に意味のうすい手紙になつてゐます。でもまあ、書きなをす時間もおしい。他ならぬあなたへ出す手紙ですから、ありのまゝ清書なし、で投函いたします。大部偉さうに、いきまいてはゐりますが、実際はそれ程でもありません。矢張りあなたの事を、事々に心配し気にかけて乍ら、生活してゐる次第です。

謙一から幸子あて（一九四四年八月四日の記）

八月四日、晴

夕方近くから湿気を含んだ風が乱暴な平手打ちであちらうちまわして、とうとう（たうとう）出窓の開いたガラス戸を一つ叩き落しなどし、何となく気持が落ちつかなくてあなたに話しかけたくペンをとらうと思つてゐたら、警戒警報のサイレンが鳴り始めました。

今朝、あなたの八月一日消印の手紙を拝受。

勉強のプログラムは中々立派です。日誌へその点数（全部をやつたのを百点として以下適宜に）をつけるといいと思ひます。

地代論はムツカシイでせうが、さう云ふものへ食ひつくことは必要です。僕もやりたいものの一つです。リンカーンをもっと時間ふやしていいと思ひます。英文法より実際のものを読む方が力がつきます。辞書をうんと引いて、わからぬ所をお父さんにおききになるといい。ローザの経済史はいいでせう。

パクション・ボーイズ運動やトマス・ジェファソン、パトリック・ヘンリーの運動、レギュレーター等についてはホンヤクだけでなく、原語のもの（ジェファソン、ヘンリーを除いて）余りないのです。レギュレーターについては僕が書いたものがあります。看護婦さんの押入れの中にある僕原稿（南北戦争）の第四節に書いてあります。あの原稿をその中読んでみて下さい。まだ未定稿ですが、第四節は独立戦争のことを書いたのですが、之を、アメリカ史の僕の年表とてらしあはせ乍ら読むと、わかるでせう（四月にあなたへ講義したものの）。その中にレギュレーターだけでなくベーンのこともあります。まだ成功してゐないが、僕の歴史叙述の一つのタイプを試みてもゐます。

アダムスの米国史は大分前に読んだので、よく覚えてゐないが、要するにアダムスと云ふ人はビアド、シュレージンガー等と共にアメリカの歴史学界の一方の権威（まだ若い）に近い人物です。ブルジョア・リベラルとでも云ふべきでせう。尤もビアドやシュレージンガーよりは一枚下の格でせう。米国史（Epic of America）は一九三一年度のベスト・セラーズの一つで、アメリカ人がこんな風な親しみ易い歴史書を有することは、うらやむべきこととされていいものでせう。だがかう云ふ形式はアダムスが始めでなく、ビアドの Rise of American Civilization がさうしたものの最大の

傑作です（一九二七年、千八百頁（上下二巻））。

所でアダムスの米国史の欠陥は何かと云ふと、歴史の發展、段階的把握が充分でないと云ふ所にあるのでせう。その結果、いやそれと同じことのあらはれとして、歴史の主体としての民衆と云ふものの力の理解が不充分です。彼等の歴史では、ブルジョアの若しくは中産階級的（ミドル・クラス）層が歴史の推進力であり主体なのです。だから開拓農民のエネルギーやそのデモクラシーをしきりに説くのですが、その場合の開拓農民とは、ミドルクラスの開拓民としては上層部です。だから南部などでは、改革派プランター（ジェファソン、ヘンリー等）の立場をこえません。独立戦争が民衆戦争であること、民衆が土地と生活とへの要求から戦争に参加したこと、之等についての分析も洞察もなかつたと思ひます。独立戦争で農民の土地要求は決定的です。それを理解しないと、独立戦争は抽象的なデモクラシー理念の実現か、さもなければ商人達の商業的利害の追求かになつてしまふ。

南北戦争に於ても、黒人と南部小農民との活動なり動向なりについて、まるで平板だつたと思ふがどうでせうか。最もひどいのは再建時代で、ここではアダムスはピアドやシュレージンガーよりはるかに卑俗で淺薄で偽善的です。云はば歴史の主体としての民衆と云ふものを理解し得ないことが、南部再建の歴史で完全にアダムスをしてんぶくさせたのです。「再建」はアメリカの歴史家の試金石です。これについては今度の僕の本に多少書きました。

アダムスが歴史の發展段階的把握に不充分であることは、その篇別構成を見ればわかる（その点ピアドもシュレージンガーも同断）。即ち独立戦争も南北戦争もアメリカ史の一つのエピソードぐらゐの分量しか与へられてゐない（第一次大戦及びその後のアメリカについて殆ど書かれてゐないことも重大欠陥）。之等二つのアメリカ史上の決定的な意義は充分評価されてゐない。云ひかへると、レヴォリューションと云ふことを理解しないのです（形式的にしか）。之も歴史の主体の把握の欠除から当然帰結されること。

結局アダムスの米国史は、歴史理論上何等新しいオリジナルなものをもたない、ただ、米国史の權威が、上手に面白くアメリカ史を叙述した、さう云ふものでせう（歴史現象は可なり巧みにとらへてゐる、だが歴史の現象の本質的把握が脆弱。現象と本質との關係）。そして彼が旧来のアメリカ史より勝れてゐる点は、ピアドやシュレージンガーにならつて、経済的部面の叙述も忘れてゐないこととせう。（だが経済を基底として、政治と文化との社会的上部構造とのディアレクティクな運動は、理論的に把握されてゐない）。

以上は僕のうる覚えによる評価ですから、間ちがつてゐるかもしれない。だが之以上のことは、あなた自身が読んで判

断出来るにちがひない。

アメリカ史の篇別構成は僕の前の米国史（今井先生の名の）がほぼモハンに近いと思ひます。あれよりもつと南北戦争以後、特に世界大戦とニューディール時代を多くする必要があるけれど。（あれは小此木、鈴木（正四）二君からは、説明的すぎると云つて批判されましたが、林健太郎君は力作だとほめてゐるさうです）。

アンナ（英訳が押入れにあつた筈）についてのあなたの感想は、読み方がセツカチすぎるのぢやないかと思はせる。アンナは死ぬし前まではまだく／＼甘い有閑マダム的な要素をぬけ切つてゐない。所がウロンスキーとのさま／＼な生活努力の中で、次第にアンナの肉體的欲求が衝動的なものからのつびきならぬものへと發展し、彼女の行動の内的秘密が彼女自身にも認識されて来るのです。アンナはさま／＼の欠陥をもつとはいへ、根本的に現実と妥協し得ない「人間」だが、ドリーはさうでない。アンナはモニュメンタルな形象だがドリーはさうでない。アンナがモニュメンタルである点（彼女の悩みが歴史的悩みと通じ、彼女の方法をまだ持たない斗争が、歴史的斗争の一つであること）を理解すべきです。ドリーはやはり悩んでゐるが斗争してゐるのでない。彼女はいつでも妥協出来る。アンネットとシルヴィとの対比。

今日午前十一時から出て、日盛りを原宿の三河ヤで塩、石ケンを買つて来ました。うるさいので廿六群の近くへは行かなかつた。今日の食事、朝、ジャガ、豆、ナス油ヤキ、トマト。昼、ジャガ、ナス焼、ムシパン、トマト。夜、ジャガ、大豆、ナスヤキ、トマト。（ムシパンの中へは凡ゆる粉を入れる）。

一日水出ず。三回、下の井戸水を汲んで来る。午後二時の気温摂氏三十二度。午後九時廿八度。島村君へ電話をかけて、みつちやんの様子ききました。調子は順調らしいが、のびさうださうです。その中御見舞したいが、暑いし、電車はこむし、ついオククウです。

フクラシ粉を買つておいて下さい。

小笠原に敵艦隊あらはれたと云ふニュースですが、何と云ふ月のよき。風もオダヤカになりました。この辺は落下傘部隊のおりる可能性がある。

パンツは中々よろしい。二つもいらぬから一つかへしませうか。

之から一仕事です。では又明日。皆さんによろしく。僕、余り手紙出しすぎますか。こちらへはいくら来て大丈夫。今、露台へ出てみますと、風はオダヤカになつたとは云ひながら、満月の空を白い割合低い雲群がまるでアメリカの大

艦隊か大空軍編隊かのやうに、海の方南西から驚くほどの早さで押しよせ、とび去つてゐます。地上の黒い木立の葉ずれか、まるでそれらの雲群の飛翔の音かと思はれるほどで、冴えわたりまばゆいばかりに輝く月と云ひ、美しい星々と云ひ、それらの白い雲群の果てしない飛翔と云ひ、いつまでも見飽きない壮美です。だがその飛翔の物々しさが、戦局を象徴するやうで威圧的です。この追ひ風に乗つて、この明月にくまなくさらされた帝都を、今夜など空襲するのにもつてこいだと彼等が思つてゐるかも知れない。今、あなたのつくつたソデナシシャツと、白ガスリパンツだけのいで立ちです。ソデナシシャツはもう数回あらひました。此の頃のやうに水が出ないと、もう一つぐらいあつてもいいなと思ひます。今日は朝つくつたナスの油ヤキを夕方たべたせいとか、ジンマシンが出ました。或ひはムシパンの中の魚粉のせいかも知れない。南の風が湿気を含んで、肌が、さつきも洗つたばかりだのに、ニチャ／＼する。

幸子から謙一あて（一九四四年八月五、六日の記、七日の消印）

今晚はこちらに始めてのすばらしく暑い夜、いま九時半ですが、29度あります。何時もは二十二度位なんです。お母さん又病氣、食べすぎとのみのための睡眠不足から来る疲れでせう。一日何も食べず入歯をはづして、ポパイの口の様な格好でねてゐます。何しろ一度に大きなトマトを三つも四つもペロ／＼と食べるんですから、今までおなかを壊さなかつたのが不思議です。今日は朝は五時半起床、朝食前に二階の掃除、一時間かかります。七時食事。食後は後片附及台所掃除、9時まで一度におひるの支度もししてまつて、9時から11時半まで勉強、その後ひる食のためテーブルを出したり丼につけたり、食後は片附をして、1½まで夕食のためのおかゆ、其の材料準備、たきぎをもしてふたを閉めておく。これで四時まで、私もフーチャンも好き勝手に時間を使へます。（お母さんがゐる時は凡てお母さん流にしなればいけないので、合理化などもつての外で、みす／＼無駄な時間を使ひますが）四時から下の掃除、客ま、廊下、茶のま、六丈、不二子部屋、内玄関、庭はき、全部ふきさうじをして、庭に水をうって五時。十五分位で水浴（但し風呂場）、六時まで二階の廊下で読書、六―七時半まで夕食、後始末、7½―9時まで勉強と云つた具合でした。暇な様で案外暇ではありません。掃除も炊事も、原宿時代とはスケールがすこし大きいから、相当の体力を要します。間に客のための応接、茶だしもあり、早苗の世話が随分邪まを致します。

早苗も此のころ始んど定期的に、午前中私の勉強してゐるところにやつて来て、必ず三十分から小一時間、絵の本を見

てゐます。裸体美術集が特に好きな様で、毎日他のもみませんが、あれは確実に始めか、終わりに見てゆきます。

先づ以上の様なコースで、毎日を送つてゐます。さうくくもや井戸のトラブルでポンプが壊れ、道路を横切つた前の家まで貫ひ水ですから、水汲み丈でもうんざりする位、一日の中何へんも代るくくでゆくのです。貫ひ水のつい手に目方を計つて来ました。六月始め九貫八百でしたが五〇〇匁減つてしまひました。下手をすると、又八貫に戻り相です。下痢と猛勉のせいと、先日来の心理的斗争の結果でせう。

竹輪事件の手紙拝見、始めて聞きました。困つた婆アさんですね。廿六群の輿論はどんなだつたのでせう。大体に於て婆アさんに反対なんでせうね。今までは昔の大家気取りで偉張つてゐられたでせうが、これから東京にも空屋は出来て来る一方ですから、落目ですね。貸家フツテイが彼女をいい気にさせすぎたんです。流しや桶もずるいことをしたのね。ゴウダツも同様ですもの。それにしてもあの日和見の辻岡さんも今度はよつ程カンにさはつたんですね。それであの婆アさんは腰を抜かせばよかつたのに。

なにしろ引越は随分大変でしたね。もう今どこぞ、すつかり終つたんでせうね。手紙をみる毎に、オヤくくまだ終つてゐない、併し今度こそ終るだらうと、何辺も思つたのです。まだ何か残つてゐるのですか。よくもあのせまい家にそんなにあつたもんですね。

毎日くくポテトとおやきではどうでせう。お米をすこし食べなくては。米を渡して、小使さんに一度か二度位炊いて貰つたらどうでせう。それにしても魚つけは一度もないようね、配給ないんですか。

それからシーツは、こちらにも貰へ相なものがありません。布も、白い布と云ふ布は皆ホータイや手術用のカバーになつてギリくくですの、ゆかたをほどいたもので一枚作りました。白くないので、氣持わるいかも知れませんが、肌ざりははわるくありません。粉を少々チヨロまかしましたから一諸に送りませう。ペーキングパウダーはまだありますか。粉は袋にいれず、新聞紙に唯いれてありますから、出す時注意して下さい。

仕事の方はうまく進展してゐますか。此の頃の手紙は外の事が主で、勉強の事はあまり書いてありませんね。日記の様な克明な報告、時間をとるでせうから、一あんなに私のためならする必要ありません。

明日は荷物の未解のものをとくこと、送つて来てあるぼろの整理、それからあなたの給を仕立屋にもつてゆくこと、がヨ定のプラン―日曜ですから勉強は休みです。勉強も、あまり毎日ガチくく詰めてするのも一能率は実際は上らぬ様に思へて来ました。

アメリカ史にしても、あなたの来る前にフェデラリストの時代までやつて居たのですが、其の後十日以上立つてよみ返して見ると、独立当時のところなどよみ落してゐるところ―実は充分な理解が出来てゐなかつた―そして今又発見したと云ふ―が、あちらこちらにあり、あの時、あなた〔観〕聞いた北西部領地条例の意味など―(その生れた過程、生れねばならなかつた原因)、よく解つて来ました。私はあの時は、その持つ結果から云つての「意味」にばかり注意をよせてゐた事がわかりました。そんな風ですから、長くかけて、何度も何度もよみ(他のものも、例へばアダムズのもの)、すこし行つたら、又戻つてよんでみる事に致します。何時になつたらあなたの書いたものを理解出来ることか、此の調子では前途みち遠しです。

M・E伝、ユダヤ人もその通り。これもユル／＼〔原文〕楽しみつつかみしめてゆきませう。どうも私は勉強に対して、質より量を尊重するところがあるんですね。今度は質を勉強したいものと思つてゐます。

十時

では今夜はこれ〔や〕でさようなら

八月五日

謙一様

幸子

八月六日

今日、坂田婆アさんから葉書が来ました。引越の件には何もふれず、早く丈夫になつて東京に來い、まつてゐる、と書いてありました。

謙一から幸子あて(一九四四年八月五〜六日の記)

八月五日晴

今こそ夏らしい夏です。毎日のこの日照り、ぎりぎり焼くやうな暑さ、寸毫の妥協もない青空。

いつもなら小笠原南方洋上に発生して不気味に本土を狙つてくる颱風を心配するところでせうが、今はアメリカの空軍がもつと現実的でもつと悪意あるもつと怖ろしい危険です。昨夜は全く空襲にうつつけのやうな夜でしたが、警報が

とけたのは、この夏の暑さの重みを一カサだけ減らされたやうなものです。

今日はジャガ芋20貫を防空用に約束しましたが、景品にこつそり大きなスイカをくれました。まるで鬼の首でもとつたやうな気になりました。分室へ帰つて八人で食べましたが、久しぶりで味覚の極楽でした。みんな勢余つて青い所まで食べ、一人が昔乍らに赤い部分を残した食べ方をして一せいにケンケンゴウ／＼の批難を浴びました。

伊藤書店の鶴田君が校正をもつて来ました。もうスイカはなかつたが、井戸水に冷したトマトは彼を喜ばせました。校正も四分の三終つたわけです。鶴田君には感謝せねばならない。始めは百五十枚ぐらいの予定だったのを七百枚にしてしまつたのですから。それでも彼は、伊藤書店で出す本として今度のプランティションが一番出し甲斐のある本の一つだと云ひ、最近校正でまた読みなほしたらしく、大いにほめてくれました。言葉が少しむつかしすぎる所があるが分析はたしかだし、今一番読まるべき本だから何とか空襲が来るまでに出したいと云つてゐます。僕としても最初は十日ぐらいで百五十枚ぐらいに書くつもりだったのが、書いてゐる中に果てしなくふくれ上り、次から次へと長くなり、結局予定の最も書きたかつた歴史を書けずに、余り得手でない統計数を中心とした現状だけで七百枚になつて了つた、と云ふ風ないはば計画性の不十分な、書きなほせるなら全体を書きなほしたいやうなもので、何だか出すだけのテイサイが整つてゐないのではなからうかとの不安もあつたのですが、鶴田君がその編輯者（彼自身昭和十六年に文部省スイセンになつた著書があつて、僕よりも著者としても先輩）としての見識を以てほめてくれたのはうれしかつた。僕も校正してゐて内容が実に面白いので、早く人に読んでほしいとしきりにせかれます。自分で云ふのもおかしいが。たしかに歴史そのものの面白さ、現実の面白さ（ダイヤモンドの松沢氏が「大変面白くて有益な」と云つてくれたが）なのです。僕よりもつと歴史方法ががっちりしてゐる筆力のある人の手になれば、どんなに面白かつたでせう（面白い所か何とも悲惨な憎むべき現実ですが）。

あなたに対する僕の一切の不親切、我が儘、無理解、高圧的態度、「いこぢ」、それら一切のあなたを悩ませ苦ませたもののおわびを、僕のこの労作でかへるのは卑却ヒゲツでせうか。僕は衷心から、この労作をあなたへ捧げるのです。献辞は気障だからよしましたが（一切の個人的なことは割愛しました）、僕の心はわかつて下さるでせう。

まだ／＼本になるまでには時日がかかり、従つて戦局によつては日の目も見ずに終る可能も多分にもつてゐるが、僕は、出来上る日のことばかり此の頃考へてゐるのです。考へてみれば、どの本にもその作者とその関係者の深い喜びや悲しみ、苦しみや昂奮やが含まれてゐないものはないでせうが、僕の場合はただ処女作だと云ふことでなく、その本のもつ

意義が益々重大化しつつあることと、しかも危険が益々多くなつてゐること、さう云ふ切ばつまつた外的条件のため、若し出ればどれほど嬉しいことか。しかもそのうれしさを本当に共に出来るのはあなただけなのです。

今日は久しぶりにおひるにチャーハンをたべました。之は、ベン当の御ハンを貰つたので（米と引きかへ）、油と玉ねぎとなすとトマトと白すぼしとお昼に作つたのです。中々おいしく出来ました。あとは（朝と夕）いつもの通りジャガとなす。メリケン粉もあと一回でおしまひ。

今夜も月はステキによろしい。センタク二つ。

八月六日。晴一時曇。

あなたの四日付手紙を拝受。あなたの気持に対する僕の同情の足りなかつたことは自分でも悪かつたと思つてゐます。だが、実際にたしかにあなたへの僕の我がままな不満から、意地悪い気持も働いてあなたの疎開したがらない気持をかへりみずに、独断的に強引にやつて了つた点もありましたが、それでも基本的にはあなたの身体への憂慮が第一だつたことは絶対事実です。僕はあなたのいつもの帰りが遅くてさへ、自動車事故か何かあつたのでないかと心配するくらいで、空襲の時のあなたへの心配は、あなたが思ふよりは大分大げさなのです。その証処には、あなたを疎開させてから後あつた数度の警戒警報に、はるかに安心したのんびりした気持でゐられたものです。自分でも驚くほど。僕自身は応召その他、生命の危険はいくらでもあるので、此の頃余り自分の生命に執着をもてないが、それだけにあなたの生命への執着は強くなつてゐるのです。

あなたの健康への僕の同情の不足は本当に云ひわけのしようがない。あなたに健康能力の限界以上のことを要求して来た我がままは、何と云はれても仕方ありません。僕もそのことはわかつてゐながら、つい自分中心になつて、要求を多くしました。

だがあなたのお手紙はやつぱり僕の仕事について殆どふれてゐない。僕の今年になつてからの一切の行動の根拠が、何よりも、戦局に極度にせかされた自分の仕事への、他をかへりみる余⑧いもない執着にあつたことを、之までのすべての手紙でくり返し／＼云つて来たのに。僕がその仕事をすべてのことの口実にしてゐると批難されてもやむを得ないと思ふほど、実際に僕の生活に於ける仕事の意味の大きさはこの半年以上、今までに全くなく大きかつたのです。今でもさうです。それは僕のプランティションを出すについては、どうしても調査会の仕事がある程度やつておかないといけ

ないから、結局二重三重に切迫して来てゐたのです。あなたが僕の仕事を理解すると云ふことは、仕事の内容だけ理解するのでなく、その仕事にかり立てられる内的圧迫の下の僕のおせりをも理解してくれる必要があつた。そのことは今もあなたは理解してゐない。この一月、二月、三月頃、書けない書けないで悪戦苦斗^①の限りを尽してゐた時、あなたはその僕の苦しみを殆ど理解してゐなかつた。だからこそ云ふ手紙も書けるのでせう。

だが、やめませう。お互ひに自分のことばかり云つて、それに対する相手の同情の足りなさを責めても肝腎のことは一向はかどらない。二人とも、疎開までの数ヶ月、お互ひに相手に不満をもつて来た、それは僕には仕事と云ふ理由があり、あなたには健康上の限界があつて、夫々相手を中心にする心の余裕がなかつたからだ。そしてその僕の仕事とあなたの健康とのためには、一時我々の心情生活を犠牲にして別々に住むことが必要だつた。トルストイも云つてゐるが、夫婦生活に於て何か仕事をやるためには完全な二人の一致結合か、さもなければ完全な分裂が必要なのでせう。あの時僕の仕事のために完全な結合が望まれなかつたとすれば（あなたの健康上の理由もあつて）、やはり別々に住むより仕方がなかつたと云へないでせうか。しかも戦争は、僕の仕事を待つてくれないし、あなたの健康を東京で恢復させてはくれない、それ所か、いつ応召があるかわからない僕のこととはとにかくとして、あなたの生命は空襲で危険にさらされる。事態は「高圧的」でも「独断的」でもテキキパキと速かにちゆうちよなく運ぶ必要がある。お互ひの心情の問題はあつても解決出来る。先づ解決すべきはあなたの健康と生命との安全、僕の仕事の完成だ。冷酷といはれ、意地悪といはれ、えこちといはれ、自己中心といはれ、何といはれようとも、あの時僕の仕事を完成するためにはああするより外なかつた。若しあの時疎開してゐなかつたら、きつとまだ原宿で不快な隣近処に悩まされ、重荷の同居人に神経をいらだたせ、それらや仕事の進まぬいらだちをあなたにぶちまけ、あなたも反撥し、健康も恢復出来ず、配給物（今は八百屋も魚屋も一カツして魚清とその隣の八百やとなり、買ふのに三十分もならばねばならないのです）で苦勞してゐることのでせう。

さう思つて、あの時の僕の無理解、えこち、自分勝手、浅薄、等々すべてを許して下さるわけにいかないでせうか。卑却^②といはれようと何と批難されようと、ここ半年余りの僕のあなたへの不当な態度のすべてを、僕の「プランテイション」^③、僕的全精神をこめた労作でおわびさせて下さい。この労作は、それをつくり出すためにあたへたあなたへの害を、充分つぐなふだけの社会的価値があると自信を以て云ひます。これをあなたへ捧げることで、僕のいけなかつたことをすべてつぐなはして下さい。

リンカーンのほんやくは、原稿紙へていねいに書いて行くといい。ネールは殆どコムニストです。今日あなたの手紙と一緒に正木氏のハガキ（移転通知への返事）が来て、「新しい時代が近づきつつあります。理性と愛とが支配する時代が。天照大神の御精神が闇を通して輝き出さんとしてゐます。私は闇夜の明鳥貴著を待望す」と云つて来ました。彼は僕がジョージア・ニガアの話をして以来、僕の本を待つてくれてゐます。

今日は主食はジャガと大豆で相かはらずでしたが、吉武君からもらつた魚の油漬カンヅメを開き、その油で玉ねぎとなすといためてたらふくたべました。プシがゐれば一カン魚をやりたい気がしました。プシのやつ、どうしたことやら。哀れでなりません。時々思ひ出しては、ここへつれて来られたらよかつたと思ふ。夜もナスとジャガとで夕食をすましてゐたら、小使さんから精進天ぶらをくれました。中々うまかつた。とにかく栄養たつぷりでせう。では之からヨセ中継でもききませう。

幸子から謙一あて（一九四四年八月七日の記）

お手紙有難う。校正で大変ですね。本当に本が出てからなら、召集来ても心残りないでせうが、今は困りますね。今月一杯は確実に大丈夫だと思ひますが。

今日（八月七日）富山知事^{官カ}房出で、沢田さんからブリタニカ二冊郵送して来ました。一応そこへ受取つた旨の葉書を出しました。

和歌山からも手紙が来ました。寛ちゃんがり^カさんを無理に誘つて、朝鮮へゆく相ぢやありませんか。自由な時のなくなるのを知つて、追はれる様に短い間でも旅行したいのでせうね。

鎌倉のみつちやんはまだお産しない相で、心細い様な事を述べた手紙が、お母さん宛来てゐます。教次さんも此の秋に信州へ疎解^解する決心だ相で、みつちやんも秋になる早々、来る相です。お父さんはラジオを聞く毎に心配してゐましたが、昨朝はとうとう朝子、稲子に帰つて来る様に、東京引き上げをする様に、手紙を出せと申しました。今月末と云つてゐるうち十五、六日ころにはもう東京空襲あり相ではありませんか。警報の出る毎に、そちらにゐる人々を心配するの、相当心の負担です。

今日は物凄い土砂降り、測候所の人に来ての話に、大暴風が来相だと話してゆきました。家中しめっぽく温度も下り、

モンペをはきました。昨日の手紙に書いたお母さんの病キは、もう良い相で起きました。今日一日位ゆっくり床に就いてゐれば皆大助かりなのに。今朝は早くから起きて、皆、ね坊すぎるとか、掃除が粗末とか、いろいろ不足を云つてゐます。皆、各々、それなりに一生懸命やつて、ほめられる位だと思つてゐたのに、大あてはづれ。朝食もダラ／＼雨だれの如く続く小言で、折角の生卵の味も落ちました。揚句のはては猫のわる口、篠田さんに返してしまへとか、猫を好きな奴はお妾根生とか、みつちやんそつくりの事を云つてゐます。お茶の時は、何かの話から又もや不機嫌ぶり返し、皆恩知らずだとか、本ばかり読んで家の事をそ□つばにする女は大嫌ひ、本ばかり買ふ男は一番悪いと云ふところまでに及びましたが、段々と御機嫌をなす事に成功致しました。

私は家の事も随分やつてゐるし、掃除も炊事も私の方法でなく、お母さん流のシステムを採用して好きな様にやつてゐるつもりですし、自分の我など一度も通した事はありませんが、それでも中々及第になりません。ふうちやんの様に判然と反対した事もないけれど、心の中で時々肯定してゐないと云ふ事を知つてゐるからでせうね。

封建的家族主義制度に長年苦しめられたお母さんであり、その持つ非合理を身に沁みてゐる筈のお母さんが、一矢張りその激しい支持者であるには嘆かれます。殊に早苗に対する不二ちゃんの態度を非難する時の立場は不合理其のもの様に見え、不二ちゃんが気の毒になります。不二ちゃんが時間でも仕事でも合理化し、読書の時間や縫ひ物の時間を持つ事は、お母さんには赦し難い罪惡に思はれるらしいです。

お母さんの不機嫌は家中に暗影を投げかけます。従つて私も祐々（おと）と机の前に座つてゐる事が出来にくく、さうかと云つてウカ／＼しても用事はなし、タイフーンのすぎ去るをまつ外ありません。

凄雨で道路をはさんでの流はあふれ出し、菓子屋の隣家は便所に水がつき土間にあふれ、其の汚水が道路を流れると云ふ事になり、道路にはみのかさつた人がいつぱいです。さうして此の雨は中々止み相もありません。どんな事になるか、家でも茶のまは雨洩りが始まりました。運送した荷物―本は此んな事では、どこかの駅で濡れてゐないかと心配です。あんまり凄雨降りて外は白く見えます。一寸恐ろしい気がして来しました。

西山さんは九州の松浦郡有田町に落ちつき、そこから至極のんびりした手紙をよこしました。大金さんも先月末に田舎へ発つた筈。どうしたのか未だに手紙が来ません。

さつき下でジョンソン博士講述、高木八尺訳と云ふ米國三偉人の生涯と其の史的背景と云ふ本を探して来ました。今晚は外の勉強中止で、これを読みませう。

小包みは、今日出しても濡れる様な気がしますから、明日出しませう。

あんまり毎日手紙を書いてゐるので、あまり書く事もないですが、余白があるので、何とか埋め様と思ひます。

今日のあなたの手紙、十年前と現在の相違でも、先頃の手紙でも、しきりに現在の生活は二人の相互関関のおぎなひ合ひだと、あなたは述べてゐますが、残念乍ら私の方は何等あなたに与へ得たものはありません。どんなに考へても、いくらか思ひ当ると云へるのは経済的な点丈です。これも実際はたいした事も出来なかつたのです。私がお金をすこしでも取つた事は、むしろ私たちの生活を、あなたの云ふ如く、勘定高いものにもしたし、私にしても働いてゐるんだから、と云ふ意識を常に忘れさせず、あなたに恩にきせる心持をもたらし、私のケツ点を尚も増長させもし、健康も害し、最も重要な悪は今年始めあたりからのトラブルへの前程程を作つた事だと思ひます。すると私は矢張り、あなたに何も与へ得る事が出来なかつたのです。

うんと手前味噌に云へば、私の如きぢやく／＼馬女房を持つた事により、あなたは相当の苦々しい経験を積み、―それがあなたの物の考へ方をきたへる役に立つたと云へる事丈でせう。私があなたに持つた不まん、―対外的責任回避的態度もなくなつた様ですが、それも以上から来た結果でせう。

私はみつちやんと生活し、お母さんを見る事によつて、自分の欠点をそのまゝ目の前にさらけ出されてゐる様につくづく思へて、時には顔をそむけたくなりません。

主観を押し通さうとすること。すぐに話を感情的に受け取つての急激な反応。反射的応答。早のみこみ、早合点。悲観的方向への傾斜。猛烈な自己主張。宣伝。抱ヨリ力皆無。限度なき事。好き嫌ひの激しさ。そして無考へにそれを表現する事。平静を保つ事のない事。自己への人の批判を赦さぬこと。等々、共通の欠点です。

彼女達が其等の欠点をさらけ出す時、私も私の非難された点（それまで納得出来なかつた）が、実に明瞭に拡大強化されたかの如く見えます。一口に云つて見れば、以上の欠点は皆マルクスの所謂「同類生活」と相容れぬもの、不合理なもの、真の人間生活から分離されるもの、普遍でなくて個別なのですね。市民的利己的なものの表象ですね。そして其の中でも最も卑卑少なもののなのですね。

すだれがちぎれ相に激しく揺れます。道路の騒ぎはまだ続いてゐます。では、さやようなら。

お金があつたら、そして暇があつたら、白いネックレスを一つ下さいませんか。去年買ったようやな少少さいつぶが何重にもつた、（ネックレスの簡単な図があるが省略―編者注）こんな風なのを。白でも緑でも、青でも朱いろでも結構です。

謙一から幸子あて（一九四四年八月七〜九日の記）

八月七日、雨風。

久しぶりの雨だと思つたら、「かうちよい〜降ると作物によくない」とお百姓がなげいてゐました。午後から颱風のやうになつて、夜は雨戸をすつかりしました。原宿のボロ家とちがつて、颱風でも悠々としてゐられます。

今日は一日原稿（独立戦争）を書きました。二百字詰六十枚。あと十枚か二十枚を今夜中に書きます。今丁度九時のニュースで一休み。明日菅野さんに提出するので中々苦戦のてい。

今朝は小使さんが一時間まちがつて六時半に起きたため、僕がコンロを借りる時間が半時間しかなくて、ジャガをゆでてナスを油焼きするのがやつとでした。だから朝昼晩とジャガとナス、それにキウリをなまでかじり、トマトをたべました。トマトもぼつ〜おしまひで、此の頃のはくさり易い。

夕方自分で火を起してみたが、炭が悪いのでカンシヤクが起つただけでした。お湯だけ下でわかしてもらひました。いろ〜たのめばしてくれるけれど、なるたけ一人でやらうと思ふので、それにしても今夜は空腹でキウリを一本よけいかじらなければならなかつた。カボチャを一つ買ひましたが、やはりジャガが一番簡単でいい。あと一貫五百匁ばかりあるから、まだ暫くつづけます。ナスにもやや飽いて来ましたが、外に買へる野菜がないのでやむを得ません。

あなたの万年筆をもつぱらつかつてゐます。割合書きやすいです。今日利ちゃんから便りがあつた。今二人とも有田へ帰省してゐます。のんきに腹一杯たべてゐることせう。

明日小此木君が或ひは娘インディアラの第一部をくれるかも知れない。彼も疎開します。もう荷物も出たのでせう。

今日は別に書くこともない。外はヒュウ〜風がたけり、少し開いてある東の窓から乱暴な風がふき込んで来ます。昨夜の寝不足で頭が重く、空腹のため元気がありません。明日は本室へ行つていろいろの人に会ふのに忙しいけれど、何かうまいものでも食べて来ませう。朝はやつぱりジャガで、小さいのを五箇、もう洗つておきました。今日は一日水が出て都合がよかつた。天気がよくてセンタクしたい時は水道の水が出ないし、水が出てセンタク出来る日は大い雨で皮肉なものです。之で水道が普通に出てガスが使へれば申し分ないのですが、ではもう一馬力かけませう。

八月八日、曇、風雨はやんだが、風は相かはらず乱暴です。

昨夜はあれから二十五枚ばかり書いた時、停電して、マツクラの中を手探りで床をとつて寝ました。十二時半ごろでした。今日は風の中を午前十時頃本室へ行き、二人の訪客と会ひました。小此木君は先月来点呼で坊主頭になつてゐました。娘インディラ第一部をもらひました。その中送りませう。

芦野氏に原稿を出しました。六月末の約束がこんなに遅れ、しかも実はまだ書きなぐりの草稿だったので、弁解の言辭ばかり今朝から考へてゐたのですが、一向弁解の要はなく、独立戦争の内容をはなしてレッキーのイギリス史を買ひそこなつた話をしたら、すつかり同情されて、誰かに借りてあげようと云ふことになり、レッキーが借りられたらまた補筆することを約束して上機嫌でパス。彼は外の人には大分きびしく辛辣でも皮肉でもあつて、やりにくい相手らしいが、今までの所僕には殆ど常に紳士です。それなのに彼の方の仕事をいつでもあともわしにして、良心にとがめられてゐます。「芦野さんは菊池さんには怒れないんだよ」とは一般の定評になりかかつてゐるので、僕も少しい気になりすぎてゐるやうです。警戒ませう。

昼に少しおそくなつて銀座に出ました。此の頃ジャガばかりだから今日は何か栄養をと思つてケテルスと信華とへ行きました。どちらも貧弱だしまづいし、之ちや家でジャガとなすびの方がよつぽどうまいと思つて、夜はやはり帰つてたべることにしました。交詢社でダイヤモンドの松沢氏と会つて、ダイヤモンド日報の原稿打ち合はせをやりました。廿日頃までに書く予定にしました。形式がちよつとかはつてゐるので面白いでせう。南部のことはいろんな形に書いてみたいのです。

午後三時半から本室で、経堂分室の小使さんの壮行会がありました。それに今日はフクシンツケを三百匁互助会で配給を受けました。三百匁で一円五錢。甘味はないがさう悪くない。干ピヨウ百匁も注文しておきました。サツカリンも。研究室へ住み込み自炊をやつてゐると、大分人から親切にされます。芦野氏も住み心地やその他をきいてゐたし、「奥さんはどうですか」と外交官らしい如才なさも示してゐました。自炊は僕には何でもない所か、楽しみでもある点があるのに、外の人にとつてはまだく大變なことなでせう。

夕食は帰つて火を起して（小使さんがすつかり用意しておいてくれました。彼は明後日出征で、妻君と一緒に自分の兄さんの家へ行つて今日から留守です）カボチャを煮ました。塩ゆです。それとなすとジャガとフクシンツケ、之が今夕の食事。昨日の夜、塩鮭の切身一切の配給があつたが、之は明日でも。

こんな風な日記はあなたには退屈でせうが、まあつづけませう。

今日は受信無し。電話は鈴木正四、市川米彦。市川君が出した手紙は原宿から僕の方へ転送されずに元へ返送されたさうです。今日面会に来た藤田君もさう云つてゐました。外にも大分返送されてゐるのがあるのかも知れませぬ。

八月九日、晴、風。

あなたの五日付手紙を拝受。お母さん御加減悪いさうで心配ですね。不二ちゃんはいかがが。暑い盛りで毎日うんざりでせう。勉強はあせらず、じつくりと現実とつづくつもりでおやりなさい。大切なのは目的よりも手段です。常に手段が目的より優位にあります。堆積された知識の状態よりも知識の獲得の道程こそが生活です。さう云ふ立場から、読書と思索と生活経験との三位一体で認識と行為とを深めて行くべきです。アメリカ史を学ぶことが、その三位一体の一つの主題となり、その主題を凡ゆる緊張を以て凡ゆる部面から追求して行くこと。従つてアメリカ史の中に、我々の現在の生活につながる人間行動の内容、その認識と実践、そのありかたを探究し、そして我々の世界観をきたへ、歴史認識、人間認識、生活認識をきたへることです。さうすればあせらずにすむ。(新聞を忠実に丁寧に読むこと。世界戦局と世界政治への関心を持続すること。)疑問は手紙におかきなさい。書くことは、言表することは、観念をはつきりさせ理解を深めさせます。僕も手紙で出来るだけ答へて行きます。そして一緒に考へて行きます。歴史の勉強と一緒にあなたの周囲の人間関係、それが歴史的現実の中でいかに変化して行くか、また成長する子供の認識力の発展、その子供の生活への歴史的現実的作用、それらを観察し洞察し、アメリカ史にあらはれた人間行動の諸形態と結びつけて普遍と個別とに於て理解して行くこと。僕のアメリカ史は、歴史ではなく、歴史解釈ですから、アダムスの方がいいでせう。また、僕の原稿の方がいいでせう。

我々の従来の一々で掘り下げの足りなかつた点に一つ気がつきました。僕はまだ真の愛情殊に性愛について、それを人間の所有感情とシユン別してゐなかつた。真の人間の愛情と所有感情との差は、前者は自己を相手に没入させよう、自己を相手に結びつけようと云ふ風にあらはれ、後者は相手を自己に結びつけよう、相手を占有しよう云ふ風にあらはれる。前者に於ては相手の人間性の全的な昂揚された承認があり、後者には本質的には相手の物品化がある。例へばドンキホーテの中にありましたね、或る学士か博士が、自分を好いてくれない女性に気狂ひになるほど惚れて追ひかけまはし絶望し恨む話が。自分を好いてくれない相手を愛して、自分のその一方的愛情に反応がないと恨んだり怒つたり

する、之は真の人間の愛情でなく所有慾にすぎない。僕が貴女にはじめにずつと感じて来たものは、この自己をあなたへ没入させたい慾望だった。僕はこの種の自己没入の慾望を、自己没入的結合の要求を、永島、浅原、Miss T、あなた、中島君、之等の人達にもつて来、そして真にそれを満足させ得たのは、あなたに対してのみだった。中島君が健康だったら、それを満足させてゐたかも知れない。中島君との最初の一年（あなたは僕を八方美人だと批難したが、M女史に対する僕の感情や態度はたしかに不用意であなたに批難されても仕方のない――遊戯的要素がないではなかったが、中島氏との友情はちがつてゐた）のあの二人の懐しさ、毎週二、三日は会はずにゐられなかつたあの懐しさは、ただあなたへの恋情以外にそれに近いものもなかつたやうなものだった。この頃のあなたとの関係はどうか。やはり僕は、自分をあなたに没入させ、あなたを僕に没入させた基本的欲求をもつて来てゐる。それが、はじめの頃のやうな熱情的な強さをもたないにしても、いつでもその欲求であなたに対して来た。それがうまく行かない時、その不満からいらいらし、前便でのべたやうなあなたへの正当でない態度が出て来たのだ。もう一つ、僕の全生活の没入を要求する仕事が出て来、その仕事があなたの生活と無縁だったことも不満の原因だった。

結局同じことを書いてゐるやうだが、我々の今後に於てお互ひをお互ひに没入させる方向に心情生活とまた理性生活とを進めて行かねばならない。

今日は上北沢分室（独研）をおひるから訪問しました。その前、十一時頃にアサちゃん遊びに来ました。鎌倉へミッチちゃんのお見舞ひの途中寄つてくれたのです。彼女も疎開しようと思つてゐると云ひました。僕も賛成しました。大宮島をとられたら、もう確実に空襲も来るでせう。今度は小笠原島ですからね。東京も街中の防空壕に掩蓋がつけられ、省線に沿つた家はこはされ、まるで震災のあとのやうです。学童疎開と云ひ何と云ひ、すべて真剣味を帯びて来ました。上北沢はツル君の家です。「ツルの奴、圭介の友達でなけりやぶんなぐつてやるんだが」といきまいてゐた上田君が、そのツルの家に行かされたのは皮肉みたいです。だが中々明るいいい家です。上田君の次男（七月出産）を見に、且つ彼の作つたナンバを食ひに、明晩でも行かうかと思つてゐます。招待を受けたのです。ナンバ（モロコシ）百本作つたさうで、彼もたしかに上田作之助の名にふさはしい男になつてゐます。「家では朝からオムツの洗濯と子守りをやり、上北沢へ来ては安間老のオ守りで遊んでやらんといかんでくたびれるよ」と、当の安間老（将棋相手）を前にガイタンしてゐました。

今日も朝、昼、晩と、ジャガ、カボチャ、ナス、フクジンツケ。大豆はもうなくなりました。トマトもぼつ／＼ありま

せん。上北沢ではオデンが買へるとのことでしたが、実はキウリのオデンださうで、今日は休みでした。経堂から歩いて三十分。

上田君と将棋のモハン試合をして平手で一勝一敗。「たしかにうまくなった」と認められました。

幸子から謙一あて（一九四四年八月八〜九日の記、九日の消印）

八月四日附のお手紙、夕食前に受けとりました。今朝も手紙書きましたが、いまちようど半端な時間ですから、又書かうと致します。

夕べの雨の激しさ、夜中に松川がゴ〜音高く流れて恐ろしい位でした。で、今朝起きて歯を磨き乍ら松川端へ足駄を穿いて行つて見ました。床の中であの流の音を聞いてゐた時は、川べりの畑はすっかり駄目になつてゐるかと思像してゐましたが、すこし流れた位でした。併し水はだく流渦巻くと云ふ風に流れてゐました。空は未だくもつて何時又昨日の様なのが来るかわからぬ様子を示してゐました。池の水のはいつて来るところは、どろで詰つて水がこなくなりました。あとで聞いたら、昨夜の半鐘は鼎の駅が水で大こん雑を極め、電車は通じなくなつたとのことでした。家の前の肴屋（雑貨）も浸水して、どまは水びたしたつた相です。あの少ちさい流も今朝もまだ狂気の様になつて合ひ乍ら流れてゐました。其の中で大きい子供が、池がこはれて流れこんで来る鯉をあみで取つてゐました。

時間割はお賞めにあづかつてうれいですが、又一寸変更致しました。但し時間の区切方です。結局一週間に、

アメリカ史	十二時間	
リンカーン	六時間	
グランマー	四時間	
経済入門	四時間	
経済史（ローザ）	四 "	40 時間
M・E <small>（原文）</small>	四 "	
ユダヤ人	四 "	
地代論	二時間	
		これ丈やる事に しました。

併し此の時間割は外的障害によつて破られる事も相当あります。今日はそれもありません。身体も一寸わるく消極的で、午後二階でねころんでピョートル大帝をよみましたし、夜は食がおくれ、お風呂もあり、洗髪、洗濯をやつたりしてゐるうちに一〇時となり、午前中の三時間しか出来なかつた位です。あせらず怠けず誠実に（自分に對し）やつてゆきませう。

質問の件のお答へ有難う。レギュレイターのことは、それでは原稿を探して此のチャンスに読みませう。アダムスの歴史観、さう云はればさうの様であり、私にはまだよく解りません。但し、もうすこしと思ふところでスーツと通りすぎるなア、とは感じて居りましたし、あなたの云はれる如く憲法制定のあたりは、全く同感でありました。

何故物足りなく感じたかを、よく／＼解つたように思へますが―真実に解つたのかどうか。確にアダムスは、ミドル・クラスに主体を置いてゐる様です。さうして全体の書き方は面白いけれど、相当粗雑にふれてゐるところ（併も読む方ではそこをもつと精く知りたいところ）も目につきます。私には何も彼も物珍らしく面白いのでせう。今は何でもどんなよくに味はつて見てみようと思つてゐます。

パンツはあれからあと、もう二枚（つぎはぎもいれて）作りましたからおかへし下さらなくてもいいです。ウエストは適当な布があつたら作りませう。こないだからさう思つてゐたのですが、ぼろ布袋の整理が何時になるか―なので。

代用ココアがまだ四、五缶、竹下商店（うちの前）にありますから、買つておきませうか。あまりおいしくないけれど、どうしてそんなに水が出ないのでせう。空襲でもあつた時は困りますね。それからあなたのあるところには防空壕があるんですか。

小使さんがゐらなくなつては調査会も困るでせうし、留守番は男はあなた一人では何かの時に全く困りますね。あとの補充はつくのですか。空襲とか火事とかの時、頼りないでせう。

今日はもうねむくなりました。又明日、書きませう。

八日夜

九日あさ

今朝小包み送りました。代用シーツ、フクラシ粉二、林ご三個、メリケン粉も½。

作りあげてから代用ココアのことを思い出しましたが、次の時のにいれる事にしませう。

幸子から謙一あて（一九四四年八月一〇日の記、一一日の消印）

久しぶりに暑い晩です。フーチャンの押入れの中に南原さんに棚を作つて貰ひました。二つある中の湯殿によつた方の押入れです。こつち側（略図中にAと記した場所、ただし略図は省略―編者注）に一間の高さに五、六段出来ましたので、赤本その他を後側にして二重にいれましたら、―物置に残つてゐた分と看護婦室の押入れの下の段のは全部がはいりました。こゝ（略図中のB―編者注）は箱のまゝ四ツ位、重ねておきます。これ（略図中のC―編者注）はおぼんがすぎたらAと同様に作つて貰ひますから、運送で来る分や、客まにあふれてゐる分を全部整理してしまへると思ひます。物置のすいたところへ、今度送つて来る椅子や机をいれ様と思ひます。客まの見えるところにある本は―あそこはいろんな人が来ますし、お父さんが貸す恐れがありますから、Cのところへいれます。

今日は其の整理で七時からあとの勉強時間は全部潰してしまひました。もう九時半ですから、今夜はあまり出来相もありません。点数にすれば50点ですが、―かう云ふ障害で出来なかつた時と、オプローモフになつた時と、病気の時とは点のつけ方を変へないと不公平ですね。

お手紙拜見。先日私の手紙は又、あなたをいら立ゝせた様です。そんなつもりはなかつたのですが。矢張り自分のベングばかりしてゐて、あなたの氣持を考へてなかつたのです。本当にすみません。あなたの云はれる通りでした。あの手紙の書き方では、さう思はれてもし方がありません。確にあなたの云ふ通り、あなたの望む程、あなたの切実な要求を私は理解してゐません。私なりに前後の事情も察してゐた、と思つてゐたのですが。―あの当時は出来なかつたが、今は出来る余祐（おま）が出来た、と思つてゐますけれど、まだ出来てゐないんですね。

かう云ふプロセスを通らなければ、お互ひにトコトンまでわかり合へないと思つたから、思つたまゝを書いたのです。其の結果として今日になつて見れば、あなたの当時の氣持のおさつしは充分ついたと思つてゐます。どれ程、其のためにあなたがいら立つたかを。

私はある時、たしかにあなたに其のあせりが充分納得出来ず、納得出来る余祐なく、余祐なかつた事は一時的の事であつた、と云ひ度かつたのです。いつまでも、この調子であると思はれたくなかつたし、自分でもいつまでもさうだとは思へない。それを云ひ度かつたこと。だからクドクと其の原因を述べ立てたのです。責めたり、罪を一切あなたにき

せる気ではありませんでした。

唯、疎解^④の件についてのうらみは、あなたの云ふ通りでした。あゝせねば結局、一同じ状態をくり返したであらうことは、今日はよくわかりました。あなたがそれ程に私の生命や健康を心配してゐて下さったとは、全く思ひもありませんでした。私は私の健康など問題にしてゐない人だとばかり思つてゐました。それと云ふのは、女房の一人や二人死なうと生きようと、そんな事にかまつてはゐられぬ”と云つた事が心の何処かに残つてゐたせいでせう。そんなに心配してゐて下さつたのに、とや角申した事は誠にザンキ致します。どうぞおゆるし下さい。

あなたの事をいごだの自分勝手と申した事はすべて取消に致します。その様な認識不足の私に労作をささげて下さるなど、全く穴あらばはいりたいと思ひます。これはどうぞ誰か他の人にデジケートして下さい。私には全くそんな資格はありません。資格もなくザンキしてゐる者にさうして下さる事は、皮肉の様でも平気ではゐられません。これはやめて戴きます。今後本当にお仕事の手つだひがいろいろな意味で出来た時にこそ、さうして戴きます。

又あなたが「おわび」と申してゐられる事も、あなた丈に罪があつたわけではなく、むしろ私の方に沢山あるのですから、そんなに云はないで下さい。あんまりおわびするとか、許してほしいと書いてあるので、真実皮肉を云はれてゐる様で嫌な気がしました。さう云ふ事は一切やめませう。今度の事はたしかに私の方に非は充分あるのです。知らなかつた、一と云ふことも非ですものね。私はあなたを責める気よりも、私のあの時の状態を述べて弁解する一方だつたのですが、つい勢ひあまつて責める様な事を云つたのでせうから一もう、どうぞごかんべん願ひます。あなたの勢^④一杯の仕事の防害ばかりしたあげくに、今に至るもぐずぐず云つて、まことにお恥かしい次第でありました。

校正もあとすこしの様でよかつたこと。校正が終つても中々出版の運びにならないのですか。校正がすめば、すぐに印刷出来相なものですけれど、其の次のトラブルは何でせう。紙の不足でせうか。

今度のあなたの仕事（尤も何時もさうですが）は、本当に何重にもく私を防害ばかりして来たので、いろいろな意味で一度こそ私も一日も早く出版の運びになることを、心から願つて居ります。併しどの程度、私にわかるでせうね。それもいたく心配になります。本当に心配です。それと云ふのも、今までの心がけのわるかつた罰ですね。もつと前からあなたの仕事を努力して読む様にしておかなかつたこと一あんなにあなたに云はれたのに一は、返すくも申訳ありません。本当にく残念です。どうしてあの当時、そんな気になれなかつたのでせう。あんなに始終あなたに云はれ、喧嘩までしたのに。何と私は強情なのでせう。もつと外にする事がある様に思つてゐたのかしら。人の云ふ事はてんからう

けつけまいとするのかしら。今はどう考へてみても、あの気持がわかりません。

自分にはとうていあなたの仕事は理解出来ない、ときめてかかつてゐたのでせうね。すこしよみかけても六つかしいので、すぐホーキしたのでせうね。どうしてもつとくわかる様に食ひついてゆかなかつたのでせう。尤も全体から云つて、私の知的水準はとても低いので、今にならねばそれすらわからなかつたのではないでせうか。どうも今は其の当時の気持はモコとして一寸も考へられません。唯、真実のところは、私には私の教養を以てしては一寸手がとどかぬ程遠いものゝに思へた事、―それへの努力のうるさを、其のまゝみすごしたのではないかと思はれます。努力してする勉強の面白さ―は、よう／＼こ半年位のうちに覚た事ですもの。さうではないでせうか。

本当に私はあなたの妻としてねうちのない女ですね。さう云ふ事にすこし気がついて来た事も一歩前進かも知れませんが、口うるさいし、仕事に対する理解もないし、日常の生活すら援助もしない、それどころが防害ばかりするとは、何と云ふとび切りの悪妻でせう。本当にあなたには重々すみません。其の中で、よくそんなに立派な仕事を完成なすつたかと思つて全く申訳なく、首をちぢめて居ります。今度は多いにむちうつて勉強して、多少でもわかる様になりたいと思ひます。

十日夜

謙一様

謙一から幸子あて（一九四四年八月一〇〜一一日の記）

八月十日、晴。

昼間の気温三十四度。夜になつても三十度を下りません。風もなく、今夏第一の暑い日。星は出てゐるが湿気が多いらしく、冴えてゐない。野菜も夏枯れ。

今日はここの小使さんの入隊日で、昨日からずっと僕が留守番と云つた形。それ故毎食火を起します。今朝は久しぶりに雑炊を煮ました。うまかつたが汗を困るほどかいた。昼は朝の残りをもう一度火にかけ、夕食はジャガとなす。一昨日配給の塩鮭の切身は今朝たべました。

朝、七日付お手紙拝受。皆信州落ちもいいでせう。さうなると郵便局の二階でも交渉する必要がありさうですね。あな

大いに悔ひ改めたる幸子□

たの日常生活、元氣らしいのと充実してゐるのとで、敬服にあたひします。落ちついて、理性と感情とを不斷に緊張させ豊かに鍛へ、しかも柔軟に大きく發展させて行くこと。我々は感情が強いのでなく、理性が脆弱なのです。理性さへ發達すれば感情も正しく豊かになるでせう。我々や我々の周囲では、理性が貧弱な固定へとどめられ抑圧されてゐるために、感情もまた狹隘で、固定的で、貧弱で、動揺し、卑小なのです。こんな風な頼りない低級な理性と感情とでは、之からの真に激烈な世界的現実を正しく生き抜くことは不可能です。

この頃つくづく思ふことは、現実とたたかふことと、個別的自我と普遍的自我との統一と云ふこの二つのことです。現実の不合理、虚偽、不正、と誠実に不屈にたたかつてゐる時のみ、人は生きてゐると云ふに値ひするのであり、まさしく前進し、成長し、生き生きし、人間らしく見えます。戦ひに於て人は、その人間的資質を緊張させ、發展させ、その能力を發揮し、自信をもち、自由であり、魅力もあるのです。戦ひをやめた人間、戦ふ論理を知らない人間、現実に甘えてゐる人間は、卑小であり俗物です。

所で現実の不合理と戦ふと云ふことは、別に云へば、個別と普遍との命がけの結合努力である。不合理は常に個別の中に生成し、その現実的個別の不合理を歴史的普遍への統合の中で克服することがたたかひなのです。そのことは不斷の前進であり向上である。戦ひをやめるとは、個別への自足的安住であり、個別への自己満足的停滯である。それは現実の不合理との妥協であり、その受容であり、或ひはそれに対して眼をふさぎ無感覚になることです。思想も学問も芸術も道徳もすべてしかり。それらが不合理と化した現実とたたかつてゐる時にのみ世紀をさへ越えた光芒を發し、白熱し、生命をもち、偉大であるが、それをやめた時は、俗流になり、卑小になり、形骸化し、自立し得ずして時の權威へおもねる。封建中世の道学、宗教、教権主義との戦ひに於てこそ、近代的思想は成長し、飛躍し、歴史の肉になつた。個人生活も同様。

だが普遍とは個別的現象の奥にある本質であり、現実的個別をとほしてのみ存在する。それは凡ゆる偶然的現実を通じてのみあらはれる現実の必然的な法則である。それ故、普遍は個別の広汎な深い認識觀察によつてのみ把握出来る。いはば、理性の高度な活動、思维の緊張によつてのみ把握出来る。ただ身体でたたかふだけでは、普遍と云ふものを正しく把握出来ないし、従つて個別と普遍との真の統合に達し得ない。だからこそ個別と普遍との結合努力は人間の全認識力、全精神力、精神の全面的運動を要求するのである。自己批判も常に社会的人間関係の中の自己批判、普遍乃至歴史との相関関係に於ての自己批判でないと、単なる自己弁護、妥協、裏返された自己満足でしかない。普遍は歴史は常

に運動し前進する。小さな個別の中に停滞してゐるとすぐとり残される。

勉強とは、個別的自我を不断に普遍へ結合させ、普遍的自我を個別の中に、自分の血肉としてとらへ、さう云ふ交互作用的努力である。丁度生命現象の基礎が新陳代謝であり、新陳代謝とは同化作用と異化作用、すなはち客体の主体化と主体の客体化との交互作用であるやうに。かくてこそ勉強は、現実理解、現実認識となり、現実的行動の指針をきたへることになる。個別と普遍、現象と本質、偶然と必然、之等の対立物の斗争のデアレクティブ。

あせると云ふことは現実の戦ひを観念的飛躍の中に見失ふこと、観念の中に現実の戦ひの足場を失つたことの告白である。人はあせる時、戦ひをやめてゐるのである。丁度、愚痴が戦ひでなく敗北の甘受、いや戦はない所に敗北もあり得ないなら、自己の劣弱の甘受、そしてその甘受の排泄物であるやうに。僕もこの頃までの自分の生活を貫いて来たあせりの不健全を反省する。あせりは目的の手段に対する優位、観念的状態の現実的過程に対する優位を意味するが、実際には手段こそ目的より優位するのであり、過程こそ状態よりも大切なのである。この世界観は、我々の七年乃至八年の交友、恋愛、結婚の体験から得て来た倫理であり、ここにこんな風を書くことは、あなたにとつても蛇足でせうが、それにも拘らず現実にはそれを忘れがちである。世界観がきたはれてゐない証拠であるだけでなく、戦ふことより妥協すること、戦ひをやめることの方が楽だからでもある。このあせりから、あなたとの生活を混乱させたのであるのに、そのあせりを之までも、時局のせいにもみして、反省するところなかつたのを恥ぢます。あせりとは自己の無力なり劣弱の内容なりの裏返しにした表白である。裏返しにしてゐるだけに一層有害だ。せつかちもあせりも同じ。

あなたもこの点注意し始めてゐるらしいのがうれしい。我々のやうに資質が小さく、欠点多い卑小さにある人間は、何にでもその小さい個別から抜け出せず、せつかちであり、よくあせる。警戒が必要。対人関係でもちよつとした日常話題でも、勉強でも、すべて同じ。

さて今日は、この分室の人物紹介をしませう。

全体で八人。二階に二人、下六人。下の六人の中四人が男（英研）、二人が女。

二階は分室長安間氏が上北沢へ専属になつて以来は、此の六月末にここへ来たNKと云ふ、元の関西大学の歴史の教授と僕と二人。N君、昭和八年京大西洋史卒、三十五、六才。大阪の人、八高出身、平野朗の同級生。ツルの先輩で、彼の売り込みでは入つたのです。芦野氏が見せた履歴書には、之まで発表した論文とホンヤクとを一ならび陳列して、佐々木部長の履歴書でないが、附録一枚余分についてゐました。論文はランケとかディルタイとか片々として統一ない

が、ホンヤクは上田君の訳したドイツ経済史（創元社）。上田君によれば、経済学を知らん人らしいとのことでしたが、そのくせ本人は一種の経済史観の一派です。京都は歴史哲学派が支配的で、彼は異分子的であり、いつも「先輩と大論争をやる」さうです。見た所オリジナリティが乏しく、村瀬君型のアカデミシアン。学問を生命とし、昨年も「こんな文化を圧迫する国に居らねばならぬのだらうかといのちがけで考へて、やはり居らねばならぬと結論した」と女の子に云つてゐました。学問を生命とするのはいが、学問をふりまはしすぎるので、上田君などもからかつてゐる。見た所体格はいいが、二度応召して二度とも腎臓で即日帰郷。体格がいいだけに（見かけだけほしにしろ）食べることに僕よりも熱心で、食べ物を探すことでは僕なんか呆れるほど強引で騒々しく、野菜を買ひに行つても農家の裏から物置きまでぐかづかキヨロくは入つて行き、「なすびをとつて下さいよ。キウリないかな、キウリ。何でもいいよ、つけものなくてももう弱つてるんや」などとおかみさんであらうが誰であらうが、相手にまくし立て、トマトなどはまつ先に自分で大きくよささうなばかりかごへつめてはかりにかけて、包んでしまふと云ふ人物。

今日も買ひ出しの畑道を歩きながら八木君が、「Nさんはよく食ふんですな」と思はず温厚人に似合はぬ皮肉な調子になつて云ふと、「うん、よく食ふね。何ぼあつても足りんね」と自分でも率直に認め、「大阪で家が近くやつたから米でも何でもいくらでも持つて来れたもん困らなかつたんやが、東京へ来るとハラ減つてかなはん」「体格もいいからね、体力もあるんでせう。身体の欲求が強いんですな」と云ふ八木氏は五尺一寸一貫と云ふ小柄。「だけど身体の欲求やと云ふたかて、食ふことだけや。ジンリツヒなことは僕は余り強くないね。僕みないな男の妻は不幸やろな。之にはちよつと返答に困つてゐると、「僕は結婚して半年の間、二階と下とにフラウと別々に寝ましたよ」「どうして」「うん、僕が学問を生命とすると云ふことをフラウにはつきり知らせたんや。友達は不思議や云ふたり、本当にしなかつたりしたもんやけどね」「ふうん、そんなこと、よく出来ましたな」「そりや見合結婚だからだよ」と僕。「併し僕も見合結婚ですが、一年間は本も買へないほど、自分の全精神全肉体を……」「ささげましたか」「まあさうですな。併しそれにしてもNさんのやうなやり方は不賛成だ。何だか妻君が侮辱されてゐるんみたいですが。そんなくならいなら結婚なんかしなければいい。女中か何かやとつて飯をつくつてもらふといいでせう」「さうなんだよ、N君のみたいのは便宜結婚と云ふんだ。下宿してると病氣の時困るから、まあ結婚したくなるよ云ふ。そんな学問と人間関係とが結びつなかいやうなのは、学問の方も人間関係の方も本当のものぢやないんだよ」と生意気なのはムロン僕。少し強く云ひすぎたと思つたので、「だがまあそれは若い時の気取りだらうね。僕は結婚するが他のやつみたいに性慾なんかで結婚するんぢや

ない、あくまでも学問のための便利上するんだ、と云ふんだらう。若い時には凡ゆる形で何とかいばらうとするもんだからね」……とまあかう云つた人物。

彼の第二の特徴は、人の月給を実に無遠慮にききただし、自分のと比較し、家賃をしらべたりすると云ふこと。余り月給にこだはるので、「君はやつぱり大阪人だね。人の月給のことなんかさうきいたり気にしたり、くどくど話題にしたりしなくていいぢやないか」と思はず僕がカンシヤク起すと、「いやあ、東京では皆どの程度でやつて行けるか知りたいでね」と、さすがに毒気をぬかれてベンカイする。さうかと思ふと「あの本室で僕の机の向ふ側で一番ギヤア／＼やかましい人、あれ何て云ふ人ですか」「ははーん、U君だね。UTで云ふんだよ」「あれ一番うるさいね。ほれに自分の総合所得税がいくらくらや云ふて、大きな声で自まんしてるんみたいやけど、何だか云ふこと一番汚いね。金のことや何を食つたて云ふことや人の悪口ばつかり云つてる。ボクも悪口云つてるみたいやけど」などと云つてゐます。要するに可もなく不可もなく、人物としては押し太いのと強引なのとを除けば、むしろ好人物で悪意の持てない方だが、頭もはげかけてゐるくせに人間が甘くて、アカデミズムに自足安住してゐる自称「中堅学究」。仕事は早いし、調査会には合つてゐるでせう。ドイツ史専門で歴史部は僕とこの人と二人。

八月十一日、晴。

今日も暑かつたが、風が少しあつたので、昨日のやうなことはなかつた。日中卅三度。

今朝小包を受取りました。いろいろと御心づくしを有難く思ひました。リングも久しぶりでおいしく食べましたが、モツタイないので三つの中二つは、上田君の子供へおみやげにして夜持つて遊びに行きました。上田君も大いに感謝してゐました。二人の子供のいいお父つちやんです。

九日付お手紙拝見。雨は相当ひどかつたのですね。身体が悪いのはどこが悪いのですか。注意して下さい。僕の方はジャガとなすとの毎日でも別にやせもしないし、元気なものです。代用ココアは今一カン半分ぐらい使つたのがあります。粉のヤミでもやりたいのですが、中々うまく行きません。一人で水と火との自由でない自炊には、メリケン粉と大豆と芋とがありさへすれば、最も簡単に行きます。酒やビールを之等とかへるサンダンをしてゐるのですが、やはりむつかしい。

昨日のつづきの人物月旦。余り面白くないでせうが、之等の人物は之からの僕の手紙に出て来るでせうから。

階下の英研の一番古くて一番年かきなのがTY君。ここへは昨年夏頃は入ったのですが、三十七才ぐらい。昭和六年東大経済学部卒。元調査聯盟かどこかにゐた人です。市川□三君をもつと眼つき鋭くトゲトゲさせた感じ、そのくせ口を無邪気な風にあけてゐる。カマトト式の所がある。左腕が畸形で手首がない。少し前まで二十貫あつたのが十三貫にやせたと云ふ。この分室長代理で事務的なことを一手でやつてゐます。

人物の内容はよくわからぬ。話すこともつき合ひでも、カマトト式の所が僕達を警戒させ、一定の所以上は進まない。ディレッタントで本やレコードは多方面に集め、音楽会など欠かさない。話してもつき合つても魅力がないので、誰も深く交はらない。官僚的で下の者に高ビシヤで、上に対しては下の者のつげ口をしたりする。殊に女の子に關してそれが甚しいので、女の子は極度に嫌つて、やめたいとか二階へ来たいとか愚痴や不平が絶えない。人間はまじめだし、教養もあり、紳士の外觀（片腕のないと云ふことで相手に不快感を与へるのを補ふやうに、非常にオシヤレのやうです。ヒゲのソリあとも毎日アオくとし、服装も目立たぬ乍らシヤンとしてゐる）も整ひ、仕事もやり手の方でコチくゝの堅人に見えるが、年の割りに対人關係にマサツを多くし、ゴタくゝを起しケンカもする。どうもカンシヤク持ちで神経質でエゴイストで、結局俗物なのでせう。

次に八木毅君。この分室或ひは世界経済の中で、話すに足る僅かな人間の一人。之までよく僕の手紙に出て来たでせうが、僕ともここでは精神的交渉の一番深い人物、いや唯一の人物。N君と同じ昭和八年に東大英文卒。三十五才。元外ム省にゐて、昨春秋にここへは入つたが、印度を受け持たされ、「僕はインドのことも経済のことも何も知らないのだから」と、こつ／＼一生懸命に勉強して黙々としてゐるため、経堂へ来るまでは殆ど話したこともなかつた。外の人も殆どはなさない。それでは人嫌ひなかと云ふと決してさうでないし、また無口なかと云ふと大いに談ずる人。小柄で物を云ふ時とか笑ふ時に、顔の半分が不均衡に動かないと云ふ妙なくせ、或ひは神経系統の欠陥があつて、之が彼を無口にしてゐるのかも知れないが、本質的には彼は大人なのであり、僕のやうに相手の見さかいなしに、せつ／＼に、自己表出の稚拙な衝動に支配されないでせう。自ら自分が神経質でいけなさと云つてゐるが、そしてたしかにこの年令のインテリゲンチヤに通常の強情な自意識はあるが、また自分でよく感情に囚はれて人を容れる所、人の意見の正しさへすぐ反応するところがなく、自分でこれはまちがつてゐると思ひながらつい従来の自分の意見に固執していけないと、よく告白してゐるが、それでもそれらの欠陥は僕のやうに露骨に出ないし、何と云つても僕なんかよりはるかに大人です。僕とは一番議論をよくするし、世界觀もちがふけれど、共通する部分はずい分あり、お互ひに相手の誠

実さと理解力とを信頼して議論出来るので、「一夕飲み乍ら思ふ存分やりたいたすな」と云ふ程楽しみな議論です。

この頃、後出の新人がは入ったので、少し前のやうに帰る時間も忘れて熱中するやうな論争はやらなくなつたが、始終僕が下へ行くか彼が上へ来るかして最も多く話し合ひます。口は重いがユーモラスで、何の話でも必ず「僕の妻君（妻）（サイクンのイに、何とも云へない愛情のこもつたアクセントがある）が……」と出ないことがないので、Aと云ふ女の子に「八木さんの奥さんは幸福ね」「どうして」「だつてあなたのおはなしに『僕の妻君が』と出ない話はないぢやありませんか」「いやあ、そいつは……」と云つたいきさつがあつて、しばらくは注意してゐたやうだが、間もなくいつものやうに、顔の半分でにこやかに「僕の妻君が」と云つてゐます。俳人で芸術についても合理主義的に考へ、理論的教養は不十分だが、感受性も批判力も立派。歴史をよく知らないために芸術至上主義的傾向からぬけ切れず、それが二人の論争の種になるが、英文学以外では僕の方がよく読んでゐる、と云ふより、僕の方が自分の論拠により多くの文学作品品を利用出来るし、歴史を彼よりは知つてゐるところ多いため、結局僕の議論を受け入れる結果になる。伊予松山の産。長谷部氏、浅野君の同郷人で、似た所ある。反アカデミズムの熱情家。あなたも友達になれる唯一つの人。

次はこの七月、竹中君と入れかはりて来て、竹中君が意味あり気に紹介して行つた慶応ボーイの堀江君。竹中君の後輩で、ここでは男で一番若い。頭はよささうで、我々の昔読んだ本もよく読んでゐる、独ソ戦の戦況を気にし、政治的情報にも敏感。おひるに必ずのこく上つて来て、「ニュース聞かして下さい」とラジオにスイッチを入れ、畳の上にごろりと仰臥する。五尺一寸ぐらいの快活なボツチャン形。半ズボンで、元は株関係にゐたらしいが、電話が非常に多い。時々話しに来ます。気の利いた都会人だが、少し行儀が悪い（足を机にのせたり、寐ころんだり）。

もう一人の英研は大阪高校出身、東大英文昭和十三年卒、但し年は三十五、六才。七月中旬には入つた新人。元は明大講師。「典型的大阪人」ださうです。色白で、卑屈なジョージ・ラフトと云つた顔つき身体つき（五尺二、三寸で猫背で身ぎれい）。アララギ派の和歌をもて遊ぶ。八木君の後輩だが、上の方の伝手では入つたものであり、英研へは入るについて、T氏の横車でごたくがあつたのです。僕とも一番接触少く、人間的魅力も最も少い。

N君とM君ともう一人、後出の女の子A嬢と、大阪人が三人そろつたのですが、その結果大阪人なるものの特徴が実にはつきりわかつて来ました。大阪人と一口に云ふのはいけないのですが、まあ所謂大阪人の特にインテリゲンチヤの臭みが、この三人に共通してゐます。やさいや食ひ物の獲得に実に強引でエゴイステイクで鉄面皮でさへあること、人の月給を無遠慮に調べ、N君は自分のを云ふがM君は自分のをかかす。そして月給の高で人の価値を計量するやうな顔を

する。そのくせいンテリ意識が強く、「私立大学なんてつぶしてしまへ、あんな頭の悪いカスばかりみたいだ学生を、ようあれだけあつめたもんや」などと云ふ。二人とも和歌を作るが、俳人で芸術に一家言をもつ八木君も僕には「N君は和歌のマス・プロ工場ですな。余り感心するやうなのは一向ないが、実に沢山作る」と半ば軽蔑まじりの感心をしてゐるほど。(三十五、六のインテリゲンチヤが揃ひも揃つて和歌俳句をもてあそぶのは何か理由があるのかしら)。

あとは女の子二人、一人はA嬢と云ひ、廿七か八、神戸のミッシン女専を出て、武信和英辞典を手伝つたのが自慢で英語を得意とし、我々の話題へも始終英語をまじへつつ割り込んで来る。阪本君の妻君の学校友達で、彼の紹介で昨年二、三月頃は入つた。寸づまりだが女セキトリと云つた肥り方で、股ずれして困る風な歩きかた。N君がよくまねをする。昨日も僕の所の長椅子(?)でもう一人の女の子白田嬢と涼んでゐながら、自分の口ヒゲを抜いて「こんなに長いのはえるのよ」と云つてゐた。浜田恒一は彼女を「ウサ公」と呼ぶ。肥つた長顔で眼と眼の間が割合はなれてゐる。生理的不快を覚えるやうな媚び笑ひや肩すくめをやつて、「何だあれや」と大分評判悪かつたが、他方、運ちゃんなんかは「Aさんて、ちよつと可愛い顔した子かい」と云つてゐる。

丁君が昨秋「あれをどこかへやつて外の人を入れて貰ひたい」と例の強引さでこねた。当のA嬢まるで「ウサギ」のやうに、いろんな批難に対してはトボケて、一向平気で生意気な風な口をきいたり、人の話へわりこんだり、媚び笑ひや嬌声を発したり、上田君に「うるさいぞ」とどなられて肩をすくめたりしてゐたが、実はアパートへ帰つて、誰に侮辱されたとか云つて口惜し涙にくれたりしてゐたよ。その後竹中君、阪本君がうんと手きびしく直言して、この頃大分よくなつた。まだ媚び笑ひや馴れ口のくせをやめないが、また人の話へ割り込みたがるが、多少大人になつたらしく、親切な思ひやりのあることもするし、氣を利かして女らしく行動もする。英語もよく出来、本もよく読んでゐるらしいが、鼻にかける傾向がどうしても抜けない。物資は実に豊富に持つてゐて、之も人を羨しがらせるのが暗に得意らしい。だが物わかりはいい。N、M両君の大阪人が来てから、大分元気になつてわざと大阪弁を使ふのは多少「いやらしい」。最後の一人は白田黒白子と云つて、アメリカ帰りのやうな発音をするが、之はどうも舌足らずか舌が長すぎるか、今まで甘えすぎたか、何れからしい。津田出の廿四か五才の、男の子のやうな身体つきの高いつポーツ・ウーマン式の女の子。もう少ししつかりして甘えた所がなければ、そして小さい自我意識がなければ、魅せられた魂のジョルジュと云ふ女の子に近かつたかも知れない。この六月には入つたが、津田出と英語の出来ることと村松正俊の助手をしたことと、心理学や哲学をかじつたこと(兄弟多く、哲学出の兄を持つたりして)などを得意がつてゐる甘やかされた人間。

結局自分のことばかり考へてゐるところがある。人が自分を何と思ふかを。だからT君に意地悪されては(例へば外の本を読んでゐると必ず雑用を云ひつけられ、云々)愚痴を云ひに来、下にゐるのは堪らないから二階へあげてくれとか、やめたいとか、時々泣いたりする。僕はこの頃、甘やかされたり、自分を甘やかしたりする人間にがまんがならず(自分もさうなのだが)、「君たちは甘すぎる(A嬢まで同じやうに愚痴をこぼす)。T君が君達に害心をもつてゐるのでなく、ただあんな神経質な、エゴイストにすぎないのだから、いい加減にあしらつておくか、自分で直接云へばいいのだ。大きな問題ではない。もつと外の所では、比べ物にならぬ程きびしい人間関係があつて、皆それと戦つたり敗れたりしてゐるのだ。君達のはまだ甘い。人に訴へるほどのことぢやなさうだ」とつづねるやうに道学者気取りの説教をする。だがその白田嬢もこの頃少しはじめにいろんなことを考へるやうになり、本を借りに来、「イリン」や「娘インディラ」を読んでゐるんことをききに來る。僕が自分乍らいけないと思ふほどのせつかさでづけく云つても、アパートへ帰つて案外よく考へてゐるらしい。大金、西山嬢より教養はあるが、それだけに柔軟さが無い。だがはじめに聞くからはじめに答へてゐる。判断力はあるさう。資質も劣つてはゐない。

所がこの女の子が、自分のアパートに津田の先輩がゐることを知つたので嬉しくて仕方がないと昨日も僕に云ひ、その先輩は大先輩で三十四、五才だと云ふから、「ぢや森井さんなんかと同じ頃かな、それとも中島桜さんの頃かな」と云ふと、意外にもその当の森井篤子さんだつたのです。森井さんとは中島君の昔の仕事仲間で、あなたにも話したことあつたでせう。で、白田嬢が早速昨日アパートでできたなら、やはり僕のこと覚えてゐて、今朝も僕へ手紙を書きかけたのだが、それよりウィーク・デーにここへ遊びに来て、直接会ひたいと云つてゐると、白田嬢が報告に來ました。どこか出版屋につとめてゐるとのこと。「早速『女一人大地を行く』を貸していただいたわ」と云つてゐました。(こんなことを書くとは以前のあなたなら氣をまわす怖れもあるが、さう云ふ心配を絶対にしないやうに。でない僕的生活報告はうそになるし、また僕はあなたにさう云ふ心配をさせない。)

大分悪口ばかり書いたが、之等の人々の欠陥の夫々が、大てい僕自身に認められることなので、つくづくかう云ふ歴史的时代によつてつちかはれ、しみこまれた人間の性格的負担の深さにおどろいてゐます。そしてすべてに共通な第一は、八木君を除いて皆人間が甘いことです。人間が甘いとは、戦ひの状態にないこと、普遍的自我への努力のないこと、個別への安住自足と云ふことです。我々もまた大いに反省すべきですね。では今日は之でおしまい。

謙一から幸子あて（一九四四年八月二〜三日の記）

八月十二日、晴。

相かはらず暑い、一昨日や昨日よりは楽。立秋を過ぎて夏□峠をこしたのかしら。鎌倉や逗子の海岸では海水浴が禁ぜられました。海の家も行かう〜と思つてゐる間に。みつちゃんどうかしら。安産であればいいが。この暑い時のお産は、分苦勞でせうね。空襲の怖れも考へねばならず。島村君へは数日前電話でみつちゃんのお見舞ひを云つておきました。

今日は栄養豊富。朝は配給のアサリのみそ汁（みそ汁は殆ど先月の信州以来）。ジャガ、ナス、キウリはいつもの通り。昼はジャガとキウリだけでしたが、夕食はサメ（配給）の煮つけ、ジャガ、ナス、キウリ、それにトマトと玉蜀黍。トマト、ナス、玉蜀黍は今日の買ひ出しの収穫。

八月十三日、晴。

少し風があつたが、やはり暑い。それに此の頃睡眠不足で眠い。朝、ジャガ、ナス、トマト、キウリの食事をすました後、掃除し書棚を片づけました。それから四十年とアンチ・デューリングを読み、独立戦争を又書き直すべくいろいろの角度から構想し、昼は朝のジャガとトマトとフクシンヅケで簡単にすませ、寐ころんでおひるのニウスと、シューベルトの交響樂とをきいてゐる中にく〜し、ふと気がつく和二時半でした。便処へ下りて行くと玄関にあなたの鳩の便りとふうちやんからの本とが来てゐました。鳩の便りとは僕のシヤレです。昨日、手紙受けへ手紙が来てゐないかと見に行くと、肝腎の僕への手紙はなく、N君あての色封筒が来てゐたので、それを皆のゐる所で手渡して「そらN君。鳩の便りだよ」「何やて」「ダヴ・レターだよ」とシヤレて、一同しばし笑ひを収め得なかつた傑作シヤレです。僕が余りシヤレを云ふので、ソウ発性痴呆症と称されます。松沢病院が近いせいか精神異常が多く、ヒポコンデリーやヒステリーやソウ発性痴呆症などがあつます。

日課の成績の点数は良心的につけて、一々その理由をつけておくとよろしい。学問でも芸術でも、創造的生活、創作をする生活には、真の同情者（盲目的なそれではなく、真の理解者同情者）が必ず身近かにゐることが望ましいことです。

何故なら、創造と云ふことは個別と普遍^(通)との白熱的統一努力であり、さう云ふ時は自分の書いてゐる個別が、果して普遍的意義、社会的意義があるかどうかについて、しつこく疑念がもたれ、創作過程の難関に出会つて全精神が極度に、まるで分挽の陣痛のやうに緊張ケイレンする時に、その疑念は最も深刻に食ひ入らうとするのです。さう云ふ時、その労作の眞の理解者が身近かにゐて、全人類を代表しつつその創作の普遍的意義を云つてくれたなら、創作者は丁度分挽の時よき産婆を得た如く、その陣痛に耐え、ものをうむのです。さう云ふ過程から世の中の傑作も、恐らく創作者の資質の限界を時には越えてすら、うまれるのではないでせうか。

人はさう云ふ伴侶的理解者として、師をもち、友人をもち、また妻をもつ。そしてその伴侶的理解者としての個人を通じて、普遍的人類、社会への結合努力を振起する。高村光太郎が詩作に於て常にその妻^(通)君への愛情を原動力にしたとは、そのことを云つたのでせう。いはば全人類、全社会と直接的なつながりに於て、社会との直接的な解放された相互理解に於て存在する、とは云へない現在の我々のおかれた制約的人間関係の場合、個人としての創作者と、その創作物を受けとるべき社会なり人類なりの普遍との結合に、媒介が欲しいのであり、友人なり妻なりの伴侶的理解者は、その媒介に当るのです。しかもその媒介たるや受動的なものではなく、産婆なり槓杆なりの積極的機能をなすべきなのです。

では伴侶的理解者は、創作者と同一の知的水準に立つべきか、必ずしもさうでなくていい。丁度批評家が、自分で創作出来なくてもいいやうに。またよき鑑賞者が常に創作者と同じ水準に立たなくてもあり得る如く。むしろ伴侶的理解者は、社会の一般的知的水準の感覚を失つてゐないことが必要です。何故なら創作者は個別への没頭の過程で、一般的知的水準への感覚を失ひ、独善的になる危険が多いから。ただ伴侶的理解者の第一の資格は、創作者の創作努力への眞の同情、眞の愛情、眞の結合です。盲目的でなくあくまで理性的な判断を忘れない結合、いな判断を通じてする結合です。それ故妻こそは、性愛によつて結ばれた妻こそは、かかるものとしての伴侶的理解者の最大の適格者です。

あなたはわからないとかむつかしいとか云ふ。だが僕がきたかつたのは、そのわからなさ、むつかしさの内容だつたのです。どこがどうわからないか、どこがどうむつかしいか。それを言表することは必ずしも容易でなく、くり返し読み精神の全緊張を以て理解把握しなければならぬ。理解もまた一つの苦しみ、一つの努力でなければならぬ。どこがわからないかを言表する程度の理解すら。そしてそれをあなたに説明し、さう云ふ交互作用が伴侶的理解者と創作との関係なのです。その場合必要なのは、伴侶的理解者が創作者の創作努力に対して熱情をもち、結合して行くこと、それこそが創作者の最も力強い精神的支柱になる。それは創作を一人でやるのではなく二人で

やることであり、二人がそれによつて前進することです。

かう云ふことが、あの頃僕にもこの程度にでもわかつて、この程度にでもあなたに説明出来たら、あなたもまた協力してくれたのでせう。身体の限界なりに。ところがその頃の僕には、ただあなたへ欲求を向けるだけで、説明も出来ずにただいら／＼して、「女房の一人や二人死なうと生きようとそんなことにかまつてゐられない」と云ふ風な暴言になつたのです。自分の苦しい労作を、その社会的歴史的意義を、自分の個人生活を全的に否定してもいいほどに大きく、断乎と承認したい僕の欲求を希望をその暴言に乱暴に含めて。そしてあなたの無関心がまるで僕の仕事、労作の普遍的意義の否定を意味するかのやうに感じ、それへの乱暴な反撥として。(あなたはまだ僕の言葉の一つ一つにこだはつて、それを云つた時の、或ひはさう云ふことばにあらはれた僕の心の本当の状態を正確に理解することが不充分のやうです。僕もさうかも知れないが、お互ひにもつと内面的理解を心がけ、外面だけで誤解し合つたり早がてんし合つたり、傷けあつたりしないやうにしませう。)

所で僕の本当の仕事は、南北戦争の歴史を書くことです。今度のプランテーションは、本当の仕事の序論ではないのです。そして本当の仕事は、今度の戦争体験をも含めてもつと資料を集め、自分の歴史眼をきたへて、今度こそあなたの伴侶的理解を得つちやつて行くつもりなのです。それで、信州へあなたと仕事の材料とをそつくり疎開したのです。あなたを自分の創作の伴侶的理解者、いはば一つの手段と見ることを、あなたは自分の人格性の無視として怒るでせうか。だが、僕が伴侶的理解者と云ふものを人格性の欠除に於て見るどころか、逆に全人類をその中に含んだ最愛の個性、人格性の最高度の承認に於て見てゐる、と云ふことを知つて下さい。そして真の手段はディアレクティクに於て、目的よりも優位するのだと云ふことも(伴侶的理解者にふさはしい健康と理解力とを準備しておいて下さい)。

だが戦争は僕のさう云ふ個人的企図に考慮なしに進み、我々をその企図の実現どころか着手へすらいたらせないで、我々の生活をふみつぶしてしまふかも知れません。それが現実であり、さう云ふ現実とのたたかひが、我々の創作をも含めての全生活なのであり、そしてたたかひはいつでも勝つとはきまつてゐない。それどころか個別的なたたかひは、之まで大部分玉砕だつたのです。併しその個々の戦斗的生活者の全身全霊を以てする誠実なたたかひこそが、そのたたかひから流した血こそが、その血の中でうんだ未完の創作こそが、歴史の一つの推進力に資して来たのではないでせうか。丁度一人一人の兵士の血が、歴史を勝利へ現実にもたらしつゝある如く。我々の血もまた歴史の流す鮮血の一滴でこそあつてほしいもの。さうしてこそ凡ゆる未完成もまた生きて歴史の血になるにちがひない。かくして僕もまた普辺への

結合を僕なりに完成し得るのでせう。あなたもまた。そしてあなた自身が創作する時、僕も伴侶的理解者になります。本は出版までまだ困難は多いし、実現はなほ現実的と云へないが、また実現しても或ひは身辺の異常を招くかも知れないので、二校が終つたら、あなたに初校の校正刷を送りませう。それでまづ読んで下さい。原稿は大分汚くなり読み辛くなつてゐますから。そして今度の本のデジケーションは、処女作にふさはしく、妻たるあなたと、亡き二人の友、中島、永島両君とへささげるつもりです。但し之は本には書かない。本には個人的なこと一切を省略する。ただ、その心で。この三人が現在の僕をつくり上げてくれた最愛の人々だから。

階下であなたの手紙を□んでしまつて、ふうちやんの小包をあげ、リデル・ハートをパラ／＼見てみると、森井篤子さんが訪ねて来ました。まだ身体が余り強くなささうで（五年間腹膜炎で病臥したのださうです）、何とかと云ふ出版屋にとめてゐるのださうです。「何から話していいやら」とつもる話（中島君の）をしました。あなたへいつかツル子さんの紹介で就職の話で来た高須セツ子と云ふ人は、森井さんの友達でもあり、中島君の友達でもあつたのださうです。それも初め田中君を通じて。所が、その後田中夫妻をのりこえて人間的にも、中島君との交はりの点でも進んだために、田中夫妻に憎まれ、近頃では殆ど会はないのださうです。そのセツ子と云ふ人も、女のインテリまたはインテリ一般の通弊としての、「勉強出来る仕事」を求めてゐたらしいが、いろんな体験で漸く仕事は仕事、勉強は勉強としてやる外ない現実を認識するに到り、今はどこかの工場の厚生部とかで、ま／＼つくるになつて働いてゐるさうです。

こんな話をきくと、実はあなたのえらさを思ひます。その点はあなたはうぬぼれていい。すなはち「勉強出来る仕事」と云ふ風な甘い観念的な幻想をもたず、現実の中で仕事を心得て、その仕事の現実から勉強の条件を作り出し、勉強して来たこと、しかも女の子たちと一緒に、そして或ひは恐らく若干の女の子達に人生を開眼したこと。

調査会につとめてゐる女の子達の甘さ、また高須セツ子と云ふ人があの頃もつてゐた甘さ。それらはすべて、現実への観念的態度、たたかひとるのでなく、与へられるのを待つ態度なのです。村瀬君や西海君にもそれがある。楽な仕事、いい仕事、と云ふのは、現実には甘やかしてほしいと云ふ態度です。僕の今の恵まれた仕事も、実はたたかひとつたのでなく、偶然与へられたことだが、しかし最初から決して甘い観念を以ては入つたのではない。むしろ上田君に充分きかされてゐたから、雑用をさせられるつもりで、ただ生活のために就職したのでした。丁度あなたが農林や鉄工聯へは入り、僕がかつて都の社会部へは入つたやうに。

それはとにかく、森井さんも「中島さんほど女の心のよくわかつてくれた男の人はゐない」としみ／＼云つたので、

「僕のフラウもさう云ふから、それは本当なんでせう。殊に僕がフラウの気持を理解出来ないでゐる時にさう云ふのだから」と相づちうちました。だが森井さんと中島君の話をしながら僕の感じたことは、さうした女の人の心理の理解、または一般的人間関係の微妙なあやの感受と理解に於ての中島君のすぐれた点を充分受け入れ、また彼が人生に対してもつた誠実と熱情、科学や芸術に対する深い洞察と理解、未完ながら独創的な探究を、敬愛を以て想ふことに人後に落ちないつもりだが、他面、中島君の歴史的制約をのりこえることが、彼への真の愛情の発展でないかと云ふことです。彼が僕とのジエネレイションの相違で説明したあの差こそ、実は僕が彼をのりこえたことだったと僕自身で感じてゐるのです。

人あるひは異議をとなへるでせうが、彼が漱石やドストエフスキーを、またはさうしたものへの親近性を、徹底的に歴史的に批判出来なかつた点、「過去の重圧」と云ふもの、「人間の魂の罪」と云ふドストエフスキー的觀念を歴史的に批判し切れず、そのままに受け入れたこと、之が彼の制約だつたと思ふのです。結局歴史の理解の不足の問題です。彼があれほど家族制度に苦しみ、それと全身的にたたかひぬかうとしたに拘らず、個別と普遍との混同(家族制度と云ふものと、自分の現在の両親との觀念的混同)から脱し得なかつたこと、これが漱石やドストエフスキーの世界の本質を理解させなかつた限界なのでせう。それはのりこえねばならない、だがそれをのりこえるためには、僕達を経て来た程度以上の生活体験が必要なのかも知れない。或ひは僕のやうな或る程度粗雑な神経が必要なのかも知れない。丁度スポーツマンや戦士が、余りセン細で微妙な感受性や神経をもたない方がいいやうに。

この点は森井さんもよくわかつてゐなさうでした。恐らく彼女の彼に対する結びつき的情緒的要素が、彼をのりこえることを妨げるのかも知れない。僕は中島君と云ふ個別を自分の普遍への結合の一つの媒介にすべきで、そのことこそ現実の彼の個性の真の敬愛を意味するのだと思ふけれど、どうかしら。

二時間話して、五時頃彼女は、トマトをおみやげに帰りました。彼女はお茶をくれました。之は僕が彼女にお茶も出さなかつた(出すことを忘れたのでなく、火を起すのが大変だから)からではありません。その中僕達のことをききたいと云つてゐました。あなたがいやなら云はないでおきませう。

夕食をおそく、ジャガ、モロコシ、フクシンヅケですませました。

あなたは僕があなたの身体や健康を無視した、生命をまで軽視したと云ふ風に思つて来たらしいが、それは、僕のエゴイステイクな態度に責めの一半ありとは云へ、情ないことです。僕があなたを知つて以来、あの文通の頃以來、いつで

もどんなにあなたの身体を心配したことか。当時はあなたをいばまだ見も知らぬと云つてよかつた頃だったが、あなたの毎日のくたびれを自分の身に感じ、嗜眠性脳炎などが流行した時、それにかからなければいいがと真剣に心配したことを覚えてゐる、その後、あなたが約束の時間に来なかつたり、また結婚後、無断で遅くなつたり、近くは、仕事の帰りがおくれたり（内藤嬢の家でおそくなつたり）、さう云ふ時にどんなにやきもき心配したことか。その心配を、若しものことのあつた時のいろんな煩はしいことを嫌ふ、僕のエゴイズムだとあなたは云ひ切れるでせうか。この間もいろんな話をして、何かのことから、「僕は空襲の危険のない時にでも、フラウの帰りがおそいと、何か交通事故でもあつたのぢやないか、自動車にひかれたりしたんぢやないかと心配して、何にも出来なくなる」と云つたら皆に笑はれたけれど、之は真情です。疎開するまでの僕の一番の心配は空襲であなたがケガしたり、万一のことあつた場合のこと、あなたのいのちは僕のより大切なんです。それはいつも云ふやうに、あなたの中で生きぬかうと思つてゐるから。之も僕のエゴイズムだと云ふなら、仕方がないけれど。とまれ、その意味では、僕はいつでも、あなたにとつて僕が必要なものよりはるかに強く切実に僕にとつてあなたが必要なのだと感じ、その感じで生きて来たつもりです。あなたは僕のおゆる考へや感じかたに、ただエゴイズムのいろんなあらはれや形ばかりを読みとらうとするかも知れないが、僕とあなたとを一体に見るなら、エゴイズムでない感じかたや考へはあり得なくなりはしないでせうか。あなたに害のあるエゴイズムなら批難されて仕方がないが、あなたに害のないエゴイズムなら許してくれてもいいと思ふが、甘いかしら。エゴイズムかエゴイズムでないかは、やはりそのエゴが、即ち個別的自我が、普遍的自我即ち夫婦体でも共同体でも人類なり歴史なりでも、さう云ふ普遍と結びついてゐないかあるかで判断すべきです。

大分口うるさい弁解みたいになつたけれど、我々の最近の行きちがひの掘り下げとしては、この程度で一応わかり合へたのではないでせうか。で、あと必要なことは、常にお互ひを信頼し、お互ひに相手に必要であることを自信を以て考へ、その信頼と自信とに於て勉強し、行きぬいて行く、いはば現実とたたかつて行くこと、普遍へ結合して行くこと、そして若し健康がそれを妨げてゐるなら、健康を恢復すること。

僕は此の頃、人が自分のことを何と云つてゐるか、に余り囚はれなくなつた。それやほめてくれてゐればうれいし、「問題にして」⁽¹⁾ゐてくれればうれいし、評判もききたくはあるけれど、他の半面どんな悪口を云はれようと、あはて⁽²⁾たりとりみだしたり感情をかきたてられたりしなくなつた。また人の自分について何と思つてゐるかをしつこく知りたがらなくなつた。それだけ自信が出て来たのでせう。この自信は、第一にあなたとの全生活からかち得たのであり、第

二に今度の労作からかち得、第三に之からの仕事の抱負から得てゐるのです。あなたはまだ、人のあなたについての片言セキ句に囚はれるところが残つてゐるやうに思ふが、若しさうだつたら、それを克服して生活に自信をもつて下さい。だが僕は、自分の仕事だけでなく自分の人間としての資質、認識力について、伴侶的理解者としてのあなたから、客観的なしかも同情のある判断なり批判なりを時々ほしい。オザナリでないホメ言葉と、感情的でない批難とを。僕が之まで一々あなたに「口返答」して、あなたの批難を反撥して来たけれど、結局どんなにあなたの意見を汲みとり、あなたの感じかたに影響されて来たか、あなたは観察出来なかつたでせうか。では今夜は長い手紙をこの辺でおしまいにして、仕事にかかりませう。明日また書きます。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年八月一四日付け）

別便で代用ココアとふきん、ナプキンを送りました。ふきんは、勿論、お茶碗やお皿をふくのに使つて下さい。ナプキンは普通に使はず、何かいれたお皿やお丼の上に、ハエやごみのつかぬためにかぶせるのに使つて下さい。今日はお祖母さんの新盆で坊さんが来るでせう。十三日の月曜日は専らお裁縫とお掃除その他で働きました。和歌山、有田から利ちゃんの手紙をくれました。廿日頃まで和歌山市にゐる相ですね。寛さんも帰つたらいいですね。此の代用ココア、お気に召したら、まだありますから送つてさしあげます。

幸子から謙一あて（一九四四年八月一五日の記）※

八月十五日

昨日今日、お祖母さんの新盆で来客ばかり。一日お茶をいれたり出したり、洗つたりふいたり、あきくくしました。組合の女の人たちは専ら神秘的な話をしてゐます。みこに不動さまが乗り移つて大きな声でおさとしをしたとか、新盆の家の最初の夜は仏壇の部屋で賑やかな人声がする、遠い先祖が先達でやつて来るのだ、とか。飯田もさうであつた様ですが、鼎はもつと激しい様に見えます。年とつた女ばかりでなく、20才位の若い娘もみこの処へ一ヶ月に一度位の割合で誘ひ合つて行つて、おさとしとか乗り移りの実演を信じにゆきます。不安な今の社会情勢から、さう云ふものへの信

仰の形で、しつかりした頼りどころを求める心理でせうか。お母さんは大の神秘愛好家で、切りもなく、さう云ふ話を聞いたりしたり、今聞いたばかりの話を来る客毎にまくし立ててゐます。相手が若い学生であらうと中年の事務家であらうと差別なしに。お父さんも近頃は前の様なからかひ態度でなしに、どつちかと云へば信じたい風をみせて、聞いたりしてゐます。何も彼も不合理の世の中で、人々は不合理を敬仰^⑩してゐるかに見える位です。押しつけられた不合理を不当に思ふどころか、自分でも自分の作つたものの如くに消化して唯一の看板に掲げて、見せあつてゐるのです。坊さんが来ました。長くゐると思つたら、お茶を一杯のんだだけで、まだあといくつもまはらねばならぬと云つて、お経はたつた二分で済みました。お坊様たちの方が宗教を事務化してゐる―最も昔から坊さんたちが一番、宗教の本質を知つてゐたんですね。

マックス・フアランドのアメリカ発展史、少々よみました。アダムズよりもフアランドの方がもつとブルジョア的ではありませんか。食ひ足りないところがアダムズよりも大い様です。併しフアランドはフアランド、アダムスはアダムスで、それ／＼私には中々のごち走になる部分があります。あれこれと読む程、興味が出て来ます。基本になるものはあなたのアメリカ史(二冊とも)にして、エピソードや部分／＼の説明(条令の解剖など)は、もつぱらアダムズとフアランドから吸収してゐます。油が乗つて来た頃、きまつて何時も中断されます。うまくゆかぬものと嘆きましたが、どうもよく考へると、私の場合には其の方がいい結果を生んでゐます。自分流のフインキを作りすぎて主観的になり出すと、中断されて其の熱をさまされてゐると云ふ形もありさうです。独立戦争は前後共、相当精しくやつたつもりで、ある程度の下構^⑪らへが出来ましたから、あなたの芦野さんへの独立戦争は、今までよりは理解し易いと思はれ、早く見度いと思ひます。

御忠告により、新聞は昼食後二時までゆつくりていねいに見て、日記の備考欄へ二、三、ピックアップする事に致しました。

前、五月の終りのあなたの手紙で、『学生と歴史』の羽仁氏の論文、セニョーボスの『歴史学入門』、史学研究の中の『東洋に於ける資本主義の発達』を是非一読せよ、と書いてあつたでせう。羽仁氏の歴史の概念からすこしづつ(一日廿分位)、そのための時間を作りました。小此木さんの西洋史も非常に面白く読みました。そして生いきにも、この程度のなら私にも書けさうだ、なんて気を起しました。実際書いたら、とても書けるものではありませんが、―そんな気を起さず位わかり易く書いてありました。あれもこれも勉強したく、あなたのまね見たいではありませんが、下宿住ひ

でもして、誰に気兼ねも遠慮もなく、疲れるまで勉強出来たらなアと思ふ事しばしば。一人で住み度い気が起ります。併し私の場合は知識の積み重ねであつてはいけないとのこと（実際の生活との有機的な関聯に於て、読書と思索と経験との）ですから、多いにさう云ふ風に考へられる様にやつてみませう。そう云はれて見ると、毎日お母さん、お父さんとの関係でも、さうたうよく考へてみると、それ丈の小さい事柄でなくて、一般的な普遍的な事柄に通じるものがある事を、感じさせられます。此の小さい家の中の対人関係だけでも誠実に対処し、考へ、自分の考へ方対し方を批判出来、誠実に行動出来る様になれたらと思ひます。私に一番ないものは誠実さであると思ひます。自分にもあなたにも誰にも、まづ私は誠実さ一がありません。それなのに人に人間らしい生活態度を求めてゐるのは全く変なものだと感じてゐます。此の前に書いたかも知れませんが、フランクリンの自叙伝をつい此の前、独立戦争のためによみましたところ、彼の自己のきたへ方には得るところが多いにありました。あの形を一応まねして見るのもわるくないなと思ひました。

ここまで書いて食事にゆきました。今日も又来客、来客、何も出さずお茶菓子はないし、お湯が（お茶の）まに合はぬ位に客が来ます。どれもこれも長つちり。一番長い人はおひる前から来て、夕食を食べてゆく人もあります。家中大混雑、早苗はなく。汗まみれで、夏に私がよくして、あなたに嫌はれた髪（文中に挿入された髪形の簡単なスケッチは省略―編者注）こんな頭にして、顔は蒼ざめ、目はへこみ、と云つたあんばいです。でもまあ、一生懸命任務をつくしました。家中人が来てごたつくと、不思議にお母さんもお父さんもふうちゃんも気が短くなつて来ます。

地代論はまだほんの少々ですが、私にはローザの経済史より解り易い様に思はれます。経済史はゴタ／＼してゐて、どうもまとまりにくい。モルガンを前読みかけた時、曲りなりにもよみ通せばよかつた。一応ローザが終つたら、其の間をモルガンにしようと思ひます。

毎日何となく物淋しく、物足りなく、充されぬまゝに過ぎてゆきます。ひるまは目の前の雑用や勉強に追はれますが、夜、床にはいつて、今まで勉強してゐて頭がゴーツと鳴つてゐる時は、すぐにねむれず暗い中で目を覚してゐると、芯から淋しい気になります。そして空襲や徴兵であなたが死なない様に、何かに祈り度くなつて来ます。若しもさう云ふ事が出来るものなら、私のいのちをちぢめても、あなたのいのちを守つて下さい、そして仕事を完成させて下さい、と祈りたくなつて来ます。

今朝のラジオで、食糧封鎖をすると云ふ計画について放送してゐましたね。そこまでゆくでせうか。

小使さん夫妻がゐなくなると、こんろの火はどうするの？ そんなに毎日ポテトと茄子では身体が持つかしら。其のう

ち椎茸とうどんを、お母さんからすこし貰つて送りますから、うどんを作つておあがり下さい。かぼちやは茹でるよりむす方がうんと甘味が出ます。こちらもおひるはもつぱらむしかぼちやです。かぼちやは十二月位まで持ちますから、すこし買つておいたらどうでせう。
では今日はこれでさようなら。二階にちく音器もレコードももつて来ました。疲れた時一、二枚きくのはとても楽しみです。

※後掲する八月一八日の手紙と一緒に、八月一八日付けの封筒（消印は一九日）に入っていたものだが、一八日の手紙とは分離して、ここに掲載した。

幸子から謙一あて（一九四四年八月一六日の記・消印）

八月十六日朝九時卅分に、あなたの手紙（十二日、十三日分）うけとりました。前便は八、九の両日分、すると十日と十一日のが来てゐない。此の前、粉と林ごとふくらし粉とシーツ送つたのは着いてゐないのかしら。其の後に送つた本の事は書いてあるのに。

今実は勉強時間で、あなたのアメリカ史を十一時まで読む筈の時ですが、一紙紙にしませう。時間割は中々完全に出来ません。昨日の分が今日へのこりと云ふ風に追はれます。理由は始んど家事的用事のためで、其の用事も実質的にはたいた事は無いものですが、事務的に急いで片つけるといけない事はばかり。即ち来客の接たい、お茶出しが多いのです。其の取られた時間を夜にまはしくするので、朝ねむい。こちらに來た当時、五時には起きられたのに、最近は六時半にならなくて目がさめない。ひるねは勿体なくて出来ない。困りました。どうもまだ机に向ふ時間こそ勉強出来る、と思ふ観念が抜けないのです。それにしても現実の話がすぐに勉強を必要とするのですから、どうしても机に向つて読んだり調べたりする時間が足りない事は、嘆きの種となります。例へば『怒りの葡萄』の話が出て、ローズベルトのニューディール政策と、あの話の中の貧困農民とがどう聯関あるか一寸もわかりませんからね。何時になつても何かが嘆きの種はつきぬものらしい。

十二日に始めて味噌汁を食べたの。おみそが此の暑さで長く使はずにおくと、悪くならないかしら。お米が残つてしま

ふと、虫もつくでせうに。粉と代へるとか何とか方法ないの？ お菓子屋さんなら粉と交換してくれないかしら。ふうちゃんもお母さんも恢復しました。ふうちゃんのは体質も半分あるでせうが、毎日／＼のひるね、朝ねは半分は怠け心もある様です。怠け心と云つてはひどいが、矢張り生活にはつきりした目当を持つてゐない事も影響してゐる様に見える。お母さんは何かと云ふと、ふうちゃんのねる事を口汚く批難してゐるから、始めはお母さんの同情のなさだと思つてゐた。お母さんは自分のひるねは正当であるが、ふうちゃんのひるねはだらしがない、と思つてゐる事はたしかです。ふうちゃんもねるなら部屋の中位片つけて、すみの方へきちんとねる様にすればよいのに、ちらかしたまゝゴロリ／＼（又あの部屋は誰にもよく見える）だから、お母さんは怒るのでせうね。

お母さん対ふうちゃんの口喧嘩は、毎日五、六回は繰り返されます。どちらも自分の主観を押し通す、お母さん対ふうちゃんの争は、お母さんの一般的凡ゆる不満に点火する事になつて、大いにあたりの者は困惑する事しばしば／＼です。

二人を見てゐると、時にはあなたと私の対立を思ひ出します。お母さんの強引政策の中には（動機はよいのだが）、私の強引にそっくりなものがある。あなたの批難も多いに思ひ当る。殊に自分流のシステムの外はうけ入れぬ態度などに、利ちゃんの困つた気持も察しられます。

あなたの私に要求した「理解者」——今は私も本當にわかるように思へます。今まで私はわかりませんでした。事実、あなたの要求を、——自分の仕事まで女房に負担させようと強いる一位にしか思つてゐませんでした。併し事実、私にはあなたの理解者としての素質はなかつたのです。今でこそ多少、其の方向へ頭を向け始めつつある位のところですから。私はあなたの今度の手紙に書いてある通り、あなたの仕事の理解者になるためには、同じ位の水準に達してゐない限り駄目だと思つてゐました。理解してゆかうと云ふ段階を飛び越えて、批判者＝理解者と云ふ、いはば出来上つた存在ばかりを考へてゐたのです。それで自分には其の資格はないと放棄したのです。結局そこでも、あなたの云ふ通りに目的よりも手段の優位性と云ふ事を知りませんでした。

——此の頃のあなたの手紙は——あなたの考へ方は、——実に楽に吸収出来同意出来、さうなくてはならないと思はれる事ばかりですが、以前はさうはゆきませんでしたね。私の気持の持ち方でせうか。理解しよう／＼とする方向、前のは反撥しよう／＼と、無意識に身がまへてゐたのでせうか。両方ともで手段を知つて来たのでせうか。今迄のは、ここまでに至る当然通る道程であつたのでせうか。

もう一つ其の事で考へられる原因は、あなたが大体に於て「押しつけがましい」と私が思つてゐた事もあるでせう。勢

急すぎる。すぐにあなたと同じに立てないとイラ／＼したり怒ったり不機嫌になった。「私のその「結果」への反撥も多いにあづかつてゐたと思へます。あなたの云ふ様に、あなたも手段をよく知らなかつたのでせうね。

前の手紙に書いた様に、私の側の不誠意も原因です。私の不誠意は、物の一面的見方から発してゐます。即ち自分の側だけの観じ方、それ一本槍でまっしぐらに押し進む。其の外のみ方、考へ方をうけ入れる事が出来ないのです。相手の立場、どう云ふ現状から「さう云つてゐる」のか理解しようとしなないので。自分の考へ方、感じ方より他は、相手の利己主義、誤謬としか思へない。更に相手が押し出て来ると、感情的に反撥して『押しつけがましい』と思ふに至つたのです。

もう一つは、あなたがうぬぼれてゐる程の仕事かしら、と云ふ―いはばあなたのうぬぼれ(?)への反感もあつたでせう。結局、私の私の強さ、主観的偏見無理解となつたのです。私が自分を、他の誰よりもまさつた存在だと特別扱ひに、他と差別してゐた事、自分の「内容のないうぬぼれ」を批判した事がなかつた事、考へてみ様とした事が一度もなかつたためです。

今度のあなたとの往復書簡で、此の点、多少は考へられた様に思ひます。自分の内容を吟味したことは、―まだ／＼不徹底ではありませんが、そこへ目をつけざるを得なかつたこと、目をつけた事は、それ自身、私の進歩です。

森井さんで誰だつたでせう。私はよく覚えてゐません。私たちの事をききたい、とは何の事です。何でも一切お話になつてかまひません。結婚の事ですか。森井さんは中島さんと結婚しようとしてゐた人なのですか。高須さん―もどんな人だつたか殆んど忘れました。それ程の強い個性も、一度の会見では印象づけられてゐません。皆、各々、重荷を負つて生きて来たのですね。

あなたは男の友人はあるが女の友人はない。それは私がそれを許さ(ゆる)せなかつたからでせうが、―今後は女の友人を持つて、いろいろ話合つて見て下さい。あなたは大体、女を知らなさすぎるかも知れない。きまつた人以外は。さうすれば私にもすこし寛大になれるかも知れない。或はその逆かも知れないけれど。森井さんとか、高須さんとお友達になる事はいいと思ひます。あの方達も中島さんを失つてから、あの人にまさる友人を持たなかつたのではないでせうか。あなたの仕事も、男の友人だけでなく、彼女たちにも理解して貰ふ事は、―一般の女の人のあなたの仕事に対する理解の程度も知れて、仕事を進めるために役立つ事もあらうと思ひます。

今は私はあなたの手紙を弁解、口うるさいなど、露(あ)れども思ひはしません。だからあなたの事を恨んでなど居りません。

私がわるかつた―無知だったから悪い結果を生み出してゐたのだと思つて居ります。あなたの毎度の手紙は、ケン／＼フクヨウしてよんで居り、あなたの信じるところは私も又信じる所となり、あなたの希ふところは私の希ふところとなりました。私からあなたを引いたらゼロの如きものです。と云ふと面白くないかも知れませんが、近き将来に於ては、「謙十幸一」から「謙十幸二」に至り、「謙十幸三」に「謙十幸四 or 五」と云ふところになるでせう。^(たうとう)とう／＼午後一時半になりました。此の手紙を書き始めたのは朝の九時半、間は随分とぎれました。今日も又、来客多し。

お父さんは下痢とジンゾウの腫れ物、肩、うで、ロク骨の辺の痛み等々、一週間に亘り大分弱りました。一寸こしかけると、フラリ／＼みねむり。起きて立つ時はよろめいてゐます。手術も往診も控へてゐます。

八月十六日、まひる。

謙一から幸子あて（一九四四年八月一四〜一九日の記）

八月十四日、月、晴。日中は廿四度、夜の九時でも廿一度。相当暑いと思つてゐるが、皆かはりばんこに二階へ来ては涼しい涼しいと云つて駄弁つて行きます。風通しがいいので、ここへ来る人は例外なしに涼しがる。

昨夜は濃く煮出した（煮出すつもりでなかつたのに）煎茶をのみすぎて夜半の二時か三時まで眠れなくて、しかも今朝はやはり六時だったので、眠い。

ゴリキーの四十年はやはり中々面白い。ジャン・クリヤ魅せられた魂とはつきりちがふ所は、前世紀末のロシアのインテリゲンチヤの少年青年壯年達には、本当に好きなタイプと云ふものが殆どなさうだと云ふことです。すべての人々が歴史の足場を得ないで、しかも歴史の悩みのみは鋭く感受しつつ、彷徨してゐる感じですよ。どの人物も何となく嫌な、好きになれない人物だが、そしてゴリキーはそれらをかかへるものとして描いてゐるが、それにも拘らずゴリキーの、それらの人物への深い愛と理解、それらの人々の苦しみへの愛が、我々を打ちます。あなた若しこの四十年を読むとしたら、警戒が必要です。それは、あなたや僕には、文学作品を、その中に出て来る人物が我々の好きなタイプか否かによつて価値判断する怖れがあるからです。ゴリキーとドストエフスキーとの相違は、根本的には無論、歴史理解の程度の差、リアリズムと似而非リアリズムとの差ですが、外形的に云ふと、ゴリキーは或る人間群（インテリ）の卑小さを

そのものとして描き、その卑小さにも拘らず歴史に何とか足場を得んとしてむなしくあがきいら立ち苦しむ、その苦しみに深い同情をもちつつ、結局さう云ふものを歴史的に克服して行くのですが、ドストエフスキーは、やはり同じ或る人間群（中産的知識層、所謂ラジノツィネットまたはインテリゲンチヤ）のみじめな内面、矛盾に充ちた内面生活を、深く描いてゐるやうだが、実際はその矛盾を現実からはなれた一つの自己完結的世界に於て描き、従つていつか美化し、「人間性の魂の根源にひそむ罪」「内質に宿命的にひそむ人間的悪」と云ふ風な神秘化された表象の中で、宗教的な観念的な肯定にとどまつてゐると云ふ所に、あるのでないでせうか。

八月十六日、晴。（水）

十五日が抜けたのは校正が出て、それにかかり切つたため。本文四百頁の校正は初校だけ終わりました。あと年表が三〇頁あります。全体で四百三十頁。

今朝あなたの十四日付ハガキを受取りました。ココア等御送り下さつたさうで、御親切を感謝します。森井さんがあなたとお友達になりたいと云つて来てゐます。住所を教へておきました。

前便で人物紹介をした白田黒白子と云ふ女の子（森井さんと同じアパート）が微熱があつて肋膜炎の疑ひがあるので、安田さんで診てもらつて今の中休んでなほすやうにすすめたのですが、松本へ疎開するか静養するか出来ると云つてゐるので、若しさうすれば、あなたを訪問させたいなと思つてゐます。「魅せられた魂」に目下夢中ですが、第二巻がないと云つてゐるし、我々の読んで来た本をもつと読ませたいやうな女の子で、甘いけれどすなほだからのびると思ひます。「女一人大地を行く」を読んだらしいが、まだスメドレーの生き方を充意味解出来ない程度の甘さを持ち、彼女自身も僕がさんく、云つた「甘さ」を自認してゐます。だが今までの教養主義的な遊戯的な勉強ではなくて、もつと生活的な真剣な勉強をしたがつてゐます。

昨日伊藤新一君から電話があつて、あなたの近処へ疎開したいやうな意向でした。みつちやんの安産で僕も安心しました。出産日も殆ど予定通りで、本当に合理的なお産だったのですね。島村君のうれしさうな手紙を受け取つて羨むに似た気持ちも覚えました。

夕食後、ナスビを持つて大久保へ行きました。トマトは手に入らなかつたのです。それでも大いに喜んでくれました。叔母さんは内臓が下垂するので腹帯をしめてゐるのださうです。テル子チャン始め三人の子供達が、二時間もかかつて、

紅梅焼のやうなおせんべいを作つてくれました。

八月十七日、晴。(木)

午前中、山陽堂へ本を注文に行きました。お午の買ひ出しはモロコシ(一人十五本づつ)とトマト(一人一貫目づつ)。夕食はカボチャとモロコシ。

僕の今の仕事、独立戦争、現在の南部(ダイヤモンド)。やはりうみの苦しみです。

夕食後、約束によつて早川君を訪問しました。彼は相変らずピチ／＼と云ひたいほど生き生きして楽天的です。考へてみるといい友人達はみんな驚くほど楽天的で朗らかで、しつかりと足を地につけてゐる。之等の人々と話す時は僕もあせりを忘れ、僕も人一倍朗らかで大胆になります。この日曜の夜から数学の勉強を始めます。今日も行つたとたんから「待つてゐる人がゐないのだから、泊つて行きなさい」と云つてゐたのですが、十時頃、帰らうとすると、二人がかりで泊れ泊れとすすめ、では今度、そのつもりで来た時に泊るからと云つて帰つて来たところです。上田君とこでも泊れ泊れ云はれたが、今までこの数年来友人から泊れと云はれたことがなかつたので、ちよつと妙な感じもします。小田急は終電、下北沢十一時四十一分(経堂へは十二時少し前につくのでせう)。早川君とこでは、おいしい肉まんじゅう(鳥肉入り)を三つよばれました。

ここしばらく鳩の便りを受けないけれど(ハガキは別)、二元気なんでせうね。勉強はどうですか。僕の前稿読んでくれましたか。あれは僕自身が歴史の面白さに夢中になつて書いたもので、充分整理してゐないから読みにくいかも知れませぬね。僕はまだ素材を充分準備し、消化して書いたことがない。だから自信のあるいいものが出来ないのせう。

お母さん、不二ちゃんの御身体いかがですか。お父さんは御元気でせうね。では今夜はこれくらいで、「四十年」を読みながら寐ることにしませう。

八月十八日、晴。

お盆は大変だつたのですね。お母様もふうちゃんもあなたも、おつかれだつたでせう。お父様の御健康勝れないのはいけませんね。暑さと時局とのせいもあるのでせう。早く御元氣になられるやうに念じます。

手紙が一回届かなかつたのですね。何を書いたか忘れたけれど、届くべきものが届かないのは不快なものです。あなた

の手紙は十五日、十八日と二通、今日の午後届きました。またおひるにはココアとなぶきん届きました。ココアも之くらいあれば充分です。粉がないので、今度手に入るまで使へませんから。米も粉にしてたべたいくらいです。今日はカボチャとモロコシと三食。ナスとキウリ、トマトは三食とも付きます。ナスは支那なべで油やき、キウリは千切りに切つて魚粉と醬油とをふりかけます。ミノは大部分ナスにつけてたべました。マックス・ファランドは、アメリカのアカデミック史学界の元老です。ジョンソンなどと同じ。ファランドの發展史は教科書的なもので、僕の今井さんの米国史と比べて下さると思います。同じ教科書風に、あらゆる事を書いてはゐるのですが。

あなたの勉強の様子をお手紙で見ると、一緒に勉強生活をやりたい熱望に駆られます。二人切りの。そして時々親しい友人が来たり、友人を訪問したりするだけの。だが、もう遅いですね。時局がさう云ふ生活を許してくれない。僕はもう所謂「お召し」を待つてゐるだけであり、……。

八月十九日、晴。

昨夜は余り眠いので、書きかけたまま寐てしまひました。

所が今朝は、すぐペンをとらねばならぬことが起りました。

朝、芦野氏が来て、僕とN君と呼んで雑談してゐる中、N君が法事の家へ数日帰らして下さいと云つたのですが、芦野氏は「それぢや菊池さんと二人で、本を買ひに出張と云ふことにしたらどうだね」と云ひ出して、ほゞ内定しました。

N君の家は大阪なので、京都、大阪、神戸を一週間の予定で出張するわけです。N君の法事は廿五日なので、廿四日に立ちます。で僕も今彼と相談したのですが、実は半ばは彼のすすめもあつて、僕は廿四日に信州へ行く。廿五日朝、あなたと二人で信州を立つて京都か大阪でその夜一泊し、廿六日朝、和歌山へ行く。廿七日一日和歌山ですごして、廿八日朝大阪でN君と待ち合はせ。あなたはあなたの随意にまかせ（一緒にゐても、さきに帰つても、どこかへまわつても）、僕とN君とは一応、京、大阪、神戸の書店をまわり、廿一日に帰京、かう云ふ日程をつくつたのです。

どうですか。至急返事を下さい。日程はあとでどうでもなります。ただ廿四日出発と総日数一週間（欠勤して三日ぐらいのばせるけれど）とだけはほゞ決定。まだ理事会の決定ではないが、月曜の朝、芦野氏が理事会で話す筈です。ではとりあへず。

幸子から謙一あて（一九四四年八月一八日の記、一九日の消印）

教次さんから女ノ子出生、名前は八穂とか、お手紙参りました。時節柄、御祝品もなく、不取敢、五円送りました。適当な品がありましたら、あなたの方からよろしく願ひます。

島村さん、まるでうちよう天のよろこび様、さこそと察しられます。不二ちゃん曰く

早苗の名の時は親の悪趣味の表現と云ひ乍ら、これも又相当の悪趣味ならずや。

案じるより御産も軽くて安心致しました。

もう朝夕、秋のけはひが致します。信州は秋になるのが早いのでせう。

涼しくなつたら毎週一回の割で奥の村々を歩きまはりたい。但し相手が無い。千里塚へ行つたのは九月の終りだつたでせうか。

鼎村はもう秋まつりです。林檎が買へたら送りませう。但し小荷物も郵便も表むきは駄目ですから、ほんの五、六個位でせうね。

八月一八日

幸子

謙一様

幸子から謙一あて（一九四四年八月二〇日付け）※

うす青き霧のふる夕

秋風か、腕に冷たし、

やり場なく迷ふ心を

しよざいなく

灯をつけて机によれば、

白々と埃浮くひろげたペーヂ

空々しき活字の行よ、
物見れど、心は由に、
沈みゆく今日の思ひは。

※中身の便箋はちりぢりに破られていたが、それを復元して解説・筆写した。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年八月二一日付け）

今日、別便で、魅せられたる魂の二巻を送りました。U嬢（原文）があとをお持ちでなければ、こちらに皆そろつてゐますから、お送りませうか。その他、仰言つて下されば、来てゐるものは何でも送ります。

お父さんはギフ県まで往診手術。二、三日こちらは休診です。お母さんもよくなりました。こちらはまだ秋の風が吹いてゐて、朝夕、スエーターのほしい時もある位です。近日、茨城へゆくかも知れません。決つたらお知らせさせませう。

謙一から幸子あて（一九四四年九月三日の記）

今朝六時二十分、経堂へ帰着。こちらでも電報は一日の昼に届いたが、切符が買へたかどうか、思ふ通りの汽車へ乗れたかどうか、今の旅行ではわからないから、確実に帰るまで留守居を続けるやうにと本室から云はれてゐたさうで、昨夜は一応帰るものとしてジャガをふかして待つてはゐたものの、今朝帰るとむしろ意外に早く帰れてよかつたです。ねと云ふやうな顔をしてゐました。

朝食後はふとんをほしたり、米をすつかりほしたり（大分虫がついた）、あちこち片づけたり。昨夜は満員で、坐ることも睡ることもあきらめたのですが、上諏訪で偶然すぐそばが空いてうまく坐れました。尤も三等車は椅子の具合が悪くて眠れず、おまけに暑いし、まわりの客は汗くさくさぶ佐法（原文）だして、マスクをかけたが、前後三時間も眠つたかしら。汽車の停車した時をすつかり知つてゐるくらいです。にも拘らず、とにかくこの汽車にうまく乗れて、今かうして無事に東京へ帰つてゐることは、僥幸なくらいです。

忙しい旅だったが、近頃に稀な楽しい時間だったので、帰って一人きりになると、子供の頃のやうな孤独感につかれて、原稿も書けず、ひる寐も出来ず、結局あなたへ手紙を書く外ありません。

今度の旅の楽しさは、すべてあなたのおかげです。あなたが始終機嫌よく楽しさうで、くたびれても人混みの不快さや苦しさにも快活を失はず、僕の両親の茅屋でも気がねせず、僕が希望してゐたやうな態度で終始してくれたことが、そして何でも喜んで、物のいい面により多く注意し、すべて好意的であつたこと、しかもそれが自然な風にさうだつたこと、之等が僕にとつてこの旅の楽しさの根本要素をなしたのです。旅行自体は、無理な日程のくみ方と云ひ、列車の便の悪さ、食べ物（食）の楽しみの欠除、乱暴な人混みと不案内から来る不安、苦痛、疲労等々、まるで条件は悪かつたのです。あなたと二人でならどんな苦痛や不快にも耐えて行ける自信ができました。それだけに、帰って一人になると、何と云ふさびしさ、空虚さでせう。慾を云へば、もう数日どこか、例へば奈良ホテルのやうな所で過ごせる日時とお金があつたらよかつたでせうね。だがむしろ、こんな危い時期に、この程度にでも愉快で楽しく、豊富で、余りお金もかからず、本もおみやげも一通り買へて、ほぼ予定通りの日程を終はることの出来たのを、幸運と思はねばならない所でせう。それに僕としては、あなたを自分の両親や親戚、妹達に引きあはすと云ふ年来の宿願をも達し、僕の万一の場合の手筈を一通り可能なやうに持ち来らせましたので、望外の喜びともしていいのでせう。

所で一応今度の旅の整理をしておきませう。貴女は時間やその他細々したことには記憶は余り正確でなさうだから、日記につけるのにも利用して下さい。

八月十九日(土)

芦野氏より出張の提言。未決定ながら準備にかかる。

八月二十日(日)

午後アサチャン来訪。夕食後早川君を訪ねる。

八月二十一日(月)

午後本室へ行つたが理事会の決未だなし。サラリーをもらつたあと、庶務課長と経堂分室の留守役と防空当番について

談合。第一の難関。T君が頑迷のため、僕は出張をあきらめる気になる。だが庶務課長もT君説得に骨折ってくれて、どうにかなりさう。午後四時、小此木君訪問。次いでその朝電話で約束した伊藤君を訪問す。帰つたのは十時半。

八月二十二日(火)

朝またT君と一合戦。結局、八木、M両君も余りのことに聞きかねて、T君説得にのり出し、彼を押しだまらせる。午前十時半、本室より理事会の決定の通知。午後三時本室へ行き、日程(二十五日―九月一日)その他を定める。三越でおみやげのお茶を買ひ、銀座で紙芝居を買つて、鷹の巣で夕食。帰ると信州より電話あつたとき。久しぶりにあなたの声をきく。奈良ホテルへ予約手紙。

八月二十三日(水)

午後、原宿で亀屋とセンタクヤとへ寄る。都電で神田伊藤書店へ寄る。本室で旅費二百円を受取り、互助会で五十円借りる(総計借り百五十円)。銀座、多喜山で食事。経堂で明日の切符買はず、予定通り発ち得るか否か疑問になつたところか、出張自体が可能かどうかすら怪まれて、殆ど絶望に近し。第二の難関。ともかく駐在所へ適当な手段なきやをききに行き、やや希望を恢復。夜は殆どテツ夜して原稿を書きあぐ(六十枚)。

八月廿四日(木)

寐たのが四時すぎ、起きたのが六時前。フラク／＼しながら新宿へ切符買ひに行く。ボンヤリして渋谷行き切符を買ひ、新宿駅でゴネられたが、どうにかきりぬけて申告所へ行く。駅長室で頼み、申告所でも頼んだが、今夜の汽車は絶望。明朝立つとすれば、朝、飯や弁当や準備が大変。ボンヤリして三等の切符売場にならび、漸く自分の番になつて注意され、ガツカリしながら二等の所へ並びなほす。だが幸ひ今夜の指定証を得た。之で元気づく。省電で本室へ。芦野氏に昨夜の原稿を渡し、フクシンツケの配給をうけ、神田伊藤書店へ寄る。雨になる。ボウシを買ふ。帰ると四時半。朝つくつておいためし、昼の分と夜の分(少し)と一緒に食べる。小使さんに汽車の中でたべる弁当をつくつてもらふ。その間猛然と準備にかかり、七時まで辛うじて荷造り終る。重い。留守番の鈴木君(会計の人)とA嬢とが荷物をもつてくれて、大汗かきつつ七時半すぎ経堂へ。新宿へついでから荷物をもつたままで行き、千駄ヶ谷の今井先生

のお宅へ原稿を届ける。ゆつくりするひまなくとつて返し、新宿のフォームへついたのは九時半。幸ひ二等車の列は少い。うまく席はとれた。十時(二十二時)四十分発車。夜食をして眠る。昨夜寐てゐないのでぐつすり眠り、

八月二十五日(金)

途中日野春で眼がさめたきり、次に眼があくと早くも上諏訪。五時半、辰野着。飯田線は混んで、飯田まで坐れず。八時半下山村着。君の身体まだ充分ならず、旅行やや不安にも思ふ。この日、予定の校正は余りの眠さに終了を見ず、ダイヤモンドの原稿も書けない。

八月二十六日(土)

四時に起き五時二十分家を出る。雨模様。五時四十五分下山村発。二人とも坐れた。幸子しきりに眠る。僕も眠い。午前十時少し前豊橋着、雨ふる。僕が便所へ行つたため、間一髪で十時〇四分の名古屋行きを逸す。フォームのベンチでにぎりめしをたべる。十一時十一分豊橋発。幸子坐れた。雨があがつて暑くなる。十二時四十五分頃名古屋へつしたが、始めての所でうろくしたのと、幸子の便所行きとで、十三時の「関急」急行を逸す。十三時四十分の急行で名古屋をたつ。辛うじて二人坐る。

三時(十五時)十五分、中川着。のりかへるとやはり超満員。十六時四十五分、八木着。十六時五十九分の京都行きにのりかへ、西大寺にて十七時二十分にのりかへ。十七時半に奈良着。地図をたよりに奈良ホテルへ。サルサワ池にて幸子、車にのる。ホテルはよろし。くぢらの食事の可。但しあとで持参のコツペ一つ平げる必要があつた。入浴して原稿書きかけたが、眠くてうまく行かぬ。早めに床につく。

八月二十七日(日)

朝食にミルク入り純紅茶(無糖)たつぷり二杯、幸子大いに喜ぶ。庭を散歩して後、またコツペをたべる(但し主に僕)。車屋来り、九時少し前、市中見物に出発。曇り日。日曜なれど人少し。鹿ホテル―春日神社―手向山八幡―鹿角屋―若草山―墨屋―二月堂三月堂(東大寺)―大仏殿―興福寺五重の塔。時に十一時半。猿沢池附近の四級宿屋へ荷物をあづけて、小さい支那料理屋の一円定食。本を買つて、もう一度安食事をして、十二時半奈良電車へ。

鶴橋で電車立往生。それがたつて天王寺で一時二十分の急行を逸す。だが二時の急行に坐れたから満足。三時十分東和歌山着。日さしきびしく、南国調。吉武母堂に「和歌山で言葉の汚いことや」と云はれたその和歌山弁も、幸子は別に気にしないモヨウ。市電にて県庁前まで十五分。そこから数丁で茅屋へ帰りつく。

突然のことで大分驚かせたらしいが、僕も母の齒のぬけた口とやせた身体と背の曲りぐあひとに驚く。だが話して行く内、昔の面かけを復して馴れた。父も思ったより肥つて、機嫌もいい。空腹に早目の夕食。ビールであいさつ。食後夕景を西カチャ町の石垣さんへ。石垣さんも年とつたが、話具合は昔のまま。大変喜んでくれて、帰つた甲斐があつた気がする。ついふらくくとよろず町(魚市)からブラクリ町へ出る。意外なほど人が出てゐる。元寺町の映画館街の賑さ。築地でフカのあらひをたべる。こんなものと思つたのに幸子がおいしがるので満足。京橋からお多賀さん、番丁と歩いて帰る。大分疲れた。二十時半。

八月二十八日(月)

快晴。十時頃、弁当をもつて市電で先づ新和歌浦へ。電車は混む。久しぶりに海を見て郷愁を感じず。人少く、風さやか。暑さもさほど苦にならず。田の浦へまわる岬の突端で食事。魚の天プラに幸子喜び、従つてまた僕も喜ぶ。和船で双子島の方へ出る。一時間で引き上げたが、爽快。新和歌を放れるきわにもう一度料亭に入れば魚すき。新和歌より片男波の堤防を歩いて和歌浦へぬける。人は居ないが風光は昔のまま。明美。少しおそくなつたが、買出しで混む市電のつて紀三井寺へ。子供の時以来来たことがなかつた。午後五時帰る。少し本買ふ。

八月二十九日(火)

晴。早目に仕度。石垣氏来訪。八時、家を出たが、市電来ず。八時四十分の阪和急行を逸す。ややあはてる。N君との連絡絶える怖れあり。九時二十分の急行で十時半天王寺着。幸ひ彼待つてゐてくれた。地下鉄で梅田へ。駅の地下、荒木書店で二百五十円ばかり買ふ。鉄道食堂で雑炊ランチと持参のにぎりめし。省電で一時半三の宮につく。ログスで六百円、穴門、元町の何とか屋(二百円ばかり)。之で公用の大部分を終つた。

南京街の博愛楼にて夕食。量多し。阪神にて出屋敷へ。昆虫まさに和歌山へ行かうとしてゐた所。夜になつて京子も来る。泊る。蚊多くて閉口。

八月三十日(水)

謙、九時の約束で大阪へ。晶子、京子和歌山へ。幸子、看護婦と留守。謙、九時二十分頃京阪神急発京都へ。十時半四條大宮着。百万辺(百万)でうどんやと飯屋とで腹をつくり、十二時頃京大研究室へ。N君は原教授の下に可候(可候)。謙は図書室へ。フレミング以下五冊、借りたいものを発見。

午後三時頃から農学部前の白陽社以下数軒を見、三条へ出て大学書林外数軒を歩く。五時過ぎ、ギオンの一休庵にて普茶料理を食ふ。N氏とは桂で別れる。廿一日の夜行で飯田廻りの計画を立てる。梅田で一時預けの荷を引出し、出屋敷へ帰れば七時半。今日も原稿書けず。

八月三十一日(木)

暑い晴。切符を看護婦に頼んで十時神戸へ。穴門書店でリヴィウスを買ひ、元町を歩いて一昨日の博愛楼で同じものをたべ、大丸その他で二、三買ひ物をして謙のみは二時、梅田の荒木へ。N氏と会はず。道トン堀へ一人で出て、天牛書店外数軒を見る。午後五時半、出屋敷へかへる。

予定の切符かへず、失望。私鉄を利用する外なし。散歩。晶子、薫、帰る。十一時すぎ寐る。

九月一日(金)

午前三時半起床。四時半家を出る。五時十分の満員電車で、梅田着は六時二十分前。市電で上本町六丁目へついたので六時五分。ムロン、六時の一番を逸す。だが豊橋まで買へて一安心。六時四十分の急行。超満員。眠けれど眠れず、腹空けど食へず、立つてゐることさへ辛うじての有様。中川着は時間表の八時四十分におくれること二、三十分。ホームで名古屋行きを待つ間に、パンの焼米の朝食の立ち食ひ。名古屋行も超満員。時間表の10時38分着は11時20分着とまでおくれる。ムロン10時42分の上りを逸す。駅の地下喫茶室にてにぎりめしをほうばるが時間なく、直ちに列に並ぶ。十二時四分発ののぼりが五分余りおくれた。豊橋着は十三時五十五分。謙は直ちに晶子よりのたくされ物を河合病院へ。幸はその間に危く切符を買へた。だが、またしても間一髪で十四時八分の電車を逸す。逸すること之で八回。間一髪と云ふのが五度。だがそのかはり十六時九分のは悠々と坐れた。八時二十分下山村着。一人で留守居のふじちゃんにお茶づけをござさうになる、そのうまさ。間もなく両親及びあさちゃんなど帰り、二十三時すぎまでみやげばなし。

九月二日(土)

切符買へて最後の難関を切りぬけた。朝立つのをやめて、夜行にする。原稿書けず。幸子はつくるひ物に忙し。十五時半、急に思ひついたやうに父が、辰江行きを發議。時間を危ぶんだが、どうせいそがしい旅の最後までスリリングな忙しさもよからうと、お伴する。木下医院にてオコワと牛肉とナシとをごちさうになり、ナシのおみやげもいただく。おみやげをいただきますに来た形。肝腎の鰐の出たと云ふ所は、二階から望見するにとどむ。切符の売切れを医者の特典で切りぬけた。

帰つてまた牛肉のごちさう。入浴してあはただしく二十時二十九分の電車にのる。飯田から坐つて半分眠りながら、二十二時五十分辰野着。何れも大荷物をかかへたまま陸橋をかけ上りかけ下り、既にフォームについてゐる列車にとびこむ。三等車席なく、あきらめてトランクに腰下す。とにかく之でどうやら東京へ帰れるので、席の文句など感じない。

九月三日(日)

晴。五時五十分新宿着。六時の急行で経堂着。六時二十分帰着。

何と云ふ忙しい旅だったことせう。貴女もきつと疲れたにちがひないから、充分休養して下さい。此の頃機会と云ふものにやや積極的になつてゐるおかげで出来た旅ですね。昔の僕なら考へただけでもいやになつてしまふ。貴女のつかれさへ出なかつたとすれば、文句のない旅だったと思ふ。

では元氣にやつて下さい。僕は之から、旅行よりもつと忙しくなりさう。和歌山と晶子の所とへ、ちよいとハガキでも出しておいて下さい。僕からも出しますが、不二ちゃんにくれぐもよろしく。お父様お母様へはハガキを出します。

謙

幸子から謙一あて(一九四四年九月三日の記)

御ぶじでお帰りの事と思ひます。汽車は混みましたでせうね。お茶がなくて困つたでせう。私たち、あれから、何杯もくお茶を飲みましたから、無困つてゐるに相違ないと思ひました。あれからお父さんは、疎解兒童の發熱とかで鼎の一番端にあるお寺へ往診、お母さんは早々とねましたので、私とふうちゃんと一時まで起きてゐて何かとお喋りしてし

まひ、林ごを一ツ、例の□―リイとか云ふ支那梨を一ツ食べました。果物は手にはいつても、送る事が出来ないのですから、あれは太切に一人でおおがりになるといいです。今後は送れても洗濯物の中に二、三個入れられる位ですもの。今度は本当に思ひがけぬ機会がいい旅行が出来て、本当に嬉しゅうございました。あちらのお父さんやお母さんにも氣樂にお目にかかれるし、話に聞いたり想像してゐたとは全く異つてお父さんはやさしい方で、たいして氣兼ねもいらなかつたし、案外若々しく元氣なのに驚きました。写真のお父さんの方が恐いわね。お母さんはびつくりした程、やつれてゐて痛々しい位でしたね。齒を早くなをす様に、あなたもセッセとおすゝめなさるといい。(尤もあんなにお金をせびりとつては、お母さんも齒科医へ通へないかも知れませんよ。私に返すのは返さなくてもいいから、原稿料がはいつたら、一番先にお母さんに、齒をなすために送つてあげて下さいな。)

京子さんも何て静かで、かわいなおつとりした娘さんでせう。私の家の者の原始的な、むき出しの荒々しい感情の投げ合ひ会話になれた者には、全く和歌山の家ののんびりしたフンキキは、別世界の感がありました。さうしてお母さん、私たち、みつちやんの世界をふり返つて、「荒々しい感情、いきり立つくせ、推量」等の世界―強い自我、自己主張、主観の押しつけなどを再認識せざるを得ませんでした。あなたの始め頃の戸まどひの心持も納得ゆきました。

今日は和歌山と尼ヶ崎へお札の手紙を書いて出しました。あなたも和歌山のお家へ書く時、私のよろこんでゐる心持をお知らせして置いて下さい。家さへ、もうすこし便利に出来てゐる和歌山の田舎の方へでもお越しなさるなら、一つそ、そちらへ行つて一諸に住みたい位です。さうしたら私の思ひすごしや、むきつけの感情と云つた様なくせも、多少なをる様な心持もする位です。

奈良も和歌山も和歌の浦も本当に楽しい思い出になるでせう。勉強はちようど十日間休みましたが、明日(四日)から又、新に一心に勉強専心にとりかゝります。今のところ、それより他の道は私にはないでせうから。

朝ちやんも疎解の点、一寸困つてゐます。お父さんは誰も彼も危い東京を引きあげて家に帰つて来ることを主眼として、仕事は落ちついてゆつくり探すと云ふ考へですが、お母さんは皆が各々荷物を持ちこんで帰つて来る事がうるさいと云ふ氣持が主で、私は疎解して来いなんて一言も云ひはしない”と云つて、朝ちやんにも来る事をすゝめるより、やめさせたい位のき持で帰る事をせき立ててゐる調子ですから、困つたものです。

家さへあればまづ私が引越して、其処へ皆を一時迎へ、各々仕事が決つたら各々のところへ引越せばよいと思ひますが、仕事は不在で探すと云ふ事は、いくら人手不足の時とところでも、あまり確實ではありませんから。稲ちやんがこちら

に帰つて来る事を躊躇してゐるきもちも——ここでのフンイキを嫌つてのためなのとか、あり相な事です。極力、私は家なり部屋なり探す様、人にもたのみ努力して見る心算です。

今から（午後一時半）レコードを少々ききます。暑い盛りに音楽をきくのも中々いいものです。今、皆、ひるねをしてとても静か。私一人、例の如く六丈（五）に立てこもつてゐる始第（本）です。

あなたのあるうちに安全かみそりを一つ、不用の方を貰（は）らほうと思ひ乍ら忘れました。若し不用のがあつたら、おつ（ママ）い手の時に下さいませんか。

あのペンは使ひ心持如何？ 私の今度のは中々よろしいわ。あなたの置いて行つた方は全くすりへつて使ひにくいのね。一諸に買ったんだけど、よくなかつたのね。

では今日はこれでさようなら。九日も一諸にゐて、又別々の生活で一寸淋しいです。一色さんの家と云ふのはすばらしく立派で、きれいな家だ相ですね。あつちやんが、さう云つて居ました。其中、茨城へゆく時、一寸一時間位、寄つて見てもいいかしら。いけなければ寄りませんけれど。

Nさんよろしく。臼田嬢にもよろしく。

九月三日

幸子から謙一あて（一九四四年九月四〜五日の記）

八月四日

今夜の涼しいこと、肌寒い位です。東京世田ヶ谷はどうでせう。蚊はまだ跳梁してゐますか。暫く留守してゐたから忙しいこととせう。芦野さんはスミをよろこばれましたか。炊事は順調に運び出しましたか。

こちらでは——毎日、いまだに旅行談をしてゐます。あんなにあはたしい旅行でしただい話す事はうんとありますが、の。だけど喋つてゐるうち、何時か私の旅行談は、40年前のお母さんの関西旅行談にお株をうばはれて居りますが、——とに角お母さんの気嫌（本）の良いことと云つたら。朝ちやんは三日の夜に立ちました。それでこちらは又、元の人数に戻つて相変らずのチンタイになるのです。涼しくなつた事ですから、お母さんとも衝突せずに（と云つても私はめつた衝突（ママ）なんかした事はありませんよ）勉強します。



九月五日

今朝は早起して、松尾村まで、しよい籠を背負つて茄子の買出しにゆきました。へトくになつて帰りました。こちらも秋の食料はあやしいものだ相です。

家は山本村ならとてもよいのがある相ですし、引きうけてくれた人は、近藤さんと云ふ山本村の昔の殿さまです。山本村は浪合にゆく時に通つた村で、鼎より文化的だ相ですが、唯交通が不便です。山本村に永住するつもりなら、家も仕事も

責任持つて呉れるとか。朝ちやんは山本にゆきたいらしい。何なら私も山本へ行かうかと思ふけれど。あなたは如何？ 今日、お母さんが和歌山のお父さんあて、お礼の手紙を出しました。敬意を表すとかで、すみで書いてゐました。大根を盗まれた話や、和歌山訛の御両親の会話や、お家のフニキをちよいく話しましたので、お母さんにもあちらの様子が大部わかつて来た様でよろこんでゐます。では今日はこれでさようなら。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年九月四〜六日の記）

九月四日。晴。

残暑きびしく、水は出ず、またまたキリギリス生活に入る。

本室へ行つて一応あいさつをすませ、N君と銀座で、今新と大三広との会食をやりました。大三広は此の頃質が落ちましたが、今新はやはりおいしかった。

竜江のおみやげのナシは、おいしく食べてゐます。鼎のおみやげのササゲで白米を煮て、おこわのやうにして食べると中々おいしく、外におかすがいらぬくらいです。

白田嬢がやつて来て、魅せられた魂の第二巻をもつて行きました。彼女も土曜日までずっと休んでゐたので、此の日始めて出て来たのですが、聖路加で見てもらつた結果、肺浸潤で一ヶ月休むことになりました。森井さんも調子が悪くて寐てゐるさうです。

松沢氏（ダイヤモンド）からの電話があり、原稿に全力をあげねばならない。水は夜半十一時すぎにやつと出はじめた

ので、シャツなど数枚せんたくしました。

九月五日（晴）

御手紙を受取りました。あなたが旅行を喜んでくれるので、僕も実に愉快です。和歌山へはまだ書いてありませんが、御趣旨を伝えておきます。

なほ、あなたはお母さんをいらだたせないやうに注意なさい。お母さんは長い間、家族制度なるものと苦斗（闘）して来たのだが、制度と云ふものは一人で独力で戦ふには余りにも強大で、しかも油断のならないもので、お母さんが弱つた時は逆にその制度の毒素に毒害されて、本来のお母さんのたたかひを癡痺させるのです。戦つたものは逆に戦ひを向けられるものに転化する。あなた方は、お母さんのたたかひを敗（た）えさせないやうに、協力しなければならぬ。その協力の第一の要因は同情と云ふことです。すべての人が今やいら立ち、神経質になり、おこりつぽくあらあらしくなる状態にある時、あなたは自分の理性で自分のその状態を克服するだけでなく、お母さんや不二ちゃん達のその状態とのかかひを援助するやうに。いら立つ神経の間で緩衝し、凡てをたたかふべき本体へ向けるやうにすること。極めて困難だけれど、あなたの今の生活の中で最も誠実に行動せんがためには、さう云ふ生き方しかないので。そのあひ間に自分の勉強をすればよろしい。あせらず、じつくりと。自信を以て。

和歌山は物が無いし、不便だし、文化的刺戟もないし、汚いけれど、よかつたらみかんの頃でも暫く行つて下さい。僕の母は、喜代子でも晶子でも京子でも、みんな朝寐で何もかも母まかせだったから、あなたのやうに早起きして掃除してために働くどびつくりするでせう。だが僕の両親だけなら別にさう働くこともないし、若しあなたが気がむけば、おやちと和歌浦の芋畑へ時に行つてみるのもいいでせう。僕自身はこの二、三年来、自分の両親や石垣さんに、自分の愛情を表出したいと云ふ考へを時々しみじみ感じて来てゐます。僕自身、両親には心配をかけたうし（は）だったし、その両親は今僕について心配しなくても、妹達についていろく心配や苦勞をしてゐるので、それを慰さめたいし、石垣さんも二人の息子さんを戦地に出して、孤独にゐるのを慰さめあげたいし。さう云ふ僕の希望の幾分かを、あなたに果してもらふことを考へるのは、僕の身勝手すぎるかも知れないが、若しその気があつて機会があれば、一週間でも十日でも御願ひします。

併しそれよりあさちゃん疎開のことは心配ですね。あさちゃん自身、帰りたい気持になつてゐるのだから、何とか家

か部屋かを見つけて、あなたと共同生活でもする外ありませんね。僕もどうせそちらへ行くのではあり。

肝要なことは、すべての生活が今や過渡的であることを強ひられてゐると云ふこと。しかもその過渡性は、いつまでと云ふ期限がなく、戦局にかかつてゐること。従つて、すべてがいつでも乱暴に中絶させられることを予想しつつ、しかもその過渡性の中でいくらかでも持続的な、また将来の生活への準備になり得るやうな形態をつくり出して行くこと。之等の現実をしっかりと把握せねばなりません。その上で、今のあなたの生活課題は次の如くなるでせう。

(一) 現在のあなたの生活のおかれてゐる人間関係の中で、その過渡性を容認しつつも、しかも最も誠実に、最善に生きて行くこと。具体的には現実のままならなさ、生活の圧迫のためにいら立ち、不機嫌に（心の状態が不幸に）なつてゐる周囲の人々の、その不幸を少しでもやはらげ、近親者の生活感情をなごやかに好意的なものにし、そして時局なり現実なりの重みやとげとげしさに耐えるやうにすること。それらを通じてあなた自身の道徳的完成をも努めること。

(二) 右のやうな周囲の人間関係の整正、融和と、それを通じて自分の道徳的完成、心情の錬成と同時的に、あなた自身の勉強を進めること。僕の伴侶的理解者たることを通じて、歴史一般、世界一般、人間的現実についての認識力を高めること。(一)が個別的生活のありかたについての努力とすれば、(二)は普遍的現実（歴史的時代）に処する生活のありかたについての努力である。

(三) (一)と同時に、他方であさちゃんやいねちゃん、そして僕の疎開を考慮において家をさがし、より一時的でない生活の条件をつくることに努力すること。

(四) あなたの友人達、僕達共通の友人達、それから僕の近親者等との手紙その他を通じてする交通を誠実に、より深くして行くこと。

以上の四つは、すべてあなたの人間的自己完成の努力に統一され、同時にあなたの必然的な生きかた、ありかた、であらうと思ひます。

あなたが茨城へ行く時は、きつと寄つて下さい。土曜日の夕方来れば、一晩とまつて日曜を共にすごせるし、その他の時でも、あさちゃんかいねちゃんので泊めて貰へれば、ゆつくり出来るでせう。平日でも泊つていいと思ふけれど、かう云ふ形態の生活では、公私混淆と云ふことについて、他人のおもはくをも一応考慮せねばならないので。また旅行は脚氣その他がおさまつてからするやうに。一人で旅するのは、余程健康に自信がないと、上野の混雑などに参つてし

まふ怖れがあります。

今日は少し野菜が入ったので、早川君の家へ持つて行ってあげたら、林檎を五つくれました。二人とも、奥さんはいかがですかとしきりに云つてゐました。早川君はいつ会つても気持のいい友人です。彼とはもつと深く交通したいと思つてゐます。

九月六日（晴）

今日はズイキが入ったので、キウリ、ナス、インゲンと一緒に、午後、大久保へ持つて行きました。大変喜ばれました。帰りにサトウ80匁（八月份）買ひました。大豆とかへようかと思つたが、やはりやめました。それよりムシパンにつける方がいい。

ゴリキーの「母」を読んでゐます。「四十年」は第二部の初めまで来てゐるのですが、一時中止して、「母」を先きにしたのです。

今日は小使さんにミソ、醤油を買つてもらつたので、夜は雑炊にしました。中味は米、ササゲ、サヤインゲン、ナス、ズイキ、白すぼし、ミソ等で、中々うまく出来ました。そのかはり、舌をやきました。明日も雑炊にします。ズイキのある間は、外の食べ方が面^{めん}作^{さく}ですから。

畑中特派員のソ聯記を送ります。全部で六までありますが、少しづつ。之は朝日の八月十八日から二十六日頃まで連載されました。

では、元気に。

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年九月六日付け）

三日附のお手紙有難う。きつと私の出した三日附の手紙も、今ごろあなたの手元に届いたことせう。あは^むただしい夏の終りの旅を、あなたもあんなに楽しかつたものとしてよろこんでゐて下さるのを、どんなに嬉しく思つた事せう。若しかしたら旅行中の私を、あなたが不満でなかつたかと云ふ心配がありました。私の方からはいろいろかうもすれば良かったと云ふ様な事が沢山、後になつて考へられましたので。暫く家より他、飯田へすらも行かずとぢこもつてゐた

後ですので、外部に向つて心が働かなくなつてゐるのですもの。

精しい日程、あれは私もあなたの帰京なすつた次の日作りました。あなたの仰言る通り、時間は全く始んど何時に何処と云ふ風に覚えてゐませんでした。和歌山と尼ヶ崎にはあなたへ手紙を出した時、同時に書いて出しました。和歌山の方へはお母さんからも手紙を出しましたから御安心下さい。

暫く振りで十日近くも一諸に暮したので、あとの淋しいこと、―それは既に一諸にゐる中にも考へられた事でした。目をつぶつて見て、今はここに手にふれられる近くにあなたはゐる。だけでもうすこしすれば、目を開いてゐる様とどちてゐる様とあなたはゐはしなくなる。と思つて、時々目をつぶつて手を伸してあなたにさわつて確めて見て安心したり、淋しかつたりしてゐた事を、あなたは御存知なかつたでせう。

月曜から猛勉するつもりだつたのですが、あなたの手紙の来るまでは、どうにも落ちつかないき持で勉強出来ません。何か心を慰めるものはないかと云ふ不まん足のき持で、とうとう小説ばかり読んでしまひました。ルマルクの三人の戦友でも、ローベルトとパトリシアが折角一諸に暮し始めたのに、パトリシアの病氣のため二、三ヶ月でパトリシアはスキスの高原療養所へ行く事になるし、其の間のパットの不安や淋しさ、ロビイの空虚さが身にしみじみとこたへる様でした。パットは次の年とうとう死んでしまひました。それからサガノヤミムロと云ふ人の野末の菊と云ふのも、障害を越えて一諸になつた一ヶ月の後には、男主人公は自殺して、女主人公のみ残つておぼんの夜、精霊にでもなつて彼が来ればよいと希つてゐるところなど読んでゐると、やり切れない程悲しい気持になりました。

おまけに二日位前の夜、あなたに召集が来て、私の知つた時はもう出発したあとであつた様な夢を見ました。若しも召集でもあつて―戦地へ出発し、そして最悪の場合が来たら、―まつ者があつて、まつてゐるのは淋しくても希望がありますけれど、一番やり切れないのは、まつ者のない事でせう。それを思ふと、とてもたまりません。

尼ヶ崎にゐた暇のあつた二日間、キュリイ伝があつたので、ピエールとマリイの結びつき、それから二人の共同の仕事、ピエールの死、―其の後のマリイの心境をもう一度読んで見様と思つて、さうすれば私にも幾分何か得るところがあるのではないかと思つてよみ始めましたが、ピエールの急死に至らぬ前に時間がなくなつて其のまゝになりました。

こんな事を私があなたに書く事はざんこくな事でせうか。私はいつそ死ぬ者こそ幸福だとすら思へます。若しも最悪の場合が来たら、私はどうなるでせう。外にも沢山さう云ふ人たちはあつたし、これからもあるのですけれど、皆、各々、落ちつくところがあつたのでせうか。私は落ちつけないでせう。若しかしたら苦しさの余り、後を追ふ位の事はし相

す。東大寺のおみくじも善かつたのだし、和歌山ではお多賀様を拜んで来たのですから、そんな事は起らぬと思つて心安めたいのですけれど。外の凡ての事はあきらめがつきますが、其の事丈はあきらめるなんて事は出来相もありません。ギリシヤの神々が今もゐるものならば、香を炊き、いけにえを捧げて祈りたいと思ふ位です。さうして誰か代りに命を捧げる者があるなら代らせてやる、と云つたらきつと代つてあげられます。全能の神々がもう一度復活すればよいと本当に思ひます。

七月にあなたのいらした時は、一諸に生活するの此の短い期間があるひは最後かも知れないと思ひ、もう一度だけ一諸に暮りたいと願ひました。それが叶つたのか、結婚後の始めての旅行も出来、あなたの両親にも会ふ機会にも恵まれました。さうしたら又々、九月中にでもあなたが来て呉れる事を望んでゐます。でも今度は留守番の關係でずつと駄目だとのこと、今度こそもう一諸に暮す事が出来ないでせうか。あなたが其処を引き上げる時は、召集のある時の外はないでせうから。でも無理をしても帰つて来て下さいと云つてるではありません。どうにも他にし様がないんですのね。あんまりぐちつぽくなりました。

明日からきつと勉強始めますから安心して下さい。私の勉強プランの事も、あなたのゐるとき相談して作りなをしたか（ほ）つたのですが、時間がありませんでしたね。今のはすこし時間の切り方がよくないし、慾ばりすぎてゐる様です。今夜これからすこし考へて、作りなをして見ませうかしら。毎日お焼の食事ですか。もうトマトもキュウリも茄子も終りでせう。お野菜にまもなく困り出しますね。

下駄一足買ひました。明日お送り致します。配給物で凄くわるい品ですが、お風呂にゆく位なら役に立つでせう。又明晩、お手紙書きませう。

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年九月七日の記、八日の消印）

九月七日

今日は朝からどんより曇つて、時々は激しい雨となります。午後からお母さんのお使ひで飯田にゆきました。愛宕坂の火事の焼跡を見て来ました。（火事は一昨夜十一時ころあつて、軍艦長屋と云ふ汚い長屋が七軒十五世帯やけました。）飯田に出たついで（ト）手に印房に寄つて蔵書印を注文して来ました。つげの木で極く平凡な菊池蔵書と云ふ風に頼みました。

僱段は三円七十五銭、すこし高いと思ふけれど、平凡に作ったものはあきが来ないから、一生涯使へるでせうからいいでせうね。

飯田の町にも鼎にも一下伊那に疎解児童が来ました。早くも病気になる児が相当多く、天竜川で水（浴）して死んだ児、宿屋の三階から落ちて死んだのもゐます。土地の人たちは思つたよりも同情の念深く、食料はとぼしい自分達のを割いても、疎解児童へ持つてゆく様です。上郷の篠田さんはお八ツ用として、ぢやがいもを一かます持つてゆき、あと次々におさつが出来たらおさつ、かぼちゃと持つてゆく相です。各家庭の国民学校の子供も、自分たちのお八ツをへらしても彼等によつて呉れとたのむとか一母親や女連中は寄るとさわると疎解の子たちの話をして、涙ぐんでゐます。受人側の住居の設備はまるで悪くて、留置場より多少ましな位だ相で、往診に行つて来たお父さんの話では、冬になつたらあの調子では肺炎のまんえんする恐れがあると云つてゐました。疎解児童の親達も随分心配してゐるでせうね。冬になると各戸で三人位づつ引きうける事になり相です。部屋のとにかく都合着く人はいいいけれど、狭い家では困るでせうね。尤も鼎は200人ですから、どの家もと云ふ訳でもないでせうが。

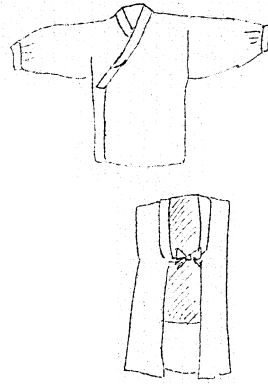
飯田に出た時矢高眼医者へ寄つて、矢高さんの弟さんの家にも寄りました。奥さんがふうちゃん達の友達なので。家は広い庭の片すみにあつて、ひろい縁のついた十畳と八丈（畳）で便所のきれいなことと、東京風のせまいお勝手で、中々いい家でした。私にもあんな風な家があればよいと思ひました。二まあれば、書齋も茶のまもあるんですもの、二人で住むには丁度良いでせう。十丈と八丈なら荷物は置けますから。

朝ちゃんの就職の件で役場の人二人に会つて、ついでに家の事を話したら、鼎村でもない事はない、一戸建と云ふと六ヶしいが、仕切つた家ならぢき見つかるとの事です。でも当分あなたが来ないし、東京を引き上げる時は召集のあつた時なら、私家が探すのは無駄かも知れませぬね。併し伊藤さんの友達のこともあるし、見つけて置くのは損ではありませぬものね。

家の前の羽生さん一家で本箱や荷物を預つて貰つてゐる家の主人は、六月十五日頃召集されてゆきましたが、今日除隊で帰りました。教育召集と云ふのでせうか。年は卅五、六でせうか。それとも人員過剰だつたのでせうか。あなたも召集あつたとしても、羽生さんの様ならいいですな。さうしてゐるまに戦争が済んでしまへば。

こちらは朝夕涼しすぎて、夜は淋しい位です。それで急いであなたの大きな緋（ねまき用）の袴を解きました。あれで男物のモンペを作らうと思ひます。大きなポケットのついた裏つきを作れば、夜の勉強の時はひざの小田原を心配し

なくても、立居が楽で暖いでせう。それから鉄色の無地の羽織ね、あれも解きましたが、それはくひどい痛み様で、普通の羽織に再生させるのは六理かと存じます。一応洗濯屋に出して洗ひ張をさせますが、よいところ丈とつて、腰までの着物と袖なしチャンくコを作つたらどうかと思ひますが如何でせう。



こんな形のものです。これにモンペを穿けば(下には毛織のシャツ、ズボン下)、冬の勉強にはたもとのあるものより、手が動かしよくて好都合でせう。格好としても中々シヤレタ格好です。布があまつたら羽織にも袖をつけてもよいし。一寸、国民服第何号型みたいですが、早川さんたちが羨やましがると思ふけれど、如何？

洗ひ張させて置きますから、何か他にこんな風にと云ふ希望あつたらお知らせ下さい。どてらでも普通の羽織でも(但し方々折目が切れてゐるので、寸法が縮みますが)。私の考へた格好の羽織の方には背中にまわたを入れようと思ひますが。モンペの方は前ぼたんをつけますし、寸法はこの前計りましたからうまくゆくでせう。ずぼんが痛まなくていいですから、出来たら愛用して下さいね。色はあの上に紺かこげ茶をかけて緋が目立ぬ様にします。よく猪熊弦一郎たちがこんな和服を着たでせう。若しかしたら突飛の様にお気に召さないかも知れませんね。

変てこな事を書いてゐるうちに大さう長くなりました。今日はこれでやめませう。お身体に注意し病氣にならぬように。



9月7日夜。

東京空襲が確實になればなる程、あなたがそちらに独りとどまつてゐる事の不安がまして来ます。其の場合、交通は勿論とまるでせうし、食料不安其の他から暴動みたいな形ものが起り得る様にも思へます。直接空襲に依る生命の危険をまぬかれ得ても、前記の様な事態に立ち至つたらば、と、とても心配でなりません。何とかそれを避け得る事が出来

9月中時間割

日	土	金	木	水	火	月	
	経済入門	リン ほん カー ヤ ン ク	ア メ リ カ 史	水 経 済 入 門	火 リ ン カ ー ン 訳	月 ア メ リ カ 史	午前中
	ローザ 経済史	グ ラ ン マ ー	ア メ リ カ 史	ローザ 経済史	グ ラ ン マ ー	ア メ リ カ 史	午後
	地代論	モ ル ガ ン	ア メ リ カ 史	地代論	モ ル ガ ン	ア メ リ カ 史	夜

ないでせうか。其の点、あなたは勿論考へておありでせうけれど、どんなお考へですか。案外、皆、大丈夫と云ふのんびりした考へ方をしてゐるのぢやないかしら。空襲よりも召集の方を恐れてゐましたけれど、今日ラジオなど聞いてゐると、空襲の方がより恐ろしいと思へて来ます。対策あるの？ どうぞあまり心配させない様にして下さい。

セルの単衣や緋の単衣、そろ／＼御入用でせう。送りませうか。それとも洋服でとをはませうか。至急お知らせ下さい。御入用ならクリーニング屋をせかします。あはせの着物はどうしますか。縫つておきませうか。

9月の時間割を作りました。ユダヤ人問題は一応すみましたから、あの代りにモルガンの古代社会を組み入れ様と思ひますが、どうでせう。もつと適切なものがあれば、それに代へ様と思ひますが。今度のは、前の様にチビ／＼区切らず別紙の様にしました。何か意見きかして下さい。

キプリングの「印度の放浪児」があります、どうでせう。よむカチがあるかしら。ネールによると、キプリングは英帝国主義の手代だと書いてありました。ネールの第一巻、お父さんがよみ面白い／＼と感心してゐましたので、これはあぶないと思つて（感心すると人に借すので）、早速取り返して桃ちゃんに送りました。目下、お父さんは第二巻をよんでゐます。

十日から秋期托児所が始まります。又ふうちゃん先生にゆくでせう。さうすると私は又、勉強の時間がへつて来ます。悲しいことです。

本は進ちよくしてゐますか。それからダイヤモンドの原稿は出来ましたの。まとめたのを見せ下さる事が出来るなら見せて下さいませんか。尼ヶ崎の家で書きかけの一寸よみました、

後をつづいて見たいと思つてゐますので。

暫く休んでゐたから、いろいろ忙しいでせうね。でもなる丈、すいみんはたつぷりとする様になさいね。どうも今年になつてから猛烈に、酷使する様な事ばかりつづいてゐますもの。⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿として食料はちやんと必要なものをとる事が出来ないのですから、せめて睡眠なりと採る様にして下さい。何が起つても身体が駄目なら、全くし様がありませんもの。

私は疲れが出るかと思ひましたがたいした事なく、一寸だるい位ですから、御心配いりません。来週までには心身共にすつかり元気に積極的になれるでせう。それから、—まだメンスになりませんので、或はと思ひますが。予定は二日の日だつたのですが、まだわかりませんね。若し確実ならうれしいと思ひます。育てるのはいろんな点で大変ですけれど。では今夜はこれで。

7日夜10時

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年九月八日朝付け、同日の消印）

今日は素晴らしい秋日和です。湿気は全然なく、空はカラリと晴れてゐるし、山の色は紫紺いろ。ずつと前、確か私達が始めて一諸（諸）にやつて来た、あの頃の様な秋の日です。日陽（陽）ざしは紫外線が強く、涼しい割に直接当たると焼きつく様な、芯まで透る様な暑さを感じます。目の前一杯にひろがつた山脈、青い空、くも、風、なんとすばらしい秋の日でせう。これで世界中が砲煙につつまれ、血を流し合つてゐる様には思はれません。

こんなすばらしい秋の日を、こんな気持で二度と味はふ事があるでせうか。もつとくゝ年とつて感情も穏かになり、思ひやりも厚くなつて、人生と云ふものの本当の味を知る頃に、又此の様な秋の日に逢ふ事が出来たら、どんなに感慨（概）深いでせう。そんな事を考へ乍ら眺めてゐます。あなたは又々毎日、仕事や雑用で忙しいのでせうか。充実した毎日を送つて満足してゐられるのでせうね。

食べ物の方は如何ですか。粉はもう何日分位ありますか。此の頃つづけて三人位が一貫匁（匁）つつ粉をくれましたので、石油缶一杯にメリケン粉がたまりました。殆んど毎日、たつぷり使つてお八ツを作つてゐます。あなたの持合せがなくなり相な頃には送りませう。もうすこし涼しくなつて、食べ物がかくさなくなつたら、牛肉を買つて来て佃煮を作つて送ります。今月中はまだあぶないでせうから。

あの肉屋（吉田屋）も此の頃チヨイ／＼休み勝ちになりました。来年の今頃には、もうなくなるかも知れませんがね。それに値段もドン／＼登つて来ました。

笠信太郎とか云ふ経済学者が鼎のプールのそばとかに越して来た相です。岸田国土もプールのそばとか。飯田の街にも東京人がチラ／＼見えます。

今日はお母さんが銀行ゆきです。不うちやんはどつかわるいと云つてねころんでゐます。それで今日もおさんどんを致しました。とう／＼四日から九日までの一週間は、まとまつて勉強出来ず、お勝手などで小説の立ちよみ位に終りました。

私ね、こつちへ来てから大部性質（分）が變つた様です。まづ、あまりはしやがなくなりました。それから口数がへりました。快活さもへりました。顔も大人っぽく真面目くさつて来て、めつたにお化粧もせず、時々鏡を見るとひねこびた、黄いろい骨張つたおでこやあごが目について、トンとおしやれをする気持も消えてしまいました。年にこだはらず好き方題（題）の事を云つたり喋つたり行ふ事が出来なくなつた關係でせうね。こちらでは何処の誰、年はいくつ、どんな経歴とわかつてゐるんですから、そんな事の考慮なしには何も出来ません。年上は両親丈ですから、あとは皆、私より若い人ばかり、ワア／＼大さわぎも出来ません。知らぬまにもつともらしい顔つきで、もつともらしい事を云はねばならぬらしいです。時々、前の様にキヤツ／＼と笑つたり、年がひもなくお転婆さわぎを誰に遠慮もなくしたくなります。それから誰にも甘へる人もないことも相当淋しい事（事）のようです。

明日から又思ひ切つて好き勝手にしようかしら。まあ／＼とてもそんな事は出来かねる。おとなしくもつたいぶつて暮しませう。

では今日はこれでさようなら。風邪を引かないように。洗濯ものはめんどうでも送つて下さい。きれいにして修繕してさしあげます。

さちこ

幸子から謙一あて（一九四四年九月八日夜付け、九日の消印）※

八月八日、雨。

今日お父さんの云ふには、家の前の上島さんの二階を貸すかも知れないとのこと、十畳二間で貳拾円位までになるらし

いから、聞いて呉れるとのことでした。どうでせう。うまく行ったら借りませうか。でも部屋を借りて別世帯にすると、部屋代の外、食費、電灯代、町内費等々かゝりますけれど、どうでせう。部屋は中々いいとお父さんは云つてゐますが。お返事をまちます。あなたが来なければ、あさちゃん、いねちゃんと同じと思ひます。

今日は近所の葬式で不二ちゃんが一日本伝ひにゆきましたので、私は夜の八時まで早苗ちゃん専属子守で、本一つよめませんでした。従つて、これと云つて書く事ありません。

又々鼎村では都市からの妊産婦の割当が有つて、部屋に余祐あすのある家では一部屋位提供させられるとか云ふ話です。帰つて来てから殆んど連日、家事的雑用のために勉強する時間が採れず、困つて居ります。部屋でも借りられると、そんな時は都合がよいでせうね。但し炊事や勤勞奉仕に出る時や、サイケンの割当の時は困るでせう。

あなたが帰つてからもう明日で一週間です。事務的雑用のいそがしさからは解放されましたか。※

今朝、下駄を送りました。とても粗末な下駄で、す足で穿くととげが刺さりさうな位な代物です。すき間に林ごを三個入れました。看護婦の三島さんが家へ帰つた時、持つて来てくれたものです。

昨日は上郷の篠田さんが来て、姫宮の山奥へ四里もはいつたところで採つて来たとか云ふ松茸をくれました。初もので珍らしく、おつゆにして食べました。東京にゐては、今年は松茸は六理ろりでせうね。それから又、岩手県の川端さんが、だしにする小肴を一箱送つてよこしましたから、何か外の物と一諸いちしよにすこし送りませうね。

朝ちやん訪ねてゆきましたか。訪ねて行つたら、部屋も仕事もあり相ですから、早速疎解そげの手筈をする様にすゝめて下さい。

あなたが帰つた後はどうもぼんやりして、暫く何も出来ません。此の前も十日間位勉強出来なかつたのです。此の前の時はいろいろ心配もありましたし、絶望的な気持で本当に情なくなりましたが、今度はそんな事はありませんが、それでも淋しいさびような落ちつかぬ様な気で、どうも今の生活はまにあはせて、何かをまつ間のほんの一寸のものの様に思へてなりません。こんな事では本当に駄目ですね。私は全く此のころは前よりも、もつとくゞだらしくなりました。変な手紙ですけど、毎日書かうと思つてゐますから—今日の分はこれでおしまひにませう。 さち子

※以下の八月八日記の手紙文（実は九月八日記—後掲の謙一発九月一三日書簡を参照）は、九月九日付け、一〇日消印の封筒に入っていたが、その一つ前の手紙の封筒は九月八日夜付け、九日消印で、中の手紙は九月九、一〇日に記されていた。何らかの事情で二つの封書の中身

が入れ替わったものと考えられる。ここではそれぞれの手紙文を本来の封筒に戻す形で記載しておいた。

※※封筒の中には便箋四枚が入っており、これより前の文は三、四枚目、後のそれは一、二枚目に記されていた。ここでは前後を交替させて三、四、一、二枚目の順で記載したが、便箋に番号が付されておらず、かつ四枚目の末尾と一枚目の冒頭の文章上のつながりが確認できないため、その間に欠落がある可能性も否定できない。

謙一から幸子あて（一九四四年九月七〜九日の記）

九月七日（木）雨。

昨夜は実にむしあつちと思つたら今日は雨。

今日の雑炊は複雑でした。米、ササゲ、サヤインゲン、ナス、ズイキ、魚粉、ジャガイモ、大豆、凍豆腐（昔中村君にもらつて虫のついたもの、少々苦かつた）、ミソ、赤ヂソ（粉末）^②等。今夜から蚊屋をやめ、線香だけで寝ます。今夜は涼しい。あなたの九月四日、五日の手紙みました。

山本村と云ふのはよささうだけれど、あさちやんと二人で当分住めますか。僕も今年の末ぐら^③いまでに召集が来なければ信州へ行く予定ですが、それまで大丈夫ですか。よかつたら、よく調べて、行くといいと思ひます。食糧事情などもよく調べておく必要がありますね。

今日午後いねちやんが、疎開したものでかどうか相談がてら来ました。いねちやんは今、余り疎開したくない気持のやうです。仕事をしたいと云ふこと、信州では適当な仕事がないだらうと云ふこと、こちらでしたいことをしてゐて、万一のことがあつても悔いはないと云ふこと、大体かう云ふ風です。僕も何とも返事が出来ないが、大塚の女子アパートが安全なら、こちらにゐても身一つなら何とかなるだらうと云ふこと、新庄君や僕達でよく連絡をとつて、危い日は銀座へ行かぬやうにすれば、先づ大丈夫だらうと云ふこと、その程度のことしか云へませんでした。

所で、僕達が切符買はず一日日程ののびたことが、庶務の方で出張命令を一日のばすことにしてくれて、一日分の日当、宿泊料が出さうです。明日会計へとりに行くことになりました。之はこちらで頼んだわけではない（僕はその一日を、いや大部分を私用に楽しんだのだから）。それでドラクロアのデッサン集（三十円）を買ひたいもの。

結局今度の旅行の費用は、収入、調査会より二一〇円（明日の分以外）、互助会より借用五〇円、母より五〇円、貴女

からの借用二〇〇円、計五一〇円。支出、本代一七五円、みやげ八〇円、他二二五円、計四八〇円。先づ安い旅行と云へるでせうね。ダイヤモンドの原稿は半分出来ました。之の原稿料はまだわかりません。

九月八日(金) 雨。

雨になると水道の出がよくなつていいが、そのかはり火が起りにくい。半時間かかります。調査会でコーライトを沢山買ひこむことになつて、持つて来たのを見ると亜炭なので、庶務課長は怒つてつきかへしました。その電話をききながら僕が一句よみました。

「コーライト思へど今日の亜炭かな」

さすがの大豆もおしまひになりました。ずい分ポリ／＼やつたから。ササゲはまだムシパンや雑炊にたつぷり利用出来ます。煮るとずい分大きくなるので、思はずニコニコしさうです。

ホイットマンの詩を読んでゐます。読めば読むほど好きになる。何と云ふあふれるやうな豊かさ、本当に曠野のやうにひろ／＼して、洪水のやうにたつぷりとはげしく、躍るやうに軽やかに、また、さすやうに鋭く。

「光をそそげ美はしの月よ

そして洗へ傷ましいこの風景を

静かな夜の光の洪水の中に

怖しく膨れあがつた赭黒い顔と

両腕をなげ出し、天を仰いで斃れてゐる者の上に

かぎりない光の洪水を

おお聖なる月よ。」

僕も今詩を心に育てつつある。二つの長い詩です。二つともあなたにささげる。それは我々の生活のうたなのです。もう二ヶ月来、夜空をあふいではその詩を心で育ててゐるのです。その中ペンで書きあらはせるでせう。ホイットマンのやうにうたひたい。この辺では星は割り合ひきれいです。では早くダイヤモンドの原稿を片づけませう。明日また。

九月九日(土)晴。

暫くぶりで晴れた感じがします。たつた一日降つただけなのに。

今朝あなたの六日夜の手紙が、「菊池さん、十四夜」と云ひながら入つて来た郵便屋の手から渡されました。

あなたの氣持を思ひ、僕も山本村とやらへ一思ひに住みに行かうかとさへ思ひました。之は今日のあなたの手紙を見る前からの僕の氣持だったのです。僕はあなたと仕事との板ばさみ、いやあなたへの思慕と仕事への熱情とへの分裂のいたみを、旅行から帰つて以来ずっと感じて落ちつきません。あなたへのこの二、三ヶ月、即ち別居以来次第に復活し募つて来た思慕を実現することは、だが、忽ち生活の不安を呼び起すのです。即ち僕がそちらへ行つてすぐ召集が来れば、留守中の或ひは万一のことあつた後のあなたの生活は、僕の両親と共に住むつもりのない限り甚だ困難になります。たとひあなたが働くにしても。貴女の身体はどんな仕事にもと云ふ程度にはよくなつてゐないのですから。もう一つは、こちらの仕事は、或る程度田舎で出来ぬこともないが、そのためにはもう少し必読の書のノートを作る必要があります(今さしあたり七、八冊あります)、且つは芦野氏の好意に対して甚だ不義理になるのです。この二つを今年の末までに果して、そうして貴女の所へ行きたいのです。それまでに召集も空襲も来ないことを念じつつ。

愛する者の離れることの苦痛は、人間の離れがいかにか大量的に無慈悲に載断され、周囲に余りにも悲劇が日常事になつて、感覚がマヒしたにしても、それでも各個人の全生活を根抵からゆすぶるものあるべきです。僕が詩をつくりたいのは、かうした現実の矛盾に刺戟されることなのです。

だがまた若し僕達が今一緒に住んだら、又お互ひに神経を立てあつて、小さい不満や小さいカンシヤクでお互ひを不幸にしやしないかと云ふことも考へられなくはないので、もう数ヶ月別々にゐて自分を訓練することもいいかも知れないとも思ひます。僕は自分の人間的訓練を同僚達との交通の中で企図してゐます。あなたと二人きりでは、ついあなたを不当に傷けるけれど、同僚との間なら、ケンカにしても何にしても独自のやれますから。

今日午後、ダイヤモンドへ原稿を渡し、原宿でカンヅメがどうなつたかをきき、本室で金を受取り、伊藤書店とも連絡しなければならぬので、この辺でやめて、そのまま出すことにします。夜また書きませう。

では元氣を出して、歴史と個人、普通と個別について考へつつ、勉強して下さい。僕も仕事に全力をあげて、あなたと再び共に生活出来る日となるだけ早く来させませう。帰つてから氣持が落ちつかないと、多忙なので、実はまだ家へ手紙も書いてゐないのです。

同封の切り抜きで歴史と云ふものを充分味はつて下さい。

早々

幸子から謙一あて（一九四四年九月九〜一〇日の記、一〇日の消印）

九日、夜八時。

夕食後、永代橋まで早苗ちゃんを連れて散歩にゆきました。七時と云ふのに外は殆んどまつくら、足元も危い位でした。暗くなると小川の流の音が急に大きく聞えますね。もう一寸前に田植をしてゐたと思ふのに、稲は二尺位にも伸びて、稲や麦に特有の重たい甘つたるいにはひがしてゐました。ポヤ／＼ツとしてゐた星の光りが一分毎に輝やかしくなつて、橋まで来た時にはすっかり明るく光り始めました。

夕陽の落ちた側の山の線はくつきり浮び出し、目がねを取つて眺めると、モク／＼其の線が動く様に思はれました。誰一人通らない、夜露の下りる音がきこえる程です。私たちは今まで、かう云ふ田舎の日暮路を二人で歩いた事はありませんね。

九月十日夜。

今日は九月になつてから二本目のお手紙をうけとりました。其の時私はおさつを食べてゐました。直径一寸八分位もある黄いろい大きいのを。あまくて暑くてうまいのを。あなたにも食べさせてあげたいと思ひ乍ら食べたんですよ。私は此の頃はひどく利己的になつてしまつた様で、一寸自分乍ら嫌な氣のする事が度々です。例へばおさつでも林檎でも小肴でも他所から貰ふと、すぐにあなたに送つてあげたいと思ふのよ。いねちゃんたちや島村夫妻に送らふとは思ひもしないのに。―あの人たちは順調に炊事生活をやつてゐるからと云ふ氣がして、―あなた丈は不自由してゐる様に思へし様がないの。そんな風に心が動くもんだから、自分の亭主に丈親切なと思はれるかも知れないと、自分で思ひすぎるのか氣がひけて来て、向ふで送つてあげたらと云ひ出せばいいと思つたりして、どうも氣持が楽に動かないのです。「これをすこし謙一に送つてやり度いから下さい」と、スムーズに云へないのよ。嫌になるわね。

今日は緋を解いて洗ひ、すこし色をかけました。乾いたら、たいして変つてもゐるぞ―でも新しい布地の様になりました。強いアイロンを当てて、断つて、モンペを縫ひあげました。中々うまく出来たつもりです。丈もたつぷりとりましたし、

中は合はせたつもりです。併し若しかしたらウエストがすこしゆるいかも知れませんが。さうしたらベルトでめて下さればいいと思ひます。膝当もお尻当もつけましたから、大変丈夫だと思ひます。ポケットも大きいのを一ツつけました。夜になつて一人になつたら、ズボンと代へて穿いて下さると、ズボンも痛まぬし、ひざも楽になると思ひます。冬になつたら其の下に穿く長も引きを作りませう。メリヤスのズボン下の上に穿いて、其の上に此のモンペを穿けば相当の寒さにも耐へられるでせう。其の上をあひさかけてまけば、リユーマチも起らぬと思ひます。十一月までには暖いチヤン／＼コの上着を作つてさしあげます。で、モンペは明日送りませう。

畑中特派員の「ソ聯より帰りて」は、一同で大鉢のそばでよみました。大分日本の銃後生活と異ちがひますね。お母さんも感心して「さうでなくちやいかん。前線と銃後と區別する様で、前線に感謝／＼と、口でばかり云ふ様な体制は面白くないよ」などと、キエンをあげて居りました。

森井女史も白田嬢も、あなたのお弟子は全めつですね。白田さんてそんなにひよひはい様なお嬢さんなんですか。私はすばらしく体格のいい人を想像してゐましたのに。

ご忠告通り、お母さんをいら立せない様にして来ましたが、今夜は森藤と云ふずるくて強引な男とお母さんとの一騎うちの事で、チヨイと口をすべらして、お母さんをブンとさせてしまひました。あつと思つた時は、もう云つてしまつたあと。それで、これは悪かつたと思つて、そろ／＼と御機嫌を取り戻しました。この事もよく考へて見ると、お母さんの下手なやり方を批判すると云ふ事を乗り越えて、「私なら、あんな馬鹿な喧嘩しないわ、三分で片くづけてしまふ」なんて、自分の自まんになつてしまつてゐたので、「まだ／＼駄目だつたとザンキ致しました。実際、あなたが帰つてから今日まで、私だつてふうちやんだつて、一度もお母さんを怒らせず、機嫌良くさせて来たのですの。一でも大体に於てもうなをつたらしいから、ヤレ／＼と思ひました。

これから新聞をゆつくり読んでね様としてゐるところです。明日からは積極的に、人にも自分にも誠実である様に改めて出發です。

謙一さま

十日夜十時

では又明日。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年九月九〜一〇日の記）

九月九日（土）晴、夕方、曇。

午前中にやつとダイヤモンドの原稿六十六枚（二百字誌）を書き上げました。きつかり十一回分です。一回分超過したわけですが、こんな風に一回六枚づつをまとめて行く書き方のむつかしさをつくく感じました。余りいい出来ではないが、一般に知られてゐないことなので、意味なくもないでせう。それに読者層が経済人財界人だから、今度の僕の本とは余り縁のない世界の人々で、学問的な部分を省略したのもやむを得ません。出たら送りませう。

午後、会計へ、旅費追加を受取りに行きました。四十円ばかり追加を貰ひました。帰りに早速二、三の本を買ひ、銀座で栄養をつけました。尤も此の頃の僕の栄養はさう悪くはなく、雑炊も大分いろくは入るし、オヤキパンもたべるのですが、僕の食べ物はいつでも一定期間殆ど同じものが続く傾向があります。ジャガのあつた時はジャガ、ナスが二週間も続いたし、ナス、キウリもずい分続いたし、帰京以来は雑炊がつづきます。雑炊の美味も実は続いてゐるので、この数日はズイキ、ナス、ササゲ、凍豆腐、さやいんげん、今日は之にめうがを入れました。

ところで銀座で食べたものは、鷹の巣の洋食と多喜山の和食です。多喜山の方は交詢社へ行かうとして夕立ちにふられて、ついとび込んだものです。あの辺雨宿りが困難です。鷹の巣はナスのカレイ粉のため（？）とロールキヤベツでしたが、そのロールキヤベツにはちやんと肉がは入つてゐて、中々おいしかった。多喜山の方は、天ぷら、さしみ、やさしい煮、つまみもの、雑炊です。天ぷらは何か魚とおさつ。あそこの天ぷらはいつでも中々うまい。さしみはカツオで、之また久しぶりの美味でした。やさしい煮は大きなコブマキ（中に魚あり）と大ぶりに切つた伊達巻とで、つまみものはこをなご。二人なら一本酒のつく所でした。

雨のやむのを待つて交詢社へ行き、ダイヤモンドへの原稿を託し、都電にもまれて他人の汗で気持の悪い思ひをして帰りました。實際此の頃都心へ出るのはいやです。人々は臭く、強引で、憎くく（憎）なりませんが、その憎さは全く理由のないもので、どの人も皆家に親しい者が待つてゐるのでせう。

経堂の家へ帰りついたのは七時近かつたが、留守にあさちやんが来て一時間ばかり待つてゐたらしく、書き置きがあつて、凍豆腐がおいてありました。いねちやんから此の間借りたふとん袋をとりに来たらしいのに、気の毒しました。

ふとんぶくろといへば、やはり僕のふとんぶくろがないのです。利ちゃんの、ひろちゃんが持つて帰ったのですが、僕のはやはり持つて帰った覚えもなく、ひっこしで家中さがしてやはりなかつたのです。何かのついでにさがしておいて下さい。

まだ独立戦争の原稿を完成してゐないのですが、ダイヤモンドの方を一通り片づけたので今日は、寄席中継をきいただけで早寝しませう。

九月十日(日)晴。

昨夜は早く寝たが、今朝起きたら七時すぎでした。ずい分よく寝たもの。火を起して昨夜しつらへておいた雑炊を煮ました。中味はササゲ、凍豆腐、ナス、ジャガイモ、メウガです。それが出来上ると、メリケン粉とココアとササゲとミソとでオヤキパンをつくりました。雑炊は一日分をつくるので、三分の一を大丹にとつて、あとは包んでおきます。夜分だけはもう一度暖めるわけです。おかずは生キウリへみそをつけたもの。腹一杯たべると眠くなつて、ゴリキーマ母を読みながら寝てしまひ、眼がさめたら十一時半でした。どうしてこんなに眠れたのか。この間中の睡眠不足が一仕事(小さい仕事だのに)すんで安心したので、どつと疲れに出たのかしら。

起きて、あなたの七日づけ、八日づけの手紙を見ました。蔵書印をどうも有難う。その印を押す時に一応分類してNo.を入れるといいと思ひます。大分面^{つづ}休でせうが。分類は大ザツパに哲学(哲学古典、哲学史、解説書、科学(歴史科学―「歴史古典、歴史論、歴史叙述、伝記、経済学、法学、その他」、自然科学―「自然科学史と理論」)、芸術(芸術論、文学作品、絵画彫刻、音楽)、辞書類、雑(ジャーナリストイックなもの、他には入らぬもの)等々、あなたの思ふやうにして下さい。分類も実は困難な仕事で、どれに入れていいかわからぬものが多いのですが、それが現実と云ふものです。

No.は新しく買ふものは買った順に、古くからのものは大体歴史的な時代順にして、別にノートへつけておくのが一番いいのですが、さうなると中々の大仕事ですから、ゆつくり少しづつやつてみる気なら別として、さうでなければ、あなたの出来る程度でいいでせう。あなたの二階の部屋だけで、今約七百冊ありますね。座敷の本箱には三百冊近くあるかしら。そしてふうちゃんの押入れが若し二重になつてゐるなら千冊ぐらゐになるわけだ。こちらには四百冊ばかりあります(雑誌は別)。運送屋にある分や、看護婦さんの部屋の分を入れても二千五、六百冊で、数から云へば先づ大

したことはないのですが。

家はやはり探しておいて下さい。結局は僕もそちらへ行くのですから。僕が東京を引き上げるのは、召集の時とはきまつてゐません。ただ引き上げるまでに召集の来る可能性が多いと云ふだけです。召集も大体二回（第二国民兵役―編者注）は三ヶ月の教育が多いのですが、教育がすんで帰るとすぐまた召集が来るのが普通です。

いろいろと着物について苦労してくれてありがたう。こちらでは和服は用ひないつもりです。あなたのつくつてくれるものなら何でも結構です。簡単に仕事ができやすく、そのままちよつと外へも出られさうなもの。形がかはつてゐるからと云つて、それを着て出るのをはづかしがるやうな傾向はもうなくなりました。尤も花ハナごゴのやうはハデなのはまだやはりいやですが。

キプリングも買つておいていいと思ひます。ちよつといい本はどんく／＼買つておく方がよろしい。今に何にも出なくなります。本が一番安いものとも云へるでせう。

空襲について大分心配してゐるやうですが、僕が原宿を引きはらつた一つの理由は、ここが空襲に対して一番安全だと思つたからでもあります。二十人ぐらゐは入るコンクリートの築山のやうな防空壕（壕）もあるし、食糧も近処が百姓屋で何とかなるし、バクダンの落ちる危険も少いし。その点はいねちやんのアパートについて大分心配なので、二、三日前にいねちやんの来た時、この近くか何かへ引つこす気はないかと云つたのですが、いねちやんにはアパートが気に入つてゐて、一番あそこが安全だと思つてゐるらしいやうでした。空襲ぐらゐでは僕は死にません。ツル田君の言葉ぢやないが、天にかくれ地にもぐつても生きのびて歴史を見たい、歴史に参加したい、さう云ふ時代なのですから。

身体の異常はその後どうですか。赤ん坊が出来たとすれば、僕も嬉しいが、それよりあなたの方が心配だから、やはり出来ない方がいいのかも知れませんが。僕にとつて、あなたの身体はかけがへない。どうか大切にして下さい。

早川君に今日もナスを持つて行くつもりです。ヤサイは隔日に大体五百匁から一貫目ぐらゐ、馴染の農家で売つてくれるし、三日か四日置きにもう一軒で、やはり一貫か一貫五百買つてゐます。

下駄とリンゴと届きました。有難う。いつかの赤ヂソ（赤ヂソ）は大変おいしくて重宝してゐます。ココアはこちらでもまだありさうですから、赤ヂソだけ買へたら買つておいて下さい。こちらから送るものがなくて残念です。この下駄は外出に使ひます。今までののはハバがひろいので、電車の混む時など大分苦勞します。

それはさうと看護婦さんの押入れの僕の原稿見ましたか。あれの独立戦争の部分を目下書きなほしてゐるのです。

では今日は之だけ。

幸子から謙一あて（一九四四年九月二一日の記）

九月十一日（月）

今日こそと思つてゐたら、家の前の気賀沢さん（菓子商）で出征、組合にももう一人出征（国民兵二十八才と三十二才）があつたので、終日（九時―午後七時）お手伝ひでへたく／＼に疲れました。九時前は掃除と郵便局ゆき（小包出しに）。どうも全く憂鬱です。モンペの包みの中には、するめと煮干をすこし入れましたから、楽しみに食べて下さい。

今日その後で林ごと梨を貰ひました。もうすこし早かつたら二、三個づつ、包みの中に一諸（お）に入れられたのに。甘い棒パンも一回分位、菓子屋の手伝ひで貰ひました。一寸早く小包み出しすぎたわ。一諸に送れたら―ね。

此の一週間、一寸も勉強せず、ゴタ／＼した家事的手伝ひばかりして、かぼちや、おさつ、果物をたへまなしにパクついたので、忽ち10貫になりました。こんな風に果物がずつと食べられたら、まもなく脚気（お）もなをるでせう。あんまりよく食べるチャンスがあるので、外の人たちにすまない様な気がします。尼ヶ崎の子供たちはお八ツなんか、とても食べられ相ありませんものね。こちらに帰つて早苗のデブチャン振りに二度びつくりの形ですもの。

今日他所へ手伝ひに行つて、又もや感じた事ですが、どうも私には何処へ行つてもついてまはる自己意識と云ふか何と云ふのか―そんな気持がついてまはつて、後々まで後味わるくて困ります。其の点フーチャンはすぐ人々と同化して楽にやつてゆけるのですが。

今日はお手伝ひで（いもの皮むき、林ごの皮むき、お茶碗洗ひ、後片附等々）相当くたびれた様で、手紙を書きかけても字がスラ／＼出て来ず、目もチラ／＼致します。こんな頭ではろくな事は書け相もありませんから、今夜は一応よしにしませう。早々に休まうと存じます。床の中で又ラニイさんに逢ひます。ラニイは何度読んでも好きな少年です。ラニイさんに逢ふ前に、ソ聯だよりもう一度よみませう。

十月十一日、八時半

看板の通り50個位の梨と林ごの皮むきをしました。

うちこらして来ます。後に残った家族の者を宜しく御めんどうお頼み致します”と云ひました。天竜社の前に大勢集まつて、海ゆかば、吾が大君に召されたる、を歌ふ中を学校にゆきました。

学校―鼎役まではフーチャン一人送つてゆきました。私共はそのあと招たいされて、どんなに断つても引つぱられ、又々いろいろとごち走になり、苦しくて困りました。出征者の妻君は今流行の戦時病にかかつて、足はかつけと同じ症状を起し、咽喉を犯されて声が立ゝないのですが、元氣を出してはしやぎまはつてゐました。あなたにお召しの有つた時、私もあんなに元氣を出せるかしらと思ひ乍らみて来ました。

其の家はこんな(寡婦の母、兄夫婦とその子四人、弟夫婦とその子一人の血縁関係図が記されているが、ここでは省略した―編者注)家で拾人一諸に暮し、兄弟の嫁は実の姉妹です。七月まで兄の方が兵隊で、兄が病気で除隊になると、一ヶ月半目に弟が征く事になったのです。兄の子も弟の子も姉妹で区別なしに育ててゐるし、後の心配はあまりない様なものの、征く人や送る妻としては、何時帰つて来るのか、或は帰つて来ぬのか、はつきりしない不安で淋しい事せうね。

今日は雨降りですから誰も訪ねて来ないせうし、家中ひっそり、早苗ちゃんの声だけ賑かです。久しぶりにプラン通りの勉強致しませう。今日はリンカーンの訳とグランマーと、夜はモルガンにするヨ定です。

私達こんなに別れ々に暮してゐると、随分お互ひの生活感情が差異を生じて来るでせうね。いくら手紙を出したり貰つたりしてゐても、手紙丈ではほんの一部分しか伝へられませんか。勉強だつて、私一人で同じ方向へ志してチビくやつてゐても、矢張り異つて来るでせうね。日常の一寸した話が、起つた身のまはりの事についての話合ひ、感想のべ合ひなどが、同じ生活感情を作つてゆくものですから。

それに私一人のんびりと御飯ごしらへもせず食べて暮してゐるのに、あなたは一切何も彼も自分でやつてゆかなくてはならないし、おいしいものもめつたに食べられないのでせう。今はさう云ふ形態もし様のないことと理性の上では肯定しても、感情の上では芯から納得出来ず、落ちつかぬ気持になります。

ダイヤモンドの原稿の方は皆すみすみましたか。ままとまつたら切り抜きを見せて下さい。本の方のは校正は皆終つたんでしたね。十月にはいつたら出版され相ですか。

伊藤新一さんはどうなすつたかしら。あれつ切、返事も来ないけれど、貸りて置く部屋は不用かしら。今のうちなら都合着くでせうが、もう暫くすると都市の妊産婦などで危いでせう。早川さんたちは家中誰も疎解しないですね。早川さんのところは大丈夫の地帯なんでせうか。早川さん御夫妻にはよろしくお伝へ下さい。カンタロウチャンは大きくな

つたでせうね。

あまり毎日私の手紙が行つては、人にひやかされますか。何なら二日に一度にしませうか。ためて置いて切手を二枚はれば同じです。

これから羽仁さんの歴史を一寸おひるまで読みます。リンカーンは予定のところまでやりました。割に此のごろ楽になつて来ました（尤も今日のところはやさしすぎたのかしら）。

茨城ゆきは考へてゐます。旅行すると、前後勉強出来ないのです。大金さんは近日、茨城の煙草専売局の収納係に就職する相です。東京へは一寸行つてみたい気もありますが、それも買ひ物はないし、見るものもなし、食べ物はなしです。主目的はあなたに逢ふ事なので、無駄な旅行の中にいれられるでせう。それよりも十一月始めころにでも、和歌山に行つた方がよささうです。

利ちやんが訪ねたら、一度信州に来る様に云つて下さい。秋の信濃の山を一諸に歩きたいものです。利ちやんにも先頃、さう云ふ手紙を出しましたが、あの人は遠慮深いから、ついでの時あなたからも云つて下さい。

九月十二日、雨ふりの日

幸子

謙一様

※以下の九月一二日記の手紙文は、九月一三日付け、同日消印の封筒に入っており、その一つ手前の手紙の封筒は九月一二日付け、同日消印で、中身は九月一三日記の手紙であった。これら二つの封書の中身が入れ替わったものと考えられるので、ここではそれぞれの手紙文を元に戻す形で記載した。

謙一から幸子あて（一九四四年九月一三日の記）

九月十三日（水）晴。

二、三日手紙を書けませんでした。あなたの手紙は毎日受取つてゐたのに。本の校正（再校）が一度にどつと出て、今日やつと了り、間もなく校了、印刷、製本、出版となるわけです。多分早ければ十月末、遅くとも十一月には出版になるでせう。僕の誕生日までに出来ればいいが。

九月十日(あなたの手紙は九月八日附のものまで八月八日になつてみました)の夜は、早川君とこへ行つて、また泊ることを断はるのに一苦勞し、大分遅く帰りました。代りの小使さんが来るまで家をあけられないのです。一色家ではこの頃ずつと帰京してゐたのですが、調査会としてやはり職員が夜家にゐなければならぬのです(実際はどうでもなるのでせうが)。早川君の奥さんは両眼結膜炎で、大熊さんに診て貰つて憂慮すべき状態と云はれたとかで、いつもより元気がありませんでした。旅行の話をして豊橋で休む所もなく困つたと云つたら、「それなら私の家を紹介しておけばよかつた」と残念がりました。彼女の実家は豊橋市の河の近くのなださうです。

九月十一日(月)晴、曇。この日は本室へ行つて芦野理事に報告し、旅費の追加四十円受取りました。帰りに伊藤書店へ寄つて校正を全部受取り、鶴田君とオシヤベリし、二人で雑炊食堂のうどんを食べました。それから青山へまわつて、缶詰のことを斎藤さんに頼み、若干の荷物を辻岡さんから受取りました。ひろちゃんには既に和歌山へ歸つてゐました。彼の都会的なズルサをいろいろ感じさせられて不愉快でした。利ちやんの方が人間的に誠実のやうです。彼は目下試験中。

それから歸つて、ずつと校正の仕上げに没頭したわけです。全体で本文四百頁、年表五〇頁、目次その他二〇頁、再校でなほす所は少いのですが、一応すつかり目を通し、数字をもう一度原稿とひきくらべ、註の横文字を調べるのも苦勞で、十一日の夜と十二日一杯と、十三日の午後までかかつて了りました。そのため、あなたへ手紙を書く余いもなかつたのです。

初校の校正刷りを送ります。汚いけれど読んでみて下さい。今までにこれを読んだのは著者たる僕の外は、鶴田君と出版会の誰かと印刷工とだけです。読みにくいところをがまんして、ゆつくりでいいからよく読んで下さい。緒論は同時に結論でもあるので少しムツカシイ(鶴田君もさう云ふ)が、一通りサツと読んで、本論第一章からゆつくり読んでみて下さい。第四章まで終つたら、もう一度緒論を読んで下さるとよくわかるかと思ひます。地図及び年表も参照するといいでせう。押しつけがましいけれど、あなたに読んでもらふことを切望してゐます。

九月八日附お手紙の、上島さんの二階とやら、よかつたら借りたらいかがが。僕も本さへ買はなければ、七十円ぐらいまでは送金出来るでせう。一人で家賃も要らず、野菜の雑炊ばかり食べてゐるのですから要るわけではないのですが、時々外へ榮養つけに出るから、八十五円ぐらい残しておけばいいと思つてゐます。あさちやんとでも住みなさい。僕も行きたいが、とにかくあと三、四ヶ月は行けないでせう。

こちらでは国債貯金の月一〇円、保険の一〇円があるだけです。外に小使さんに一〇円あげます。

今日は小魚、スルメ、モンペイ有難う。モンペイはいてみました。中々よろしい。もう一つあれば、冬中大丈夫と思ひます。中々うまくなったものだと、あなたの裁縫を見なほしました。だが、まだミシンを使ふ手つきがあぶなつかしいから、注意して下さい。

小魚、スルメは、近頃外でたべる時の外全然動物質がなかつたので、大変有難いです。いろいろ御心づくし有難く思ひますが、さう無理しないやうに。僕もこの頃はたつぷりたべてゐます。毎日たつぷりと雑炊をたべる外、ムシパンを朝夕たべます。雑炊にするわけは、おかずを別に煮なくていいし、ミソ、シヨウ油をケン約出来るから。ミソは一ヶ月分を半月でおしまひにしました。ヤサイばかりだと蛋白質がたりないので、大豆やささげや凍豆腐やみそを必要とするのです。メリケン粉もまだ半分以上あります。ササゲもまだ少し残つてゐます。ササゲは実に重宝してゐます。メリケン粉もこちらで何とか手に入れたと思つてはゐるのですが、困難で見込みありません。併しあなたが、さう亭主孝行ぶりを發揮すると、ヒンシユクされるでせうから、本当にムリしないで下さい。

僕の詩は大分構想が雄大(?)なので、少しづつすすめてはゐますが、例によつて完成するかどうか疑問です。僕は、自分の能力や精力が貧弱のくせに、慾が深すぎて、構想を大きくしすぎ、そのため大ていのものが未完成で、或ひは中途半端で終りさうです。中学の朝鮮旅行でも旅行記の大ゲサなものを計画して、三分の一ぐらいで終つたし、病臥中小説(自分の生ひ立ち)を書きはじめて、之も幼稚園ぐらいで中絶。卒業論文も国サイ聯盟をやるつもりで、ウイルソンの参戦までしか行かず、南北戦争にいたつてはまだ独立戦争までしか行かない。今度の本も自分の書くつもりでゐたこととの半分ぐらいしか書けなかつた。殊に工業や南部の政治、南部の社会等は素描しか出来なかつた。今構想中の詩も、我々二人の八年間の生活とこの期間の歴史とを唄ひ込まうとしてはゐるのですが。

昨日の雨で大分涼しくなりました。雨はひどく、野菜の買ひ出しでビショ／＼になりました。野菜はカボチャと菜つ葉です。カボチャは之でおしまひ(小さいのばかり)だが、菜葉さいはは之から出はじめるのでせう。

今僕のやつてゐること、独立戦争の原稿。Laechラエックを読むこと。数学。ゴリーキー。作詩。之だけです。ピアノは今、ひまがないので中絶です。

それからフクラシ粉をまた買つておいて下さい。まだ／＼ありますが、そちらでもなくなると困るので。下駄は重宝してゐます。

ではお母様、不二ちゃんにどうかよろしく。之からユービンを出して来ます。

幸子から謙一あて（一九四四年九月一三日の記・消印）

九月十三日（水）晴

九日、十日分の手紙、午前中落手致しました。

ダイヤモンドの原稿終つた相でよかつたこと。相当長いものになつたのですね。私は此の前、話を聞いた時には、セイゼイ卅枚位のもの様に思つてゐました。一寸読んだ部分は黒人の事の様でしたけれど、テーマは何だつたの？

東京もまだごち走はあるところにはあるんですね。ね段は上つてゐるのかしら。おさつは世田ヶ谷のお百姓さんの所で、

まだ売つてくれないのですか。こちらはもうチヨイくはいります。あなたがゐる時、お初を貰つたでせう。あれをトツ

プとして、段々形も大きく、味もおいしくなつてゆきます。今日は皆の三時のお茶用の茶菓子が無いので、診察室のわ

きのを掘り起しました。まだ少さいのが八分通り、一寸位の厚みのが一分、一寸五分位のが一分の割合でした。

まだ早い〜と云つたんですが、お母さんは早くても晩くてもかまはんとので、もつたないけれど起しました。ふ

かしたらすばらしく味のうまいおさつでした。あんなところで私やお母さんの下手に植えたのでも、普通に出来るので

すね。水をまいたり草もむしつたり、暑い時に世話をしたおいもなので、お母さんがその半分を来た人に呉れてやるの

が残念でした。さう云ふと何時も〜、お母さんにお前も不二子もけちくさくて嫌だ。東京のセセコマしい生活をして

来た者は、これだからしみつたれと云ふんだとのこと。或はさう云ふ通りかも知れませんか。ある時はドシ〜あげる

から、人も帳面に毎日書きこむ程、何やかやと呉れるのでせう。

朝ちやんの仕事は決まり相です。上郷・別府（ここからすぐ）に十月一日から出来る保健署で、署長は関ドクトル（お

父さんの仲よし）、あさちやんの仕事は宮養師、サラリイは五〇円とのこと。少いが手当で何とかし様と、関ドクトル

のお話です。部屋もうまくゆき相だし、一安心です。履歴書、身分証明書、戸籍抄本をそろへて長の県庁に提出して、

許可をうければいい相です。

ふとん袋は明日もう一度探させよう。みつちやんのところへ行つてはゐないでせうね。こちらでは本を移す時、あり相

なところは一応調べましたけれど、み当りませんでしたの。まさか何かの箱の中に入れてはなかつたでせうね。前、教

次さん達の引越に貸したのは返して貰ったのかしら？ 私の疎解（解）に使ったのは運送屋が来た時二つ使つて、一あれはあなたの帰る時とひろちゃんの帰るとき持つていったし、一大体あの二つは利ちゃんのひろちゃんのつたでせう。あの時からあなたは無かつたのぢやないかしら。私がこちらに来てから届いたふとんづつみは二度目にあなたが来た時、持つてゆかなかつたかしら。まあ、とに角もう一度探してみます。

本の整理は今一寸、一人では出来ません。一日や半日では出来るものでなく、全部出して調べて分類するとなつたら、広い部屋（部屋）も出したまゝに一週間位おいて整理する場所も入用ですから、何処か家でもみつかつて越した時にでなくちゃ六理（六）でせう。

モンペはまだ届かないのね。中がどうかしら。形はうまく出来てゐると思ひましたが、着て見なくては着心持よいかかわるいかわかりませんね。着心持よくつて、始終普段に使へたらうれしいんだけど。

「赤しそ」は早速買ひにゆきましたら、赤しそもごま塩ももうありませんでした。たらと青海苔のふりかけがあつて、店では品もよいとの保証つきでしたので、三個買つて来ました。お母さんは私も買つたけど、誰も食べなくて失敗だったから、よせよ返しなさいと云ふのよ。それでとに角、一ツ破いて開けて試食したら、それ程わるくない、近頃のものとしては上出来だと思ひますから、破かなかつたのを二個、何か他のものと一諸（諸）に送ります。お腕（腕）にいられておショーユ少々と熱湯を注いだら、おすましになるでせう。きざみ葱をパリといれてもいいと思ひます。

下駄は凄いで下駄だつたでせう。すぐ鼻緒が切れ相でせう。こちらでお手製のはな緒ととりかへ様かとも思ひましたが、ま新しいのをわざと取る事もないと思つて、其のまにしました。

身体の方はあのみ変化ありません。おくれるにしてもあまりおくれすぎますね。それに太つたのかどうしたのか、ウエストがすこし太くなりました。

幸子から謙一あて（一九四四年九月一四日の記）

九月十四日（木）晴29。

おかしい事、今日（十四日午後四時）あなたの手紙（七、八、九日分）スタンプは9-9のが着きました。六日間かかつてゐる。昨日は九、一〇日分で9-11スタンプが13日に着いてゐるのです。一日先に出したのが、一日あとに着くな

んて変ですね。何処かでストップしてゐたのかしら。昨日、どうも七、八日分がないなアとは思つたけれど、用が多くて抜かしただらうと思つたのです。順序が変だと読む時、何だか妙で落ちつきませんね。

一諸にあさちやんの12日投函、内藤嬢12日、利ちやん12日のが来ました。朝ちやんは荷物発送済みだ相です。

お豆は貰つたら又送りませう。新しいのはまだ出ませんから、もつと後になるでせうね。大豆は枝豆の豆です。枝豆はまだ青いから、あれが乾いて黄いろくなつてから採るのでせう。

ホキットマンの詩を読んでゐるのね。ぐうぜん此のごろ私もねる前は、ホキットマンをすこしづつよんでゐました。ホキットマンは私もつと現代の人かと思つてゐました。案外古い人なのですね。リンカーンと友達だつた相ですから。私は今世紀に這入つてから死んだ人位に思つてゐました。こちらにあるのは草の葉（文庫）です。英語のでよんだ方がリズムの浪があつて、ずつと感情の高い調子でゆすぶられるだらうと感じられます。

私の六日の手紙、どんな事を書いたか忘れましたが、そちらでのあなたの仕事生活を中断させ様などと思つてる訳ぢやありません。淋しいとか何とかぐちを云つたのなら、本当にわるかつたのね。そんな事は気にしないで充実した勉強生活して下さい。私も、もう一生懸命充実した生活をする様にしてみますから。

此の前のあなたの手紙で、今の私のするべき生活方針を書いて下さつたから、あまり勉強くくと机の上の勉強にこだはらず、今の生活の中で人にも自分にも誠実に最善をつくす様にし乍ら、一方勉強も積極的に続けて行く事にしましたので、すこし前の様に時間割通りに9—10まで出来なかつたとか、他の用のために何も読めなかつたとか、あせつたり悲観したりしない心がまへをし始めました。他の用事や洗濯や縫ひもの、おつかひ、掃除なども一定の決まつた以外にしないでならぬ時は、あゝ嫌だなアと苦々しく思つたものが、これも人生勉強だと思つたら楽になりました。さうして夜などの残つた時間は、飢え切つた心持で時間割に飛びつきますから、時間は短くても結局、得るものは多いと云ふ事になり相です。そんなわけで勉強出来ないくとか、ぐちつばい不平つばい気持から解放されつつあります。自然私の考へも多に健康にならうと云ふものですから、どうぞ心配しないで下さい。安心して短い期間を、充分研究三昧にして下さい。それは一諸に勉強生活が持てたら、そんなにいい事はありません。併し、むりやり早く疎解せよとは願ひませんから、板ばさみの苦しみをなさらぬ様。あなたもそちらで充実した生活を築きつつ、私も置かれた生活の中でさうしませう。さうして私はあなたを信頼しつつ、心豊かに暮らします。今後多分ぐちは云はないし、ぐちつばい心情生活は持たぬつもりです。

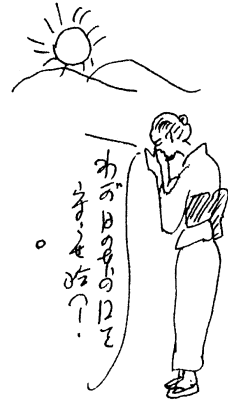
以上、私の淋しがりのために、そちらでの勉強生活を必要以上に早く切りあげる様な気持ちを起させる事は、心からありませんから、安心してたつぷり勉強して下さい。従つて何時までに帰つてほしいとか帰らねばならぬとか一はも早問題ではなくなりました。それにあなたの云ふ様に、もう暫く別の暮しをした方が人間修養のためにも善いでせう。今日の手紙で切りぬきを送るとあるのに、同封されてゐませんでした。忘れたのでせうね。気がついたら此の次のに下さい。『南部の奴隷制度』の原稿はざつと十枚もあるんですね。毎日すこしづつ読む事に致しませう。



昨夜はお母さんが童謡。石橋さんと活動にゆきましたので、私と不二ちゃんとお喋りし乍らぬいものをしました。私の縫つたのは古い、紫地に白で紫陽花を染めぬいたゆかた地を、といて洗つて張つて断つて、一サラリとしたねまきを作りました。下はパジャマ式、上は布地の不足のため襦袢の様な格好にしました。こんな風。ジュードー着みたいでせう。あの白いデシンのお姫様の様なのは、もうそろそろ肩が寒いから昨夜でしまひ、今夜から上図のネマキに致します。ねまきと云へば、あなたはねまきあつて？ 多分ないでせう。夏は何とかまにあふけど、これから入用ね。何とかしませう。又々創意をこらして作りますから楽しみにまつてゐて下さい。

今日は石橋さんから、面白い三穂村の床やさんの話を聞きました。村にたつた一軒の床屋で50才位のお婆アさんで、石橋さんが髪かりに行つたら、まアお茶でも飲んでからと云つてお茶を出して、その中奥から兵隊に行つてゐる息子（たうとう）の写真や小学校の卒業証書も出して来て、自まんやら何やら一時間位、さうして髪を剃にかかつたと思ふと、さうくうさぎにエをやるのを忘れとつたで、と云つて何処かへ行つちまつて、もう帰るかくとまつてゐたら、一町位離れた原つばまで草をとりに行つて帰つて来た。その間彼は白い布をまかれたま、30分もまつてゐたわけ（白い布をまつた人の上半身図は省略―編者注）。帰つて来てすこしかると、『胃が痛んで来たで』と云つて、とやまの袋から熊の胃を出してゆつくりのんで、なをるまでユウユウと新聞をよむ。

それから頭を刈つて顔剃にかかると、『どうな、一寸疲れたで、一諸にひるねせまいか』と云つて、とくく一時間位ひるねをする。ようく起きて又始め、顔にシャボン（たうとう）をぬつて置いて、『さうくお湯を沸さにや』と云つて又三十分もまつ。ようく終つたのが四時半ころで、『ヤレくそいぢやお夕飯でも食べてつておくんなんやれ』とて夕飯を



食べ、「いくら？」と云つたら、「さうだなも、こんなものでも世五銭も貰つておくかなも」とのこと。一時前に散髪に出て帰つて来たら七時ころだったか。

ある朝、その床やの前を早く通つたら、其の婆アさんが人通りの往来に向つて、大きななり響く様な声で、「……サイパン、テナヤン、大宮島、トラック、パラオ」云々と、もうとられてしまつた島々の名前までもを20位もとなへあげて、「其のすみずみに至る兵隊さんを守らせ給へ、わが日の本と云ふ国の名前を立てさへ給へ！」と、想像もつかない様な大きな願ひ事を祈つてゐた相です。それでも結構商売は成り立つてゆくらしいとの事です。

夕飯後は皆で茶のまに集まつて、ときもの、なをしもの、ぬひものをしました。誰も手がすいてゐないので、本をよむわけにはゆかぬから、私がリチャード獅子心王の話、十字軍の話、イタリイの都市国家の話、マホメットの話など、チヨコく致し、多いに皆の歴史的関心を煽つたつもりです。9時すぎて電報と云はれ、私のドキツとしたこと、顔(色)が変つたかも知れません。フーチヤンは追ひかける様に「菊池さん、応召かも知れん」と云ふので、嫌な事を云ふと思ひました。何のこと、戸を閉めてあるので、ずるい患者さんがそんな事を云つたらしいのでした。心臓が苦しい位心配したのに。でも覚悟してゐなくてはなりませんね。覚悟してゐても、其の時は矢張りドキン／＼する事でせうが。ではあまり長くなりましたから。これからホキツトマンか南北戦争か一時間よみませう。

九月十四日夜十時

幸子

謙一様

幸子から謙一あて（一九四四年九月一五〜一七日の記、一八日の消印）

十三日附のお手紙並に校正三束、十五日午後三時落手致しました。

モンペはお気に召した様でうれしかったわ。寸法もよかつたかしら。其の中モメンの布地をみつつけて、もう一枚縫ひませう。あれもモメンのパリ／＼ですから、きつとこの上なく丈夫です。おしりとひざには裏うちしました。ダブルにな

つてみます。

昨夜は床の中にはいって、南部の奴隷制度の緒論だけよみました。毎晩ねる前、三十ページ位よもうと計画したのですが、校正が届きましたから、あちらは一まづ置いて、今度の方を早速始めます。

ホキットマンと高村光太郎と相通ふところがある様に感じました。ホキットマンを読んで居ると、高村光太郎の古い詩を思ひ出すのです。其処には大きな相違はあるのでせうが。

日本の詩人と云ふものの概念と西洋の詩人と云ふものと、まるで異ひますのね。日本の詩人は美しい言葉をバラリとならべ得る人、位のところではないかしら。ヒューメンな、人をつき動かし、ふるひ立させ、感激させ、涙を流させる積極性はありませんね。花でも風景でも単に其の美しさと、そこに一寸感じたデリケートな感想を述べた詩が多く、其ことから人間に、人間の生活に、其の背後につながる強いたくましいつながりが見出せません。そして息づまる様な感情や思想の高まりも感じられません。結局、俳句や和歌より^④がすこし多い位ではないでせうか。

朝ちやんの疎解荷物はもう届きました。私共のたらひはバラ／＼に解体して来ました。今日は家事的雑用、客のせつたいを無事つとめつつ、日課のリンカーンの訳もグランマーもモルガンも、すこしづつ乍ら一応出来ましたし、入浴し髪も洗ひ香水もつけ、洗ひ立てのブラウスや下着をつけ、何とも云へずよい心持。あまり歌がまづくなつたので30分程、歌の練習もしました。

粉は割合近頃うまくゆきますから、又送つてあげませう。オヤキをどん／＼作つても大丈夫、続いて切れぬ様にしてあげます。今日はオセキハン、お煮、牛肉等、十五日なのでごち走です。あなたは今夜は何を食べましたか。オ雑炊ばかりもあきるでせう。もうそろ／＼あくびの連発ですから、下へ行つて一服して、床へはいつて原稿よみにします。あとはあしたの朝。

おやすみなさい。

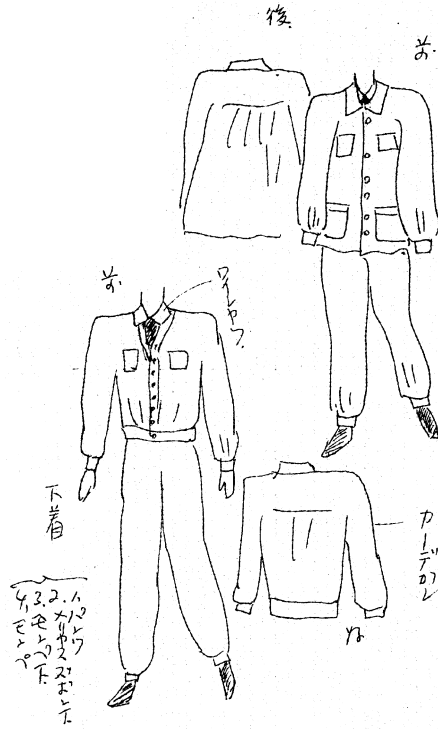
九月十五日夜一〇時

幸子

九月十六日夜。

今日は何だか用事多く、机に向ふ時間はあまりありませんでしたので、手紙が書けませんでした。日課の分も^{1/3}だけ。これからローザの経済史はすこしよみます。地代論の方は此の前もさうだつたけど、とう／＼出来相もありません。

ブルース（仕事着）



あなたの和服式上着は一まづみあはせ、別紙の図の様なものにします。今度の方が目新しくなくて、そのまゝ外へ出てもいいでせうから。

明日あたりからカーディガンを作ります。当分これでまに合ふでせう。少々寒くなるまでにはブルーズを作って送ります。下着の方の③モンペ下は二、三日中にぬひます。当分のうちメリヤス使用には早いと云ふ時、穿くとピツタリ肌には着かず、着心持よいでせう。

冬はメリヤスの上に穿いておくと案外暖かで、其の上にモンペを穿くといいでせう。どんなのがゆくか楽しみにして下さい。

今夜は気の毒な娘さんが患者で来ました。定休日で誰もゐなかつたので私が玄関にゆくと、女の人が頭からずぶ濡れて三人立ってゐて、みてほしいとのこと。あまり様子が変なので

訳をきいたら、一人は50才位の人、一人は20才位、一人は24か25位で、20才位の人は話中ばにすつと何処かへ消えてしまひました。若い娘はヨコハマの人で、二、三日気が変でゐたので診察に連れて来たら、途中で貧血を起して河へ落ちたとのこと。濡れたまゝでは上れもしないので、ユカタやひもや羽織を出して大きなバスタオルを持って行つてあげました。

何時までもシチャモチヤしてゐる様子なので、又見に行つたら、24才位の人は嫌がつて濡れたものをぬがないのです。其の娘はヤせて細くてまつ青で、川みち子みたいになかくこうで、顔はもつときれいでした。手伝つてぬがせましたが、一言も口をきかないし、身体もコチン／＼かたくしてゐるのよ。50位の女の人が近所の親類に行つてキモノをとりかへ

てくるが、外へ飛びだすかも知れないからと云ふので、私はそばで番をしてゐました。椅子に腰かけて身動きもせず、涙をポタ／＼と流してゐる丈です。もう一人の消えた女の人は、河から上げる時そばを通りかかつて手つだつてくれた人だ相でした。

後からお父さんから聞いたなら、「喬木村（天竜の向ふ側）の50才位の女の人の息子で、ヨコハマの高商へ行つてゐた人が出征したら、一日おくれて其の娘が来た。息子と何か訳があつて婚約してゐたが、一日ちがひで逢えなくて悲観してゐたので、すこしあそんでゆく様にと云つてゐたのだが、今日は家をとび出した。天竜峡へゆく」と云つてきかないので、なだめて連れ戻さうとしてゐるうち、河へとびこんでしまつた」と云ふこと。どうも本当のところは、息子がヨコハマで約束したかどうかしてゐる乍ら、召集にかこつけて逃げをうつたらしい、それで逢はぬサンダンをしたらしい。

娘は来て見て気落ちするし、一思ひ切つて自分がかう云ふものだと云つたところ、相手にされないのです、叔父か誰かを電報でよんで一諸に話をしたのだが、入籍はまだ早いと云つて、息子が帰つて来るまでは駄目だと云はれて、死ぬ氣になつたらしい様な風で、ありふれた悲劇かも知れませんが、やせ細つた身体、凄いな美しさで、ロマンティックと云ふか―芝居の場面の様な感じがありました。今日はサイミンザイをのませて、羽生さんの家を借りて一晩ねかず事になりました。

ついで来た母親（姑）も全く困つてハラ／＼してゐました。其の人が宿の交渉に行つたあとで、お父さんが「思ひ詰める程苦しい事があつたら話なさい。出来る丈は骨折つてあげ様。医者だから秘密な事は口外する心配ない」と云つたら、一言も云はずハラ／＼涙を流してゐたとのこと。母親は氣が変だと云つてゐましたが、氣が変なのぢやないでせうね。相手の男も、男の家も絶望的な状態である事を知つて、死ぬ氣でゐるんでせう。

どうもねむくなつて来ました。此の分だとヨ定の勉強はずれますが、明日は日曜日で時間割なしだから、残つたのは明日やりませう。これからあなたの原稿を床の中でよみます。緒論八頁まで昨夜読みましたが、そこまではさう六ヶしいとは思ひませんでした。前にあなたから聞いた事や、あなたの前の書いたもので、度々知つてゐた事でしたので。今夜のところはどうか？

ではおやすみなさい。

粉は二、三日中、すこし送つてあげます。タラのふりかけと一諸に。

十六日夜9½

さち子

九月十七日、雨勝の日。

今朝早く、又精神病の女の人（35位）が裸で一人でやつて来ました。キモノを呉れてやれとの事、着物不足の時代に困るとは思ったが、雨に濡れて裸ではと思つて、二階に私のねまきを取りに来たら、もう帰つてしまひました。玄関前は相当の人だかり、まるで芝居の見物みたいでした。農村では春と秋との代り目の時、精神病がどつと出るのだとか云つてゐました。

先程、はらまきのクリーニングや修繕出来ましたから送ります。一諸にベーキングパウダーと、たらふりかけ二個、メリケン粉少々入れました。動物質のものは今日は一寸ありませんでした。林檎もおしまひになりました。

今日はあなたのカーデガン作りのため、布地を解いて（ミシン縫いのものであつたため、解くのに四時間かかりました）洗ひました。雨で乾き相もありませんから、明日アイロンかけをして、ふうちやんが断つて呉れます。布地はピュアウールでふうちやんが謙一さんに進呈すること、古いものですが、軽くて暖かさうな地質です。縫ふのは私ですから、うまくゆくかどうか、あはずゆつくり時間をかけて仕上げる心算。但し仮縫の代用になり相な人はゐず、寸法もかたんに取つたのしかないから、心もとない。楽しみにまつてゐて下さい。明日からお母さんの冬支度も、私と不二ちゃんとで受持つてこしらへる筈です。布地は新しいものは全然ないので、カーテンの古を洗つたり染めたりで、たつまでに相当の労力を要します。上着も下着も皆作るのですし、スベアが入用ですから大変です。併し夕飯後は茶のまに集まつて、誰かに本でも読んで貰ひ乍ら、毎日セツセとすこしづつ進行させませう。

昨夜プランテーション十四ページまで読みました。四月にして貰つた講義や、あなたの研究社のや民族叢書の中で、読んでわかつてゐる事ばかりで、あまり理解困難とも思ひませんでしたし、息の長いにも少々なれて来てゐますが、五行も続いてゐて切れぬ文章には、何度も読み返して何が主でどうなつたか、細心の注意を要し、混乱して来てスラ／＼と頭にはいりきれぬ時があります。専門家が読むのなら、知つてゐる事実だから楽々と了解するのでせう。私や一般のレベルの読者は余程根気良くないと、中々着いてゆけぬかも知れないと思ひました。始終引つかかり乍らチチとして進むと、前に書いてあつた事との聯関がぼんやりして来さうにも思ひます。私が前にも六ヶしいと云つた事は、書かれた事実―内容の理解を云ふ前に、息の長い文章について呼吸困難を覚へる意味だつたのだと思ひます。

勿論、私の理解力の単純さが、抽象された理論の組み合わせがすこし複雑になると、一、一、ときほごし、楽に翻訳しつてなくては理解出来ぬと云ふ事が、大きな原因でせう。だから子供が国語読本をならひ乍ら単純Ⅱかたんなこと、

復雜Ⅱ入り組んで六づかしいこと、などと訳す様によんでゐるので、さう云ふ個所々に引つかかつて、其処へ注意を集中する結果、前後の聯関や全体の云はんとする意味を、了解するに至らぬのかも知れません。併も其の息の長い文章の組み合わせの二つ一つが、エッセンスの如く濃いものであるので、ゆつくりゆつくり考へねばならないし、何ページまで今日は読もうとプラン立てても、一定のヨ定時間でそこまでゆけません。「プランテーション」もきつと長くかかつてやう／＼よみ上げられるでせう。

今日は野分の吹く日です。ひるまは暫く忘れてゐた田舎の秋を感じさせられました。記憶に残つてゐない様でゐて、それに逢ふと視覚からと皮膚からとでぞく／＼する程に強い感銘を受けます。萩もすゝきも白い野菊も咲き始めました。千里塚の吾木香、松虫草を思ひ出します。

九月中に遠山へ遠足します。遠山に菊池と云ふ国民学校の先生がゐて（山形、会津若松の人、21位、美術にキヨウ味あつて水彩を描く）、近頃家に来た人がゐるから、彼に案内頼もうと思ひます。朝ちゃんの来るのをまつて、秋の遠足シーンを開かうと云ふ訳。

お母さんは豊川稲荷へ石橋とんぼさんとゆく筈です。では今夜はこれで。これから地代論を少々やるつもり。

十七日夜八時

さようなら

謙一様

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年九月一六〜一七日の記）

九月十六日（土）一雨。

雨ばかり続きます。涼しくなりました。出なくていいから雨も大してかまはないが、天気が悪いと野菜が出なくなるので困るのです。メウガぐらいなものです。

昨日はあなたへの手紙を書いてしまつてから、小ぬか雨の中を都心へ出ました。先づ神田伊藤書店へ寄りました。それから学士会館で食事して、外にも二、三、神田裏の支那料理屋の代用パンなどを食べ、「安物食いの銭失ひ」ぶりを発揮し、古本屋をあさつて、またまた金が欲しくなり、あきらめて本室へまわり、芦野、伊達その他庶務や会計の人々と会ひ、四時頃帰りました。学士会館の昼食は税のつく一歩手前ですが、さう悪くありません。パンもつきます。夜はピ

アノを少し叩きました。ぼつ／＼系統的に練習するつもりです。留守中吉武君が来たらしく、気の毒しました。あさちやんの仕事きまつて、一安心ですね。あさちやん、あれから見えないが、もう疎開したのかしら。

ふとん袋はやはり僕が持つて帰らなかつたのです。島村君へ貸したと云ふのは覚えてるませんが、信州へ疎開した時は、たしかに僕のと利ちやんのか何かだつたのでせう。僕が帰京する時（最初の疎開の時）、チツキのトランクはひろちやんのトランクで、あの中へふとん袋二つもは入る筈ありません。今いねちやんのがあるけれど、やはり相当かさばつてゐます。島村君に貸したと云ふのは、あなたのでせうか。我々のは二つ（僕のとあなたのと）ある筈ですね。何だか人に貸したり借りたりで、わけがわからなくなつたけれど、要するに引つ越すについて家中くまなく探したけれどなかつたので、目下僕の所には一つもないわけなのです。当分要らないけれど、気をつけておいて下さい。それを探すために家中ひつくり返すやうなことはないやうに。

本の分類も面^{めん}仕^じなことを云つてゐるのでなく、蔵書印を作ると云ふから、その印を押す時に一応分類して番号をうつておいて、それをノートへ書きとつておいて下さいと云ふのです。従つて全部の本でなく、せめてあなたの部屋へ出てゐる分だけでも、とにかく印をおす序でいと云ふのです。全体^{ぜんたい}□は僕が行つてやるつもりです。だが、それも面倒なら、無論やらなくて結構です。外にすることが多いのに仕事をふやすのは気の毒だし、今までにそれだけ本をならべたのだから、さぞ大変だつたらうとお察ししてゐるのですから。

今日伊藤君から電話があつて、雨がひどくならなければ、午後四時頃経堂へ来ると云つて来ました。夕食を頼むと云ふので、カボチャ飯をたいて、ナスの油いため（油がもうぼつ／＼おしまひですが）とキウリのなまかじり、それにするめぐらいで間に合はせませう。

同日夜。

伊藤君は約束通りに四時少し過ぎに来ました。その直前に、ジャガイも三個と、いわし十匹と配給がありました。之はいづれも小使君と二人分ですが、小使君は今夜自分の家へ帰らしてくれと云ふので、僕のものになつたのです。

で、暫く駄弁つた後、彼が書庫を見てゐる間に火を起し、裏の庭の柿をもぎ、カボチャとジャガのは入つた飯（夫々丼に二杯分づつ）と、ナスビの油やき（大きいバケナスを四個ですから非常にタツプリ）、塩やきいわし五匹づつ、生キウリ、之だけの御馳走を作りました。「こんな御馳走久しぶりや」「冗談ぢやない」「いやほんとに、こんなにぎょうさ

ん野菜食つたの久しぶりや」。その代り時間がうんとかかつて、火を起しかけてから食べ終るまでに二時間半ぐらいかかったでせう。だが料理しながら、焼いたり煮たりしながら、シヤベリ続けたので、腹は減つたが退屈はしなかつた筈。彼の仕事のこと、彼の同僚のこと、旅行のこと、本のこと、世界情勢、日本の国内情勢、市井の状態、研究室のこと、勉強のこと、静岡の「阿呆の天国」のこと等々々々^(ママ)。途中へボ碁を一局やつて、十時すぎまでシヤベリました。

九月十七日(日)晴、雨、嵐。

久しぶりに日が照つて、朝からこの家の庭のすみのプールへ大勢の人が来て、いよくセメントを入れ始めました。町会か隣組の勤労奉仕隊でせう。五間に三間、深さ一間と云ふ貯水池です。夏の始めの炎天に数日かけて、やはり勤労奉仕隊の大勢で掘つたのですが、一夏そのままにほうつてあつたのです。僕は米をほして、虫をとりました。

おひる近く驟雨があり、庭の奉仕隊も雨やどりのした頃、玄関のベルがなるので出て見ると、利ちやんがぬれねづみで立ってゐました。僕のワイシャツやかんな、のこぎり、その他辻岡さんへ預けてあつたものなどを持つて。勤労奉仕や試験で忙しいらしいが、身体の方は元気だとのことで安心しました。ひろちやんは有田から、入営決定まで東京で勉強せよ、帰ってくるなと電報まで来たのに、荷物をすつかりまとめて自分の家であそぶつもりで、この二日に帰つたださうですが、家で怒られてまたぞろ帰京することになり、「あつちやん」に上京するから外食券を都合しろと云つて来たので、あつちやんも困つて利ちやんに相談して、「まだ来るな」と電報うつたこと。あつちでもこつちでも「来るな来るな」の電報で、彼も立往生のていたらくです。

僕の夜の分まで炊いてあつた雑炊を二人で食べて、雨もやまつたし服やシャツも一まづかわいたので、おひるすぎ利ちやんは帰りました。

入れちがひにあなたの十五日付手紙が来ました。僕の九日付手紙には、恐らく畑中特派員の切抜き1、2、3ぐらいが入つてゐたのでせう。それをどこかで抜かれたのかしら。「近代化」と云ふことの標識は、市民生活の自由の程度にあるのですが、我が国では戦時でなくても通信の自由も極めて不安定だったので、今なんかは一そうひどいのは当然でせう。

僕の「プランテーション」のゲラ刷は届いたですか。あの第二章以後、殊に第四節から第五、六、七節、第三章、第四章等を読む時に、日本の現実が頭に浮んでくるかしら。僕はアメリカのことを書きながら、殆どたえず、日本のことを

考へてゐました。前資本制または非近代制と云ふものが、どんな所に根拠があり、どんなあらはれかたをし、どんな影響をもつものか、かう云つたことについて、アメリカのことを書きつつ、実は日本の現実の批判もしてゐたのです。そして僕の「ブランテイション」の意義は、まさにその点にある筈なのです。だがそれが僕の意図したやうに読者に読みとつてもらへるかどうか。この点に個別と普遍（普遍）、現在と歴史、自分の周囲と世界、之等のディアレクティクがあるのです。

あなたの感想は出来るだけ詳細に（一節一節について、或ひはもつと詳しく）ほしいけれど、それがあなたに重荷になるのだつたらカンタンでもいいです。ゆつくり熟読して理解して下さい。そして最も冷静に公平に意見を云つて下さい。本になつてまた読んでもらふつもりだけれど。註も一応読んで下さい。註の中で相当重要なことも書いてゐますから。数字は煩しいけれど、統計と云ふものの見方を訓練することも、あなたが無駄でない。僕も統計学をやつたわけでないから、出来るだけわかり易くパーセンテージにしました。賃銀とか所得とか労働時間とかについては、日本のことも考へながら数字を見て下さい。大体向ふの一弗とこちらの一元とは、生活程度を基準にして等置（等置）していいでせう。日本ではまだ、センサスの数字をこの程度にでも分析し、利用した労作はないのです。工業統計や労働統計にも相当貴重なものがあり、統計の点でもこの本には相当意義ある筈なのです。大分自己宣伝じみたけれど、まあ読んで下さい。

小此木君からレーンの心理学の積（積）原稿、一昨日届いたので読み出したが中々面白い。僕があなたへ書いて来た勉強の方法などについても、ここに面白い実例がある。即ち子供には目的より手段をより高く評価する傾向のあること、その傾向こそ子供の成長の原動力をなすことが指摘されてゐます。そして悪い教育を受けた大人が手段より目的を重視する。手段とは過程であり創造的活動であり、目的とは状態であり所有である。大人は創造的衝動よりも所有的衝動の方が強いが、子供は所有的衝動よりも創造的衝動が強い。子供にとつて興味の対象は、所有した状態ではなくて、それへ到達する過程、行為である。例へば赤ん坊が拳を口へもつて行く、之は赤ん坊が手を意識し手が自分の思ふやうに動くことを発見して、之を自分の唯一つの快楽獲得の方法である口へもつて行かうとする、口は赤ん坊の快楽の唯一つの機関である。所が赤ん坊は拳を口へ入れた状態よりも、拳を口へもつて行く動作に一層興味を感じる、だから之をくり返しもつて行く、所が母親は赤ん坊が拳を口へ入れた状態を欲してゐると考へて之を入れてやる、このことは赤ん坊の創造的努力（口までもつて行くと云ふ）を実は妨害することになる。そこで赤ん坊は興味を阻害された不満から泣き出す、それを母親は赤ん坊が空腹なのだらうと理解する、空腹で口へ入れた拳が実は食物でなかつたから泣いたのだらうと。そし

て砂糖水をつくつてやる。この砂糖水は赤ん坊の創造的努力を^(痲痺)摩痺させる^(痲酔)摩睡剤になり、赤ん坊の健全な成長を阻害する云々。

勉強についても我々大人は悪い教育の結果、「知識を所有した状態」を常に目的としてそれを重視し、知識を獲得し物の弁証法を認識して行く洞察して行く過程を重視しない。そのために努力なしに一举に全知識の所有の状態へ達したいと考へ、その不可能なところからあせり、勉強の努力を放棄する。「知識を所有した状態」の喜びは多くの場合、人に威張つたり、人に学者だと思はれたり、話題にしたりすることの喜びだが、それは「感能的な」「低次」な喜びであり、「知識を獲得して行く過程」「認識を深めて行く、洞察して行く過程」の喜びは、「精神的な」「創造的な」「高次な」喜びと云ふべきなものでせう。さう考へて来ると、学校の教育がまるで逆であることに気がつく。学校教育は認識を深めて行き、物の性質を知つて行くことの訓練よりも、他人がすでに認識した既成の知識を「所有させる」ことばかりをやつてゐる。(教師が自分で認識したことですらなく、教課書になつた知識の切り売り、受け売り。)所謂つめ込み主義です。試験制度もわかり。物を認識し研究する方法の正しさを試験するのではなく、他人の知識の所有の状態を試験するのです。既成の知識の所有の状態には、何にも独創的なものはないが、自分で物事のディアレクティクを究め認識して行くことは、たしかに創造的であり独創的です。実は僕の歴史学がこの段階の第一歩へ達したのもこの一、二年のことです。今度の本はその最初の成果ですが、そのくらいですから貴女にまだえらさうなことの云へるがらでないのです。いづれにせよレーン^(レイン)は中々面白いし、子供の育て方などに相当注目すべき洞察力のある意見を含んでゐるので、要所を写してあなたとふうちゃん^(フンちゃん)とに送つてあげませう。あなたが読んであげるといいと思ひます。

夕方から嵐のやうになりました。早川君の所へ行くのを中止しました。嵐になつたら電車が通じなくなつたり、さまざまの故障が出来る可能性がありますからね。夕食はジャガとカボチャとをすり込んだムシパンを作りました。中々おいしく出来ました。メリケン粉もササゲもぼつ／＼おしまひです。ササゲはごはんに炊きこむのに大変いいし、信州でいただいたあれだけで、毎日つかつて二週間以上あつたのですから、我々には適當です。若し手に入つたら少しでもいいから御願ひします。どうもこの頃少し注文が多すぎるかも知れませぬ。

風がうなつてゐます。時々雨が乱暴に雨戸をうち叩きます。今夜は早寝させよう。ではおやすみ。

九月十七日夜。

謙一

謙一から幸子あて（一九四四年九月二〇日の記）

九月二十日。

十八、十九日の分は別に出します。今ちよつと外へ出るので、「プランティション」の「序章」を同封します。なほ、今、あなたの十七日朝と夕との手紙（不幸な女の話のある）と小包を受取りました。有難うございます。メリケン粉は丁度あと二、三回分しかなかったので助かりました。なほ、くわしいお礼は帰つて来て書きませう。とりあへず。

謙一から幸子あて（一九四四年九月一八〜二二日の記）

九月十八日（月）晴。

嵐の翌日でいいお天気です。昨夜の嵐は雨を伴はず、壮観なほど黒い雲を南から北へ吹きとばし、その雲の疾走のときれに、星空が毅然として輝き続けました。驚いたことに、その乱暴な風が地物を打ち叩き蹴ちらしてゐるのに、虫の音が風の騒音に挑戦するやうに終夜、高らかにひびきわたつてゐて、朝、風がやまつた時まで、やがてやはり残暑の日が照つて、名残の蟬の音が喧しくわき起つて来るまで、疲れも知らずなりひびき続けました。何と云ふ虫共の強靱なエネルギーでせう。人間にこれだけの不屈な力があれば、ホイットマンぐらいでせうね。今までの詩人の中で、どんな嵐の中でも無限にうたひ続け、遂に嵐に打ちかち得る秋の虫の大軍に匹敵するのは。

日中はやはり暑くなりました。馴染の百姓家へ子供のおもちゃやお礼にみんなで進呈しました。おさつは来月になる（この辺はずつとおそい）が、カボチャをくれました。庭のプールも大分はかどつて、もう底もふちの壁もセメントが入りました。之が夏のはじめに出来てゐれば、水浴びの誘惑にもなつたこととせう。近頃都内の防火プールへ子供が落ちて死ぬ事件がよくあるさうです。

九月十九日（火）晴。

昨夜今井先生を訪問するつもりでしたら、食事にひまどつて（火にしくじつた）おそくなつてやめました。此の頃の食

事はやはり雑炊とオヤキです。雑炊にはカボチャ、ジャガ、ナス、メウガ、ナツパ等は入ります。

今日は夕方から灯火管制の演習があるので、昼間先生をたづねることにしました。N君をつれて行く準備（ヒゲをソツたり）してゐたら、サイレンが鳴つたので、防空服に着がへ一時頃に出ました。防空服ではやはり相当暑い。

先生は大分やせました。何となく頼りない感じが、どうしても追ひ払へません。「夫人はどうです」ときいてゐました。話すことは割合元気なことです。三時頃に警報がとけたので、帰りに山陽堂へ廻らうと原宿の駅で下りると、参道の端の飯屋に「外食券要りません」とあつて、何か人が食べてゐる一軒があつたので、もう四時頃だから夕食の補助にと思つては入ると、チラシ（近頃のチラシは色つきごはんの上に干瓢とでんぶとしひたけぐらいのをせたにすぎない）のやうなものなんです。一つ注文すると、一円二十銭だとのことで、すしやなら三十銭か四十銭で食べさせる（但し一時間か二時間並ぶ）ものを、三、四倍でうつてゐるわけです。それでも次々と人がは入つて、僕が食べ終るまでには「売切」の木札が掲げられました。山陽堂は女の子がテイ身隊でゐなくなつて現金買ひになりました。

あの辺の本屋を軒なみにのどいて、帰ると六時半ぎりぎり、その六時半から灯管が始まりました。留守にあさちやんとツル田君とが来て、ツル田君はすぐ前まで待つてくれたとのこと。めつたに留守にしないのに、その留守にかちあつて、あさちやんには二度もカスをくはせました。灯管には、この二階は目立つので、雨戸をすつかりしめ切つて、ひつそくしました。レインの訳稿をうつすだけで、早ねにしませう。

九月二十日（水）晴。

今日は芦野理事が来たので、ちよつと会つて、おひる前から神田へ出ました。残念乍ら本屋休業日でした。伊藤書店へ寄つてツル田君に会ひ、学士会館で昼食しようと思つたら売切れで、本室へ行き二、三の人に会つて用をすませ、電話で吉武君が留守に来てゐるから、まつすぐ帰つてくれと云つて来たので、いねちやんとこへちよつと寄つて、あさちやんが二十二日に帰ることをたしかめ、明二十一日夕方、どこかで食事しようと約束しただけで、急いで帰りました。

吉武君は十六日にも来て留守だつたのですが、今日も二時間余り待たせて気の毒でした。いろんな話のあとで、彼の家庭のトラブルについてうちあげました。あの時（七月）は僕のすすめたやうに、母親に冷静に話してうまく行つたのですが、七月末か八月のはじめかに、お父さんから帰京するから迎えに来てくれと云つて来たので、吉武君は向ふの女の人との関係をきれいにして帰つてくるのだと思つて迎へに行つたださうです。所が帰つてから、まだ文通してゐるこ

とがわかり、お母さんと妹さんとがフンガイして、家庭の空気甚だ陰悪となり、妹さんはお父さんに詰問手紙を書いて吉武君に見せたので、吉武君も親父さんに対してふんがいしてゐたとは云ふものの、その詰問手紙の調子にはどうも同意出来ず、出すのをやめさせたと云ふのです。

「どうも妹がオフクロと一緒になつて、却つてオフクロの氣持を刺戟してゐるらしい。前は僕と協力してオフクロの氣持を穩かにするやうにとめてゐたんだが。」うん。それや君が親父さんに同情し、君の妹が母親に同情する理由は甚だ簡単な。男だからとか女だからとかの問題ぢやない。君が恋愛結婚し、妹が嚴密には恋愛結婚しなかつたと云ふことにあるのだらう。君は恋愛結婚したから、人間關係の内容の方に重きを置いて、親父さんがその女の人と結合して行つた氣持に同情をもてるのだらうが、恋愛結婚しなかつた妹君は、人間關係の形式的面がより重大で、内容への同情はないのだ。結局君が何とか機会をみつめて、親父さんにはつきり話すより外ないね。大体大阪へ迎へに行つた時、その点はずつきり話しあつておくべきだつたのだね。親父さんの良心に信賴したと云ふことと、問題をはつきりさせると云ふこととは別だから。だが今となつても、やはり君が親父さんに口頭なり手紙なりで、問題を片づけてくれるやうに、少くとも目黒で君のお母さんや妹さんに厄介になる以上は、それらの人達の生活を尊長するやうに、ことをわけてはなすより外手段がない。併し何と云つても、事の起りが不鮮明なのが一番いけないやうだ。事の起りがよくわかれば、君のお母さんも、あの時ああ云ふ態度だつたのがいけなかつたのかと反省出来ることもあらうし、感情も合理的に働くだらうが、事の起りがわからないと一切が非合理的に動くより外ないからね……」。

僕の人生相談の答案は大体右の如くで、結局要領を得ない。凡ゆる人生相談屋の答が要領を得ないと同様に。とにかく彼の父は舌ガンで、今年一杯もつかどうかと云ふ状態で、話すことも食べることも極めて不自由にあり、その為、彼の母親は夫君の不行跡に不機嫌でゐながらも、自分の食べるものもたべずに看護してゐると云ふのです。そんな重態でもやっぱり老人は大阪の女の人と、自分の糟コウの妻の目の前で文通する。いやそんな重態だから一層さうなのでせう。より切実に、内容的な人間的結びつきを欲求するのでせう。彼の父にとつて、その内質の欲求たる大阪の女の人の世話をするということ、社会的形式上の欲求たる自分の妻子と共に住むこととの間に、多くの旧時代人が悩んで来た悩みを持つて余しつ、いはば余命を削つてゐるのでせう。かかる事態に対しては、よき息子たる吉武君の明識と誠意と勇氣とをたのむ外ない。その彼自身の妻君も十一月に迫つたお産をひかへて、サカゴらしいと云ふことを心配してゐるのです。今朝お手紙二通（十七日付）と小包を受取りました。暫く御手紙なくて物足りなかつたところ。

不幸な娘の話。人間生活は歴史的な大不幸とまるで無関係なやうな小さな私的生活の面でも不幸に充ちてゐますね。しかも、そんな人生にも、おかしなこと、笑ひが絶えない。石橋童謡君の話す床屋のやうな。

ガーデガンとかブルーズとか、どうも苦勞をかけます。大変嬉しく思ひます。さう云ふものを買ひたいと昔から思ひ乍ら、そのままだつたのですから。眼を悪くしないやうに。ふうちゃんにもよくお礼をおつたへ下さい。小包の品物も何れも結構でした。タラもさつそくつまだけれどおいしい。フクラシ粉も有難う。今日ビーマンを買へたから、これを朝ちゃんにたくしませう。

「プランテイション」緒論、大分あなたを悩ませることせう。僕もあの緒論には、一番力を入れたのに、一番不満なものになりました。特に「アメリカ史と南部プランテイションの歴史」の項は、一番書きたくて、結局一番出来のやうです。それと云ふのも、あの項は別に二百枚ぐらいに書いて、第二部とする予定だつたのに、途中で余り大きくなるからと思つて、歴史の部をやめ、その分をあれだけに押しつづめたからです。それに僕の文章自体が、全体として甚だ悪文であることを反省させられます。結局現在の僕には、あの緒論のやうなものを本当にスツキリと、論理と歴史との統一として書く力が出来てゐないのでせう。今度のプランテイションの叙述で僕の一番心したことは、歴史的なもの（具体的なもの、個別的なもの）と論理的なもの（抽象的な理論、普遍的なもの）との統一、その総合と云ふことだつたが、それをまだよく実現する力がなかつたのを感じます。あなたの御意見、もつと齒に衣きせずで結構です。自分をふりかへらずに云つて下さい。そのことがあなた自身にとつても一つの格闘であるやうに、あとを待ちます。

九月二十一日（木）晴。

冷しくなりました。夏のシャツだけでは日中でも時にさむさを感じるがあります。レーンの訳稿のうつしをあさちやんに頼むために、今日は夕方まで、そればかりやりました。レーンは歴史的知識（原始人の）と条件反射学（意識の発生の生理学）とを知らないこと、そして哲学上の素養が不十分であること、之等の欠陥をもつてゐるやうです。彼はフロイドの捕へかたが若干脆弱な所もありますが、少くともブル科学としては最高の洞察をもつてゐるやうです。彼はフロイドの系統ですが、フロイドよりは歴史的観点（発達の）に立つために洞察が正しいし、フロイドの病理学的なのに比べて教育学的で、我々にも親しみ易いでせう。之を見ると我々が、いかに多くの小児病をもつてゐるかがわかつて恥づかしいほどですが、その小児病の根源もわかるので、自己反省が科学的になります。僕が中学の教師になる時のために、大

部分写しとりつつありますから、之はあなたが保存しておいて下さい。保存に都合いいやうに、表紙でもつけられたらつけておいて下さい。急いで書いたので字が読みづらいでせうが。不二ちゃん、あさちゃんにも読んであげるといいと思ひます。ただ西洋人のせい^{せゐ}か、性教育が大変大きい部分をしめてゐるが、之は男の子をもつ親には必要でも、女の子の親には、こんなにまで重大に扱はなくていいのかも知れません。早苗のオモチャのえらび方などに参考になるでせう。みつちゃんには僕がその中話をしてあげることにしませう。

なほ、早苗ちゃんが絵を好きなのは非常にいいが、丁度四つ、五つの頃には音も大切です。音の区別（絶対音感）はその頃にやると一番いいのです。簡単でも正確な楽器を与へることが出来るといいのだが。いねちゃんのオルガンなんかいいのだが。それでドレミファを正確に教へ、いいレコードをきかせて、音の世界を豊富にしてあげなさい。

夕方銀座であさちゃん、いねちゃんと落合つて今新で食事しました。ピーマンと、レーンの原稿と、お金80円をたくしました。80円の中30円は生活費、50円は借金の返金にして下さい。家をかりるなり部屋をかりるなりすれば、もつと送るやうにしませう。僕の方は野菜を買ふだけなので、生活費としては大いにきりつめてやつて行ける筈です。本も来月中には出るでせうし、ボーナスまでには印税もは入るでせう。印税は一割二分で、初版二千部で定価六円（税四十五銭、計六円四十五銭）ですから、所得税（一割五分）をとられても千円はは入るでせう。借金六百五十円を返して、あと二、三百円は貯金しておきませう。だがこんなこと考へるのは捕らぬ狸のやうでもある。一回空襲来ればオジヤンになるかも知れないし、まだ検閲と云ふ厄介ものがあるのですから。

紙芝居はふうちやんととんだ荷厄介を与へたやうで、却て気の毒したとも思ひますが、又一つ新しいのをたくしました。中味はよく見てゐるのですが、外のは大い時局物なので、それにしました。子供のオモチャもむつかしいですね。

九月二十二日（金）晴。

すっかり秋です、と云ひたいほど、日中でも冷しく、セーターでもよささうです。

今日は、あさ、いね両ちゃんがついて、にぎやかになつたでせう。

二十日のお手紙二通受取りました。「オブローモフ主義」を読めば、レーンの心理学がオブローモフ主義にも適用出来るのがわかるでせう。

貴女が看護婦見習をするのもいいことです。凡ゆる技術は技術そのものの効用もさり乍ら、その人間の生活に正しい自

信をもたせる意味でいいことです。特にその技術が「見せびらかし」に適したやうなものでない場合は、その技術から来る自信は正しい健全な生活的自信になるでせう。

所でレーンは、あとそのくらしいの分量残つてゐます。青春期はもう少しですが、外に二、三の論文があるのです。何れも面白いものです。併し之はちよつと遅れるかも知れませんが、独立戦争をすつかり書きなほしてみたくなつたので。

月曜から白田嬢が今度は殆ど僕の助手に近い形で、出はじめます。タイプは頼めないが、ノートはたのめるので、仕事はかどるでせう。新しい女の子が二人来ることになり、全部で四人になるので、二階にも二人配属することになったのです。タイプピストがほしかつたのに。仕方がないから僕がタイプをならひます。ピアノと一緒にやればいいでせう。

芋の出はじめる来月まで、こちらは野菜枯れで、菜つ葉ばかりです。オヒタシにして食べてゐます。あさちゃん、いねちやんからバタ、塩、醤油をもらつたので、大助かりです。あなたからもよく御礼を云つておいて下さい。雑炊をすると、塩や醤油やみそが足りなくて困つて、いねちやんにたのんだのでした。火や水が不便だと、おかづを別に作ることは面^{めん}仆^{ぼく}で、やはり当分雑炊でやる外ないでせう。雑炊へ入れられるやうな豆とか凍豆腐とかオサツとか、配給になるといいのに。近い中凍豆腐一個か二個配給ありさうですが。(ゴマが入つたらゴマ塩にして送つて下さいませんか。スリバチをあさちゃんにあづけて了つたので、こちらにあるゴマもそのままになつてゐます。)

休みが二日つづくので、又大分人が出るでせう。僕は二三日^{十脱}の夜、早川君の所へ行くだけです。日曜にはツル田君が遊びに来る筈。では今日は之だけで出させよう。

九月二十二日午後

幸子様

謙一

あさちゃんにもことづて頼んだが、疎開証明書を至急郵送して下さい。原宿の八百屋の荷物、まだ出せないのです。それから廿日午前に一通手紙出しました。中味は「ブランテイション」の「まへがき」です。

幸子から謙一あて(一九四四年九月二〇日の記・消印)

九月廿日^(十脱)前十一時。

唯今十七日附の手紙落手。其の前日出したと云ふ（十四、十五日分）手紙は届いてゐません。最近どうも着かぬ手紙や電報が多くて困りますね。人手不足のせいならいいけれど。（切ぬきは四回目まで来てゐますから、五、六回分のがなくなつたんですね。手紙は七錢切手二枚あつてあるのに、五枚しか書いてない。無駄な事をしたものだと思つてゐたんです。）此の手紙を出す二時前に、一本あなた宛出してあります。内容はサイホウの事、あつちやんの就職のこと、貸部屋のこと、論文のこと、本の事です。

十七日の手紙の児童の心理学、実に面白くよみました。お母さんも聞いてゐて、むづかしいが一寸はわかる、なんて云つてゐました。本当にさうです。目的ばかり重大視する考へ方が圧倒的ですね。私の勉強についても其の通りです。早く「沢山の知識を所有した状態」に達し様としてあせつてゐたのです。此の半年間（昨秋から春へ）の私達のゆきちがひも、私のさう云ふ考へ方に起因してゐました。だから何はさておき詰めこみ的な勉強を第一番と考へて、凡ての時間をそれに当てはめたいとあせつたのですね。でも、そのまちがひは解つたと云ひ条、未だにね根々残つてゐます。一寸でも読めなかつた日は、イラ／＼して「しまつた！」と悔ひる氣持が強く、「他人の既成の知識」の獲得ばかり重大視するところが大いにあります。自分で考へるよりも手つとり早く、いろんな概念を樂に自分のものにも出来るからですね。心理学は学者たちの専門で、医者とか犯罪を調査する人たち、そんな人たち丈に任用のもので、普通の人間にはあまり用のないものだ位に考へてゐましたが、大ちがひなんです。大塚さんも心理学へゆき、小此木さんも心理学をやつてゐる——なんて、何か共通の原因があるかの如く一寸感じました。歴史、科学、心理、芸術等々、あらゆる學問は各各独立した存在である様でゐ乍ら、どれ一つとして聯関しないものはありませんね。各々人間の成長、發展に伴つて成長して来たもの、人間の考へ方の進歩發展の結果だからでせうね。

利ちやん時々訪ねて来るらしいのね。雨に濡れて、又後で熱を出さなければいいが。学校の方一寸暇になつたら、信州の秋を味ひに来るといいのに。まだ行つた事のない天竜の向ふの方やなんか遠足したいけれど、相手なしだから、利ちやんが来たなら一諸にゆきたい。それにもうおさつがうまくなつてゐるから、おヤキだの、おサツを腹一杯食べさしてあげたいと思つてゐます。

論文の感想は出来る丈詳細に書くつもりでゐました。きつと幼稚な感想で、氣に入らないかも知れませんが。でもそれが私の限界ですから、がまんして下さい。段々すこしはましになれるでせう。

フーチャンはひところ、ロバート・ライリイやヒューズをよんでゐましたが、二、三日前から二人でいろいろ話したあ

げく、ドプロブリーユネフの「オプロモフ主義とは何ぞや」を読み始めました。ときものや、ぬいものをし乍ら、二人で代る代るよみ始めました。五十ページ位まで読んだら、もう一度ルーゼンやオネーギン、レールモントフをよみかへす、その後にオプロモフにかかると云つて、今ルーゼンを読んで居ります。早苗ちゃんの近頃の知識獲得の凄い發展ぶり、大人もかうだつたら凄いものですね。其の様子でフーチャンも母親として、あまりのんびりしてゐられない、勉強する態度が早苗に及ぼす影響を考へて、あはて始めたのです。

早苗ちゃんは凄い美術通になりかけてゐます。毎日二度位、二階の勉強間を訪問して、いろんな絵をみます。レンブラントもブリューゲルもヴェラスケスもマネーもゴヤも卒業しました。併し早苗ちゃんが一番好きなのは、ここまで書いたら赤猫のフクチャンが来て、甘へてヂヤマをしてヂヤマをしてペーパーの前に登り、顔にあたまをすりつけ、啼き、一寸も字を書かせません。イタリヤ古典の様です。どうも猫が邪魔をして書けません。今日に限つてどうしたのでせう。プシが死んで其の魂がフクチャンのり移つたのかしらと思ふ位、甘へてくゝ何もさせません。

明日から家の都合で看護婦見習をします。三人ゐたうち一人は既に試験をうけて免状があつて、残つた二人の中、一年先に来た方が今年講習に出て、試験を受ける事になつてゐました。残つた一番新しい一人は自分が後に残る事をくやしがつて、夏期試験の時、むだんで20日近く休んで勉強して、試験に長野にゆきました。娘が試験を受けたいから来月の試験期日まで休ませてもらひたい、と云つて来ました。今度正式に試験をうける子の方は、三人の中の一人がへれば、病院の仕事もおのずと増えて勉強の時間が減つて来るでせう。其の子は何も不平もぐちも云ひませんし、夜は二時近くまで勉強してゐますから、誰の目から見てもきの毒な立場で、ぬけがけをやる娘の方は自分さへよければと云ふ利己主義があまり骨ですし、親もそんな事は平気で、休ませてくれと云ひに来るんでせう。あまりの事にあきれました。で、今後もこんな事があり得るから、私もすこし見習ひなりとして、すこしでも役に立つ様になれば、互ひに便利だすけになるだらうと思つて、さうする事に致しました。夜更の注射やなんか若い娘を出してやるのは気の毒ですから、注射位は出来る様になつて、そんな時は私が行く様になりたいものです。では今日はこれでさようなら。

九月廿日午後一時

幸子

二、三日忙しくて、机に座る時がありませんでした。

朝夕の寒い位の涼しくなったこと。スカートはもう洗つてしまひ、モンペを着用致し、冬物を出して虫干致しました。経堂の方はどうですか。未だ日中は暑い日もあるでせうね。ズボン下など、そちらにいくらかありますか。下着の事、どんな風になつてゐるか(何が何枚あるか)お知らせ下さい。夏物の不用品は送つて下さい。整理してしまひつておきます。カーデガンは結局、始めから終りまでフーチャンがかかつてくれました。今日一日あれば出来上るでせう。まる四日位(解いて洗ふときから)かかります。其のうちにモンペ下を縫つて送ります。うすいメリヤスのよりも、かへつてはき心持よく、保温にもなるでせう。二重になつたモンペを作るヨ定で、布地はもう洗つて染めて張つておきました。二、三日、お母さんのものを根をつめて縫つたので、どうも目が疲れて今日は頭も痛く、さいほうは休みにしました。こちらは今おさつの出盛りです。

一昨夜はワシ見さんが久しぶりに来て、自家製のゴールデンデリシヤス、シルヴァ・デリシヤスをくれました。昔の斗士のおもかげは其のまゝ残つてゐますが、知らない人がみれば田舎の好みや(?)みたいで、やさしい声でおだやかに物を云ふ人です。矢張り中々勉強家の様です。彼には本を時々貸してあげ様と思ひます。いい本が沢山あつて、しあはせだと羨やましがつてゐました。大東あ戦の始まる前に大嵐が吹いて、こちらの人はほとんど本を取られたのだ相です。彼も其の時半年位行つて来たと言つてゐました。彼は村でも有名な親孝行者で、人々から好かれ同情され信頼されてゐます。

朝ちやんの仕事は上の人々が履歴書を見て、中々立派な履歴だから、なる丈よいところへ紹介すると云つてゐるとのこと。部屋も有望なのは三、四あります。

1. 松尾村のお寺のそばに老人夫婦つきりの家、きれいで保健的、まどりも多い。
2. 〃 昔、塾だつた部屋、三十帳位、みはらしよし。
3. 上郷、別府、一戸建。
4. 上島二階。

朝ちやんが来てから一諸に見に行つてもよいと思ひます。

南部プランテーションの緒論、よみ終りました。むづかしいけれど、よくわかりました。今日、もう一度全体をスーッとよみ返すつもりです。いろいろ今まではつきりしなかつたところのつながりも出来たし、重要ポイントもわかつて

来た様に思ひます。

今日はどうも目が痛い。又、今夜かきます。十四日原稿以来、手紙も来ず、心配してゐます。

幸子から謙一あて（一九四四年九月二一日の記・消印）

廿一日午後三時半ころ、前から宣伝中のジャンパーとうずら豆を書留小包で御送り致しました。ジャンパーは初めから終りまで、不二ちゃんの製作にかかりました。仮縫が出来ませんので、時々お父さんや南原爺さんにも着て見て貰ひましたが、二人ともまるで身体の格好が異つてゐるので、あまり役に立ちません。そんな訳で身体にびつたり合ふ様にはゆかぬでせう。でも、これからの朝夕の涼しさや夜の勉強に、脊広服の上着よりは楽だと思ひます。着いたら着心持、寸法、どんな風か御暇を見て知らせて下さい。色も中々さへた、いい色でせう。布地は古いけどウールです。裏布地は、私の昔の和服用防寒コオトの裏を染めなをしたものです。とくのも洗ふのも染めるのも地のしも縫ひも、ホームメイドである点が自まんです。

モンペの方は使つておいでですか。あまり活用なさらぬ様なら、それ一枚でいいでせうし、愛用して下さるなら、絹地でブラックに染めて張つて用意したのがありますから、裏をつけてダブルにしたのを追ひく／＼作らうかと思ひますが、如何？

今日は病院勤務第一日で、割合に忙しく三時まですごしました。器具の消毒法、マーキの使ひ方、あと始末、ガーゼの出し方、当て方、ほしい巻等々を実地で教はりました。受付の仕事のカルテの書き方も覚えしました。

午前中は手術と云つても大きなヨウ位なもので、あとは前にやつた手術の手当やまき換位なものでしたが、続け様の患者さんで相当疲れました。午後は三才位の男児のヘルニアの手術一ツです。午前中は主に私、午後はフーチャンが手伝ひにゆく様に決めてゐますが、この仕事は部分的に覚えてよいものでなく、それでは役に立ちませんから、出来る丈午後も出る様にしたいのですが、どうも9—12時まで立つてゐると内臓が下垂する気味がまだありますから、当分は午前中だけにとどめます。

昨日、緒論の分七、八ページ、ふうちゃんにもよんであげて、感想を聞きました。矢張り文章が長くて、いささか理解困難であること、もつとたやすい言葉を使つて、誰にでも解る様なら尚いい様に思ふこと、それと云ふのも不勉強のせ

②いかも知れぬが、一般大衆は割に不勉強なものではないかなア、なんて其の程度の事を云ひ、要するにわかる事はわかるけれど、ややこしいのでねむけがさして来る、との事です。

今日から第一章、前八―九時までの間、六ペーヂ程よみました。第一章は一も二も楽によめました。本になる時は地図をつけるのでせうね。今晚、疲れてゐなかつたら、五までは読むつもりで居ります。

病院勤務をすると、時間割の勉強がとて出来ません。午後は病院へ行かなくても、お勝手の雑用(ふうちゃんがかけるから)があつて、殆んど夕食後の片づけまで時間はあります。まづ、うまく行つて7½から時間があくわけです。

時間割を変更することでせうね。朝20分位、グランマーをやること位は、きまつた時間をとれ相ですけれど。今まで主力を注いで来たアメリカ史(あなたの前の二ツ、ファランド、アダムス等併行させて、ノオトを取つたり、あちこち比較してよみくらべたり)の方は、中々出来相もありません。地代論など、此のごろ、さつぱりやつてゐません。

英
リンカーン(訳)
アメリカ史

ローザ 史

経
はたの 入門

モルガン
地代論

これ丈組み入れたのがむりなら、何を省略しようかしら。智慧を貸して下さい。

今朝は朝八時頃まで一七度、午後三時に廿八度になりました。大分、朝、ひる、の差が出て来ました。

こちらもおさとうの配給があつて、今日は砂糖入の紅茶をのみました。みつちゃん達は八月の中旬に手紙をよこしたつ切り、ウンともスンとも云つて来ません。夫婦喧嘩なんかしてゐるんではないかなど、お母さんは心配してゐます。教次さんにおついでの時、電話し

て見て下さい。

和歌山からは何とかお便りありましたか。こちらからは三べん程出しましたが、何の音沙汰ありませんけど、気をわくくしてゐなさるのではないでせうね。

九月廿一日

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年九月二三日朝付け、同日の消印）

第一章(一)は21日午後八時から九時すぎまで、約一時間以上かかつて、ていねいにノオトをとりつつ再読しました。ノオトを取つたら、実に良くわかりました。まづ私は開拓線の膨張は東部の社会的政治的矛盾からのみ発する、—それが唯一の原動力であると思つてゐたことのまちがひがわかつたこと、開拓線の膨張は自由農民の移行丈でなく、南部プランテーションの固有の性質、大規模化からも起る点を知つたこと、それ等と、北部自由農民の西南への流れと衝突し、自由農民が逆に北西へと追はれることがとても良くわかつたこと。

北部資本主義の早期時代と成長時代と南北戦争に至るまでの北部、西部、南部の有機的結合、離反、結合の進展から、段々経済体制の決定的な対立へ向ひ、南北戦争となり、南北戦争後の南部プランターの暗中活躍から、北部と西部の対立、さうして倒れた筈のプランテーション奴隷制度は、生命をふきこまれて復活する、わけですね。

大変面白く映画の場面の様な変化を味ひつつよみました。41ページ四行目から七行程のところ、即ち南部の復活のところは、どうも説明不足の様に思つたのは、其の辺のことを何も知らないせいかしら。ねる前にもう一度よみ返してみます。

1. 何故金融的北東部の政治が西部を南部へ転化させるのか。

2. 従つて西部は南北戦争直後、南部プランターとやす／＼結びつけられるのか。「農民的要素」にもうすこし説明あつてほしい。

尤も此等は後章で段々説明されて来ることも知れませぬね。この調子だと全体よめるのは、はるか後の事です。(九月廿一日)

九月廿二日十一時ころ、九月廿日附の手紙(原稿在中の)着きました。

前書、非常によくわかりました。此の前書をよむ人は、きつと本文をよみたい気持をそられるでせう。此の程度の文章なら、誰でもよくわかるにちがひありません。反動的な人も、さうでない人も同様に深く、古き奴隷制度や今も続く—彼等の子孫たちが、くさりやむちがその形こそとらねど、人種のヘン見や経済的社会的圧迫と云ふ形で、尚きつくつな

がれ苦しめられてゐることを感ずるでせう。其の上に立つ彼等の優越を強く感ずるでせう。本文の方は二三〇ページ位まで整本（ママ）して見ましたが、段々楽になつてゐるので、此の分なら楽々とよめ相だと思ひました。

今日はヨ定通りスキマの時間をチヨイ／＼使つて、グランマーもリンカーンもすませました。のころはモルガン丈です。病院も8—12まで勤め、掃除もすつかりすませました。夜のモルガンが早く終つたら、「プランテーション」にかかります。

今度から手紙はフートのすみにナンバーをいれます。今日のが1です。あなたの方もさうして下さい。なくなつた時、わかるから。それから日附も忘れずに。

朝ちやん達が着きました。お金はたしかに戴きました。心理学ノオトも。早苗ちやんへのお土産はお母さんが大よろこびで、夜早速やつたものです。では今日はこれで。

謙一から幸子あて（一九四四年九月二三—二四日の記）

九月二十三日（土）曇。

彼岸の中日で、二日続きの休みに、大分人出が多いでせう。今日は夜早川君を訪ふ外、一日チツ居です。レーンを写したり独立戦争を考へたり、「四十年」を読み続けたり詩のことを考へたり、それらすべての前に飯仕度と食事とがある。今日は小使さんも家へかへつて僕一人です。

レーンはいかが。彼の方法で自分を内省してみると、僕は幼児期の欲望（母への欲望）、空想時代の幻想的欲望、殊に自己主張期の欲望等が、すべて異常に執拗に残存してゐるのを感じます。第一のものは、僕が幼少の頃から（小学時代から、特に小学一年頃（八才—西洋流なら六—七才）、同五、六年（西洋流十一—二才）、高校時代、以後ずっと、あなたと結婚する迄）姉を求めて来てゐたこと、また遅れた形の快樂への欲求が最近の漸くの克服まで強かつたこと、しかも実際に性の目覚めが遅れたこと、外部へ依存しようとする傾向の強いこと、等々にうかがはれる。姉への欲求は、青春期以後は友への欲求、知識への欲求、人間的向上への欲求等と結びついた為に或る意味では、遅れた形でなく却つて前進的な形になり、その性愛への発展に於てあなたとの結婚まで到つたのでせう。僕自身の発達が遅れた「母への欲

望」を、ともかくも創造的なものにまで転化させたわけだと信じますが、他面、その遅れたものがあなたとの結婚生活の中で、あなたに「母的」なものを欲求することにもなり、それがあなた自身の欲求と食ひちがつて、我々の間の不満の一つとなつて来たことも考へられる。今この「母的」なものへの欲求が満足させられず、また満足させられることをあきらめ、同時にそれを克服もして（少くとも依存的な責任回避的な要素は）、あなたから離れた生活も可能になつたとも云へるかも知れません。だがやはり、「母的」なものへの欲求は今後も何らかの形で識域下に存在し続けるでせう。それがあなたを欲求する時、あなたを苦しませるかも知れません。なるだけ理性で制御しませう。そしてあなたの思ひやりのある愛で、僕のこの「幼児的欲求」の制御を援助して下さることを望みます。

第二のものは、僕の現実生活への怠惰の中に見出される。不勉強、精力の欠除、不精、簡単に出来ることすら、なるたけ延期しようとする傾向、実行より空論に向ふ傾向、しかも計画だけは誇大であり、成功の幻想にひたることを喜ぶ。

之等の、僕自身中学時代から痛切に感じ続けて来て今なほ克服出来ない、否今最も切実に感じる根本的欠陥は、恐らく空想の時代に、その空想を健全に発達させなかつた、その残存物なのでせう。之は恐らく人間として、第一のものよりもっと致命的な欠陥なのでせう。

第三のものは、僕のみせびらかし、饒舌、えこぢ、わがまま、氣どり、みえ坊、虚栄心、それらすべてにあらはれてゐる。之等が特に強くなつたのは、中学上級から高校時代以後のやうです。その頃から氣どりが出来、次で自意識（人が自分のことを何と云ふかと云ふことについての意識）が過剰になり、劣等感から自己卑下（実は何とかして自分の価値をみつけたい、自他に承認させたいと云ふ自己主張の仆錯様式）に走り、自虐的になり、大学時代からは、自分を何とかきわ立たせようと云ふ無意識の態度からフラク〜と行動し、しかも自分の無能力についての避け得ない意識から無テツポーな行動にも行き、その後も原初的な稚拙形態は幾分なくなつたといへ、なほしつこく残存して頑固な自己主張癖、押しつけ的な話しかた、せつちち、スタンドプレイ、虚栄心等々となつてゐる。

今度の著述にも、それらの要素は注意すれば到る所に見出されるでせう。之等の為に、大切な「忠実の時代」の発育がおくれ（高校時代前後から）、しかもその発育が不充分で、デリカシーのない思ひやりのない、自己中心的な人間になつて了つたのでせう。そして結論として、僕の最も致命的欠陥は、幻想的であつて現実的でないこと、愛他的でなく小児的な利己主義、自己中心主義をもつこと、所有的衝動が強く感能的快樂への欲求が強いこと、すべてが夫々の程度に抑圧されて来たために精神の発達不全で、精力の集中が極めて劣ること、精神が防禦的で自己弁護的なこと等々とな

ります。(之は自分の性格の欠陥を親のせいにするわけでない。反対に、この欠陥の克服出来てゐないことを自分の責任に思つて、之の克服を考へてゐるわけ。)

理性的努力が今後どれだけ之等の欠陥の克服を可能ならしめるか、それにはあなたの援助が決定的に必要です。之まで或る程度それらの欠陥の克服が出来て来たとなれば、あなたとの恋愛及び結婚生活のおかけでせう。現在の僕の形成にあなたとの結婚がどんなに決定的であつたかを、之等のことを考へることによつて、あなたも理解してくれると思ひます。

早川君所へ行つて帰つたのは十一時半。早川君は、渋谷まで行つて小田急の時間に間に合ひさうになかつたら、逆戻り



右肩(マヤ隠して)

して来るやうにとしきりにすすめてくれましたが、幸ひ間にあひました。

九月二十四日(日)晴。

お手紙(二十一日)と小包とを拝受。不二子さんとあなたとの御親切の成果を着た所は、ざつとこんな風。(立姿は鏡には入らない)。右肩は肋膜のせいで元来落ちてゐるので下のやうになるが、エリをもう少しつめれば多少修正されるやうです(今は夏シャツしか下に着てないせいもあるでせう)。その外は全く申し分なし。ゆつたりして着心地もよく、「スマート」でもあり。不二子さんに厚く感謝を御伝へ下さい。あなたにも有難う。うづら豆も有難う。

モンペも使つてゐます。日曜とか夜とかは之です。之からはひる間も之でやり、買出しの時はモンペの上からちよいとズボンをはいて行きませう。モンペは腰がもう少しゆつくりでもいいと思ひます（ズボンをはくやうになれば）。そしてバンドをとほす所がある方が便利です。今は紐でバンドのかはりにしてゐますが、便所へ行つた時などは、よく紐がおつこちかけます。それから前ボタンが逆で、ちよつとホックをはづしたりはめたりがしにくい。その他はすべて結構です。ブラックのモンペは、その点御注意下さい。やはりもう一つある方が便利です。

病院勤務、御苦労さま。胃下垂を注意して、やつて下さい。

「プランテイション」緒論は、きつと物議をかますでせうね。大ていそこで立どまつて、あとを読んでくれないかも知れませぬ。初校の時、実はすつかり書きなほしたかつたくらいですが、駄目でした。行をかへて、多少読み易くしようと思つたのですが、それでも印刷屋の方で納得してくれなかつたのです。何しろ緒論を書いてた頃は、之を学術論叢には入るものとして書いてゐたのですからね。その後だんだんふくれて、論叢ぢや無理だから単行本になつたのです。いづれにせよ始めの企図とちがつて来たことが、いろんな所にはあらはれて欠陥になつてゐるでせう。論叢は少し睨まれてゐたので、文章を故意に難澁にして、いはばカムフラージュも必要だつたのです。だから貶黜と云ふやうな小むづかしい言葉をつかつたのです。だがムロン根本的には僕の問題把握力の不充分と、表現能力の欠陥とに帰するでせう。なほ、地図は巻末についてゐるから見て下さい（第四章の終りの所に）。

時間割はこたはらずに、語学だけは絶対に一日も休まないやうにして、あとは可なり自由にやればいいでせう。アメリカ史は、僕の「プランテイション」を読んでゐる間は、休んでもいいでせう。尤も、さつと「アメリカ史」を通読しておくのもいいかも知れない。みつちりやる前に一応通読することは必要です。年表はいつも参照して下さい。ローザとモルガンとは、モルガンだけでいい。経済学入門もさつと通読して了つて、もう一度ゆつくりやる方がいい。

和歌山から手紙が来ないのは、書くことが気が重くて、気になりながらつくくのばしてゐるのでせう。気を悪くするとか何とかは、あなたがよく云ふことだが、思ひすごしです。そんな理由もないし、また今迄の例でみても、さう云ふことはないと思ふ。田舎の人は何にでもスローモーションで、おくくうが^ぶつて、その為^{ゆゑ}に結局自分を責めてゐるのである。こちらから一々反応せずに、悠々とやるのがいい。だが、僕から母へ云つておきませう。どうも世間的な「失礼」と云ふことの觀念が不充分なので、僕の両親にも困りますが、決して害心や悪意をもつてゐるのではない。齒が痛くて気分がすぐれず、筆もとれないのかも知れないし。

では今日は之だけで出ませう。

謙

幸子から謙一あて（一九四四年九月二五日の記、二六日の消印）

九月廿五日午後。

廿二日附手紙落手。

廿四日の朝、又、南信バスで浪合にゆきました。お父さんは前日、浪合の先、平谷^{ヒラヤ}まで往診でありましたのであちらから、私たち（幸子、朝子、稲子）は飯田から、十時に浪合で落ち合ひ、藤岡屋旅館に荷物を置き、十一時すこし前に浪合を徒歩出発、寒原峠へゆきました。入口から三丁位行った一軒の百姓屋で、お茶を貰つてひる食にしようと思つたところ、お彼岸の餅つきをしてゐたので、あんころもちのつき立てをたらふくごち走になり、外にサナギの佃煮、キヤベツの漬物を出してくれました。お礼に、金五円也置いて来ました。四人で此の節、あれ程うまいあんころ餅をたらふく食べれば、あたり前の料金でせう。

それから橋のところまで来て、此の前の様に小さい路へ這入らふかどうかとためらつたあげく、新道を通つて登りましたら、此の前小休止をした炭やき小屋までゆきました。そこから左へ丸木橋を渡り、尚登つてゆくと畑があつて、そこに何とも云へぬ太つた毛なみの美しい清潔な大猫（三毛）がゐました（炭焼き小屋から同所に至る道の簡略な絵地図が描かれてゐるが、その掲載は省略した）^{編者注}。其の猫があまりに美しいので、抱いたり撫ぜたりしてゐると、二匹の又何とも云へぬ胴の短いポチャ／＼の毛のふさ／＼のきれいでかわいい仔猫が来て、キヤア／＼大さわぎをしてゐると、お父さんが「オイ／＼、此処は此の前の家ぢやないか！」と云ふのでのぞいてみたら、矢張り此の前おいもをゆでてくれた家でありました。

そこへはお礼代りに金五円、祝儀袋に入れて来ましたので、はいつて行つて「此の間はいろいろ有難う」と云ふと、よろこんで又招じ入れてくれました。そこで一時から三時まで例のろばたでお話をしました。話してゐるうち何原^{イヌハラ}さんは、あの次^{白子}□召集されて又征つたとのこと、其の家（川口実^{織カ}□）の娘は、うちの前のオーヤ小島へ女中に行つてゐて、家にも使ひに来たとのことでした。あのおばアさんの語るには、すこし高い方に作つてあるおさつを今朝見に行つたら、大半猪にはぢ^ぢぢられて食はれてしまつたとか。八丈と六丈のエン側のついた隠居所があつたが、段々家族がへるので売つち

まった。損をした、あのまゝおいとけば、先生がチョイ／＼来るんなら、先生の休ケイ所^(レ)にしておけばよかつた等々。其の間にもちきびの凄く軟かであまいのを、15本か16本位、いろいろでやいてくれました。ぢやがもうもろこしも枝豆も、あららぎのはめつぽう^(ニ)おいしいです。腹一杯ごち走^(ニ)になつた上、宿に帰つて食べる分も貰ひました。そこでは今度十月に来る時(もみぢのころ)は、家^(ニ)でランゴクでもよかつたら泊りなんしよ、浪合まで行つて戻つて来て、又泊らんぢや大変だで！とのことで、今度ゆくときは川口家で泊る事にしました。ランゴクと云つても、藤岡屋だつてあまりきれいでありませんから、かへつてあの家の方がいいでせう。もみぢの時と、ま冬^(ニ)とに、又ゆくつもりです。(川口家では猫をとともかわいがつてゐるし、ミホ子と云ふ十才の少女がゐます。ここの猫^(ニ)のようにかわいくて、きれいでチャーミングな猫は、今まで見た事がない。)

川口家を出て又登つて、何原さんたちとのんだところで、又アイス・□^(ツ)□^(ツ)ターをのみました。高い花だらけの一軒家(此の家でもおばアさんが出て来て、おやすみて、お茶にしますで)と云つてくれました)まで登つて下りました。あの辺はもろこし、キュウリ、今まつ盛りです。キュウリを買つて来ました。それからテク／＼浪合に戻り、入浴、食事(やき松茸、おろし、新栗ふくめ煮、其の他)、八時にはねました。

朝はお父さん一人早起して、はちみつ屋にゆきましたので、私たちはそのあと三人で合唱し乍ら、治部坂の方へ30分ゆきました。夏と代つて又々変つた美しさでした。帰つて来たら飯田署の自動車で、浪合警サツへ五、六人ドカ／＼下りてゆき、其の中の一人は知つた顔で、誰だつたかと思つたがわかりませんでした。宿へ帰つたらお父さんがもうゐたので、ハネイ(蜂蜜ハネイのことか―編者注)は買つたかときいたら、サイダー瓶をボンと一本見せて、売^(レ)る事は出来んが、お医者なら診てくれ、診てくれたら交換にあげるとの事で診察して、もらつて来た”と、他にキャベツ一個、山ぶどう一つつみ。飯田署の自動車が来てゐると云つたら、宿のそばの河、あそこへ、あの橋の上から昨夕うまれたばかりの嬰兒を投げ捨てた者があるので、それでだとのこと。知つた顔のは産科婦人科の西沢さんでした(赤ん坊の解剖に来たのです)。山の畑で昨日の午後あたり生んで、そのまゝ何もつつまず投^(レ)げすてたらしいさうで、太つたかわいい女の子だつた相です。

家へ持ち帰つてお土産は椎茸五〇〇匁位、あづき五合、キャベツ、キュウリ、はちみつ、私たちのとつたみくち茸20個位、山ぶどう、など。其の他、早苗に吾木香、女郎花、紅葉した木の葉。以上、今日の一時に帰つて来ました。とても／＼楽しい遠足で、此の前はアララギ平と云つてもたいしたところでないと思つたのに、今度はアララギのよいところ

がすこし解つて来た様です。お父さんはどうでもあそこへ、少さい家がほしい様子です。十月中旬にゆく時には、あな
 たも一諸にゆけたらいいのね。

レーンの心理学もお金も確にうけとりました。どうも有難う。母と教師に語るは廿三日の日、おさつのくきの整理をフー
 チヤンとアツチヤンがしてゐる時一時間、夜母さん、ふじ子、あさ子、いね子で裁縫してゐる時に一時間読みました。
 皆とても面白く感じた様です。本当に子供の時の抑圧された慾望は、後年にいろんな形であらはれて来るんですね。大
 人の「所有した状態」ばかりを大切に思ふ心や、子供の創造的なよろこびと其の中断、いろいろ早苗ちゃんと同様に
 て思ひ当るふしが多いです。お母さんは聞いてゐるうち、何となく自分の子供の育てて来た仕方をヒナンされてゐる様
 に思ふ風で、「そんなむづかしい事、出来るもんぢやない」とかいろいろ抗議しましたが、朝ちやんたちから「お母さ
 んのやつて来た方針だつて、こんな風に解剖すれば、凄く六かしい理くつでかためる事も出来るんだから、一寸もむ
 づかしい事ではないぢやないの」となだめたり、「結局こんな風に子供を本位として充分やるためには、ソ聯の様に国
 家で子供を育ててくれるところが一番、それがやりよいのぢやないか、日本の現在では母親は教育の点でも、子供を思
 ひやる時間の点でも、母親の周囲の干渉の点でも、甚だやりにくい事ではないか、などの意見が出ました。が、要する
 に、大人中心から子供中心に考へ尚す事は多いに必要であること、など出ました。授乳の点は、朝ちやんは現在が一番
 新しいやり方は時間割制ではあるが、其の時間割は各個別の子供の厳密な習慣の研究を基礎として出来上つたもので一
 律なものではないし、よつ程の人でない限り正確に時間通りスキッチをいれたり切つたりする様によつてゐる人はない
 とのことです。

どうもあまり長くなりましたから、今日はこれだけにしませう。

疎解証明書、同封致します。

廿五日夜

謙一様

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年九月二六日の記、二七日の消印）

九月廿五日夜

盲腸のオペラチオン一ツ

九月廿六日 筋炎、ヨウ、鞏丸炎 小オペラチオン三ツ

九月廿六日午後 指、ひざの手術二ツ

手術にもすこし慣れました。機械の名前もすこし覚ええました。もう一ヶ月も立てば、手術のアシスタント位にはなれるでせう。昨日から頭痛や熱で、風邪かと思つてゐたらMENTH(S)になりました。矢張り駄目でした。おくれたので身体の具合もわるくなつたのでせう。

いねちやん達があるるので、家は女がお母さんから早苗ちやんに至るまで九人になり、其の騒々しいこと、お母さんは余りの目まぐるしさに、いささか逆上してゐる様らしい。

今日は三時迄で、主な病院の仕事はすみました。二人の看護婦さんのうち一人が下痢でねこみましたので、新米たちは大あはてでした。もう盲腸の手術位にはすつかり慣れました。一番嫌なのは、矢張りメスで切る時です。あの時はどうも嫌な気がぬけません。筋炎（注射のあとの腫れ）の子供は二合位、うみが出ました。それでも案外泣きもしませんでした。

三時からリンカーンのほん訳を致しましたが、どうも頭がぼんやりして、何時も一時間位かかるところを五時半までかかりました。今夜はこれからモルガンです。モルガンが終つたらアメリカ史、プランテーション。

高円寺で寛ちやんが手紙をくれました。歯痛で困つてゐるとか。

前に度々手紙に書いたKの部屋は断りました。Kの婆アさんはずるい事がわかりました。部屋代は二つで六十円位とるつもりらしいこと、それが嫌なら貸さぬとか。患者には一日一円と、お父さんは話して有つたのに、何時のまにか十日で五十円位とつてゐる外に、入院患者の家が酒屋ならお酒を、肉屋なら肉を、百姓なら米とか豆とか、ろ骨にねだりとしてゐる事実等が他所からわかつて来たり、Kの隣の竹下と云ふ雜貨屋（うちの正面の肴や）がKの借家で、始めは七円の家賃を、石井さんに貸せばもつと儲るから早く越せ〜とせつついて二倍にして、それでも「病人に貸せば二、三日でお前の家賃位出るから」と云ふので、組合長が家へ「Kに病人をやるな」と怒つて来るとか、ごたく〜がありましたので、あんな家はそれつ切にしました。

松尾へゆく路の途中のお寺もよい相ですし、別府にも一軒ありますが、各戸へ疎解^{（解）}児や都会からの妊産婦の強制割当があるらしいので、お母さんはあはててよそへゆかぬ様にとのこと、私たちが行つて部屋にゆとりが出来れば、必ず押しつけられますから。私と朝ちやんとに二階をあけてくれると云つてゐますが、どの程度にあげてくれるのかわかりませ

ん。そんな訳で当分はここにゐるでせう。あなたが来ると解つてからにしてもおそくないでせうから。

吉武さんのお家のトラブルは中々大変ですね。お母さんも気の毒ですし、お父さんのき持もきの毒ですね。大阪の女の人、そのところ何と思つてゐるのでせう。でもまだ文通してゐるのは、すこし非常識ですね。東京へ来ると決つた時、話をつけ相なものなのに。つかないなら東京へ来なければよいのに。帰つて来てそんな事をするのはわるいですよ。吉武さんのお父さんのやり方は、どんな事情のもとに起きた問題にせよ、お母さんに不誠意すぎるやり方だと思ひますね。其の後のやり方がです。相手の女の人も不誠意ですね。ゆるしてくれるだらうとか、どうにもし様がない位にずるくに考へてゐるのでせう。

若しも私が吉武さんのお母さんの立場に立つたら、さつさと大阪へ行つて其の女の人に逢つて話をきき、自分が出るか相手を出すかにしてしまふでせう。又、若し大阪の女の立場なら、東京へなど帰さないでせうよ。そんな事になつてしまつたのなら、きれいな事にすませ様と思ふから六理ろりが出るのです。いつそ東京へついで来て、一諸もろの家やに置いて貰ふ位の覚悟で来ればいいのに。文通なんか大ビラにして、お母さんのき持をチビく傷つける位なら、其の方がまだまじなの

に。一人で大阪で暮して淋しければ、お母さんと呼ぶなりすればよかつたのに。吉武さんも両親せうじんのそう云ふ事だけに、随分困つておゐるでせうね。あの善良な吉武さんの当惑とうわく顔が、目に見える様に想像出来ます。

用があつて、いろいろしてゐるうちにもう九時くになりました。今夜はねむくてくとてもモルガンも出来さうもありません。し様がないから今夜は睡眠の方にゆずりませう。

九月廿六日夜

謙一から幸子あて（一九四四年九月二五〜二八日の記）

九月廿五日（月）曇。

御手紙No.1（二十三日朝）受取りました。

「プランテーション」の感想、有難う。貴女の指摘してゐる第一章（一）の説明不充分的所は、あとで何度となく出て来て、だんくわかつて行く筈です。第一章では、南部なるものを歴史的に説明する為のデッサンですから、一々説明しな

つたのです。「再建」は僕としても一番書きたいことなので、第二章第四節、第五節、第六節、第七節、第三章第一節等々に繰返し叙述しました。夫々の問題がひろがるにつれて、説明を深めて行つたのです。今後もさう云ふ所がよく出て来るでせうが、一応ノートしておいてどん／＼次へ進んで行くことよろしい。緒論なども全体を一通り読んだあとで、もう一度かへればよくわかる筈なのです。だが無論質問は夫々の所で書いて下さい。この第一章(一)のデッサンは実は僕自身の独創的把握なのです。

重要なことは④南部の奴隷制プランテーション制度の歴史的解決勢力は、第一に自由農民運動の中に見出さるべきこと、だが農民の後進性分散性の為に、最初の機会(独立戦争前後)を逸すること。⑤独立後の自由農民の奴隷制反対は、北部の商業資本の金権主義、金融的商業的投機的な農民収取等の為に、北部資本への農民的反対運動によつて埋没させられる。⑥結局奴隷制の眞の解決は、産業資本の発達、工業労働者の発達と自由農民とが結ばれた所に成立する。⑦だがまた、その同盟が破れた時(北部資本の独占化によつて)、また奴隷制は復活する。之等です。

今日は涼しくて、ジャンパーとモンペイとは全くうつつけです。

午後上田君と安原氏とが来訪しました。三浦君が二週間許りに死んださうです。不幸な人でした。三高のストで退校させられ、徳島の家にある間に数回、何でもないことに引つかり、五、六年間拘束の中に暮し、やつと出て来て一昨年世界経済へ就職して、健康も生活も恢復したので結婚もし、子供の一人出来たのですが、昨年の夏からまた肺が悪くなり、秋には奥さんが流産して枕をならべ、幾度か起きては又悪化し、本田さんの好意で、この七月まで何とか調査会の籍を保つて来たのですが、とう／＼なくなつたのです。一昨年頃は僕ともよく話し、北山君の講演に引つぱつて行つて、二人を会はせてお互ひに感慨無量にさせたり、昨年春は北山君の所へつれて行つて、会へなかつたりしたあの人がつたのです。お葬式には棺桶も中々手に入らず、自動車も約束の時に来なくて(故障)一日のばしたり、ずい分気の毒だつたさうです。有能な立派な人だつたのに。

九月廿六日(火)雨。

今日は本室へボーナス(一ヶ月分、但し税金一割五分引)を受取りに行きました。帰りにココアとかガンバリ粉、チョコリ等を買ひ、紙芝居の桃太郎、それからブルデル彫刻集、ドラクロア素描集を買ひました。互助会の借金の一部を返さうかと思つたがやめました。ネックレスを見てまわつたがありません。分室の外の人のボーナスもあづかつてあつたの

で、余りぐずぐずしてゐられず、いい加減に帰りました。桃太郎やブルデル、ドラクロアはその中御送りしませう。

九月廿七日（水）晴。

スバラしい天気です。こんな日、どこか水のある所へピクニックしたいものです。

今日はダイヤモンド日報の第一、第二号が来たので送りました。レインの心理学も一応写し終つたので送りました。あなたの手紙は昨日も今日も来ないので、郵便受けを数回のどいて失望しました。西井君が「鳥のなかない日はあつても」と云つてゐた、そのお手紙の来ないのは淋しいです。僕のモンペは評判よろしい。西井君も一つ家をつくつてもらつて、ここではかうかなと云つてゐます。ジャンパーは彼等にはスマート過ぎて合はないでせうが。

近頃の食事は、朝、先づ雑炊（カボチャ、ジャガ、コマツナ、ウヅラ豆等）を作り、その汁をスープとして丼へとつた後、鍋をしっかりと包んで了ひ、それからムシパン（メリケン粉を儉約して、ガンバリ粉とかココアとかチコリとかを沢山使ふので、時々猛烈ににがい時がある）を作る。朝食はそのスープとむしパンとです。昼は雑炊（可成り固い）の半分を食べ、夜は残りの半分を暖めて食べる。

近頃百姓家では、小松菜ばかりです。皆芋類をほしがるが駄目です。

今日は臼田嬢が一貫目十二、三円と云ふ梨をオヤツに一つ、夕方帰る時一つ、くれました。稲田登戸まで行けば買へるさうです。一貫目で十八個ですから、一個六、七十銭につきます。戦争でなければ、今頃信州では梨をいやと云ふほど食べられる時期ですね。

あさちやんの仕事はきまりましたか。

いねちやんはもう帰りましたか。

九月廿八日（木）晴。

No.2のお手紙（廿五日）と疎開証明書とを受取りました。浪合ピクニック、ずい分面白かつたやうですね。せいぜいあさちやん達と、いい遠足をして下さい。僕の分も。

こちらも昨日今日は全くいい天気で、僕の部屋はすばらしいくらいです。秋風がさわやかに吹き込み、暖い日ざしが午前中入り込み、窓の外は芝生の向ふに大きな櫛かなんかが茂つてゐて、明るくて。机の上には今日貰つたピーマンの特

に美しいのが二つのつかつてゐます。その前で独立戦争に頭をひねつてゐるのです。

レインを、自分達の多くの小児病、コンプレックスの責任を自分達の生ひ立ち、いはば両親のせいにするやうな口調では絶対に読まないこと。僕はあれを送る時、そのことを考へ、あなたの読み方、或ひは読む時間なり雰囲気なりの選び方が、お母さんの気を悪くさせるやうなものにはせんかと、若干心配する気もあつたのです。必要なことは、早苗ちゃんの育て方に参考になるやうなことを学びとること、自分達の小児病的欠陥の根源を認識し、それがすべて遅れたものであることをはつきり意識して、自分を反省すること、之等です。そして原理的には、子供の創造的欲望を尊重し、それを抑圧したり阻害したりしないこと、子供の創造的欲望を満足させるやうな手段（オモチャのえらび方など）を準備するのをなほざりにしないこと、子供の精神の発展には一定の段階があつて（いはば量と質との関係）、一定の段階には一定の態度を大人がとるべきこと、若し子供に遅れた傾向が見えたら、その原因を考へ、コンプレックスを解きほぐすやうにすべきこと、之等に心理学的に相当オリジナリティに富んだものありと認めます。

今日はまたビーマンを買ひましたが、若しほしければ今度貰つた時にすぐ送りませうか。僕は例によつて雑炊に入れて食べるだけです。雑炊の内容もずい分変化して来たものです。最初はジャガ芋ばかり食べて雑炊ぢやなかつたが、次はキウリとナスびばかりになり、ここしばらくはカボチャが主役です。メリケン粉はもうおしまひになりました。若し送つて頂だけるなら、おついでにお願ひします。

では今夜は之だけ。だんく月が大きくなつて、星が見えにくくなりました。僕の好きなフォマルハウトも光おぼつかなげです。

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年九月二八〜二九日の記）

九月廿八日。

今朝稲ちやんが（八時卅分）発ちました。もつと早いので発つ心算なのに、電車の故障で暫く不通になりおくれたのです。稲ちやんはこちらに裁縫に来た様な形で、浪合行の他は殆んどミシンにかかつてゐて、冬のズボンだの国民服だの作つてゆきました。

私は相変わらず午前中は病院勤務です。始めての盲腸患者は二日目の夜、死亡しました。廿五才の女の人、もの凄く胃下

垂で貧血、營養不良、そこへ盲腸が破れたので膿が骨盤の中にまでたまり、大きなガーゼ八枚ぐつしよりにする位ありました。手術の時だつて、ロクく血も流れぬ位の貧血で、手術の前の診察できいたとき、胃下垂は一年位前から始まつて居た事がわかりました。手術してみたら腹膜をすつかり犯されてゐましたが、普通の健康体なら助かるところを、抵抗力不足のため、灯の消える様に死んでしまひました。今日は脇腹に人工肛門を作る患者と、手の手術の二つがあります。午前中暫くぶりで脊中が痛むので、午後はよさうと思ひます。

昨日、朝ちゃんのために二階の部屋を模様変へしました。私のゐた六丈（五）の方に、十二畳にあつた大きい硝子戸の戸棚を運びこみました。とても狭くなりました。まるで女学校の図書室の感じですよ。結局此の部屋は私一人占領で、十二畳に桃ちゃんと朝ちゃんが使ふ事になりました。

早苗ちゃんには毎日一時間づつ、レコードをきかせる事にしました。昨日はシューベルトの白鳥のうたの中から春のうたを。

ジャンパー、中々お気に召した様子でうれいいます。あの絵は皆でみました。早苗も見えてよろこびました。プランテーションは第一章を終り、第二章の二まで読んでゐます。どうも統計はわかりにくくて困ります。第一章の一是ノオトをとりましたが、二からあとは統計にさへひつかからなければ、楽々とよんでゆけます。第二章第一節、アメリカの農業一、も楽についてゆけます。一通全部よんでから、第二章はどこどころノオトを取るつもりです。

あさちゃんもその中、わからぬかも知れないけれど、よんでほしいと云つてゐます。此の五、六日、稲ちゃんが来てゐたせい、一人ふえたせい、家の中がごたつて落ちつきません。私も妙に疲れて積極性を欠いてゐます。今日の脊中の痛みも疲れのせいかも知れませんが。

九月廿九日

昨日は午後から黒のモンペ作りで、夜八時ころ出来上りましたから、ズボン下と共に送ります。小豆一合位と松茸二本（これはくさるかも知れませんが）、椎茸少々、梨三個入れました。梨は誰にもあげずに召上れ。



肛門周囲炎の子供（三、四才）のおしりを切開で騒ぐので、四人で押へつけてゐたら、プーツとおならをしたと思つたら、忽ち軟膏の様なウンコをコテ／＼、皆手にウンコをつけられました。看護婦さん曰く「秋ごろの患者さんは、一寸した切開でもオナラをしますに。どうでくさい奴を！」とのこと。オイモの盛りですからね。では今日はこれでさようなら。

昨日、原稿つきました。

幸子から謙一あて（一九四四年九月三〇日付け、同日の消印）

九月廿九日正后、廿七日附手紙（ダイヤモンド原稿）落手。夜になつて読みました。二回分しかなかつたので――まだわかりませんが、今までのものとは一寸変つた書き方ですね。甚だ雑ぱくと云ふ感じです。其の代り楽にはよめます。興味本位の続きものを要求されたからでせうね。全部よんでから感想を述べる事にします。

レーンの原稿も今夜すつかり通読、甚だおもしろいものでした。幼時に抑圧された慾望――は、後年に恐ろしい位、後退的に変則に伸びて、害を与へるものなんですね。此の頃、早苗ちゃんのメーメ叔母ちゃんを慕ふこと一方ならず、すつかり信頼されてゐる形なので、あれをよんで、一挙手一投足考へなをして行はねばならぬと思ひました。併し大体に於て、私が早苗ちゃんにとつた方針は抑圧より、他に変るべき興味の対象を与へること、干渉をせぬこと、興味を中断したり叱つたり手つだつたりせぬ事にしてゐましたが、道徳的お説教は度々やつてゐたことでしたので、多に其の点は改め様と思ひます。

八月からこつちの精神的発達は凄い程ですから、尚のこと慎重に、押しつけがましい態度は絶対とらぬ様にしようと思ひます。今後もチヨイ／＼よみ返して、考へ方を新にする必要ありますね。「火に対する……」は、私たちはあまり経験ありませんし、早苗も火に興味を起す様子もありませんが、外国人は特にさうなのかしら。

今日は病院は実にいそがしかつた。五〇人位も患者が来ました。其の中十五、六人まで、化膿の切開です。一番嫌だつたのは手親指の化膿で、つめをはがしてとる手術で、見て居も汗が出る程でありました。開腹手術より、よつ程此の方が時間もかかつたし、される方もする方も見る方も苦痛です。一番痛さうだつたのは足のひざのコツズイ炎の再発で、十五、六才の少年ですが、十二位の時骨随手術をしてゐるので、悪い方の足は発育不全で、き持のわるい程やせし

なび、ひざのかん節は手術の後、長いこと（二年も）ひざの下へ枕を当ててゐたため、ひざが普通とは逆に前に曲つてゐました。こんな風（簡略な図は省略―編者注）。さうして悪い部分は丸太程腫れて、切つたら五合位もの血うみの河でした。それも注射を五、六本もしてマヒさせてあるのですが、それはくの痛がりよう（尤もコラヘシヨウもないのでせう。大体結核性の外科の病気の患者は、どれもこれも痛さにコラヘシヨウがありません。これは長い期間の病気で、身体の抵抗力のないためと、うみもより悪性なのでせうね）で、押へるのに汗をかいてしまふ程です。あまり病院見学の事実を毎日精しく書くと、読む方は気持がわるいでせうから、今後は止めませうか。

朝ちやんの荷物の片附も大体終りました。二階はこれからは陽当りがとても貴重なものとなり、住み心持の良い部屋になりました。私の方はどうも朝一ぱいは陽がささず、うすらさむい位であります。丁度其の時刻は病院勤務で、午後の陽のさす頃から、私も自分の時間がとれます。あなたの云ふとをり、時間と勉強しようと思ふものとのひらきが、あまり大すぎるから、ローザや地代論は一応やめました。

早苗ちやんにポチチエリのヴィナスの誕生を見せたら、「ヴィナスおばちやんぢやない」と云ひます。どうしてときくと、どうしてもと云ひます。病的なところが感じられる（ヴィナスだと承認出来ない）のでせうか。では今日はこれで。

謙一から幸子あて（一九四四年九月二八日〜一〇月一日の記）

九月二十八日（木）晴。

毎日いい天気です。信州は松茸狩りや栗ひろひの季節ですね。篠田さんの所へ栗拾ひに行つてはいかが。僕は此の前から誘はれてゐただけけれど。今農繁期かも知れませぬね。

東京近郊、と云つても経堂附近ですが、まづ陸稲が刈られて、そのあとに小松菜や菜葉類がまかれ、畑でいばつてゐるのはズイ木（マイ）とさと芋の葉です。サツマ薯はこの辺は自家用程度しか作らないさうで、今の畑は一番「つまらない」です。農家ではズイ木をわけてもらふか、菜葉ぐらいいしかなくなりました。毎日ズイ木の雑炊です。

今日、ダイヤモンド日報を送りました。

近頃毎日、朝皆の出で来る前の一時間、夕方コンロの火の起るまでの半時間、ピアノの練習です。ここは雨戸をすつか

りしめて了へば、音は余り外へ出ないし人は居ないしで、僕のやうな氣ドリヤがよたくたと練習するにはもつて来いです。だんく指も動くやうになりさうで、簡単な曲と唄の伴奏ぐらいをいくつか物にしませう。先づ「乙女の祈り」は楽譜なしで弾ける程度になり、今度はシューマンの「トロメライ」にかかつてゐます。シューマンの「流浪の民」の伴奏をどこかで探して来ませう。唄はグリンカの「ひばり」の伴奏を終つて、今やシューベルトの「ぼだい樹」に一生懸命です。

九月二十九日(金)晴。

今日は風呂のある日なので、三ヶ月半ぶりに理髪店へ行きました。六月の半頃、警戒警報が出て地震のあつた日に、青山で刈つて以来の頭です。この辺の床屋は鼎村の床屋よりもつと田舎つぼく、汚く、わびしくて、おまけに不精床のあのじのやうなおやぢさんが、目下二畳敷ぐらいの防空地下室を掘つてゐた最中を呼んで来た所なので、上氣して息使ひもあらく、恐らく手もふるへてゐたかも知れないが、いづれにせよ、そのおやぢさんの汗くさいシャツのほひと、はあくつく息の臭ささとに閉口しながら、髪刈りと後のスソ刷りだけで金六十銭払つて解放されました。顔を刷ると忽ち五割の税がつくから、此の頃は一般に、先づ鬚を家で刷つてから床屋へ行き、それから風呂屋へ行つて頭を洗ふ、と云ふ段取りになつてゐるのです。

あなたの手紙No.3(廿六日夜)を拝受。疎開証明書を受取つたことは前便に書いたでせうね(廿七日付)。手術で大分御活躍ですね。あさちやんの仕事はきまりましたか。

この辺は星がきれいなので、子供の頃からのあこがれの望遠鏡がまた欲しくなりました。この頃精神生活はスランプで、原稿も進まないでゐます。かう云ふ精神的スランプは、ピアノをひいたり星を見たりするのにはいいのかも知れない。あなたの御手紙も間どほになりましたね。それだけ生活が充実しても来たのでせう。

九月三十日(土)曇。

此の間からなくしたと思つてゐた炭の通ひ帳が、ひよつこり洋服ダンスから出て来たので、朗らかにになりました。炭屋が駅の向ふ側で、どこか遠い所にあると云ふので、始終通ひ帳と台帳と異動表とを持ち歩いてゐたのに機会がなく、一週間ばかり前に気がついてみたら、なくなつてゐたのです。てつきりどこかで落したことと思ひ、台帳も何もかも一緒

だから、これはどうなることかと大分弱つてゐたのでした。早速炭屋へ手続きしておきました。今年は石炭やコーライトがあるので、炭は余りさうです。その中どこかで食べ物と交換することを考へてみませう（ガスナシなので年に八俵、今一俵分来てゐるので、あと七俵あります）。

都心へ出て本室へ寄り、昼食は「日光」でたべました。量は割合多いです（二円二十銭）。此の頃はメリケン粉もなくなつて雑炊ばかり、それもズイキと菜葉しかは入らない雑炊ですから、毎日一番つまらない食事が続くので、たまに栄養をとる必要があるのです。

十月一日（日）雨。

廿九日付のNo.4手紙拝受。病院勤務も忙しさうですね。バルザックが医者、弁護士、僧侶と云ふ仕事に特に注目したのは、さすがに卓見なのでせう。それらの職（僧侶は日本では別ですが）は、人間が最も卒直な姿で身をまかせて来るものであり、人間の生活（心理生活及び物質生活）を観察するのに最も好合（つご）のいい職なのでせう。あなたもいろんな患者を通じて、人間の生活、人間の感情、への洞察力をきたへることを心がけるといいと思ひます。部屋のモヨウがへ、一々大変ですね。僕が手伝つてあげられなくて。

「ブランテイション」の中の統計は、気にしなくてよろしい。数字は馴れないと中々ピンと来ないから。だが例へば表9などは重要です。アメリカの国民所得の内訳で、農業所得が一九二九年で全体の八・八％であるのに、金融所得は一〇・八％、云ひかへると利子所得（利子、配当その他）の方が、全人口の五分の二をしめる農民の勤労所得より大きいのです。そのことは一九三二年（恐慌最低年）でもつと著しい。即ちこの年には農業所得は金融所得の半分ぐらいいかなかつた。収入の統計が多いが、之は日本人の収入と比較すると面白いでせう。弗と円とを等置（お）して大体生活水準が出ます。

だが第二章の第一、第二節はまだ本論ではないから、通読しておけばいいでせう。本論は第二章第三節、特に第四節以下です。そこへ早く行くといいでせう。

ダイヤモンド日報の（5）を同封します。

小包御送り下さつたさうで有難う。黒モンペなら、早川君とこへ行く時でもはいて行けるでせう。松茸よりオサツが二、三本は入れればよかつたのに。だが慾を出すのはよませせう。御親切を感謝します。では又。

（謙）

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月三日の記、四日の消印）※

一日の夜はすばらしいお月夜

たつぷりした水の様にあふれ流れ、万物を浸す月光。ドイツローマン派の月光病とかも、すこしはわかる様な気がする。大宮島もテニヤンも、床屋のお婆アさんの熱誠こめた祈願の甲斐もなく、宙に迷った若い人々の魂が、此の美しい月光の中を生れた町や村へ矢の様な早さで飛んで来るでせう。何かの小説に出て来たマルセルと云ふフランスの絵描さんが、大戦から帰つてこの方書いたと云ふ戦争の絵の事を思ひ浮べ、私も今夜の気持を線に表現したいと思ひました。但し、私の場合はローランサンよりまだ甘い絵になるでせう。

月光に浸された丘陵を眺めてゐると、何か胸迫るものがあり、原語で知つてゐたならば、高潮した感情でホキットマンの詩を（ゆりやまぬゆりかごの）暗誦したい思ひがします。こんな気持が続けばよいと思つたのに、忽ち線香花火の如く消えてしまひました。どうも関西旅行この方、気持はスランプ状態に落ちいつてゐます。久々の旅行や、めずらしく立てこんで人の来た事、病院勤務などで動揺したのでせうか。オブローモフ主義の毎日で、殆んど積極性がありません。十月二日夜、ダイヤモンド日報及2の手紙落手。

三浦さん、何とお気の毒な方でせう。何とはかない生涯だつたでせう。でも、あの方が若干の友達に与へた印象は深いものでせうね。あんなに謙そんな魂も、現在の世の中にあつたのですね。種々不足に思ふ心はずかしい次第です。

お手紙中にあるがんばり粉とやらは、一体何が主体ですか。メリケン粉はせいぜい補給つける様に致しますから、あまり妙なものを食べぬ様にして下さい。このごろ得体の知れぬ病氣（？）、生理的原象多く、医者にもわからないのが多く、原因は定期的な栄養補給の欠けたためや、あいまいな食物のためらしいです。それは除々に、なしくずしに健康をむしばんでゆく様です。昨日、メリケン粉、とりあへず200G送りました。一諸に白米三合程とスカートポテトを入れましたが、重さから一目で怪しまれるので、又とり出しました。どうも輸送が不合理で残念。

紙芝居を又買つておいて下さった由、あれは大さうよろこばれますが、高いものですから、度々下さつては恐縮だと云つてゐます。

日本橋へ出る次手があつたら、「ひき茶」を一つつみ買つて下さい。外には何も必要ありません。むろんネックレス

など。小包みの紙がたまつてゐたら、使へ相なのをすこし一諸によこして下さい。再使用出来相なのがなければかまひません。又二、三日、手紙を書きませんで、心配(?)なすつたでせうが、どうもあまり明朗でないので、ろくな手紙も書け相もなく、やめたのです。

経堂の此の頃の朝夕はすばらしく楽しさうですね。家が相当広くて、脊の高い樹のあるのは、実にいいものです。広い丈夫相な書齋と、心落ちつき相な寝室と、狭くて合理的な台所のある家で、くぬぎとかけやき、マルメロの木のある自分の家があつたら理想的です。そんな家で落葉の音のする様な秋の日を楽しみたいです。

うす田嬢から梨を貰つたとか、お気の毒ね、何もあの方にあげるものがないでせう。梨も林ごもチョコク〜はいるけれど、送れないし、松茸も時々貰ふけれど、小包みは四、五日かかるからわるくなつてしまふ。肉屋からすこし大量に肉が買へる時、牛肉の佃煮を作りますから、そんな時わけてあげて下さればいいでせう。なる丈、女の子からは物を貰はない方がいいでせう。相手が女の人だと、何かとうるさい事の原因になりますからね。あげるのはかまはないけれど、貰ふのはうるさいのです。これは私の会社生活の経験です。

今日は20年位前からの気の変な村上半ザエモンと云ふ患者が来しました。尤も今は患者ではありません。大親分でアル中で脳の神経中枢が変で、一時々、一年に一度位、お父さんを訪ねて来ます。今日は殺したての山羊の Meat を持つて来てくれました。何となく気の毒みたいな、おかしい様な、きみのわるい人ですが、名前は下伊那一円にうれてゐる相です。

此の頃はヤケにうみのたまつた患者が多く、切つたり、まき換の度にムン〜にほつてかなひません。朝の中のカリエスの三人は、三人ともノウボン一杯程も出るので、未だにほひが残つてゐます。一人のロク骨カリエスの女の人は(世五才)、病気のため離遠され、着のみ着のまゝ実家に帰つてゐる人で、家は兄の代で気兼ねし乍ら、此の四月から通つてゐます。又々ノウが出るので、今日ゾンデ(さぐり)をいれましたら、第二骨がくさり初めて居るので、二、三日中に又手術をする事になりました。気の弱い人で、みるも気の毒です。あと二人は少年です。一人は此の前書いたひぎの逆になつた子、一人はもう十年もひぎのカリエス(骨随炎)です。カリエスにはなりたくないものです。たいていは十年も廿年もかかり、半分は体力消耗で死にますから。痛くて、くさくて、不自由で、年中熱つばいのです。世五才の女の人は亭主が酔つてつけたのが原因だ相です。そんな亭主は刑務所へいれ〜ばよいと思ふわ。

十月十五、六日の定休日には大鹿方面か遠山かにゆきます。栗が一杯ある相ですから。両方とも一晚泊り位になるでせ

う。今年こそ信州の秋をたつぶり味ひませう。

尼崎のあき子さんから手紙が来ました。大島さんは出発した相で、九月十日ころ、又豊橋に来たとのことでした。わびしく、手紙をまち乍ら、子供とすごしてゐるとのこと、一お気の毒です。兄さんは勝手に使つてよこさずゐて、勝手のよい時利用する丈だと、すこし怒つてゐる様です。さう云はれるのも当然です。

和歌山のお父さんはロクカン神経痛で、見ちがへる程やせたとのことですから、あなたも手紙を出して下さい。私はお父さんから養生法を精しくきいて手紙を出しますから。尼ヶ崎の病院はまだあのまゝの様です。子供の食べ物がなくつて困ると云つてゐました。粉とか白米とか少々送らうと思ひます。

プランテーションは目下第二節の終りごろです。どうも統計をみるのが六^{ママ}かしくて困ります。大体数字に不得手の私ですから、あまりズラリとならんでゐると悲鳴をあげます。見ても見ないと同然で、理解のたすけになりません。どう云ふ風に見るのかさへわかりません。数字があると、よむのも嫌になります。遂^{ママ}憶^{ママ}くうになつて、あとでくくと云ふ事になります。し方なく、お義理にみては間間の本文の活字へはいつて、オアシスをみつけた如くホツとしてゐます。

此のごろのあなたの手紙、どうもおざなり式で、よんでもよんだと云ふ満足感がしません。従つて、まつ楽しみも裏切られてしまひます。尤も私だつて、いい手紙を必ずしも書いてゐるものではありませんが。

二日夜は八時から関口さん訪問の帰途、別府、南ノ条方面へ、月光の中を一時間散歩しました。うれた稲のほひや月の光、静まつた山々の中を歩き、ジャン・クリストフを思ひ浮べました。そしてアンネットは—アンネットへはすこしづつ反感^{ママ}みたいなのが湧いて来ました。不思議^{ママ}です。

三日午後

ではさようなら。

近所から応召した人(廿二、三才)は昔、結核性腹まく炎をやつたので、一週間目に帰されました。

※一〇月三日付け(四日消印)の封筒には中身がなく、後掲の一〇月四日記の手紙文が入った封筒中に、あわせて三日記の手紙文も挿入されていた。本来は三日付け封筒の中にあつた三日記の手紙文が、なんらかの事情により、四日記の手紙の封筒の中に紛れ込んだものと考えられるので、ここでは元に戻した形で掲載した。

謙一から幸子あて（一九四四年一〇月二〜三日の記）

十月二日（月）雨、曇。

寒いくらい涼しい、この二、三日の天気です。

今日はモンペとナシやまつだけ、その他を拝受。いつも乍ら御親切をしく感謝します。モンペ早速はいてみましたが、中々よろしい。大分タツプリしてゐるので、之なら下へいろくはけるし、あたたかいでせう。昨夜、早川君とこへ行つた電車の中では、ジャンパーとシャツだけでは首すじがさむい程、めつきり秋になりました。松茸は幸ひ腐らずについたので、早速今夕、ごはんへ煮込んで秋の味をあげはひました。ナシは夜、食後にたべました。

今日は電話やら訪問客やらで忙しい日でした。と云ふのは明日、戦争史の集りがあるからです。まるで僕は債鬼の如くあらはれてゐるのです。僕自身、実は自分の原稿も完成してゐないので、別段強いことは云はないのですが。その代り明日は、皆の分の弁解を一人で引受けて、大分奮斗せねばならぬでせう。

今日から二階へ、もう一人新しい女の子が来ました。五尺四寸以上ある背丈の高い子でヒヨロ長さんです。この分室では恐らく僕の次ぐらいでせう。聖学院を去年出て、「友の会」の学校（元の自由学園にあるもの）を今年出たのださうで、彼女の聖学院時代の歴史の満田君と云ふのは、僕と同期でコチくのクリスチャンだったが、きいてみると、彼女（ミス古田）達とケンカして、結局生徒に追ひ出された形で、どこかへかはつたとのことでした。古田君は滝野川の中里町に元居たのださうで、田端荘は知つてるさうです。すぐそばだと云つてゐます。之で二階も満員です。

十月三日（火）晴。

昨夜からドン／＼と何か大砲でもうつやうな、ガラス戸にズシンとひびく音が聞こえ始め、夜中鳴つてゐたのですが、今朝になつて、お祭の太鼓だったことがわかりました。この辺は九月下旬から順ぐりに秋祭で、昨夜サツマあげ二個の配給があつたのは、実はお祭の景品だったのださうです。祭の太鼓さへすなほには聴けない時局です。

今朝は大分ごちさうがありました。雑炊はズイキの外に豆、シヒタケ、ジャガが入り、久しぶりにみそを入れ、おかずは柿の皮の煮汁と醤油とで、サツマあげ、マツダケ、ピーマンの煮物をつくり、小松菜のおひたし（ソースで食べる）、

之だけです。おかずを別に作ったのは全く久しぶりの感じですが。柿の皮の煮汁はすっかり味をしました。柿は庭の小さい柿ですが甘いのです。僕と小使さんと女豪傑の足立嬢とが専らとつて食べます。僕のとつた分は半分は臼田嬢に食べさせます。結局早く出て来る女の子が、泊りこみの僕と同様役得に食べるわけです。

最近有楽町の駅で、誰かから駅長室へ寄附された柿の枝を、挿花のかはりに改札の所かどこかへ飾つた所が、子供がほしがつてお母さんにせびつたり、大の男連も食べたがつたりの悲喜劇があつて、新聞に「あれはやめて下さい」と云ふ女性の投書がのりました。

此の頃の東京人の配給食糧は千三百カロリーで、「絶対安静に必要な」量なんださうです。その話が出て皆大笑ひしたので、僕は「笑つちや絶対安静ならんよ」と云つて制したら、松村君と云ふのが早速ノートへ書き込みました。この人は僕の話を目記へよく書きつけてゐるんださうです。小説家志望なんださうだが、僕の駄弁には相当材料があるのださうで、大分前からやつてゐたのだと云ふことです。さうきけば僕もうかつにしゃべれないので、弱り始めました。

今日は本室の会議へ出るために九時半に経堂を出ました。お手紙No.5(30日)は道で読みました。手術のことはどんどん書いて下さい。あなたの生活に興味のあることは遠慮なく書いて下さい。僕はあなたの生活を貪慾に読みとり、また僕の生活をうんと読みとつてほしいのですから。

僕は今「脳の話」(平沢興)を読んでゐます。早川君の所でみつめて借りて来たのです。之はパウロフを読む準備です。パウロフは人間の認識機能、その発生と発展を知るためにどうしても必要であり、従つて僕の歴史学に必要なのです。

レインの心理学やケラーの類人猿等も、それと聯関して必要です。早川君の所で勉強してゐる数学も、間もなく再びはじめようとしてゐる天文学も、凡て僕の歴史学に必要なのです。太陽系の発生、有機物の発生、生命の発生、動物の進化、人間の発祥、人間の認識の発生、かくして歴史学になるのです。あなたが手術に常に参加するなら、生理学の本を読むといいと思ひます。生活と結びついた読書、之が読書の原則です。

あなたに僕の「ブランティション」を読んで貰ひたかつたのは、それが僕の著述であり、従つて二人の生活の生産物であつたからです。あなたのそばにゐる、あなたに最も近い人間が、あなたのそばで苦しみ乍ら書いたもの、これはあなたにとつても、いはば自分の生活を読むことだと云へるでせう。「ブランティション」の広告が読書新聞に出たので、著作届けを調査会へ出しました。すでに先月半頃にもどこかに出たらしく、ぼつ／＼問合せせやお祝ひの言葉も来始めてゐた所です。

お午（マ）からの会議には、今井先生以下十人が出ました。原稿は半分集つたわけで、之から人の原稿を審査するので忙しくなるでせう。会議は三時前に終つたけれど、帰りに洗濯屋でワイシャツを受取り、斎藤さんでカンヅメを受取り、沢田君の元の家へ寄つたら、彼のお母さんがゐて、彼は朝日新聞に入社したばかりで帰りが夜になると云ふので、玄関の立話だけで、林檎をポケットにねぢこまれて、五時半頃帰りました。沢田君から、夜、電話がかかつて、富山から長い手紙を原宿へ、この六月に出したけれど、返事がなかつたので、応召かしらと思つてゐたのだとききました。日曜頃遊びに来るでせう。

ダイヤモンド日報のNo. 7を送ります。No. 6は送つたでせうね。何だか送つたつもりだが、一部多いので一緒に同封ませう。之はたしかに雑パクで、出来は甚だ悪い。だが、今度の本の内容を通俗的に大体説明してゐるものと思つて読んで下さい。之は不出来だから五部しか貰つてゐなく、一部はあなた、一部は早川君、一部は森井さん、一部は竹中君、そして一部はここに、とこんな風にしかわけません。

読書新聞の僕の本の広告は、「農業欄」のトップに出ました。「経済」かと思つてゐたのですが、農業問題として扱はれる方が、検閲などにはいいかも知れません。所が偶然、僕の本の次に、横山敏男君の「満洲水稻耕作」か何かの、之こそ専門（専門）の農業書の広告が出てゐるので、妙な気がしました。本の大きさは僕のが四七〇頁、彼のが四五〇頁、値段は僕のが税なしで六円、彼のが四円五十銭。出版社は彼のは河出書店です。

十月三日夜

謙一

謙一から幸子あて（一九四四年一〇月四〜五日の記）

十月四日（水）雨。

霖雨が続いて、しめつぽくいやな毎日です。雨のおかげで今日は馴染の農家二軒ともことわられ、てぶらで帰つて来ました。

午後は原宿の八百屋（内藤）さんへ、疎開荷物の最後の分（七月末、経堂へ引き上げる時頼んだもの）のお金を払つて来ました。之は証明書がないと中々出してもらへず、町会ではヒロチャンが下宿を引き上げるのにも証明書を出しし

つたくらいで、その後あなたから疎開証明書を送り返してもらつて持つて行つたが、之もいけない（此の頃は一部疎開は荷物二十個以内）。一ヶ月もぐずぐずしてゐる中に内藤さんに徴用が来て、五日に芝浦の工場へは入ることになつたので、そのことを理由に、闇値でやつと新宿の運送部で引き受けさせたのです。結局六個で五十五円也かかりました。内藤さんもそのおかみさんも、行く度に「奥さんいかがですか」と云つてくれます。

帰りに小田急の駅の白木屋で、「沖うど」と称する、コンニャクのやうな、ウイロウのやうな、ゼリーのやうな食べ物一個四〇錢也で経木に包んで売つてゐたので、買つて帰りました。味の無いものだが、ソースで食べると若干うまい感じのする瞬間もあつた。

「脳の話」は実に面白い。大脳皮質（思考中枢その他のある所）の作用が、間脳の所謂生命神経系の中核に対して働き、精神作用が肉体の生理的条件に実に大きい関係をもつてゐると云ふことの科学的説明を得ましたが、精神的に豊富な偉大な人間が、その表情なり顔貌なりの一種の美しさをもつこと、とりこし苦勞や愚痴や神経質が、いかに生理的諸機能を弱らせ阻害するかと云ふこと、大脳皮質の働きを間脳中枢の働きへ余り密接にならせることは、人間を卑少（下）にし生命の浪費になり早死にさせると云ふこと、従つて修養によつて小事に神経的に拘泥せず、一つ一つの現実を現実として科学的に受け入れ判断し、不要な停滞や迷ひを去ることの必要さ、之等が大脳生理学から結論出来ます。聖人が、今から考へて全く不十分な栄養しかとらずに、普通人より長命したことの理由は、一つには「悟り」によつて末梢的現実へ神経をつかはなかつたこと、即ち大脳皮質の機能をして間脳中枢の機能の自然的作用を阻害させなかつたこと、之にあると云ふのです。

十月五日（木）雨。

今日は貴重な「薬品」を受取りました。どうも有難うございます。丁度今、サトウ、ミソ、その他粉類（ガンバリ粉とか、ココアとか）があるので、おいしいむしパンが出来るでせう。数日ぶりです。

ダイヤモンド日報8、9号を送ります。あと二号でおしまひ。

今日は午後本室へ血液型検査に出かけます。あとは帰つてから書きませう。

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月四日の消印）

「南部問題解剖」5までよみました。

前の手紙で粗雑だとわる口を云ひましたが、あれはこちらの読み方の粗雑と変更致します。今日までのところ大づかみ乍ら中々面白い問題で、急所を衝いてゐると思ひました。大本営発表も抽象的に鬼畜米英などから文句云つたり、妙なまん面を描くよりは、①をそのまゝ借用した方が有巧うづかです。但し、さうすると「米英」に対する全国民をひつくるめでのにくしみは、米英のある者へのにくしみに代るかも知れない。

戦争この方、外電のランに黒人と軍隊の市街戦、暴動の記事をチョイ／＼見ましたが、それがアメリカの癩のあらはれだとは思ひませんでした。ましてや、それが（人種問題）戦争のひき起した経済的な国内矛盾、労働問題と密接な聯ケイあるもの、とまで考へた事はありません。

軍人投標（標）権、人頭税など、皆初耳（？初目）です。あなたのアメリカ史を読んでゐた時も、人頭税なる言葉にぶつかつて、人夫頭の税金の事かな位に思つたものでした。「軍人投標権」のこと、一すると今まで兵士を構成する人々（多分農民、労働者）は選挙権はなかつたのか、なかつたとすると軍が戦争をチャンスに軍の力を政治的に發揮しようとしてゐるのか、それとも戦つた兵自身の内部からの要求なのですか。いまでもアメリカの兵制は志願兵なのですか。すると軍人の給料は職工や農夫よりもよいのか。

「人種問題と労働争議」の件でも、どんな風につて来るのか、一から十まで私は知りませんので、わからない事だらけです。アメリカ人労働者の中でも、人種の偏見に左右されてゐる者の方が庄（と）とう的でせう。で、軍需工場に戦争を原因として移動して行つた黒人側から、平等、公平の待遇の要求が出てゆくのが当然でせうが、労働組合内の労働者たちは、それに対しどんな態度であつたのか。アメリカ人労働者が黒人の不平をチャンスに、自分たちの要求を台流させて、黒人をストライキに利用したのか。

③「食糧助成金政策」も具体的内容を知らず、けれども農業資本家やプランターたちが反対してゐると云ふからは、多少わかる様にも思ひます。軍人投標権もニューデイルも食糧助成政策などの失敗も、大づかみに云へば、フィレンツェの昔からの富めるクラスと貧しきクラスとの争ひで、政権に係ある富めるクラスの常（と）とう手段にまかされたのです

ね。

「軍人投標権」では、長期議会の時の軍人委員会の事を想起しました。クロムウエルや其の他の將軍連の兵士に対して行つた行動や、下から盛り上りばく発する兵士の力、武器を持つ団体の力、そして上層部の將軍たちがタウンの有力者とひそかに結んで兵士を裏切つた事などを。

ニューデイルや助成金問題では、オランダを思ひました。ルーズベルトの出身党の分裂も、さもあるべき過程、歴史的必ゼンだと思はれます。

4.と5.をよむ時は、又しても長期議会の長老派と独立派の分裂や、自分たちのかかげたモットーを政権を握つたあかつきに、くもなく投げすてた長老派（国民全体の利益を自分たちの利益にすりかへた）を想ひ浮べました。人間は何時もくく同じ様な事をくり返してゐるんですね。アメリカの場合もつとく社会的に復雑で、歴史的段階も進んではゐるが、個人の利益ばかりを守るためには何物をも恥じぬ点だの、政権を握る人々が何時も人間らしい人間の行動に脊をむける事は同様です。

知らない事ばかり乍ら（きつと他の一般の人も、こんな問題は知つてゐないでせう）、恐ろしく興味をゆり動かされま

す。ていねいに読んだ人は、きつとアメリカの社会政策や南部の問題、ニグロの問題に興味を持つて来るでせう。

独逸語の自習書はそちらだつたかしら。アーヴェーツエーのよみ方位のかんたんなパンフレット式の本があつたら探して下さい。看護婦さん用に使ひますから、葉の名前や器械の名前がよめたり、病氣や脈などの医用の術語を理解するに足る程度、一名詞がよめる程度のものでよいのです。

五、午後

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月四日の記）※

十月一日附No.3手紙落手。ダイヤモンド日報も。

日報の原稿はまだつづきますか。切つて紙にはつて表紙をつけてとちておきます。プランテーションの初稿もマロンのリボンで一章づつ結んで（二枚に折つて）とちてありますので、ね床で楽に読めます。今日の手紙であまり数字を気にしなくとも良いとのことですから、安心して次へ進みませう。南部問題解部は午後に通読して感想を述べませう。

ピアノの練習をしてゐる相で中々いいですこと。うまくなつたら女の人たちに合唱して貰つて伴奏をつとめてごらん下さい。きつと皆歌をうたひたがつてゐるにちがひないから、よろこばれるでせう。事務所であつた女学校を出た人たちは、卒業してからはな歌は歌つても、ちゃんとして歌へないのが詰らない、と始終誰も彼も云つてゐました。おひる休みなんかやつたら、午後の仕事の能率が上るでせう。

あなたもスランプの由、どうりで此の頃の手紙は何処へ行つたとか、どうしたとかの事は書いてあつても、心情生活はヘンリンも出てゐないなと思つてゐました。無理にお書き下さらなくても結構です。スランプの原因はわかつてゐるんでせうね。

松茸よりおさつがよいとか、今度はさうしませう。

病院の仕事はたいした事はありません。血とうみとよごれたガーゼとメスの音丈です。苦痛に対する人々の各々の態度は千態万化で、その人の人生に対する精神の態度をある程度表現するものです。精神のイージイゴイングな生活をしてゐる様な人は、たいていみつともない程苦痛に恐怖を持つ。積極的な人や、ある信念をいく分でも持つてゐる人は、その程度に立派です。老若幼少男女をみましたが、一番恐れず即座に手術を諾ふ人は、若い働いてゐる女です。中年の女の人と男は一番ビクビクしてゐる様で、苦痛に大げさな反応を示します。

今までみたく一諸のところに来て同程度の指の化膿の患者の二人のうち、来た日につめをはがして切開する事を承諾して、ノボカインの注射もぢつとしてゐて、自分の親指のつめをこんな形のもの（手術用具のごく簡単な図があるが省略―編者注）で起して、はさみで肉とつめの間を切りとるのを、ぢつとみてゐた娘は二十才の天竜社の女工さんでした。彼女の傷は五日目の今日なをりました。一言も痛いと云ひませんでした。幾分顔が蒼ざめた位です。もう一人は四十五、六才の店の主人、これは切らずにやつてくれやつてくれと云ふので、其の様にしてゐましたら、今日はコールド・クリイムの瓶程も指が太く化膿し切つて、発熱³⁹にもなり、とうとう切りました。娘さんの方は腰か



けたまゝ、こんな格好で手術しましたが、男の人はね台に横になり、おかみさんに片一方の手を力一杯にぎつて貰ひ、注射からして大ききわぎでうなり叫ぶ、で私たち見習ひ一回で足や腰まで押へると云ふシユウ体でありました。

もう一人の女学生（さつききいたら、女学生でなくて、対童社と云ふ工場の女工でした）も中指のつめの切開、これは注射の針がつきささらず二本も折れる程で、従つて三本目は相



当深くぐざりとささつたにもかゝらず、一言も云ひませんでした。終るまでちつとみつめて
ゐました。

若い男で、馬にけられた百姓は、鼻も口も歯もふきとんで、来た時は二目に見られぬ様子で
したが、この人もきつくてウンとも云ひませんでした。もうすつかりなをつて、鼻の形もあたり
前位、さけた口びるも目立ちません。馬と云へば十才位の子供の、馬にふまれて足の甲のつぶ
れた子、牛にふまれて指のつぶれた子が来てゐます。

地方病の様なので多いのは(一年に百二十人位)、ホーヂョーキンとか云ふ、雑草に着いてゐるキンのはいつた人が、
方々に妙な肉腫が出来る患者です。道ばたの草の葉をなめたり、くきで歯をほじるくせのある人に多いのです。今来て
ゐるのは四十台の百姓のおかみさんで、首に出来て、首はこんな風に腫れて、ゾンデをいれると二寸もはいりこみます。
切開した口を指で両方から押すと、赤く色をつけたリンゴヂヤムの如きものが何杯もくも出て来て、中々なをりませ
ん。私もちよいく路の草の細いくきで歯をほちつたり、かんだりする癖があるので恐くなりました。下伊那に多いの
ですつて。

朝ちゃんの就職はまだ決定しません。履歴をみて「得難き人」とのことで、履歴書は県庁まで行つてしまつたのです。
県の属になるのかも知れません。なる丈いろんな点でユーリな方へまはすとかでおくれてゐるのです。

森男は陸軍病院に入院してゐます。痔の手術らしい。

では今日はこれでさようなら。

十月五日

謙一様

幸子

※この手紙の文末には「十月五日」と明記されており、封筒の裏面にも一〇月五日付けとある。しかし次の幸子発七日消印の封筒中の手紙
(四日夜の記)には、「今日はこれで三通目」と記されており、同封の六日記の手紙では、「日附を一日まちがつて、四日の日を五日だと」誤
記した旨ことわっている。以上から、この手紙と前回四日消印の手紙、および次の四日夜記の手紙の三通を、一〇月四日に認めたものと推
測できるであろう。一〇月五日付けの手紙に、あえて「一〇月四日の記」と題したゆえんである。

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月四、六日の記、七日の消印）

十月四（五に×を付し、その脇に四と記入―編者注）日夜。

午後、嬰兒兎唇手術がありました。生後十二日目、赤ン坊はますいをかけると死ぬので注射も何もなし。泣いてかわい相です。お父さんは二分位もないはなの下のみぞを切ったり縫ったりで大汗、開腹手術より骨を折ります。赤チャンが泣く毎に「ああ、失敬、失敬、ちよいいとです。ちよいいとです」と断りますからおかしい。ガーゼをあててこんな風（簡易な図は省略―編者注）にばんそう膏をはります。その時ひきつれる方の鼻孔には、少さいつま楊子型にガーゼを丸めてはさみます。何故かと思つたら、鼻の孔の格好がわるくなるからなんだ相です。

先日浪合に行つた時の死んで捨てられた赤ン坊の件、今日西沢婦人科医が兎唇の赤チャンについて来ましましたのできゝましました。20才になる娘で、9ヶ月目に浪合に名古屋から帰つて来たさうで、それまで工場につとめてゐた相で、家でも知らなかつたらしく、夜中に産気づいたので、家からこつそり抜け出して山の畑の中でお産をして、一たん畑の中に埋めたものゝ、発見を恐れて河へ投じたとのこと。其の朝普通通り、出征兵士を送りに行つてゐた相です。

犯人は浪合にゐる狂人の女だらうと警防団でとり押へて、一日、うつたりなぐつたりして、白状させ様としたがらちあかず、身体を調べたら出産した様子もないので、別に探す事になつて、私たちの帰る前日にその娘がつかまつて、手数をかけたとして散々なぐられて、そうして西沢さんが産科の医者だから、身体を調べにいつてゐたんだ相です。其の後の話は看護婦さんからきくと、十八年の刑で、姉の出産の手伝ひに行つた折、義兄がむりに子供を作る様な事をしたのだ相です。で、義兄はすぐ出征したので、相談相手もなく姉にも云へずで、苦しんだのでせう。それにしてもそんな事情の女の人が、一十八年の刑なんて長すぎる。お父さんも二、三年位でよいぢやないかと云つてゐます。お母さんなど其の話を聞くと顔色を変へて、其の義兄こそ刑務所へやるべきだと大フンガイです。

彼女は出産までもどんなに苦しんだでせう。まして産気づいてからの恐怖、考へただけで気の毒で、かわい相で涙がこぼれます。さうして其の後も何事もないふりをしなくてはならないから、健康体の如く行動したのでせう。どんなに悲しく恐ろしくあつた事でせう。そんな身体をうつたりなぐつたりされては、刑を云ひ渡されて独房にゐて、精神的にも両方で死んでしまふのではないかしら。彼女の罰はそれまでの苦しみでつぐなはれてゐます。又、其の姉の心情もきの

毒な事です。出征してゐる義兄とかは、知つたら、どうしてその悪をつぐなふかしら。さうして社会は彼には制哉（禁）を加へないのかしら。

今日はこれで三通目だから、これでおしまひ。

十月六日。

日附を一日まちがつて、四日の日を五日だと思ひ、順ぐりに一日づつちがつてゐました。今日は朝から淋しい雨と野分の吹きすさみ、目の中が風が滲みこむと痛い様な感じがします。庭のコスモスも咲き残つたカンナも風に揺れ、いろんな落葉が硝子に舞ひ当りカタコトと音を立て、ピユーツと声を立てて風が吹きこんで来ます。

朝の掃除のあと、病院が始まるまで、アパシヨナタをききました。こんな日は実にレコオドにふさはしい。

午前中は何時も通り。午後から盲腸炎と、前便の首の腫物の切開の二ツ。盲腸は廿五才の既婚夫人、つきそひは若い夫。虫様突起が探し出せず、十五分もお腹の中を探ぐりまはりました。後で看護婦さんに随分長く探したのねと云つたら、長い時はこちらの先生は二時間位も探す事があり、三十分から一時間はざらだ相です。他の先生方は十五分以上探す様な事はない。それ以上かかり相だと、一たん止めて縫合して、又痛くなつた時に改めて切開する。だから手術と云つても患部をとり去らぬ手術もあつて、二度目の切開をせぬ中に破れて、腹膜炎を起して死ぬ事もチヨイ／＼ある。二時間も先生が探す時は、私たちも汗びつしよりになるが、先生は全身汗みづくになる。だから下伊那の看護婦会の人たちは、盲腸の時は石井先生にやつてもらふと皆云つて居ります、と云ひました。＼それにこちらの先生は切つて見て、腸の色がまつくろに変つてゐてくさい様な時、私たちが見てももう駄目だと思ふときも、全部わるいところは切つて、きれいなところをぬひ合はせ、カンフルもリンゲルも全部うつ。他所の先生なら、今の様な注射薬やガーゼや、いろいろの材料払いての時は、あんな事は絶対しない。だから患者の家の人々は、そんなにまでしておくれんでもいいと云つたり、これ程までにして戴いて駄目ならあきらめられます、と云ひますに。＼と話してくれました。手術の場合は医者（医）の個性は出るものですね。

又、アシスタントも多（多）いに個性を出します。見習は私とふうちゃん（子）と、新しい大倉嬢の三人です。古い二人は『手を洗ひ』本当の助手をつとめます。で、あとの新米三人の手術の時の動きで、勝気やまけん気や、出しやばりや、スタンドプレイ的モーションをやる人や、実にさまざま。私は此の中のどれにはいると思つて？

実是不思議(義)な事に、どれにも属しませんの。案外平凡にちつとみてゐる方です。さうして皆のし残した事や、機械の後片附(タテ)が主です。自分でも驚きました。尤もそれもけんそんならよりも、動くのがめんどう(タメ)と云ふ事も多いに關係します。今夜は常会があつて、お母さんが出席して来ました。何だか貯金やらいろんなものを書き出すらしいんですが、お父さんもお母さんもふーちやんも、そろつて頭をひねくつてゐるのに、何がどれでいくらなのか、一寸もわからぬらしいのであきました。貯金などにエンのない親子が、めずらしく必勝貯金だとか愛国貯金とか、貯金帳が出来たのであはてゐる光景で、さうでもないかうでもない(タメ)と云つて、結局一字も書きこめないんです。お父さんはしまひには「こんないろいろな作るがんイカンのだ」と怒り出す始末。おかしくなりました。

「プランテーション問題」いよく第四節、クロッパー制プランテーション農業へはいりました。

(一)「南北戦争によつて黒人奴隸制プランテーションは一応なくなつた筈であるにかかはらず、一九一〇のセンサスが、未だに昔のプランテーション中心地帯に、一寸形を変へた丈で、尚プランテーションの残つてゐる事を証明してゐる」。これ丈の説明では一寸わからない。どうしてセンサスがプランテーションの存続を証明してゐると云へるのか、よくわからない。

経営の零細化と縮少(タメ)プランテーションの存続と云ふ風にみるのでせうか。これも又、後でわかるのでせうね。

(二)一の疑問氷解いたしました。

精しく書かうと思つて七時から座りましたが、下痢で、今まで四回席を立ち、流石にフラ〜になりました。

今日は一まづ止めて、明日かきます。

十月六日夜

謙一から幸子あて（一九四四年一〇月五〜九日の記）

十月五日（木）雨。

午後、雨の中を本室へ血液型検査に出かけました。

誰は何型だらう、誰は何型にちがひないとか、まるで血液型がその人間の性格の決定的要因であるかのやうに予想や当てごつこをして、僕については、所謂知識労働に普通の型だと云はれるA型乃至AB型の予想が一般的でしたが、思ひが

けずO型でした。O型と云ふと実行型で軍人などに多く、単純豪放云々の性格が多いのださうですね。道理で机の前で読んだり書いたり、物事を論理的に処理することなどが苦手すぎると思つてゐた。本田さん（彼自身はA型）は却つてはめてくれました。「成程君はO型だらうな、O型と云ふと所謂胆汁質に相当するんだらう、判断が早くて忠が強靱な型だよ。」「だけど僕は可成り優柔不断で、実行型と正反対だと思つてるんだがな。」「いや実行型だよ、君は。さうだらう。今さうでないやうに見えるのは時勢のせいだね。それに実行と云ふのは、精神的実践も含まれるんだ。……」所が僕自身で思ひあたることは、いろんなことがやりつばなしで、小さい心づかひが出来ないこと、思ひやがないとあなたからしよつちゆう云はれること、精緻なところがまるでなく気まぐれなこと等々、悪いことばかりです。それにしても外の人は大ていA型やAB型なので、僕のO型は他の人々にも若干意外だったにちがひないが、結局「やはりさう云へば菊池さんはO型だな」と云ふ所に落ちつきました。

「雨、やまるどころか夕方から却つてひどくなり、地下鉄も帝都、小田急ともに混雑するし水つばいし、憂鬱なことでした。殊に経堂の駅から家までの道は、輔装（補助）はしてゐるとはいへ、田舎らしくあちこちに水たまりがあつて、幾度もその中へふみ込まねばならず、足はぐしよ〜になりました。帰つてコンロの火を起すのにまた大いに苦労するし、雨は全くいやになります。

その代りピアノを叩くには、雨の方が気が向きます。どう云ふ関係かしらないが。ここでは女の子達、歌が好きらしいが、白田嬢は胸が悪くて唄へないし、古田嬢も声が悪いと称して、楽譜はしきりに見るし歌のためにドイツ語を勉強したいなど云つてゐるくせに、ちつとも唄はない、併し唄はよく知つてゐるやうです。足立嬢は時々「乙女の祈り」を弾いてくれと云ふので弾いてやるが、本人は一向うたはない。もう一人の全くおとなしい坂巻嬢と云ふのは、いつも一番早く（八時少しすぎ）来るので、大てい僕の練習中やつてくるわけだが、楽譜を見るくらいで一向顕著な反応はない。男共に全然反応なし。かくしてピアノは専ら人の出て来ない時間、または帰つたあとの時間の、僕一人の楽しみにすぎない。いつかはあなたにきかせるつもりで、せいぜい練習しておきませう。

十月六日（金）雨。

今日もびしょ〜と雨脚弱らず、下の部屋は暗いし寒いしで、おひるには殆ど全員二階の僕の部屋へ集まります。ラジオをきく者、ねころぶもの、僕の本棚を検閲する者、アミ物をする者、そして一番明るい所へ坐りこんで、僕と八木君

とが毎日おきまりの将棋二番をやりませう。僕が飛車、角を落して、即ち二枚落ちでやるのですが、大い的一对一で彼はくやしがりませう。今日も戦ひ佳境に入つて夢中になつた所へ、ひよつこりと見たことのある顔がは入つて来ませう。おやつと思つたら、竹中君なませう。何だかまるで一瞬間、現実感の喪失が起りました。ちよつとゆうれいがあらはれた感じだせう。話は簡単で、彼も結局教育召集だつたので、三ヶ月経つて約束通り召集解除になつて、昨夜朝鮮から帰りつただけなせう。彼のお母さんは毎夜、夜半に清之助が帰つて来さうな気がして、眠れないのだと云つてゐたが、昨夜こそはそれが當つたわけだせう。つもる話も朗らかに、間もなく彼は本室へあいさつに行きました。そのあと、二番とも接戦の末、八木君に将棋を負けました。八木君の凱歌は実に嬉しうでせう。

あなたのお手紙、十月二日附と三日附と二通受取りました。どうも有難う。僕はこの頃の手紙がつまらないとのことですが、之は僕の日記代りですから、精神的スランプならスランプとして、やはり毎日書かねばならない。そのつもりで読んで下さい。

スランプの原因について考へてみました。すると、極くあたりまへの結論が出て来ました。僕のスランプは大体三月下旬以後に始まり、今につづいてゐるのせう。三月中旬までの著述(プランテーション第二章まで)は苦しみなながらもほぼ予想通りに油がのつて進んだのに、疎開問題で一時中絶して、四月に第三章、五月に第四章を書いた時、全く油がのらないのを感じた。この時の苦しみはたしかにスランプの苦しみだつた。それ以来、あなたが疎開してからペンは全くすすまなくなつた。まるで今年の三月までの著述に精魂をつかひ果したかのやうに、気がちつともものび／＼と動かない。七月始めの新聞研究会での講演も、ダイヤモンド日報も、独立戦争も、まるで気が乗らず、自信をなくするやうなものしか書けない。生活の変化が一応落ちつく所へおちついて、仕事に向つて気が充実しつゝあるのを感じるのに、ペンの方は一向油がのらない。こうしたスランプの原因とは、あなたと別にみると云ふこと、これより外にあり得ないのやつとわかつた。之はおざなりな結論でなく、ここ旬日、毎日スランプ感の中で、ピアノを叩いたり、詩を考へたりし乍ら、一体何が足りないのだらうと考へつづけて、やつと僕にはあなたとの生活情緒なしには、精神が活動出来ないのだとわかつたのせう。ピアノや詩はその生活情緒を人為的につくり出さうとする無意識の努力であり、あなたの手紙をほしがり、あなたへ毎日書くことだけやめないのも、同じ事情を意味してゐるのせう。

しかも今、小此木君の戦争史の原稿を読んで、非常に感心しつゝ、大いに書きたい衝動を感じてゐるのに、まだどうにも独立戦争が書けないでゐるのせう。今の事情では、とにかくここで、あなたなしに書かねばならないのだから、結局

この状態を一方であなたをより身近かに感じる手段を考へつつ、他方で全努力を以てこの生活情緒の欠除(短)を克服して、何としても仕事に再起せねばならない。一つ真剣に努力してみませう。

あなたの手術の手紙は僕には大変興味深い。どうか続けて下さい。僕から一つ一つに返事が行かなくても、僕が自分の仕事のためにも、あなたの手紙の凡ゆる部分を貪つてゐることを忘れないで下さい。精神的エネルギーの源泉をあなたの中にもつてゐるのです。

おさつは今日は八百屋の配給で二本半来て甚だ喜んでゐたら、夜は小使さんからも千葉の「金時」を一かご貰ひました。之から少しづつは入るかも知れません。今、一貫目四円ださうです。この辺は「おいらん」しか出来ないさうで、まだ掘らない所が多く、八百屋の配給品も千葉のいもださうです。

白田嬢には明日、おいもをふかしておいてあげることにしませう。今朝は白田、古田両嬢が二階をテツテイ的に掃除してくれました。僕のお勝手もすつかりきれいになりました。僕がO型だとわかつたので、物の整理は彼女達が積極的をやつてくれるさうです。ちなみにここでは、西井君がA型、白田嬢がO型、古田君がA型です。八木君AB、足立君O、あとは皆A。

晶子へも和歌山へも、先月下旬に手紙は書きました。何か子供のものを送つてやらうと、都心へ出る度にさがしてゐるのです。ダイヤモンド日報の原稿料が入つたら送れるでせう。

プランティシヨンの数字があなたをそんなに悩ますのですか。数字への毛嫌ひを克服することは必要です。人間の現実生活で、数字を抜きにすることは出来ない。今はとにかく早く通読してほしいから、数字はとぼしてくれるやうにと云ひますが、実際は数字を理解しないやうでは、僕の本の価値の大きい部分をあなたに理解してもらへないことになると思つて、相当がつかりしてゐます。数字があるために「読むのも嫌」とは、全く悲しい気持です。僕は毎日、あなたの感想を待つてゐるのに。

だが、そんなに苦になるのなら強ひはしません。注文はつけないから、せめて早く通読して下さい。若しそれも望めないなら、あなたの愛情へも失望するやうな気がします。あなたは普通の読者ではないことを忘れないやうに。僕の妻であり、僕の伴侶的理解者たるべきであり、僕の今その前でむなしくあがいてゐる新しい著述の精神的エネルギーの源泉たるべきなのを忘れないやうに。楽に読まうとする前に、その数字を僕がこちらから集めて来、計算し、書きうつし、考へ、そこから必要な判断をひき出し、或ひはまた再三校正し、さう云ふ風にして苦しんだその苦しみを一応考

へて下さい。そして嫌でも通読だけはして下さい。あなたの感想は、僕の新しい著述のエネルギーの不可欠な源泉なのです。僕のスランプからの脱却の槓杆だと思つて下さい。

こんな風な押しつけがましい書き方は、あなたの僕への愛情を冷却させるかも知れないとは思ひ乍らも、かう書かずに居られない気がします。それほどあなたの手紙のあの文句にはがっかりしました。お察し下さい。

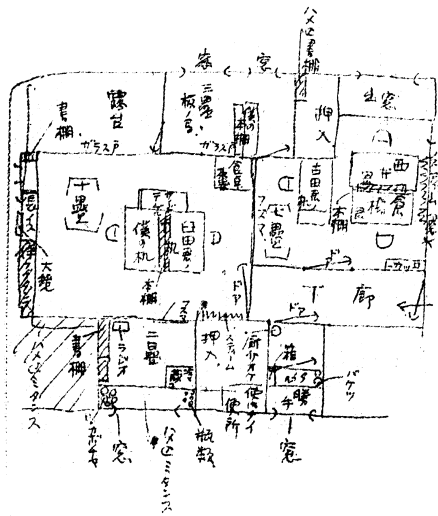
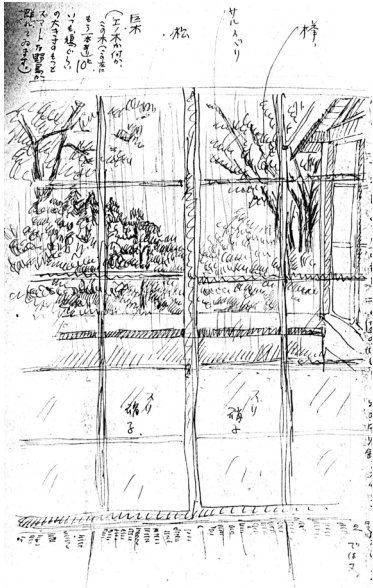
僕は信州へ行つて中学の先生になる用意に、全く苦手な数学の勉強も続けて居るのです。

雨はどうやら、夜も更けて、やまつたらしく、虫の音が強さを増しました。この数日の雨で、庭のケヤキがすっかり色づきました。参道の櫻も色づいたことでせう。竹中君の話では、彼等が帰されると入れかほりに、また二国（第二国民兵役―編者注）の召集兵が朝鮮に忽ち一杯になつたさうです。この櫻がどの程度になる時まで、ここにかうしてゐられることかと思ひます。それにつけてもあせるのは仕事のことです。

十月七日（土）雨。

昨夜は雑炊としじみ汁と柿とお茶とで、ずい分水つばい食事だつたせいか、夜半に三度便所へ起きました。ここは便所が階下（階上の水洗式がこはれてゐるし、今はその隣の洗面所を僕のお勝手にしてゐるので、閉めきり、使ひません）で、そこまでに四回も電気のスイッチをひねり乍ら行くので、大分面仆です。夜半から雨がまた降りつゝつて来ましたが、朝にはドシヤぶりでした。こんな日は出て来る人に全く同情します。それでも女の子達四人は八時少しすぎにすつかり揃ひました。階上の二人にはおもいもふかし、西井君が珍らしくせきばらいなしに上つて来るまでに、掃除も何もすつかりすませました（湿気が多いとのが引つかからないのでせう）。

ここでは下の八木、松村、谷川の三君は最初から出勤が早く、本室にゐた時でも宇賀君同様、人より半時間前に来てゐたものですが、こちらへ来てからは九時半の定刻より一時間早く、八時半にならぬ中に揃ふのです。僕がいつも九時半に一分もちがはない手品のやうな滑り込みを常習にしたことは、全く話題になるほどでした。今では西井君が割合遅くて、今日は九時頃に「とび切り早く」来て「半分ぐらいいしか来てないだらう」と思つて来たたら、やつぱり全部そろつてゐたのに驚いてゐたくらいです。男連中の早いことは女連に恐慌を与へ、前述の坂巻君などは八時少しすぎに来るし、白田君も足立君も前は大分悠々と来てゐたが、谷川君の不興を招き庶務課長に報告され、本室で注意されるなどのいきさつがあつた後、全部早くなつて、八時前後にあらはれるに到りました。尤もこの分室は僕が住みこみで最も近いのを



筆頭に、古田君は経堂の駅のすぐ向ふでこゝまで歩いて十五分、坂巻君は千歳の方でやはり歩いて十分か十五分、八木、西井、白田三君は世田ヶ谷中原、代田、松原等で何れも三〇分以内、堀江君も池の上で三〇分以内、と云ふ風にすべてこの近辺で、遠いのは谷川君の目黒、足立君の赤坂、竹中君の恵美須ぐらゐのものです。だから経堂分室隣組は殆ど分室員のみで、その点好都合です。

西井君が来て、二階のモヨウガへをしました。月曜から倉橋君がこの歴史部へは入るのです。倉橋君と云ふのは西洋史の僕のクラスで、村瀬君等と友人であり、研究室の虫の一種に属したが、最近僕にこゝへ入れてくれと頼んで来たので、本田さんを通じて紹介し、この間今井先生が来た時、先生と一緒に理事及び局長に頼んだのですが、速かに決定して我々の所へ来るやうになつたのです。彼はイギリス経済史をやります。所で机のモヨウガへの結果、次の図の如くなりました。ざつとこんなぐあひ。西井君が狭い所へ引つこんだのは彼の小児病のせいです。竹中君が来るやうになれば、この分室は総勢十二人（小使ひ君は別）になつて中々有力ですが、西井君は野菜の配給分の減ることを大いにボヤいてゐます。その点は独り者の僕は余り切実ぢやありません。

雨は果てしなく降り続き、色づいた櫛が大やうに身をゆすぶつてゐます。机に坐つて左を向いた景色は次の図の如し。その中火鉢を入れませう。寒いのです。では又。

十月八日(日)晴、風。

一週間の雲を破つて秋の太陽が輝きわたつた日曜日。だが、その雲を吹き払つた夏の名残の颱風性の風は、昨夜からの荒れ続けをおさめやうともしません。

昨日の雨は盛んでした。息もつかず朝から夕方までエネルギーに降りつづけ、夜に入つて風が強くなつてから漸くやまつたのでした。今朝、庭の防空用に掘つてまだ水を入れてゐないプール(五間に三間)の底に(もうコンクリートで固めてはありますが)、一尺五寸近く雨水がたまつて、風で波立つてゐました。金木犀は金粉をふきちらしたやうに香と共に無残に散り、庭は落葉で大変です。栗が大分落ちてゐたので、少し拾つて朝食にたべました。あなたの五日付の手紙(8)は昨日配達されたのか、郵便受けの中でびつしよりぬれてゐましたが、幸ひ、中味のインクは散つてゐません。

「南部問題」の感想有難う。あの中であなかがいろ／＼と質問してゐることについては、「プランテイション」の第三章、第四章の中でもつとくわしく説明してあるのです。「プランテイション」さへ読めば、この小さい短文は大ていわかるのです。ここでは読者が新聞人や経済人なので、新聞記事にあつたやうな現象を特にいろ／＼と拾ひあげ、それらの内容の説明は略して、それらの現象とアメリカ社会の基礎構造上の問題たる南部の問題とを、脈絡づけることに力を入れたのです。学問的労作たる「プランテイション」は現象よりも本質の開明(開)に全力をつくし、ジャーナリスティックな解説記事としての「南部問題」では、本質についてよりも、現象間の關係を中心にしたと云へるでせう。その為、雑(雑)パク、粗雑になつたのです。だが、この小論が気の乗らない粗雑なものであることは、その形式上の性質のみによるのではなく、僕自身に原因がある。このことは前便で書いた通りです。実際、僕は、食事の仕度や軽い洗たくや身のまわりのことには別にあなたを必要としないが、精神の創造的な緊張を持続する為には、あなたなしにはやつて行けないのです。あなたが僕の労作に理解をもたず、充分協力的と云へない状態にあつて、その為僕が、あなたを自分の仕事の邪魔にしたのだが、実際は邪魔になつても居ることだけで、僕の労作の精神的エネルギーの源泉になつてゐたのです。さう云ふわけで、ダイヤモンド日報の原稿は粗雑だし、不出来で、何だかレモン(チケジ)のしぼりかすのやうなんです。だからあなたの感想は、甚だ不適當なほど好意的で、僕の心中若干ジクジク(チケジ)たるのです。

今朝は砂糖があるので、おいしいむしパンが食べられました。一日分の食糧としてムシパン(弁当箱)、カボチャ、クリ、オサツ、之だけ朝食の時作つてしまひました。節米です。

午前中、魔王の伴奏の練習をちよつとやりました。昨日は雨がひどくて女の子達が僕のピアノの時間（コンロの火の起るまでの約半時間）までぐずぐず／＼帰らなくてゐたので、所望によつて「乙女の祈り」（之は若い子も、年の多いのも、皆が好きのやうです）を一曲やり、「ライエルマン」をちよつと教へ、「我が宿」をうたつてやりました。菩提樹は一通りひけるが、歌はれると忽ち指がうごかなくなるでせう。之はうたはなくても、伴奏だけでもキレイです。レコードできいてみてごらんなさい。

晴れたけれど快適な日とは云ひにくい。風が粗暴で、あちらこちらガタ／＼させて、気持を何となく不安なやうにさせ、昨日のさむさに引きくらべてむしあつい。昨日の昼間の気温は十六度くらいであつたのに、今は二十七度もあるのです。午後、独立戦争についての本を読んでゐたら、どうやら熱のあるらしいことを知り、気分が悪いのは天候のせいだけではないことがわかりました。七度四分あつて脈も早く、風邪か何かひいたのでせう。食欲も余りありません。余りだるいのでゴザをして寐ころびました。今日は電話の防空訓練日で、不要の電話をかけた者は、九日一日中電話を切られると新聞にあつたのに、午後三時頃電話のベルで下へ下りました。小使君は今日も尾久の家へ帰つて僕一人の留守番なのです。

電話は沢田君で、之から友人を一人つれてここへ来ると云ふので、ぢや待つてゐるよと云つて切りました。彼は、僕が火を起しかけてゐる所へ来ました。富山からのおみやげに、僕と貴女とに中々立派な夫婦茶碗（湯のみ）をくれました。あづきがかつたサビ朱色の地に銀色の竹の模様のあるふたつき湯のみ（九谷）です。之はその中送りませう。それから柿と林檎をくれたので、僕も、クリとおさつと柿とを二人に御馳走しました。五時前から十時半まで駄弁りしましたら、どうやら熱もひいたらしく、気分が悪いのもなほつたやうです。風もおさまりました。そのかはりまた時雨のやうな雨が来て、雨のやまつた後も空は雲でまつくらです。

十月九日（月）快晴。

東の空に二、三条の巻雲がたなびくだけで、他に一点の雲もない美事な快晴です。風もやみ、木々はよみがへつたやうに輝き、蜂や羽虫が嬉々と空中をとんでゐます。秋晴れは羽虫をさそひ出すだけでなく、研究所の虫共をも外光へさそひ出します。我々、期せずしてハイキングに行くことになり、僕もマメとカボチャとは入つた飯を弁当につめました。十一時に蘆花公園へ行くのです。ここから一時間かそこらでせう。

今朝お手紙と小包を受取りました。すばらしい里芋ですね。一緒にダイヤモンド日報も来たので急いで送ります。之で「南部問題」はおしまひです。えんりよのない感想を待ちます。

お手紙はいつも大いに興味深く拝見してゐます。せいぜい書いて下さい。

では帰つてから、また書きませう、夜にでも。

粉がたつぷり出来たので、ムシパンもおいしく（外の物をませなくて）出来ます。今朝などは実に上手に出来ておいしかった。どうも有難う。

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月七日の記、八日の消印）

十月七日午後。

十月四日発「第四」信落手。

粉三〇〇匁、里芋三〇〇匁、郵便小包で発送致しました。多分十日頃にはとどくでせう。里芋よりスコトポテトと思ひましたが、あいにく今日は何処からも貰つてありません。

今日はあなたの手紙と同時に、和歌山のお母さんからと、利ちゃんから来ました。利ちゃんは千葉へ動員されるから、休暇に遊びに来る事が出来なくなつたとのこと、身体具合はどうなのでせう。寛ちやんにもまだ逢つてゐない様です。寛ちやんと云へば手紙も貰ひばなしですが、高円寺の新しい住所の封筒を失つて、返事が出せません。

和歌山のお母さん―あなたが返事出せとか何と云つたんでせう。嫌ね、あなたに唯さう云つた丈で、さい足してほしいつもりなんか無いのに。お母さんのお手紙見て、すぐさう思つたのよ。まだ歯医者も行つてない様だし、お父さんは神経痛で糖尿も起きて、おやせなすつたらしい。私にお金なんか返してくれるよりも、あちらにお見舞に送つて下さいな。お父さんが身体がわるくなつて、見まはりにあまり行けなかつたので、おさつのは出来はあまりよくない相です。私があるにそんな事を洩したのはいけないけど、あなたも子供見たいに、すぐさう云つてやつたりしては嫌よ。そんな事をする、あなたは私とは別で、急に向ふ側^③へ行つてしまつた様な感じがして来ますから。唯普通に聞いて居てくれ、ばいばいのよ。私だつて不満の形で云つたんぢやないんです。

黒モンペは大きすぎたらしいのね。外出用にはならないかしら。其中、木棉^④でモンペ下を作ります。それから毛メリ

ヤスのシャツやズボン下のこと、どうなつてゐますか。こちらにはもうありませんから、そちらにあるのかしら？ 皆こちらに持つて来てゐた様に思ふんだけれど。つい手の時、知らせて下さい。コウト（スプリング）はそちらですわね。灰いろのチョッキ（すこし短い）御入用なら送ります。あなたのところには毛糸類の下着は外にはなかつたでせう。

ごま塩はごまが全くありませんので、其中貰ふか買へるかしたら、作つて送らせてあげよう。田舎も実に不自由になつて来ました。疎解者^{（疎）}の不心得者がね段を乱したので、目茶くくに田舎の経済もこはされてゆきます。ある物も全く影をひそめ、知り合関係へは売らず、都会からの疎解者へ渡ります。疎解者にもピンからキリまでありますから、金持でない疎解者は実にみじめな生活になります。野菜だつて魚だつて東京の様な配給制は全くないも同然です。

今日も凄く風が吹きます。今まで早苗のおもり。早苗は時々思ひ出した様に

“どうしておばちゃん、東ちようへ帰らんの？”

“もうお家がないもんで”

“どうして菊池叔父ちゃんは来んの？”

“御用があるから”

“ふーん、誰とあちよんどるの？”

“他所のおぢさんやお姉ちゃん”

“もう、来んの？”

“戦争すめば来るわ”

“戦争すめば、お砂糖も来らなア”

と云ふ、何時もきまつたお砂糖問答が始まります。“子供でも不思議に思ふんだね”とお母さんたちも笑ひます。ダイヤモンド日報は六は来てゐませんでした。これで七までそろつたのです。全部そろつてから読みませう。

南部プランテーション 第四節

○わからないところは全体として全くなかつた様に思ひます。

但し表は難物。表19Aはよくわかりません。数字をどう見てよいのか。19表のプランテーション数、パーセンテージ一〇〇・〇なのに、次が三九・〇七三、次が三九八・九〇五なんて、なんの事だか一寸もわかりませう。

だから次の表へそのまゝ移ると、これ又、わかる様な、わからぬ様なです。Cはわかります。(これを書いてゐる中、風で電灯が消えたりついたり)。C表だと、地主農場と小作農場の比率もわかりやすい。P.140のプランテーション分布表は、これはわかります。

要するに、一九三四年のセンサスによつて、「奴隷に代るクロッパリーによつて、相変らず昔日のブラックベルトはプランテーションの中心になつてゐる」ことを立証してゐるのですね。

㊦ ウーフターとブレネンの調査定義によつて、プランテーションの基本労働力たるクロッパリーの特徴がよくわかります。クロッパリーつて、どんなものだらうと思つてゐましたのに、よくわかつた。クロッパリーの大多数は黒人であることも。

森井さんの病気は如何ですか。森井さんて黒のベルベットの洋服を着た、蒼白い肉づきの良い娘さんだつたせう。ちがふかしら。ジェニイ・ゲルハールの様な感じの人でせう。森井さんたちは今は何の勉強ですか。矢張りあなたの南部問題の勉強ですか。あなたはお弟子がゐるから羨やましいわ。私も一諸に勉強し乍ら話し合へる仲間がゐたらとつくづく思ひます。一人ではどうも張合がないもの。前の鉄工聯時代がなつかしい位です。気の合つた勉強仲まの結びつきはまぢり気なしの愛情です。長くつづくものですが、現在、一諸で毎日のことを話し合つたり出来ないのは淋しい。其の点、あなたはしあはせね。

上田さんや西井さんたちは元気ですか。調査会も私の知らない人ばかりになりますね。竹中さんからは便りがあるの？ 何処にゐるのでせう。小林庄一さんは上海ですか。

伊藤新一さん、家の件はもうよいのかしら。今日、役場の本庄さんが家があるがーまだ入用かときいて来ました。

又早苗ちゃん遊びに来ました。もうねむつたかと思つたのに(九時すこし前)。白いねまきに赤いチャンチャンコ。こんなお顔をして机のわきにチヨコンと座つてゐます。これからそろそろおいたを始めるのでせう。では、さようなら。

十月七・夜

謙一様

幸子



幸子から謙一あて（一九四四年一〇月八、一〇、一三日の記、一三日の消印）

肋骨カリエス手術

時間一きつちり一時間。助手一人、器械渡一人、雑一人。
患者35才女



十月八日

全身衰弱のため、まず、局所注射七本、外にリンゲル、その他。

①メスをいれるところ。前もつて石けん洗、ヨーチン消毒、アルコールふきをする（簡単な図は省略―編者注）。

②ハーケンをかけてひろげて（簡単な図は省略―編者注）。

③エレベーターを使用して、けづりつつキン肉と骨をひきはなす。その間にコッフエルで血管をとめ、ふき出す血をツツフェン（ぬぐふ）するのは助手の役目。

④肉とひき離された骨の随へメスをいれて、まるでカニの足をさく様に骨に添って切る。

⑤レツフェルで腐骨をかき出す。

⑥肋骨セン刀をいれて骨をはさんで切

りとする（簡単な図は省略―編者注）。

この患者は始めの診断では一ヶ所位であつたが、切つてみたら、あちらこちら始^⑤んどわるいらしく、骨をメスの柄でたたくとカサ／＼と枯れた音がする。あらゆる肋骨を結核菌がむしばんでしまった。

その他、ホーセン状菌もおびただしくあつて、奥へ／＼と巣くつてゐた事がわかりました。ホーセン状菌は恐ろしいです。菌のわるい人は決して路ばたの草でほち^⑥つてはいけません。

この人はもつと／＼切らねばならぬけれど、貧血でもあるし、長い病気で抵抗力がないから、三本位で一まづ縫合しました。

十月十日

今日は大人のヘルニアの手術、兵隊にゆくから急いでゐる。もつと早くしておけばよいのにね。盲腸、ヘルニアはかんたんですが、カリエスは長くて恐ろしいです。カリエスにはなりたくないものです。あの手術をみてから、どうもねむると自分のろく骨が気になつて、目がさめると必ずさわつてみたくなります。

四、五日前、島谷さんから手紙ありました。あなたの住所と近況を知らせておきました[※]。

いそがしいのに中々の勉強家だし、いい人です。ひるでも来るといいんだけど、仕事を持つてゐるから夜ばかりで、ゆつくり話をする暇がありません。折角、いい話相手が出来たと思つたのに。スターキング・デリシヤスを持つて来てくれました。自分の畑で作つたのです。

昨日またオニールの奇妙な幕ま狂言をよみました。古い改造で小林多喜二の日記をよみ、中々おもしろかつた。では今日はこれで。

十月十日

幸子

御無沙汰してすみませんでした。

大掃除や手術が重なりまして、毎日疲れて日記も書かずねてしまつてゐました。従つて勉強も割当^④どをりは何も致しませんでした。手紙はNo. 5、6、7まで、ダイヤモンド日報も11まで届いて居ります。

夜は早苗ちゃんがどうでも泊ると云つて、ふうちゃんを連れてゆかうとすると泣いて騒ぐので、二階の私の床でぬむる。おねしよをされぬためには夜中に三度程起きねばならず、睡眠不足でまぶたが凹む位になりました。早苗ちゃん、どうしたのかメーメおばちゃんとの一点張り、お風呂も食事もおしっこ、うんこ、皆私でなくては嫌だ〜と騒ぎますの。お勉強ちゆるのと云つて、二階に来てヴェラスケスばかり、もう廿度位も見たでせうか。まるで早苗ちゃんの専属子守になりました。私が病院の夜の手術でゆくときは、私の床の中に（七時前に）いれて、私のタオルのねまきをそばへ丸めていれてやると、それにまきついてねむつてしまひます。かうされると私もかわいくつて、勉強中でも早苗ちゃんがトーツと云つて、後からおどかし乍らまきついて来ると、もうベロ〜に甘くなつてしまひます。下でねむつた時は夜中に目をさますと、メーメおばちゃんとかへゆくと云つて、なんとだましても泣き止まず、二時ごろ一人で白いねまきのまゝ、バタ〜と暗い中を上つて来て、シヤクリ泣きし乍ら抱きついて来ます。私は死んだ子供がやつて来たのぢやないかしらと思ふ位です。

世田ヶ谷の朝夕、此のごろは至極明るい様です。柿や栗などあつて、すばらしくいいお家ね。それで冬が暖かだつたら本当に申分ないこと。ろ花園の遠足は如何でした。私も一度行つた事があります。栗の木が多いだけで、あまりたいたところではなかつたでせう。まはりの畑路のぬかつたところを、ハイヒールで困つた記憶が残つて居ります。病院の患者さんのと切れたつなぎの時間に、診察室で此のごろ臨床医学講座を読んでゐます。医者相手の講演を一ツ一ツ、パンフレットにまとめたものですが、しらうにも平易にわかる書き方で、医者の方識がつかめる程度のもです。一冊が五〇ページ位で発行は昭和十一年です。八〇冊位あるでせうか。今までに読んだのは消毒法だの盗汗療法、治療食餌等です。

手術は盲腸、ヘルニアが一番多く、一番こたへたのは肋骨カリエスのであります。（別紙）

ダイアモンドの南部問題は昨夜十二時ごろ、全部通読致しました。「南部の政治勢力」と云ふものの起源発展が実によくわかりました。一寸考へれば、北部の金融資本家に政治的権力が握られ、アメリカ政治は彼等の意のまゝの如く考へ勝です。―独立戦争の後の不首尾は、単にそれ丈に終らず、二百何十年の後に至るまでの禍に発展したのです。さうして南北戦争の結果、南部の再建が失敗した事は、巨大な暗影を印したのですね。

⑨が一番興味深く読めました。ここは一番知り度いところであり、わかり易く一まとめになつてゐる。

⑩そして10はプランテーションで今までよんで来たところであり、南部が古いおくれた制度の上に立ち、さうして今、

それを維持するためとつてゐる手段が、全アメリカに大きな病源となつてゐることがわかります。

①でそれまでのが一まとめにされてゐて、ねむけと戦ひ乍らではありましたが、大変よくわかつた様です。書き方も中々親切で、一節づつの始めに前のがまとめであり、読者に好都合です。もう一度、ひるまのたつぷりした時間に通読します。

プランティシヨンの方は其の後すこしづつ乍ら順調に進んで来て居ります。あなたを大変失望させた数字、統計も何の事なく(?)卒業致しました。どうやら今まで私は、数字恐怖症と云ふ病氣にかかつてゐたものらしい。お化けの正体を正視出来ぬ様に、数字を見るともう恐いゝの一点張り、正視し得なかつたらしいです。半端な数字はチヨイと端しよつて、適当にしたりしてみたら、ちゃんときよくわかりましたの。と云つてもどの程度に理解したのかですが、案外さうやつてみたら、どの位の割になるか凡そわかつて来たたら、大変見やすく、次々に楽に進めました。

そちらのお嬢さん方には大分お世話になりますのね。元来女の人は一人者の男の人に、さう云ふ親切をしたがるものですね。母性愛(?)的なものを満足させるのでせうね。男やもめはうちが湧く相ですから、お勝手など、時々整理して貰ふと好都合ですね。

私は此のごろ掃除や炊事がますます嫌ひになりました。お母さんのメソッドで何でもしなくてはいけないから、詰らなくなるのでせう。

外は朝夕異つた美しさですし、おさつや林檎がたくさんあつてすてきです。あなたもピアノを弾いたりして楽しさうで結構だわ。環境は幸福でスランプなど吹きとばせさうでせう。たつぷり御勉強なさいませ。

さよなら

十三・夜

幸子

太郎のお骨はどうなりましたかしら。そこにあつて邪まなら、こちらにいただきたいけれど。

※ここより前の手紙文は「3」のページ番号をふつた三枚目の用箋に、ここより後の文は同じ三枚目の裏面に記されていて、その裏面には「6」のページ番号がふられていた。後掲の謙一発一〇月一五日の手紙も指摘するように、この前後で文章がつながっておらず、あるいは「4」「5」ページが表裏になった、四枚目の用箋が欠落しているのかも知れない。

謙一から幸子あて（一九四四年一月一〇〜一三日の記）

十月十日（火）曇。

快晴と云ふのはめつたにないものです。今日はまた曇り。

昨日の蘆花公園ピクニックは、道案内なしであつたために、往復二時間半もかかりました。実さいは片道四十分かそこらで行けるのです。尤も途々むかごとつたり鳥瓜をとつたり、大分実質的なことをやり乍ら、その為に食ひ物に一番熱心なN君の如きは、ぬかるみへふみこんで泥まみれになつたりし乍らだつたので、時間のかかつたのもやむを得ない。公園は木が多くて、ややうす暗い感じだが、それだけに落ちついた閑静な所ですね。家もひろいし、堂々たるものです。さすがに明治文壇のほひもする。栗を焼くにほひがして、「クン／＼シヤクにさわるな」とふんがいでするのは例によつてN君。「いいにほひぢやないか、そんなに怒らんでもいいよ」「他人が食つて僕の食へんのはシヤクや。どこかに落ちてないかな。キヨロキヨロ、ガサガサ」。T君は所有本能の強い小児性を發揮して、せか／＼と行きつく先や弁当食ふ場所ばかりさがし、我々が八木君の子供のためにどんぐりをひろつてやつたり、やぎの牧場で立留つたり、「之は楢で、之はくぬぎで、之はどん栗だ」と八木君が説明するのを感じしたり（何だか八木づくしで、誰かが八木節をうたへば完成しさうだが）、要するに別種の小児性を發揮するのと対立して、一人神経を尖らせたり丸めたりしました。帰りに北沢の馴染の農家で、まるでおみやげのやうにスカートポテトとかぶらを準備してくれてゐました。ポテトは一人当り五百匁ぐらゐりました。

今日は慶応大学経済学研究室の未知の人から手紙で、「プランテーション制度」の内容についてたづねて来ました。僕の「アングロサクソン民族」のアメリカ史に「実に興味深く感じ」、今度の読書新聞の広告で、その内容を早く知りたくなつたので知らせほしいと云ふのです。助手か何かの若い人なんでせう。利ちゃんのやうな字でかしまつたやうに書いてあるので、僕もすぐ返事しておきました。

あなたのお手紙（No.10）はおひる近く届きました。

和歌山からの手紙について大分あなたの御機嫌を存じましたが、僕の立場もいつも辛いのです。あなたは昔から和歌山のことで、僕を責めるやうな言葉をよく口に出したし、僕はそのことでは大部分弁護乃至弁解的な立場に立たざるを得

ないやうな風になつて来てゐたので、今でもそのくせが出るのです。あなたが僕の両親のやりくち、と云ふよりやらなくち（無反応）について不満気な言葉を出すと、何だか僕が責められてゐるやうに感じるので。このことはあなたと僕との心理的間隙を深めて来た一つの要因にも見られます。結局、和歌山の両親は僕自身でないのだから、何とかあなたに、あの人達をああ云ふ人達として悪意に解さないやうに、いはば理解してもらひたいとかう云ふより外に仕方がない。だがそんな云ひ方ではあなたの不満をみたし得ないやうに感じたりすると、つい母へ書いてしまふのです。今後は注意させよう。

メリヤスのシャツやモモ引はありさうです。スプリングもこちらです。チョッキは之からジャンパーだけでは寒い日にほしいと思ひます。

「プランテーション」の表の見方が全く出来ないらしいのは困つたものです。之は一々説明する必要がありさうですね。表19aの場合は、第一行がプランテーション数三九、〇七三（総計）、その中小作農の数で大きさを分けると、小作農五一九家族のものが二六、五八二、小作一〇一―一九が九、一六〇――第二行は右のプランテーション数総計三九、〇七三を一〇〇・〇%として、小作農五一九のものはその中六八・〇%、全一〇一―一九のが二三・四%――第三行は地主農場が総計三九、〇七三、之はプランテーション数と同じわけです。各プランテーション内に必ずプランター自身の農場が一つはあるのですから。第四行は右のプランテーション内の小作農家族総計が三九八、九〇五、従つて一プランテーション当り小作農数は一〇・二、こんな風になつてゐるのです。その中、信州へ行つて一々質問に尽ませう。表に出会つた時、気持を防禦的に消極的にしないこと、この表、またわからないのだらうなどと思はず、逆にこんな表がどんな現実をあらはしてゐるのかと積極的に関心をもつ必要がある。表は現実を集約的に一目リョウ然にあらはしてゐるものだから、文章で頭には入りにくいことを、最もハツキリ具体的にあらはす手段なのだから、シリゴミせずむしろ表の方が面白い（之は事実解釈の面白さでなく、事実そのものの面白さ）と思ふくらいになりなさい。表を見る時は、上のランと横のランとをよく注意し、何をあらはしてゐるかをよく考へることが必要です。

十月十一日（水）曇。

今日は此の分室の図書整理日でまる一日、全員四千冊の本のつめかへをやりました。此の分室では、本の整理は資料係の女の子（前は臼田君）にまかせつきりで、その為に臼田君が身体を悪くしたのです。僕も自分が二階にばかりゐて、

下のことによく気がつかなかったのですが、昨日、臼田君にかはつて資料係りになつた足立君が、坂巻、古田両嬢と三人で一生ケン命に本をはこんでゐるのに、男連が一向無関心に新聞を読んだり、駄弁つたりしてゐるので、僕が黙つて手伝ひには入りしきりやつたが、相かはらず他の男連は手伝ひはないので業を煮して、「足立君、まだうんとかかるかい」「ええ、どうもすみません」「そんなら皆に手伝つて貰はう、本をもちほびするのに女だけちや無理だ、また臼田君みたいに病気になる（ここまでは声は大きくしたが、専ら足立君に向つて云ひ、ここから開きなほつて、他の男連に向ひ）、どうです、男手であつさりやつて了ひませんか、独研の方は本のもちはこびは皆男だけでやつてるやうですよ、忙しければ手伝つて下さい」、こんな風云つてやつと二人、三人が手伝ひに参加したのです。それが昨日のこと。今日はさすがに全員参加して、すつかりつめかへを終わりました。足立君はよくよく嬉しかったとみえて、何度も何度も礼を云ひました。だが今日も一番働いたのはかく云ふ僕で、足立君が感謝するのも、我乍ら無理はない。モンペとジャンパーの身仕度が一層かひくしく見えたと思ひます。

午前中ひろちやんがホウキ(カ)を持って来てくれたので、取つておきのカボチャ一つと、カブラを若干とをおみやげに進呈しました。彼の下宿も野菜難で困つてゐると云ふので。

皆が帰つた頃、鶴田君が訪ねて来て、大東亜圏の宣伝雑誌「Globe」(英文)に原稿を書いてくれと依頼に來たので引受けました。その雑誌は参謀本部の息がかかつてゐて、支那その他大東亜圏のインテリゲンチヤを対象としてゐるが、支那のインテリゲンチヤ等は知識水準が高くて空疎な宣伝では無力なので、学問的にガツチリした論文がどうしても少くとも一つか二つないと駄目なのだと云ふのです。部数三万で、この九月に第一号(上海で発行)が出たばかり、僕のは十二月号にのるわけです。相手が大分變つてゐるので、ダイヤモンド日報とは全然筆法をかへて、書いてみるつもりです。

十月十二日(木)曇。

毎日天気はつきりしない。

今日は肉の配給がありました(経堂へ来てはじめて)。さといも、しひたけ、こ(か)うやどうふと一緒に煮て、おいしいおかずが出来ました。臼田、古田両嬢に若干たべさせたら、上手に煮てゐると云つてほめました。古田嬢は此の頃、N君を嫌つて、顔を見るのもいやだと云つてるのださうで、すきがあると僕等の部屋へ来て、肩を叩いたり(N君の前

ると肩がこるので)、シューベルト歌曲集を見たりしてゐます。古田君と云ふのは五尺五寸あるさうで、桃ちやんのやうな少女つばい感じのいい子です。二十才です。来てまだ十日にしかならないのに、自分の部屋のN君をさう神経的に嫌ひになつては困るので、白田君もしきりと説得して、神経的にならぬやうに云つてゐるのださうです。N君は足立君にも大分深刻に嫌はれ、本人は一向気がつかないのに、女の子達から総スカンをくらつてゐるのは、どう云ふわけかといささか不思議です。T君も相変らず総スカンをくつてゐるが、之はT君も気がついて、僕なども忠告したので、以前ほど空気が険悪でなくなつた。いづれにせよ女の子と云ふものはむつかしい。

十月十三日(金)曇。

あなたの手紙、来ない。「近きより」とダイヤモンドの松沢氏からの手紙としか来なかつた。

白田君が森井さんの手紙を届けてくれました。ゴッホの絵が二枚(大原コレクションの)は入つて、あなたへも一枚さしあげてくれとあるので同封します。彼女がこの春倉敷へ行つた時買つたのださうです。彼女も身体の具合が悪く、よく寐込んでゐるさうです。「そのうちにそのうちにおしやべりに上ることを考へながら時をつくれないうでゐます」とありました。白田君の意見では、「森井さんは余り女と云ふことにこだはりすぎるのぢやないでせうか」とのこと、「森井さんはびつくりするほど女らしい人ですわ」とも云ふ。さう云ふ白田君はどうもやはり男の子の感じです。ネールの西洋史、イリンの人間の歴史、オプロモフ主義、ゴリキーの母等を読み、今「四十年」を読んでゐます。「パデーギン」を次に読む筈。パデーギンは、僕がバルザックをすすめるのと同じくらい誰かれかまはずすすめたので、この分室では竹中、足立、八木の三君が読んで何れも感激し、それをきいて本室の資料課の梅田君が読み、この間、本田さんといろんな話からパデーギンの話をしたら、彼もむやみに読みたくなつたらしく、梅田君が読み終らないのに持つて行つて了つたさうです。森井さんは今アンジェロ・ハーンドンの伝記を読んでゐます。早川君は今レーンの心理学を読んでゐます。白田君と古田君とに、宇宙、恒星進化説から人間の歴史まで、話すことにしました。朝一時間早く出て来ると云ふので、隔日にやります。尤も本がないので、座談式にやりませう。古田君は昨朝僕が「魔王」の練習をしてゐたのをきいて、今日「魔王」のレコードをもつて来てくれました。

足立君がやめることになりました。僕が発議して餞別をあげることにしました。結局僕が品物を選ぶことになりました。白田君が天文館へ行きたいと云つてゐたので、今日は連れて出て、先づ天文館へ行き、ケテルスで昼食して、資生堂で

葉皿（木の葉の形の大皿）金二十二円也を買ひました。それから本室へ行き、資料課で本を借り、庶務課へ寄りますと、課長がちよつと話があると別室へつれこむので、何事ならんと行つてみると、「近頃分室の様子はどうですか」と云ふのです。之は階下でT君対女の子その他に大分険悪な空気があつたのが、本室の耳には入つてゐたのでせう。「此の頃別に大したことありませんよ、T君の神経質は相変らずだが、T君自身自分が女の子に苦にされてゐることを感じて、近頃大分抑制してゐるやうだし」「外の人とは？」「外の人？ ああ、それならやはり心配要りませんよ、僕の出張の時T君が余りわからんことを云つた時はちよつと外の人も怒つたけれど、その後は平穩です」と云ふ風な話になり、更に足立君がやめた後、人を補充出来ないもので、古田君を下へおろさうと思ふがどうだらうと云ふので、別に異議ないと答へました。「古田君も先生（N君のこと）の前でゐると大分肩がこるらしいから」「Nさんは古田さんを余り使ひすぎはしませんか。あの子は身体が強くないのだから。」「僕もそれはN君に直接云つておきましたよ、新しい人だから、まじめにやりすぎて根をつめると病気になるから。」実際N君は古田君を自分の見える所へ置きたがつて、之にいろ／＼仕事を与へるので、昨日は僕が皆のゐる所で、「古田さん、そんなに根をつめたら駄目だよ、やすみ／＼やらなきや」と古田君に云ふと共に、「N君も余りやらせるのはいかんよ、古田君は身体が強くないのだから」とはつきり釘をうつておいたのです。

以上の如く、この頃では僕がこの分室の人事関係を調整する人間に、いつの間になつて了つたのです。僕の原因は、何でも直接本人にずば／＼云ふこと、男性と女性との意思通じないのを心理学的説明と大脳生理学の説明とで若干ユーモラスに、彼等をして互ひに相手を理解するやうにさせること、女の子の代弁者になること、掃除や何かは自分でやること、之等です。男は中々頭がかたくて（N君などは蛙の顔に水をぶつかけたくらいにしか効かない）駄目だが、女の子は大分よく云ふことをきいて、皆僕の忠告にしたがつてゐます。

以上のやうな人事関係の処理は、実はあなたに学んだ所の活用なのです。あなたは僕の如上の可なり長い叙述の中に、あなたの鉄工聯でやつたことの複製版を見出した筈です。尤も僕はO型だから、自分ではこんな風にうまく行つてると思つて満足してゐても、実はどこかで抜けてゐるかも知れないけれど、とにかく僕の部屋は依然として、この分室の弱者の避難所のやうになつており、そのことは本室でも知つてゐるらしい。これから益々さうなるでせう。何故なら、この部屋が一番明るくて、あたたかく、広々してゐるから。その代り仕事はやはり進まない。新しい原稿もかかえて、いかにこの仕事を切りひらくかを苦心してゐます。臼田君はもう立教、帝大、上野等で本をうつして来たり、秋野君がや

つてみたことに近いことが出来るやうになるでせう。
明日は伊藤新一君が訪問して来る筈です。沢田君は浦和支局づめになりました。

では又。

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月一四日の記・消印）

十月十四日

血液型六種

〔 ABO血液型、MN式血液型、Q式、E式、
排出型、非排出型 〕

普通には血液型と云へばABO型の事を云ひます。

ABO式血液型とは、

血液型は血液の型の事を意味する丈でなく、一個人の血清学的の体質の事を意味します。血液型は遺伝する形質でA・

B・Oの三つの遺伝因子があつて、三つの中の二ツが寄つて一人の血液型を形成する。一般には血液型にはA型、B型、O型、AB型の四種あると考へられてゐるが、遺伝学的に云へば表現型と因子型の区別がある。

表現型と云ふのは血清学的に定める事の出来る血液型で、因子型は遺伝子型とも云ふ。即ち遺伝学的に分類する血液型である。因子型の分類だとOO型、AA型、AO型、BB型、BO型、AB型の六種からなり、常に二つの遺伝因子の結合から成立する。父の性細胞（精子）と母の性細胞（卵子）からの遺伝したものである。同じ因子から出来てゐる血液型を同型接合体（Homozygote）と云ひ、異つた遺伝因子から出来てゐる血液型を異型接合体（Heterozygote）と云ふ。O・A・Bの遺伝因子を持つてゐる性細胞を配偶子（Gamete）と云ふ。

此の前、血液型の事が手紙にあつたので、簡単な血液型の話を抜き書きして差上げ様と思ひましたが、あまり興味ないでせうから、これ位にしませう。

今日は腸のゆ着の手術をしました。盲腸手術の不てぎはから小腸が腹壁にゆ着してしま

表現型	因子型	
	同型接合体	異型接合体
O	OO	
A	AA	AO
B	BB	BO
AB		AB

つて、腸の活動がわるくなり、慢性腹痛の女の子です。手術はゆ着の分をはさみで切り離す丈ですからかんたんですが、其の他に異常はないかと、腹の中を全部ひろげて見たので手まどりました。切り口はおへその下の線のあるところを恥骨まで切りますから、割合に広くてぼうこうや卵巣などすつかり見せてもらいました。

来客（長尻の）つづき、今日は病院もお勝手も夕方掃除も配給の薪運びもあつて、疲れました。夕方疎解荷物六個とどきました。机は南原さんに足をつけて貰ひませう。椅子は当分あのまゝしまつておきませう。

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月一四日の記、一六日の消印）

南部問題感想

③の終り頃十一行目から最後までの意味がくみとれない。「公然たる反対を惹き起した」と云ふのはむろん南部派議員側からの意味でせうね。ルーズベルトの選挙を目当のスタイルならば、南部派がやつきに騒がなくてもよささうなものを。又、以前の時の様に妨害するなり、骨抜きにする手があるだらう、ではありませんか。ルーズベルトの政治政策が選挙のための一時的なスタイルなら、それ程の心配は無用の様に思はれる。民主党はルーズベルトをおとりに国内改革的政策をかかげて、自党から大統領を立てれば、一後日都合よく出来るだらうと思はれる。此の疑問は⑤へゆき、ルーズベルトの政治家としての説明で、又々、尚はつきりして来ます。彼は改革的な政治家でなく、一むしろ帝国主義的な政治家なら、一さうして国民に改革を約束するスタイルをとる丈の人なら、南部派出身議員が猛反対なんかしなくてもよささうだと思はれます。

以上の疑問は⑩へ行つて解決されました。何故スタイルでも彼等を（南部派）刺戟するのか了解出来ました。全体の構成、中々映画的な展開です。

(一)で、戦時下の人種暴動、ルキジアナの例

さうして大きく共和国のあざである奴隷制度の残存形態が目の前にうつつし出される。

(二)目下の国内政治の重要問題に移り、労働、人種問題が浮き出す。軍隊へ、工場への黒人の大量進出―それが軍人投票権案、そしてそれへの反対、罷業弾圧法の通過となる。まだ影の主人公（南部派）ははつきり登場せず。

(三)大統領選挙の年毎の社会矛盾の浮び上り、今年度の問題提起、食糧助成金案―南部派の反対、将兵投票案―南部派の

反対、改革的なものへの反対。

(四)主人公の登場、其の正体、其の勢力、一人一人の大写し。

(五)まとめて、彼等の政治的傾向、ブロック、ニューデイル、それへの反対運動、ルーズベルト、其の本質、彼の政治的ゼスチュア。

(六)カメラは南部へゆく。面積、人口、所得のパーセンテージ、文明的な全合衆国との南部のおくれ方との対比。

(七)いよ／＼テーマにはいり始める。

南部派の保守的反動的な理由、パーセンテージを用ひた選挙制度の展開、^(寡)頭権力の成立―中央政治への勢力、長老委員長の顔。

(八)南部の基礎をなす奴隷制度(テーマ)

アフリカー奴隷船―プランテーション―プランターの武装―軍隊の起り、奴隷制度とアメリカ憲法、奴隷制度と南北戦争。

(九)アメリカ資本主義の反動化の第一歩

黒人等の再建のたつきつぶし、奴隷に代つたクロツパー、そも／＼プランテーション制度とは、プランテーション制度の悪結果、クロツパーの説明(もつと精しければ尚よろし、こゝではし方がないけれど)。

(一〇)人種的偏見

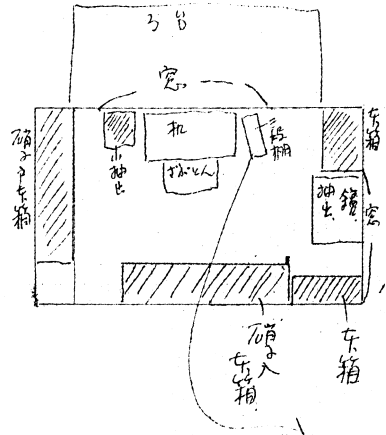
ブラツクベルト、プランテーション制度維持のための外枠、カメラこまかければ尚よし、保守主義の根源はここにある。

(出)まとめ

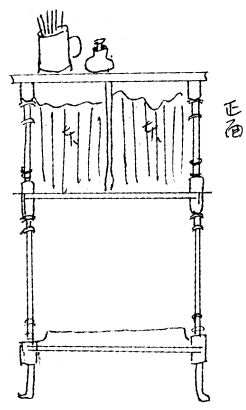
中々面白くわかりやすく(言葉)大変有益でした。雑ばくなどとはとんでもない、とても立派だと思ひます。短い中によくこれ丈を巧みに展開出来たと思ひます。講座にして映画でみせたら、とてもいいと思ひます。

十月十四日。

今日は御手紙来る日だと心まちして居りましたが、^(たうと)とう／＼来ませんでした。今日はひどい風、終日廊下の硝子戸は鳴りつづけました。二階の私の部屋は、午前中は蒼つぼくて寒いのですが、午後は夕飯ころまで窓一杯日がさして暖か



① 内部
 ② 入り
 ③ 出
 ④ 箱
 ⑤ 箱
 ⑥ 箱
 ⑦ 箱
 ⑧ 箱
 ⑨ 箱
 ⑩ 箱
 ⑪ 箱
 ⑫ 箱
 ⑬ 箱
 ⑭ 箱
 ⑮ 箱
 ⑯ 箱
 ⑰ 箱
 ⑱ 箱
 ⑲ 箱
 ⑳ 箱
 ㉑ 箱
 ㉒ 箱
 ㉓ 箱
 ㉔ 箱
 ㉕ 箱
 ㉖ 箱
 ㉗ 箱
 ㉘ 箱
 ㉙ 箱
 ㉚ 箱
 ㉛ 箱
 ㉜ 箱
 ㉝ 箱
 ㉞ 箱
 ㉟ 箱
 ㊱ 箱
 ㊲ 箱
 ㊳ 箱
 ㊴ 箱
 ㊵ 箱
 ㊶ 箱
 ㊷ 箱
 ㊸ 箱
 ㊹ 箱
 ㊺ 箱
 ㊻ 箱
 ㊼ 箱
 ㊽ 箱
 ㊾ 箱
 ㊿ 箱



す。

此の棚、中々いいでせう。もとはブリタニカの本箱らしい。英国製でがっちり、スマートです。

今日は下痢のため病院の方は休みましたので、午前中、あなたのモンペ下を一枚縫ひました。其の中送ります。胴はひもでしめる様にし、前ボタンのところは何もつけませんでした。上にモンペなりズボンをはけば、スナップはいらないでせう(目下、スナップが一ツもないので)。

此の前、くろい銘仙で縫ったダブルモンペを送った時、ゴムベルトをいれた筈ですがあつたでせうね。あれは大事にしまつておいた大切な品なんだけど、一特別にあげたのですから、そのつもりで使つてね。色もよかつたでせう。

謙一から幸子あて(一九四四年一〇月一四〜一五日の記)

十月十四日(土)晴。

今日もすばらしい快晴。夜明け方、五時前に目がさめて、まだ暗かったが露台へ出ると、文字通り眼のさめる空の美し

さでした。オリオンが南中して、プレアデス、ヒアデス両星団はもうかすかでした。アルデバランの赤、カペラの黄、ペテルギウズの赤とリゲルの白、双子座ポルクスの橙とカストアの白、プロシオンの純白、シリウスの青白、レグルスの黄味がかつた白、そして双子座には土星の赤、獅子座には木星の巨大な白銀、その西に月齢二十五、六の月、之等が次第に乳青白に明るみを増して行く暁天に、淡い銀河を中軸にしておかかっているのです。東の地平からあかみが増して、乳青白を次第に溶かしながら星々が一つ一つ消されてしまふまで、太陽が濛気の使者にたくしてその最初の光輝をほとばしらせるまで、秋冷の朝風にふるへさうになり乍ら見つけました。中学時代に星をあふいで浸ったエクスタシーとは、これのやうな感じなのです。

午前中に伊藤君から電話があつて、今日夕方遊びに来ると云つて来たので、白田君に星座を直接教へると云ふ一ヶ月来の約束を、今宵果すことにしました。東日天文館の説明者は声が下品だし、説明のしかたが俗っぽくて、星や天文への何らの真実な愛情も持つてゐるらしく見えないので、それにやはりプラネタリウムには本當の大空の雄大さも生き生きした宇宙の精気も全然求められず、おまけに電力節約か何かで大分暗いので、僕がわづかしかもたない断片的な知識でも、本當の星々への自然への愛情を以て説明する方がきつといいと思つたのです。

昼間はふとん干し、いもの切干、カボチャの種干し、そして自分の日光浴と云ふ風に金色の太陽輻射を思ふ存分活用し、伊藤君と白田君とに御馳走すべき粟を白田、古田両嬢に手伝つてもらつてむきました。粟は数日前から、頼まれはしなけれど落ちたまま虫にくわれたり近処の子供に荒されたりするよりはと思つて、僕と小使君とが朝夕の火を起す間にひろつて、一色さんのために保存しておいてあるのです。一色家の主人公は此の間の風のあつた日の翌日、御殿場から来てすつかりすみへまで拾つて行つたのですが、そのあと僕達のひろつたものだけで三升か四升あります。その中若干は労賃として僕達でもらふわけです。今夕の栗飯のために三十個をむきました。

伊藤君は五時前に来ました。大豆の砂糖いりを持つて来たので、火の起るまではそれを三人でたべました。大豆は一ヶ月ぶりの対面でなつかしくうまかつた。火が出来ると先づさつま芋をふかし、出来上ると今度はあづき（一昨日から冷してあつた）を煮て、次にそのあづきを入れた米を炊き、ふき上つた所へ栗と塩とを入れてかきまはし、暫くしてそれをふとんにすつかりくるみ、今度はおかずとして柿の皮の煮汁へ里芋を入れて煮、ふき出した所へしひたけ、凍豆腐、カボチャ、煮干等を入れました。伊藤君も僕と同趣味で、何でもごちやくくにぶち込んで煮たものが好きなんです。ミソもシヨールもソースもすべて入れてほしいと註文が出ましたが、それは余りに複雑すぎて、我々の味覚はついて行け

ないだらうから、保守的に一般の慣習に従ってショーユだけにしました。白田君は元来信州の人間で、関西趣味(?)乃至は「生活力旺盛者」の趣味または悪趣味をもたないが、この頃、僕のガンバリ粉、チコリ、ショーユのもと、ココア、カボチャ、ナツパ、ミノ等の渾然と融合したムシパンの味の理解者になつて来てゐるのです。古田君も白田君も近頃出勤が早くて、大たい僕の朝食のすまない中に来るので、日本一のキビダングを若干わけ与へて、いつか鬼ヶ島の征伐につれて行くかも知れません。

煮物が嗅ぐからにうまさうに出来たので、今度は菜葉のおひたしを作りました。書くのは簡単だが、それだけに二時間近くかかったのです。そのかはり御飯はふつくり出来上るし、三人のおなかは絶好の受入れ態勢になるしで、食べてみて飯のうまさに我乍らおどろく程でした。伊藤君の如きは芯から驚嘆してゐました。

誤解をさける為に云つておきますが、之等食事の仕度はすべて僕がやつたので、白田君は途中火が消えさうになつたのを、灰をかき出して炭を足して復活させたことと、あとでカボチャの種をいつておしいつまみものをつくつたこと、とにだけ手伝つたのです。そしてその間一人に星を教へ、一人に世界情勢から文学、日常生活、仕事等の話題の相手となり、美事な主人ぶりだつたのです。いろんなことを話しながら、この二人が友達になればいいのにとちらと思ひました。

プレヤデス(すばる)が出て、アルデバランが出て、オリオンも間もなく出さうな時まで、即ち夕方、西にしづみかけた夏の名残の星々から、やがて上つて来る冬の星のさきぶれまで、秋の星座を一通り実物教育して、九時半頃(それまで伊藤君と碁を一局やつた)二人を送り出しました。伊藤君も仕事が目白さうで、のび／＼してゐます。僕は三人の饗宴のあとかたづけをすつかりすませて、今、あなたへの手紙を書いてゐるのです。此の頃ちつとも来なくなつたあなたの手紙を明日へ待ちつつ。

十月十五日(日)晴。

久しぶりのお手紙有難う。

手術も日常生活も、早苗ちゃんのおもりも、中々忙しさうですが、また楽しさう(?)でもあるので安心です。僕は今日から新しい原稿のために一骨折りしませう。

台湾も大変ですね。秋気と共に肌と心とのしまるのを感じます。だが歴史を学ぶ人間として、僕は根本的に楽天的で

す。自分の身に関する限りは全く望みなきに近くとも、人類と云ふことを考へ、歴史と云ふことを考へると、今程晴れ晴れと明るい気持ちになれることはかつてなかつたと云へるでせう。

あなたの手紙、何か落丁があるやうです。島谷君の手紙のことから、突然に誰かスターキングデリシヤスを持つて来てくれた人の話になつて、ぽつんと終つてゐます。

早苗ちゃんがあなたになつたのは僕も嬉しく思ひます。太郎の骨は、あれからひろちゃんやあつちやんにいろ／＼當つてもらつたが、今どこも納骨堂が満員で駄目なのです。駄目ならやはり之は僕が持つてゐようと思ひ、タンスに入れてあります。あなたの所へおく方がいいやうでしたら、その中持つて行きます。と云ふのは近日中、小使さんが補充されるので、さうなれば二、三日休みをとつて信州へ行けると思ひます。来月になつて、空襲その他の危険のなささうな頃、行くつもりです。

ダイヤモンド日報の感想有難う。今度書くのは同じくらしい分量だが、ずつと学術的にガツチリ書くつもりです。民族問題（支那）の立場から。

アメリカの支配者が北部の財閥であることは真実です。だがアメリカ資本主義が危機的 downward に入り、国民の自己組織と批判とが成長して、金融資本の金権政治が従来をやうにやつて行けなくなると、彼等は国内の一切の遅れた制度、反動的勢力を自分の支柱に求め、かくして一九三〇年代（恐慌後時代）の金権主義者とプランターとの同盟と云ふことになるのです。遺制と云ふものはいつもこのやうに働くのです。心理学的にも、抑圧された慾望が「遺制」の如くに残つて持続する時には、之は心理の健全な発展を阻害すると云ふことは、あなたも読んだばかりでせう。

「プランテーション」も大分進んでゐるときいて嬉しく思ひます。数字を、少くとも数字への嫌悪を克服してくれたのは何よりもいい。

女の子達にはなるたけ世話にならぬやうにしてゐます。彼女達はだん／＼僕がいい「お弟子」になるでせう。その中、朝の講座をひらく予定です。古田君は月曜から下へ下りるけれど、朝一時間早くと、帰り一時間おそくとを、ここへ来るでせう。今までどほりに。

今日は夕方四時頃、ピアノをちよいと叩いてゐたら、いねちゃんか甲斐甲斐しいモンペ姿であらはれました。おいしいムシパン（「生活力旺盛者」的でなく常識的においしい、だがやつぱり本当においしい）をおみやげに。僕の方では、いも、くり、柿、カボチャ等を夫々の味を最も生かして（即ち柿以外はただふかすだけで）御馳走しました。昨日来れ

ばもつと複雑な御馳走が出来たのに惜しいことをしました。いねちゃんの仕事の話をいろ／＼とききました。六時から防空訓練があつて、兩戸をありつたけ閉めて、食べたり話したりしました。八時に防訓がとけたので、星明りの夜道を駅のそばまで送つて行きました。ずい分寒くなつて、ワイシャツとジャンパーとモンペだけでは、風邪をひきさうでした。だが今年の冬を耐寒せねばならないので、まだ毛布だけでねてゐます。

佐藤君からのハガキで森ちゃんが痔で入院してゐることを知りました。此の頃ハガキが買へず、極めて不便です。

天文の通俗書（黄色い本）で七冊そろつたのがあつたでせう（看護婦さんの部屋かしら）。あれの中の「恒星篇」（第三巻か四巻）だけ一冊、おついでに送つて下さい。ドイツ語の自習書はこちらにはありません。今度の荷物の中かもしれない。若しないうら、今度都心へ出た時さがしませう。ではおやすみ。

幸子から謙一あて（一九四四年一月一日の記、一六日の消印）

十月十五日。

昨夕から今朝へかけて温度が急に落ちました。もう客間と茶の間には炬燵が作られました。尤もまだ火は這入らない様です。東京も同様の気温でせう。あなたの冬の下着のこと、二度程おたづねしたつもりですが。こちらには毛入りのズボン下は三組ありましたのに、上着（シャツ）はあなた用の一枚もみつかりません。洗濯屋にいつたまゝなのか、送る途中で失つたのか、—こんなに急に寒くなると、どうしても急いで必要です。それで白い毛糸シャツ（今年の冬に私が散々に使つた）を送りますが、これは実は私の冬用にと思つてゐたものです。ですから若しかそちらに毛のシャツが何枚かあつたら、御めんどうでも、つい手のある時、お返しなすつて下さい。（私が帰る前、原宿のセントク屋に出してあつた白ネルのシャツは戻りましたかしら。）

涼しくなつたら急におなかがよくすく様になつて、毎日おさつだのお焼だの、粉つばい物をどつさり食べ、お弁の御飯も追加をするようになりまして。

お手紙九日附のNo.7から後、毎日まつてゐますが来ません。どうかなすつたかしら。

台湾や琉球の凄いきり、まもなく本州へ来るのでせうね。東京空襲を思ふとゾツとします。天にかくれ地に潜んでも、其の日を自分の目で見ると云つておるのですから、危いからこちらへいらつしやいと云へないし、心落ちつかぬ気が

してゐます。欧州戦局もひつぱくしてゐますし、昨日のモルゲン(モーゲン)相案とか云ふのを見て暗いき持です。日本に対してはもつと苛酷にやるでせう。新聞を見てゐるとソ聯の政治(軍事も行政も外交も)丈が、はつきりしたみとをしあつて行はれてゐる様に思はれますね。もう二、三年後のヨーロッパはどんな風になるでせう。

すこし夜更けるとオリオンが良く見える様になりましたね。オリオンが見えたとすぐに寒さが結びついて思い出されま(お)す。経堂天文台では矢張り毎晩観測が続けられてゐますか。寒くなると星は美しくなるが、長く眺めるのはめんどうになります。夕方散歩も、夕方があまり短くなつたので、食後は歩く時はもう暗いので自然とりに止めに、目下家の中にばかりで、二階の廊下の窓から伊那山脈を眺めるだけになりました。

プシはどうしたでせう。段々寒くなるのに。いつそ死んでゐてくれた方がましです。こちらのクロもフクももう十四匹位、ねずみをとりました。小ねずみばかりですが。では今日はこれでさようなら。

謙一から幸子あて(一九四四年一月一六〜一七日の記)

十月十六日(月)晴。

お手紙有難う。

あなたの忙しさが、あなたの健康と両立する程度にとどまるやうに。近頃あなたの僕への関心は大分うすらいだやうです。それがあなた自身の生活建設のすすみつつあることの証拠であるなら結構です。僕は毎日郵便受けをのどいては失望し、漸く見つけても、その内容のおざなりに失望してゐます。僕は自分の仕事にあなたの手紙が必要、いやあなたの僕への愛情の証拠が必要なのだが。

「プランテーション」も緒論は抽象的なことを書いてゐるから、読み辛く理解が難渋でも、あとは事実を書いてゐるのだから、何はともあれ一気に読み通してくれるだらうと思つてゐたのに、その心配もなくとも深い失望です。この調子なら誰にも読んでもらへさうになく、余り本の出ることに関心がもてなくなりつつあります。一つの著作でも、それに対する僕の愛情の消長の何とさまくなことかと思ひます。書いてゐた最中、一月から三月までは、自分の労作への僕の愛情は情熱的だったが、出版会でひつかかつてゐた四月五月にはそれがさめ、どうでもいい気になり、その間に書

いた第三、四章も一向油（油）がのらず、七月になつて校正が出はじけると、また愛情が復活して早く出ればいいと思ひ、再校の頃はそれが高潮に達し、その後あれが出て読まれる時の一般の反響の下見としてあなたに読んでもらつて、一向はかばかしい反響を得ないことから、また熱がさめて来たと言ふ具合です。

読むのがそんなに苦勞なら、もうよして下さい。感想もせつかないし、待ちもしません。それより独立戦争に改めて全力をうちこみませう。實際「ブランテイション」の方は、書きなほせるなら殆ど全般に亘つて書きなほしたいくらいです。内容の基本的な所は、あれからあと別に新しい材料も新しい考察もないけれど、叙述様式は全般的に書きかへたいのです。僕の叙述様式の根本的欠陥は、あなたの之までの感想と、あなたをまだいや／＼しか読ませることの出来ないことではつきりわかりました。独立戦争には新たな方法をとらうと苦心してゐます。

こんな風に書いたからと云つて、嫌味にとつてむりに読んだり、むりに感想をひねり出したり絶対にしないやうに。そんな感想は僕の新しい精神的緊張の何の刺戟にもならない所か、失望させることによつて自信を失はせることによつて、障害物にしかならない。かう書いたことには、あなたへの不満よりも、あなたをすら一気に読む気にさせることの出来なかつた、自分の叙述力の貧困への嫌悪（之は今、独立戦争を書く上に毎日毎日いやと云ふ程感せしめられてゐる）が主として働いてゐるのです。

だが不愉快なことは考へることもよませう。今度「Globe」へ書く原稿は、ダイヤモンド日報（之は決定的に駄作です）とは全然書きかたを換へるつもりです。その為は今、「Manifest Destiny」と云ふ本を読み始めてゐます。アメリカの東亜政策の基本性格に、「マニフェスト・デステイニイ」があること、云ひかへればアメリカ資本主義は、伝統的に中南米とアジアとに向つており、その象徴として「マニフェスト・デステイニイ」がかざされてゐること、そしてこのマニフェスト・デステイニイこそ奴隷主プランターの侵略的信条であつたこと、ここから奴隷制度の歴史とそれのアメリカ帝国主義とのからみあひとを展望してみようと思つてゐるのです。

もう夜は寒く、火がほしいくらいです。今日から小使さんが新しく来たので、夜の外出も自由になつたが、寒いから余り出ないでせう。炭の配給はまだありません。米の配給もないし、この辺は一般に配給物は一番悪いやうです。北条君の奥さんがいつか、成城で米の配給が五日遅れて、ちよつと騒ぎになりかけたと言つてゐるが、この辺も大体同じ程度の状態なのでせう。

十月十七日(火)曇。

寒くて陰気な日です。祭日だと云ふのに。

午前中、利ちやんが来ました。来月は千葉へ一ヶ月勤労働員ださうです。彼も此の頃肥つたやうです。

ゴリキーの「四十年」やつと第三部へ来ました。白田君が「母」に感激して「四十年」の第一部を終り、追っかけてるので、あはて気味です。「四十年」の中の人物はすべて我々自身または我々の周囲の連中に似てゐて、全くそのみにくさ、みすばらしさに時々嫌になります。さう云ふあぶくのやうな連中の浮きつしづみつしてゐるあの歴史時代の壮大な波の面白さが、僕を「四十年」からはなれさせないものでせう。ゴリキーはもつと読まないといけないやうです。「フオマ」をかりて来てゐるから、「四十年」の次に読みませう。

今日もあなたの手紙が来ない。

僕は来月の中旬頃、信州へ行くかも知れません。別に用はないけれど。

一つコンロを買ひました。普通の粘土とセメントとをこねあはして作つたやうで、ガツチリしてゐるかはり甚だ重くて、一々下へもつておりたり、また持つて上つたりするのは大変です。之でも新しい小使さん(五十才くらいの夫婦者)が大分ならんだのださうです。金五円なり。安いのではないかしら。

新しい小使さんと云ふのは、今までの小使さんの妻君の両親なのです。亭主君の方はちよつと島村君が米屋か何かして、年をとつたらかうもならうかと思はれるやうな感じの(こんな所へ島村君を引合ひに出すと怒られるでせうが)人の好きさうな、体格のがつしりした六十近い人(顔や身体つきが若干島村君に似てゐる)で、今朝も折から帰京中の一色虎児氏と庭で大きな声で話しあつてゐたと思つたら、早くも芝生の一角をきれいに切りとつて、防火プールの黒土の縁へうつつうえ、そのあとを掘り返してうねを作りました。「旦那(僕のこと)のおつけの実ぐらいつくれますよ」と云つてゐた、その畑にするのでせう。妻君の方は小柄で色がくろく、背がちよつとかがんでゐて、頭の髪油の匂がプン／＼して、おちよぼ口でくり／＼の眼をした、抜けめなさうな五十女ですが、そのオチヨボ口は甚だ発火しやすい速射砲で、一旦サクレツすると、その辺にころがつてゐる石ころであらうが何であらうが、片つぱしから弾にこめてパン／＼とめどなくつるべ射ちするので、僕も防弾チョッキが必要です、

午後から雨になりました。露台から観望すると、はるか彼方にそそり立つふるやのアントツからけむりが出てるので、之から風呂へ行きませう。

では早苗ちゃんによろしく。桃太郎を送らう〜と思ひつつ不精してゐてすみません。

では又。

幸子から謙一あて（一九四四年一月一七日記、一八日消印）

九月十七日（水）曇―雨。

今日は婦人会の遠足で、さくらさまとかへゆく筈でありましたが、曇つてゐたため止めましたら、まもなく雨になりました。大勢出かけたらしいから、何処かで雨にあつたでせう。知つてゐる人はほとんど有りませんが、それでも遠足はし度いと思つたのです。

病院は十六日定休を、十七日に繰りこしました。本日休業と看板を出しても、誰もそれに注意しないらしい。患者は相変わらず、休みなので何時もより多い位でした。早苗ちゃんと郵便局へ小包み（あなたの冬着）を持って行つたら休みでした。

午前中は二階でフラビエの「女生徒」だのホーソンの短篇を読み、シューベルトの冬の旅を四枚きゝました。

今日こそは何とか便りの来るような気がしてゐましたが、とうとう夕方になつても来ませんでした。病気が非常にいそがしいか、何か事故かと心配になりましたが、病気や事故なら、きつと白田嬢が葉書でも下さるにちがひないと思ひ、心配しない事にきめました。

こちらは本当に朝夕寒くなりました。秋が東京に比べると短いのです。霜さへ下りました。もう稲刈が始まつて居ます。勤労奉仕の児童が鎌で指やら足やら怪我をして、ぞろ〜とやつて来ます。稲を刈つた後の田ンぼで蝗をとるのです。吉武さんや伊藤新一さん、元気でせうね。たまにはあの方達に逢ひたい様な気分がします。松沢正明さんはどうしたでせう。

ここでは毎日毎日、きまつた顔ときまつた話、極くごく範囲の狭い話ばかり、結局無人島にゐた方がまだましだと思へる時が多いです。邪まをされず気兼ねせず、自由に時間を使へるのは、随分いいことですからね。何をよんでも考へても、どうやら腸の自家中毒と同様の結果を起してゐるらしい。従つて何か書けば、一種のガスの発散みたいなものになるのでせうね。

午後はランティションにかかりました。時々中断されますが、それでもノオトを一〇枚位とりました。始め相当苦し

い阪^阪を登つたので、よう／＼平地へたどり着いた様な感じがします。感想を書きたいものと思ひますが、どれも皆、目新しい知識で吸収する一方ですから、感想など書く祐佑^{祐佑}はありません。書けたとすれば感嘆詞の連続になる位なものでせう。

「クロPPER」とは何と悲しい存在でせう。そして彼等の子供たち―楽しみかりし幼年時代は五、六才で終るのでね。尤もそれ以前だとて、意識したら楽しい事はないでせうが。小説をよんでゐる時にうけると同様なものを、あの硬い文章の中から感じます。

外はまだ雨が降つて居ります。今日のお夕食は鯉のうま煮（砂糖の代りはたんしやりべつ）です。東京の食糧事情は其の後如何？以前同様、加速度的に悪くなりますか。こちらでも段々押詰つて来ます。野菜は一度も買ふ事は出来ませんが、 $\frac{1}{3}$ は自家製のを、 $\frac{2}{3}$ は患者さんの貰ひものです。炭は疎解^{疎解}児童へ、十月分は譲る事になりました。これからもう一時間位、何か読んで、床につきます。

ではおやすみなさい。

十七日夜

幸子

謙一様

幸子から謙一あて絵はがき（一九四四年一〇月一八日の消印）

十四日附お手紙並に絵葉書うけとりました。毎日楽しさうで何よりです。下着類はそちらにあるとの事ですから、送るのを見合はせました。伊藤さんに「家」の件、きいて下さい。

十月十八日

謙一から幸子あて（一九四四年一〇月一八日の記）

十月十八日（水）雨

お手紙No.13、14拝受。

昨日は少々ヒス手紙を出しました。原稿がすすまないとヒスになります。だがあの手紙に書いたことは本当です。「プランテーション」にしても何にしても、自分の之まで書いたものの悪文ぶりにつくつくいやになつてゐます。どうしてもつとスツキリ書けないのか、結局頭が悪いのでせう。俳句や和歌をくさしたけれど、俳句で日本語の勉強も必要なのかも知れません。

「南部問題」の感想を有難う。ルーズヴェルトを改革政治家でなく、むしろ帝国主義的政治家と規定したのは、Censorshipへの考慮からです。本当は彼は Bourgeois 政治家としては、歴史上殆ど最大の Democratic な政治家の一人でせう。一九三六年の選挙の時などは、決定的に国民的立場に立たうとし、国民的支持によつてのみ再選されたのです。だが、彼が結局 Bourgeois 政治家として、その Democracy に徹底し得ず、動搖的であることも事実です。そして Democracy に徹底し得ない結果、国民的立場へも徹底し得ないし、しかも国民対金権主義の抗争が激化して中間的存在が困難となる時、さう云ふ動搖性は、帝国主義政治の中へのがれざるを得なくなるのです。で、彼が国民に対して改革的ゼスチュアをするのも、実は国民の圧力がそれを強ひるのであり、国民としては一つの獲得を意味するのです。国民の側の獲得は、反動勢力にとつての退却です。だからプランター等はゼスチュアにも反対せねばならなくなる。政治と云ふものは、力と力との抗争を含んでゐます。国民的圧力が強ければルーズヴェルトは改革的になるし、反対側が強ければ反動的になる、しかも金力へ依存する方が事は簡単です。何故なら既成の機関をすつかり利用出来るから。

僕の之までの叙述方法の欠陥の一つは、現象的なもの個別的なものから、本質的なもの普遍的なものへの上昇が、最短路をとらなかつたと云ふ点にある。現象的なもの個別的なものからは入ると云ふことは、芸術作品の一般的法則だが、歴史叙述にも適用してあやまりでないと思ふ。だが、その現象なり個別なりは、本質なり普遍なりへ、直通してゐるものでなければならぬ。最も印象的な入り口から直ちに本体へは入るやうな方法、之が大切です。所が僕のはちつともさうでない。本題へは入るまでにずいぶんぐづぐづする。之は実は自分の認識の過程を、そのまま辿りすぎるのです。自分の認識はいつも鈍く、まるで星雲の最初の運動のやうに、漠然たる運動から進むのだが、認識の成果を叙述する為には、その最初の漠然たる運動は必要ではない。

歴史叙述は凡ゆる科学と同じく、先づ個別からは入る、だが最も本質的な個別、細胞のやうな個別からは入るべきである。この原則を見失ひがちの結果、現実のダイナミックな態様を再現出来ず、雑駁な迫力なきものになつて了ふのです。毛のシャツは三枚（一つはメリヤス）あります。ズボン下も三枚。ネルシキフは出来て来てゐます。たしかに近頃さむ

く、朝、火を起しに起きてても、以前のやうに楽ではありません。さうは云つても朝や夜のさむい時でも十四度か五度で、今日は朝から雨ですが、今十七度です。信州とは比べものにならないでせう。だから今日始めてモンペの下に夏のステテコをはき、シャツももう暑い夏のアンダーシャツを着たのです。昨日までは下はパンツの上ですぐモンペだし、上は夏の袖ナシ(白い布地でこの夏作つてもらつた)とワイシャツとジャンパーと之だけでした。二、三日前に風邪をひいて若干気分が悪いので、今日は一枚づつ増した次第。当分これでやれるでせう。夜着もまだ毛布だけです。ふとんは十一月まで着ないつもりです。白い毛糸シャツは送りかへしませう。

僕達は警備召集と云ふのがあつて、空襲の時は二等兵として、高射砲陣地などへ召集されることになります。私服のままです。すめばそのまま解除と云ふわけです。今日ぐらゐに在郷軍人会へ届けて出ねばならない。空襲は相当テッテイ的ですね。台湾東方海上の戦果がもつと上れば、しばらく息がつけるでせうが。

今朝は六時に眼がさめたのにまだうす暗かつた。ムシパンにカブの菜葉を入れ、カブ自身は一緒に蒸して、ソースでたべたら中々うまかつた。二、三日客があつたら食物のストックは忽ち減つて了ひます。今はカブばかり。だが今日はまた何か野菜をかへるでせう。一昨日の夜から今朝まで、カブばかり食べて、とうとうソースをすつかりのんでしまつた。今夕はカブのシチュウみたいなものを作つてみよう。だが昨日風呂ではかつたら、十四貫二百ぐらゐに肥つてゐました。朝ちやんは就職しましたか。

では今日は之だけで投函しませう。
之から手紙のNo.は裏へつけます。

謙一から幸子あて(一九四四年一〇月一九日の記)

十月十九日(木)雨

また雨、本室にゐれば防空訓練のある日です。

昨夜ははからずも国民酒場の列に加つて、戦果の増配祝酒を人並みにのみました。夕方もうぼつ／＼皆の帰る頃、八木君がニヤ／＼笑ひながら、それでも用あり気に僕の部屋へあらはれました。

「菊池さん、誘惑に来たんですがね」「誘惑?」「ええ、実は之から一ぱい飲みに行きませんか」「飲みに?どこへ?」

「ほらあの駅のそばの国民酒場ですよ」。僕はまっくらな横丁にガヤ／＼煙草をふかしたり駄弁つたりし乍らならんでゐる行列を想ひうかべて、どきもをぬかれました。あんな所へならぶのか。「国民酒場とは驚いたな、ならんでも本当にのめるんですか」「昨日から戦果の祝ひで増配あるんですよ、二杯か三杯のめるでせう。実はあなたと一緒だったら、二、三杯目には僕等に特別増配みたいな形になると思つてね、虫のいい話だが松村君と相談したんですよ。松村君は朝から、僕がきつとさう云つてさそふだらうと待つてゐたと云ふんですよ」「それぢや行きませう。だが僕は晩飯の仕度をしておいてからにしなきやならんから、ちよつと待つて下さいよ」「いやそれについてもう一つ虫のいい頼みがあるんですがね。実は今日買ったかぶらを煮て頂きたいんです。酒のさかなにね」「それなら一つうまいふかしかぶらを作つてあげよう。塩味でいいでせうね」「ええ結構です。それで僕達は之からならびに行きますが、あなたは六時頃来て下さい。六時半頃から始まるんだから」「よろしい行きませう」。

酒をのみたいわけでもなかつたが、この頃暫く行列にならばないので、久しぶりに多少毛色のかはつた行列に加はつて、彼等の時局雑談なり何なりをきいてみたいと思つたのと、人の好い八木君の酒のみらしい虫のよさに好感がもてたので、承知する気になつたのです。臼田君はおさつが食べたいからと云つて、火を起すのを手伝つてくれて、五時半までにおさつもかぶらも出来ました。ふかしかぶらは実にうまく出来ました。それを臼田君のベークライトのふたつき丼に一杯つめ、ハンカチに包んで五時半すぎに駅まで出かけました。国民酒場は駅のそばの鶴兔市場と云ふ、昼間は雑炊食堂をやつてゐるうす汚い所なんです。行つてみるともうすつかり暗くなり、市場の前の横丁にはシヤガンだり、かべにもたれたり、まだ列をつくつてゐない人々が、タバコの煙を夜目にももう／＼立て乍らガヤ／＼待機してゐました。之は探すのが大変だと思ひ乍ら、「八木君、松村君」と時々呼びつてキョト／＼二人を探しまわつたが一向わかりません。その中人々が四列にならび始めました。僕も半ばあきらめ乍ら帰らうかと思ひ思ひ、それでももう一度呼び歩いてゐると、「あなた、ここに一人分あいてゐますよ」と親切なのが列の中へよび込んでくれたので、ついフラ／＼とそこへは入つてしまいました。職工、自由労働者、店屋のおやぢ、会社員、自由職業者、隠居、紳士、和服の者、洋服、パリ、職工服、国民服、老若凡ゆる階層の男が馴れ切つた落ちつきぶりでありとめもなくしやべつたり、たばこをふかしたりして数百人、まっくらな中であらんでゐるのです。

「昨夜はよかつたですな、三杯のめたんだからな」「よすぎたんだよ、だからその話がわつと伝はつて、今夜はこりや大変だよ、五、六百人ぢやきかんな」「八百人分あるんだらう、今日は番号が若くないと一杯のめねえな」「ここはならん

でのみはぐれがないからいいんですがね」「それにここの酒はうまいよ、合成酒でもこの頃はうまくなつたな、こちらの舌がきかなくなつたのかもしんねえけど」「今日は何か戦果なかつたですか」「さう欲張んなよ」「大蔵省が酒の増配やるんだねえ、大蔵省とは驚いたねえ」「だけどすぐぐれなきや特配にならんなあ、まだ九月分ぐれないんだからなあ」「一緒にくれると特配になるね、一升くれんかな」「新宿ちや中々のめねえ、昨夜はやつとビール一杯のめたけどずい分ならんだぜ」「この間大嵐の日があつたでせう、あの日にこへ来てみたんですよ、あのどしやぶりの中に百二、三十人ならんでるんだから驚いた。中にはみのを着たのがあるんですよ、みのをね」「そいつはいいね」「飲んだのと飲まんとでは、翌る日顔あらつた時感じがちがふね、飲んだ翌日は顔がツル／＼してるが、飲まん日の翌る日はザラ／＼だよ」「毎晩三杯のましてくれと文句ないんだがな」「それにしてもぞろ／＼来るね」「心配すんない、八百人分あるんだ」「この辺にあきやねえか」「あきやなんかねえよ、後へならびな」ガヤ／＼／＼。酒のみの話は意地汚くて、のむ話ばかりで余り時局談が出ない。それでも食べる行列よりは、余い^{あま}うがあつて呑気^呑でいいです。「女のは入る行列の方が殺気立つていかんな」と誰かも云つてゐた。

「今日はおやちの来るのが遅いな」「大勢すぎるからどうやらうかて相談してるんだらう」「今日は特別に二杯づつませようかと相談してるんかもしんねえ」。云つてる所へそのおやちが提灯をもつてあらはれて、四列横隊へ番号をかけた。僕の列は七十五番でした。それが百何十番から二百番近くまであつたらしい。三丁ばかり四列でならんで了つたのです。総勢八百人近い。おやちは今日は大勢すぎるからいつもとやりかたをかへようと云ふ。「どつちにしませう、多数決にしますからね」。何がどつちかわからないのですが、「さうしろ／＼」「それでいい／＼」「何でもいいから早くしてくれ」と、結局さうなりました。どうするのかと見てみると、十番毎に区切つて四十人単位にして、その一番端の一人にくちをひかせるのです。僕達の群（七十一番から八十番までの四十人）は「七番」が当つて、「7」とかいた紙の旗が七十一番の前列の人に手渡されました。「七番ならけつこうだ、十何番になるとやり切れねえと思つてたんだから」「七番なら二三五、六十人目にのめるわけだな」。どこか若い番号のあたつた群で歓声と拍手とがわく。「一番か二番があつたんだらう。うまくやりやがつたな。一番か二番なら二度ならべるからね」。やがて「おーい一番、前へすすめ」で「1」と書いた旗をもつたバーバリのひよろ長い中年男を先頭に、大分後の方から一列にならんだ四十人が、僕達の前を通つて酒場の方へぞろ／＼進んで行く。次は「2」番。「3」番は僕等より大分前の方にあつたらしいが、四番も五番もずつと後の方でした。すなはち早く来てても駄目で、抽セン直前にかけて一番うしろへ列んだ連中でも、

二番目か四番目の群には入って早くのめるわけなのです。

暗くて狭くてがやく／＼ざわめく中を、みんな神妙に秩序正しく一列に進んで行きます。「四時からならんでゐたのに十六番だから情ないな、六百三十人目になるんだから、一人三分としても大変だね」「一群で十分としても十六番までには一時間半ばかりかかるな」「それぢや四時間半か五時間待つことになる。いやになつちやふな」「くぢは仕方ないよ」「さうだ、くぢなら仕方ないよ」「どっこいしよ、立つてるとくたびれるし腹がへるから坐るよ」。さう云ふ不偶な連中のボヤクのをききながして、七時二十分頃に立ち机でトツクリと湯のみ茶碗とにありつきました。一合七十五錢也だが中々うまく、冷だが、茶わんに丁度三バイぐいぐいと一息にのんで了ひました。仲間と一緒の連中は、つまみものか何かでちよいとたのしむやうにゆる／＼のんでゐるのもゐましたが、二回のむ野心の連中は、あつと云ふまにのみ終つてあたふたと別の出口に急ぎます。二、三人の女がひつきりなしにトツクリをもつて来て空のとかへ、茶碗と一緒に支給します。中々秩序整然としてゐるので、之から時々来てみようと思ひました。

折角持つて行つたカブラはそのままもち帰ることになり、たつた一合とはいへぐいぐい／＼のんで、そのまま勇ましく、誰かやはりたつた今のんで朗らかになつたオツサン連が「チカラノカギリタカハン、シヨオリノヒマデエ、シヨオリノヒマデ」と調子よくうたつて歩くそのうたに、思はず歩調をあはせて数回水たまりへふみこみ乍ら帰つて来たので、よくまわつて、家の近くまで来た時は船にでもつてゐるやうでした。それから冷えてはゐたが中々うまいふかしかぶら三人分（九個）と、冷飯とかぶらのみそ汁とで夕食をたべました。

ここの小使君も列んだらしいが、まだ帰つてゐませんでした。今朝きいてみると、三番だつたので二杯のめたんださうです。八木君、松村君もやはり三番でのださうですが、腹がへつたのでそのまま帰つたとのことでした。

九時頃にはすつかり酒の気はぬけてしまつたが、あれで六時半ちよつと前に行つて二、三番までにのめたら、大して時間つぶしにもならず、時々行つてみるのもよささうです。あなたには一向退屈な話で、なが／＼紙面をついやしてすみませんでしたが、うつ／＼うつ／＼この天気にも、こんな気晴し話もつい書きたくなるのです。

昨日の手紙で「南部問題」のNo.3の終り頃に「公然たる反対」とあるのは南部か、また選挙政策としてのゼスチュアなら、むきになつて反対するに及ばなからうと云ふ疑問がありましたね。第一の「公然たる反対」とは南部だけでなく、北部の共和党（財閥や保守派）も反対しました。第二にゼスチュアの要素があると云ふことは、ローズヴェルトの主張に不純な要素があることを意味し、その不純さの故に、折角改革的意図があつても「うまいことを云つて自分が四選さ

「それだ」と云ふ風な反対論を許すことになる。云ひかへると、普遍的意義をもつ改革を、自分の個人的欲望または自党の党派的政策の手段にすると云ふ点に批難の余地を残し、本来改革そのものへ反対したい反動連中は、「改革には反対と云ふわけでないが、ルーズヴェルトが改革を食ひものにするのがけしからんから、彼の政策に反対するのだ」と云ふ風に口実つけて、改革政策をつぶしてしまふことが出来る。すなはちルーズヴェルトが普遍的任務と自分の個別の意図との真の統一でなく、その不純な混同があると、反対派はその普遍への反対（之は国民の同情をひかない）を個別への反対（之は国民に若干訴へ得る、何故ならこの個別たるルーズヴェルトの意図が不純だから）のやうな形で公然とやることが出来る。ロシアの政治にはかかる普遍と個別との混同がなく、その真の統一があるから強力であり、ゆるぎがなく、自信があるのである。

今日は防空演習の筈だったが、防空壕が水たまりになって駄目なので、とりやめになりました。今日もまた一日かぶらの蒸したのを食べました。もう一日分ぐらいあるから明日もかぶら。
では又。

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月二〇日付け、同日の消印）

此の頃の忙しさと云つたら―手紙を落ちついて書く暇ありません。従つてランティションも、一寸も思ふ様に進展せずゆううつです。今こそ油も乗り、数字のトラブルも克服して、あなたと一語に住み乍らまつぐらに勉強したいと切実に願ふとき、―それも出来ず（看護婦のやめたりの出はいり、たへまない来客、お母さんのカンシヤク、早苗のおもひへフーチヤンはキンローホーシ）、午後は手術、掃除は人手もへつて量はふへるし、夜も患者。

あなたの方は時間は朝から晩まで、若いお弟子もゐて、共同勉強の大張切りなんですもの。しかもうれし相にひけらかしてゐるところもあると来ては、私も「詰らんや」と云ひたいところです。あんまり疎外された感じましたので、少々不明朗になりました。でも、あなたのお弟子さん達、全くいい娘さんばかりですね。そして猛烈に熱心なお弟子さんたちで、あなたも心ゆくまで教へられるんですね。

古田嬢とかは本当にかわいい娘さんの様ですね。逢つて見たい位です。白田嬢ばかりをヒキキして特別扱なんかしてはいけません。白田嬢も随分エライ人ですね。もう秋野さん以上になつたんですつて。若くて理解力も語学の力もたつぷ

りあるから、指導次第でどん／＼伸びるのですね。あなたも今度こそ楽しみでせう。兵隊も徴用も来つこありませんし、結婚も当分は駄目ですから。女の子／＼と云ひますが、対等の人間として扱ひ、理解ある熱心な指導があれば、どんなでも伸びられるんですもの。他の男の人たちだつて、さう云ふ風にしたら、ずっと日本の女の人数般が伸びて来るんですのね。白田さんも勉強の楽しさや仕事の面白さに、どんなに張切つてゐることでせうね。Aさん―食欲の人ですか。除けものにされて、詰らながつてるんぢやないんですか。白田嬢も本当にまれな娘さんの一人でせうね。

私、あなたの此のごろの手紙から感じましたけど、あなたは勉強を媒介に個人的に親しくなりすぎてゐやしないかと思ひます。あなたは彼女がお弟子でもあり、助手でもあり、かわいく思ふのは当然であります。―矢張りあなた方は男の人と女の人であるのだし、女の人はたいに個人的に特別の存在を求め勝です。あなたが女の人によい協力者で、理解者で、指導者であつてくれる事は本当によい事で願はしい事ではあります。ともすると友人関係(特に女との)は、個人的になり恋愛にまで発展しやすいものです。私との場合もまあ、そんなところでしたから。でもあの時のあなたと、今のあなたは大変立場が變つてゐます。

私はあなたを信頼してゐますし、あなたの愛情を確信してゐますから、あなたに対しては一寸もキグを感じません。若いお嬢さんとはかくロマンティックに考へるくせがありますから。経験者であるあなたは一応その点を注意してゐて戴き度いのです。天文学の勉強のことも、結構にはちがひありませんが、どうもあまりに適切すぎる感がありますね。此のごろあなたはずつと星の事ばかり手紙に書いておるのでしたので、あなたが又星に憧れておるでなのかと思つてゐたら―白田嬢のためなのね。それでも結構ですけど、ロマンティックな憧れとか、あなたの始終書くエクスタシイとか―さうして時と場所、―あんまり二人つきりのフニキを作りすぎるのぢやありませんかしら。

私かうも感じました。あなたが或は意識してそれをやつたのか―それなら問題はありませんが。あなたの新しい原稿への熱情も、そこから湧き出したのなら、何をか云はんでせう。でもそんな風に思ひ度くありませんわ。

矢張り、あなたは私にとつての誠実な夫だと信じて居ります。私が詰らぬヤキモチを焼くのなら、どうぞたしなめて下さい。私はこちらへ来たくないのに、強制的に來たんでせう。あなたの勉強第一主義のためならと思つて、早くこちらにおゐて下さいと云ひ度くつてたまらぬところを、ギユツと押へてなる丈楽しさうに暮してゐるのでせう。ですから「そんなに云ふと本気にやるぞ」などと、此の前のように恐ろしい事を云はないで、すこしは慰めて下さい。あなたのいい仕事のためにはどんなにでもがまん致します。

あなたのブランティションは内容濃厚につき、ノオトへ要約など中々で長くなりますから、たつぶり時間がないととても進まないのです。それなのに忙しいのでくさつてしまひます。

ではとりいそぎ。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年一〇月二〇日の記）

御申越の天文講座の中一冊御送り致しました。外に御入用あつたら、御遠慮なくと申上げて下さい。

十月廿日

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月二〇日付け）*

10のお手紙落手。

今日の手紙は100点の手紙と云ひたいけど95点にします。此のごろ中で一番いい手紙で、心からの満足感を与へられました。本当にうれしかつた。どうもどうも有難う。

ブランティションのことお叱りですが、私、ちつとも恐縮しないでよめました。だつて私は此のいそがしい中から、どうかすると十二時、一時までもよんでセッセとノオトをとつて勉強してゐたんですもの。だからおかし位、安心してしまひました。私ね、うんとうんとう消化化してから、感想を書いて送らうと思つて―それにどうもちつとも暇がとれないので、亀の子よりも歩みがおそく、ノオトはたつぶりあるから、短い時間でチヨコくあはた（あ）だしい走り読なんか出来ませんもの。前便にも書きましたが、まつたくあなたの文章と云ふのかしら構成は、内容が充実してゐるから、要約とかまとめとか一口にノオトが取れないんです。たいてい一こまづつ読んでラインをして、終るともう一度ゆつくりよみ返し、三度目にノオトをすると云ふ風にやつてゐますので、それはくゆつくりしか進めません。たとへば第二章第四節四―から後は一ツづつが4―6ページ位のノオトになります。私、毎日共に語る人もゐない乍ら、皆のね静まつた家中で、あの六畳で、唯一人灯をつけて一生懸命やつてゐるんです。どうぞ怒つたのは、止めてほめて下さい。

第四節四からはすばらしく面白くなりますが、同時にあまりに悲痛な事実で、胸の中がしめつけられる様になります。思はず長いため息が出来ます。殊にシエア・クロツパーユニオンの要求条項の中の、(四)黒人の子供の九ヶ月の学校の

要求、のあたりをよむ時は涙がこぼれる位でありました。それからクロッパの姿―は、何故だか日本の農民よりも、日本人の妻の姿が頭にたえず浮びました。類似してゐる点が多い様な感じがするのです。

プリンティション制度の事は私がよく話するので、ふうちゃんも朝ちゃんも私位の程度には知識を持つて来てゐます。私は何かの時、チヨイ／＼話す事によつて、ます／＼はつきり把める様な気がしてゐます。それからお父さんもしきりにアメリカ関係をシゲキされ、種々よんでゐますし、此の間のダイヤモンドの米因戦争政治と南部問題は、今よみかけて居ります。まだ皆、ほんのしらうとではありますが、あなたのプリンティションは関心を持つてゐるのです。朝ちゃんも読みたいと思ふと云つて居ります。それから前に書いたWさんにもプリンティションの話をしたところ、是非よみたいと云つて、あなたの本の出るのを彼も又、まつてゐる一人なんです。

だから前、私の云つた文章の六つかしさも、すこしのがまんで直なれて来ます。そして、この内容ではこれ以上の書き様がないのだと思へて来ます。あれを短く切つたとしたら、内容の高い盛上りを目茶／＼に破る事になるでせう。□まんな文章を読みなれてゐると―即ち内容の稀白な―、あなたのぎつしりと詰り盛り上り高まつた内容についてゆくのが苦しみになるのです。あなたの云ふ叙述力の貧困どころか、其の逆なのです（今井先生だつて、ほめたではありませんか。今井先生は筆力とか仰言つたが、筆力と云ふのは文字通りでなしに、問題が消化され考へつくされ、著者の心からのほとばしりだのいみでせう）。研究社のに書いたアメリカ史もさうです。あれをよんでファランドなり、アダムズのアメリカ史に移ると、（原稿の枚数の長い短いはあるが）一寸木の少い砂漠地帯へ来た様な感じがするのです。そしてファランドでもアダムズでも、あまり思考力の努力なしに読み流せるところが感じられて来る。つまりあなたのは、あなたのつかんでゐる問題の高まりが感じられて―（どうも云ひあはしにくい）―いかげんな態度では読み切れぬこと、その代り読者も著者と同じ位に対象に惹きつけられた時は、エリ首をキュツとつかんで、提出されてゐる問題の中へ引きこまれるように、同じ様にその問題に執着せずにはゐられなくなるのです。

それからもう一つ、此のころになつて感じだした事は、あなたの書いたものは、孤立したものを感じさせぬと云ふことです。宙に浮いたものでなく、社会のいろんな面と必ずぬきさしならぬ事実と結ばれてゐることを感じるので。まだ半分しか読めませんが（これは本当に悲しい事なのよ。暇がないんですから）、それで私の感想では、あなたを悲観させた様な「反響を得られぬ」などと云ふ事は決して／＼ありません。真面目な読者がきつと満足すると思ふ。新聞批評なんかどうかわかりませんよ（それは私、問題外なの）。必ず本当にあなたの提出した問題に食ひつく永久の読

者を、ある程度得られると思ひます。其の眞価も年月を経る程、表れて来るのではないか。流行書にはなれないだらうが、バルザックの云ふ良書、長い生命を持つ良書の一つだと心から信じます。

何故私はあれをあなたが書いてゐるころ、のぞきこまなかつたでせうね。何故あなたは強力に私を引きこまなかつたのでせう。あなたの遠慮か、中途半端か、あきらめかを今はむしろにくんでゐます。同時に私のム関心をも。あなたは本當に私に愛情を持つてゐてくれたら、さうすべきだつたんだわ。私に対して当然すべきだつた強力を中途で放棄し乍ら、他の娘たちにはそれを行ふ。まるでいけないぢやありませんか。かう云つたら、キューソ猫の例へになるかしら。キューソは勿論私よ。

私の手紙がおざなりだとのこと。私ね、あなたの此のごろの手紙があまり浮々とうれしうに自分たちの勉強、お弟子のすてきさ熱心さを宣伝するので、私を疎解（疎）しておまけに疎外してゐるわと思つて、とてもくゆううつで悲しかつたのです。そんなき持でゐるところへ東京からの手紙で、「あなたの旦那さんが美人とサつそうと歩きまはつてゐる。要小心せられよ」なんて云つて来る人もゐるし、N嬢も銀座で見えな感じがしました、と云つて来る。又聞いた話では「疎解して来た妻君が東京へ用事で行つたら、会社員の主人が会社の事ム員とアパートで暮してゐて、両方に子供が出来たので、妻君は自殺した相だ。あんたも気をつけなんしょ」と世話をやきに来る人もゐる、と云つたあんばいで、一時は私もメラソコリイで、御飯の量もへつた（但したつた一度だけ）なんて一わけで、何となく私をのけものにしてゐると悲観してゐて、ペンも重く手も動かず、一あんな手紙になりました。ごめんなさいね。

私は本當にあなたの愛情やゲキレイなしでは、一刻も生きる事が出来ないのです。あなたは本當に其の事を知つてゐて下さらなくてはいけません。若しもあなたが私をのけもの扱ひにし始めたなら、私はきつと死なうと思ふでせう。私は何時も床にはいと、ねむる前に必ずあなたの健康、あなたの仕事の安全を念じて、それから安心してねむるくせになりました。お多賀様（和歌山でもおまいりしたでせう）にも夕方の人目につかぬ頃に行つて拝んで来るんです。自分でもおかしいみただけれどーさうすればきつと戦争の危険も空襲も、私の願ひであなたを守るにちがひないと思はれて心が落ちつくのです。前記の様な不安で、あなたに心からなる手紙が書けなかつたのです。私はあなたを信じ、ほこりに思ひ、誠実を捧げて居りますし、あなたも又、私を信じ、誠実であつて呉れる事と信頼致して居ります。あなたの今日の手紙のヒナンの様な「ム関心」は、一日も持つた事はありません。

従つてあなたの新しい仕事へも又関心を持ち始めます。「マニフェスト・デステイニイ」と云ふ合言葉は、南部問題

でお目にかかった言葉ですね。あの最後に出て来るアメリカ帝国主義の侵略のモットーですね。それに関係ある支那問題の資料は沢山あるのかしら。量はどれ位なもの、そして英文で書かなくちゃならないの？

それから私ね、廿六、七日頃、四、五日のヨ定で上京致します。医料器具の買ひものもあるし、ひき茶だの何だのと私の買ものもあるし、皆のたのまれものもあるし、第一に看護学の本を至急仕入れなくてはなりません。一応それらを片つけたら、土曜日頃、経堂の方へ訪ねたいと思ひますから、あなたのお弟子さんに紹介して貰ったり、竹中さんに逢ったりしたいと思ひますけれど、御都合どうかしら。上京したら一応電話でおき、致します。何かプランでもあつて、諸嬢たちと何処かゆく事にでもなつてゐたり、或は早川さんのところへゆくか、誰か訪ねて来る約束があるといけませんから。

⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

そうして私自身のことでも相談もありますから、すこしゆつくり逢ひたいのです。泊るところは何処かまだきめませんが、内藤嬢の家（来たら泊るように云つてくれるので）かいねちゃんのところかしようと思ひます。私の帰るころに、一諸にあなたがこちらに来られたら理想的だけど。十一月中旬には私、和歌山へ行つて半月程暮さうと思つて、あちらのお母さんに約束してありますから。

小使ひのおかみさん、相当こわい人ですね。あなたは私で経験済みだから防弾チョッキなんかいらないでせうよ。では今日はこれでおしまひ。

No.11も一諸に着きましたが、其の分のは明日。相当手紙に時間をとりましたから、プランテーションの時間が（併も貴重なる）うんとへりました。此のころば英語も経済もちよつとも出来ません。波多の経済は、今までやつたところ丈でも、あなたのプランテーションに随分役立つて居ります。

謙一様

幸子

※この手紙文は封筒に入っておらず、かつこれを認めた日時の記載もなかった。ただ幸子発書簡の別の束の中に、「昭和19年10月20日」付けの空封筒があり、手紙文の内容から、元はこの空封筒中であつたものと推測できるので、ここでは「一〇月二〇日付け」の手紙として掲載した。

幸子から謙一あて（一九四四年一月二〇日の記）

十月廿日夜

さつき切手を五枚も貼った手紙を出して来たばかりです。あれから御夕飯、今日は何もなくて、菜っぱとにんぢんの葉っぱの胡摩合と漬物、椎茸と高野豆腐のお汁でしたが、何時になく旨しく食べました。それからお風呂、早苗ちゃんも這入りました。ブラツシユにシヤボンを沢山著けて早苗が脊中を洗つて呉れました。お湯の中に軽石を浮べたりして大騒ぎをして洗ひました。家の猫達、黒も赤もどう云ふ訳か、人がお湯に這入ると直ぐついて来て、湯船の周りの狭いふちをまはつて、さもく一諸に這入り度いと云ふ様子を示します。落ちて来さうで危いつたらありません。猫の方は誤つて落ちて見たら、それも一寸面白いかも知れないと思つてゐるみたいに見えます。

お母さんは隣の下平のお婆アさんと石橋童謡と三人で豊川様へ明日行きますので、火鉢では持つてゆくお握りを焼いて居ります。お母さんにお餞別を五円あげて、私の事をいろいろ沢山拝んで来て下さいと頼みました。

プランティションの時間ですが、今日は其の時間へすこし食ひ込んだつて、直ぐ取返せる自信が有るのです。あなたの手紙がそれ程の大きな力を持つてゐるのです。あなたの私への関心の如何は、それ程私に大きな力を与へるのです。貴方が二番せんじの様な内容の手紙を下さる時は、私の世界全体が鈍い色に変つてしまひます。精神状態は忽ち停滞し、一切がとまつてしまひます。私は此のごろ、どんなにあなたとの一諸の暮しを求めてゐるでせう。一諸の勉強生活を。

皆と自分の当面の関心事を語る時、これがあなたで有つたらと思はずにはゐられません。本当に共感を求める心切実です。それなのにかうして事実上の自立性のない不安定な生活を続け、あなたのはげましや共感なしに、人のね静まつた夜、ねむさも疲れも忘れて勉強する時、心からの孤独を感じ、あなたの手紙丈を唯一の寄りどころとして暮して居るのです。だからあなたの手紙を何辺つ読み返す事です。さうしてねむる前にはもう一度必ず読んでゐました。だからあなたの手紙から言葉や文字に表現されてゐない部分をも感ずる事が出来、心から書いてくれたものと、お義理の出しがらの心情とはすぐに感じられ、それが大きな影響を与へるのです。

此の頃のあなたの手紙はずつと何日何をしたとならべてある丈、そこからあなたの愛情を感じる事は出来ませんでした。唯、私には目もくれない、あなた丈の楽しさがヒラ／＼とひるがへる丈でした。そんな手紙を読んで、一私は目の前が

暗くなつて、本も読めず悲しくなりました。このところずっとさうでしたから、しまひにはあなたの手紙をまち乍らも恐ろしさを感じ、覚悟を決め、それに叩きふせられまいと念じ乍ら読みました。其の度に私の決心は叩きつぶされ、どんなに悲しかったか、これは決して胡張^{こさへ}ではありません。どうかしたかと人もたづねる位のシヨゲ振りでありました。貴方はこんな事を書くとき又怒るかしら。私は本当に空襲の危険だつて、あなたと一諸なら恐くないし、身体の恢復も仕事を辞める事で計りたいと望んだのですが、それが貴方の勉強生活の邪魔であり、勉強生活の邪魔になる物一切を拒む事を受け入れる事が、あなた及あなたの仕事に対する私の採る道だと聞かされて、嫌々こちらにまいりました。あの時の事を思ひ出すと、屠所の羊と云ふ言葉を浮び出す程です。そして、あなたの当面の仕事の終るまで、まづ九月になれば信州へゆけるとの事でしたが、今は何時になつたらそれが実現するのか、皆目解らなくなりました。それでも私はこちらで、一まはりの皆と精神的には孤立の感じの中で、何とか合流し、意義ある生活をしたたいと望み乍ら―あなたの来る日をまち乍ら暮して居りました。時々訪ねてほしいと云ふ希望も、代理の宿直が無いから駄目とのことで、それもあきらめました。だから本当に私にはあなたの愛情を証拠だてる手紙が唯一のものであつたのです。

それで、エイ書いとかなくつちや、と云ふ風に日月の下に粗雑に書き流された手紙だと、私はつき離れ疎外された感じを受け、「お前なんか居なくつたつて、こんなに自分は楽しく暮してゐる」とあなたがひけらかしてゐる時は、すがつてゐた藁をも失つた人間と同じ心持になります。

以上、今日のお手紙で矢張りあなたは私をつき離してはゐない事を感じ、本当にどんなに晴々としたかわかりません。十一月には訪ねてくれると云ふことも。

もう直き、あなたのお誕生日が来ますね。他の人達にも話したの？ そんな事はほしくないわ。私はいいものを作つて、それまでに送つて差上げ様と思つてゐますが、他の人からお誕生祝を貰つたりすると、私があるをよろこばせ様と思つたのが―何もならなくなるんですもの。

もう夜中や夜明は相当寒くなりましたから、毛布丈では風邪を引くでせう。ここ二、三日は妙に暖いけれど。順々に寒くなるのですから。東京へゆく時は、粉が手にはいつたら粉と、その他林檎や梨が買へたらうれしいけれど。お肉もまああつたら買つて、佃煮にして持つてゆきますから、古田嬢や白田嬢と食べて下さい。さう出来たらすばらしいんだけど。前から宣伝して置いて集められなかつたら大変ね。

No.11のお手紙の返事は又、別に書きませう。あまり長いとうるさがつて、よんでくれないでせうから。

では、廿日夜九時

謙一様

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年一〇月二〇～二二日の記）

十月二十日（金）晴。

御手紙No.15と絵ハガキとを受取りました。

十月八日から一週間ばかりは二人とも手紙を出さないで、お互ひに相手がどうして手紙をよこさないのかと思ひあつたのですね。そのかはり此の頃は連日お互ひに受取つてゐる。尤もあなた此の頃のお手紙はやはり何となく義務的で、僕のあなたへの飢渴をいやしてくれるには足りません。僕の手紙もあなたを満足させないでゐるかも知れませんか。

「プランテーション」を読んでゐるらしいので安心しました。感想とは、どう云ふ事実について特にどう云ふ感情を覚えたか、どう云ふことはもつと詳しい方がいい、どう云ふことについてはくどすぎる、どこの部分は迫力があるが、どこの部分はない、自分にはどこの部分が一番関心を刺戟された、どこが一番興味深かつた、……と云ふ風にも書いてほしかつたのだが、でもまあ感想を求めすぎであなたの読む気持をくじいては何にもならないから、感想は書きたくて書く場合をのぞいて当分書かなくて結構、それより早く一通り読んで下さい。

今日は最近やめた英研のA君（女）の送別会を、おいも三貫匁ふかして総勢十一人でやりました。昼の弁当を一緒にたべる予定でゐた所、彼女がおくると云つて来たので、三時のおやつをやることになり、いもは出来たが肝腎の主賓が一向あらはれないので業をいやして、主賓なしでやらうといもを皿にもりわけようとしてゐたら彼女あらはれ、どうか「送別会」になることが出来たのです。

大部物議のあつた女性で、兎のやうな顔とセキトリのやうなズングリ体躯と生理的不快を感じしめられる媚び笑ひ、肩すくめ、そして化粧もしない何か不潔な感じ、かと思ふと突然町奴の盛装のやうな着物を着て来たり、寐ボケ顔で出勤はするが、帰る時には顔面筋肉がうごかなくなるやうな壁ぬり化粧をやつたりするのは、誰も好感を持ち得ないし、本室にゐた時は買ひ出して席のあたたまるひまさへなく、女の子とケンカするおしやべりする（そのおしやべりで一度上田君に大喝されて、爾来上田君を憎んでゐる）、我々の話題へはガムシヤラに割込んで来る、竹中君をタケノコく

とあだ名で呼び、西井君が来て以来はやたらに大阪弁をわざとらしくつかふ、食べ物その他への強引な胴慾ぶりは、西井君さへかほまけするほどで、分室へ来てからは大分熱心に仕事をするやうにはなつたが、とかく変に体臭の強すぎる存在であつたので、送別会と云ふより、いもを食ふことが目的の会になる傾向強かつたのもやむを得ない。

本年廿八才だが、結婚すると云ふのだが、僕の知つてゐるやうな人で彼女と結婚しようなどと思ふやうな人間はありさうにないと思ふのに、臼田君は彼女は竹中君と結婚するだらうと主張するので、かけてもいいと云つてゐたら、むろんやつぱり竹中君とではなかつた。いつもA君と云ふと悪口を云ひたくなり、面と向つてもずい分づけくくと「君の表情は不快なほど多すぎる」とか、「出しやばりすぎる」(竹中君と話してゐると必ず割りこんで来る)とか、その他同様のことを云つて来たし、直接忠告または苦言も呈して来たが、英語の出来ることを自慢にしてよく英語で電話をかけたたりするだけに、頭が悪いのでもなさうで、うっかりすると竹中君より理解力のあることを示したり、僕の云ふことは割合よくきいて、そのかはり僕もよく愚痴をきいてやつたり、T君や庶務課長なんかには彼女の弁護もしてやつたりしたが、僕の出張の留守番も引き受けてくれるし、僕が外の人にすすめてゐる本をきいてゐて、探していつの間にか読んでゐたり、さう云ふ点では饒別の品物をさがしてあげる労もいとほない程度のもであつた。

今日も実は彼女の送別会に竹中君を呼ぶ連絡をしなかつたことと、送別会のために少し余計買つた^{いも}を、明日来る筈の芦野氏のためにとつておかうと云ふ風なケシカランことを主張したことと、T君と一合戦やつたのです。「大体君はいつだつて芦野氏が来るからと云つてはおみやげの野菜に大さわざするが、そんな必要はないぢやないか。丁度その日に野菜がたつぷりかへたからわけてあげようと云ふのなら異論ないが、君のやりかたは上役にみつきものをささげて御機嫌をうかがふおべつかやのやり方みたいにしか思へない。彼が困つてゐるから頼むと云ふんなら、そりやわけてやるのもいい。だけど余り有難さうな顔もせず、あたりまへのことのやうに受取つてゐる連中なんか、めつたには入らないものを献納に及ぶまでのことはないよ。そんなくらいなら送別会のいもをふかしてくれた小使さんにやる方がよっぽど順当だ。大体経堂へ来ればおみやげもらへるなんてことになつて、用もないのに来る奴が出来るのは、こつちでおべつかするからだ。君だつて芦野氏に人間的な親しみをもつてゐるわけではなささうぢやないか。かげではぶつ／＼悪口を云つてるぢやないか。それに来れば不必要な好意まで示さうなんて感心出来んよ」と云ふ調子でづけ／＼云つたので、さすがのT君もひたすらオベツカでないことを弁解しつつ、「皆さんが反対なら無理にと云ふわけではないけれど」と甚だ弱気な顔をしたので、僕もちよつと云ひすぎたと思つて、余るならいくらかとつておいていいよと妥協し

てケリにしました。

どうもT君と云ひあふと、侮辱的な言葉もはきたくなり、必要以上にとつちめすぎるので、僕も自分乍ら愉快でなく、之からつつしもうと思つてゐたら、T君がさきに歸つたあとで、みんなから、今日のケンカを痛快がつてゐてくれたことをきかされて、若干気がかるくなりました。みんな(男も女も)T君が上にへつらひ、下に専横なのを目に余ることと思つてゐるのです。芦野氏に折角のいもをわけてやることにも、みんな反対だったのです。それにしても、女の子はとにかく、男連中はどうして僕と一緒にT君への反対を表明しないのか、いつものことだが少々ふんがいたくなりま

す。

十月二十一日(土)晴。

此の頃、僕は肥つたと思つてゐたが、実は何だかムクンで来たやうです。顔の色や感じがどうも不健康で、眼のまわりなどはたしかにムクンでゐます。この頃左の眼がよくない。そこへ不精ひげぼう／＼で我乍ら汚らしい。今日は芦野氏に会はねばならないので、一週間近くほつてあつたひげをそりました。食事が終つた所へ白田君が来て、「今日は金チヤン(芦野氏の別称)が早くあらはれると云ふから、モンペ、ジャンパーちやいかんかな」と云つてゐる所へ、こつ／＼扉をノックして当の金チヤンがは入つて来ました。ちよつとどぎもをぬかれてあはてて立ち上り、「まだ平服をかへてなくて」と弁解にならん弁解を云ひ乍ら、洋服ダンスをひらいてモンペの上にズボンをうがちなどし始めると、「さうか、まだ何か……」と彼も要領のえんことを云ひつつ、おさまりがつかないので、「ところで昨日電話で頼んでおいたもの出来てゐますか」「実は三人で意見は決定しましたが、之から書かうと思つてゐるところで」「ああさうですか、ぢやお昼までに作つて置いて下さい」、かくの如くまづ不首尾です。彼もいはば人の私室へふみ込んだやうな具合の悪さを若干もてあましてゐるやうに見えたので、すでにネクタイもしめ終つた僕は、折柄本棚を見てゐる彼に話題を

てい供しました。

「レッキイは調査会で買つてあつたのですが、カードの整理が出来てゐなかつたので、急いで整理してもらつて今読み出した所です」「そりやよかつたですな。これですか。なるほど。八冊だね。これだけで一生仕事ですな」「レッキイは廿台から道徳史なんか書いてゐますが、それは油のり切つた四十台の労作です」「菊池さんも四十頃にはアメリカ史で之くらのもの書けるだらう」「さうなりたいものです。今の調子を之から七年持続すれば、書けると思ひますが」「さ

うだね。併しイギリス人がイギリス史を書くのと、日本にゐてアメリカ史を書くのでは、大分条件がちがふわけだね」「資料の点などでは決定的に不利ですが、歴史の洞察とか批判とかになれば出来ないわけではありません」「それにしてもずい分アメリカ史の本も集まつたね」「何とかかとか云ひ乍ら二、三百冊集めました。中には他にも少い立派なものもあります」「個人でこれくらい集めてゐるのはちよつとないでせうな、これはあなたが買ったのかね」「さうです、本郷でみつめました。中々面白い本です」等々ですつかり始めの不首尾もどこかへ行つて了ひました。

「それはさうと君はここへねるんですか」「この所へうなぎの寐床のやうに長細くふとんをしいて」「飯は自分で作る?」「朝食分作つて了ひます、コンロですから」「どこで火を起すの?」「露台で」「ふとんを入れる所はあるんですか」「そのふすまの向ふの二畳に押入れがあるんです」と云ふ風な問答になつて、間もなく退散しました。あとで白田君が、「菅野さんてかた、ずい分紳士的なもの云ひかたをするんですね」「そりや僕が紳士だからだよ。それにしても若干おどろいたね」ですみました。菅野氏が半ば私室になつてから、この部屋へあらはれたのは始めてだつたのです。

戦争終結史のプランを作り、N君とまたしても一合戦せねばならなかつた。戦争目的を検討して、政治的攻撃側（侵略側）と政治的防禦側（防衛側）とを判定する必要があると書いたのに対して、N君は、その政治的攻撃防禦の概念がわからないと云ふのです。当然出て来る反対論だと思つたので、N君の歴史観の全面的論難を展開しました。彼の歴史主義、個別主義、云ひかへれば歴史の進歩性の否認、普遍的歴史の否定、遂には歴史的法則の否定、歴史批判、価値判断の否定、之等すべてを徹底的に論断し、「歴史批判、歴史的价值判断、歴史の洞察を否定すると云ふことは、君の歴史理解力の貧弱さを告白することだし、プロシヤの絶対王制をフランス革命と比べて、どちらが進歩的だか簡単に云へないなんて云つて結局プロシヤの反動的制度を弁護しようなんてするのは、君の歴史家的態度の偽善性の表明だ。君の理論で行けば、歴史には普遍的法則はない、歴史は個別的で従つて遅れてゐるとか進んでゐるとかはない、歴史は科学ぢやない、宗教だと云ふ風な、歴史の学問性の否定にまで到達する。君はフランス革命当時のプロシヤ絶対王政を、プロシヤにとつて合理的なもので、当時のプロシヤの進歩的連中を先走つたものだなどと云ふが、すでにその進歩的な連中が出てゐること自体が、プロシヤ絶対王政の不合理化したことの証拠ぢやないか。そして進歩的連中が失敗したのは、彼等が時期を知らなかつたとか、彼等がさき走つたからと云ふよりも、むしろ彼等の正しい努力を抑圧した不合理な制度たる絶対王制の反歴史性の強さのせいだ。だのに君は人間の正当な歴史的努力たる近代化、進歩、改革の苦闘を評価するのではなくて、さう云ふものを抑圧し阻害した不合理な絶対王制を、当時としては合理的だつたんだと云つて弁

護するなんて、歴史家として恥づべきではないか」。実はもつと強い言葉で攻撃し、更に「戦争史をやらうと云ふのに攻撃と防禦、政治と戦略の区別もつかないなんて話にならん。戦争目的の判断に攻撃と防禦との区別を判定することは、近世国民戦争の研究の始つて以来の常識だ。クラウゼヴィッツでもジョミニでも読んでみたまへ。試みに歴史の素人にきいてみようぢやないか。堀江君、どうだね、戦争を判断するのに、どちらが政治的に攻撃的かどちらが防禦的かを判断することは第一になさねばならんし、ふつうさうしてゐるだらう、そうぢやないかね」「そりやさうだね、政治的目的が正当か否かと云ふことは、その戦争が防禦的か侵略的かと云ふことだし、そりや菊池さんの云ふ通りだね」「さうだらう、戦争をやる国の凡ゆる努力は、自分の国が攻撃するのでなく、攻撃されたから正当防衛をするんだと云ふことの宣伝にあるぢやないか。戦略的に攻撃する場合でも、政治的に防禦戦争だと主張するだらう。防禦戦争とは国民戦争であり民衆戦争であり解放戦争であり、歴史的に進歩的戦争だ、攻撃戦争とは封建戦争、絶対主義戦争、帝国主義戦争であり、歴史的に反動的戦争だ。この歴史的判定をやらずに戦争の性質の規定も、その本質の究明も出来はせん」。

倉橋君は僕の意見に賛成しながら、N君と妥協しようとするので、僕はゆづらず、結局原案を芦野氏に出して、芦野氏の意見をきかうと云ふことになつた。傍聴者の八木君、堀江君（二人とも英研）も、僕等の討論を面白がつてきいてゐたので、時々二人をまきこんでは、徹底的にN君の歴史観をこきおろして了りました。あとで芦野氏もむろん僕のプランを全的に承認して、「初めからかう云ふ風な規定をつくればよかつたね」と中々上機嫌でしたので、N君もとりつくしまなかつたのです。

N君はあとで「僕も歴史の法則性を全的に否定するのではないが」とか、その他さきに論争の途中で云つた自分の見解をあいまいにして弁解したが、彼のなまぬるい歴史観が結局歴史批判でなく、甘い観念的な歴史解釈でしかない本質は、既に八木君や堀江君にもうすくわかつてゐたことで、それを僕が徹底的に叩いて了つたのです。もつともつとこれが続けることになるでせう。N君は僕との論争を避けてゐることは大分前からだが、こちらは決して避けない。併し僕も彼と云ひあつてゐる間にドイツ史学の反動性がつきりして来て、有益でした。

だが昨日のT君とのケンカと思ひあはせて、僕が此の頃殺伐な気持になつてゐるのは事実のやうです。だから逆も強すぎる言葉がとび出して、相手を全くペシヤンコにしてさふ。歴史家の中堅を以て自負してゐるN君を、「君のやうなのは歴史家ぢやない」とか「君の歴史学なんて学問ぢやない」とか、人の前で論断するのですから少し強すぎたかもしれぬ。昨日も感じたやうに、今日も少しやりすぎたと思つて、「どうも僕はこの頃ケンカしすぎる。余りよくない傾向

だから、今後抑制しよう」ともらしたところ、八木君と堀江君とは「もつと論争する方がいい。それにきいてゐて迎も面白いよ」と云ふことでした。

だが討論の相手としてはN君やT君はいささか弱すぎるのです。N君は自ら京都の歴史家の中では異端者で、鈴木成高（ランケの翻訳者）その他の歴史哲学主義はもつと徹底してゐて、「僕は論争なら徹底的にやる、鈴木さんなんか先輩だけれど、論争なら先輩でも何でもどん／＼容謝なしにやった」といつも自慢してゐるくせに、僕と論争するとまるでだらしない。一体京都ではどんな論争をやつたのかと思ふ。八木君も「Nさんは自分で異端者だなんて云つてゐるが、本当は相手にされなかつたのぢやないかな、そんなこと云つちや悪いやうだが、Nさんのやうな学問の個性の弱いのは異端になり得ませんな」と云つてゐます。だがまあ、之からは、とるに足らん相手と余りむきになつて論争したりするとはつつしませう。

併しN君が愛読してゐる会津八一（早稲田の先生）なんて人のものも見てみたが、嫌悪を感じた。奈良朝の古美術をいろ／＼うたつてゐるのだが、その仏像の歴史的意味、そこに歪められて反映してゐる当時の人民生活の意態などに寸毫の理解も洞察もなく、ひとりよがりな、氣どりますました「鑑賞」をやつてゐる。之はN君の態度でもあり、多くの日本の文人の態度でもある。何故彼等は、さう云ふ仏像がいかなる歴史的現実の中から、いかなる形で出来たのか、その仏像の作られた時、日本の歴史的民衆はいかなる生活の中にゐたのか、さう云ふことを理解することこそが、芸術（美術）としての仏像を本当に理解することだと思ひつかないものでせうか。彼等氣どりやの日本芸術鑑賞家達、アララギ派の歌人達をも含めての仏像ファンや万葉ファンの歴史的生活への無智無関心、しかもさう云ふ無智を全然反省せずに、自分達こそ唯一つの日本芸術の理解者だと云ふ風な氣どつた様子でゐること、かう云ふことに憎悪を感じます。それはあの「プランテーション」のクロツパーの生活を書いてゐた時、プランターやアメリカの偽善者達に感じた憎悪と同じやうなものです。それはまたN君の「学問」の低俗さ、T君の処世術の卑陋さ等への憎悪とも相通するものです。これはあなたがあるない為に、ついけづり立てられた僕の神経の八つ当りにすぎないのかしら。

十月二十二日（日）晴。

本を有難う。お手数かけます。今度は同じ天文講座の第一冊目「天球と星座」をついでにお願ひします。朝早く星を見るのは実にいいです。

今朝は知らない人がたづねて来たので、何だらうと思ふと、宮川実氏（長谷部さん達と一緒に立教のアメ研を作らうとして、その後ひつかかり、少し前に出て来た人、元和歌山高商の先生）の弟子で、和歌山高商から商大へ来て、今年卒業し、宮川さんの紹介で今度調査会へ入った人だったのです。この辺に下宿があつたら紹介してくれと云ひました。何でも昨日宮川さんの所へ行つたら、鶴田君が来てゐて、僕の話が出て、急に僕に下宿をさがしてもらはうと云ふ氣になつて、今朝早速来たのだと云ひました。

廿三、四才のいかにも若さうな青年で、眼が片方全然見えない為に第二國民兵ださうですが、和歌山の人で、ひろちやんとことから三十分ばかり南の御坊の人なんです。おひるまで下でしやべつて帰つて行きました。何かあればごちさうしてあげてもよかつたが、今日は全く何もなくて、かゆのやうなごはんとダシコンブを醬油で煮たものだけのごはんなので、帰らせました。ふりかけもなくなつたので、今日は三食ともめしとコンブなのです。その中時々遊びに来るでせう。

今夜は久しぶりに早川君を訪ねます。ずい分さむくなつて、ジャンパーだけでは出られないでせう。モンペ下は中々よろしい。どうもありがたう。本当にいろく面仆つらなことばかりさせてすまないと思ひます。

今日も眼の調子がよくなって不快です。ここずつと眼は不快で、これのせいもあるものでせう、よくケンカするのは。何が足りないのかも知れません。

明日、カハセを送ります。では。

今日はあなたの手紙が来なかつた。昨日はまるで無表情なハガキ一葉。だが僕のこの長々しい手紙も全くケンカの武勇伝だけで何の味もそつてもなく、あなたにとつて、このあなたのハガキ一葉にもおとるかも知れませぬ。

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月二二日の記、二二日の消印）

十月廿一日

暖い晴れた日、東京もこんなでせう。

毎日蕪ばかり食べておるでとのこと、本当にお氣の毒ね。あの変てこな巴里の洋服たん筈の話の男の様に、蕪の汁を血液の代りに注射すると、—どうなるんだつたかしら。あの怪奇オカルトな男の様に蕪を食べすぎて、血液に変化が起つて、怪し

いふるまひなぞ夢々なさらぬ様に。今日来たやみやの爺さんにうづら豆を三斤たのみました。一斤四五円に当りますが、廿五日頃には持つて来てくれる筈ですから、上京の時持つてゆきませう。白米も一斤位、持つてゆかうと思ひますから、旨しい御飯を作れるでせう。

ルーズベルトの説明有難う。大変よく解りました。彼はウエルソンより下だと思つて居りました。ウエルソンは本来的には政治家ではなかつたのでせうね。ルーズベルトの立場、其の動揺、其の政治的位置、其のゼスチュアの影響の結果等、よく解りました。

あなたの叙述方法の考察についての御考へ、面白く思ひました。たしかにあなたの仰言る通り、最も印象的な入口から本体へ直通する方法は最も適切で、それが表現形式の第一であらねばなりません。でもそれは本当にむづかしい事ですね。凡ての自分の思想を芸術に、言語に表現しようとする人が、その方法を得ようと慾し乍ら、中々把めない事なのでせう。バルザックの長い文章や、一見、本題と関係なささうな饒舌があちらこちらにばらまかれてゐて、一後になつて思ひ出して見ると、どれもこれもが本題にはいつて来るための是非とも必要なものであつたと思へるし、其のよけいもの様に見える一ツ一ツのエピソード、長お喋りが知らずく読者□本題への興味を集中させる役目を果してゐると思ひます。だからあなたが、本題にはいるまでにぐずくする、と云つて否定する様な云ひ方は、そのまゝでは正しくないと思へる。結局あなたの云ふぐずくは、かへつて本題への印象と云ふか関心を、強める事になつてゐると思へるのです。

一見して直ちに内容を理解しなくてはならない美術品と、長い思考の堆積の結果生れて来る問題をと取り扱ふ論文などとは、表現形式を大ざっぱに一語にする事は変ではないかと思ひますが。もつとも羽仁さんの歴史観を扱つた小論文をよんだ時は、あの人の大たんふ敵に見える短い文章、たつた一つの例をひいての断乎たる断言は、一見こんなに思ひ切つて云つてもよいものかしらんと云ふ風に思へたが、後から段々あれ程適切な個別の例はなかつたのだと考へられて来た事があります。併し、あの文章は、どちらかと云へば説得の形のものであつたのですから、あなたの歴史叙述の形式とは、又異つたものであつてよいのだとも考へますが。羽仁さんも又、ミケランゼロの時ほどいい様に見え、ぐずく同じ様な事を云つてゐる様に見え乍ら、結局云はんとするところ、本題を実に強い力で読者の頭へ刻印する方法を取つてゐたと思ふ。

私があまりゆつくりしてゐすぎた事から、あなたに本当に嫌な思ひをかけた事、自己嫌悪を感じさせた事は、返すく

もわるい事をしました。前にも度々書いたでせうが、あなたの文章は、私は一寸も悪文だと思つた事はありません。唯、内容がぬきさしならぬもので濃厚なので、他の論文の様に言葉のむづかしさはあつても、大体スラ／＼よめると云ふわけにはゆかない、何時も精神の緊張を必要とするのです。それでゆつたりした時間のない時、私の様な論理的でない頭のもの、中々すゝめないのです。

あなたの警備召集と応召とは関係ないのね。警備召集丈でお召がなければいいのに。

私の手紙、毎日来ない／＼とあなたは不平を仰言る。私の方がずっと余計書いてるのに。でもそんな事で私はあなたに文句云はない。量は少くても一番せんじの愛情のこもつたものならうれしいから。あなたは私より机にゐる時間があるでせう。あなたの関心が他の人へ濃厚に注がれて、残りがおこぼれで来る様なのは嫌なの。こんな風に思ふ時、身体も恢復したし、上京して仕事に着かうと本気に考へる時もあるわ。でもあなたを其の快適な環境から、まき添に引っぱり出さうと云ふ訳ではありませんから、ヤキモキ心配なさらぬ様。私が一とすじに、あなたにばかり集中してゐるのに、あなたの方でさうでないなら、やりきれません。私が上京するから、ゆきちがひになるとお考へで、あなたの手紙をさぼらないでね。あれはあなたの日記なんですから、確実に書いて確実に出して下さらなくつちや。

廿五日か六日ころ、前便のとをり上京致します。いいものを出来る丈かき集めようと思ひますが、経堂へは一応電話で御都合をきいてから、お訪ねしませう(多分土曜日位に)。直接そちらへゆきたいのは本当ですが、あなたの困る事はわかつてますから(殊に恐ろしい小使ひのお婆アさんがゐては)。

ではさようなら。

謙一様

謙一から幸子あて(一九四四年一〇月二三日の記)

十月二十三日(月)曇、晴

御手紙No.15、16拝受。

先づ15。あなたにそんな苦しみをあたへたことを御わびします。だが御心配は絶対に御無用です。星は九月の十日頃の或る美しい夜以来しきりに親しみ、星の本を出しては毎夜読んだりしてゐるので、白田君の来始めたのは廿五、六日頃

であり、あなたの云ふやうな意味は全くありません。銀座を歩いたのは、前の手紙に書いたやうに、天文館へつれて行った帰り、足立君の賤別の品を選ぶのについて来てもらっただけだし、星を見るために二人切りになったことなどまるでありません。伊藤君が来ると云つたので、それなら丁度いいと思つて、その日に星を教へたのも、その間の誤解の入らないやうに心をくばつたのです。いづれにせよ僕は貴女との情緒を常に慾求はしてゐるが、他の異性によつてその代用的なものを求めようとは思ひません。さう云ふものとは別に、僕は之までどんな所にもゐても、存分に自分の意見を話し得る相手が必要であつて、西大久保にゐた頃は貴女の外にSとかNとかの友人（帝大生）、新聞社時代の島谷、斎藤、その後の或時は森ちゃん、或る時はみつちゃん、或る時はいねちゃん、また伊藤君、吉武君、村瀬君、調査会では竹中君、この間中は利ちゃん、ひろちゃん等々と同じやうな意味で、最近のこの分室では八木君と白田君とが存在するので、もう僕も廿才台ではなく、相手が男だからとか女だからとかで、別の態度や囚はれた態度をとらざるを得ないやうな年頃ではありません。いねちゃんやみつちゃんに対すると同じやうな、いはば「兄」の態度から一歩だつて出てゐないし、気持もさうです。彼女も実兄が二、三人あつて、異性との友達づきあひには、いい意味で馴れてゐるし、決してあなたを心配させるやうな型の人ではない。「魅せられた魂」のジョルジュ（ジュリアンの一人娘）のやうな、気持の自由な開放的な、そして分別もある子です。

だが僕の不用意な「ひけらかす」やうな書き方は、忙しくて満たされない気持でゐるあなたを苦しめた点で本当によくなかつた。あれは丁度、あなたが浪合ひにピクニックして、その楽しかつた昂奮を僕の状態に考慮なしに表出するやうに、僕も一種のピクニックの楽しさを伝へたのです。また白田君を普通の職業上の関係以上の友人にすることは、僕が応召とかもう一つの「あること」とかで生活の急変を余儀なくされた時に、後始末を頼むために必要なことだつたのです。彼女はまた熱を出したので、休ませようかと思つてゐる所ですが、今後僕のアシスタントとして或る程度の交通を続けねばならないが、あなたの方で決して心配したりしないでほしいと思ひます。

ピアノも星も僕自身の内的慾求であつて他のものでない。それへ他の人がついて来てても、僕はむろん喜んで迎へ入れるが、どこまでも僕自身の内的慾求が第一で、その点でもあなたは心配する必要がない。それに第一、僕はいつだつてあなたと共にゐるのです。僕の話にはいつでもあなたが居り、僕の机にはいつでもあなたの手紙があり、或ひはあなたへの手紙の書きかけがあり、僕はどこでも誰に対しても、この七、八年来と同様に、いやそれ以上に、複数で存在してゐるのです。そのことは恐らく貴女が想像するよりはるかに徹頭徹尾さうなのです。

No. 16。「プランテイション」をそんなによく読んでくれたことは嬉しかった。実はあなたの手紙で、第何章の第何節を読んでもあるだけでも、僕は原稿を出して、ははん、この辺だな、それぢやこの所を読むと幸子はどう思ふだらう、僕がここへ書きこんだ「いきどほり」を読みとつてもらへるかしたら、僕の感情と僕の意図とをすっかり読んでくれているかしら、などと考へるのです。それなのにこ暫く、お手紙には何等具体的にどこを讀んでると云ふことが書いてなかつたので、ぢややつぱり文章が悪文すぎたり、独り合点すぎたり、または数字がわづらはしすぎて、読めなくなつたのかな、読みたくなかつたか、読むだけの魅力を感じなくなつたのか、と失望してゐたのです。

だが今度は、そんなに忙しいのに無理に義務的に夜半まで読ませて、身体をこはされはしないかと云ふ新しい心配が出来ました。読んでくれることに安心したから、もうせきたてたり、いろ／＼無理な註文はしません。そんなに一々ていねいにノートをとらなくてもいいから、もう少し楽な気持ちで読んで下さい。

あなたのやうな読者を十人ももてたら、それだけでも充分嬉しいことでせう。だが僕は泥沼のやうに難渋な緒論や、冗慢で数字だらけの第一章や第二章第一、第二節が、多くの読者を、本論にまで行くことを妨げて了ふのではないかと心配してゐます。今となつてはすっかり書きなほしたいと思ふ気持ちがぬけません。それにいろんな事情で、そこに書いてあることは、書きたかつたこと、また書き得たことの大きい部分を省略してゐるのです。そのことはシャベルか別の形で何かに書く外ない。

あなたの上京は耳よりです。いねちゃんとかへでも泊つて、買ひ物は僕も一緒に行つてあげるから、すぐ経堂へ来なさい。打ちあはせて僕が出て行つてもいい。僕の弟子(?)にも紹介させよう。森井さんも此の頃身体が悪くて出たり休んだりしてゐるさうだが、おつきあひするのいいと思ひます。この分室の外の連中は紹介するに足りないけれど、白田君や古田君はいい。

あなたの帰信に、一緒に行けるやうにさせよう。切符を買ふのが大変だが、こちらで切符を買へるやうな口実を用意して来て下さい。

この手紙は早く出させよう。今夜中に投函すれば、明後日までにつくでせう。では待つてゐます。

謙一

(末尾に記された経堂駅から分室までの道順図は省略―編者注)

幸子から謙一あて（一九四四年一〇月二一、二三、二四日の記）

十月廿一日

サフランの花が咲きました。春一番早く咲く花なのですが、まちがつてもう咲いてしまったのでせう。手紙に入れて差上げますが、届くころはしぼんでしまつてゐるでせうね。六枚の花べんは紫の濃淡、緋いろとうこんの^①並です。今日はヘルニアの手術。あとは勤勞奉仕の人たちばかり、稲を茹らず、手や足を茹つてゾロ／＼やつて来ます。

此のごろ睡眠不足のためか、熱（少しの）がつづいて居りますので、風の中へ一寸出るとブル／＼寒気がして来ます。風の中で落葉を焼きました。山の美しいこと一でも夕方があまりあつけないので、ろく／＼散歩も出来ません。

今日は漬菜を三貫位、河へはいつて洗ひました。こちらは今、なつぽとおさつ丈です。これから夕方掃除にかかります。短い手紙ですけど、又夜に書きますから。

今日のヘルニア手術には喜悲劇がお添物につきました。被手術者は二十八才の自動車運転手でした。彼が腰椎注射を終り、手術すべき場所の石けん洗ひ、かみそりをすまし、ヨードチンキをぬつて（これは相当広範囲にぬります）、その上をアルコホール消毒（衣類につつまれてぬぬ場所は凡て）、正に其の上にハンケチをかけ様としてゐるところへお婆アさんがはいつて来て、一目みるなり、アツと云つて立ちすくみましたが、手術は彼女にとんちやくなく何時も通りに進行しました。すんで病室へ運んだあとで、お婆アさんが再びやつて来て、

「先生一寸話がある。あれは私のむこであります、驚いたね。全身傷だらけで、あの肌のいろ、一むこに来て一ヶ月にならぬうちに脱腸をやるとは？ あれはハエ、もう追ひ出してしまつた方がよからずなも」「肌のいろと云つて、あれはヨードチンキをぬつてあるから、カレー粉いろに見えるんだ。脱腸は何時だつて、まが悪ければ起きるよ。追ひ出すなんて事までは、医者のお口を入れるところぢやないね」「ハエ、それでも一ヶ月になるかならん中に、だつ腸なんかしてズ太い男だ。それにあの傷はどうだ。着物までぬがせて調べたわけぢやなかつたから一あきれたもんだ。追ひ出さうかしらん？」「傷は一仕事が運転手なら荒いから、よくある事なんだらう。まあ僕に云ふより嫁さんと相談した方がよからう」「嫁はぞつこんほれとるで話にやならんも」「それでは追ひ出す事はないだらう」。

夜は急に冷える様になりました。下では客まと茶のまに炬燵をいれました。私はほとんどいまの処は、炬たつにははいりません。炬燵にはいれる時間は、二階にゐますから。

お母さんは今夜帰る筈でしたが、もう十時すぎたのに帰らないところを見ると、もう一と晩泊るのでせう。

今日でよう／＼第二章。第五節の二まで終りました（ノオトとり）。ねる前までに六まで一応よんで、明日の暇を見てノオトをとります。

(二)は書きにくいところなんでせうね。今までのうちでは、すこしゴタついてゐる様に思ひます。ノオトはどうもうまくとりにくかった。それで、ノオトの方と本文とをもう一度よみくらべるか、書きなをしをした方がよいかとも思つてゐます。ノオトの方丈、今かんたんにみましたら、二の分だけで十枚近くありますが、よみ返したらさう変なとり方でもなくて、史的素描としてはよくまとまつてゐるし、再建の挫折に至る道もよくわかつたようです。書きにくいところだせうね（このための枚数は短いんだから）。

十月廿三日

昨夜は十二時までかかつて第五節全部よみました。段々よみ易くなつて来ます。

今日は晴れてはゐますが風が激しい。おひるに近所の娘さんの病氣見まひに行つて来ました。もう恢復のみこみのない肺・腸結核の娘です。姉妹八人、末は二才、一番上は廿一才で、病人は20才です。大阪の工場へ行つてゐて、此の春から病氣で帰つてゐて、九月始めまではブラ／＼してゐたのに、寒さが来ると同時にばつたり起きる事も出来ず、医者を呼んだのはそれからで、関さんと云ふ呼吸器専門医が一目みて、はき出す様に「もう一ヶ月位はもつたらう」と云つたと、親は怒つてゐましたが、それまで子供の守をしたり、お勝手させてゐたんだから、医者にさう云はれても当然です。母親が時々家に来る人で凄いいタンカを切る人です。此の間も来てお父さんに「何時になつたら片づくでせう」ときいてゐました。子沢山と貧窮に責められては、娘の死を早く願ふのはむりもないでせうが、見て嫌なものです。役に立たない者は、手数をかける者は、邪魔者になる骨にされるんですもの。病氣になる前は家のために働いてゐたんですのに。あんまり気の毒だから、おひるにフライドエグやポテトをつぶしてピンクにして甘くして茶きんしぼりにしたのや、松茸の煮たのをふたものにきれいに盛りつけて持つてゆきました。病人は板敷の三丈位の室にねてゐました。顔から目があふれる程に見え、手の細いことと云つたら――。



見まつて貰ったのは始めてだと云つて、忽ち目から涙があふれ出して、気の毒で、あまり何も云はずに帰りました。どうせ長くないとしても、これからチヨイ／＼行つてみてあげ様と思ひました。では今日はこれでさようなら。

十月廿三日夜

手紙を出さうと思つてゐる間に、午後から急に気分わるく、目の中が変で、熱を計つたら七度七分になつてゐました。お母さんは石橋さんを連れて帰つて来、家中ドタ／＼忙しくなりました。病院も午後から暇なので、一階でnoteにかからふとしましたが、今日は努力しても駄目。頭がぼー／＼として何も書けません。今まで下で皆とお茶をのみ乍ら話をきいてゐました。此の分ではとても駄目ですから、今夜はやめてすぐねようと思ひます。せつかく良くなつたと思つたけど、矢張り駄目ね。何も彼も味気なくなつて、死んでしまひ度い位に思はれて来ました。どうしたのかしら。丈夫になつてあなたとの健康な生活にはいれるのぞみはない様に思へて来ました。いつそ私なんか早く病気にでもなつて、片ついた方がましかも知れない。誰にも親切になれぬし、何時まで立つても自分中心にしか考へる事の出来ないし、あなたの仕事は理解出来ないし、仕事の手伝ひは出来ないし、健康も持たないし、若さもない。凡てがないのですから。私の出来る事は、あなたの邪魔だけです。あなたの凡ゆる生活へのシヨウ害である丈の存在なんて、早く消えてしまつた方が、一どんなにか誰のためにもなるでせう。

こんな事を暫く考へました。嫌らしいセンチでせうね。今晚はぐつすりねむつて、又明日から元氣を出して見習ひ看護婦をつとませう。矢張り手術は私は嫌ですわ。好きになれません。何時も心理的にティゴウを感じます。ではお休みなさい。

幸子

十月廿四日

早苗ちゃんが自分の机の前で絵の本を見てゐるところです。私の部屋に彼女のために低い小さいテーブルを作りました。ここで「勉強」します。勉強はぬり絵の時もあるし、千代紙もあるし、絵を見る時もあります。

謙一から幸子あて（一九四四年一月八日の記）

十一月八日（水）曇、雨

あれこれとこの二週間余りのあなたとの生活を甘い寂寥の中で想ひ辿り、あなたの心尽しの数々をかみしめ、それだにあなたの気持や欲求へ充分深切には応じ切らなかつた心うらみ、少くとも僕のあなたへの感情のありつたけを、あなたにわからせ得なかつたかもしれない心うらみに淡い悔いを感じつつ、飯田線の二時間半はさして長くもありませんでした。すぐ坐つておしまひまで余り混まず、辰野の三つ四つ手前あたりから、他の旅客の立つのにつられて、乗り換へ競争へスリリングな心がまへをやつてゐたのですが、十数人にしか先んじられずに、息せき切つて丁度ついたばかりの汽車へかけ込んだら、二等車は一向混んでゐなくて、すぐ坐席がとれたのはあつけないくらいでした。上諏訪までは「ラモーの甥」を読んだり、三等から居直りの二人の学生が、車掌に埒致されるのを物見高くながめたりしましたが、間もなく眠つて了ひました。時々首がだるくて寐なほしましたが、途中にらさきかどこかではつきり眼をさました以外は殆ど眠り通して、次に眼がさめるともう八王子でした。あと一時間ばかりは「ラモーの甥」と一緒に、だんぐあかるとくる武さし野を時々チラ／＼窓の外に見やりつつ、六時少し前に新宿着。六時発の小田急をとらへて、六時半には経堂の家へ。

冬コートでよかつたと思ふほど、汽車の中も東京の夜明けの町も冷えしました。着くと小使さんにおみやげの天竜ヤキを進呈して、留守中の無事について長々と、おみやげに対するお礼の感情の表出としての長広舌報告を受け、寒いので何はともあれ石炭で火を起し、お茶を湧かして、待望のおセキハンにぎりめし（三個）と牛肉若干との御飯をたべました。少し疲れて一眠りしたかつたが、時間もないのでカンタンな掃除だけですませると、白田君と竹中君とが相ついであらはれました。結局オバヤシヤキの白い茶碗はこの二人に進呈しました。

昨日の昼にも空襲警報が出て、この二階でみんな見物したのださうです。やつぱり最初は、キレイな飛行機がユウ／＼とんでるなと思つてゐると、尾翼のあたりにパッパッと白いけむりが出るので、やつと敵機と気がついて一同あれよ／＼と見物してゐる中に、相当高い所を東から西へまつすぐこの家の上を通過し、間もなくまた西から東へ帰つて行つたさうです。その間我が軍の飛行機は一機、追ひかけるのでもなく、敵機のとんだ跡を斜めに横切つたきりだつたさう

です。

僕の留守中は殆ど連日空襲があつたわけで、竹中君は丁度この一日から出始めたが、僕も八木君もゐないで詰らながつただけでなく、日曜日まで警報に駆り出されたのだと云つてばやいてゐました。今日は大統領選挙だから来るにちがひないと、谷川君などは警報も何も出てゐないのに、ゲートルと鉄カブトとのいで立ちで、早やばやと出勤しました。西井君と古田君、八木君はまだ帰京してゐませんでした。

余り罪ならぬ程度に、肉や鯉やつぐみを食べて話を、みんなの希望に従つて話しました。みんなまるでリウチバの人々のやうに、他の人がうまいものをたべた話をきいて、せめて味覚幻想をなぐさめてゐるのです。こちらが軽くすませようと思つても、みんなが根ほり歯ほりきくので、つい話してひます。尤も西井君のやうに人がうまいものを食べた話をきくと、腹を立てるほどうらやましがると云ふ風な小児病患者は、ゐないので助かります。

午前中は昨日着いた本棚や本を運んだり整理したりの勤勞奉仕ですぎました。おひる前に電話がかかり、何事ならんと出てみると、鉄工聯の佐々木部長からの電話で、始めはきき馴れない声で「テツコウレンのササキデス」と云ふのが中々合点いかなかつた。要するに、上海から帰つてあなたのことを娘からきき、大変責任を感じて、とりあへず僕に電話して来たのださうです。いろく娘のことについてお礼を云つたり、責任を感じると云ふことをくり返してゐました。まだ床についてゐられるのですか、と云ふので、もう大分いいことはいいのですが、と言葉をにこらせて、彼の自ら感じると云ふ責任感にいくらか重みをつけてやりました。とにかく大変いんぎんに、あなたへよろしくと云つてゐました。

昼食には竹中君が僕の所へ一緒に食べに来たので、僕のオセキハンのにぎりめしを彼の麦飯にぎりめしと一つだけかへてやり、牛肉も少し皿へもりわけて食べせましたら、彼程の美食の徒も、何とも云へずうまがつて感謝してゐました。僕はオセキハンにぎりを二つ、夕食へ残しました。夕食はこれと牛肉とパセリとおいもとですませませう。

午後八木君も帰京して、おみやげのフユウ柿をみんなで僕の部屋で食べながら、彼の「アホウの天国」の話に、半口あいてききとれました。二、三日中に配給酒をもつて彼の家を訪れる約束をしました。

夕方から雨になつて、夕食を早目にすませると、寒さと雨とガランとした家のしづかさにと一しは寂寥を感じつつ、漸くあなたへのペンをとつてゐるのです。あなたの整理してくれたままのお勝手や二畳の間の模様、さびしいなつかしさを覚えて、物の位置をみだすにしのびませぬ。それについてもあなたに余計な心憂ひを起させた僕の心なさをくれ

くもおわびします。かう云ふことは、口で何と云つてもすつかり晴れるものでないから、この連日のB29の人もなげな来訪に、帝都空襲の危険の一層現実化した今となつては、ただ一日も早く信州へ、あなたの所へ、すつかり生活をうつすてだてを進めることを誓ふだけです。今日はややくたびれてゐるから、明日から仕事に大馬力をかけませう。

僕のプランティションを丁ねいによんでくれたことを、僕がどんなに嬉しく思つてゐるか。僕にはあなたが難波や多忙の中で一生けん命に読んでくれて、僕の生活へ熱心に共感してくれたことに、あなたの僕に対する愛情の最大の証左を得たのです。それでこそ僕は、これからの仕事に全力をうちこめます。最適の伴侶的理解者を得た喜びと、最愛の妻を改めて自分の腕と胸との中に確認した喜びとがどんなに大きいか。あなたの物質的心尽しも嬉しかったが、精神的心尽しの大きさは更にはるかでした。だがそれと共に、僕があなたにどんなに貪慾に多くを求め、あなたを疲らせてゐるかを思つて、自分の専制ぶりを心痛に感じます。それだけに一層、仕事に責任を感じます。

他方、あなたにかけた心配について、充分上手に正確に説得的に釈明し、あなたを充分安心させ切らなかつたことを悔いてゐます。実際あつた問題の釈明と云ふものは僕には難物です。どんな風に説明しても、ああ云ふことは、一旦疑ひをもつた心に充分説明し切ることはむづかしいが、殊に僕は説明が下手で、自分ながらどう云ふ風にして解いていいかわからないのです。ただどうか僕を信じてくれと云ひ、早く今の不自然な生活を切り上げ、今後とも充分心することをちかふより外ないのです。

留守中の配給物はタバコと酒とでした。タバコ六個の中二個は、小使さんの懇望によつて今度だけ進呈し、四個は二、三日中に便箋と一緒に送りませう。砂糖はまだ買へないのでさうです。

では今夜は胸にひびく咳が出るし、寒いし、つかれてゐるので、また味もそつけない手紙だと云はれるかもしれないが、之だけにして寐ませう。明朝出します。

同封の写真は、八木君が田舎の知人の所で僕の猫好きの話をしたため、その家の人も猫好きで、「さう云ふ人ならきつとこの猫の可愛さがわかってくれるにちがひないから進呈してくれ」と云つて、この写真を託されたのださうです。なるほど可愛いきれいな猫です。尤も僕の好きと云ふのは、キレイだからとか外見がかはいいからとか云ふのではなく、やはりもう少し内容的な意味があるのだが、八木君は「猫の話を見せておけば半日でも一日でもするほどの愛猫家だ」なんて云つたらしいのです。それについてもプシのやつ、どうしたものでせうね。

謙一から幸子あて（一九四四年一月九〜一〇日の記）

十一月九日（木）晴

今日は防空壕にたまった水のかい出しに殆ど一日つぶされました。いつかの凄^①い雨風の夜二尺近くたまつてしまつたのが、一ヶ月ごしに引きも蒸発しもせず、今に到つてゐるのです。どうやら雨が流れこむよりも、地下の湧水のせいらしい。水がきれいだし、一度二、三寸くみ出したのに、すぐまた元の程度になつたのだから。四つのバケツで男六人のバケツリレー、午前中二時間近くやつて、五、六寸減水しました。何しろ六畳敷ぐらいの広さですから大変です。僕は一番骨の折れる汲みがかりをやつたので、すつかりつかれました。西井君も古田君もまだ帰らず、竹中君も今日は本室行きです。「暁天動員なんかするより、その労働力をこんな所へ使ふべきだね」。

そんなわけで今日はチツキをとりに行くのはやめにしました。シブウチワとタワシとはすぐにも要るのですが、明日の午後でもとりに行きませう。

今度の読書新聞にのつた僕の本の広告は、「…米國資本主義の基底的本質を南部プランテーションの史的經濟学的執拗な分析によつて明かにせる劃期的労作」と云ふ説明つきです。誰が書いたのかと思ひます。鶴田君ならもう少し気のきいた言葉づかひをやるでせうに。

独立戦争は中々骨です。書くのは楽しいが、まだどうも自信あるものが書けさうにない。もつともつと本を読む必要があるのです。

おみやげの牛肉は今日も三食につかひましたが、明日の僕の誕生日のために残しておきました。尤も今日は陽気があたたかいので、もう一度熱を加へました。明日は配給酒で、独り自分の三十二回目の誕生日を祝ふつもりです。あなたもきつと僕のことを考へてくれるだらうと思ふから。いはば山の彼方と酒くみかはすつもりなのです。

僕が帰京して、あなたもさびしがつてゐるかしら。どうか元気に気持を起して、勉強にしろ生活にしろ、自信を以てやつて行つてほしいと思ひます。僕もきつと貴女の信頼を裏切らないやうに、一生ケン命やつて行きますから。今日もLeddyととりくんでゐます。それにしても世界政治の展開も容易ならぬものありますね。スターリン議長^②の演説は全く意味深長です。あんなにはつきり日本を侵略国と規定したと云ふのは、米英に対するデエスチュアか、日本に対する

それか、或ひはまたアメリカに基地を提供する可能性を示唆したのか、何とも判定つきかねますね。それにしても世界政治の現段階の判断に最も重大な意味をもった演説だと思ひます。ルーズヴェルトも四選されましたが、議会の民主党の勝利については、その内容の判断はすぐにはつきかねます。即ち民主党の急進派が多いか保守派が多いかは見当がつかないのです。それによつてアメリカ政治もいくらかわかるのでせうが。

十一月十日（金）曇。

昨夜はあたたかくて、雨になるかと思つたが、どうやら雨だけは助かつた。だが昨日のやうな快晴が望ましかつたのに。今日はせめて誕生日のおい^{はじ}わい^いにと思つて、豆ごはんの外に里いも、しひたけ（最後）、凍豆腐、カボチャ、ジャガ、ねぎ、之だけ入れた煮物をつくりました。例によつて柿の皮から糖分をとり酒も加へました。牛肉をあとかから入れました。早目にあらはれた竹中君、臼田君は、よだれをながさんばかりにうらめしさうに鼻をくんく〜云はせましたが、之は僕の昼と夜との食糧だから、今日はわけてやらんよと云つてしまつてしまひました。

折角の誕生日なのに、今日も防空壕の水汲みです。朝、小包（便センとタバコ）を作りましたが、出す余裕もなく、せつせと勤勞奉仕です。腰の上の部分、水を汲んではねちるので、いたくて昨日よりはつらかつた。西井君はやつと今日あらはれたのだが、今度は前ほど食べ物に満足して来なかつたらしく、「二ヶ月ちがふとすごいほどちがつてしまふ」と慨嘆してゐました。大阪ではさつまいも一貫匁十五匁から二十匁、とりは一羽七、八十匁ださうです。来る早々水汲みで、「腹減つた、腹減つた」と云ひどほしてました。午前中にやはり五、六寸汲み出したので、あと一日ですむでせう。中島君の詩を、昨日臼田君に託して森井さんに読んでもらつたが、あの「プロシオン」へのせた僕の詩は、彼女は殆ど一字一句暗記するほどくりかへし読んでくれたのださうです。今度のはまだ感想はもらへないが。臼田君はあなたのことを「菊池さんの奥さんは本当に大人だわ。森井さんなんかよりずっととずっと大人ね。何て云ふのかしら、森井さんにはまだ甘さが抜け切らないとでも云つた感じなんでせうね」と云つてゐました。僕から見ると、森井さんは余りに「自己完結」的でおさまりすぎてゐる、それが大人つぽく思へてゐたのだが、臼田君にさう云はれてみると、むしろ大人つぽいと云ふより、どこか子供つぽいと云ふべきかも知れませぬね。何れにせよ、「自己完結的」と云ふことは余り僕の趣味にもあはないし、感心しないので、時々森井さんと議論する必要があるかと考へてゐます。だが向ふ^こでは僕達のことをどう感じたか、またどう思つてゐるか。とにかく臼田君もあなたと森井さんとを全く対照的に感じたらしい。

僕はあなたが「自己完結的」でないことを、いつでも前へ、外へ開いてゐることを、その点ではアンネットのやうであることを望んでゐます。僕もさうでありたい。今の所あなたは、たしかに「自己完結的」でない、それが僕にはあなたの若々しさと感じ、例へば臼田君には「大人」と感じるものなのでせう。だが自信をもつこと。僕があなたを誰に対しても、どこに於ても誇つて居るのですから、あなたも充分自信をもてる筈です。(こんな云ひ方は僕の自惚れになるかしら)。

午後青山へ行き、渋谷駅でトランクを受取つて、エッチラオッチラ帰つて来ました。さて、夜。風が出て、冷え、外は雲が多くて星もろくに見えないが、朝煮た煮物をもう一度火にかけ、ホウレン草のオヒタシをつくり、おいも少しふかして、たつぷりとごはんをたべました。冷酒をコップでのみました。今日の野菜の配給は大根の菜葉三本ばかりで金二銭也。馴染の農家では都から畑ごと買はれて、僕達へわけてくれにくくなつたのです。供出を強化された形なのです。それでも週二回に、全部で二、三貫つづつ、従つて一人当り日に百匁ぐらいの野菜はもらへることに何とか話をつけました。それについて僕の発案で、その家の子供達に紙芝居を進呈することにしました。野菜用の資金が既に十五、六円になつてゐるので。

その中この辺でも小麦粉の配給があるかも知れません。他所ではとづくにあつたのに、この辺が一番おくられてゐるので。で、重曹かふくらし粉を御願ひします。

ではおやすみなさい。明日は夕方から在郷軍人の訓練で、木銃をもつて国民学校へ五時参集です。五時なんかに行けば、飯が食へないし、風邪がなほつてゐないので、何とかさぼらうと思つてゐます。八木君に招待もうけてゐるし。

幸子から謙一あて(一九四四年一月一〇日の記・消印)

十一月十日

東京も朝夕寒々として来たでせう。

自炊生活は其の後順調に行つてゐますか。あなたのあるうちは一度も果物がはいらなかつたのに、其の次の日に柿(ジュクシ)がはいりました。もう一日早かつたらたつぷり食べられたのね。あれつぼつちのおいもでは、もうとづくにおしまひになつたでせう。今日のおたん生日はどうなすつたかしら。

あなたの帰った次の日（八日）朝からセルを解きにかかりました。ためしに小布を染めましたが、此の頃の染料はひどくわるいので、きれいに染まりません。染め屋に出せばすこしはましかも知れませんが、今年中に出来上る可能性はありませんから、あのまゝ使いました。色も柄もわるくないし、あなたには似合ふ色ですから。古くなって汚れたら、改めて染めても晩くないでせう。

八日、九日、十日の午前中一杯かかつて、よう／＼完成致しました。又すこしがブ／＼に出来ました。着てみたら案外よいのぢやないかと思はれます。お父さんにも着てみて貰ひましたが、巾はひろすぎる様ですが、元の身体が太つてゐるせいであらう。神丈もすこし長すぎたかも知れませんが、肩台をいれておきました。嫌なら取つてしまつて下さい。かんたんに着けておきましたから。フーチヤンにも断つてのや六ヶしいところはやつて貰ひました。結局これがおたん生日のお祝ひになりました。本当はほんてんと万年筆にしたかつたのに。

あなたが帰つてからは、急に淋しくなつて気の抜けた様な気持ですが、悲しんだり心配したりはしてゐませんから、心配しないで下さい。ブルーズが出来上つたから、これからはプランティションの緒論のノオトとりを致すヨ定です。昨晩はねる前30分、ハツカーをよみました。題にくらべて内容の読みよいこと、此の調子なら、毎晩床にはいつてから30分一時間づつ楽によんでゆけるでせう。

又一段と寒くなつて午前中二階の部屋はブル／＼する位ですので、フーチヤンの置炬燵を出してもらひ、今いたところ、早苗が来てダンテおぢちゃんを炬燵で見えてゐます。

ブルーズと一緒ににかいいものををおくりたいけれど、今日は何もありません。牛肉は相等もちこたへましたか。又廿日ころに買へたら、佃煮にして送るつもり。
では、今日はこれでさようなら。

謙一様

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年一月一〇〜一一日の記）

十一月十日（晴）九度

午後から緒論を読み返し始めました。今度は一寸も言葉の六ヶしさも、文章の息の長さも何の苦勞も感じられませんでした、

よく知つてわかつてゐる事をまとめてある、と云ふ風に気安く理解出来ず。結局緒論にある事は、今までよんで来た中に始終あつた事ばかりで、オヤ、これは今さつき読んだばかりのところぢやないかと思つた位です。外の人も私の様に始めと最後まで、二度に亘つてよんだらよいのですね。そんな風な事を何処かに書いて置けばよかつたのと思ひます。

さつき(一時ころ)ブルーズを出して来ました。一諸^種に粉を少々(200匁)と重曹を一箱いれておきました。粉は一貫匁あつたのを、すこし家で使つたので、此の次はいつた時、三〇〇匁位又送るヨ定です。重曹はいれすぎると妙な味になります。胃酸過多の人にはよいかも知れませぬ。

小使さん、お酒のお燗瓶はよろこんだでせう。其の代りに夜のうちこんろを下ろしておいて、火を起して貰つたらどうでせう(勿論こんろの中には炭をいれておいて)。小使さんの方だつて自分のこんろの火の中へ炭を一寸いれておけば火がつくのだから、たいした手間もかからぬ事ですから、さうなさいな。

十一月十一日

今日も晴れたりとは云へ、あまり芳しくない天候。東京はどうでせう。いねちゃんの手紙だと、晴天の日は警報が確実に出るとのこと、芳しくない空模様の方がいいかも知れませぬ。あなたの帰京以来ボーイングはあらはれぬ様ですが、—今度あらはれる時は恐ろしい事になるのでせうね。

緒論のノオトを始めました。ノオトは時間がかかりますが、其の代り確実ですから。今日は四から始めます。今度はこちらもむづかしいと思へないから、不思議なものです。ノオトは原稿紙に二行づつかいて、一が一枚半、二が三枚半、三が四枚になりました。

一の語義のところは、始めて読んだ時はどうやら何が何だかわからなかつたらしいけれど、今度は大変よくわかりました。唯、オランダやスペインの植民地も(アジアの)、当時プランテーションと呼んでゐたのかしらどうかしらなどと思ひました。

二で、プランテーションのアメリカ南部に於ける場合のプランターの寡頭権力が、南部のみならず、アメリカ中央政治にまで強い支配力を持つこと、プランテーション制度自身がプランテーションの経済的發展を妨げてゐること、プランテーションの發展のみならず周囲一円、そして国民一般の發展近代化を妨げ、生活水準を妨げる障害物であること、の

ところの意味は―古い社会制度の遺制がどんな働きをするものであるかと云ふ事を本当によく考へる事が出来、あなたがこちらにゐる時、二階の窓ぎはで話した事―自分の中に残つてゐる古い残滓が進歩をどんなに阻むものであるか―と云ふ事を、もう一度思ひ返しました。今度の私の場合を考へても、ぴつたり一致するのです。

あなたが私の心配や杞憂を「嫌な面」と指摘した事ね、あの事は本当に私の古いおくれた感情が前面に押し出され、さうしてそれを支持するために外の人のあゝ云つたかう云つたと云ふ事や、たまゝ大げさに人の伝へた噂話などを持ち出したりして、私の下らない杞憂を合理化したり、確實さを与へ様と無意識的にさう云ふものと結びつかうとした事、さう云ふ私の傾向をあなたが指摘したのです。今となつてあなたの云ふ意味はよくわかります。実際に見た白田さん個人を考へると何ともないのに、漠然と女友達としての白田さん―と云ふ風に考へると、前に云つた様な感情を刺戟されるのです。併し其の事も今は本当に何とも思はなくりましたから、決して心配しない様に。

二度目に讀んだから緒論がよくわかつたと云ふ事も事実ですが、矢張り大部分は此の二週間程あなたと一緒に暮し、ほとんどプランテーションの話をした事が大きな理解力を与へられた事実です。常に二人の間の話題となつた事、あなたからよくきかされた事が、理解力を進める大きな力であるのです。南部に於けるプランテーションの害悪は本当によくわかりましたし、同時に私自身の清算すべき遺制と、その悪結果もよくわかりましたから、どうぞ本当に安心して下さい。

そしてもう一つ、ソ聯のシユクセイの意義も又改めて再認識致しました(三の資本主義の発展の三つの段階とプランテーション制度の性質規定のところ)。あれ位峻厳に、あれ位徹底的に古き悪しきものは清算し、解決をつけねばならぬ事の意味がよくわかりました。解決し得なかつた事は、アメリカ資本主義の当時の段階としては、歴史的な限界性であつたのでせうか。

今日(十一日)午後四時ころ、あなたのお手紙つきました。汽車は楽でよかつたこと、炬燵の七日間程の後、火なし生活はさぞ佳しい事です。私もあなたの生活を考へるので、炬燵にはちつともはいらずがんばるつもりです。あなたが帰つてから一度もまだ炬燵にはいりません。

佐々木さん何だつて又電話なんかかけたのでせう。ヒョーキ^(へっ)ンな人ですね。きつとあれこれ昔の部下の動静をたづねまはつて、方々へ宣伝がてらの電話をかけた事です。

あなたのお勝手や二丈^{ニサツ}の部屋、火を起すところを思ひ出し、不便で気の毒でなりません。これから段々寒くなるし、炊

事も便利がわるい丈、尚更辛くなることでせう。本当に其の点はお気の毒です。火は小使さんにおたのみになつたらどうでせう。あの部屋の夜は落ちつくけれど淋しいのね。私一人ならとうていゐられません。何となくおつかない。あの洋服ダンスや二丈や西井さんの部屋が、夜になるとこはくなりませぬ。

あなたは手紙で、私の「心配」の事を気にやんで慰めてくれておくれですが、—もう何もその点で心配する事はありませんの、本当に。あんなにぐずぐず云つたのも、云つて見ればワヤを云つて甘へたい心理だったのでせう。今にしてみると、何故あんなにぐずついたか、自分でもわからない位です。もつともあれ程ぐずぐず云つたから、もう何も残らないのかも知れません。どうぞ本当に気にかけてあげず、勉強専心にして下さい。空襲の危険もあなたには何事も無い様に祈ります。では今日はこれで、さようなら。新原稿の方、手つき始めましたか。

今度Bが来た時は見物なんかしないで、防空ゴーにいち早くとびこんで下さい。さうして手まはりの持つて出るものを用意を、ふるしきに—とまめにしておいて下さい。

あなたの手紙、ごち走を根ほり歯ほりきいた話は皆に話して笑ひました。あなたのセキや風邪は其の後どうですか。夜寒いのかも知れないから、オフトンをかけるようにして下さい。

家の猫は二匹とも、今日の午後死にました。昨夜外で猫いらすをしかけたものを食べて来たのです。一晚中吐いて苦しみ、クラ／＼になつてタン汁を吐きつくし、二時ごろ赤の方が、二時間おくれでくろが死にました。くろは呼吸のあるうちにカンフルを注射しましたが、返つて苦しみを強めたのか、身体が冷めたくなつてから二時間も心臓が動いてゐて、ハ／＼と深い吐息をもらし、最後の廿分間はダンマツマの苦しんで七転八倒、苦しい声でうめきつづけ、死と生命との真けんな戦ひを如美にみせ乍ら、とう／＼死にまけて動かなくなりました。私はあんな小さいものの死の苦しみを如実にみて、かわい相で涙がとめどなくこぼれました。ふーチャンと庭にうめて墓を作つて、バラをさし仙香を立ててやりました。

謙一から幸子あて（一九四四年一月一一〜一三日の記）

十一月十一日、土（曇）

前大戦の休戦記念日だが、今度の戦争はまだ之から暫く終結と云ふ所まで行かないでせう。前大戦と比べて、ずい分異

つた展開をしたものです。

今日は芦野氏の電話で三人（西井、倉橋両君と僕）が午前中本室へ行きました。サッカー、まだわからないけれど、申し込むだけは申しこんでおきました。本室もさびれました。知らない顔がふえたせいでせう。だが宇賀が五十日はかりの肋膜炎欠からやつと出て来てゐるし、浜恒も一年越しの肋膜炎がどうやらなほつて、ぼつ／＼出て来てゐるさうです。芦野氏の用は半ば雑談的に簡単にすんだので、西井、倉橋両君と学士会館で昼食をとりました。そこで山田君と云ふ友人に会つて、「本を頼むよ」と云ふわけで少し立ち話をし、神田の本屋を歩いたら、奴隸制時代の奴隸解放論者の叢書が、十一冊八〇円で出てゐました。やたらにほしくなつたので、竹中君に借金しようと思ひました。二、三日の中に売れたりしなければいいが。

東京は此の間のB29の訪問以来、大ていの男はゲートルに訓練服、肩かけカバンで、鉄カブトと防毒マスクを背中へせおつてゐます。僕は今日は紺の背広だけで、コートもボシもなしでした。経堂へ帰ると、また本棚整理の勤勞奉仕でした。英研の連中は今朝も防空壕水汲みをやつたのださうです。西井君はズルをして、神田からどつかへ消えて了ひました。

あなたの手紙来てゐる筈だがと、何度も郵便受けをのどいては失望。今朝小包と手紙（No.16）を出しましたよ。またタバコ配給ありました。之は二、三日中に送りませう。今度は「ヒカリ」六箱です。このタバコは僕の知らない間に小使さんが登録しておいてくれたのであり、それをヤミの材料にしてゐるわけでないから、まあこのままもらひつづけませう。だからお父さんでもふぢちゃんでも利用して下さい。こちらから送れるものはこんなものくらいよりないのだから。米の配給はまたおくれます。外の配給がすべて最もよくないのだから、タバコくらいはいいわけだせうね。トウフなんか、この四ヶ月近くの間一回も配給受けなかつたのだから。信州からの食糧は、牛肉だけは昨日すつかり食べて了つたが、あとはねぎもおいもパセリもハウレン草も大切に少しづつ食べてゐるので、半分以上残つてゐます。いねちゃんにパセリを上げたいが、あらはれないのと、銀座へ行つても必ずしも会へないために、まだそのままです。

またピアノをやり始めました。専ら夜、食事の前後だけです。二十日はかり全然触らなかつたのでおさらひをやつてゐるのです。

今夜は郷軍の訓練の回状が来たが、風邪がまだなほつてゐないのでサボりました。少し熱もあるらしいので、配給の酒をのんで寐ませう。

十一月十二日(日)曇。

日が照らない朝はさすがに冷えて、若干起きにくくなりさうです。石炭の火を多く起して、暖房にも利用します。お手紙、ヤット、有難う。ブルーズを作つてくれてゐたために書けなかつたのですね。さうとしらず、不平がましいことを洩したりしてすみません。誕生祝ひのブルーズを大いに期待します。二、三日中に着くのでせうね。

お元気のやうで安心しました。僕のことには心配せず勉強して下さい。「プランテイション」の感想を待つてゐます。ハッカーも面白いでせう。さう云ふ風な書き方は、歴史家としては余り書きたいやうな方法でないが、要領よく経済史を覚えさせるのにはいいでせう。ハッカーは鈴木圭介君などの系統と見るべき経済史観です。

今日はホウレン草の油いためや、おいもやカブラ、大根のフロフキ等を作りました。小使さんは尾久の家へ行き、一人留守番したので、大分ピアノをひけました。風邪がなほらないから、今日は早川君とこへは行きません。曇り日で寒くて、さびしい日です。あなたの手紙だけがそのさびしさをまぎらせてくれました。尤も午後にはスモウの放送をききました。

ソフォクレスを読んでゐます。アイアスはイリアツドのテーマを卑少(下)にしたやうなものです。アキレスとアガメンノンの対立が、ここではアイアスとアガメンノン等との対立になつてゐて、人物も何もイリアツドよりはずつと小さく低級ですね。アキレスは駄々つ子のやうなところがあるが、アイアスになると馬鹿ですね。

早苗ちゃんのだんて熱はまだつづいてゐますか。早苗ちゃんあたりには地獄の概念はムリでせう。だから、たゞ絵としてみるだけですね。ちつとも「怖い」とは感じてゐないでせう。それでいいわけで、怖いと感じさせないことが必要です。シモンズのダンテも面白いですよ。

大分ひえるので、早目に床へ入りませう。酒もおしまひになり、ビールはさむくてのむ気にならず、結局床の中より外は、暖い所はなささうです。その床も冷たさがひとしほ感ぜられる此の頃です。

柿は一つだけジュクしたのでたべました。もう一つはまだ固いのでそのままにしてあります。砂糖は明日ぐらい買へる筈ですが、〇・二五斤(十銭)ですから、粉でもあればオヤキを数回つくつて、それでおしまひと云ふ程度でせう。戦局の辛カラさをしみく感じさせますね。

今日は下から大ヤカンを借りて、湯をわかし、頭をあらひました。こんな寒い日に風邪気のままあの汚い銭湯へ行く気にはならないので。さつぱりしました。

此の家も柿や栗がなくなると、一層殺風景になります。それでも石炭があつて火が起せるから、いい方かも知れない。水も此の頃よく出ます。そのかはり防空壕の湧水も多いわけです。では今夜は之だけでおやすみなさい。

十一月十三日(月)晴

快晴です。昨日とうつてかはつての。露台のふちの夜露のかわくのを待つて、ふとんやら上しきやらをほしました。風は冷くて、秋深い感もひとしほです。信州は今頃の方が感じが出たのでせうね。山の雪や紅葉などは、きつと見頃なのでせう。麦まきもすんで農家にもくつろぎが出ようし。武蔵野の此の辺は畑がはだかになつたのを除いて、さう秋を感じさせるやうなうつりがありません。常緑樹が多いのでせうか。此の家のまわりも柿が紅葉し、桜が裸になつただけです。

ソフォクレスを読みながら、ギリシヤ悲劇に固有な葛藤、古い倫理と新しい倫理との、古い型と新しい型との対立、公的な政治的な契機と私的な真情の契機との対立、そしてそれらを買いてゐる神Ⅱ正義Ⅱ理法(ソフォクレス以後になるとこの理法Ⅱ正義は理法Ⅱ運命になる。このことはギリシヤ社会の向上(従つて市民としてのありかたと公民としてのありかた及び人間としてのありかたの勝利的な一致)から、その下向期(市民と公民と人間との分裂、人間の無力感Ⅱ運命の成長)への転移を意味するのでせう。アイスキロスからソフォクレスへの下向)の觀念の健康な強さにうたれます。またアンチゴネーとイスメーネーとの対比は、オイジプスとイオカステとの対比の延長だが、実にアンネットとシルヴィの対比にまで来てゐるのを感じます。英雄的と卑少的と。

英雄的とは個人の生命地位の存続よりは、より大きい普辺、理法、真理、歴史への合体統一を希求し、その為には自己の生命地位の最も悲惨な破綻をもあへて避けない、卑俗はその反対に個人の生命地位の防禦から一步も出ようとしないう型。創造的と防禦的。前進的と後退的乃至停滞的。それにしてもオイジプスは偉大な形象ですね。アイスキロスのプロメテイスと共にギリシヤ悲劇のうみ出した最大の個性です。アイスキロスのオイジプスをなくしたことは何と云つても世界史の痛恨事です。

昨夜は汪兆銘が死んだために、寄席中継がなかつたですね。だん／＼笑ふ機会も少くなるでせう。小学生のラジオの歌をきいてゐると本当に悲しくなりますね。何と云ふ悲しい歌ばかり歌はれるのでせう。此の頃の国民歌謡の大部分は、



人間を前へ駆り立てるよりも、後へふりむいて気持をどこか地の底へでも引きこまれるやうな感じをさせます。生活の貧困は音楽の貧困へも決定的にひびいてゐるわけですね。

明日、藤本君が秋田県かどこかへかはるので、学士会館で送別会です。

では又。

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年一月二日の記、一三日の消印）

十一月十二日くもり

曇つて寒い日、東京のあなたの部屋もこんな日は陰気で侘しい事でせう。昨夜は十時に寝ました。今朝は七時近くまで。此の頃はあんまり寝すぎるせい^①か、朝目の覚め際は苦しい様な感じが目ぶたのまはりにつきまとひます。あなたは六時には起きるのですか。

お母さんは思い出した様に「謙一さんはどうしとら、何食べとら」と云つてゐます。本当に私も何食べてゐるかしたらと、食事毎に思ひ浮べて居ります。おやつも火もない淋しい部屋を思い出して、何か送るに良いものでもないものかなアと、キヨロくしてゐます。夜は寒くて困るでせう。そろく残り火で足台に火をいれるとよいですね。

おひるすぎに松尾の八幡山にゴカキにゆきました。（簡単な図が記されているが省略―編者注）こんなもの（熊手の一種）を右手に、脊中にシヨイ箆をしよつて、岩崎さんと二人で約一時間かかつて、箆とふろしき一杯に松葉をつめて帰りました。松尾の八幡山とは、松尾村へゆく旧道の裏手に当る丘陵です。そこから松川も天竜川も川向ふの富田方面もみえます。景色はいいし、適当な運動で汗ばんで来ました。午前中は潰れたので、午後は二階でゆつくり勉強のヨ定が、三時まで駄目になりました。これから緒論のノオトとり一時間、四時から一六時半までは夕方掃除と食事にとられます。では又、晩に続を書きませう。

おふろから上つて七時半から九時半まで、四のノオトをとりました。一〇枚書いてもまだのこつてゐます。独立戦争や南北戦争の正体が

とてもはつきりしました。アメリカの商業資本と独立戦争、産業資本と南北戦争—それから産業資本の反動化↓帝国主義化の過程がよくわかつて面白かった。時々、三のところとませこぜになる様でしたが、段々両者の視点の相違もわかつて来たし、ゴタ／＼してゐる様でゐて、ノオトにすると中々整然としてきました。それに夫々の時代にはいると、前の時代の事が始めに要約されて出て来るから、尚理解を助けました。それにしても凄くベタ組にしてゐるのね。組み方があまり追ひこみすぎてゐるのは、たしかにある程度読み辛くしてゐる原因でせう。ノオトは随分時間をとる割に中々進めませんね。何だか、まだせつついてはいけない様な気持ちになりますけれど、—感想がすこしおくれても怒らない様にして下さい。充分の理解や消化のためには、あまりあせつたり急ぐと悪結果しかないと思ひます。

昨日の夜、何気ない話からアメリカの成立や独立戦争、南北戦争、プランテーション制度、アメリカ憲法と日本の憲法、黒人奴隷制度、—今次の戦争と黒人問題等の話を、お母さんに話しました。話してゐるうちに、お母さんにも随分深くアメリカの政治とプランテーション制度のことがわかつた様に見え、私自身も何時のまにかエラクアメリカの歴史に精しくなつてゐることや、読んでゐた時にはそれ程はつきりしてゐなかつたことがはつきりしたりして、吾乍らゆ快に思ひました。あなたの今度の本がそれを指摘し、問題を出してゐるのだと云ひましたら、「ヤール」と云つて驚いた様な感心した様な顔をしてゐました。結局、思ふには亀の子式の読み方、ノオトの積り積つた結果だと思ひます。

緒論だけのノオトはもう22枚にもなりました。例によつて図表にしたり、二重になつたりですから、尚長くなるのでせう。ノオトをとりながら、此のプランテーションを終りまでノオトしたら、始んどアメリカ史をやつた事になり相だなアと思ひました。今度、あなたのアメリカ史(叢書の)をよむときは、随分楽だらうとも思ひます。

経堂へ帰つてからオフロへ這入りましたか。私はあなたが帰京してから二度目です。今夜は淋しい野分—よりも木枯に近い様な風が吹きます。おそらく東京も風が吹いてゐるんでせう。あの淋しい部屋の夜、机に向つてゐるであらうあなたの姿を想像すると、悲しい様な切ない心持になつて、暖いお茶だのあまい干柿だのを、持つて行つてあげられたらと思はずにはゐられません。早くブルーズが着いて、夜すこしは暖くゐられるといいのに。

では今夜はこれで、風邪を早くなをすよう、オフトンをかけておやすみなさい。

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年一月三日の記・消印）

十一月十三日晴

風越の裏山に雪が来しました。まもなく伊那山脈にも降る事です。朝はチャン／＼コを必要とする位寒く、七時半頃でないと陽が顔を出さなくなりました。山の中腹以上は輝いてゐても、鼎村は特に低いところにあるから長く暗いのです。今朝は看護婦さんとお母さんの防寒用頭布を縫つて、午前中すぎました。軽くて暖かで、夜窓のそばで勉強するには大変具合よろしいですから、其の中あなたにも使つて送ります。前の防空用程大きくも重くもありません。

おひるすこし前に深三郎叔父が来たため、今持つてお母さんは御機嫌わるい。口の中でブツ／＼云つて一人で怒つてゐます。

今朝は猫の夢を見た。猫を殺すのにのどいっぱいにするめです。んをして、つばでするめが段々大きくなつて窒息させてゐて、其の時の猫の苦し相な声がたまらなくて許してやってくれと云つて、ピンセットでするめをとり出さうとあせつてゐるところ。其の猫はプシの様で、ぼつてりしたところ、毛並のツヤ／＼、鼻先のピンク、声までそつくりで、目が覚めてから嫌な気がしました。プシが誰かにしめ殺ろされたのではないかしら。あなたの云ふ通り、何処かですつと前に死んだのならまだいいけれど、案外いぢめられて卑屈な猫になつてゐるのぢやないかしら。よごれてやせて。そんな事を考へると本当に嫌ですね。こんな時代は生き物を飼ふのも、いろいろな嫌な事もついてまはるから、考へものですね。風が又ひどくなつて来ました。こんな日、昨日の様にゴカキに行くと、うんと拾へるでせうね。自分で自由に出来る自分の家を持つてゐたら、大籠を負つてゴカキに行つて、冬中のたきつけをたくわへるのも、又楽しい事です。そのたきつけで夕飯ごしらへ、お茶わかし、なんて云ふ桃太郎のおぢいさん、おばアさんの様な山里の仮ずまひも、風流なものだなんて感じました。

煙草はおくつて下さる相で有難うございます。お父さんも此のごろ大分節煙ですし、女連中は皆やめてしまひましたから、あまり御心配なく。たまに下さる位で、あとはあなたの都合で何かと利用して下さつた方がいいと思ひます。お百姓さんも煙草を持つてゆけばちがふでせう。お父さんもあればある程ほしいのですから、なければないで段々少くなるでせう。もうひところ程ウ／＼しなくなつた様です。

ここはおいもだの柿だのお茶だなんだと、始終食べるものはありますが、どうも時間の無駄があつて、自分の思ふ様にならぬのは困ります。

朝ちやんは下伊那の健民修練所(前)の風越館へ、此の十五日からゆく事にきまりました。その献立表みたら、一日置きに天夫羅です。材料はうんとあるらしい。卵もとりにくも。石橋さんは献立表をのぞいて20分も考へこんでゐたが、僕も三保村(前)の学校はやめて、この教師になりたいな。文化教養係に雇つて貰はうか

と虫のよい事を云つてゐました。「あさ子さん、たまに遊びに行つたら夕飯位食べさせてくれるでせう。前もつて電話するから」なんて云つてゐて、お母さんからいしげなんぼなんだなあと、悪口云はれました。百五十人近くゐて、ヨ算もたつぶりある相で、所長は小児科の松井先生です。お風呂も毎日あるし、部屋は前が料理屋で、まち合風の一軒建が二十位バラ／＼あるし、一軒あてがつて貰へば便所もついてゐるし、玄関も別だし、便利でせう。一軒二部屋位で、書院風の座敷(三、六)です。

では今日は話らない事ばかりでごめんなさい。又、晩に書きませうね。風邪に気をつけて。

幸子から謙一あて(一九四四年一月三日付け、同日の消印)※

こないだうち、あなたにあげ様／＼と思つて、遂忘れてしまつたお守りの中味をあげます。これはまむしの皮です。大さう、いろいろ御利益がある相ですから、此の夏に作つてあげたお守り袋に一緒にいれて、モンペにブラ下げておいて下さい。

あのお守り様、なくしたのぢやないこと? 此のごろ、つけてゐなかつたぢやない?

※この封筒には中身が入っていません。ただ次に掲載する「一三日の記、一四日の消印」の手紙文に、「前便同封のまむしの皮」とあり、同じ封筒中に紛れ込んでいた別便と思われる一枚の用箋には、「まむしの皮」を送付する旨が記されていたので、本来この封筒中にはその一枚が「まむしの皮」とともに挿入されていたものと判断し、ここに掲載した。

なおこの空封筒は、ひとつ前に掲載した「一三日記の手紙と、日付け・消印日とも同じだが、封筒裏面に記された通し番号は前のが「24」に對し、こちらは「25」となっている。おそらくは「24」の手紙のすぐあとに投函されたものであろう。

幸子から謙一あて（一九四四年一月一三日の記、一四日の消印）

十一月十三日夜九時。

緒論、すつかり読み終りました（尤もノオトは六までですが）。前にも書いた様に、今度は一寸もむづかしいとも何も思はず、たつぷり理解出来たと思ひます。

四、六、七の出来栄が特によと思ひます。四で、アメリカ史全体の主要な線が自分のものとなり、六では、アメリカの歴史だけでなしに歴史研究一般について考へさせられるところあり、所謂歴史と云ふものの中には難多な歪曲された歴史があること、政治的干渉なしの真の歴史を書くことの困難なこと、書かれた歴史はおほむね「歴史の独立性」を持たぬこと、政治的な歪曲なしの歴史を知るために、私共は常に受身であつてはならぬこと、にもかかはらずアメリカの場合ではプランターの弾圧、恐怖政治をはねかへして歴史の前面に自らを押し出して来るもの、シエアクロッパ・ユニオン等があること、其処にこそ人間の歴史的進歩（？）があること、などを考へさせられました。

七は南部問題で一度よみ、先日読んだ中の第二章第七節、第三章第二節、第四章全部で、ほとんど生々しい記憶の中にあるところで、大変に愉快によみました。最初読んだ時は七のところなど、ほとんどわからず通過したらしい。今よんでみて、第二章以下で出て来た事で、其の時始めて読んだ事だと思つてゐた事が、全部出てゐました。

本当に此の緒論は、同時に結論でもありますね。緒論だけで四日かかりましたが、明日は残つた分（七、八）のノオトをとつてから、もう一度通読したいと思つてゐます。

No.16のお手紙有難う。十三日の夕方つききました。スタンプは十一日ですから、三日目にはつきますね。防空壕の水の汲出しとは大変でしたこと。地下水が湧き出る様では、いざの時困りますね。椅子でも持つて這入らなくつちや、リョーマチになる。

あなたの本の広告はやぼつたいかも知れないが、本質をよくあらはしてゐるではありませんか。よつほどよんだ人が書いたのですね。大体今月中に出版されるでせうか。例の心配が杞憂である様、ねる前には必ず何かにお祈りしてゐます。前便同封のまむしの皮もサイ難除けなのよ。身体にくつつけて置いてごらん下さい。

淋しいおたん生祝ひだったのね。誰にも御バイ食の栄を与へなかつたの。それでもたつぷり食べられたのは、よかつた

方ですね。お豆を近日、すこし送りませう。いつて食べるというのですが、—どうもあなたは一度に皆、食べてしまひさうね。

白田嬢の感想—不思議ね。そんなに私が大人に見えたとか。森井さんはまだきどりと云ふか、スタイルをつけてゐるところはたしかにあつて、それが子供つぽいと云へば云へるかも知れないけれど。私は白田嬢とはろく／＼話らしい話をしなかつたし、一緒にゐた時間も20分位なものですから。それに意地わるな心持があつて、デロ／＼眺めたりしたのに。どんな意味でさう云つたのか不思議だわ。「白田さん」と云つても、私はもう偏見を持たないから、ありのまゝに本当の事を書いて下さつて大丈夫ですよ。あなたが帰るやいなや、ピタツと何ともなくなつたんです。かへつてあなたに偏見を与へていけなかつたのね。もうすつかりあの件は、私に於ては発展的に解消よ。本当に心配しないでね。

あなたが帰京して淋しい事は本当に淋しいけれど、心はみち足りた安らかさがあります。平静さと平和と、そうして前進へのゆつくりした心構へも知らぬまに出来てゐました。こんなに云つてもあなたは信じられないでせう。帰る前とあまりにもちがふから。でも本当なの。「みちたりた」と云ふ形容詞が一番当つてゐる心持です。それはちよい／＼とあなたがゐたらなアと思ひますが、あせる気持や暗い気持はみちんもありません。これもあのプランティションをよみ切つた事が—とても私にはよめないかも知れぬと云ふ不安、自信なさを一掃してくれたのかも知れませぬ。それもウンとありますね。そしてあなたとの二週間の暮しが飢えた心情をみたくしてくれたのでせう。さうしてあなたへの信頼や愛情を更に深めたからもあるのですね。

プランティション、あの杉大な、あの濃厚な、あの沢山の問題を含んだ、あのむづかしいものをよみ切れた事は、たしかに私へ失つた自信を取り戻してくれたのです。よみ切れた事はあなたとの二週間の暮しが大きな／＼圧倒的な助力であります。あれなしには(と云ふのはいろんな意味よ)私は自信なくて、よめるところも読めなかつたらうと思へるのです。結局あなたの愛情やあげましなしには、読める力が湧いて来なかつたと思ふの。

あれを書いた事があなたに大きな成長をもたらし自信を与へたと同様に、あれを読んだ事は私にも成長を自信を与へてくれたのであつてほしいと願ひます。あの中の個々の少さい一ツツの問題でも、私の考へ方の上に実に大きな影響を与へてくれてゐます。そしてあれ丈のものを書き上げたあなたの成長をびつくりして仰いで見てゐないで、私もすこしでも引き上らうと思ひます。では今夜はこれでおしまひ。

風邪を早くなす様に、いい仕事、いい勉強をたつぷり出来る様に念じ乍ら。

謙一から幸子あて（一九四四年一月三日の記）

十一月十三日（月）晴

今朝手紙No.17を出したすぐあとで、小使さんが小包を届けてくれました。上つぱりと粉と重曹、どうも有難う。何よりもいい誕生日でした。ブルーズの出来工合は中々上等です。ちよつとルパシカのやうな腕の工合もいいし、タツプリしてゐるところも気に入りました。「中々いいね、芸術家みたいだよ」と、小包を解いてさつそく着てみる一部始終を見てゐた竹中君が卒直な意見をのべ、「まあ、お立派な、とてもお似合ひですよ、まあ、ほんとに」とは、お茶をもつて上つて来た小使ばあさんのほめ言葉です。「僕のフラウもずい分サイホウがうまくなつたもんだな」「君のオクサンが作つたのかい。迎もいいよ、うまいよ」。今日は暖くてブルーズを着てゐる必要もなかつたが、ずつと着てゐました。

数日前から臼田君が、高崎の判事をしてゐる兄さんが病勢悪くて行つてゐるので、此の頃は竹中君一人が朝の話相手になりに来ます。「それはさうと、君に借金したいんだがね、少し多いんだ。80円要るんだ」「80円か、今30円あるが、明日ならあと五〇円都合して来るよ」「明日で結構」「また本かい」「うん、とつといてくれないんで、他人に買はれると困るんだ」「何だい、ものは」「アメリカの奴隷解放論者の叢書さ。十一冊で80円だから安いんだ、ほつとくと危いからな」「さうだよ、早く買つちやへよ。君の本はまだかい」「今月末ぐらいかな」「今度はまつさきに読むよ。君の話をきいてゐるので、歴史が面白く好きになつて来たよ。だけど何だね、調査会ではやつぱり君が一番はり切つてゐるね。本当の意味の専門家で君一人ぢやないか」「調査会なんか相手ぢやないよ。日本中の学者、いやアメリカの学者も相手だ、と云ふと少しうぬぼれすぎるかな。だけど駄目だなあ、たつた一冊書いたきりであとが続かん」「それだつていいよ。僕なんか今年は何にもしなかつた」「君はまあ兵隊に行つたんだからな」「うん兵隊にも行つたり、今年中に結婚もせにやならんし」「相手はどう云ふ人だい」「相手なんてないよ」「相手なしに結婚せにやならんて何のことだね」「うん、結局さうなりさうなんだよ」「どうなるんだ」。

「いや結婚と恋愛の問題では僕も君の意見に全然賛成するんだがね、実際問題となるとさうもいかないんだ。両親が病気がよくなって、もう余り長くなささうなんでね」「それで両親を安心させるつて云ふんかい」「いや両親の世話をする人がゐなくて困るんだよ」「なあんだ、そいぢや両親の世話をするために結婚せにやならんて云ふんだね」「さう云ふわ

けでもないが……やつぱりさうだな」「そいぢや一体君が結婚するのか」「両親が結婚するのか」「そりや君の云ふことはよくわかるよ。だけど恋愛なんて待つてゐてもチャンスは中々ないし、見合結婚や両親の持つて来る相手でもない人がゐないとは限らないだらう」「そんな頼りないこと云つちやいかんね。恋愛は待つべきものぢやないよ。見合結婚なんかする男はみんな同じやうなことを云ふ。いい人に当らないとは限らんなんて、全く身振ひするやうないや言葉だ。それぢや始めから大部分は『いい人』でないのを予期してゐるやうなものぢやないか。君はさつきも、T君を見るのもいやになつたとか、好きな人は好きだが嫌ひになるとがまん出来ん程嫌ひになると云つてゐたね。所が初めはT君についてもさうは云つてなかつたらう。結局半年なり一年なり同僚として一緒にやつて来る中に、がまんのならない相手になつたつてわけだらう。それが妻の場合だつたらどうだ。最初の見合ひの印象なんかで人間の全貌やその発展がわかるもんぢやない。ましてや夫婦としての生活は、同僚との生活のやうなものぢやないよ。相当お互ひに理解し合つてゐても、結婚生活には入れれば新しい矛盾も出てくるものだ。相手が両親の世話や君の身のまわりの世話をやる、いはば女中としての妻、または子供をつくるための機械、そんなことは機械的にも出来るからね、そんな機械としての妻に満足出来るのならいいさ。だが妻に人間であることを望むとしたら、君の考へてゐることは言語同断だ」「だけど両親が」「両親の世話をしてくれる人を見つけることの困難と、君の不道德な結婚とどつちが重大だね」「そりやあね、君の云ふことには原則として全く同意するよ。だけどその原則の方法は一つと云ふわけではないと思ふんだ。つまり夫婦は恋愛を基礎とすべきだらうが、見合ひなり親の世話でなりに結婚することになつた相手と、恋愛をきづくことも出来んわけぢやないだらう」「出来んわけぢやないさ。だが君、結婚とは君だけの重大事ぢやないよ。君の相手にとつても、また君とその人との間に生れて来る子供達にとつても、或ひは君及び君の相手の両親や近しい人々にとつても、極めて重大な問題なんだよ。それを『出来んわけぢやない』とか『……とも限らん』とか云ふやうな頼りない、偶然的なものへ依存した態度で決定するなんて、全く不誠実だし不道德だ。結婚にはリーベ以外に方法があるべきぢやない。むしろ両親の世話と云ふことについてなら、いくらでも方法がある筈だ、結婚と云ふ方法以外にね」「だつて僕等は外に結婚の道が事実上ないぢやないか。それに僕は今両親のために妥協してさう云ふ結婚をしても、子供には充分教育を施して、いはば次のジェネレーションで此の問題を解決させることも出来るだらう」。

「馬鹿云つちやいかん。自分が妥協して、次のジェネレーションに斗ふことを要求するなんて卑劣極まる。逆に次のジェネレーションに不要な斗ひを負はせないために、今我々が斗はねばならんのぢやないか。今丁度僕の読んでゐるオイジ

プースのモラルを考へるといい。オイヂプースとイオカステとの二つのモラルの対比、アンチゴネーとイスメーネー、プロメトリスとヘルメス、ファウストとワグナー、アンネットとシルヴィ、英雄的眞実者と卑俗な偽善者、二千年、三千年の昔から今に至るも続いてゐるこの人間の二つのタイプについて考へるといい。君のかう云ふ重大な人生問題に当面した時、君の之まで読んだ偉大な芸術品、偉大な人間の歴史的实践が、凡ゆる角度から君の判断を助けてくれる筈だ。バルザックを、シェクスピアを、ダンテ、セルヴァンテス、アイスキロス、ソフォクレスを、すつかり想ひ出したまへ。かうなるとドストエフスキーなんか役に立たん。こんな時に君がさうした多くの人類文化史上の傑作、人類の思想的財宝から、何等判断の基準も指針も示唆も得られないとしたら、君がそれらを単にディレッタントとしてしか読めなかつた証拠だ。君は原理はわかつてゐるのだと口で云つても、そのこの含む意味の全体はちつともわかつてゐないのだ。原理をその一切の帰結、あらはれ、因果關係に於て理解してゐないのだ。ギリシヤ悲劇やシェクスピア、バルザック、ヘッベルは人間關係のわづかな不合理、不誠実がどんな大きな意味をもつかを、ドラマティックな展開を以て徹底的に示してくれてゐるよ」。

「うん、……悲觀したなあ」「悲觀なんかする必要はない。元氣を出して誠実に考へて行動するといひんだ。僕の若い友人に、もつともつと困難な家庭問題に悩み苦しんでゐる人がゐる。君の場合なんか、この一大苦惱の時代の、むしろごく簡単な問題の一つだ」「だけど小さいことでも、どうにもならないことと云ふのはあるものだらう」「どうにもならんことぢやないよ。一切は君の自由な選択権にかかつてゐるんぢやないか。君自身の生涯に関する君自身の結婚問題を決定するのに、他力本願や責任回避は恥づべきだよ。君が奴隷であるとか、自由人でないとか云ふのなら別だが。物事のなりゆきに身をまかせると云ふ風なイージーゴイングは卑劣だよ。君の全論理はひたすら防禦的で自己弁護的ぢやないか。自分のモラルを断乎として主張すると云ふやうな、誇らしさや積極性が何もない。自分の一切を自らうちこすことになつても、眞実を知り眞実を貫かうとしたオイジプースのヒロイズムを学ばないといかん。ごまかさずに誠実に全力をあげて、考へ判断するんだね。でないと罪をおかすことになる。人間關係をいい加減に考へるのは、人間關係の解放されてゐない遅れた社会で通有な悪い癖だが、そんな癖を君のやうに若くて歴史なり人間なりについて考へもし、認識もしてゐるやうな人がすてられないなんて情ないぢやないか。とにかく考へたまへ」「うんまあ考へてみよう」。

ラモオの甥のやうな手紙になつたけれど、竹中君のやうなのは現在日本の若い世代の男性の一つの典型であり、大金嬢などと比べてみるといろ／＼考へさせられると思ふので書いてみました。僕の説得力も貧弱で、もう一年以上もいろ

く、とシヤベツて来たのに、こんな問題で僕のシヤベツて来たことの無力を遺憾なく見せつけられた気がしました。明日もつづけてシヤベラねばならないでせう。尤も僕は此の頃、自分のシヤベルことの効果について自信をもちません。結局みんな、僕と云ふ人間を、僕のシヤベルことを、何と思つてきいてゐるかわからないのです。何だか言葉の通じない人間どもと生活してゐるやうな気がして来ました。言葉が通じないくせに一生ケン命に、ない力のありつたけを出して、よく云へば兎をうつにも全力を尽す獅子のやうに、悪く云へばのれんに腕おしする愚か者のやうに、凡ゆる問題についてシヤベツて来たのです。「プランテーション」も何人の理解者をもつことか、いや何人の通読者をもちうるることか。とはいへやつぱり明日もシヤベることです。

幸子から謙一あて（一九四四年一月一四日の記、一五日の消印）

十一月十四日晴天、朝8時（零下二度）

今日の午前中は植木屋になり庭掃除専心。枯枝を払つたり枯草を刈つたり、落葉を集めて焼きました。晴れた青空に立ち登る落葉の煙は実に長閑なものです。ふと気が着くと指に二ヶ所傷が出来てゐました。石灯いしとうとうですりむいたものらしい。それから池で大根洗ひ、お母さんと二人で六貫匁洗ひました。大根一貫匁の値段は五十銭です。

大根洗の後はあなたの防寒頭布（巾）の製作、約一時間で出来上りました。なにかいいものを探し出して一諸（諸）に送りませう。朝夕の火を起す時にも埃除になります。ミシンを使つてゐる間、早苗と其の五人の友達とのおそびを聞いてゐましたが、最後は早苗のわがまゝ、いぢ悪、よく深で子供達は帰つてしまひ、早苗は泣き、お婆アちゃん（お婆）が勝手な理屈をこね、朝ちやんとお婆アちゃん（お婆）の口喧嘩になりました。

午後は炬燵蒲団のカバーつけ、掃除、夕飯支度ですつかり潰れました。昼まのうちは自分の時間はないものと諦めなければ駄目です。さうでないとい時間（暇）の無い事を不平に思ひ勝ちですから。今丁度七時半です。これから勉強にかかります。昨日また伊勢湾にB29があらはれた相ですね。わが軍の飛行機は追ひかけないのでせうか。

あなたの昨日の手紙にあつたS氏（原文）の演説は、どの新聞にあつたのかしら。もし切りぬいて送れる様なら見せて下さい。但し無理しないように。こちらでは紙不足のため新聞はたちどころになくなつてしまふので、後から探し出す訳にはゆきません。其の演説は是非読み度いものです。

今度あるであらうB29の空襲の事を思ふと、矢張り

一、食料品 二、水筒、箸、弁当箱、コップ一箇

三、衣類、下着類、ざぶとん（若くは毛布）

四、新聞紙少々、油紙少々

五、手ぬぐひ、袂、紙、糸針、ふるしき、まつち、ローソク

六、歯ぶらし、石けん、ペン（鉛筆）

七、救急箱

八、貴重品（印鑑、通帳、配給切ぶ、財布）

非常持出し袋の中へ用意しておいてよいもの丈詰めて置いて、毛布や八の貴重品は、いざの時すぐ詰められる様になす
つて置くこと。くだい様ですが忘れぬ様、早速処置なすつて下さい。

では詰らない手紙ですが、今夜はこれできようなら、不勉強でも乍ら、毎日手紙を書くこと、こんなのにあります。

謙一から幸子あて（一九四四年一月一四〜一五日の記）

十一月十四日（火）晴

お手紙有難う、十一日づけの。

猫達が死んださうで、可哀さうなことをしましたね。折角あそこまで大きくなつて、可愛（愛）くなつてゐたのに。それにあなたにとつてはプシを想ひ出すすがにもなつて、死なせたくはなかつたでせうに。猫も一匹前になるのは中々大変なんです、いろいろな苛酷な現実や障害があつて。とすればプシなんか我々の、いや大部分あなたの丹青（丹）があつて、やつとあそこまで、あの頼もしさにまで育つてゐたわけで、その意味でも惜しかつたですね。早苗ちゃんもガツカリしてゐるでせう。

「プランテイション」についてのあなたの読みかたも、漸く本格的になつて来て嬉しく思ひます。一つの本を読むのに、そこに書かれてあることをそれだけで、それだけとして（個別として）読むのでなく、その書かれた個別的現実を普遍的位（位）置に於て、他のさまざまな諸現実との有機的聯関に於て、生命の通つた運動するディアレクティクに於て読むと云

ふ読みかた、従つてそれを書いた著者の全感情の凡ゆるニュアンスやひび、(襲)にまで肌ふれながら、いや著者の意図や感受性をこえてまで、読みとると云ふ読みかた、さう云ふ読みかたこそ本当のよみかたなのでせう。本を媒介に書いた人と読む人の心と心とがしみぐと相通ふ、共鳴する、さう云ふ読みかた。さう云ふ読みかたはまた、著者の熱情がその本にもこもつてゐるか否か、著者が誠実か全力を尽してゐるか、生活の全振幅を以てうちこんで書いてゐるか否か、を識別することにもなるでせう。さう云ふ読みかたで読んでくれる人には、僕の「プランテーション」は、外の専門書や啓蒙書の何にもさう劣るとは思はない程度の豊富さを与へ得る、と思つてゐるのだがうぬばれかしら。少くともさうありたいものです。僕はあなたに、あの本を書いた全生活感情をすみぐまで味解してもらひたくて、僕の情熱を、人生観世界観を、心情生活と智的緊張とを、全部的に理解してもらひたくて、そのことによつてあなたと心ふれ合ひ、いのちを交流させあひたくて、あんなに執拗に読んでくれ読んでくれ云つたのです。そしてその欲求が満足させられない間は、あなたに不当に冷たかつたり、怒つたり、我がままを押しついたり、意地悪を云つたり、とにかく悪いことをしたのですが、今はその欲求が満足させられようとして、すべての僕のやつた「悪いこと」を悔いわびるのみです。

なほあなたの疑問の一つ、語義について。語義と云ふものは、ものの歴史的内容を反映する限りで重要であり、語義の成立乃至変遷がそのまま、そのものの歴史的形成乃至転変乃至発展を、多かれ少なかれ反映するものなんです。プランテーションの場合は、典型的なものはイギリス植民地に展開されたので、英語のプランテーションが世界語になつたと見らるべきです。尤もラテン語にも結びつけられますが。スペインやオランダはプランテーションとは呼ばないし、若干偏差もあつたのです。プランテーションの発生については、僕の調査会の原稿(南北戦争の。たしか二階へ持つて来てありましたね。朱色の線のある原稿用紙で、半ピラ六百枚くらいのも)を読むときつとわかるでせう。「プランテーション」が終つたら読んでみて下さい。その原稿は、民族叢書のアメリカ史と「プランテーション」との間の時期に、すなはち昨年(前半年)に書いたものです。今書いてゐるのは、その独立戦争の部分(別の形にかきかへてゐるのです。今日は学士会館で秋田県へ行く藤本君の送別会がありました。集る者八人、即ち藤本君の外は鈴木正四、市川、竹村、山田、北条、西海、僕。西海は佐賀高校教授になつてゐるのですが、たまぐ東京へ出て来たものです。「それにしてもよくこれだけ集つたね。支那事変の初めに北条の召集の時と同じメンバーぢやないか。津吉と上田がゐないだけだ」。「上田は京都から帰つたばかりだが、今日は連絡つかなんだよ」。「西海もずいぶん有為転変したね。だがどうやら落ちつく所へ落ちついた形か」。「藤本も有為転変ぢやまけん方だね」。「うん、リレキシヨ書くとき困るよ。一枚で書き切れんよう

になるぜ」「竹村はフラウ疎開か」ところが却つて向ふ^③の方が危いんだ。土佐の海岸一面にトーチカを築いてゐるんだがね、それが材木だけのトーチカだよ。その辺の山はみんなはげ山になった」と云ふ風に、例によつて時局談には入り、食事をはさんで八時の閉館までケン／＼ゴウ／＼シャベりつづけました。誰も一向かはつてゐなくて、よくしやべり、またよくいろんなことを知つてゐる。北条君とは経堂まで一緒でした。

学士会館の夕食は此の頃としてはいい方だった^④が、ムロン足りない上に今夜は、明朝芦野氏が分室へ来る筈になつて、それまでに戦争史の要約を二十枚ばかり書いておかないといけなくて、徹夜しなければならず、そのために九時すぎに帰つてから炭火を起しているもふかし、ムシパンを作りました。ところが一時すぎになると火はとつくになくなるし、冷えて来るし、此の頃ずつと寐不足のせい^⑤か睡くて頭が働かなく、書きなほしてばかりで原稿は一向進まないの、もう寐ようと思つてゐるところです。手紙の此の頁だけは、その眠い中で書いたので、何だか要領が得ません。二、三時間寐て、明朝早く起きて、原稿の続きを書きませう。おやすみなさい。

十一月十五日(水)晴。

今朝は憂鬱な朝でした。原稿を書くつもりで四時頃に眼をさますと、丁度表で「クンレンクウシユウケイホウハツレイ」と大声でどなるのがきこえるのです。知らなかつたのですが、今日はこの辺の防訓日だったので。これちや原稿も書けない。仕方がないから露台へ出て、何とも云へず美事な星空に、寒さも睡さも原稿の出来てゐない気の重さも暫く忘れてみとれました。あなたが今頃何か偶然眼がさめて、この星々を見ればいいのだがなあと思ひました。今土星と木星とが出てゐる。一人で星を見る時いつも、この星々をあなたがやはり愛して、丁度同時頃に伊那谷から見るといいのにと思ひます。

だが今日は原稿があるので、さういつまでも星にみとれてゐられません。防訓の警戒警報がとけた午前六時まで、やきもきしながらただ暗闇で書くべきことの構想を発展させるのみで待ちました。それから火を起し(防訓中は火を起せない。煙を出したり煙を見せたりすると、どなられるおそれあり)、一豆^⑥ごはんといもを作りしました。朝はいも(ジャガとおさつ)だけです。この前私室へやつて来たから、今日も警戒して掃除や片づけも一通りしました。

原稿は予定の三分の一しか書けず、何と云つて芦野氏に答へていいやら全く弱りました。西井君は三十枚昨夕までに清書もすまして、悠々として「菊池君出来ましたか」と、やつてくるなり話しかけに来ました。「出来ないんだ、弱つた

よ、金チャンどつかで卒倒でもせんかな。今度と云ふ今度は弁解のしようもごまかしようもない、弱つたな」。さすがの僕も半ば悲鳴をあげ、何とか急用か電車故障かで金チャン来なければいいがと思つてゐたら、九時少しすぎに早くも金チャンがあらはれました。一しきりみんなと駄弁つたあげく、「ぢや今日は歴史のことで話をきかうか。進行状態の報告もきかうかね」と云ふことになつて、芝生の日なたへ椅子をもち出しました。僕も覚悟をきめて、たつた七枚しか出来てゐない原稿をもつて来ました。

所がこの時彼はピアノの上のシューベルト歌集を見つて、「これは誰のだね」「菊池さんです」「菊池さん？ 歌ふんですか。ピアノですか」「ピアノですが、まだ一つ二つははじめたばかりです」「さうか、菊池さんはピアノ弾けるのか」と云ひ乍らピアノの前について、「菊池さん、之知つてるかね」とリタネイを弾き始めました。うまいわけぢやないが馴れた手つきで、大分練習したらしく読譜もたしかです。僕よりはよく知つてゐるやうです。しまひには弾き乍らうたひ出しました。「今何やつてるの？」「魔王ですよ」「魔王？ それや長い奴をやつてゐますね」と、自分で弾き出し歌ひはじめました。譜はよく知つてゐるし歌もうたへるが、まるで品のない弾きかたで、まだ練習中の僕の方がよつほどシューベルトらしい感じを出しながら弾けます。彼はよくごまかすし、タイムなんかいいかげんです。

だがピアノですつかりいい気持ちになつた金ちやんは甚だ禦し易く、僕の七枚の原稿にも感心して、僕の説明ですつかり満足して了ひました。所が西井君の三十枚は「これはもう少し何とかならんかな、まだやつぱり分析がないね」と却つて不満を洩らしました。僕の前稿は未完成でも凝つてゐるから、西井君なんかのとは質的にちがふことが、素人の芦野氏なんかにもよくわかるのです。之はいつもさうですから、あながち僕のうぬぼれぢやない。そのかはりたつた七枚のために三、四十枚書きつづし書きなほしたのでから。あとは歴史と戦争史の話で、之は僕がすつかりリード出来る話題だつたので、見事に本日の難関を切りぬけました。みんなが半ば呆れ半ば感心するほど。

西井君と倉橋君と僕と三人がベンチに並んで芦野氏と応待してゐる所を見た堀江君が、「ブルドックとチンとフォックスステリヤみたいだね」と云つた為に、女の子達が悲鳴にも似た笑ひ声をあげて芦野氏をふり返らせたものです。ブルは西井、チンは倉橋、僕がフォックスステリヤださうで、どうも余りにうつつけで、さすがの僕もふき出しました。むろん之はあとになつて知つたのですが。

昼食は芝生でそろつて食べました。僕も豆めしを弁当につめて参加しました。みんな夫々御馳走だが、一人ものの僕と八木君とだけはおかずなし。尤も八木君はみそづけをおかずにしてゐました。この頃昼食は大い豆めしだけ(塩あじ)

ですが、馴れて一向苦になりません。そのかはり朝と夕とは、ムシパンやいも、やらたつぶりたべるからいいのです。いもはオサツはなくなつたが、ジャガが少し買へたのです。今の所食べ物心配は要りません。ササゲはまだ三分の一ぐらゐら^③食べただけだし、之があれば蛋白質をとれるから栄養にもいい。大豆の方がいいが、大豆はついおやつやうに煎つて食べて了ひますからね。

十二日付の御手紙は午後受取りました。いろ／＼心配してくださつて有難う。だがブルーズを着てると暖いし、火もさう苦勞しません。うちわを買つて来たことは大助かりです。食べ物も澱粉、従つてカロリーは豊富で、おやつはたべなくても空腹ぢやありません。水もよく出ます。もう三ヶ月半になりますから馴れて、何でもそんなに面^④作でなくなりました。人々はガランとした寒さうな殺風景な部屋で、夜すごすのは淋しいだらうとか、みんなが一せいに帰つたあとさびしくないかとか云つてゐますが、みんなが帰つた方がピアノも叩けるし、好きなものを作って食べられるし、却つてよろしい。とにかく御心配に及びません。

アメリカ史も大分よくわかつて来たやうですね。お母さんに話せるやうになつたのなら、その理解の程度は立派なものです。僕もアメリカを知る上に、今度の「ブランテイション」は一番適當な本だと云ひたいくらいです。アメリカの国柄も歴史も、よくわかるだらうと思ふのです。日本の政治や社会と思ひあはせることもいいでせう。

今夜はのどがかわいたのでビールを一本のんで了ひました。貝柱の配給が夕方あつて、之を醤油で煮たのです。此の頃のビールはアルコール分少いらしく、一本のんで大して酒気を感じません。ケロリとしてゐます。そのかはり今朝の寐不足で大分睡くなりました。

吉武君の所で女の子がうまれました。その中彼を訪問させう。森井さんから手紙が、今日から出勤し始めた臼田君によつて届けられました。詩の感想ものべて来ました。「プロシオン」に載りました分は、あの春始と諷誦して居りました。外の二つもしみじみなつかしく、くり返し読ませていただきました。正さんへの私のきもちも殆どそのままでございます……」。彼女もあれから一週間余り陸軍省へ勤勞奉仕で忙しかつたやうです。あなたへくれ／＼もよろしくと云つております。

では今夜は之でおやすみ。風邪は悪くもならず、どうやらせきもおさまりました。あなたも元気に朗らかに、淋しがらずに勉強して下さい。

謙一から幸子あて（一九四四年一月一六日の記）

十一月十六日（木）雨

ビールが効いたのかぐつすり寐て、起きたのは七時近く、雨か曇りか外が余り明るくないので、火を起す面^つにやささか気重く起きてみると、どうやら雨ではないらしい。それにしても遅くなつたぞと思ひつつ、コンロを持って下りて行くと下もまつくら。外へ出て石炭の火を起してゐると、やつとガタ／＼雨戸をあける音がして、「すつかりお寐坊してしまひましたよ」とオチヨボぐちでてながら、小使婆さんが顔を出しました。寒くなつて曇つたり雨だつたりすると、老人でも、いや老人の方がずつと、起きにくくなるものなんぞでせう。だが僕は寐足りて上機嫌です。

今日はあなたのお手紙三通が来て、郵便箱も豊作です。おまもりのへビの皮、ありがたう。蛇の皮は象徴的です。蛇のやうに古くなつた外皮をきれいに断然脱皮して行くことは、我々の成長にも不可欠ですから。古代人が蛇を神聖視したり賢明な動物としたのは、脱皮と云ふことに関してなのでせう。何度も若返り、不死の概念ともむすびついたかもしれせん。おまもり袋は夏服のズボンについてゐたので、思ひ出してはづしておきました。

プシの夢と云へば、近頃、僕も見ました。プシが逆も重くてなまりで出来たもののやうにずしりと、抱いてゐる膝にこたへ、それからどうなつたか筋は忘れたが、プシに対するいとしさとわびしさとの夢中の感情だけは、夢のあとまでなま／＼しく残つてゐました。多分死んでゐるでせう。二ヶ月も原宿にゐた間、どこへもあらはれなかつたのですから。朝ちやんの就職はよかつたですね。朝ちやんも元気にやつて行くこととせう。

緒論の感想大変有難う。あの六の中で、市民的限界を脱した新しい歴史家（アレン等）のことに触れなかつたのは大変苦しかった。即ち南部の問題の歴史的な再登場と南部再建の再評価とは、一方でクロツパーユニオンの成立と、他方で若き市民的限界を脱したコムニスト歴史家の成長と聯関するのです。そのことは又別に書ける機会を待つことにして、今はあれだけしか書けなかつた。

あなたが遂に精神的に「みちたりた」境涯に達したことを嬉しく思ひます。それだけ強く成長したのでせう。その成長へ、僕のプランティションもあづかつて力あつたのなら、一層僕の喜びも大きいわけです。みちたりると云ふことは、心の状態であるやりも、心の動態の中にあるのでせう。ここでも所有的衝動に対する創造的衝動の優位を再認識させら

れますね。状態としてのみちたりた心は所有的衝動の満足であり、動態としてのみちたりた心は創造的衝動の満足なのでせう。そして前者は常に防禦的受動的であり、後者は前進的積極的です。生きるると云ふことはこの後者の道を云ふのでせう。それは不断に個別の普遍化、個別の普遍による克服、脱皮です。それが成長です。僕もプランティションを書いてゐる中に、創造的生活の燃焼を体験しました。創造的生活は常に飛躍と苦難とに充ちてゐます。苦しみもまたさう云ふ形では「みちたりた」ものとなるのでせう。だが創造的生活の苦しみと悦びとは、之を共にする他者がある時、一層豊かで「みちたりた」ものになる、それを今度僕が南北戦争を書くとき、充分に体験し得るでせう。いづれにせよ「プランティション」が僕の成長を齎し、同時にあなたの成長をもたらしたとすれば、あれが出版に支障を来しても、また無駄ではなかつたことになりませう。

今日もまた竹中君駄弁りに来ました。やつぱり話は結婚問題にいつの間にかすべりこみました。「やつぱり結婚するのかい」「わからない。この月中にどつちかきまるだらう」「頼りないね。だがまだ半月考へる余裕があるから、すてたものでもないかな。僕はとにかく忠告をやめないよ。しつこくしつこく云ふよ」「だけど僕だつて苦しいんだ」「なあに、大して苦しんではないよ。本当の苦しみと云ふのは、そんなことも決定出来ないと云ふやうな人間には味はふことが出来ないんだ。云ひかへれば、そんなわかり切つたことでも不決断な君には、本当の一人前の苦しみを味はふ資格がないんだ。ちようど膝までくらの浅瀬でバチャク／＼やつて、溺れさうだ苦しい苦しいと云つてるやうなものだ。ちよいと冷静に判断して立てば、ちやんと足は立つし、溺れるも苦しいものもないものなんだ。そして人生上のさう云ふ重大問題で妥協しか出来ないやうな人間なら、他の何でだつて妥協ばかりするだらうし、僕はもう君を人格として尊敬しなくなるよ。そのことは僕にもいささか辛いことなだけだ。だつて尊敬しないとしたら、君に借金を返さねばならんからな。金を借りることだつて一つの敬意の表明だよ。さうだらう、嫌な奴から金借りることは誰だつてしないだらう。友人であり敬意も持ち得る相手であればこそ、快く借りられるんだからな。嫌な奴から借りるよりは、非人格的な高利貸から借りる方がいいつてのは、常識だらう」「そりやさうだね。さうすると僕も今まで敬意を表されて来たわけだね。ちや文字通り毎度御ヒイキになつて有難うございますと云はねばならないね」「さうさ、だから君がそんな結婚をするやうなら、それまでに借金を返へせるやうに準備しとかなきやならんから、僕も真剣だ」「いやそんな風に云はんでくれよ。之からも借りてくれよ」「借りられんよ。軽蔑してゐる人間から借りられんよ。君は原理は原理、現実も現実と云ふ風な俗悪な論理をどうしてすてられないんだらうね。生きるると云ふことは個別を不断に普遍へ合体統一させて行く

ことだよ」「また普辺と個別か」「さうだ、いつだつて普辺と個別だ。ちつともわかつてないんだから、いくらでもくりかへす必要がある。現実と云ふ個別を、原理―君が正しいと承認する原理と云ふ普辺へ合体させねばいけない」「そりやさうだがね。併し見合ひ結婚だつて、結婚後に相互に理解して行く努力をすればよささうだがな。僕の親父とおふくろだつて、矛盾はあつてもうまく行つてゐる方だし」「親父と自分と比べてはいかん。親父はさう云ふ人間関係の原理を知らない世代の人で、従つて矛盾を矛盾として感受し得ないんだ。ところが君は知つてゐるんだぜ。君は智エの実を食つたんぢやないか。リンゴを食つたんぢやないか。さうなら裸かを恥づかしがらんといけない」「うーん」……。まだ半月、彼がいやがつてここへ来なくなるやうなことはない限り、同じやうなことを繰り返すことせう。そしてそのくり返しの中で僕もこの問題について論理をきたへ、豊富化する機会をもつてせう。

所が臼田君もやつぱり結婚問題で一つの悩み(?)をもつてゐたのです。初めて見た時、私はこの人なら結婚出来ると思つたんだわ。その後三年間、結婚と云ふことを全然問題としない形でつきあつて来て、私が最初の直観でこの人はこう云ふ意見と云ふ感じかたをもつてゐる人だらうと推察した、殆どその通りの人だとわかつたのよ。その人は徹底的に「科学者」で云ふんでせう。どんなことにも科学的な理由づけが出来ると云ふの。そして理性で科学的に裏打ちされない直観なんでものを徹底的に受け入れないんだね。私はどつちかと云ふと直観を重んじる方でせう。だからその点である人の云ふことと食ひちがふけれど、だけどとにかくその人と結婚したい、この人でなければ一生結婚しないだらうと云ふ風な所まで来ましたの。ところが相手は必ずしもさうぢやないのよ。そしてこの三月に南方へ行つて了つた。それがこの九月に帰つて来て、今度は向ふから人を介して結婚を申し込んで来たんですよ」「なんだ、それぢや文句ないぢやないのかな」「ところが彼が申しこんで来たのは、私が彼に夢中―これは私の友達が云ふ言葉よ、とにかく夢中だと云ふことを知つたのでさうしたんだと云ふことを、私知つてゐるの」「どうして」「だつて中に立つた人がさう云ふんですもの。さうなると私も今のままですなほに承認出来ないことになつたわ。それに私は恋愛とは何か燃え上つてくるものがある筈だと思ふのに、そんな風に燃え上つて来るものが感じられないので、躊躇してゐるんですわ」「ふうん。それやリーベにも夫々の人の個人差によつて、いろんな形式があらうからね。君は何だかりーべと云ふ感情のあり方について、固定観念を脱却出来ないでゐるんぢやないかな。燃え上らなくても立派にリーベである場合もある筈だ。中年以上のリーベは大てい平静な落ちついた、いはば燃え上つたりしない形で進むだらう。大体君は燃え上つたり、一つのこと情熱的に

執着したりする型（タイプ）ぢやないのぢやないかな」「さうかも知れないわ。でも執着はするわよ。三年もさうして来たのですもの。尤も動揺したりあきらめたり思ひなほしたり、たしかに熱情的にはなかつたけれど」「併しなんだね。話をきいてゐると、君の態度は自分で実践的に出るところがないね、何だか待つてゐる形だね。相手が自分を欲してゐるかどうか不明瞭なら、相手にきけばいいだらう。口頭できにくいなら手紙がいい。凡ゆる手段でもつと分かり合ひたい所、わかりあふべき所を、お互ひにわかり合はうと努力すべきだ。自分の感情だつて、燃え上つてくるのを待つと云ふ風なのは神秘主義だね。もつと結びついて行く、理解し相手の生活へ参加して行く、そしたら感情も或ひは燃え上るかも知れないし、少くとも深まるだらう」「さうだわ、お手紙書かうかしら。いつも会つては話すんですけど」「会つて話すことは必要だが、口ではうまく云へなかつたりすることもあるからね。リーベには話すことと手紙を書くことは同じくらい必要だよ。凡ゆる手段で自己を表出し相手を表出させ、理解し理解されねばならないんだから。そしてたとへば三月に南方へ行くときは結婚の意志がなくて、九月に帰つてからその意志が出来たことについても、よく説明してもらふんだね。それから今のやうに、結婚生活がいろんな意味で常態にあり難い時期に結婚を決意する以上は、それらの場合―応召とか何とかの場合についての考へてゐることをよく聞くことだね。本當のリーベならさう云ふことは問題ない」「だけどあたし独歩の『夫婦』と云ふ小説を読んでこわくなつたわ（独歩は僕がすすめて全集を読ませた）。あんな風になるおそれが相当あるんですもの」「ああさうか。でも大丈夫だらう。独歩の『夫婦』のやうにして、觀念化を克服すればいいんだから。いづれにせよ、人間の資質の上で最低限に必要なことは、誠実さとすなほさだ。すなほと云ふことは眞実を受け入れることだし、誠実とは眞実を持続することだ。この二つ、実は一つと云つてもいいんだが、とにかく眞実と云ふものを受容し、それに誠実であると云ふこの資質さへあれば、大丈夫結婚して行ける。さう云ふ人は夫としても友人としても信頼出来る。その上で慾を云ふなら、生活感情と世界観とが一致することだね。生活感情とは世界観の個々の日常生活的なあらはれだ。彼の喜び悲しみを自分も同じやうに共感し得ると云ふことだ」「その人はたしかにすなほだし誠実だわ。あたし自身はよくわからないけれど、だけど友達でも何でも誠実な人でないと嫌ひだし、人に誠実を強く要求するから、あたしも誠実なんだらうと思つてるわ」「その問題は森井さんによくきいてみるんだね。その問題で、君の結婚の問題のことだけだ。僕から忠告出来ることは、愛情とは神秘的なものでなく人間の現実的関係の心理的反映にすぎないこと、そして人間の現実的関係は相互理解によつてのみ深められること、理解することは相手の生活なり心理なりへ参加することだと云ふこと、なり行きを待つと云ふことは不誠実だと云ふこと、之等だ。

あとは君自身の努力にかかつてゐる。失敗はおそれなくていい。行はない者は誤(まち)ちを犯かさなない。行ふことはすべて飛躍であり、いのちがけの飛躍だ。おそるべきは、その行ふときに自分の理性や感情の全能力を以てしないことだ。やつてごらん」……。

具体的には彼女の相手の男性を知らない以上は何とも云へないが、とにかく白田君の話の方が竹中君の場合よりずっとはつきりしてゐて、理性的です。

今夜は思つたよりあたたかい。昼食は豆めしだけだったが、夕食はその豆めしの残りを、さといもとかぶらとのみそ汁で雑炊にしました。そしたら小使さんがいもの天プラをもつて来てくれました。かたじけない。

独立戦争は中々むつかしい。まだ自分のものになり切つてゐないのですね。苦しんで苦しんで書きませう。では。こんなラモーの甥的な手紙はつまらないでせうか。だがかう云ふ問題は実に到る所にころがつてゐて、しかもいたる所で人をつまづかせてゐますね。

幸子から謙一あて（一九四四年一月一六〜一七日の記、一八日の消印）

十一月十六日夜

今日十三日附、十四附の手紙と小包み落手。どうも有難う。殊にたばこはどんなによるこばれた事か。もう二日前から全くなくなつてウロ／＼してゐるので、何とかならんかと氣をもんでゐました。煙草がないと食欲までおとろへるらしいのね。

夕飯はとう／＼(たうとう)抜きにした日もありました。大きな伊セえびのたたいでメンチにしたのを作つたのに。

早苗ちゃんに持つて行つてもらひましたの。「イヤ、これはこれは」と云つて、忽ち恵比す顔になりました。煙草のない日は本もよめず、さつさと早寝をしてゐましたが、今夜は楽しさうにブカ／＼やり乍ら起きてゐます。本当に感謝してゐました。フーチャンも小包みのひもをとくのもどかしい様に、まつてゐて「私がといてあげる」なんて、手を出した程でした。

十一月十七日（晴）十四度

昨夜はどうも睡くなつて途中で止めてねむつてしまひました。いい本をみつけた相で本当に良かったこと、竹中さんからそんなに借金すると、すぐ返せないから、私の方から送りませうか。原稿料が今月中にはいれれば好都合だけど、そううまくすぐはいるかどうかかわからないでせう。

お米の配給ない相ですが、今食べる分はあります。風邪は未だよくならない様でいけませんね。石炭の残り火であん火を作つて、早目にお蒲団を敷いて、其の中へ入れて中を暖めて、アスピリンを服用してねる様に。

ハッカーは読み易いから、もう相等よみました。割合に物足りないです。何と云ふのか、ほり下げが足りないのです。うか。すーつと通りすぎてしまふ感があります。説明も食ひ足りないところが多いようですね。でも一応まとまつて面白い事は面白いと思ひます。

早苗のダンテ叔父ちゃんはまだもう終りになりました。時折、口の両端を曲げて、これダンテおぢちゃん、と云ふ位なものです。さうく此の前、庭掃除の時、ニョキく手足を伸した不行儀の枝を払つた時、"チーチ出るよう"と云つて嫌がつた事がありました。が、事実は血なんか流れないので妙な顔をするし、私も説明に困りました。

ギリシヤ悲劇を盛に読んでゐるようですね。私ももう一度、アイスキュロスをやみたくなりました。一体どんなのがあつたのかロクく覚えてゐない位です。今度は一度にアイスキュロスからすぐ次へかからず、一定の間をおいて、ソフォクレスへゆかうと思ひます。私の読み方は大量を咀嚼せず呑みこむ癖なので、さうして食べたと思ふお茶漬式読書法ですから、消化不良の結果しか残りません。併し昨年あたりから大部ゆつくり噛み、栄養を採るくせはつきましたが、ともするとお茶漬の早のみこみに戻ります。

確かに偉大な作品の中には人間の二つのタイプが厳然と出て居りますね。そして其の二つのタイプを歴史的変動期は、こゝと更色濃く各人に表現させるのでありませう。社会の平和でない非常の時には、各人の持つてゐる性格や考へ方が、あいまいもこたる状態を続けさせませんから、実に如実にあらはれてまいります。このごろは日常の生活のありようを見ても、一寸した問題話題でも、直ちに其の人の持ち分をはつきり前面に押し出すチャンスが多いです。

ブルーズ、お気に入つたようでも本当に私も嬉しく思ひます。苦心したんです。かうやればどうだらうとか、いろいろ皆の知恵も拝借して、むづかしい所はフーチヤンに頼み、其の間「何なりとあなたの雑用を承ります」と云つて、早苗の UNCHIE の世話もお茶の支度も後始末も引きうけて、―すこしは気兼ねもし乍らです。昼のうちはブルーズでまにあいますが、夜分は駄目ですね。ガウン式の櫛入れ^櫛どてらでもなくつつちや。

竹中さんとの結婚問答は大変面白くよみました。私なら「親の決めた相手とだつて恋愛出来るかも知れんぢやないか」「まつてゐても恋愛のチャンスなんか中々やつて来やしない」なんて相手に云はれたら、一寸返事が出来なくなつたと思ひました。かも知れん、なんて万に一ツをと云ふとみくぢ式の考へで結婚する事は、本当に人間らしい態度ではありませぬ。あの問答は大金嬢にも大いに参考になると思ふので、そのまゝ引きうつしにして送つてあげました。其の後あの件については、大金嬢から何の報告もありませんが、動揺してゐる事は事実でせう。

竹中さんとの其の事で、あなたは自分の説得力を悲観してゐるけれど、それはあなたが誤つてゐますね。竹中さんの今までの廿何年かにしみこんで来た觀念が、その後の一年や二年のあなたの説得力で全部更新されるわけではないから、理論として承認する（むしろ反対でない）と云ふ位の）程度のところ、まだそれ以上、竹中さんの觀念の凡てを變へる点までには行つてゐないのでせう。即ち皮膚の少し中位までの注射のきゝめではないでせうか。それは注射がわるいのではなく、長い間に形成された組織を變へるには、まだ適量に達してゐないのだと思ひます。悲観や自嘲はもつての外です。私だつて、あなたと随分長い夫婦生活を続け乍ら、未だにあなたの話す事を充分に理解し得ぬ場合も相当あるでせう。あなたがよく云ふ、人間が既に持ち続けて来た觀念を捨てる事のどれ程苦しい事か、と云つたと云ふロマンローランの言葉を思ひ出すべき事でせう。あなたが何時でも全力をあげて、うさを撃つ獅子であれかしと思ひます。

「プランテーション」も反射的な与論や人氣の事を思ふ勿れ、と云ひ度い事です。死んでから何年か何十年か、何百年かの後に理解されたと云ふ人はどれ位あつたでせう。生きてゐる中に三人でも五人でも理解されたら幸福ではありませんか。ましてやあなたの抱負は世界を相手であつたでせう。あなたの心血を注いだものは、バルザックの云ふ良書である、と私は信じてゐます。良書とは長命の書であると。一時的な理解者を得る事や、きはもの的な人氣は、長命とは云ひ難い。今日はすこしいばつた事が云へたから面白くなつて来ました。

さて本日（十七日）防寒頭布と大豆と餅六個を送りました。お餅はあまりにすくないけれど、一人分なら一回の食事に相等しますから、それにめざらしいですから、小量乍ら一緒に入れました。召上れ。

あなたのこちらにゐた時、私たちがむいた渋柿はもう食べてしまひました。それはくゝあまくておいしくなつて。大きいたる柿はまだとつてあります。

「プランテーション」の緒論のノオトは出来上つたので、又よみ返し、それから第二章四節以下のノオトも再読し終りましたから、いよく今日から第五節の五からノオトにはいります。緒論は本当に立派な出来だと思ひます。願くば他

の読者も緒論を少くても二度はよんではしいものです。緒論でアメリカの歴史も経済も政治も把握出来るし、アメリカでなく世界のすみずみに残つてゐる人種的偏見のいろんな表現のあり方も、基礎は何処にあるかをそれぞれの立場で了解出来ようし、どんな風にあるべきかも考へられる事、残つてゐる清算されるべきものが、どの様な害悪を社会に（政治、経済上）影響させるものかを考へさせること、一見どうにも現在では解決出来ない様に見える事も、人類の歴史を押し進める力がチグザグの道をゆき乍ら必ず解決すると云ふ確信も与へられる事（これは特に歴史的描写を通して感じられること）でありました。特に私の場合は世界歴史はどうなるんだらうと云ふ不安から、確信への道を与へられたと思ひます。ちようど運よくイタリイネサンスを羽仁氏のミケランゼロで読み、かんたん乍らヴァン・ルーンや其の他で独逸の宗教戦争を、ボクロフスキでオランダと英国の人民の運動を知つて来た事が、「フランティション」の理解の上にとれ位役立つたかと思つてゐます。そうして「封建」をおし倒した人間の自由独立の精神が、すこしづつ／＼前進して来た事を確め得た事です。さうしてその歴史を押し進める力のありようを確認し得たことは、独立戦争にも南北戦争にも解決し得なかつた問題を、シエア・クロッパ・ユニオンの成立と、I・W・Wとの結びつきが解決する道であらうとの確信へゆきます。

あまり長くなつたので、今日はこれでおしまひにしませう。

謙一から幸子あて（一九四四年一月一七〜九日の記）

十一月十七日（金）晴

午後、先日の約束によつて成城の北条君を訪ねました。出がけに郵便箱にあなたのNo.27（十四日付）手紙を見出し、タバコヤの角のポストへ僕のNo.20の手紙を投函しました。人通りのない道は、手紙読み々々歩くのに都合がいい。

空襲の御注意有難う。ぬかりなくやつておきませう。だが僕が信州へ立つたすぐあとに空襲が来、帰京の前日にも来たが、帰つてからは全然来ないのも暗号の妙ですね。此の頃少し緊張もゆるんだやうです。ゲートルをまかない人も多いから。僕も今日の外出は家にゐるスタイルへボウシをのつけたきり、すなはちお手製ジャンパーとブルーズとずぼんだけの身軽さです。晴れてゐるとはいへ風は寒く、無論夕方までに帰るつもりで、コンロもマッチの火をつける直前と云ふ形に準備しておいたのです。

成城の彼の家のまわりは此の辺よりはるかに郊外らしく、秋色も一しほあざやかです。尤もその秋色のあざやかさは、たまたま一軒の家の生垣のドウランが燃えさかるやうに美事に色づいてゐたことに起因する印象なのです。

彼の部屋には先客が二人ゐて、例の如き談論風発の最中でした。先客とは、近く秋田へ行く筈で此の間送別会をすませたばかりの藤本君と、もう一人は僕には初めての西口君と云つて北条君の義兄、すなはちフラウの兄に当る人。二人とも労研の研究員で、成城から余り遠くない所にある労研からの帰りに寄つたのでせう。

政治についての議論は、僕も聞いてゐる方がいいのだが、と云ふのは実はまだ自信がないのだが、かう云ふ議論は全然きいてゐるだけと云ふわけにはいかない。政治についての理論的水準はさう人におとるとは思はないけれど、政治批判には情報に通じてゐることが大切で、その情報と云ふことに関しては、経堂に引きこもつてゐると余り伝はつて来ないのです。

僕達がこれまで殆ど誰彼かまはず論争に引きこみ引きこまれて来た主題は、個人的人間関係（夫婦、結婚、リーベ、友情、ヒューマニズム）、歴史観、芸術、政治等だが、之等についての理論を世界観として統一的に研鑽する努力の過程で、僕は、個人的人間関係のそれを基礎に、歴史及び政治にまで上昇しようと云ふ傾向にある。之に対して北条君は芸術理論から出発して、個人的人間関係↓歴史↓政治であり、藤本君は経済学↓政治であつて、個人的人間関係については余り考へてゐない。結局、北条君は理論的体系に於て一番確かであり（哲学の素養のあるためか）、僕の芸術観は彼の示唆に負ふ所甚だ多い（尤も彼の理論の根拠はM. E. （原文）であつて、その点特にオリジナルなものがあるか否かはまだ不明だが）。だが北条君の人間関係についての理論は、体験から出発するよりも理論から理論として出て来たものと云ふ感で、従つて個人的人間関係の理論では、僕の理論的水準はさう人に負けはしない。之と聯関して歴史理論に於ても、僕は他人に乃至は他の説に論服させられないだけの僕自身のものを持つてゐる。まだ充分人に理解させ得るやうには表出し得ないにしても、そして僕の歴史理論の強さは、個人的人間関係の理論と緊密に結びついており、この後者は結局あなたとの生活の体験から得たものに外ならない。

そんなことを思ひながら時をすごして、いつか暗く寒くなつたので、帰らうと立ち上つたら、夫人がごはんが出来てゐるからと引きとめるので、疎開やもめ共はごちさうになることにしました。藤本君も疎開やもめなんです。「飯つくるのも大変やねえ。食つてしまふとあとかたづけんのいやになつて一時間ぐらいぼうとしてるわ」「あとかたづけがいやになるほど複雑なことするのかね。僕なんか出来次第片づけて行くから簡単だよ。おかずなんて大てい作らないで雑炊

にするし、いもがあればふかし、メリケン粉があればムシパンにし、豆があれば煎り豆にして、要する各箇撃破だ。全軍揃はないと攻撃に移れないと云ふ風なやりかたしないんだ。出来次第単独に食って行けるものしかつくりたくないだ」「なるほど、それもいいね。僕もおかずは何でもかんでも醬油で煮るより知らんから」「そいぢや調味料が足らんだらう」「うん足らんねえ。ストックあるからまだ今のところいいけど」。

さて食卓につきながら、キンピラごぼうとしんの煮つけ、おひたしのごちさう(も)を見て、「奥さん、このにしん配給でせう」「ええおいしくないんですけど」「いやあ、配給のものたべちや悪いなあ。それからこれどうしてつくるんです、このごんぼは。やつぱりいためるんですか。どうも自炊すると食事も研究的になつてね、出来たものとしてすなほに食へないね、出来る過程も問題になるんだよ……」。疎開やもめの体験浅い藤本君は、二云ふことすべてしろうとくさし。結局九時近くまでしゃべって、「おい暗いぜ、藤本、お前帽子ぬいで先に立つてくれ」「馬鹿云ふなよ、風邪ひくよ(註)、彼の禿頭此の頃益々冴えたり」。などと云ひ云ひ帰りました。帰つて余りさむいので、炭火を起して湯をわかし、晩ごはんの分の豆飯は、明朝の雑炊へとつておくことにしました。

十一月十八日(土)曇雨

また雨、隔日ぐらいに晴れたり雨になつたり。どうも水つぽい秋です。水つぽい方がいいのかもしれない。焦熱地獄はまつびらですからね。

石炭の火を多く起したので、朝食の火がそのまま昼過ぎまで持つて、竹中君もこの部屋へ仕事をもちこみました。近頃弟子が二人出来たわけです。

白田君は来るなり、「やつぱり駄目ですわ」「何が」「だつてちつともわからないんですもの」「何だね」「あたしの氣持がわからないのよ、相手にね」「どう云ふところが」「結局駄目ね、あたしが男の友達とつき合つて来たのがいけないて云ふのよ」「そんなら之からつきあはなきやいいぢやないか、その彼が君にとつて何にも増して必要なら」「いえ、これからのことぢやないのよ、以前のことなの。だから駄目なの。あの人と育ちかたが余りちがひすぎるんだわ。あのかた一人子でせう。まるで友達でないのですもの。余りピューリタンすぎるわ。あたしだつてその点ピューリタンだけど、全然男の友達なしに―それも何でもない友達よ―、つて云ふわけにはいかないわ、兄が三人もあるし、家は逆も開放的だつたんですもの」「ふうん。ぢやあれだね、スメドレーと印度の革命家の関係みたいなものだね。しかし一つ手紙を

書いてごらん、自分の環境やいろんなことを相手に理解させる努力をもう一度やつてごらん」「さうね。あたし何だかもういやになつたんだけど。森井さんだつてわからない人だておつしやつてゐたわ」「森井さんがその人にあつたの」「いえ、あたしの話で書いて。でもお手紙書いてみようかな。結局彼のあたしに対する気持は、ちつとも恋愛ぢやないのね。恋愛ならそんな過去の何でもないことが、問題なんかになる筈ないわね」「むろんさうだらうね。併しまあ書いてごらん。この機会を自分のおひ立ちの反省に利用したっていいわけだし」「ええ書きますわ」。

午前中せつせと書いて忽ち十五枚ぐらい書いて、「何だかいやになつたわ」などと云ひく、「どれくどんなこと書いてるんだい」とのび上つて来た竹中君に読ませてゐました。「ラヴ・レターで云ふもの書いたことないんだよ」、これは竹中君。「ラヴレターを書かんと駄目だ。僕なんかトランク一杯書いた」「だけどどんなこと書くんだね。そんなに書くことあるかい。尤も君ならあるだらうね。また普^通辺^通と個別とかどうのかうのなんて書くんだらう」「そりやさうさ。だけどラヴ・レターに書くことは無限にあるよ。リーベをすると書くことは無限に出来てくるんだ。リーベは人の生活を豊富にするからね、何を読んでも見ても体験しても、一人ぢやなくていつでも二人として体験するんだからね。一人なら何ら書くに価しないことでも、リーベする人にとつては書くに価するものになるんだ。リーベの一年の生活は、普通の人間の三、四年の生活に相当するほど内容豊かになるんだ」「そりやさうだらうね」「だからリーベをしろと云ふんだ。いや少くともリーベなしの結婚なんかするなと云ふんだ。リーベなしの夫婦はただのいちプラスいちで、そのいちぶらすいちも²になるとは限らず、大ていの場合²以下、うっかりするとまいなすになる。反対にリーベは各々を夫々に変革するから、普通の算術ぢやなくなるんだ」。

「さうだらうね。それはさうと『魅せられた魂』も二巻までですんで来たけど面白いね。アンネットは強いね。強すぎるんぢやないのかなあ」「どうして」「あんなに強く生きることは理想だらうけど、現実ぢやないんぢやないかなあ」「俗物らしいことを云ふね。全く俗物だよ、君は。いつもはさうでもないのに、やつぱり今俗物的な結婚をやらうかやらないかでくよくよしてるもんだから、考へることがすべて卑俗になるんだ。強すぎるものか、アンネットは。現実だよ。西洋ではアンネットのやうな形象は、前にも云つたやうにギリシヤ時代から実に鮮明にあらはれてゐる。アンチゴネー、エレクトラにはじまつて、ルネサンス時代のシエークスピエ劇、スペイン劇の中の無数の人物、それから十八世紀後半のレッシング、ゲーテ、シラー、スコットの中の人物、バルザックにだつてずい分ある。日本にだつて、森鷗外の「最後の一句」のおいちぢつたかな、それから安寿だつてさうだ。みんな十四、五才から十一、七才までの少女だよ」

「だつてそれみんな創作だらう」「無論創作さ。だけどその時代の現実の中に見出される人間達の中から、最も典型的なものとして形象化されたものだよ。だから最も現実的なんだ。単に頭の中からの創作なら、万世をつらぬくやうな魅力はあり得ないよ。僕等の周囲にだつて探せばあるにちがひないんだ。だけど日本の社会は人間関係が一応にも解放されてゐないから、たしかに多くはなからうがね。十四、五から六、七の時に人間的資質の光茫(あかり)をはなつ少女が多いにちがひないが、結婚前期の女の最も困難な時期に、社会制度の重圧干渉の中で屈服させられてしまふんだ。ジャジャ馬馴らしのカザリンのやうにね。それから三十代になると、また人間性を恢復するのがあるんだ。人生の苦難にきたへられた末にね、人生に教へられた結果ね。だから君だつて、もつと人間関係について自由な考へをもち、資質への洞察力をはたらかせれば、リーベのチャンスがないわけはないんだよ」「ふうん、だけど君のやうなのは日本ぢや例外ぢやないのかな。君は別だよ。大ていの人はもつと俗的だよ」「ぢや僕は俗的ぢやなくて宗教的な存在か」「いや、何て云つたらいいかなあ、芸術的なんだよ。芸術家だよ君は」「それでこの上つぱりが似合ふわけか」。やつぱりまだ駄目です。

今日はオバケのやうに大きいおもを十三貫、従つて一人一貫二、三百匁買へました。コンロの火がきえると二階もさむく、雨で暮れるのが早いので、四時頃に火を起しました。みんなも暗くなるので帰るのが早い。この辺は全く暗いですからね。

ピアノはトロメライと魔王を続けてゐますが、まだ中々面仆です。

十一月十九日(日) 晴

昨夜ね(お)づみが出て、おもをかぢ(お)られました。おもいもしいと思つてしらべたら、部屋の東隅の本棚の上にフスマのやうなもので蔽つた窓がありますね、あの窓の一つにストーヴ用らしい煙出しがあつて、そこからは入つたらしい。今日はとぢておきました。

午前中小包が来ました。どうも貴重なものばかりで有難う。おもちは今夜、大事にいただきます。ねづみを警戒してレイゾウ庫へ豆もおもちも入れました。ズキンも中々よく似合ひます。中々上手に出来ましたね。ブルーズとよく合ひます。本当にどうも有難う。

昨日、ダイヤモンドの松沢氏から電話で原稿を依頼されました。廿四日までに五枚に黒人問題を書くのです。今度はハーロンドンのことを書かうと思つてゐます。

午後、此の手紙を出しに行かうと思つてゐると、北条夫妻がやつて来ました。いろんな話、彼とは前日の続きのやうな政治、歴史、芸術の理論的な話、彼女とはピアノ（彼女はピアノをひくのです）、シューベルトやシューマンの歌、猫の話などしてゐる中に、丁度森井さんから帰つて来た中島君の詩を読ませたり、昔のスケッチ（滝ノ川の最初の年に書いたもの）を見せたりすることになつて、感想をききました。一つ一つに中々いい感想を得ました。そんなことで、すっかり暗くなつても話はずきないので、火を起してもふかしました。結局午後八時近くまでシヤベつて、彼は僕のダイヤモンド日報の前の「南部問題」と「プランテーション」の原稿の緒論の部分とを持ち、彼女の方はシューベルト歌集の中に写させてほしいのがあるからと持つて、帰りました。二、三日中に返しに来ると云つて。

北条君にはげまされて、夏から考へてゐる詩を完成してみようと思ひ立ちました。あなたの誕生日までに完成して献じたいものです。彼等は僕の詩をほめてくれます。さう云へば昔の「六月二十一日」の詩は、北山氏にも北条君にも大変ほめられたのですから、僕の詩もまんざらすてたものぢやないでせう。スケッチでは、スリッパ姿で椅子にかけて本を読んでゐるあなたの絵を一番ほめられた。それからあなたの寐顔の絵も。

この手紙も、人と話したり人と会つたりしたことばかりの手紙で、あなたには余り興味もないかも知れないが、実際には之等の人と話したり会つたりを、すべてあなたと二人でしてゐるやうな気持なのです。之はこじつけでも何でもない。要するに僕の生活は僕一人である時も、いつでもあなたと共にゐるのです。いつでもあなたの心使ひやあなたの眼、あなたの心情を身近かに、従つて僕の対話者もいつも僕とあなたと二人を相手にしてゐることを感じてゐる苦なんです。ちよつと神秘的な云ひかたのやうだけれど、あなたが考へてゐるよりはるかにわかりきつたこととして、僕は二人であるのです。あなたはだから、あなたの知らない間に、こちらで僕の接するいろんな人々と接触してゐるわけなんです。あなたが欲するか欲しないかに拘らず。

今日は北条君達がおそくまでゐたので、つい早川君の所へ行きそこないひきました。ソフォクレスを読み終つたが、そちらへ送りますから、ひまがあつたらあなたも一度読んでごらん。アンチゴネー、エレクトラ、オイヂプースが特にすぐれてゐるし、「トラキスの女達」のディアネラとヘラクレスの形象も立派です。アイスキロスもソフォクレスも何と違ましく偉大なのでせう。歴史的時代の運動、民族的運動についてはアイスキロスの方が勝れて居り、ソフォクレスは個性の描出に勝れてゐる。そのことにギリシヤの時代的変遷があらはれてゐるわけだせう。今度はオデュッセウスを読みます。

紀州行きはどうしますか。あなたの身体に無理のないやうに。
では今日は之だけ。

謙

幸子から謙一あて（一九四四年二月一八日の記、一九日の消印）

十一月十八日曇8度

お父さんは遠山まで手術の往診にゆきましたので、今日は病院も暇です。二階にも炬燵がはいる事になり、部屋の模様替を致しました。其の最中に古野喜代子さんからお手紙が来ました。此の夏関西へ行つた時、あき子さんの話では豊中の方は配給は幾分良いとの事でしたが、もうあちらも野菜も魚も一ヶ月に一度の配給になつた相で、不自由だが自然（中略）にゐる身体がたまらないから、がまんしてゐると書いてありました。

和歌山からは其の後何のたよりもないので、まだ温泉旅行から帰つてゐないかも知れませんが、都合もある事であろうから、和歌山ゆきは暫く見合せに致します。もう一つの理由は伊勢湾あたりまでボーイングが来る様ですから、旅行の途中で空襲にあふ事を思ふと、関西の方は私はあまり知らない所ですから、其の不安もあります。あなたの良く云ふ様に戦局がもうすこし安定してからの方がいいです。

今日は本当に寒い日、猿も小みのをほしげなり、と云ふ風な時雨になりました。寒原峠のあたりはどんなでせうね。あなたの勉強も、こんな日は佳しい事でせう。

第二章五節五―六のノオトは昨夜中にすみました。五節では此の五、六が面白いですね。手数料制度はアメリカ南部ばかりにあるのではないことを思ひます。本来にあの様にいまはしい陋劣な制度やしきたりの、それにたづさはる人々の害悪の恐ろしいことを考（税）させられます。法制も制度ですが、其の法律を行使する人々によつて、どんなにでも変形されてゆく事は、他の事柄にも押し進めて考へられる事です。おくれた土地のおくれた法律、一方的な法律が、おくれた理解力の持主に左右されてゆく事実は、私共は身を以つて知つて来てゐますものね。

囚人労働は日本にもあるでせう。囚人の作つた机や家具、其の他いろいろのものを買つた話を前にも聞いてゐます。囚人に生産労働をさせてゐるところは世界中随分あるのでせう。唯それを骨に営利手段としてゐるかどうかのちがひですか。外へ売り出す事は、何れの国でも一般勤労民の労働の諸条件を低下させる事ですな。

二、三日厚生科学物語をよんだら、其の中に知性と精力の勝利と云ふ題で、ペラグラ病と科学者の斗を誌したのがありました。「正規の食物を充分摂取しない人を襲ふ一種の飢餓病で、やせおとろへ精神錯乱状態となり、口腔内は炎症を起し、下痢を伴ふ」。症状をよむと、私の春やつたのはペラグラ病に近いのね。なる程、精神錯乱におちいつたのも無理もないと思つたわ。で結局、ユダヤ人の医者、ゴールドバーカーは南部へゆき研究の結果、それが強い日光のためでもバイキンのためでもなく、伝染するものでもない事をたしかめ、此の病気が貧しい食物から起ると云ふ信念を得た。つづいてスパイズと云ふ若い医学者が、食養生でなをさうとする。入院して来た患者丈に、此の療法をこころみる。すると死亡率54%が6%になつた。「併し退院してわが家に帰ると、又も昔なつかしい食物にかへるため、再び発病して来院する事になる」。

次に、エルヴェーヂェムと云ふ生物化学研究所員が犬のペラグラ（犬のペラグラ〈ブラック・タン〉はイアリング『仔鹿物語』―編者注）に出て来ました。熊もきつねもうさぎもなる）で研究をしてゐたのだが、遂にニコチン酸アミドと云ふ結晶質を得て、此の丸薬を与へると、魔法のように口の炎症は去り、食欲を起し、三週間の中に目方は二倍になつた。そして此のニコチン酸は犬のペラグラにきいたから、南部の黒人にもきくと云ふ結論で、パーミンガムとシンシナチの病院（こゝは殆んどペラグラ専門）で実験、死亡者一人もなしにした。ケンタキイ辺疆療養会では山の人々に毎週此の薬を与へる事にした。

『併し此の研究者達は、此等の人々の食物の習慣を変へる計画はしてゐない』『もし此の実験と、それにメイシイ、ロックフェラー財団等によつて資金を給されてゐるアラバマ同種の実験から、少量の廉価なニコチン酸が此の病気を予防する事を証明されるならば、此の古くからの猛威を逞ましくした殺人魔に対する大団円も、さ程遠い事ではないであらう』『今から後は貧しき者や栄養不良の人々を襲ふあの恐るべき悪疫で、誰も生命を落す必要はない』と結んでゐました。著者は米国の厚生科学の第一線に立つ医者である相です。

はつきり「貧しい人を襲ふ栄養不足の結果の病氣」である事がわかつたのに、栄養を採れる境隅に導かず、丸薬で一時凌ぎをやる事で、知性の勝利と云ふのは厚かましい。ここにもアメリカの偽善（？）があるのせう。「昔なつかしい食物」とは、実に歪曲も甚しい云ひ方ですね。本来、それが昔なつかしい好きな食物であるのではないのだから。ここにもアメリカ人の人種的偏見から抜けられぬ黒人蔑視が見えますね。根本的な解決をせず、丸薬はびほう策なのに。

一番目のゴールドバーカーと二番目のスパイズの実験までは立派です。「營養不良」が原因とわかつた時、道は丸薬の

発見と云ふ、科学者の領分からわかるべきだつたのに。丸薬の発見で厚生科学の役目はすむものかも知れないが、厚生科学の次に来るべき、次の最適の解決まで―社会的な経済的な解決にまで到るべきものなのに。

あなたのプランティションをよんだ結果は、ペラグラ病の処置についても、以上の感想を与へられたのだと思ひます。以前なら丸薬でペラグラ病の解決はついたと思つたかも知れませんが。あなたの意図した事は実現されてゐるのだと確信致します。本当に情熱こめ心血をこめて書かれたものを、読む方も著者が注いだと同じような心を以つて、時間を以つて読みとらうとすれば、あなたの云ふ如く著者と読者には相通る情熱のフニキが出来るのですね。又してもアナトオル・フランスの言葉を思ひ起します。「読む時」読者のハートは琴をかきならす手である、とか云つた言葉を。誠実な愛情ある読みとり方は豊富な内容を得るし、雑なよみすごしはどんねりラの音も立てさせない。併しりらがあんまりお粗末なら、一寸ちがふけれど。

No.19、十五日附のお手紙落手(十八日午後三時)。

プランティションの発生の原稿は、此の次に続いてよんでみませう。今の独立戦争がその双児らしいのなら早くよませう。風邪を引いてゐるのに徹夜なんかは、どんな事情があつてもいけませんね。昨日「常識としての生理衛生」をよんで、徹夜の害を再認識したばかりです。

中枢神経は一日の働きで充分疲れ切ること、中枢神経の特に脳の完全な回復は睡眠以外にないこと、疲労素の毒素の害、疲労を恢復させずに無理な努力を続ける事は有害無役であること、疲労毒素を健全な者に注射しても、忽ち注射された者は疲労の症状を現はす程強い害のあるものであること、疲労の上に無理を重ねると、次の回復までに要する時間は非常に延長されること。

住居の点、食事の点、全部不備な現在は、徹夜などで脳を疲れさせる程馬鹿げた事はありません。

未完成の原稿で難関を切り抜けた話、前にもそんな様な事がありましたね。芦野さんはたしかにあなたには一種のフニキを持つて接するらしいですね。と云ふか、あるひはあなたに一種の「精神」を感じて、家来扱ひ出来ないようですね。それにきつとあの方は、あなたが不熱心や不熱意のために書けないのだとは思はないのですね。だから違約も一概に責め立てる気になれないのだと思ひます。それも常日頃のあなたの様子を(研究所へはいつて此の方、時々ではあつたにせよ)通じて、本の買ひ方、話題、人柄を知つたせいでせう。彼氏が紳士的であるから丈ではなく、あなたの人格の反映でもあるのでせう。それにしても芦野さんが、ピアノを弾き乍ら歌ふ様な特技を持つてゐたと、若干おどろき

ました。他の人々もさう思つたでせうね。原稿の件はたしかに、他の人のとあなたのとは量の差でなくて、質の差である事は芦野さん知つておるでなんでせう。書きつぶしや何かではなくて、勉強の対度の差でせう、研究の質の差でせうね。

芝生のランチ—あなたのは如何にもきの毒ね。よんでゐてもどかしい様な気がしました。いくら何もなくても、私がゐたなら何とかまとめてあげられたのに。いくらあなたが平気でも、私は一寸平気ぢやないものがあるわ。おさつはもう駄目なの。そんなら今夜上郷の篠田さんから貰つた様だから、すこし送つてあげませうね。

アメリカ史の話、英国史、オランダの独立、共和国建設の話、ルネサンスからつづく自由を求める人間の運動の発展等、此のごろはもつぱら桃ちやんと話題になります。桃ちやんは「お姉さんの歴史の話大好き、又して下さいね」とよくサインクされます。私の話でもそんなに桃ちやんにみ力があるらしいから、うれしくなつていろいろ折々話をします。南部のプランテーションの話はお母さんでもすこしわかつて来た位、但し、お母さんに話す時は大農宮経と云はなくちやだめですけれど。

黒人のおとしめられた地位については、朝鮮の事がよくお母さんから持ち出されます。黒人法の話など、お母さんは真けんに怒ります。「そんな事をしちやいかん。そんな事をする奴は生きてゐるうちに地獄に落ちる」と云つてフンガイします。けれどお母さんには、今の世界歴史の進展についての希望は、アメリカのありよう、英国の今までの歴史、そして現在から押してなくなつて来る一方で、それ以上の点はもう理解出来さうもないように見えます。昔は世界中のほとんど凡ゆる人間は希望のない生活しかなく、希望の実現は死後の世界にしかかけなかつただけれど、人間のさう云ふ不合理を破らうとする力が、どんな圧力にあつてもつぶれる事なく、其の後の歴史が証明して来てゐることや、現に世界の一つの国は、それを国家として完全に実現してゐるのだからと云ふと、それはさうかも知れぬけれど、自分の生きてゐるうちには駄目であらうと云つて、悲観してしまひます。桃ちやんは積極的には何も云はぬけれど、お母さんどをりに考へてゐるとは見えません。

今日おひるすこし前、二階の炬燵に桃ちやんも（桃ちやんは助膜の気がある程度見えて来たので、ずっと休み）私もふうちやん親子も一緒になつたので、それ／＼手仕事し乍ら、私はアイスキュロスのプロメトリスを此のチャンスによもうと思つたので、朗読役になつてよみました。途中でおしくも食事となり、其の後は三人集まるチャンスなく、私一人で終りまでよみました。本当にプロメトリスとヘルメスの対比、英雄的なものと卑俗なものを感じさせられました。

あの劇の中の方々のプロメトイスの言葉の中には、今も昔も一寸も変らぬ人間の生き方や考へ方、今も昔も変らぬ真理があります。毎日すこしづつ休息のために読みませう。
今日はこれで終りにします。

さようなら。

幸子から謙一あて（一九四四年一月一九〜二〇日の記、二二日の消印）

十一月十九日（日）晴十八度

朝霧深く晴れ相にも見えなかつたのに、十時頃から珍らしい位明るい暖い陽がさして来ました。昨夜入浴のあと、長く起きてゐたため、風邪らしい。すこし頭痛がします。

今日になつてようやく、白麻の夏服のクリーニングが出来て来ました。此の分ならあなたのはんでん用の洗張は何時になるか。クリーニング屋も電気と炭の不足で、アイロンはかけぬ事にしたと云つて来ました。

午前中は風邪と称してマナサス上をよみました。奴隷廃止運動が出て来るけれど、北部のその運動の事は南部のプランターの描写よりも劣つて、何だか霧の中を通して見るような感じがします。前二度よんでみた時と、又すこし異つた感じ（マヤ）てよめます。アランと云ふ主人公は適切で、表現もうまいのですが、どうも其の外のところは、充分たしかな場所をつかみあげて来てゐない感じがします。

森井さん―此のごろ思い出すと、森井さんはあふ前の方がみ力があつた。逢つてからは、かへつて無関心になつてしまつた感があります。要するに森井さんは、私にとつては猫に小判の類で、あまりみ力を感じぬ人です。友達になれたらよいと思つてゐたが、今は積極的に手紙を書く程の気持を感じませんわ。森井さんより臼田嬢の方がずっと私にはみ力があります。臼田さんの方は生きてゐる感じがしますからね。と云つたとて森井さんの悪口云つてると誤解しないよう、唯感想を述べた丈です。現在の森井さんは冬眠状態にはいつてゐるらしいでせう。臼田さんは俗な髪をしてゐたと悪口云つたけれど、此の頃思ひ出すと、かへつてそれがあのひとの魅力の一ツになつてゐます。

今日は第六節のノオトを始めました。このへんはあまりこれと云ふ感想は出て来ません（一―三まで）。明日は四―からずつと出来る丈つづけます。どうしても今月中には全部のノオトをとる事にきめてゐますが、自分の怠け心から進捗しなかつたりする事のないようと思つてゐます。午前中は駄目ですから、午後の一―三時までと夜の時間です。此の

時間にうつかり手紙を書き出すと、ヨ定は崩れます。

今日はどうしたのか、手紙を書く内容があまりありませんから、ここで止めて、一日手紙は休みに致しませう。毎日
く長い手紙を書くのは、時には書く事がなくなつて困る事も起ります。

十一月廿日晴二〇度

No.20 落手。結婚問答は毎度面白く読んでゐます。本当に誰しも一度丈通過せねばならぬ問題ですのに、割にかんたんに考へ勝ちですね。どうかすると洋服の布地や仕立の方に、一さう云ふ問題の方には案外エネルギーを消費して考へるのに、人生の重大事にはかんたんにまはりを見まはして、ありふれた型でもつて満足するのはどう云ふものでせう。一時的なもので自分が使ふものには、本当に念をいれたり、又はあれこれ人の批評を気にするくせに、クリーニングや仕方をな^①はしは実にめんどうで、自分一人ですませる事の出来ぬ結婚問題の方を軽くまにあはせるのは、どう云ふ錯覚でせうね。

グローヴのあなたの原稿ののる筈^②のものは、まだ出来ませんか。原稿かへして貰つたら見せて下さい。英語のでは又々長くかかつてよめないと困ります。

今日はどうしたのか甘度まで温度が登り、二階の部屋は頭が痛む位のあたたかさです。

ノオトは今日は六節の四、五、六まで分がヨ定です。四のプーアホワイトの発生の項をよんでみると、イアリングを思ひ出します。あの男の子のお父さんはプーア・ホワイトだったんだなアと思ひました。フロリダの島（陸上にあるのだけれど）と云はれる不毛のチビ松しか生へてゐない砂地の奥地へ行つて、妻と一人の男子とカツ／＼に暮し、半分は鹿をとつたりのリヨウ師をして暮してゐるのです。あれには年代が出てゐたかどうか覚えてゐなかつたけど、ミシシッピイの船乗りが出て来るんだから―あまり近年の話ぢやないと思ひます。

それから風と共に去りぬのオハラ家のプランテーションの外に、エミイ・スラッターリング（？）と云ふ娘のゐるプーア・ホワイトの一家族がゐましたね。あれも無知と貧窮との中にある、オハラ家のくろん坊たちまで、あの人の事をいろいろわる口云つてゐるところがありました。「何とかねずみを常食してゐるんだ」とか、「病気になるのは不潔のせいだ」とか、「父なし子をうんだ」とか。

四では二二九頁、終から十行目から最後まで大変おもしろくよみました。ここには考へなくてはならぬ問題があると思

つて。人が無知と日常の生活に追はれるでセイ一杯である時は、本来的な敵へ向けるべきものを、さつとかはされても一寸も気がつかない。プーア・ホワイトがプランターに向けるべき批判も憎悪も、憎悪として感じ乍ら、其の不まん（不）と憎悪を個々の黒人奴隷に向けること、ここをよんだ時は美に今の置かれてゐる社会を思はずにはゐられませんでした。小さい例でも大の男がパーマネントウエーヴなどを矢たらむしように排けきたり、市井の一寸した事などに夢中で喧嘩（喧）越になるところなど、圧迫されて低められてゐる国民生活のその不まん（不）と憎悪を、つまらぬところへ注ぎ出して、いくらかでもはらした気になるのかも知れないし、一それから朝鮮の人々に対する態度をも、各最後に残された自尊心をせめて自ら納得しようとの心持から、奴隷制度を支持せんとする心の動きは、あらゆる所に形は変れど残つてゐます。女同志の世界でも会社の中でも。さうしてプーア・ホワイトが一人、自分の向けるべき牙の対象を知る時を恐れるプランターの心理と、それに対する政策を身近に感じ得られます。

今日は料理番で手紙も途中何回区切つたかわかりません。あまりしばしば／＼チヨン切られると、何を書き度かつたか忘れてしまひます。今よう／＼用事がすみました。客はまだゐますが、お母さんもふうちゃんも帰つて来たので、私は二階にゐてもよささうです。時間はもう九時、全くガツカリングですわ。これからノオト五、六と残つてゐますので、今日はこれ一枚で手紙は終らねばなりません。独立戦争は大分苦しい様ですわ。レッキイは独立戦争の参考書ですか。独立戦争については、あなたの今までのでは、まだどこなとこで足りないのでせう。アメリカ史でも今度のも、独立戦争の意義も其の結果も、アダムズやファランドなんかより、よつ程掴んでゐるように思はれますけれど。

では今夜はこれでさようなら。

謙一から幸子あて（一九四四年一月二〇日の記）

十一月二〇日（月）晴

午前中、郵便箱をのぞいたが失望。

今朝から朝食後、オディッシュウスを少しづつ音読します。聖書も読みます。あなたがゐれば読みあへるのですが。今度僕達が一緒に住む時も、イリアスカオディッシュイか、それとも外の詩かを音読したいものです。

竹中、白田両君へ約束した歴史のレクチュアは当分延期です。僕も少し勉強せねばならないし、それに二人とも目下人

生の重大事をひかえてゐるので、それに関する話の方が切実だからです。竹中君は両親とも血圧高く彼の結婚をすすめ、周囲の人もやいの／＼と云ひ、足立君までよつてたかるので、どうやら事のなり行きへ身をまかせざるつもりらしい。しきりと外のこと僕に僕の期待にそふつもりだと弁解口調です。彼も何となく結婚したいのでせう。さう云ふ年ですからね。

「駄目だなあ、君は。君のことぢやないか、しつかりしろよ。君は本当の君がまだ掘り出されてゐないのだ。幕をかぶつてゐるんだ。皮をかぶつてゐるんだ。そいつをはがさないで駄目なんだ。そりやその皮をかぶつたままなら、見合結婚だつて何だつて出来るし、そのままやつて行けるだらう。そのかはり人生素通りだ。そんな人生なら生きても生きなくとも同じことだ。自分で皮をはがさなきや。大体君は何でもさうだよ。本を読んでも音楽をきいても、何をしても浅薄で上つつらだけで、サロンのだ。君に何を批評させても、面白いと云ふだけだ。ちよつといいねとか、すてきだとか。要するに芸術でも何でも、自分の感覚を快くさせてくれる限りのいいのであり、それ以上を求めない。芸術の肌ざわりのいい形式だけで満足して、一かど芸術を鑑賞してゐるつもりだ。そんな鑑賞主義が芸術にとつてどれだけ有害だか。芸術を味解すると称する人間の大部分がそんな鑑賞主義だが、本当の芸術の味解は芸術の内容の批判、その芸術を創作した芸術家の魂、生活欲求、心情の奥までの透入洞察、その歴史的社会的结果の洞見にまで進まねばならない。芸術を生活の中でとらへ、生活の血肉へ吸収し、従つて芸術の真と似而非とを峻別する、かくてこそ芸術も進歩し、人間生活も進歩する。君のやうなディレクタント的なサロンの鑑賞者は、芸術を肌ざわりのいいだけの、或ひは新奇な、またはこけおどしな、気どりますました形式主義に墮落させるばかりだ。ディレクタントは皮かぶりだ。自分と云ふものがなく、借り着の皮だけで何もかも卒業し所有するんだ。ディレクタントも昔のそれは偉大だった。ルネサンスの全人達にせよ、フランス革命期のアンシクロペディストにせよ、ヘーゲル及びマル・エンにせよ、いづれも一切の世界現実について統一的理論を導き出し、新しい変革的な世界観を構築した。彼等にとつて世界解釈は彼等の歴史的实践の指針だった。それに比べて十九世紀後半以後のディレクタントは、歴史的实践の放棄、知的享楽主義、美食主義にすぎない。現在のディレクタントにとつては何もかも皮膚の問題だ。恋愛でさへ皮膚の問題だ。結婚もまた皮膚の問題だ。皮膚の問題だからこそ、その失敗はたかく擦過傷にすぎない。君なんかに読まれると、バルザックでもシエクスピアでも皮膚で素通りだ。君ん所の本なんか、みんなばくん所へ持つてくる必要あるな。だつて君なんかのオモチャにするにはもつたない」。

これくらい云つてもやはり駄目。「し^やうがないんだよ。どうせ僕は駄目なんだよ。君のやうにはいかんのだよ」「そんな風に云ふならもう手はないね。もうまじめぢやないんだからな。悲観したな」「だつて君のことぢやないぢやないか」「僕のことだよ。僕だけぢやない、日本のことだよ。君は自分だけの責任で自分だけのこととして妥協するつもりかもしらんが、どうして〜。僕のことでもあり我々の及び我々の後の全世代に關することだ。少くとも君の今度の結婚は、僕の理論の敗北であり、僕の努力の敗北であり、僕の説得力の敗北だ。僕が君の皮をはいでやるのが出来なかつたんだ。君は何度も調査会へは入つてよかつたことは、僕と話をしたことだとお世辞みたいに云つたね。いやほんとにお世辞にすぎなかつたんだ。僕は君からさう云はれて嬉しがつてゐたが、馬鹿だつたんだよ」。

之にくらべると臼田君の方は大分しつかりしてゐます。一昨日書いてゐた長い手紙も出したさうです。女だけにやはり真剣に考へてゐる。僕のいつもシヤべることについても、よく考へてゐるらしく、森井さんに一々はなしたり、自分の後輩の共同生活者に話したりしてゐるやうです。最近はアンネットをもう一度読んで、アーシヤとマルクとの關係について考へてゐるらしい。「アーシヤのやうに、はつきりと彼を要求してゐるんぢやないわ、何だかあたしの感情も頼りない、漠然としてゐるわ。今までは自分の感情は恋愛だと思つて来たけれど、彼があたしを欲求してゐないのに、あたしは彼を欲求すると云ふのは変ね。やつぱり観念的だつたのかしら。彼はまだいろんなことで考へかたが古くて、あたしには承服出来なくなつた。彼は家族制度を脱して来たんだし、徹底的に合理的科学的だから信頼してゐたんですけど、菊池さんのやうにあらゆる生活部面まで、理論的に統一されてゐると云ふ風なのぢがふわ。まだずい分封建的だわ」。「そりや僕は斗^こはねばならん状態にあつたからこそ、あらゆる問題について一通り理論的検討をやつて来たんだけれど、普通はさうぢやないよ。普通の男性はさうした問題で考へる機会に恵まれないんだ。だから親からの或ひは社会からの偏見をそのままもつてゐるんだ。僕等の友人でずい分進んだ考へをもつてゐる人々でも、その問題では解放された観念をもたない。だから、今そのことで偏見を脱してゐないと云ふことだけでは、判断出来ない。今を機会にそれらについて充分考へさせるんだ。そしてそれについて自発的にも考へ、正しい見解に達したなら、それでいいわけだ。だからもつともつと自分の考へを相手に嵐のやうにふきあて、相手にも意見を發展させる必要がある。現在の君たちの關係はリーベとは云へない。リーベとはあくまで相對給付的で、相互の内質からの欲求から構成される。欲求と云つても何を欲求すると云ふ風なものぢやない。全体を欲求するんだ。いはば心の傾斜だ。いやおうなしに双方から相手に向つて心も全身も傾斜し欲求し結合するんだ。だけど君たちの意見の交換からリーベに發展し得る可能がある。そして君は自分

の当面してゐる現実を最も誠実に全力をあげて体験するんだね。あらゆる問題について考へ、確信を以てやりたまへ」。彼女も本の読みかたを知つて来たやうです。竹中君の魅せられた魂の読み方とくらべると、やはり彼女の方が上のやうです。僕は大金嬢や西山嬢の本の読みかたをしきりと彼女に伝へたのです。「菊池さんのおつしやつたことを考へながら読んだら、迎もよくわかつたわ。あたしも今まで人に本をすすめるのに、自分の意見をいろ／＼云つて読ませたけれど、その場合あたしの云つたことでも、次に読む人には可なり影響を与へるのね。所があたしはちつとも生活の必然性を以て考へた意見を云つたのでなく、思ひつきみたいなことしか云へなかつたんですわ。だから今になつて、これまで人にすすめた本を全部とりかへし、云つたことを全部とりけしたくなつたわ。本てずい分いろんな読みかたあるのですね」などと云ふ程度になりました。

此の頃こんな手紙ばかりで、あなたを失望させてゐるかも知れませんね。だが二人の若い人にとつての人生の重大問題に、やはり僕も全力をあげて助言し判断してやる必要があります、その助言が効なく終るにしても成功するにしても、僕の人間関係理論の豊富化に少なからずプラスになると思ふのです。また成功するとしたら、僕達の之までの全生活体験は、僕達の私有財産でなく、多くの人の生活の中へ共有財産として生かされて行くわけになるのです。

午後あなたの十七日付お手紙来ました。

たばこ、喜んでくださつて有難う。次の分を明日送ります。今度は「光」です。一箱は北条夫妻に進呈したので五箱分です。北条君は原稿書くのにどうしてもほしいと云ふので。明日また六箱は入りますが、之は六箱とも送ります。「ひかり」も数日前から送るつもりだつたのですが、何か一緒にと思つてついおびました。ソフォクレスと一緒に送りませう。ソフォクレスのアンチゴネー、オイジプス、エレクトラ、ディアネイラ、ピロクテテス等を熟読して下さい。アイスキロスと読みくらべる場合、アイスキロスには歴史の叙事詩があり、ソフォクレスには性格の創造があることに留意すべきでせう。それにしてもアイスキロスのプロメテウスのすばらしさ、何とも云へない壯嚴（雄偉）な、実に人類史最大の文字（文字）が含まれてゐるのでないでせうか。プロメテウスの中には、もう個人でなく個性ですらなく、直接に歴史そのものの叫びが、不滅な大文字として結実してゐると思ひます。ソフォクレスの「トラキスの女達」は、ヘラクレスの形象も雄大ですが、ディアネイラもすてきです。之はユーリピデス（古典劇大系の第二巻）の「ヒッポリトス」のファイドラ（ラシーヌのフェエドル）と対比すると面白い。ディアネイラは単純であり健全だが、ファイドラはもう不健全です。之はソフォクレスの時代とユーリピデスの時代との差でもあるでせう。もうユーリピデスに於ては、歴史にすっかり足をつ

けた確信のある単純で偉大なギリシヤ民族はぼつ／＼姿を消し、歴史的な自信を喪つて、個人的関係の特殊へ関心を向ける気配が見える。

本は竹中君が動揺してゐるので、金を返す必要もあるかも知れないので、暫く見合はせました。残念だが本よりも彼の問題の方が重大です。

米も炭（一俵）も配給になりました。今度の米はいい米です。米は配給なくとも一ヶ月分（一人前だが）ぐらい余裕をつくり出してあります。いねちゃんでも焼け出されたら役に立つてせうから。風邪はまだ鼻からぬけません。だが大したことなくほぼすみました。

昨日北条夫妻にブルーズとズキンとをつけてみせたら、よく似合ふとほめられ（？）ました。北条君はモンペにも大変うらやましうにしました。まだブルーズで大丈夫です。

竹中君説得についてのあなたの力づけを有難くよみました。僕も今日なんかはつく／＼一種の敗北感で不機嫌になつてゐました。あなたの云ふやうに、がっかりせずにもあ出来るだけやつてみませう。

「緒論」の批評ありがたう。僕も前にも云つたやうに、緒論には一番力をかけたので、はじめそれが「わかりにくい」とか「文章がわるい」とか云はれて、たしかにさうでもあるのですが、漸く安心しました。尤もやはりもつとわかりやすく、もつと上手にかかねばならなかつたと云ふことは依然として真実ですが、それにしてもあなたの歴史観の基礎づけに役立つたことはうれしいことです。

歴史について重大なことは、歴史的問題提起を読みとることです。歴史は或る事を夫々の時代に歴史的課題として問題提起する。その問題提起は大いには、その時代の最も切実な人間行動の中に、多かれ少なかれ明瞭に表出される。歴史的洞察とは、人間の歴史的行動の中に表出されてゐる歴史的課題提起を適確に読みとることだ。さうすれば、その問題提起に関して、それに対する二つの態度、一つは問題を提起し解決しようとする態度、もう一つはそれを阻止し歪曲し、サボリ、裏切る態度、この二つを見出し得る。そして前者は歴史の進歩を齎し、後者はそれを阻害する。歴史家はこの二つを見出し価値評価せねばならない。云ふまでもなく、歴史的問題提起と解決努力とを評価し、それらこそが歴史を推進させて来たことを闡明せねばならない。さうすることは我々自身の当面する歴史的課題を把握することであり、その課題の解決の努力を支持し、我々自身を歴史の推進へと参加させることになる。いな我々だけでなく、一般の民衆を、^③そうしてこそ歴史学の真の意義が確認されるのです。歴史学だけでなく、一切の学問、芸術はすべて夫々の歴史的課題、

歴史的問題提起を内容とせねばならない。僕の「プランテーション」もさう云ふ歴史的問題提起として価値評価されたいが。さう云ふ意味で劃期的と評価してくれる人はないものかしら。もう一つは、「プランテーション」の中に啓蒙的意義を認めてもらへたら文句ないのです。むろん僕のやうな未熟さと書きかたの粗雑、書きながし（時間の少なさにもあらはれてゐる）では、「問題提起」と「啓蒙」との統一に成功し得べくもなかつたが、少くともその統一の努力はあつたし、外のいろんなものに比べてその統一の努力が少いとは思はない。

歴史的問題提起と云ふことに聯関して、歴史の必然性と可能性との問題が重要になる。例へば独立戦争の時、奴隷制プランテーション制度の解決は可能であつたか、可能であつた。ではそれは必然的であつたか、いな必然的にならなかつた。何故か。その可能性が歴史的主体（民衆、歴史推進力としての民衆、従つて当時の農民、都市民）によつて明瞭に意識されず、従つてその可能性を現実性にまで、必然的なものにまで実現させ得なかつた。可能性を必然性にもち来らずものは、歴史的主体の明瞭な意識的行動である。だから歴史の進歩に反対し、歴史の停滞に利益をもつ連中は、その可能性を単なる可能性に終らせるために、歴史的主体の意識的行動への成熟を阻害し、そのヘゲモニーを奪取して進路を歪曲しようとする。この二つのものの抗争の力關係によつて、歴史の進路なりテンポなりが規定される。すなはち歴史は凡ゆる可能性を多くの場合あだ花におはらせつつ、人間の血と富とをその都度浪費しつつ進む。にも拘らず歴史的主体（民衆）は、それ自身の中世的農民から近代工業労働者への成長につれて、次第に歴史的可能性の把握とその必然性への転化とに成功の率を多くしはじめる。かくして歴史的主体はますますはつきりと歴史的問題提起をやり、ますます意識的歴史行動を展開させるにいたる。かくして歴史は歴史の必然の道を断乎と進むやうになる。浪費は少くなる。ジグザグは少くなる。

それだのに現在のこの膨大な浪費！だがこの膨大な濫費も、之までの凡ゆる歴史的問題提起をあいまいにされ、逸し、埋没され、歴史的可能性を確実に必然性にまで発展させ得なかつた結果であり、そのかはり今度こそは最もはつきり建設されねばならないことを会得させる。浪費は浪費で終らないでせう。

ソフォクレスの中にS氏のキリヌキを入れておきました。

いつでも力と力との格闘。歴史的に問題提起し（身を以てするにせよ、意識を以てするにせよ）、問題を解決しようとする力と、之を阻止し歪曲しあいまいにし埋没しようとする力との格闘。その力の基礎と発現、その力の根拠と理由と態様を見出し描出すること、之が歴史家の任務。または歴史を読む者の心がまへ。

どうも、同じことばかり書いてみて、一向新しいことを云へないやうで気がさすが、やつぱりこれらのことを凡ゆる角度から人にも説き、自分にも説かねばならないのでせう。結婚や恋愛の問題でも。

もう十一時になりました。ではおやすみなさい。今日は割合ひあたたかかった。曇つてゐるが天頂の方ではうすく星ものぞいてゐます。

なほ気がついたら飯田の国益社と云ふハンコやで、僕のハンコを受とつて来て下さい（国益社の位置を示す図は省略―編者注）。

幸子から謙一あて（一九四四年一月二日の記・消印）

十一月廿一日曇、十四度

さつき粉とうどんとパセリ送りました。うどんは小包みの格好上、二つ折にしましたから、パラ／＼になりましたが、あれは農家のお手製でおいしい筈です。おさつもいれ度かつたのですが、目方が超過するオソレありで止めました。

今日は今まで一字も字を読めませんでした。急ぎもののぬふものや、小包み（四個）作りや、お勝手、早苗の世話ばかり。早苗のために随分時間をとられて、たまにはうるさくて嫌になつて来ます。ほつておくと、近所の子供を連れこんで来て庭をよごす、廊下は砂だらけ、早苗の部屋ばかりでなく、次の方もおもちやだらけです。

子供が遊ぶのは思ふ存分汚くする事が本来ですからあたり前ですが、お母さんが神経を立てて見てやらぬとか、後から／＼追ひかけて片づけてやれとか、不可能な事を云ふし、他所へあそびに行つてゐると、早苗はどうした／＼と十分位に呼び立て、其の揚句はふうちゃん丈でなく、皆おこられますから、外へもあまりやつておけず、抱いて本をよむとかがお母さん流には一番良いお守りであり、子供の育て方らしいのです。子供は二十分も本をよめば、もう一とところにおつとなんかしてゐませんものね。叱り方も毎日／＼一定せず、自分の御都合次第で、昨日よかつた事も今日は許されずでは、早苗も途方にくれますわ。こんな様子を見てゐると、私に子供がゐらない事が、こんな場合は有難いと思はれて来ます。お母さんの気分次第で、早苗に大人に云ふ（お）ような小言の末、云ふ事をきかないから、大きくなつたら親泣かせだ、不二が見てやらぬからだ、その時はいい気味だと笑つてやる、なんて云ひ出しますから、正気の沙汰とは思へません。不二ちゃんが早苗のわがまを叱つてゐると、何時でも邪まをするのはお母さんで、早苗はママに怒られたらおばアちゃんに甘へ（お）ればいいと思つてゐるし、お母さんは早苗がよからうとわるからうと、自分をたよつて来さへすれば早

苗をベタに甘やかし、不二ちゃんや其の他の人を怒りつける外は手を持たぬのです。そして自分の云ふ事をきかぬ時は、不二が甘やかして世話をやかぬから悪いと云ふのです。本当に正気だと思へないわ。不二ちゃんの考へ通り、お母さんに異論あらうとも、させたら、こんな馬鹿げた事を年中くりかへしたり、人の時間を目茶くにするような事にはならないのかわ。実にお母さんの不合理主義、専制主義、御都合主義はやりきれません。

私が不平でおだやかでないと思ひでせう。でも実はそれ程でもありません。唯、世の中に不合理程嫌なものはないと云ふ事をつくづく感じさせられました。だから自分の中の不合理―あなたをよく云ふ、普遍的なものへの結ばれないもの、個別だけのもの―をも徹底的になくする事を、今更のように思はされます。

今朝はなんだかあなたの夢を見てゐたわ。旅行の様などころもあつたし、防空壕の様などころも、長い／＼はてしの無い様なまはり階段もありました。それから蛇が三匹出て来る夢も見ました。蛇は夢の中ではエンギのよいものだ相ですから、目がさめてから、近日あなたのプランテーションが出るのだらうと思ひました。概してみる夢は佳しく、淋しいはてしのない道をゆく時の様な心持の多い様ですが、他の人もさうかしら。浮たつ様な楽しい夢なんて、めつた、見た事はありません。何時もセカ／＼と落ちつかぬ気持で、何処からか何処かへゆく途中の、あはたしい気分のものばかりです。夢の世界とは佳しいものだと思はざるを得ません。

今日は本当に変てこな手紙になりましたが、ここでやめて一応投函しませうね。これから夕方掃除にかゝります。幸子
謙一様

謙一から幸子あて（一九四四年二月二日の記）

十一月二十一日（火）曇雨

十八日付のNo.29お手紙拝見。この頃のあなたのお手紙は、中々充実してゐて二重に嬉しく読みます。

ペラグラの話は大変面白かつた。ペラグラについてのあなたの意見も立派です。簡単なことに見えるけれど、問題の本質をしっかりとらへることは、多くの人には出来てゐないのです。問題がどこにあるか、どこでどんなかたちでいかなる問題が提起されてゐるか、と云ふことを認識するには、洞察力がなければならぬ。あなたはもう、社会的にも歴史的にも本質的問題を把握し、洞察することが出来ます。之は今まで出来なかつたと云ふわけでないけれど、今まではま

だ思ひつきのやうな、勘にたよつたやうな、単に機敏だと云ふだけの程度の理解方法を克服し得てゐなかつたが、今はそれが論理的で科学的で、たしかになつたのです。問題がいかに提起されてゐるかを洞察し得る者は必ず、問題の解決の契機と方法を洞察し得ます。例へばペラグラを丸薬で解決したと思つた人々は、ペラグラと云ふものの問題の本質を洞察してゐないのであり、従つて彼等に於ける問題提起は浅薄で一面的なのです。そんな風に問題提起と云ふことにしろく質の差があつて、本当の問題提起をやらない限り、問題の本質を把握しない限り、その本当の、徹底的な解決の方法も契機も見出されないのであります。しかも問題は、人から認識されなくとも常に提起され、執拗に提起され、さう云ふ問題の解決の方法も契機も、現実の中ではつきりとあらはれてゐるのに、それでも多くの人は気づかない。いや気づくと云ふ風なものでなく、ここには洞察と云ふことが必要なのです。紙一重のところを一步つききつて認識するにも、質的に一段進んだ認識力、すなはち洞察が必要で、その洞察がないと、目の前にごろく問題がころがつてゐて、それを毎日見、聞き、体験してゐても、意識出来ないものです。この紙一重と云ふところに、認識に於ける量と質とのディアレクティクの問題が鮮かにみとめられる。

そしてあなたの之までの認識力には、まだその紙一重をつきぬけたところがはつきりとほみとめられなかつた。鋭い理解を示し豊かな味解を示し、それらではたしかに僕の感受力や理解力よりすぐれてゐることを示してゐても、まだそれがたしかではなかつた。論理的でなく必然的でないものを感じさせた。それが此の頃では、たしかになり必然的になつたのです。紙一枚の進歩かも知れないけれど、僕にはあなたの認識力の飛躍的な進歩に感じられるのです。いはば、あなたのこの頃のお手紙は、あなたもはつきりと弁証法を把握したと云ふことを示してゐる。ディアレクティクな方法①を（認識方法）を自分のものにした、洞察力を獲得した、と云ふことを示してゐる。

こんな風に云ふと、生意気な云ひかたに聞こえ、何だか僕が非常に高い所から、実はそんな資格もないやうな高い所から、威張つた口をきいてゐるやうにとられる可能性もあるが、正直に云つて、歴史的な社会的な政治的な問題の把握力、現実の理論的の理解力では、僕の方があなたより進んでゐると思ふ。ところが今はそれが同じ水準に達したのです。この方法さへ会得（かう云ふ認識のありかたは、封建時代の武道や手工業の秘法伝授、奥儀会得などと一脈通じるものがある）すれば、あとは我々の差は歴史的事実をより多く知つてゐるかいなかの差、視野の広狭の差にすぎない。だが我々の理解力は現実なり歴史なりの把握のほんの第一歩にすぎないので、第一歩をふみひらいたことの価値を充分意識し評価しつ、第二歩、第三歩をふみ進まねばなりません。

そのためには今獲得した方法を、多くの現実なり歴史なりの勉強できたへ上げ、豊かにし深め強めねばならない。アイスキロス、ソフォクレス、シエクスピア、バルザックを読みなほすのもいいし、アメリカ史をやりなほすのもいいし、我々自身の結婚生活の歴史を検討するのもいいし、我々の心の交流を検討するのもいいと思ひます。いづれにせよ自分の眼、眼鏡にたすけられたそれではなく、自分のものとしての眼をはつきり獲得したのであれば、その眼ですべてを見なほすことはいいことです。同じ本を読んでノートとるにしても、之までは人の云つたことの抜きがきか、要領をまとめるか、素材を整理するかであつたのに対して、之からのノートは、あなたの独自の思考の記録になることと思ひます。それは一大進歩でないかと思ふ。かう云ふあなたの認識の飛躍的前進に、僕のプランティションが楨杆の役割を果したとすれば、僕もこんなうれいことはないわけです。

僕自身多くの人々を見て来たけれど、我々の今達してゐる程度の洞察力をもつてゐる人もさう多くはありません。僕がいつか「プランティション」を読んでほしい人としてあげた人々、羽仁、北山、小此木、北条、岩上、之等の人々が僕等の上にあるのみです。無論まだつきあつたことのない人々にはうんとゐるかも知れないが。羽仁さんがいつか僕の「才能を百パーセント評価する。もつと自信をもちたまへ。T君(原文)やO君(原文)は君よりずっと小さい才能でも、君よりずっと大きい自信をもつてゐるのだ」と云つたのは、あの頃は半信半疑だつたが、今ではやはり本当だつたと思ふ。また北山君が、僕の批評をあんなに喜んでくれたことも、僕自身の洞察が他よりすぐれてゐたことの証左の一つでせう。さう云ふ風に考へれば、あなたの今達してゐる理解力が、どの程度の水準のものかわかると思ひます。手前みそのやうだが、やっぱり之は本当です。

僕等は時々、自分の力を確認する必要がある。自分の力の確認には、やはり人が自分について何と云つたかを知ることが非常に有効です。上記の人々に「プランティション」の批評をききたいと云ふ意味はよくわかつてもらへるでせう。そしてあなたは上記の人々の列に今は入つたのです。今まではまだ僕が半ば強制して、読んでくれ理解してくれと云つてゐる程度だつたが、これからはほつといてもきつと読んでくれるし理解してくれるし洞察してくれと思ひます。今その眼で「ダイヤモンド日報」を読んでくれると、きつとあれが「しぼりかす」で駄作であることがわかるでせうし、「プランティション」がずつとすぐれてゐることもわかるでせう。また同じ「プランティション」でも、どの章のどの部分が力がこもり情熱がこもりすぐれてゐるか、どの章が不純で迫力がないかを見分けられるでせう。それを指適(適)して下さい。ゆつくりでもいいから。

とにかく此の頃のお手紙で、僕は最愛の、いや世界中さがしても得がたい妻をもつてゐるだけでなく、また最も立派なたしかな伴侶的理解者をもつてゐることを感じつつあります。歴史理解力、歴史洞察力は、同時に人間理解力であり、人間洞察力なのです。ところでペラグラのその本、読んでみたいものです。あいたら見せて下さい。「プランテイション」を書く前に読んでゐたらよかつたのに。そしたらきつと、あなたが書いてゐるやうな批判をつけて、註の中へ入れたことせう。アイスキュロスもソフォクレスも、今までに読んだとしても、もう一度読みなほしてごらん。き□といろんなことを知るでせう。同時にあなた自信の理解力、洞察力の進歩を確認するでせう。

今日も竹中君、やつて来ました。

「また敬意を表して来たよ」「いくら敬意を表されても、金貸してやらんぞ」「いやあ、その敬意ぢやないよ」「無論さうだらうがね。ところでどうだい」「何が」「結婚問題でせう」と之はわきから臼田君。「もうきまつてゐるんでせう、竹中さん」「いや、まだきまつてなんかゐないねえ。寸前にでも撤回出来ることなんだから、まだきまつたとは云へないのだらう」「うん、まだきまつてゐない」「さうだらう。きめちや駄目だよ、もつと考へ抜かなきゃ」「あたしは竹中さんの気持がもうきまつてゐるやうに思ふね。ためらつてゐるやうでも、事実上きまつてゐるんぢやないかしら」「駄目だよ、そんなこといっちゃ。きまらしちや駄目だ」「だけど一応見合ひだけして、あとお互ひに理解するために交際したらいいぢやないか」「駄目々々。いひなづけとして交際するなんて意味ないよ。いひなづけになつた時、既に問題は決定してゐて、あとお互ひに理解するなんて、ちつとも本当の内質の理解へ行くもんぢやない。たか／＼結婚生活のウォーミングアップに気分をあはせるだけの程度だ。第一女の方では、いひなづけになつてからなか／＼ことはれるもんぢやないし、男の方からことわつても、女にとつては非常にむづかしい不利な条件になる。見合ひすることは、人間の欲求から出た人間の行動ぢやないんだよ。人間の欲求から出た人間の行動でないことから始つた人間関係に、人間の欲求なり人間の行動なりを期待出来ない。大体君は兵隊に行く前より考へかたや生活が卑俗になつたね」「さうか」「兵隊に行く前、殊にその直前には君は、個別を克服出来る程度に強くなり、精神も考へかたも緊張してゐるが、帰つて来たらくも弛緩してしまつたやうだ。兵隊に行くともさうなるらしい。精神の緊張がゆるんで、考へかたがいい加減になる。まるで権利のやうに緊張をゆるめるんだ。警戒せんといかんよ。精神のその弛緩の結果、実にいい加減な没原理的な結婚をする例が多い。さう云ふ場合は妻君になつた女の立場はもつと悪いことになる。さうだらう、相手は兵隊へ行つて来たことの権利として無責任になつてゐるんだらう。だからその無責任な行動を責めることすら、女の側には

はばかられるんだ。戦争へ行つて来たと云ふことは、男にも女にも、また周囲の人にも、一種の聖別（せいべつ）にみられるんだからね。遂には責任無能力が聖別されることになるんだ。丁度傷痍が聖別されるやうにね」「さうだわ、そんな小説あつたでせう、ほら、兵隊から帰つていい加減な結婚観になる」「斗魚（とぎよ）だらう。たしかどんな風だつたか忘れたが、さう云ふ素材だつたね。何しろ兵隊になると、セミトリやウグヒスの谷渡りなんかやらされて来るんだから」「よく知つてるね」「やらされたんだらう」「セミトリやらされなかつたけど、ウグヒスやらされたよ。何でも知つてるね」「知つてるさ、君よりよく知つてるよ。君はやらされても、その意味や帰結まで考へてはゐないやうだが、僕はそこまで一通り知つてるからね。要するに君のやうになるのさ。責任無能力者になり、なり行き主義、没理論主義、どうでもいい主義になるのさ」「さうかも知れないね」「オブローモフだからな君は」「ほんとだ、オブローモフ読んだらいいやになつた。よく似てるんさ」「太つてるところまでね。ブヨ〜とね」。

「竹中さん、あたしは女として忠告しますけれどね。お母さんが好きだからと云つてさう云ふ人と結婚する時は、お母さんの好みがながつづきするものでないことを、よく覚えておく必要があるわよ。あたしの友達に、相手のお母さんにかれてお嫁に行つたところが、今は逆に憎まれて迎も不幸になつてゐるのがあるわ」「そりやさうだらうね。君のお母さんがその人をすすめてゐるんかね」「いや、僕の母はそれほどでもないんだがね」「さうだらう。結局君も結婚したいんだらう。相手はとにかく、結婚と云ふことをしてみたいんだらう」「あら、男のかたは相手なしに結婚したくなるつて云ふことあるのかしら」「あるんだよ。恋愛を恋愛することは独歩も書いてゐるけれど、結婚を結婚として欲求することもあるんだ。前者の方は大分純粹で、まだ同情出来るがね。大体何でもいい結婚したいなんて云ふ欲求は、外に生活をもたん人間の欲求だね。現実には竹中君は外に人間的な人間関係ももたないし、情熱をこめるやうな仕事も、身をうちこんだ勉強もないのだらう。だから結婚のために結婚したいなんて云ふのは、自分の生活の貧困、無内容の告白ではないんだよ。恥づかしいことだよ」「さうかも知れないね。だけどそれだけぢやないよ」「そりやそれだけぢやないさ。家の人達への考慮、親の希望もあるさ。だけど君は自分でそこから眼をそらさうとしてゐるが、君自身の生活内容欠除（けつじょ）ねばならないこと、従つて当人によつてのみ本当に決定することなんだからな。しかしまあ何だ。結婚も結婚だが、一つ自分の生活をしつかり建設する努力が必要だ。仕事なり勉強なり友人関係なりに、うちこめるものをつくり出すんだな」「それはさうだね。そのことは僕もよく感じてゐるよ」「さうすれば、相手のない結婚なんて云ふ風な遅れた欲

求は後退して、両親の世話なり、両親を安心させることなりについても新しい道もひらけるだらう。結婚は当分待つんだね。悪いこといはんから」「やつぱりよす方がいいかな」「さうよ、三ヶ月待つべきだわ。兵隊から帰つてまだ二ヶ月もたないんですもの」「さうだ、その頭が一人前の市民程度にのびるまで待ちたまへ」「うん。それにしても君とつきあつたのは運が悪かつたと思ふよ」。

「さう云ふのは君の中の一人だが、君はもう一人あるぜ。もう一人の方は運がよかつたと云つてるよ」「うん」「君は二人あるんだよ。一人は原理に従つて正しく生きようとし、もう一人はいいかげんにやらうとする、その二人だ。一人は個別を普遍へ引き上げ合体させようとし、一人は個別の遅れた要素を固定しよう、そこへもぐりこんで安住しようとするんだ」「また普遍と個別か」「さうだよ、何度でも。併し自分の中のその二人を識別することは必要だよ。その二人を疎外して客体化して、とつくみあはせることが必要だよ。さうすれば自分が卑少①か正しいかよくわかる。自分の觀念が二つの対立物の斗争であることを常に考へるべきだよ。そしてそれをはつきりさせるためには自己疎外をやるんだ。自己の客体化を。自己の外化を。オニールの『限りなきいのち』のやうにね。そして自分の中のオブローモフをやつつけるんだ。結局君が正しい行動を、信念に従つた行動をやるかやらないかは、君の中の正しい分身とオブローモフの分身とのたたかひに、前者がより優勢になるか後者がより優力②になるかによつてきまるんだ。そして僕がこんなに一生懸命にしゃべるのは、ともすれば弱気になりだまり込まうとする君の中の正しい分身をふるひ立たせるためなんだ。君の中ではオブローモフは大分大つづらにのさばつてゐる。殊に兵隊生活の中で毎日めしを六合も食つて肥つたために、君の中のオブローモフはぶく／＼にふくれ上つてるんだ。君のオブローモフは、子供の頃から一人子としての生ひ立ちの中に肥満させられたんだらうけれど、今は君自身の責任だよ」「うん。本当だね」。

大分脈が出て来ました。此の頃は堀江君もよく二階へ来て、援護射撃をやります。「結婚で失敗したらとり返しがつかんぜ」とか何とか云ひながら。

白田君の方は、この間の返事が来ないので、暫く竹中君の材料で考へをねつてゐるかたちです。毎日、余り論理も発展しないことをこんな風を書くのは、余り意味がないかも知れませんが、まだこれがどんな風になつて行くかをみてゐて下さい。手紙へ書くのは、書くときに思ひ出せた言葉だけで、本当はこの数倍もしやべつてゐるのです。昼の時間か、朝、西井君が出て来るまでの時間を大ていつぶしてしまひます。

今日もうつとうしい日。今日はホウヨクとキンシ四箱と配給ありました。之は二、三日中に送ります。なくなる頃につ

くのがいいのでせうけれど、何日ごろがいいですか。こちらから送つてあげられるものはタバコぐらいいしかななくて残念です。

僕の食糧は目下充分です。オモチもまだ二つのこしてあるし、ササゲも半分くらい残つてゐるし、大豆も大切にたべてゐます。パセリもサトイモもまだ少しあります。柿は数日前においしくたべました。

ピアノはトロメライをしあげました。あれは普通に知られてゐるより長いのです。
では又。

和歌山行はもう少し早ければよかつたが、もう寒くなつて、暖房がないからつまらないでせう。戦局の見とほしも必要でせうし。また機会があると思ひます。手紙でも出しておいて下さい。僕も出しておきます。

幸子から謙一あて（一九四四年二月二一〜二三日の記、二三日の消印）

十一月廿一日夜

今日は用事多く、ノオトの方はすこしおくれてしまひました。六節の七の途中までよう／＼すんだ所です。

六節の七は私刑、人種暴動、デマゴグ、プアホワイトの成長と云ふところです。特に人種暴動に就いて書いてゐるところは、中からほとぼしるものを感じさせられる書き方です。あそこを読み乍ら人々は思ひ起す事があるでせう。震災の時の竹槍事件を。いろいろぼんやり持つてゐた疑問を氷解するでせう。いためつけてゐる者の恐怖、又それを煽る事によつて、その制度を維持させるところのものへの憎悪を新にするでせう。白人細民の心理、自分等の現実への不満、反抗を、あのように歪めて表出する経過のところをよんでも、吾々のまはりの社会の凡ゆるところに見受ける姿だと思はざるを得ません。何故さう云ふ形態が形成されるかも、よく納得出来ました。

併し黒人奴隷が自己主張を、逃亡や暴動と云ふ形によらず、自分等の同盟組織や、クロットパーユニオンなどと結びつつ、白人と協力しつつ果さうと云ふ方法をとるに至つた事は、歴史の進歩への確信を抱せられます。

十一月廿二日晴（火）

すばらしい朝です。それに暖い。今日は一日机にゐてやらうと思ひます。九時前に掃除も後片つけもおいもふかしも全

部すませ、折柄の来客にもサーヴィス済みしました。もう暫く勉強してから再び、手紙(マユ)を続書きませう。十畳の部屋では桃ちやんが化学の勉強をしてゐます。お母さんと早苗は風越館にゆくかも知れません。願はくばさうなつてほしいものです。

大金嬢から手紙が来て、あなたの手紙の□は実に参考になつたこと、どうも見合結婚は正しくない(ヨ)な心理的テイ抗を感じてゐるが、あの手紙ではつきり理論づけ出来たこと、この人こそと思ふ人が出て来るまでは、どんなに云はれようとがん張れる自信が出来たこと、考へてゐた方向の方へ解決出来て、モヤ／＼の心身共にサウカイ(ウ)になつたこと、今後此の問題でなやむ事はないだらうとのこと、等々六枚に亘つて書いてあり、終りには何度も／＼感謝し乍ら信子と結んでありました。大金さんが単純なせい(カ)かも知れませんが、竹中さん程(カ)ぢれませんか。一諸に勉強して来たかひがあつたとうれしくなりました。大金さんは又バルザック熱が再発して、ウン／＼云つてゐる相です。水戸まで本買ひにチヨイ／＼出るが、本が全くないので悲しいと云つてゐました。西山さんの方は八月からぱったり便りがありません。内藤嬢は放送局につとめる相です。

今日は一時間位かかつて、桃ちやんにプランテーション制度とプーアホワイト(第六節全部)の話をしました。もとは桃ちやんが私のノオトを手にとつてみて、ヨーマンとかプーアホワイトとかの質問をするので、これ幸ひと復習のつもりで話しました。さうしたらとても興味を示して、それ以前のところも、あともきゝたいと云つてゐますから、其中、又やるつもりです。桃ちやんはアメリカにはプーアホワイトの存在なんてあるとは思へなかつたと云つてゐました。タバコ・ロードがあればなあと思ひました。たとひ桃ちやんでもそばで興味を示し、きいてくれるとうれしくなります。従つて前から云つてゐたあなたの気持、充分わかりました。協力者、理解者になれなかつた事のいけなかつた事、よく／＼わかりました。

十一月廿三日

ゆうべはおふろのあと、桃ちやんがときものをするから又つづけけてほしいと云ふので、緒論のノオトをやりました。よくわかるしおもしろいけれど、一ぺん一とを(カ)をりすんだら、もう一度やつてほしいと云はれ、ます／＼うれしくなりました。むづかしいかしらと云ひましたけれど、それ程むづかしいとは思へない。ぼんやりしてゐた事がつきりして来た。でも、まだ何度もききたいと申します。きつと私の説明もうまいんだわね。

今日は又まつ白の霧、さむい〜。
 これから炬燵（二階）で第二章の四節、五節をやりやります。私も随分勉強になります。では又あとで。

謙一から幸子あて（一九四四年一月二二〜二四日の記）

十一月二十二日（水）晴

今日はお手紙が来なかつた。おひるに買ひ出してサトイモ一人当り八百匁の収穫でホクホクもので帰つたら、利ちやんが待つてゐました。十月二〇日から十一月二〇日まで一ヶ月、千葉の成東とかへ勤勞奉任^(註)に行つたのですが、一ヶ月の間に二貫余り肥つて、十七貫何百かになつたとのこと、すつかり陽やけもして服がハチ切れさうでした。「よかつたね。もう行かなくていいんかい」「まだ年末に今度は工場^(註)行きがあるらしいです」「もうぼつ〜農閑期だからね。勉強の方はどうなる？」「農家では十畳ぐらゐの部屋にたつた二触光^(註)の電灯しかつけてくれないんで、本が読めんで困つた。一ヶ月の間に休みは今月四日お祭の日一日やし、半ドンが三回あつたかなあ。労働は相当きついですよ」。地図を出して「千葉の成東か、なるほど。湿地だね。近処に温泉があるぢやないか」「田んぼは膝までずぶ〜は入つて、大部分牛を使へんさうですよ。田んぼだけで二町歩あるのを、十九の男の子と女の人二人と、僕と僕の友達と之だけで刈つたんですが、刈るだけで十日かかりました。温泉なんか行くひまなかつたし、行かしてくれへん。ふろが一番弱つたなあ。時代もののふろで、桶のふちがこのくらゐほど（手で示して）かけてて、胸までは入らないのに湯がざあく〜出てしてもて」「ふうん。しかしずい分肥つたもんだね」「いやになるほどいもを食つたし、始め十日ほどは野菜はつかりやつたけど、十日目に村でブタをつぶしてくれてから、ちよく〜鳥を食はしてもろた。先生なんて、卵百個に鳥に何やかや一ぱいもろて帰つたですよ」「けしからんなあ。ナンキンマメ食つたかい」「あの辺南京豆駄目ですよ。一度食つたけど、ナンキンマメの皮ごとゆでたやつで、枝豆みたいな味で、ナンキンマメの味せなんだ」「もつたないね」。買つて来たサトイモ少し持つて行かんかと云つたら、いもはもうあき〜しました、いいですよ、と云つて帰つて行きました。外食券余つたからと云つて十枚置いて行きました。これでおかずつきの御飯を食べるあてが出来ました。外食券妙にさびしいやうにきこえる云ひかたでせうが、実はさうでもない。おかずがつくれなのは、物がないと云ふより調味料がないのと、面^(註)休^(註)なのと、智^(註)エ^(註)もない故なのです。栄養もカロリーも、おかずつきの外食券食堂のごはんより、は

るかに上ですから御心配なく。殊に豆は唯一つの蛋白源だが、これを飯にまぜれば立派な栄養食です。間もなく伊藤君から電話がかかつて、彼の知人で戦死者の未亡人が離縁を望んでゐる事件で、相談にのつてくれんかと云つて来たので、ぢや廿四日にダイヤモンドへ原稿を届けるから、銀座で会はうと約束しました。まかりまちがへば、正木さんへもちこませう。

午後三時半頃、例によつてブルーズとジャンパー、無帽と云ふいでたちで成城の北条君を訪ねました。荷造りや家の片づけでごたくしてゐたが、結局サツマイモを食べながら夜の十時半まで、考へてみると六時間半ばかりシヤベツてしまひました。

「新しい原稿を明日書かうと思ふんで、『プランテーション』の批評ききに来たよ」「さうか。一通り読んだよ。家がごたくしてゐて、も一ぺんゆつくり読みたかつたけど。中々いいよ。アメリカのこと実によくわかつたよ。始めの部分は特にはつきりとよくわかる。アメリカの歴史のところはやつぱりむつかしいね。レギュレクターのことなんか出て来るところの辺、もつと説明してほしいね」「やつぱりその辺はさうだらうな。尤も本論でも数回反覆して出てくることは出て来るが、もつとすつきり書けたのに、どうもいかなかつた。書きなほしたくてもどうにもならない。そのくせあそこを書いてゐる時、一ばんはり切つてゐたんだ。あそこに僕の最もオリジナルな部分があるんだから。だけどまだ自分のものになりきつてゐなかつたんだな」「あそこは面白いことは面白いね」「全体として問題は正しく提起されてゐるかどうか」「正しく提起されてゐると思ふ。それにプランテーションが単に経済制度の問題でなく、政治及び社会制度の問題であると云ふことも非常にはつきり出てゐる。アメリカの歴史、政治、経済について、根本的に正しい理解が与へられる。ルーズヴェルトが支持されるべきだと云ふことも非常によくわかる。政治的把握が正しい」。

「僕はプランテーションのことを書きながら、一般に前資本制の遺制が資本主義社会の中でいかなる意味をもち、いかなる作用をなすかを、その経済的基礎から政治、社会的表面へのあらはれまで、内面的な脈絡に於て描き出さうとしたんだ。従つて日本の経済、社会、政治の間接的批判でもあるんだ。それが第一。第二に、台湾のプランテーション及び現在の日本の占領地のプランテーションの問題について、重大な警告を提出してゐるんだ」「さうだ、それは正しい。それらの意味でも、この問題提起は重大だね。とにかく本論を非常に読みたいよ。出るだらうね」「あたしも菊池さんの原稿を読め々々さんく云はれて、読もうと思ひながら、昨日今日の忙しさで実はまだ読んでゐないんですよ」と、之は北条夫人。「いや、本になつてからゆつくり読んで下さい。原稿は汚いし、それにどうもこの部分は悪文で、すら

「読んでいただけるものでないんですよ」「何とか出てほしいね。若し万一発禁になったら、原稿を送ってほしいな」「その手筈にしておかう」「それからむつかしい言葉もあるけど、『貶黜』と云ふ言葉は成功してゐるね。キッコウと云ふ字はむつかしかつたな」「あれは『頓頑』と書く方が正確なんだ。『拮抗』と云ふのが略なんだ」「さうか。それから頽落も新しいね。しかし言葉で妥協してないのは正しいと思ふ。索引はほしかつたね。註も引用出典と本當の註とを、わけられたらよかつたのにね……」。

「実はね、この緒論の部分をこの一月に、立教のアメリカ研究所で発表したんだよ。あそこに上田君も知つてゐるよと云ふ僕等の友人があるんだがね、その男はアメリカの経済史をやつてゐて、殊に独立戦争を今の所専門にしてゐるんだ。だから、あの歴史の部分のレギュレクターの部分ね、僕の一番独創的であることを自負してゐる部分について、何と云ふか大いにききたかつたんだが、彼の感想はね、世界の各地のプランティションと云ふものの一般的概念も、アメリカのプランティションのこともわかつたけれど、アメリカのそれと、蘭印やマライや西インドのそれとどんな風にちがふか、それがわからない、と云ふんだ。がつかりしたね。僕は世界のいろんなプランティションを、科学的なプランティション概念へ統一的に齎し、その最も典型的なものとして、アメリカのプランティションを問題設立したと云ふことに、問題提起者としてのほこりを持ち、多くの人がこの問題提起を受けとつてくれることを期待したのに」「さう云ふ批評をやるのは典型的なんだね」「何しろ書いてないことを探しては、あれがない、これがないと云つて文句をつけ、肝腎の一番重要な問題提起を無視されるんだからね」「本當にどう云ふつもりで、そんな批評を云ふんでせうね。何だかちつとも同志的ぢやないのね。お友達なんでせう」「駄目なんですよ。言葉が通じない」「そんな批評については芥川が云つてるね。ほら、メフィストフェレスが批評学を講義するんだ。それによるとね、先づ何かをほめるんだね。そしてあとへつけ加へるんだ。『しかしそれだけだ』と。『何々を書いてゐるのはよろしい。しかしそれだけだ』」。

「ほんとだ、その通りだ。尤も書いてないことを探して、何が書いてないからいけないと云ふ風な批評は、実は僕もそれをその当人に対してやつたことあるんだ。奴さん『独立戦争の経済的背景』と云ふ論文書いたことあるんだよ。それに対してね、僕はそれが商業資本の型ばかり書いてゐて、独立戦争の主体であつた農民の要求、態様、生活などを全然書いてゐないから、それがいかんて云つたんだよ」「その場合のその批評は、しかし正しいんでせう」「正しいんですよ。だけど元来奴さんとはどうにも意見があはん。奴さんだけぢやない。同じやうなのが一ぱいゐるんだ。経済史観なんだよ」「さうだ。歴史の領域での経済史観が一番悪質の敵だね。芸術にもあるんだ。社会学派と云ふんだ。バルザックの

小説には階級規定がないからいけない、などと云ふタイプなんだ。それが三〇年代の前半の向ふの芸術論争の主流だったんだよ。三七年頃には勢力頡頏してゐたね」「僕は云つてゐるんだよ。歴史学と云ふと、どうもドイツが威張つてゐるが□、そのドイツの歴史学に三流派がある。一つはマル・エンダ。一つはランケ、マイネッケ、ディルタイ等の歴史主義、之は日本では京都のアカデミクの若手だ。もう一つがウエーバー、ゾンバルト式の経済史観、之が東京の半アカデミックなんだ。あとの二つとも第一のものへの反動、第一のものからの退却、第一のもの俗流化、と云ふ風な形で成形したものだ。日本で今この二つがはやるのは充分なつとくいくわけだらう。所が一番いけないのは経済史観の方だ。これはいはば味方面^{ツラ}してるからね。味方の中の敵だ。僕は将来も彼等に一番不快な論敵をもつだらうと感じてゐるんだ」「さうだ。たしかに彼等が一番悪い論敵になるよ。きつと無視したり共同戦線をはつて叩きに來たり、うんといやなたかひをいどんでくるだらうね」「うん。そして僕は彼等からトロツキストが出て來ると思ふんだ」「さうだ、トロツキストだ。だからいちばんいけないんだ」。

「僕は藤本君にも上田君にも、その他周囲の大部分の人間にそれを感じてゐるんだよ。死んだ三浦君ともずい分そのことで云ひ合つたんだよ。彼が、僕や北山君の歴史学と、石母田、藤間、今井その他の人々の歴史学との差がわからないんだ。どつちも夫々いいて云ふんだ。僕はさうぢやない、本質的にちがふんだと云ふことをわからせるために、石母田、藤間の退屈極まる論文も読んだんだよ。そしてね、彼等の歴史学には人間がゐない、どこにも人間の姿がない、村落共同体なり家族共同体なりはあるが、それが人間の、民衆のありかたとしてはちつとも出てゐないんだ。概念ばかりある。死物ばかりある。それらは物化され、固形され、安つぽくもてあそばされる。所が北山君の歴史は、切れば血の出る人間関係、人間の情熱、人間の生活で構成されてゐる。僕のやつて、及ばず乍らそれを意図してゐる。その差は簡単な小さい差ぢやない。本質的な差だ。世界観にまでさかのぼれる差だ。この差を感じ得ない人々に対しても、僕は実に困難な、促^ウへがたい、腹の立つたたかひ、腹を立ててはいけないたたかひ、コンニャク問答式のたたかひをやらなきゃならないんだ」「全くさうだ。三浦君も一つの典型だね。あんな親切ない人はないんだが、僕もどうにも話が通じなかつた」「あたしも三浦さん、いい人だけど憎らしかつたわ。頑固で話がわからなくて。三浦さんが來るとにらみつけたりしたものなんですよ」「そんなわけだからね、僕は今度のものも、本当に理解してもらへる、従つて評価もし、欠陥も指適^ウし、これからの第二步、第三步へいい示唆をあたへ、ゲキ励をあたへてくれるやうな読み手を、知つてゐる人の中では五人しか期待出來ないんだ」と云つて、前便に書いた名前をあげ、「どうだらう、さうぢやないかしら」「さうだね、

僕もこれはたしかに羽仁さんの線だと思ふ。そして羽仁さんの線がやはり一番正しい線だと思ふ。しかもそのことが本
 当にわかるのはたしかに、我々の知つてる中ではそれくらいだらうね」「さうだらう。君だつて、君の書いたものを本
 当に評価してもらへると思ふ相手は数人だらう。昔のクラ原か岩上氏か」「さうだね、岩上氏一人だね。中野、中条、
 窪鶴氏になるとちよつと落ちるね。窪鶴氏はだん／＼よくない。それからいろいろ固有名詞をあげて一人一人につい
 て僕の感じてゐる疑念を云ひ、彼からも云つて、殆ど全く一致しました。

それから今度は、結婚と恋愛の問題にとび、それについてのいろいろな人々の理論的水準を評価し、そんな風に果てしも
 なく話してゐると、いつの間にか十時半になつてゐたのです。

「それぢや菊池さんはやはり信州の方へ行つておしまひになるんですの」「ええ、アメリカ史を書かなきゃなりませんし
 ね。僕は北山君がみんなから離れた気持がわかる気がするんだ」「うん、僕にもわかるね。そいで今度は何書く?」「独
 立戦争と南北戦争だね。材料を集めては信州へ送つてあるんだ。アメリカでだつてロシアでだつて、まだ本当のアメリカ
 史は書いてゐないんだ。だから僕が書かなきゃならないんだ。さうだらう」「さうだ、それは大切なことだ。君のを
 読んで、歴史と云ふものを感じた。西海のは駄目だ。ロシアでも多分本当のものは出来てないだらうと思ふ。ところで
 明日書く原稿とは何だね」「ダイヤモンドなんだ。情報局ではね、アメリカ人の残虐性を書いてくれと云ふんださうだ。
 だから僕もね、それは書かう。だがアメリカ人の固有の特性と云ふものぢやないんだ。残虐性と云ふものは現実的な根
 拠がある。その根拠は実は遅れた制度であり、帝国主義とその遅れた制度との野合、癒着にあるのだと云ふことを書か
 うと思ふ」「それは正しい。さう書かないといけないんだね」「おなかすいたでせう、おいもばかりで。今日はごた／＼
 してゐて、ごはんも何もたけなかつたんですよ」「いや、食べすぎたくらいです。すつかり長居しました」「ぢや本が出
 たら頼むよ。万一の時は原稿をね」「うん。さよなら」。

帰ると十一時過ぎになり、小使さんを起きさねばならなかつた。いものガスをがまんしてゐたので腹具合が変です。ガス
 と云へば、東京ではガスの超過のため、一ヶ月閉銚（せう）のうき目を見つつあるもの三割と云はれ、木炭は配給ないし、ガス
 はなしで、大分問題は深刻です。その点僕は好運です。石炭がつかへるので。

十一月二十三日（木）晴

今朝は寐坊をしました。昨夜残つたごはんをサトイモ、カブラのみそ雑炊にして食べ、昼はキヌカツギにふかして、い

もだけですませ、夕食はいねちゃんが出来たけれど、ごはんを炊くのが面仆なので、やはりおいもですませました。尤もいねちゃんの帰りがけに生ザケの配給あつたので、油やきにしました。いねちゃんにはマーガリン、バターをもちつたので、さといもをあげました。彼女の衣類と食糧とをここへ保存しておいてあげることにします。いねちゃん分ぐらいの米は、僕の方で充分準備出来るし。月夜なので、送つて行かなかつた。

十九日、廿日付のお手紙拝受。

あなたは無理に毎日書かなくていいですよ。書ける時に書きなさい。僕のは、こちらで書いたものを置いておけないから、日記と覚え書きとの意味もあつて書くのですから。

「マナサス」の感想はやはりあなたの認識力の進歩をあらはしてゐます。シンクレアのものには、洞察の不充分がいつでもあり、機械的なんです。だが歴史を知らないとその点が批判出来ない。北条君でもいつかマナサスをほめてゐたが。第八節についての感想も非常に満足です。イアリングは僕も読んでゐない。さう云ふものを想ひ出してければ、僕の論理的な叙述もよくわかつてもらへると思ひます。また、問題のつかみかたもたしかになつた。プーアホワイトと云ふのは、決してアメリカ南部に特有のものでない。ローマのルンペン・プロレタリアと共に一個の世界史的範疇です。そのことを理解してくれたことも嬉しい。要するに僕の「プランテーション」は、一つの個別を具体的に書きつつ、それを普遍的な問題として、世界史的な意義に於て、しかも我々の日常生活にもいたるところにつながつてゐる問題として展開されたところに、意義がある筈なんです。それを評価してくれる人が、それを徹底的にわかつてもらへる人が、さきあげた五人とあなたとしかない（今の所）と云ふのです。

ではダイヤモンドの原稿にかかりませう。

今日は之だけ。

いねちゃんもブルーズとズキンとをほめてゐましたよ。

森井さんと臼田君とについての御意見も正しいと思ふ。だけど、僕はまだ森井さんにうんと話をする機会を期待してゐる。僕は凡ゆる人に自分の人間関係論を説得する努力をやつてみたいのです。そして自分をきたへたいのです。本当に理解してくれる人も必要だし、中々わかつてくれなくてケンカしなくちゃならん相手も必要だし、頼りなくてわかつてゐるのかわかつてゐないのかわからないやうな相手もまた必要です。竹中君のやうな。臼田君も大分僕の意見に反応を示すやうになりました。彼女は殆ど白紙である点、以前の竹中君と似てゐるが、どうやら竹中君よりは理解力も上の

やうです。

では。

十一月二十四日(金)晴

小包拝受。大変有難う。なほ今日の夜、あらためて書くことにして、之は之だけで投函します。

幸子から謙一あて(一九四四年一月二三日の記、二四日の消印)

十一月廿三日

朝十時頃から咽喉が腫れて寒気、とうとう風邪を引きました。(たうとう)炬燵で勉強しようと思つても、睡眠不足の時と同様に目玉が痛くて涙が出るし、困りました。一日中何も出来ず、さりとてねる程の事もなく、ウロウロとすごしました。

今日は調査会は休みだった筈ね。あなたはどんな一日を送つたでせう。東京もお天気はよかつたでせうね。今日は、昨日も一昨日も手紙が来なかつたから、来る筈だと思つてゐたのに、とうとう夕方までまつても来ませんので、何かあなたの身に変つた事でもあつたのではないかと不安になりました。今日はどうやつて一日すごしたか思ひ出せません。

毎日あまりにも単調な生活です。あなたや桃ちやんと天竜峡へ行つて以来、門から出たのはゴカキに一度と郵便局に小包を出しに二度、それ丈です。ポストは毎度早苗ちやんが投函してくれますから。来る人もきまつてゐるし、する話もきまつてゐるし。

私の精神生活はプランテイション一てん張りで、他のものはほとんどよみませんし、きつと手紙は面白くないでせうね。同じ事ばかりで。変つた内容を書き度くても書く事があるませんの。プランテイションの感想にしても、毎々同じ調子ばかりで、あきくする事です。でも私自身は一寸もアキくしないで、其の中に今の処すつぽりと沈みこんでゐます。自分で考へて、あいまいなところがありますので、おきくしたいと思ひます。

第二章第七節の二の終りの方

「あり余る豊饒の中の貧窮、そしてかかる恐慌時の倒錯的な生産増加現象には、不断の最低限的な不安定な窮乏生活から今や恐慌の破壊力に直接の餓餓線に追ひつめられたクロッパー及白人零細農の絶望的な生産努力が反映されてゐたのであり-----」

この赤○のところ意味がよくわかりませんが、クロッパやブーアホワイトは恐慌の重圧が加はれば加はる程、生産するより他の生き方がないからでせうか。いくら安くても、売れるものがある方が、ないよりましだからでせうか。値上りまで生産制限する、もちこたへるべき財産を持つてゐないからでせうか。

昨夜はねる前にマナサスを終りまで読んでからねむりました。毎日、^(黒カ)人、チェインギヤング、^(黒カ)鎖、の中で暮してゐるので、ゆうべはとう／＼自分が黒人奴隷で、否応なしに重い／＼鉄板を背中に乗せられて、歩き度くても歩けず、後から^(黒カ)は飛んで来るし、手とひざで立たうとしても立てず、あんまり重くて、脇腹のあたりから重圧に絶えかねた内臓がはみ出して来る夢を見ました。あまり苦しくて悲鳴をあげて目をさましたら、便所へゆき度く／＼こらへきれない様な状態になつてゐて、其の苦しさだつた事がわかりました。今までならさう云ふ時は、誰でも便所が塞つてゐたり、汚れてゐたり、戸がなかつたりで困る夢を見るのに、重さの苦しみに内臓がはみ出す奴隷になつたなんてのは、初めてでした。

オペラハットやスミス氏都へゆくは、ろく／＼覚えてゐませんが、アメリカの農村問題、特に土地なき農民を対象としてユートピア的に解決しようとする、と云ふか個人的に解決しようと思ふ様なものではなかつたでせうか。あの映画が作られた頃、ローズベルトのメッセーヂやニューデイル政策で、国民の前に南部の農業問題が持ち出されてゐた時だつたのですか。あれを見るころはアメリカの事なんて何も知らなかつたんですから、ざんねんだつたと思ひます。スミス氏都へゆくは、とに角、農民の間にゐる流通面の人々の悪をスミス氏が議会の問題としてあばき出すのだつたでせうか。覚えてゐるのは、あの悪戦苦闘の議会のスミス氏の長演説のところだけです。

十一月廿三日夜

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年一月二四日の消印）

十一月廿五日

昨夕から短い時間を怒りのぶどうを読み始めました。ジョード家の母親の中にアメリカの自由農民の持つてゐた自立心、誇、友情、積極性をみられる事はうれしい限りですが、彼女の息子や娘になると、それ等のものはもうこはされて、代

つてなりゆきまかせや捨鉢、セツナ主義が表はれて来ます。彼等一家は四〇エーカーの土地を持つた自作農だったのですね。前読んだ時は南部の状態も、農民の種類も性質も、ニューディール政策も知らなかつたので、前後のつながりが解らず、あの本の持つ意義もわかりませんでした。今度はある程度掴む事が出来るでせう。

今朝あなたの二つの手紙が一語につきました。十九日附と廿一日附のと。随分長い時間がかかるのですね。19日附のはまる／＼一週間の時間を要してゐる。あなたの皆との対話はちつとも退屈ではありません。大変面白く、私も其の場にゐあわせた様な感じで読んで居ります。どうぞ今後もそのまゝ続けて下さい。結局、それはあなたとの結びつきを尚更強めるものであり、あなたの精神生活を私も同時に生活する事になります。さうして私が此の前洩した一種の不満、「生活感情が異つて来る」事をおそれる―おそれをなくす事であり、私の求めてゐたものを与へる事になります。

あなたが竹中さんや臼田さんとの結婚問答の中で、アンネットにふれてゐるので、たま／＼思い出して書く訳ですが、第一巻で、アンネットがロジエ(?)を夫として一語に今後の生活を共にする事は出来ない、と云ふ確信の下に彼に結婚を拒否し乍ら、すぐ其の後でロジエに身をまかせる氣になつたのか、他の人ならいざ知らず、アンネットの様な理論づけのない生活を嫌ふものが、唯のレンビン丈であんな事をする氣になるのが不思議でなりません。其の後の何とか云ふ外科医との恋愛は、まったく同感出来るのに、いくら好きなアンネットとは云へ、あれは承服出来ないアと思ひます。

ダイヤモンドの原稿、廿四日までに来ましたか。

防寒頭布は氣に入つてくれてよかつたですが、尚その上実用的であつたらと思ひます。

竹中さんが今の起つてゐる結婚問題に自分の立場をコシツするのは、当の相手をもう知つてゐて、好きになりかかつてゐるのぢやないかしらと思ひます。ばく然と相手もなしに、そんな事を云つてゐられるものぢやないから。

臼田さんの方の話もさうありさうな事ですね。本当に皆、恋愛とか結婚とか、ばくぜんと考へてゐても、今それに集中せざるを得ない立場に立つと、今まで考へてゐた事が、皆何も役に立たないものばかりだつた事に氣がつき、あはてたり、本当のところはどうだかわからなくなつて来る事があると思はれる。今まで、それなりにすんだ事も、もう許せない事のように思へて来たりするんですね。その事がもう前と立場をかへて、真ぢめに、その事を考へ出した第一歩のあらはれです。あはてて他の観念を当てはめて割り切つたり、むりに理論を押しつけ様とするといけないんだわ。要するにあせつたり氣短に投げ出したり、いそいで□理しようとしてはいけないのです。嫌になつたと云はないで、何度も／＼

二人で話し合ふ事によつて、段々はつきりして来るのぢやないかしら。其の時二人が誠実なら、偏見をコシツしたり意地を張つたりしないで、相手の云ふ事を段々理解しあふでせう。話をきいてゐると、まだ二人とも充分の話し合が不足なんだと云ふ事がわかりますね。今後もつとうんとく話し合つたり云ひ合つたりする事が、白田さんの今までを理解させる事でせうし、彼の云ひ分の出どころも判明する。問題はそれからでせうね。今のところ二人ともお互を充分知り合つてゐないから、問題は最も主要な点にまでふれてゐない状態だと云つてもまちがひぢやないでせう。ある程度まで知り合つてゐたとしても、二人に結婚が必然なものである、程度の理解まで到達してゐなかつたから、結婚と云ふ、はつきりした立場に立つと、始めから改めてやりなをさなくちやいけなくなつて来てゐるんでせう。

竹中さんとの相違も、白田さんにははつきりした対象がある丈に、考へ方も真けんにならざるを得ないので。竹中さんの場合ははつきりした対象（と云ふのは自分から求めた対象の意味）なしに、其の事について考へるんだから、実際は問題以前なんですもの。実体なしに、こんなだらう、とか云つたつて、理屈にならないのはあたり前の事です。

今日も又ちぐはぐな手紙になりました。自分でまん足する様な手紙つて書けないのですね。家では猫たちが死んで、ねずみの害が目立つて来ました。ストックのおいもも、さうめんも、一豆も大変かぢられました。では今日はこれでさようなら。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年一月二四日の記）

十一月二十四日（金）晴

今日の空襲に、こちらは全然被害も何もありませんでした。

敵機編隊は大部分、この真上を西から東へと通りましたが、従つて敵機来襲の半鐘は何度となく鳴りましたが、すべて六、七千米の高度で、防空壕へも一度もは入らず、露台で眺めたり、防空壕の築山であふむけに寐そべつて、雲の美しい秋空をながめただけでした。

空襲は十二時頃から三時まで三時間にわたり、高射砲もずい分射たれましたが、この辺ではその破片の被害もありません。味方の飛行機もずい分沢山出て、凡ゆる段階の高さを始終縦横にとびかひましたが、向ふが高すぎて、空中戦にもならなかつたやうです。敵機は白い煙をきれいにひいて、実に千変万化する美しい雲の空を悠々と行つたり来たりしま

したが、とにかくこの辺は、頭の上を通るだけで殆ど危険感もありませんでした。この程度の空襲では、僕の方は多分御心配には及びません。いねちゃんの方は心配ですが、日本橋から、あの辺で全然被害も何もなかったさうですから、銀座なら大丈夫でせう。

尤も僕達も決して全然身仕度しなかつたのでありません。チャンとゲートルに鉄カブトをつけて、防空壕へもベンチを入れて、は入れるやうにしました。壕の中の水は三寸ぐらいなので、ベンチを入れると大丈夫なんです。食糧もその他のものもちやんと用意だけはしたのです。心配してゐるといけないから、今これだけ書いて出します。

幸子から謙一あて（一九四四年一月二四日の記、二五日の消印）

十一月廿四日夜

七時のニュースで東京空襲を知り心配して居ります。電話をかけて見様かと思ひましたが、きつとこむでゐることです。うと思ひ、やめました。七十機だつた相ですから、相当の被害あつた事です。経堂方面は如何でした。早速お知らせ下さい。又今夜あたりも来るのではないかの感じが致します。多分無事であるでせうが、一そちらから通信あるまでは心配の極みです。稲ちゃんはどうだつたでせうね。あなたは私の云つた通り非常持出の用意しておいたかしら。あなたの事だからあとでくで、そのまゝなんでせう。あまり心配かけない様にして下さい。こんな時、自分一人疎解して私のような者や一部疎解の者たちはどんなに心をいためるでせう。疎解児童たちはどうでせう。急速な正確な発表をきく事が出来ないだけに、よけい心配がまします。今、心せくまゝ書いてゐても、そちらに着くのは廿七日か廿八日、あるひはもつとおそくなるかも知れませぬね。それを思ふと、何と云はれても一時も早く、あなたにも疎解して貰へばよかつたと思はれます。

丁度其の時、私一人、二階でノオトをとつてゐました。下からふうちゃんが呼ぶので、暫くして行つたらコウくと云はれ、ドキンとしました。心の中では、あなたは大丈夫と何故だか嫌にはつきり確信もつて思へるけれど一でも事実を知らなくては、本当の安心は出来ませんから。ではとりいそぎ。

謙一から幸子あて（一九四四年一月二五日の記）

十一月二十五日（土）曇

昨夜は、空襲についての僕の無事だったことの報告をあなたへ書いてあと、あの日（廿四日）^メ切だったダイヤモンド日報の原稿の書きなほしでつぶれて了ひました。原稿はたつた四百字六枚だが、数回書きなほして、やつと今朝出来上らうとした所へ、松沢氏からサイソクの電話があつたので、さて昼食をすませて、出かけようとしたら、また警戒警報が出たのです。昨日もそつくりかう云ふ形だったので、また／＼足どめになりました。だがそれを機会に、もう一度原稿の後半を書きなほしました。幸ひ今日は、午後になつて間もなく警報もとけたので、三時にダイヤモンドへ原稿を届けることが出来ました。

題名は、註文がアメリカ人の残酷性と黒人問題についてと云ふので、「アメリカ人の野蛮残酷と黒人奴隷制度」としました。先づアメリカの野蛮残酷は、単にマーチャント・オブ・デス（「死の商人」）すなはち武器製造業者、軍需工業家としての金融資本のそれだけなのではなく、もつと歴史的な且つ現実的な社会制度に根拠をもつものであるとのべ、その歴史的根拠とは奴隷制度であり、現実的根拠とは現在の南部の奴隷制遺制であると指適^適。次には黒人奴隷制度の発生と歴史的性質、その非人道性。殊に奴隷暴動とそれの弾圧のための中世的残酷。次にかかる制度の遺制としての残存が、南部を依然中世的にしてゐること。その中世的社会の現実をあらはすものとして三つの実例、スコッツボロ事件、ハーンドン事件、ハーンドンの中に出て来る少年死刑囚の話。之等の制度が、アメリカ的野蛮の根ざしてゐる根拠なのであると結ぶ。

まる二日かけたが、どうも余りいい出来ではない。例によつて六枚の中へ余り盛りこも^まうとしたのと、前に書いたこととの重複をさけるのに無理があつたこと。そのために残酷性なるものが、近代的ならざる社会制度と結びついてゐると云ふことをはつきりうきぼり出来なかつた。出来たら送りませう。

ところで昨廿四日は朝からすてきに天気がよくて、秋らしい高い青空に、白絹かまわたのやうな美しい巻雲、巻層雲が刻一刻変化しつゝ懸つてゐました。高層気流の動きがさかんらしく、本当に雲の形の変化はすばらしくて、何度も見惚れました。やがてそこへB 29の編隊があらはれるのだとも知らずに。白田君は此の朝、高崎で病んでゐた判事をしてゐ

る長兄がとう／＼死んだと云ふ電報が来たから、休ませてくれと云つて帰りました。僕も不満ながら一通り原稿が出来たので、届けに出ようと思つてゐるとサイレンだつたのです。ラジオで「伊豆方面に八機編隊の敵機あらはれ、北上中」と報じられてまもなく、空襲警報です。既にケイカイエイホウと同時に、国民学校の生徒のやうに古田、坂巻両嬢を家へ帰しましたから、男八人だけで、ゲートルと鉄カブトに身をかため、まだ二、三寸水のみたまつた防空壕へベンチを三つ入れ、僕は食糧、金、その他の非常袋を用意しました。

味方の飛行機は今日は大分景気よく、何台も(十数台かそれ以上)東に西に、高く低く、哨戒か待機か、とびかつてゐましたが、ラジオで「敵機編隊、帝都西方上空に近接」と云つてゐる最中、まるで逃げるやうに、何台も何台も味方飛行機があはただしく、西から東へとび去りました。「どうしたんだらう。西方へ来たと云ふのに、東へとんで行くよ」「油がきれさうだから基地へかへつたかな」などと云つてゐる中に、敵機来襲を呼称する声と半鐘とがきこへ、遠いけれど厚みのある爆音がどこかにはれました。「どこだらう／＼」とみんな露台で空を見まはし、谷川君と八木君、松村君の三人だけは、高射砲の音が之も割合遠くだがしはじめたので、防空壕へは入りました。「あれだ／＼、高いなあ」誰かの声に、その指す方を見ると、巻雲と同じくらしいの高度、ほほ八千米か七千米の高さで、経堂の北寄りの空を西から北東へ進む八機編隊の大型機がみつかりました。いづれも細い美しい白煙の尾を引いて、周囲に高射砲弾の炸裂するらしい黒い煙のたまをいくつも伴ひつつ、それらを残して悠々とんで行き、味方飛行機ははるかに下の方を、またみつけれぬのか、まるで無関心のやうにとびまわつてゐるだけでした。この編隊は三鷹の中島飛行機を襲つたらしく、間もなくどすん／＼と云ふ地ひびきのやうな音がいくつもきこえたのは、爆弾を落してゐたのでせう。すべて実に正確に無駄なく落したさうです。この間の偵察機がすっかり写真をとつて行つたのですから、よくわかつてゐたのでせう。間もなく再び「カン／＼／＼／＼」と半鐘がなつて、「テッキライシユウ、タイヒ」と叫んで歩くのがきこえました。ラジオは、第一編隊は帝都上空を東北方へ飛翔中、第二編隊帝都西方上空に近接、第三編隊伊豆方面北上中と報じて、だん／＼不気味になつてゐた所だつたので、用心しながら西空をさがすと、美しいいわし雲のたなびくのを背景に、やはり分高く、南西から南東へ白い煙の尾をひき、高射砲の弾の煙を兎の糞のやうに残しながら悠々とんで行きました。之は京浜の上空をとんでゐたのでせう。その間味方飛行機は、新司偵のつくりかへと称する双発戦闘機をはじめ、スマートなのやズングリや、さま／＼のが右に左にとびまわりましたが、大部分低い所を哨戒的にとぶだけで、敵機の高さにとんでゐるのは余りみつきりませんでした。第三編隊は、この真上をまつすぐ東へとびすぎました。それから編

隊でなしに一機一々が、やはり白い尾を引いて高くを旋回したり、雲の中にみえなくなったりしました。一機づつの場合は、余程いい眼でないと思えない。鉄かぶとをかぶつて上を見てゐるのにつかれた我々は、防空壕になつてゐる築山にあふむけにねそべつて、雲や飛行機をながめました。半鐘のなる度に、誰かは敵機をみつけました。「アメリカ兵はもうかなはんと云ふ時は死んだふりしてたふれてゐるさうだよ。俺達も死んだふりしてゐようか」。

どうやらこの辺は、一つの通路になつてゐる（小田急が）らしいが、高射砲も近くではならないし、甚だ現実感に乏しい。それにこの分室の連中は、大部分住所がこの近辺なので、家の心配をする者も少く、自然にのんびりしてゐたのでせう。西井君は「鉄カブト重くて腹へつたね。いもをふかさか」と、二時頃から云つてゐました。結局このノラクロ伍長の要請に従つて、三時半までケイホウが続けばふかさうと云ふことになりました。所が三時に空襲警報とけたので、食欲の権化、ノラクロ君の待望はみたされずに終りました。警戒警報も五時にはとけました。

空襲があると五時間は電話がかへないので、いねちゃんや本室が気がかりのまま、火を起し、食事（サトイモのふかし）をこさへました。間もなく中尾課長の使が来て、今経堂の駅にゐるから、状況をさかしてほしいと云つて来たので、小使さんが報告に行きました。本室も無事、いや、銀座、日本橋、神田、丸の内辺はすべて無事で、やはり工場地帯ばかり狙はれたのでした。いねちゃんも無論無事でせう。手紙はすぐに書いたもので、いねちゃんのことを書けなかつたが、多分いねちゃんからも報告が行くでせう。之が帝都空襲第一回のもやうです。

高射砲弾は、この間も銀座と九段とに不発弾が落ちて人が死んださうですが、今度も錦町河岸かどこかでトラックの上におちて、こつぱみちんになつたさうです。そのため神田辺では多少動揺するもやうともききました。

廿五日、即ち今日の十一時二十分頃にもケイカイケイホウが出ました。今日は曇つてゐたので危いと思ひました。味方飛行機の爆音も雲の上ばかりできこえました。幸ひ二時前に解除になつたので、原稿をダイヤモンドに届けに行きました。速達はきかないし、切はすぎたので、届ける責任があつたのです。

あなたのお手紙No.31（廿一日付）、32（23日付）を、夫々、昨日、今日拝受。僕も昨日の朝、白田君にたくしてNo.24を出しました。

桃ちゃんを勉強相手に出来てよかつたと思ひます。教育とか指導するとか云ふことは、人を教育するのだと思つたら出来ぬ。自分をも同時に教育するのだと思はないと。よく我々の友人でも、結婚して妻君を教育するなんて云ふ連中は大い失敗する。妻君の観念を改革するのではなくて、自分の観念を改革するつもりでなくては成功しない。だから共に

勉強し共に自分の固定観念を变革し、ひろげて行くと云ふ氣組みが大切です。大金さんも問題をはつきり認識出来たとすれば甚だ結構です。

今日は神田へ本を買ひに行つて、時間が余つたので、森井さんの勤め先へ寄つてみました。ダイヤモンドからまわつたので、この間云つてゐたアポリシヨニストの伝記叢書 American Reformers 十一冊(金八十円也)を二つのふろしきづつみにして、彼女のゐる富士出版へあらはれた時は三時半でした。四時半に竹中君と日本橋で落ち合つて一緒に食事する予定だったので、半時間ばかりおしゃべりしました。森井さんは彼女の好みとでも云つた風な、エビ茶に近いほどのサビ褐色と黒ともやうのあるモンペ、標準服姿で、齒をはらしていびつになつた顔をやや氣にしてみました。神田あたりの間口のせまく奥行きばかりの三階建て、出版屋によくありさうなさう云ふ建物の、丁度まん中になつた二階の暗い、昼間から電灯の要るごたくした部屋、それが森井さんの部屋ださうだが、社長室(之は通りに面してゐる)とお勝手(之は裏に面してゐる)とはさまれ、片一方に二階から三階への通路があつて人がガタゴトと通る、さう云ふ部屋です。之ぢや健康に悪さうです。

「昨日、余りいいお天気でせう。午後臼田さんと二人で散歩に出たのよ。そして今度は菊池さんのところへおしゃべりに行きましたうて云つてゐたのですよ」「さうですか、日曜なら昼間はだてゐるますから、どうぞ。いつでも。だけど臼田君も兄さんの不幸で、このところ大変ですな」「さうよ、自分のことや家族のことで彼の子もおちつけないわね。今朝あたしと一緒に、高崎へたちましたわ。寿岳さん(寿岳文章と云ふ人の息子で、それが臼田君のリーベなんです)の事でもなかなからしくとはいかないのね。おききになつてらつしやるでせう」「うん」「寿岳さんて方も変なのね。よくあるタイプなんでせうが、自分を愛してゐると云ふのなら、他に男の友人をもつて来たと云ふ氣持がわからない、と云ふんでせう。臼田さんは友人とリーベとの区別ははつきり持つてゐるのよ。その点とても自由で解放されてゐるんだわ。寿岳さんのやうな意見は、臼田さんだけの問題ぢやなくて、あたしたち全体の問題ですわね」「さうですね。あの手紙は出したのでせう。長いを書いてたけど」「ええ出したやうよ。あの手紙書いてから、大分元氣になつたのよ。あれまで何だか思ひなやむ風で元氣なかつたわ。菊池さんにすすめられたのですつてね。菊池さんに手紙を書きなさいつて云はれたから、今日は一日かかつて書いたんだと云つて、嬉しさうにしてゐましたわ。元來あの子は、自分の寿岳さんとの恋愛の問題なんか話しても、菊池さんに一笑に附せられるだらうと思つてゐたんですつて」「ふうん。どうしてかなあ」「それが一笑に附せられるどころか、迎もまじめにきいて下さつて、いろ／＼判断や意見を云つていた

だいたと云つて、本当に感謝してゐますわよ」「僕も実は話が一向抽象的でよくわからないんですがね」「ただ此の頃の若い人は苦しむことがいやなのね」「どうして」「だって臼田さんは、寿岳さんとの関係も、苦しむのらないやだつて云つてるんですよ」。

「僕そんな風にはとらなかつたな。僕は二人ともまだ本當の意味で、自分達の関係も愛情の質や量もわかつてゐないのだと思ふ。臼田君がためらつてゐるのは、苦しむのがいやだと云ふ風なものではなく、まだ二人の關係及び愛情に不確かな、納得出来ないものがあるからだと思ふ。まだどこかうそがあると感じてゐるからなんだ」「うそ？ どちらにうそがあるんでせう？」「両方ですよ。向ふの感情が本當のものでないと云ふ疑念より以上に、今臼田君に問題なのは自分の感情の疑念ですよ。自分は之まで相手をひたむきに要求して来た。そしてその感情を恋愛だと信じて来た。所が恋愛は一方からの欲求だけで成立するものかどうか。相手が自分を本當の恋愛感情で愛してくれてゐると思へないのに、自分の感情は果して恋愛といへるかどうか。それが疑問になつて来たのですよ。僕の話をきくまでは、自分の感情は文句なしに恋愛だと信じてゐた、とかうも云つてましたよ。僕は恋愛とは相對給附でなければならぬ。事実本當の健全な人間なら、自分を欲求してくれもしない人を全身的に欲求するものでない。相手の欲求とこちらの欲求とは、深く進めば、極めて微妙に反応しあふもので、その合致こそが眞の恋愛だ。その合致がない場合は、厳密には恋愛とはいへない、とかう云つたのですよ」「さうでせうか。恋愛にもやはり無限の個人差があるんぢやないでせうか」「無論個人差はありますよ。だけど基準があるんですよ。そして臼田君には、まだ自分の感情の性質をはつきり判断出来るほど、人生体験をもつてゐない。リーベの感情と友情との区別のわかる程度のね」「いえ、彼女は体験があるんですよ。前に五年もつきあつてゐたボーイ・フレンドがあるのよ」。

「そのことが今寿岳氏から問題にされてゐるんでせう。だけどね、前にある体験の数で決定出来ることぢやない。本當に深い体験、それ一つでも充分凡ゆる人間關係について判断できるやうな体験、人間關係の判断の基準を獲得したやうな、さう云ふ体験をもつてゐないと云ふんですよ」「そりやさうかも知れないわ」「だから僕は自分の体験なり思索なりから得て来た基準を彼女に話して来てゐるんです。人間關係、従つて人間の愛情には先づ多くの種類がある。友情とか恋愛とか、親子愛とか兄弟愛とか、同僚愛とか同胞愛とか、之が横の線。それに加へるに縦の線の区別がある。それは深淺の度合だ。そして友情と恋愛とは甚だ近い、同根の愛情である。恋愛は友情の量的發展から質的發展まで到つたものだ。友情が量的に深まつて、もう相手とより確固たる形式の結合なしには満足出来ない、その結合が出来なければ人

生の最大の不幸、そのためには死すら考へたいほどの不幸であると云ふ程度に達した時、相手のすべてを自らに合体せしめ、自分のすべてを相手に没入させたいと云ふ程度に達した時、その個人との結合を、他の一切の世界よりも欲求する程度に達した時、かくの如きものを恋愛と云ふ。そのやうな人間の愛情は、二人の結婚と云ふ形式以外では満足出来ない。こんな風に話して来たんです」「さうね。さう云はればたしかにさうね」「だから恋愛が真に成立するためには、世界観と生活感情との基本的一致が必要である」「それはさうですわね」「だが、世界観は一朝一夕に出来ないし、生活感情とは結局世界観の日常生活面への帰結にすぎないのだから、その真の一致は厳密には判断しにくい。だからもつと低次の、もつと根本的な資格は、誠実さと素直さ、客観的眞実に対する受容力とそれへの熱情の持続力すなはち誠実さ、である。この素直さと誠実さとを双方で確認することが第一、第二に世界観（物の見方、生きかた）と生活感情（物の感じかた）との一致、第三に双方でいのちがけで欲求しあふこと、之等が恋愛と云ふものの基準だ、と話してゐるんです」「よくわかりますわ」。

「それはそれでいいとして彼女の場合は、生活の仕方に誤つたモラルをもつてゐると思ふんです。それが問題だ。彼女はあなたも云ふやうに、人間関係について可なり自由な、解放された観念を、そして或る程度誠実な観念をもつてゐる。だが、まだ古い観念にも囚はれてゐる。例へば愛情と云ふことについて、受身な、待つ、と云ふ風な観念を」「それはいいんぢやないの。受身に自分の愛情の熟すのを待つのは、いいことなのではないの。あたしだつてさうするわ」「それは古いモラルですよ。そんなモラルでは本当のリーベは出来ない。アンナ・カレニナの中のレーヴィンの兄に、セルゲイとかがゐりましたね。あれ古い型のインテリの恋愛と結婚のモラルの所有者として典型です。彼は周囲ですつかりお膳立てして本人同志もそれを望み、予想し、理想的に機会と云ふものをつくり乍ら、内心の声と云ふ風なものを待つたために、さう云ふ神秘主義のために、受動のために、あの機会を逸して了ふでせう。あれは『待つ倫理』の典型ですよ」「でもセルゲイの場合はあの程度の恋愛でしかなかつたんでせう」「さうですよ。『待つ倫理』の所有者にはあの程度の恋愛しか出来ないんだ。古いモラルでは本当の創造的な恋愛は出来ない。セルゲイの倫理に対してアンナのそれがある。アンナはもつと積極的だつた。もつと行動的に悩んだ。彼女の悲劇は、彼女が行動的だつたからでなく、その行動が新しい原理で首尾一貫しなかつたからだ。彼女のモラルの正しくなかつたからでなく、彼女のモラルよりも社会的因襲の方がなほ強大だつたからだ」「それはさうですね」「待つとか受身とかはリーベだけでなく、友情としても不誠実ですよ」「あら不誠実かしら。さうぢやないわ、待つことが誠実なことだつてゐるは。無理することの方がよくないのだわ」「無

理することと待つこととが対立的概念なのではない。待つやうな人間は同時に無理もする人間だ。そして待つことや無理することは、共に主観的には誠実であつても、客観的には誠実でない。事の真実に対して誠実ぢやない。例へば田田君の場合、相手の感情に疑問があり、自分の感情にもはつきりしないところがあるのでせう。それを彼女は相手が自分から発言し、言表するのを待ち、自分では何か感情がもつと昂まつて来るのを待つてゐたんですよ。そんなことを待つてゐたつてわかるものでもない。お互ひの愛情にはつきりしないもの、うそと云ふと強すぎるなら本当でないもの、があると云ふなら、それをはずきりさせるには話し合ふよりない、行動するよりない。手紙も一つの行動でせう」。

「でも……さうね。手紙はいいわ。でも或る程度でも、さう厳密に感情を分析し規定しなくとも、うまく行く恋愛はあるでせう」「いや、うそのある恋愛は絶対にいけない。うそがありながらうまく行く場合は、それは本当の恋愛ぢやない。意識しないものは真に正しいものぢやない」「さうかしら。無意識で美しい行動、正しい行動、幸福な生活などあるのぢやないでせうか」「いや、無意識の正しさや美しさは、偶然的なものにすぎない。意識しない行動は人間的行動ぢやない。意識してこそ人間的正しさであり、人間的美しさだ。意識しない正しさは、はげしく変転し、力と力との格闘^闘がぎりぐりの緊張した展開をする歴史的時代には、正しさとして持続し得ない」「それはさうですわね。でも、やはり時機と云ふものがあると思ふわ」「たたかひには時機はない。方法があるだけです。そして意識しないたたかひは、たたかひでなくて自殺にすぎない。たたかふと云ふことは徹底的に意識的行動であり、そしてたたかひは凡ゆる時の人間の唯一つのありかただ。たたかひをやめる時機なんてあつてはならない。どんな時機でもたたかふ方法がある。その方法を見出してこそ、たたかひは人間のたたかひにふさはしいんです。恋愛だつて、独りゐることだつて、たたかひです。待つ倫理はたたかひに於ては許されません。ただど一体何時ですか」「四時十分よ。いそいでらつしやるの」「四時半の約束、食べる約束だからめつたに逃がせません。ではまた」……。

竹中君は打ち合はせた時間に来ず、一人でたべました。

幸子から謙一あて（一九四四年一月二五日の記）※

十一月廿五日

判は飯田へゆくついでにお母さんに取つて来て貰ひましたら、池の字が地になつてゐたので、なをさ^{なをさ}なくては駄目だし

た。又随分時間がかかる事でせう。

昨日午後の東京空襲と同時に、名古屋にボーイング100機、豊橋に18機来た相で、駅の人からききました。東海道線は一
時不通であつたとか。そちからの精しい様子(36)がわかるまでは、何と不安でせう。

今日はどうしても勉強出来ませんでした。こんな事では本当にだめですから、夜は氣をとりなをしてやりませう。今
で怒りの葡萄を読んでみました。何と云ふ絶望でせう。トム(ジヨオード家の長男)の精神状態は始めは甚だばくとし
たものなのですが、困難と不合理にあふ度に段々と物を考へる様になり、そこから立ち上る様になるでせう。父親や伯
父は困難にまけて考へる事は出来なくなる、唯、追ひやられ落ちてゆく一方、母親は何時も夢もまぼろしも抱かず、現
実に当面してゆくが、何故と自分ではつきりわかつた理屈なしに、とに角現実をそのまゝ受入れて、それにふみつぶさ
れない。「とに角今までさうして来たんだよ。これからもさうなんだ」。あの家族の一群で、三代に亘る自由農民の氣質
がわかる様に思へます。祖母(37)祖母の時代、其の氣質、父と母、三代目にはいると昔持つてゐた氣位や積極性は失はれ、
なりゆきまかせに見える。併しトムの中に、それから抜け出す動きが察(38)しられる。時代に影響され規制された精神を見
る事が出来ます。土地、借金、地主、地方銀行、その後にある巨大資本、プランテーション(39)を読んだ事は随分役に立ち
ました。

今日、本と煙草の小包みつきました。本当に有難う。廿一日までなすませねばならなかつたところでした。一度に
あげるとたちまちなくなるから、五本位づつちび／＼渡すつもりです。

今日も又朝からお母さん大荒れ。家中不愉快にされます。他所へいつてもちのわるいお世辞で、さんざん甘やかされ
て来ると、家の者の甘やかしのないところが面白くないのです。私もとしとると、あゝも理性を失ふかしら。私はさう
はなるまい。なるまいためによく勉強し、物のみ方をきたへあげよう。

あなたの歴史論は非常に面白くよみました。立派です。たしかにその通りです。何時でも歴史的問題提起を自分で読み
とらなくてはなりませんね。しかも適確(40)に。それに対する二つの態度―これは何時も自分の中にあるのですが、竹中さ
んの結婚問答のそのように、自分の中にも二つの態度があります。これは何に対しても、あらゆる現実のあらゆる現
象に対してさうですね。私は何時でも、そこまではつきりしてゐませんでした。本当に自己の中の二つの対立物として
考へる時、自分の態度はつきりきまつて来ますわ。自分でもどうやらはつきりしない、何だかさうらしくもあるし、
このようでもあるしと思ひまよつて、まだはつきり決められないのは、そこまで考へられるところまで達してゐないの

だから、もう暫くまつてゐる中にはどつちかする、なんて考へてゐたものです。あなたと竹中さんの結婚問答は、私は多分に啓蒙されてゐます。歴史家の任務もさうですが、歴史家でなくてもさうでなくてはなりませんね。

あなたに云はれてから云ふと、お追従みたいな形ですが、そんな事は気にせぬでせう。あなたのプランティションは、たしかにあなたの歴史論を、そのまゝに表現してゐます。読む人は、とび読みさへしなければ、嫌でもそこに生々しく示されてゐる問題を掴みとるでせう。其の意味でも、啓蒙に役立つてゐる事も示すでせう。事実私共のまはりにある、何だかわからないモヤ／＼した怪しいもの、誰もがそれを何だか示してくれなかつたもの、何時でもどんな問題の中にも必ず潜んでゐる影を、正体を、はつきり知る事が出来る、はつきりさせる道も知るでせう。あなたの意図した問題提起と啓蒙は統一され、成功してゐます。私のような怠けもの、読者すら一段と認識の点で上に進めたのが、何よりのシヨークではありませんか。

問題提起と、歴史の必然と可能性の問題も、これ又日常の生活の中にもざらにある事実ですね。―どうも私は何も彼も卑近な身近へ例をとり度がる様です。その方が、私には親しく理解し易いのです。ですが、あの辺のところは、もつと何度もよんで見なくては、本當にわからないでせう。併し可能性を現実性まで、必然的なものまでにするものとしては、不断の啓蒙こそが必要なのでせう。例へば竹中さんの場合でも、竹中さんが見合結婚などの非人間的行為を排げキするまでの、はつきりした意識的行動に出られるまでは、あなたはあなたの今やつてゐる、正しい彼の分身べんたつをつづけるべきでせうね。

此の頃のあなたの手紙は中々よみごたへがあつて、何度も／＼よめますから、毎日手紙が来なくても、ゆつくりたんのうするまで読んだり、考へたり出来てうれいす。竹中さんとの結婚問答は、その後引つづきNo.をつけて、大金さんに送つてあげてゐます。

廿一日発No.23の手紙うけとりました。大変なほめ方で少々落ちつきません。ペラグラ病について、たま／＼云へたとしても、他の点ではまだだめなんですから、自分で自信あるところまで行つてゐませんから、実のところ今ごろあんな過大評価されては、後が困るの感じす。あなたの云ふ通り、ノオトもこれまで通りであつてはいけません、あなたのプランティションは実にごこにも示される問題あり、それを自分でろくに考へない中に解決への道が見えて来るので、別に自分の考へなんかをいれる余地がないのです。云つてみれば、あちらこちらにぼつん／＼と何かあつて、はてな、怪しい、ここは考へてみなくては、と云ふのぢやないんです。あの書き方の中には全部が真実で、本當だ

く、こんな事もあつたのか、さうなのかと云ふ風に、案内知らないところ乍ら、うそはないこと、必然的にかくあらねばならぬ道が、目の前にのびて来る感じがするんです。其の事は今まで考へもしなかつたし、知りもしなかつた事実を知り、提起されてゐる問題を知らぬまに擲んでゐることでせう。さうして解決の道も知らぬまに知る事です。

まだまだ当分私はプランテーションに沈潜するつもりです。今はコントンとして何も云へない、遠へはなして、あれこれ云へないところなんです。あなたに云はれれば、「プランテーション」と「南部問題」では大部質的(大部質的)にちがふ事はわかるけれど、でも他の此の頃よんでゐるものゝ中では、著者の問題にうちこむ、うちこみ方が異ふし、矢張り問題提起の問題の質の差も大分ちがつてゐますからね。

さて、此の手紙とどくかしら。空襲さわぎで粉の小包みどうかならなかつたかしら。

では今日はこれでやめませう。空襲で怪我などしないよう、安全を祈ります。

※この一月二五日記の手紙文は、後掲の同二六〇二七日記の手紙文と別々に折りたたんだ形で、共に二七日消印の封筒中に挿入されていた。

しかし同封筒裏面に記された通し番号は「36」、さきに掲載した二五日消印の封筒のそれは「34」で、両者の封筒の間にあつたと思われる「35」番封筒は見つかっていない。この一月二五日記の手紙文は、何らかの事情で「36」番封筒中に紛れ込んでいたが、本来は「35」番封筒に入っていた可能性が高いものと推測しうるのであろう。それゆえここでは一月二五日記の手紙文を、二六〇二七日記の手紙文とは別に、これのみで郵送されたものとして扱った。

謙一から幸子あて(一九四四年一月二六日の記)

十一月二十六日(日)晴

今朝、あなたのお手紙二つ(廿三日夜と廿五日付、但し後者はスタンプの日付は廿四日)受けとつた。それと一緒に早川君から、松沢君が召集を受けたこと、その送別会を月曜日の午後五時から本郷の大熊氏宅でやるから、米持参で来るやうに、とのハガキもは入つてゐました。

廿三日のお手紙では、風邪をひいたとのこと、注意して下さいよ。僕はいつも大した風邪にはならないが、あなたのは心配だから。夜は無理しないで早くねなさい。東京はこの数日は迎もあたたかで、夜でも十四、五度です。昨日なんか、

夜になるからと思つてオーヴァをきて出たが、あつくて汗が出ました。

昨夜は森井さん所から日本橋に出た所が竹中君が来ないで、一人で八重洲園の裏手の長田屋と云ふ外食券食堂へは入りました。その食堂がうまいから僕の外食券(利ちやんにもらつた)で食ひに行かうと約束したのです。竹中君が食ひ物の約束をはぐらかしたのは、よく／＼のことだつたのでせう。そこはなるほど御馳走があつて、テンブラやら蟹やらがありました。僕は遅くなつたためにねぎましかなかつた。でも久しぶりのねぎまで、まぐろもたつぷりは入つてゐて、二杯くれるのですから御馳走でした。普通の外食券食堂は大ていいもださうです。

ところであなたの風邪はその後どうなのですか。あなたがプランティション一てんばりの此の頃だと云ふが、僕はこの一年、いやこの二、三年、プランティションを中心に精神生活をやつて来たのです。あなたのお手紙は決してあきません。変つた内容など必要ありません。あなたの一番興味をもつてゐることを書いてくれれば、それが一番僕にもいいのです。

あなたの質問「クロッパー及び零細農の絶望的な生産努力」と云ふことは、あなたの考へてゐる通りの意味です。彼等は生産することが値下りを激化させ、苦しみを増すことになつても、生産するより他の生きかたがない、だからその生産努力は絶望的なんです。ニューデイルとは、このやうな小農民の絶望的な生産努力が値下りを激化させて、プランター等の利潤を脅すので、プランターの利潤を守るために、小農民の生産努力を強制的に停止させたのです。

オペラハットやスミス氏の映画はあなたの云ふ通り。あのやうな解決は無論映画的な、娯楽的な解決方法にすぎない。丁度オーケストラの少女の失業音楽家の救済方法が真の解決でないやうに。にも拘らず問題のある所をはつきり提起したこと、その問題をはつきり描き出して考へさせたこと、これらはプラスです。丁度仮面の米国や、飢えるアメリカや、いくつかのギャング映画、四人の復讐等々のやうに。でも、あれらの映画は大てい、南部問題のメツセーヂの前の企画でせう。怒りのぶだうは、一九三三年のタバコ・ロードに続く問題作で、オーキーとはオクラハマ(南部)から流れ出た移動労働者です。ああ云ふ悲惨な移動農業労働者が三十五万家族二百万人ゐたのです。「プランティション」の第二章第一節に出てくるでせう。

アンネットの問題。アンネットが第一巻でロジエに身をまかせせる心理がわからないと、あなたも云ひ臼田君も云ふ。それは二人ともまちがつてゐる。と云ふのはアンネットは第一巻第二巻、いや全体を通じて成長して行く人間なのです。最初はまだ、資質と原理とをもつてゐるが、まだまだ本当のものでない。その動揺や不徹底があやまちにもなり、ロジ

エトのことにもなつたのです。ロジエとの頃のアンネットは、そんな風に反原理的行動もする女です。にも拘らず原理を追求する資質がだん／＼勝つて行く。だが、アンネットの我々に物足りない点は、ロジエとの行動の全帰結（マルクの苦しみ、その自我主義との格闘）を本当に批判してはゐないと云ふことです。アンネットの形象は、アンネットがまだ欠陥多い人間である前半の方が、後半よりもはつきりしてゐる。後半でアンネットは、その過去のものの克服を、神秘的な母性愛へのとけ込みによつて達成してゐるが、あれは厳密にはリアステイクでない。ロマン・ローランはまだ人間の過去のなもの、遅れたモラルの全部を批判し切れてゐない。だからこそ、後半のアンネットがあいまいになつた。後半の面白さはアンネットの形象にあるよりも、戦後フランスの歴史的叙述、素材の面白さだと思ふ。前半の面白さはたしかにアンネットの形象に起因する。

僕はもう一つ不満に思ふことがある。それはアンネットが、常に女でありすぎることだ。いつでも男性との結合を通じて在らうとし、後にはやはり母としてあらうとする。そして彼女の「女」は、人間と云ふものから若干遊離してゐる。それは丁度、森井さんが「女」と云ふことを云ひすぎ、「女」にとらはれすぎることによつて、「女」なるものを抽象的な、「非人間的」な、余りに特殊な、男の世界と隔絶しすぎた神秘的なものにしてふやうに。ロマン・ローランはもつと人間としての女を、アグネス・スメドレーのやうな女を、女としてよりも人間としてありたく欲し、人間としてあらんがために「女」の不利を自ら克服するやうな女を、描くべきでなかつたか。そして「女」を非人間的な特殊へ神秘的に固定させたのは、やはり十九世紀後半だ。バルザックもずいぶん分女を描いたが、そこには女と男との非人間的な対置はなかつた。女の世界の神秘化はなかつた。ロマン・ローランのその点の不徹底から、アンネットがいつでも恋をしすぎる、女の原理とは恋愛の中にしかないかのやうに。アンネット自身がその点を自ら批判すべきだつた。僕は非人間的なまでに女らしい女よりも、もつと人間的な、女らしくない女の方が親しく感じる。先づ人間、それから女。女であるより先に人間であること。人間としての資格は、自由で、独立的で、普遍的であること。だからアンネットよりアーシヤの形象の方が、我々には近く感じる人が多い。マルクの形象は、最も印象的なのでなからうか。アンネットよりもマルクの方が歴史的に重大だと思ふ。僕は女とか男とかと別に、アンネットよりもマルクの形象を忘れることが出来ない。

竹中君、白田君についてのあなたの意見、之も正しい。竹中君或ひはあなたの云ふやうに、その相手を好きになつてゐるのかも知れない。だが、彼はちよつといひ方だと思ふと、すぐすきになる傾向がある。それが彼の人の好きだが、人

の好きと云ふことは、人を見る眼の甘さと云ふことと結びつく。

今日は午前中に伊藤君が弁当持ちで来ました。「どうだった?」「明治生命の地下に逃げこんで寐てゐたよ。ちつとも情勢がわからんのでつまらなかつた。帰りの電車が大変で、あれが閉口だよ」「なるほど、交通機関が一番問題だな。この辺はよく見えたね。工場ばかりやられたさうだね」「土屋さんの近処ぢや、教会が狙はれたらしい。大分立派な教会で、アメリカ人の建てたものさうだが、その住人はすっかり逮捕されて、あとへ憲兵隊が来てゐたんださうだ。そこを狙はれたんだ。尤も半町ばかり逸れて民家がやられ、防空壕（防空壕）の中で四人死んださうだ」「そんな建物、この近処にありはせんかな」。

そんな風なことを話してゐる中に、午後一時にまた警戒警報が出ました。「定期便になつちやつたな。香ばしくないね。それより君の友達の家庭悲劇の話でどう云ふんだね」「うん。あれは野間の妹の話なんだ。野間の親父は英語の先生なんだがね。その教へ子で、どつかの中学のやはり英語の先生をしてゐる文学青年が、野間の家へ出入りする中に、野間の妹に求婚したんだ。それもちやんと親父に申し込んだんだよ。で、親父が娘にすすめる、娘が承知する、と云つたわけで、この五月に結婚したんだ。野間も親父も、うまく行つてゐるんだと思つてたんだがね、ところがうまく行つてなかつたんやな。どうもしつくり行かないんで日記を読んださうだ」「誰の? 亭主君のか」「ああ。そしたらね、そのヘルの方にどこかの女学校の女の先生とリーベの關係があつたらしいんや。それは丁度結婚前には立ち消えになつてゐたんだね。ところが結婚後何かのチャンスで復活したんだらう。日記にはその女の先生への恋情をめん／＼と書いて、それと反比例して、自分の結婚してゐる相手への感情の冷却を書いてゐるんださうだ。あんな顔のまづいのと一緒になつたの失敗だなんてね」「だつて自分で申し込んでおきながらかい」「さうだよ。つまらん男や。その妹さんから野間へ来た手紙を僕も読んだがね。自分の亭主はつまらん文学青年で、と云ふ風に大分細く書いてゐて、あの分なら気持はちつともへばつてないね。考へるところは考へ、書くべきことは書きつくしてゐると云つた感じがね。とにかく、そんな日記読んで一緒にゐるのあほらしくなつて、何かの口実で帰つて来たんやさうな。それで野間も怒つたんだね。むろん離婚させる、だけどただ離婚してすませると云ふのシヤクや云ふんだ。僕も野間の気持に同情するね」「ふうん。それで彼女は?」「彼女はね実はまたヘルの所へかへつたんだ。と云ふのはね、野間のムツター（ムツター）が向ふへ云つたんだね。すると向ふの両親がかん／＼に怒つて、息子を呼んでぎゆう／＼やつたらしい。そして息子を叱つといて、野間の家へはあやまつてよこし、息子はうんと叱るから、とりあへず帰つて来てほしいと云つて来たんださうだ。だから一先づ彼女

もヘルの所へ帰つたわけや」「ちよいと妙なもんだな」「うん、妙だけど、彼女も別れる意志はつきりしてる、野間も、どうしても別れさせる云ふてんのや。そいでね、離婚と云ふのは出来るもんかね。相手が離婚しないでがんばつたら」「そりや、説得するより仕方ないね。だけどそのためにもこつちへ帰つて来なくちや駄目だな。向ふで帰つて来てくれと云はれて帰つたりしちや、駄目だよ。そんな頼りないことしちや。とにかく身柄を別れさせてだね、それからその相手の両親を説得する。それでもいかん時は、調停裁判出来るんだらう。だけどそんな様子なら調停裁判の必要ないだらう。本人が別れて来さへすれや、説得ぐらゐ出来るよ。こつちは別れる理由は充分あるんだからね。それにしてもその文学青年の方はどうしてるんだらう」「その男は半キチガヒになつてるさうや」「半キチガヒ？ どうして？」「おやぢにはごつつう怒られるし、自分でどうすることも出来んしで、どうしていいかわからん状態や。半キチガヒや」「ヒスカ。何だか馬鹿らしい話だな。しかし野間君が妹のためにふんがいて、そのままにすまさんと云ふ気持はよくわかるが、元来こつちにも責任のある話だね」「どうして」「だつてそんな頼りない関係で、こつちが結婚を承諾したと云ふのは、こつちの責任だよ。恋愛でもないのに、簡単に求婚されたから行くと云ふのは、こつちもいいかげんだつたわけだからね。彼女にも責任の一半はあるよ」「彼女に責任あるかなあ。それよりおやぢに責任あるんやないかな。向ふはこつちのおやぢに申し込んで、おやぢが娘に行けてすすめたんだからね。尤もおやぢは今度娘にあやまつたさうだ」「おやぢもむろん悪いさ。だけど彼女も、おやぢから行けと云はれて行くと云ふ風なのはいけないよ。その程度にしか結婚と云ふ問題を考へてゐなかつた、まじめに考へてゐなかつた、たとひ無智だつたからと云つても、その無智自身、悪いことなんだよ。無智だつたと云ふこともこつちの責任さ。むりやり誘拐されたとかだまされたと云ふなら、ちよつとちがふがね」「そりやさうだね」「野間君にも責任ある。妹をそんないい加減な結婚やらしたと云ふことにね。だからさ、野間君が怒んのむりないけど、結局こつちにも責任のないことでないんだ。向ふの方がもつと悪いけど。まあせいゝ野間君がその文学青年と対決して、あやまらせるくらいが落ちだらう。慰謝料と云ふ風なものは、向ふの両親が気の毒がつて向ふから云ひ出すべきもんで、こつちから要求する根拠は薄弱だね。何しろおやぢさんも娘も、ちゃんとこつちで承知して行つたんだし、文学青年も現実に他の女とどうこうしてると云ふより、他の女を思慕してると日記へ書いただけなんだとすればね」「さうだね。さう云はれば、たしかにさうだ。本人にあやまらせるぐらゐのものだね」。

「だからさ、女も男もいい加減な気持で、結婚なんかすべきぢやないんだよ。でも野間君の妹も、このことを自分のプラスにしないといけないね。いい加減な結婚観がいかにいけないものかと云ふことをうんと認識して、二度あやまちを

やらないやうにするのさ。それだけでも、不幸な結婚を人生の墓場にしてしまふより、どれだけよかつたかわからない。第一、野間君は、いい加減な結婚からそんな不幸がうまれたことに、それだけふんがいしながら、いつか小林君のフラウの妹と見合なんかしたぢやないか。矛盾だね」「いや、あれはあれきりになつたが、実は今、奴さんまた見合ひして、今度はそのままおさまりさうなんだよ」「何だつて。それで妹のことで、相手をただですませんと云つてるんか。でたらめだね」「さうだな。あれやめさせんといかん。もうどうにもならんとおもて、僕も何にも云はなかつたけど、こりやどうもいかな」「さうだよ。妹のことでそんなに怒る資格ないよ。そんなきみ。だからさ、こちらにも責任あるて云ふんだよ。結婚と云ふことをいい加減に考へてゐると云ふ点では、その文学青年だつて野間君だつて本質的に差はないよ……」。

警戒警報が出て間もなく、二人がそのことで話しあつてゐる最中、また一人お客が来ました。それはいつかも日曜に来た宮本君と云ふ若い人。宮川さんの弟子で和歌山高商から商大を出て、この十月に調査会の米研へは入り、下宿をさがしてくれと云つて来た青年。遊びに来たんです。

「米研、どう？」「面白くないですね。つまらん人しかゐないんぢやないですか」「さうだらう。だけどどこにだつてつまらん連中はのさばつてゐるよ。まあ自分でやるんだね」「ええ、ひまはひまですから。なるだけ自分の本を読んで勉強してゐます」「下宿はどうした？」「あれはうまく行きさうです。宮川先生がダンさんの家を紹介してくれました」「ダン？」「ダン、トクサブロウトクと云ふ人。御存知でせう」「ああタンタントクか」「あれ淡（タン）ぢやなくて淡（ダン）なんださうです」「淡さんの奥さんと娘さんと二人きりでゐる家に、下宿させてくれることになつたんです」「へーえ。宮川さんと淡氏とは何か関係あるの？」「仲人をしたんださうです」「ふうん。それで宮川さんはどこにゐるの？」「永福町のアパートですよ。淡さんも永福町です」「アパート？ 家族疎開したの？」「ええ。今先生と息子さんの嫁さんと二人でゐます」「息子さんの嫁さん？ だつてそんな息子さんゐるの？」「僕と同じ年だから廿五です」「だつて宮川さんはいくつだい」「四十五かなあ」「さうだらう。ぢや廿才で出来た息子か。若いねえ」「さうですね。若いですね。何でも大学へは入る前に結婚してゐたさうですから」「ふうん……」。

そんなことしやべつてゐる中に、また一人あらはれました。今度は八木君で、之は防空当番で、身仕度甲斐々々しくあらはれました。「ごくろうさま。わすれてゐたよ」「うん。大したことなささうだが、責任だけ果しに来た。空襲警報はまだ出んでせう」「さうだね、テイサツだらう。「機なんだから」「毎日来るとは困つたもんだ」……」。

二時頃警報がとけたので、先づ伊藤君が帰り、三時頃八木君も帰りました。それから宮本君と二人で、アメリカ経済史の話から経済史観の話になり、あなたやいろんな人にこの二、三年間話して来たことを、数日前にも北条君と話したことを、またく話しました。宮本君は若い人だけに、非常に熱心に質問もするし理解もするしで、時間のたつのを忘れ、僕の歴史論のウンチクを傾けました。彼も歴史がわかつて来たと云ひ、「菊池さんにさうおつしやられると、たしかにいろんなことわかつて来ました。今カピタル読んでみますが、本当におつしやる通りですね。僕は今まで余りその方の本を読まないで、経済史観と唯物史観との区別などわからなかつたけれど、だんくわかつて来ました。経済のつまらなさは、たしかにその中に人間のゐないやうな物のことばかりやつてるからです。物神崇拜をあざわらつたりしてゐるのに、自分がいつの間にか物神崇拜になつてゐますね」「さうだよ。経済やる人は特に注意せんといかん。生産力と云ふのは物の力でなく、物を生産する人間の力だよ。カピをよく読めばわかる。歴史の主体はどこまでも人間だ。民衆は物理的な力なのぢやない。そんな受動的なものでなく、それこそが歴史をつくるもの、歴史形成力なんだ……」。大いに若い人を相手に熱をあげてゐると、また誰かドアをのつくする人がある。今度はいねちゃんでした。衣類やくつ、下駄を疎開させに来たのです。五時近くなつてゐました。で、間もなく宮本君が、また話しに来ますと云つて引きあげ、僕は火を起しました。いねちゃんはすつかりお勝手をきれいにしてくれました。今夜はいねちゃんの御持参のお弁当です。ごはんとテンプラ。ねぎの串揚げ、おさつ、それからやさいかきあげ。中々上手に出来てゐました。僕はさといもをふかしました。此の頃さといもばかりです。おいしい御飯をたべました。

それよりついペンがあとさきしたが、みつちゃんところの赤ん坊が可哀さうになつたのですね。僕は明朝行くことにし、いねちゃんも午後行くことにしました。夜はうつかりすると小田急がなくなつて、帰れなくなると困るので。僕もそのうちくと云つてゐるうちに、とうく(たうとく)赤ちゃんのお葬式に行くことになつて了つて、本当に悪かつたと思ひます。まさかこんなに早く死ぬなどと思つてもゐなかつたのです。いづれにせよ、みつちゃんのがつかりは、何ともなくさめの言葉もない。島村君も悲しんでゐることです。三ヶ月と云へば、ぼつく笑ふんぢやなかつたかしら。

明朝は鎌倉へ行き、夜は本郷で松沢君の送別会ですから忙しい。警報なんか出なければいいが。

なほ、いねちゃんには、空襲のあと必ず信州へ、無事の手紙を出すやうに云つておきました。では今日は之だけ。いねちゃんはピアノを少し叩いて、八時前に帰りました。いいお月夜です。

幸子から謙一あて（一九四四年一月二六〜二七日の記、二七日の消印）

十一月廿六日（日）

今日若しかしたら何とか便りあるかと思ひましたが、考へてみれば今日は無理ですね。そちらからの精い様子を心からまっつて居ります。お天気が良ければ良いで、又あるのぢやないかと思ふし、曇つてゐれば、こんな日こそ絶好の空襲日和だと心配します。

今日はソフオクレスをよみました。アンチゴネーとエレクトラとオイヂープスと。中で一番よいのはアンチゴネです。オイヂープスはアンチゴネに比べれば落ちますね。トラキスの女達は、それ程感心しませんでした。アンチゴネもエレクトラも、各々の妹が出て来ると比較され、卑俗な屈服主義や妥協のないところ、理念に従はんとする強い意志にうたれますが、ところどころ片意地のように感じさせる言葉もあつて、これがなければと思はせません。ただそれは問題にはなりません。

エレクトラでは、クリタイムネストラの言葉の中にも彼女の真実があるではありませんか。彼女の云ひ分もつともだと思ふところがあります。大体私はアガメムノオンが嫌な奴だと思つてゐるので、尚さら思ふのかも知れませんが。クリタイムネストラがアガメムノオンを責めて云ふでせう。

“あの子を生んだ苦しみは私みたいにはしなかつた^①せに、敢えて娘を犠牲にした。誰のために、あの子を犠牲にしたのです。ギリシヤ勢のためだとお云ひかい。然し私の子供を殺す権利はあの人達にはない。メネラオスには二人の子があつた。私の子よりその方が死ぬのが当然だ。あの渡海の原因になつた親の子だもの。あの人非人の父親には、私の生んだ子供など何でもなかつたのだ。お前の意見と異つても、あの死んだ子だつて、物が云へたらさう思ふだらうよ”

クリタイムネストラはアガメムノンの勝ちさま、利己主義がゆるせなかつたし、にくんでゐたから、アイギストスを愛したのでせう。アガノム^②ノンを殺すより、二人が逃げれば問題ない。これちや感想にはなりませんわね。

プランティションは第七節の七まで、ノオト終りました。とても〜時間がかかります。その代りじつくりとしみこんでゆきます。ニューデイルの「農村金融」になると、怒りのぶどうが全面的に浮んで来ます。あの最初の頃、「銀行が土地をとつた！」と叫んでゐるミユラーと云ふ農民の姿が。でもこの辺、すこし力ぬけしてゐるみたいに感じられます。

ニューデイルに這入ると、知らなかつた新しい事実を知る面白さがあります。矢張り全体に、それ以前にくらべると妙に力ぬけがしてゐますね。あふれて来る情熱がうすいのです。前のクロパーの脱ぎの生活や黒人の人種問題のあたりは、本当に血のにじむ様なものがあつた。読み乍ら、書いた人の持つたと同様の憎悪も、もえる様な怒りも感じました。

ずつと前、あなたと見たシャークアイランドと云ふ映画、覚へてゐるでせう。あそこにあつたチエイン・ギヤング、それからタイフーンに出て来る囚人労働、あの残酷、ドライバー、監視者。あれを見た時、とても見てゐられない、嫌だくと云つた時、あなたは嫌だと云つても、あれが現実だ、それを正視しなくては解決は生れない、と云ひましたね。

あの時、感じたそつくりの感じを、あなたのプランティションの今までよんで来たところで感じましたが、今度は其の恐ろしい非人間的な□や暴ギヤクを正視出来ず、逃げようとする気持は全くなくつて、それを作り出すものへの憎悪を感じずにはゐられませんでした。其の意味で、あなたのこわさうとしたところは成功だつたのでせう。ところがニューデイルにはいると(今のところまだ七節の七)、妙に遠のいて物を云つてゐるところがあります。生産制限が帰農者や零細農をますく、駆り立て、其の悲惨に拍車をかけるのに、金融も又、プランターたちに利あつて、小農民たちはますく、加速度的に土地を失ふところなのに、グこんな風だつたとと唯報告してゐる様な、熱のない表現になつてしまつてゐる。数字もあそこでは、もつと出して示してくれてもいいと思ふ。空屋だの失はれた土地の数字も出てゐるが、どうもお義理的にならべたようにも思へます。

十一月廿七日(月)

雨の中を大きい荷物を持つて、新飯田橋の局へ行つて来ました。森男が月末に除隊するので、私服を送りました。帰つて来たら子供が一杯、下の炬燵にゐて、見てやつてくれとのこと、一時お守りをしました。

うるさくて嫌になりますわ。本当に自分の子供だつたら、一分だつて自分から離れないとすると、やりきれませんね。声をつぶす程、本をよんでやつても、指の痛む程、積木をしてやつても、返つてさわぎを大きくする丈で、誰一人、子供達は満足してくれやしませんわ。大人がゐなかつたら好き自由にやれるものと、返つてうるさく思つてゐるさやがらせば、お守りだと思つてゐるからかなはない。子供と云へば、又おくれひてゐて、そんなけはひも一寸もありませんから、怪しいなと思ひます。

十一時頃、廿四日附の手紙落手致しました。空襲の前に出したのね。何ともその事はふれてるませんから。廿四日には銀座へ出ると書いてあつたから、あぶない〜。ちようどおひる時、銀座にゐた訳ですね。嫌なこと。こちらでは心配してゐるんだから、早く何とか知らしてくれなくてはいけませんよ。

北条さんとのプランティション問答、大変ゆ快地読みました。北条さんもあなたの意図した所を読みとつてくれましたね。プランティションが単なる経済制度や農業問題でないこと、そしてそれは単にアメリカ南部に於ける特殊なものではないこと、そして問題はおくれた制度の遺物が現社会でどんな意味を持つて、どんな働きをするかーさうなると問題はアメリカの事でなくなつて、全世界の問題になつて来ることは、よくよんだ人なら誰でもが掴み得る事なのです。問題は正確に提起されてゐる。そして解決の道も見えてゐる。北条さんの云ふ通り、歴史と云ふものは何か、さうして歴史を進める主体は何処にあるか。偏見なしに真面目によめば、感じられるのが当然です。

Sさんが「アメリカのそれとマライや西印度のところがふかわからない」なんて、随分見当はづれの感想を述べたものです。あの人は何をよんだ事になるのでせう。何を求めて読んだのでせう。誠実に読めば、何が提起されてゐる問題か、わかる筈なのに。あんな読み方をする人なら、小説も映画も理解し得ない人ですね。Sさんの感想を読んで思つた事は、ミケランゼロがあれ程の深い思索、全思想を、情熱をうちこんで作つたダヴィットを見て

A “まとまつてる人間の形だね”と云ふ批評をする人々

B “全裸とは不道德だ”と云ふグループ

C “石を投げて何かをうちこはす事を示してるね”のグループ

を思ひ出します。それ等はまだまだまつとうなみ方でせう。Sさんの「他の彫刻とくらべると、手足の形が何処かちがつてるんだ」のグループを想ひます。批評以前ですね。あの人はそれ程モーマイだったのかしら。如何なるリラもならず指を持たなければ音を出せないのです。あれが書いてない、これが書いてない”と云ふ批評以前だわ。感じるハートを持たないのです。さう云ふ人たちが中堅学者とは何と云ふ学界の貧困でせう。豚に真珠ですね。豚は食べられないから騒ぐでせうが、豚を対象としなければいいのですわ。学者たちより普通の読者が其のカチを見出すでせう。豚との斗ひに思ひわづらうなかれです。

大体Sさんの家庭生活を見た時、それは感じました。内容をでなくて、形を求めてゐる夫妻だと云ふことを。奥さんの「勉強」と云つてゐるもの、其の内容は彼女が心から求めて起きて来たそれでもないし、Sさんの理解者としてのそれ

でもない、唯「形」をそこに感じ、二人とも矛盾も感ぜず、至極まん足してゐる様子を感じました。『妻も勉強してゐる学者夫妻』、唯それだ。自分達の内心の欲求からでなくて、ひどく云へば、外へみせるスタイルとしてのそれですわ。あれでまだ奥さんが、私はそんな勉強したくないと云ふところがあるなら、まだ脈があるけれど、そう云ふ事をそうとも感じぬ鈍さ。それを又、よろこんでゐる夫、嫌ね。オペラ館あたりの何かになつて、民衆の笑ひものにされる学者の家庭、そつくりそのまゝです。扱Sさんのわる口をこでやめませう。

あの「プランテーション問題」はシンクレアがマナサスに於て掴めなかつた最奥の姿を掴み、スタインベックがこわさうとしたニューデールと其の失敗、土地を追はれてさすらふ農民の其の背後にあるもの、スタインベックも又そこまで示し得なかつた姿を、血のしたたる様な事実(統計、引用されてゐる小説、実話)を拾ひあげてこわしてゐる。シンクレアのマナサスやスタインベックのそれがベストセラーズであつたのなら、あなたのは今まで誰も書かうとして書かず、誰も掴めなかつた一番の問題を、情熱もつてつかみとつて見せてゐるのです。

勉強と云つてゐるけど、生きてゐる我から離れて、どんな勉強のカチがあるでせう。我は市民的我でなく、個別的我でなく、より大きな進展した人類に通じる我として、生きた人間、生きる人間としての我から離れて、知識も其の堆積も、どんな価値を生ずるでせう。唯の「あつた事」の羅列なら、生きる我にどんな意味をも与へない。人と人との関係、社会と社会とのつながりを断ち切つた「形」を調べたつて、どんな感激もどんな感想もありはしません。それに意味を持たさうとしたり、意味ある様に見せたり、興味ある様に見せるのは、通だと云はれたいために、もりそばにおつゆをつけずに食べる人の類ですわ。さうなると学者であることは、通と同様に、何と味きない、まづい事でせうね。豊かに人生を生きようとするものは、たつぷりおつゆをつけてぞんぶんに味はひませう。

結局、私の思ふには、血の生々しく通つたものは、通は誰にもわかる事だからいやがるが、民衆はよろこんで味はうとする。通は通である名譽のためには、実さいのおいしさをけなす事によつて、通の誇りをまん足させる。だから一番知つてゐるとされる通は、本当の味のおいしさを一番知らない。「お前達とは異つてゐる、お前たちよりよく知つてゐる」と云ふ優越は、何時のまにか一番知らないと云ふ事になつてしまつたのです。「習慣でまづいものをおいしいと思ひ、おいしいものはまづいと云ふ錯倒(ごころまちがひ)が本物になつてしまつた。健康な人々の中で不健康な味覚の持主が学者で、人と變つた感じ方をする故にめづらしがられ、珍重された」と云ふレットルをはられる時代が来るでせうよ。不幸にもあなたのまはりには、それがうぢやくゝゐるんです。そんな珍重型に、思ひ上つたかたわ者に、同意されぬ事こそ幸福です。

そんな人達の共同戦線にびくつく⁽⁷⁾。あなたらしくもない。大体あなたの読んでほしい対象は、彼等ではないでせう。真実の歴史を求める人でせう。

此処まで書いたらアーチャンが来て、又東京空襲、ラヂオをきらぬようにと云つて来た人があると云ひに来ました。嫌なこと、どうぞ何事もないように⁽⁸⁾。あなたも早く疎解⁽⁹⁾なさい。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年一月二十七日の記）

十一月二十七日（月）曇雨

雨のぼろつく密雲の閉された中に「敵機上空にあり、京浜地区盲爆中」ときいた時は、僕は鎌倉の妙本寺の杉林の中で待避してゐたのです。

今朝、みんなの出揃ふのを待つて、十時十九分経堂発の小田急で鎌倉へ行きました。雨になりさうな深い曇り日だったので、ゲートルも鉄カブトもつけず、夜は本郷の大熊さんへまわるつもりでした。片瀬へついて、江の島の橋のたもと宿屋兼飯屋に「本日カレーライス」とあるので、は入りこんで水兵や産業戦士等と一緒に、江の島の橋のたもとだけのカレー汁のかかつた「カレーライス」金七十銭也をたべてみると、怪しげなサイレンです。水兵連中は「サア大変だ、いそげよく」と、うまく胃袋へは入ったかどうかわかんない、と思はれるほど大あわてに飯をかきこんで、バタ／＼と片瀬駅の方へかけつけました。僕はユーユー食事をすまして、国民学校生徒の防空頭布⁽¹⁰⁾のがやく／＼つめこまれた江の島電車でのろ／＼と、サビレ果てたやうな例のいかにもみすばらしいキャンペーンも廃残のやうに並んでゐる、七里ヶ浜の灰色の海景を通りすぎて、長谷へは入ると空襲サイレンです。どうするかと思つてゐると、電車はそのまま鎌倉駅前まで走つて了りました。ところが駅前ですこらにゐた連中全部と一緒に、妙本寺まで待避に追ひやられることになつたのです。

妙本寺の杉林は、あとから／＼十人、十五人と待避客をむかへましたが、雨はこぼれて来る、林の中はひえる、状況はまるでわからない、と云ふ風なので、一時間半ばかりがまんしてゐたが、ぼつ／＼がまんの出来ない連中がのそ／＼出て行きはじめました。怒られるとつまらないので、僕も余り目立ないやうに、そろ／＼駅の方へ近づいて行きました。

「盲爆中」と云ふのは大分気懸りな言葉で、これは或ひは経堂あたりもやられたかな、とすると、僕はみつちやんの赤ん坊の不幸のおかげで命拾ひすることになつたかなとも思ひました。

省線電車は時たま動いてゐましたが、非常線突破証がないと駄目なんです。三時近くなつて、雨がほんぶりになつてやつと、空襲警報が解除になりました。みつちやん所へは入つて行くと、二人とも下で、京免さんやアパートの人らしいのやと話してゐるらしい所でした。すぐ二階へ上ると、床の間に小さな骨壺が、箱にもは入らず、白い布でつつまされたままおかれてあつて、その前に小さなリングの盛つたお皿と、ごはん、線香とローソク、そしてひなびた菊の花とがそなへられてゐました。部屋はガランとして、片すみに、三日前まで赤ん坊のゐた藤台がそのままになつてゐました。みつちやんも泣きつかれたやうな表情でしたが、気持は恢復してゐて、いろ／＼と涙ぐみながら話してくれました。「あたしがわるかつたの。泣くもんだから、ついおぶつて隣組配給なんかで出歩いたので、風邪をひかしてしまつて。

お医者さんはちつともきてくれないでせう。八つちやんは熱で火のやうにまつ赤になつて苦しきうなんですけど、氷も水枕もなくつて、手拭をしぼつて冷したんですよ。四十二度も出るんですもの、手拭なんかすぐかわいて了つてね。でも死んでから迎もかわいひ顔になつたわ。何とも云へないほど可愛い顔で、これがあたしのうんだ子かと思つたくらいよ。生きてゐる時は色が黒くて髪はちぢれてゐて」「だけど生きてる時だつてかわいかつたよ。あごのあたりなんか実にかわいかつたぢやないか」「そりやさうだけど、でも死んだ時の顔は本当にかわいかつたわね」「菊池さんや幸子さんに對しても申しわけないと云つてゐるんです。ずい分前からいろ／＼と注意されてゐたのにこんなことにしちやつて」「いや僕も自分のことにかまけてすつかりごぶさたして、申し訳ないのはこつちですよ。だけど本当に残念しましたね。赤ちやんの死ぬのはあつと云ふ間だからなあ。ずい分みつちやんもがつかりしたでせう」「何だか気ぬけたわ。でも迎も栄養もよくて、お医者さんが、これは母乳でせう、て見ただけで云つたのよ。いいえ人工栄養ですつて云ふと、それぢや最近でせう、と云ふんでせう。いいえはじめからずつとですと云ふと、感心してゐたわ。人工栄養としては上々だつて。胃腸が迎も強かつたし、心臓も丈夫だと云はれたわ。手や足が迎も大きくなって、足なんか五月に生まれた京免さんの赤ちやんと同じくらいよ。だから迎も背が高くなる子だつたのね」「みつちやんはずい分たん青あせしましたからね。人工栄養だつたら、二時間と寐られないんですね。あれぢや母親の身体がたまらないなあ」「サッチャンが来た時はあの子は一番みつともないかつここうになつてゐたんだわ」「さうさう、あの時はくり／＼坊主だつたしね」「アパートの人達迎も親切で、みんな泣いてくれたわ。苦しきうだつたんですもの、可あいさうで可あいさうで。前の日まつかだ

つたのが、あくる日色がさめたものだから、あたし馬鹿ねえ、熱が下ったんだと思つて、お医者さんに熱が下りましたわと云つたのよ。そしたら下つちやるませんよ、て云はれて、本当に下つてゐなかつたのでびつくりしたわ。アパートに看護婦さんがゐて、死ぬまぎわに、こめかみに指をあてて、脈があるから今カンフルを注射すればいいかも知れないからと云つて、ずい分あちらこちら探してくれたんですけれど、注射薬がなかつたの。その中、指に脈が感じられなくなつて、その看護婦さんはわあ／＼、それこそわあ／＼泣き出すし、アパートの人達も一ぱいつめかけてゐたんですけれど、みんな泣き出して」「僕が帰つて来ると大変なんですよ。みんな泣いてゐて、僕を見ると、旦那さんは一体どこをうろ／＼してゐたんだなんて怒り出す人もゐるし」……。

火葬は昨日すましたのださうですが、一貫三百匁あつた八つちやんの棺桶（恐らくいろんなもので二貫近くになつてゐたのでせう）を教次君が、始めは胸に抱き、次にはおなかで支へ、おしまひには肩にかついで、歩いて四十分もかかる火葬場まで、二人で歩いて行つたのださうです。その途中で空襲警報も出るし、火葬場では薪がないと焼いてくれなくて、十バとどけたのださうです。丁度僕が行つた時は、テープルの上に巻紙の書きかけがひろげてあつたが、「今信州へお手紙書きかけてゐたところですよ」と教次君が云つてゐました。

とにかくせつかく三ヶ月まで丹青してなくしたのには、ずい分がっかりしたことだらうと思ひますが、みつちやんはもうほぼ元気で、之からは京免さんの赤ちやんの一人をみてあげるんだと云つて、五月に生れたと云ふその赤ちやんを抱いて来ましたが、「かわいい赤ちやんだなあ、人見知りしないですか」「ちつとも人見知りしないわ」と云ふので半ば安心して見てゐたら、とう／＼泣き出されてしまひました。

警報出たら松沢君の送別会は順延だと云ふし、帰つて火を起すのは大変だし、すすめられるままに夕ごはんを御馳走になりました。みつちやんはしきりにとまつて行けと云つてはくれましたが、盲爆と云ふのが気がかりで、七時半に雨の中を帰りました。鎌倉駅で電車は中々来ず、雨と風とにすつかりひえ、おなかもおかしいし、いささか弱りましたが、どうにか乗客少くて坐れたので、楽に経堂まで帰つて来ました。新宿まわりで。帰つたら九時半。

今日の爆撃には、青山五丁目にバク弾が落ち、原宿には焼夷弾が落ちて火事になつたさうです。よく経堂へ疎開しておいたものだと思ひました。乃木神社へも落ちたとか。とにかく山の手方面と云ふのは青山、赤坂だつたのです。外には本所、千住等に落ちたさうです。本室あたりでもズシン／＼とバク弾の落ちる音がしきりにきこえたさうです。

大分事態は深刻になつて来ました。毎日、降つても照つても来るとしたら厄介です。それに青山や原宿がやられるのは、

いささか剣呑ですね。併し僕の方は大丈夫です。なるたけ出て行かないことにしますから。みんな食事を二食分づつ持つて来るやうになり、歩いて帰れる道をためししてみたりしてゐます。僕はその点、めぐまれてゐるわけです。

今日廿四日夜のお手紙見ました。心配して下さつて有難う。この手紙も明朝早速出します。雨がふり風があつて寒く冷たい夜です。今夜は火がないので、すぐ寝ませう。すつかり冷えました。

幸子から謙一あて（一九四四年一月二七〜二八日の記、二八日の消印）

十一月廿七日午後

午後三時すぎ、廿四日の手紙うけとりました。あなたの方、何事もなかつた相で本当に安心しましたが、今又、東京空襲とかで、又々不安になりました。毎々空襲はあるでせうし、あなたがこちらにゐない限りは心配せねばなりません。すぐこちらに来られるものでないとすれば、其の度にあなたが芝生でのんびりでなく、壕の中へ完全に避難して、出来る丈の安全を計つてくれる事が一番です。

十一月廿八日、晴風激し、18°

今日から桃ちゃん登校で、私も一緒に六時前に起きました。六時前つて相当暗いんですね。ここずつと寝坊ばかりしてゐたので。八時までには朝の行事凡てすみしました。

それから一寸と思ひ乍ら、とうく十二時までかかつて、アキユラの戦を読みました。前に一度読む事は読んでゐたのですが、かんぢんの事は読んでゐなかつたらしい。これは南北戦争ものだと思つてゐましたが、正面から扱つたものではなく、一エピソードでした。クラブとしてユニオンリーグの名前が出て来ますが、ユニオンリーグらしい面影はありませんでした。北軍のフランクリン大佐とフハフハと云ふ其の部下、南軍の將軍の妻、エリザベス・クリテンドンとの思はぬカイゴウ、個人的な親しみ、結婚までの話です。フランクリン大佐は奴隸を一人は昔持つてゐたし、南部と北部の対立も感じてゐない。唯、上からの命令で戦争をやり、部下に話す、これと云ふ政治理論も信仰も持つてゐない。うすぼんやりした善良な男です。詰らない小説でした。何故あれがベストテンになつたのでせう。南部の将校の妻と北軍の勇士の、静かな自然な恋愛でせうか。四時間使つて損でした。あれなら戦争は南北戦争でなくてもいい。

さて昨夜はふうちゃんと桃ちゃん三人で、皆ねてしまつてから炬燵にゐました時、偶然(偶)バイロンの話が出て、カイン、マンフレッドの話から、ブランドスの十九世紀文芸思(備)史の話になり、フーチャンはノオトでもいいから、すこしやつてくれと云ふので、押入からブランドスのノオトを出して、フランスの反動文学からローマン派までをかいつまんで話しました。去年ブランドスがあれ程面白と思へたのに、今ノオトを出してやつて見て、どこがそれ程私を惹きつけたのか、しばしばうぜんとしました。一人一人をお手軽に知る事が出来るし、かんたんに文学史をやるよさはあつたし、スタール夫人だのジオルジュサンドのあたりは、今でもブランドスの教へで得をしてゐますけれど、ノオトの取り方も極めてよくない。ブランドスと云ふ老大家の言葉とは思へない、軽率な感激の言葉が多すぎる、と思ひました。併し、とに角私はブランドスから多くのものを得たのだから。唯、もう一度見直した時、案外感激しなくて失望したのでせう。其の後、稲ちゃんから何か云つて来ましたか。あの人も女子アパートの地下室がそれ程安全でないと思ひ出したであらうと思ひます。それに夜上空襲あるものでない事もわかつたでせう。

今日は十一月の末としては妙な程暖かです。習慣で朝炬燵に火を入れましたが、誰もはい(居)る人はありません。今日は特に書く事ありませんので、これ丈で出しますせう。ダイヤモンドの原稿はもう出しましたか。 さ(さ)ようなら。

謙一から幸子あて（一九四四年一月二八日の記）

十一月廿八日（火）晴

今日は快晴だつたけれど、廿四日以来はじめて警報なしに夕方まですぎました。だが月がすてきになるので、夜でもやつて来ないとは限りません。

昨日はNo.34（廿四日夜）、今日はNo.35（廿五日夜）のお手紙拝受しました。空襲で大分心配させましたね。電話は空襲後五時間使へないし、ここの電話は話しくいし、電報はうけつけてくれない、結局手紙より仕方ありません。昨夜も盲爆と発表されたから大分心配してゐるだらうと、帰つてすぐ手紙を書きましたが、雨はびしょく降り、風も横なぐりに吹いて、夜おそくポストまで行つたところで集配は朝だからと思つて、今朝出したのです。今日は晴れてあたたかく、今ペンをとつてゐる廿八日午後六時に気温十七度です。昨夜のあの寒さ冷たさはうそかと思はれるほどです。今朝みんなが出揃ふと昨日のはなしです。僕が下りて行くと、八木、竹中、谷川、古田、坂巻の諸君がゐりましたが、八

木「菊池さんはどこにゐたんです、昨日、あの時」「僕は鎌倉の妙本寺の杉林の中」「杉林?」「うん。そんなところへ待避させられたんですよ。寒いし冷えるし、情報はわからんして弱つたなあ」。八「僕は外務省にゐましたよ。あそこには大きな防空地下壕があるんで、本室なんかよりずっと安全だね。五百人くらいは入るかな」。谷川「どこ。そんな大きな」。八「図書のある地下ですよ」。竹「併し五百人一緒なんてよくないんだろ」。僕「さうだよ。タコツボみたいに一人づつのが理想的なんだろ。今に、向ふ³のでかい飛行機が夜なんか来て、こつそりタコツボみたいな防空ツボを地上へおろし、それから爆撃をやる、みんなタコツボとは知らずにその中へもぐりこむ、そこを釣りあげて、やあ釣れた釣れたと云ふ風なぐあひになるかも知れんぞ。僕のかくれた杉林なんか、ちよつといいやうな気がしたね。何だか、バクダン落ちて来ても、どつか枝にでもひつかかるやうな気がしてね」。竹「馬鹿云つてら。僕は本室にゐたけど、ずい分ドシン／＼バク弾の落ちる音がしたよ。あそこの防空壕なんか駄目だろ。始めは入つてゐたけど、冷えるしね、やり切れんから、あとでは庶務の部屋で駄弁つてゐたよ。芦野さんや吉沢さんとね。芦野さんも、かうやられちゃ堪へて云つて、大分弱音を吹いてゐた」。八「無理ないね。僕、外務省の地下室にゐた時、ドシン／＼すごい音したけど、あれ青山のバク弾だつたらしい。菊池さん危いところでしたな、青山五丁目と原宿ですよ。青山の方はバク弾で、原宿の方は焼夷弾ですよ」。ボク「本当だ、危なかつたなあ」。竹「青山はまだ電話が通じんよ。中尾さんなんかね、渋谷がやられたらしいから地下鉄も通じないだらう、歩いて帰らにやならんて云つて、大分悲壮な顔してゐたよ」。谷川「原宿のは、僕の知つてゐる人が東横の上で見たさうですよ。何でも焼夷弾らしくて、何かあの方向へ落ちたなと思つたら、忽ちまつくるな煙が上つて、こりややられたなと思つたさうですよ。そしたら空襲警報になつた」。ボク「ぢや空襲警報の方がおそかつたの」。谷「おそかつたらしい」。八「神社ではどこです」。谷「乃木神社とかきいたけど、乃木神社でどこですか」。ボ「赤坂ですよ。ぢや青山、赤坂か。青に赤。赤はわかるが、青も一向安全ぢやなかつたね」。そこへ堀江君が入つて来ました。「あたしは汽車の中で、しかも八王子についてた時、出あつたんですよ。これややられたなと思つた。何しろ立川、吉祥寺と通つて帰るんでせう。危いつたらないんだからな」「汽車はうごいたの」「いやとまつたり、うごいたりしてね。吉祥寺あたりでは上空に來たらしくて、友軍機とはちがふ爆音がして、やつぱりズシン／＼すごい音がしましたよ。みんな汽車の中であをくなくなつてシヤガンでゐた。新宿へついでからまたストツプさせられて、帰つたら六時さ。朝八時に出て六時だよ、参つたね(彼は六月からバスか何かでは入る富士山麓に家族を疎開してゐる)」「今日あたりまた来るぜ」。

僕は昨日、二時間近く妙本寺の杉林の石の上に腰かけて本を読んでゐた時冷えたのか、あれから腹具合がよくないので。みつちちゃんところで泊らなかつた一つの理由も、腹がいたかつたからです。帰りもずい分つらかつた。今日もずつと下腹がはつてゐて不快です。今日は昼も夜も経堂駅の近くの外食券食堂で食べました。いもばかりです（オカヅが）。例へば昼はメシ、いものにつけ、みそ汁、オシッコ、之で三十五銭。昔なら十二銭ぐらいでせう。即ちメシが五銭、おかげ五銭、汁二銭。夜はめし、いもの煮つけ（同じもの）、おつゆだけが昼とちがつて油気のないケンチン汁（サトイモと大根とだけ）、之で四十銭。本当に三食こんな風な外食だと、栄養なんかとれつこありませんね。

今日は実は松沢君の送別会で、大熊氏の家へ行く筈でしたが、腹具合がわるくて困つたなと思つてゐたら、昨日松沢君と柴田君とだけが来て、早川君は警報が出たから順延だらうと思つて来なかつたのださうで、いはば行きちがひでお流れになつたのでした。僕も明日早川君とレンタックすることにして、今日は丁度腹痛だから早く寐ようと思つてゐる所。

空襲がかう云ふ風にひどくなつてくると共に、僕のやうに住所と職場とが同じところで、おまけに郊外だと云ふのは一番安心なわけです。尤もアメリカでは、東京を十六ぐらのマスにわけて、今日は第一と第四、明日は第二と第六、と云ふ風に順々に来るのださうだとも云ひますから、さうなればどうせ一度はやられるわけだが、この辺は家も建てこんでないし、木も多いから、直撃弾をくらはない限り、先づ大丈夫でせう。安心してゐて下さい。余りひどくなれば、そちらへ逃げて行きます。それより僕の本のことが心配です。早く出ればいいが。

ハンコはせつかくもらつて来ていただいたのに、字がちがつてゐたのは残念でしたね。

「怒りのぶだう」についてのあなたの意見は立派です。そんな風に読んで行けば、何を読んでもきつと自分の世界観の本当の栄養になるでせう。

タバコは明日くらい送るやうにさせよう。大体なくなるころにそちらへ届けばいいのでせうが、島村君もタバコをためてゐますから、あなたかふうちゃんかが、上手にお父さんに「支給」してくれると思ひます。

僕の「プランテーション」が、問題提起と啓蒙との統一に失敗してゐないとあなたから云はれることは、大変うれしいのですが、やつぱりさうでもないのです。まだあれは本当の啓蒙的な労作ではない。啓蒙的に書くためには十二分に消化し、結論もはつきり出てゐるやうなものでなければなりません。ところが、あの「プランテーション」は実は結論がない。結論は書けなかつたのです、いろんな意味で。結論は読者が自分で見つけ出さねばならないのです、あの本では。またあの本の文章や言葉づかひも啓蒙的意識でつらぬかれてゐない。

さう云ふ点では、羽仁さんのミケランジエロ以後のもの（クロオチエ、歴史科学、倫理学その他）は立派です。ただ啓蒙的意識で貫かれると、読者と著者との間に生徒と教師、と云ふ関係が出来ておそれがあります。僕が羽仁さんの此の頃のもの、中条氏、中野氏のものなどにさう云ふもの、説教的なものが感じられ、それがあの人達の書く物を小さいものに感じさせる、のびくしないものに感じさせる、と云つたら、北条君がたしかにさうだと賛成しました。「読者から自分からいつの間にか離して、いや自分を読者からはなしていつの間にか教壇にたつて、『諸君』と云つてゐる。『諸君は何々せねばならない』、これは教師の口調ぢやないかな」と僕が云つた時、北条君も「さうだ、『諸君』と云ふのは本當ぢやない。『我々』と云ふべきだ。いつでも『我々は何々しよう』と云ふべきだ」「あれはね、羽仁さんの場合、学校の先生をしたことが関係を引いてゐるんぢやないか」「さうかも知れないね」「さうですわ。学校の先生をすると、さう云ふ口調になりますわね。こはいものね」「諸君と云つて自分を読者から離すと、啓蒙の意味はつていしなと思ふね。啓蒙とは説得だからね。説得の立場はいつでも相手と同等の立場でないといけない、デモクラチックな立場でないとね」。

問題提起と云ふことは、読者と同じ立場で『我々』と云ふ呼びかけでなされる。啓蒙と問題提起との統一は、第一に著者の立場を讀者と同一の足場におくこと、著者と讀者との間にギャップがあつてはならないこと、と云ふことにありさうです。併し僕の之までのものは、大てい啓蒙意識に貫かれてゐない。わかりにくい言葉や、長い入りくんだ文章などは、その点の意識の稀薄を直接に示します。之からはうんと注意しませう。

竹中君の結婚問題はどうか僕が敗北に終りさうです。だが僕はまだあきらめてはゐない。今日もずい分強く、彼が可哀さうに見えて、何とかしてやりたいと思ふほど、云つて云つて云ひ抜いたのですが、彼の感じかたの浅さは救ひがたい。「君は皮をかぶつてゐる。肉で聴かなきゃ。ああ、火の言葉がほしいよ、君のそのあつい皮を灼きつらぬいて、君の本来を呼びさましたいな。駄目だよ、そんな。理くつはわかつてゐる、だけど……なんて、そのだけどがいかなのだ。一体君はその相手を見たのか、会つたのか」「いいや、写真だけなんだ」「それで、少しでも、うまく行くだらうと云ふ感じがするんか」「いや実は反対だ。うまく行かんにきまつてゐると思ふ」「なんだ、それぢや無茶ぢやないか、いかにいかに、どうあつてもいかに。絶対にいかに。そんな無責任な。何もせん方がよつほど人間らしい。君は何もせんのだやなく、積極的な悪をするんだよ。そして、こんなにまで、君は罪を犯すんだ。自分の正しい半身を殺して、自分の本来を殺して墮落するんだ。それだけでなく相手をも殺すんだ。人間関係をいい加減に考へるなんて生きる資格ないぞ。

君は見合結婚とは、売春婦の所へ行くより悪いんだと思はないか。売淫だよ。売淫の方がまだ事態にまぎれがない。見合結婚は売淫と云ふ非人間的行動を、結婚と云ふ正常の形式でごまかしてゐるんだ。偽善だ、憎むべき偽善だ。売淫ならまださう毎日と云ふわけでないが、見合結婚は四六時中恥づかし気もなく売淫することなんだ。怖しいことだ。醜悪なことだ」「だけど多数者はさうしてゐるんだらう」「多数者は必ずしもさうしてゐない。多数者がさうしてゐたのは過去だ。人々はだん／＼人間関係のより正しい方向へ向つて来てゐる。今は例外だけど、社会の近代化は人間関係の近代化を導いてゐるんだ、人間関係の解放、その近代化もまた社会一般の近代化を促進するんだ、この二つは実は同じことなんだ。どんな不十分な恋愛でも恋愛結婚の方が人間的だ。恋愛結婚は結婚当事者が、人間として責任を以て行動することになる。自分の最も重大なことを、自分の責任に於てやることになる。だが見合結婚は人間ぢやない、責任能力者の人間としての行動ぢやない。人間になれ、人間に。誠実に、誠実に」。

「ぢやどうすればいいんだね」「先づその現在進行中の結婚話をことわること。ことわれないことないよ、君の一生の重大事だ、いや君の相手にとつてもね。だからぎり／＼、式の夜でもことわれないことない。たしかそんな映画あつたぢやないか。『或る夜の出来事』がさうぢやなかつたか。でもなるだけ早くことわる方がいい。だんだんことわるのに勇氣が必要になる。第二に、自分の生活を誠実に建設すること。勉強するなり、仕事に全力をうちこむなり、友情を深めるなり。君の対人態度はなまぬるい。もつと誠実で、もつと深くないといかん。誰にでも通り一辺なつきあひ相手で満足しちやいけぬ。君は今のままなら女の友達が出来ても、音楽会へ行くか映画を見るか、あたりさはりのないサロンのなつきあひしか出来ない。それが都会人のやりかただ。君の生きかた全体が問題なんだ。本当に生きぢやあらないよ。ふわ／＼と現実のうはつつらを、心ここになく過してゐるんだ。だから何でもい加減なんだ。自分の一生の最大の重大事についても、まるで他人事のやうにいい加減なんだ。とにかくこの二つ、結婚をことわり、自分の生活を正しくうち立てること、この二つはどうにも否定出来ない明白事だ。だが今の君にはたやすいことぢやない。君としては一つの自己変革的な努力なんだ。君は自己変革が必要なんだ。卑俗なことばかも知れんが、生きるか死ぬかだよ。死ぬのは簡単だが生きるのは困難で、伝統的な緊張が要るよ。此の頃『体当り』と云ふのがはやるけれど、あの『体当り』と云ふことほど、今の日本に象徴的なことばはない。『体当り』と云ふのは破壊の戦法で、決して建設の戦法ぢやない。建設はどんな小さなことでも、人間の精神力の強度の緊張と機能とが必要なんだ。君は何もかも眠つてゐる。生きる生きろ生きろ、死んぢやいかに死んぢやいかに。いや相手を殺しちやいかに。最低のところ、何もしない方がいい。僕は云つ

て云つて云ひまくるよ。たのむから。たのむから元氣を出してしつかりしてくれ」。

本当に火のことばがほしい。自分の力のなさ、言葉と論理との僕の武器の鈍さ、にこんなにはがゆく感じたことも多い。火箭のやうな言葉がほしい。彼のやうな皮膚には、僕のどんな言葉も、かすり傷一つおはせられない。しかも僕は何とかせねばならない。今までは彼がやつて来て、何かの話からその話へ行つては、一時間乃至二時間しやべる、と云ふ形だったが、明日からはこつちで何とか理論をきたへておいて、積極的にやる必要がある。邀撃する必要がある。白田君の方はよつぽどまじめです。尤も彼女のその後のことはまだわからない。高崎へ行つたきり、まだ帰りません。

どうしてみんなかうなのかしら。いねちゃんも此の間来て、「佐々木さんが結婚の相手をさがしてゐるのだけれど、森本さんはどうなのかしら」と云つたから、それはいかんと言下に答へておきました。結婚の相手として紹介しては絶対にいけない、佐々木君のさう云ふ考へかたを彼に直接に批判しつゝ、たいたい友達として紹介する程度以上であつてはいけない、人間の結婚をあはせもののやうにあつかつては絶対にいけない、とさう云つておきました。いねちゃんも、友達として紹介するつもりだと云つてゐました。

僕はこの十年ばかり、大ぜいの人々と接触して来て、今の時代の日本を形象化した小説を書かねばならないと時々感じたが、この頃特に感じます。僕がこの頃、対話風を書くのは、第一は僕の思想をあなたにつたへる手段であり、第二に僕の生活を周囲の人間関係と共に報告する手段であるが、第三には小説の勉強でもあるのです。尤も小説の勉強と云つても、手紙は大てい一時間か二時間の間に大急ぎで、余りよく考へもせず、思ひうかぶままに書くので、今のところただいくつかの言葉を記録しておく程度にすぎませんが。

で僕は、アメリカカ史を書くことと、日本の現代史を小説の形で書くことが、自分の之からの仕事だと思つてゐます。この予定がいつ果されることやら。では今夜はこれで。

謙一から幸子あて（一九四四年一月二九日の記）

十一月二十九日（水）晴

今日も快晴。来るか来るかと思つたものも、どうやら今日は来なかつた。昨日も警報は出なかつたが、二機帝都上空に

来たのださうです。

一昨日のバク弾は海軍館と東郷神社とに落ちたのださうです。青山五丁目の方はどこか知らないが、参道の伊藤病院が救護所だと新聞に出てゐましたから、原宿の元の家の近辺は大分恐慌を来してゐることでせう。

僕は一昨日、妙本寺の杉林の下の石の上に一時半ばかり、腰かけて本を読んでゐたために痔になりました。腹具合が悪いと云ふのは、一面、痔のためでもあるのです。昨日も今日も痛んで、ズキン／＼して、気分すぐれません。それ故今日の手紙も雑になるでせう。

竹中君のオブローモフ主義との斗争も今日は休みです。オブローモフですら恋愛をした、たとひそれが失敗であつたにしても。竹中君は恋愛も出来ない。結局彼がなぜ今、不自然な結婚をしようとしてゐるか、真意の判断に苦しみます。彼の結婚の第一の理由(意識的な)は、老ひ先短かく病身の父母の生活を保証し、且つ父母を安心させたいと云ふこと、第二の理由は、自分自身しつかりと自信のある生活をもたない漠然たる不安の感情から、人とのより安定的な結合を求めてゐること、なのです。ところが両親、殊に彼の母親は、彼が乗氣でない結婚をすることを余り望んでゐないと云ふのです。それ故、両親の強い要求から出たと云ふより、竹中君の両親への思ひやり、と云ふ形になつてゐます。さう云ふ風な形の両親への思ひやりが、いかに本当のもでないか、却つて自らの生活の不幸によつて、両親の不安を従つて不幸を増すことになる、と云ふことをいくら云つても、そして自分でそれがよくわかると云ひながら、やはりその考へをやめない。第二に彼の生活の欠除(欠)についても、彼自身よくわかつてゐながら、本も読みたくない、勉強もしたくない、と云ふ。始めはたとひよくない結婚にしても、他の面でのいい生活をすればいいだらうと云つてゐるが、今はさうも云はない。論理的にさうは云へなくなつたのです。結局、完全なオブローモフ主義の中へ自分を埋没しようと云ふのです。さう云ふ結婚倫理の不まじめが、罪悪であることをいくら云つても、多数者も犯してゐる罪悪なら、やつてもいいと云ふのです。かくの如きが、この十日ばかりの理論的な斗争の目下の帰結です。云ひかへれば、彼の結婚は僕との論争の過程で、一切の理論的な根拠を、従つて偽善的な装ひを剥ぎとられて、凡々たる醜悪な非人間的行為として赤裸にされたのです。そして彼の今の論拠の殆ど唯一のものとしての両親への思ひやり、両親の生活を安定させたい希望と、彼は一切のオブローモフ主義とをハカリにかけて、果してどちらが重いかで、彼の人間の価値が決定されるのです。僕としては、彼のオブローモフ主義への理論的攻撃をつづける他方、彼の両親の生活を安定させる他の手段を考へてやることしか、手段がない。今度彼があらはれたら(今日は彼は本室行き)、その点をもつと積極的に相談してみませう。

ちなみにA君（この十日に結婚した女の子）の相手と云ふのは、昨年交換船でイギリスから帰つて調査会の英研囑託になつたK君と云ふ、三十七、八若しくは四十前後の髪の毛のうすい、いや頭の上部のはげて了つた、さう云ふ人なんです。この人はイギリスで商売してゐて、イギリス人の妻君との間に子供まである人で、事によつたら四十四、五かもしれない。気の毒な人だが、見たところ個性もない、イギリス帰りの商人らしいタイプの大人しい人です。だから僕は竹中君に、A君の結婚は決して本当のリーベでないし、うまく行くやうには思へない、それでも見合結婚よりはいい、何故ならいかに中途半端で、いかに不完全な、矛盾の見えすいたものであらうとも、自分達のイニシアティブで、自分達の責任に於て結合したのだから、と云つたのです。それにしても此の頃、本当にいい結婚をした人の話をきかない。之もかうした時代のせいなのかも知れません。

今日あなたのお手紙No.36（廿七日）有難う。

ソフォクレスの批評を興味深く拝見しました。アンチゴネーの意義を読みとつてゐられることは大変いい。だがオイヂブースと比較する時、若干異議が出て来ます。エレクトラについての批評も、あなたがオイヂブースを評価し得なかつた同じ理由を含んでゐると思ふのです。アンチゴネーはたしかに、アンチゴネーとイズメネーと云ふ形で、人間の二つの型を極めて鮮明に、世界の全文学史上でも最も立派に描き出してゐます。だが、アンチゴネーには欠陥がある。それはアイスキロスがこのテーマを展開しなかつた（テーベの七将に傍系的に出ては来るが）と云ふことと關聯あるやうに思ふ。と云ふのは、アンチゴネーのモラルは政治的契機が欠けてゐるのです。何故なら、アンチゴネーがクレオンにさらつてもなさうとするポリュネーケースの死骸の埋葬は、ポリュネーケースに対する政治的批判を伴つてこそ、眞のモラルになるが、あそこではそれが無いのです。ポリュネーケースは自分の権力をとらんがために、他国の軍隊をたのんで、祖国の市民を戦火にさらしたのです。彼のエテオクレスへの憎悪が理由あるものであつても、いはば権力についての私怨のために祖国へ攻めこむことは、政治的にまちがつてゐる。それ故、クレオンがポリュネーケースを、一応罪人として法律的に疎外したのは、理由ないことでない。無論、ソフォクレスの「アンチゴネー」では、クレオンの法治万能主義に対するアンチゴネーの反抗と云ふテーマに整理され、その故にこそあれだけ力あるものになつたが、しかもこのテーマ自体のもつ政治的要因の不適のために、アンチゴネーの形象は法治主義、権力主義と自然法主義、人間主義との対立にしっかりとしめくくられず、政治と個人との矛盾、政治的峻厳と情状主義との対立の要因を有して、形象を弱めてゐる。

それに反してオイジブースは、彼が自らの運命を、自らの破滅を賭しても明白にしようとするのは、国民のため、真理のためなのです。この場合の真理は、政治的契機とはつきりと結びついてゐる。それ故にこそオイジブースは英雄なのです。オイジブースの倫理的矛盾は、ライオス王とイオカステとの誤つた倫理にある。彼等はたとひ予言のためとはいへ、自分の子を殺さうとしたのです。だからオイジブースが云ふ所がある。「母だのに子供をすて、殺さうとしたのか」と。またオイジブースがライオスを殺したのは、やはりライオスが暴君であつたからです。オイジブースは正当防衛であつた。更にオイジブースが王になつたのは、国民をスフィンクスの害から救つたからです。オイジブースは自分についての予言をさけるために、形式上、コリントの王子でありながら、自らコリントを去つて、漂浪の旅に出たやうな人です。そして乱暴なライオス王が、衆と權威とをたのんで彼に無礼をした時、オイジブースは正当防衛で相手を撃退した勇者であり、更にスフィンクスの謎をといた智者であつて、すべての点で王者なのです。しかも国民の不幸を救はんがため、且つは眞実のためには、自分を破滅させることも辞さない。また自ら怖るべき運命に破滅しても、イオカステのやうに自殺などしない。眼玉をつぶす。あの眼をつぶすところは、実は余りにも悲壯で、ぼくもすつかり参つて了つたくらいです。彼がクレオンと云ひあふ所なども、あの頑固さすらも、彼の資質の偉大の証拠になつてゐる。何故なら彼は自らのあやまりをただすのに、寸豪センチマンもためらはない。このあたりは「トラキスの女達」のヘラクレスにもあらはれてゐる。

とにかくオイジブースは偉大な形象です。プロメテウスに迫るものがある。プロメテウスよりは問題が入り込んでゐて、例へばあなたのように、充分オイジブースの偉大さをとらへ得ない怖れを免れないが、プロメテウスは誰も理解しそこなふことがないほど、はつきりしてゐる強力なテーマです。しかもプロメテウスはアイスキロスによつて、すつかりあんな風に偉大に「創作」されたのです。イオーの形象を伴ひつつ。プロメテウスでは政治と個人倫理とが完全に統一されてゐます。オイジブースも、政治と個人倫理の統一の点ではアンチゴネーより上です。問題の大きさでも形象の偉大さでも。

エレクトラについても、あなたの政治批判力の弱さが、エレクトラの全体の理解に到らせてゐないやうに見受けける。尤もエレクトラ劇は、アイスキロスの方が僕は立派だと思ふ。アイスキロスの「アガメンノン」を読むと、エレクトラの倫理がよくわかる。即ちアガメンノンとアイギストスとの、この二つの王者の形象に於ては、アガメンノンの方が偉いのです。アガメンノンはイリアッドの中では、古い型の王として、アキレスのモラルによつて否定されてゐる。だが

「アイアス」(ソフォクレス)の中では、アイアスの方がアガメンノンより劣つてゐるし、オレステス劇では、アガメンノンは明かにアイギストスよりも、よりよき王者なのです。それはちよつとリア王とイヤゴの対比、ハムレットの中の亡王と新王との対比を考へさせる。アイギストスはイヤゴ式の陰險な謀略を以て、凱旋王であるアガメンノンをたふした。だからアイスキロスの「アガメンノン」にはつきり出てゐるやうに、アルゴスの市民はアガメンノンの支持者であり、アイギストスを専制者(野心的)として反対してゐるのです。

アガメンノンが自分の娘を犠牲にしたことは、現在の倫理から明かに大変悪いが、そして当時としても、個人の立場からたとへばクリュタイメネストラのやうな批評が可能であつたが、しかも歴史的に云つて、一がいに批難出来ないのです。何故ならイフゲーニーの犠牲は、アガメンノンにとつて、政治的目的(遠征軍を救ふ)の為に自分の個人的利害を犠牲にしたことであつて、いはば「政治」と云ふものの本来的な非人間性を示すもので、当時のモラルとしては承認されるのです(承認されるとはいへ娘を犠牲にすると云ふ風な政治の非人間性は、結局クリュタイメネストラの恨みとなり、アガメンノン自身が否定されることになる)。要するにアガメンノンの形象は、古い型の王者(アキレスやオディッシュウス、オイデプスなどと比べて)ではあるが、アイギストスの形象よりは大きいのです。それ故にこそ、エレクトラやオレステスの正義がはつきりしてくるのです。エレクトラやオレステスの背後には、これもアイスキロスの場合に特にはつきり出てゐるが、アルゴスの市民、民衆が支持してゐるのです。すなはち政治的方向と個人的契機とが、やはり統一されてゐます。

クリュタイメネストラの言葉がたしかに真理を含んでゐるのに、アイスキロスやソフォクレスによつてあんなにはつきりと否定されねばならなかつたのは、上の理由からわかるが、もう一つ、ソフォクレスで感じることは、アイギストスとクリュタイメネストラとの結合が、本当の自然的倫理をもたないと云ふことです。クリュタイメネストラのアガメンノン批判は、政治的契機をぬきにして云へば同情さるべきです、その点アンチゴネーへの同情と本質的に大差なく。しかるにアンチゴネーの欲求は、たとひ政治的批判は欠除してゐても、純粹で自然の理に沿つてゐるが、クリュタイメネストラの言葉は、自分の政治的にも倫理的にもあやまつた行動の口実になつてゐるにすぎない。彼女のアガメンノンへのうらみが真情なら、アイギストスへの愛情は偽善であり、彼女のアイギストスへの愛情が真実なら、アガメンノンへの恨みは口実である。そしてこの二つともが、アルゴスの市民の希望に反してなされる。かくて彼女は否定されねばならなかつた。

またアイスキロスのオレステス劇で大切なことは、クリュタイメネストラとエウメニデスとが、古い時代の倫理（母系時代）の代表者として出てゐるのに対して、オレステス、エレクトラ、アポロ、アテネが新しい時代の倫理（父系時代）の代表者としてあらはれてゐることです。そして女としては古い時代、母系時代のモラルにより多き同情を感じるでせうが、歴史的には、やはり古いモラルとして否定されねばなかつたのです。かう云ふことの批判、理解は、歴史と政治との勉強なしには達し得ない。アイスキロスがソフォクレスより偉大な点は、前の手紙でも書いたやうに、いつでも政治的契機と個人的契機との統一があつて、新しいモラルと古いモラルとの斗争をはつきりと、民族的な雄大さで描いてゐる点だと思ひます。ソフォクレスの方は人間の個別的形象の面ですぐれてゐる。

プランティション第七節の批評をありがたう。だが、もう一辺第七節を読んでみてくれませんか。実は僕が全篇で一番力を入れたのは、苦心したのは、緒論とあの第二章第七節となんです。出来栄えの一番心配なのも実はその二つで、第一の方はどうも残念ながら失敗でしたが、今や第二の方も失敗かと判定されんとしてゐるので、中々重大なんです。第七節、あのニューデイルとプランティション問題との展開でこそ、僕の「歴史」が最も緊張し、あそこを読んでくれる人に云ひたいところなんです。僕の歴史的情熱の一番こもつた所が「力ぬけしてゐる」としたら、大いに考へねばならないから。

あそこで僕は政治と云ふもの、歴史と云ふものを、力一ぱいに展開してみました。ニューデイルの諸政策の歴史的本質も示しながら。政治と現実、歴史と政治、これのダイアレクティク。もう一度僕も読んでみますから、あなたもよんで厳格に批判して下さい。数字はああ云ふ所では中々ないのです。統計と云ふものは、あんな風な歴史的運動をあらはすやうには中々つくられない。だから、せい一ぱいさがして集めた数字なんです。

僕がここは力入れた所だから、そのつもりで読んでくれと云ふわけではない。そのつもりで同情して読んでくれと云ふのではない。ここが力を入れたところだから、そしてその力が読みとられなかつたから、もう一度読んでやつぱり力がないかどうか、もう一度判定してほしいと云ふのです。気を悪くしないやうに。第四節、五節、六節のやうに個別を叙述し、分析的に書けるところはどちらかと云ふと書きやすい。だが第七節のやうに、政治理解と、歴史的運動の総合的展開とを必要とするところは、たしかに一番困難で、失敗しやすいところです。それだけに僕には重大な、力をうちこんだところです。

何だか今日はあなたの意見の弁駁ばかりになつて了ひましたが、これに活潑に駁論して下さい。ただ、この手紙で書い

た問題に関する限り、あなたが政治と歴史との理解に、まだ若いと云ふことは云へるのかも知れない。けれど政治と歴史との理解は、やはり極めて重大ですから、僕の意見の矛盾をみつめて、自分の考へで大いに弁駁して下さい。僕も待つてゐます。

では今日は意地悪いくらいに理くつつばいばかりで、余り香しい手紙ではないが、これだけで出させよう。

幸子から謙一あて（一九四四年一月二九〜三〇日の記、一月一日の消印）

十一月廿九日晴

すばらしい上々の天気です。今日も又東京はあぶないかも知れませんね。お天気のおんまりいいのも有難くないこと。午後、廿六日附と廿七日朝の二通受とりました。第一回空襲の精しい様子解つて安心致しました。安心とは云ふものゝ、まだく、廿七日のもわかつてゐないし、唯、帝都空襲が新聞の報導（通）の様にそれ程の盲爆でない様子なので、多少安心と云ふ程度です。

今日はどうも身体具合わるく、吐気があつて、食事が進みません。これは廿日頃始まる筈のが未だなので、或はと思つて居りますけれど。なにしろ十日もおくれた事は今までありませんでした。

十一月廿日

昨夜十二時頃、天竜社のサイレンで目をさました。サイレンが鳴つても東京で聞いた程の感じはうけません、東京空襲だらうと思ふと矢張り不安でなりません。四時半ころにもう一度鳴つて、やや安心しましたが、七時のラジオで数時間に渡る波状爆撃をやつたとのこと、本当に心配です。

廿四日の空襲の話も今ごろになつて、チヨクく、あちから来た人から伝られます。何処まで本当かわかりませんが、川崎がひどかつたとか、手足のとんでゐるのを集めて何台ものトラックが行つたとか、又荏原方面がひどかつたと云ふ人もあるし、品川、大森が一番被害あつたと云ふ人もあります。何れにしても発表よりは被害あつたものと思ふ他はありません。稲ちやんからは葉書で無事ですだから安心して下さい、と云ふ至極かん単な便りがありました。

本は無事買ったのです。お金は何処から調達出来ました？ 森井さんとのお話は大変面白くよみました。白田さんの

恋人、寿岳文章の息子なんですつて。寿岳文章つて、ほんやく家でせう。お母さんか姉さんもほん訳するのでせう。たしか、ハドソンのほるかなる国、遠い昔、と云ふのが寿岳しづ子とか云つた様に思ひます。どうして臼田さんは自分の恋愛を、あなたに一笑に附されるなんて思つてゐたのでせう。あなたの事を深刻な恋愛でもした位に思つてゐたからでせうか。

それはさうと森井さんとの対話、ことに後半は面白い。森井さんの現段階が、あの対話である程度表現されてゐますね。本当に、まつてゐる、受身である事は誠実ではありませぬ。まつてゐる——と云ふ事は本当は無理なんですから。かうありたいと願ひ乍らまつ——(即ちまつ、時機とか云ふ觀念は他力本願です)のは卑怯だし、相手にも自分に対しても利己的なのです。凡ては行動を起す事によつて、解決への道も開かれてゆくのですもの。ましてや友情とか恋愛の場合は、自分が積極的に道を開いてゆくのがやなくつちや、発展はないのですもの。特に女の場合は、そんな事は男の方から云ひ出すもので、女が云ひ出すのは恥かしい事だと云ふ、昔から西洋にもあつた考へ方が残つてゐるのでせう。結局責任回避的などころがありますね。私が云ひ出したのぢやないから、私が進んだのぢやないから、私の責任ぢやないつてところがあるのね。相手の云ひ出してくる時機をまつと云ふ気持ちの中には矢張り、二人の間に対等の人間関係の欠けてゐる事を示してゐるようなところがあると思ひます。其の中には矢張り女と云ふ事にこだはりすぎるものもある。女らしくないと云ふ事を嫌ふき持もまざつてゐる。今までの女らしいと云ふ事、その概念を調べると、そこにあるものは中世的な封建的な隷属関係から生れ出たものばかりで、人間的なものは一ツもありません。又時機をまつてゐる、相手の発言で自分も感情を恋愛的に高めようとする気持は、本当のものぢやない。叩かれてから鳴るのぢやなくつて、自分の方から鳴る——何と云ふのでせうか、いはゆる共鳴ぢやなくつちやいけなと思ふんだけれど。

「無意識的で美しい行動、正しい行動、幸福な生活」と、森井さんは仰言る。それは「子供は何も知らないで無邪気だから美しい」と云つて、そこに価値を認める人と同じ事を云つてゐるようね。私は無意識の起す価値はみとめない方の側だわ。あなたの云ふ通り、意識してやることこそ、人間的正しさだと思ふ方よ。意識しない正しさは、あなたの云ふ通り持続するものではないのです。

アンネットの感想も同感です。とくに私はアンネットのマルクに対する態度の中にそれをみます。それはさうと、アンネットの事や伊藤さんの話、宮川さんの話を書いてある廿七日朝附の手紙は解封したと見え、私のところに届いた時は、とぢめの糊がまだ濡れて、ニチャ／＼してゐました。糊のかわかぬ中に届いてしまつたらしい。

昨日から風と共にをもう一度読み返しました。今度は面白くよみました。と云ふのは再建頃の南部を、南部びいきが南部側から書いてゐるのですから、K・K・Kの起つて来るところ、解放奴隷へのアトランタの町の人々の悪口の中に彼等の恐怖がまぎ／＼と出てゐるからです。トニー・フオンテーヌと云ふタラのプランターの息子が、解放局の仕事についてゐるウヰルカースンを殺して逃げ来るところ、僕はくろん坊をにくむ様になるなんて意外千万だ。くろん坊も又、全くしようのない奴等で、あの悪党の云ふ事なら信用しやがつて、僕等が昔、彼等のためにしてやつた事を忘れてゐる。若し彼等が黒人に投票権を与へたら我々はどうなるか、万事休すですよ。もう一度戦争にならうとどうあらうと、僕等は何かの対策を講じなければならぬ。さもないければ、やがて此の地方には黒ん坊の判事やくろん坊の議員が生れる!

当時南部の男達(と云ふのはスカレットのまはりの)の顔にあらはれた何か異つたもの、彼女を元氣げんきずかせる様なあるもの、同時に恐怖すら感じさせるようなあるもの――言葉で云ひあらはせぬ憤怒、何ものも止められぬ決意を見た。――と書いてゐる。プランターたちの死もの狂ひの再建防害さいけんぼうがいをそこに見る。K・K・Kの恐怖を。奴隷制度にうちかはれて来た残ぎやく性の発作を。それからタラの土地に高たか□の税金がかかつて来るところで、再建政府のプランターの土地没収策を見られるし、ジョージア辺で軍隊の力を持つて再建政府が南部の旧制度を一しゅうしようとしてゐるあたりを見、ここまでやり乍ら、もう一息出来なかつたのが甚だ残念に思はれました。

かつての奴隷たちは万有の王者となつた。ヤンキーの後押しのおかげで、一番下等で一番無知な連中が先頭だ。彼等の中でも分別のある連中は、自由を軽蔑し乍ら、白人の主人たちと同じ位苦しんでゐた。奴隷の中でも一番上等の階級に属する家働きの黒人たちは、矢張り白人と一緒にゐる。ほとんど凡ての紛争の原因を作り出してゐる「解放された無頼の黒人共」はおほむね野良働きの奴隷であつた。奴隷制時代にはさうした下等な黒ん坊は働きのないやくざ者として、家働きの黒人や庭働きの黒人たちからも軽蔑されてゐた。今では此の階級―黒人社会でも一番下等な階級が、南部の生活を惨憺たる方向に引きづりつつあつた。

南部再建が白人によつて作られて来た黒人の社会の階級の対立や、無知にされて来たため、今解放されても自力で考へられぬ人々によつても破壊されてゆくさま、再建に便乗して南部をあらゆる三百代言投機商人の跳梁、K・K・Kの地下運動等、まぎ／＼と描き出されて、今まで批評家の云つた、

南部のプランター側に立ち、深い愛惜の情をもつて、アメリカの「旧制度」を描き、南方人の痛苦と憤激をもつて描

いてゐる事は、奴隸制度の廃止はもとより至当であらうが、吾々には南北戦争を通常勝つた北部側からのみてに学び、南部諸州の声を知らなかつた」

小泉信三

「南北戦争について、従来北方の声ばかり。君の訳によつて南部の立場から描かれた南北戦争の声をきいて、宣伝はつづく必要だと思つた」

生方敏郎

の様な南部ヨーゴの気持を持たせられる正に逆に、マナサスなどで表現出来得なかつた「破壊されるべき南部の眞実」を、南部人自ら思はず告白せざるを得なかつたののだの感じを得ました。

さつとすじにつられてよめば、南部情緒に浸されて、昔の南部、牧歌的、ロマンティックな美しい側の南部にばかり目を注いで、もう一つの側の南部は知らずに通る。あの小説の唯一のインテリ、考へる人である南部の典形紳士アシユレ・ウエルクスでさへ、何処かで次のような事を云ふ。

「僕は卑怯だつた。現実を直視する事は出来ない。夢の中に逃げこんでばかりゐるのです。いはば天罰です。裸の現実を見たがらなかつたと云ふのは。僕は物事をはつきりさせる事は好まなかつた。何でもあいまいに影にしてばかりおきたかつた。戦争の前までは人生は美しかつた。目のくらむ様な美しさがあつた。しかし、これは此のごろ判つたのだけれど、人生は誰にとつても美しかつた訳ではない」。

で、アシユレはここで立ちどまつてしまふ。先へゆけないのです。先へふみ出さうと思はないのです。他のプランターのように、失はれる世界を失ふまいと云ふ、まちがつた努力もしなければ、先へもふみ出す勇氣もなく、現実から逃げだしたいと云ふのです。アシユレを先頭に、どの描かれて登場するプランター、その家族も、新しい正しい発足をする者はゐなかつた。理想化された女性メラニーも、アシユレよりはましだけれど、彼女もはつきりした考へも持てないし、善良さは唯彼女のキリスト教的博愛にあつた丈です。風と共にをよんで、人の云ふ様に南部に有利な宣伝と云ふ感じはなく、南部人によつて示された南部の不利をまさしくと感じました。そして階級間の憎悪の激しさにおどろきました。南部のプリア・ホワイトの一人が描かれてゐて、再建当時にオハラ家との対立、憎悪、復讐と云ふ形で出て来ます。スラッタリイと云ふプリアホワイトは、土地を得たし浮び上つたが、トニー・フォンテーヌと云ふプランターに殺ろされてしまひます。

それにしても風と共にの映画ほどの程度に出来たでせうね。見度かつたと思ひます。

謙一から幸子あて（一九四四年一月三〇日の記）

十一月三十日（木）雨

昨夜半から今朝へかけての、恐らく今までに一番猛烈に思われた空襲にも、僕は無事。いねちゃんも無事でせう。今朝、女子アパートへ電話をかけてたしかめました。日本橋の三越前から神田駅の方へかけてひどくやられたさうで、本室の裏の水道局のどこかへも焼夷弾がおちて、本室の宿直者が一緒に消しとめたさうです。

昨夕方、あなたへNo.30の手紙を渋谷駅で投函して、早川君の所へ訪ねました。小田急がひどく混んで、おまけに車内の電灯が消えたままで、買ひ出しの荷物をふまれたとかふまれないとか、「何云つてやんでい。そんな荷物おいとくのが悪いんよ。こんなに混んでるぢやねえか。おまけにこの電車、ヤミ電車でやがらあ」でみんなどつと笑ふと、こちらの方から「今夜はお月夜だよ。見ろよ、満月だい」「何を。電車の中はヤミぢやねえか」などとさわいでゐたものですが、本当にいい月夜で、こんな夜空襲に来るかも知れないなと思ひながら自由ヶ丘へ行つたものです。今日はお天気で始めて来なかつたので（廿八日は警報はならなかつたが、二機偵察に来たさうです）、どことなく気分がのんきでした。早川君の家では、奥さんが子供をつれて少し前からくに帰つてゐて一人でゐました。例によつて大おしやべりをして、九時半頃駅まで送られて帰りました。経堂へ帰つたのが十時半。月は雲にかくれてゐましたが明るい夜でした。それからあなたの手紙のことを思ひ、「プランティション」の第七節を一わたり読んでみて、どこが力ぬけしてゐるかを調べましたが、大いに眠いので十一時少しすぎに眠りました。そしたら夜半にサイレンが猛烈になるのです。

空襲サイレンだとすぐわかりました。雨の音がしてゐます。飛行機の爆音はきこえません。寒いし暗いし眠いしで、そのまま床の中にあると、やがてドカン／＼と云ふ風な地びきを伴つた爆発音が、たてつづけに十回もしたでせうか。どこだらうかと窓をあけて見まわすと、やや北寄りに東の方、丁度渋谷か青山の方の空が凄くまっ赤に燃えてゐるらしいのが、すぐ見えました。これはすごいぞと暫く見てゐましたが、寒いのでまた床の中には入る、すると今度は南の方角から、同じやうに爆弾の音が十回ばかりたてつづけにひびいて、ガラス戸がゆれました。やはり飛行機の音がしない。その中余り眠くてまた眠つて了つたらしい。空襲解除のサイレンで目をさまして、時計を見るとまだ五時前でした。ラジオでは「敵機南方へ退散」と云ひ、間もなく警戒警報も解除になりました。

僕は眠いのもう一寐入りして、七時少し前に起きました。コンロをもつて下へ下りて行くと、「菊池さん、昨夜はいい分お起ししたんですよ。お帰りは何時でした?」「十時半ごろでしたよ」「ああ、それぢや、丁度寐入りばなだつたんですね。十一時半ごろでしたからね、警戒警報が出たのは」「え、十一時半? 四時頃ぢやなかつたんですか?」「どういたしまして。十一時半ですよ。四時は二度目だつたんですよ。最初の空襲は十二時前から三時頃まで続いて怖しかったんですよ。菊池さん菊池さんて、ずい分大きい声でお呼びして戸を叩いたんですが、お返事ないでせう。もう防空壕へおは入りになったかとも思つて、一人下へおりましたんですが、また怖しい音でせう。ラジオが『爆弾や焼夷弾をばらまいてゐます』つて云ふんでせう。堪らなくなつてまた二階へ上つてお呼びしたんですよ。一色さん(一色一家は一日から帰つてゐました)の奥さんは大さわぎして防空壕へかけこむし、雨はふり出すし、本当にどうしたもんかと思ひましたよ。ラジオがだんく怖しいことを云ふし、バク弾の音はするし、東の空は赤いんでせう。仕方がないから、下でふとんの中にもぐつてゐましたよ。でもずい分よくおやすみだつたんですね」「いやあ、どうも。四時頃のは眼がさめたんですが、どうにも処置なしだと思つて、そのまま寐てゐましたよ。そんなに凄かつたんですか?」「凄かつたですとも。どこがやられたのでせうね。一色さんの奥さんのさわぎやうたらないんですよ。どうしませう」と云つて、うろくしながらさわぐのでせう。一色さんぢやさわぐにきまつてゐると思つたもんですから、警戒警報ではお知らせしなかつたんですよ。お気づきにもならなかつたらしいですよ。空襲ケイホウが出たからお起したら、あんのじよう大さわぎでせう。いやになつて了ひましたよ。そして今朝早く、もう御殿場へお帰りになつて了ひましたよ」「へーえ。早いですね。そんなさわぎだつたんですか。ちつとも知らなかつたなあ。もうぢき電話できいてみませう、どこへ落ちたか」。

コンロだけ起して、外食券で近処の食堂へ朝食をたべに行きますと、二、三人食べながら話してゐました。「凄かつたね。おばさん。おれんちなんかゆれたぜ」「あたしや始めのサイレン知らずに寐ちやつてたんだよ。ひよいと眼をさますと、とうさんが窓をあけながら何時ごろだろな、つてんだらう。何だねえ、電気つけてみれやいいぢやないかつて云つてやつたらさ、何てやんでい、空襲警報出てんだぞう、てんでせう。あたしやたまげたねえ」「おれ、起きてたけど、寒いんだらう。眠つちやつたよ」「あたしもはじめ防空壕へは入つたけど、雨で下からしめつてくるし、やになつて部屋へ帰つてふとんかぶつてじつとしてたよ。どこへ落ちたんだらうね」「あつちの方、すぐく赤かつたね。火柱立つたよ。凄かつたなあ」「かなわんなあ。夜なんか来られぢやなあ。毎晩来られぢや身体がたまんねえや。おばさん、おれ

におつけおかはりくんな。ガラ／＼とは入つて来た十五、六の少年が「こわかつたなあ。日本橋と芝とやられたつてよ。はじめの、日本橋だつてな」と云つたので、こりや大分深刻らしいと思つて、食べ終るとすぐ帰つて、本室へ電話してみました。電話は通じて杉本老人(會計)らしい声なので、「モシ／＼こちら経堂分室ですよ。日本橋やられたつてきいたんですが無事ですか」「ああどうも。こちらはおかげで助かりましたよ。三越の前の通りから神田へかけて焼けてゐますよ。ここちや裏の水道局の中へ一ぱつ焼夷彈落ちて、あたしたち四人も手伝つて消しましたよ。四人宿直したんですよ。あたしや杉本だが、あなた菊池さんですね。どうもひどいことでしたな。おかげさまで無事でよかつたですな。上北沢も無事でした。これから理事長へ報告するところです」「ぢやよろしく」。

それから大塚の女子アパートへかけて無事と知りました。谷川君を最初に白田君以外の全員出て来て、しきりと空襲ばなしです。僕は手紙。雨がふつて寒くブルーズをきてゐます。コンロに足をあぶりながら。今、廿八日のお手紙受取りました。

ブランドスは歴史の洞察と云ふ点では大したことないのだと思ひます。テーヌでもブランドスでも、歴史はよく知つてゐるが、歴史の原動力、歴史の主体を明確につかんでゐないのです。だから洞察がない。バルザックの「カトリヌ」の方が余ほどすぐれてゐると思ふ。あなたがブランドスのノートを読み返して失望したのは、ノートのとり方にも欠陥あつたかも知れないけれど、あなたの理解力が進んだことのあらはれだと思ひます。とにかく今あなたの方にも欠陥現実理解力は、本当に洞察のある著者かどうかを相当よく見分けられるにちがひない。少し前のあなたは、自分の知らぬことや自分と同じ意見などが出てくると、それだけでいはば喜んでしまつて感激もしたかも知れない。だがもう、そんなプリミティブな理解では満足出来ないまでに成長してゐるのです。だが歴史洞察力は、歴史的现实をより広くより深く学ぶことによつて、不断にきたはれて行かねばならない。その意味で、事実をひろく書いたもの、例へばブランドスやテーヌなどもいいと思ひます。アキイラの戦ひはお説のやうに大したものではないでせう。

さて「ブランドション」の第七節ですが、読みなほしてくれましたか。あそこで僕はニューデイルの本質を描き出したのです。それは誰もやつてゐないのです。恐慌の進展、国民の不満、金融資本の狼狽と反動化、その中間のニューデイル、これをブランドション的南部を中心に、歴史的運動に於て描き出し、ニューデイルが国内政治の波動、金権主義と国民との力と力との対立抗争の断面からあらはれて来、その急進化と後退とは、国民の圧力の増進と減衰との交替を反映する、さう云ふ現代史の断面を展開してみせたのです。そして僕の歴史叙述の将来の方向は、かうした

ところにあるのです。南北戦争の原稿（独立戦争まで）もその歴史叙述の一つの試みです。歴史を歴史的運動の波のまに再現すること、しかも歴史現象の再現に常にその歴史的主体、歴史本質、歴史推進力の内面的脈絡をつかみ出し把持しつつ。これが第七節の全体で試みられてゐるのです。かう云ふ歴史叙述は、個別的現実から一定の距離をとらないといけない。個別的現実でなくて、それらを一つの大きい歴史の運動としてつかむのですから。それが力ぬけ、冷淡ととられたかも知れない。歴史的叙述は歴史的現実を冷厳に示さねばならない。そこで主観的感情を出すと、昔よくあつたやうな歴史になるのです。

こちらで僕の「プランテーション」の全体を通じて、問題のあるところ、僕の歴史論の主張を含めてゐるところ、僕のオリヂナリティとして自負するところを説明しておきませう。緒論では、先づ「プランテーション」の定義(一)(二)（資本経営と云ふことと前資本制的労働と云ふこと、そして後者に全問題があると云ふこと）は僕の独創です。註4を見て下さい。そしてこの定義から、全論旨が展開されるのです。この基礎概念も、僕が簡単につかんだものでなく、昭和十七年から昨年秋まで、一年半あれこれと考へて、あそこまで達したのです。次に、かかるものとしてのプランテーションが資本の歴史といかに結ばれてゐるか云ふことの素描も、僕独自のものです。アメリカ史とプランテーションとの関係(四)は、僕が今度全面的に書かうと思つてゐる最もオリヂナルなところでは、これは前にもしばしば云つたとほり。独立戦争とプランテーションのあたりなんかは特にさうです。プランテーションを前期奴隷制、後期奴隷制、クロッパ制の三段階に分け、前期奴隷制を更に十七世紀と十八世紀（白人年期奴隷制と黒人奴隷制）とに分つたのも重要なことです。殊にアメリカのプランテーション制が、アメリカの帝国主義化と聯関することの問題提起も重大です。(五)も、人種的偏見が奴隷制に起因することの指適^種は注目されていい苦です。(六)は簡単な素描で、之は他に誰もやつてゐませんが、特に自負するほどのことではない。ただポピュリズム運動とターナーの「フロンティア」と、そして南部問題とをむすびつけたあたりは注目されていいでせう。(七)は、之も無論誰もやつてゐないし、興味のあることだから、その意味でも関心をもたれていいが、ここでローズヴェルト及びニューディールの本質の問題提起があるので重大です。そしてこの(七)がより全面的に第二章第七節で展開されるのです。

要するにこの緒論は、全体にわたつて問題提起にみちて居り、どこにも僕のオリヂナルな思索があつて、借り物は全然ないと云つていいのです。註を見て下さつても、そのことはわかるでせう。そんな風なので、僕がこれに力入れたかを御察し下さい。しかるに気負ひすぎて、もつとわかりやすく書けたのに、こんな重たいものにしたのは本当に残

念なんです。

第一章は概観ですから、(一)の地域対立の歴史的素描だけが力の入れどころで、あとは数字が主です。数字では殺人件数を出したことが、職業構成をうきぼりにしたことぐらいが目ざされるところでせう。

第二章第一節は、アメリカの農業をこんな風に書いたものは他にないでせうが、これは本論全体とそんなに重要な関係にないので、やや冗長すぎたと思つてゐます。こんな風なアメリカ農業の歴史的展望は、僕は面白いと思つてやつたが、経済学者からは文句が出るかも知れない。ここで幾分よりどころにしたものは実はソヴィエトの論文です。尤もそのよりどころと云ふのは、アメリカ農業の海外市場依存と国内市場依存との交替についての示唆で、それを僕はアメリカ農業の歴史的運動へあてはめてみたのです。(二)(三)は、ロチェスターやその他に依存するところ少くないが、やはり全体としては僕が独立に書いたもので、別に新しい独創的意見は含んでゐないが、相当いい統計をつかつたつもりです。之等に於ても僕は、ただの農業の歴史でなく、農業を歴史全体の中でとらへやうと苦心してゐます。

第二節は、問題の析出であつて、抜くことは出来ないが、それ自身に独立の意義は少い。たゞ農業経営構成の州別統計は長いけれど、よく見ればずいぶんな事を知るでせう。第一節第二節は、結局問題を導き出す過程ですが、これが冗長すぎたのです。もつと問題は直載（直載）に導き出すべきだった。ここでテンポがにぶつてゐます。

第三節ブラック・ベルト、之はアレンの *Negro Question* に専ら依つた。ここにはアレンの展開した非常に重要な、且つ中心的な問題はあるが、それはどちらかと云ふと政治的なので、簡単にしました。之はアレンのものをもつと検討して将来発展させてみたくは思つてゐる。

第四節、之はアレンにもウーフターにもブレネンにも一通りしかない。ここで僕の分析は漸く本格的になる。(一)(二)(三)は共に従来研究成果によつて総合的に説明したものが、ここでのクロッパ労働についての性質規定は、他の連中よりはつきりしてゐると思ふ。(四)は相当オリヂナリティをもつ。クロッパ労働を奴隷労働の遺物的形態としてはつきりさせ得たと思ふ。この辺からは数字によらず、形象的に把握しようとした苦心が出て来てゐる。ギャング・システムと家族割当制の問題も、僕のやうにはつきり設定したものは外にない（奴隷制時代はあるが）。プランターの三つの型も、正しい析出だと思ふ。之はスピヴァクのおかげだが。とにかく(四)(五)(六)は本書の中心的な部分で、僕も凡ゆる手段で努力したが、元来甚だ資料の適当なものなく、あれでせい一杯です。本当なら自分で直接調査せねばならない所です。

(七)前貸制度と労働の強制制（制）とを、どちらを先きに書くべきか、さう云つたことについてはまだ異論あるが、まづこの辺

で満足する外ないでせう。(A)の概括は、数字とブレネン等の結論と、大プランターの言とクロッパの言とでしめくくつて、成功してゐるのでないかしら。

第五節は、テーマとしても僕の独創です。第六節も同様。第四、第五、第六節でクロッパーパーンティション制度そのものを、その現実を、凡ゆる角度から分析叙述したのを、第七節で、歴史的運動の中で総合してみたのです。この第七節があつて始めて、第四、第五、第六節は歴史の中で、普辺（普通）の中で意味をもつてくるのです。また之等諸節では常に、歴史的なものと論理的なもの、個別的なものと普辺（普通）的なもの、形象と抽象、之等をディアレクティクに交替展開させ、歴史的運動のディアレクティクを再現しようと企図しましたが、そのことは第七節で最も直接の課題になつてゐるのです。もつと書くつもりで書けなかつた。おひくく書いて行きます。

その後人々の見て来た所によると、日本橋の江戸橋の通り（三越前の通りの向ふ側（側））がずつと数百軒から千軒、すつかり焼尽し、石造の家だけ残つてゐるさうです。それから神田橋、錦町河岸、鎌倉河岸等一带数百軒。他は鳥居坂、浜松町、大門の方面一带、本所方面等です。知つてゐる人には被害（被害）さささう。朝になつても午後になつても燃えてゐるさうです。青山は罹災者百五十人ださうです。

幸子から謙一あて（一九四四年一月三〇日の記、二月二日の消印）

十一月廿日夜

往診から帰つたお父さんの話では、廿四日の空襲では原宿の東郷神社、新宿、世田ヶ谷に爆弾の被害が有つたとのこと。あの原宿の家にゐたら爆風でふつとんでゐたでせうね。そんな話を聞いたら、又々恐くなりました。

今朝（廿日未明）のも波状爆撃だつた相ですから、どうだつた事でせう。此の調子では、毎日く心の休まる時なく心配してゐなくてはなりませんね。夏なら家を失つても凌ぎ様もありますが、此の寒さに向つては耐れられませぬね。どうぞ無事であるよう（や）、せいぜい何かに向つて祈る他はありませんね。今夜は□（氷）雨の様な淋しい雨の夜です。どうも気のめいる様な重苦しい気持に落ちこみます。どんな不安にも心配にも耐へて生き抜く事が出来る様に、自分をげます様にし度いと願ふのに。

これから第七節の九と一〇のノオトです。プランティション制度と云ふ致命的な病気をえぐりとらず、A・A・Aだの

リハビリテーション、リセットルメントだのB・J法案だのと云ふ湿布や膏薬療法では一時凌ぎで、根本療法ではありませんね。それにしても再建時代にうつかりと見のがした病根は、何と大きく成長してしまつたものでせう。今では半身を切りとる外科手術の他はありませんね。

では今夜はこれでやめませう。それにしてもあなたが早く安全なところに仕事を移せたらどんなにいいことか。これからもつとくいろいろな形でやつて来るであらう苦しみを恐れて尻ごみしてゐるのか、何だかよくわからないのですけれど、一若しさうなら尻ごみせず敢然と凡ゆるものを受けいれる姿勢になれるまで、あなたとの確信的な生活を得たいものだと思はずにはゐられません。あなたの今の生活を無理にこはすつもりはないのですけれど、あんまり心配でやり切れないんです。これも結局苦しみを避けたいからでせうか。あなたと一緒に相場の困難も耐えてゆけるだらうと思ひますが、一人ではまだく自信がありません。でも、其の事で気を使はぬ様にして下さい。自信の持てる方向へ、一生懸命にゆくつもりはあるのですから。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一日の記）

十二月一日（金）曇

昨夜は冷雨もふりやまず、風が戸をゆすぶり、こんな夜また敵機が来たらずい分憂鬱だと思ひながら、非常袋に粉や米や重曹、塩、ササゲ豆等の食糧をつめ、救急箱を用意し、小さいトランクにはローソクとあなたの手紙と切符や通帳、僕らの原稿等をつめ、頭布、鉄カブト、防空服、時計等を枕元において、非常用意オサく怠りなく、雨戸もすつかりしめて十時頃寐ました。来るか来るかと思つてゐたが幸ひ来ませんでした。

一昨夜の何千或ひは何万の罹災者は、あの雨の夜をどんな思ひにすごしたことでせう。昨日の夕方、手紙No.31を出しました。日本橋通りの片側が白木屋の裏から江戸橋、昭和通の向ふを含む広さで今川小路辺までなくなり、神田橋から錦町河岸までが原つげになると云ふ空襲を、殆ど知らずに寐てすごしたことはやや異常だつたらしく、誰もが人づてにきいた人も含めて、「いい度胸だ」とほめるやうな呆れるやうなことを云つてゐます。それほど凄くて大ていの人が防空壕の泥まみれになつたのださうです。だから昨夜は良心的に準備したのです。

ところでこの空襲で、どうやら僕の「ブランテーション」の運命もはかないことになつたかとも思はれます。と云ふの

は、小川町は大丈夫ときいたが、一応伊藤書店の鶴田君に見舞電話をかけたところ、「無事です。だが之以上は電話で云つちやいけないんです。それより来週始めにおうかがひしたいがどうでせう」「ああ結構です」「実は『プランティション』の出てくるのがちよつと遅れさうなんです」「いつ頃になりますか。今年中には出ますか」「それがちよつとむづかしいかも知れないんです。そのおわびかたがた、とにかく来週お伺ひしませう」「ぢやお待ちします」と云ふ風な具合だったが、その時僕は、紙型か紙が焼いて了つたのぢやないかなと感じたのです。とすれば、こんな風な空襲がまだ続くことを予想して、プランティションの出版は殆ど絶望的なやうに感じる。空襲が来はじめるまでに何とか出版までこぎつけてほしかつたし、鶴田君もしきりと急いでゐたのですが、いかにせん、印刷やその他の僕達にどうにもならないことで、今の時局では間に合ふことも許されなかつたのでせう。多くの人々も、今の僕と同じ思ひにあるのでせう。やりたいこと、いのちをかけても実現したいこと、に蹉跌して。

だが、そんなことより、何千何万が家を失ひ、幾人かは家族や自分の生命をも失つたのだと思ふと、僕の悲しみはまだまだ軽い。まだすつかり絶望と云ふのではないが、たとひ絶望であつたとしても、あれを書くことで自分を成長させ、あなたとの結合をも深め、あなたの認識力の成長にも役立つたとすれば、それだけでもよかつたのでせう。ましてや、今となつて、いろんな所に不満が出来、書きなほしたいところも多いのですから、将来の時代に完成出版出来るやうに、新たに勉強すればいいのです。さう考へて、最悪の場合も立ち直れるだけに気をとりなほしましたから御安心あるやう。今日の雨は、空襲に家を失つた人々にどんなに無慈悲な雨のことか。今夜も十分に準備して寝ませう。睡眠不足の感です。一昨夜はぐうぐう寝たが、昨夜は二、三度眼がさめました。臼田君も一週間ぶりにあらはれました。

「すつかりすんだ？ お葬式は？」「すつかりすみました。でも納骨は今出来ないですよ」「大変だつたでせう。人が死ぬことは簡単だが、一人一人死んだあとのことは甚だ複雑で面^{めん}仆^{ぼく}でせう」「でもそれより空襲大変だつたんですね」「君は高崎でおじけづいて帰れなくなつたんだらうと思つてゐた」「あたしのあのこともすつかりすみましたわ」「あの事？」「彼とのこと。やつぱり駄目なの。あたしの気持も考へもわかつてくれないうですわ。わからないつて云ふんですもの」「ふうん。どうわからないんだらうな」「でも、あたしとてもさつぱりしたわ。失恋と云ふ感じしないわ」「森井さんと此の間も話したんだがね。彼女はあんたがなやんでゐるのは、苦しむのがいやだからだと思つてゐたんだ。つまり君が彼氏とまだびつたりしないままに結婚するとすれば、苦しまねばならないだらう、その苦しみがいやだから思ひ切つて結婚出来ないでゐるんだらうと、かう云ふんだ。僕はさうは思つてなかつた。君は彼の感情にも自分の感情にもはつき

りしないもの、納得出来ないものがあつて、さう云ふ気泡がある限りは本当の結合が出来ない、その気泡がどんなものなのか性質がわからなくて苦しんでゐる、なやんでゐる、ためらつてゐる、とかう思つてゐたんだ。さう森井さんにも云つてみたんだがね」「そりや菊池さんのおつしやる方が本当ですわ。あたしはこの九月以来、彼の愛情にもあたしの愛情にも疑問が出来て、どうにもそのまま結婚する気にはなれなくなつたんだわ。でもお手紙を書いて、はつきりわかつたの。そして彼から、あたしの気持ちに無理解な手紙を受つた時、すつかりすんだ気がしたんだわ。ところがあたし、その返事を受つて、何ともなかつたのよ。ショックも何もなかつたの」「そりや君はその返事を知つてゐたんだよ。君が手紙を書いてゐた時、すでに君の気持はきまつてゐたのさ。だから君の手紙自体が、もうその返事を予想して書いてゐたと云へる。それを僕は警告したんだがなあ。手紙の書き方を注意したらう、あの時。慎重に書かんといかん、相手に反省させるやうに、相手の感情を刺戟しないやうに、事態に必ず余猶よこごをもたせるやうに、だんく／＼互ひに歩み寄るその足場を用意することを忘れないやうにと。ところが君は一しや千里みたいに書いてゐたね。危いなと思つたんだ。僕は君達の間にも矛盾があれば、それはほつておかないがいい、あいまいははつきりさせる、そしてどうしてもいかんのなら解消する、と云ふことには賛成だが、それまでに凡ゆる角度から凡ゆる方法で、折角それまでに至つた人間関係を検討し、その実現に誠意ある努力を尽すことを正しいと思つたんだ。判断は君がやる。僕は判断の方法と規準とを示唆する。それにしても一回ぐらゐの文通ぢや駄目だよ。もつと相手を説得すると云ふことを考へてごらん」。

「駄目ですわ。そりや彼の方は決定的な文句はつかつてはゐないわ。でもあたしはすつかりすんだと感じてゐるの。そしてね、とても解放されたやうな、何だかのびく／＼したやうな、視野が広がつたやうな感じがしてゐるのよ。今まで何だかとても囚はれて来た感じよ。あたし、いはば失恋したんでせう。それにちつともそんな気がしませんわ。むしろ何だかあたし強くなつたやうな気がしてよ。独立独歩で云ふ感じよ。勝つたて云ふ感じね。実際あたし、兄が死んで、本当に独立してやつて行かなくちやならなくなつたんですわ。そしてね、今までのあたしが本当に、菊池さんのおつしやつたやうに甘かつた、イージーゴーイングだつたてわかつたわ。何だか脱皮したんだわね」「さうかも知れない。一つ卒業したんだな。だがね、君の今の体験をただ簡単に脱皮せず、どこに矛盾があつたか、どこにかくなつた理由があつたか、を充分反省することが必要だよ。今、君の精神は君自身に対する勝利の感情で、非常にエネルギーに充ち躍動の姿勢にある、一番活動的なポーズにある。それを以ていろんなことを充分考へるんだ、人間と云ふもの、人間関係と云ふもの、自分と云ふもの、社会と云ふもの、そして歴史と云ふもの。そしてさらもう君に甘いなどとは云はないね」

「エルステ・リーベ・イスト・フェルロールネ・リーベて云ふんですつて。どうつづるんですか」「エルステ・リーベ（初恋）はわかつてるだらう。フェルロールネはファウ・エ・エル・エル・オ・エル・エヌ・エ Verlorne（失はれたる）さ。エルステ・リーベと云ふのは女なら大てい十五、六から二十前後、男なら二十から二十四、五の間によくある。それは観念的な要素が強く、大部分は失敗する可能性が多い」「そして初恋の失恋と云ふのはそんなにいつまでもあとを引くものでせうか」「さうとは限らない。二つのありかたが考へられる。初恋を止揚してツヴァイテ（第二の）リーベに本当のよきリーベをなし得た場合は、エルステ・リーベは決して悪いあとを引かない。所が大ていは、エルステ・リーベに余りに理想主義的な観念的なやりかたをやつて失敗するもんだから、そのあとで逆も卑俗になつて現実と妥協してしまふんだね。それは敗北だ。敗北者に対しては初恋の失恋は長くあとをひくことになる。君が今勝利者として出て来たのなら、大したあととはひかない。たか／＼淡いセンチメンタリズムを感じるぐらいだらう」「さうでせうね。でもふしぎよ。少し前まであんなに、三年間もあんなに想つて来たのに、あの手紙を書いてからは、それまで想つて来たことがふしぎなほど、感じが退いてしまつたのですもの」「だから僕が云つたらう。本当のリーベは一方だけでは成立するものでない、相手が自分を欲求しないのに、こつちから相手をリーベとして欲求することはあり得ない、一時的にさう云ふことはあり得ても持続しない、本当のリーベは相對給附だ、そしてリーベの段階が深くなれば、相手が自分を欲するか否かが自分の相手への欲求に実に微妙に反応するものだ。しかし、君は勝つたが、竹中君は駄目だよ、どうやら」「あら、あんなにこの間、延期すると云つたのに」「云ふだけなら何とでも云へるさ」「竹中さんにお話する時は、あたしがゐる方がいいんぢやないでせうか」「さうでもなからう。その点は彼のいい所だ、さう囚はれてはゐないよ」「さうかしら」。さうかうしてゐる所へ、驚くほど着ぶくれた竹中君が、今日は少し遅くあらはれた。

「おや、白田さん、帰つたの」「それより君のこと話してゐたことだよ。しつかりしてほしいつてね」「うん、あれか。その中君にすつかりいきさつ報告するよ、どつちになつても」「報告なんか問題ぢやない。本当によく考へてしつかり行動するんだな。それより疎開のことぐらゐ考へた方がいいね。かうなれば結婚どころぢやないだらう」「さうなんだ、両親を疎開させたいんだ」「そしてね、僕も、君の嫁さんのかはりに君の両親の世話をみてくれる人をさがしてみようと思ふんだ。どうしてもそんな変な結婚しないやうにね」「うん」「竹中さんもあたしとよく似てゐらつしやるわ。イージー・ゴーイングなんぞでせう」「さうだな。どうしてもさうなんだよ。それが性格なんだよ」「さうぢやないわ。だつて、イージー・ゴーイングであると同時に、そのことに抵抗も感じるでせう、イージー・ゴーイングはいけないと云ふ反省よ」

「うん、さうだね」それがいいのよ。その面をもつと強くするんだわ。あたしも今度はさう云ふ風に行動したわ。そしてら逆も自信がついたわ。竹中さんもやっつてごらんさいよ」「さうだよ。臼田君は自分のリーベの問題を自分の力で解決して、世界が前よりはつきりわかるやうになつたと云つてるんだ。君だつてさうだよ」「うん」。

「僕はね、リーベくゝて云ふが、決して恋愛至上主義ぢやないよ。大体恋愛至上主義と云ふものは、芸術至上主義同様前世紀末以来の、歴史の主体としての自信を失つたプッチブル・インテリのイデオロギーの一つのあらはれだ。未婚の人間の恋愛と云ふものが世界の文学にあらはれた歴史を考へてみるのも面白いよ。イリアッドやオデッセイでは、さう云ふリーベは余り大きくはあらはれない。イリアッドの原因はパリスとヘレンの恋だが、ヘレンは人妻だし、イリアッドの中では、二人の恋愛のモメントは殆ど出て来ない。それよりアンドロマイとヘクトル、ヘカベとプリアムスのやうな、夫婦の恋愛感情の方が重要だ。オデッセウスでもオデッセイとペネロピとの夫婦愛が主要モメントだ。ナウサイケアとのリーベは美しいけれど、まだ中心的テーマぢやない。それからピンドロス等の抒情詩は別として、ギリシヤ悲劇に來ても、やはり夫婦愛が主だ。之はさまざまの人間関係の最も重要なものとしてあらはれる。所が恋愛が人間関係の最も重要なものとしてよりも、特殊なものとしてあらはれるのはユーリピデスに於てだ。このことはギリシヤ民主主義が爛熟して、もはや歴史的前進運動として顕著な姿にあらはれなくなつたことを意味する。かう云ふ時代は所謂社会問題、問題劇をうみ出す地盤らしい。それはまたヴィナスがだんくゝ着物をぬいで行く過程でもある。ヴィナスは生む神から、だんくゝ恋愛の神になる、美の神になる。プラトンの恋愛、プラトニック・ラヴもこの時期のものだ。だからプラトニック・ラヴの耽美的傾向を、ダンテのビアトリイチェに対する恋愛などは峻別しなくちやならないのぢやないかな。外見は似てゐるが。第一プラトニック・ラヴの対象は本當の意味の女性ぢやない。此の時期の女性はまだヘタイラか全然社会生活をもたない人妻だからね。ビアトリイチェの近代的形象とはまるでちがふ。丁度プラトンとダンテとちがふやうにね。それからアレキサンドリア時代を経てローマ時代に入る。すると例のエネアスとデイドの恋だ。之はアントニオとクレオパトラの恋を頭においてゐたらしい。ここでは明かにリーベのモチーフは、政治的モチーフと背反し、悲劇的な壮大さで後者のために克服または屈服させられる。テレンチウスなどの家庭劇には、まだリーベの恋愛道德の本當の昂揚はない。ローマではやはり本當の恋愛道德は、ギリシヤ程度にも独立的にあらはれなかつた。帝政時代などは全くヘタイラ的なリーベしかなかつたらう。中世はキリスト教的ストイシズムで、恋愛感情圧服の時代だね。中世末紀の騎士物語あたりから、恋愛は極めて観念的に、また余り切実でない姦通と云ふ形で、お人形のやうにあらは

れ始める。

それからダンテだ。ダンテのピアトリイチェへの恋には、理想主義で抽象的にされてゐるとはいへ、真の人間関係、真情としての恋愛道德の偉大な昂揚がある。之は中世から近世への転換の進軍ラッパのやうだ。またフランチェスカとパウロの恋は、中世の騎士の姦通ではもはやない。それは形式ではそれに似てゐるが、内容では市民の人間の真情の熱烈な、ローマン的な発揚だ。だがそれは公的歴史的运动と必ずしも合致しなかつた。そこに恋愛至上主義的要素があつたのだ。だからダンテは之に満コク(ミ)の同情を感じつつも否定したのだ。地獄の空をはてもなくひょうくくと旋回する怖しい旋風の中へと否定したのだ。ポッカチオ、ペトラルカ、またはチョーサーになると、市民的人間関係、市民的モラル、人間解放のモラルとしての自由な恋愛が開化する。だが之はまだ歴史と共にたたかふ戦斗(ム)的なものとしてかどうか。ところがシエクスピアになるとすごい。「ロミオとジュリエット」で恋愛は、全封建的モラルとの真向からの斗争、従つて歴史と真に一体になつてのリーベの昂揚がある。このリーベは偉大になる。市民的リーベではあるが、既に全人類的に（歴史との合致によつて）昂揚された人間的リーベがある。カルデロン、ローベ・ド・ヴェーガ、セルバンテス等にもそれがある。かくの如きルネサンスの恋愛、封建的モラルと近代的人間解放モラルとの純粹な斗争の最も重要なモメントとしての恋愛は、若干の消長を以て、ヴォルテール、レッシング、ゲーテあたりまでつづく。その間に宮廷的なサロンの恋愛モラルが、ポッカチオなんかの市民的なそれによりも中世的騎士物語のそれにつながるモラルが、エフタメロンやクレヴの奥方や、フランス古典劇にあらはれ、ポッカチオの純粹の延長はモリエールなんかに発展させられる。モリエールにはシエクスピアの市民恋愛劇、ロミオ劇と區別出来る、例へばウインザーの陽気な女房式のもの、との共通のものがある。

十九世紀に入るとブルジョアの恋愛小説がはじまる。バルザックはその最大のものだが、バルザックでも、少女と少年との恋よりも、もつと複雑な人生關係の一部としての既婚者の恋愛の方が重要だ。それはちよつとギリシヤ時代に似てゐる。だがバルザックでは、既婚者や青少年女のリーベが封建的なものと斗ふと共に、ブルジョア的な金銭主義との斗ひを重要なモメントとしてもつ。そしてそこには何等恋愛至上主義はない。かくして十九世紀後半の恋愛至上主義時代に入るのだ。ブル・インテリの歴史的基础喪失と共に。尤も遅れたロシアでは、アンナ・カレニナのやうに、バルザックより前の段階の、ルネサンス的、中世騎士道的、それから十九世紀末的な諸要素の渾然ある融合がある。だが、この時代の文学の主流、フランスでは、恋愛小説の黄金時代ぢやないかな。そして夫々には恋愛至上主義的なものがあらは

れて来てゐる。恋愛者は歴史から遊離する（ドイツのヘッベル、ルードヴィヒはレッシング、ゲーテの延長的要素がある）。他方、ユーリピデス的な問題劇が、イブセン等にあらはれる。ロマン・ローランすら恋愛至上主義の影響から脱しきらない。アンネットにはさう云ふ所がある。尤もアーシャとかジョルジュとかに、さう云ふ影響を脱したモメントの成長も見られ、そこにロマン・ローランのえらさがあるんだらうが。とにかくアンネットは女的すぎる、……」（以下省略）。

幸子から謙一あて（一九四四年二月一日の記、二日の消印）

十二月一日

廿七日附、廿八日附、お便り落手致しました。

廿七のは、鎌倉であつたのですね。本当に此の頃は、一寸も外へ出られませんか。何処であふかわかりませんが、本当にみつちやんたち、お気の毒でした。雨の日などに背負つて出ない様に、此の前行つた時注意したのですが、家に置いてゆくと、ねずみに噛られると云つて、ききませんでした。ねずみの被害よりも肺炎の方がずっと危険ですね。それに、ひるま下に人がゐる時、ねずみが出て来るなんて、めつたないと思ふけれど。今更云つても、し様がありません。

あなたのおなかの様子はもういいのですか。此の頃は一度おなかをこはすと、一週間かかりますから恐いですよ。内藤嬢から手紙が来て、海軍館東郷神社に直撃弾が落ちたと書いてありました。青山五丁目の両方の爆風と焼□弾で、もと私たちのゐたところは、どんなになつたでせう。ぞつとします。

今日は、昨夜からねあせと熱でなやまされ、目が□□くくするので、一日何もせず、本もよまず、ぐうぐうねむつてばかり。滝の川の夏時代、私がよくぐうぐうひるねばかりしたのでせう。あんな具合にいくらでもねむれます。どうも今度は確実らしいの。今度は気持もきまつてゐるし、多少の経験もあるし、人手もある事ですから、一寸も心配せず安心してゐられます。本当に楽しみになります。身体も随分抵抗力が出て来ました。唯、それまでにあなたが安全なところに移れば申分ないのです。もつとく慾を云へば、無事に生れて、一緒に育て上げる事が出来ればね。

夕方、一寸起き出して食事にゆき、二階に戻つて手紙を書いてゐるところです。今日は勉強も読書も休みです。たつぷ

り睡眠をとつて、風邪を追ひ出すつもりですから。では今日はこれでおやすみなさい。御ぶじを祈り乍ら。 幸子

謙一から幸子あて（一九四四年二月二日の記）

十二月二日（土）晴

お天気だと気の重さもやや軽くなる。

郵便受けに失望。僕のは届いてゐるかしら。廿六日夜からずっと連日出してゐますが。警報が出るかも知れないので、今日はやや早目に野菜を買ひに行きました。小包みは今日も多勢並んでゐるので出しそこなひました。

麦のみのる頃から、陸稲、いも、も過ぎて、土の黒さの目立つ初冬まで、見なれ歩きなれた例の道を歩きながら、「武蔵野の秋をしんみり味ひたかつたけど、何やあはただしかつたねえ。もう落葉や」と西井君。「武蔵野の秋の名残りを、秋雨の防空壕でしんまで冷えるほど味はつたんぢやないか。それにしても今年の秋は、天は高かつたかどうかわからぬいし、馬も肥えたかどうか知らんが、少くとも西井君は肥えたね」「本当や。十七貫ぐらゐかな。肥つて困るほどや。僕は上半身が肥る」「大八木氏（百姓）のおかげだね」。その大八木氏、今日も僕等の姿を見るや、大きなかぶらをとつて来て五貫目くれました。「嬢ちゃん、ええものたべてるね。どうしたの、そのパン」「もらつたの」「誰に?」「ケンちゃんに」「ケンちゃん? ケンちゃんて誰やね」「あれ」「配給のパンか」「ちがふ。も一つあるよう」「ええパンやね。家でつくつたんやないね」「学校でもらつたんだよう」「ああ、学校か。学校はええもんくれるね」「西井君、そんだけ肥つても、子供のパンまで気になるらしいね」。大八木氏の倉にはいもやその他の俵などがなくなつて、疎開荷物らしいのが天井までつまれてゐる。「あれえ、疎開らしいね。どこのだらう、帳簿だね。カハシマ商会か」「何だつてカハシマ。兜町ぢやないか。やつぱりさうだ、有価証券取引帳なんであるよ。危いと疎開したもんだね」。

お昼は、僕（マメ御飯とトロコンブ）、竹中（弁当にごましお）、堀江（弁当にいろんなおかず）、白田（弁当、煮コンブのおかず）の四人で、コンロをかこんで日なたぼっこしつたべる。食後、話はいつの間にか例のところへ。例へばこんな風に。

竹「本を少し疎開するから、どこかへおいてくれるだらう」「どこでもいいよ。あいてる所へおきたまへ」。白「竹中さん、バルザックを疎開なさいよ。そしてあたしに読まして下さいな」「さうだな」「あたし拙もバルザック読みたいの。

何から読んだらいいでせう」「それや、いろ／＼あるからな、何がいいかな。幻滅もいいな。だけど無神論者のミサを
読んでごらん。短篇だ。君はまだなんだらう」と竹中君へ。「うん。幻滅は読んだよ」「森井さん、あたしのドストエフ
スキー全集買っちゃったわよ」「森井さんはドストエフスキーが好きだらうな」「あら。まだ読んでるらつしやらないん
ですよ」「そいぢや好きになるだらうね。わかるよ。誰は何を好きがるかが。竹中君なんかドストエフスキーだな」「さ
うだな。だけど僕はバルザックもすきだよ」「君のやうにあまいのにはバルザックのよさなんかわかりやしないさ。も
つとまじめにならなきや、バルザックやシエクスピアはわからないよ」「さうかも知れないね。だけど僕はね、バルザッ
クには理想的な人物が出て来ないのが好きだよ」「変なこと云ふなよ。バルザックには偉大な人間はいくらでもゐるよ。
無神論者のミサのデプランや水汲み人夫、田舎医師のブナシス、絶対の探究のバルタザル・クラリス、幻滅のダニエル・
ダルテス、ダヴィッド、ジョセフ・ブリドゥ、ピアンション、ルイ・ランベエル、追放者の中のダンテ、その他女にも
男にもずい分あるよ」「だけど僕はダニエル・ダルテスカ、あれよりリュ何とか」「リュパンブレか、リュシアン・リュ
パンブレだらう」「さうだ、あれの方がすきだ」。

「君の好きさうな型(タイプ)だ。君は健康なものが好きぢやないんだ。ドスエフスキー下脱なんか好きなんだ。ドスト
エフスキーのいけないことは、廃残者を芸術的輪光の中へ美化したことだ。しかも彼の廃残者は、本当の意味の廃残者
だ。たたかひに敗れ、たたかふことをやめた廃残者、歴史がもはや容謝ゆるみなくそれをのりこえて行かねばならない廃残者、
へ必要以上の同情を示して、事実上人生の廃残を甘やかし、従つて歴史の眞の方向を歪曲したのだ。不健全なものへの
愛着は、本当の意味の同情ぢやない。むしろ一種の嗜虐趣味だよ。不健全、廃残への嗜虐的愛着は、人生に於ける眞実
なるもの、進む者、斗ふものへの背反だ。人生を、歴史を愛し、それに参加するのではなく、進まうとする人々を嗜虐趣
味へ溺らせ、歴史と人生とを侮辱するのだ。しかも人を随喜させるやうな芸術的輪光の中で。唾棄すべきだ」「そりや
さうかも知れないね」「そして君はさう云ふものが好きなんだ。たたかふことに臆病で、ふまじめで、逃げることばか
り、ごまかすことばかり考へてゐる廃残的人間は、美しいかくれがが必要なんだ。うつし世のあらからかくれるかく
れががほしいのだ。逃げこむ竹やぶがほしいんだ。竹林の七賢人のやうにね。竹やぶの中で蚊にくわれながら駄弁つた
り、自分達を甘やかしたりするんだ。実際ドストエフスキーなんて、廃残者のかくれ穴の集大成だ。君なんか海辺の蟹
のやうに、どの穴へは入らうか、うろ／＼するくらいだ。バルザックにはそんなものないよ。バルザックの中では人生
の廃残者は、輪光なんか与へられないよ。それどころか、歴史に参加する偉大な人々によつて容謝なく否定されて行く。

シエクスピアだつてさうだ。フォールスタッフなんか、ウィンザーの陽気な女房共に笑ひ者にされて醜態をさらす。君もうっかりするとフォールスタッフだよ。久しく自分の膝を見たことがないと自ら称してゐるが、今の日本にゐたら、君みたいに十貫もやせて、自分のだらしなく何にでも屈する膝を、いやと云ふほど見たことだらうよ。オブローモフやフォールスタッフや駄目だよ。君の生活の歴史的地盤は、彼等と共通してゐるんだからね。みんな歴史的に没落する連中だ。しつかりするんだ。没落や廃残に対してもつと恥を知るものにならんといかん。無恥はいかん。没落や廃残や逃避には、何にも美しいものがないよ」「さうかなあ」「さうかなあぢやないよ。どんくゝのりこされて行くよ。若い人達は君のやうな者をどんくゝのりこえて行くよ。少し前は僕も、君をさう云ふ若い人々の一人だと思つてゐるが、今はちがふね。白田君は勝つたんだぜ。勝つと云ふことがどう云ふことか、白田君にきいてみたまへ。君なんか何を讀んでも、それがちつとも生活に関係しないんだからな。全くサロンのだ。白田君は『魅せられた魂』でも『母』でも、みんな自分の生活の中へ咀嚼しつゝ讀んだやうだよ。だから彼女はバルザックを欲求するんだ、ドストエフスキーを売り払つてね。實際ドストエフスキーの何が、君の今当面してゐる人生上の重大時に、君の判断なり君の行動なりに役立つかね。メイシユキンの白痴的行動かね、スタヴローギンの灰色のヒス行動かね、ミーチャの氣狂ひじみた突風行動かね、ラスコーリニコフの人殺し理論かね。君は幻滅を讀んでも、リュパンブレの敗残し行く姿にあこがれて、バルザックがリュパンブレの末路に、人生に於て眞実を忘れ、自らの人間性のためたたかひを自ら放棄し、自ら己れの人間性を放棄した人間に対する痛烈な批判を展開してゐるのを、ちつとも讀みとらない。リュパンブレは野心のために、個別的欲求のために、自らの人間性を保つことをやめ、人生と妥協し、ジャーナリズムに迎合し、そのことによつて次第に自分の才能を失ひ、自分の家族を損なひ、遂には自ら他人の奴隸になるんぢやないか。そのことが人間性の放棄、妥協と云ふことに對するどんなに深い警告を含んでゐることか。その警告を君はちつとも讀みとれないんぢやないか。君なんか何を讀んでも駄目だよ。まあせいぜいドストエフスキーの竹やぶで、やぶ蚊にくわれるんだね、かぶらの汁のやうな血をせいぜい吸はすんだね。君の血は赤くないんだから。本当にしつかりしろよ。冗談ぢやないよ。君のことだよ。眞剣に、まじめに、誠実になれよ」……。

あとで二人きりになつた時、僕はもう一度彼に忠告しました。「今君はやけになりかかつてゐる。本当にまじめになれよ。僕はいつまでもしつこく云ふよ。自分で立つてごらんよ。君の膝だつて本氣に立つてみると立てるんだよ。何しろかつては廿六貫の偉大な体軀を支へて来た膝ぢやないか。たつた十七貫になつて、支へねばならぬものがうんと軽くな

つてゐるのに、さう屈したがつちや駄目ぢやないか。そのことでまじめになれなければ、何でもまじめになれないよ。君があんなに本を買つても、本を読んでも、みんな空だ。何にもなつてゐやしないぢやないか」。懦夫をして起たせるやうな火の言葉がほしいのに、僕の貧しい頭ではどうにもならなさうです。

夕方、いねちやんが来ました。玉川用賀町の陸軍何とか廠（薬品をつくるところ）へ女子テイ進隊にならないかと会社で云はれたが、この辺に家があれば、なつてもいいと思ふと云ふことで、その相談でした。家は臼田君や森井さんのゐる下宿が二食つきで、いいかも知れないからきいてあげることになりました。疎開になるでせう。十二月八日からださうで、大急ぎで部屋をみつげ、疎開する必要があります。東京ではやはり世田ヶ谷が一番安全です。用賀と云ふのは、ここから二十町ばかり。歩いても行けさうです。

幸子から謙一あて（一九四四年二月三日付け、同日の消印）※

No.32のお手紙、四日午後三時頃着きました。伊藤書店からの電話―どうも芳しくありませんね。最悪を予想してゐた方がいいかも知れませんが、あきらめられませんか。つるたさんの話を直接聞くまではわからないけれど、―空襲の被害の方がしらす？ がつかり致しました。毎日、突然ひよつこりと本の届くのを楽しみにして来たのです。あんなザラ紙でないきれいな印刷ので、さんざん勉強したあと、一息によむことを随分楽しみにまつてゐました。そしてあれが出て、私達の未知の本当のよい読者から、何とか思ひもよらぬ声をきく事が出来ようとまつてゐました。でも、こんな風は一切駄目になつた様に考へるのも、早まりすぎるかも知れませんか。どうも今日も不健康で、半ねむり状態です。明日、お手紙書きます。

※この手紙の封筒は二月三日付けだが、手紙文には翌「四日午後三時頃」の記事があり、また「プランティション」刊行をめぐる謙一とのやりとりの内容などからも、後掲の二月三日夜記の手紙文より後に認められたものと推測できる。ただ封筒については日付け・通し番号とも、前後のそれと整合しているので、中身の便箋のほうが入れ替わつたのであろう。しかし個々の封筒と手紙文の対応関係を、確実に復元することは困難なので、ここでは現状のまま転写・掲載した。

幸子から謙一あて（一九四四年二月三日付け、四日の消印）※

お手紙拝見。

アンチゴネー、オイヂーブスの評価は確に仰せの通りでした。併しソフォクレスのエレクトラはどうも納得出来ません。ソフォクレスのエレクトラの限りでは、アガノムノンとアイギュストスの王としての比較は何も出てゐない。強いて出てゐるとすれば、コロスによつて、コロスたちがエレクトラに少々同情してゐるところから押して、アガノムノンに好意を持つてゐる位に察しられるだけ。妻たるクリユタイムネストラが夫であるアガノムノオンを殺すのが悪なら、子であるエレクトラとオレステスが親たるクリユタイムネストラを殺す事も同様の悪です。大体、アガノムノンは人の妻のために、はるく大勢の人間を殺しに連れて行き、トロヤでは勝ちきまゝをして、ずるい事ばかりしてゐた。そしてクリユタイムネストラと云ふ妻があるのに、何人も奴隷の女と関係してゐたばかりでなく、カッサンドラをのめく、と自分の館に連れて来る。どこにも同情すべきものは見出せない。クリユタイムネストラが彼を企計で殺したのがわるいなら、エレクトラとオレステスも、うそをついて殺したから同じ事です。

エレクトラは母を一寸も同情的に見てゐない。機械的に父殺し、夫殺しと幼稚な憎しみをこりかたまらせてゐる。むしろエレクトラの母へのにくしみは、正義と云ふよりも嫉妬からの方が多し。アイギュストスと母への嫉妬から。「エレクトラは、夫も子もなく、ほろびる自分」と嘆くところや、「母と共ねをする男」とアイギュストスをにくむところに、彼女の嫉妬は出てゐる。クリユタイムネストラとアイギュストスとの結びつきだつて同情出来る。何故なら勝ちきまゝの夫に対する憎悪は、夫に対する愛の消滅で、さうなると名のみで、事実上彼女の愛人であり夫ではないから、他に愛情を求めてアイギュストスを得ても不思議はない。エレクトラは其の間の事情を理解出来ず、かたきうちでこりかたまつて弟までもさう云ふ風に煽動するなら、クリユタイムネストラが彼女たちをにくむ様になるのは当然です。まはりの人民もエレクトラ同様、機械的な夫婦関係しか理解出来ぬ人達です。かんとんにクリユタイムネストラを夫殺しとしてにくむ。さう云ふ情勢の社会の中で、クリユタイムネストラのする事は、皆わるく判断される事です。エレクトラが真に立派な女なら、弟をして母殺しをさせぬ事、無意識の弟までもその中にまき添へせぬこと、弟独自の偏見のない考へにまかせること、自分は自分の思ふまゝ、彼女の家に不平タラくすむよりは、他国へゆけばいい。

アガムノンは殺ろしてよい男だったのです。トロヤでして来た彼の生活から、彼が人民の王たるにふさはしくないと同時に、人の夫たる男ではない事を証明出来ます。彼は戦場には出ないくせに、ぶんどり物の分配の時は出しやばつて、大将面をして人の分までもむさぼるのです。心は小さく、ねたみ深く、欲張りで、ずるくて、高まんで、人の上に立つ人物ではありませんから。さう云ふ父に同情して、仇うち生命をかけるのは、エレクトラが馬鹿なシヨークです。世日未明のは大分おそろしかった様ですね。世田ヶ谷の方は今のところ無事でも、永久にぶじである筈はない。嫌な事です。

プランティション第七節、他のものと比較してでなく、あなたの書いて来たものゝ中で、前に比して熱が足りないと感じた事は、何処がどうと云はれても、感じなんだから云ひ様ないわ。あなたの云ふ様かも知れません。熱が足りないと言ふことは、表現についての事で、内容の事ではない。内容はあなたの試みた通り、そのまゝ出てゐるのですが、前の方に比して色がうすい様に、私には感じられたのよ。

昨夜は胃がいれんを起して、今日はおそくまでねてゐました。今日も何もせずねてばかり。すこしよくなつたら、第七節もう一度よみ返してみませう。

※この手紙文は二月三日夜付け、四日消印の封筒中に挿入されていたが、元は一つ手前の二月三日付け、同日消印の封筒に入っていた可能性がある。

謙一から幸子あて（一九四四年二月三日の記）

十二月三日（日）快晴

十一月廿日付（38）拝見。何だか久しぶりの感じですよ。

身体の具合が悪いとのことですが、いかがですか。充分注意して下さい。また、それが理由の考へられるやうなことであるなら、なほ一層注意して下さい。それは僕の将来の希望の星かも知れませんか。

今日も空襲がありました。この辺は無論無事でした。この上空を六編隊ばかり（六、七十機）、此の間よりは低く、恐らく六千米ぐらゐの高度で敵機が飛びました。今日も空は美しく、まわたのやうな純白のちぎれ雲が時々西から東へ、

可成り早い速度で飛ぶだけで、全く底抜けのやうな青さでした。鉄カブトをかぶつて、防空壕のそばで、警報によつて出て来た西井君と小使婆さんと三人で、尤も小使婆さんは敵機来襲の鐘のなる度に例外なく防空壕へは入りましたが、とにかく青空ばかり見上げてゐると、すっかり首がくたびれました。幸ひ二時間ばかりで空襲警報も解け、今、五時には警戒警報も解けました。

お手紙の「風と共に」の批評、中々立派です。そんな風に物を読めば、完璧（壁）です。政治的批評も、個人の行動、ありきたなどの批評も、恐らく之まで「風と共に」についてあらはれた批評の最高のもので云つていいでせう。僕の「プランティション」が、あなたの「ペラグラ」批評や「風と共に」の批評に立派な結実をもつたのだと考へることは、何と云つても嬉しいことです。之からは僕の歴史論にしろ何にしろ、十全にあなたを目あてに書けます。最良の伴侶的理解者としてのあなたに。「風と共に」は、芸術的には高度でないが注目すべきで、僕も反感から二巻まで大ざっぱに読んですぎないから、もう一度読み返すつもりです。でも結局あなたの批評と同じやうなことを感じるだけでせう。文学の批評は、ドブローリユーポフ的であるべきです。日本でのその系統は、岩上君などに受けつがれてゐます。そしてあなたの「風と共に」の批評は、たしかにその線にのつてゐます。

この間中の僕の手紙の多くの紙面をしめて来た竹中君の結婚問題も、ぼつ／＼おしまひでせう。結局僕の敗北らしい。竹中君に結婚のとりもちをやつてゐるのはA君なのです。A君については数回書きましたね。坂本君のフラウの友人で、神戸女専を出て、竹信か竹原の和英辞書編纂を手伝つて、昨年春から英研には入つて、この十月にここをやめ、西川と云ふ英国帰りの四十男と結婚したあの女性です。A君は以前から僕が竹中君にしゃべることを、一々そばへ来てはよく聞いてゐた。こちらへ来てからも、時々二階へやつて来てはいろいろな問題、この分室の人間関係のこと、その他のことで、さもよく理解出来るると云ふ風に僕の話を書いた。そして恋愛結婚の一種として、突如みんなをあつと云はせながら結婚したのです。昨年彼女が英研に来て暫くは、僕も竹中君も彼女の表情の過多、いつも自分へ注目を集めやうとするあくどいジュスチュア、他の女事務員に対する競争意識の不自然な露発、買ひ出しや物資調達への強引ぶり等々を不愉快に思ひ、時には直接彼女に文句も云ひさへしたものです。谷川君に到つては彼女を他の人とかへてくれと庶務へねちこみ、庶務でも彼女はどこでも引きとり手がなからと云つて、困つたかたちでまんしてくれと云ふことになりさへした、さう云ふ女性でした。それが竹中君や坂本君などの直言が若干きいたのか、今年になつて少しづつ席にもゐつくやうになり（それまでは買ひ出しで席をあたたためるひまもなかつた）、経堂分室に来てからは仕事もまじめにするやう

になり、竹中君の応召前後からは竹中君の個人的な問題にも親切を尽すやうになり、彼の留守中は、しきりと竹中家へ出入りして両親の淋しさをなぐさめ、野菜をとどけ、九月頃には彼の母がどうやらあたしと一緒に住んでもらひたがつてゐるが、どうしたものかしらと僕に相談し、僕も彼が十月に帰るとは思つてゐなかつたので、それや彼の両親も寂しいんだらうから、あなたさへよかつたら同居したければいいぢやないか、竹中君にも一応相談してさ、と答へ、さうね、考へてみませう、と云ふことにまでなつたが、間もなく、やつぱりあたしの家では余り賛成しないからよしたわなどと云つてゐたのです。それが、それから一ヶ月も立たないのに、歸つて来た竹中君を尻眼にさつさと結婚し、しかも恋愛結婚だと云ふ。彼女は竹中君の召集中は始終手紙を書き、白田君などにも「竹の子はいい人やわ。あんなすなほな、いい人はないわねえ」などと云つたりしてゐたのです。

元来竹中君は、一人息子のお母さん子には典型的な依頼的依存的性格をもち、さう云ふ非独立心、他力主義が一面、人の好き、素直さともなつてゐたくらいで、彼の都会人的な或ひは金持的なディレッタンティズムも、結局彼の依頼的性格、他力本願的性格を紛飾し、更に甚だしくしてゐたのでせう。さう云ふ性格にとつては、A君の少し奇矯にも見える線の太さ、大ていの人の反感を挑発するやうな強引さ、遅れた形態の自己主張主義、人もなげなエゴイズム、関西風の猛烈さ、あの町奴趣味やサーカス式の厚化粧に到るまで、それらの始めは嫌悪以外の何ものも感じさせない性癖の総てが、やがて何だか魅力になつてくる。自信のない精神は、肥大せる自信を見ると嫌悪するが、同時に魅かれはじめ。おまけに自信のないディレッタント、サロンのディレッタントが、既に必然の経緯を以てドストエフスキーに毒害されてゐる場合、即ち不健全なものの病的なものへの異常な嗜虐的愛着に毒害されてゐる場合、さう云ふ魅力はだん／＼実体的なものになる。病的なもの、不健全なもの、ひずんだもの、廢殘的なもの、かくれがちなもの、あいまいなもの、非合理的なもの、非歴史的なもの、遅れたもの、それら一切のものへの嗜虐的愛好、恋着は、自信のないもの、自らの歴史的進路にも個人的内容にも自信のない、独立性のない、それ自身で廢殘的宿命を自らに感じる者には、自己弁護であり、自己の現実にみなくさの観念的美化であり、紛飾なのです。さう云ふ者は、健全な形の自己の対極者よりも、むしろ誇大され畸形化された対極者に魅かれるのでせう。竹中君の、突然ヒラリと結婚して了つたA君に対して感じた牽引は、そんな風に解されるのではないかしら。A君の親切さはたしかに彼にとつて、彼女への好意の最大原因だつたらうが、僕はA君の親切さに計算された業々しさ、別にどうと云ふ形のある利害を打算したのでなく、自分が親切な人間であると特に自分自身に対して納得させるやうな計算だが、さう云ふものを感じた。田舎の世話役などによくある。原宿の吉

田老人の場合もさうだ。エゴイストの親切さ、此の場合の親切さは「意識された」ものである故に却つて人間的でない。元来さう云ふ余り個性の豊かでない彼が、兵隊から帰つて、生活的内容的自信が定まらず、情性的な空虚や、兵隊生活で更に育てられた他力主義——一種の自信と奇妙な形でまざりあつた他力主義、成り行き主義、イージー・ゴーイング、精神の不安定と云ふ状態に於て、自分に対しても留守宅に対しても「特殊」の親切さを示すことによつて、自分に対して「特殊」の存在になつてゐたA君に、まるで思ひもかけない抜き打ち的な失^失□(?)をくはされ、元の職場では自分の古顔であることによつて保つて来てゐた優位が、留守中に谷川君にとられ、すべてに於てなげなしの自信をすつかり失つた、さう云ふ時に自分が失つた当のA君から、「特殊」の親切の延長のやうに、結婚の話を世話されすすめられたのです。A君の外形の猛烈さ(内容は一向平凡な保守的な、白田君などよりはるかに卑俗な小人だが)に嗜虐的牽引を感じつつあつた彼が、この数ヶ月のA君の「親切さ」と今度の思ひがけない結婚とによつて、A君にすつかりイニシアティブをとられつくした状態で、いはばA君の「魔力」の圏内で、当のA君から結婚の話をもつて来られた、かう云へば彼のあいまいな、ふんぎりのつかない態度も理解出来るのではないかしら。だからこそ彼は、自分の気持を説明することも出来ない、自分を理論化するどころか、自分でも否定したい方向へふらふらと、まるで何かの魔力にかかつてやうに衝動的に行かうとしてゐる。彼自身、半ばやけのやうに、あらゆる彼の不安や不満や不快の歪められた表出のやうに。こんな風に僕は今日考へました。これが、こんな風ないはば心理憶測(分析ぢやない)が、あたつてゐるかどうか、彼によくきいて、それが当つてゐれば、彼と一緒にその不愉快なコンプレックスを解くことを考へねばならない。もう遅いかも知れないが、そして彼のやうな人格に、もうまじめな関心を持ちつづけられないと云ふ感じもありながら、今日こんな風に彼の気持のもつれを考へてみれば、やはり可哀さうで、もう一ぺん何とかしてやりたいと思ふのです。それにしてもAと云ふ女性はけしからん。彼女の軽薄なまじめなやりかたが、彼女としては無理ないにしても、腹立たしいことに思ひます。こんな風に、人は他の人の生涯を無責任に、往々善意を以て、台なしにするものなんです。従つて正しい理論をもち、まじめに生きることは、その人だけの問題なのぢやない。その人がどんなにこつそりと物かげで一人まじめに生きるにしても。

どうも竹中君のことばかり書いて、あなたが興味を以て読んでくれると云つてくれるものの、やつぱりつまらないことに思ひます。けれどのかかつかつた船で、もうしばらく見てゐて下さい。あなたのお弟子の方がその点余程しつかりしてゐる。そのかはり、僕の不肖の「弟子」の方が、複雑なだけに、こちらがいろんな戦術を考へねばならないから、その

点僕自身には有益かもしれない。とにかくいろいろな人間で自分の理論をためしきたへることは必要です。

ルードヴィッヒの「天と地の間」は、アポロニウスの善良さが、丁度「カラマゾフ」のアリョーシヤや「白痴」のムイシュキンを思はせるやうな、非人格的理想型へ固定されたために、形象として魅力のないものになつてゐるが、しかしアポロニウスは、アリョーシヤやムイシュキンと異つて意識的に自己の倫理をもつた生きてゐる市民、セザール・ピロトウの市民であるし、全体のモラルが多少コチ／＼してゐるにしても、とにかくはつきりして健全であるから、市民小説として立派だと思ふ。フリッツ（兄）の廢残して行く過程もよく描けてゐる。ただアポロニウスとクリスチアーネとの道徳性がやや非人格的なまでに誇張されたために、彼等への反感から、フリッツの廢残が同情される怖れもある。しかしルードヴィッヒのモラルは、はつきりとフリッツの廢残を批判し、廢残なるものの自縛自縛的な転落過程を鋭く、相当リアリステイックに追求してゐる。その点、基本的にバルザックに通ずるものがある。ドストエフスキーとはちがふ。ルードヴィッヒは、だが、ヘッベルよりはドラマテイックなテンポに於て劣るやうですね。

ヘッベルやルードヴィッヒはたしかにいいけれど、シエクスピアやバルザックに比べると、豊富さと広さがない。ここで「問題劇」と云ふものについて考へてみませう。夫婦間の問題、家庭問題、社会問題、男女問題等を取りあつた所謂問題劇または問題小説と云ふのがある。例へば、ちよつと思ひ出すだけで、ユーリピデス、レッシング、ディドロ、ヘッベル、ルードヴィッヒ、ツルゲーネフ、ヘルツェン、イブセン、オニール等がそれに類する。之等は何れも社会的歴史的現実をリアリステイックにとらへ、鋭い問題提起をやつてゐる点で、最上の芸術家である。ところがアイスキロス、ソフォクレス、ダンテ、シエクスピア、セルバンテス、バルザック、スコット、ゲーテ、ゴッリ、トルストイ、ゴッリキー等と比べると、豊富さと広さが足りない。後者の部類の芸術家に於ては、歴史的問題提起は実に豊かで、肉づけされてゐて、形象に充ちてゐる。前者の部類では、歴史的問題提起がおほむね単一で振幅がせまく、何だかやせた感じがする。一つ一つの作品が一つ乃至二つの問題しか主として含まない。それだけに問題ははつきり提起されるが、どこか貧困な感じがする。強靱で執拗でも、柔軟性や弾力性が乏しい。「問題」と云ふものが裸で出て来る。だから「問題劇」であり、「問題文学」なのでせう。之に対してアイスキロス、ダンテ、シエクスピアの部類は、問題が実に多様に、振幅も大きく、色調も豊かに、生きた現実として、あらゆる聯関性に於て提起される。それだけに、うっかりすると、人はその問題をとらへそこなふ怖れもなきにしもあらずである。従つて之等は「問題劇」でない。リアリズムと云ふものは、「典型的情勢に於ける典型的性格」の把握でなければならぬが、それには広く遅く深いものと、

狭く強靱に深いものがあるのでせう。やはり広く遅しいのが第一流であり、狭いのが第二流かな。

そして芸術以外にも、例へば歴史学などにも、この二種が考へられる。偉大なものはすべて広くて遅しくて内面的脈絡が豊富で、現実そのものの無限さを感じさせる。「カピタル」「発達」その他すべてしかり。我々も常にそれを目かけたいものです。

午後六時半に中尾課長が来て、本室へも電話しましたが、今日は普通のところは大体安全のやうです。ここから見えた限りでは、三鷹の中島ヒコキあたりから、天にチュウする黒煙がもうくくと立つて、四時頃には、この辺の空にまでうつすらと煙がかかりました。米機の進路は大体伊豆方面から箱根か富士のふもとの線を北上し、中央線に沿って東へ進路をとり、そのまま江東へ行くのと、中島ヒコキ辺から右に折れて、丁度経堂辺の上空を通つて京浜地区へ向ふのとがわかれるやうです。今日ほとにかく大分はつきり四発が見え、青い空へ銀色の緋模様を展開しました。バク弾の音は遠くの方で相当長くつづきました。

晴れてゐる方がいいです。そのかはり今日は水道の水が出ません。では今夜はこれで。

幸子から謙一あて（一九四四年二月三日夜の記）*

十二月三日夜

午後から七節のノオトをずっと読み返しました。前のを読み返さないから何とも云へませんが、熱がないと云つたのは矢張り読み方不足のせいの様です。どうも気分がわるくて、ぼんやりしてしまふ方が多く、いろいろ感想もまとまりません。

何だか今日は目をつぶつてぢつとしてゐると、此の前東京へ行つた時の事ばかり思ひ出されます。廿八日の朝、経堂へついた時の事、うす暗い玄関でまつてゐた時、あなたが特徴あるピョン／＼と云ふ風な、其のくせスリッパをひきつり乍ら出て来た様子だとか、まるでサン・ルームみたいに陽のあたるあの十畳ま、菓子鉢の中のオヤキとおイモ、其の夕方銀座へ食事に出た事は、あまり生々しく浮んで来ません。それから冷蔵庫の部屋、あそこはとても印象が強い。どう云ふわけかしらないけれど。そして妙に物悲しい気分になつて来ます。何も彼もどうにもならない八方ふさがりばかりの様で、淋しくなつて来ます。

今日はとくに風がひどくて、さむい日です。すきまから吹きこむ風のさす様な冷めたさです。山には雪が来て、此の辺はあられです。身体具合がわるいせいか、どうもめいつて来てなりません。

七時のニュースで又、帝都空襲をききました。二日おきの定期便になった様ですね。深夜の空襲より、ひるまの方が危険率は少いでせうね。廿日未明の様子では、随分恐かつた様ですね。こちらは警報を知らずに、電灯をつけ放しの家も相当あつたらしい。どうも、田舎は呑気すぎていけませんね。ことに鼎村は、防空ごうほつてある家はないし、演習も私が来てから一度もありません。此の辺は安全と云へば安全かも知れませんが、灯管は守る様にしないで。こうひんぴんと定期便が来ると、経堂だつてあぶないものですね。生命あつての物種ですし、仕事も生命あつてですから、早く引上げなかつた方がいいでせう。段々と本すら送れなくなる可能性がありますから。今度のなんて、そんな事でやかれたら、本当にもつたいない。でも引き上げて来ても適当な職業があるかどうかかわからないし、家もみつかるかどうか、その辺の事を考へるとどうも困りますが、何にしても生命あつてですもの。そんな事はあなたの方がよつぽど考へておるでせうから、とや角云ふのは止めませう。絶まない不安、と云ふのが、現在の誰でもの心理なのですから、あれこれ騒いでもし様がありません。

今日は東京も随分寒かつたでせうし、風も激しかつた様ですから、大変だつたのでせうね。あなたの本、中々出ませんね。なんと長くかかるのでせう。あまり本式の空襲の来ぬ中に出ればよいのに。グローヴのはどうなつて？ 印刷になつたかしら。

今日の毎日の「的」と云ふランに、アメリカの國務長官ハルの後任の記事が出てゐましたね。今度のはモルガン財閥直系で、帝国主義的世界征□のろ骨な姿だとか書いてゐました。もうハルの様な「保守的」丈の役目がすんだのでせうか。

第七節、どうも力ぬけしてゐると云つたのは、始め書いた通り、よみ方の方の力ぬけだつたらしいですわ。軽率な事を云つてすまなかつたと思ひます。結局、今まで読んで来たところが、第七節で全部生きて来てゐるのですが、一ツ一ツではなくて総合されて押し出されると、一寸戸まどひした形で、何処をつかんでいいかわからない様な感じがしたので、今のところ七節は、前と異つて非常に面白くよみ、殊に⑩は特に興味深くよみました。

どうもここ一週間、風邪やら胃が変で気分わるく、今までの様に勉強出来ず、今日よう／＼九のノオトを終つたところ。さぼつてゐる様ですみませんけれど、かんべんして下さい。ずっと胃に変調を来たして、たえず吐気がしたり、

空腹感を覚へたり、一寸も落ちつきませんの。それに物のにほひがはなについて、てんこのニッケの紙のにほひをかぐと、頭痛と吐気が来るので困った事もありました。明日から又、シヤンとしてせつせと始める事にしませう。では今夜はこれで、おやすみなさい。御ぶじを祈ります。

謙一様

幸子

※この手紙文は二月四日付け、五日消印の封筒中に挿入されていたが、元は一つ手前の二月三日夜付け、四日消印の封筒に入っていた可能性がある。そして二月四日付け、五日消印の封筒中には本来、先に掲載した二月三日付け、同日消印の封筒中に現存する手紙文が入っていた可能性が高い。

謙一から幸子あて（一九四四年二月四日の記）

十二月四日（月）快晴

快晴が続きます。

お手紙No.39、40（十一月三〇日夜と十二月一日夜）とを拝受。

いろいろ御心配下さつてありがたう。三月頃までに必ずそちらへ行きます。それまで無事ならば。無事と云ふのは生命でなく、応召その他のことですが。生命は責任を以て保ちますから。何しろ、生活も仕事も僕にとつては一切が之からなんですからね。それとは別に、あなたは自信を持つて下さい。歴史と云ふものを学び、歴史的現実を人間がいかにして生きぬいて来たかを学び、生きなければならぬ。生きるると云ふことにかけては、アンネットは逞しい。空襲の方は、万全の策をとりますから、御安心下さい。空襲なんかでは絶対に死ねませんからね。次の時代にアメリカ史を出版せねばならない。

僕の腹はなほつたが、痔はやはりなほりません。此の頃はもういももは入らないし、肛門を通過するものの絶対量は大分減少してゐるのですが、どうもあの時余ほど冷えたのでせう。

あなたの身体はどうなんでしょうか。本当に赤ん坊が出来るのならいいけれど、他の何かで熱が出たり、その他の故障が起つてゐるとすれば心配ですから、よく注意して下さい。赤ん坊なら、今度こそ、我々の全力をあげて上手に育てませう。

一人子でも、早苗と一緒に育てられればいいし、自信を以てやりませう。僕も赤ん坊が出来さうだと云ふことだけで、仕事に張り加はった感じですよ。之が何かのまちがひなどでないやうに。

此の頃の僕の手紙は、あなたとの生活についてよりも、僕の周囲の生活のことばかり書いてゐて、或ひはあなたを物足りない思ひにさせてゐるかも知れないが、僕は毎日長い手紙を書くこと自体が、あなたとの接合であると感じ、あなたとの交合としてペンをとることを楽しみにしてゐるのです。恐らく、遅くとも来春三月頃から、信州であなたとの新生活を始め得ると思ひますから、それまではかう云ふ形態の交合でがまんして下さい。僕のいろんな人との対話は、あなたとの原宿時代の生活にいろんな人の訪ねて来るのと対話した、あれと同じもの、あれの延長であり、今でもちゃんとあなたは僕と共にゐる筈です。あなたがゐたとしても、恐らく僕の意見に共鳴してくれてゐるにちがひない。僕自身いつもあなたの耳を、眼を、発言をも、意識しつつシャベツてゐます。だからいつも思ひ出せるだけ対話を書くのです。

さて今日は、午後、森井さんが来ました。いねちやんの下宿は、森井さん、白田君のゐる「向日荘」にすることにしました。いねちやんが僕に一任したので、今日はいねちやんから電話がなかつたけれど、二人によろしく頼んでおきました。向日荘は東松原町にあつて、ここから三十分ぐらいださうだし、疎開としても先づ安全だし。食事は朝夕二食ですが、いねちやんが挺身隊として勤めれば、大てい昼食が出るさうですからいいでせう。二食で米は三食分たべさせるさうで（食堂）、白田君は一回分としては多すぎる、余るくらいだと云つてゐます。

ところが今日は白田君も、森井さんの会社から挺身隊に志願して、目黒の陸軍光学機械工場へ行かうと云ふことになりました。森井さんの出版会社へも割当てて来たのださうですが、志願者がなく、出版会一般に数十人乃至百人が割当てられてゐるわけなので、是非いい人を行かしたい、「白田さんどう？」と云ふのです。白田君はこの二ヶ月間に、三年越しの恋愛的な悩みを自力できつぱり解決をつけ、人生と云ふものに自信と愛情とを獲得し、物の考へかたもしつかりして来たし、現実の理解力も行動のしかたも確かになつて、僕も「もう君のことをあまいとは云はないよ。あまくなくなつたらしい。今の調子で生活をうちたてて行くんだね」とはげまし、彼女も「さうだわ、あたし何だかこわいもの（脱）がなくなくなつたやうよ。前とはかわつたわ。何だか世界と云ふものがわかりかけて来た感じですよ。独りで立派に生きて行く自信が出来たやうよ。さうね、以前はあまかつたわね。森井さんは始め『あまい』と云ふ言葉はいやな言葉だて（脱）云つてたのよ。だのにいつの間にか、あたしたち二人とも、あれはあまいとかあんな考へかたはあまいとか云ふやうになつてゐるのですもの。おかしいわね」などと云ふやうになつてゐるのですが、まだ生活の方針が本当にきまつてはゐなかつ

たのです。今朝なども「自分の仕事と生活とをはずきりつかまへて、うち立ててゐる人はうらやましいわ、菊池さんがうらやましいわ。あたしなんか、ちやんとした生活と仕事とをつかみたいのに、つかめばきつと立派にやつて行けると思ふのに、何にもないんですもの」と云ひ、「農村か工場かへ行かうかしら。菊池さんが信州へ行ってしまへば、あたしここにはゐないわ、谷川さんや西井さんなんかのゐる所にゐられないわ、さうなれば追ひ出されるわ。信州で何か仕事探していただけないかしら。だつてあたし、兄が死んで、之から完全に独立に生きて行かなくちやならないのですもの」とも云つてゐたところなのです。

「あたしも年令の制限がなければ、志願して行きたいのよ」「年令に制限あるのですか」「三〇才なの。とにかく工場で大勢の働く人々と一緒に働くことは、之からの人には必要よ。空襲の危険なんかは、びく／＼してゐたら、生きて行けやしないわ。直撃弾さへ当らなきや大丈夫よ。あたしの知つてる人なんか、品川の大きい工場の間にはさまつた小さな設備の悪い工場なのに、自分から進んで行つたのよ。この時代をみんな働く人達が、さう云ふ空襲やいろんな困難の中を生きて行くんですもの。みんなと一緒に生きて行けない筈がないわよ。あたしも、みんながいやがるので困つてゐたら、あなたが、工場かどこかへは入つて、もつと甘やかしのない生活を体験し、自分の生活と云ふものをしつかりうち立てたいて云つてたでせう。あなたなら立派にやつて行けるし、あなたとしても、社会と云ふものを知るいいチャンスだと思つたものだから、会社の方へもちよつと心あたりあるからと云つて来たのよ」「それでいつからなの」「それが遅も早いよ。六日に出版関係全体で合同壮行会、これには是非出てほしいの。そして実際に行くのは十日ごろかしら。条件はさう悪くなくつてよ。契約は一ヶ年だけれど、途中で結婚やその他の事情でやめることも出来るわ。一年すめば、会社の方でやつてもらふことになるの。でも菊池さんのお仕事だけが心配ね」「いや、僕の方の仕事で白田君に頼んでゐるのは大したことぢやない。代りの人が来て頼めるし、僕がやつてもいいんだから」「いえ、あたし、これやるわ、家へ持つて帰つてでも。でも、あたし、ここにゐても、菊池さんが行つてしまつたら、追ひ出されるにきまつてゐるんですものね」「菊池さん、どつかへ行つてしまふの、奥さんのところへ本當にずつと行つておしまひになるの」「ああ、向ふで仕事を完成するつもりなんです。それにね、まだよくわからないけれど、どうやら僕にも子供が出来らしいんだ」「あら、それはよかつたわ」「それはすてきだわ。それぢややつぱり田舎でなきやいけないわね。今度こそね」「うん、今度はうまく育てますよ。ただお産だけが心配だけれど」「初めてぢやなければ大丈夫よ。でもよかつたわね」「おめでたうつて云ふんかしら」「いやまだはつきりとわかつたわけぢやないんだ。それに、さうとしても来年の八月かそ

こいらだらうね。そのころは日本もどうなつてゐるかなあ」「挺身隊だつて、情勢が逼迫すれば、どうなるかわからな
いわよ。でもそれぢや臼田さんの転進も晩かれ早かれなのね。だつたら今菊池さんに少し急で御迷惑でも、このチャン
スをとらへなさいよ」「菊池さんはどうお思ひになる?」「うーん。さうだな。妹は信州へ帰る気がないと云つたから、
半ば疎開の意味も含めて、工場入りをすすめたんだが、……さうだな。どうも僕には、それだけではよくわからない。
臼田君もうんと考へるところだ」「さう。……あたしやつぱり行くわ」「それぢや行きなさい。あとのことは僕がして
あげるから」。

「あたし、行くわ。でもこんなに工場へ行く気になるのなんか、菊池さんのおかげよ。ここで話きいたおかげよ。以
前だつたら逆も考へも及ばなかつたわね。でも、どんな風に辞職しようかしら」「なあに、君の兄さん死んだだらう。
そいでお母さんの所へ帰らなきやならなくなつたと云へばいい。明日朝書いて来たまへ。今般家事都合により辞職致し
たく、この段御願申し上げ候也とやればいい。そして谷川君と中尾さんとに、お母さんの所へ帰るのだと云へばいい」
「でもあたし一ヶ月半も休んだでせう。そして半年しかゐなくて悪いわね」「そんなことはないよ。だが、谷川君にはね、
いろく我がまを云つてすみませんでしたと云つときなさい。でないと奴さん、自分のせいせゐかと思つて気にするから
ね」「あたし、このお仕事、家へ持つて帰つてやるわ。いいでせう」「いいけどそんな必要ないよ」「あたしに出来れば、
やつてあげるわよ」「いいえ、あたし、やりたいの。でないと菊池さんのところへ来て、何一つしなかつたことになる
わ。それから上田さんと村野さんの紹介だから、お二人にあいさつしないといけないわね」「上田君なら僕やつとい
てあげる。荷物は大したことないんだらう」。

そこへ矢田君と云ふ友人がたづねて来たので、二人の女性は僕の部屋へ残しておいて、応接室で三十分ぐらい空襲その
他の話をしました。世日朝の空襲に、僕が寐て了つてゐて、知らなかつたと云ふことは、あちらこちらへ伝はつて評判
になり、研究室でも話題になつたさうで、今井先生も「あの君はよく寐るからね」と云ひ、金沢君なども、ろくすつば
僕を知らないくせに「菊池さんはよく眠るんだよ」などと云つて、いつの間にか僕は天下の大寐坊になつて了つてゐる
らしい。今井先生なども一体どう云ふわけで、僕がよく寐ると云ふことを知つてゐるのか、考へてみるとおかしい話で
す。だが之は研究室だけでなく、本室でも評判で、それほどあの朝の、いやあの夜の空襲は猛烈だつたのです。大てい
の人は防空壕へは入つて泥んこになつたんださうです。昨日の空襲は交通機関に大分ひびいて、中央線などは今日なん
かもえらい不規則ださうです。荻窪の矢田君なんか、防空壕の中で生きた空もなく、と云ふほどに近かつたさうです

から。

矢田君を帰してから二階へ上ると、二人があのままおしやべりしてゐました。何となく、あなたの話などから、いつの間にか僕は、我々の結婚のいきさつを話してゐました。二人とも中々熱心にきいてくれました。話しながら思ったことは、僕が結婚の決心をした時、愛情の永続性について、はつきりした理論的根拠を發見したこと、「愛情とは人間関係の心理的反映である」と云ふ、愛情の唯物論的理解を獲得したこと、このことが実に重大だったと云ふことです。何故なら、これこそ森井さんの愛情理論、神秘主義受動主義的愛情論理と全く対立する論理であり、これこそ本当の人間的な愛情の把握だからです。いはば此の簡単な命題から、僕の生活論理から歴史理論までが、唯物論的なたしかさをつかんで来たのです。そのことをしみじみと思ひました。もう一つ思ったことは、池田君に対するあなたの気持について、「同情」と云ふことと「気の毒」とを判別し、前者は実践的結合的感情で正しいものであり、後者は離脱の感情であつて、本質的感情でないと云つたこと。あれは不健全なもの非論理的なものに対する態度の決定に重要なのです。僕が、中島君にさへあつたドストエフスキー主義―不健全、非合理、廢殘への嗜虐的愛好―を持たず、之を憎み、口をきわめて否定する理由は、我々の結婚が、不健全、非合理、廢殘との苦しい斗(闘)ひを通じて実現したものだからだと思ふ。あの時の池田君の態度は、不健全であり廢殘的であつた。彼は自らの敗北感の中で、少しでも人間的に立ち直らうとするのでなく、却つて廢殘的な自己放棄を固執しようとした、そのことと僕達がどんなに斗(闘)はねばならなかつたか。廢殘への「気の毒」と云ふ感情が、実践にとつていかに有害であつたか。我々も決して廢殘的になつてはならない。話してゐる中に暗くなつて来たので、二人は帰りました。四時半だつたかしら。いねちゃんが来るかと思つたら来なかつた。二人が帰つたあとに、菊の花が天竜やきの柿の模様(く)の壺(く)がに入れてあつた)にさしてありました。では今日は之だけ。

幸子から謙一あて(一九四四年二月四〜五日の記、五日の消印)

十一月四日夜

今夜よう／＼七節のノオト全部終りました。

明日は一日かけて、もう一度緒論のノオトと七節全体よんでみませう。何度もよむと、前に理解してゐなかつた事がは

つきりして来るし、部分／＼に押されず、全体的理解が出来るようです。七節は矢張り一番面白いところでした。あなたの力を入れた丈の事はあるのです。此の前の手紙の時は矢張り部分／＼に庄とうされて、其の限りに於ての感想であつたように思ひます。

でも私はブランティション問題もアメリカの歴史も、一寸も他のものを読んでゐないので、全部が全部目新しい事実ばかりで、他の人のと比較してなんて云ふ事を知らないのです。あなたのオリヂナルなものがどれであるなんて抜き出せないのです。一般の読者もそんな比較の出来る人はあまりないのでせう。さうして事実にうたれて庄とうされるでせう。一寸よんだファランドやジェームスのアメリカ史とは、うんと異つてゐる事は私にもわかりませんが、—あれをよんで、あれがあなた丈の始めての見解か、今までこんな見方はなかつたのか、なんて判断は、とても私の現段階では出来ない事でした。

始めて絵を見た者が其の絵に庄とうされる如く、比較すべき何もも持たぬ者は、唯、始めて見る事実に呆然として驚いてゐる丈なのです。云つて見れば批評以前なのですから。併し、確に、それが自分達とム関係ではないこと、ム関係どころか多いに關係ある事を知つて又々驚く、さうしてまはりを見る事を知り始める。そしてこれこそ求めてゐたものだつたと思ひ始め、絵と云ふものに興味を持ち始める、—丁度そんな段階に私がゐる訳です。

よくこんな事を云ふでせう。昔、両替屋の主人は新米の子僧(小僧)ににせ金と本物の小判の区別を教へるためには、始めの半年は本物ばかり扱はせる。すると後で、どんなに巧みに出来てゐても、にせ小判は見破る。始めににせ金も本物も一緒にまぜて扱はせると、五年立つても十年たつても（いくら修業を積んでも）時々だまされてしまふ、とか。だから其の(で)んで、私も今後は歴史をよむ時、これは正しい扱ひ方かどうか、きつとわかる様になると思ふの。

十二月五日

緒論のノオト、午前中よみ返しました。特に四から七までは又、新しく面白くよめました。

今日、古い改造を見たら同封の記事がありました。知つてゐる事はかりでせうが送つておきませう。

今日は風はありますが暖かです。矢張り胃の具合わるく、さつぱりした気分になれません。此のごろ、毎日手紙が来ましたから、今日も来るかと思ひましたが、もう四時すぎたから来ませんね。此のごろ、どうも気分すぐれず、わるい手紙ばかりですみません。

幸子から謙一あて（一九四四年二月五日の記、七日の消印）

今日、戦争政治と南部問題をもう一度読み返しました。そしてあなたの云ふような粗雑（おろそか）なものとは、どうしても思へなかつた。むしろあれ丈の短いものの中に、よくあれ丈書けたと思つた。人種的偏見の基礎も、その起つて来る所以も、ローズベルトの改革政治への反動運動も、南部の特殊な社会、性格―その国家への反映、南部的反動的保守的政治家の裏も表も、そして問題のありどころも提起も、あなたとしては不満足であつたとしても、適切に表現されてゐると思ひます。あれ以上を、あの枚数やあの提出されたテーマでは、書き様がない位に思ひます。プランテーションの方を読めば、もつと南部のプランテーション制度の前資本制的な遺制の害悪が、どれ程大きなものであり、アメリカ国家自身が其のプランテーションの発展の歴史と、切つても切れぬ関係にあること、プランテーション制度の歴史こそ、アメリカの現在を形作つて来たものである事がわかるのですが、あの原稿はあれでいいと思ひます。あなたのもつと書き度かつたところがあつたにせよ、あれ以上のぞむだつて慾深すぎると思ひました。書くときの主観的な気持が、プランテーションの原稿を書いた時程、最高潮に達してゐなかつたのでせうが、提起してゐる問題は、同じ情熱の中で消化されて出来たものから。

それにしてもプランテーションの印刷の運命はどんな風になつたのかしら？ すこしおくれでも世に出られる様にあつてほしいものです。全く考へれば、あの原稿は書き始めからして、トラブルの連続でしたね。さうして今度のがどんな災害であるかわかりませんが、最後の大きな障害なのでせう。まるでオディッシュユウスの偏歴（偏歴）くらい難関（難関）がありましたね。どうぞプランテーションはあなたにも私にも、実に大きないろんなものを与へて来てゐるのですもの、かん単（かんたん）に祈ります。プランテーションはあきらめようと思ひません。プランテーション号よ、空襲の被害もけんえつ（けんえつ）の嵐も力のきらめる事は出来ませんし、あきらめようと思ひません。プランテーション号よ、限り斗つて、苦斗の姿で港にはいるよう。お前の積荷は、人々への最大のおくりものである。今まで人々が無知の暗やみの中で、無意識に求めた光なのである。それはブラツベルト（フ脱）の貶しめられた人々への解放の光ともなり得るし、世界の貶しめられ疎外された人々が、今の自分をよく知るため、よく見るための光でもある。プランテーション号よ、苦しみに克ち波浪を越えてお前の積荷を運んでおろす。かつて昔、人類がプロメトイアの火をまつたように、今も人々は

きけされた暗やみの中で、お前のつくのをまつてゐる。

夕方から夜にかけて、きぶんのわるいのがなくなりませう。夜はもつぱら勉強にあてる事にしませう。

あなたの方、此のごろ食料は如何？ 粉ももうないでせう。今度のお米の1-3は粉でくれましたから、こちらは毎日すいとんです。とてもわるいくらい粉。

此のごろの様に空襲が定期便になると、小包送つてもどこかの局の中でどうにかかなりさうな気がして、小包みを作るきがなくなつて来ます。夜はお炬燵でも作り始めましたか。臼田さんは又、ばかにかんたんにきめてしまつたんですね。手紙を書いてゐる中に、もう彼女の心持は決つてしまつたのですね。それ程に彼女の考へ方が進んでしまつたのですから、もう昔考へた様な形の恋愛は、彼女に必要でもなくなり、価値もなくなつたのでせう。矢張り彼女が自分で云つてゐる通り、脱皮したのでせう。一ッ大きくなつたのでせう。今後の臼田さんの行動こそ興味あるところですよ。

竹中さんの方はまだはつきりしないのね。彼氏も中々抵抗しますね。
では今日はこれでさようなら。

十二月五日五時

謙一から幸子あて（一九四四年二月七日の記）

十二月七日（木）晴

お手紙は404142と、ずつと受取りました。

身体は依然余りよくないのですね。心配してゐます。本当に赤ん坊のことでなら安心ですが、外の理由の病気だつたらこはいから、よくみてもらつて下さい。もう元氣だと云ふお手紙を毎日期待してゐるのに、やつぱり悪いらしいので心配です。僕のことには心配しないで、病気をいたはつて早く元氣になつて下さい。せめて早く風邪でもなほつて下さい。身体がよくない時には、読んだり書いたりも無理しないやうに。「プランテーション」もそれだけよく読んでくれれば満足です。五日に伊藤書店へ寄つたら、「プランテーション」は大丈夫だと云ふこと、印刷がおくれてゐるので、来月始めか、になることをきいて一安心しました。来月の五日のあなたの誕生日のプレゼントに出来ればすきですが。北条君も読みたがつてゐたし、森井さんにも読んでもらひたかつたから、鶴田君に再校のゲラ刷りあるだらうかと云ふと、彼は自分でちゃんとどちで持つてゐてくれたのでした。土曜日ぐらいに持つて来てくれるでせう。あなたが赤ん坊をう

むまでに、南北戦争を書きませう。目下は戦争史の方で相かはらず苦吟してゐます。いろ／＼書きなほしてゐるが、中々思ふやうにいかない。此の頃僕の筆は逆も遅くなりました。グロウヴのものはすつかりぶちこはしです。参謀本部で勝手にいろんなことをくつつけて、二倍ぐらいにしてつたさうで、悲観しました。やつぱりああ云ふものは駄目ですね。ダイヤモンドの方は雑誌の十二月一日号へ出しました。大分無理して書いてゐますが、読んでみて下さい。別便で送ります。なほたばこは昨日送りました。小包は大分ならぶので、出しにくいのです。三等郵便局でうつけけない為に、二等で混むのです。

手紙を二日サボつてすみません。

五日は、白田君の辞表をもつて行くのをついて行つて本室へ行き、かはりの女の子をたのみ、そのついでに先に神田の伊藤書店へ（白田君が森井さんの所へ昼食に寄つてゐる間に）寄り、神田から常盤橋まで都電で焼けあとを見ました。

震災のあとのやうです。それにしても石造りやコンクリート造りはちゃんと残つてゐます。尤も千代田ホテルはガラスがすつかり割れて、窓々から、やけどげたふとんを干してゐました。残つた建物では人が事務をとつており、あちらこちらのやけどを警防団や学生がとりかたづけしてゐました。日本橋の方は、電車通りの裏手が焼けのはらです。

帰りに銀座資生堂の正木さんの展覧会へ寄りました。白田君もついて来ました。正木さんは例の事件の第一審不首尾にもかかはらず、いつにかはらず元気で、検事訴とか何とかで大審院へもつて行くことになつた、「ありやおかしいんだよ。あんな君、判決ないよ」と、絵のことなんかそつちのけでいきまいてゐました。おかげで絵のお世辞を云ふ必要なくてたすかつた。それから日本映画社へ寄つて、いねちゃんに白田君を紹介し、いねちゃんと打ちあはせ、それから白田君は誰かに報告に行くし、僕は青山の山陽堂に寄つて本を買つて帰りました。

白田君の工場行きはやや唐突でした。森井さんの持つて来たも、ちよつとあの頃の人らしく僕には疑問だつた。だから此の日、本室へ行くまでの電車の中でただしてみたのですが、やつぱり彼女にも唐突すぎたらしい。寿岳氏のことの解決以来、何かもつと忙しいごまかせない環境で、筋肉労働でも何でも力一杯の生活をやりたい、一生の仕事をつかみたいとは思つてゐたらしいが、それに僕が間もなく信州へ行つて了へば谷川君や西井君のゐるこんなところにはゐたくないと思つてゐたらしいが、直接には森井さんが早い返事が必要としたから、思ひ切つて応じたいのです。そして一旦さうと決めると、新しい生活への期待にはり切つて、凄くいいのいい大きな字の辞表を書いてもつて来ました。本室で中尾課長は考へなはせとしきりに云つてるし、彼女大分困つて、兄が死んで母が帰れと云つてるんだとか何とか、

余り理由にもならんことを云つてゐるので、僕がたすけ船を出して、かはりの人のことを頼んだりしたものです。それに本室へ行く前に森井さんの所へ寄せたのは、具体的な条件をきいてその上でどっちともきめる余猶あやうぢを残したのですが、森井さんの所でまだはつきりした具体的条件がわかつてゐなかつたので、仕方がないからそのまま辞表を出したのです。

僕は彼女はまだ工場へ行くのは必然的ぢやないと思つたし（谷川君や西井君に対する態度がまた／＼神経的で「女の子」的で頼りない）、もつと話しておく必要もあつたと思つたが、一旦きめた以上は、その方向にしりごみしたりさせないやうに、元気づけるべきだと思つて、せいぜい心がまへの忠告をしておきました。仕事の内容には期待をもたないこと、それよりも人間関係の実体をよく見ること、働く人間の欲求を洞察すること、働く人間を規制してゐる諸関係をあやまたずに見ること、生活の保証されてゐる自分の地位を、特権を、負ひ目と思つて意識すること、物めづらしさ、エキゾチズムを持つてはならないこと、等々々々。

五日の夜、いねちやんの下宿のこともあつて、森井さんや臼田君のゐる向日荘をたづねました。豪徳寺から七、八分で、割合ひわかり易い。三十か四十部屋があつて、よくあるアパートです。いねちやんのかりられるやうな部屋は階下にあるさうで、アパートの主人はゐなかつたが、大丈夫かりられます。二食つき。森井さんはちよつと不二ちゃんの昔の部屋を思ひ出させるやうな感じにして住んでゐます。ちよつと彼女の恋人が来たので、僕は二階の臼田君と小田中と云ふ彼女の先輩との共同生活の部屋へうつりました。尤もその恋人を僕は見ませんでした。恋人と云ふのは臼田君の説で、恋人なのかどうかわからないのですが。臼田君の部屋は余りきれいでない。間もなく森井さんも来ました。

やつぱり中島君と森井さんとはリーベだつたのですね。同じ仕事をしてゐた外の人達が、二人はどうして結婚しないのだと云ふほどだつたのださうです。ところが中島君からも森井さんからもはつきり意志表示しない中に、森井さんはどうでも自分の家にゐられない気持で、何とか解放されたくて、菊井とか云ふやはり元の仕事の関係者の求婚（彼女の方でも恋愛感情を抱いてゐた）に応じて結婚したのださうです。まだ彼女のはなしは抽象的で、彼女と中島君との関係も、菊井と云ふ人のことも、僕にははつきりとはわからないが、今日はまあ、彼女の語る以上をつつこんできかないでおきました。その菊井と云ふ人との生活が始るとすぐ二ヶ月で病氣にもなるし、結婚とはこんなものかと驚いたさうです（この辺すべて抽象的）。それでも彼（菊井）の政治的意見やその他に信頼してゐたし、矛盾を感じてはゐても、別れるなどの問題にはならなかつた。中島君は彼を見て「タイラントだね」と云つたさうですが、彼女のしたい放題（尤も病

気だつたから、せいぜい中島君との文通ぐらいでせう)をさせたとも云つてゐます。所が中島君が死んだ時、彼女は一切を失つた感じがして、まるでどうしていいかわからないほどで、之が恋愛だつたのだと知つたのださうです。それを知ると共に現在の夫婦関係の矛盾が決定的なものに感じられ、彼の政治的意見に対する不満も表面化して、(とうとう)決裂になつたのださうです。彼女がいつか「政治の問題だ」と云つたのは、「世界観の問題だ」と云つた方がよくわかるし、事態をよく云ひあらはしてゐたのです。

そこで僕の「愛情理論」になつたが、彼女は僕の云ふことがよくわかると云ひながら、どうも言葉でぴつたりしないと云ひ、僕には彼女の云ふことがよくわからない。彼女は、僕が意識の必要を云つたら「苦しい」と云ふ。「道がそこに見えるのに、自然な道が見えるのに、その野や林へ釘をうつて別の道をつくり上げようとしてゐる」と僕に云ふのです。「自然な道は行きつまつてゐるんだ。自然の道の行きつけない所へ人間が道をつくるのだ、意識を以て。自然の道は動物どもの道だ。はつきりした行く先の石ころやわき道の多い道だ。人間はコンクリートの大道をつくる。どこまでも行ける道、たしかな道をつくるんぢやないかしら」と云つたら、「それぢやあたしは人間ぢやないんだわ」と云つたり、「やつぱりその比喩は適切ぢやない。まだ自分でも云ひあらはせない」とも云ひます。白田君はきいてゐて、「森井さんは、菊池さんのおつしやることをしてゐらつしやらないんぢやないんだけれど、菊池さんのやうに論理的にいつかりとつかまへてゐるんでないだけなのぢやないかしら」と云ふ。白田君と森井さんとはよく話を通じ、それから僕と白田君とが話を通じる。何だか自分でもわけがわからなくなつて、もう一度やりなほしすることにしました。今度は彼女も具体的にはなしてくれる筈です。二人とも僕がせつちかすぎるとも云ふ。白田君は「森井さんも考へるのに時間がかかるんだから、待つてあげなさいよ。あたしだつて、あなたの話は初めの頃は大部分吸収出来ないのでありましたわ。それがだん／＼わかつて来て、此の頃では吸収する方が多くなつたわ。今頃になつて時々、以前に菊池さんのおつしやつたことで、その時わからなかつたことがわかる、と云ふことがあるんですもの」と云ふ。「そんなむつかしいこと云つてゐるんぢやないんだけど。愛情の唯物論的理解と云ふことは、僕等が始終いろんな人間関係の中にあるんだから、正しいか否かすぐわかるし、正しければ外の理論を否定して、この理論でやつて行けば、きつとやつて行けると思ふんだがなあ」。

僕は前に、歴史学の領域での経済史観と歴史主義とがあつて、之が論敵だと云つたでせう。それは哲学では俗流的唯物論とドイツ的観念論との二つ、または新カント主義とマツハ主義とになり、芸術では芸術社会学派(功利的芸術論、卑

俗な人生主義芸術」と芸術至上主義との対立になる。ところが恋愛の問題では、恋愛至上主義乃至神秘的恋愛観と、俗流浅薄恋愛観とがある。歴史学や哲学での主な論敵は、我々と共通の言葉を用ひる経済史観や俗流唯物論だが、芸術や恋愛になると、反対に芸術至上主義や神秘的恋愛主義が主な敵になる。僕は森井さんに、まだその神秘的なものにほひをどうも感じるのです。白田君もさう云ひます。それから森井さんの観念にはまだく静止的な、ものを運動に於てとらへないものが相当ある。例へば、以下は推察ですが、森井さんにとって中島君が余り理想的であるため、むしろ余り理想化されてゐるため、外の人間関係についてやや自由を欠くのではなからうか。まあ、いろんな問題に論敵をもつことはいいことです。それにしても森井さんは、たしかに中島君の影響が実に強い。中島君の欠点の影響も。

次には竹中君の問題。之は昨六日、本室へ行つた時一緒に夕食もしながら話したことです。彼には恋愛があつたのです。第一の恋愛は彼としても一番熱心だつたらしいが、元の会社の女の人で、竹中君の両親も賛成してゐたんださうですが、どたん場で、その会社の彼等の課長で彼等の崇拜的だつた人の二号になつてしまつたんださうです。しかも彼女は、その課長と一緒になれなければ死にたいと云ふほどだつたさうで、課長も妻子と別れるからと云つて家をもたせたんださうだが、二年経つのにまで別れず、結局二号のままださうです。竹中君はそれに失敗してから、一年半ばかり前からやはり同じ会社の女の子とつきあひ始め、それも恋愛にまで進んだのださうですが、之は彼女の母親が、次女である彼女よりも姉の方を結婚させたがり、若し次女が先に結婚するなら親を見てほしいと云ふので、つとより早く云ふとむこ入りしてほしいと云ふので暗礁にのり上げて了つた。その後人が立つて相手の母(父はなし)にやつと承諾はさせたが、今度は彼女の方が動揺し出して、とうとう和歌山へ疎開して了つたのださうです。それはこの間の空襲以後のことです。「そんなら何故僕に云はなかつたんだ。うまく行くか行かぬかわからないにしても、僕がもう一度はなしてあげたのに」と残念がつてもあとのまつり。尤もこの第二の恋愛は、第一のよりは稀薄だつたらしい。

そして第三のものになる可能性のあつたのがA君で、之も駄目。そのA君がもつて来た話にはやむなくまかせてゐるのださうです。いろくきいてみると可哀さうで、何とかしてやりたいと思ふがどうにもならない。今度の結婚をやめさせることも、いろく云つてもいろんな失望で、自分で自分の気持のインシアティヴをとれなくなつてゐて、駄目のやうです。彼はしきりに云ふ。「君の理論は正しいよ。僕は第一のリーベでも、それを感じるし、第二のそれでも感じたんだ。けどしようがなかつたんだよ。僕の方で相当積極的に云つただけどね、相手がぐらくくするんだもの」「い

くつたね、相手は」「二十一さ」。僕は島谷君を思ひ出しました。彼のあの不幸な結婚を。でもまだ問題は決定してゐま

せん。

クリユタイムネストラについてはまだ問題があるけれど、土曜日の午前までに書きあげねばならない原稿（戦争史）があるの、土曜の午後にまた書きませう。

それはさうとして、本当に身体に注意して下さい。大分冷えるやうになりました。

幸子から謙一あて（一九四四年十二月七日の記・消印）

十二月七日

御手紙33、34、共に十二月三日附、六日に落手致しました。三日の空襲、あなたの方被害ない由、安心致しました。本当にBさんの訪問も定期便になりましたね。今日の未明、警報が出ましたから、又々帝都空襲であらうと思ひ乍ら、其のまゝ睡りました。今朝のはどうだつたでせう。

東京も段々焼野原になつてゆき相です。この辺の気の早い連中は、東京は遷都する、何処へと云ふと松本だ、理由は気流の関係で一番安全なのは松本だから、そうして日本の最中部に当るから、と云つて話してゐます。

今日はお婆アさんの一週忌で、午後から長久寺さんがお経を読みに来るし、深三郎一家がやつて来る事になつてゐます。早いような長かつた様な一年でした。昨年の八日朝、まつ暗い霧雨の中を、あなたに途中まで送つて貰つて新宿を立つて来ました。八日でしたから、汽車の中でも、電車の中でも、車内常会をやらされました。考へると、あの時の方が今日より寒かつた様です。それはこちらの冬の寒さに今年慣れたばかりでなく、記憶では庭の木の有様ももつと冬枯てました。終日、松川の河原風が硝子戸を揺すり、わびしい様子でした。早苗もあの時はフーチャンにねんねこで負ぶさつてゐましたから、少さかつた訳ね。あの時、何を食べたか忘れたけど、今日よりは食へるものもあつた様です。

今日も凄しい風、ヒューヒューヒュル／＼と電線に風が鳴るし、どこかしらすきまを見つけて風がはいつて来ます。今朝もねぐるしく早く目を覚し暗い中に起きました。桃ちゃん「お姉さん、睡り乍ら歌を唄つてるの。何の歌つて云ふとね、ソルページソルページの歌をさ／＼悲しさうに細い声で全部歌つてたわ」と云つてゐました。まだねむり乍ら歌をうたふ癖が残つてたのね。

いろいろすませて、お炬燵（二階の）で手紙かきと云ふところです。今朝は起きたすぐは嫌な気持だったけど、もうすつかり良くなり、近頃に珍らしく掃除も積極的に出来ました。此の調子で、もうさつぱりしてくれたらうれしいのに、もう二、三ヶ月はこんな様子が続く事です。其の中勉強どころでなくなるかも知れないと思ふと、やや焦る気持も致しますが、子供がゐる方が本心から勉強を求める気持になれると思つてゐます。

昨夜、ぬる前に一寸と思つて、下のお炬燵で暖り乍ら、ひよつとしたかげんから田舎医者の話が出ました。フーチャンが「田舎医者つて、まだよんで見ないけれど、安田徳太郎さんのような身体の貧弱なケチヨ／＼の男で、其の癖、雄弁に大ぼらを吹く男ぢやないの」と云つた事から、とう／＼^{（たうとう）}田舎医者の話を全部大体話しました。バルサクがあの小説の中に盛りこんだ宗教や、社会改革の理想や、政治思想の精しい事は話せませんでした。ブナシスがどの様な転起^{（てんき）}から田舎の無知と貧困と、進歩のないほろびゆく農民たちを経済的に立ち直らせ、生産のよろこびを与へ、村中こぞつて経済的文化的に立ち直り、健康な社会を作り始めたか、――まづ其の始めの柳の筆作り、道路修繕、クレチン病との斗ひ、ブナシスとジユネタス^{（ジユネタス）}の馬の散歩で、村中をまはつて二つの葬式を見たり、ナポレオンの旧部下の二人の兵士の話など、それからジユネタスの訪問の話、ブナシスの死、――ばん始めは、あの小説の出だしをそのまゝ、ある春の朝、軍人が馬で浪合みたいな川をはさんだ峡谷にあらはれるところから話しました。さうしたらお母さんは、ゐねむりしかかつてゐたくせにピンと耳を立てて、夢中になつて終まで、ところどころ質問したりし乍らき、終つて、西洋にもそんな面白い小説があるのかね。一体何処の国の人が作つたの」ときくので、フランスのバルザックだと云つて、それからかんとんにバルザックの話をしました。いろんな面白い長編があるんだと云つたら、又あしたの晩、何か一つ話せと云ふ注文でした。「外国人は悲観しても、唯悲観しはなしぢやないからエライ。悲観からそれ丈の立派な行ひをするとは実にエライもんだ。なゝる程ね」なんて感想を洩してゐました。

喋つてゐる中に、ブナシスのやつた事は小規模乍ら、ローズベルトのニューデイル三ツのRを完全に行つたのぢやないか、と思はれました。プーア・ホワイトの如き存在の無知と怠惰と積極性のなさ、貧困、ペラグラ病に対比するクレチン病（クレチン病も日光不足と栄養不良が原因ね）、それらから彼等を救ふでせう。生産手段を与へ、生産のよろこびを与へ、除々にちぢこまつた心に積極性を与へ、生活するよろこびを与へ、遂に村中みつばちのブン／＼云ふような、にぎやかな人間の生産のよろこばしい物音で充すでせう。あの村に南部のプランターの如き悪質の存在のなかつた事は実によろこばしい事ですね。でも話してゐる中、オヤ、私は田舎医師を良く読んでゐたかしら。どうもこんなかんたん

な事ぢやなかつた様だなど思ひ起しました。話してゐる中に、何とか云ふナポレオンの旧部下のあの村の住人（橋を作つた方でない）の語るナポレオン話ね、あれを思い出したら、どんな風だつたか忘れたけど、彼の話すナポレオンは落語の熊さんの語るエライ人や、学者の話にある通りだなアと思ひました。とに角神がかり的な存在で、どこなくユーモラスで、辻つまが合はなくて、おかしい中にある種の真実のこもつてゐる点―ジヨネタスの皇帝の思い出より郵便屋の語るナポレオンの方が、真実の面があるように思へました。

風と共にの批評をほめて下さつて有難う。あまりほめて下さると、返つて不安になります。これもプランティシヨンのおかげでせう。

竹中さんの結婚の話はAさんの骨折りなんです。結婚してみたら、とてもいいものよ。あなたも早く結婚なさい”の中なのね。話できてゐるAさんで、竹中さんが惹かれる何物もないように見えて、あなたの云ふ通り、実は惹かれるんですね。多少は解るけれど、でも彼女の影響がそんなに強くひびくのかしら。戦争前の社会では―あのいやらしいハイトイ的な流行歌の当時は―そんな事もあり得るけれど―、今は不思議なきがします。兵隊になつた事が一番わるいシヨックになつたのですね。

問題劇について面白く思ひますが、これはもう暫く考へてみなくてはと思つてゐるところです。其中、この事は感想かきませう。

ここまで書いて、呼ばれて下へゆきました。くるみ割を十二時まで。前に小此木さんで出したくるみは西洋ぐるみ（かしぐるみ）ですから割りよいけれど、うちのはさわぐるみとか云ふのでとてもく割りにくい。一斤ます一杯割るのに40分、実を引き出すのに一時間もかかりました。足が氷のように冷め度くなつたので逃げ出しました。

今日はこれが皮切りで一日ごたつく事でせう。叔父さん一家が来ると、お母さんはきまつていきり立つた馬のようになるにきまつてゐるし嫌です。何もあんなにコーフンしなくてもいいぢやないかと思へるけれど、自分でもどうにも感情の整理がつかず、自分で煽るところがあるので。まはりは大迷惑な事です。

此の隣組に東京から妻子が疎解して来た、わし見さんと云ふ人がゐて、今日は旦那さんが来てゐます。旦那さんは万年筆のペン先の修繕をやるんだとかで、今、あなたが九月に来た時とりかへて行つた左へかしいだペンを、なをして貰ふ様に頼みました。神戸で買った速記用もすりへつて来たし、書く度に不便だと思つて居たので、あのペンがうまく修繕出来たら有難いです。

くるみの実をひき出し乍ら三ツ四ツつまんだせいか、とてもむか／＼して来ました。あれは南京豆と同じようにしつこいから毒なのね。あなたは南京豆やくるみ好きでせう。よく頭が痛くならないと不思議に思ふ位食べるのね。今度粉を送る時、すこし一緒に入れてあげませう。むしパンやおやきにいれると丁度よいでせうね。

国益社の判、いくらだつたかとか何時ごろだつたかとか、要領のわるい事を云つてゐてらちがあきませんから、近々気持の良い日に飯田に行つて、よく云つて来ます。十一月の四日か五日でしたね。値段は六円いくらと云つてゐたようだったけど、精しい事をもう一度知らせして下さい。別に受取は呉れなかつたんですね。国益社は仕事のがろくてゐるはずな店ださうです。少さくても北沢印房の方がたしかで、家では北沢ばかりで、北沢ならまちがひないとのこと。でも今更しようがありませんけれど。プランテーションがおくれるなら、判も少々おくれてもいいでせう。私が飯田へ行つたらキチンと期日を切つてきめて来ますから。

今日はもつといろいろ書くつもりでしたが、どうもむかむかして来ます。又、夕方にでも書きますね。お風邪を引かぬように。

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年二月七〜八日の記、八日の消印）

一週忌（四）よう／＼終りました。案外かん単に。

坊さんも此の頃はあまりユウ／＼とお経はよまぬものらしい。電車の時間にあはせて超スピード、それからお（赤カ）飯だのお煮めを食べて帰りました。叔父さんのところからは長女のミーナ一人出席なので、いろいろの心配もキユウに終つて、ほつと一安心致しました。

今使つてゐるペンがさつきなを（ほ）して貰つたペン、割合書きよくなりました。

今日二時頃、相当激しい地震があつて、二階では額がはずれるし、廊下の障子は二枚はずれ、硝子戸は二寸位づつ開き、時計がとんで来る、道路の前の羽生さんの家では壁が落ちて、小川の中に崩れこみました。

十二月八日

昨夜は南部の工業のノオトをやりかけたら警報で、標準の暗さにしても明るいく／＼と外からどなられるので、遂に灯を

消しました。とう／＼^(たうとう)仕方なく、暗やみの中でお喋りをして、九時前には床にはいりました。今朝は六時に起きて掃除をすまし、朝食後、株菜洗ひ四把しました。一把＝五貫ですから相当かかります。まだ半分残つてゐますが、足も手も凍えるので中止、午後から又始めます。

五日附のお手紙、昨午後五時ころつきました。空襲では絶体死なないとのこと、稲ちゃんも同じ様な事を云つてゐますわ。当時者^(当時)よりも外にゐるものが、どんな事でも同様、余計な不安を感じるものらしいですね。それではそのまゝ信じて、あまり心配しないようにしませう。あなたの痔は困つたものですね。夜、あん火を作つて暖めたらどうでせう。空襲で地下室に長くはいると又、余計わるくするかも知れませんが、前以つてすこしでも良くして置かなくてはいけません。結局杉林の冷えも、全体の体力の弱りが決定的なものでつたのでせう。栄養不足のせい^(せい)ですね。配給の魚はどうですか。肉もめつたないのでせう。此の辺も肴は一寸も姿を見せません。前の肴屋で時々匂がするけど。

昨日、教次さんからお父さん宛の手紙で、召集が来て十四日に横須賀海兵団に入団すると云つて来ました。望みをかけた子供は死ぬし、召集は来るし、教次さんも続けさまですね。みつちゃんは当分京免さんのところに残る相です。面会その他、近い方が便利でせう。みつちゃんも急に心細くなつて、きの毒です。家ではこれで見つちゃんも、すこし大人になるだらう、と云つてゐます。

私の例の方は確実です。今度は身心共に不安はないし、万事よくゆく予想があります。すこし年令的におそいとも思へますが、これ以上おそくては困ります。唯、多少気にかかるのは身体の弱い子であつては困るのですが、それも育て方に依ると思ふし、お産に対する不安も恐れも心配も、今度は全然ありませんから、大変気持は楽です。さうして、とても楽しみです。

あなたの手紙、対話ばかりで詰らないだらうとの御心配は御無用。大変にいい企だとよろこんでゐます。いろいろ考へるところもあり、其の日の内容によつて、いろいろ後まで考へてみる事が出来るので、こんな風な生活で、きまつた話題で、きまつた内容、既に何度も出て来る、考へる余地もない内容ばかりに接してゐるので、あなたの手紙で、あなたの感じる事を私も又感じ、あなたの話す事を私も又話す結果になつて、あなたの日々の手紙は私の生活になつてゆきます。

竹中さんとの結婚の話の進行状態と、其の進行に伴ふ批判、分析は、小説よりもずっと身近で、考へなくてはならぬ多^(た)くを含んでゐます。そして臼田さんの事も、竹中さんに感じるまどろこしさ、いらだたしさと異つて、健康な明るさを

もたらしませぬ。二人丈を比較して云ふのはまちがひになるかも知れませんが、男と女の相違もそこに感じられる様に思はれて来ます。女の方が単純な丈に偏見を捨てても早いのだらうか、女の方が男より現実にと直面するチャンスが多いのだらうかと、いろいろ。臼田さんに先づ積極性のあつた事が第一です。そして吾から眞実を求める心持のあつた事です。そしてこれこそ思ふものに突進したいと願つてゐたからです。だからあなたの云ふ事もひたむきにきき、とり入れたのでせう。そして臼田さんはそれを擱んだのでせう。寿岳氏とのいきさつも新しい見解で眺めて、満足するように解決出来たのでせう。あの事件も臼田さんの考へ方をより積極的のうち立てる有力な力となつたのでせう。森井さんを追ひ越した様です。

臼田さんが挺身隊にはいるいきさつの問答、突然の様で実は突然ぢやないのね。あなたと一緒に仕事なら、やりがひあると思つて出来ても、谷川さん、西井さんとは、あのひとは仕事のかひを感じないのは当然だし、本当に一寸見た丈だけど、あそこの仕事全体、女の人にとつてはあきたらないでせう。助手の仕事だつていい仕事ならだけど、唯の男の人の走り使ひや掃除だけで、半分甘やかされ、半分貶しめられてゐる仕事なんて、満足出来る筈がありませんものね。今、新しい考へ方を擱んだ時、森井さんからの話は棚ぼた程、うまい具合に来たものでせう。どのような仕事につくか知りませんが、自主性と責任を持たねばならぬ仕事でせう。寿岳氏とのいきさつの後の彼女こそ、とキタイした丈の事がありますね。テイ進隊(挺身)と云ふと妙に束縛的で嫌なものゝ様に感じられますが、いくら自分が選んだ仕事だつて、自分の満足のいくような仕事に現在つけるわけのものではないし、仕事それ自身、女の場合は、仕事でなくて給仕兼みたいな創意性も自主性も出せない仕事が多いのですから―そして一寸見はいい様に見え乍ら内容は至極つまらない―のだから、むしろ挺身隊の生産的な仕事に時間も体力もたつぷり働いた方が、どれ位勉強になるかわかりませぬ。唯残念な事は、もう半年度もあなたの仕事をして、もうすこし長成出来たらと思はれる事です。よう／＼歩き始め、自信もついたとは云へ、まだ多少の不安なきを得ませぬ。何処の工場へはいるのか知りませんが、時々あそびに来るようにして、チヨイ／＼話をきいてあげたり、力強いゲキレイを与へてあげる事です。臼田さんの短時日のすばらしい成長は近頃ないうれしい事です。竹中さんのモヤ／＼も消されるではありませんか。

其の後は古田嬢はどう？ あの子はまだあまりに子供でだめぢやないかしら。あの子へのキタイは長年月を要しますね。結局あの子はおさしみのツマの如き存在だつたのね。

今日はとても静な小春日和、硝子戸を開いて伊那山脈を眺め乍ら手紙を書いてゐます。上の方は紫がかつた青、わき腹

には雪の谷、下の方は赤茶いろの雑木に陽が当つて、空の遠くで爆音がする。

昨日午後、コルネイユ「ルシッド」をよみました。よみにくいのね。何だか方々ギス／＼してゐて、内容も嫌気がさして来ます。相愛の男も女も、口達者に多弁のくせに、ウソにウソを重ねては正義々の合言葉でごまかし乍ら、そのくせ誰か本心を知つて、自分の思ふ様に面子をきづつけずに、ハッピーエンドにしてくれればいいと願つてゐて、まはりの侍女だの王様だのがチャホヤ甘やかしていい気になつてゐるので、＼そんなら勝手にしな」と云ひたくなつて来ます。自分で積極的に解決しないで、他力で片づく事を願つてゐる態度は実にあさましい。殊にシメエヌと云ふ女が激しい。此のドラマ、覚えてゐますか？シメエヌとロドリグは恋仲、二人の父は嫉妬からブジョクし合ひ、ロドリクは父の仇をうつためシメエヌの父を殺す。恋人を失ふ事を恐れ乍ら、父に孝子でありたいので、シメエヌはロドリグを仇と呼んで殺す事を王にしつこく願ふ。ドン・サンシユと云ふシメエヌに恋する侍が、シメエヌに代つてロドリグとはし合ひ、勝つた方にシメエヌは妻となる事を宣言、ロドリグはシメエヌに、此の上はあなたに殺らされるのだと思つて手むかひせず、サンシユに討たれようと云ふ。シメエヌは又、それは私の名よを恥かしのめるとかさわぐ。とどのつまりロドリグが勝つと、父の敵と結婚は出来ぬとタダをこね、王様がお前は勝負の引出もの云々云ふ事は出来ないと言つてくれて、面子を保つてロドリグと結婚する話です。親子の義理、仇うちの観念の肯定されてゐた時代、あゝ云ふ芝居をしなくて、愛する者と一緒になれぬのかも知れませんが、何にしてもシメエヌがあまりに多弁でペチャ／＼正義呼ばはり、小面にくくなつて来ます。さうして其のために自分に恋する男の純情を利用して、彼（サンシユ）の死をもつて自分の面子を買ひ、巧みに自分の恋を完成しようとたくらむ（尤もサンシユもかひしようのないまぬけ男ですから、あたり前かも知れません）。

当時のコルネイユ劇を求めた人々は、あの様に辛い義理人情を巧みに処理しつゝ、メンツもこはさず愛情を守つたシメエヌに同情したのでせうか。それとも親と子の義理と仇うちの内容を否定したかつたのでせうか。かんたんに云へば、あまりにシチャモチヤしすぎるから腹立しいドラマでありました。

これ又愛情の問題劇ですかしら。ロミオとジュリエットの方が同じ様な立場にゐて、もつと／＼卒直に、合理的だつたようです。あのロレンゾ法師様の方がルシッドの王様より賢明だつた。何故ならロレンゾ法師は愛情の倫理を知つて、力落すロミオをゲケレイし、ロミオに新らしい考へ方と力を与へた。ルシッドの王様は唯、王の権威で片つけてしまつた。終りはルシッドはハッピーエンドであつて、ロミオたちは二人とも死んでしまつた。けれど、あのドラマを見た者

は、ロレンゾオがロミオに与へた恋の倫理を、自分たちも又貫つた。ルシツドは王様の權威と云ふグーゼンがなくては、此の恋も完成しないと思ふだらう、等々一寸感じました。

和歌山の京子さんから手紙で、みかんがすばらしくおいしいから来いとの事。みかんは食べたのですが（本当に此のごろ御飯は一寸もほしくなくて、果物がほしくてたまりませんの）、空襲にあふのは恐い。で、結局やめますわ。ひろちゃんのみかんを送ってくれるといいんだけど。お金を送つたのんでみませうか。むづかしいでせうが一箱位何とか出来るでせうね。さうしてもよかつたら、ひろちゃんの有田の住所知らして下さい。

では今日はこれですようなら。

幸子

白田さんによろしく。はげましの言葉を云つてあげて下さい。森井さんにもよろしく。

謙一から幸子あて（一九四四年二月八〜九日の記）

十二月八日（金）曇

今日は来るかと大分警戒嚴重だつたせい⁽²⁾か、来ませんでしたね。だが昨夜と云ひ今暁と云ひ、向ふは神経戦でやつて来ます。

それにしても昨日の地震のすごさ。丁度おひるで、今日あたり来るかと上ばかり気にしてゐたら、下から来たので驚いた。ここは屋根は瓦でなくて軽いから、地震には先づ大丈夫です。だから僕は落ちついてゐた。庭のすみのプールはえらい波がおこつて、ザンブザンブとあふれ出ましたし、ずい分長い間、まるで頭が痛くなりでもしたかのやうな揺れで、「これはどこかはえらいことになつてゐるぜ。三陸か紀州か、とにかく大分遠い所が震源なんだらう。すごい〜」と暫く誰も不安さうな表情を去り得ませんでした。

今朝もゆれましたね。この家は耐震家屋として建てたものださうです。その点いいが、銅の屋根だから今に献納ではがされるかもしれないし、また高射砲弾のかげらなどは、瓦の屋根の方が貫通しにくいでせう。

昨日のお手紙のエレクトラのこと。たしかにソフォオクレスの「エレクトラ」はアイスキロスのそれに比べて、政治的モチーフから遊離し、歴史的運動、モラルの交替の運動と云ふことと結びついてゐませんね。一種の性格劇の要素が多い。

その意味ではソフオクレスの方がアイスキロスより、わかりやすく、現代的可能かもしれない。もつと現代的是なのはユーリピデス(ユリピデス)の問題劇的(問題劇的)、社会劇的(社会劇的)な作品ですね。ところがまさにその現代的であることに欠陥がある。そのことをあなた(あなた)は指適(指適)してゐるので。すなはちソフオクレスがアイスキロスのやうに、エレクトラを歴史の時代の歴史的运动(歴史的运动)の中でとらへ得なかつた、さう云ふものから切りはなして性格創出(性格創出)的にあらはした、そのことがエレクトラの形象を一面はつきりと浮き出させ、他の半面却つてあいまいにしてつたのでせう。性格劇(性格劇)はドラマとしてはたしかに進歩であるが、内容的にはむしろ弱いものになつてゐる。エレクトラ劇のアイスキロスとソフオクレスとの比較は実に有益(有益)です。本当のエレクトラ劇は、やはりアイスキロス的であるべきなのです。尤もソフオクレスの時代には、アガメン(アガメン)ンやエギストス、クリュタイメネストラ、エレクトラ、オレステスの政治的意味は、アイスキロス等によつて既に定立(定立)されてゐて、わざわざ説明する必要がなかつたと云ふことも考へられる。だからソフオクレスに於ては、同じ題材の、アイスキロスのこのこした部分、即ち性格劇的掘り下げが必然的(必然的)だつたのかも知れませんか。にも拘らず、政治的モメントはもつとはつきりと個性的形象と結びつかねばならなかつた。マル・エンがアイスキロスを特に好んだのも、尤もだと思ひます。所でエレクトラについてですが、妻たるクリュタイメネストラが夫であるアガメン(アガメン)ンを殺すことの悪と、子たるオレステスが親たるクリュタイメネストラを殺す悪との比較は、アイスキロスによつてはつきり解決されてゐる。即ち、第一の悪の方が第二の悪より大なのです。それが新しいモラル、父系制社会のモラルなのです。そして今から見ると父系制モラルが母系制モラル(母系制モラル)のうちかつのは、男が女のうちかつやうに簡単に見えるのに、実際はあのオレステスが母系時代の神であるエリュウニウス(エリュウニウス)達にあんなに苦しめられ、新しい時代の神であるアポロとアテナとによつて、アテナの市民陪審官の票決(票決)が六対六と云ふ風な息づまるやうな「たたかひ」の後に定立(定立)されたのです。エリュウニウスは、オレステスの中の旧道徳(旧道徳)の感覺であり、「良心」なのです。この新しいモラルの古きモラルへのたたかひが、アイギストスの篡奪(篡奪)専政者(篡奪者)の打倒と云ふ政治的モメントと一体になつたところに、アイスキロスのエレクトラ劇の偉大さがある。父系制モラルとは、「母の腹は借りもの」と云ふモラルで、之は封建時代までつづいた甚だ不合理なモラルだけれど、ギリシヤ時代は、このモラルこそ新しく、歴史的に進んだモラルだったので。それは私有財産の発生が、一切の悪の根源であるにも拘らず、しかも生産力の発達の成果であり且つ生産力発達の刺戟(刺戟)であつて、歴史の進歩のために必然的であつたことと照応(照応)します。母系制時代のモラルとは、子供の父親がわからないと云ふモラルで、之は氏族社会(氏族社会)のモラルでしたが、氏族社会は発達(発達)し行く社会に適應しなくなつて、族長(部族)社会(部族社会) (家長制社会) 奴隸制社会へと轉移して行かねばならな

かつたのです。

またアガメンノン¹は、現代の見地から見れば甚だけしからん男にちがひないが、当時としては民族の首長として立派な王者だつたのです。彼はヘレンの為にトロヤへ行つたではありません。ギリシヤ民族全体の此の時代の民族運動（掠奪や奴隸獲得や商業と云ふ形の）の代表者だつたのです。だからこそギリシヤの凡ゆる民族がわざ／＼トロヤまで戦ひに行つたのです。当時の戦争を現代的な眼で見てもいけない。彼が女奴隸をつれて帰つたり、ぶんどり品をとるのも、当時のモラルとしてあたりまへです。イフゲーニーを捧げたのも当時のモラルで承認されてゐた。にも拘らず、そのモラル自身の非人間性が、クリュネによるアガメンノンの否定と云ふ結果を生じたのです。その意味でアガメンノンの否定には、アガメンノン・モラルの否定があらはれて来てゐる。だがアガメンノンを否定したそのもの自身もまた否定されねばならなかつた。アガメンノンが王者であり乍ら、従つて当時のモラルの代表者でありながら、アキレスのモラルによつて既にイリアスに於て否定された。あなたはアガメンノンを現代の横暴男性の典型にすることによつて、歴史的なもの見方を忘れてゐる。アガメンノンはリヤ王のやうなもので、否定されねばならなかつたとは云へ、偉大だつたのです。アイギストスやイヤゴース式の王よりは偉大だつたのです。だからこそ悲劇なのです。

エレクトラの母へのくしみを嫉妬であると見たのは、十九世紀後半のエレクトラ解釈です。ソフォクレスにはたしかにさう見られる要素がある。だがやはりエレクトラのさう云ふ解釈は、フロイドの心理主義であつて、エレクトラのモラルを見逃すことになる。そして評価すべきはエレクトラのモラルなのです。どうもこのあなたのお手紙は、少しヒステリックな調子があつて、此の頃のあなたの歴史理解力にそぐはないやうに感じます。物を、特に歴史的なものを、現代的感情で見ることは、卑俗な現代主義で、ルカッチはその欠点をはつきり指適してゐたでせう。エレクトラはそれくらいにしませう。

今日は大分物々しく警戒して、昨日の午後二時から隣組廻状がまわつて、自宅にゐるやうにと云つて来たくらいです。向ふも中々正攻法で、警戒してゐるに違ひない日は、たくみにそらして神経戦ぐらいでごまかし、警戒がゆるむと来るのでせう。伊藤書店の鶴田君は、荻窪から四谷へ疎開すると云ふんです。「四谷へだつて」「さうですよ、四谷左門町へね。焼夷弾は大してこはくない。あれは消せますよ。この間のだつて、消火出来たのに、待避命令で待避をやつた間に手のつけられんことになつちやつたんですよ。それにね、焼けても、どうせ人の家だし、自分のものも何にもないし、女房と二人で生命さへあれば何とでもなりますからね。バクダンはたまりませんよ。命がもたんですよ。日曜日のバク

ゲキはこはかつた。あの日は新宿でサイレンがなつて、あはてて帰つたんですがね、荻窪の駅でおりるととたんに空襲警報で、すぐ待避つて云ふんでせう。道バタの頼りない防空壕へとびこんだらね、もり／＼ぼくだん落ちて来た。防空壕ごとこんなになつてゆれてね、あの時駅の陸橋がやられて、そいで省線が通じなかつたんですよ。線路もまがるしね。それからやみ間にとにかく家へ帰りついたがね、またやつて来る、家中あけ放してふとんをかぶつて庭の防空壕へとびこむ、丁度女房がどつかへ行つてゐて留守だつたんですがね。何しろ右と左とにドカン／＼落ちて、生きた空もなかつたですよ。あとで見たら、二十軒先の所へ二百五十キロが落ちて、四、五軒の家はメチャ／＼。それはいいが三軒隣の家へ不発弾が落ちてね、こいつにはきもをつぶした。あれがバクハツしてたらお陀仏だつたね。その辺の人みんなあをくたつてたからね。日本橋神田の焼夷弾ちや全部で二十人死んだきりだが、荻窪ちや一つの病院で四十人の死骸をはこびこんだですからね。とにかく、あれを二、三回やられたら完全に神経衰弱になるね。こりこりだ」「なるほどね。そんなものかな。それにしても四谷とはね……」。伊藤書店とは小川町の電車通、昭和銀行の丁度向ひ側（オ茶の水側）にあるのですが、その昭和銀行のすぐ裏手の南明座が完全にやけて了つたのですから、危いところだつた。

今日のお手紙（十二月四日夜）と木下半治の黒人問題、どうも有難う。第七節の面白さがわかつていただけでよかつたと思ひます。尤も僕がむりやり面白いと云はせたのかも知れないから、もう一度冷徹に判断して下さい。一番力を入れたい、一番面白かるべきところだが、その苦しみがそのまま果して効果あつたか否かは別ですからね。だから問題なんです。僕が一番書きたい、力のは入つたところが、その力が出てゐないとすればね。

前は第二章まで、問題のある所を書きましたね。第七節などは、信用制度も変な所へは入つたけれど中々重要でせう。バンクヘッド法は、第三章のフェア・レイバー・スタンダード法と共にニューディールが一番重要な法律で、それをスティーヴンスの土地改革法と対比させたあたり、うまく行つたでせう、はつきりわかるでせう。クロツパーユニオンやCIOのことは、余りよくわからないのです。その方面の資料がまるでは入つてゐないので。それに書きにくいところだから、暗示的な程度でがまんしてもらふより仕方がない。

第三章では、標準以下労働の問題へもつて行つたのは、実は書いてゐる中にさうなつたので、結果はちよつと面白いものになつたでせう。ここでも労働問題は書きにくいために、苦しい書きかたをしてゐる。南部の工業の特質（第一節）は、冗長すぎたかもしれせん。もつとひきしめて書くことも出来たんだが。南部の工業の資本系統はもつと詳しくわかるといいのだが、あれだけでもよくわかるでせう。

第四章は、シンフォニーのフィナーレにするつもりで出来なかつたが、之は丁度第二章第七節のやうな力の入れかたをしてゐるのです。結語としてさう悪い出来ではないと思つてゐます。投票率を出したりして、大分面^ツ々なことをしたけれど、あれは中々重要です。また南部の民主党第一主義の問題は、やはり書いてゐるうちに出て来たもので、之も僕の方の入れたところでです。帝国主義政治の分析として、アメリカだけでなく世界的に通用出来ると思ひます。意図したやうなフィナーレの絢爛たるところは出せなかつたが、大体各章、各節で結論は示唆して来たのだから、第四章程度の結論でも変ではないでせう。

こんな風に見てみると「ブランテイション」も構成的に、バランスはとれてゐないが、さう脆弱ぢやないですね。

あなたに読んでもらひ乍ら書かなかつたことの失敗、あの時むりにでも読んでもらはなかつたための欠陥の具体的な例があります。あなたは前に第二章第四節の感想で、クロッパ・ユニオンの要求綱領の中の、黒人の子供にも九ヶ月の学校と云ふ要求のあつたことに注目して、思はず涙をこぼしたと云ひましたね。さう書いたお手紙を読んだ時も、実はそれだけのこととしてすごして来たのですが、今日、知識なり学問なり芸術なりは「歴史の武器」であると云ふことについて考へてゐる中に、ふとあのあなたの言葉を思ひ出してはつとしました。さうです、僕は重大なことを書き落した。それは黒人の知識欲、教育への欲求です。奴隸制時代には、奴隸に文字を教へると処罰された。ところが黒人奴隸の知識への渴望は、自由黒人の中の学問などにはあらはれ、地下鉄道組織の斗士ウィリアム・スティルなどは立派な学者にもなれたでせう。南部再建に、黒人の参加した再建政府の第一にやつたことは、黒人を含む普通教育制度の施行です。黒人の知識への欲求は、それが黒人の不幸を解決する武器、黒人の非人間的境遇の根源を知り、之を解決すると云ふ意味の武器、であるからです。彼等にとつて、いや彼等と同じやうな貶黜された民衆にとつて、知識、学問、科学、芸術はなぐさみものや飾りや、居心地のいい地位の保障なんではない、それは彼等のおかれた非合理の現実とたたかひ克服する最大の武器なのです。知識や学問や芸術は、いはば歴史の道を切りひらき、歴史の敵を撃攘する「歴史の武器」でなければならぬ。だからこそ、あの「笑はぬでもなし」で、黒人達が一人の頭のいい少年を学校へ行かせることにあんなに熱心になる。「アンジェロ・ハーンドンの自伝」でも、黒人の大人達の子供の教育に対する関心は異常なくらいです。それほど切実なのです。

それなのに「知識の特権階級人」はそのことをちつとも考へない。彼等は歴史の武器、民衆の武器を金で買ってなぐさみものにし、私物にし、鈍化させ、けがしてゐるのです。それどころかしばしば歴史に対する武器、民衆に対する武器

にする。之等のことをあの所で展開すべきだった。材料はあつたのに。だのにそんな重大な問題を僕は逸したのです。あなたが読みつつそばにゐてくれたら、きつと気づかせてくれてゐたでせうに。今度歴史を書くときにそれを書くつもりですが、とにかく残念でした。こんな風に、まだくいろいろなことを落してゐるかも知れません。伴侶的理解者の必要は、こんな所にもはつきり出てゐるでせう。

十二月九日(土)晴曇

今日も三回サイレンがなりました。第三回目のは(夜)信越地方へ焼夷弾を落したとのことですが、大丈夫かしら。心配になりました。

僕は今日、芦野氏のお呼びで本室へ行きました。朝行つて午後四時帰りました。今度僕は一室を完全にもらへます。それは七畳の部屋で、今西井君のゐる部屋。それが僕の私室になり、ここは事務所。僕の机は元のまま、二畳もタンスもそのまま使ふのですが、結局僕は七畳から十畳へ毎日出勤することになる。庶務課長と相談してかうきまつたのです。昼間の日の当る時は十畳のここゐて、夜は狭い部屋で畳にこたつでもしつらへられます。私室にも机がもらへるので、結局机を二つもつことになる。倉橋君は昔の事件のことが知れたので、交友を監督すると云ふ意味で本室の方へうつされ(之は僕にだけ洩らされて本人にも云はないやうにと云はれたが、僕は本人に云つておいた。二云ふ方がいい)、この部屋は昼間は僕と西井君と小田中さん(之はまだ当分来ないが)の三人になる。西井君は多少ぶうく云ふかもしれないが。芦野さんの用事は主に倉橋君のこと。

今日、お手紙No.45がついてゐました。五日付です。之へは明日書きませう。

今日は久しぶりにいいおかずです。牛肉とねぎ、いかとかぶらが配給されたので、今夜はいかとかぶらとを煮ました。肉は明日の日曜にたませう。ここ数日は全然おかずなしの日が続いたので、大変おいしかつた。豆もいももなくなくて、粉も少しになつて、米ばかりやたらにあるので、二、三日は塩味のめしとうめばしばかりでしたが、此の頃さう食べたいとも思ひません。どこへ行つても肥つたと云はれます。今日、本室へ行くと「菊池さん一昨日の地震は知つてゐましたか。ひるねしてゐませんでしたか」「菊池さんくらいきもつたまが太けれや、あんな地震大したことないでせうな」と大分ひやかされました。「此の頃は毎朝律氣にサイレンの度に起きてゐますよ」と弁解しておいたけれど。たつぷりたべてぐうぐうねて、時代メウリ(メウリ)につきてゐると云ふ定評が出来てしまつたやうです。

小包みはわりしなくていいですよ。豆が入つたら、少しでいいから何かのついでに送つて下さい。こちらも小包は列をつくるので、ワイシャツのせんたくなどに送りたいのですが、ぶしようしてゐます。では又明日。

幸子から謙一あて（一九四四年二月九日の記）※

十二月九日晴

今朝未明に又警戒警報が出ました。何時解除になつたのか、此の辺は出る時はサイレンが鳴りますが、あとは伝達なしです。警防団は一人もぬ程、若い人々は出つくしてしまつたので、大事があつても此の村には消防がゐません。近村からの応援で、どうか仕末する有様です。うっかりあなたが此処へ住まうものなら、警防団員やら消防係やら、いろんな男の役目は皆、あなたを目当に集中するかも知れませんよ。万年筆屋の鷺見さんは、妻子を置いて上京しましたが、十二月中にあちらを引上げて来ると云ふので、隣組などで手ぐすね引いてゐる様です。さうは云ふものゝ此の隣組でも製^販所へ行つてゐる男は三人、運送屋一人、トラック運転手一人、郵便屋一人、医者一人、七人の男がゐます。今日も河原風物凄く硝子戸を揺ります。三月末まで此の辺はこんな風が吹くのだ相です。何時も冬がこんな風なら、家の建方を注意すれば良いのに、此の家なんかすきまだらけで、壁と窓、窓と敷居と云ふあらゆるつき合はせがすいてゐて、風の吹く日は忽ち埃でザラザラです。東京も空風が吹きあれてゐるでせう。

三日の空襲で、中野のある工場で五〇〇人も死んだとか風評です。中には女子挺身隊も沢山まざつてゐるとか。随分大勢の人がそんな事を云つてゐました。

昨夕から下痢で、今日は弱りました。家では良くお赤飯を作る、併も下手に。もち米とか小豆は不消化らしいのね。何時でもお赤飯の前後、下痢で困ります。どうも体力がよはつてしまつて、何も出来なくなりました。今日は朝掃除を済ませると、すぐ炬燵にはいりつきり、古典劇を引き出して来て、ねころび乍ら午前中すこしました。

コルネイユはルシッドのあと、シンナを読みました。シンナの方がまだずとましです。偏見やかたくながすくなく、最後には了解から起る和解、新しい友情関係の出発がある。ラシーヌはフェードルを一ツよみました。フェードルには得るべき何物もないと思ひました。唯、コルネイユのドラマの恋愛関係より、フェードルの中のイポリットとアリシイの恋愛の方が、恋愛として進んでゐると思ひます。フェードルの恋愛感情はあまり同感出来ません。ルシッドで

もシンナでもフェードルでも、共通してゐる点は主人と侍女の関係が、オニールの仮面劇の様に、真実であらうと苦しみ斗ふ者と、理由をみつめて利己的自我を満足させようとする者との斗ひの形で出て来ます。そしてたいいてい侍女或は心腹の従者が、卑俗を代表して、そしてある程度勝利を得る。フェードルも侍女の言葉をうけいれて、フェードルは一步く落ちてゆきます。

今日はボオマルセエのセビイラの理髪師とフィガロの結婚をよみました。これは実に面白いですね。伯爵も医者も下男も、娘も下女もフキガロも、典型的な形でいづばいに活躍してゐます。特にフィガロの結婚の方はすばらしい。封建領主のアルマビバ伯、我まゝと利己主義と不信と好色と残酷さがとてもよく出てゐるし、ロジイヌと云ふ娘も愛には勝つが、結婚すると同時に消極的に受身になつて、たはいもない女にすぎなくなる。すばらしいのはフキガロの観察眼と鋭い批判、気転、健康な明るさです。一寸見はこれと云ふ信念などなさうでゐて、中々どうして人生に対しては、あくまで積極的で、健全で、愛情にかけても軽率でない。フキガロの妻となる筈のシュザンヌ、それからマルスリイヌ（女中）と云ふフキガロの母であつた女も実に堂々と世間を批判する。ルシツドやシンナ、フェードルの後でよむと冗長、誇大、みせかけがなくて、凡て生々としたテンポを持ち、健康な笑や批判にみちてゐます。フキガロの政治論などすばらしいではありませんか。そしてマルスリイヌの男性批判もすばらしい。（このあと戯曲「フィガロの結婚」からの抜き書きが便箋四枚余にわたり記されているが省略した―編者注）。

※この手紙文は、さきに掲載した一二月四〜五日記のものと共に、同五日消印の封筒中に挿入されていた。何らかの事情で紛れ込んだのであらう。なおこの九日記の手紙が本来入っていた封筒は発見されていない。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一〇日の記）

十二月十日（日）快晴

久しぶりに怪物にゆり起されない朝でした。お天気はすばらしくて、あふぐ空のあをさ。陽の光の軽やかさ。冷いけれど、とげのない、むしろ身うちを引きしまらせる微風が、のどかにガラス戸を時々ガタンと云はせ、子供の声も街にほがらかです。之で日の丸の旗でもひるがへつてゐれば、子供の頃のお正月の感じですよ。

ところが今日もどかこのひろい大空のすみで、人間の憎悪と敵意とが兇悪にはばたいてゐる。人々はおびえにしみつけられた心を、このあをい空、輝く陽光にも開かれきれないでゐる。僕も日曜日は外出出来なくなりました。何しろ防空責任者だから。

島村君の所へも火曜日に行くつもりですが、之中々大変なのです。此の頃本室の用が多くて、八日以外は毎日出なければならなかつた。八日も大詔奉タイ日で式があつたが、この辺では午前七時から九時まででは普通の切符を売つてくれないので、出なかつた。月曜(明日)も、他へ委嘱した原稿の稿料のことで出なければならぬ。みつちゃんも大変です。林健太郎君もこの二日に横須賀へは入りました。

田舎医師や村の司祭はバルザックのサン・シモンのなコント的な要素が出てゐる代表作で、ルーズヴェルトのやうに、国民の圧力でやるのとは根本的にちがふが、そのかはりルーズヴェルトの方が大きなこと、普遍的なことが出来る。いやルーズヴェルトがするのはなくて国民がやつてゐるのです。その国民のやる一番大きなことは、もう一つの国ですが。パチーギンの国ですが。アメリカには丁度バルザックの頃、ロバート・オウエンやフリーエ主義者の理想郷の試みが、いくつも試みられたものです。バルザックの若い理想主義が、サン・シモンの社会改良、農村改革に情熱をもつたことは、たしかにバルザック的ですが、結局それは理想主義的以上に出なかつた。サン・シモンやフリーエ以上に出なかつた。だが彼のリアリズムはサン・シモン主義を高潮しながらも、その根本的欠陥を指摘し忘れない。すなはち、さう云ふ理想主義的試みが成功し得るのは、現代社会ではむしろ偶然的である、個人的である、決して必然的でないこと云ふことです。ルーズヴェルトの場合は必然的なのです。その必然性は国民の力そのものにある。バルザックはだから、田舎医師の場合も村の司祭の場合も、失恋のモメントと結びつけてゐる。しかもその失恋は、ヒューマニズムの力に充ちて描かれた「大失恋」(変な云ひ方だが、失恋にも偉大なそれと卑小なそれとがある)である。現代史の裏面も之とつながつてゐる。しかるにやがてバルザックは、かかる個人的問題提起、理想主義の無力を知る。そこから「農民」が出て来る。「農民」ではもはや問題は上からでなくて下から、個人的偶然的でなくて社会的必然的に、大勢の人間の現実的要求とたたかひ、としてあらはれる。この進歩。ここにバルザックの現実理解、歴史理解の正しさがある。

それにしてもあなたの「田舎医師」の理解は大変進んでゐます。ブナシスの解決の方法はとにかく(方法は個人的である)、方向は正しい。僕も大分前に読んだきりなので、あなたに説明してもらつてやつと想ひ出せる程度です。併しバルザックは実際強烈な力をもつてゐますね。僕はよくバルザックやシェクスピアを引き合ひに出し、みんなは僕を博

覽強記だとか、よく小説をそんなに覚えてゐるとか云つて感心してくれますが、之はバルザックやシェクスピアの形象力の強烈さにもよるのですね。僕もそんな強烈な形象力を以て歴史を書きたいものです。

国益社のハンコは十一月五日か六日のおひる前に飯田へ出た日で、値段はたしか五円八十八銭か何か支払つて、受取りをくれ云つたら、受取りはわたさないが、名前を云つてくれればわかると云ひました。期日は十一月二十日から二十五日に出来るかと云つたのです。店の人は二十六、七の男の人、外に女の人もあるが、その女の人が「古典」と云ふ字の形について、これがさうだと示してくれたのです。どうも御迷惑かけますね。よろしくたのみます。

僕の痔はあれから悪くならずすみしました。まだよくはならないが、之なら大丈夫です。今度は隣の部屋がそつくりもらへるので、こたつも出来ませう。

竹中君の問題は彼と彼のお母さんとの優しい関係に、何とも強くこつちで云へないのです。彼の母は彼の第一の恋愛にも彼の幸福を思つて大いに支持したのださうだし、第二のそれにもずい分いろ／＼うまく行くやうに条件を考へてくれたのださうですが、そんな風にしてくれるので、彼としても何とか母に早く安心させたい、母の世話（血圧高くてよく寐込む）をしてあげたいと思ふのです。そこへA君がいろ／＼云つてもちこむものだから、ついイニシアティヴをA君からとりかへせないでゐる彼（彼にとつてA君は第三のリーベになりかかつてゐたのださうです。さう臼田君に云つたさうです。彼も少し気が多すぎる。それと云ふのも、あんまりお母さんつ子だからでせうね）は、そのままかせて了つたらしい。僕も彼の母の世話をしてくれるやうな女の人をさがして、此の間森井さんにもたのんでおきました。彼もいささか頼りないけれど、僕がどんなにひどいことを云つても、ちゃんと毎日やつて来てはなして行きます。

臼田君は僕には之まで得た若い生徒（？）の中で一番いい生徒だつたのでないかしら。まだ考へや行動に甘さがとれず、深さも不充分、エネルギーの持続も足りなくて、危つかしきはあるが、此の頃僕の云ふことについての理解力はずい分進んで来てゐます。彼女にはあなたに似た所が大分ある。ただ生活の苦勞が足りないのと、「津田」の自意識がわざはひしてゐる所があるやうだが。そのために物へくひつきかたがまだなまぬるい。森井さんも彼女に「あなたは余り簡単に行動しすぎる、苦しまないで行動しすぎる」と云つてゐるが、その言葉は苦しむと云ふことに關して、そのまま僕が受け入れてゐるのでないが、やはり同じ危つかしさを云ひあててゐるのでせう。

とにかく彼女は或る意味では一番いい妹ぢやないかしらと感じます。少くとも僕の思想の吸収のまじめさとその力とに於て。僕は彼女が去る時、「友情もエネルギーが要るがね、僕も君の僕に対する友情の厚みを計量するために、僕のプ

ランティションを読む義務を要求したいんだがどうかね」と云つたら、「ええ読んでみたいわ。今なら何でも読みたい、がつしりしたものを読みたい、読めると思ふの」と云ふので、「ぢやその中鶴田君から二校のゲラが来たら、森井さんと二人で読んでもらふために、原稿かゲラかどちらかを届けるからね」と云つて約束しました。北条君も中旬に帰つて来たら読んでもらふつもりです。あなたに読んでもらつて自信を得たから、先づ手近かなところから、ぼつ／＼読んでもらふことにしませう。いねちゃんも向日荘へ来るから、森井、白田両嬢と一緒に読んでくれるといいのだが、まだ彼女には、さう云ふ要求がない。森井さん白田さんは、今丁度さう云ふ要求、所謂がつしりした読みごたへあるものを読み、僕の話をもつとききたいと云ふ要求をもつてゐるので、さしあたり二人に読ませませう。

僕は白田君の工場入り決心に、僕の現在の殆ど唯一のいい生徒を失ふことになるので、可なり残念だつたが、あなたの感情も考へて、男性の生徒を養成する方がいいので、彼女の理由に若干疑問もあつたがとめなかつた。そして、もうしやべれないから、せめて「プランティション」でも読ませて、それが最後の仕上げになればいいと思ふ。彼女は僕からバルザックのことをしきりにきかされて、寿岳氏のこと以来大いにバルザックを読みながり、竹中君がここへ本を疎開させると云ふので、そのバルザックをかりることにしてゐたが、バルザックより「プランティション」の方をさきに読むと云ふので、さうさせることにしたのである。

今度彼女のかはりに来るかも知れない小田中さんと云ふのは、白田さんの二、三年後輩で、どうやら白田君の崇拜者だつたらしい。白田君はあれで「津田」でも大分崇拜者をもつてゐたらしい。その小田中君は松本に家があつて、お父さんは船に乗つてゐる人ださうだが、今度非常に若い妻君を後添ひにもらつたので、小田中さんは家へ帰りたくないと言ふのです。家では空襲のことや、兄さんが戦死して彼女あととり娘になつたので、しきりに帰れと云つて、帰らなければ補助しないと云ふ。森井さんは帰る方がいい、その若いお母さん(三十二、三らしい)と一緒に暮す方がいい、さう云ふ苦しみを体験するのもいいと云ふ。僕はいやそんな必要はない、本人が帰りたくない東京にゐたいと云ふなら東京にゐさせるがいい、そのかはり補助なしで独立してやつて行くつもりぢやないといけない、その方の苦勞の方がしがひのある苦勞だと云つたら、白田君も僕にさんせいし、中尾課長に頼んで、せめて交通費のかからない経堂分室へかはらせてほしいと云ふので、一応頼んでおいたのです。この人は、白田君のやうに強い個性的な要素がなく、スローモーションで言葉までゆつくりゆつくり云ひ、セーターをやたらにきこんで、森井さんも「あなたはさうやつてゐると、クリスマスのサンタクロースみたいね。サンタクロースの人形みたいね」と云つたくらい。大ききも白田君くらいで、もつ

とがつちりしてゐる。西山さん程ではないが。

「菊池さんの所で少し教育していただきたいのよ。小田中さんもこちらへ来たがつてゐるんだから。でもあの子は今の所、本も読まないし生活の方針もすっかりきめてゐるわけでないし、さうだわオブローモフを読まずといいのね。とにかく頼りないのよ。そのつもりでね」「そりやいいがね。それよりも僕は一体いい教師かね」「さうね、でもあたしで判断出来ないかしら。あたしだつてこんなになつたんですもの。でも菊池さんはせつかちだわ。森井さんとも話したんですけれど、あの方は菊池さんは余り相手の理解力を考慮しないから、いい教師とは云へないと云つてゐたわ。あたしもはじめ頃は、森井さんに菊池さんのレクチュアではこんな話が出たわと云ふ風に報告してゐたのよ。丁度学校でレクチュアのノートをおさらへするやうに。でも此の頃はだん／＼わかりやすくなつたわ。全部わかつてゐるのでなくても、わかる部分、吸収する部分がだん／＼多くなつて来たわ。でも小田中さんにはせつかちは駄目よ」「うんそれは注意しよう。僕は昔からきいてくれる相手がないと駄目なんだ。きいてもらつて、しゃべつてゐる中にいろんな考へがうかび、掘り下げられるんだ。僕は誰かにしゃべつてゐる中に自分でヒントを得て、あとで解決出来た問題もずい分あるんだよ。僕の奥さんはさう云ふ意味でも最上のききてだが、今は手紙では中々すぐの反応は得られないからね」。そんな風な対話もありました。

小田中君が僕のいい生徒になるかどうかは、どうやら僕がいい教師になるかどうかの問題らしい。森井さん白田さんは、その中またしやべりに行く約束をしてあります。あなたを疎外するわけではないから、誤解のないやうに。ペネロピがオディシウスを信じてゐたやうに信じてゐて下さい。

此の頃、定期便が本当に定期にならぬ限り、僕は防空責任でここへ釘づけになります。今日は来なければいいが。午後になつて風が出て来ました。昨夜残しておいた牛肉とねぎとかぶ菜とで、今日の昼は牛丼にしました。中々うまかつた。

今日はセンタクもやりました。パンツ二つ、ハンカチ四つ、タオル一つ、等。ついでに頭もあらひました。隣組でザブトン綿をとられました。

油も粉も豆もいももないので、でかいカブラをふかしておやつにたべたら、迎々うまかつた。すてきにあまいですね。甜菜なんかあり得るわけだと思ひました。だがやつぱりおさつの方のあまさの方がいいですね。

では又。赤ん坊は大切に。和歌山へも赤ん坊のことを云つて、和歌山行きの当分延期を報告しておいたらいいと思ひま

す。ひろちゃんの所は、和歌山県有田郡保田村屋尾だつたと思ふが、頼りないから京子にきいてみて下さい。

幸子から謙一あて（一九四四年二月一〇日の記・消印）*

十二月十日

昨夜七時頃、警報が出ました。一時間半位で解けました。信越方面の山岳地帯に敵機が見えたとか。お母さん曰く「食べ物の苦しみさへ一通りでないのに、飛行機にまで苦しめられちや、やりきれやしない」おかしくて皆笑ひました。森ちゃんはまだ経過わるく、病室が変りました。ね汗、食欲不振、体重のへること、熱等、呼吸器の方が相当わるくて、仲間は皆十一月末除隊ですが、彼は病院に残されました。痔の方も一寸もなをらず、二度か三度、手術のしなをします。痔瘻ですから、あまり芳しくありません。でも今はむしろ陸軍病院に残された方が、まだと思はれます。洗濯が出来ぬので、ね汗で汚れたまゝの下着類は、虱だらけで困つたと手紙が来ました。もうすこし近ければ行つてみてやりたいのですが、弘前まではとても行け相もありませんし、宿屋の都合もつくかどうか。今は何処にあても、どんな人でも、それぞれの不便や不都合があるのが当然な時代でせう。

一昨日も昨日も便りなく、これまで、このところ毎日のように書いてゐて下さつた筈だから、と心配して居ります。嫌な事のないように。病気ではないでせうね。

伊藤書店のツルタさんから何とか話がありましたか。今週始めに報告に来てくれる筈だつたのでせう。神田の辺、直接焼けなかつたとしても、いろいろ被害は蒙つた事でせうから—あまり都合よく考へてはいけないと思つてゐますが、どんな具合だつたのでせうね。

教次さんに逢ひましたか。あの人たちもどうも矢次早にいろんな事が起きて、本当に気の毒です。二人の間も其の後うまく行つてゐたのなら、召集が来て心配ありませんが、根本的にはうまく行つてゐなかつたのではないでせうか。赤ちゃんが出来て多忙になり、当面其の方にあらゆる努力が集中されて—今までの未解決の問題は、そのまゝ脊骨後へかくれてゐた状態だつたならば、と心にかかりますが、それともそんな事はキユウにすぎず、八穂の延生がそれ等のわだかまりをスムーズにとかしてしまつてゐたか、それはあの二人の問題ではありますが、元来みつちやんは積極的解決を自ら求める人ではないので。併し子供を失ふと云ふ大きな精神の打ゲキにあつては、みつちやんも深く考へずには

みられなかつたでせうね。

稲ちやんのすまるの事では、いろいろありがとう。もう無事に向日荘とかへ引越したでせうね。陸軍何々廠へもはいつたのでせうね。白田嬢も今日入社するんですね。皆、中々元気ですね。

あなたの痔の方は其の後如何です。あまりはかばかしくありませんか？ 私の一昨日からの下痢は昨日が頂上だつたらしく、今日は昨日より楽になりました。下痢すると目に見えて体力が落ち、目がチラ／＼して本もよめなくなるので困ります。今日一日注意すれば、明日あたりからすつかり恢復すると思はれます。

今日は本当に詰らない手紙ですみませんが、これで一応出しまして、又夜、警報が出なかつたら書きませう。

先月廿四日の空襲以来、大きなフトシかなんかの荷物やなべ、釜を持った人達が毎日／＼飯田に着く相です。切符の入手困難は日を追って加速度的のようですね。あなたの十二月から一月への休暇は、此の分ではどうかと思はれます。出来るなら其の際、重要な資料疎解が出来たらとも願ひますが、あまり当には出来ませんでせう。

※この手紙文は二月一〇日付け、一二日消印の封筒中に挿入されていたが、本来はその一つ前に投函された二月一〇日付け、同日消印の封筒に入っていたものと推測できるので、ここでは一〇日消印の封書として扱った。

幸子から謙一あて（一九四四年二月一〇日の記、一二日の消印）※

十九年十二月十日夜

今よう／＼第三章一節（一一七）のノオト終りました。第一節は都合一日で出来ました。第一節はかんたんの様でゐて、其の中々の問題を含んでゐて面白く思ひました。明日から第二節、労働問題にはいる訳です。

一の南部工業立ちおくれの歴史も、根本的にはずつと今まで見て来た事の当然の既結であつて理解し易い。奴隷労働と近代工業労働で、前者が非人格的で自立性のないこと、後者が積極的キン張、創意ある点の対立では、私共職業婦人の立場も同様、共通したものである事を改めて感じました。女の与へられてゐる仕事は丁度奴隷労働に匹敵する。だから女事務員など、何時まで経つても仕事の面白味も解る筈なく、十年一日（人は変つても内容は）で何等の進歩もない。創意の発輝出来る、自立性のある、責任ある仕事を与へられた時（又は就いた時）は、女でもチャンとした仕事が出来、

仕事の楽しさも知り、進歩もあつて、仕事をマスター出来る様になる。そして働く事が考へをかため、生活の実になつて来るのですね。労力を非人格的に、自主性のない方法で使ふ時は、後退しかないと云ふ事が改めて思はれました。職業婦人の場合は、ほんの一寸の自主性だけでも、向上のショックを与へてくれるのです。そしてそこから新に自信を得て、更に又一步ふみ出せるのです。

ウイリアム・グレッジの楽しい工業町グラニユトヴィル(註)はどうしてあまり發展せず、そして其の町が他所に反響を起させなかつたのでせう。

(二)の立ちおくれの現状で、とに角南部では高度の機械工業の部門が発達してゐないことがわかりますが、どうして低次の原始的な部門のみ発達して、高度な工業部門が発達してゐないかの説明はつきりしてゐない。

ここまで書いて又、警戒ケイ報です。二階は規定以下にしても明るい明るい怒鳴られるので、これが出ると全く何も出来ません。それで今日は廊下の窓に毛布を一杯ひろげてかけてやりました。道路の方では屏風でかこひ、電灯もスレ／＼位に下げ、この形(小さな縦長の円錐形の図が記されているが省略―編者注)の今の上から大きな布をかぶせました。多分これなら文句は出ないでせう。

昨夜のは、信越の山岳地からはいつたと云ふのは一機か二機で、上田と上すわに焼夷弾を落下し、天竜(註)に添つて海へ出たのだと云つて来ました。飯田も余り安全ぢやないのね。

さて(四)へ行つて、工業地帯分布で、南部の工業は原料資源と直接結んでゐること。これが低次性の説明でせうか。南部の工業の立ちおくれは、工業が農業、鋳業の如き抽出産業に従属してゐるからでせうか。私、なんだかこのところがよくわかりません。鋳業、林業と云ふのは工業の部門ぢやないものでせうか。なんだかわからなくなつて来ました。鋳業―製鋼、製鉄とはちがふのかしら。

(五)は、以上をぬいて、金融関係はわかります。

(六)ここはよくわかりました。港市や海岸平野都市が南北戦争以前にあつたこと、その發生、發達はよく了解出来ます。第三の都市地帯の發展の辺は、風と共にをよんで、アトランタの町が一度戦過(註)の巷となつた戦後、物凄い勢ひで工業都市に發展するさま、北部から投機商人がかばんを持つて乗りこんで来るさま、スカーレット自身も製板工場(註)を持つて、利益が上るからと云ふので凶人労働力を使つて、人々の非難を浴びるところがあり、スカーレットの第三の夫、投機商人、密輸封鎖破りのパトラとチャールストンへ新婚旅行にゆき、南北戦争後のチャールストンの發展ぶりが展開され、

古い人々（老人）はチャールストンの町が下品で騒々しくなつたと嘆くところがあります。あれを思い出して中々面白くよみました。

(七)も又、中々、次へのキタイで面白くよみました。

どうも灯の關係が面白くないので書きにくい。

さて一昨日、昨日、そして今日、三日も手紙が来ません。五日附のまで来てゐて今日は十日なのに。どうしたのかと、とても心配です。何でもなくて、汽車の都合や配達の不都合ならいいけれど。もつとも今日十日は日曜ですから、ここ二ヶ月の日記を調べると、日曜の受信欄は何時でも／ですから、其のセイで明日、二本一諸に届くのなら文句はありません。何れにしても地理的にはたいして遠くないのに、郵便の上では四日―五日のへだたりがある時節は、離れて暮し合ふ事は不安や心配の増す事です。

下痢も回数へり、段々良好となつて来ます。なにしろ下痢や、ね汗は急速度に体力を落しますから、全く鬼門ですが、それに嫌にエンが深いので困ります。

此のごろ昔見た、ばらは何故赤いとか云ふ南部の映画があつたでせう。あんなのや、風雲児アドヴァースとか云ふ、あんなのが又見度くてなりません。南北戦争頃のはあつたし、開拓時代のはあつたけれど、独立戦争はありませんでした。平源児と云ふのは独立戦争直後のだつたでせうか。独立戦争の帰還兵の問題を含んでゐたのだつたでせうか。不注意に見てゐたので、今考へると残念です。クウパーやゲールを使つて、南北戦争のいいのを作ればいいのにね。それから歴史を作る人々だつて、独立戦争のおもしろい面が出てゐるし、映画になります。あなたのプランティションだつて、すばらしい映画に作つたら、広い層へのアッピイルや啓モウになりますね。さうすればうんと長いものになるかも知れないから、一、二、三と三部作位にして（植民時代から独立戦争、南北戦争、ニューディール）作つたら、私の注文は皆実現する。(一)は主役は自営農民を持つて来て、プランティションとの対立斗争、(二)は北部を主役に、(三)で南部を全面的に出す。どう、すばらしいプランではありませんか(一―三まで全体に主力として、歴史の推進力たる農民、市民を強く浮き出さす事)。

書いてゐるとろくでもない事になりさうですから、この辺でやめておきませう。何だか今夜の空襲は恐ろしい様ね。ラジオが何とか云つてゐますが、遠くてきこえません。あなたの身の安全を祈つて、ペンを置きませう。 8時半

※この手紙文は二月一〇日付け、同日消印の封筒中に挿入されていたが、本来はその一つ後に投函された二月二〇日付け、一二日消印の封筒に入っていたものと推測できるので、ここでは一二日消印の封書として扱った。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一〜二二日の記）

十二月十一日（月）曇

今日はポーナスが出るから本室へ来るやうにと電話がかかったので、竹中君と二人で出ました。

「やつぱりどうも変だね」「何が」「何がつてあれさ。何を話していいかわからないよ」「もうきめたのか。もう見合つて了ったか」「いやまだなんだがね、どんな風にはじめるのか、考へてみると変だね」「考へてみなくたって始めから変なんぢやないか。話にならんよ」「どう云ふわけで結婚する気になりましたか、つてきかうかな」「相手の方もさう云ふだらうよ」「さうだね。だけどね、実は何にも大きく気にならないんだよ。相手の方でことわつてくれるといいんだがね。こんな不自然な人間関係なんかいやですつてね。そしたらちよつと面白くなるね、さう云ふなら一緒にやつて見てもいいわけだね」「馬鹿気てるよ。さう云ふ人なら始めからこんな話が起きんよ」「そりやさうだらうがね。何とかそこ人間関係が出来ないかな」「人間関係は出来るさ。だが問題なのは、いかなる人間関係かだ。人間的なそれか非人間的なそれか、正しいそれか正しくないそれか、だ」「でもムツターのこと思ふと、どうにもならないんだよ」「どうにもなるよ。大体ね、親と云ふのは旧い幸福観念をもつてゐるんだ。ところが親の幸福観念は現実の中では、かう云ふ時代の歩み、歴史の歩みの中ではもう実現し得ないんだよ。彼等の幸福観念、即ち息子が自分の思ひ通りに平穩無事に身をかためて、大過なくすごしてくれるやうにと云ふ風な幸福観念は、非常に遅れた卑少な頼りないものなんだ。だから親の幸福観念を息子は変革しなきゃならない。そんな時代の波のわづかなしぶきにも耐えない幸福観念のかはりに、時代の荒波を漕ぎぬけられるやうな、遅しいリアリスティックな弾力的な高次の幸福観念を与へねばならないのだ。親ははじめは、息子がとにかく親の眼鏡にかなつた嫁をもらつて身をかためて、老ひ先きを安心させてほしいと願つてゐるんだから、その息子が自分勝手に結婚すれば、自分の幸福の希望はこはされるか傷けられるかするさ。だけどその息子が自分の結婚に責任を以て、人間として夫妻として立派にやつて行けば、やがて親は、やつぱり若い者にまかせておけばちやんとやつて行くと思つて、新しい物の見方が出来る、親は息子を尊敬するやうになる。そして親は新しい世代、責任

能力ある生き方に自分の観念を適合させるやうになり、新しい型の幸福、より弾力的な幸福観念を得る。いや観念だけでなく、そのリアリスティックな物の見方自体が、親にとつて幸福なものになる。世間がより広くわかるやうになり、物の理解や認識も進むわけだ。さうするために一時親の反対を押し切つても、自信のあること、自ら正しいと思ふことをしなければならぬ。一時の親不孝は、結局大局から見れば親孝行にもなる。さう思ふんだがね」「それはたしかにさうだね。だけど中々出来ないね。僕のムツターは新しい幸福観念をもたないわけでないんだがね」「息子の君の方がもたんのだよ。君の今の親孝行は、反自然の結果として今に親を苦しめることになるよ。とにかくどたん場でも方法はあ

るからね。『或る夜の出来事』のやりかたがあるからね。せいぜい考へるんだな」。電車がとまつて乗らうとすると、ドアが両方ともひらいた、フォームの反対側のドアも。「何だ、ドアが二つともあいたぢやないか」「ドがとれたんだらうさ」「どうして」「だつてドアのドがとれたら、オア (or) ぢやないか。こつちかあつちかどちらでもと云ふわけさ」「なあんだ。シヤレか。だけど君と話すると面白いね、リクツを云つたり、シヤレを云つたり。それにしても調査会ちや外の連中、どうしてあんなにしかつめらしい顔してるんだらうね」「そんなにかつめらしいか」「きらいだよ、あんなの」「みんな先生だからな。先生はマスクが要るんだよ。何でも知つてる顔をせんといかんからな。ただ一人、人間的な表情をもち得る人が残念ながら顔面神経痛だね」「さうだね。だけど二階つまんなくなつたな。君んどこへしやべりに行けないぢやないか。唐獅子先生 (西井君) いやなやつだね。君んどこへしやべりに行けないと調査会へ来る甲斐がないよ」「さうおだてても駄目だよ。そんな調子でしやべらしておきながら、全然反対の行動するんだからな。君は商人のマスクをもつてゐる。愛嬌よくて、人をおだてて、苦もなくお世辞を云つて、それでゐてちゃんと取引してゐる。先生のマスクを批難出来んぜ」「本当だね……」。

銀座で食事して二時に本室へ行きつきました。出がけに「どつちのボーがさきに出るかな」「何だつて」「いやなボーと、いいボーとさ」「ほんとだ。いやなボーがあつたね」「でも菊池さんのおでかけの時は、いつも来ませんわね」「この前の鎌倉行きの時来たでせう。そんな話をしたが、さきはいい、いい方のボーがさきに出た。金七百七十円 (五十割と二十円) の額面が、金五百七十七円也の実高で。おまけに金百五十円也を互助会へ、金百円也を竹中銀行へ返せば三百円そこそこなので、互助会の方は「プランティション」が出る時まで待つてもらひました。「お得意様ですからね、いくらでも御待ちしますよ」。

西井君が待つてゐるからと云ふので、彼の分と臼田君の分と二つをもつて四時までには経堂へ帰つたので、買ひ物が出来

なかつた。二、三日中に出なほしませう。

いねちやんが十日ごろひつこすと云つてゐたから、それも見がてら、臼田君への記念品（花瓶、この間竹中君と二人で見に行つて買った金三十四円也のこんなかくかう）（花瓶の形の略図が記されているが省略―編者注）で、「飛沫袖」と云ふ）とポーナスをもつて、夕食後向日荘へ行つてみました。彼女の挺進もどうなつたかなと。

ところがいねちやんはまだ引つこして来てゐなくて、臼田君も森井さんもゐた。臼田君の挺進隊入りは駄目になつたさうで、森井さんの会社も解散しさうな状態となつてゐました。此の頃は何もかも急転するので、タンゲイを許さない。

「歯がいたくつて二、三日とちこもつてゐたんですよ。本当に痛くて昨日なんか森井さんに醜態を見られたわ。泣けてくるんですけど。こんなだつたのですよ」と、ほほに手をあてて腫れを形容する。「ウス歯（臼歯）だね。だけどンヤレどころぢやないね」「さうよ、まだ二、三日お医者に通ふわ。今日はやつと物がたべられるやうになつたところですよ」「さうだ、君はたしかに歯が悪いんだ」「どうして」「君の欠陥の第一は、歯が悪いと云ふことだ。食ひつきかたが不確かなのだ。ほら、アンネットはいい歯をしてゐると書いてたらう。あの意味の歯さ。それで挺進隊はどうなつた」

「あれ、浅草なんですよ。通つて一時間半もかかるし、あたし共の会社もごたくしてゐて、結局ことはつたのです。あたしの会社、今日行つてみたら殆ど解散みたいなものよ。社長と重役連中とのケンカでね、お酒ばかり毎日のんでい（たうとう）がみ合つてゐたのが、とう／＼来る所まで来たらしいの。寄合世帯でせう。みんなもつと分け前をとりたいたと云つて、まるで駄目なのよ。女子職員は一まづ例外なしにやめてもらつて、改組してからあらためては入つてもらふと云ふんでせう。あたしはもうゐる気はないわ」「それでどうするんです」「長野へ行かうかと思ふの。知つてゐる人が何かさがしてやると云つてくれるので。そこがよかつたら臼田さんと呼ばうと思ふのよ」「ちよいどいい疎開ですわね」「それでね、菊池さん。あたしどうしようかしら。経堂へ帰れないかしら」「帰るつて。ふうん。それや帰れないわけはないだらうけど」「あたし中尾さんにお願ひにあがらうかと思ふの。辞表はまだ保留して下さつてゐるんでせう」「さうだね、まだ君のやめると云ふことについては、此の記念品以外は何にも新しい事態は生じてゐないね」「あらさうさう、記念品があつたわね。之あたしただくわ。買ふことにすればいいでせう」「それやどうでもなるさ。君が気にするかしらないかで、気にしないでゐられるなら、帰れなくはないだらうね。それで高崎の方はどうなんだね」「お母さんは高崎へ当分居つくんですよ。家の整理が出来ないから当分あのまま、義姉達と一緒にゐるんですつて。だから中尾さんに、母がどうしても調査会をやめて一緒にすめと云ふんで行つてみたんですけど、高崎にゐるんぢや意味がないので、母を説得し

て東京にゐることにしたと云ひたいんです」「それや中尾さんも人がなくて弱つてゐるから、帰れと云ふだらうよ。だけれど今度は君は西井君の仕事も手伝ふんだよ。そしてわがままをしないと云はなければいかんよ。今度の出入りは、外形上君のわがままとして出てゐるんだからね」「さうね。本当にわがままね。でも今度は菊池さんのお仕事もすっかりお手伝ひするわ。西井さんや谷川さんともうまくするわ」「それにね、僕の今迄の部屋は四つ机が入つて、元の西井君の部屋は僕の私室になつたんだよ。僕は毎日私室から隣の研究室へ出勤するわけさ。僕の机は元のままであたたかいし、夜は小さい部屋の方があたたかさうだよ」「菊池さん、あたしたちの田舎の職場と云ふと、どんなところがあるでせうね」「さうですね。役場か工場かでせうね」「さうでせうね。でもいいわ。やつてみますわ」「ところで白田さんが帰るとなると、小田中君はどうする？」「小田中さんは迎も経堂が気に入つてしまつたのよ。どうしても経堂分室に行きたいし、若しさうならないと松本へ帰るつて云つてゐるの。困つたわね」「とにかく僕も中尾さんに交渉したんだがね、助手と云ふ形で女の子を一人づつつけてほしいつてね。僕等の仕事は助手が要るんだよ。芦野さんも承知してゐるんだ。ところがね、他の人とのふりあひがつかないつてわけさ。下は五人の研究員に女子職員二人だらう。上は二人に二人と云ふことになるからね。けれど上と下と共同で、もう一人ぐらゐてもいいんだ。上北沢なんか男が三人で女二人だからね」。彼女達の食事にお相伴しました。と云ふのは、白田君が齒^⑧いたで一回分御飯が余つてゐるので、それをパタいためしてもらつて、今夜のおかずの「すいとん」を三分の一。いねちゃん^⑨はテイ進隊には入ることにきまつたさうで、ここから通へば三十分ぐらゐで行けるし、食事もついてきつといいでせう。

「菊池さんのお話をうかがつて、あたしもいろいろくいていただきたいと思ふのですけど、何だかまだ自分の中に言葉出来ないものがあつて、それを無理に言表しようとする、そのものの本当の成長を歪めてしまひはしないかと思ふのですよ。此の間『苦しい』と云つたことについての説明も、もう暫く待つていただきたいの。まだ云へませんの。余りつきたくないのですの」。さう云はれると僕は、もう一歩も進めなくなつたわけです。「そんなものがあるのかなあ。そんなものが真実なものであり得るのかなあ。そんな、すぐには云へない、いやそれだけでなく言表の努力そのものが、それを歪めて了ふつて云ふやうなもの。聖物と云ふのは、デュルケムに云はせると個別のもの、私物に対して、社会のもの、公物だと云ふんですがね、所が今は聖物とは最も非社会的な私物になつてゐるやうな気がするな。ここからさきは入つちやいけない、私室なんだからと云つてね。ところが人に伝達出来ないもの、人と共有出来ない個物と云ふのは、少くとも歴史に役立つものでないやうに思ふ。僕はね、この二、三年来、普遍的自我^⑩と個別的自我と云ふことに

いて考へてゐるのですがね」と、ここでおはこの普遍と個別について一しきりしやべる。森井さんはその間中、編物をしながら、時々うなづきうなづききいてゐる。臼田君は時々歯を気にしながらきいてゐる。

「今日もね、竹中君が云ふんだ。『Mさんの考へもしつかりしてゐるね』とね。だから僕は『たしかにしつかりはしてゐる。だけど僕とは違ふよ。彼には機械論がある。彼の中では、んべ、えとしかつめらしいアジテーターとが同居してゐるよ』と云つた。すると彼はね、『だけど昔の連中は大たい機械論的ぢやなかつたかね。みんな君のやうだつたかね』『いやたしかに機械論が多かつた。人間と云ふもの、人間関係と云ふものの柔軟で強靱な把握がなかつた』『さうだらう。だから僕は好感もてなかつたんだよ。僕はやつぱりヒューマニズム的な考へだつたからね。ところが君はあれとヒューマニズムとを統一してゐるからね。だから僕は君の意見に魅かれるんだね』『だけど君のヒューマニズムと僕のヒューマニズムとの差がわかるかね。君のは個人主義的ヒューマニズムだ、人間としての個人の解放を欲求するだけだ、それは個我の主張にすぎない。個我は更に自らを普遍の中へと否定しなければ個性にはならない。個性とは正しく普遍に通ずる個別なんだからね。そして僕のヒューマニズムは人類的ヒューマニズムだ、個我の否定をモメントとするより大なる、より徹底的なるヒューマニズムだ』。そしてね、僕が合理主義とヒューマニズムとをこの数年、いや殆ど十年近く、誰に対しても云ひ、自らも思索して来たのは、気まぐれではないんですよ。それは世界の歴史的時代と聯関してゐるのですよ。Fascismの時代に僕は、世界的に何が人類のイデオロギー的敵であるかを考へた。そして非合理主義と非人間主義とがそれであると思つた。十九世紀末以来の非合理主義は、まだ消極的な現実への敗北の告白を主調とした。ところがこの三十年代のFascismは非合理主義非人間主義を積極的に公然と主張しはじめたのです。十九世紀末の非合理主義はインテリゲンチヤの斗争放棄の告白だつたが、三十年代のそれは危機的カピタリズムの極めて戦動的な挑戦だ。だから僕は、人類のイデオロギー的課題はヒューマニズムとラシヨナリズム(合理主義)とであると断じた。その時僕はリーベを体験したのです。歴史なり社会なりの非合理非人間性との斗争が現代人の歴史的課題なら、個人的人間関係に於ける非合理、非人間とのたたかひもまた歴史的課題の一翼に含まれるのでなからうか。さう云ふのが僕のリーベだつた。また普遍的自我と個別的自我についての考へは、このヒューマニズムとリーベの体験とも結びついてゐた。人は欲求をもつ。だがその欲求が人間的なものか否かを判別しない限り、その欲求は発展し得ないし実現もしない。最も非人間的な境涯におかれた人間にとつては、たゞ生きるると云ふ欲求、たべること、衣ることの欲求も人間的欲求である。ところが歴史が進んで来れば、その欲求の判別は複雑になる。その時、普遍に通ずるもの、人に共感を要求し得

る欲求と、ただ個別的なもの、人に共感を要求出来ないやうなもの、との区別が根本的になる。男女間の人間関係では、女性の欲求は、人間的なものも、個別的なものがままにすぎぬものも一緒くたに弾圧される。若し女性自らその欲求の普遍的と個別的との差を認識し得ないなら、彼女は一切の欲求を抑制するか自然発生的反抗に出でるかどちらかではなく、両方とも成功の見込みは少い。その差を認識すれば、彼女の欲求は、普遍に通ずる力、普遍的力を以て強化される。その理論は、僕達の恋愛の中できたへられた……」。

「それはさうね。ぢや加藤トシ子さんはどちらかしら、普遍に通ずる欲求かしら、それともただのわがままかしら」○
○子さんはどちらでせうね。人間的欲求かしら」と二人で共通の知人について価値判断してゐる。

「ぢや菊池さんは一体今何を要求してゐるのですか」「さうですな」「愛情を求めてゐるんぢやないのですか」「愛情、それはいつでも求めてゐる。だけど僕は今、その問にはさうは答へない。僕は正しい人間関係を求めてゐるのです。正しい人間関係と云ふことで、僕は夫婦、家族、友人、同僚、国民、人類、それら一切に於ての正しいありかた、と云ふことを意味してゐるのですよ。僕は、より真実な夫であり友であり、市民であり人民であり、人間であり、歴史に於ける自己の地位を最も正しくおきたいのです。だから僕に於ては、妻との愛も友との交友も、此の時代のインテリゲンツトとしてのありかたも、すべて統一的に『正しい人間関係の要求』の中に含まれてゐるんです。こんな答へかたぢや納得いきませんか」「それでわかりましたわ、あなたのおつしやる人間関係と云ふ意味は。それぢや、あたしの場合は、今の出版屋の諸条件を自分の力で出来る限り社会のため、歴史のためになるやうな方向へ動かせること、が任務だと云ふわけね」「まあさう云つたものですね」。

それから交友の話、歴史の話、文学の話などを通じて、大分ひえて来たので、そして臼田君の齒がいたみをまして来たので、腰をあげました。「菊池さんのお話聞いてゐると、いつもあたしもうんとしやべつたやうな気がして、迎もつかれた感じがするのよ」と之は臼田君。「菊池さんは検事のやうね」「検事?」「ええ。之もいけない、あれもいけないつて、人のいろんな遅れた要素を処断するのせう」「さうかなあ。検事かなあ」。

婦人道で僕は、何かがすうと遠のいて行つた感じがした。森井さんとは友達になれないなと思つたのです。あれほど僕が一生懸命にしやべつて、手ごたへがなかつたやうに感じる。結局別の人種に属したのかしら。彼女は彼女自身のモラルで、立派に正しく生きて来たし、之からも生きて行くなら、またさう云ふ生きかたもあるのであらうし。だがとにかく、もう彼女に話さうと云ふ気持も彼女の体験をきかうと云ふ気持も、不思議なくらい退いて了つたのです。臼田君

の方はまだわからない。とにかく、もう彼女達の方で積極的に話しかけて来るのでない限り、僕の方からは積極的に話しかけないでせう。

僕は竹中君で味ははされた敗北感を、森井さんで別様ながら再び味ははされた。白田君では、さう云ふことのないやうにとつく／＼思ひます。

十二月十二日(火) 晴曇

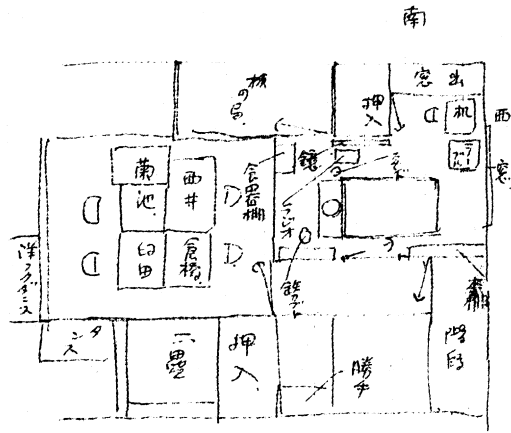
今日のことを書くスペースがないので明日書きませう。明日は鎌倉へ行きます。では。今日あなたのお手紙(9日付)をうけとりました。古典劇の批評は中々面白く拝見してゐます。ル・シツドは宮廷人の人間関係の浅薄さがよく出てゐる。モリエールと対比すると、宮廷的な人間と市民の人間との人間らしさの差がおどろくほど鮮かですね。ポーマルセエはアメリカの独立戦争に武器を売りこんでもうけましたが、スキャンダルをも引きおこしました。これについてはとにかく明日。

謙一から幸子あて(一九四四年二月一三日の記)

十二月十三日(水) 雪

初雪です。大したものではなく、朝になるともう氷雨になつてゐました。之でもつとふるとみぞれになりさうですね。石炭の火を少し多く起しました。昨日今日はカブラをふかしたのとごはんだけです。今日おひるは銀座へ出てたませう。それから鎌倉へまわります。僕の鎌倉行きは天候にめぐまれません。島村君の入団は明日だから、どうしても今日は行かねばならない。鉢の木でも焚いてもらうかな。

昨夜も二度ボーがなりました。此の頃僕は次の図の如く床をしくので、空襲には前より都合いい。雨戸をしめ、完全遮光をして寝ます。夜は窓が少いせい(る)いか、今度の部屋の方があたたかい。毎夜枕下にいろんなものを準備して寝ます。すぐスタンドとラジオとをひねれます。そして一機とか少数機と云ふ場合は、そのまま寝てしまひます。でない、皆悲鳴をあげてゐる、毎晩起されて、家中あけ放さされて、見まはりやられるので、寝不足だと云つて。ここでは誰も雨戸をあけるなんて云ひに来ません。



今日も鉄カブト、ゲートル姿もりりしく出かけませう。

昨十二日は昼間ボーがならなかつた。この頃定期便は夜になりましたね。夕方、火を起してゐると、倉橋君が来た。彼は一週一回だけこちらへ来ることになりました。「どうだね、部屋もきまつたかい」「青山アパートだ。早く引っこしますよ」「で、引っこす時が結婚式と云ふわけか」「さうだね。なあに、大してやらないよ」「君の相手はどう云ふ人？」「歴研の事務をやつてくれた人なんだ。それで家の連中が反対したんだよ。まあ職場結婚の一種ですね」「そいでいいよ」「だけど此の間、みんなで話してゐたらう。あの標準からすれば、全く条件は悪いよ。親は今はどうにか承知したが、無理往生の形だらう。年は僕より一つしか下ぢやないしね。おとなしくもないだらうしね……」。と云ふのは数日前、こんなことがあつたのです。

云つてみんながどつと笑つたので、「何がぶつこはしだつて」「何がぶつこはしだつて」「何がぶつこはしだつて」。「折角うまい具合にやつて来たのに、あなたがあらはれたんぢや駄目ですよ。ぶつこはすにきまつてゐるんだから」「いやぶつこはしませんよ。今日は黙つてゐませう」「そいぢや続きをやらうかな」。ここにゐる並ぶ面々は、谷川（三十八才、帝大経済学部出身）八木（三十五才、帝大英文学出身）松村（三十五才、全）西井（三十六才、京大歴史学出身）の四人の既婚者と、倉橋（二十九才、東大西洋史）竹中（三十才、慶応経済学）の未婚者とです。「とにかくね、竹中さん、僕も見合結婚ですがね、結構うまく行きますよ」と八木君。松村君がそれを受けて「さうですよ。僕だって、親がちやんとすすめてくれて準備してくれて見合結婚しましたがね、別に不都合はないね。そらあ八木さんみたいに満足し切つてゐるわけぢやないけど」「おいゝ変な所へ引き合ひに出すなよ。ハハハハ」「ハハハハ、それで西井さんはいかがですか」之は谷川君。「ぼく？ ぼくが何ですか」「いやあ、あなたの結婚はどうだつた、て云ふんですよ」「ぼくです

か。ぼくもやつぱり家の世話でね、見合結婚ですよ。僕は一人やったら不便やさかい、もらふ気になつたんやけど、この時勢に一人やったら本当に不便やね」「僕はですなあ。僕も世話してくれてゐたおばあさんがゐなくなつてね、どうにもやつて行けんから、自分で積極的にさがして見合結婚でしたよ」「積極的にさがして見合結婚だつて」「ええ、知りあひにたのんでね。それで僕の方の条件はこれこれこれと、だからその条件でいいなら来てほしいと云つてきまつたんですが、それで別に不都合はないですな」と谷川君。「竹中さん。やつぱりね、親の意見は大切ですよ。親を中心に考へる必要はないけどね。親中心ぢやいかんけどね」「さうですよ。ほら、あの篠原凡（俳人で八木君の親友、松山へ疎開）ね。あいつの妻君^{（妻）}はあいつの中央公論にゐた頃の婦人記者なんだ。村田修子とか何とかペンネームで劇なんか書いてゐてね、中々モダンなんだがね、その妻君は恋愛結婚だけど実によい奥さんでね、僕なんかいつ行つても感心してゐたがね。ところが、凡の親父に云はすと、やつぱりいけないいさうだよ。どこがつて云ふんぢやないがね」「そんなもんだよ。それから、健康は大切やな。健康ぢやないといかんわ」「さうだよ。女房に寐られると全くいやになるよ」「だけど僕のうちの女房のやうに、鈍感なのもどうかと思ふけどね」「いやあ、うちのさいくんだつて、鈍感なくらい健康だが、それでいいよ。それからね、なるだけ若いのもらひなさいよ」「さうだなあ、だけど余り若すぎるといかんね。僕なんか十ちがふからね。十ちがふと、僕も十年前は同じやうなことしか考へなかつたらうとは思ふけど、それでも、もうちつとどうかならんかなと思ふことよくあるよ。まあ三つか五つだね」「さうかなあ。僕なんか八つちがふけど、もつと若い方がいいと思つてるよ」「ホルモンの問題か」「いやホルモンの方がいいがね。やつぱり若い方がいいよ。その篠原凡ね、あいつあ三十一と三十一とで結婚したんだ。今三十五と三十五だがね、やつぱりいかんね」「そりや三十一と三十一とぢやひつつきすぎや」「それでね、その奥さん、中々美人なんだけどね、やつぱり化粧してない時は顔のしわが目立つてね。自分でも気にしてゐて気の毒だよ」「僕はね竹中さん。八木さんみたいに、女学校の成績が三番以上ぢやないといかんなんて云はないけどね。朝早く起きてくれる女房ぢやないと困るよ」「さうだ。朝は亭主より早く起きんといかんね」「僕なんか今朝一人とも寐坊して、おかげで朝食^{（朝飯）}は来たよ」「さうですな。飯の仕度がおそいのはいけませんねえ」「さいくんはやつぱり朝は亭主より早く起き、夜は亭主より遅くまで起きてなければいかん」「それぢやさいくんは寐る時間がないぢやないか」「いやあ、それや亭主のゐない時、昼間寐りやいいんだよ。それが亭主への誠意と云ふものだよ」「併しぼくなんか夜おそくまで本読むのに、フラウに起きてろなんて云はんな」と西井君。「そりやさうだよ。ぼくが徹夜で仕事する時は、さきに寐ると云ふよ。それはさいくんへのいたはりだよ。だけど黙つ

て先へねるのはいかんよ」「さうやな。黙つてねられるとしゃくやな」「西井君なら、もう一つ条件あるだらう」「何が」「亭主にいつでも腹一杯くはすこと」「そらさうや。……」（僕は殆ど黙り通した）。

何十年も昔の会話かと思はれるやうなこんな結婚対談が、現代一九四四年の日本の最高学府を出て十余年学問にたぎはり、俳句や和□を余技とし、漱石やドストエフスキーやコールリッチや会津八一とかを論じてゐる知識の特権階級の間で行はれてゐるのです。

あとで竹中君も「僕だつていくらなんでもあんなんぢや満足出来ないな」「さうだらう。あれで芸術や歴史を論じ得る人間かね。あの程度の人間関係に満足してゐられる人間に、芸術や人生や歴史がわかると思ふかね。いつか八木君とドストエフスキーについて論争しただらう。そして問題は僕と八木君との本質的な差にあるのでなく、言葉や云ひまわしにあると彼は云つたらう。僕は言葉の差は、本質的な差のあらはれなんだと云つたね。どうだね、これも本質的な差ぢやないかね」「本当だね。共通点がないね」と云ひあつたもの。

倉橋君は右の大勢の談話のことを云つてゐるのです。「それでいいよ、君。あんな連中の云ふことなんか問題ぢやないよ」「いやあ、それがね、僕の場合は、あなたのやうな深い恋愛ぢやないんでね、自信はもてないんですよ」「なあに、恋愛結婚だと云ふだけで、それでいいんだ。自分が結合したんだからね、人に結合させられたりしたんぢやないんだからね。人間として自分の責任に於て結合したんだから、内容的な結びつきだ。それでいいんだよ。あとはその内容を二人でお互ひに責任をもつて、お互ひに積極的に誠実に発展させていけばいいんだ。だけども僕、火をこさへないといけなから、ちよつと失敬するよ」。

下でバタ／＼火を煽いでゐると、小使ばあさんと、いつの間にか下りて来た倉橋君が話してゐる。倉橋君は耳が遠いので、ばあさんの大声は一層輪をかけたひびきやう。「まあ／＼それぢや御結婚なんですか。あたしもね、実は、倉橋さんがおひとりなんだとおききましたものですから、知つたところにそりやいい娘さんがゐるので、お世話したいものだと申してゐたんでございますよ」「やあ、そりやどうも」「本当にいい娘さんでね。お家もいいし、どこへ出してもはづかしくない娘でしたかね。でも御結婚になつてよかつたですね。さぞいい奥さんがいらつしやつたことでせうね、ホホホ。もう、奥さんがないといけませんよ。この御時勢に一人ぢや大変でございませうからね。御両親はおそろひで？まあそれは結構で、本当におうらやましいこととございますよ。それにしても菊池さんは本当におひとりでもよく御やりになつてゐて、感心してゐるんでございますよ」とこちらへ飛火。「おひとりでもきちんとなすつてゐらつしやつて本

当に感心でございますよ。でも倉橋さんもこうして御結婚なさつたのですから、菊池さんも奥さんを御呼びしなけりやいけませんねえ」「いやあ、こう毎日、こわいものが来るやうぢや險呑で、大切な奥さんをこんな險呑なところへ呼ばませんよ」「それはさうでございますね。本当に毎日のことで、いやになつてしまひますねえ。私共もねえ、せめて衣類でも田舎へ疎開しようと思ひましてね、草架(草)の先きなんですけれど、私の里がありましてね、牛車で持つて行つてくれる筈でしたが、あの草架のあたりに松原があるの(で脱)ございますがね、その松原で追ひ剥ぎが出たんでございますよ。やはり私共の里の人で東京の疎開荷物はこんで行つた牛車が、追ひ剥ぎにすつかりとられてしまつたんですつて。まあ、何と云ふのでせう、三人強盜が出て、荷物から車から牛までそつくりとられて、馬方一人のこされたんださうでございますよ。牛までとられたんですつて、ほんとにね。ですから私共の荷物も、とりに来ててがなくなつたんでございますよ。大変な世の中になつたものでございますねえ」「さうですか。追ひはぎがねえ。だんく時代がかつて来ましたね」……。

それから小使ばあさんが僕達二人をお茶に呼び入れました。僕も火の起るまでちよいと腰をおろす。「この頃はおよめさんのお荷物も大変でございます。三つか四つの嬢ちやんの嫁入り道具まで、そつくりそろへた人がゐるさうですからねえ」「さうですよ。そんな人がゐるから、ダンスも何もなくなるんですよ。僕の知つてゐる人にね、男の赤ん坊が生れたんですがね。その赤ん坊に大学の制服を作つたんですからね。寸法は今からぢやわからんが、大体親父の丈や身体(かつかう)かくこうで、このくらい(る)だらうと見当をつけてね。おどろくね實際」「本当におどろきますねえ。ダンスも何ですけど、おふとも大変ですね。私共の知つてゐる人に、日本橋に大きなお店をもつてゐる問屋さんがございましてね、そこぢや去年、息子さんにお嫁さんが来たのでございしますがねえ、大変なお仕度でしたよ。それはねえ、そのお嫁さんが十五、六の嬢ちやんの時に、何もかもすつかりおそろへになつたのださうでございますよ。私共も前に一度見てくれといはれましてね、お座敷へとほつて拝見いたしましたのでございますがね、それはお立派な、大変な金目のものでございましてよ。物はみんな事変前のもので」と云つて、我々には通じない仕度品の出来を品評し、「それでその問屋さんの息子さんと話が出来、お見合ひまでして双方でいいと云ふので、結納かはしてすつかりおきまりになつたんですよ。さうして間もなく式の日取りもきまると云ふ時に、おかはいさうに、そのお婿さんに召集が参りましてねえ、行つておしまひになつたのでございますよ。お嫁さんは何もかもおそろひだつたのに、肝腎のお婿さんだけ居なくなつたなんて、本当に何と云ふことでございますねえ。でも何ですよ、その娘さんの御両親は、もうお見合ひまでしてきめたことなのだから、

娘としてさしあげますと云ふので、仕度万端ととのへて、自動車に十台も親御さんやお仲人や御親戚ものりこんで、お嫁入りしたのでございますよ。それにしてもそのお嫁さんがおかはいさうでねえ。何もかもそろつてゐるのにお嫁さんだけ足りないお嫁入りなんてねえ。本当にお気の毒でしたよ。でも、その娘さんも感心なかたでねえ、あくる日からお店へ出て、せつせとおはたらきださうでしたよ。今はお店も転業して、軍需工場の下うけのやうなことをしてゐらつしやいますけれど、お嫁さんも一生ケン命にお働きださうでございますよ。お婿さんもよく出来た方で、戦地から親御さんとそのお嫁さんとへ隔日のやうにお便りございますうで……」。

無限につづきさうなおしやべりを、丁度火も出来たので、ポツキリと折るやうに「ああ火が出来た。どうもおばさん御馳走さま」「いいえいいえどういたしまして。お茶ばかりで本当に失礼致しました」と聞き流して、倉橋君もみこしをあげる。

『当世結婚氣質』はこのくらいにしませう。

以上は昨日のはなし。

さて初雪の今日。間もなく氷雨もやんで、いいお天気になり、雪はあつさりつけて了つて、おひる前までにあとかたもなし。

今日はお午つごに本室へ行き、午後鎌倉へまはるつもりで、「菊池さんのおでかけの時は大ていポーはなりませんわね」「いやところが今日は鎌倉ですからね」「あら、鎌倉ですか。それでは駄目ですわ」と古田さんと云ひあつたのがそのままに、本室で警報出てしまひました。これはうっかりすると鎌倉へ行けなくなると思つて、急いで東京駅へ行き、フォームへかけ上つたら一時十八分の横須賀行きが出たばかり。「しまつた。ここでつかまつたかな」と思つたとたんに空襲警報になりました。「待避」をいつ云ひにくるか、と思つて鉄カブトをかぶつて様子を見てゐるのですが、フォームにゐる人もやはりみんな落つかない風に、鉄かぶとをはずしてみたり、防空ズキンをかぶつたり、階段の方へ思ひ切りわらく近づいて行つたり、不安気に空を見あげたり、物の気配をうかがつたり。背中の子供が母親の心の動揺を感じて泣き出すのもある。

ところが省線電車は普通にうごいてゐるので、若干脈あるなと思ひつつ、同じ思ひの人々と一緒に列を維持してゐる。三十分近くその形ですぎて、やつと横須賀行がフォームについた。人々は大急ぎに車内へとびこんで窓ぎわに席をしめる。「出てくれんかなあ。待避になつたらいつ帰れるかわからんなあ」と中学生。僕もどうなることかと思つて落ちつ

かない気持でゐると、定刻に発車。「やつと出たなあ。助かつたなあ」とさつきの中学生。走る電車から見える駅や町の人々は、みんな鉄かぶとをかぶり、黒く着ぶくれた姿で空を見上げたり、指さしたりしてゐます。車内でも時々一方の窓へおしかけて上をのどいてゐます。浜松町一帯は省線に沿つてやけ野原です。大森の駅に沿つて山の方がずつとやけあとになつてゐます。フランスやとか、あの並びは残つてゐるが、線路沿ひがやけたのです。之は数日前のこと。六郷鉄橋では目黒の方に煙が見えました。さう云へば昨夜の空襲で、西巢鴨がやけたさうです。池袋と大塚との間だなどとききました。

「おい、〇〇のやつ死んだんだつてね」「死んだよ。爆弾の破片で死んだんさ。もう葬式もすんだ」「どうしたんだい」「あいつんとこ、田舎だらう。だから大丈夫だと思つて屋根の上にあつたんだとさ。そしたら家の近くへバクダンおつたんだよ。そいでね、待避しなかつたんで怒られたんだとさ。死んで怒られたなんて、つまんねえなあ」「焼夷弾は大したことないなあ。ふみ消せるよ。だけどバクダンはこわいよ」「鉄カブトほしいなあ。今のは駄目だからなあ。あ、あの煙、燃えてんだろ。やられたなあ。どの辺だろな」「待避か、ええ。のろくなつたなあ。こんなとこで待避、やだなあ。こないだなんか新橋から品川まで一時間かかつたからなあ」。戸塚の辺から「窓をアケテ、カーテンを下して下さい」と云つて来ました。

鎌倉へついたら、待避中でしたが、どうにか出してもらつて、みつちやんとこへ。形通りあいさつあつて坐りこみました。「菊池さんのプランテーションは大丈夫でしたか」「どうにかね。でも印刷がおくれて、結局来年の始めになりさうですよ」「さうですか、でもよかつたですね。神田がやられたと云ふので、伊藤書店どうなつたかなあて云つてたんですよ」「いや、実さい大ていの本屋は何か被害あつたんですがね、伊藤だけは何にもなかつたんですよ。印刷屋とか製本屋とか紙の倉庫とかね。岩波だつて三秀社がやけて当分駄目でせう。三秀社は共同印刷の次ぐらい大きかつたさうですからね。それにしても島村君も大変ですね。だが、みつちやんはなるほど肥つたね」「ええぼちや／＼でせう。おいものせいですよ」「島村君の身体はどう?」「いやそれがね、コンディッションいいですよ」「ぼくも此の頃肥つてコンディッションいいが、大ていさう云つてるね。みんな戦時型の体質になつて了つて、安定した所へ、ちよいとおいもの増配が、そのままきめんにきいたと見えますね」。

暗くならない間に帰らうと思つてゐたのですが、坐りこんでしまふとちよいと腰があげられなくなる。ズボンにマキギャハンをまいて、合羽ならぬオーヴァ、手甲ならぬ軍手、三度笠ならぬ鉄カブトと云ふ今様股旅姿で、立ち上つてみたり

すはつて(む)みたり。結局ごちさう(せ)になることにして度胸をきめたら、教次君の姉さんが来ました。「警報とけてから出たので遅くなってしまつて」と云ひ乍ら。応召の配給酒をくみかはし、おやまさんの作つて来たオイモ入りのパイを御馳走になつて、七時半に出ました。経堂へ帰つたら九時少しすぎ。ひる間あたかだつたが、さすがに夜はひえます。晩の分のごはんは明日の朝へまはしませう。今夜は来なければいいが。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一四日の記）

十二月十四日（木）晴

防火用水プールに氷がはつて、朝などコンロの火をうちわでバタ／＼あふぐその手の冷たさ。右左に持ちかへ持ちかへあふがねばならない。それでも石炭の火がどつとつくと、今までごえてゐた手もあたためられ、暫くあつた後、ピアノをひく。ショパンのプレリュードの第十五番（雨滴）をひいてゐます。下手でも一通りひいてみると感じが出ます。あのプレリュードの中で外にあなたの好きな、そして余り複雑でないもの（指を余りうごかさなくていいもの）の番号を云つて下さい。今度はそれをやりますから。

昨日島村君とこで話したのですが、みつちやんが帰る時一緒に信州へ帰つてくれないかと云ふので承知しました。尤も之は一月になります。それまでにプランティションが出ればいいが。

サッカリン（十瓦四十円）は入つたが御送りしませうか、クリスマス・プレゼントに。此の頃小包は、関西の方へは行かないやうですが、いろ／＼と交通が困難になりますね。出来たら暮にあなたがちよいと出て来てくれるといいと思ひます。日曜祭日の前後はここへとまれるし（今度は一室あるから）、いやもつと泊つてもいいし、またいねちゃんとも近いから。そしたらプレゼントを用意しておきます。往復切符ならいいでせう。おなかの赤ちゃんにさしさわらない限り。空襲は今の調子なら此の辺は大丈夫です。

お手紙48、49、50を受取つてゐます。大分心配させてすみませんでした。原稿書いてみると、ちよつと書くのがくたびれたり、時間がなかつたりすることもあり、また他処を訪問すると書きたいことは多くなつても、それだけに逐一書ききれなく、つい書くのがおくくう(せ)になつたりしますが、之からは長くなくても確実に書くことにします。此の頃切手も

買ひにくく、小包や郵便物もつい出しおくれます。たばこ本は届きましたか。あれは六日か七日だったと思ふけれど。お手紙48のボーマルセエは中々いいぬきがきでした。ボオマルセエはアメリカ独立戦争の時、フランスの対米援助政策に一役買つて、仏政府の支持の下に軍需品販売（対米）会社を組織しましたが、アメリカ人のサイラス・ディーン等と若干醜聞に関係し、ディーンはトム・ペーンに暴露されて後にイギリスへ逃げ、独立軍に反対の立場になりました。芸術家の芸術作品と私生活及び公生活との関係について考へるにいい材料の一つです。

森ちゃんの痔瘻は厄介な時出たものですね。僕もどうもはかばかしくない。だが森ちゃんの場合はいささか痛切すぎますね。せいぜい元気づけてあげて下さい。

島村君たちの関係は、うまく行つてないと云へばうまく行つてゐないかも知れないが、さう心配するほどのことはなさうです。殊におやぢさんと別にゐる点で、花子さんやおやまさんとも、ちゃんとつきあへるでせうから、みつちゃんかふとつたのはおさつ（3）のせいだけではないでせう。むしろ此の頃見たところでは、発展的なものは感ぜられないにしても、うまく行つてゐると云ふ方が当つてゐさうですよ。赤ちゃんの死や応召は、彼等にいい作用をなしたと考へていいのではないかしら。尤も僕は人間関係の機微については全く鈍感ですから、何とも確言は出来ないが、心配する必要はないと云ふことだけは確言出来ます。配給のことも、僕なんかの所よりはよささうだし、アパートの人達との関係もよささうだし。

それより、あなたの下痢は早くなほして下さい。今蓄積しないといけないから。二人分蓄積するやうに。

第三章の御感想ありがたう。(一)のウイリアム・グレッグの工場町の失敗は、云ふまでもなく奴隷制度が理由です。奴隷主達は工業を抑圧し迫害する。工業が近代の工業労働者をつくり出し、それが奴隷制度を脅かすから。

(二)は、高度のものが発達せず、低次なものしか南部では発達しない理由—之も労働力が低廉低級のために熟練工がゐないこと、全体として工業化が立ちおかれてゐること（工業化が立ちおかれてゐると技術が低い）、それらのことについては、たしかに充分分析も展開もしなかつた。之はスペースの関係もあり、また僕にとつては余り得手でない主題でもあつたから。

(四)の中の質問、鋳業林業が工業なのぢやないのか、と云ふのは尤もですが、アメリカでは工業とは製造、工業なのです。だから鋳業林業は抽出産業として、加工製造工業から区別される。鋳業と云つても製鋼製鉄は含まない。鉄鉱山の採掘だけです。その辺の区別のことは、センサス自身でもはつきりしない。調査する人によつて、どつちにでも解釈出来る

やうなものがいくらでもありますからね。それでも一通りは区別しなければならぬ。現実と云ふものはそんなものです。種類と云ふものは現実の中の法則（現実のあり方）の一つです。だからここでも「法則」と云ふものの規定が注意されないといけない。法則とは現実の一面であり、現実の凡ゆる豊富さを表出し得ない。しかも現実を支配するために、現実の一面的把握である法則的把握が必要です。たゞその一面的把握が、本質的に正しくないといけない。ここに法則的把握の困難がある。統計のとりかたのむつかしさ。

今日は鈴木圭介君から、電話で「プランテーション」の申し込み（二冊）がありました。彼と会つたら、また一合戦でせう。彼は上野原（中央線）へ疎開したさうです。浅野君もその近処へ家をつけたさうです。

今日の夕方から一時間防空演習がありました。

夜はひえますね。部屋はまだ片づきません。

その中、梅干を少し御送り下さいませんか。おかずのない時は、うめ干だけで食べますが、此の頃はおかずのない日が多くて（たまに来ると二、三日たてつづけに来るが）、うめ干も殆どなくなつたので、ただの塩めしだけでたべます。おみそとしよう油は明日でも買ってもらひませう。サッカリンが入つたけれど、今のところ使ひやうがない。時々チコリをのむくらいのもので、おさがなくなつてから、ここの食糧事情は味気なくなりました。米だけはたつぷりあつて、一ヶ月半近くの余猶を残してゐます。だが秋とちがつて、食欲は余り旺盛でなくなり、その点楽です。やさしいの配給は（百姓家の方の）一週二回ですが、カブラばかりです。かぶ菜のおひたしにもぼつ／＼あきました。従つて菜葉は可成りくさらせませす。塩がもつとあれば、つけ物にするのだけれど。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一六〜一七日の記）

十二月十六日（土）晴

昨夜三時頃までかかつて書いた独立戦争の終結契機―今朝になるとまた書きなほしたくなつた。今度こそうまく出来さうなので、今日芦野氏に一応見せて、もう一辺書きなほさせてもらひませう。僕の仕事はふえて来ます。芦野氏は西井君の書いた七年戦争の摘要が気に入らなくて、あれも僕に書いてくれと云ふし、総説（戦争史の）も書かねばならない。ところが僕のつくつたフォーミュラ、芦野氏の気に入つたことはいいが、中々書きにくい。

昨十五日、いねちゃんから電話があつて、午後向日荘へ引つこすから、よろしく頼むと云つて来たので、原稿でぐづついで、午後三時頃行つてみましたら、まだ荷物が来てゐずに、いねちゃんは臼田君とおしやべりしてゐました。間もなく荷物もついて、一通りおさまり、アパートの主人ともあいさつして、僕は原稿があるので五時に帰りました。ここから三十分もかかりません。歩いても三十五分くらいでせう。

帰つて今夜は徹夜のつもりで火を起し、ごはんもタッブリたべて、かぶらをふかし、それから書き出したもの。二時がすぎると冷えもきびしく、ぼつ／＼おぼけの来さうな時刻（此の頃は夜な夜な三時から三時半ごろあらはれます）だが、どうしたことか今日は来ないので、漸く四十枚（半ピラ）書き終つたので寐ました。四十枚のために百一、三十枚書きつぶして机中原稿紙だらけのまま。その四十枚は今日はまた三十枚ぐらいへ更にちぢめ、更に正確に書きなほしたくなつたわけです。ちよつと面白くなつて来ました。出来たらあなたへも見せるやうにしませう。

今朝は寐坊して、食事をすましたのが九時半。之から出かけます。ついでに銀座を歩いてあなたへのプレゼントを探しませう。

小包（タバコと本）とどいたのでせうか。もう何とか返事のありさうなものと思つたが、昨日も今日もお便りないので。今朝はせつかく洗つたお米のお釜をひっくり返すやら、大分骨折損をやりました。此の頃、みんな少し頭が変になつて来て、妙な失敗が多くなりました。どうやら毎夜の空襲で寐不足のせいらしい。おかげで今日のごはんは、時々ゴミが入つてジャリ／＼します。

十二月十七日（日）晴風

前の晩に寐てゐないので昨夜は早く寐ました。また夜半にお客が来ると起されますからね。所が、来なかつた。今朝は冷くて寒い。火をうんと起して、原稿を書きはじめます。

昨日はお昼に本室へ出て、二、三の用を足し、帰りに、宮川さんのお弟子の宮本君と二人で銀座をふらつき、本などを買つて帰りました。此の頃は早目に火を起さないと、暗くなつてからでは警報が出た時困ります。

臼田君は月曜から本室通ひになります。本室で女の子がどん／＼やめて、来なくなつて人が足りずに弱つてゐるので。彼女もいやがつて、僕も一応話したが、当分駄目です。

僕の信州での仕事は森井さんの知つてゐる人で、長野の商工経済会にゐる人が世話してくれさうです。まだよくわから

ないけれど、三、四月頃までにみつつけてほしいと云っておきました。

おひるにいねちゃんがちよいと寄りました。今日で彼女のひっこし完了でせう。大塚へ行きました。僕は原稿ととつくみ合ひです。面白いがむつかしい。

午前中、風が強いので、ふと思ひ出して、また「プロメトリス」を読みました。何度読んでもすばらしい。殊にあのラストのすばらしさ。何だか全篇を凄^④い嵐の壮大な音が、ベートーヴェンの外の誰も作れないやうな巨大な厳酷な音楽が、ひびきつづけてゐるやうな感じですね。実際「プロメトリス」は人間の生んだものの最高のものの一つでせう。いい翻訳がほしいですね。

此の間、森井さんは、僕が検事のやうだ、それも後れてゐるあれもいけないと云ふから、と云つたが、僕は検事ではなく、むしろすべての人々の内心の斗争へ点火しようとしてゐるものではないでせうか。すべての人々を、外との内との、特に人々の目から逸しがちな内との斗ひへ呼びかけることは必要だと思ふ。その内なる斗ひへの眼をひらかれない人は、すべて、歴史の審判に処断される。歴史は今や苛酷にして一切の甘さ、不純を許さない。

今日、桃ちゃんの代筆お手紙見てびっくりしました（この代筆手紙は発見できていない―編者注）。一昨日も昨日もお手紙来ないので、どうしたかな、僕が二、三日さぼつたので、気を悪くしたかなと思つてゐましたが、身体が悪かつたのでね。寒さの折から注意して下さい。手紙も勉強も無理をしないやうに。桃ちゃんはあなたの勉強ぶりに感心してゐますね。でもそのために身体をこはさぬやうに。殊にあなたの中にあなたよりもつかよわい者が成長してゐるのですから。昨日銀座へ出た時は、宮本君と一緒にだったので、余り女の子のほしがりさうなものを物色出来ず、あなたへのプレゼントも、一人で出た時のことにして買はなかつたが、幼児教育の本と「性格の遺伝」と云ふ本とを買ひました。

此の手紙は甚だ味気のない手紙ですが、あなたを心配させないために、今日中に出しませう。今夜もおそくまで書くために火を沢山起しました。

今日はおぶらとじやがいもとで一日くらししました。物を書く時はジャガイモが一ばん簡単でいいですね。尤もそのジャガイモは最後のジャガです。

昨日今日、海からの客が来ないが、今日なんか風があるから来たらこはいですね。ではくれぐれも身体を御大事に。桃ちゃんには明日、別に書きませう。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一日の記）

十二月十八日（火）晴

身体が悪くて気持が弱つてゐる時に、また悪い手紙[※]を書いてあなたを不快にさせて了つたやうで、すまなかつたと思ひます。

弁解はしようと思はないが、白田君を「失つた」と云ふのは、きき手を失つたと云ふ意味だったので。さう云ふ風にも書いたつもりだつたけれど。僕にとつていい友達とは、いい「聴き手」のことである場合が多い。僕は人にしやべることによつて物を考へる。書くことは今の時代では自由でないし、思考を發展させるためには、書くより人に話す方はるかに有効です。相手の反応が目に見えるから。そして竹中君と白田君とが今の僕の「きき手」だつたが、その竹中君の「きき方」の頼りなさを痛感させられつつあつた此の頃は、白田君は殆ど唯一つの「きき手」だつた。それが去つたから「失つた」と云つたのです。そして白田君の工場行きに若干疑問のあつた僕が、それを云はなかつたのは、たしかにあなたの感情を考へてであつた。と云ふのは、僕が彼女をとどめることが、あなたに誤解されはしないかなとちらと思つたのだから。僕はあなたと一緒にゐるやうな気持であつて、少しでもあなたに誤解される可能性のあることを抑制してゐる此の頃です。だが、あの時は、白田君に歴史のレクチュアをやる予定で（竹中君も加へて）少し準備もしてゐたので、殊に残念の度が強く、ついあんな風に、あなたの僕に対する精神的拘束力へ皮肉を云つてみたかつたのです。僕はまだどうも異性の友と交はる時、あなたの気持をはばかり癖をなくせない。そのことが却つてあなたの気持をこたはらせることだのに。

殊に此の頃のあなたの出かたは、いやです。何かと云ふとすぐ、僕を誰かと恋をはじめて、あなたから去ると云ふ風にとり、どうせ自分は期待さるべき何物もないのだから、どうか御自由に、と云ふ風に出る。之は今後絶対によめて下さい。そんなに僕が信じられないのですか。そんな風な出かたをされると僕は何とも云ひ難く不愉快になる。僕がこれまで、あなたの信頼を裏切るどんな事をしましたか。何かと云ふと村田さんを出すか、あれだつて、東大春秋のつき合ひから、彼女が黒岩君や高野君と下宿を訪問し合つてゐるのを知り、都会の新しい文化人ならその程度の自由な交はりも普通だと思つて、交はつてゐるにすぎない。そりや異性ととの交はりにはつきものの情緒的な要素も魅力だつたことは事

実だが、それ以上のいかなる気持も絶対になかった。白田君とのつき合ひでもさうです。所があなたがこだはるので、ついこちらからもこだはる気持が出来て、自由でなくなる。かう云ふことはどうも不自然だと思ふ。あなたが僕を本当に信じてゐてくれれば、僕は絶対に裏切らないのですから、もう少し自由にさして下さい。すぐ誇張してつたり、自分は健康も何も駄目だからとか、そんなことを云はないで下さい。そんな風にこだはることが、僕の人間理解や交友をどれだけ不自由にしてゐるか。僕はもつとしつかり貴女に結びついてゐるつもりなんだから。一時的な感情の表出や動きやを、そんなに誇張してつたりしないで下さい。僕があなたをどんなに大切に思つてゐるかは、筆や口に出す必要もないくらいです。とにかく信頼してゐて下さい。時々僕が、あなたの気持をはばかり自分の癖への反抗として、意地悪いやうな、皮肉なやうな筆づかひをしても、さう気にしないで下さい。僕もあなたの気持をはばかりことをやめ、皮肉を云つたりしないやうに努めるから。そんな風なことについて、いろく^①とまわりくどく説明したり釈明したりすることほど、不愉快で創造性のないことはない。つまらない誤解と云ふものは全く時間や精力の損失以外の何ものでもない。本当にこれから絶対に信頼して、自分が駄目だの何なのとは云はないで下さい。僕も注意するから。

それより、積極的にあなたが白田君と文通でもしてくれたい。僕達は友人を共有したいといつても思ひ、だからこそ、いつもあなたをあちこち引つぱつて歩いたのだから。白田君は、本室の資料部へまわされて二、三日前から通つてゐる筈です。僕の所へは誰が来るかまだわからない。

それより、あなたの身体はどうだったのですか。今は誰でも何か足りなくて、ちよつとした故障からいろんな故障を呼ぶものですから、本当に注意して下さい。僕なんかも、まだ痔がなほり切らない。

ダイヤモンドの原稿、大分手きびしい御批評で、参りました。あなたの御批評はたしかに當つてゐるのですが、之にも少しばかり弁解したい。と云ふのは、あれは「日報」への原稿かと思つたので、前に書いたこととダブらないやうに、前には書かなかつただけ書いたのです。そして現代の南部のことは「本誌第何号から何号まで連載の戦争政治の稿参照」などと書いたのです。だから専ら歴史の方を書き、現代のことは二、三のエピソードだけにしましたのです。それが雑誌にのつてゐたので、ぼくもびつくりしました。とはいへ、考へてみると、あの原稿の調子がかたくて、新聞にはのせられるものではなかつたと思ふから、やつぱり何と云つても、僕はある枚数をこなせなかつたのだと云ふ外ない。

どうも「日報」と云ひ、「グローヴ」と云ひ、今度の「ダイヤモンド」と云ひ、しばらくすでちつともいい所がない。その中でも若干自信のあつた「グローヴ」は台なしにされるし。「グローヴ」の原稿は鶴田君にきいたが駄目でした。

英語が出たら、その僕の方だけを逆にホンヤクしてあなたに送りませう。

二、三日前から「独立戦争終結の諸契機」と云ふのを書いてゐるのですが、そのためには日曜の夜は殆どテツ夜したが、漸く僕のシーズンが来たと云ふ感じになりました。書きなほすこと三回、今やつと満足なものに近くなつたのを、今日芦野氏に渡して来ました。尤もまだ少し残つてゐるが。明日芦野氏が何と云ふか。と云ふのは彼の註文は十五枚だが、それを三十枚にしてつたので。

書き方をぐつとかへて次のやうにしました。

一、米国独立戦争の歴史的意義

二、戦争目的

①イギリス側 主目的—攻撃的／副目的

②アメリカ側 主目的—防禦的／副目的

三、政略戦略

①英軍戦略 初期（北部作戦）—短期戦戦略—失敗

後期（南部作戦）—長期戦戦略

②アメリカ政略

戦略 初期／後期

四、戦局転機

①ロングアイランドの戦（長期戦となる）

②サラトガ戦と米仏同盟（戦争帰趨の決定）

③北カロライナ作戦—南部作戦失敗

④ヨークタウン陥落—戦争終結

五、戦争終結の諸契機

①アメリカ防禦力の民衆的内容

軍事／政治／経済社会的基礎

②イギリス攻撃力の内容（短期戦の失敗と戦争目的挫折を導いた理由—国民的基礎の欠除）

軍事／政治及び外交／経済社会的事情 六、結論

右のやうにした結果、問題はすこぶる明快に規定されました。ためしに竹中君と本田さんとに話してみましたら、大変よくわかると云ひ、竹中君の如きは、その形でいろんな戦争を書いて、本にしたらしいのにとしきりにすすめました。完成したら、写しをとつて、あなたに送りませう。南北戦争もさうするつもりです。

だが僕が今シーズンが来たと云つてゐるのは、この形の原稿ではない。もつと本格的な独立戦争が書けさうになつたので、それをやつてみようと思ふのです。とにかく今書いてゐるものは、「戦争終結」にしても、この年の後半期にかいたものとは気組みがちがひます。「グロヴ」なんかも何日も半テツ夜して三回も書きなほしたが、今度のはちがひます。やはり二番煎じだった。今度のは二番煎じではない。今度のは新しい洞察もは入つてゐます。自分でもオリヂナリテイのある独立戦争が書けると感じる。僕は仕事の出来るのはいつも冬ですから、今度も、ああ僕のシーズンが来たなと感じたのです。幸ひ部屋も落ちついて書きよい。部屋は次のやうにしてあります（四八五頁にある間取り図の私室部分が再掲されているが省略―編者注）。

窓は雨戸をしめ、防空暗マクをはつてあるし、石炭コンロの火は朝七時前に起したのは午後二時頃まで、夕方五時前のは十二時頃まで暖いから、ステキです。この日曜日は夕方四時に起して、十一時すぎにぼくが火をかき立てたりしたためかへつて悪く、十二時ごろから火なしになり、午前三時四時になると冷えがすごく、たまりかねて床には入つたが、身体がひえ切つてゐる足なんか氷のやうで、どんなにしても眠れず、とうとう六時にまた起きて、火を起してやつと人心地になつたくらいでした。あとでカイロがあつたことを思ひ出して、あれさへ気がついてゐたら、少しは眠れたらうにと大いに後悔したものです。

六時半ごろはまだくらいですね。毎朝コンロの火をバタ／＼起してゐると、今年の一月を思ひ出します。あなたのつくつてくれた軽いぎんは大いに重宝してゐます。昼間でも時々つけて、やつてゐます。

昨日は原稿で夢中になつて、とうとうあなたへ書けませんでした。夜は前日のテツ夜のため眠くて、十一時に寝たと思つたらサイレンで眼がさめたが、またすぐ眠つて了つた。今日は朝中かかつて原稿を書き、午後青野氏に見せに行つて、本田さんとしやべり、浜田恒一、小野氏等から「プランティション」の註文を受け、神田へ出て本を少し買ひ、小此木君を訪ねた。朝彼から電話があつたので。小此木君にも独立戦争のことをしやべり、サトウ入りの紅茶を二はいごちさ

うになり、物凄いラッシュアワーを省線で帰った。

此の頃は、ラッシュは一頃よりもつとすごい。みんなナベやらぎぶとんやらを背負つたりかぶつたりして、時々ホウチヨウも邪魔になり厄介です。東海道線不通で北陸まわりは凄くさうですね。中央線はどうかしら。今甲府以西は売りませんね。

小包みがかからないとはどうしたかな。たしか七日か八日だったと思ふが。書き留です。次のたばこも送りたいが、つかないやうぢや困りますね。サッカリンも買つてあるので一緒に送りたいのだが。あなたへのプレゼントも。今は旅客も荷物も一番輻綜してゐる絶頂かもしれないですね。だつたら来年の始めにでもませうか。その頃旅行出来たらみつちやんと信州へ行きます。その時「プランテーション」を持つて行けるとすてきなんですがね。「プランテーション」はまた広告が大学新聞や朝日新聞に出はじめたから、きつと近々出るのでせう。空襲と検閲、この最後のスキュラとカリプデイスだつたかな。とにかく二大難関を突破出来さへすれば。伊藤君も「プランテーション」が出たら祝盃をあげる価値がある。今時ああ云ふものが出ると云ふだけでもね」と云つてゐたが、僕も早く祝盃のあげられる日を待ちのどんでます。あなたもさうでせうね。あれを持つて信州へ祝盃をあげに行きたいもの。

明日は芦野氏の来る日で、僕の原稿を何と云ふか。
此の頃空襲は中部地区の方が主になりましたね。飯田辺はどうなんですか。他分上田とか長野とかへ行つてゐるのでせうが、南信へ焼夷弾を落したと云ふのがありましたね。

※この「悪い手紙」というのは、おそらくは二月一日、謙一が幸子あてに書いた手紙のことであろう。それにたいし不快感を表わした幸子宛の手紙は発見できていない。

幸子から謙一あて（一九四四年二月一九日の記、二〇日の消印）

十二月十九日

十三、十四、十五附お手紙、一諸にうけとりました。此のごろ郵便の具合わるい様ですね。折角お送り下さつたと云ふ煙草も未だに着きませんの。とられてしまふか紛失したのでせうか。残念ですこと。書留なら晩くなつてもなくなる事

はないでせうが。尤も空襲の混乱ではあぶないかも知れませんが。七日の地震は被害ひどく、名古屋の工場や学校は倒壊したものがあつた由、こちらの中学校の勤労働員の子五人死にました。

東海道線は天竜川の落下地域が割に広くて、復旧工事に手まどれる相で、そのため中央線廻りを利用するので輻輳激化で、東京行の切ぶは公用、軍関係の他は上野原までしかうらぬ相です。期間は今月中だ相ですが。精しい事は解りません。

鎌倉へは度々、御足労でした。有難うございます。うまく行つてゐる様子で安心です。それに肥つてゐたとのこと、よかつたです。途中で赤チャンに死なれると、残された母親は肥るのが一般的な現象の様です。私もさうだつたし、斎藤洋服店の妻君もさうでした。赤チャンのために、母体には相当量の栄養のストックがあるものらしいですね。

竹中さんとAさんの話、至極あり相な話なんです。それに分室の人々が暇さへあれば、あんな風に見合結婚を煽り立てては、流石の竹中さんもシーソーのようにボタン／＼するのも無理ないですね。分室結婚座談会、あれが男性の眞の要求なんです。でも本当の事も沢山含まれてゐます。妻の健康である事、若い事、家庭的で主人第一である事は眞理でせう。あなただつて、それには賛成でせう。私は全く妻君の第一、第二、第三の大切な条件をことごとく持つてゐませんもの。全く、あなたにはお気の毒ですわ。

梅干、近日中にお送りしませうが、はたして今年中につくでせうか。あぶないものですね。

白田さん、復歸する由、何よりでした。あなたも落ちつける事だ。いろいろ、まのわるい説得などしなくて済んで何よりでした。此の前の手紙にも書きましたが、あなたがあの人をホめる事は、自然でもあり正当でもありません。いちはんわるい事は、恐らく、人が為たいと思つて為らないことだ”と、アンネットも申します。

”気の毒なのは不在者である。かつてあつた事も、此から起る事もし方がない。現在は大きな喉を持つてゐる。彼は一切を取る。一切を欲する。彼は一切だ”此の言葉の表す意味もこのまゝ消化出来ます。私はあなたを恨む心は全くありません。

暮の上京のおすゝめは前にも書いた切符の件、身体の件もあつて、一寸実行不可能です。あなたの休暇はあなたに一番好都合に御利用なさいませ。サッカリンもいただいても、紅茶くらのもの、そちらでお使用下さい。

先日、手紙でどうも森井さんのわる口書きすぎてしまつて、返す／＼も、今は嫌な気持です。だつて私は、実さいのあの人を一時間位しか見なかつたし、私とは始んど喋らなかつたのに、勝手に自分の想像を加へて、あの人をこねあげた

揚句、わる口を云ふなんて！ 本当になるかつたと思ひますわ。今は多いにあの人にあやまつてゐる心持です。あなたの手紙で、森井さんは他山の石的存在になつたとのこと、――私は余計に、まのわるい様な氣持がします。矢張り女も30を越すと、すなほでない、コチンとしたものを抱き始めるのですわね。若い程、それが無い。森井さんだつて今までの生活から、それ等を作つて来たのですから、一朝一夕にあなたの話はそのまゝあの人のもになると云ふ訳にはゆかないのでせう。白田さんの様に白紙の人と一諸に扱つてはむりでせう。

白田さんの挺身隊を止めた理由は、あまり立派な理由ではありませんね。矢張り心理的動揺から、必然なしに生れたものであつたのですね。それなら尚、其のまゝ工場へはいるのはいけなかつたでせう。私は又しても白田さんの上にも、自分の想像の筆を加へてしまつてゐたわけね。矢張り長い間の直接の自分の目で得た判断でない駄目と云ふ訳ですね。偏見、主観と云ふものは、実に楽々と形成されるものだと思ひます。

昨日午後（十八日）から風越館にゆき、一晩泊つて風邪を引いて来ました。中々いい部屋です。私も本やふとんを持つてゆきたい位ですわ。こちらも時々十二月らしい雪がふります。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年二月二〇～二一日の記）

十二月二十日（水）晴

その後あなたの健康はいかがですか。寒い時は無理しないやうに。あなたは所謂冷え性かも知れませんからね。勉強も無理しないでやつて下さい。じつくりと深く理解するやうにすれば、量は多くを必要としません。

今日はお天気はよかつたが、西風が強くて寒い日でした。こんな日に焼夷弾なんか落されては大変だと思つたが、警戒警報だけですみました。

芦野氏の来る日だが、今日はゆつくり来ると云ふので、みんな落ちついてゐました。朝、堀江、竹中の両君がいそぐは入つて来たので、どうしたのかと思つたら、堀江君がリプトン紅茶とサッカリンとをもつて来たので、のまうと云ふのです。そこで何年かぶりにおいしい紅茶のみました。

「原稿出来たんかい」「いいや出来んよ。だけど昨日金ちゃんに渡しといたよ。今日は彼の感想をきくんだ。何て云ふか

なあ。金ちやんは一応わかるんだがね、やつぱり一応だけだ。本当にわかるんぢやないんだ」「さうだね。あなたなんかが苦勞して書くものと、隣の先生（西井君）が和歌をひねり出すやうに簡単に書くものと、質の差がわからないんだらうね」「だけどね菊池君。君の話をきいても書いたのを読んでも、むつかしいぜ。普通の人ならついて来ないよ」「さうか」「足立さんは、菊池さんは先天的に先生型だと云つてたが、先生型ぢやないね。君の理論を一応知つてる人なら理解出来るけど、普通の人はわからんよ」「そんなことないだらう。だつて君だつてついて来たぢやないか。君は普通のぢやないのか」「そりやさうだけど」「そりやさうだけど、やつぱり君だつて本当について来たんぢやなかつたね」「うん、さうだね。あれだらう。それで君は、僕が本当の意味では君の理論がわかつたのぢやないのだと云ふんだらう」「さうだよ。大体ね、日本ぢや読者の方もいかんよ。読者の読み方がなつてないよ。押しなべて金ちやん程度で金ちやん流だ。さあつと眼を走らせるだけだ。だから書く方でどんなに一生懸命になつても駄目なんだ。わかつた、わかつたと云つてもちつとも本當にわかつたんぢやないのだから。君だつてさうだ。不精で不勉強で怠惰だ。まだアメリカ史も読んでゐないんだらう。たつたあれつぼちの長さなら、僕への友情だけでも読めさうなものぢやないか。読みにくいなんて云ふ読者は駄目だ。本當に知りたい欲求をもつてゐる人間なら、多少とつつきがわるくつても本當のことを書いてゐるものなら、わかる筈だし読む筈だ。本當に病気をなほり健康に生きて行きたいと思つてゐる人間は、苦い薬でものむぢやないか。書く方の側ではそりやなるだけ読ませるやうにすべきだが、読む方の側でも本當に読まなくぢやいかん。友達で新聞記者をしてるのがゐたがね、日本の新聞記者のレベルが上らないのは、読者にも大いに責任あると云ふんだ。今は別だが、もつと前に幾つも新聞があつて、やめることもとることも自由だつた頃だがね、日本の読者は新聞を本當に読むんぢやない、惰性でとり、読まんと不便だから読むにすぎない。どんなつまらんことを書いてゐても同じ新聞を読むつづける。批判して、この新聞はつまらんことをかくから買はない、之はいいこと書くから買はうと云ふのぢやない。新聞記事の質のよしあしがわからないし、わからうともしない。だから新聞をとらせるのにナベやホウチヨウや芝居の切符などで宣伝する。新聞記者だつて一向まじめにならない。与太を書いてゐても買つてくれるのだから、書き易い方の与太ばかり書いてゐる。さう云つてゐたがね。現在の本を買ふ連中、いはゆる読書人の態度もさうだ。何でも見さかひなしに買つて読むんだ。林房雄なんてのさぼるのは、そんな無責任な読書階級が、眼鼻がなくて口だけしかない『ワイワイ』連のやうな読書人が、見さかひなしに本を買ふからだ」「耳がいたいね」「耳もあつたか。とにかくだね、全身全霊をうちこまない、いい加減に悪達者に書きなぐるブック・メイカー達がはびこつてゐるだね、本當に熱

情をこめて書く人間がわづかしかるないと云ふことは、さう云ふ読書人、サロンの読書人しかるないからでもあるんだ。結局このことは日本の文化的低さ、社会的開明度の低さの問題になるんだがね。しかし少くとも君なんかはもつと考へんといかんよ。本もいい加減に読むが、結婚もいい加減にする。金があるから買ふのに困らん」。

「さう云ふなよ。だけどね、君は理論的に行動することをモットーにしてゐるが、白田君のことは、あれは君の失敗だよ」「何だつて」「白田君はね、資料課へまわされたんだ。昨日本室へ行つたら会つたがね、大分弱つてゐたぜ。朝夕通ふのはくたびれるし、昼食は食べられないし、何とか経堂へ帰へれんかと云つてゐたぜ。あれは君のやりかたが悪いんだ。第一、最初からいかんね、条件もきまらないのに辞表なんか出してしまつてさ。辞表は君が保留しておくべきだったんだよ、はつきりきまるまではね」「うん、それも考へたがね、彼女の決心を上げます意味で、つい早く書かせて了つたんだ」「それからね、今何も工場なんかへ行かなくていいぢやないか」「そりやさうさ。工場へむりやり行かされるんなら仕方ないが、自分から進んで×××機械なんかつくる手はないさ。だけどね」「それから彼女のやめることを中尾さんに話す時ね、君の仕事にどうしても彼女が要るんだが、万やむを得ないから手放すのだと云ふことをもつと強調しておくべきだつたよ。そしたら、帰つた時、こつちへ入れられたんだからね」「そりやさうかも知れない。だけどね」「まだ文句あるんだ。今からでも電話で中尾氏へ云つたらどうだね。白田君が資料へ行つたさうだが、どうしてこちらへ来ないのか、仕事が急ぐからどうしてもこちらへまはしてほしいと云へばいい。僕から云つてやりたいくらいだけど、僕からぢや変だからね。僕もいつか足立さんを資料へまはせと云はれたとき、断然はねつめたよ。足立さんは英研で要るんだからと云つてね。大体君は全部イニシアティヴをとられて黒星ばかりぢやないか。もつとイニシアティヴをとつて積極的にやりやいいぢやないか」「おやおや、それは僕が此の間中、君にさんざん云つた言葉だね」「さうだよ。君は何でも理論的にやらんといかんと云ふくせに、現実ぢや負けてゐるぢやないか。何もかも君の黒星だよ」「しかしね、君。他に考へかたもあるぜ。そりや僕ももつとやりかたはあつたとは思ふさ。だから僕の黒星はひとめるよ。だけどね、大体工場入り挺進隊入りを決心した彼女がだね、資料課で高木さんの下にゐるのがつらいとか、朝夕通ふのがつらいとか云つて弱つてゐるなんて、矛盾ぢやないか」「それはさうですよ。挺進隊も仕事によつて大変らしいからなあ」(之は堀江君)。「さうだらう。大体彼女はまだ甘さがぬけ切つてゐないよ。辞表出したところへまた帰つてくると云ふのも甘いし。だからね、弱つてゐるから何とかしてやれと云ふ君の同情は悪くはないがね、この際はむしろ彼女に暫くそのいはゆるつらい環境、つらいと云つたつて外の女の子だつてみんな本室へ通つてゐるんだし、仕事も大したことないんだ

から、その条件とたたかせるべきだと思ふ。君が同情するならば、その方向へ元氣づけてやるんだね。僕だつてさう云つてやらうと思ふよ」「そりやさうだな。だけどね、あの人事もシヤクなんだよ。研究員に相談もしないで、勝手に女の子の部署をかへるなんてシヤクだよ」「尤もね、臼田君が昼食や交通ひに困るやうなら、上北沢へかはらせてもらふやうにしてもいいがね。上北沢なら交通費はかからんだらう。僕も中尾さんに云つてみるがね……」。

芦野氏は警戒警報を先触れのやうにして、庭からは入つて来ました。「菊池さん、エルケーニツヒ弾けるやうになつたかね」「いやあれは手がくたびれて、まだ半分までしか弾けません」。竹中君がわきから「此の頃はシヨパンをやつてゐますよ」「さうですか。いや君がエルケーニツヒ弾ければ、僕が一つうたつてみようかと思つたんだがね」。そして原稿については、「長すぎるけれど中々面白く読みましたよ。よく研究して書かれてゐる。中々いい。あの調子で外のも書いて下さい」と云ふことになりました。僕の苦勞はわかつたのかどうかはわからぬ。

今日は野菜の買ひ出しで、やつぱりかぶらしか買へなかつたが、霜解けのぬかるみで下駄の緒を切つてしまひました。さんざんです。

午後から夜へかけて、また独立戦争終結契機を書き直しにかかりました。一回書きなほす毎にどこか前の物足りない部分がつきりわかつて来ます。プランテーションの歴史（調査会の原稿）は、そんな風に何回も何回も書きなほしつつ進んで来たものでした。「プランテーション」の方は、緒論はそんな風だつたが、あとはそれほどでもなかつた。尤も、第三章、第四章はぜひ分何度も書きなほした。書きなほしてだん／＼よくなつて行く時はうれしいが、一向うまく行かない時はいやになります。今の原稿は書きなほす度によくなつて行きます。

では今夜も十一時ですから寐ませう。警戒警報（さつきとけました）も、今夜は早かつた。昨夜のは、目黒と世田ヶ谷との境目あたりの多摩川辺へ焼夷弾がおちて、大分火事も大きかつたさうですが、見なかつた（床の中にある）。

十二月二十一日（木）晴

昨日も今日も御手紙来ないが、どうしましたか。やつぱり身体がよくないのですか。それとも僕の手紙で気を悪くしてゐるのですか。どうか機嫌をなほして下さい。そして誤解をわざ／＼固定して拡大したりしないで下さい。僕も君の気持への思ひやりが不十分だつたことはおわびします。手紙は届いてゐますか。それより小包みはどうなつたかしら。今日もタバコの配給日で、この十日の分も（アサヒ六十本と光十本）あるのですが、小包みが見つからないとすると、困りま

すね。今、東海道線の故障や中央線の混雑や貨物の混雑で、つきにくいのかもかもしれませんね。お父さんも御困りでせう。あなたへもお金を送らうと思ひ乍ら、郵便の不安ではちよつと送れませんね。電報カハセでも送らうかしら。書留がつかないやうぢや本当に困ります。

ところで、竹中君の結婚の相手のこと書いたかしら。彼の相手と云ふのは、やはりA君の持つて来た話ださうです。A君の夫君、西川氏と云ふのは四十二か三ださうで、長年イギリスで貿易商をやつて来たが、その関係で知つてゐるどこかの重役の娘。年は二十三才で、どこかの女学校を出て、外国の学校にも暫くゐた、趣味は音楽でピアノをひく、明るい娘さんだから、よく話せば理解し合へると思ふと云ふのです。「さうきれいな人ぢやないが、写真よりはよかつたよ。話すことがなくて弱つた」「何を話したんだね。サロンのなことだらうな、どうせ」「さうだね。だけど相手の人は何にも話しないで、妙だつたね。時々笑ひ出したくなつたよ、何となくおかしくなつてね」「冗談ぢやないよ。相手の彼女にとつては一生の重大事なんだがなあ。とにかくどうだね、自然ぢやないだらう。人間のすることは思へんだらう。それで君はもうきまつたのか」「きまつたやうなものだらうね。けどね、Aさんは僕のことをよく知つてゐる。西川さんは彼女のことをよく知つてゐるんだよ。だから全然知らん人が持つて来たこと云ふよりはましだらう」「さうだね、危険率は少いかも知れんな。だけど君はAさんが君をどれだけ知つてゐると思ふのだね。A君は人を見るのに逆も感情的だよ。競争心が強くて嫉妬深くて、到底人なり現実なりを正確に把握出来る人ぢやないよ。第一、西川氏との結婚だつてどうも僕には納得いかないね。本当の人間理解の上に結ばれた結婚とは思へないんだがね」「さうだね。僕もさう思ふ。大体西川氏の方が積極的だつたんだ。だけど西川氏はロンドンに妻子があるわけだらう。その方をちやんと正式の手続きをやつたさうだけど、何だか彼の気持は便宜主義①のやうに思ふんだけどなあ」「さうだね、便宜主義的要素は極めて多いね」「それでAさんの方もさうなんだよ。Aさんにしても西川氏に本当の愛情をもつてゐるわけでもないし、家の反対も大きかつたらしいがね。やつぱり年も年だらう。それにAさんの性格ぢや、大人しい相手ぢやないとうまくおさまらんだらう。所が西川氏は英国式の紳士なんだよ。人がよくて大人しくて、とにかく大人なんだね。だからAさんも相手の大人しくて紳士であるところを利用したやうなものだ。西川氏の方でもAさんの親切なところを利用した感じだ。だからね、僕の結婚の方がAさん達のよりまだ自然だと思ふよ」「自然ぢやないよ。君の方が非人間的だよ。彼女達とはかく、どんなに矛盾が多くても、自分の責任に於て結婚したんだからね。いけなくなればきつと自分で責任を以て処置するだらうよ。君は全く種馬②みたいなもんだ」「種馬とはひどいね。だけどね、僕は君の云

ふこともわかるし君の感情もわかるし、いろんな点で似てゐるんだと思ふけれど、ちよつとちがふね」「ちがふよ。君は現実と妥協することを肯定し、僕は現実とたたかふことをモットーにする」「さうなんだ。だけど僕だつて現実とたたかふことをやつてないわけぢやないよ」「だけど決定的なことゝ妥協する」「さうかなあ、決定的かなあ」。

「決定的だ。そのことはやつてみればわかる。いい人間関係、正しい人間関係なら君はそれを通じて変革され進歩する。あはされた関係、くつつけられた関係では人間が墮落する。君は結婚生活が人間の個人生活に於てどんなに決定的かを、推察出来ないかね。それだけいろんな小説を読んでもわからんかな。尤も日本ぢやたしかに男にとつて家庭生活は決定的でない」と云ふ可能性もないではない。けれど女にとつては決定的だよ。女にとつて夫と本當に理解し合へない、理解してもらへない、と云ふことは決定的不幸だよ。大体君はつまらんことでは、負けても勝つてもそんなに重大な結果を及ぼさないことでは現実とたたかふかも知れないが、重大なこと、負けることが致命的になること（自分にとつても他人にとつても）では妥協するんだ。そしてね、現実といつてもたたかふ人間には、健全なもの、人間的なもの、普遍への結合努力、歴史への合体努力、現実とのたたかひを昂揚したものがいつでも必要だ。反対に現実と妥協して行く人間は、サロンのなもの、倒錯的のもの、病的なもの、非合理のもの、遊戯的のもの、をほしがるのだ。」「さうだね、さうかも知れないね。とにかく僕は、君の云ふサロンのものをやつぱりなくしたくないね」「さうだらう。僕はだが現実とたたかふと云ふ言葉で、自分の中の現実とのたたかひも含めてゐるんだよ。それはね、外の現実と本當に正しくたたかふためには、自分の中の不純、おくれたもの、反歴史のなものとの徹底的なたたかひが必要だからだ。」「さうさう、それなんだよ。その自分の中とのたたかひと云ふのが苦しいんだ。しかも君はね、自分の中のいろんな要素を論理的に一つ一つぶつ叩くだらう。僕はそれをされたくないんだ」「さうなんだらう。自分の中の後れたものをなくされることゝ、まるで自分がなくされるやうに感じるんだらう。だから苦しくて、そんなにつつこまないでほしいと云ふんだらう。そんなにつつこまなくても、自分でもわかると云ふんだらう。自分でも時がたてばはつきりわかるから、それまでこの傷をそつとしいてくれと云ふんだらう。さわられると痛い。若しそれが化膿してはつきりと手術せねばならんかわかつたら、自分で積極的に手術してもらふ。それまでは余りさわらんでほしいと云ふんだ。ところが僕は化膿させない間に手術を加へたいのだ。傷をほつとけばほつとく間だけ、君は人生をさぼることになる。所が君がさぼることは、歴史の進行の邪魔になる。そんなつもりがなくても邪魔になる、障碍になるのだ。だから歴史の障碍にならんやうに、傷をなほせと云ふんだ」「わかるけれどむづかしいね。」

暫く配給がなくて、この二、三日はかぶらのふかしたのか、でなければ塩あじ(5)のごはんだけ、昨日みそが買へたので、昨夜と今朝と昼とはみそをおかず、と云ふ調子だったのが、今日はいわし二匹、小松菜と、とうふ半丁の配給があったので、みそ汁をつくつてめしらしめしをたべました。

さてまた原稿のつづきにかかりませう。

身体を本当に大切にして下さい。そして、もつと僕を信頼してみて下さい。僕が自分で自分の感情をいつでも制御して、正しく、歴史的な生きかたをして行くことに一生けん命になつてゐるのですから。この八年のあなたとの生活を通じて、常にさうだったのであり、いつでも反歴史的な考へや行動におちさうになつても、絶対におちさずに、やましいことなく生きて来たつもりなのに、どうしてそんなに不信を受けねばならないのでせうか。一時的な感情や表情を、どうしてそんなにひどいものに云ひ立てられねばならないのかしら。あなたが疑ふやうなことをする人間なら、どうしてこんなに衆人の中で、人に毎日正義について語り、また本当のことを書き、あなたへもこんなに自分の生活を出来るだけ書かうとし、「ブランティション」を書いたり出来るでせう。そりや僕も、あなたの感情をはばかつて、かくさんでもいいことをかくしたり、時にはうそをついたり、感情をいつはつたり、依(依怙)古持(依怙)になつたり、わからずやになつたりして来たけれど、それらはあなたとの生活を危くするやうな、またはいつまでも持続したやうなものでなかつた筈です。僕も人よりは誠実に、自分の性格や感情の欠陥をなほし、人格の完成へ目ざしてゐるつもりですが、あなたはさう見てくれないのかしら。僕がまちがつたことをしても、あなたに指適(指適)されれば正し、わびもし、基本的にはいつでもあなたへ誠実に、あなたの信頼に価ひするやうに生きて来はしなかつたのかしら。だのにあなたは、ちよつとしたことをとらへては、それを大げさに悲劇的に結論しようとし、それを固定し永続するものにしよつとす。そのやりかたは卑却(卑却)だとさへ云ひたい。ただあなたが身体が悪かつたり、気持が孤独のために弱つたり疲れてゐたりして、さう云ふ風なことを云ひ出すのだらうと思ふから、「卑却」だと云ふ風な強い言葉をつかはないだけで、余りしつこいと怒りたくなくなるぢやないですか。本当に僕も注意するから、そんな風に一々誤解を大ゲサにしないで下さい。僕が原稿などを書かうとする時は、そんな風なことがどれだけ有害な作用をするか考へて下さい。その為のベン解や僕自身の気持(気持)のみぢめになることやが、どんなに時間と精力との浪費になるか。でももうよしませう。ただ誓つて信頼してほしいとだけ云つておきます。

幸子から謙一あて（一九四四年二月二日の記・消印）

十二月二十一日

今日、つてがあつて、干柿を一貫匁たのみました。40円で高い様ですが、さつかりんよりはましかと思ひますから、来たら梅干と一諸にお送り致します。何時ごろ届くかわかりませんが、お正月用のおくりものと致します。お好きな様に処分なさいませ。

独立戦争、書き終つた由、すこし重荷が下りたでせう。西井さんの分までも負担しては中々骨が折れますね。芦野さんの信頼や好意にあまりむくゐてなかつたのですから（？）、もう暫く頑張つて、満足ゆく様な仕事でお返しなさる事は当然でせうと思ひます。仕事が増えても、結極あなたの勉強にもなる訳ですものね。寒いし榮養はとれないし辛い時ですが、最悪の条件で出来る丈最上の仕事をするのも、又ゆ快な事ではありませんか。

稲ちやんのアパートの件、種々お骨折下さつて本当に有難うございます。みつちやん達の事と云ひ、いねちやんの引越と云ひ、何度も御迷惑をかけてしまつて、太切な時間を随分むだにしてしまひましたのね。すみませんでした。みつちやんからお母さん宛の手紙で、赤ン坊の時も召集の折も来て貰ひ、いろいろいただき感謝してゐると書いて来ました。稲ちやんの新任所は矢張り世田ヶ谷ですか。あの人は例の如きのんき者ですから、何時知らせてくるかわかりませんか、精しい住所、おついでの時お知らせ下さい。

私へ何か下さるさうですが、別にほしい本物もありませんから、無駄なお金は使はぬ様にして下さい。それはさうと、まだ本も煙草も届きません。あきらめた方がいいでせうね。もう廿一日目です。お父さんにもあきらめなさいと申しました。当てして毎日、今日こそ今日こそなんて云つてゐるのが、もう当てに出来ませんものね。

森井さんが仕事を探して下さいのですか。長野市の方の紹介なら、多分長野か松本地方の仕事になりませうね。何れ森井さん方もあちらへ疎解してお仕事する訳ですから、大体同じ職場になれますわね。

桃ちやんの手紙で（代筆で）びつくりさせた様ですが、もう元の様に戻りましたから御懸念なきよう。下痢は熱よりもこたへ方も激しい代り、恢復も又早いものです。

二、三日、又、魅せられたる魂をよみ返しました。前にはアンネットの像が視野一杯占めた如き感が有りましたのに、

今度はマルクの方が鮮明に浮んで出て来ました。矢張りマルクの方がアンネットを越えてゐる点がありますね。アンネットが意識的に求めなかつたものをマルクは求めてゐる。——常に行動の指針を。指針としての論理を。アンネットは盲目的にたましひがそれを求めると云ふ風を感じ、それ丈で先を求めないのに、マルクははつきりした理論の裏づけなしには不安を感じる所があります。アンネットの生きて来た道は、戦つて勝つて来た路であつたが、それはアンネットが天的にすぐれた血を持つてゐた事に原因する様に見え、彼女自身の意識的な努力、克服と云ふものははつきり見えぬ。そこにアンネットのすぐれた素質は認めるが——前よんだ時の様な、アンネットへの全般的な尊啓は今度は持てなかつた。彼女はまつすぐに進み時には躓くが、必ず前より元気に起き上る。それは彼女の魂が彼女に本能的に命ずるのだ。彼女のブルゴーニュ氣質の血潮が、躓けば倍ましのはげましを与へるからだ。と云ふ風な表現が、さう思はせるのかも知れないですね。苦斗(くとう)の生活を通して尚強くなるには、経験から教訓を得たからにちがひないのですもの。此度読んだ時はアンネット個人の面白味はうすくなり、其の他の群像が前より鮮明になりました。シルヴギもさうです。シルヴギはアンネットと異(ちが)ふ方法を人生に採つた様に見えたが、シルヴギも又、彼女なりに全身の力をこめて生きて来た事がわかります。アンネットもシルヴギも論理づけを求めなかつた。シルヴギの方がアンネットよりも市民的で俗な生き方を選んだが、彼女のミリユウから考へて当然で、シルヴギはまはりの人の生活に対し、自分の生活に対し、とに角確固たる信条を持つて批判をしてゐますね。前にはシルヴギとアンネットとひどく異ふ様に見えたものなのに、今度はどうも前程(しんせう)の差が感じられない。むしろシルヴギのよさが見えました。シルヴギは少(ち)さくとも卑(ひ)少(せう)でも生活から得た信念があつて——(後天的)それを指針としてゐるところがある。アンネットの言葉にははつきりしない抽象を時々感じるが、シルヴギのそれには抽象がありません。彼女の今の言葉は何処から来て発したもののか路がわかる。ところがアンネットとチモンの場合、私にはアクロバットのダンスの如き感を与へられる。ひどくあの辺はあいまいもことかすんでゐる。アンネットがチモンに対して優越を得て来る過程は、現在のフランスの一聯の心理描写の小説そつくり。自分丈わかつた顔で押し通し、理解出来ぬ者は下等だと云ふ様な一人(ひと)よがりや、シユールの絵を見る如き感じがあります。あの辺からアンネットは神様の存在に、隅(すみ)像にまつられ始められます。あの辺からアンネットは、私にはみ力がうすくなる。むしろあのころからシルヴギは生きて来るのに、アンネットは死に始める。アンネットとキヤレンツア伯、アンネットとジュリアン、アンネットとジュールジューの關係にはいと、アンネットの生々しい呼吸はきこえなくなる。観念化されたアンネットが浮いて来る。アンネットも其の他の人も影絵の様にかすんで、み力なし。生きて来るのはアーシヤ一人

です。マルクの死後、アンネットも実は死んでゐますね。動いてゐるのはロマン・ローランにまつり上げられた観念のアンネットです。最後までよませるものはアンネットでなくて、当時のヨーロッパの状況です。

又まちがった一人よがりの批評をしたかも知れませぬね。よみ始める時は、この中から力を得たいと思つた事はたしかでした。けれどよみ終りかけの頃は、圧倒されもなくなつたし、始め得たいとのぞんだものは得られなかつた。ただけで失望はしなかつた。むしろこの中から力をではなくて、自分の中に、それにふみつぶされぬものがあつた事を知つた様な心持がしました。

それからつづいてアナトオル・フランス。清潔でこぎれいで、一寸皮肉で博学で―短篇集の始めではアナトオル・フランスもたいしたものではありませんね。一聯のフランス革命ものの短篇、六ツ七ツ程よみました。フランス革命を此のように扱ひつつ、遂には神々はかまくらまでに至つたのですから―かんとんにこぎれいな皮肉屋さんなんて云へませぬわね。併し、こんな短篇を書いてゐた彼が、何時どんな訳で、どんな風にして、神々はかまくらまでにゆくのかと云ふ好奇心(?)を犬のはなとして、頁のスキ／＼まで嗅ぎまはし乍ら、一通りここにあるフランスをよんでみませう。下らないお喋りを致しました。

此の頃、わる口ばかり云つてゐる様で恥かしいと思ひますが、何故だか皆、よむものが不ままで、どつしりとこたへないのです。ヒステリーのせい(註)ですかね。
さようなら(註)。

幸子から謙一あて(一九四四年二月二日の記・消印)

- ・判は25日まで出来る相です。
 - ・切手が買へないとのこと、20枚あげませう。
 - ・稲ちゃんから今日(21日)手紙が来ました。従つて新住所もわかりました。
 - ・森井さんも臼田さんもいい人だと云ひ、就中臼田さんは無邪気(註)でかわいい人だとほめてゐました。
- では今日はこれで。

廿一日

謙一様

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年二月二日の記・消印）

十二月廿二日

本日ようく小包み到着致しました。スタンプは五日です。十八日目に届きましたのね。東京信州間はペンよりも遠い事になりました。煙草の配給は廿日の筈が、煙草店の主人が留守なので今日に至るもまだなく、お父さん気の毒な位しよげてゐましたので、早速持つて行つたら、あのニコく顔！本当に有難うございました。大分すれて、茶いろの粉が手のひら一杯位こぼれたり、よぢれて紙がとけたりしてゐたのも10本位ありました。お父さんに2-3、1-3はぶうちやんにあげました。

この分では干柿送つても何時着くかわかりませんね。お正月はお正月で、又郵便配達は休みがあるし。途中で抜かれたりせぬ様に嚴重に作りませう。一月中に着けばいいとして。併し、まだ肝ぢんの柿は届いてゐませんが、今日中には来るでせう。いねちゃんにすこしわけてあげて下さい。お正月のおくりものとして。実物来始第、作つて送りませう。郵便局へ行つてお金も出してこなくてはならぬし。それとも一月においでになるなら、その時までとつておきませうか。むしろ其の方が早いかも知れません。と云つて、一月と云つても三十一日あることですから。まあ、来次第送りませう。プランティションは第三章第二節が終りかけてゐます。本年中にノオト丈はとりませう。来年ずつとまとめてよみ返すプランで。病氣此の方、はかばかしく進みませんので、ノオトも日に8枚位の日もあるし、一枚の日もあるしですので、第二節にかかつたのは十六日からですが、まだのろのろしてゐるわけです。早く全部すませ度いと思ひ乍ら、本当に困りました。

昨日、寛ちゃんから手紙が来ました。住所は青山北町の前の郵便局の主事の家のようです。学生と職工の区別がない今日だから、学校は辞めて東宝へ就職する決心だとありました。何だか前よりもつと不真面目な感じのする手紙でありました。

此のごろ毎日、一日の中の何時か雪がチラめきます。信州の寒さは東京とは又別です。着ぶくれて動きのつかぬ位にしてゐませんと、すぐ故障が起ります。亀ノ子みたいに、ころんだら自力で起きるのは無づかしい位です。

お仕事は進捗してゐますか。いろいろ途中で引越とか何とか雑音がはいるから大変ですね。それに安みんは出来ないし。

併し、今度の住居は勉強にはもつてこいの条件ですから、前の様な家事的雑事やうるささがなくて、どんなにかいいかわかりませんね。島谷さんの召集の件お話ししたかしら。十月始めから大阪のようです。加藤さんから知らせがありました。あの方は徴用で横須賀です。
では煙草のお礼までに。

謙一様

さようなら

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年二月三日の記・消印）

十二月廿三日午後、干柿と梅干を書留で発送しました。郵便局の話では年内に届くとの事です。こちらからはおくれる筈はないからと申しました。他に何か一諸（お）に入れ度いと思つたが、あいにく何もありません。干柿も箱のかけんで一貫匁（お）はいらなかつたので、60—70匁位だと思ひます。本当なら藁の上にならべておくのと粉をふいて来て甘くなる相ですが、大きい方の箱のすきまに藁をすこし詰めておきましたから、其の様になすつたらいいと存じます。判はあさつて出来ませんが、どうします？ すぐ送りますか。本の出方が早い様なら至急送つた方がよろしいでせうね。今日は又一寸具合わるく苦しいので、短い手紙ですみません。たいした事はありませんから御懸念なく。では小包み発送の通知までに。

幸子から謙一あて（一九四四年二月下旬の記）※

十二月二十日附お手紙落手致しました。

大分おいそがしい御様子ですね。空襲の件は度々信越地方の名前が出ますが、此の辺は未だ何の被害もありません。東京の方に警報の出る時はこちらも同様ですが、まだ一度も空襲警報に見舞はれる事なしで、何と云つても呑気なものです。あまり度々の来訪なので、此のごろは前の様な心配や不安は抱かなくなりました。世田ヶ谷方面の安全さを知つたせいもありませう。東京では警報の度に起きる様ですから、睡眠不足で皆困るらしいですね。内藤嬢も手紙でねむい〜と書いて来ました。旧市内の方は警報毎に戸、障子をあげ放つ相ですから、解除になつてもすぐはねられぬらしい

し、風邪引きも多い様ですね。被害は空から降るものばかりではありませんね。家でも今日は馬穴(ウマアナ)を水を張つて廊下の隅々におきました。先達は庭で梯子のけいこをして屋根に水をまきました。皆中々うまいものです。

ダイヤモンドの原稿は凄くわる口を申してすみませんでした。あれはあなたの原稿とは云へませんものね。二番せんじよりか、もつと落ちます。グローヴの原稿をお見せ下さる相で楽しみにまちませう。これは自信あるとのこと、期待致します。

独立戦争の骨組、みせて戴きましたが、あれ丈では私には内容をよみとれません。竹中さんの話では大分いい様ですから、これも又楽しみにしませう。プランティシオンが片つかない中、次々と来ると、何となくあはたらしい追はれる様ないら立しさを感ずりますが、プランティシオンさへしつかり消化し、自分のものに出たら後は楽だらう、苦あればらくありと思つて、せいぜいはげみます。

あなたはシーズン来たれりと、冬將軍にもう凱歌をあげてゐて、羨ましい事です。私は彼には毎年叩きふせられます。一昨年も昨年も、今年も。風邪と下痢、両者はまるでプランティシオン制度とアメリカ資本主義との如き関係で、両方からみ合ひつつ私に障害を与へあひます。高村光太郎やあなたは冬を歌ふ人たちですね。あなた方の身体の芯は鋼鉄製なのでせう。私も何時の日か、冬の厳しさをほめたたへたいものです。

夜更や未明の仕事のために炬燵を使つたら如何？ あそこに置いてありましたね。中に入れる足台も、あれはどうなすつたの？ お使ひになればいいのに。せめておふとんの中を暖めて置けば、短い時間ぐつすりとお安眠出来るでせう。いろいろも暖まる。

プランティシオンは案外早く出さうなんですね。

今日はアナトオル・フランス爺さんを訪ねました。彼氏に逢ふ時は身だしなみをして、香水位つけなくてはいけない様な気がします。矢張りフランス人ですね。今日の彼氏の話はシエナやフィレンツェの古い町の図書館の事、ランチエスコ派のお坊さんの話です。何と皮肉な人でせう、彼は。お上品な口ぶりで、信仰深さうに坊さんの話をバステル画の様に描いて見せてくれますが、よう／＼顔を見てみると、中々面白い事を時々云ふのです。お坊さんたちは皆、彼氏の友達で至極話があつて、散歩するらしいのですが、そして彼の口を借りると、お坊さんは思考する事、行動することはわるい事で、神の啓示をよみとるのは単純で無智である事だと云ひます。彼はルシフェルがとても好きの様です。チヨイ／＼ルシフェルの事を云ひますが、彼のルシフェルは理性とか研究の別名で、ルシフェルは色は黒くて、聖ミカエル

位美しい相です。そしてルシフェルは単純無智の修道僧をチヨイ／＼いぢめて、真実を語つて困らせ様と試みるが、フランチェスコ派の坊さんはありませんにも知る事、考へる事を嫌ふので、ルシフェルは失敗します。彼のルシフェルは決して卑屈でなくて勇敢です。話の中ではフィレンツェの画家スピネロの一番ルシフェルをよくあらはしてゐました。一寸お話しませうか（以下、スピネロがみた夢の中のルシフェルの語りが抜き書きされているが省略―編者注）。

それから陽気な画家のブオナミコ・フアルマツコの話、これは又愉快。人間悲劇はまだ半分しか書いてゐませんが、これも又、理性はサタンの形で時々出て来て活躍する。此の中では9の清浄の家が面白い。これでアナトオル爺さんが後日、神々はかわくへゆく道はある程度見とをせませす。何食はぬ様子で無知単純の修道僧フラ・ジョヴァンニに、来たるべき人類平等の世界、社会を語らせませす。ユートピアの世界でも天国の世界でもない、もつと近代的なある社会を暗示する。其で社会の不正をはつきり見て、怒つてゐる石切工に、「此の男は新奇な事をぬかす。俺の目の見える中は、俺のしあはせは終らぬが、俺はしあはせな気持で死ぬ。俺の目の中に正義の太陽のれいめいを信じ乍ら」と云はせる。石切工はジョヴァンニの言葉の中に、社会の正義、人類の進歩をよみとつたのです。

今までのところ、爺さんの話はすばらしく博学で上品で美しく皮肉ですが、サタンやルシフェルの表はす理性はまだ学者的であります。それでも、後日へゆくものを感じさせて、中々み力ある話ぶりであきません。暫く、ひるまの一時間は此の人を訪ねて、お話をきかうと思つて居ります。あなたの抗議について。

私があなを異性ととの交際の点で制縛し拘束する、自由にさせてほしいとのお言葉、ルシフェルではありませんが、不当に人を傷つけるものではありませんね。たとひ相手が劣弱者であつても。

此の件では此の前話あつて以来、既に了解済だと私は思つて居りました。私の方では（主観的、一方的であるかも知れませんが）其の域を脱したと思つてゐました。お二人の自由な友情関係の發展を、何も拘束し阻害した覚えはさらさらありません。それなのにあなたは、未だに私が其の域にゐるものと考へておみでつたのですね。私の、あなた方に抱く関心の内容を、あなたの方で勝手に貶しめて見ておみでつたのですね。黒人の貶黜を云々するあなたが、とに角、低い状態から抜けて来てゐたと思つてゐる（事実さう思ふ）私を―あなたの望む通りに正当にあなた方を理解し、私も又其の中に加つてゐたと思つてゐた私を、又、元の穴ぐらへ、け落すおつもりなのでせうか。私を低め、いやしめて、あなたの方の外へ追ひやる気持を抱いてゐられたのでせうか。仲まだと思つてゐる者を、冷めたい、いやしめの言葉でつ

き放してゐられたのですね。

併し、事実、公平に見て、今も尚私が、あなたの友情関係の存続や、其の発展を拘束し阻害してゐるのですたら、私はまるでアメリカ史に於けるプランテーション制度の如き存在であるのです。すぐれた仕事をなしとげる自信あるあなたがあり、そこにいささかのヨーシヤあつてもいけません。

さて、私の側から申しますと、私の考への中には、その様なものは今は全くない様に思はれ、あなたの言葉は不当に見えます。私は反省過少のためか、今度の件についても、誠心、あなたの側に立ち、あなたの事情を了解してゐたと思つてゐます。あなたの苦痛、あなたの悲しみをなくさせたいと願つたのです。あなたの無意識の非難の言葉中に眞実も認めたのです。前にも書いた様に、主観的にはあなたをも早、拘束したり不まんを述べる心持はさら／＼なかつたとは云へ、あなたが其の様に感じるところに、私の拘束、私のあなたへの制縛を見た様にも思はれました。それで私は、あなたによりよき成長や発展のためには、障害はふり捨てた方がいゝ事を卒直に申しあげたつもりです。でも、あなたは未だにそれを理解せず、嫌味と解釈して、腹を立てておゐるのです。

私はあなたから弁解やら釈明を求めてはるませんでした。併し、私の云ひ方の中に「私の事は心配せぬよう」と云ふ意味を書いたのが、いけなかつたのかも知れません。それは私の云ふべき事ではなかつたでせう。其の事のために腹を立てておゐるなら、云ひすぎた事はおわび致します。本当に私はあなたの男でも女でも誰とでもの友情関係に於て、あなたを拘束し制縛するつもりはもうとうありません。どうぞ今度こそ信用していただきたいものです。これ以上、私は云ふ言葉がありません。私の事になどこだわるのは、あなたの方でどうかしてゐます。本当にこだはらず、自由にあなたの人間関係を発展させて下さい。

「失つた」と嘆いてゐた、と思つたから慰めたいと思つた事が、こんな平手うちを与へられるとは、ゆめにも思ひませんでした。まちがつて同情されたふゆ快程、嫌なものはありませんから、当然だつたのでせう。又あなたの友人関係に、知りもせぬ私がとやかく感想を述べる事もいけなかつた事で、森井さんの事でも村田さんの事でもわる口を云つて、本当にわるかつたですわ。今後はさう云ふ事をしないつもりでゐますから、おゆるし下さい。誠意で云つた事が、こんなにもひどい矢になつてつきささるとは、悲しい事ですわ、矢張り私の無理解やら認識の足りない事に起因したのですね。

白田嬢の事ではいやな思ひをさせて、くりかへしおわび致します。あの人の事では悪意などまるで持つてゐないのに、反対の感じをあなたに与へてゐた事がわかりました。

※この手紙文には目付けが記されておらず、また封筒も失われているため、いつの時点のものなのか確定できない。ただその内容などから、直前に掲載した一二月二三日記の手紙の後、後掲する同二四日記の手紙の前に認められた可能性が高いと考えられるので、便宜的にここに配置・掲載した。

謙一から幸子あて（一九四四年二月二三〜二四日の記）

十二月二十三日（土）晴

昨日は十九日付、今日は二十一日付お手紙拝受。

身体の方はもう恢復しましたか。信州もずい分さむいのでせうから、風邪に注意して下さいよ。肺炎になつても葉がないでせうからね。

ここ数日のあなたのお手紙は、身体がよくなくて気持が落ちつかなかつたせい^②か、余り僕にはいいお手紙でなかつた。十九日付なんかにもまだこだはりがあつて、誤解がぬけ切れてゐないので、こちらで手紙を書く気になれなかつたのです。

あなたがあんな風に一々誇張してとるとしたら、僕は自分の感情を書けなくなる。あなたの感情を思ひやつてばかりりたら、僕の感情は書けなくなり僕の生活は書けなくなる、うそを書くより外なくなる。あなたが信州にゐて友達があるのに、僕がこちらで友達を作るのが、あなたを疎外するのでないことは、僕がこちらで塩飯ばかりしか食べられずにゐて、あなたが信州であたり前のものを食べるのが、僕を疎外してゐるのでない、と同様ぢやないかしら。そして僕は友として交はるからには、なまはんかの交はりに満足出来ない。或る程度相手の生活、殊に精神生活へ参加し、相手をもこちらへ参加させる、さう云ふ友情がたとひどんなに深い情緒を伴ふにしても、恋愛であるとは決して云へない。恋愛は排他的で一人の相手としか出来ない。僕は恋愛及び愛情について、自信のある理論、あなたとの生活を通じて得て来た理論をもつてゐる。ロマン・ローランは愛情の理論をもつてゐるのでなく、愛情の自然を非愛情・無愛情・旧道

徳に対して主張してゐるにすぎない。愛情の自然の中の理法を強調してゐるにすぎないのであつて、その愛情の自然の中の理法を論理化し、之によつて愛情の理論をうち立ててゐるのでない。だからアンネットが何と云ひ、ロマン・ローランが何と云はうと、僕には僕の論理があつて、あなたとの愛情即ち恋愛と、他の人々との愛情すなはち友情とを夫々に正しく深く發展させて行きたいし、さう出来るのです。それだのにあなたは、あなたの「感」か何かで、僕の手紙のこれこれの言葉、これこれの行動の中にあなたの理解するやうな「恋愛」を読みとつて、いつの間にかそれを既定の事実のやうに固定させ、それについて僕を批難し僕の立場をなくさせるのぢやないかしら。

僕は之まであなた以外の誰と恋愛しましたか。豊子さんとの恋愛は、僕の歴史にとつて、より低次の段階の恋愛だったのであり、それは結婚にまで発達する必然性をもたなかつた。その低次の恋愛の克服から、より高次の恋愛としてあなたとのリーベが始まつた。所が一旦はじまると、その条件の困難は、僕等の恋愛を少しも立ちどまらせてくれなかつた。だから、豊子さんとのそれより高次と云ふだけでなく、世界中のいかなる恋愛にも負けない高次へと達した。二人はまだ人間的に多くの欠陥をもつてゐるので、理想的人間の理想的恋愛ではないが、現実的人間として最高のリーベだと思つてゐる。そのリーベから得た僕の間愛情の論理は、最高の愛情論理だと思つてゐる。だからこそ僕はその論理を人に説くのです。しかもその論理を不断に掘り下げ豊富化し發展させて行きつつ。

そして僕達の恋愛をより高次に發展させるために、プランティションを読んでもらひ、毎日相当の時間をさいて手紙を書く。この手紙は僕にとつて一つの勉強なのです。だからこそ積極的に、この時間を楽しみにして書くのです。そしてなるたけすべてを巨細にわたつて、だから一つ一つの感情の動きをも逐一書くのです。楽しかつた時は楽しく、寂しい時は寂しいと。そして僕も人間であつて、いろんな現実と接触するから、その楽しさや寂しさが、あなたとの関係からのみは出ないのも当然でせう。それを一々とりあげては誇張して、現実にもりもしないことをいつの間にかつくりあげ、それで僕に嫌味のやうな手紙を書かれては、全く僕としては手紙を書く気もなくなるぢやありませんか。勉強の一つ、前進の一つとして、原稿がどんなにあつても手紙を書く時間をとつておきたいと思つてゐるのに、その手紙が我々の思想なり関係なりを現実に進ませるのでなくて、誤解の釈明と云ふ全く精力の浪費でしかないことになれば、書く気がなくなりまゝです。かう云ふ誤解の釈明は僕には全く苦手です。ことにあなたに対するとさうです。あなたは僕がああ云へばこう云ひ、こう云へばああ云ひ式に反駁するし、一旦意地悪い眼で見出すと、中々フランクに僕の云ふことを受け入れてくれない。僕が釈明の手紙を書けば、その釈明ぶりが気に入らなかつたり、どつかの語句をつかまへて、いはば絡ん

で来る。で手紙を書かなければ書かないで、一層誤解を深める。そしてそのいやな釈明や誤解のとり返しと云ふ、やり甲斐のないことのために仕事をやる気も毀損され、何日も不快でゐなければならぬし、他人と会ふこともはばかられる。

僕はあなたはもつと自由な解放された人間関係の理解者だと思つてゐたけれど、案外保守的ですね。かう云ふとあなたは僕へ同じ言葉でシッペイ返しするかもしれない。僕だつてやきもちをやくぢやないかと。だけど僕はあなたがつまらない男と軽薄に交はるのを嫌がるだけで、立派な人との交際は邪魔をした覚えがない。あなたは僕の女の友達はつまらん人ばかりだと云ふが。だけでもうよしませう。

之からは僕もあなたの感情を尊重して、なるだけ自分の感情を抑制するやうにしますが、あなたもどうか僕を信頼して下さい。僕の愛情の理論の正しさ、従つて行動の正しさを信じてゐて下さい。どんなものを読んでも、僕の愛情の理論以上の愛情の理論はないと云つていい（基本的命題では）のですから、ロマン・ローランやその他の人の隻言片句で僕を判断したりしないで下さい。それよりお互ひに信頼しあつて、もつと創造的な、もつと前進的な所へ精力を集中させて行きませう。此の問題については、之が最後であるやうにと念じます。

さて今日のお手紙のアンネットの批評は正しいと思ひます。アンネットは十九世紀末のインテリの要素を当然くつつけてゐます。それは個人主義、ニイチエ式の生命主義、行動主義、それから「女」的要素など。それらはアンネット自身に於ては充分には批判され克服されず、神秘的な「母性」観念の中へ昇天して了ふ。むろんアンネットは、それらの十九世紀末の要素に蝕ばまれて了つてゐるのでない。アンネットの資質はアンネットのそれらを、根本的には健康なものへ色あげしてゐるし、またアンネットは真実、普遍への追求に於て常にせい一ぱい誠実であり、従つて「現実」と妥協せず身を以て斗ふ。世の中の旧道徳や偏見や誤解や形式的なおきてに負けず、真実のために斗ふ。だがその「真実」は、歴史的なものの現実的なものから論理的に把握したものでなく、「魅せられた魂」を以て感じとつたものだ。だからそれは確固として必然的に歴史の本体へ結合して行くのではなく、本能的に、触唇によつてさぐりあてて行くやり方ですね。だがロマン・ローランは、アンネットのそれらを充分に批判克服してゐないにしても、マルクやアーシヤやジョルジュを通じてアンネットのそれらの要素を否定してゐるところあるのでせう。マルクをあなたはいつか、「いやな子」だと云ふ風に云つたが、その「いや」さは実は時代とアンネットの個人主義によつてつくられたもので、マルクが自己の

中のその「いやな」ものを克服するために、どんなに苦しんだことか。だがマルクはアーシャを通じてそれを苦しみ抜いて克服した。アーシャも立派ですね。アンネットはカピタルを読んだかしら。アーシャはカピタルを立ち読みして読み通した。あなたが、アンネットの中の行動主義衝動主義を批判したことは正しいし、マルクやアーシャの苦しみを読みとつたことも正しい。

僕はこの間中から、あなたの森井さんについて書いたものや、僕の森井さんとの会話、白田さんの行動その他を考へて、人間の性格の二つの型について結論を得ようとつとめて来てゐます。之までは人間の生き方について、現実とたたかふ型と妥協する型、個別的自我を普遍的自我へ統合しようとする者(原理を求める者)と個別的自我にとちこもる者、と云ふ風な分類をやつて来ましたが、同じたたかふと云つても、たたかふ方法について性格上の差がどうも甚だ顕著のやうなのです。人の性格と聯関する精神の運動様式に於て、外発的(エクステンシヴ Extensive)と内包的(インテンシヴ Intensive)との差が目立つてゐるやうです。かう云ふ性格のわけ方は陳腐なくらいで、所謂陽性と陰性との対立、躁鬱性と精神乖離性との対置、等々。外向型の人間は行動的で能動的で、自己表現的で社交的で、現実に対して好戦的です。内向型は論理的で受動的で、自己閉鎖的で個人的で、現実に対して余り好戦的でない^①と云ふ外形をとる。外向型はまた、自己分裂的で我がままで、誇張的でお天気やでもあるが、内向的は因遁^②で固執的で、観念的^③自我が固くて、時に偽善的でもある。

あなたは外向型のやうだ。外向型の人間の心すべきは、その行動性をいつでも理論と結びつけること、そのことによつて自己分裂や誇張や軽率さを克服し得る。内向的の人間は、自己の閉鎖性を解くこと、自我を観念的に固定させないこと、論理に対してもつと外発的に前進的にすること(でないとかう云ふ人の論理はただ防禦的なものになる)。僕はどうも外向型の悪い所と内向型の悪いところとを兼ねそなへてゐるらしい。白田君は外向型で、論理的徹底が不充分、即ちあまい。森井さんは内向的である。

では、外向的でも内向的でも論理的努力、意識的努力、普遍への努力、現実とたたかふことによつて、それ自体の諸欠陥を克服出来る。ただその際、外向型と内向型とが相互反撥をする恐れがあるから、その反撥をよく検討しないといけない、理由のあるものかないものかを。自分があんなやりかたをしないからと云つて、自分と別様のあり方を偏狭に否定するのはよくない。問題はさう云ふ傾向とか進み方のテンポ(テンポは内向型がおそい)とかにあるのでなく、現実とたたかふか妥協するか、人生に対して誠実であるか否か、普遍的自我への統合を目ざしてゐるか、之等にある。さ

う云ふ意味では、あなたも森井さんも臼田君も、そして僕も、夫々のやりかたとテンポとに於てであれ、同じ方向をとつてゐるのでなからうか。

僕は森井さんが相当ひどい腹膜炎（腹膜に水がたまつてふくれ上つて、身体中油がういて、それが縮少すると今度はおなか鉄板でもは入つたやうに固くなり、その鉄板がだん／＼と小さくなつてとう／＼とれるまでに二年かそこらかかり、結局前後五年寐たと云ふ大病）を完全になほしたと云ふことで、僕なんかより大分偉いと思つてゐます。僕があなたとのリーベに於て現実に対して勝つたやうに、彼女も物凄い病気に勝つたのですからね。僕の病気は彼女のに比べるゝと問題になりません。結局僕の腹膜なんかは、一日十時間も十二時間も本を読んだりして、一向病気についてまじめに考へなかつたために長びいたもので、痛みとか苦しみとかはなく、ただ寐てゐることの心理的ならさだけだった。彼女はそんな病気で、しかも結婚生活がうまく行かず、ずい分苦しんだことせう。僕も余り彼女をせつついて話させて、苦しませないやうにしようと思ひ始めました。彼女の考へなり言葉なりはちつとも厳密でないし、誤解されやすい後れたもののかげをいたる所にとどめてゐて、話してゐると僕が一々異議を申し立てたくなるけれど。結局僕は、彼女が「あなたの前（まへ）に自分をお見せするのを嫌がつてではないと、それだけは信じて下さいまし」と云ふのを信じ、彼女が言表出来るやうになるのを待つて、それまではその問題とはなれて、僕流の材料で僕の考へなり言葉なりをうんと注ぎかけて行くでせう。

そして僕なんかも、人間的資質の点ではあなたにも森井さんにも臼田さんにも劣つてゐるのですから、もつと／＼交はり（まじり）を誠実にして、あはてずに与へるべきを与へ吸収すべきを吸収しませう。併し結局僕はずい分他人を吸収して来てゐるんですよ。中島君、あなた、羽仁氏、北条君、その他の多くの人々を吸収して来てゐます。それはあなたもよく知つてゐるでせう。かう云ふ吸収は、自分と共通の性質のものを吸収するより、異質のもの（もの）のいい所を吸収する方が、人間が豊富化し、僕の理論も豊富化するわけですからね。

十二月二十四日（日）晴

今日はお手紙二通（切手のは入つたのと、二十二日夜のと）受けとりました。小包届いたさうで安心しました。どうしたんでせうね。

柿を御送り下さるとは何よりです。僕も今度はたばこだけ送りませう。あなたへのプレゼントは、こはれたりするとい

やですからね。一月中には行きたいと思ふが、汽車がどうなるかわかりませんね。行けさうだったら、その時持つて行きませう。

島谷君の召集は知らなかった。大分前ですな。

まだ原稿があるので、今日は之だけで投函します。毎夜サイレンがなるので、ひるま眠いことです。

ダイヤモンドの原稿料をあげます。二、三日中にお小遣を（ポーナスからの）送ります。買ふものがなければしまつておきなさい。考へてみたら今日明日は書留が出せないから、このまま出しますよ。

幸子から謙一あて（一九四四年二月二十四日の記）

十二月二十四日

かう書いて見て驚きます。もう幾日も残つてゐませんね。何とあはたたく過ぎ去つた一年だつたでせう。又、一方、大変長い一年であつたとも思はれます。

一寸思い出して見ると、一月から十二月まで、下痢に悩まされて健康の点ですつかり自信を失つた事、仕事から離れて一時はほつとして安まつた思ひを得たが、仕事から離れた事は、知らず／＼自信を失はせてしまつてゐたこと、其の自信と云ふのも本当の自信でなかつたらしいこと知り、更に自分の生活力、生き方に自信を失ふところに至りました。以上の点では今年は大体に於て、マイナスであつた。併しプランテーションの勉強で、すこし今までより考へ方の点、進歩を得たと云ふプラスもありました。マイナスの方は私に原因があり、プラスの方はあなたから得たものです。

こちらの生活も中々落ちつけず、一時的腰かけの生活の様に思はれ、早くここから抜け出したいとばかり、あせつてゐましたが、これはようよう此のごろになつて克服出来ました。或は慣れたのかも知れません。此のごろでは身体も自信ないので、この生活が楽で、結局呑気で一番良い様に思はれて居ります。このまゝずつと毎日、自分の好きな様にして暮せるのが、此の戦時下では甚だわるい様ですが、のぞましいと思ふのです。オブローモフでせうか。

今日はめづらしくよいお天気で明るく暖い。昨夜は組合の防空係の人が来て、警報が出たら空襲管制にする様にと云つて来ました。まもなく警報が出ました。二階は毛布やいろんなもので遮光準備は完了させてゐますから、何時もの様に明るくして、アナトオル・フランスをよみました。始めは楽な気持で読める位に思つてゐましたが、人間悲劇は中々い

昨日は分室の忘年会をやりました。昼食は本室の委員会などによくつかふ弁当屋からの弁当を一人当り二本（一本二円五十銭）、之は一通り魚や鯨肉や野菜や洋カン（若干あまい）等がついて、飯も割合ひあり、女子は一本あまらせて持つて帰り、男子の中堀江君は自分の飯をもつて来てゐたので、その分を西井、竹中両君が食べた外は、みんな帯革をゆるめたり、さすがの僕もおしまひは中々は入らずお茶づけにしたくらいでした。之は弁当だけでなく、ケンチン汁をみんな三杯乃至四杯づつ食べたせいでもある。ケンチン汁は例の農家で、さといも、にんじん、大根、ねぎ、かぶら、白菜等の特配を受けて、みんな醬油を持ち寄り、堀江君が油をもつて来て、坂巻、古田両女性が作ったもの。僕と竹中、堀江両君とは朝、本室まで弁当をとりに行き、残りの男連中は特配分以外の野菜（かぶらとねぎと大根）を買つて来るなどして、午後一時にすつかりそろつて、応接室の絨氈じゅうたんの上で大テーブルをかこんだものです。

「今時これだけたつぷり食へる忘年会なんて珍らしいね。ゆつくりくつろげてさ」「さうですね。尤も慾を云へば、之で一はいのめるとね」「いや食ふ方がいいよ。しかし竹中君が来てから、ぼくも気が楽になつた。そでないとかやっぱりさすがに余り大ぐらいで気ひけたからね」「併し西井君は上半身でガツガツ食ふから、やつぱり一番大食ひに見えるぜ。ちよつと壯観だからな。竹中君はオチョボ口で、無限に腹へ送ると云ふ型だね。とにかく文句なしに双壁だ」「さうだよ、僕はおそいでね」。竹中君が二本目の弁当にとりかかつた時は、西井君は三本ともケロリと平げてゐました。僕はおつと食べられる筈で、それに弁当取りに本室まで運動して来たので腹もへつてゐる筈なのに、西井君が三本平げてしまつた後でも、二本目の飯をもてあまし気味でした。このあとで松村君が持つて来た一貫目七円のサツマ芋を二貫目ふかしたのが出たが、全く久しぶりの芋でうんとたべたかつたのに、辛うじて一本分かさこらより食べられず、僕も大分胃袋が縮小したやうで、時節柄喜ぶべきかも知れません。芋は西井、竹中両君の独壇場。他の連中は一本か二本しか食べられないのに、この二人は五、六本づつ、それも可成り大きいのをムシヤムシヤ平げました。二時間余りで食事を終る。食べたあとは、竹中君が更に残つた芋を二つ三つポケットに入れて、弁当のからを芸無しの谷川君と二人でまた本室へ持つて行き、堀江、松村、八木、僕の四人はトランプのノートラ。食べることを和歌を作ること以外に能のない西井君はそつくり反つて観戦、二人の女性も観戦、結局僕と松村君の組が三百点勝つて四時半におしまひ。此の頃、昼食時間に将棋よりノートラがもつぱらになりました。将棋は僕がうんと強くて相手にならず、甚は八木君一人強くて之も相手にならず、結局僕がみんなにノートラを教へたのです。始めから知つてゐたのは僕と堀江君との二人で、あと八木、松村、竹中の三君は覚えて。併し勝負ごとは慶応ボーイの方が上達早く、竹中君はあとの二人よりず

つとうまい。僕のみなかつた時、堀江・竹中組と八木・松村組との慶帝戦をやつて、三千点对五百点ぐらいで大敗しましたが、僕がゐると大てい勝つ。ここでは将棋とノートラとピアノとシヤレとは僕の独ダン場です。芸ナシは谷川、西井両君。

日曜日の今日は八木君を訪問する約束をしたが、夕方四時に銭湯へ行つたので夕食がおそくなり、行つたのはおぼろ月の光も頼りない七時半頃。銭湯はまさに戦斗(闘)です。本当に洗ふどころか、却つて気持が悪くなるくらい。兵隊もずい分は入りに来てゐます。女湯はもつとひどいさうです。箱根のお湯のよさが今更ら思ひ出され、一晚四十円も悪くないなと思ひます。

八木君の家は世田ヶ谷中原で、ここから三つ目の駅。始めての家を夜たづねたのも、月の光をあてにしたのだった、その月の光は曇つて一向役に立たず、しばらく探してやつと見つける。

「今晚は」「だれ」「ぼく。きくち」「ああ、おそかつたね。おあがりよ」「ふるへ行つてめしがおそくなつたんだよ。中々いい家だね」「もう寐ようかと思つてゐた所だよ。併し今夜はあたたかいね」「それにクリスマスイーヴだから、空襲も来んだらう」「ああさうか、なるほど。それちや来んね。この辺は組長が一夕起しに来て家中あけひろげるから、夜なかに来られるとかなわん。風邪ひくし、睡眠不足になるしね。君なんかいいよ。いうく寐てられるからな」「さうだね、誰も起しに来んしね。尤も僕等が一夕警戒警報の度に一切の雨戸をあげるとなると大変だよ。あけてしまふまでに大ていの空襲は終つちやふからね。とにかく一色家と云ふのは雨戸の多い家だよ。この家は幾間」「三間だよ。せまくてね」「だけど八畳があるといひね。それに君んちは子供のゐるわりに実にきれいだね。子供が居たと云ふ証拠がまるでないぢやないか」「いや、僕の所の子供は割合おとなしくてね、僕の机の上なんか絶対にさわらないんだよ。しかし菊池さん、あなたは奥さんを疎開させたら原稿書けないと云つてゐたが、僕もどうもいかんね」「君は殊にそのままの家にあるからなあ。その点僕はまだ下宿みたいで、生活形態をすっかりかへたからね。ああ、之が君の……」「長男だよ。その写真は三つの時だ。去年の春だよ」「ふうん。可愛い子だね。実に可愛いぢやないか、君には余り似てゐないのかな」「いや僕に似てゐると云ふんだがね」「さうか、しかし可愛いね」。

「可愛かつたんだがね、実はうまれもつかんやうにしてしまつたんだよ」「何だつて」「やけどさせちやつてね。頭から顔から、左半分まるでおぼけのやうだったよ」「どうしたんだ。一体」「いや、うちのさいくんがね、天ぷら作つてゐんだよ。その油をね、ひつくりかへして頭から顔からあびて了つたんだよ」「えエッーそいつはひどいな。そいつは大

変だ。それでどうした」「眼までやられてね、実さいあの時は――役所なんか二週間休んぢやつたよ、行く気がしなくなつてね」「そりやさうだらうな。でもよく命が助かつたね」「さうだね。医者もこれや大変だと云つてね。殊に顔だらう。長男の顔をこんなことさして了つて、實際誰にあやまつていいかわからなんだよ。でも医者も一生ケン命になつてね、どうにか顔はさう目立たない程度になほつたんだ。眼も、眼球に傷がついたらしいが、とにかく見えるやうになつてね。ところがね、医者は顔の方に一生ケン命になつて、頭の方を軽視したらしいんだね。丁度夏でね、頭が化膿して左半分ペロッと禿げて了つたんだ」「そりやひどいな。可哀さうに、何とかならんのかね。毛ははえないものかね」「まだ頭の方はいいんだよ。もみあげの辺がね、赤い肉がもりあがつて、片^はみ^{たい}になつてね」「ふうん」「だけど手はよくなほつたね。はじめなんか左手がまつくろになつてね、指がくつついてしまふかと心配したけど、殆どあとがわからんほどになほつたよ」「さうか。それにしても大変だつたらうね」。暫くその当座の彼と彼のさいくんととの暗澹たる気持を思つて言葉が出ない。「併しよくあるんだらうね」。僕は青山四丁目へ出る道のセト物屋の主人の顔を思ひ出した。「よくあるだらうがね。普通は大い煮湯をひつくり返すものだが、天ぶらの油だつたからね」「可哀さうだつたね。それにしても何とかならんものかなあ」「何とかならんかと思ふがね」「さうすると君の所は、その長男と下が二人か」「いや一番上が女で、之が六つなんだ。女男男だ」「中々いい子持ちだね」「女の子は育てやすいね。おとなしいからね」。それから彼は大豆のいつたのを出して、ミルク入り砂糖入りの紅茶をこち^まさうしてくれ。彼には一昔前の知識人の面影がある。俳句をつくり、亜浪と云ふ先生(シヤクナゲ派)の「真哉」と書いた書と、短ザク二つを床の間にかざり、三つの本棚はきちんとしてゐて、俳句や和歌の全集物らしいのが整然とならび、絵馬がかかつてゐる。「僕の俳号は絵馬で云ふからね」。だが此の間の結婚雑談の中で、最も保守的な意見を積極的に云つたのが此の八木君であり、彼の「うちのさいくん」と云ふ言葉の調子の中には、さう云ふ古いものが基調をなしてゐるのです。人物は好いし、見識もあり、我々と共鳴するところも少くないにも拘らず、何と狭くて、自我が固まつてゐて、非解放的かと思ふ。家庭生活も精神生活も彼の容姿までが自己閉鎖的で、此の荒々しい世界史的時代のどんなすみにおさまつて、生き過ぎ得るのだらうかと思ふ。ここでは漱石や芥川や明治大正の文人が、ふさはしく生きてゐる。

彼は文学者であり、文学専攻者であり、俳人としても、傷夷^あ軍人や一般の俳句ファンから短冊を送つて、書いてくれと云つて来る程で、そのつき合ひと云ひ年頃(三十五)と云ひ、まづ日本の知識人の典型なんだらうが、そして他の連中に比べると之でもい分話せる人物なんだが、話してゐて全くはばのせまいものを感じた。竹中君のサロンのよりはも

う少しこく、があり、専門家らしく自信もあるが、結局文人にすぎない。ところが此の文人に云はせると、西井君なんかあまくて話にならないのです。それでも文学論では、彼は僕の意見によく賛成します。だから、まづ、いい聴き手の方で、彼も僕と話したがりませう。だから十時になったので僕が腰をあげても、「終電はもつとずつと遅いんだらう。まあいいぢやないか」としきりにとめたが、また今夜も夜半に起こされるとしたら、彼をさういつまでも眠らせないのは罪だと思つて帰りました。

十二月二十五日(月)曇

久しぶりに曇り。今朝も三時頃サイレンがなつたさうですが、僕は全然知らなかつた。

今日、塩数の子と煮干とをほんのちよつぱり配給受けたので、煮干をつかつて煮物を作りました。さとも、かぶら、おさつを夫々少しづつに、凍豆腐を残つてゐたのを二個とで、昼と晩のおかずになりました。得意のおかずですが、ずい分久しぶりです。

所が、僕がピアノをひいてゐる時、丁度おひる前にいねちゃんのみつちゃんとかやつて来ました。みつちゃんは昨日、いねちゃんここでとまったのさうです。二人とも弁当をもつて来てゐたので、丁度煮た煮物と、大かぶらのふかしたのを御馳走(?)しました。コンロを二つ起して部屋は暖かく、十二、三度(撰氏)です。煮物にはサッカリンもは入つてゐたので好評で、すつかり平げて了ひました。みつちゃんとは一月下旬頃に信州へ行くことにしました。僕は鎌倉書房に、アメリカ文学全集が七十五円で出てゐたのを買ひたいと思ひ乍ら、つい買へずに来たので、お金のあつち買つとかうと思ひ立つて、廿八日に鎌倉行きをきめました。みつちゃんとかへも寄ります。彼女は、大かぶらのふかしたのが気に入つたらしいので、今日残つてゐた二つをおみやげにあげましたが、廿八日にはまた買へるでせうから、持つて行つてあげる約束をしました。みつちゃん、いねちゃんは正月にはここへ遊びに来ませう。

二人は二時すぎに帰りました。僕は頭を洗はうかと思つて、湯をわかし始めましたが、今井先生の御宅へ訪問しなければならぬので、このまま出かけます。帰る頃に湯も湧いてゐるでせう。ではその序に此の手紙を出します。甚だ面白くない手紙ですが、昨今疎不足のせいか頭も重く、原稿の書きなほしに時間もとられて、いい手紙も書けません。悪しからず。桃ちゃんへも書きたいのに書けずにゐます。よろしく御伝へ下さい。

謙一から幸子あて（一九四四年二月二六日の記）

十二月二十六日（火）晴

お手紙三通拝受。有難う。小包も御送り下さったとのこと、鶴首して待ちませう。

アナトール・フランスの重要さは、典型的知識人、気どりやで本の虫で、世紀末趣味の所有者で、エピキュールの園の彷徨者、政治や行動と縁のない詩人、耽美者、本来強靱なリアリズムを持つてゐると思へないこのスタイリスト、芥川の師匠、が、さまざまな動揺を通じて、「ペンギン島」や「神々は渴く」の著者となり、七十を越えて民衆デモの参加者、コムニストにまでなつたと云ふことにあるのぢやないかしら。その過程を彼の作品の中に追究して行くことは面白いことにちがひない。彼が芥川なんかとちがふ点（根本的にちがふが）は、人生理解の深さ、ヒューマニズムにあると思ふ。

今、僕も小此木君から昔の世界文学全集のフランス小説集をかりて来てゐます。タイス、克蘭クビュー、フィリップのビュビュ・ド・モンパルナッス、バルビュスの地獄、等があります。フィリップも惜しい人です。いつかも云つたやうに、フランス、バルビュス、ローラン、ジイド等の行きかたは、十九世紀末から二十世紀へかけての知識人の転回の典型をなしており、それが何れも作品の中で分析出来るから面白いと思ひます。ジイド以外の三人はすべてしつかりと行く所へ行つた。早いかおそいか、動揺的か曲折的か頑固か直線的かの別はあつても。性格のまるでちがふ、文学もまるでちがふ、この三人の行きかたは、何とも知れず興味をひかれます。この三人の發展経路を考へることで、我々の周囲の知識人のありかたとその發展とを理解する鍵が得られます。この三人と対比して、ジイド、ブルウスト、パレス、ルメートル等。さしあたり、ロマン・ローランとフランスとを読んでゐるあなたは、それらについて充分考へながら読んで行くといひと思ひます。

僕は昨夕方今井先生を訪ねて、旅行中のため無駄に帰り、夜、頭を洗つて寝たのですが、風邪が悪くなつたらしく、今朝も起きるのがつらく、お天気はすてきによいのに、頭が重く鈍痛して身体がだるくて元気なし。今日は夕食を早くして早寝ませう。アスピリンをのんで。

此の手紙はもつと書きたいが、もう少し原稿の方をやるので、甚だ愛想なしですが、これくらいにしておきます。熱は

大してなささうだが、寒気がする。うんと寐ればなほるでせう。この所、原稿が面白くて寐不足がたまつたせいもある。タバコ荷造りしようと思つて箱に詰めましたが、之は明日にします。あなたへのお小遣も明日。この手紙は、もうぢき帰る古田さんか坂巻さんに投函してもらひます。

独立戦争はまだ書き直して、今日も朝から二十枚以上書きました。いくら書いても書き直しだから量はふえない。むしろアナトール・フランスがやつたやうに、文章を出来るだけ簡潔にしてゐます。タバコと一緒に、フランスのジャンダークを送りませう。之は島谷君から借りてゐるのですが、彼より僕がもつてゐる方が役に立ちさうです。

ハンコはついでに送つて下さい。柿が来たら、いねちゃんにわけませう。無事に来ればいいが。大分郵便物フクソウして、八木君なんか一ヶ月もつかないで、調べを要求してゐるとか云つてゐます。汽車も何も大変なのでせう。では。

謙一から幸子あて（一九四四年二月二十七日の記）

十二月二十七日（火）快晴

昨夜は夕食後すぐふとんをして、夕食（雑炊）を作つた石炭コンロのかんくく起つてゐるのに水を一ぱいはつた鍋をかけ、湯気をしゆんくく立ち上らせて早寝したせい^②か、今朝はけろりと頭痛もとれ、脈も普通になり、風邪気は簡単に退散しました。さうなるとまた楽しみの原稿で、書いては書き直し、して午前中に十枚も書いたかしら。

此の頃毎朝プールに水がはつて、その水を子供達が割りに来ます。どうやら学校ですすめられたかどうかで中々上手に割つて、その水をプールの縁へ引き上げてなれます。今迄は入りたくてもは入れなかつたこの芝生の広い庭で、氷割りと云ふ堂々たる理由では入つて来た序でに、大ふざけを始めます。「これこれ、お前達はどこから来たのかね。ここぢやみんな一生けん命に仕事をしてゐるのだから、さわがしくしてその仕事を邪魔してはいかん。さうだらう。さあ帰りなさい、帰りなさい」「やあ怒られた」「怒られたぢやないか、余りさわぐからよ」「ギャくドヤく」と出て

行つてすつかり静かになつた。一色老人いつの間にかまたぞろ御殿場から出て来たのです。今日はいよく最後の疎開荷物をトラックにつみ終つて、一部屋（応接間の隣）をあけ渡してくれたのでせう。塩飯だけの昼食を終つて、みんな芝生で雑談してゐる間にも、原稿を書く。この書きかたは〆切に迫はれて猛烈に書く忙しい書き方でなく、一字一字をくそ丁寧に、一句一句を無駄をけつり、科学的論理的に配備し、よく云ふと芸術家が推稿^③を重ねるやうに書く書き方

です。

そこへサイレンがなりました。八木君がラジオをききに上つて来ました。「仕事?」「うん」「調査会の?」「さう。此の間のやつまた書き直してゐるんだ」「こりやきれいだな。何てきれいに書くんだらうね。全くきれいだなあ。これで何枚?」「今五〇枚だが、之も六〇枚になるかな。一番始めのがこれだよ。これが六十二枚だらう。次がこれ四十二枚。その次がこれ五五枚。今度は四度目で、これが決定版だ」「ふうん。金ちゃんなんか、こんな書いてやつても無駄ぢやないか」「これは自分で面白くて書いてるんだもの。中々面白いよ、独立戦争も。實際歴史つて奴は面白いな」「あなたの本、まだ出ないの」「いつになることか。併しまだ広告出てゐるから、とにかく出る気なんだらうね」「僕も外務省の仕事昨日出して来たよ。大分骨を折つて自分でもいい出来だと思つてるんだがね。金ちゃんに二、三日前にも外務省から仕事頼まれました云つたらね、『外務省は人使ひがあらいいね、期日がないんだつてね。全く人使ひがあらいいなんて云つてるんだよ。自分があれ程人使ひあらいいのにね』

久しぶりに空襲警報になりました。此の頃は二、三機ぐらいでは空襲警報が出ません。十三日に鎌倉へ行つた時、あれ以来ぢやないかしら。初めの頃の昂奮や好奇心やは、此の頃なくなりました。

始めは芝生で見えてゐました。高度は六千米ぐらいで、友軍機も同じ高さに飛んで、待ち受けたり追尾したりしました。友軍機は白点にしか見えない。空は底抜けに青く、上空は西風が強いらしくて、東から西に進む時はまるで停止してゐるやうに見えました。敵第一編隊が東から西へ、丁度中央線の上あたりを遅々と進み、吉祥寺あたりの上空に日本機が三機待機してゐるのを見たからかどうか、その辺で左に逸れましたが、その時友軍機が一機、白い煙を引いて落ちて行きました。この編隊は八王子辺から引きかへして東進しましたが、その時は追ひ風につて怖しく早かつた。友軍機が追尾したり、編隊を横切つたりしました。僕は途中から原稿の方が面白いので二階へ上り、時々、東部軍情報を下へ仰つぎしました。第三か第四編隊の時、丁度経堂の西北寄り上空で、この近処の高射砲もなつた程の近くで敵一機が白い煙をひいて編隊から遅れました。之のまわりに白い点のやうな友軍機が二、三機とんで、体当りのやうにすれすれに近づいては攻撃を加へてゐましたが、そのまま東南へ相当進んで、とう／＼^(たうとつ)キリモミになつて墜落し始めました。之は品川の海へ落ちたのださうです。友軍機が数機、白煙をひいて墜落するのを見ましたが、敵機の墜落は一機しか目撃出来なかつた。結局第七編隊までやつて来ました。中央線に沿つたあたりに数ヶ所黒煙が上りましたが、風がひどかつたら、目標からははづれてゐたのでせう。

空襲一時間余り。その間に原稿が五枚ぐらい進みました。

空襲さわぎのおかげで一色夫妻の帰るのがおそくなり、今日は石炭コンロが起せない（使つてかまはない方の石炭は、選り出すのに大変で手はよごれるし、中々ひまもかかる。使はないでほしいと云ふ方の石炭は、うんとあつて、之は手もよごれない。一色氏がゐない時は、その後者を専ら使ふのだが、ゐる時はそれが使へないので、寒い時は殊におくくうになる）ので、いねちゃん所へあづける本を持つて行つて、白田君の分の夕食をたべることにしました。白田君は数日前から九州へ行つて、小田中さんから彼女の留守中、彼女の分の夕食をとつておくから、炊事が面（めん）休（きゅう）な日には食べに来てくださいと電話があり、僕もそのつもりだったのです。丁度今日は野菜の配給にみかん四つだったので、それをポケットにして、六時頃に出かけました。いねちゃんも小田中さんの所で食べようとしてゐたので、丁度よろしいと三人でたべました。森井さんは胃が弱くて食事にひまどれるので、あとでやつて来ました。やつぱりおかずつきのごはんはいいなと思ひました。お汁と大根のお煮（に）附（つ）とおしんこだが、味は中々うまい。これでも今外で食べれば、一円近くとられるでせう。ごはんの量を考へれば、一円以上かもしれない。いねちゃんと小田中さんは、おさつ（さつ）のきんとんを作つてくれました。

森井さんの云ふことも、だん／＼わかるやうになりました。彼女は出たあとで、何とかして社会の役に立つて行きたいとそればかりを思つてゐた、自分が何の役にも立たないと考へたくはなかつた、さう云ふ時、昔の知り合ひで、消費組合に働いてゐる人と奇遇し、この人を援けることで自分も意義ある生活が出来るのだと思つたのださうです。さうして結婚した。所が病氣になり、また自分が彼の仕事へ協力しようとするのと彼の方でひらりとかはす。何度やつても「それが男の意地とでも云ふのでせうか。あたしがどんなに一生けん命について行かうとしても、そこまで行くと、いや実はそつちぢやなかつたんだ、こつちだつたんだと云ふのです」。結局彼女は、生活と云ふものをせまくしか考へられなかつた。さう云ふ考へかたを彼女は論理でやつて行く生きかたと思つてゐたのです。いねちゃん達が退くつするから、さうくわしくは話さなかつたが、具体的なことを話して行けば、彼女の考へのすぢ道も少しづつわかつて行きます。個別的生活と歴史的普遍的（こくたいてき）生活との統一についての機械論的理解は、まじめであらうとする多くの人々の生き方を困（こ）迷（めい）させ

たが、森井さんもさう云ふものと関聯してゐます。二度目のきんとんを食べかけたら、サイレンがなつて電気は消され、暫く闇の中で食べました。ずい分丁（ちやう）ね（ね）いに食べた

はなめる。中々あるらしい。途中で気がついて、窓のカーテンをとると、外はすてきなお月夜で、忽ち部屋は明るくなる。「かうしてたべればよかつたのに」。程なく僕はみこしをあげる。小田中さんがおさつとじやかと玉子一個とおみやげにくれたので、大いに感謝して帰る。途中で警報がときました。

今夜は割合ひあたたかです。帰つて郵便受けをさぐるとあなたの廿四日付手紙があつた。出る時は丁度あいてゐた裏口から出たのでうっかりしてゐたのです。

身体はもういいのですか。

今年の回想について、あなたが「自信を失つたこと」について書いてゐるが、自信を失ふと云ふことは外向型の人間には非堂(註)によくあるやうです。精神がエクステンシヴに働いて行く中に、うっかり対象を失ふなり、そのテンポまたは調子が現実の困難さや障害のため狂つたりすると、忽ちエクステンシヴがインテンシヴに転化する。この転化の感覚が「自信の喪失」となるのでないかしら。そしてその転化の後再びエクステンシヴな調子とテンポとをとり返すと、それが「自信」となつてあらはれる。僕もその傾向が強い。だから羽仁さんにも云はれたのだと思ふ。だが之は論理的精神を獲得すれば克服出来る。僕は克服したつもりでゐます。尤も時々昔のくせが出るけれど。

エクステンシヴな人間の自信とは、実は本当の自信でなく、テンポの感覚にすぎない。さう云ふ人にはテンポなり調子なりが可成り重要な役割をもつので、テンポ喪失が自信喪失感になるのもムリはない。本当の自信とは、自分の内容的な論理的な充実の感覚、凡ゆる時凡ゆる方法で、現実とのたたかひに充実してゐる感覚であるべきですね。テンポとか調子とかは、自分のものではあつても実は自己支配的なものでなく、何か論理的な資質的なものだから。

それから我々の生活力の自信と云ふものは元來根拠薄弱です。我々の生活力は我々本有のものとして云ふよりも、社会が我々を甘やかしてくれてゐる、さう云ふ事情から来てゐると云へます。我々が知識をもつてゐると云ふことは、我々が外の人より若干物を知つてゐると云ふことにすぎず、それは外の人より恵まれた境遇(註)(学校へ行き、ひまがあり、本が買へ)のせいで、我々の自身の力によつたものでない。同様に我々の月給や社会的地位も我々自身の力によつたものでない。別の社会なら我々だつて、これくらいの月給を当然とする働きは出来るが、今の社会では、我々の外の人達が不当に少くしか得てゐないために、我々のいはばのらくらしたやりかたで、これだけ月給とるのは多すぎる。要するに我々の生活力は、我々の本有のもの、我々自身がたたかひ、かち得たものでなく、与へられたもの恵まれたものでしかない。だから自信の根拠にはならないのです。

僕は世界観には自信をもつ。之は不断にたたかつてともかくかち得て来たものなのだから。あなたも物の見方、世界観に自信をもつていい。此の頃のいろんなものの批評はたしかに立派であり、どこへ出しても恥かしくない。だから僕はこちらで竹中君や白田君や森井さん、いねちゃんなどと話す時、「幸つちやんが今日の手紙でかう云つてゐる」と云つて引き合ひに出したり、「フィガロの結婚」の手紙なんかは見せてあげたりする。物の見方と云ふものは、与へられて出来るものでなく、自分の力で出来るものです。きつかけは与へられるにしても。

自信の喪失は我々外向型人間に必要な調節器かもしれない。エクステンシヴな人間の精神の動きは空想的になる、うつかりすると現実を遊離する。さう云ふ遊離や行きすぎへの調節器かもしれない、すつかりまけてしまひさへしなければ。自信の喪失によつて自己の本質を一步一步確かめ、一步一步論理的な方向へ、自己制御的な、自己支配的な方向へ成長し、やがてはエクステンシヴな精神のもつ「調子」そのものを利用して、普通ならむつかしい事までやりとげることも出来るやうになる。たたかひには「調子」が必要ですからね。「調子」はたたかひに於てはエネルギーの飛躍的達成を可能にする。だけど「調子」に支配されてはならない、「調子」を支配せねばならない。馬に勝手に引きまはされてはならない、馬を手綱と鞭とで禦さねばならない。そしたら徒歩で歩くより、はるかに早くはるかに遠くまで行ける。徒歩でとびこせない小川もとびこせる。徒歩なら届かない木の実にも届く。

健康についても、自分の健康の正体を正確に把握することが自信を得る第一の要提^⑤。健康の正体を知れば、それに応じた生活が出来、無理をしなくてすみ、自信を喪はなくてすむ。自信と云ふものは多くの場合、本来の現実的な実体的なものであるよりも、幻想的な誇大化された観念的なものだから。自分の才能や生活力や健康を実体的に把握し、それを論理的に発展させるべきこと。いつでも自分の真の力を認識すること、誇大も卑下もなしに。尤も真の力を静止的に認識するのではなく動態的に、発展するものとして、認識すること。従つて飛躍可能性も認識し、「調子」も認識すること。本有の力と他から与へられた力とを区別しつつ双方を計量すること。さうすれば外から与へられた力も本有の力に加乘され、本有の力を強める。

今日は克蘭クビューを読んで、つくつくアナトオル・フランスのよさを感じました。何度読んでも何とも知れず味は⑥の深い傑作ですね。渾然たる珠玉的作品に思へます。こんな風なものを書いてみたいと思ふ。ドレフュス事件と云ふモニュメンタルな事件をとらへて、⑦さう云ふ市井的な手近かさの中に、そのモニュメンタルな事件の本質、社会制度の本質の諸契機をちやんと形象化する。いきり立ちもしないで、ちやんと現実へのつきさすやうな憤怒を盛つてゐる。行

商人クランクビーユの生活なり生活感情なりへのフランスの洞察はバルザック的です。バルザックの「無神論者のミサ」
 的です。

桃ちやんとの勉強、中々よろしい。あなたのいい点は、いつでもいい協力的弟子をみつけ出すことです。外向的人間は、さう云ふ要素を本来もつが、あなたは特にその点にすぐれてゐる。どこへ行つてもきつとさう云ふよき協力的弟子を欠かないにちがひない、きつと誰かをそれに仕立て上げられるにちがひない。その点僕は外向的ならざる要素、気取りや見栄やカンシヤクもちや、さう云ふ要素のためいい弟子、話相手に常にありつけると云ふわけに行かない。大てい途中から逃がして了ふ。僕の方がエゴイストだからかもしれない。人間が小さいからかも知れない。

では、もう一時になりましたから、今夜はこれだけにしませう。風邪をひかぬやうに。僕はすつかりよくなつた。今夜の月と星とのよさ。桃ちやんによろしく。

謙一から幸子あて（一九四四年二月二八日の記）

十二月二十八日（本）晴

今日鎌倉へ行つたけれど、やつぱり空襲ケイ報になつた。僕の鎌倉行きは必ずポーが鳴る。午前中に行くつもりで、省線が三十分も来なかつたために行きついたらお昼でした。みつちやんには大カブラをおみやげにしました。彼女は日あたりのいい部屋でモンペイを作つてゐました。島村君からは何の音沙汰もないさうで、もう丁度二週間になるから、やつぱり入隊が確定したのでせう。

みつちやんここでは、久しぶりにゴボウとお餅のは入つたおそうじ（おそうじ）とを御馳走になりました。お餅は鎌倉では一人一キ口で、みつちやんとは二人分だから割りがいいのでせう。東京は一人五百グラムで、半分のわけです。晩御飯がほしくないくらい（お）いたつぷり食べて了りました。みつちやんは三十一日ぐらいからいねちやんの所へとまりに行くはず。

さて僕が今日鎌倉へ行つたのは、この夏みつけてあつたアメリカの文学史九冊（七十五円）を買ふためだったので、残念乍らうれて了つてゐました。本屋を四、五軒見歩いて駅前まで来た時、サイレンがなりました。そこでとにかく切符を買ふために並び、買ったのでみつちやんとこへとつて返して、汽車へ乗れなかつたら、警報のとけるまで、みつちやんとこですすことにして、ゲートルまいて再び駅へ来ると、もう空襲警報は出てゐましたが、とにかく電車へのれま

した。三時五十分発で品川へついたのは五時前、空襲警報が出ると必ず交通機関は混雑します。渋谷で空襲ケイ報が解け、下北沢で警戒ケイホウもとけました。

帰って見たら、柿が届いてゐました。思つたより早くついて甚だうれしかつた。何よりのプレゼントを感謝します。あけるのもどかしく一二つたべて、さとお説にしたがつて、重箱とアイロン箱とにワラをうまくつめ、その間へは入るだけ入れました。之は粉がふくまで食べないやうにとひもでしぼりました。梅はびんへつめかへました。いねちゃん所へ三分の一ばかり持つて行くことにしました。と云ふのはワラへつめた三分の一は粉がふいてからわけようと思つて。それに小包を解いたりしてゐるとおそくなつて、石炭の火はちよつと起すのがおくくうになつて、今日も臼田君のごはんにありつかうと思つたので、柿をもつて行くのに丁度いいわけになりました。

今夜はいねちゃん部署で例によつて小田中さんと三人で、中々おいしいお汁のおかずで食べました。だが火の気がないとも寒いので、家へ帰つてカイロでも起さうと思つてゐたら森井さんが来て、ナンキンマメを電気コンロでいりはじめたので、折角上りかけた腰もまた下つて了りました。所がいざたべようとすると、今夜もサイレンです。折角のナンキンマメも手さぐりで、味だつて眼で見てたべるよりは落ちたでせう。

今夜のケイ報も長く、一機づつしつこくやつて来るらしくて、月明りはあるとはいへ、甚だつまらぬ時間になりました。またぞろ森井さんとわけのわからんおしやべりになつて、ケイ報解けてから帰りました。月と星とがすてきにきれいで、歩くのも中々乙でした。

此の手紙はお正月に届くかも知れません。

では新年おめでたう。今年もきつといろくど多難な年でせうが、お互ひに自信をもち、二人で立派に生きぬいて行きませう。赤ん坊には絶大な期待をもつてゐます。その赤ん坊に次の世のすべてを期待したいのです。恐らくその赤ん坊は最も困難な情勢に於て育てられねばならないでせう。それだけに、我々も一生ケン命です。貯金もせねばならないし勉強もせねばならない。あなたも充分注意して下さい。身体の力は誰もが弱つて来てゐるのですから、ただ意識的な注意によつてだけ、せめて健康の保持にとめませう。僕も今年は、即ち一九四五年には、南北戦争を書くでせう。

では、お父さん、お母さん、ふうちゃん、桃ちゃん、早苗ちゃん、看護婦さんにも、どうかおめでとうのあいさつを御伝へ下さい。一九四四年への訣別と共に。

幸子から謙一あて（一九四四年二月二九日付け、同日の消印）※

お手紙26日附まで届いて居ります。ダイヤモンドの稿料も同時に。20円は定期貯金に、五円は桃ちゃんのお正月のお小使^④ひにします。

毎日小雪で、ひるまでも本を読むためには、炬燵板の上にスタンドを置かなくては駄目な位、暗い日ばかりでした。今日ようく雪はありますが、陽がさし始めました。どれ位続くかわかりませんが、唯明るいと言ふ丈で気持も違つてまいります。

此の頃、風邪は引きませんが、身体にむくみが来て、手がことにひどく、ペンを握るのが変てこな感じで続きませんでした。今日はすこしひきましたので、手紙を書く事にしました。

ブランドイションも始めのヨ定は十一月いっぱいでありましたが、段々病キや突然の用事のためにおくれて来て、ここ四、五日は手のはれのためノオトも意の如くならず、本も頭痛がして来てよめず、炬燵でころりとよこになつてうとくばかりしてゐました。今日で大体終ります。

第四章は一からずつと面白くよんで居ります。いろいろ日本の現実に思ひ当るところがあつて、何時何処の国でも同じ位置にある人の考へること、やる事は同じところをねらふものであることがわかります。

一では、戦争政治へどうでもゆく路、それに対する国民の力、それに妥協するもの（一時的、びほう的ではあれど、改革への路にちがひないもの）、それに対して尚も押し切る力、政府の弾圧法、それに答へる大規模のストライキそこから公正雇庸委員会なるものが生れざるを得ぬこと、結局、一に於ては力と力の対立抗争、それが解決への路をすこしづつ開く事、公正雇庸委員会が万能の力を持つてゐぬとしても、とに角、それを得た事は国民の力である事をよく感じとれます。

四ノ二は、此の前の戦争政治ですこしは知つたところです。南部議員の改革政治反対の口実に使ふ「州権侵害^⑤」と、その歴史のところは特に面白く思ひました。大きな政治権力を持つて勝ちまゝをしてゐても、一応は左もらしい口実がなくて行動出来ぬと云ふ事の中には、いろいろ面白い意味があるのですね。矢張り、国民の批判や大衆へのはばかりを感じるのか、それなしにはどんな詰らぬ口実でも人々を動かす事の出来ぬと云ふ事を知つてゐる、と云ふ事それ自身

の中に、人は理論なしの行動を拒否するもの、と云ふ真理を認めるのでせうか。大衆は一応の口実（理論―原理）さへあれば、それでもう其の内容如何までを考へずとも行動出来るもの、と云ふ感じも与へられます。尤も、その口実で、その行動を行ったものは南部派議員であつて、南部の全国民ではないのですが。

国内の矛盾の爆発を対外転化させんとする努力、これは昔から歴史にある事ですね。ネールは其の本の中で「人は歴史の教訓を理解する事はまれだ」と云つてゐます。「歴史の塵芥箱へ唯投げこんでしまふ」と書いてゐます。本当に歴史を過去のものとして、現代と切りはなして考へる事によつて、歴史からのちを捨て去らせ、歴史から教訓を得る事ではないのですね。真実の歴史の書かれなかつた事も一ツでせうが、人は「歴史」に対して、随分長く誤つて考へ、其の中から現代を形成してゐる生命を忘れてゐたと思ひます。このところ、まだはつきりしないので、うまく云ひ度い事の表現が出来ませんが、詰るところ、四章の一及二で、私はその暗示（？）をうけます。さうして歴史の真実の姿、引き続き流れる根本のものⅡ人類の力、力と力の抗争、と云ふものが歴史を作るもの、と云ふ信念を得ます。歴史に対する正しい考へ方を得ることと、国民の批判力Ⅱ歴史の推進力である事を知り、国民を形作る一人一人の人間の健全な批判力の重要性を感じます。さう云ふ点で四章は啓蒙性を含んでゐると云へるでせうし、「真実の歴史」と「うその歴史」についてもある観念を得るでせうし（即ち歴史に対する正しいキョー味、歴史は過去のものではないことを知るでせう）。

三、四、五は、あまり人の知らない事で、さう云ふ点の面白があるでせうね。三の中の「非米運動調査委員会」と云ふのは、其の性質、其の主義、其の行動共に日本的と云ふ現代流行語と、その運動を想起させますね。南部派のモットーたる反改革主義、排他的アメリカ主義、侵略主義は、これ又身近に大きく見える姿であり、他国の歴史は他山の石ならずの感が深い。プランテーション制度Ⅱ中世的封建的野ばんの遺制Ⅱは、実に歴史に抗し人類の発展の妨害をする、凡ゆる悪を生み出す。

ここまで書いてたらW原文さんが来ました。リトルページと鈴木東民を返して来ました。リトルページの方は教へられるところ多大、東民の方は真実の姿だと云つてゐました。大変おもしろかつたところと云ふのであります。彼にはまだカントロヴィッツを借してある。これはとてもくおもしろい、もうすこし貸しておいてくれとのこと。それからプランテーション出たかと云ふので、もうぢきだと云つたら、出たら一部ほしいと云つてゐました。プランテーション制度、すこし話しましたところ、「ヤア、それは日本の姿と変わらない」と云つてゐました。彼に林ごをすこしたのんでおきましたから、買

へたら送りませう。

厚生省の能率調査の統計で、一番凡ゆる作業に能率的である順位を示すと、1. 捕虜、2. 囚人労働、3. 学徒、4. 熟練工、5. 一般工、6. 徴用工の順位だそうです。おもしろい姿ですね。多おほいに問題を含んでゐる。但し、極秘の統計とか。

又、手が腫れて来ました。今日はアナトオル・フランスの事も書き度かつたのですが、あなたの云ふ如く彼と他の人の別れみち、大きなヒューマニズムの最初の芽について、其こからの彼の凡ゆる作品の底にある根本的な考へ(その作品)について書きたいと思つてゐましたが。

現代史、家には(-)丈あつて、柳の□□(本稿)(2)、紫水晶のゆびわ(3)、巴里に於けるベルジュレ(4)がありませんね。天使の反逆も是非よみたいのに。

辰野隆(原文)のA・Fの批評、実に気どり乍ら大まちがひをしてゐます。

今日はノオトも駄目になりさう。

克蘭クビーユの「テーマ」、長倉事件と共通です。では又

※この封筒の裏面には「昭和十九年十二月廿九日」の日付けが記されているが、そこに挿入されていたのは一九四四(昭和一九)年二月三十一日記の手紙文、および一九四五年一月二日記の手紙文であつた。逆に一九四五年一月二日付け・消印の封筒中には、一九四四年二月二十九日に認められたと思われる手紙文が挿入されていた。二月二十九日の手紙と一月二日のそれとは、封筒と中身が相互に入れかわつてしまつたのであろう。ここでは双方の中身を差し替え、本来の組み合わせに戻して翻刻・掲載した。

幸子から謙一あて(一九四四年二月三〇日の記・消印)

十二月廿日

今日ようくプランティションのノート一応すみしました。あとはまとめやら整理が残つてゐます。九月以来足かけ四ヶ月の日数を要し、今までにない程の注意の集中努力を必要としたもので、ヤレ〜と思はぬでもありませんが、同時にいささかがつかりした様な力抜けも覚えます。丁度試験が終つた時の気持に似通ひます。今のところ、まだごちゃ〜

ですから、残つてゐる整理、まとめがすめば、一応消化出来るでせう。

もう明日一日で本年は終ります。本年はここ暫くの中で一番身心共に変動の多かつた、激動時代であつた様に思はれます。さうして今日考へてみると、一応その苦しみを通過したあとの無関心と無感動とが残つた、かの如き感じもあります。とに角、自分が変わつたと云ふ感じがある。本をよんでも前とは感じ方が大分変つてゐる事を感じるので、進歩か後退か、まだわかりません。あまり積極的なものではないらしい。前にも書いた無感動が色こく出て来た気がします。山は晴れて陽が当つてゐるのに小雪が舞つて来る。冬枯の田舎景色。それでも年末らしいあはたらしい下駄の音もしません。

元日の日は組合の新年会を家でひらくとかで、今日からにんじん、ごぼう、里芋の皮むきを始め、煮物を重箱にこしらへて詰める相ですから、今日の午後はそんな事で終るでせう。

看護婦さんたちは家に帰りました。朝ちやんも道場が休みになつて三、四日は休暇で、廿一には帰つて来るらしい。あまり騒々しくない正月であつてほしいものです。

あなたのところは、いねちやんたち集まるとか、集まつても何も食べる楽しみがありませんね。ノートラでも。何だか嫌にでくぞくする日です。

では里いもさんがまつてゐますから、これでさようなら。

幸子から謙一あて（一九四四年二月三十一日の記）*

十二月廿一日夜

二十八日お手紙、午前中落手。風邪、すぐなをせてよかつたです。患者の中で多いのは、一寸した風邪から他の余病を併発し、重悪化する人が実に多い。ぢん臓だとかろくまくとか、その他思ひ出せぬ位沢山の症状あり、元は皆營養不足と過労からの風邪が原因になつてゐます。一番多いのは風邪から胃腸障害へゆき、目は血走り顔は黄いろく熱が高く、短い時間で激しく弱い弱する。下痢のため、ますく營養はとれず、ね汗とそれで一日に一貫匁もやせた人がゐます。で、心配してゐました。

私の方は風邪は引きませんが（年中炬燵にゐて、雪だるま程も着こんでゐます。衣服の上から身体をつまもうとして

掴めない位、ころ／＼に着てゐるので、動作が緩慢になつてしまつた。踞むと立ち上るに骨折れるし、便所へ行つたり、お風呂にいつたりする時、手間どれる(まど)。むくむのです。むくみのため心臓が何時も苦しい。階段を登り切ると、暫くはトン／＼して沈まるまでまたねばなりません。ノオトや手紙も時間が長かかると、手が腫れてペンを掴みにくくなる。其の程度ですから、たいして心配いりません。前よりは種々のやりたいと思つた事が出来ないから、凡て今までよりへらす外ありません。さうすれば、たいした事はありません。心配無用です。

今日は修練場から朝ちやんが帰りました。彼女も例の流行風邪で一週間も絶食した相で、目をへこませて帰りました。顔もどす黒く汚くなり弱つてゐます。

修練場の所長は松井と云ふ医者ですが、飯田の医師会の医者は殆んど顧問とか何とか、修練所に關係してゐます。其の医者や医師會關係の人々は、風越館の建民修練所を自分達の私設料理屋位に心得(こころ)で、いり交り立ち代り友人を連れてやつて来て、客を連れて来たからと云つて、大ッ平に修練生のための材料を使つて、修練所の炊事婦をして働かせ、お酒持參で飲めや歌への乱ちき騒ぎを演ずるのだ相です。前もつて電話で何人の客、何人前の料理、風呂を沸せと注文してよこす相です。修練所の事務員はさう云ふ時は部屋を貸す丈で、お風呂沸しも料理も運般(うんぱん)も後片附もしませんし、時には自分等も御相伴するから、其の行るが公私混合や、修練所關係を口実に自分等の私的な目的に公の材料を横領する事など、考へたり問題にした事はない相で、炊事係や給仕達が労力を提供するのだから、お金を一円位握らせればいい位に思つてゐる相です。

つい二、三日前も飯田の医師會の忘年会をするからとのことで、朝ちやん怒つてゐたが、病中、松井さんに二度も診て貰つてゐるし、個人的に願ひ奉(ま)まれて、私の労力丈なら提供しませうとのことで、相当の料理を作つたのだ相です(勿論、朝ちやんは修練生の材料を使ふ事は断つた。すると各自、建民修練所の名前でいろいろ集めて、前もつて持つて来たのですつて)。するうち酒によつぱらつたのが「オイ／＼料理はこれ丈か、酒がぬるいぞ。早く運べ／＼」とか云ひ出すのもあつて、朝ちやんが「ここは料理屋ではないし、女中は一人もゐません。料理は好意で作つてさしあげました。後は自分達でおやり下さい」と云ふと、「何を」とか云つて、やにはに拾田札を握らせ様とするので、「おやめなさい」と云ふと、「俺に恥をかかせたいのか。さア、とれ。ぐず／＼云はず働いた、働いた」「恥をかくのはお前さんのぞんだところ」と云つて、さつさと炊事場の火を落して、「後片附はていねいにする事です」と云つてきめつけたら、事務所のぢいさん達は「まあ／＼、私がするで、するで」とか云つてごまかしてしまつた、とか話してくれました。修(しゅ)

練所の仕事なら、いくらでも労力の出しおし⁽⁶⁾みはしないが、修練所を個人の設備の如く、わがもの顔に利用する奴のために、炊事婦たちを夜の十一時すぎまで働かされてはたまらない。まして新しい修練生が来てゐる時、二階でどんちやん騒ぎなんぞやって、眠りは阻げるし、所長も其の仲まで他の者より幾分遠慮してゐる程度なんだから」と盛にふん慨して話しました。かう云ふ種類の事が、どれ程沢山行はれてゐる事でせう。

プランテーションは一応終わりました。今日はもう看護婦さんは家へ帰したし、人手不足で暮の大掃除、正月用の煮物作り等々、とても忙しい一日でありました。疲れて二階へよろ／＼上る位足が重い。残った時間は一昨日戻つて来たリトルページをよみました。読み返してみると実に面白い。前、気のつかなくかつた事実⁽⁷⁾に気がついたり、Wさんではないが全く教へられるところ甚大です。(以下、『リトルページ』についての読書ノート風の記述が便箋三枚分ほどあるが省略した―編者注) どうやら此の調子では全部に亘つた感想を書いてしまひさうですね。実はその事で書き度い事はいっぱいありますが、あなたは既によんでゐるのだし、私の下らない感想を長々書いたところで退くつさせる丈でせうから、仔細に亘つては私のノオトへ書きこむ事にしませう。

※幸子発一九四四年二月二十九日付けの書簡に注記したように、この一二月三日記の手紙文は、翌一九四五年一月二日記のそれと同一の封筒に挿入されていた。二つの手紙文は、まとめて一月二日に投函されたのかも知れない。しかし封入のさいにつく用箋の折り目に微妙な差があり、後日、中身だけが一緒にされた可能性も否定できないので、ここではそれぞれ別個に投函された書簡として扱った。

謙一から幸子あて（一九四五年一月一日の記）

一月一日（月）曇晴

新年おめでたう。元気にいいお正月を御送りになつたことと思ひます。今年は仕事のことでも、あなたとの生活でも、子供のことも、力一ぱいの誠実な生き方で終始したいと思ひます。歴史的現実がどんな風な展開をし、二人の生活がその歴史的現実の展開の中でのいかなる状態におかれ、いかなる転変にもたらされるにしても。

昨年は、前半は「プランテーション」と疎開とですぎ、後半は余り創造的な生活を進め得なかつたが、あなたとの結合に質的な成長をしたことで、満足出来ます。あなたが「プランテーション」を読んでくれたことのおかげです。だから

一口に云へば、一九四四年の前半は僕が「プランテーション」を書き、後半はあなたが「プランテーション」読み、かくして「プランテーション」を媒介乃至契機として、先づ僕の歴史学が飛躍し、次いであなたの世界観も質的成長をなし、それらによつて、戦局に余儀なくされた疎開と云ふ我々の生活史最大の「不幸」にも拘らず、二人の結合の成長もたらされたのだと思ひます。そして我々の結合の成長のためには、疎開をめぐる我々の行きがちがひ、次で白田君をめぐる行きがちがひも、また意味をもつたものと見たい。赤ん坊は二人の最大の希望です。そのためにあなたが身体の不調に悩み苦しむにしても。

一九四四年を我々の新たな出発のメルクマールとして、一九四五年を更に進んで生きてませう。

お手紙有難う。二十九日付を今日うけとりました。暫くお手紙来ないので心配してゐたら、むくんだせいだつたのと、むくみはやはり妊娠のせいですか。本当にいろ／＼と苦勞をさせてすまなく思ひます。之からもまだ／＼いろ／＼と肉体的精神的苦勞がふえ行くことですが、どうか勇氣と理性とを以て元氣に耐えて行き克服して行つて下さい。僕もあなたの苦勞を思つて、その分がんばります。信頼して待つてゐて下さい。手がむくんんだり、その他の身体の故障で手紙が書きにくかつたらハガキでも結構です。こちらはハガキもなかく／＼買へませんが。

「プランテーション」第四章の感想を有難う。僕の読みとつてはしかなかったことを読みとつてくれたのを心から感謝します。第四章のすべては素描的で説明不足ですが、第二章第三章に展開したことの結語でもあるから、わかつてもらへると思ひます。予定では第四章ももつと多く書き（政治史を展開する）、第五章に「南部の社会」として、ハーンドンやスコツポロやその他小説などを織りませ、第二、第三、第四章で出て来たモチーフを綜合しつつ、シンフォニーのフィナーレのやうに壮大絢爛（？）と展開して結語としたのですが、（緒論と対応的に）その力も時間もスペースもなかつた。若しそれらをやれば、今の一倍半の大きさになつたでせう。さう云ふものを第四章へ凝縮したので、第四章のキュークツさ、説明不足もまたやむを得ません。それに政治と云ふのはむつかしいのです。まだ／＼僕には政治をよく書く力はない。第二章第七節や、第三章第二節のむつかしさがそれです。そして政治が書けると云ふことは歴史が書けると云ふことなのでせう。

全体として通読して感じることは何ですか。やつぱり歴史と云ふことではないでせうか。若しさうなら、僕として成功だとしていいと思ふのだが。鶴田君もいつかさう云ひました。僕が、農業や金融や工業などが出て来ると僕はやつぱり素人ではないから、このテーマは本当は経済学者が書けばよかつたんだらうねと云つたら、「それや駄目だ、経済学

者が書いたらちつとも面白くないものになつて了ふよ。やつぱりあなたが書くテーマだ。それでよかつたんですよ」と。とすれば、僕がもつと農業や工業や金融を勉強して書けばよかつたと云ふことになる。

だが、歴史家である羽仁さんや北山君が何と云ふか、それが僕が一番ききたい所ですね。此の頃本室へ行つてもどこへ行つても、しきりに「もう出たか」ときかれ、ハガキや手紙の問ひあはせ、電話の註文もあるのですが、肝腎のものは本当にいつ出ることやら。それにしてもあなたに読んでもらつてから、ずい分自信をもてるやうになり、早く出てみんなに読んでもらひたいと云ふ気持ちがぐつと強くなつた。それ迄は鈴木君式の読みかたしかしてもらへないかも知れないとあきらめる気持もあつた。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二日の記・消印）※

一月二日

廿一日の夜、利郎さんから速達で、盲腸手術のため、一月末皆と一緒に来たいとの事。相談しましたが、今は炬燵が二つしかないのです、大勢一緒に来ても泊るところがないとのことで、利ちゃん丈、早々に来る方がいいと云ふ事になりました。

病室も二階はタンカが上らないから客間を使ふ外ない。正月中で来客も多く、それは困るから、近所に病室を借りる様、手はずをさせよう。つきそひも入用になるが、まづないでせうから、利ちゃんさへ早く来れば（と云ふのは廿三日頃から月末まで桃子の試験がうけられる様なら、ついて上京せねばならぬ）、世話は私が見ます。今燃料が全くないので、手術用の消毒に最少限必要の炭二貫匁と、消毒用洗石けんの用意を患者さんにして貰はないと、手術が出来ません。併、利ちゃんに炭二貫匁と云つても運ぶ事も出来ないから、こちらで何とか方々頼んで手に入れる外ありません。だから石けん丈は用意して来る様に云つて下さい。お米も不足で、始終都合してゐますが、これも又無理でせうね。手術の日から二週間で旅行は出来ませんが、お母さんは一ヶ月位ブラ／＼すればよからうとは云つてゐますが、一ヶ月だとお母の方、一寸家では無理ですから、移動証明が入用となります。病室は糸を抜くまで借りて、其の後は二階の部屋にゐればよいと思ひます。以上の様な事、お正月に来たら云つておいて下さい。家が思の外せまい上に、私や朝ちゃんが来て荷物も詰めこむ、で大分お母さん面白くないので、一寸でも人が来て泊る

と云ふ事になると、家中ごたくと云つて嫌ひます。私も居候の身ですから、自分勝手には出来ませんので、あまりサーヴィスに期待せぬつもりである様に、それとなく利ちやんに知らせて下さい。問題は家のせまいこと、人間の多いことにあるので、他には何もないのですから、利ちやんには病室を借りて、せいぜい私につきそひ代りをするに云ふ風に云つて下さい。

二十八日附の手紙、今日(二日)落手。

昨日から風邪を引いたらしく、身体の骨が痛いので、此の手紙はこれで出します。

幸子

※この手紙文は一九四四年二月二日付け封筒に挿入されていたものだが、さきに注記したように、本来は一九四五年一月二日付け封筒にて投函されたものと考えられる。

謙一から幸子あて(一九四五年一月二〜三日の記)

一月二日(火)晴、風強し。

空つ風で砂塵がひどく、ひきこもつてゐたかつたが、今日は本室で「御用始め」とやらがあると云ふので、物凄く省電のこみかたで十分余り遅刻(十一時)しながら、とにかく行きました。式はもうはじまつて、聖学院の理事長でもある当会の沢田理事長は、女学生向きの訓話をやつてゐました。クエーカー教徒(フレンド派)でもあるせい、しきりに感謝しる感謝しると云つてゐました。感謝は甘受に通じる、どんなひどい現実であつても、人間は甘受と云ふ手があるのです。理事長は中風の気があるので、時々口のあたりを運動する必要があるのせう。だから訓話が好きで、その訓話も、此の頃の空襲時代には聴きに来る者が少く、そのために分室へはしきりに、式には出てくれと云つてくるのです。僕も実は先月三十日に「主事を命ず」と云ふ辞令をもらつたので(月給はすえおき)、余りさばるわけにも行かなかつたのです。

帰らうとすると、小田中さんが「明日よろしかつたらゐらつしやつて下さいつて森井さんがおつしやつてましたわ」と云ふので、では行きませうと答へて、さて竹中君と二人で銀座へ出ました。どこかで食事したかつたのにする所がない。竹中君が握り飯をもつてゐるので、それを一人で食はうと食べる所をさがして、やつと銀座コンパル館と云ふ昔のニュー

ス映画ゲキ場、今の演芸館へは入りました。柳橋、仲治、小文治、山陽、しん生、あとは女二人のシヤミセンと唄。古今亭しん生（サイトウ信也に似た口調でよつばらいがとくい）と云ふのは始めてなので、どんな男かと思つてゐると、すつかり爺さんで、どこかきかん気の、やせて皮肉で威勢のいい、大きな口のあたりに特徴があつてタンカなんか切るのによささうな、頭はすつかりはげて、色の黒い所へ酒をのんだせいか銅色にテラテラ光り、それへ白髪のスダレを横から五、六本かけてつやをけしてゐる、頬骨が出て、眼つきは酒のせいもあつてちよつとすごみがある、そんな爺さんで、少し顔や身体をななめにして「あはび」をしやべりました。みんな中々面白く、幸ちゃんがあると面白いのと思ひました。

空つ風はもうやんでゐましたが、寒む々々とした街で、さつさと帰りました。人出はまだ相当なものです。

帰つて火を起し食事をすませると、ラジオの演芸をきき乍ら早寝しました。又夜半に起されるとたまらないので。夜半に空襲で起されるので、この頃はこたつを作るやうです。炭の配給は、僕なんか八俵来る所を二俵しか（八月以来）来ないと云ふ悪さですが（之ではガス無しで炊事がやつて行けない）。

先月二十九日以来あなたへ長い手紙が書けなかつたのは、森井さんとの見解対立から小田中さんの問題もは入つて来て、彼女達へ長い手紙を書かねばならなかつたからなのです。廿八日夜、丁度干柿をもつていねちゃんの所へ行き、ピーナツをもつて来た森井さんと、それに小田中さんを加へて四人でたべたり駄弁つたりしてゐた時、小田中さんが「菊池さん、あたくし、死んでも生きててもいいんです。どうせ死ぬんですもの、どうでもいいんです」と云ひ出しました。小田中早苗君は、前にも紹介しましたが、此の九月に津田を出て、白田君の世話で調査会には入つた人で、身体つきはみつちやんの肥つてゐた頃くらいで、寒がりです。セーターやら何やらありつたけ着るので、ちよつと女サンタクローズのやうな女の子です。すべてスローモーションで、言葉もゆつくりゆつくり云つて、白田君とはまるで対照的です。それが白田君の学生時代のファン（？）で、白田君と共同生活をしてゐます。

「小田中さんで変ですわ、オブローモフ主義なのよ。何でもどうでもいい、勉強なんかしたくないし、本なんか読むたくない、何をしたいとも思はないて云ふんですもの」と白田君も前に二、三度云つたことがある。「小田中さんが駒形さんがわからない、人的にあるのがいやだと云ふんです」とも云つたので、「駒形君はいい人なんだよ、安心してゐたらいいよ。人に理由のない悪意や偏見は絶対にもたない人だ」とこたへておいた。白田君のある時は、余りぼくたちの会話には入らないで、「小田中さん、ねむいんでせう。おやすみなさいよ」と森井さんに云はれては、「ええ」と云つ

て、のそくと別室へ退く。

この間も「彼女がくに(松本)へ帰らうかどうか迷つてゐるのよ。彼女の兄さんが戦死したので、あととり娘になつたから、早く帰つて来いってお父さんが云ふんですつて。所がお父さんが最近迎も若い人を後添ひにもらつて、小田中さんはそれがいやなの。まだお母さんの一週忌になるかならずなので、彼女、お父さんのやりかたに不満なの。だから帰りたくないつて云ふんですけれど、そしてらお父さんが補助を送つてやらないつて云ふんですつて。どうしたらいいのでせう」と臼田君から云はれた。「森井さんは、帰らしたらいいでせうつて云ふの」「そりやいかんと思ふな。疎開すると云ふ意味なら別だよ。だけれど、お父さんと新しいお母さんとの結合に不満で帰りたくないと云ふなら、帰る必要はない。それより問題は、お父さんからの補助なしでやつて行くと云ふことだ。さうして独立するつて云ふことだ。森井さんは、この頃の若い人は苦しむことがいやなんだから、少し苦しむといつて、さう云ふ意味で帰らすといつて云ふんだらうが、そんな苦しみは必要だ。独りで生活を築いて行くと云ふことで苦しむのは、その人の前進にとつて必要な苦しみだが」と云つたものです。

それが、死んでも生きてもどうでもいい、と云ふ。かう云ふ言葉が、青春期の人間の口から出るとは。この間、特攻隊の座談会の新聞記事に一人の若い隊員が、「自分はこの年まで、面白い思ひをしたことがない。人生に生き甲斐を思つたこともない。だから今はじめて、人生を愉快に感じる」と云ふ風な意味の言葉を云つた。さうだ、この頃の青年達は、本当に自分の生活と云ふものについて、考へる余裕を持たされずに来てゐる。小田中さんもそれかと始めに思つた。さう云ふ人には、生活の普遍的意義を考へさせ、人生の意義、歴史的意義を評価させ、歴史と云ふものに希望をもたせるべきだと思つたので、さう云ふ話をした。生きる欲求をもたせるべきだと思ひ、彼女が生きる欲求をもたないのは、先づ無智だからだと云つた。所が森井さんが途中から、さうぢやない、小田中さんは欲求をもつてゐる、自分は津田時代に、自分が何の価値もない人間だと思へなくて、死んでもいいと思つた、その時は欲求がうんとあるのに、欲求の対象をつかめなかつたのだ、と云つた。それならそれでもいい、結局やはり、外界、自然、歴史を知り、自らの生活の意義を考へることが第一だ、と僕は答へた。所が、今度はいつの間にか、また森井さんの言葉で、小田中さんは自分の生き方をもつてゐる、だから他人がそれについてどう云はうと「どうでもいい」と云ふのだ、と云ふことになつた。僕は之は森井さん自身のことを云つてゐるので、小田中さんの状態ぢやないと思つた。何故なら、自分の生き方をもつてゐる、他人がそれを何と云ふともかまはぬと云ふのは、自足してゐるわけで、他を欲求してゐない。それに、そんなら

「どうでもいいんですの」とわざ／＼僕のの前へ云ひださないうし、「死んでも生きてどうでもいい」などと云ふ言葉にならない。

僕は森井さんのひとりよがりな態度にやや不快になつて、問題をこんぐらかされたまま帰つた。そして長い手紙を書いて、之までの彼女との意見対立の一つ一つをあつげ、結局彼女の言葉にされると何もかもあまいいなわかないものになつて了ふ、しかも彼女の言葉は古い言葉で、おくれた諸要素の翳を去り切つてゐないものだ、だから僕の言葉にならないと、結局問題は発展させられるのでなくて引き戻されることになる、それに森井さんには一種の固執がある、自己閉鎖的な固執がある、それある限り我々はわかりあへない。大体彼女は僕の愛情の理論に異議ありと云ふ、その異議とは僕が愛情と云ふものを受動的に静的に見てゐると云ふ（人間関係の反映と云ふから）。それに対して僕は、さうではない、反映と云ふ言葉は決して受動のみを意味しない、人間関係が基底となり、その心理的反映が愛情であり、愛情は結合の感情として人間関係を更に深めることとなり、深まつた人間関係は更に深い愛情となつて反映し、その愛情がまた人間関係を深め、と云ふ風に極めて動的に交互作用を通じて発展して行くもので、愛情の神秘主義的理解こそ、静的な受動的な理解だと答へた。この僕の答へについて彼女は何にも答へなかつた。

次に彼女は、僕の行き方を「論理で固めて、それに行爲を追隨させて行く」と云ひ、それはかつて自分もやつて来たが、いつでも無理を感じて来た、今ではむしろ論理を超えた真実ととりくんでゐると云ふ。之は僕の生き方についての異議です。だから先づ僕は、自分が論理で固めて、それから行爲を追隨させるのではない、それ所か行爲なり現実なりから論理を導き出し、その論理の方向へ行爲し、錯誤試行的に論理を是正し、行爲を是正し、この論理と行爲との緊密にして不断に錬磨的な交互作用を通じて生きて行くのだと答へました。彼女がかつてやつてゐた方法こそ、論理で固めて行爲を追隨させたもので、云ひかへると観念的論理を以て行動したのだ、だから無理だったのだ。例へば彼女が結婚したのは、自分の社会的価値をはつきり自信出来ず、しかも何とか社会的価値ある生活をせねばならぬ、自分独りで駄目なら誰かを助ける形で社会に役立ちたい、さう思つてゐた時、昔消費組合の仕事をしてゐた人で、いろんな仕事をやつてゐる人と偶然会つて、それで結婚したと云ふ。この結婚の如きは全く観念的で、また社会的価値ある生活と云ふことについて観念的で、さう云ふ観念的な「仕事」のために自分の現実の任務、即ちおかれた環境の中の不合理と日常生活の中で戦つて行くと云ふ任務、自分の家族のこと、自分の職業のこと、中島君との交友のこと、それらの一切をさぼつてしまつた。これこそトロツキスト的だ。これは云ふまでもなく正しくない。僕はそんな形で論理をきたへ追究して来た

のでない。

また論理をこえた真実なんかは世の中にあり得ない。世界は合法的にある。すべては論理的である。ただ人間がその論理を認識し得てゐないものは無論いくらでもある。それは論理以前なのであつて超論理ではない。超論理と云ふことは神秘主義にすぎない。それは認識努力の放棄であり、現実への不誠実に外ならない。しかも森井さんは人を論理で固めすぎると批難し、自分は論理なんか超越してゐると云ひ乍ら、実はあなた（森井さん）に感じるものは論理の感覚だ、自己閉鎖的な論理の感覚だ、彼女ほど理くつを感じさせる女性は今まで余り見たことがない、結局超論理と云ふ風なものを含んだ論理を彼女はもつてゐるのでないか。彼女の言葉（僕の言葉を受け入れず、何でも自分の言葉になほしてしまふその彼女の言葉）も結局彼女の論理の体系を示すものではないか。

次に彼女は僕が竹中君なんかに精力をつかひすぎると云ふ。いくら云つても駄目なんだからと云ふ。或ひは相手の受容力を考へて、それに適合して云はないと効果がない、「白田さんはあなたの言葉をまるのみにしてゐる、だから行動だつて余り感心出来ないぢやありませんか」と云ふ。即ち竹中君の例でも白田君の例でも、僕の失敗を意味する、それは僕のやりかたがまちがつてゐるからぢやないかと云ふのです。それに対しては僕は、自分は教師として行動してゐるのではない、僕は友人であつて教師ぢやない。友人としての僕は、竹中君が友人としてあらはれる時はいつでも、その問題について自分が正しいとする理論をしつつ云ふより外にありかたがないのだ。僕はものの効果ばかり目的としたくはない。僕は自分のありかたを誠実にすると云ふことを第一とし、その効果はむしろそれから先のことだ。そして一回きりしか話さないなら相手の受容力が決定的に重要だが、一回きりしか話さないのではなく、何度でも友としてある限りしやべるのだから、始めわからなくとも、いろんな問題でくりかへししやべつて行けばわかかつて行くと思ふ。白田君だつて二、三ヶ月一緒に話したと云ふだけで、効果が出なかつたからと云つて僕のやりかたが正しくないとはいへない。それに第一僕は、人に結論を教へるのでない、僕は問題を提起してゐるだけだ。結論は夫々の人にまかしてゐるので、あくまでも問題を提起し、それについて夫々の人を考へさせ、夫々の人の内心の斗争へ目覚めさせる、内心の斗争に点火する、個人の内部の二者（普遍的自我と個別的自我）の斗争を起させるだけだ。さう云ふ風に長い長い手紙を書きました。

所が三十日に本室へ行つた時、小田中さんにその森井さんへの手紙をたくしたら、小田中さんから僕に同封のやうな手紙をよこされました（この同封された手紙は発見できていない―編者注）。彼女は森井さんのやうな自己閉鎖的なものを持つて

はるなかつたのです。だから僕は三十一日に、また彼女へ長い手紙を書かねばならなかつた。そこでは、前夜（二十八日夜）の彼女の言葉について、僕が考へたことを書き、彼女に生きると云ふことを説いた。生きるとは現実とたたかふことだと云ふこと、何もかもたたかひで、自然も人間も外でも内でもいたる所でたたかひが行はれ、そのたたかひを通じて総てが発展し成長して行くこと、人間の歴史は大勢の人々の不合理非人間との斗ひを通じて進むこと、歴史とはたたかひに外ならないこと、そして自然の歴史と人間の歴史との相異は、後者は「意識的」なたたかひであること、だから人間の歴史の方が進歩と云ふことがはつきりあらはれる（進化よりも）こと等々を書きました。こんな風で、あなたに手紙をさぼつて悪いとは思つたが、さしあたり森井さんを論駁し、また目覚めようとする小田中さんに現実を説きあかすことが僕の生活に重大だと判断したので、二人に書いたのです。

それから一月三日に、森井さんの招待に応じて、大根、いも、カボチャ（みつちちゃんのおみやげ）等をサツカリンで実においしく煮て、重箱につめ、それをもつておひる頃に行きました。みつちちゃんはその朝鎌倉へ帰つたさうで、いねちやんと僕と小田中さんと三人が招待を受ける形になつた所へ利ちやんが来たので、一緒に行きました。森井さんは白米と、おみおつけと、しることを御馳走し、僕はお煮つけ、利ちやんは餅、いねちやんはおさつ（おさつ）の油やきを提出しました。昼食がすんで、利ちやんが帰り、あと四人でノートラをやりました。所が小田中さんがお腹がよくなって晩御飯をたべに行つてくれと云ふので、僕も弁当をもつて来てゐたから、サイレンもならないままに落ちつきました。

さうすると、白田君の話から、また森井さんとの云ひ合ひとなり、例の問題になつて了ひました。始め白田君は結婚したがつてゐるのだから、見合ひでも何でも結婚して苦しんでみるといいのだと森井さんが云つたので、僕は絶対にそれはいけない、そんないい加減なことは云つていけない、結婚とはそんな「苦しんでみる」ことぢやない、最も重大な必然的であるべき人間関係だ、従つて、恋愛以外のいかなる契機からも結婚はすべきぢやないと主張する。彼女は僕がさう云ふと、いつの間にかそれに賛成してゐる。そのくせ、「けれどあたしの姉が二人あますが、みんな見合結婚で矛盾なくやつてゐる。あたしは彼女達が恋愛ぢやないと結婚してはいけないと云つて家でいつまでもゐるより、見合結婚でもとにかくあゝして生活を築いて、いい子供をうんでくれる方がいいと思ふ」などと云ふので、また僕は戦端を開しなればならなかつた。結局彼女は、我々は究局（結局）の目標は同一だが、方法がちがふのだと云ふ。僕は例へば結婚と云ふ問題には恋愛と云ふ方法以外はない、目標が同一で方法がちがふと云ふことは本当ほうそだ。方法がちがふと云ふことは世界観がちがふことだ、とまで云はねばならなかつた。結局彼女とは話すことの無駄をさと、彼女も暫くこの

問題は待つて下さい、と云ふことになった（以下次号）。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二日の記）

昭和二十年一月二日夜

克蘭クビューの感想、同感です。フランスは法延^⑤、判事、裁判の短篇が実に多いですね。人間悲劇にも出て来ます。ここでフラ・ジョヴァンニと云ふ無知な修道僧をして、町の余論^⑥を指導する善の友会員を批判（？）させる。彼等の善とは？善友会員の構成人員、彼等に「善」を判断する能力ありや？善行の対象は、誰に善であつたか、を楽にスラリと上品に、言葉短く叙述する。それから監禁のジョヴァンニ、囚人中の二人の社会改革者をして（一人は暴力で、一人は理論で）語らせる。ジョヴァンニはどちらも否定して、神の道を説く。（それから裁判、法延の場のおもしろいこと。ここを書くつもりでぬかしてしまつた）。併しねむつてゐる時、狡知博士の名の下にリュシフェルが、又はサタンが無知の彼に理性を与へる——即ち批判精神を。彼は苦しみ、泣き乍ら、遂に彼の神が絶対でないことを知り、「真理」とは何かを知る。

（以下、アナトール・フランスの短篇「清浄の家」「トマ氏」「住込み泥棒」、および回想録『わが友の書』について、その要旨・抜き書き・感想などが読書ノート風に、用箋一〜三枚にわたって記されているが省略——編者注）こんな風に一ツ一ツとりあげてみると、手紙は相当長いものになり、あなたにとつては至極退屈なものになるでせう。私が他の事を書くと、又いろいろ小言の種を生むかも知れませんが、此の方が無難だと云ふよさもありますし、私も差しさわりの事について書くわけで、気持も楽で愉快ですから、当分こんな事でも書かして貰ひます（以下、A・フランス『わが友の書』からの抜き書きが用箋二枚ばかりあるが省略——編者注）。

寛ちやんが辻岡マダムに逢つたところ、プシはあの附近に出没し、辻岡マダムが世話をしてやつてゐるとの事です。死んだと思つてゐたのに。彼は今年始めて屋外で冬を越すのですね。老年時代に這入つてから、運命は彼に悲惨です。世話をしてやつてゐると云つても、たいてい知れたものです。どんなに放浪生活で彼は汚れ、やせ、みぢめ^⑦になつたでせう。あの単純な甘へる事^⑧しか知らぬ彼の自活生活は、どんなにみぢめなものでせう。この冬肺炎に犯されれば死にますね（そしてそれは可能性がある）。甘つたれのプシがどんなに愛情に飢へ、世間の人間の恐ろしさや残酷さにまいつた

か、考へると本当に辛くなります。私が肥つてゐる頃は肥つてゐたし、私の病氣の時は彼も^(四)偶然病氣をした。桃ちゃん
は私とプシと似てゐると云つた事がありました。何となく、自分もそれを感じる時もあったのですから、私共の家庭
の崩壊は、彼にきつと解つたのであらうと思はれます。私に感じられるより、彼には強くはつきり解つたのでせう。彼
はあなたや利ちやん達が残つてゐる家は、もう昔のそれでない事を悟つたのですわ。

彼が自分で解決出来ぬ不幸に苦しめられるより、死んでくれた方がいいとも願ひ、他方どんな不幸も彼の生命ある限り
は、彼なりに乗り越えるであらうとも望み、寛ちやんの手紙以来、一種の胸苦しさを覚えます。彼は私共の生活の象徴
であつたのではないかなども思ひ、雪のふる冷めたい夜に^(五)ほうぼうするであらう彼のみぢめな姿に、涙をこぼさず
はゐられません。こんな事を書く、又あなたに怒られるのでせうが。

では、今日はこれでやめませう。

幸子から謙一あて（一九四五年一月四日の記、五日の消印）

本日（四日）お餅少々お送り致しました。稲ちやんにもわけてあげて下さい。此の前の柿と同じ位の割で着けば、九日
頃には届く事と思ひます。

それからついであつたら、同盟世界週報、毎号定期的にお送り戴き度いのですが。本屋の都合で送つてくれる様なら、
半年分位払ひこんで、本屋から送る様にして下さるとめんど^(六)うありませんが、―それは今やつて貰へないでせうね。

スメドレ女一人―森井さんをお持ちなら、暫く拝借願へる様、お頼み下さいませんか。

「判」は又わからなくなつたとかで、まだ手元にまゐりません。何と云ふ店でせう。とうてい^(七)印税用にはまにあはぬで
せう。

バンクヘット、棉花統制法のバンクヘットはB・J小作法案のバンクヘットでせうか。彼のこと、すこしお知らせ下さ
い（暇な時で結構）。

民主党第一主義と云ふ語に含まれる概念と、日本的なもの^(八)と云ふ語に含まれる排他的セクト的人種偏見のもの、―そ
れが矛盾をそらせ本質をまぎらす点、非常に類似を感じます。同じ性質の同じ作用をする麻酔剤の如きものの様に思は
れます。

ノオトが終つて、昨日から緒論のノオトからのよみ返しにかかりました。これは本日中に終るでせう。リトルページの書いてゐる中の人種偏見や、A・フランスの懷疑主義（普通云はれる）に就いて、若干感ずるところありますが、今晚でも又書きませう。

A・フランスは今までに、短篇集五冊、昔語り、わが友の書、S・ボナールの罪、タイース、レーヌベドオク、等まで読みました。ここまでの中では、云はれる如き懷疑主義を感じません。私の考へる懷疑主義は誤つてゐるのでせうか。彼は唯、今までの絶対的な唯一的な観念を否定する丈です。それが懷疑主義ならば、私も又さうであるのかしら。彼にはりつけた懷疑主義のレットテルは誤つてゐるものと私は思ひます。

現代史の楡の木影のプロムナードの外の三冊、ほしいものです。ほんやくはあるのでせう。誰か知つてゐる人で持つてゐないかしら。／二、柳の衣桁／三、紫水晶の指輪／四、巴里に於けるベルジュレ氏

さようなら

幸子から謙一あて（一九四五年一月五日の記、六日の消印）

一月五日

今日はお誕生日と云ふのに朝から曇つたまゝ冷めたい固さうな小雪がさーッと吹く風にまぢつてパラ／＼と落ちて来たり、真黒い雪雲が空を走つて流れたり、本当に淋しい日でありました。

身体の方も昨夜は熱もないのに熱のある時の様な寝苦しさで、安眠出来ず、朝五時の警報で起きてしまつたため、一日ねむい様な目の中に埃のたまつた様な不明朗な日であつて、甚だ芳しくない一日をすごしました。

勉強の方、今日明日と二日で終るプランもあつたのに、とう／＼出来ず、これも又心を満足させずに終りました。あなたからは三日も手紙が届かず、淋しい様な氣もしました。でも慰められるところは、朝も四部屋の掃除を思ふ存分にやつたこと、夕方も下の掃除全部と庭の竹箒掃除もきれいに行つた事です。午後は岸田国土さんのお話があるし、招かれでもゐたのですが、そんな訳でゆかず、炬燵でうたたねをしました。

アナトオル・フランスは大部足りないのがあつて悲観です。

楽屋裏の話（一八九四年）／花盛りのころ（一九二二）／ピエール・ノヂェール（ ）／ジエローム・コワニヤールの意見（一八九三年）／*天使の反逆（一九一四）／現代史の終三部（これは送つて下さつたのだ相でしたね）

思ひの外面白かつたのはタイイスです。前に読んだ時とは雲泥の差がありました。思ひの外詰らないのはジャン・セルビアン(1)の願ひです。

大体、今まで読んで来たのは、短篇集一〜六まで／ジヨカスト、やせ猫(一八七九)／S・ボナルの罪(一八八一)／ジャン・セルビアン(2)の願ひ(一八八二)／わが友の書(一八八五)／タキース(一八八九)／レーヌ・ペドオク(一八九三)／赤い百合(一八九四)の十三冊で、まづ前期に属するものはジェローム・コワニヤールと楽屋裏を除けば、殆んどよんだと思ひます。

*エピキュールの園(1)(八九四)―これは今夜からです。

短篇にもクランクビユー(2)其の他、いいのがあります。

ギド・カヴァルカンテイ(3)／リュシフェル／陽気なブッフアルマッコ／人間悲劇、これ等は短篇第三巻にあり、それぞれ皆すばらしくいい。とくにブッフアルマッコは、書き方も内容も何とも云へずいいです。

此の中の流れの基本を貫く考へ方は、其の後の凡ゆる作品で逢ひます。偏見について、無智に就いて、批判と懷疑を代表するリュシフェル、裁判について、どれも皆上品で物静かの中に鋭いメスを感じさせます。人間悲劇はタイイスとよく似てゐます。唯、女が出て来ない丈の相違で、無知のがむしやらの信仰がくずれゆく過程です。併し、タイイスより人間悲劇の方がずっとすぐれてゐるでせう。

短篇四、クランクビユー／ピユトア／トコ氏／住込泥棒

ピユトアを除いて、あとは皆、裁判関係です。

短篇(5)ジャック・トオルヌプロオシユのコントでは、内乱(フォリナタ・デイ・ウベルテイ)(1)がいい。

短篇(6)書ひげはたいした事ありません。

わが友の書はいいですね。前にも書いたのですが、一房の葡萄、新しき愛(齒)、ノジエール祖母さん、*シユザンヌ篇、雄鶏、仙女物語りについて。

*はレーンの心理学の幼児の心理の説明そのまゝ、レーンはこれをよんでゐたのではないかしら。

今日はヘルニア手術三人、夜は暇になり相ですから、病院も全部で百人首(1)でもし様かと云つて居ります。静かな夜です。暗幕も張つたし、サイレンが鳴つても、此のまゝつづけられます。今夜はこれと云つて何も集中する仕事は出来相もなし、何か心楽しめる本でも探して読まうかと思つてゐます。

利郎さんは何時出発するでせう。部屋の都合もありますから、決まり次第知らせてくれるといいけれど。みつちやんも一諸（お）でせうか。お正月は楽しくすごせましたか。

何か書き度いと云ふき持にかられてペンを持ったのですが、実は何も書く事はなかつたのです。

さ（お）ようなら。

謙一から幸子あて（一九四五年一月七日の記）

一月七日（日）快晴

正月三日間、いやなお客が来なかつたと思つたら、名古屋大阪へ来たのですね。尔来フィリップの戦局は急テンポに展開しさうで、昭和二十年の決定的様相が見えて来ました。また召集が来てゐます。僕もいつになるか。

あなたのむくみはどうですか。二日付のお手紙を二通受けとつてゐます。修練場の朝ちやんの話も、日本的現実ですね。あさちやんのふんがい、自分のことに感じられます。日本にはゴーゴリやバルザックが出て来なきやならない。二葉亭や独歩や秋声をもつと壮大にした作家が出て来なくては全く駄目です。漱石や鴎外では駄目です。僕はフィリップのビュビュ・ド・モンパルナスを読んだ。パリの淫売婦の話です。フィリップがドストエフスキーに傾倒したり、ジイドの友達だつたり、クローデルに愛されたりしたと云ふから大した期待なしに読んだが、ドストエフスキーやジイドとまるでちがひます。昔ビュビュを読んだ時は、ただの淫売婦小説だと思つたが、今度は見なほした。フィリップは淫売婦ベルトを食ひ物にするビュビュを描きながら、問題を正しく提起してゐる。即ち、ビュビュの悪をビュビュの魂の悪として描かず、社会組織の悪として描く。哀れなベルトの無智な生き方にも、フィリップの同情は実にしみじみとしてゐて、決してセンチメンタルに墮してゐない。

一人人間の罪と云ふものを人間の魂の中にあるものとするドストエフスキーの見解と、あなたが「我が友の書」から引用してゐる「アルフォンスは嫉のわるい子です。それはあの子の罪ではありません。あの子の不幸なのです」と云ふアトオル・フランスの言葉に代表される見解とが対立してゐる。前者の場合、すべての人間が免れ得ない魂の罪と云ふものを解決する道は、神にいのり、神のゆるしを受けることの外ない。人の罪に寛大であるのは自分も罪をもつてゐるからにすぎない。後者の場合、問題は明瞭である。即ち人間の罪を解決する道は、社会の不正を解決することにある。人間の罪はその者の罪であるよりも、その者の不幸、その根源が生ひ立ちや環境や社会制度にある、さう云ふ不幸にす

ぎないのであるから、何よりも大切なことは社会を改善することだ。この場合の罪に対する寛大は、問題が個別の罪人にあるのではなく普遍的な社会にある、それ故個別の罪人は犠牲者にすぎない、だから寛大であるべきなのであって、宗教的なものではない。ビュビュの場合も、このアナトール・フランスの立場にあるのです。それらはレーンの心理学の立場でもあり、我々の立場でもある。

あなたのリトルページのくわしい感想、アナトール・フランスの感想、いづれも大変面白く、僕もそれらを再読した気持になれます。あなたのこんな風な感想はどん／＼続けて下さい。僕の読めないものを、あなたの手紙を通して読むことになるのですから。そしてあなたの手紙に書かれたことを、僕はこちらで竹中君や臼田さん、小田中さん、森井さん、いねちゃんなどにしやべる時にしきりに利用してゐます。「今日の妻からの手紙にかう云ふことがある」と云ふ風に。そしてぼくもいろ／＼と考へる機会をもちます。

アナトール・フランスのえらさは、歴史を知つてゐると云ふ所にある。人間の罪も人間の善もすべて歴史的に理解される時、本当の理解を得る。ドストエフスキーの欠陥は彼が歴史を知らない所に発する。我々は我々の中の悪を、後れたものを、歴史的に理解する。それは本然的のものでなく、歴史的生ひ立ちなり環境なりによつて作られた、我々の負目であり不幸である。だがこの不幸、負ひ目を、悪、後れたものと認識した時、今度はこの悪を解決することは我々の責任になる。我々の罪は我々の責任でなく、むしろ受けとつたものだが、一旦それを認識した時、それを解決しないことは我々の罪になる。我々は歴史によつて不幸な現実を与へられた、それは我々の責任でない、だがこの不幸な現実とたたかふことは我々の責任だ。アナトール・フランスの原始人の齒のはなしも実にいい。僕はあなたの手紙を退屈なんか決してしてゐない。それどころかすべて大いに喜んで読んでゐる。あなたの批判はすべて正しく、僕は全副的に信頼してゐます。

プシが生きてゐるときいて、うそのやうな気がします。明日でも原宿へ行つてみませう。プシが生きてゐたなら、あそこはまだ約二ヶ月と、九月上旬に原宿へ行つた時まで全然かげも見せなかつたわけが、まるでわからない。本当にプシなのかしら。本当にプシなら何とつかまへて、ここへつれて来たいと思ひます。歩いてでも抱いてつれて来ませう。プシのことを考へると僕も涙が出て来ます。どんな風になつて、どんな風に生きて来たことやら。前の家へは入りこんだりしはしなかつたかしら。それにしても本当にどう生きて来たのでせうね。食べるものなんか本当にあつたのかしら。そして今どこに夜をすごしてゐるのでせう。僕がプシの話をすると、小田中さんと云ふ子も猫好きで、猫の姿を

見た日と見ぬ日で調子がちがふと云ふくらいらしいが、しきりに猫をかひたがつて、猫のはなしばかりします。プシの五月以来の生活が知ることが出来れば、小説を書きたいくらいです。あなたのやうな神秘主義的な考へかたには賛成出来ないけれど。

とにかく明日行つてきいてみませう。今日は出られなかつた。僕は日曜日は禁足みたいなものなのです。防空当直制度が嚴重になつて、本室でも毎夜、課長級まで含めて宿直するやうになり（之までは小使守衛だけだつたのに）、分室からも本室へ宿直に行くのです。僕だけ例外だが、そのかはり家をあけるわけに行かない。小使さんの亭主君がある時ならいいが、この亭主君も本室の守衛で、此の頃は隔日にとまりです。その為、早川君とこへの日曜の夜の通ひもずつと出来なくなりました。警報が出ても二、三十分以内に帰つてこれる所でないといふわけですね。之は調査会だけでなく、東京中の会社や工場や学校がすべてさうなりました。空屋はこはされるか強制的に売られます。疎開した金持の家では、月給を出して留守番をやとふのです。一家家なんかは家賃をとり立てて時代錯誤です。一色さんはにぎりやだと此の辺で評判が悪い。

プシに会ふことが出来るとすれば奇偶のうちだが、昨日（六日）実に奇偶があつた。本室へ行つて（本田さんから人を紹介してくれと頼まれてあつたので）その帰り、溜池の綜合印度（鈴木正四の所）へ行く用があつて、行つた所が場所がわからず、歩きくたびれて四時頃電車で下北沢まで来ておりた時、入れちがひに電車へのらうとする一人の男から肩をたたかれた。ひよいと見たが、誰だかすぐにはわからなかつた。戦斗帽やオーヴァではみんな同じやうに見えて中々わからんものです。声をかけられて浅原一朗だとわかつた。

「誰かと思つたよ。どこへ行つてんの」「陸軍の燃料局。理研から磯辺研がそつくり燃料局所属にまわされて了つてね。あんたは」「僕は経堂だ。研究室へすみこみだよ」「奥さんは」「奥さんは信州へ疎開してね。君はどこにゐる、すまひの方は」「八王子、西八王子の畑の中にゐますよ。去年のくれに近処の百姓家の娘と結婚してね」「去年のくれですぐこないだかね。それはおめでたう。家はよくあつたね」「去年の夏におやちが大連から引き上げて来て、八王子に家を買つたんだよ。そのおやちの家の借家にゐるわけだね」「それはいい」「長井とか正田とか荒木、知つてるでせう。よく会つてね、あんたのうはさしてゐたんですよ。芦田がいつか日本橋で会つたと云つてね。芦田は大阪帝大の講師になつて行つた。荒木は兵隊に行き、正田は国へ帰つて、今は長井だけしか会へないけど」「長井？ どんな人かなあ」「ひよろ長い男で、覚えてないかなあ。見たらわかると思ふけど。一度遊びに来てくれませんか、すぐわかるから。風呂もある

し、泊りがけで来て下さい。酒も御馳走もありますよ。あんたはそして自炊してるの」「うん」「栄養とれんでせう」「だつてこの通り、肥つて、身体の調子は上々だよ」「もう身体すつかりいいの。みんなで心配してゐただけど」「有難う。すつかりよくて、兵隊の召集来たら、まちがひなしに行きますよ」「着るものは?」「え?」「シャツとか何とか。不自由でせう、僕の所で縫はせませうよ」「ああ、それは大丈夫。或る程度自分でもやれるし、信州へも送れるしね」「僕も経堂へ遊びに行きますから、本当に是非泊りがけで来て下さい。長井も呼んでおくから。経堂はどう行くのですか……」。さう云ふ調子で、下北沢のホームのベンチで一時間以上話しこんでしまひました。彼はすつかり元氣さうで、昔の神経質な所もなく、いい青年です。もう一人のおでこの浅原とは感じがまるでちがふのです。あの浅原も悪くはなかつたが、やつぱり一朗君はいい。永島が死んでからは高校時代の唯一つの友人と云へるでせう。彼も僕の本の予約をしてくれました。さう云ふ奇偶があつたのですから、プシにも会へないとは限らない。

プシが僕が呼んでやつてくるやうだつたら、どんなにいいかと思ひます。その為には本当に何ものも惜しくない氣がします。

利ちゃんはこの四日にやつて来て、手術はやつぱりこちらですと云つてゐます。井福さんにごかお医者を紹介してもらはうと云つてゐます。利ちゃんがあなたへあんな手紙を出したのも、みつちゃんにすすめられてからだつたので、事情をよく知らなかつたのです。僕もこの月末にみつちゃん和信州へ行くつもりでゐたけれど、今のやうな空襲と防空様子では、行けるかどうかわかりません。それに汽車の切符も大変でせう。それよりあなたが出て来られれば、桃ちゃんの来る時、ちよつとついて来ませんか。プシがつかまつてゐれば、プシも喜ぶでせう。ただあなたの身体の調子によく相談する必要があるが、この辺は空襲にもほぼ安全だし。

僕は実は今日までかかつて、やつと森井さんを脱皮した形です。彼女をスタイリストと一口に云つて了ふのはやさしいけれど、僕はさう簡単に片づけられなかつたのです。第一に彼女は中島君のリーベであつた、そして中島君の晩年に僕の承服出来ない考へかた、ドストエフスキー的な、宿命的な考へかたが出て来て、彼と長い手紙も交換し、結局彼をして「ジエネレーションがちがふのか」とも云はせたものでしたが、さう云ふ彼の面を理解するのに彼女が媒介になるのではないかと思つたこと、第二に、あなたが僕を女の感情を理解しない、もつと女の友達をもつて女と云ふものを理解してほしいと云つたこと、第三に、彼女自身の言表をはつきりつかまへない限り、一口に片づけてしまふわけに行かなかつたこと、之等の理由でとにかく出来るだけ話しあつてみなければならなかつた。

ところがやつぱり彼女は言表をさける。そして僕の意見には共鳴しない。手紙は謎のやうな言葉ばかり（之はその中送つてあなたに見せませう）。結局彼女は、さも理論あり氣に行動してゐるが、実はさうはつきりした理論をもつてゐないし、その理論も粗雑で、しばしばまちがつており、観念的である。彼女の言葉は、いねちゃんも云つてゐたやうに矛盾撞着してゐる。結婚の問題や白田君の工場入りの問題でも、余りよく考へた様子はない。自己閉鎖的で、観念的で、固形してゐる。彼女は僕の言葉を理解出来ない。大体かう云ふ結論を得ました。若し彼女が僕と意見をかちあはせて行くことを避けるなら、僕はやはり、友としてあり得ないだらう、と今日書きました。こんなに通じない相手にしやべるのは、もう飽きて来ました。

小田中さんは僕の話を書きたいと云ひ、「アングロ・サクソン民族」のアメリカ史と、英米文学語学講座の米国史を読んでくれてゐます。尤もここ数日は松本へ帰つた筈ですが。その中白田君が九州から帰つたら、いねちゃんも加へて「プランティション」の解説をやらうかなと思つてゐます。

森井さんとの討論のいきさつを一通り書いてみようかとも思つたが、めんどうくさくなりました。僕はまだ彼女にレッテルをはることをさしひかえてゐますが、昨日と今日とかけて書いた長い僕の総決算手紙をどう読むか、それにどう態度をあらためるかによつて、すつかりきまるでせう。彼女が、彼女の言動の矛盾を指摘し、彼女の論理の矛盾を指摘した僕の手紙に、誠実に反応するなら交友は続くが、さうでなかつたら之でおしまひです。その中すつかりあなたに話させよう。

結局森井さんとの交渉で、あなたへの手紙をさぼつたのですが、之からはもうちやんとあなたへの手紙をかかさずにすむでせう。女のスタイリストと云ふものがありやうを知るためにも、この程度のエネルギーをつかふ必要があつたのだと思つて、あなたへさぼつたことを許して下さい。僕はやつぱり女の感情を理解出来ない男なのでせうか。竹中君も昨日だつたか云ひました。「君はこのところまでばかりゐるぢやないか。僕のことでも、白田さんのことでも、森井さんのことでも」と。さうかも知れませんが、今日は之だけ。

それから、あなたのお誕生日の祝ひに「プランティション」をど期待してゐたがやつぱり駄目でした。けれど、僕はとにかく「プランティション」を、あなたの昭和二十年の誕生祝ひに捧げます。日は多少ずれてもいいでせう。それから郵便局がいつ行つても満員のため、先月から送るつもりで送れないでお金、之は百元は借金の方だが、あとの百元はあなたへ進呈するつものものです。之も二、三日中には送れるでせう。

幸子から謙一あて（一九四五年一月八日の記・消印）

一月八日 一昨日来の雪止み、晴れ晴れした陽の光です。流石は寒にはいつて温度は九時すぎでも零下三―四位で、炬燵にゐても脊中の寒さのためさむけを感じます。セドフ号の人々が零下37℃―45℃位の中で三ケ年も生活した事など、奇蹟の様に思はれます。何も彼も体力と健康に恵まれてこそ望めますね。ソ聯の婦人労働者が男と同じ賃銀をとるのも、同じ条件、責任の下で、日本其の他の様な女だからと云ふ肉体的なハンディキャップを置かぬし、置かずに優にこなせるからです。それでこそ同権も主張出来るのでせう。

七日夜の南信地方敵機侵入の際は、始めてB29の爆音をき、それが頭上を圧迫する様な音を立て乍ら通過する時は、嫌な気持ちになりました。毎日あの音で責め立てられてはたまらない、とつくづく思ひました。路上にも始めて人々が出て、真□な声で敵機来襲を叫んでゐました。七日の朝五時の時もきこえました。一度は落されるものと思はなくてはなりません、此の寒いのに水をかぶつたりするかと思ふと、本當にうるさくなります。こちらにもいろいろ疎解倉庫がある相ですから、あまり安心出来ません。

朝鮮から電報が来まして、利ちゃんの手術の事頼むと云つて来ましたが、御当人からは其の後、何とも音沙汰なく、どうしたのかと思ひます。お父さんは二、三日風邪引きで、当分病院は臨時休業ですが、利ちゃんの来る頃には起きるでせう。誰か一諸に来ますか。盲腸だと重い荷物は持てぬし、何時急変するかもわかりませんね。病室は多分、上島と云ふ前の雑貨屋の二階を借りられるでせう。つき添はとうてい頼めませんから（人手不足）、私が代りに致すつもりです（利ちゃんの方で心当りでもあれば別ですが。若しかしたらみつちやんが一諸に来て、そのつもりかも知れないと思つてます）。それまでに今の風邪げや下痢が恢復する様に致しませう。

一寸も便りありませんが病気ですか。それとも又何か起きてゐるのですか。病気ならお大切に。

さようなら

謙一から幸子あて（一九四五年一月八日の記）

一月八日（月）晴

ずい分降りませんね。十二月に入つてから雨の日を殆ど思ひ出せません。曇つた日さへ少ない。降らないと水が困るかと思つたら、幸ひ冬になつて水道の水が出なくなつた日はありません。それに階下では凍つて水が出ない日が多くても、二階は暖いのか、まだ凍つた日はありません。お勝手の汲置きの水は時々凍つてゐますが。

晴れるおかげで火を起すのも楽なわけです。寒いと慾張つて余計石炭を入れるので、却つて燃えつくまで大変です。渾身の力が要り、右腕は全くくたくたになりす。そのかはり四十分もすると完全に火になつて、朝六時半に起した火は午後三時頃まであり、夕方四時半の火は十二時すぎまであります。おかげで今年は、苦勞はしても暖い冬を送つてゐるわけです。

この辺は都心より大分冷えるらしく、霜はずい分ひどく、毎朝薄雪でもつもつたやうに、どこもこもまつ白です。日かげの土は一日中ぬかるんで、歩きにくいのが、雨よりはましです。下の小使さんが、この三月から飼つてゐるのだと云つてゐた、やせつぼちの牝鶏たつた一羽を平つたい丸籠に伏せて、毎日、日当りのいい裏へ置いては「早く卵をうんでおくれよ、早くうんでくれないと食べてしまふよ。三月に買つた時は、秋頃からうむだらうと云ふことだつたのに、まだうまないですよ」などと菜つ葉の残りをやつたりして丹靑（丹）してゐたのに、昨日犬にとられて了ひました。「鳴き立てたのであはてて行つてみたらもうどこにもないですよ。くやしいこと。一色さんでも十羽ゐたのが八羽まで犬にとられたのださうですからね、奥さんがよくとられないもんだと感心してゐたんですよ。可哀さうなことをしました。ずい分手数もかけましたが、あたしのひぎをつついて餌をくれと云ふほど馴れてゐましたのに。卵もうまないで」「本当に可哀さうなことしましたね。あとで裏庭へ行つてみると、なるほど空になつた籠のまはりに白い短い羽が少しばかり散乱してゐました。こちらへ返つて来ながらふとふりむくと、大きな黒犬と赤犬とが、いつの間にか来て籠のまはりをかいでのそく去つて行きました。ベルトをつかまへに来たビュビュとジュールのやうに。

今日はプシに会ひに行きました。行きしなに下北沢のホームで、今井正に会ひました。「よう。今一柳君が来てゐたんですよ」「今仕事してるの」「いや準備してゐるんですがね。あなたの所へ遊びに行かうと思ひながら。それはさうといつか本を有難う」「いや。今度はもう少し本格的のを出しますよ」。さすがの大東京もだんく人（人）が少くなつたとも云ふのか、此の頃思ひがけない人に奇偶（奇）することが多くて、これならプシにも会へるだらうと思つた。今井君、会社へ出勤の途中らしいし、僕は銀座で食事をせねばならないので、大して立ち話もせず別れました。

銀座はさむかゝとした気持になるほど色褪せ、汚ならしくなつてゐるのに、やつぱり人は多く出てゐます。食堂と云ふ食堂の前には相かはらず長蛇の列です。もう馴れ切つた調子で、通行人をじろくみたり、物を読んだり、なるたけ日かげをさけて。鉄カブトを背に、老いたるも若きもすべてゲートルと戦斗帽姿。美松とオリンピックとで怪しげなものを、さんざん並んだ後たべる。みんなあれだけ辛抱強く待つたあげくにありつく食べ物だのに、ちつとも嬉しさうでなく「俺は何を食はされてるんだらうな」と云ふ風に不機嫌な顔つきです。それでも待つてゐる人間よりはまだいい。實際この頃外でたべさせられるものひどさと云つたら。舌をさすやうな悪臭のある、食べたあとでマスクなんかかけると、自分でも嫌になるやうな口臭が出て来る、そんなものばかり。どこの食堂でもみんな同じやうな臭がしみついてゐる。渋谷の東横グリの臭です。悪くなる直前のくじらのにほひやら何やら。それでも此の頃蛋白質を殆どとるあてがないので、やむを得ません。それに、こんなに毎日人々が怪しげなものを食べながら、相変らず街に作られる列が少くはならん所を見ると、「以前なら豚でも食はんだらうね」と云はれるものでも、別にすべての人を腹痛でなぎ倒すほどでもなささうです。それとも人々の消化器が豚のそのやうになつて了つたのか。

本室へ行つて本田さんに頼まれてゐた本を渡し、凶南社で一冊本を買ひ、日本橋の柳屋の前で、しまつた空瓶をまた忘れて来たどと悔み、地下鉄で虎の門まで。コールドクリームを買ふのに此の頃空瓶引きかへです。空いたのがあつたら送つといて下さい。此の頃毎日石炭をつかみ炊事をするので、手が荒れてすぐひびが切れたり、タキツケの木を折つても手に傷がつかます。ひげそりにも石鹼は使ひたくないで、可なり前からコールドクリームを買はうと思ひながらいつも空瓶を忘れて行くのです。虎の門では特許局の裏の綜合インド研究室を訪ねて、鈴木正四から原稿をうけとる。彼はまだ旅行から帰らないらしい。

プシがもしつかまつたら、歩いて経堂へ抱いて行かねばならないので、早く行かねばと急いで原宿まで行きました。あの辺も大きい家は大分疎開したらしく、何とか寮と云ふ札のかかつたのが多い。尤も例の一角だけは元のまま。「ごめん下さい」と辻岡さんへは入る。「あら、お珍らしい。あけましておめでたうございます」「ムニヤク（口の中であいさつ）、プシがあらはれるんですつて」「ええ、十一月末ごろから出て来たのですよ。よく二階へ来て日なたぼつこしてゐますわ」「今ゐるかしら」。するとそばにゐたあき坊（だつたかしら）がどんくくと二階の段ばしごをかけ上る。「何でもずつと下の方へ、ずい分遠くへ行つてゐたらしいんですよ」「プシゐないよう。今ゐない」「ああさう、有難う。プシつかまるかしら」「うん、ぼくいつでもすぐつかまへるよ。抱いてやるんだよ」「ぢや今度つかまへてお電話下さい

ませんか。すぐやつて来ますから。歩いて経堂まで行くから午前中の方がいいです」「ぢやさうしませう。本当に可哀さうなんですよ。最初ね、プシの声がするんでせう、プシく〜て呼ぶとちやんとなくんですよ。だけどちつともうちの方へ来なくて、お宅の方の玄関やら二階やらをぐる〜まわつてなくんですの。だけど今のお隣、二人とも猫嫌ひでせう。結局は入れずに二階のうちの屋根で日なたぼつこするか、どこか遠くへ行つて了ふんですよ」「さうですか、でもよく生きてゐましたね。どこにゐたのかしら。十一月末と云ふと、五月からだから六ヶ月ですね。よくあんな甘え猫が、こんなご時勢に生きぬいて来たものです」「奥さんからお手紙来ましてね、昨日私の方からお出ししましたわ」「もうとどくころだよ。おじさん(おぢさん)」「まだですよ。時々うちで呼んでごはんをやるのですけれどね、家にも猫がゐるものだから、は入つて来ないのでですよ」「ぼくのおさかな、やつたよ。プシに」「さう、それはありがたう。あ、これですか、新しい猫ですね、可愛い猫ぢやありませんか」と、出て来た中くらしいの大きさのきじ猫をだきあげる。このきじ猫は、プシの虎斑がそのまま、きじ斑になつたと云ふ形で、胸から腹が白く尾も短く、顔までプシに似てゐるんです。「可愛い猫だな」「今度は男猫なんです。前の猫ね、大家さんがやかましいでせう、何をとられたかをとられたとか云ひましてね。だから可哀さうだけれど、つて来しましたの。今度のはおとなしくていい猫ですよ。プシと仲がよくて、しじゅう一緒にゐるんですよ」「さうですか。プシに似てゐますね」「今度坊やを疎開させるので、その猫どうしようかと思つてゐるんですよ」「僕ほしいな。プシがつかまつたらいいけれど、つかまらなかつたらこの猫貫はうかしら。でもこの猫、プシの友達なら、プシから友達をとることになつて可哀さうだなあ。一匹ともほしいですよ」「ぢや猫のしまつに困つたら、貫つていただかうかしら」「プシ、やせましたか」「さうですね、そんなにやせたやうに見えませんが、やつぱり毛がよごれましてね。可哀さうですよ。もう大分おじいさん(おぢいさん)でせう。物をたべるのにも、よだれなんかこぼして、見てゐると可哀さうなんですよ」「さうでせうね。僕も余りくわしくきくと、泣いて了ひさうなので困つて、こちらからはきけないのです。おどくしながら食べることだらうと、あの顔を思ひ出すと、本当に涙が出て来しました。それにしても六ヶ月もどこでどうして過(と)ごして来たのでせう。之まで一週間と家をあげたことがないのに。人間が、昔なら豚も食はんやうなものを食べて生きてゐるやうに、猫も昔ならどぶ鼠も食べなかつたやうなものを食べて生きてゐることが出来るのかしら。「では本当につかまへたら、御面(ごめん)外でも御電話下さい。すぐやつて来ますから」と云つて引きあげて来ました。下の方へよく行くと云ふので、帰りは大河内家の辺から下の方をずつとまわつてみましたが、浅原や今井正に会へたやうにうまく会ふことは出来ませんでした。

帰つたら、あなたの五日付のお手紙と小包とが届いてみました。小包みは何だらうと思ひながら、手紙にも何も書いてないので、本当に書籍かしらと思ひながらあけて、途中から、ああさうかと気がついたが、やっぱりさうだったので大いに嬉しく思ひました。早速半分づつにかけて、半分を紙袋に入れ、之は数日中にいねちゃんに届けませう。今日はくたびれたから。本当にどうも有難う。此の頃米ばかり、野菜はかぶばかりで、毎日同じものをたべてちよつと嫌になつてゐたところなので、とりわけ嬉しく思ひました。早速やいてたべました。僕もあなたの誕生日も送らずに來ましたが、今朝為替をくんで來たので、とりあへずお金だけ送ります。前便にも書いたやうに、百円はあなたへの借金返済、百円がプレゼント。物も買ってありますが、こはれたりするといやです。僕が行けたらその時持つて行くか、桃ちゃんが來た時たくしませう。大したものぢやないけれど。

お身体の具合やつぱりよくないですね。こんな所にゐて何もしてあげられないけれど、どうか自愛して下さい。

アナトオル・フランスの、天使の反逆や現代史の残り、ないので。現代史は本田さんからかりられるかもしれないが。ピエール・ノジュールは、いつかお父さんか桃ちゃんへプレゼントしたと思ひます。新潮文庫です。花盛りは買ひこなひました。探しておきます。「白き石の上にて」はあるでせうね。ジャンヌダークを、たばことお茶と一緒に送りませう。短篇集は七つあつたと思ふが。「エピキュールの園」は「我が友の書」と同系統で、僕の好きだつた本です。僕のおしやべりの材料もずい分その「園」から得たのをあなたも知るでせう。

僕は今バルビユスの「地獄」を読んでゐます。この「ビュビュ」と「地獄」のある本は、あなたへ送りませう。小此木君から借りたものですが。

「地獄」の一番はじめに、「忘れもしない、幼時から私には多量に感覚のひらめきと神秘的な感激があつたものだ。そしてとかく自分の過去の事ばかり考へて引込み思案に耽る傾向が病的と思はれるほど強かつたものだ。私は自己を他人に例のないもののやうに買ひ被つてゐたものだ。さうして私は他より数等勝れてゐるやうに考へ込むに至つたのである。が、そんな気持も月日が経つと共に段々と消えて行つて了つたのだ」とあります。この所で僕は森井さんの手紙の次の所を思ひ出した。

「拙い筆で自分の生ひ立ちの記をかくことで、わかっていただけるか考へ、頭の中でそれを組み立ててみたらなども致しましたが、結局、或る点―問題の私の精神生活の内容といふ所で、とても云ひ尽せない、わかっていただけの苦がないと自身の精神生活の變の多様さに表現の匙を投げ出すより仕方がないのでございます」。そしてまた彼女の次のや

うな言葉も。「私のやうな人間はきつと非常に少いのでせう」。

所がバルビュスは、さう云ふ気持も月日と共に、外界現実との接合の深まりと共に消えて行つて了つたのに。

だが僕は、スタイリストと云ふものを、スタイリスト自身に告白させることによつてしか克服出来ないと思ふのです。スタイリストと云ふものについて、検討することも必要だと思ふのです。いづれにせよ、インテンシヴ（内向型）の精神動態が外界に対する自己閉鎖としてあらはれ始めたのが、一九世紀後半、インテリゲンチヤが自己の歴史的意義に確信を失ひ、社会及び歴史の力に自信を失つて後の現象であることが、バルビュスやジイドにもはつきりあらはれてゐるのでせう。バルビュスはさう云ふ自己閉鎖を克服したが、ジイドは反対だつた。クラルテや砲火も読みたいし、「スターリン伝」も読みたいと思ひます。バルビュスのスターリン伝は恐らく一番読まねばならぬものの一つかも知れません。尤も三〇年代の初めまでだから、一番大切な部分（三〇年代）が含まれてゐないことになるが。シヨパンのプレリュード十五番（雨滴）は仕上げました。今三番にかかりました。では今日は之だけ。

謙一から幸子あて（一九四五年一月九日の記）

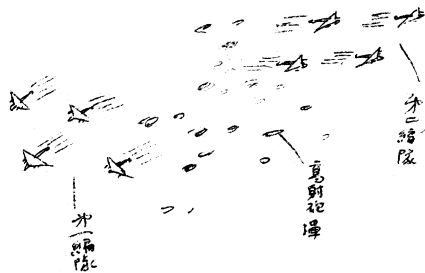
一月九日（火）曇晴

今朝は摂氏六度で曇つてゐるせい⁽²⁾か、十二月以来殆どはじめてのやうな霜のない日でした。気温は低くないが、日が照らないといかにも寒さうなので、コンロを二つ起しました。今年はコンロのおかげで去年のやうな霜やけにはならないかはり、ひびが切れさうです。やつぱり右手がひどい。

午前中に本（白き石、ジャンダーク、母）とたばこのは入つた小包と為替とを出しました。三十分近く並ぶのです。「中味何ですか」「おいもの干したのとたばこ」「之は何ですか」「たばこ衣類」と云ふ風に、たばこを送る人が多い。何日ぐら⁽³⁾いかかることかしら。

おひるに久しぶりに空襲警報が出ました。先月廿八日以来のことぢやないかしら。夜半のは少数機で、大てい空襲警報が出ません。「敵も相当なものだね。今朝あれだけ曇つてゐたのに、午後になつたら晴れるとちやんとわかつてたんだらうね」「それはどうだか。だけど晴れてる方が盲爆されなくていいさ」。

第一編隊は静岡から関東西南部へは入り、帝都上空を通らずまづすぐ関東北部（太田とやらに中島の工場がある）へ行

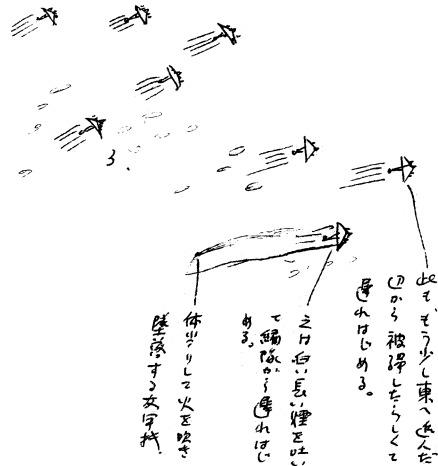


き、暫くしてそこから西南進して帝都には入りました。四機だが西風が強いらしくて、西へ向ふのが停止してゐるやうに見える。之はいつも通る中央線の上空を八王子の方へ向つてゐるのです。ここから見ると、六、七十度（地上から）北寄りに見えます。第一編隊がこの真北に平行に来た時、西の方から同じ線を逆に東進する四機があらはれました。之は第二編隊で八王子の方から都心に進むのです。間もなく上図のやうに行きがちがつて、第一は西南へ進路を変へ、第二はそのまま東進しました。友軍機らしい白点が時々そのまはりに見えたが、青い水の中を白いいかが足をひいて泳いでるやうな敵機は、そのまま進んで行きました。本当にいかかくらげのやうに見えます。何れも四本の白煙（余り長くない）を引いてゐて。高度は七千米ぐらいでせう。いつも乍ら銀色に光つて敵機のきれいさは全く見惚れるほどです。パッパッパッとねずみ色の高射砲弾の煙が周囲に出来て行きます。

天軍

はじめ頃は伊豆半島から富士山の東側を通つて、小田急に沿ふやうに東京へは入るか、または北進して八王子辺に出て、中央線を東進するのがまじりでしたが、此の頃は大きい静岡からは入つて、富士山の西をまわつて八王子へ出るやうです。また房総半島から東京湾のふちに沿つて来るのや、鹿島灘からは入つて西南進してくるのやら、いろいろです。此の頃は月があげ方の二十何日月で殆どないも同然なので、この間中のやうな夜半に来て月夜の漫步と云ふやつをやらなくなりました。

間もなく第三編隊が西南からあらはれました。今度は八機で、上図（次の頁の上）編者注のやうに、六千米ぐらいの高度で青空を進んで来ます。やはり中央線沿ひの上空なのでせう。丁度経堂のま北あたりへ来た時、露台で見ると、この家の棟の方向に平行にま北に（荻窪か阿佐ヶ谷）来た時、東から白い点のやうな友軍機が、敵編隊最左翼の一機へ向つて正面からツツと近づいたかと思ふと、あつと云ふ間に接触し、とたんにまつさをな空に美事なほど、巨大な火花のやうなまつ赤な火を吹いて友軍機が空中分解したらしい。敵機もいかの足のやうな飛行雲と別に長い濃い目の白煙を引いてだんかゝ遅れはじめたが、友軍機の方は灰色の煙を弧型に引いて黒点となり、空気中へ消え失せるやうに墜落して行きました。「凄いい火を吐いたね、敵も落ちるね」。みんな東へまっすぐとび去つた敵編隊を見送つたが、たしかにあれは落ちるでせう。



火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす

火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす
火を起さうとす

今日はあなたの四日付お手紙が届きました。五日付のとあとさきしました。同盟週報は僕も買つてゐるのですが、中々買へません。誰かに頼んでおかうかと思つてゐます。買つたら送りませう。あなたのでせうね。そんなら僕の買ひ置きもそつくり送つて、あなたに保存しておいてもらひませう。こちらでは分室を見られますから。お餅は八日につきました。

今日の夕方、火を起さうとしてゐたらいねちゃん came したので、炭とお餅をあげました。炭は余りいい炭ぢやないが配給になつたので。僕は石炭をつかふから炭はめつたに使はないが、すぐ起したりするには炭の方がいいので、とつておく必要もあります。いねちゃんは何かまた質問をもつて来たのかも知れないが、今日は僕の部屋で帰りがけの堀江、竹中、八木、松村、西井の諸君が、がやぐとノートラをやつてゐたので、二、三日中にいねちゃんとこへ、また炭をもつて行つてあげるからと云つて、帰へしました。

スメドレーは森井さんから借りて送りませう。小田中さんにさきに読ませるかも知れませんが。バンクヘッドはアラバマ出身で、農業関係の法律は大ていさうらしい。尤もバンクヘッドは一人ゐて John Hollis Bankhead (1872) William Bankhead (1874) 兄弟が親戚らしく、J.H.の方は上院議員で、Wm.の方は下院議員です。どちらもアラバマ州ラムル郡(ラムル)で、法律家で、民主党で、特に J.H.の方はいろいろ農業に関係してゐるやうですが、くはしくはわからない(改良主義プランターかもしれない)。農業関係の法律は J.H. (上院議員)の方です。併しバンクヘッド自身はジョージ・ノリスのやうな特に注目すべき人物ではなささうです。ノリスの方は T.V.A. の名と結ばれ、西部農民自由主義者の驍将です。ウォレスもさうです(現副大統領)。民主党第一主義と日本主義とはちよつとちがひます。よく似てみえるがやはりちがふ。民主党第一主義の意義は、僕が発見したやうなものです。むろん今迄の人も考へてはゐるが、その全意義をはつきり把握したのは、とにかく僕です。だから第四章のあのあたりはよく読んで下さい。

今日は白田君から小使さんにたくして手紙が来ました。九州へ二週間行つて来て、七日に帰つて来たらしい。工場入りの不首尾で、彼女大分反省したやうです。結局彼女は、まだはつきりした自分のものをもたなかつた。僕の話をきいてゐる時は僕流に考へようとし、森井さんの話をきいてゐると森井さん流に考へる。その森井さんから工場入りをもち出されて、ついそのまま行く気になつたのでせう。それが不首尾になつて彼女はすっかり自信がなくなつた。

九州へ行く前に森井さんは彼女に「何でもいいから結婚してしまひなさい。そして苦しみなさい。あなたは追ひつめられて逃げ場がなくならなければ苦しまないから」と云はれたので、「さうしようと思つて殆ど決定するつもりで」九州で彼女の兄の友人と見合ひをしたのださうだが、「やはり出来ません。……嫌なところは全然ないし、いわゆる結婚の相手としたら上の部でせう。話してもみました。でも駄目なのです」。

この事なんです。僕が森井さんに決定的に反対したのは。「白田さんの本心は結婚したがつてゐるんだから、結婚させて苦しませるといい」と森井さんは僕にも云つたのです、三日の日に。「それは断然いけない。白田君が結婚したがつてゐるのが本心であつても、さう云ふ風な形で結婚と云ふものを考へるのは罪悪なのだ、人間関係の真実に敵対するものなのだ、と強く教へて阻止せねばならないのに。僕が竹中君にこんなにしつこく反対するのは、見合結婚と云ふやうな人間関係の不合理、不合理な人間関係の苦しみ、を世の中から一つでも少くしようと思ふからなんです。我々が個人として何に最も苦しんで来たし今も苦しんでゐるか。我々は我が国の社会の解放の不充分を意味する、解放されざる人間関係、不合理な不正な人間関係、に一番苦しんで来たし、現に苦しんでゐる、個人生活の中では。そしてさう云ふ不合理な人間関係の基底的なものが、家族制度であり、内容で結びつかない家庭、夫婦、結婚の関係なんです。日本人の個人生活に於ける最大の決定的戦場は家族制度と云ふものだ。家族制度が戦場だと云ふ意味は、家族制度の中へは入つて苦しみたかへと云ふ意味では全くない。反対に、さう云ふ不合理な人間関係から自他を解放すること、自他を解放するために戦へと云ふことを意味する。若い世代に対して、お前達は苦しみようが足りない、もつと人生を苦しみなさい、と云ふのもいい。だがその苦しみが、不合理な人間関係を作らせること、見合結婚をして苦しめと云ふのは、まるで世の不幸な母親達が、自分達が余りにも家族制度に苦しめられて老いたために、嫁にも苦しめと云つて苦しませるのと同じだ。世の母は、さう云ふ人間性を毀損するやうな苦しみを、もう娘達に苦しませたくない、自分達が苦しんで来ただけでも沢山だ、自分達が苦しんだのは、若い世代に同じ苦しみをさせたくないからだと云はねばならぬ。人生を苦しむとは、人生の否定的な面で苦しむことではなく、人生の創造的な面で苦しむことだ。人生を不合理

にすることで苦しむのではなく、人生を解放するために、自らをも他をも解放するために苦しむことだ。それこそが人間の苦しみであり、人間をきたへる、真に人間的たらしめる苦しみだ。若しすべての人が、家族制度や不合理な人間関係の中で苦しまねば人間的に成長しないと云ふなら、人間社会と云ふものは、いつまでたつても進歩と云ふことがない。そんな風に云つたのです。それについてまだ森井さんははつきり返事してゐない。僕が、「結婚と云ふやうな決定的に重大な問題で妥協するやうな人間は、他に何にも創造的なことは出来ない」とか「恋愛以外の結婚と云ふ人間関係は罪悪だ」とか、いろいろ云つたその一つ一つの言葉には、同意せざるを得ないらしかったが、結局「あたしは別の生き方をもつてゐるのです。やつぱりあなたとはちがふのです。だからこの問題はよしませう」と云つて、今後かう云ふ問題以外のことで話したいと云つたのですから。

だから僕は最後に書いた長い手紙で、さう云ふ人生の重大事で意見をただしあふことをよして、ギリシヤ悲劇の勉強をやらうなんて、僕は理解に苦しむ。僕は森井さんがいろんな問題について自己閉鎖的で、之まで多くの人と話し、人から聞く、と云ふ風なことをしなかつたので、余りよく考へてゐないのだらう、さうとしか思へない、と書いて行きました。そして僕が疑問とすること、臼田君に工場入りをすすめたかと思ふと結婚をすすめる、生活的現実で討論をよしてギリシヤ悲劇で「具体的に」話して行きたいと云ふ、愛と云ふものを神秘化する、「論理をこえた真実」なんかを認容する、目標は同じだが方法がちがふのだと云ふ（方法がちがふと云ふことは世界観がちがふと云ふことだのに。目標よりも方法が重大で、その方法と云ふのも正しいのがいくつもあるのではなく、いつでも本当に正しい方法は一つしかない、その唯一つの正しい方法の為に凡ゆる論争があるのだのに）等々、彼女の矛盾を一々指適^{さしあた}して、之等は世界観の相違としか考へられない、だが、「あなたも目標が同じだと云ふ言葉で恐らく世界観は同じ方向にあるのだと云はうとしてゐるなら、世界観の成熟の程度がちがふのだらう、あなたはまだ充分よく考へてゐないのだらう、それならもつと討論することこそ必要だのに」と書いておきました。

とにかく臼田君の方が脈がある。「本当に救ひやうのないオブローモフなんです、歴史に参加する資格のない人間なんです、さうではないとおつしやつて下さい。まだ脈があるとおつしやつて下さい。九州からの帰途、暫くどなたの話もきくまい、私も話すまいと思ひましたので、森井さんにさう申し上げました。でも貴方にお暇とお気持がおありになつたらいらつして下さいませ、眠りこけてゐるならたたきおこして下さいませ」と云つて来てゐるのですから。

僕も、小田中さんが帰京したら（目下松本へ行つてゐる）みんなに「ブランテイション」の講義をしようと思つてゐる

のです。森井さんも参加するならして下さいと云っておきました。いねちゃんもきくでせう。いねちゃんは時々質問をもつて来ます。

では今日は之だけ。

謙一から幸子あて（一九四五年一月一〇〜一一日の記）

一月十日（水）晴

一月八日付の御手紙拝受。僕の手紙が届いてゐないさうですね。今年になつてからは一月二日か三日、六日か七日、九日、十日と四回出してゐます。カレンダーがなくてつけられないのですが、此の手紙は本年度No.5になるわけです。利ちゃんは、今痛むわけでもないの、東京でやることにしたと、No.2の手紙でたしか書きましたね。

B29南信へも来ましたか。此の頃また毎夜あらはれ始めました。このまを通らないので（やや北寄り）寐てゐますが、近くに高射砲があつて、窓にひびく凄惨な音でよく射ち出します。B29の爆音がだん／＼近づいて、すぐ側（四、五丁はなれてゐるのでせうが）の高射砲がドカン／＼と鳴つて、半鐘の音と一緒に「タイヒ、タイヒ」と叫ぶ声がすると、やつぱり気持ちよくありません。大てい此の頃は眼をさまして、ラジオのスキッチをひねつて聞き耳たてるだけで、高射砲がなると、破片が屋根をつらぬく恐れもあるので、「クワバラクワバラ」と時代がかつた呪文を口の中で考へつつ、ふとんをかぶつて眠ります。高射砲と云へば、九日の昼の空襲では、日本橋の本室の近くで空を見てゐた女の二人が、高射砲の不発弾で即死したさうですから、ブッソーですね。

お父さんのお風邪はその後いかがですか。タバコを送りましたから、早くつくといいが。あとまたすぐ送りませう。パン茶を少し買へたので一緒に送りませう。昨日は小包と為替と二つとも郵便局へ出してすぐ空襲でせう。千歳郵便局のすぐそばに高射砲があるさうですから、こいつが鳴つてバクダンか焼夷弾を郵便局へ落されたら、よく／＼運が悪いと云ふことになるわいと思つたものです。

今日はアナトオル・フランスの懐疑主義について書いてみませう。アナトオル・フランスは十九世紀末懐疑主義の代表者のやうだが、それ以前にどう云ふ懐疑主義があるかと云ふと、フランス・ルネサンスのデカルト、モンテーニュ、それからぐつとさかのぼつてギリシヤ末期の（ヘレニズム時代）ピュロン（之が所謂スケプティズムの本来本元）、

それからエピクロス、エピクロスをさかのぼるとデモクリトスにまで行く。外に詭弁派（ソフィスト）がある。スケプティズムにもいろいろあるが、思想上のスケプティズムの大潮は大体右のやうです（デモクリトス、ピュロン、エピクロス、ルクレチウス、ソフィスト、モンテーニュ等についてはフォアレンダーの哲学史、またはシュヴェグラーを参照）。

デモクリトスのスケプティズムは、常識的知、感覺的知に対する懷疑だと思ふ。デモクリトスは世界の唯物論哲学の最初の最大の代表者です。原子論（世界は微細の原子の凡ゆる種類の複合から成るとした）の創始者です。彼はとにかく現象的知識、表面的認識について懷疑し、より本体的知識、より奥深い法則の認識を主張するのです。彼は一切の常識的な現象的な知識や認識に満足しない。さうして現実の本質、本体、真実を追求する、その彼の追求の結論が、世界は物質的原子から成ると云ふ命題です。この場合のスケプティズムは弁証法的です。そして問題はより進んだ世界認識、世界観努力にある。之より少しおくれソフィストが出る。ソフィストは「弁証」論者、即ち論理技術者とも云ふべきもので、論理の矛盾を追求する（ゼノン）。彼等は物の矛盾、論理の矛盾をバクロするだけで、デモクリトスのやうな体系的な世界認識を導き出さない。それにソフィスト達（ソクラテスもその一人）の特に注目したのは、デモクリトスのやうな、人間社会をも含めての世界認識（世界観）でなくて、もつと倫理的な問題です。人間社会の風俗や倫理です。だからソフィストは教育者でもあつた（ソクラテス）。彼等は社会の倫理の既成のもの矛盾をあげて、より真実な倫理を建設しようとした。併し多くのソフィストは論理技術者に墮した。

ヘレニズム時代になるとギリシヤ社会は爛熟し、知識は大いに進むが、もうギリシヤ人達は歴史の主体たるの自信を持ち得ない。デモクリトス時代のやうな社会上昇期の、歴史的な進路に自信をもつた時代とはちがふ。そこで世の中の凡ゆる矛盾、もはや歴史前進力を失つた奴隷制社会の一切の矛盾が、高度の知識人達の観念を満足させず、それを前進もさせない。ギリシヤの叡智は歴史から遊離して、その絢爛たる無内容を展開しはじめ。ギリシヤ彫刻はその発達した形象力を以て美事な芸術を作り出さうとするが、歴史的内容を失つてゐるために、彼等のとらへるものは、無内容なパッションである。かう云ふ時代のスケプティズムは、ピュロンの場合、やはり倫理学的に出て来る。苦しく希望のない時代、この時代の無内容な形式上の絢爛に懷疑する。彼等は歴史を信頼出来ない、しかも歴史から遊離した時代の開花にも満足しない。彼等は歴史を人生を懷疑する、そして解脱を欲求する。時代の混乱の中に自らの歴史的進路を見出し得ないギリシヤ的叡智は、一切の懷疑の中に解脱を見出し、平安を見出す。さうでせう、何にもより所がなく、たしか

こと（歴史）がわからないやうな時代には、疑ふこと、相対主義、の中により精神の安住は見出せないでせう。歴史を信頼し得ない叡智は、人間をも、知識（歴史的に無力な）をも信頼し得ない、信頼しようと思ひになると裏切られ転倒させられるから、一切を信頼しないと云ふ態度をとる、さうすると裏切られもしないし精神の動揺もない。

だからピュロンは一切を信頼しない懷疑家であるのに、道徳的には実に立派な人だった。彼は社会的悪を歴史的に解決し得なかつたので、観念的に個人的に解決または解脱したのです。そしてピュロンは印度の思想に影響されてゐる。印度もまたヴェダの時代の後になると社会悪が甚だしくなり、民衆はそれを歴史的に解決し得ず、ここに解脱救済の欲求と思想とが起つて、仏教なんかが生れる。仏教は歴史的輪廻（リンネ）（歴史が進むのでなく果てしなく希望なきくり返へししかしないと云ふ悲しい認識。インドの社会の苛酷さの反映）を業（ごう）と見て、現実の業から脱却すること教へる。それも一つの現実の解決だが観念的解決である。かくてインドの懷疑思想は歴史、人生、苦しみでしかない現実への懷疑であり、それを一切を無、空、と観ずることによつて自らをその永却の苦から脱却する。

デモクリトスもシヤカから少し後に印度まで行つて、インドの懷疑思想を知つた筈だが、彼はギリシヤ的な歴史的向上の現実の中で、そのインドのスケプティズムの内容を承認し得ず、認識（世界観的、世界認識的）のための懷疑と云ふことだけを撰取した（撰取なのか自己の創出なのかわからないが）。所がピュロンになると時代はインド的に近い。だからピュロンのスケプティズムは、インド思想の影響が大きい。即ち、世界観、世界認識が問題であるよりも、解脱、個人的身の処しかた、精神の平安、が問題です。タイスの中にもピュロンのスケプティズムが出て来ますね。エピキユロスも同じ時代です。彼にあつても問題はピュロンと同様に、歴史的希望のない時代の叡智の安住欲求です。彼もまた歴史、人生、認識、に信頼出来なかつた。彼もまた一切を懷疑した。

ここまで書いたらサイレンです。電灯を消します。以下、明日書きませう。

一月十一日（木）曇

昨日につづいてエピクロスを書かうと思つたら、ダイヤモンドの松沢氏の電話で、新聞研究会で何とか氏の世界情勢講

□があるからききに来ないかと云つて来たので、行つてみませう。これはこのまま出します。

謙一から幸子あて（一九四五年一月一日の記）

一月十一日（木）曇雨（一時）

昨夜の続き（手許に材料が全然なく、思ひちがひしてゐることもあると思ふが、どうか読んで下さい。そして僕の結論について、あなたも考へて下さい）。

エピキュロスはピュロンと同時代人。やはり歴史的前進内容を失つたヘレニズム時代の思想家の一人。この時代の文化的絢爛と社会的政治的頹廢・不健全・無希望との矛盾から生れた哲学に三派ある。ピュロンの懷疑主義派とエピキュロス派（感覺主義）とストア派（道徳主義、主知主義）。

懷疑主義は歴史、人間に対する懷疑を基礎として、人間の認識力を懷疑する。人間は真理を認識し得ないではないか、一切の永遠の真理と思はれるものもすべて相対的ならつろひ行くもの、むなしいものではないか、一切のものは矛盾ではないか、さう云ふ矛盾だらけの認識を頼りにするから、精神は不斷に動揺させられ、不安になり苦しくなるのだ、だから我々は何ものも絶対的なものとして信頼せず、すべてを懷疑することによつて、精神の安定をはかるべきであらう。かくてピュロンは、人間の理性も感覺も信頼せず、一切の懷疑と相対主義の中に精神的平安を見出した。かくの如きが歴史的に希望のない不正不健全の世に於ける知識人、知識の無力を思ひ知らせられた知識人の一つの生き方だつた。

ストア派は、やはり感覺を信用出来なかつた。だが彼等は知性または理性を信頼した。理性のみが眞実を認識し得る。だが歴史的に眞実なるものの感じがたい時代であつたから、彼等は個人的に理性を以て考へぬかれた峻厳な道徳主義、個人的道徳的完成に精神的平安と生き方、生存価値を見出した。彼等は理性を感覺から切りはなして唯一つの人間認識力としたために（実は理性は、感覺知の進んだ段階に外ならず、感覺こそ認識力の外界との交接機関であるのに）、感覺を拒否し禁欲主義となり、反自然主義となつた。ストア派はキリスト教主義と共通する要素が多い。何れも感覺的なものを退け、自然なものを退け、禁欲主義であり道徳主義である。たゞ一方は哲学的に思索理性を通じてそこへ行くのに、他方は宗教的に信仰と愛とを通じて行く。殊にキリスト教主義が、初期の「愛」の内容をうすめて道徳的禁欲主義、現世拒否、天上幸福希求を強め、やがてローマ帝政によつて支配のイデオロギー体系に転化させられる頃には、ストア

哲学とキリスト教主義の反自然主義、禁欲主義、ドグマティズムは、アリストテレスの教義と共に封建道徳の主軸に適合させられて行つた。哲学は宗教の侍女となり、全中世は、キリスト教とストア哲学とアリストテレス主義との混合発展たる神学によつて、精神的に支配されるやうになつた。

エピキュロスはストア派に反して、感覚に重きをおいた。彼は感覺的知を信用したわけでない。むしろ感覺の頼りなさ、人間の認識力の頼りなさを知り、人間の認識力を懷疑した。その点ピュロンに似てゐる。だが彼はデモクリトスの唯物論哲学を継承した。デモクリトスも感覺的知を懷疑したが、彼は感覺と理性とを切りはなさず、感覺的知や常識に満足してはいけない、もつと深く物の本体へ理性を以ては入つて行かねばならないとした（唯物論）。所がエピキュロスは感覺を信用しなかつたにも拘らず、その感覺より外に認識の直接受容器がないのであるから、之を拒否出来ない、さりとて感覺と理性とのデモクリトスの統一は、時代の不健全、歴史的内容の欠除に於て考へがたかつた。エピキュロスにとつてもまた、ピュロンやストア派と同様に、末世に於ていかに生きるか、歴史的本道のない所でいかに生きるか、不正な現実の中でいかに生きるか、が問題だつた。倫理学が問題だつた（歴史上向期のデモクリトスには、倫理学よりも、倫理学をも含めた世界観がより問題だつた）。だから彼は現実に対する懷疑を、感覺主義の独断で克服しようとした。太陽は眼に見える大きさでないだらう、眼は物の実体を把握出来ないのだから。だが我々は太陽の大きさは眼に見える大きさ、三寸直径か四寸直径の円盤であると思へばいいではないか。感覺でやつて行つてやつて行けないわけぢやないのだから、どうせ信用出来ないにしても、感覺の自然を受け入れて行けばいいではないか。だから彼は一切を懷疑した上で、感覺の自然を受け入れた。この点ストア派と正反対だつた。我々にとつてエピキュロスが、同時代の懷疑派やストア派よりも興味深いのは、他の派は倫理学以外の面で貧弱であるのに反して、エピキュロスがデモクリトス哲学の延長として自然哲学、世界觀的面をもつ点である。エピキュロスもデモクリトスを承けて原子論を主張した。所がやつぱり時代の差があらはれる。歴史的前進時代のデモクリトスにとつて、歴史は必然的に進むことを見たデモクリトスにとつて、原子運動や自然の發展の必然性は自明であつた。人間はその必然性を中々認識し得ないにしても、自然、人間、歴史は必然の理法を以て運動してゐる。之に対して歴史の必然を信じ得ない没落期の人間であつたエピキュロスは、原子運動に偶然性をとり入れた。彼にとつて必然性のみでは世界を理解出来なかつたのだ。このエピキュロスの原子論の偶然要素は、彼の感覺主義、自然主義と照応してゐるのでせう。

さう云ふのがエピキュロスであつた。そしてエピキュロスの感覺的唯物論は、神を否定した。神とは人間認識のあちら

こちらの空所に住むものにすぎない。その空所を美しくはするが、本当に神々が実在すると云ふものでない。このエピキュロスに没落期ギリシャ文化、ヘレニズム文化の典型があらはれてゐる。ストア派がローマ人に多く受け入れられたのに対して、エピキュロス派はギリシャ人に受け入れられた。エピキュロスの世界観的要素はローマの詩人ルクレチウスに継承されて、「神々は渇く」の中のプロットウ爺さんが愛読しておかぬ「自然の性質」に美事な結実をした。所が末期的時代には、エピキュロスの世界観的要素よりも、倫理的要素の方が継承者が多く、殊にその感覚主義が俗流化されて、エピキュリアンとは享楽主義者のことになつて了つた。その為にキリスト教主義はエピキュロス派を最も敵視し、中世に於てはエピキュリアンの享楽主義と一緒に、エピキュロスの感覚的唯物論、自然主義、友情主義その他一切も拒否され、ほうむられて了つた。

エピキュロスを歴史的埋没から掘り出したのは、ルネサンス時代のフランス哲学者ガッセン^(註)デイであつた(ルネサンスの主流は、中世神学の中にキリスト教主義と合体したアリストテレス主義を、プラトン主義によつて否定する形であらされた。イタリア・ルネサンス等のヒューマニストとはプラトン主義者、新プラトン主義者(プロチノス)であつた)。ガッセンデイはデカルト等と共に、フランス・ルネサンスの哲学的代表者であつて、機械論的唯物論者であつた。彼はエピキュロスの感覚的唯物論と自然主義とを再認識したのである(此のガッセンデイはモリエールと交際した。僕はモリエールを読んでゐる中に、モリエールのドラマツルギーの中に、エピキュロスの偶然原子論の要素を感じたので、しらべてみると、やはりモリエールがガッセンデイと交はり、ガッセンデイがエピキュロスの再認識者だつたと云ふ事実を知つたのです。モリエールの喜劇には「偶然」と云ふ要素が実に面白く出て来る。人生の或るドラマに対して、自然かまたは人為的の偶然が働いて、事件を解決して行くでせう。例へばタルチュフ。一家へは入り込んだ偽善者のありかたを普通の形で、事件の必然の経緯で、解決出来ないと思つた時、妻女は芝居をやりませう。あの芝居が人為的偶然なのです。さう云ふ手法はモリエールでは実に多いでせう。だからつい僕はエピキュロスの原子運動を聯想したのです。そして調べてみたのです。この問題をいつか本田さんに話し、北条君に話したら、非常に興味をもたれました。むろんまだ之だけでは、この二つは結びついたと実証出来ないが、実証出来たらドラマツルギーと哲学との関係について、新たな材料を加へることになるでせう)。そしてこのエピキュロスの諸要素が当時のフランス文化の代表者達、モンテーニュやパスカル等の懐疑主義やその他へは入りこんで行つたのだと思ふ。デカルトは認識の為の懐疑、即ちデモクリトスの懐疑の近代的确立者です。「我思ふ、故に我在り」。之は一切を懐疑し、最後に懐疑出来ないものが、「我思ふ」で

あるとし、故に我は在ると云ふ現実の唯物論的肯定を導き出したのですから。

モンテーニュの懐疑主義は、デカルトとちがつて、デモクリトスよりエピキュロスの生きた時代と、モンテーニュの時代とに、若干の相似がある。それはモンテーニュの場合は歴史的前進期であつたと云へ、やはり文化的絢爛がフランスでは、民衆の内容と一体にはなり切らなかつた。フランス・ルネサンスの都市文化は、産業や民衆に結びつくよりも（イタリア・イギリス・オランダのやうに）王権の政治力に結びついた。だからフランス知識人は、他の国のルネサンス人よりは、都市的粹、名人気質等を余計にもち、凡ゆる実践的能力の乏しい知識人、民衆の力と結びつかない知識の所有者にある懐疑主義が生れたのでなからうか。そしてこの懐疑はまた、教権や教義（ドグマ）、宗教的なもの、封建的形式主義道学、等への懐疑でもあつた。

アナトール・フランスの懐疑主義もまた、カソリシズムへの懐疑を主流とし、その限りでモンテーニュ的であり（十八世紀のフランス無神論者の懐疑主義をも含む）、またヘレニズム時代に似た十九世紀末（世紀末時代）の知識人のありかたとして、エピキュロスのと云へる。だから彼は「エピキュールの園」を書き、「タイス」を書き、また「神々は渴かた」の中にも、プロットウと云ふエピキュリアンを描かずにゐられなかつた。プロットウは、歴史的主体へ結びつかない知識人の一つの典型であり、個人主義的な精神平安の固持者であり、自然主義者であり感覚主義者であり、老人のエロティシズムをもち、革命の必然を理解しながらそれと合体出来ない人間です。アナトール・フランスは自らの中にプロットウを見ながら、プロットウ的なありかたを歴史的に否定せねばならなかつた。彼はプロットウに個人的愛惜をもちながら、エヴァリスト・ガムランに対する歴史的愛着を以てプロットウを否定せねばならなかつた。

アナトール・フランスの懐疑主義を考へながらギリシヤまで辿つてみましたが、こんな風に見ればわかるのぢやないでせうか。そして真に正しい懐疑とはデモクリトスの、デカルト的なもの（不可知論Ⅱカント等も之と似てゐるが、本質的に差がある）でなければならぬ。デモクリトスの、デカルト的懐疑は、懐疑「主義」ではない。だがアナトール・フランスの前半期のスケプティシズムには、やはり懐疑「主義」がある。だがそれはヒューマニスティクなもの結びついてゐた為、自らのスケプティシズムを克服出来た。それはデモクリトスのものへと自己を克服して行く傾向をもつた。併しとにかくアナトール・フランスの十九世紀末的傾向はどうしてもなくなり切らない。

こんな風を書いて来て気がついたことは、僕等の考へねばならぬ問題の一つに、世界観努力と生活努力との統一と云ふことがあると云ふことです。世界観努力と生活努力（倫理努力）とは、もつとあつさり云ふと理論的努力と実践的努力

です。だが、特に世界観努力と倫理努力と云ふ風には、理論的努力の中にこの二つを分別したいからです。哲学者がそれです。哲学に世界観努力と倫理努力とが常に含まれてゐる。凡ゆる偉大な哲学は倫理努力を含んだ世界観努力です。タレス、ヘラクレイトス、デモクリトス、アリストテレス、プラトン、デカルト、スピノザ、ベイコン、ライブニッツ、デイドロ、カント、ヘーゲル、マル・エンに到るまで。それらに於ては倫理と世界観とは統一され、特にマル・エンに到つて、歴史的人類的な内容に於て統一される。

所が、第二流の哲学者に於ては、この二つは緊密に統一されない。即ち、世界観的な要素よりも倫理的要素が強くなる。この倫理的要素が強くなるのは、哲学者の質よりも時代の性質による。即ち時代が歴史的向上期にある時は、世界観努力と倫理努力とは、前者の中で統一される。所が、歴史的下向期に入ると、世界観と倫理とは分裂する。世界観の要求する行為（歴史的）は、歴史的主体（民衆）と明白な結びつきを失つて個人的にあらしめられ、個人的行為は現実の不正とたたかふ時、極めて無力であつて妥協を強ひられる。かくて人々にとつて、倫理学（現実に対して、いかに処すべきか）が特に重要になる。之がエピキュロス、ピュロン、ストア派、または近代の多くの哲学者達のありかたでせう。俗流哲学者になると、二つは完全に分裂し、世界観的要素はどうでもよくなり、倫理要素も現実といかにたたかふかではなく、現実といかに妥協するかの問題になつて了ふ。即ち倫理努力は処世術になつて了ふ。

我々も之まで、この二つを常に体験して来た。過去の或る時代には、世界観努力と行為努力（生活努力、倫理努力）とは割合ひ簡単に統一出来た。或る種の生活へ参加すれば、それだけで二つは統一された形をとつた。問題は自分の生活に移すと云ふことだけでさへある場合が多かつた。所がさう云ふイメージな統一は何等真の統一でなかつた。歴史の波が退き潮になり、さう云ふ種類の生活の足場が、丁度退き潮の時の砂のやうにくづれて行くと、世界観と生活とは分裂した。世界観は世界観であることをやめて、倫理（自己の行為の合理化）になり、「生活の探究」の著者の如き場合は「処世術」になつた。世界観にこそ不十分があつたののに、人々は世界観は出来てゐる、ただ生活の力がないだけだ、だからせめて世界観に反しないやうに、ささやかに行為しよう、現実と妥協しよう、それが梟口であり、外に生き方はない、かくの如くなつた。

我々がこの十年間努力して来たことは、分裂させられようとする世界観と倫理との統一であり、世界観努力と倫理努力との統一だつた。そして幸ひ僕は、世界観努力の中へ倫理努力を統一する方向をとり得た。だから僕にとつて、一切は世界観の不十分が問題であり、世界観が凡ゆる帰結をもつほど強力にされねばならないのだとして、その方に努力した。

我々が愛情の問題を考へ、文学その他を勉強し、歴史を勉強したそのすべては、世界観努力の中にもかくも統一された。現実には僕達を負かし傷つけ転倒もさせたが、とにかく世界観努力をすてず、その中へ現実の敗北をも吸収し、新たな歴史の時代へと自己を保存し鍛へた。今その道にある。

所が僕が反対する人々は、世界観努力（今の時代に出来る最大の任務）を軽視し、従つて倫理努力が不徹底になつてゐると云ふ人々なのです。森井さんが僕を「論理で固めて行爲する」と云ふのも、一面本当ですね。即ち我々は世界観を現実へ適合するやうにうすめるのでなく、逆に、生活を現実と妥協させないやうに世界観を強化すると云ふやりかたをしてゐるのですから。生活を世界観へ従属させる形をとるのですから。

そして僕は、生活主義よりも、自分の行き方の方が正しいと信じてゐます。今後も生活の現実では、自らの無力を思ひ知らされ、苦い妥協も強ひられて行くにしても、僕は世界史の中に依り所を求めつつ、断じて世界観努力をやめますまい。そして世界観努力の徹底の中で、現実との生活的斗ひを能ふ限り誠実にやつて行きたいと思ふ。

アナトオル・フランスのスケプティズムについて考へることも無益ぢやなかつたですね。それと云ふのも、アナトオル・フランスのスケプティズムが、いい加減なものでなく、真実の欲求をもつてゐたからです。これはどうしても考へてみる必要があると思はせるものがあつたからです。

今日はこんな手紙で、肝腎の生活のことをちつとも書けなかつたが、それは明日書くとしませう。

謙一から幸子あて（一九四五年一月一二日の記）

一月十二日（金）晴風

昨日は交詢社の慶応クラブで何とか云ふ人の国際情勢の話をききました。いつか僕が南部のことをしゃべつた、あのクラブなのです。ダイヤモンドの松沢氏が電話でさそつてくれたので。現代の世界政治のイギリスの位置について面白い話でした。

竹中君とは連絡なかつたのですが、ちゃんと来てゐて、帰りに二人で、今にも雨になりさうな銀座を歩きました。僕はアザラシ革のサツ入れを買ひました。金二十二円五十銭也。今までののは、たしか昭和十二、三年頃買ったのでしたね。

余りみずばらしくて買はうと思つてはゐるが、此の頃、サツ入れは殆どどこにも売つてゐなかつたのです。カネ

ボウの横丁に露店のおでんか何かに並んでみると、ヒヨコのタタキを小さいダンゴにして、二つづつさした串焼を二串で一円二十銭。それを産業戦士やらオツサンやら紳士やら僕等みたいのやらが、列になつて二皿も三皿もたべるのです。僕達も二皿たべた。僕は昼食を食べてゐなかつたのです。

夕食の食へる頃までゐて、何か栄養を補給したいとは思つたが、さうすると火を起しにくくなるので三時半頃に帰りました。此の頃は四時半頃に火を起さないと、暗くなつてからサイレンがなつたら大変です。夕食は此の頃おきまりの小松菜と大根との雑炊。夜になつて雨になつたらしいが、この夜三回空襲があつて起きました。曇つた日は盲爆されるから起きねばなりません。

今朝起きてみると、雪がうつつすらとつもつてゐました。此の頃六時半に起きますが、まだ暗いですね。今日もお天気は上々らしく、東の空はバラ色でした。ところが午後になつて風がひどくなり、ほこりを吹き上げて、いやな日になりました。こんな日に空襲あつてはたまらない。

鶴田君の電話で、「プランティション」は今月中に刷り終つて来月ぐらゐに出るだらうとのこと。しびれがきれますね。あなたからお手紙が昨日今日届かない。僕の手紙も届いてゐないらしくて、どうも不便ですね。身体の具合はどうですか。寒くて元氣ありませんか。

僕は昨日風呂ヤではかつたら十四貫五百になつてゐました。ろくなものを食べなくとも、量だけでこの通りです。併し蛋白質不足のせい(ふ)か、頭がよく疲れて余り働きません。魚の配給は、みがきにしんを一本か二本。所が雑炊ばかりやつたので、ミソ醬油がなくなつて煮られない。銀座くんだりへ一串六〇銭のタタキダンゴでも食べに行くより仕方がない。それでも食べられるだけましなのでせう。それに此の数日は、お餅で肥つたのかも知れません。此の頃のお餅のたべ方は、朝、飯を水を多くして炊き、餅を二切乃至三切焼いて飯の上部の粥と一緒にして塩味でたべるのです。節米にもなり、調味料も要らず、餅自体も大きくなり(ふやけて)、中々よろしい。夜の雑炊へ入れる時もある。おかげでまだ二三日食べられます。

此の頃は防空は嚴重になりました。本室でも課長以下すべてが、毎夜四人か五人づつ泊ります。分室の連中も行かねばならないのです。僕だけは例外ですが。上北沢の分室では両方へ泊るので、人数は少いし、まるで隔日宿直のやうになります。尤もさう云へば僕は毎日宿直と云ふわけですが。日曜祭日も日直が嚴重になりました。これはどこの会社でもさうです。だけど、どこの会社でも、食事の心配をしてくれるのに調査会だけはしてくれないので、大分みんなぶう

く云つてゐます。空襲が二度も三度もあつた夜は、腹がへつてやり切れないさうです。

今日は鈴木正四君の届けて来た原稿を読まねばならない（今日迄は外の諸君の目をとほしてゐたので。すべて戦争史関係。村瀬君の原稿は書きなぐりで、どうも不誠実です）ので、之だけにします。小田中さんから手紙が来て、イリンのもの読みたいと云ふので、おついでに何か送つて下さい。彼女、この間中から松本へ帰つてゐるのです。どう云ふ風な子か、同封の手紙でも判断出来るでせう。白田君とは大分變つてゐます。

では又。それから森井さんにスメドレーをかりるのも、二、三日中に頼めるでせう。

幸子から謙一あて（一九四五年一月三日の記、一四日の消印）

一月十三日

又、手紙が書けなくつてすみません。本も読めませんでしたので、あなたのお手紙を唯一の楽しみに暮しました。昨日から起きましたが、本当に無気力になつて、心も身体も思ふ様に動きません。度々の御親切なお手紙に随分慰められて居ります。いろいろ御多忙の様ですが、お元気の様で何よりです。コールド・クリイムの瓶は、近日集めて送ります。柳屋のでいいですね。スメドレーはふさがつてゐるなら、かまひません。あれは三度程読んだので殆んど内容を知つてはゐるのですから。唯、今読んだら、どの程度前と異つたものを受けとれるだらうか、と云ふ位のところからのお願ひでありました。八路軍従軍が二畳の前のラジオ部屋の本棚の中段に埃をかぶつてのつてゐるのを見た記憶がありますが、おついでの時それをお送り下さい。彼女がカリエスの身で苦難の行程をゆくところを、お薬りにしたいと云つては彼女にわるいですが、何か力をつけるものがほしいのが今の最大の慾求です。セドフ号ももう一度読みまして、刺戟されはしましたが、あの人々の零下卅七、八度―四〇度の中で生活し得るすばらしい体力は、それ丈でも恐ろしい程の圧迫を加へます。で、むしろ病氣を持つたスメドレーの勇氣の方が、此の際助けになる様に思はれますので。

九日には私共も流星の様なB 29の姿を見ました。二機、八機、八機と云ふのが西から東、赤石連^{（峰）}を越えるのや、南から東へ越えるのを眺めました。其の姿が消えるか消えぬ中に、帝都侵入とラジオが云ふのをきゝました。此の辺、此のごろの通路の様で、夜もひるも警報毎に爆音がきこえて来ます。

羽生さんの奥さんが四、五日ねついて肺炎で亡くなりました。元氣者でよく働いてゐましたのに。この辺、肺炎と流感

の大流行です。にんしん中の肺炎は100%駄目だとのこと、用心して何処へも出ず二階にばかりこもつてゐます。お父さんも風邪でもう一週間にあります。随分やせて本当のおぢいさん姿になりました。私も又、ひどい人相の変り様ですから、此の近所の人は肺病で帰つて来たんだと噂してゐるとのことですわ。桃ちゃんとはどういゆけ相もあります。第一、あなたが私の様子を見て、ぞつとするだらうと思ふと嫌になります。あなたのまはりには特にはり切つた連中ばかりですから尚のこと。こちらにもおいでにならぬ様にして下さい。時には去年逢つた時、これが最後の様に思つたのが、あるひは本当になるかも知れないと思ふ事もあります。お風呂の時、日本画にある餓鬼みたいだと云はれましたので、自分ではそれ程にも思つてゐなかつたので、一寸嫌になりました。去年の始めからあなたにはいろいろ不愉快な印象を与へづめで、これが其の最後の仕あげの効果を与へるのだと思ふとやり切れません。当分、あなたには逢ひたくありません。エピキユールは私にも大へん面白うございました。あの中の方が、今までよんで来た彼の作品の中にみつけてゐたものであつた丈に、近しい人に逢つた様なよろこばしさを感ぜました。今日は「白き石の上」です。これは又、何とすばらしいでせう。思はず叫び度くなる位の共鳴を随所で示されて、ドキ／＼してしまひます。併し、ここに至るもつとも大切なプロセスは、現代史にあるのですから、それが無いのは本当に残念です。

こゝまで書いてゐたら十一日附のお手紙届きました(封は開いてゐました)。かわせ入りのも届いてゐます。本当に有難う。

フランスも、もうあとペンギンと神々はかわくと丈ですから、本当に淋しくなります。全部よみ切つてしまつたら、もう私の神々は消えてしまふ様な空キヨさを感じてせうと思つて、今から恐ろしいのです。

六時頃、本とたばこの小包届きました。白き石の上はこちらに有りましたのに。母も、もうよんでしまひました(去年の十月に)。ゴリキイ全集の中の一冊です。ジャンヌ・ダルクはうす汚い本ですね。フランスの何時ごろの作かしら？煙草を沢山有難う。今日配給ありましたが、きざみ一個でしたので、お父さん悲観してゐたところですよ。大へんすまながつてお礼を云つて居ります。

ゴリキイは私にはわかりません。一寸も共感持てません。「母」も人のほめるよさがわかりませんの。嫌味つぼくて、続けてよめません。「母」の母が新しい観念を得てゆくプロセスは、一ばんよいところなのでせうが、私はあの人を嫌ひです。することなすこと、気に入りませんでした。たどたどしい表現もいら立／＼しさを与へるばかりです、多分、これも又、私が変なのでせう。ロシアの小説家はたいてい、いら立／＼しい表現をしますね。アナトオル・フランスは表

現の点でも、私は好きです。わが友や昔物語語りなどの流れる様な、むだのない書き方は、病氣をしてゐる時など、とくに沈静剤の役目をしてくれます。これ程好きな人が世の中にもたかと思ふと、本当にうれしくなります。何しろあの人のためなら靴掃除もいとはない位のうちこみ方です。時々夢でアナトオル爺さんをみます。はつきり姿を見るのではありませんが、そこにゐる事を知つてゐるのです。そして、そばにゆき度いにおず／＼してゐて、もうゐなくなつた事を知つて、くやし涙にくれると云つたあんばいのです。

ジャン・クリストフを通して知つたロマン・ロオランは、廿一年間もの引きつづいての尊啓すべき唯一人の作家でありましたが、アナトオル・フランスは彼にもまして好きなく／＼愛する作家になりました。そして今、彼をよんだ事も時機から云つて、丁度よかつたと思ひます。もつと前なら、私は其の好ましさが1—10もわからなかつた事と思はれます。で、更にもつともつと私が勉強した□は、更に好きになれるであらうと思はれる事も、彼を好きな事の重要な一つでせう。西洋哲学史を前編丈でもよんで置いた事も大いに彼を理解する助けになりました。で、此のころ（特にタイース以後）はもうすこしギリシヤ哲学をよんでみたいと云ふ、私にしては空前の野心すら起させたのです。あの様な作家は段々とマンモスが後を絶つ様に、失はれてゆくのではないかと云ふ淋しさをも抱せられます。

「プシ」無事にあなたの手元にゆける様に。辻岡さんにあなたが رفتつたと云ふ手紙以来、毎夜、彼の夢を見てゐます。やつと抱いたら異つた猫であつたり、抱いて仔細に眺めるとひげも切られ、誰かの悪いたづらでバリカンで毛を肌までかりとられてゐたり、身体中大きな傷のあとをみつれたり、抱いても私を忘れてゐたり、概して悲観的ですので悲しくなつて目を覚めます。本当にぶじで経堂へゆき幸福な晩年をすごせる様に念じます。わざ／＼原宿まで رفتつた下さつた事丈でも、どれ位私をよるこぼせてくれたかわかりません。彼を抱いて経堂までゆくのは大変ね。彼があなたを、あなたとの生活を思い出してくれると良い。老年でもあるし、生れて始めての苦難の生活が、彼に忘却を与へぬように。昔の家のあとに来て、玄関で啼いてゐたとか、本当に／＼ふびんです。彼は私を覚えてゐるかしら。どんなにやせて亡者の様にみにくくならうとも、彼は私を昔の様に慕つてくれる様にも思へますけれど。私はプシの事を考へると（あなたに笑はれるでせうが、神秘的にならずにはゐられない。何故ならプシの心持は正確に知る事はおろか、1—10も知り得ないのですから）、プシこそ今までの生命あるものうち、一番私を成心なしに愛してくれた唯一つの生物、と云ふ気がするのです。で、彼の事を考へると、ひたすら感情が高ぶつて、むやみと泣きたくなるのです。困つたものです。ビュビュ・ド・モンパルナスはいいものゝ様ですね。よんだ様にも思ひますが、はつきりした記憶がありません。土井

さんの訳でなかつたかしら。昔よんだものは、もう一度読み返さないと、本当のところはわからないと云ふ事がありますね。よみ返さなくていいのもあるが。又20年も後によんだら、尚さう思ふかも知れない。

あなたの毎日は、忙しくても楽しいの？ 張り切つておるでなの？ 楽しさうに書いてはゐるが、全体から感じるものは暗い様に思はれる。忙しい様で、あつちこつち八方に手をひろげて、とんだりはねたりの様子を感じますけれど、本当の芯ところはちつともみえません。どうかすると、あなたの手紙の中から、あなたがドンキホーテの様に槍で水車をやつつける姿に見える時もあります。さうしてこちらに淋しくなりますけれど。生いきなわる口を云つてごめんなさい。私はふくろう(ふくろう)の様にちつと動かず、眺めてゐる丈なんですから。

長くなりました。たまには芯の見える手紙をほしいものです。あなたのひまの時、きのむいた時、時間の余つた時、私を思い出してくれたなら。おあまりのしぼりかすの定期便はほしくありませんから。あなたが私の友達の一人なら、そんな事は問題ではありません。私も其の程度しか要求しないから。あなたは私の友達ではないのです。私はあなたの一ばん栄養のあるところを要求する権利があるのです。さうしてあなたがそれを拒むとき、私はあなたを責めても当然なのです。さうする私を、あなたはあれこれと理くつをつけてごまかしたり、非難する事は誤つてゐます。併し、それがあなたの考へと反するなら、あなたは賛成出来ぬのなら、私も又、さう云ふあなたを必要としないと云ひ切ります。とは云ふものゝ、実はどつちでもかまはない。小田中さんの云ふ様に、私も又どつちでもかまはない、と云ふ気持もあります。

では今日はこれ丈。

幸子から謙一あて（一九四五年一月一四日の記、一五日の消印）

一月十四日（日）

十一日附手紙有難うございます。懷疑主義について沢山有難う。前便にもふれたと思ひますが、私もエピキュール以来（精確に云へばタキース後）、シユヴエグラをもう一度読む必要を痛感致してゐたところでしたから、丁度良い時によい材料を与へて下さつた事になります。私の「懷疑主義」に対して、ぼんやり思つた（さ）らゝた観念の大いに誤つてゐた事を知りました。常識や既成観念に満足せず本質、真実の究明を指すもの、真実の世界観獲得のための努力を指すもの（デモクリトスの）とは、まるで逆のもの、ピユロンのもの、印度の解脱思想的なもの、の方をスケプティズムの本質だ

と思つてみました。昔、学校で桑木先生の哲学の講義⁽⁸⁾に二、三回出た時、そんな風に聞いたので、それ以来ずつとさう思つてゐました(桑木先生も印度哲学に関して、さう云つたのでせうが、その時間にしか出席しなかつたので、外の事は聞いてゐなかつたのでせう)。だからアナトール・フランスが懷疑派の典型的代表者の様に紹介されて居るのを見て、全く逆だと思つて驚いたのです。全く哲学でも芸術でも其の時代を反映してゐるものですね。それだからこそ、私共に面白いのでせう。カイン派の意義はどんなものでせう。パイロンはカイン派の影響を受けたのかしら、など思ひましたが、それからロマン・ローランの「キャレンツア伯」に代表される印度思想(?)や、ロマン・ローランのガンジイ崇拜はどんなものなのでせう。これは特別知り度い程でもありませんが、つい手の時教へて下さい。

今日は下痢もなをつてゐず、あまり安眠も出来なかつたのに、気分は大変に明朗です。こんな日は一ヶ月以来始めてです。毎日、不健康的なゆううつに悩まされぬ日はありませんでしたのに。これでもうすこし身体に力がつけば申し分ない様に思へます。此の調子が永続してくれ、ばいいと、ひたすら望みます。全く健全なる身体に健全なる魂宿る、と云ふ事は名言です。私にわろい手紙を書いても私のせいではありませんよ。それは私の不健康が書かせるのですから。気のせいか手鏡を見ると、蒼ざめた顔乍ら目は生々と光つてゐる様に見えます。ずつと暫くの間、生きたくもないと思つてゐましたが、今日はそんな事は考へられません。私はあなたにとつては唯邪魔者であるとはばかり思はれてゐましたけれど、今日は若しさうであつても、それ丈で自分を否定し去る心持はない様です。あなたの本心がたとひ私の望む如くでなかつたとしても、それ丈で自己の一切を否定する様な淋しい自棄からは救はれて来ました。私には私の他の方法があると思はれて来ました。今まであなたがどんなに言葉をつくして慰めて下さつても、私の芯は慰みませんでした。あなたにはあなたの生き方、信念があるのだし、私も其の通りになれなかつたとしても、それは自分が無カチなためではないと云ふ風な、対立感もありました。あなたの事を一方的なおしつけがましき、無理解、独善、利己主義だとして、ひどく不愉快を感じてゐましたけれど、それも私の考へ違ひであつたと思はれて来ました。

一と口に云へば、あなたに対する不信は消えてしまひました。かう書くとおあなたをひどく不愉快にさせる事では、もうすこし心棒強⁽⁹⁾くきいてゐて下さい。私にあなたを、一方的で押しつけがましき無理解で独善で云々と云つた事は、私のそれであつたのでせうから。私の作つた観念であつたのでせうから。今まで私はかう思つてゐました。あなたは私に対しては、実に心棒強くない。一寸もゆつくりきいてくれない。あなたの考へ通りを私に押しつけ様と望み、併も充分私に納得させる事を惜しむ。理解し得ぬのは私の偏見と誤解のためであると即座に決定したがる。私からあな

たの望み通りの答への出ぬ時は、あなたはぢれてぢだんだを踏み、一切はお前が卑怯で無理解で自分を束縛するのがいけないのだと云ふ。質疑も、こちらのあり様の報告にもべもなく、それは無駄であると封じてしまふ。納得したいと望む事を、勉強の邪まをすと怒りつける。私は服従でなくて納得を求めたのに。従つて私は前の様に隔意なく、凡ての事に就いて思ふまゝを云へないと云ふ不自由を覚えさせられる。納得したから云はないのではなくて、封じられたから云へないと云ふ不まんを与へられる。そしてあなたは私に唯信ぜよくと云ふ。私はルーテル教会へ行つた事を思い出した位、信ぜよ信ぜよとあなたは云ふ。あなたの望む通りの答をしない時、あなたは保守的だ、卑怯だと罵り返す丈で、納得と云ふものを与へない。従つて私は対等の位置から、自由に云ふ位置から、服従を、封じられる位置を覚らせられる。それやこれや不健康やらがよりあはさつて、自己嫌悪と云ふ□^(病カ)に落ちてゐたのと思はれます。併し、もうそんな事は一寸も心にかゝらぬと云ふき持がします。一寸身体の具合がいいと、こんなに現金なものでせうかしらね。私はあなたより他に愛情を注ぐ対象がなかつたから、あなたが私の一切であつたから、あなたの言動は私に大きな影響を与へてゐた、と云ふわけでせうか。私はあなたを余りにも愛しすぎたから、あまりにも□^(病カ)しく求めすぎ、併も思ふ様に与へられぬと云つて苦しんで来たのでせう。さう云ふ私の愛し方が誤つてゐたのでせう。あなたの様に手広く四方八方愛情を注げる人は、そんな事は思ひもよらぬ事です。これはヒナンではありませんの、羨望です。私もさう云ふ風に人を愛したい。人をさう云ふ風に愛する事が出来れば、私も大きくなれるでせう。でも私にはそんなに愛せる人が見出せないのです。だから一人を唯一の者として、それを失はまいと苦しむのです。

でも今日はさう云ふ様な苦しみから、どうした風の吹きまはしか解脱(?)^(病カ)したような気が致します。あなた一人を求めすぎるために、あなたを苦しめ、自分を苦しめるのが馬鹿げて見えて来ました。私はあなたに取つて、又他の人々とつても、どの程度のものか解つて来たらしいのですわ。人は自分を宇宙の中心と見度がるもの、世界の中枢であると信じてゐる人々―これは万人共通の錯覚だと、アナトオル爺さんは教へてくれました。私もさうなのです。で、どうやら宇宙の中心でも世界の中枢でもない、とるに足らぬものであると云ふ事がうすく、わかりかけて来たのでせう。これからすこし考へ方を変へて、自分が重要な存在の様な、自分が中心でなくてはならぬ様な錯覚から、早々に抜け出さなくてはなりません。あなたの事も私一人の所有物の様な考へ方は捨てますわ。まあ今後も今日の様に、のんびり明るい心持で、一切を眺め度いものです。

あなたにはあるひはにくまれ口を叩いて気をわるくさせたかも知れませんが、ゆるして下さい。これからは至極謙そ

んにならうと思ひます。いろいろ新らしい勉強プランも樹て様と思ふ心持も出て来てうれしくなります。今年度は二月から新に始めます。一月中はあなたの Plantation をすつかりすませ（気に入るまで）片つけます。大体新らしいプランの主目（主）は決りました。其の中御報告致します。

それはそうとM・E芸術論はM・E全集にありますかしら。これは其の中やりたいのですが。赤ん坊の支度もあるけれど、これはまだどうなるか未定だから、三月が終つて見込が立つたら支度にかかります（未定と云ふのは、あまりに其のためのすい弱が激しく消耗する様なら、考へものだと云はれてゐます。大体大丈夫だと私は思つてゐますが、榮養もわるいし身体の弱りも激しいから、ぶんべん力がないかも知れないとか云つてゐますが、まだくそこまではゆかぬものと私は思つてゐます。途中で亡くする様な手段はどんな事があつてもとりません）。若しも身体が駄目であつても、出来る丈は勉強しますわ。

結局私の敵は「私の認識力の不足、世界観の未熟」であつて、他にはない事がすこし解つた様ですから。それでひたすら他に求めた諸悪を、己の裡に見つけ、それを征服する他に、私の安住はない様に思ひます。さう思つたら、あなたにも大変悪たれた手紙を書いて来た事がすまなく考へられます。何時でも私はあなたの重荷で、障害物でしかなかつた事を思ひます。そして、其のために悲しむのは辞めます。重荷や障害物でなくなる様にする事は、あなたのためではなくつて、むしろ私のためでせう。―其の方向しか進路がないと云ふ事が解つて来た様です。出来る限りやつてみませう。又負けても、もう一度やりませう。

では今日はこれでさようなら。又明日、書きませう。
此のごろの頭の悪さ、前にもまして理解力のたどたどしい事には、我乍ら嘆かれます。

謙一から幸子あて（一九四五年一月一四日の記）

一月十四日（日）晴

ここ暫く空襲もなく、おかげで身体はやすまります。昨日はまた大分大きい地震が名古屋にあつたのですね。空からと地下からと、ずい分しつっこくいぢめられるものです。

されはさうと、今日でもう四日も、郵便受けにすつぽかされて来ました。また身体が悪いのではありませんか。それと

も僕の手紙が届かないのでせうか。僕は今年度へ入つて之で七通目、中に書留一通あつた筈です。あなたのは八日付の以後が来てゐません。八日付のによると、僕の三日頃に出したのが、まだそちらへ届いてゐないやうです。

お父さんの御風邪はいかがですか。こちら雨がふらないので、風邪が流行してゐるやうです。僕は幸ひ元氣です。あなたも風邪をひかないやうに。お母さんも不二ちゃんも桃ちゃんも御元氣ですか。桃ちゃんも大変な忙しさでせう。いつ頃上京出来ますか。あなたはついで来れませんか。今ならまだ空襲も大したことないし、身体の調子が許せたら出て来ませんか。帰りに僕も一緒に行けるかも知れませんが。防空当番だけを頼めばいいのですから。

昨日（土曜）銀座へおひるから出て、この間見つけておいた砂鉄アイロンと云ふのを買ひました。電気アイロンはつかへたりいろくが面仆めんぼくですが、砂鉄アイロンと云ふのは、陶器で出来てゐて、下面が砂鉄を含んだ釉ゆう（ヌリ）がかかつてゐて、この部分をガスまたは炭火に直接あてて熱し、そのままアイロンとして使へる、電気やガスの制限の面仆めんぼくがなくて、姿もよろしく、安くて使ひよささうです。之で今朝洗濯したワイシャツにアイロンをかけました。

そのアイロンを買つて帰ると、小使さんが隣組の下駄の抽ひセンに、僕に子供用の下駄が当つたと云つて、本当に小さい赤ん坊用の男下駄（ハナヲナシ）を渡してくれました。「隣組に五足しか来なかつたのに、うまくあつたのですけれど、こんな小さい赤ちゃん下駄ぢやしようがありませんね。みなさんも、菊池さんに赤ちゃん下駄ぢやお困りだらうて大笑ひだつたのですよ」「いえく、困りませんよ。僕にも赤ん坊が出来るんですから」「え、赤ちゃんがお出来なんです。いつなんです」「さあ、この夏頃かな」「まあく、それはそれは、おめでたうございます。本当によくお出来になつたこと。それぢやきつと男のお子さんですよ。ちゃんと男の赤ちゃん下駄がお当りになつたのですもの。縁起えんぎがよろしいぢやありませんか。前お祝ひになりましたねえ。それはそれは」「いやどうもありがたう。成程可愛い下駄ごだですね。大切にとつておきませう」。

今日は午前中に利ちゃんが出来ました。彼は十日から勤勞奉仕で品川の何とか工場に通つてゐます。始めは吉祥寺の中島だと云つて、大分危ない話だつたのですが、品川なら通ふのにも近いし危険率も少い。だが、朝八時から夕方六時半までとかで、帰ると八時か八時半、何にも出来ないさうで中々大変です。休みは月二回、第二と第四日曜。信州へは四日の日に手紙を出したとのこと、之もつきまじりましたか。

「兄さん、今日はおひまですか」「ひまと云へばひまだが、忙しいと云へば忙しいね。どうして」「おひまなら話をして下さい」「はなし。うーん」「もうずつと学校の方もなささうで、自分で何か勉強したいのですが、時間がなくてちよつ

と出来さうもないのです」「ふうん。ぢや君は一体何を知りたいね。どう云ふ問題が君にとつて一番切実な問題かね。一番知りたい、知らなきやならんことかね」「さあ。……」「さう云ふ風に考へてみたこともないのだらう。自分は一体何を欲求してゐるのか、と自分に問うたことあるかね。はつきりとはないのだらう」「さうですね、ありませんね」「ところが君はやつぱり内質から欲求してゐるんだ。今のままぢや不満なのだ。さうだらう。大体若い人が何かを知りたいと云ふ時は、二つのことを欲求してゐると見ていい。第一は世界の系統的な観方、即ち世界観だね、第二は自分の日常生活なり現実生活なりに於て、いかに生きて行くか、いかに身を処して行つたらいいか」「さうですね、僕はやつぱり世界観がほしいんです」「さうだ、その欲求が一番正しい。だがその世界観を、正しい本当の世界観を得て行くには、三つのことをせねばならない。第一は自分の生活をいかに生きるか、之は出来るだけ誠実に、妥協やごまかしやいい加減を排して、どこまでも誠実に生きること。第二は読書だ、之は第一の生活を誠実にやつて行くことの結果、読みたい知りたいものを読む。之と同じやうな意味で、人の話をきくのもいい。第三は思索だ、第一、第二を第三の思索で統一するんだ」。以下、勤労学徒として誠実に生きるにはいかにすべきか、そこでどんな問題をつかみ、どんな問題について考へるべきか、それを誠実に生き、誠実に考へれば、必ず現在の戦争と云ふもの、社会関係と云ふもの、世界の歴史と云ふものがいかなるものであるかを考へざるを得なくなる。さうしてはじめて、社会や歴史について書かれた立派な本を読む内質からの欲求と、従つて理解力が出る。さうしながら時々僕の所へ来て、質問するなり考へたことを云ふなりしたまへ。と云ふ風に二時間近くしゃべりました。

利ちゃんもあの年頃の男の子として当然考へられるやうに、異性ととの交はりを、情緒を欲求してゐる。所が彼のまはりには、解放されてゐない。その結果彼はみつちやんなりいねちゃんなりを訪ねる。恐らく此の頃、僕の所へ来るより、そのどちらかへ行く方が多いでせう。それもよし。そして時々知的欲求から僕の所へもあらはれる。知識の方が、情緒よりは冷い。それでも来るのだからいい。利ちゃんも時間があつて、僕が近日中からやらうと思つてゐる「プランティション」の講義に参加出来るといひのだが。

今若い人達の抱いてゐる充たされぬ欲求は、きつと他のいかなる時代よりも切実なのでせう。他の時代には外部にいろんな機会があつて、多かれ少なかれ欲求を充す手段がなくはなかつた。今はそれが無い。だから僕なんかのやや乱暴なせつちちな、技術的にもまづく力のないおしやべりすが、訴へるところあるのでせう。それにしても話してくれと云はれて、いつも自分のもつてゐるものの貧困さに当惑する。その上大ていの場合若い人達は、自分の欲求をはつきりと

言表も出来ない。だから元来カンの悪い僕には、相手の欲求に適確に応答することは甚だ困難です。それに僕の書いたものも、概してさう云ふ若い人に啓蒙的に読ませるやうなものでない。伊藤君も僕のアメリカ史を若い人に読ませたいが、少しむつかしすぎると云つてゐた。

こんな風なので、竹中君の場合にせよ白田君の場合にせよ、効果の少いことを思ひ知らされねばならないのでせう。ひろちやんも僕の芸術論にはついて来なかつた。森井さんすらついて来ようとしなない。僕のプランティションの講義が、どれだけの効果をもつかどうか。あなたのやうな熱意を他の人には期待出来ないのだし。

啓蒙的に話したりすることでは、あなたの方がはるかに有能です。僕はあなたが信州でお母さんや桃ちやんにまで「プランティション」への関心をもたせるのをきいて、いや「プランティション」だけでなく「田舎医師」やその他の例でもさうなのだが、あなたの方が上だとつくづく思ふ。しやべりかたなのか、把握のしかたなのか。僕は少しせつかちにたたみかけて云ひすぎるのかしら。あなたが時々僕に云ひましたね、僕の云ふことは強情で押しつけ的なところがあると。さう云へば僕が之までしやべつて来た大部分の相手に対して、僕は効果をもたなかつた気がする。森ちやんやみつちやんもさうだし、いねちやんもさうだし、島谷、齊藤その他大ぜいの若い人達、そして今竹中君、白田君、利ちやん、ひろちやん等々。それに人間の魅力の貧困さも聯関してゐるのでせう。

森井さんが、僕のことを検事のやうだと云つたりするのにも、理由あることなのでせう。彼女の僕のやりかたへの異議（彼女自身では異議ぢやないとも云ふが、やつぱり僕には異議と感ずる）は、結局この八年間、あなたから始終出てゐた異議、それを僕が強引な弁証でうけつけて来た異議、と相通ずるのかも知れない。さうとすればもう一度、あなたの異議、彼女の異議をはつきりききただして、自分で反省せねばならない。さう云へば昨年の春、あなたと利ちやんとに対してやつたアメリカ史の講義も、あなたや利ちやんを積極的に乗り気にさせる魅力をもたなかつたし、「プランティション」をあなたに本当に読んでもらふまでもない分時間もかかつたし。

すべて僕を反省させるべき材料として思ひうかんで来ます。あなたの現在の意見をききたいと思ひます。では又

幸子から謙一あて（一九四五年一月一五日の記・消印）

十二月十五日（晴）

昨夜五分位の厚みに小雪が降つたらしく外は白砂糖をまぶした様に明るい。昨日の名古屋の空襲80機とかの中五、六機は追はれて、ちようど浪合の平谷の上空辺で（名古屋、静岡、長野の重なり目のところ）空中戦をやつてゐたらしく、今宮の原つばで見えたと朝ちゃんがつつてゐました。9日のもあの辺に一機落ちてB29の搭乗員がパラシュートで下りるのも見えた相です。機は愛知と静岡の境ひに落ちたとのことです。熱田神宮がこはされたとラジオで云つてた相ですね。神々も疎解しなくてはなりませんね。此の辺の話題も至極暗い悲観的なものになりました。

今日も健康状態は上上吉の様で起きるのも苦痛でなく、脊骨の痛みも激しくないし、食事は何時もずつと皆の $\frac{1}{3}$ — $\frac{1}{4}$ だつたのに、今日は普通に食べられました。お豆腐のおみをつくと梅干とたくわん漬なのに、楽にスル／＼胃の中へ吸収された様で、始めておいしいと感じました。これがずつと続いて呉れたらと切望します。今まで呼ばれて食卓に座るけれど、お茶を飲んだりして誤魔化し乍ら、よう／＼食べてゐたのですもの。食後は胃が重くて、頭痛や脊中の圧迫感でチヨイ／＼仰むきに30分位づつねてゐなくては、本も手紙も続きませんでした。昨日は一度もねずにすみました。本当に此の調子さへ続けば、一切良くなると云ふ風な気持ちになります。

ヘーゲルは家にあるのは大倫理学と歴史哲学文でせうか。ヘーゲルは主要なもので、私の読めさうなものは、何をよめばいいのですか。急ぎませんからお知らせ下さい。

本年度は哲学史を主にしたいと思ひます。シュヴエグラを始め読み、フォアレンダーあたりへゆき、家にあるもので順序をつけて読むか、或は哲学史を一応やつてゐるうちに、あとのプランを樹てるか。其の中にヘーゲルへゆき、ヘーゲルをすこし本年中に噛り度いと思ひます。あなたの知慧をかして、「大体の私の要求をいれて」順序やよむべきものを教へて下さいませんか。若し此のプランがまだ早い様なら、もつとのばしてもかまはないのです。又それに代るもので、是非やつた方がいいものがあつたら云つて下さい。

副は、経済学入門をまづ最初にやつてしまふこと、M・E芸術論を一週間に二回位の割ではさみたいこと、あとは其の時々の必要に応じて出て来るものをやりたいのです。若し来年も丈夫で生きてゐたら、来年は資本論にかかりたいと思ひますが、本年のプランの哲学の方が進捗しなければさらいねんにしませう。

あなたの書くものは其の都度、間には喜んで勉強するつもりです。今日からプランテイションの方、カード其の他まとめにかかつて、終つたらアメリカ史を讀するつもり。これは、もうノオトなしでも、こなせる様に思はれます。試験の様に細い事まで覚えなくても、主流を掴む丈でいいかと思ひますから。どうでせうか。あなたの方からかうすれば

よりいい、といふ注文があつたら早速云つて下さい。

私はあなたのプランテーションにも感謝してゐますが、アナトオール爺さんにも本当に感謝してゐます。どれ程彼からいいものを貰つたでせう。どれ程のはげましを知らずくうけたでせう、と思ひます。又一方、彼からのおくりものの価値を知るに至つた路は、プランテーションを越えて来た事にあるのだと云ふ信念も動かさません。あれは私の認識力に、ある一段階昇進をさせてくれたのです。

これが不健康やら、いろいろの嫌なトラブルがなかつたら、もつとく大きかつたか知れませんか。本当に此の半年と云ふもの、一般的に云つて幸福ではありませんでしたから。がきの様に苦しみから真球を生む様な、そんな結果を得たなら、苦惱こそ人生に意義を与へると云へませうが、私は何を待たのか。すこしでも進めたのならよろこばしい事です。さう答へる自信はありません。今日はこれでやめて、PLANETATIONにかゝりませう。 さようなら

幸子から謙一あて（一九四五年一月一五〜一六日の記）

十二日附お手紙、十五日前午後十時に届きました。どうも有難う。前便で、自分の認識力を養ふために哲学の勉強プランの事を書きましたが、今日のお手紙は尚其の決心を強めてくれました。勿論現実の生活との斗闘ひも大切であります。私の場合には基本的な教養の不足が甚しいのです。今日のでアナトオール・フランスの懷疑主義のありようも、其の意義もよくわかりました。

世界観努力と生活努力の統一の事は、大変啓発されるどころありません。此の意味からも、今度のプランは適切な様に見えるが、細い順序、方法の教示をまします。

悪阻と云ふのを今日調べて見ました。大体自覚症状と同じところを抜いてみますと

悪阻はアレルギー性疾患で、此のアレルギー反応が個人に依つて差のあること、悪阻は一般にヒステリーの一徴候でもあつて、精神的影響が特に激しく作用する。悪阻の直接原因でないもので、胃腸疾患（胃下垂）等は誘因となり合併症としてひどくする。軽症は嘔吐、口渴、胃痛、便秘、下痢、全身衰弱感等がある相で、これは全部該当します。療法は薬物の外血清がある。健康妊婦の血清、妊馬の血清、配陽者の血清（これは胎児蛋白に父親の因子を含むから）、輸血療法。

浮腫の方は血液の循環^(血)障碍(これは一般的で下肢に多い)、血液異常(水血性、貧血性)、これは一部分的でなくて全身的なもので、妊娠性貧血が悪性貧血になると、中絶の外療法ない。此の貧血が浮腫の形であらされる(特に手、指)。胃酸欠乏性貧血は、妊娠から起る貧血から胃酸欠乏症になるのか、胃酸欠乏のため妊娠貧血になるか、今のところ未定らしい。とに角並行して起る。爪に変化が起き、手の指先が痺れる。そして心臓が血圧のためでもなく苦しくなる、—と云ふのです。ぴつたり符合してゐます。

どうも私のは胃下垂と貧血から来るものゝ様です。あまり芳しい状態ではありません。あまりひどくなつたら血清療法でもする他ないとすると、妊馬も健妊婦も中々見つからないから、あなたの血をとる他ありませんよ。覚悟を決めていらつしやい。但し、これはぢよう談で、そんなになるとは思へません。出来る丈頑張つて、こらへるつもりです。今日は一ぺん手紙を書いたので、もうそれ程書き度くありませんから、つはりの話丈でおしまひにしませう。 さようなら

一月十六日

今日は何と云ふ嫌な日でせう。空は灰いろ、ぼさくした雪片が起きた時から落ちて来て、未だ落ち止みません。部屋の中ももうす暗い。炬燵の火はすぐこぼれる。何時も六時に入れた火は二時頃まで保つのに、今朝は十時に灰になりました。東京もこんな日でせう。昨夜は頭痛のため勉強は中止して、ミグレン^(痛)を服み、ぼんやりねころんでしまいました。徒然なるまゝ古い日記表を眺めましたら、妙な気が致しました。私共が一諸^(痛)に暮してゐた時は、一世紀も前の様に思はれました。二人の手でゴチャ／＼に書きこまれた温度、三度の食事、勉強、発信欄など見てたら、こんな時があつたのかなアと沁々妙な気が致しました。そしてあの当時は、あなたとか私とか区別なしの一体の生活であつたらしいファンイキが感じられて、今現在を思ふとき、淋しいと云ふのか、あきらめと云ふのか、冷めたい風の吹きすぎる様な思ひを感じました。私共の一体の生活は事実、一昨年の秋頃に終つてゐたのですね。疎解^(痛)は原因ではなくて其の結果であつたのです。それなのに私は七月末頃までぼんやりして、そんな事は思つても見ず呑気に、以前のまゝの延長だと思つてゐたのです。本当にさうでした。さうして事態がも早變つてゐる事に、おそまき乍ら気がついてあはてたのです。そして事態の変化を、あなたはよく知つて居り、変化に急速な拍車をかけてゐたのだつた(あなたが私に対する心持を固定化させてゐたこと)と知つた時、あれ以来、本当に私共の一体だつたと思つてゐた生活は、更に更に別々の方向に向つてゐたのですね。其の後のいろいろの起伏は余震の如きものであつたのでせう。私は一時的なびほう策を万全の建て直し

の如く妄想してゐたのではないでせうか。時々のもヒ注射効果を、健全になつたのだと思ひ違ひしてゐたのではないでせうか。私があなたの心持が變化した事をおぼろげに知つて、急速に其の対象をみつげ様とした事は大まちがひであつたのですが、それは特定の対象でなく、前者とサラマンドルの關係の如きものを、あなたが求めてゐるのかも知れない位の事はわかります。

何れにせよ、私はあなたの対象ではなくなつた事を知つて来ました。あなたが大きく成長しすぎた結果でせうか。だから眞実は、あなたと私との生活（二人一諸のため、より善くなる）は、も早終つたのではないでせうか。さうではないと思ひ度いと念じ乍ら、あくせく怒つたり、いら立つたり、あなたを責めたり（私が不幸な氣持のするのは、あなたのせいだと云ふ風な）する事で、すこしでも終つたのではないと云ふ確信を得度いと願望してゐたのだつたと思はれます。さうした事は私にとつては悪い結果をより多く生む事になるとも思はずに。

昨日頃からしきりと思はれる事は、さう云ふ事です。私にとつては、あなたとの生活は未だく／＼望ましいものであるに拘らず、あなたにとつては、私は邪魔、重荷、し方なしの負つてゆく荷物の如きものに変つて来たのではないでせうか。私はあなたの成長や發展を阻むものでしかなくなつた存在なのではないでせうか。私はそれがごまかしなしの眞実の姿であると思はれます。あなたはダ勢（ダシ）や憐（れん）びんから、私をいたはつたり、なだめたりせず、本当の心をきかせて下さる事は出来ませんかしら。

どんなに私が重荷でなくならうとしたところで、結局それ丈のものであつて（あなたにプラスになる存在ではなくて）、結局はある分丈づつあなたに犠牲をさせる事になるのではないか。いくらあせつても、よりよき伴侶であるのでなく、プラスにもならぬ、辛じてマイナスにならぬ程度のものにすぎないのではないか。さうして今後のあなたには、プラス的伴侶こそ必要であるが—さうでないものは不必要なのだ、こんな風に思はれます。私はひがんだり、すねたりしてゐる氣持はありません。ひがみもすねも相手に甘へ、相手に責任を感じさせ様とする種類の感情でせう。私は甘やかされる氣もなく、あなたに責任を押しつける氣は毛頭ありません。私の眞実のありようを見度いと切望してゐるのです。あなたの云ふ様に、あなたを私が信じないためでなくつて、私自身が私を信せず、私自身が私に自信ないためでせうと思ひます。責めはあなたにあるのでなく、あなたにふさはしくないことに、私の人間的内容の低劣さ、質のわるさにあるのであつて、其の事でああなたに嫌味やぐちをこぼしてゐるのではありません。此の点、どうぞ誤解（誤解）ないように。

で、其の様な私が、あなたの伴侶たらうとし、其のプライドを満足させ様とすると、現実の苛（げ）しやくない姿は、私の氣

づかない二人の不均等をまぎ／＼と見せる結果を生むのだと思ひます。あなたが私に唯信じてゐてくれ、と云はれる時、結局私は其のあなたに値せぬ己を知りかけて、其の悲しみ、不まん足、やるせなさから、何の彼のとあなたを責め立ててゐたのだつたと思ひます。真実の姿、自分の本体を知つて、唯悲しみに捕へられました。―そして自信がなくなつたと云ひ、それはあなたのせいだと云ふ風に責を人にきせる事で、自己満足らしい思を味つてゐたのだつたらうと思はれます。そして現在、それまで解つて来ましたが、どんな馬鹿者でも、誇りを持ちますわね、それが彼を生存させるのです。自分が至極詰らぬ者である事を知れば、それが我からである時は、更に人は悲しみ嘆きますね、これは人間の当然のありようです。

私がこんな事を長々と書く事は、同情を求めてゐるのでせうか。さうではないと云ふ慰めを期待してゐるのでせうか。否、私の方の真実思ふところを話して、あなたの真実をたしかめ、その上で、公平な基礎の上、新しい出発を望むからだと考へます。私の不健康など、問題ではありません。あなたの甘やかし、慰めは、私を余計傷つけますわ。公平な客観を私は得たいのです。そして現在の私に、それ程必要な薬はありません。さうして私は私なりに立ち直り度いと切望するからに外なりません。本当に私を救ふものは、私の外ない事も知つてゐます。けれどもあなたも、それに手を貸して下さる事を、嫌とは云はないと信じます。私が悲しむべき真実を知ればこそ、私は本当に誤魔化し無しに立ち上れるのです。

風がヒューヒュー唸つて来ました。こんな手紙を書いてゐますが、私の心は外の雪空とは異つて、何だか明るいのです。では、心からなる卒直なお答へをまちます。 さようなら

幸子

謙一から幸子あて（一九四五年一月一六日の記）

一月十六日（火）晴
久しぶりのお手紙が、やはり意気消沈のお手紙なので、案じられます。

あなたは暑さ寒さに特に弱いことから、こんな時はなほさら鳴かず飛ばず、冬眠して耐えて下さい。殊にあなたは一人の身体ではないのですから。身体の調子の悪い時はじつとして眠つて食べてゐれば、大ていは自然の恢復力に期待出来るものなのでせう。さうして冬眠してゐてくれたら、やがて僕の「プランテーション」と一緒に春が来るでせう。僕の

「プランテーション」は世界戦局と競り合ひの形だが、運がよければ危くすべりこみと云ふ所でせう。「外のものは放棄してもプランテーションだけは出しますよ。出なかつたら僕は腹を切るつもりだ」と鶴田君も云つてゐます。彼にしても始めは百頁ぐらゐの學術論叢の予定が、その五、六倍以上のものになつただけでも、此の紙不足の出版難の時代に大変だつたのに、悪戦苦斗(悪)のていでここまで来たのですから、僕とあなたとの次ぐらしい「プランテーション」の運命に切実な関心をもつてゐるわけです。時々電話が来ます。「グロヴ」の十二月号が此の廿日に出るので、すぐ持つて行きますと云つてゐました。「グロヴ」も軍関係のものなのに、十二月に出るのが一ヶ月以上もおくれてゐるので、今三月号の編輯会議をやつてゐるんだが、その頃に読み手があるのかなあと思つてゐるんですがね、さうつけ加へてゐました。「プランテーション」の定価は上ります。目下原価計算のやりなほしださうだが、八円か九円になるとのこと。

スメドレーは数日中に送ります（「ハ」さんの方）。外に「アンソニー・アドヴァース」を三冊（第三巻欠）買ったので送りませう。僕は今「オディシウス」です。いつも乍らほれ／＼します。ただベネロピの倫理がまだどうもはつきりしない。バルビュスの「地獄」は此の間うっかりいねちゃんとかへ忘れて来ました。

あなたが桃ちやんと一緒に出て来られないのは残念です。ピアノをきかせたり、新しい部屋を見せたりもしたかつたのに。僕は今月末か来月頃に、うまく行けたら、そちらへ行きます。あなたを元気づけに（尤も御迷惑をかけてはすまないわけですが）。本当は「プランテーション」と一緒に行きたいのだが。

あなたは「冬將軍」に対しては、ひたすら「奥地退軍」の戦略で、何にもせず本當に逼塞してゐなさい。必要な生活の風は、僕が適度に吹き送るから。大体身体の調子が悪くて氣持の弱つた時は、なるだけ氣持を内向きにせず外向きにしなさい。自分の内を見るより、外界を見るやうにしなさい。人間は、歴史の進行に蹉跌したり自ら歴史的足場を喪つたりすると、にはかに内向的になつて、それもたかふために自分なり自分の武器なりを見なほし、あらためなほし、きたへなほすと云ふよりも、むしろ外へ向つて来た氣持を、外の対象を失つたので狼狽して反射的に内へ向くと云ふ傾向があるが、之はよくない。之はその足が本當に歴史的現実の地についてゐなくて、観念的であつたために起る一種の混乱と自己防衛で、普辺(普通)を見失つてその普辺を更らに新たな地平へみつけ出さうとするのでなく、普辺を見失つた個別的自我を反射的に防衛する、個別的自我へ自己を閉鎖してふ傾向で、精神の萎縮、生活の萎縮以外の何ものをも齎さない。十九世紀以後の心理主義にもそれがあり、いつでも歴史的波の退き潮の時期に起るもの、個人の場合は、精神的

身体的生活的蹉跎に続いて起るものです。殊に精神が外界に対して運動に富む、いはば外向的な型の人間は、その外向的な精神の運動の何らかのテンポ喪失にも陥入るスランプだと思ひます。かう云ふ時は、つまづいた自己を正確に凝視し（感情や感傷なしに）、観念の上で個別的自我を一応棄却し、個別的自我を奥地退避させ逼塞させ冬眠させ、ぢつと穴の中へ身体をこもらせたまま、動くことをやめて、専ら精神だけを外氣にあたることです。外界を見ることです。今なんかは殊に世界の歴史を見ることです。世界の歴史は根本的に明るくて、今ほど進路のはつきりした時はないと云へるほどなのです。だから新聞と僕の手紙とだけ見てゐればよろしい。あなたが世界の歴史を見てゐてくれることを知つてゐれば、僕も安心して仕事に打ちこめます。スメドレーもバディーギンも「母」もA・フランスも一つの外界、歴史の現実として見なさい。僕が吹き送る生活の風も、一つの現在の外界素材のつもりで見えてゐて下さい。

A・フランスの現代史は近く送れるでせう。そんなにあなたの氣に入つてよかつたと思ひます。僕よりもはるかに深くあなたはA・フランスを理解してゐるでせう。僕もこちらでいゝんな人にしやべる時、しきりとあなたの書いて来た抜き書きを材料にします。「白き石」はそちらにあつたのなら、序の時に送り返して下さい。僕ももう一度読みたいから。「母」は、よく読んでみると一つの歴史的時代の人間のありかたの実に立派な形象化です。典型的情勢に於ける典型的性格の把握描出を含んでゐます。世界にあれほど典型的にその時代を描出した文学はないのです。肌ざりの荒さ、形象の観念的生硬等々は、過去の文学者の批評で、それらにも拘らず珠玉のやうに光る、いや全篇にみなぎりあふれる人間の姿、人間の生活と云ふもの、その愛情と眞実を読みとるべきだと思ひます。それこそは歴史と眞向うからとりくんだものです。あれは日本の一ころのやうな時代の波にのつていゝんなものが出て来た、さう云ふものではなく、むしろ歴史的に退き潮のもつともひどい時、反動期に、しかも従来のいかなる文学も、歴史的先進国の無数の文学も、眞向から問題提起しなかつた歴史のになひ手達の姿の問題提起なのです。

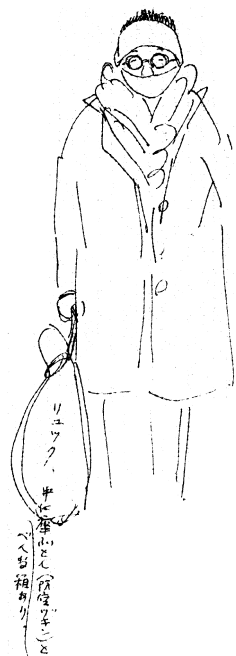
ゴオリからトルストイを経てゴリキーへ。「死せる魂」「検察官」↓「アンナ・カレニナ」「復活」↓「母」。ここに歴史がある。更にショロホフを加へると一層はつきりする。他処にはこれほどはつきりした歴史の文学的反映はどこにもない。フランスでもバルザックは凄くても、ゾラ、A・フランス、ローランとなると、やはり歴史の前進と云ふものがはつきり出てゐると云へない。ここでは豊富や絢爛はあつても、ゴオリの国のやうな明瞭な、まぎれのない「歴史」の感覚はあるとはいへない。さう云ふ所をしつかりと読みとるべきだと思ふ。

僕は何を読んでも、どうしても「歴史」と云ふものをはなれることが出来ない。いやはなれたくない。これは僕が歴史

家であらうとしてゐるからだらうか。それとも、もう僕の物の観方の奥底がさうなつてゐるからだらうか。僕は自分がちがふ意見をもつすべての人について、それらの人が歴史を知らないと感じる。僕が歴史を知つてゐるわけでは決してないが、この僕よりも歴史を知らないと感じる。歴史を知り、または歴史的な観方を自分のものにしてゐれば、あは云はないだらうと思ふのがしよつちゆうです。この頃特にそれが多し。そして僕が「歴史を知る」と云ふ言葉を使ふ時は、「人間を知る」と云ふことも含めてゐる。歴史とは大勢の人間のありかたに外ならないから。今朝も竹中、堀江両君、例によつて僕の所へあらはれる。戦局やその他の話題から、いつの間にか歴史へと話はすすんでゐる。

「菊池君の合衆国史また読み返してゐるがね。今度は逆もよくわかるよ。面白いよ。此の前の時は、ちよつとむづかしくてわからなかつたけどね。だけど、気取つてゐるね」「気取つてゐるよ。なるほど、さうかもされないね」「書き方が気どつてるよ。併し本当に面白い。こないだ書いてたらう、金ちゃんへの原稿、あれ出来たら見せてくれよ」「よし、もう少した」「菊池さんの合衆国史で何にあるの」「アングロ・サクソン民族つて本なんだがね。あれからも少し僕の歴史も進んでるよ」「書いてくれよ。うんとくわしいのを書けよ。あれは面白くなるとすぐ過ぎて了ふだらう、つまらんよ。もつと長くうんと書いてくれよ」「さうですね。歴史の面白いのは書いてほしいね。あなたのアメリカ史はもう書けるんだらう」「いやまだ書けない。去年のプランティンションでも、歴史を書くつもりだったが、やつぱり書けなかつた。まだ僕の歴史的洞察は頼りないんだ。わからない所をわかる力が足りないんだ。政治や戦争になるとまだ駄目なんだ。もう十年ほしいな」。

それからアメリカ史について、プランティンションのあちらこちらで展開してゐること、独立戦争から南北戦争までを、二人に二時間近くしゃべつた。「面白いね。それを書けばいいぢやないですか」「そりや面白いんだよ、僕だつて実に面白いんだ。けどどやつぱり僕の力がまだない。歴史叙述はむづかしいんだ。歴史的なものとの論理的なものとのディアレクティブな統一に於て書くこと云ふことは、実際なみ大ていの能力ぢや出来ない。プランティンションは元來論理的なものなんだ。これを、歴史的なもの（具体的、個性的、形象的）と論理的（抽象的、普遍的、概念的）なものとの弾力的な交錯統一に於て、描出と説明との統一に於て展開したかつたが、やつぱり駄目だ。歴史叙述は科学であると同時に芸術でもあるべきだからね」「君の歴史はむづかしい言葉さへなければ、羽仁さんのやうだね」「さうか。むづかしい言葉も実は時勢で仕方ないんでもある。併し元來羽仁さんのやうな啓蒙家と学者との高度な統一は、まだく僕には及ばない



ことだ。僕には啓蒙するだけの人生体験も学問もない。竹中君に結婚の講釈をするぐらいいは出来てもね」「いやしかし君の話は、効果ないのぢやないよ。僕はやつぱりいつでも君の話をきいてよかつたと思つてゐるんだよ、本当に。そりや君の云ふ通りには僕は出来ないさ。でもやつぱり効果がないんぢやないよ。ただね。君のやうな思想家と、僕のやうな商売人のちがひさ。だけどね、本当に信じてくれよ。僕はいつもまじめにきいて、それを僕なりに自分のものにしてゐるのだから」。

歴史の話はいつかそんな所へ行く。彼がこんな話をしたり「調査会へは入つて一番意義あつたことは君の話をきいたことだよ、本当に」などと云ふ時は、決して彼の商人的なお世辞で云つてるのでなく、最もまじめなのです。之は多くのひいき目でみた感じぢやない。そしてまた彼がこんなに云つてくれるから、彼へいつまでもしやべると云ふわけでもない。

結局午前中、こうしてしやべつて了つた。原稿書くつもりだつたのだが。午後あなたの手紙が来て、この手紙を書きかけ、大分書いた頃、自動車の音が門の前にとまつた。誰かと思つたら理事長の時ならぬ来襲。大ていは電話で警戒警報が来てゐるのだが、今日は此の頃のB29のやうに警報より先に来た（今日のおひるのサイレンも、警戒警報がなりやまぬ中に高射砲がひびき出しました）。今日はここにゐた者は、二階は僕と西井君、下は竹中、堀江、八木、五人です。外に女子が二人（古田さんは風邪でずつとやすみ。芦野氏も風邪やすみ）。理事長は上北沢へ行つたついでによつたもの。二階の十畳で白髪爺さんが若いのをつかまへて、かしこまらせながらおしやべりです。専ら彼がロンドンにゐた前大戦の空襲の体験談。「自動車のお仕度が出来ました」と下から坂巻嬢が云つて来たのに、「ああ、どうもありがたう。

そのねえ、ツェペリン伯の大きい何のつて。いつもはねえ非常にグラススなものなんだよ。ところが空襲に来た時は、ぼくらはでつかいいむしのやうに見えるよと云つたものだ。それがバクタンを落しほうだいに落して行くのさ。……」

話がいつはてるともなく高調してゐる時、またこつくと今度は坂巻嬢にしてはやや乱暴なノック。ひよいと僕があげると、男とも女ともつかない大きな

ラクダ色の、やけに着ぶくれた人間がぬつと立つてゐる。「あゝさうか。待つてよか」。理事長の姿を見てとたんにさう云つて、は入つて来かけた足を再び廊下へひつこめたのは、まぎれもなく伊藤新一君。左(前頁の左上 編者注)のやうなかくこう。「なんだ。君か。ちよつとこつちの部屋で待つてくれ」「えらい人来てたんか。自動車とまつてるから誰やろ思てたんや」と隣の七畳へ入れる。間もなく理事長はそつくり返りながら階段を下りて行く。「こは夜は誰か泊るんかね」「ぼくが泊ります」「さうかね。それは御苦労さまですね。上田君は云つとつたよ。こないだは上北沢の分室のそばへ高射砲のかけらが落ちたんださうだ。今の所、本室が一番安全でせうなんて云つとつたよ。はははは」。

送り出して上へ上つて来る。「今かへりか」「うん、ちよつと早いんだ」「それはさうと君、アナトオル・フランスの現代史持つてゐたね。こつちにあるかい」「ああ、こつちにある」「そいぢや貸してくれんか、フラウが読みたがつてゐるんだ」「さうか。さうだね、奥さんからの手紙でフランス読んでて書いてあつたね。ぢや成城の方へ持つて来とこ。

僕から直接送らうか」「いやそれは気の毒だから、いいよ。外のと一緒に送るから、成城へもつて来といてくれ。それはさうと戦局は大分あれだね……」と、ここで一しきり世界の戦局。

「それにしても何か面白いはなしないか」「面白くないね。しかしこないだバリー島の男に会つたよ」「バリー島?」「うん、正月にね。友達の所で珍客を昼食に呼ぶから来ないかて云ふんでね。行つたんだ。すると実はバリー島の留学生が来るんだて云ふんだ。王族の息子で二十ださうだがね。ところがいつまで待つても来ないんだ。昼飯に呼んだのに、一時半になつても二時になつても来んのでね。ぼくらさきに食つて了つたんだ。そしたら奴さん、三時すぎてから来るんだからね。来たと思つたら、座敷でちやんと坐つてね。ミナサン、シンネン、オメデトウゴザイマスで云ふんだ。インドネシヤだけど日本語もうまいし、日本人と余りかはらんね。日本へ来て一年になるさうや。政治のはなしや社会的のはなしはせんね。食物の話や日常生活の話をしてゐると、ほんとに普通の日本人と同じや。ところがちよつと話してると、やつぱりどうも文明人ではないと云ふ感じやね」「ふうん。どんな風に」「いや、僕がドイツ人に日本語教へてたと云ふと逆も興味もつてね、日本語のこと、自分も習つてるさかい、いろく云ふんだ、漢字がむつかしすぎるとか何とかね。そこまではいいが、日本におぼけゐるか、ききよるんや」「おぼけ?」「うん。そいでね、日本には幽霊つてやつと、おぼけとがあつて、おぼけには狸ときつねとその他のぼけるやつがあつて、と云ふ風に云つてね、だけどこんなものが本当にある思てんのは、田舎の爺さんかばあさんだけや云ふたらね、私はやつぱりおぼけがあると思ふ云ふんや」「ふうん」「夜魚釣りに行つたら、光を見たとか、それに巫女のこと逆もふしぎがるんやね。向ふにも巫女つてやつある

らしいんや、フレンド・オヴ・ソウルつやつね」「それはあるだらうな」「大体向ふの宗教は小乗仏教やが、誰も仏教なんか信じてはおらん云ひよつた。やつぱり向ふにもインドのやうにカストがあつてね、一番上が坊主で次が王族やさうやけど、坊主なんかあかん云ひよつた。慾がふかくて金ばかりためよつてね」。そんなことを云ひながら、彼はもそく、何か封筒には入つたものをポケットから出したと思ふと、パイプへそれをつめてゐる。

「何だね、それ」「これ？ 松葉や」「普通の松葉？ 買ったんか」「いいや、成城の庭にはえてるあたりまへの松や」「それ吸うんか」「うん、しようない」「うまいか」「うまくないよ」「そんなもの吸つてたら、バリー島の青年に、どうも日本人と云ふ奴は文明人やないな、と思はれはしなかつたか」「うん、さう思つたから、バリー島の前ではよしといた」「どうもあはれだね。ぢやファーターへ送る分一箱めぐもう」「そりやすまん。有難いよ。やつぱり松葉はまづいよ」「仙人にでもなるつもりならいいがね」「バリー島もやつぱり食うもんが一番困るらしい。向うは果物がぎょうさんあるやろ、こつちは何にもないからね。帰つたら日本の何を一番さきに話すかねてきいたら、にや／＼して答へなかつたけどね、きつと食ひもが悪くて困つたぐらい云ふんやろ。そのくせ昼飯に呼ばれながら、三時まで来ないんだからね。一時頃にその大東亜寮へ電話かけたら、十二時に出かけた云ふんや。三時間も何してたんや思たら、新宿まで来たらえらい人なんで、靖国神社へ参つて来た云ひよるんや。のんきなやつちや」「君がさう云ふんなら、よつぽどのんきなんだね、のんきの本家か」「そんなもんや。しかしね、ぼくの叔父が最近戦時病つてやつで死んだよ」「ふうん」「腎臓みたいにくんでね、顔なんかはれてた思てたら、あるあさ死んでたんや」「ぢや医者にもかからずにか」「うん。ちよつと具合は悪い云ふてたらしいがね、少しはれてると云ふだけで、外から別に大した病気とは思へなかつたらしいよ。寐込んだわけでもなしね。大体かたい人でね、やみはやらん、配給だけでやるちゆうて、本当に殆ど配給だけでやつたんや」「ふうん、そりやこわいね。僕なんかもこりや、或るあさ起きたら死んでたと云ふことになる可能性あるね。米となつぱばかり食つてたんぢやね」「うん、その可能性あるよ。とにかくだん／＼弱つて来てるからね」「どうも危いね。ぼくなんか、日曜の朝ぐらい死んでたら、空襲警報でも出て防空当番の誰かやつて来ない限り、うつかりすると月曜の朝まで発見されないね」「うん、結局やみでもして食はんとあかん云ふことや。君、いなご食ふかね」「食ふよ。何でも食ふよ」「そいぢや買へるかもわからんからわけようか」「うんたのむ」「ぼくんとこもね、こないだなんか、菜葉一切れもなくやつてね」「今ねぎが少しあるから帰りにもつて行けよ」「ねぎか、ありがたいな」。

五時に火を起して、僕は少しゆるめの雑炊をつくり、その上澄みの汁を彼にあたへる、と云ふのは彼は弁当をもつて来

てゐた。雑炊の中味はねぎとかぶとかぶらの葉。味は醬油少しと塩。「どうだ味は？」「うまい。この頃は何をくつてもうまい。今、周二夫妻が家へ加はつてね。周二のフラウもお産するんや。そいで付きそひみたいな女中が来てるやろ、その女中にまかしとくと米なんかむちやくちやに食ひよる。文三は一番いいよ。兵隊が何でも持つてくる云つてた。玉子でもとりでもいいもどもね」。文三君は千葉の軍隊にゐる。こんな風に硬軟とりまぜて三時頃から九時半までしゃべつてしまひました。ここに書いたのは書けることばかりで、あとは書けない、硬の方は。

プシはあれから電話が来ないが、十三日頃に辻岡さんに会ひたいものです。だが大てい二階のとたんやねへ来ると云ふので、午前中日行つてみるつもりです。本当にプシに会ひたいものです。だが大てい二階のとたんやねへ来ると云ふので、午前中日あたりのいい時刻に辻岡さんの二階へ上げてもらふ外ないのです。プシを抱いてくることについて、いろ／＼考へてゐます。歩く道を考へること、それにしてもおとなしく抱かれて来るかどうかよくわからない。自転車へのればいいが。或ひは竹中君を道連れにすることも考へてゐる。その間中いろんなことをしやべつてやらうと。それにしてもあなたが、僕がどんなに云つても、やつぱり僕のあなたへの愛情を信用しようとせず、プシを「一番私を成心なく愛してくれた唯一つの生物」だとか何とか云ふのも、僕はこだはるまいと思つても、やつぱりつまらない。あなたは僕を誤解ばかりして、ちつともわかつてくれない。だがその方の文句はよしませう。ただ、僕がこのままどうかなくなつて了つた時も、あなたは僕を信じてくれないにすんで了ふのだと思ふといやな気がするのです。

僕の生活は別にあつちこつちへ手をひろげてとんだりはねたりはしてゐません。ただ、あなたの感情が、僕にどうすることも出来ないくらいによぢれて、僕を親切に理解しようとする気がまへがすつかりなくなつてゐるやうなことや、「プランテーション」が難航をづづけることや、交友関係でも森井さんのことや、竹中君のいわゆる「黒星づづき」や、それやこれやで、折角の冬期攻勢も進まないこと、猫のこと、食べ物のこと、一切の上にある戦局と僕の運命との切迫、すべてが僕の生活を暗くしてゐます。歴史のみが僕を明るくしてくれるのです。

あなたが僕のことをドン・キホーテに類推したのは當つてゐるのかも知れませんが、僕も去年の暮に同じことを思つて、森井さんへの手紙に書いたくらいですから。森井さんとは三日以来、十日に一度話したきりで、彼女が世界觀努力と倫理努力とを混同し、どうも誠実でも素直なほでもないとはつきり思へて来たので、話す気もなくなりました。

あなたはいつても「おあまりのしぼりかすの定期便はほしくない」と云ふが、僕はずつと通じて、概してあなたへの手紙に最もエネルギーを使つて来た筈です。僕の生活の最も重要な部分をなして来た筈です。無論その途中には、他の人と

の話や交渉にエネルギーを集中したり、また原稿や読書に集中したりしたことはあつたが、通して考へれば、それらはすべて一時的だつたのです。僕はあなたへは遺言のつもりで書いてゐるのです。だけど書けないことは仕方ありません。一緒に居たつてすべてをしやべるわけでもないでせう。それに、手紙はひらかれたり、いろ／＼しますからね。とは云へ、僕の外的生活と内的生活の基本的なものは、あなたへの手紙に展開して来た筈です。これでも、これだけ書くのに少くとも三時間は要してゐるでせう。断続的ではあるが。そしていつでも同じ感情や同じ気持の状態にあることはむづかしいし、書くことのないことだつてあるのですから、しばらくかす／＼云はないで下さい。それより、僕へのあなたの感情のむすばれを解いてくれる方が、どれだけ僕を勇気づけ明るくするかわからない。あなたの手紙に、うらみがましい文句の全然ない、明るい調子の貫徹を早く見出したいものと、心から思つてやみません。

幸子から謙一あて（一九四五年一月一七日の記、一八日の消印）

一月十七日

No.7、十三日附、十七日前10時に到着。同時に十四日附の九州からの手紙が来ました。東京の方が遠いのね。西山さんがおたん生祝に、田舎で何も買へないから、初ボーナスの中少々送ると云つてお金をよこしました。何も送つてあげる物が無いから、そちらで本室へ行つた折でも、彼女向の本を探して下さいませんか。お金を同封しておきます（かわせにしないから次ので）。

お餅ですこし肥つたとのこと、20日に又つく相ですから、固まつたら少々お送りませう。お味噌もお醤油もなくつちや、毎日三度／＼の事ですから困りますね。融通出来相な人はありませんか？

小田中嬢の手紙、拝見、早速桃ちゃんの手紙の歴史を書留で送りました。住所もわかつてゐますから、小田中嬢宛、直接送りましたが、いけませんかしら。あなたが小田中嬢から卵だとかおさつとか時々貰つた相ですから、一寸一言お礼をつけ加へ、あなたのところへ近日お餅を送るつもりだから、食べにゆく様に云ひ添へて置きました。彼女の字と西山さんの字とそっくりですね。なんだか様子も似てゐるのぢやないかと想像しました。手紙の様子では、至極のんびりした人の様に思はれます。松本の人には珍らしいタイプですね。森井さんも松本の人ですか。長野、松本には、森井さん式の、もつと頑固な人が多いです。北信では大体藤村など、代表的な典型人物ではないでせうか。尤もそれは私の知つ

た範囲内の人ばかりです。どうして小田中さんのお手紙ばかり送つて下さるのかしらと思ひました。

ここは此のごろB29の通路に決つたらしく、東京へゆく時は必ず通ります。原宿にゐた時、佐々木さんか松岡さんかの夕方の水汲みの音ね、あれとそつくりの音がしますね。矢張り頭の上であれが唸つてゐる時は嫌な氣持になります。それに二、三日前の地震以来、毎日30分に一度の割合で、小さいのや中位のや大きいのが来るので恐いです。空からも地からも驚かされ通しです。うるさいですね。

昨夕は脳貧血を起して、七時前にねてしまひました。ひるの中は石橋さんが来たり、早苗のお守りを云ひつかつたり、ヨ定は出来ませんでしたので、晩を当にして置いたのに。今日もまだ頭痛が残つてゐて、一寸不明朗の感があります。隣組の鷺見さんも羽生三七さんも皆、空襲が嫌だとしてこちらに戻つて来ました。飯田の方も疎解者の主人公がどんどん引きあげて来るので、家賃も売屋もうその様な値上りだ相で、便所の様家さへも（南原さんの言葉）一万、二万とする相です。あなたは何時おでかわかりませんが、其の頃には私達の住める家賃の家はないでせう。十二月始めの空襲以来、もの凄い流れこみ方だ相です。荷物も三日位で届く相です。お釜だのお鍋だのを背負つた疎解者が飯田駅に、電車の着く度に溢れて来るとか。

でも其の割に東京の人口は減つてはゐないのでせう。何処につまつてゐたんでせうね。不思議です。そちらが殆んど安全の様なら、此のごろの様な通路のこちらよりはましですから、仕事の都合と危険率との上での相談ですね。あなたもこちらにおゐでになる意志はおありなさらないでせうし、こちらにあなた向の仕事は殆んどないのではないかと思ひますよ。前の様に早く来てくれとは申しませんが、仕事の御都合次第になすつて下さい。家もないし、田舎の息苦しい生活はあなたには無理だと思ひます。話す友達もない、偏見と悪意に充ちた田舎程、人を痛め傷つけるところはありません。こちらに親類があつたり親のある人は別ですが、さうでない疎解者は三ヶ月位で又戻つてゆくと云はれてゐます。上伊那の方がまだましの様に聞いてゐます。先日、岸田さんの話もそんな点で大分嫌ならしく、田舎の人たちの排他性や偏見の事に就いて話したらしいです。

十七日夜

今日は午後からアメリカ史（六盟館の方）を読みました。中絶してゐたので、もう一度始めから読み返しました。今度のよく解ることと云つたら、前の時の1—10のエネルギーで進んでゆきます。矢張りプランテーションで苦しんだむく

①ひは充分ありますわね。殊にジャクソンの民主主義のあたりは、逆にプランテーションのあの分の説明式では（歴史的知識の不足からよく十分わからなかった）不まん足の様に思へたところ、今日は四のジャクソンの民主主義と西部膨張のところまでやりましたのでよくわかり、ジェファースンのそれとの相違もすこしわかりました。四の最後、カリフォルニアのゴールドラッシュが南北戦争に大きな影響あつた事は、リトルページの“ソ聯の10年”を読んだ時、一寸見まして妙な感じがして、一応あなたに聞いて見様と思つてゐたところでありました。

スターリンが米国経済活況の因をなした金の役割を引用して、米国西部に於ける産金が僅か数年間で米国の南北戦争の根本的要因となつた事を指摘し、多額の金を産出する事によつて、北部は南部をやすくとうち負かした。其の金鉱の発見は、米国西部の同地方の農業が一齐に開発されたことを指摘し、続いて道路、運輸機関の発達を指摘した。これがバイカル湖地方の金床発見に応用されて、新しい町の出現を生む事を二回程書いてゐます。覚えておるでせう。話は逸れますが、^{原文}S氏は何とすばらしい頭の持主でせうね。何か一寸読んでも主要点をピンと知つて記憶し、必要に応じて引き出して、徹底的な調査をして、新しい事実に適応させる。

さて此の調子なら七、八とかかつて中々はかどらなかつたアメリカ史も（二冊とも）、忽ち読みこなせさうですから、とても気を強くして来ました。さうしてつい手に一月中に時間の余裕あつたら、フアランドとアダムズを讀了して、あなたとの比較に於て其の書き足りなさを見たり、あなたのアメリカ史及プランテーションに於けるオリヂナルな見方の再認識を試みたい、なんて野心を起して居ります。矢張りノオトをとりつつ遅々と進む歩みが結局は早いのですね。まる四ヶ月プランテーションに（事實は毎日出来なかつたので二ヶ月かも知れない）かかつた事は、一寸も時間の浪費ではなかつたことを知りました。

哲学ノオト（レ）をちよい／＼夜ねむる前に眺めてゐますが、内容はほとんど解らないと云つた方、正確であります。あの勉強に対する方法の暗示は非常に刺戟になる様に思はれます。矢張り、どんな偉い人でも随分苦労しつつ勉強するんですね。さうして独自の方法を掴んで、一切をものにし、消化し、血肉として身につけて新らしい力に変へてゆくのですね。「方法」と云ふもの大切さ一前にあなたからもききましたし、バルザックの事を書いてゐたクルチュウスでも暗示されてゐた一を、又一しほ深く知り得る様に思ひます。クルチュウスはややこしい言葉で、それを表現してゐた「方法」の発見も又、天才の仕事で、探究的組織的知能の理想概念としての「方法」とか、創造的思维的の共通機能としての「方法」とか云つてゐた様ですが、方法こそあなたの云つた様に目的よりも大切だと思ひます。此の自分独自の、

自分に適合した方法を掴むことこそ、何よりも大切な重大な事で、此の事に就いて新らしく勉強する毎に慎重に考へねばならぬと思ひます。段々とアメリカ史から離れて来ました。

ずっと読んでゐる中、何故だがモンロー宣言あたりから、ほらいよく出て来たと感じました。多分アメリカの帝国主義的なのはひの事かも知れないし。共和党と民主党についても、特に民主党何も知つてゐなかつたので、共和党内の共進的分派から生れたものだと始めてわかつたのです。後日、民主党内からプランターへの反抗として、共和党に走るものもあつたし、中々めんどうな形をとつてゆくのですね。南北戦争の後、共和党内の急進派が立派な役割をつとめるでせう。そして共和党から一民主党を作つた一急進的であるべき民主党が、南部の民主党第一主義的傾向になつてゆくでせう。全くめまぐるしい位です。

では今夜はこれで。桃子やんがねむがつてゐますから、おふとんを敷きませう。

謙一から幸子あて（一九四五年一月一七日の記）

一月十七日（水）晴

今日はお手紙二通拝受。十四日付と十五日付。

身体の調子がややよくなつたとあるのを見て、僕も氣重もさが融ける感じがします。戦時浮腫なんかにならないやうに。せいぜい食事を努めてとつて下さい。あなたはどちらかと云ふと、大脳皮質と間脳との関係が原生的に敏感で、感情的な判断がそのまま生命中枢（間脳）の働きに作用して、之を多かれ少なかれ阻害すると云ふ傾向が強いから注意して下さい。なるだけ思考上の判断を冷静正確にし、且つそれを間脳の生命中枢へひびかせないやうに、所謂精神修養が必要です。身体の弱い人は特にさう云ふ意味の精神修養が必要です。また胎教と云ふ意味からも必要です。神経の訓練と世界觀の鍊成。

あなたがアナトオル・フランスを愛し、哲学の勉強を欲求するに到つたことは、あなたの世界觀努力、精神修養、胎教、健康保持の意味で喜ばしいことです。アナトオル・フランスは、繊細で感じ易い魂をもちながら、老齡と身体の脆弱のために、いつでも精神の平静、同情にあふれ激しようとしながらも常におだやかさを失はないこと、が必要だつたのではないでせうか。エピキュールやブロットオが必要とした、すべてを知り自らの運命をも知つてゐるものの達觀、さう

云ふものが必要だつたのではないでせうか。彼の寛大さ、おだやかさ、静かさ、しかも若々しい激し易い感受性との混交。プロットウとガムランとの混交。懐疑家の寛大さと革命家の激情との混交。今身体をよくないあなたは、A・フランスのその混交をよく味はふのいいのではないかと思ひます。どんな現実に対しても生き生きと同情し反応しながら、しかもいつでもおだやかなほほえみ(ほほ)を失はない態度。現実の荒波のすべてのゆりあげ、ゆりおろしに身をまかせずら、身体の平衡を失はないこと。すべてを見ながら、すべてを理解しながら、歴史への、人間への信頼と希望とをしつかりもつて、しづかにしてゐること。之が身体がよくなかつたり、老齢だつたりする人の一つの生き方なのでせう。身体が弱いと云ふことと老齢と云ふことは、「老齢」と云ふ言葉がいやにひびいても、やはり同じやうな意味をもつのです。どちらも現実の中へ直接たたかつて行く力が不十分だと云ふ意味で。あなたは春になればきつと身体を恢復し、たたかひの気がまへを恢復するにちがひないのだから。少くとも恢復するために、今は静観の必要があるのです。終局的勝利のために奥地退軍が必要な場合が多いやうに。

哲学の勉強には、先づ哲学史がいい。シュヴェグラーとフアレングラー(フアレ)、それから此の間持つて帰つた「フオイエルバッハ論」を先づ御読みなさい。羽仁さんのクロオチエ、それから「思想」の中の羽仁さんの「国学の限界」。スピノザの知性改善論。ヘーゲルの精神現象学（之は二巻までしかホニヤクがない。之は誰かにかけてあげます）。こちらにヘーゲルの小論理学があります。今時々見てゐるので、上述のものを読み終つた頃に送るか持つて行つてあげます。岩波の倫理学講座の中の西田幾多郎の論文、田中美知太郎の「ミユトスとロゴス」などもいいし、たしかどこかにあつた岩波の哲学講座の中の思想史（中世とルネサンスが林達夫、近世が羽仁五郎）、古在氏の「古代哲学」「現代哲学」などもいい。何れもそちらにあります。併し、シュヴェグラー、フアレングラー、「フオイエルバッハ論」、特に「フオイエルバッハ論」は必要です。之等をさきに見なさい。その次が古在氏のいい（小さい本。唯物論全書）。ME芸術論は今僕が見てゐます。之はその中送ります。僕は太分筋をひいたりしましたが、その筋にとらはれずにゆつくりお読みなさい。ドイツ・イデー……も必読です。何れもゆつくり読めば、よく考へて読めばわかります。哲学をやる場合も、文学を読む場合と同様に、いつでも歴史と結びつけて読むこと。何を読む場合にも、歴史を忘れないこと。上にあげたもの大部分は、哲学を歴史と結びつけて書いたものだから、特にいいのです。僕は哲学の勉強は之からです。尤も僕は何もかも之からなんだが。お手紙のカイン派と云ふのはよくわからないが、何に出てゐたものですか。ロマン・ローランの「キャレンツア伯」の

印度思想は、之もよくわからないが、十九世紀末の西欧文明の行きづまり（実は西欧ブルジョア文化の行きつまり、西欧ブルの歴史的自信の喪失の反映としての文化的行きづまり）に於て、「西洋の没落」思想、「アジアの光」思想、「西洋合理主義の行きづまり」と東洋的神秘主義非合理主義への憧憬、「ニイチェ主義、生命主義、行動主義、かう云ふもの一切と関聯あるものやうに思はれます。十九世紀末、ブル・インテリは、ブル自身の歴史的進歩性喪失（プロの歴史的前進、独自の抬頭に対するブルの反動化）を反映して、合理的なもの、歴史的なもの、普遍的なもの、前進的なものを否定しはじめた。丁度病気が太陽の光をさけるやうに、歴史の公道から故意に眼をそむけて、暗がりへ、個別的なものへ、病的なものへ、非合理的なものへ、エキゾチックなものへ、さもなければ「罪」意識や行動主義へ、超人主義へ、かくれるか、やけになるか、よそほふか、しようとした。芸術至上主義や唯美主義や不安の哲学や神話主義や、恋愛至上主義や享楽主義や、エン世主義や虚無主義や相対主義（スケプティズム）、野獣主義、印象主義、歴史主義（この歴史主義はランケ、マイネッケ、トレルチその他のもの）、すべてがさう云ふ社会的地盤の上に開花した。之は今までしよつちゆう云つて来たことです。ドストエフスキー主義も、トルストイ主義も、オプローモフ主義もさうです。之等一切は我々の精神的生ひ立ちの環境にみちて来てゐる筈です。そして之等一切は、此の前にも書いたと思ふが、十九世紀末から二十世紀初頭までは、まだ歴史的自信を喪失したブル・インテリの敗北の告白、自己の歴史的自信喪失の告白であつた。従つて、その歴史的役割はむしろ消極的であつた。ところが、この十数年来、即ちキャピタリズムの最後の危機の時代、FASCISMの時代には、それら一切は、キャピタリズムの積極的な反歴史の武器になる。FASCISMの積極的武器になる。だからこそ我々は自分の中にある十九世紀末主義の一切の残滓を峻厳に批判し識別する必要がある。その時、例へば、同じ十九世紀末主義と云つても、スケプティズム、行動主義、印象主義、「合理主義の反省」、生命主義等々には、一面の真理もあるので、その真理を夾雑物から洗ひ落し、歴史的なヒューマニズム、眞の合理主義で、裏打ちしなほす必要がある。別の言葉で云へば、M・Eイズム即ち唯物弁証法できたへなほす必要がある。更に別の言葉で云へば、十九世紀末主義の中からも我々は、栄養を吸収出来るのです。それらは、ブル・インテリの文化的遺産だから。遺産は遺産のままでは夾雑物が多すぎて害があるから、これを純粹の部分だけとつて、有益なものにせねばならない。そして、ドストエフスキー主義とかオプローモフ主義とかトルストイ主義とか、非合理主義とか、エゴイズムとか、享楽主義とか、厭世主義とか、俗流主義とか、まぎれもない反歴史的な反動主義は断乎と自他から清算せねばならない。それから更に、今や反歴史的な武器にされた反合理主義（神秘主義の獯猛なやつ）、非人間主義、反理性的行動

主義、ニイチェ主義（権力主義）等に対しては、最も容謝なくたたかかねばならない。僕の世界観努力はすべてかう云ふたかひから成り立つてゐなければならぬのです。之が中々むつかしくて、うまく行かないのです。その為人から検事などと云はれもするのに。

所でロマン・ローランには、まだ十九世紀末主義の断片がずい分残つてゐるのです。アナトール・フランスの場合もあるが、ロマン・ローランの場合の方が、ローラン自身のありかたがA・フランスよりも説教者的とでも云ふべき傾向が強いために、その残滓は有害であり得ると思ふ。ローランの方がずっとファンが多いですからね。ローランの人物の方が理想化されてゐる傾向が多いですからね。A・フランスでは、さう云ふ種類の理想化がないから、十九世紀末主義の残滓も有害さが少い。そのかはり、A・フランスよりもローランの方が、モニュメンタルな性格を創造し得た功績はある。キャレンツア伯の印度思想は、ローランの根本的に健全な思想のために、元のままの十九世紀末主義ではないが、そのニュアンスをやはりどこかにつけてゐるでせう。即ち「西洋合理主義の行きづまりの反動としての東洋神秘主義生命主義への憧憬」のニュアンスを。西洋合理主義の行きづまりは、理性の行きづまり、論理の行きづまりを意味するのでなく、従来 of ブルの合理主義、機械主義、感性と切りはなされた理性主義、の行きづまりにすぎない。従つてその行きづまりは、真の合理主義、真の理性主義、真の弁証法的論理に徹することによつて打解さるべきなのに、彼等は逆に反合理主義、感性主義、反論理主義（権威主義）等へ逸脱することによつて、折角の従来 of 機械的合理主義に対する批判も、無益になつて了つた。

アンネットの中の「生命主義」「行動主義」「個人主義」「恋愛主義」「神秘的母性主義」等を批判すべきやうに、キャレンツア伯の「東洋主義」、アーシャの「行動主義」、また「ジャンクリ」の芸術主義なども批判されねばならない。「母」にはそれがいいでせう。だから、「母」はやつぱり、何と云つても新しい時代のものです。トルストイやローランが過去の文化の残照を含んでゐるとちがつて。

ローランのガンヂーは読んでないのでわかりません。

あなたは下痢には注意せねばならない。戦時浮腫も慢性下痢、脱力感、食慾不振等を伴ふやうですから。ビタミン剤を積極的に摂り、食事もうんと啣んで、積極的にたべて下さい。ぼくの身体は芯が強いからいいが、あなたは、もつともつと自分の体質を知つて、それに対して積極的に克服の努力をせねばなりません。

あなたは、僕にとつて邪魔者であると云ふ風な命題に非常にこだはつてゐるが、それはいけません。あなたはその点で

現実を正確に見ずに、固執的で、自分で固定観念をつくり上げてゐる。あなたが僕の邪魔者だったと云ふことは、一時的に偶然的に事実だったこともあるけれど、それはあくまでも一時的偶然的だったので、僕が昨年秋にしきりに書いたやうに、結局はあなたは初めから今に至るまで、言葉の本当の意味で、僕を創造してくれた人だったのです。今でも、之からでもさうです。あなたは僕が、そのことをいくら云つても猜疑深くとりあげないで、僕が一時的に云つた言葉だけを固執的にとりあげ、固定観念にして、僕をいぢめ、同時にあなた自信をもさいなむのです。僕が昨年秋から、手紙でも、面と向つても、あんなに一生懸命に精力をつくして、あなたの僕にとつての大切さ、僕を創りあげて来たあなたの大きな意義、だからこそ「プランテーション」も、僕の一切と共に、あなたなしに考へられない達成であること、を云つて来たのに、どうしてそんなに意地悪く、うらみがましく、一時期の言葉に固執するのです。さう云ふことは、何の役にも立たない。二人の生活を創造的なものから退き戻し、エネルギーや感情や、健康をすら浪費し、本当にいけないことだのに。今日のお手紙で、さう云ふ固定観念を克服したやうに書いてゐるが、実際にはまだ克服しきつてゐない。まだいやみな、意地悪な、こ達はつた感情が、あちらこちらのあなたの言葉のかけにつついてゐる。それがすっかりなくならない限り、我々の問題は解決しない。しかもそれをなくするのは、あなたのリアリスティックな観察と思量とのみです。僕がいくら云つても、あなたは僕を信じてくれないのだから。さう云ふ不信が、僕の創造的なエネルギーをどれだけ毀損してゐるかわかつてくれたら。逆にあなたの理解と信頼と愛情とが、僕の創造的エネルギーをどれだけ飛躍させるかをわかつてくれたら。

このことでは僕は、自分の言葉、口や手紙のあらゆる努力も効果のないことを痛感して来てゐるので、そのことに思ひ及ぶといつても憂鬱になるのです。問題はあなたの固執をあなた自身が、現実の正確な認識によつて解いてくれる外ないので。あなたが、自分をそんなに固執して僕の邪魔者だと云ひつゝのり、考へつゝのり、或ひはその固定観念をどこかにくつつけ残してゐる限り、実際に僕の創造的努力を阻害することになるのです。反対に、あなたがその固執をやめ、固定観念を解いたら、それだけで僕の創造的努力への参与者、最も有力で、不可欠な参与者になるのです。そのことを本当に理解して下さい。信じてくれとは云はない、理解してくれと云ひます。之は僕の心からの叫びです。

そのこととは別に、いや或ひはそれと決定的聯関があるのかも知れないが、あなたの云ふ僕に対する批難、「一方的なおしつけがましき、無理解、独善、利己主義」は、僕は自分で泣きたくなるほど不本意なだけだと、形としてそんな風にあはれた至らなさを、承認しおわびします。あなたが今日のお手紙で、僕「に対する不信は消えて了」つたと云

ひ、また僕のあなたに対する「悪」一切を「私のつくつた観念であつたのでせうから」と云ひ、「もうそんなことは一寸も心にかからぬ気がします」と云つてくれて、一見問題は解決したかに見えても、そのすぐあとに「私はあなたを余りにも愛しすぎたからあまりにも多く求めすぎ、しかも思ふ様に与へられぬと云つて苦しんで来たのでせう。さう云ふ私の愛しかたが誤つてゐたのでせう。あなたの様に手広く四方八方愛情を注げる人はそんな事は思ひもよらぬことでせう」と云ひ、「これはヒナンでは」なく「羨望です」と云ひ、「私もさう云ふ風に人を愛したい」と云ひ、「あなた一人を求めすぎるために、あなたを苦しめ、自分を苦しめるのが、馬鹿げて見える」と云ひ、「これから少し考へかたをかへて自分が重要な存在のやうな、自分だけが中心でなくてはならぬやうな錯覚から早々に抜け出さなくてはな」らないなどと云ふ時、問題はやっぱり解決されてないのです。何故なら、問題はあなたの愛しかたが専一すぎた所にあつたのではなく、むしろ反対に、愛しかたの不充分（固執や固定観念、不信）にあつたと僕は思ふのですから。あなたが僕にとつて「重要な存在のやうな」「錯覚」にあつたのがいけないのでなく、逆にあなたが僕にとつていかに重要な存在であるかを充分認識してくれてゐないのがいけないと云ひたいのです。僕にとつてあなたが、過去・現在・未来を通じて決定的に重要だからこそ、僕はこんななままでくりかへしくりかへし、自分の言葉や論証があなたの固執に対していかに無力かを痛感しつつも、訴へやめないのです。そして僕がいちたしく、不機嫌に、あなたに「押しつけ」たり、信ぜよ信ぜよと宗教的ファナティクのやうに云ひたてたりしたのも、強引に疎開させる形をとつたのも、結局その僕の云ひたいことをあなたがそのまま受けとつてくれない、僕の意志が疎通しないために、しかも外的な情勢は迫り、仕事は進まないと云ふ風な事情のもとに、自分のあなたへのわかつてもらいたいことを外の形に表出する手段が見出せなかつたのです。それはたしかに悪い。だからあの時の僕の態度はどきども悪いと云つてゐるのです。けれどあとになつて説明して、かうだつたのだといくら云つても、あなたはやっぱり僕の云ふことを言葉通りに受けとらないで、不信を固執して来たのです。

僕は「プランテーション」が唯一一つの仕事でなく、「南北戦争」こそ最大の仕事です。その仕事の意義は「プランテーション」を書く前から、ここ二、三年前から自分に、自分だけに痛感して来てゐるのです。それをはずきりと疎外する、対象化する、即ち叙述することの困難と、しかも時局のうむを云はせない切迫との間にあつて、僕はもうあせりにあせつてゐるのです。自分の力の足りなさにも拘らず問題の重要さ。しかも僕のみがそれを出来ること云ふ自覚。之等は誰にもわかつてはもらへない。大勢の人に、何だか手当り次第と云ふほどいろんな人に、問題の外カクだけ話して、或る程

度わかつてもらへても、結局は僕がすっかり展開しなければわかつてはもらへない。しかもその展開の「うみの苦しみ」にあつて、中々容易にうみ出せない。「プランティション」はやつとうみ出したが、あれは序の口でせう。あなたにもわかるでせう、あの中に無限に、僕が展開せねばならないもののあることを。素描ですぎてゐることを。「合衆国史」以来書いたすべてがさう云ふ問題を、展開されざるままに含んでゐるのです。さう云ふものをかかへて、しかもいつ兵隊に行くかわからない僕の焦燥をあなたが理解してくれないと云ふのです。それを僕がうみ出す為には、あなたが必要なのです。あなたの大きな愛情が。あなたの深くて純一で理解に徹した愛情が。それが不満だから僕がこんなに苦しむのです。僕はあなたを僕の仕事のすまない理由に決してしてはゐない。反対に、あなたのありかたこそ僕には自分の力に余る仕事の原動力であると感じるのです。だから求めてやまないのです。だからあなたに強引に、乱暴に求めてやまないのです。あなたを求めるだけでなく、あなたの僕への真の結合を、真の合体を、僕の仕事への合体を求めて求めてやまないのです。そしてこの求めかたが、この仕事の意義をあなたにすつかりわからせ得ない限りは、僕のエゴイズム、あなたへの無理解な押しつけ、独善、と云ふ風な形にもなるのです。之は自分のエゴイズムの合理化では絶対にありませんよ。だからこそ「プランティション」を読んでほしかつたのです。そして「プランティション」を読んでくれたら、わかってくれた時は、僕は本当に凱歌をあげたかつた。何れにせよ、僕の言葉は本当に無力です。「プランティション」そのものすら、僕の言葉の無力の証明になるのかも知れません。でも「プランティション」が片鱗かたはらでしかないもの、「プランティション」そのものよりも、あそこに含まれてゐる僕の「問題提起」を読みとつて貰へたら。

こんな手紙はあなたを疲れさせるかも知れませんが、あなたの感情への思ひやりや、自分の反省も充分とは云へない書きぶりです。そしてこの調子が、あなただけでなく、竹中君や臼田君や森井さんからも、受けつけてもらへないものなのかも知れないのですが。でもまたくりかへしくりかへし書きます。それより、さしあたり、あなたの健康に、最善をつくして下さい。

幸子から謙一あて（一九四五年一月一八日の記、一九日の消印）

一月十八日

十四日夜附No. 8、十八日午後四時着、まる四日かかりますね。本当に此の頃、汽車の切符も始はじんど買へないし、電話も

六づかししいし、手紙もまる四日、足かけ五日もかかるのでは、東京は唐てんぢくの様なものに思はれて来ます。前はまる一日で届いたものですのに。頼りないと云ふ気持がするではありませんか。具合が悪くて気の弱つて居る時、若し此の調子で、突発的に（たとへば、よくある長期間をおいての高年の妊娠に伴ふ子宮外妊娠の破裂とか、流産とか、悪阻から起る心臓障害とか）悪くなつた時は、必ず電話も通じず、電報もうまくゆかず、たとひ届いても汽車のトラブル等のため、死目に逢へずに終るのではないかと、思ふ事もあります。そんな事は方に一つも起りつこないのせうが、具合のわるい時は凡てを悲観的に考へ勝ちのものです。あなたの手紙は日附の五日後に届いてゐます。一寸前までは四日目であつたのに、此の頃は概して五日目になりました。寒い雪の日などは、たいいてい郵便は来ず、翌日二本一諸に配達される事もあります。

私の手紙、四日届かなかつた訳は十三日附の手紙に書きましたね。貧血の時の様に、フラク／＼して起きてゐられず、字を書かうとすると目がまはつて吐き度くなるので、書けなかつたのですが、わざ／＼桃ちやんに頼むのも大げさだと思つて。たいいてい起きて普通にしている時は、ろくでもない手紙でも必ず書く様にしてゐますから、届かなかつた時は、書けなかつたと思つて下さい。もう大体あのひどい峠は越したのではないかと思ひます。十二月中旬から此の十日すぎまでが、絶頂であつたのぢやないかと思はれる。大分落ちついた様ですから、此の調子が続けば、あとは夏にはいつてすい弱を注意すれば、順調にゆくと思ふのです。

なんだか気のせい（あ）か、妄者の状態から抜けて生気が出て来、むくみもずつと減つたし、手の指のとりの足の様な骨つばさも恢復して来た様なんです。おしりの骨はまだコキンとつき出たまゝで、厚着をして座つてゐても、座ぶとんに二ツの骨のあとがはつきり残ります。此の恐ろしいやせ様、四月頃どころぢやありませんの。目方を計つたら七貫もあるか、と思はれる位です。頬はこけ落ちるし、総毛立つた様な皮ふ、ぬげ上つたおでこ、大きいのは口ばかり。私がたまに郵便局などへ厚着をして着ぶくれて出てゆくと、裏通りの子供たちが肺病肺病と叫んで逃げてゆきます。材木屋のおぼさんたちのひそく／＼話で、私が肺病で五月にこちらに帰つて来て、来た当座はまあ人間並だつたが、此のころはとても悪さうだ。何処の亭主も皆、もう東京を引き上げて来てゐるのに、石井の娘のは疎解（そ）と云ふより肺病で帰されたんだから、亭主などよりつきませんのだ。此の冬中越せればもうけものだ、と云つてゐた相ですわ。お母さんが其の事をチラときいてひどく気にして、来る人／＼に私の事を、これは胃下すいがあるからこんな風だ、肺病とか云つてゐる相だもつての外だと弁解してゐます。かまはんぢやないのと云つても、ゴウ（う）が湧くと云つて、お前がキチンとせんからだ、フラ

く歩きをするからだ、外へ出るな、なんて私に怒り出す始末、ほんとに喜悲劇(マヤ)ね。

それもまづ今月末位には抜け出せ、人並(?)になれるでせう。本当にいろいろ心配させたり、わるい手紙を書いて嫌な思ひをさせましたが、もう大丈夫だと思ひます。心配せぬ様。すこしあぶない様なら、大げさでも前もつて様子を知らせて置きますから、お忙しいでせうが、其の時は来て戴き度う存じます。さて健康状態の報告はこれで終ります。

お父さんは四、五日前から大分恢復して、又病院が始まりました。東京も流行性の悪質の感冒が流行してゐる相ですから注意して下さい。鼎も流行して一家中枕をならべてねてゐる家も随分あります。死んだ人も(これは肺炎を併発)三、四人あります。お母さんも怪しいのに、頑張つて働いてゐます。休む様に云つても、きゝませんの。自分が休めば、家中の行事が停止する様に思つてゐるんです。ふうちゃんはどう(たうとう)今日(ま)はねこみました。早苗も子供なりに心配して「ママ、死ぬといかんで、ねんねしておいな」と云つて、一寸でも起きて来ると心配相に、注意していい子で遊んでますからかわい相です。

桃ちやんのはまだ通知がありませんから、駄目だったのでせう。随分力を落した様で(人生に於ける最初の悲しみ、自信喪失)、いろいろ話をして慰めました。もう、落ちついて元気を恢復した様です。主任の先生も変てこな人で、先日来てのお話をきいてゐると、六人願書を提出して一人通過したが、成績は六人中の下の方であるが、父親がブローカー(ブローカー)で昨年の四月以来学校当局に運動をして、2000円とか寄附をしてゐたからとか、妙な事を云つてゐました。きき様に依つては、うちでも主任教師へのつけ届がなかつたから当然だと云ふ風にもきこえました。で、彼女も学校と云ふものが、本当の学問の殿堂であるよりも、むしろ企業である事や、先生と云ふものへの絶対信頼を疑つて、暫く動揺した様でした。私は又頼りない話手ですが、此のごろ、本の話、友情関係、本を書く人の責任、よみ手の態度、生き方、歴史とはどんなものか、人類への信頼等々、ずつと時々話して来ましたし、桃ちやんもお姉さん何か話して、と暇のある度云つて、其の都度、現実の身のまはりの事件や、いろんなものにふれ話し合つてゐました。ちようど学校の科学の先生に、一人、「お姉さんと同じ様な事を云ふのよ」と云つて、尊敬(敬)してゐる人があつて、其の先生の今日話した話の中で「勤労働員から帰つた皆を迎へて、一目見た時、たつた四ヶ月でお前方がぐどんその者の様な顔つきで電車から溢れて来たのを見て、腹が立つた」と云つて、学生の自分について話した事や、学問を愛する事について話した事等、同じ様な話をする(と云つて、たまに其の先生に逢つて帰る度に、何か心に火を点ぜられた様子で話した事があります。それから時々しか出来ませんが、ネールの歴史等で、随分考へ方が出来て来たのではないか、と思つてます。先日中は矢張り

長倉事件の事を質ねだすので、いろいろ話してとうとう克蘭クビュー、アナトオール・フランスの事など喋りました。そんな次第で、今度の学校の事もすこしくあきらめもつき、本当の医学の勉強を求めるなら、あそこの学校に限らぬ事、要は自分の中に「真実求める心」如何にあるのだと解つたと申しました。とは云へ、本当にかわい相で、夜ねむり乍らすすり泣をする事もあつて、随分悲しいのだと思ひます。あそこが駄目なら、あとはテイ身隊と(伊那工業)臨時教師の二つしか残つてゐないのだ相です。

そんな訳で、桃ちゃんも私も上京の見込はなくなりました。みつちゃんは来るのか来ないのか、何度も夏以来手紙をあげても一度の返事もなく、八ツ穂ちゃんのおしめを、外へまはさぬ様に融通頼んだ手紙にも、返事がありません。又、気が變つたのかも知れませんが。

赤ん坊の下駄が当つた相で、エンギがいいこと。何だかおかしくて笑つてしまひました。丈夫な子供で、下駄を穿ぬいてとんで歩けるといいけれど、弱い子で病氣ばかりされると困ります。男の子なら私に似るでせうし、女ならあなたに似ますからね。あなたはどつちだと思ひます? あつちやん、不二ちゃん、男の方がいい、年とつてゐるから、それにもうあととはわからないから、是非男でなくつちや、と云ひます。それにあなたの方が性質が勝つてきつついから、男に相違ないと云ひます。女房がきついと女が多い相です。私は至極やさしくおとなしい方ですから、きつと男の子でせうよ。併し男の子は育てにくい相ですね。まあ其の下駄は大切にしまつておいて下さい。

利ちやんにも手紙を書かうと思ひ乍ら、あなた宛一本かくと思はぬ時間をとつてゐるし、利ちやんに書くのは遂めんめんどうで、失礼してゐますが、其の中頭痛のせぬ時、必ず書きませう。利ちやん、すこしは澁刺として来ましたか? 利ちやんの手紙はNo.が目茶苦茶で、あつちこつちばららくにして探し出さなくてはなりません。今まで二度もそんな事がありました。

あなたの導き方の効果のうすいと云ふ事の原因については、私の場合丈しか云へませんが、あなたが相手の認識力の段階におかまひなしに、自分と同程度と相手を高く評価して話す事に、重要な欠かんがあると思はれます。相手の認識力の現段階の程度を事実ありのまゝの低さに見る事は、軽蔑でもふそんでもなくて、自分の意志を相手に伝へる時の大切な条件ではありませんか。だからあなたの話にみ力を感じ乍らも、こちらがあなたと同程度の共鳴、批判を持ち得ず理解ににくい。そのために共感も出来ず、退屈に感じて来る。併しあなたは、其の状態を正確に察知せず、理解しないのは理解しようとする熱意の不足に帰して、相手に不足がましい態度と否難ひんの態度を示す。そして尚も熱心に押しつけて

来る。そこには理解と共感の楽しみは少くて、二云はれた事を記憶しようとする努力が生れて、—今はわからないけれど、あとで考へてみよう、下手に何か云ふと怒られるから—と云ふき持が生れる丈で、非常に一方的なものになって、相互理解から生じる新しい第三のもの、は出て来ないのではないでせうか。

私があなたの云ふ通りに、若しも其の点が成行してゐたとすれば、それはあなたの其の様なものに対して感じた不まんを、私の相手に感じさせぬ事にあつたのだと思ひます。事実、私はお母さんやなんかに話す時は、特に、相手はこんな話には一寸も積極的な興味を持つてゐないのだと云ふ、ありのまゝの状態をさつし乍ら、相手に応じていろいろな、相手と共通に知つてゐる具体的な話から、—相手が疑問を持つて—即ち積極的に出て来る様にしむけてゆき乍ら、相手に沢山考を云はせるのです。さうすると、お母さんも思はず積極的に考へをまとめては吐き出します。さうして表現にまどつてゐる時は、一寸、一言助け舟を出す、さうしてこちらの思ふ方向に、相手に充分話させ乍ら、問題に引いて来る方法をとります。そして充分向ふが其の問題に関心を持つた時を見て、おもむろに(？)あるひは勢急にプランテイションでも黒人問題でも話すのです。そして、でもこれはアメリカ南部丈にあることぢやないわね。私たちの極く身近にも黒人に対する人種的偏見や差別たいぐうがあるでせう」と云ふと、さうだくと云つて、お母さんの思ひつく限り、いろいろと具体的な例を持ち出して来ます。で、私の話したかつた事は、十分相手に納得させ得ない乍らも、相手がそのことについては、相当の関心と意見を持つて来た事を知ります。其の後は勢急にそれをやらせず、いいチャンスを見ては、又その問題へ戻ります。五、六回くりかへせば、相手は充分、相手なりにわかつて来てゐます。

アメリカの植民時代の話は、お母さんが北海道へおぢいさん達が行つた頃の話をした時に、アメリカではかうだつた、と云つてピルグリム・フアーザーのメイフラワー号の話、英国の当時の状態等話しましたところ、それからずつと後に常会で、アメリカの植民当時の話ごく下手に区長から話された時、お母さんは『いや、アメリカ人は始めつからごうまんではない。始め英国から来た最初の人は、本国の庄セイにたまらず、新世界を求めて、アメリカに渡り、けんそん^かに共同の生活をし様として、其のつもりでやつて来たのだ』とか話して、皆をびつくりさせたとか、中々面白い事をやります。

大金さん達には始めは、知識に対する好^寄心^心を起す事丈に専心しました。桃ちゃんには本当の考へ方、自分達の毎日の生活に対する考へ方、生き方、さう云ふものから這入りました。桃ちゃんの工場生活にはいる時など、特に「自分の歴史」と云ふ様なテーマで、自分の毎日の生活が自分を作る歴史で二度とくり返せないものぢやないか、と云ふ様な出だ

して始めた様に思ひます。私の考へ方が本当に正しかつたかどうか分かりませんが、自分の信じてゐる方向に向つて、一生けんめい毎日話しました。さうして、桃ちゃんもしまひには大分いろいろ考へ方を云ふ様になり、工場の生活に於ても、自分の中の二者について何時も考へて行動した、と報告してくれました。桃ちゃんはそれ以来、とても理解力もあるし、いい相手ですけれど、中々話す暇がありません。毎日の宿題やらまとめやら報告やらにキユウ／＼で、あとは疲れて、自分からネールを持つて来ますが、忽ち目ぶたがくつついて、かわい相で責め立てられませんか。

何だか結局、私の自まん話になつてしまつた様で、大へん恐縮です。あなたへの異議と云つたら、そんな点です。もう一ツあなたが相手に殆んど云はせず、自分丈喋ること、たまに相手が見当違ひの意見を吐くと、ゆつくり何故そんな事が出て来たか―を考へず、勢急にピチヤンとやつつたり、いら立つこと等も、いけないのぢやないかしら。相手に下手でも充分語らせる事は、相手の関心呼び起す重要な条件です。それは相手の認識力の程度や方向を知り得る事で、こちらの云ひ度いこと、伝へたいこと、理解させたいこと、即ち種まきの地ならし工作に相当すると思はれます。相手の考へを勢急にやつつたり非難すると、向ふは興味を起すどころか逆の結果に走ります。認識力の相違を正確に計算してかかることが、一ばん大切ではないでせうか。

失礼な事を沢山云ひましたが、要するに、あせつたり、早い効果を望んでは無理だと云ふこと、たとへばプランテーションについての講義にしても、全部あなたの期待通り理解させ様と、早急に望む事はまちがひでせうね。むしろプランテーションは、まつちの火の役目に相当すれば、満足すべきではないでせうか。後は其の火を各自の能力と誠意、熱意に於て解決させるべきではないでせうか。結局、私共は相手に自分の考へを云ひ、相手からもきき、さうして一十一―二でなくて、三にも四にもしてゆく事が本場で、新しいよりよいものを、人間同志の結合が生み出す事が大切なのでせう。

では今日はこれだ。
相手に自分の考へ通りを押しつける事は、一十一―一ではないでせうか（このいち〔一十一〕の方の「―編者注」が一でなくゼロのときは、一でもまあいい方かも知れないけれど）。

併し、何時も私が大金嬢や桃ちゃん等と話す事の内容は、皆あなたからのものばかりです。あなたから貰つたものを、私流に相手に語つてゐるのだと思ひます。ですから、あなたは溢れ出すものを持つ人で、媒介者、教師の役目ではありません。私は自分から溢れ出すものを持たず、あなたから、あるひは本からそれを得、さうしてそれを人に伝える（あるひは話す）媒介者の役目です。こんな事を書いてゐたら、グンドルフのシェークスピアと独逸精神の中で、ゲートルは

人生に於て努力に最高価値を求めた人で云々、シエークスピアは創造者でゲートルは人生の教師であつたとか、二者の相違を語つてゐたところを思ひ出しました。

さようなら

謙一から幸子あて（一九四五年一月一八〜一九日の記）

一月十八日（木）晴

十五日付お手紙拝受（No.9）。

悪阻に対しては、僕の血でも何でも最善を尽して下さい。要る時は云つて下さい。僕は今、身体の点ではこの十年来最高の条件（尤も目方だけを標準にして）にありますから。去年の秋は若干むくんでゐるのかと思ふふしもあつたが、今は大丈夫です。昨日も八木君と一緒に風呂へ行つて、「菊池さんの体格は思つたよりずつとがつしりしてゐるね」と云はれたくらいです。十四貫三百ぐらいあります。戦時浮腫の方は、この頃せいゝ機会をとらへては昼を銀座あたりでたべるやうにしてゐるので、何とか動物性蛋白質もとれます。悪臭いものをたべても、とにかく米のごはんとかぶらから菜っ葉かばかりの食事はこの頃嫌気がさして来たので、外の方がおいしい。おいしいと云ふのはあたらなないが、とにかく何か食べた気がする。夕食がたべられるともつといいものが食べられるのだが、さうすると家へ帰つて火を起すことにさしさはりが出来ます。火は食事に必要でない場合でも暖をとるのに必要ですからね。その点夏から秋は楽だつた。之でもう少し日が長くなればいいのだが。

大寒が近づいて、さすがに冷えはじめました。朝起きる頃、六時半頃は、この間中ずつと撰氏四度か五度だつたのが、この数日は一度か一度以下です。霜はさうひどくなくなつたかはり、水と云ふ水が氷り、お勝手で朝くんだ水があとからあとからこほつて行きます。氷らないのは前の晩に洗つておいた米の水ばかり。水道はさひはひこほらないので助かります。階下の水道はこほつて昼まで出ない。六時半はまだ暗くて、バラ色の指した暁がだんだんその指をひろげて来てすつかり明るくなるのは、七時少し前です。朝がたは、かげぶとん一枚、毛布二枚、どてら一枚の寐床は、この頃空襲にそなへて毛のシャツとワイシャツとズボン下とをつけたまま寐てゐるのに、足のあたりや肩がさむく、そのために五時頃に必ず眼がさめるくらいです。カイロを入れることにしようと思ふのだが、夜寐る時はさう寒くないのでつい面^{めん}で、時々しか入れません。東京でこれですから、信州はずつとひどいでせう。防空ブルーの水はもう一尺何寸氷つて、

大きい石をなげつけてもびくともしません。

雨はもう一ヶ月以上もふらないやうな気がします。この一ヶ月半に、曇りの日さへ数日だったのでないかしら。之でまだ太陽熱の暖かさで、炭のない冬を過しやすくしてくれたわけだらうが、そのかはり風邪はひどくはやってゐます。竹中君は一家中で風邪で、出ては休みしてゐるし、古田さんもずっと休んでゐます。松村君もしきりに水ばなをぶらさげてゐるし、西井君のせきばらいもはげしい。でやつぱり僕が一番元気です。芦野理事の風邪欠勤は大分人助けになつてゐるやうです。併しこの頃、夜半の空襲がなくて助かります。

こんなに元気でゐると、あなたの身体の悪いのに対して、自分がわるいやうな気になります。實際原因は僕にあるのだが、もつと直接にわるい気がします。つわりの症状は、戦時浮腫のそれに似てゐますね。どうか気をつけて下さい。昨日は、交詢社の新聞研究会で、外ム省の和田と云ふ人のソ聯の話をききに行きました。外語か何か出て、再三ソ聯へ行き、一番近い所では昨年春行つて来たのださうですが、実にくだらない話で、二時間損した気になりました。竹中君と外に出て、「つまらんね」「肝腎のことは何にもきけない。あれがソ聯研究の専門家か。第一しやべりかたが気にはない。社会的地位のある連中は大体あんな風な、思はせぶりな、わざとゆつくりした、えーとかあーとか合ひの手の多いしやべり方をするものだらうがね。いらくしてくるよ」「君の話の方がよつぽど面白いよ」「そりや君、僕のアメリカ史は商売ぢやないんだものね」「いや君がソ聯の話をする方が、今日よりはよつぽど面白いんだよ」「さうかもしれない」。三時頃でもさすがに銀座は何か食べ物があります。殊に僕は急いで出て来て昼食をたべてなかつたので、切実な気持ちでさがしたら、元のコロソピア（尾張町）に一丁余りの列があつて、それにくつついてパンと何か料理をたべました。それから露店（之は三時頃から出る）をずつと見て、かねぼうの横丁で、ひなのた、たきのだんごを四串たべて、栄養上満足しました。ヘーゲルの精神現象学は竹中君に借りて送ります。僕が先に読んでおきます。哲学の勉強のプランは、先便でのべた哲学史をあなたがやつてゐる中に立てることにしませう。僕も来週あたりから、いね子、白田、小田中、この三人を相手の「プランテーション」講義をはじめようと思つてゐます。三人が三人ともタイプがまるでちがふのも、おかしいくらいです。再校のゲラが原価計算やりなほしで、まだもらへないので、原稿でやります。どんな風にすすむことか。僕が講義のやうなことをやつても続いたためしがない。やつてゐる途中、相手の熱がちつとも上つて来ないことを感じると、こちらもやる気がしなくなるのです。去年の春のアメリカ史もその例。

一月十九日(金) 晴

十六日付お手紙を受取りました。十四、五日のお手紙とガラリと調子がちがつて、僕も戸迷ひ(マヤ)します。正直の所、こんなお手紙は受けとりたくないのです。問題ははつきりとしてゐるのに、またむしかへすだけなのです。あなたが内向的、内省的になる様子は、余り愉快なものではない。どうしてそんなにしつこく同じことを、手をかへしなをかへてむしかへすのか、正直に云ふとこんな手紙をくれるあなたが憎らしくなります。どうして昨日や一昨日のやうな手紙、外向型の、前進的な、創造的な健全な手紙を続けられないのでせう。身体が悪いとか天気が悪いとかは、決定的な理由でない。どうもあなたの考へかたに、二人の生活の前進をはばむ固定観念、固執があるやうです。この種のお手紙を昨秋以来、何度受けとつたかと思ふが、今にしてまだかう云ふ風なことを書かれると、この間中森井さんに対して感じたやうな不快さ、こちらがいくらどんなに云つても、それをすなほに受けとつてくれず、僕の言葉がまるで通じないもどかしさ、石の壁に物を云つてゐるかのやうないらだたしさを、覚えざるを得ません。

この問題で、またまる一日、外の何にも出来ない結果になりました。仕方がないので、おひるに外へ出て銀座で買ひ物して来ました。電車の中や食べ物やの列の中で、持つて行つたオデッセイをもちつとも読む気にならず、あなたの今朝のお手紙のことを考へつづけて憂鬱でした。僕にはどうにも出来ないのです。あなたが僕をそんな風な自分勝手な固定観念で規定して、そのあなたの固定観念の中の僕に対して云ふことを、現実の僕に対して云つてくるのですからね。あなたは僕の云ふことをちつともすなほにきいてくれないのですね。この問題は何度云つたかわからない。もう僕はこんな問題で自分の仕事や自分の社会的生活を阻害されることにはまんが出来ないほです。こんな態度はまたきつとあなたから批難されるのでせうが、どんなに云つてもわかつてくれようとしないので、すから仕方がない。内省と云ふことは、あなたのきらいな精神作用ぢやなかつたかしら。実際内省なんて云ふことは、人間生活に有害無益です。そんなひまに、どうして外のことを、歴史を理解しようとしなひのかしら。歴史からはなれた自分のことなんか、すてて了つていいではありませんか。歴史の中にあつてこそ我々の個別は重大な意味をもつが、内省とか自己解剖(夫婦の場合は夫婦の間の心理態様の解剖)とかは一見、自己批判として精神の前進活動のやうに見えるが、さうではない。真の自己批判は、もつと平明で、もつと現実的で、もつと前進的です。真の自己批判は、自己を普遍(普遍)の中へ置くこと、自己を自己から疎外することです。自己を対象化して考察し価値判断することです。所が内省とは、自己の中へ沈潜することに外ならない。

例へば我々の関係について云へば、我々の内部の考察は、我々が外とのたたかひ、前進生活にどうしてもやつて行けない故障が起つた時、前進するためになされねばならない。我々の前進とは何か、我々の世界観努力であり創造努力です。あなたの世界観努力及び創造努力にとつて僕が障害になつてゐますか。障害になつてなければ、それでいいではないでせうか。僕の世界観努力、創作努力にあなたが障害になつた時には、僕はさう云つた筈です。それはあなたの意図でなく、あなたの病気や外的な故障であつた時でも、障害と云ふ点では変りない。その時はさう云つた。所が今はちつともさう云つてゐない。あの時は一時的偶然的だつた。僕はそれが一時的だと知つてゐた。だからこそ疎開と云ふ方法をとつたのです。一時的でないと思つたら別れるとか何とかの方法しかあり得なかつた筈だ。

今僕はあなたを必要としてゐる。今だけではない。あなたが世界観努力、生活努力を誠実にやつてゐる限り、僕はいつでも、永久に、あなたを必要とする。僕の前進、歴史的な生活に、あなたがなくてはならぬ存在だ。これはいい加減に云つてゐるんぢやない。あなたが世界観努力、生活努力、人間的努力をよして別の方向へ行くなら、僕はあなたを必要としなくなる。そしてあなたはきつと常に、さう云ふ人間的努力をなす人だと価値判断したからこそ、僕はあなたと、何物をも押し切つて結婚したのではないか。そして七年間そのことで疑ひや不安をもつたことはない。だから僕は之まで、之からも、あなたとの基本的結合に疑ひや不安をもつたことは全然ないのです。それなのにあなたは、何が不満でそんなに幾度となく、二人の結合を疑つたり不安がつたりするのですか。

あなたが正しい生き方をし、世界観努力、生活努力に誠実である限り僕は、自らの前進のためにあなたを必要とするやうに、あなたの方でも僕が正しい生き方をしてゐる限り、僕をあなたの前進のために必要とするのでせう。そして僕が正しくなくなつたら、あなたは僕を欲求しなくなるでせう。

問題は簡単です。二人が夫々に乃至は一緒に、前進しようと努力してゐる限り、二人の結合にゆるぎはないのです。二人はお互ひを必要とし、お互ひを欲求するのです。そしてどちらかが前進をやめた時、二人の結合は敵対的矛盾になるのです。前進のテンポの差などは問題でない。前進努力をしてゐるか、それとも逸脱後退してゐるか、これが決定的問題なのです。あなたは問題がそんなに簡単に平明であるのを、むりにもつらせ幻想的に誇大展開し、深遠さうにするのです。その点で、あなたのやりかたは森井さんを思はせる。

僕の心情や心理は、あなたが考へるやうに高速でも複雑でもない。ごく普通で、あらはれるまま以上でない。あなたは僕のさう云ふ心情や心理を、知悉してゐる筈です。見通しなんですから。そして僕の心情や心理は、卑俗な狭隘なごみ

の多いものではあつても、基本的には歴史的な普遍的なものへ向いてゐるのであり、その点で信頼してもらつていいのではないかと思ふ。僕がカンシヤクを起したり、押しついたり、女の感情を理解しなかつたり傷^傷けたり、かんちがひしたり、動揺したり、混乱したり、外へ氣をとられたり、崩折れたりしても、それらは一時的で、今まではすべてさう云ふものを克服し、基本的には正しく生きて来たのぢやないかしら。だからこそあなたは僕を夫とも友ともして愛してくれて来たのではありませんか。

だから或る時僕が、混乱や横暴やかんしやくもあつて、あなたの病氣を僕の前進の障害だと口で云つたり、そのやうに行動したりしたとしても、そんなにいつまでもこだはずに、もつと大きい眼で、もつと大きい心で、信頼しながら見てくれるわけには行かないのでせうか。あなたのこのお手紙に書かれてゐることの大部分は、あなたの幻視でしかないと断言します。僕はそんなにひねくつては考へてゐない。僕はあなたを妻として友として、または姉として妹として、母として娘として無限に欲求し、いつも欲求してゐる。あなたを妻とし友としてゐることをいつだつて天下にはこつてゐる。あなたのゐない所では僕はいつだつて、あなたをほこりを以て人に話す。之は誰にきいてもらつてもいい。

それよりあなたは一体、僕にどうあつてほしいのですか。僕を、あなたの氣分の望むやうな形で、あなたの為^為にのみ生活するやうにあつてほしいと云ふのですか。あなたに手紙ばかり書き、あなたへ「しぼりかす」でない手紙を書くためにのみ生き、またはあなたのさう云ふ不安や疑ひをなくさせるために、信州へ引きあげるなり、あなたを東京へ来させるなり、とにかく早く一緒に住まうと云ふのですか。併しあなたはきつと、僕がそんな人間、普辺と云ふもの社会的關係と云ふもの歴史と云ふものからはなれ仕事をはなれて、妻の氣分や感情や、占有欲やその他のためにのみ生きる人間であつたら、きつと僕を欲求しなくなるでせう。あなたは僕を八方美人だと云つたり、見栄坊だと云つたり、輕薄、俗物視するけれど、僕はそんなものぢやない。僕はあなたがもつと信頼を以て愛してくるに価する人間だと自分で思つてゐる。あなたを僕が信頼して愛してゐるやうに。

そんな風なことはよく考へずに、哲学史の勉強をやらうぢやありませんか。「プランテーション」を勉強してくれただやうに、哲学も一緒にやらうではありませんか。もつと外界を見ませう。僕をあなたへの態度だけで価値判断するのではなく、社会、歴史、普辺への態度で価値判断して下さい。二人が夫々に普辺、歴史との結合努力に於て生きる限り、二人はゆるぎないのですから。あなたは身体のことも考へねばならない。身体の調子や天氣に氣分を支配され生活を支配されるのではなく、反対に、あなたの精神の積極的な前進努力で、身体の調子や氣分をも支配して行かうではありませ

んか。世界の歴史はもつと大きな悦びや悲しみで我々の心情をきたへ成長させてくれます。

今日は実は手紙を書かないつもりだった。もつと慎重に考へて、あなたを労はり乍ら書かうと思った。だから今日は小包だけつくつて、手紙は明日でもゆつくり書かうと思つた。でないと、あなたは、僕を「女の感情を理解出来ない」とか、「思ひやりがない」とか、「独善的」だとか、いろいろ僕の耳馴れた言葉で批難しやめないだらうと思つた。けれど、女の感情と云ふのが、十六日のあなたのお手紙のやうなものだったり、森井さんの固執のやうなものだったりするのなら、そして女の感情を理解しないと人間が前進出来ないなら、歴史は一体いつ進むだらうかとも考へられる。「思ひやり」も必要だが、もつと必要なことは、前進的努力、世界觀努力と生活努力、創造的生活でないでせうか。さう思つて、僕は今もう森井さんを相手にする気は全然なくなつてゐるのですが。

とにかく小包を作つて了つて、一気カセイに手紙も書いて了つたのです。あなたの、さう云ふ「気分」的な内省（前日の手紙はまるで違ふ調子なんだから）に一々全力をあげて答へてゐたのでは、創造的生活は進まないし、第一僕の気分が甚だ非前進的な困迷（クワシ）に引き戻されていけない。説明不足や書きかたの乱暴はあつても、一気カセイに書く必要があつたのです。こんな書き方ではやつぱりまだあなたの疑惑は晴れず、同じやうな手紙がまた来るかも知れないが、その時はまたその時。

小包の中味は、お茶、あなたへの買ひ置いたプレゼント、タバコ、赤ちやん下駄、本（スメドレー二冊）等です。外に、番茶少しとタバコとコーヒーと砂糖（ヤミ）とは、小包用紙がないので、もう少しあとにします。コーヒーと砂糖とは、あなたの気分を慰めるために、少し苦勞したものです。砂糖は実はまだは入つてゐない。とにかく身体に精神を支配されないやうに。努めて、精神で身体を支配するやうに。小包の中味は、つまらぬものばかりだが、之でもお値段はすべて相当なもので、僕の気持だつてせい一杯にこもつてゐるのですから、品物だけで判断されないやうに。では。元気を出して下さい。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二〇日の記、二二日の消印）

一月廿日

今朝は四時半頃、半鐘の乱打で目を覚めました。路では大声で叫び乍ら人が走つてゐるし、てつきり爆弾が落ちたと思

つたら、松尾へゆく坂の上で大火事でした。火事だと云ふので安心して、床の中にゐました。桃ちゃんが暗幕を除くと、窓が真っ赤に見える程でした。昨夜は五寸位雪が降つてゐたので、其のきれいなこと云つたら、早く起きて見てごらんと朝ちやんと口をそろへて云つてゐましたが、寒いからと云うく見ませんでした。うちではお母さん、不二ちゃんねこんでしまひ、何かと雑用多く、昨日はとうく一ページも何も読めませんし、手紙も書けませんでした。今日は朝ちやんがお当番をしてくれるので、大分暇が出来相です。ふうちやんが病気をすると、早苗の世話が出来るので、二人分の仕事が増えます。

アメリカ史は線を引き乍ら読んで来ましたが、とうく第三章の南北対立の爆発のところからは、矢張りノオトをとり始めました。一応終りまで行つたら、第一章からノオトをとつてしまふつもりにきめました。二月からの新プランにはいるのは、すこしのばさなくてはなりません、一結局一寸もまはり路でも損でもないのだから、あるひは三月に這入つてからになつてもかまひません。他の偉い人達も抜き書きやノオトをとり乍ら物にするんですから、私如きがスラ／＼と読み流すなんて事は、もつての外だと思ひました。

昨日はとうくあなたの手紙が来ませんでした。原稿でいそがしかったのでせうね。ここまですして、あとは又、午後に書きませう。

おひがすんで二階へ来て第三章の二、南北戦争を一応読み終り、ノオトを三行位とつたら、どうにもたまらぬ位ねむくてねむくて、とうく枕を出し、どてらを出し、三時までねむつてしまひました。桃ちやんが帰つて来て、あなたのNo. 8十七日附を渡してくれて目をさました。其の時の夢は私がシドニイさんと云ふ(ピユトアの様な人の想像の生んだものが、現存する人間に当てはめられて出来た)変な婆さんになつてゐる夢を見ました。シドニイさんは使ひ歩きの妙な婆アさんです。誰も知つてゐて、実は知らない。シドニイさん自身も、自分を怪しいと思ひ乍ら、飯空のシドニイ



さんになる丈似様とつとめてゐます。古ぼけたコーモリ傘と大きな買ひもの袋、しまのモンペ、茶いろの男外套の短いもの、いぼぢり巻、「ハイ、ハイ」と出来る丈奇妙な声と表情で返事をする。次の世にシドニイさんに生れ変わると云ふんなら、もう二度と人間はおことわりです。

「アンソニー・アドヴァース」送つて下さる相でありがとう。実は時々、あの映画を思い出すので、あの時、沢山本屋にあつたから買つとけばよか

った、と思つたものです。アンソニーが後年、アフリカへ行つて奴隷がりをする面を思い出すからでせう。あの場所（アンソニーの育つた）は何処だつたのでせう。ニューイングランド辺ぢやないかと思つたり、ヨーロッパの様でもあつたり、たしか戦争もありましたね。

私のわるい手紙は随分あなたを傷つけて本当に／＼すみません。とことんまで自分を苦しめた揚句、まだ足りなくてあなたをまで痛めつけた事は、本当にわるい事でした。あなたは幸福で、元氣であるからに／＼と思つたのでせうから、ゆるして下さい。もう一寸もそんな泥沼に足をすくはれる様な事は当分ないと思ひます。さんざん苦しんだ末、泥沼を渡り切つて新しい土地に足を下ろした様ですから。渡らなくてもいい泥沼であつたかも知れませんが、渡つて苦しんだ事は損でなかつた様にも考へられます。

八路军も現代史も送つて下さる相で安心致しました。アナトオル爺さんは白き石で、一寸息つきの状態で、アメリカ史へはいつたので、其の後は中絶してゐますが、これは休息のための読書の分へ組んであるから、ゆる／＼とよもうと思ひます。白き石は、実にすばらしいですね。私も実は、あなたにもう一べん読む事をすゝめようと思つてゐました。人種問題についても実に氣持よく、短いが適切に書いてゐますね。人種問題と云へば、リトルページに出てゐたニグロの歌手の話は書きましたね。

「ソ聯政府は一九二八年以後、法律で人種的偏見は刑法上の犯罪として取り扱ふ宣言をしてゐる。私はアジア地方を旅行してゐる間、他の如何なる犯罪よりも、此の犯罪が速かに必罰されるのを見た。／＼共産黨員は「総ての民族は其の潜在的能力に於て同程度であると云ふ彼等の信念を強調して、若しも凡ての人が同じ機会を恵まれさへすれば、皆同程度に達し得る」と云ふ考へを持つてゐる。だからソ聯邦の各種の種属及アジア人種に対して、最初の可能な時に、同一の機会を与へると云ふ事に決した。彼等は不釣合な程の資金を、アジア地方に学校、病院を建設するために投じた。／＼アジア地方の民族共和国に関する限り、彼等はそれを工業化するまでは、絶対に其の社会を進歩せしめる事は出来ない、と云ふ考へを持つてゐる。彼等の云ふところによれば、農民社会、特に遊牧民社会は、其の社会出身の産業労働者に依つて發達せしめられぬ限りは、何時までも未開の状態を保つとどまるんだと思つてゐるらしい」と書いてゐました。

同様の考へ方が男子と人間の同等な婦人労働者や将校を作つて行つたのでせうね。竹中さんの読んでゐる合衆国史は六盟館の方ですね。私は叙述が氣どつてゐると思はない。あれは何時もあなたの文章の癖ですよ。追ひかけ、たたみかけ、息苦しいまでに引きつづつて行つて、頂点でぽんと切り離す様なところを、竹中

さんは指すのでせうが。実さい面白いけれど、煮つめて、濃くした感じがあります。うすめてのむ方がのみいし、エッセンスをそのまゝだと、どうも中々うけつけず、そのまゝ出てゆく恐れがある。私がノオトをとるのは、結局水をわつたりうすめたり、のみよくするためです。「読者の努力」の不足があたり前に思はれてゐる私達の習慣では、努力せず楽によめるものが普通である様に思つてゐるから、とかく文句が出るのでせうね。そこで多いに「読者の責任としての努力」に就いて、もう一度弁じたら如何？ それは著書をも読者をも——全般的な国民のレベルの向上をもたらずせうから。実際、楽に読むこと——結局栄養の少いものである事を再認識しましたから。

哲学ノオトを見ても「本當の栄養をとる事」について、つくづく感じさせられました。あゝすればこそ一冊よむことは、一冊の知識が読み手に移る、と云ふプラスマイナスなしの移行ではなくて、一冊が彼の努力、勉強を通して、より新しいプラスになつて、即ち新しいあるものを加へる、生み出す事になる。読書の弁証法です。哲学ノオトを眺め乍ら（読んだと云へない）教育者とか学校とかについて、すこしばかり考へるところがありました。又生徒も学問に就いて、与へられた杖をそっくりうけとる事が最上である、と思つてゐたことや——それやこれや私共の教育のされ方、勉強の仕方について考へました。

羽仁さんの「学生と歴史」の中の言葉で、歴史の勉強に就いて云つてゐるところ、あれは歴史の勉強に限らず、私共の考へ方、生活法、勉強——一切の世界観に適用される事でありました。

「歴史が他の学課より詰らないと云ふと、其の理由は他の数学、科学と異つて、諸君の各自の証明や分析や判断や、凡そ諸君がそれについて、何等かの事を自発的にたしかめたり、考へたり、思索してみると云ふ、各自の識見や努力をゆるさない、唯一の学課だからだ。」歴史は暗記ものだと、すましてしまふ。人間の頭脳の働きは、ものを見る観察力と、物を考へる推理力と、ものを覚える記憶力との平均が必要であるのに、記憶力ばかりを要求すると、観察力や推理力が減退してしまふ。「記憶力の偏重が、独創力の欠亡となるのだ。独創力のないと云ふ事は国家の不幸だ、独創力を養ふためには自分の目で物を見、自らの識見ものを考へ、自ら発言せねばならぬ。」

まあ、こんな風な事を方々で云つてゐますが、特に私共、女の場合は歴史に限らず、修身、倫理、家事、一切は記憶尊重であり、批判めいた事を云つたり思つたりは、女の場合もつての外でありました。一体に、日本の教育は始んど記憶尊重です。だから新しいものを生みだすなんて事は出来る相談ではないし、理想は与へられたものをそっくり次にわたす事だったので。推理も判断も、独自の意見も見捨てられた基礎教育をうけた国民が、批判したり努力したりし

て読書する、なんてのは相当むづかしい芸当でせう。併しそれをつき抜ける様に努力すべきでせうね。それは知識人を自負する人の任務です。

私のむくみもへつて来ました。今月末までには状態(病状)に復すと思ひます。あなたも戦時病で即死などせぬ様、葉かなんかで調節して下さい。毎日爆音のきこえない日はありません。今日はおひる前にきこえましたし、昨夜もきこえました。では又

謙一から幸子あて（一九四五年一月二〇日の記）

一月二十日（土）晴

本日のおあなたのお手紙は、昨日のちがつて「晴」の方です。あなたのお手紙が晴か曇りかによつて、僕の一日の晴曇が決定されます。この頃郵便受けでああなたの手紙をみつけて封を切るとき、「晴れだらうか曇りだらうか」とつい緊張するくらいです。今日のお手紙の調子なら、今朝こちらから出した手紙も、わざ／＼書きなほさなかつたが、それでもよかつたと思ひます。併しあなたの一生けん命に書いたことに対して、僕の書きかたは不機嫌すぎた、とやはり悔む気持もあります。

僕はたしかに諄々と説くと云ふ気がまへも才能もなさすぎるのかも知れませんが、僕の器ウツバが小さくて、精神がおほらかな働きに適しないのでせう。僕もまた「気分」で書いたり云つたり行動したりする傾向が強くて、あなたの「気分」本意傾向を批難出来るがらではなささうです。今朝の手紙も実はもつと適當な、「諄々と説く」式の形式に書きなほしたかつたのです。けれど問題が問題なので、即ち考へても余り考へ甲斐のないやうな弁護的な防禦的なもので、さう云ふことに気持が向かなかつたのです。その結果、あなたの「気分」や感情を懇切に理解したとは云へない乱暴な不機嫌な調子になつて了つた。

しかしあなたも固執しすぎるのです。僕はあなたとの結合に本質的な、克服し得ざる矛盾を見出したことは全然ない（感情的に一時、誇張した言葉をつかつたことはあつても）。そも／＼結婚の最初から、いつでも「別れる」と云ふことの可能性や不安をもち出したのはあなたの方です。さう云ふ時のあなたの論拠は、大ていあなたの僕の心についての誤つた憶測、僕があなたを必要としないだらう、あなたを愛さなくなつてゐるのだらう、嫌つてゐるのだらう、もつと別

な人を欲しがつてゐるのだらう、と云ふ風な忖度です。所が実際に僕がそんな氣持になつたことは絶対にない。あなたが僕の性的情緒欲求を満足させてくれなかつた時、漠然と氣まぐれにあなた以外の対象を求めるやうな氣持にならなかつたとは云へないかも知れないが、僕はそんな性慾だけで行動する人間ではなかつた筈です。だから僕は、あなたと別れることなんかをまじめに想念にのぼしたことは絶対にないのです。それどころか、あなたから見ても無論不十分ではあつたらうが、僕はいつでもこの七、八年間と云ふもの「僕達」と云ふ夫婦単位のありかた考へかたをとつて来てゐるのに、あなたが時々女権論者風に個人単位の考へかたを示すので、腹を立てて来たはずで、僕はいつでもあなたと一緒に考へ、見、行動しようとするのに、あなたが必ずしもそれを受け入れないのを不満にして来た筈です。僕達が「おしどり夫婦」と云はれるとしたら、それはあなたがいつも僕について来たからでなく、僕がいつもあなたをつれて来たからです。僕はたしかにエゴイストで我がままな行動をして来たかも知れない。けれどそれは、「夫」として我がままであつたのではなく「人」として我がままだつたのです。「妻」に対して我がままだつたのではなく「幸子」に対して我がままだつたのです。

要するに僕は最初から今まで、いつでも、自分の前進のためにも、生活のためにも、氣分のためにも、あなたと云ふ個人が強烈に必要であり、あなたを、あなたの総てを欲求して来てゐるのです。だからこそいつでもあなたに文句を云ひ、腹を立てましたのです。だが僕があなたに文句を云ふ時は、別れると云ふやうなことを考へたり口にしたりした覚えはない。いつでも二人一体でありたいからこそ文句を云ひ腹を立てたのです。僕はあなたを弟子だとか子供だとか云ふ風に思つて来はしない。いつでも友であり、対等の人間だつた筈です。対等の人間に対しては僕は自分をせい一杯の形で提出して行くだけです。大人に対して薬をオブラートに包む必要はない。妻に対して、保護者風に、指導者風に、教師風に、先輩風に言動することこそ、即ち対等以下の人間としてあつかふことこそ、正しくないことです。相手に対して全身的に向ふことは、相手の人格を尊重することです。対等の人間に対しては、懇切と云ふことは余計なこととも云へます。「懇切」が必要なのは対等でない人間を「導く」場合です。僕はあなたを「導く」のでない、あなたと共に進むのです。さう云ふものとしてあなたを常に欲求して来ました。その欲求に満足させられなかつた時、僕の人間的器の小ささのために、乱暴な感情的な言動もしたかも知れないが、本心はその欲求を持続し発展させて来てゐる。疎閑だつて、その実現のしかたに唐突さや乱暴さ、不親切、強引さ等があつたにしても、結局は、自分達の生活を守りつづけるためです。外部の破壊力から守るために、一時我々の結合の形式を破壊しただけです。いはばたたかふために軽装したので

す。そして非戦^⑧員と大切なものとを安全地帯へうつしたのです。

だがこんなくどくどしたことを昨秋来何度書いて来たことせう。何度書いてもあなたはちつとも聞く耳をもたないかのやうに問題をむしかへし、くりかへすのです。昨年末に、もうこの問題でお互ひの精力を浪費するのはよさうと云ひあつたのに。とにかくあなたの疑惑は、あなたの精神が身体や気分や天候の支配を脱しない程度の弱さにとどまる限りなくならない。僕がいくら説明しても駄目だ、僕達二人の前進が妨げられるだけだ。あなたの精神なり世界観なりが強力になつたらきつと氷解するせう。健全な精神は健全な肉体にやどるが、逆に健全な精神は肉体の健全化にも作用する。精神は単なる受動態的なものでなく、同時に能動態的なものだ。精神をいつも能動的にして始めて歴史は進む。それにしても外の問題、特に歴史や文学や社会の問題で、昨年来急速に理解力が増進し、デンケン（思索）と云ふことを本当の意味で知つたあなたが、この問題ではどうして一歩も進んでくれないのでせうね。この問題ではあなたは全く森井さんのそっくりの形で固執するやうです。僕の言葉をちつとも受け入れず、問題をこんぐらかせますね。今日のお手紙なんかの、アメリカ史の理解、S氏のこと（ゴールド・ラッシュ）、哲学ノートについて、すべては僕の感じたいことをそっくり感じ、読みとつてゐます。リトルページの本の論評なんかは、あの本の急所を立派に把握してゐるし、文句のつけようがないほどです。ギリシヤ悲劇のクリュタイメネストラを除いて、あなたの昨秋からの外界現実についての批判・感想は、全く申し分がないのです。之はいつも云ふやうにお世辞ぢやない。あなたの本の読みかたに僕は全的に信頼出来るので、之からは僕が読みたくてもひまがないやうなものを、あなたに読んでもらつて、ぬきがきか感想かを作つておいてもらへばいいと思つてゐます。之は昨年の疎開前までは必ずしもかうでなかつた。シェークスピアでもルカッチでもバルザックでも、あなたのオリヂナルな意見はまだはつきりせず、大てい借り物に近くて、独立してゐなかつた。所が昨秋からののは、本当に独自ので独立してゐて、現代の文芸批評家や社会批評家なんか問題にならないほどの水準に達してゐると認めます。もう少し政治と歴史と哲学とを勉強すれば、中条氏なんかよりもつと立派になると思ひます。

所が二人の生活の問題になると、どうも感情的で、不正確で、進まない。無論、之も我々が別々に住んでゐて、あなたの生活が心身共によき環境、よき条件にないことの結果でせうから、当然かも知れない。けれど我々は世界の事態をはつきり見きよめる必要がある。我々は二人そろつて生活して行ける時代にはないのです。我々はまだ二人そろつて生きてゐることを幸福と思はねばならないほど、一般的に生活の条件は正常でないのです。我々のありかたは、この正常なら

ざる条件へのたたかひ、歴史的なまた個別的なたたかひであらねばならない。そして僕は応召その他の理由で、今ここにかうしてゐるのが不思議なくらい、生活の持続が保証されてゐないので。さう云ふわけだから、むろん、あなたと二人一緒に住む時は、もう来ないかも知れない。会ふことさへないかも知れない。我々の生活は正常な形ではもうあり得ないかも知れない。我々以外の人々の大ていは既にもう終つてゐるではありませんか。不二ちゃんの場合なんか。世界の歴史は我々をかくの如き状態においてゐるのです。さう云ふ時代に我々が、二人一緒にゐることを自己目的にするなら、我々にはかないものでしかないのです。かう云ふ時代を強く生きることのためには、一人がどんな外形上の不整、破壊の条件にあつても、常に歴史と共に生きることによつて二人が精神的につながることに外ない。僕が兵營へ行つても、戦場へ行つても、他の所へ行つても、僕は精神的つながりに於て生きぬける、そして一切がすぎた時、本当の生活が出来る。僕は、二人がどうあつても相会へないやうな生活に、最も身近かにゐるのです。さう云ふ生活を生きぬくためには二人が相互にしつかりと自立してゐなければならぬ。二人が世界觀的にしつかり自立してはじめて、何年會へなくとも二人の結合に不安はないのです。

僕は昨年春まで、あなたの世界觀の自立性に充分信頼をもつことが出来なかつた。だから一生けん命に二人の世界觀努力をやらうとした。経済學の勉強や歴史の勉強をやらうとした。ところがどうにも信頼出来るものにならなかつた。そして「プランテイション」を読んでもらへなかつた時、絶望にも近い感をもつた。一緒にゐてどうしても二人の世界觀勉強が出来ないなら、別々にゐても同じだと云ふ感じもあつた。所が秋の「プランテイション」讀了と文通とが、二人一緒にゐる時にどうしても獲得出来なかつたあなたの世界觀の自立性を得させたのです。むろん昨年春までのあなたの勉強もすべて効果して来たのです。けれど現実には、あなたの世界觀的躍進は僕との別居、精神的暴君とは云へなくとも、よりかきりかも知れない僕からはなれての生活に於て實現した。疎開の意図は二人の精神上の問題を含んではゐなくて、ただ生活を來るべき破壊から守り存続の道をはかる、と云ふ所にあつたが、結果から見ると、將來の二人の前にあるいやおうなしの別居生活への精神的準備になつた。

僕はかくて、この別居に於て、真にあなたを妻として確認出来た。だから二人一緒に住まうとあなたが云ふし、僕もそれを欲求する。だが僕は二人の生活だけでなく、社会的歴史的な生活にもつながつてゐる。僕は仕事を一通りやらないではここをやめることは出来ない。またそちらに仕事をみつけなければ、生活して行けない。かう云つた形なのです。で要するに我々は、大きく歴史なり時代なりを見ること、そして我々の生活が、二人一緒にと云ふ正常の形態をもつこと

の困難を、歴史的時代的に見ることに、その上でギョウウ幸(ゲウウ倅)に二人一緒に生活出来る方法を期待すること、二人一緒に住めなくても、二人は夫々に最善の歴史的生き方をして行くこと、即ち僕は仕事をし、あなたは世界観努力をし、子供を育てること。こんな風に最悪の場合を考慮しておけば、空廻りの不安や疑惑なく、前進生活にうちこめるのではないでせうか。何だか、ちよつと悲壯な風な調子になつたが、一応こんな風に見ておいて、そして生活の前進に全力をあげようではありませんか。

小田中さんの手紙を送つたのは、小田中さんと云ふ人をわからせるためです。新しい人になるだけ正確にあなたへ紹介して、二人の生活交流を緊密にするためです。それに彼女の手紙の紙が軽くて同封しやすかつたせいでもある。イリンの「山の話」はそちらになかつたかしら。

では今日は之だけ。

之を書き終つたのが午後三時半。それから間もなく小田中さんが本室からの帰りにここへ本を借りに寄りました。あなたから「書物の歴史」が送つたと云つて来たから、と伝へておきました。そして「インディラ」二巻と、バヂーギン(之は調査会の)一巻とを渡しました。彼女は今僕のアングロ・サクソンの米国史を読みかけてゐるさうです。

歴史のこと、日本語のこと、僕の文章のこと、唯物論と観念論のこと、自然と人間の歴史のことなど話しましたが、彼女は理解困難や疑問の所では必ず、眉をちよいとしかめて考へてみるくせがあり、わかるとその眉がパツとひらいて、顔全体がニコ／＼するので、眉がしかまると僕は話しやめて、彼女の考へるのを待ち、質問を誘つては説明し、と云ふ風に、ちよつと面白いです。僕の文章はわかりにくいのが、ゆつくり読めばわかると云つてゐます。まだいろんなことで、言葉の説明からやらねばならないのでひまはとれますが、中々よく考へるやうです。五時も過ぎて暗くなりかけたので、火を起すからと云つて立ち上り、彼女に帰るやうにしむけたら、立ち上りながら、結婚の問題がさし迫つてゐるのだと云ひ出して、それについて聞きたいらしいので、また腰を下して半時間ぐらゐ、竹中君や白田君の例でその原理を話しました。彼女のお父さんは船に乗つてゐて、今度いよく比島へ行つたださうです。兄さんが去年春戦死し、お母さんは一昨年秋死に、この十二月にお父さんがうんと若い後妻をもらつたばかり。お父さんが今生の別れかもしれない所へ行く時、後見人のやうな親戚に結婚のことも頼んで行つたので、その方の話があると云ふのです。

「今までだつたらあたし、そのまま世話してくれる人にお任せしましたわ。でも今は疑問になつて来たんですの」。だが、まだ、「恋愛のない結婚は不道德である」と云ふ命題は余り唐突すぎて、すぐには受け入れられない様子です。「うんと

考へて「ごらん」と云つて帰へしました。彼女は信州からのおみやげに、小さい樽には入つた信州みそ、をくれたので、みそしょう油がまだ買へなくて弱つてゐた僕は、大助かりです。このみその中には、なすのみそづけもは入つてゐる。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二二日の記、二二日の消印）

十二月廿一日

No.10 一月十七日附お手紙唯今（十二時）うけとりました。

本当に本当にごめんなさい。全く私はわるかつたのです。本当にすまないと思つて、唯、泣き度くなります。どんなに私がいけない奴だつたか、今度こそ本当に解りました。どんなにでもあやまります。あなたの仰言る通り、私は一寸もあなたの心持をとりあげませんでした。唯、責めたり、嫌がらせをする丈でした。本当にごめんなさい。

唯一ツ心外なのは、邪魔者と云ふこと、あれは前にあなたが云つた、あの事を何時までもとりあげて、そればかり持ち出してゐたではありません。あの時は、私は自分でそれが不当な言葉だと思つて怒りました。いはば、自信（まぢがつた）が有つたのです。私は実は邪魔者なんかではない、あなたがそんな事を云ふのはあなたの利己主義だと思つて、あなたに怒り散らしました。でも此のごろの手紙でそれを云つたのは、私が自分で自分がさうだと判断出来たから、さう云つてゐたのです。あなたの前に云つた言葉を、そのまゝ引きつづき使つたわけがなく、同じ言葉でも内容は異つてゐたのです。後で使つてゐるそれは、自信のなさから生れて来たもので、本来的に私自身から発してゐるものなのです。くだい様ですが、あなたがそれを私に云つたから、私がそれを楯にしてゐたではありません。事實は、今にして思へば、あなたをそのことで責め立てたのではなくて、自分を責め立ててゐたのです。

ですから弁解じみませけれど、あなたがどんなに慰めてくれ様と（あなたから発したものでなく、私から生れ出たものである故に）、私はそれを納得出来ないのです。あなたを疑ぐる故に信じぬのでなくて、自分を自分で疑つてゐるので、外からの否定は否定にならぬのです。だからどんなにあなたが私を大切なものと云つてくれても、私は信じないのです。あなたの人格を信じないのではなくて、あなたが云つてくれる私の評価を、私自身認める事が出来ないのです。

そして私の芯は慰まぬと云つて、あなたのせいである様に云つてしまつた。でも私は真実、あなたにふさはしいもので

ある自信はないのですもの。だから其の悲しさを、何とか表し度いと思つてゐ乍ら、自分でもどうにも出来ず、あなたに当り散らしてゐたのです。本当にあなたを信じないのではなかつたのです。自分の不がひなさ、低さ、自信のなさ、卑少さをおぼろげに知つて、其の不安（あなたにふさはしくないこと）焦慮が何処から来るのか、明確に察知したり把握したり出来得なかつたために、自分に対する不まん、腹立から起つて来る一切の不まん足を、あなたを対象にぶちまけると云ふ誤つた形をとつて来たのです。今、それがわかつた様なのです。それで、私があなたを信じぬために、あなたに疑念を持つために、あなたを苦しめてゐたのではない事がわかります。正体は自分に対する不まん、不信、懷疑なのです。で私は、あなたが唯信じてゐなさいと云ふ言葉を与へる時、すぐに平静を失つて、押しつけがましいとか一方的だとか、とに角非難の対象を誤つて、あなたに不まん足をほとばしらせましたのです。

で、あなたに云つた一方的、押しつけがましき、無理解、独善、利己主義等一切の非難は、本当に誤つた方向に向けたものである事を、改めておわび致します。その逆であつた事が、どうしてもその時の私には理解出来なかつたのです。くどく、くどく、あなたに悪があるかの様に責め立てて、あなたを深く傷つけ、仕事の障害をして来た事を、本当にゆるして下さい。どうしてかう私はものわかりがわるいのでせう。

「愛し方の不充分」と云ふ事もたしかです。私の考へ方、認識の低さからは、充分な愛情は出て来ないのですもの。低い段階で其の限りでの愛し方しか出来ないのですから。でもあなたの云ふ様に、あなたに対する偏見の固執、不信からではありませんわ。愛しても求めても、其の対象にあまりにも「ふさわしからぬ己」の自覚が、対等の健全な積極的な愛情とは比較にならぬと云ふ意識から、一苦しみ悩むのですから。要するに、問題はあなたと私との相対的な関係にあるのではなくて、私自身の裡にあるのです。私自身が私自身に自信を持ち得た時、即ちあなたにふさはしいと云ふ観念を得るに至つた時、解決出来るのではないでせうか。

こんな事を書き乍ら、ふつと思つた事は、大体私が自信を失つたと云ふ自覚を持つた時、持つた動機を一寸思つてみますと、考へられる事はあなたのプランテーションでありました。プランテーションを読んで、あなたへの評価の変つたこと、それ以前まで私はあなたとの関係に於て、たとひ邪まだと云はれたとしても、何をツと云ふ気構へがあつたのです。一口に云へば、あなたに対する安心感もつくだけば、あなたは私にとつて、それ程離れてゐないと云ふ、あなたと私とはそれ程認識力、考へ方、世界観の把握で距離はないのだと云ふ安心感（？）があつて、私は其の気になりさへすれば、あなたの仕事も充分わかるし、努力なしに理解しあへる、ぴつたり一ツだと云ふ心持があつたのです（これ

は後になつてわかつたのですが。だから、私を疎解（疎）させたのはあなたがわるいとか、女友達とあまり仲よくしちやいけなとか、其の他いろいろ勝手放だいを云つたし、云つて来たのです。つまり、さう云ふ事を何等の Coryo なしにばつくと云ひ放つて平気な安心感、あなたの氣持なんか何時だつてちやんとわかつてゐるんだ、と云ふいいきな考へ方をして、何とかかんとか責め立てても、実はその一方で安心立命を持つてゐたらしいのです。

ところが本式にプランテーションにかかつて、其の考へ方に動揺が起り始めた。あなたは私の知らないまに、はるか彼方へ行つてしまつてゐた。これはとうてい普たいていの努力なんかでは追いつけない、とても追いつくまい。其の距離を私が知つたのは今なのだ。併しあなたはとつと知つてゐたと云ふこと、この事はあなたの私への疎外を感じさせたのです。驚くと同時に、今の自分の位置を嫌と云ふ程知らされた。嫌と云ふ程。計り難い距離を。さうしてのんびり安心してゐた私の怠惰を思ふ存分知らされた。それなのにあなたは平然としてゐて、安心立命しつつ積極的に思ふ存分エネルギーを他方面にもやしてゐるのだ。どうして安心してゐられよう。不安と焦慮が起きて来る。焦る程、距離は大きくなつてゆく。そして自分に対する嫌悪（即ち、いい氣でぐうたらし乍ら自己満足してゐた）にやかれる思ひがする。

あなたはゴレム程大きく立ち乍らはるかへ進んでゆくのに、ひよつと気づいた時、私は影がうすく、あはれに小さい事が目に見える。あなたはそれを知つてゐる乍ら意に介さぬ、即ち私を問題にしてゐぬのだと思ふ。其の不まん、あせりが自分へ向かず、あなたに向つて吐き出される。あなたがわるいんだ、あなたのせいだと責め立てずにはゐられない。さうすれば、あなたは振りかへつて戻つて来てくれるかも知れない、さう思ふ。さうしてあなたに難だいをふきかける。私が淋しい孤立の生活なのに、あなたは沢山の友人をもつて、にぎやかでにくい、と云ふ。するとあなたは其の位置から、それはお前さんのまぢがひだよ、お前さんもここまでおるで、と云ふ。

併しどうして其の大きな距離を、其の一言で一足とびにとびこせよう。私は唯あなたが同情がない、理解がないと云つて、叫び立てる外はなかつた。さうする中、段々と其の不まんの原因は自分にあるらしい事がわかつて来る。併しどんな風にあるのかはつきりしない。唯もう自分は駄目なんだと云ふ自己嫌悪の方へ、一歩／＼落ちてゆく。さう思ひつつあつた時―さう思つた事が一ツの原因でもあるし、悪阻のせいも加つて、身体は思ひの外わるくなる。食欲不振も頭痛も目まひも、読書の努力を駄目にするし、さう云ふところへ、あなたが白田さんがゐなくなつて淋しいとこぼして来た。すると私は、そこにも又、自信を喪失する一ツを見つけた。私よりももつとあなたを慰め、力になり得る人のあること、あなたも又それを求めてゐることを、其の事から知る。で、いよく私は、も早やあなたのふさはしい伴侶たる資格の

ない事を確信する。其の私の出来るセイゼイのあなたに対する善（これは利己心からのものでなく、最も正しいものたらしめようとの）は、私とも早あなたの邪ま的存在から引くことに他ない、と思ふに至つたのです。あなたは私が唯嫌味を云つてゐると思つた様ですけれど、たとひ誤つてゐたにせよ、私は嫌味と云ふ消極的な意味で云つたのでなく、もつとあなたのこれからの「仕事」のために、個から離れて積極政策に出たつもりでした。それが誤つてゐた事はわかりましたけれど。でもあなたは、私のさう云ふ悲しい気持を、唯悪口でふみにぢつたのです。私はますます自己嫌悪に落ちてゆく。

以上（もう書くのがめんどうになりましたから）の様な次第で、あなたを信じないのではない事が解つて下さるでせう。だからどんなあなたのはげましも力づけもまことに当らない訳でした。結局何度も同じ事をくり返す他はありません。あなたを信じてゐないのではない。あなたの愛情や信頼に任せぬ自分を苦しんでゐるのです。併し、其の事があなたをそんなにも傷つけ、苦しませ、いら立（た）せてゐるとすれば、私はすまないと思ふのですが、どうしたらいいのか。苦しくて涙がこぼれる丈です。

私はあなたを愛し、信じ、誇に思つてゐます。戦争の凡ゆる危害があなたに及び、あなたの生命をこめての仕事を邪魔する事を、どれ程脅（おそ）れ心配してゐるでせう。さうして、もつと大きい脅（おそ）れは、私があるを「あなたが在る丈の分量」で理解出来ない事なのです。あなたの全部を（考へを）知り理解したいと望み乍ら、自分の低さの故に何時まで立つても追ひついてゆけぬ事です（アキレスと亀（かめ）へ？）、私は亀ですから、あなたがひるねでもせぬ限り追ひつけない。併もひるねはすぐさめるでせう。永久に追ひかけても追ひつけない。追ひつかうとする丈では満足出来ませんわね、追ひついて一諸（ひと）に走れなくつては、私は決して一諸（ひと）に走れぬ事を知つてゐるから、安心出来ないのです。何時かはあなたは一諸（ひと）に走れる人を見つけてせう。亀をまち乍ら走るなんて事は、永久につづきませんもの。私の亀的存在はとてもとでも変り相もない。追ひつかうと努力する亀さん、それであなたは満足出来て？ 亀も、もう疲れました。又明日書きませう。

私はあなたを信じてゐます。誇つてゐます。あなたの仕事を期待してゐます。亀さんなりに理解します。明日おもちを送ります。するめのあたまがあつたので、だしに出来るし送らうと思つてゐたら、お母さんがお世辞にひつかかつて、材木屋のおばさんにかけてしまつた。お母さんの事を「奥さまはカンノンさまの様に慈悲深い」と云つたので。あんなずるいおばさんになんてあげるなんて、もつての外ですわ。

何にしてもあなたを共連れに嫌なき持に追ひこんだ事は本当にすみません。あなたの仕事を充分理解するのは本当に私には六づかしい事ですが、一生けんめい追ひかけくついてゆきます。其のためにも少々認識をまさうと、哲学などと云ふ野心を起してゐるのですから、それに免じてゆるして下さい。

(文末に添えられた小さな亀の絵は省略―編者注。)

亀より

謙一から幸子あて(一九四五年一月二一日の記)

一月二十一日(日)曇。

昨夜はさう晩くまで起きてゐなかつたのに、今朝本当に眼がさめたのは八時半でした。だから御飯が出来上つたのは午前十時半。曇り日で風の寒い日です。今日は早川君から遊びに来て云つて来てゐるので、夜出かけるつもりです。早川君の所へは昨年十一月末以来、即ち空襲が頻度を増して、防空団長たる僕が事実上禁足状態になつて以来、御無沙汰してゐるのです。二、三十分以内で帰れるところでない、日曜の昼及び普通の日の夜、外出が出来ません。何しろ早川君の所は、二度乗りかへて、一時間以上かかりますからね。今夜はさひはひ小使さんの亭主君がこちらにゐる日なので、出られます。小使さんの亭主君は本室の守衛をかねてゐるが、防空当番強化以来隔日ぐらゐに本室へ宿直なので、勢ひ僕が分室の防衛に全責任を負ふ。ここへはバクダンばくだんは落ちないが、空襲のあつたあとで、本室その他と連絡報告をかはさないといけないので、一時間もかかる所へ外出することは出来ないのです。だから僕は禁足手当を出せと云つて交渉してゐます。

同盟週報はこの頃殆ど出てゐないやうです。出れば買ふやうに、小田中さんにも昨日頼んでおきました。やはり毎日出てゐる人でないと買へない。それよりあなたから、同盟通信「海外電報」を注文したらいいかと思ふ。之は東京都麹町区日比谷公園二番、同盟通信社発行で、日刊ですが、年に三百円とかです。之は北条君がとつてゐるさうです。僕もとりたいが、三百円はさしあたり無いし、それにここには一部調査会とつてゐるので、ついそのまま見てゐます。今迄は之は個人ではとれないのかと思つてゐたら、北条君がとつてゐると云ふから、ふと思ひついたので、一応そちらから海外電報係へ問ひあはせてみたらいいかと思ひます。週報が買へないので、同盟通信「海外電報」と云ふのがあるさうだが、個人でとれるかどうか。どう云ふ手続きをすればいいか。お金は僕が印税からまはせると思ひますから貸して

おいて下さい。あなたに借りが多すぎて気がひけるのですが。之なら郵送してくれると思ひます。今年一年分（一月一日から）とれば、非常に面白いと思ふ。之には週報にのらないものもよくのるし、ルーズベルトやスタさんやチャーチルの演説も全文がのります。外に資料として、例へば最近のものでは、ポーランド問題、ギリシャ問題、フランスの状況、その他我々が知っておくべき多くのことがのります。日刊ですから、そして一日分は十六頁ですから、一年ためると本棚一段くらいになります。一月毎にとちておくと、今時立派な資料です。スクラップよりずっといい。一月毎に索引もつきますから。それをあなたの所へ保存しておいてもらへると、将来僕が歴史を書く時の材料になります。

今日午前中二回郵便受けを見に行つて失望して来ましたが、三度目、二時頃にいつか沢田君が連れて来た学生（帝大西洋史）の松浦君とかから電話でお伺ひしたいと云つて来たので、火を起しに下りた時、あなたのNo.12（十八日付）を受けとりました。切手三枚はつてゐたので、中味は晴か曇りかわからないながら、とにかくこれだけの分量が書けるなら身体もよくなりつつあるのだらうと思ひました。

読んでみて、あなたの身体が思つてゐたよりはるかに悪いらしくてびつくりしました。丁度去年の三月にびつくりしたやうに。してみるとやつぱりあなたを妊娠させたことは間ちがひだつたやうです。で、今すぐお父さん及び専門医によく診ていただいて、あなたの身体が妊娠と分娩に耐えるかどうかを厳密に判断してもらつて、避妊が必要ならすぐその方法を御とりなさい。僕もそれについては、そちらへ行くやうにしますから。

僕は子供が出来ることにうれしくなつて、あなたの身体のそれに耐えるやいなやについて、つい考へることをおろそかにして申しわけなく思ひます。あなたのお手紙であなたの身体のよくないことを知つてゐても、あなたは冬には弱いのだからと思つたのと、つわりなのだらうと思つたのとで、つい軽く考へがちだつたのです。その結果さう云ふあなたの身体の不安から主として来る気分上の障害や精神の動揺、内向を無慈悲に批難して来て、本当に申しわけないと思ひます。僕もあなたの固執を、妊娠前のそれの単なる延長のやうに感じて、どうしていつまでも同じことをむしかへすのかといらだたく思ふのみで、さう云ふ固執の新しい身体的根拠に考へ及ばなかつたのです。

僕はあなたと結婚した当初から、いやあの恋愛と難渋との途中から、あなたが僕を本当に欲求してゐるのでないと云ふ想念に憑かれて、今に到つてゐるやうな気がします。二人の恋愛、いや二人の交友の恋愛としての出発の当初には、僕はあなたから欲求されてゐることを感じ、僕もあなたを全世界を敵としても欲求すると感じ、この相互欲求の確認が一切の根拠にあつたのです。この相互欲求の確認こそが、僕に於て、正義の感覚だつたのです。この正義の感覚を背後に

もつたからこそ、普通には不道德とされるやうなすべての行動も、不道德でないと確信してなし得たのです。この確信と確信とは、昭和十一年の秋、I君との交渉が進む頃まで、全くゆるぎないものでした。だからこそ僕はどこへでも進んで行けたのです。所が翌年二月、三月には、之は決定的な動揺へもち来らされた。あなたが僕を本当に欲求してはるないと云ふ現実に心づいたからです。あなたはI君との生活の不合理の解消を欲求した。そして僕は、そのスプリングボードだったのかも知れない、或ひはまた、I君との生活の解消の困難を押し切るほどの強さでは僕を欲求したのでない。少くとも僕が全世界、家や学校や友人や一切を敵としても欲求したほど、それほどの強さで僕を欲求したのでない。さう云へばたしかに、僕は人から真に欲求されるやうな人間でない、僕の一切の欠陥、悪、は僕自身をすら自分と云ふもののうちこめなくしてゐる、いつも自己嫌悪から離れられないでゐる。僕が或程度持続して、二十才の頃からの自己嫌悪を忘れ得たのは、あなたが僕を本当に欲求してくれたと感じた時期だけだった。だからそんな僕を、あなたがもう欲求しなくなつたのも当然かもしれないと思つた。

けれど僕の方ではあなへへの欲求は決定的だつたのです。あなたなしに自分の生活のないことの確信は、前年の九月の一時的な不和以来決定的だつたのです。だからどんなにしても自分の目的を達成するより外になかつたのです。で、殆どすべて僕の強引なくらいのイニシアティブを以て、二人の生活をともかくも形作つて了つた。

結婚後もあなたは僕を、僕があなたを欲求するほどは欲求してゐないのだ、といつても僕に感じさせた。あなたは「二人」と云ふ単位で物を考へるより、あなた一人、妻としての女としてのあなたとして物を考へ、二人の結合を解消可能のものとしてとりあつかふことをやめはしなかつた。少くともいつも僕はそれを感じた。あなたは、僕があなたをつかまへてゐないと、僕から時々離れる怖れがあると僕に感じさせた。あなたの僕に対する献身にすら、さう云ふ感じを全くなくすることが出来なかつた。僕のあなたに要求する勉強なり何なりに、あなたが従つてくれる場合も、ともするとあなたは受動的であつた。その受動性は、僕を欲求してゐるのでないと云ふ二人の結合の現実を反映してゐるものと僕は感じた。

かくして二人の七、八年の生活を通じて僕は、二人の結合は僕の一方的欲求によつて成立し、持続してゐるのかも知れないと云ふ疑惑を完全にはすて得なかつた。之は僕の愛情の理論に対するひそかなうしろめたさになつた。此の間森井さんに話してゐた時も自分でそれを感じた。彼女も云つた。「幸子さんの方ではあなたを必然的に欲求したと云ふより、前の生活の矛盾の方が切実だつたのですね」「さうかも知れないのです。僕はそれでもいいと思つた。たとひ今、僕を

目的でなく手段として欲求してゐるにしても、今にきつと僕を目的として欲求するやうにして行ける、それは僕自身の生き方によつてして行ける。今偶然的なものでもきつと必然的に發展させて行ける、と」。むろん僕は、自分があなたから本当に欲求されてゐるのでないと云ふ風な、不幸な考へで終始生きて来ることは出来なかつた。僕はむしろ平常は、二人の相互欲求の確信に於てこそ生きて来た。けれど時々、何か矛盾が起つた時、あなたが僕の仕事へ関心を示さない時とか、僕を批難する時とかには、その感じを、即ちあなたはやつぱり僕を本当に欲求してゐるのでないと云ふ感じの浮び上つて来るのを、どうにも出来なかつた。おさへてもおさへても水面へ浮び上つて来るごむまりのやうに。僕はそのゴムまりに対して適切な処置をとり得なかつた。

そして最後に、「プランテーション」を書きはじめ、それをあなたに読んでもらはうとして駄目だつた時、あなたの生活が僕の生活から別の方向に進むのを見た時、そして病氣になつた時、それまではあなたが僕を欲求しなくても僕はあなたなしに一日でも過ごせない、僕はあなたを欲求する、と心に感じつつづけて来たものが、さうでもなくなつたのです。僕は一人で仕事が出来、僕は仕事の方を欲求する、と。あなたと一緒に生活よりも、仕事と一緒に生活の方が、僕の精神は満足する、と。仕事と一緒にの方がひたむきになれる、と。

けれどそれは間ちがつてゐた。あなたを疎開させてから僕は仕事が出来なくなつて了つた。それだけでない、あなたが「プランテーション」の理解者となつて以来は、僕はあなたを情緒的にだけでなく伴侶的理解者として欲求するに到つた。だから今は問題は外的条件に、即ち戦争、空襲、物質生活等のみある。それらに対応して二人が、仕事と二人自身の生活とを持統するためには、正常の形態では駄目だ、一種の奥地退軍的戦術、分散戦術、避退戦術（ヘイブ）が必要なのです。そしてこの奥地退軍分散戦術に最も重要なことは、二人の精神的結合をより強化することです。所が、僕の方では右にのべたやうに疎開前後の数ヶ月以外の全部を通して、あなたを欲求しつつづけて来てゐる。之はいささかのいつはりもない眞実である。

だが、あなたの僕への欲求はどうか。

あなたは上述の如く、殆ど当初からずつと受身であつた。欲求するより欲求される側だつた。生活をリードすると云ふより、註文をつけたり抗議（ゴ）したり抵抗したりする側だつた。だからこそよく二人の結合についての不安や疑惑を口にした。始終受動だつたのではないが、概して受動態であり、僕を疑つた。そしてあの僕が仕事に夢中になつてゐる時、「空襲になつて食べ物がなくなつたら信州へ帰る」と云つた。深い意味ではなく偶然的な冗談的な言葉であつたにしても、

僕にひびく所は実に深刻だつた。それは「あなたが僕を欲求してゐない」と云ふ、之まで抜け切らずに來た觀念の總決算にもひびいた。疎開後あなたは抗義した。僕のやりかたの專横を批難した。その批難はたしかに受取る。けれどその批難には、僕の欲求に対するあなたの反応のなさ、あなたが僕を欲求してゐないと云ふ僕の感じ、を融解してくれるものがなかつた。あなたの批難は、僕があなたの自尊心を傷けたことに対する憤懣、あなたを邪魔あつかひにしたことへの憤懣で貫かれてゐると感じた。

その後あなたは僕を本当に欲求すると云つてくれた。口に出しては、殆ど初めてではなかつたかしら。あなたが真情から僕を欲求してくれると云つたのは、昭和十一年の夏頃、我々の出発点の時、以後は殆ど始めてに僕は感じる。にも拘らず、この度の欲求に、僕はやはり、邪魔扱ひにされたことの憤懣やうらみの翳を見ないでゐられなかつた。その後、あなたの僕への欲求は、あなたは僕を信用しない、僕をあきらめる、自由にしてくれ、式の言葉で濁らされた。そのあなたの僕への不信こそは、この七、八年の二人の生活の全体を通じて、何かの矛盾の度にあなたが云つた二人の結合への不安、不信、いつでも別れるぞと云ふ態度、とつながつてゐるものに感じた。だから僕は、あなたの僕への欲求をまだ本当に確信し切れずに來てゐるのです。この間のやうな不信手紙が完全になくならない限りは、あなたが僕を信じて、前進生活へしつかりと腰をすえない限りは、此の困難な時代を生きぬいてみせるぞ、亭主が死んでも亭主の分まで生きぬいてみせるぞ、謙一と自分とは二つでなく一つだ、片方が時代の強力によつて命を失つても、まだ自分と云ふものがある、そして自分は謙一幸子の生活を生きついで歴史へ参加して行くぞ、と云ふ氣構へがはつきり見られるまでは。さう云ふあなたを僕は欲求しつづけて來た。僕があなたとの恋愛以來、最初は漠然と、だん／＼にはつきりと欲求して來たものは、さう云ふあなたなのです。だからさう云ふ方向にあなたのある限り、僕はあなたを欲求してやまない。あなたがさう云ふ方向から逸れると僕は苦しみ、いら立ち、不機嫌になるのです。でも苦しみいだち不機嫌になつても、あなたをあきらめたことはなかつた。だから信じて下さいと云ふのです。

あなたの身体が考へてゐたより悪かつたのに僕がそれを察せず、あなたの氣分をとがめ立てして來たこと、不親切だつたことをおわびしようと思ひながら、反対のやうな手紙になつて了つた。けれど、とにかく本当です。この数回続けて書いたこと、いや去年の秋以來、あなたの不信手紙の一张张へ答へて來た手紙は、僕のいら立ちやとがめ立てや不親切やがいつぱいつまつてゐても、それらを一貫してゐる苦の僕の真情を読みとつて信じて下さい。そしてあなたの現実的問題、身体のこと、避妊のこと、勉強のこと、あなたの周囲の人々との人間関係のこと、僕との「一つ」の生活のこと、

をよく考へ最善に処置して下さい。僕が仕事で、またはこちらでの人間関係のことで、手紙が「しぼりかす」のやうになつても、不機嫌にならずに下さい。

桃ちゃんも本当に残念でしたね。でもあなたが彼女を元気づけ、導く力を信じます。お父さんやお母さんや不二ちゃんの御身体にも障害のないやう、少くとも軽くてすむやう念じます。僕の方は安心して下さい。

僕のやりかたへの(対人関係)あなたの御意見は全幅承認します。僕は之でも自分でずい分努力し、せつかちにならんやうに、相手の吸収を待つやうに、吸収を親切に容易にするやうにしてゐるのですが、どうもいつまでたつてもうまく行きません。結局人間が小さいのです。それでも話をききに來てくれる人がとにかくたえないし、來ない人でも僕のことを考へてくれる人々もゐるらしいので、失望せずにやつて行きたいと思ひます。

松浦君(西洋史、今年三年)も三時に來て六時まで、いろんなことをしやべつたりきいたりして行きました。その中、肉がは入るかも知れないから持つて來ますと云つてくれました。沢田君もずい分はげしく生活してゐるらしいです。若い人達も元氣です。尤も松浦君(之は一年兵隊に行つて來たのですが)は勤労働員で、血沈をとられてことはられたのださうです。之から時々來ると云つてゐます。

六時に、彼は田園調布なので、一緒に出ました。早川君を訪問するために。早川君は時々一行か二行のハガキをよこします。二、三日前のハガキも「郷里へ暫く歸つてゐました。もう出て來ましたから遊びにおいて下さい」とあつたのです。ハガキの中々買へない時代に、いささかもつたいない気もするほどです。彼も入学試験のことなどで歸りがおそく、八時頃まで歸らなかつたので、それまで奥さんの名古屋のはなしをききました。地震と空襲。

十時までしやべつたり、数学の積分の説明をしてもらつたりして歸りました。歸りに醬油をビールびんに一杯もらひました。之は僕の一ヶ月分の配給に相当します。小田中さんの「おみそ」と早川奥さんの「醬油」とで、僕も助かりました。まだ配給(一月分)がいっは入るかわからないのです。いづれも僕が「ねだつた」のではないから御安心下さい。早川夫妻は僕のズキン、上つ張、ジャンパー、モンペ、足袋の姿を大いにほめてくれて、早川君もルパシカ風の部屋着をつくつてくれとか、膝でしめるモンペ(神代のズボンのやうな)をつくつてくれとか、ズキンをたのむとか、奥さんにねだり、奥さんは僕のものを見て、「お上手だ」と、僕の謙遜(あなたのことを独断で謙遜しておいたのですが)にも拘らず、手ぎわをほめました。ついでに、僕の顔によく似合ふとまでほめことば(?)のとばつちりをあげせて、僕をして、いかに受けとるべきか戸迷ひさせました。

帰つて余りさむいので、炭火を起してあつたまつた所です。では之くらいにしませう。なほ、今週から向日荘の連中に「プランテーション」の講義をはじめめる予定だが、あなたの今日のお手紙の御意見は、充分参照してやつて行きませう。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二日付け、同日の消印）※

さつき新飯田橋郵便局から書籍、藥品と云ふ小包み送りました。中はお餅です。他に何か一諸（註）に入れ度かつたのですが、丁度お母さんが御機嫌わるく怒つてゐる最中なので、あれ丈にしました。此のごろお母さんの怒らぬ日はなく、一ツの材料があると、四日位はたつぶりいろいろに使つて、小言の種にするので本当に困ります。非合理主義のこち／＼なんですから、何とも扱ひ様がありません。朝ちやんも本気に怒つて、毎日喧嘩してゐます。小言を云ふ事が楽しみの様にも見えます。何も彼も氣に入る様にしても、何時のまにか何かとあらを探し出して怒る材料につきません。あれが姑根（註）生と云ふのでせう。

お茶と煙草を送つて下さつたと、前の手紙にありましたが、未だ届きません。煙草はもう品切れなので、毎日もう来るか／＼とまつてゐます。此のごろのこちらの配給は殆んどきざみですから、専らふうちやん用で、お父さんのはありません。お父さんも沢山あるとパッパと吸ふ方なので、今度から一度に出さず、チビ／＼出してあげ様と思ひます。一日に五本位づつ。

お父さんが病中何かいいものないか（本）と云ふので、A・フランスのエピキュールとわが友の書と白き石を出してあげました。珍らしくゆつくり／＼楽しみ乍ら読んでゐるらしく、エピキュールにはほと／＼感心して、一体何年頃の作品だらうとかいろいろ質（マ）ねてゐました。老年になればなる程、あの二冊の面白さは解るでせうね。

ゴリキイの母、あなたがひどく推賞するので、それでは近日中もう一度、歴史を念頭に置きつつ再読して見様と思ひます。其の上でもう一度考へてみて、感想を書きませう。

今日はひどく肩つまりで、首が動きません。もう一つは昨日からの便秘。日記表を見ると、衛生欄は下痢／＼便秘／＼の二種類で埋つてゐます。時々腸の一部分、怠まんを起すところ、あるひは弱つて使ひものならぬところを二尺か三尺、お父さんにチョン切つて貰つたら、ずつと状態は合理的に永久的に解決出来るのぢやないか、などと思ひます。八月のお産の時、胎児が健全に成長してゐれば、帝王切開の必要があるでせうから（此の前のはあまりにも少（註）さかつたか

ら普通にゆきましたけど)、其の時一諸に腸を引き出して見て貰はうかとも思つてゐます。妊娠中の手術は麻酔の関係で、胎児にいけないのでせうから。

合衆国史は今再建で、昨夜たつぷり読んだので、今日はノオトをするばかりなのですが、首がまはらぬからどうも進みません。第三章は特に面白いですね。竹中さんと同様、もつと精く具体的(個別)面がはいつて来て、論理と個別との統一が展開されてゐたら、本当にすばらしい事でせうね。

私が一寸リンカーンの事を話したら(リンカーンは普通の本に出てゐる様な、始めから奴隷解放の英雄ではないこと、始第にさうさせられた)、桃ちゃんは大さう興味をもつて、合衆国史をきかせてほしいと申します。これを私が使はぬ時、一人でおよみなさい、と云つて渡しましたが、暫くよんでから、これを読むよりも、お姉さんの話してくれる方がずつと面白いし解る、これでは一人歩きは出来ないと云つて、かへしてよこしました。本当にあなたのは言葉が六つかしいし、エッセンス的なんですね。私が水を埋めたりして長くするとおいしくなるのです。高□的すぎるのかしら。あれ丈の内容、問題を含み乍ら、叙述形式の点丈で大勢に味はへぬとしたら詰らないことね。あなたの形式は内容とあつてゐるのでせうが、現在の一般にはあはないのではないかしら。もつともつと先の、進んだ状態に於いての形式です。矢張り此の前、あなたの講義・説得について云つたと同様の事が、ここにも(私から見れば)あるのではありませんか。誰にもわからせると云ふ事は、本当に六つかしい事です、本を書くことの目的の一ツはそこにもあるのぢやありませんか。内容を落す事なくて、理解を早める、理解しやすくすることは太切な問題でせう(併し、あなたのそれが、他のアカデミックな本のむづかしさの内容と相違してゐる事は、はつきりわかつてゐますけれど。あなたのは相手を同等に見積るところから来てゐるし、一方は俗人にはわからせぬと云ふ目的があるでせう)。

南北戦争中のドイツ労働者が、労働運動を本格的な軌道に乗せ、又他方、戦線でも英雄的に斗つたこと―あそこをよんで、マナサスを思ひ出しました。マナサスの中でも終りの方に出て来ますね。アラン(主人公)がマサチューセツツ人部隊として、ボストンの聯隊に編入されてブロードウェイを出発し、行進を始め、始めの馬鹿さわぎは影をひそめ疲れ弱つて来た時、自分の中隊の軍曹に言葉をかけられる。(以下、U・シンクレア『マナサス…南北戦争』より、アランとこの軍曹との会話が、およそ用箋一枚半にわたつて抜き書きされているが省略―編者注)。

此の彼(軍曹―編者注)はマナサスの戦斗で終止英雄的に斗つて死んでしまふ―ことが出て来ました。これはシンクレアのつけたしだと思つてゐました。ジョンブラウンの事は狂信者に描かれてはゐるが―他の点、いろいろマナサスは面白

いすね。具体的な精しい点を知るため、もう一度、下巻丈よんでみ様かとも思つてます。サムナー事件なぞ生々(トヤ)に描写されてゐますからね。(シンクレアは大体、歴史上有名な人物を引き合口にするのが好きの様です)。

再建時代の事はプランテイションでは具体的なつながり点が割に省略されてゐましたので、よく解らぬところもあつたが、これでよくわかつた様です。プランテイションには、此の合衆国史が姉妹篇とでも云ふ様に切り離せぬ様に思ひます。プランテイションで歴史が書けなかつたと、あなたが云つてゐましたが、これを姉妹篇にすればいいぢやないの？兄弟の様な、双児の様な強いつながりがあつて、両方でおぎなひ、助けあつてゐると思はれます(此の歴史はあなたに不まん足なのでせうが)。

書きたい事はうんとありますが、どうも肩が張つて、頭痛に責め立てられますから、今日はこれでさ(ト)ようなら。

※この一月二日付け、同日消印の封筒中には、一月二日夜および二四日記の手紙文が挿入されていた。他方で一月二四日付け、二五日消印の封筒には、一二日ごろに記したと思われる手紙文が挿入されていた。両者は封筒と中身の用箋とが、何らかの事情により相互に入れかわつたのであろう。ここでは中身の用箋を元どおり差し替へる形で翻刻・掲載した。

謙一から幸子あて(一九四五年一月二日の記)

一月二十二日(月)晴

あなたの身体の調子はどうでせうか。かう云つても、この言葉のあなたに届くのが五日も後だと云ふと、実感かうすらぎますね。小包にしても手紙にしても、飛脚時代の方が早くて安全だつたのかも知れない。

暫く小言まじりの、乃至は大部分小言から成るやうな手紙を書きましたが、之からはそれはよします。我々のやうに毎日お互ひへ書くことが生活の重要部面をしめて来ると、その手紙が相手の生活の前進へ拍車となるやうな、少くともリクリエーションになり、気持のむすばれをとき、生活の苦しみを柔らげるやうな、さう云ふものである必要があります。お互ひの生活を暗くし妨げわづらはしくするやうなものであつてはいけません。殊に四日も五日も経つて届くとすれば、その場その場の感情や情緒の必要以上の定着は避けねばならない。お互ひの生活の真相を伝えるに必要な程度をこえないやうにしなればならない。

何か新しい思索を導いたやうな手紙、新しい問題について考へる機会になつたやうな手紙、漠然たる想念を疎外して確認する機会になつたやうな手紙、さう云ふ手紙なら、どんなに精力と時間をかけても悔いない。いつもさう云ふ手紙を書きたいと思ひます。

今日はあなたのお手紙が届かないので、竹中君との対話を久しぶりに書きます。書くのは久しぶりでも、やつて来るのは毎日です。

「そんなにもいつもコーヒーを御馳走になつちや悪いね」「かまはんよ。嗜好品と云ふやつはサブスタンシヤルな食ひものところがふんだ。嗜好品の摂取は、摂取と云ふより鑑賞だからね。心理的要素の方が大きいんだ。だから一人でのむより、本当にコーヒーを好きな友人、いはば共鳴者と一緒にのむ方がうんとうまいのだよ。一人で三杯のむより、三人で一杯づつのむ方が心理的な価値は大きいのだ」「そりやそうだね」「だから三人で飲んでるやうでも、僕自身としては自分が三人前のもんでるやうな心理的満足を感じるんだ。之が飯になると必ずしもさうではない。今のやうに逼迫して来ると一人分の飯を共鳴者と一緒に食ふことは恐怖に近くなる。君はしかし相かはらず、しようこりもなく大飯をくつてゐるんだらう。にぎりめしを八つも」「八つも食はんよ、四つだよ」「さうか四つか。四つでも大変だよ、あんなでかいの。僕なんかこの弁当一つをうつつかりすると二度に食ふことがあるよ。かぶらや大根やなつばをうんと入れた雑炊を作ると、二度に食へるんだ。だから米を(たうとう)と一斗余しちやつた。この一斗はまさかの場合に必要だが、之から余して来たら、時々わけてやるよ」「うん、有難う。大体家ちや一升三合ぐらい一日にたくんだね。所が配給ちや一日八合だ。五合足りないんだよ。一月に一斗五升か」「そんなの非常識だよ。大体ね、創造的な生活をしないと官能的な満足を追ふことになるんだ。小田中さんがね、憂鬱になるとふとんをしいて寐て了ふさうだがね、僕も考へてみると、何かやり切れない心情の苦しみに会つた時、ふとんの中へもぐりこんで了つた覚えがある。むつかしい問題や憂鬱な現実に圧迫されると、食欲なんかなくなるのが普通だと思つてゐるだらうが、さう云ふ時、せめてうまいものでも食ひたくなるんぢやないかな。飲酒だつてたばこだつてさうだ。結局現実的な圧迫に正面切つて向ふことが出来ずに、官能的な満足へ逃げこむのだ。之はまぎらすとかごまかすとか云ふんぢやないね。忘れるとか解放されるとか云ふんぢやない。人間的な生き方が困難になると、動物的生活へ後退するんだ。困難さにたちろぐとか一休みするとか云ふのぢやない、後退だ。酒をのむことを物食ふことより精神的なことに思つてゐる手合が多いけれど、それらはみんな或る種の人が遊廓へ行くのと同じ意味だ。みんな本当に人間的な満足を達成し得ない時、その人間的な不満を官能的満足、非常に達し易い官能的

な動物的な満足の中へ埋没させて了ふのだ。君の大飯もそれに近いぞ」「そんなことないよ。だけど本当だね、仕事があつたり、することがあつたりすると、余り食ふことを考へないね」「さうだらう。それでも五合も足りないのは気の毒だね。せめて三合ぐらいにすればいいのに。三合なら一ヶ月一斗だらう。僕が一升や二升やつても、一日分か二日分なんだからいやになる。僕が一升を余らせるのに十日ぐらいかかるんだからね（去年の十一月、十二月に二升余り進呈したのです）。それはさうと例の一件はどうなつてゐるんだい」「あれか。あれはどうも君の希望するやうになりさうだよ」「どんな風に」「うまく行かないんだよ。やつぱり中に立つ人が両方をよく理解してゐたんぢやないんだね」「A君だらう。そりやさうさ。彼女は人間をリアリストに理解出来る女ぢやないよ、今の所。感情的で嫉妬深くて固執的だ。それでどつちの側から進まなくなつたんだ」「両方からだね。だけど、それでよかつたと思つてゐるよ」「そんな風ぢやよかつたもくそもないよ。僕の希望するやうになつてはゐないよ。僕は君が断乎と拒否するやうに希望してゐたんだ。所が君自身で決定したんでなく、なりゆきがうまく行かなかつただけぢやないか。それなら、これがうまく行かなくて、すぐまた同じやうな話が出来て来るだらう」「さうだね、後統部隊ありだね」「一目標か」「数目標だ」「しよがないな。どうしてかう物事の道理がはつきりわからないんだらう。之は僕のせいぢやないね。社会的偏見が余りにも大きすぎるんだね。この社会的偏見の巨大な圧力とたたかふには、もう素の論理ぢやだめだな。僕はつくづく思つてゐるんだ。僕の云ふことは誰でもがうなづくべき真理だ。反駁の余地のない、はつきりした真理だ。それなのに人がそれを受け入れないと云ふのは、僕の何が悪いんだらうか、とね。どうも僕は人間的魅力がないのだ」「君は魅力あるよ」「さう云つてくれるのは有難いが、魅力があるなら、もつとつて来る苦だらう。所がついてこないんだ。魅力が本来ないだけでなく、魅力をもたうともしないのが、いけないのかもしれない。併し僕も弘法者や宣伝者ではないのだから、そんなものなくてもいいわけだがね。ついて来なくたつていいわけだがね。だけど僕の論理そのものに、もつと魅力がある筈なんだがなあ。併しそんなことはどうでもいい。それより君のことだ。うんと考へろよ。まだ後統部隊がはつきりあらはれない間に、今度のことの経緯をしつかり考へるんだね」「うん、考へるけど、やつぱり駄目だね。それより君の頭、ずい分のびたね」「僕の頭なんか、どうでもいいよ。どうも世の中つてのは、いつの時代になつてもおせつかいだね。さうさう、昨夜友達のところへ行つたらね、その友達もめつたに頭を刈らない男だがね、相変らず数ヶ月刈らない自然林的な頭をしてるのさ。そしたらね、奴さん、工業大学の先生だが、学生からトク名の手紙が来てね、先生頭を刈つたらいかですか、少々みつともないですから、つて云つて来たさうだよ。素姓の知れない学生なんか相手にしてゐ

るとそんなことになる」「だけど君ももう何ヶ月だね」「九月末からだだからまる四ヶ月だ。中味がスッキリしてゐるから、外はいくらうつつさうとしてゐても大丈夫だよ。君なんか中も外もカリカリ頭だ。尤も僕もいつ、いやおうなしのカリカリ頭になるかわからんからね。それよりヘーゲルもつて来てくれたか」「持つて来たよ。君が読んだら話をきかしてくれよ。君にきく方がよっぽど面白くてよくわかるよ」「よし、便利な存在なんだね」。

僕が読んだら鉛筆でかるく筋をつけておきますから、あなたが読む時ノートしておいて下さい。僕の筋だけでなく、あなたの筋をひきたい所もノートしておいて下さい。

今、ME^原芸術論をあなたへ送る前に通読してゐます。

東京では一室一人ぐらいの割で住まなければならないことになりさうです。本室では二十人宿直せよと云はれてゐるさうだし、ここでも若し一室一人なら十人ぐらい必要でせう。所が事実上それは不可能です。いづれにせよ、防空対策は大分本格的にやかましくなつて来てゐます。一室一人なら原宿の家でも四人必要になる。

今日は月給がはりました。五〇円お送りしようと思つたが、砂糖やコーヒーを買ふつもりなので、三〇円だけ送りま^す。之も為替をくむのにすぐと云ふわけに行きませんが。此の頃東京のものの値段の高さは、その品物に比べて、余りべらぼうなのでつまらなくなりま^す。先日あなたへのプレゼントの小箱、あれが二十一円幾ら、仁丹入れが九円です。プレゼントの値段なんか云つて了つては何にもならないけれど、昔ならそれだけで相当のハンドバック一つ買へたところですからね。僕の紙入れの二十二円だつて、昔ならどんな上等品が買へたかと思ひます。コーヒーの一ポンド十五円にしても、昔は一円五十銭。サトウの百匁二十六円に到つては、いや実サイには三十六円乃至四十円ださうですから、二百倍ぐらいですね。上海の物価は五百倍とか六百倍とか云ふが、日本だつてさう安心出来ません。だがヤミの話はやめませう。此の頃はお腹の物足りない時でも、コーヒーの甘いのを二杯のむと先づ満足します。変な話だが、小便までコーヒーの香がします。

今日の手紙はつまらない手紙で、あなたの生活に何にも与へないけれど、御ゆるし下さい。

東部戦線の進捗ぶりに驚いてゐます。同盟の「海外電報」を註文してみして下さい。戦局なんかも割合ひくはしく出ます。

では。身体に気をつけて。避妊については、よくお医者と相談して下さい。そして万全の策をとつて下さい。またあなたのほしいものは何でも云つて下さい。西山さんの本は探してみませう。何かあるのかわからないけれど。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二三日の記・消印）

一月廿三日

マナサス第一巻の第一部丈を読んで見て、此の前（十九年十一月）に読んだ時とは、又異つた面白さがありました。丁度三ヶ月しか経つてゐないので、合衆国史の第三章で得た理論と問題のせい（註）でせうね。人や情勢や事件を、前よりも知つたためでありませう。読んで覚えておるでせうが、書き方は中々凝つてゐますから、参考にすこしならべてみませうか。理論と具体的個別が（勿論第一流とは云へぬ、ほり下げの足りぬ点、追求のあいまい、怪しいところも方々にある様に見えますが、其の辺のところは其のつもりで読みさへすれば）割合うまく交互につきませられて出て来る様に思はれます。（以下、U・シンクレア『マナサス…南北戦争』第一部について、その要約・抜き書きなどが、用箋六枚にわたって記されているが省略―編者注）。

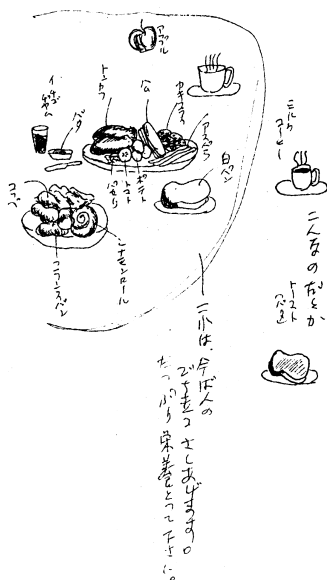
No.11、20日附落手。

浮腫はもうすつかり引きました。食欲も出、めまひもな（註）をつた。下痢と便秘丈征服すれば終りです。夜寒さうですが、もう着てゐるものはないの？ もうすこし何か残しておけばよかつたのね。信州は寒いけれど、私は炬燵の番人だから、寒いと思つた事は殆んどありません。幸福ね。私が身体がわるい（註）と云つて、ぐち云つて、あなたのせいの様にして、すみませんでした。それ程の気もなかつたのだけれど、遂、思ひやりが足りないから、さう書いてしまふんですね。さう思はぬ様にして下さい。毎晩ねる前に「あなたの健康を祈る」のですから、そんな風にあなたに思はせてはなんにもならないのね。きつと今後はそんな手紙を書きませんから（と云ふのは、もう大変元氣になりましたから、身体（註）のわるさのぐちは出ないから）。

新聞研究会と云ふのは、此の前の英国の話や、あなたのアメリカ政治の話などの会ですか。ヘーゲルはまだく先のことですから、「精神現象学」とかは半年位も後で結構です。あまり早く着くと重荷になる恐れがあります。プランティン（註）ヨンの講義はまだでしたのね。どんな風にやるのか、「基本」をかんたんに私にも知らせて下さい。

十六日附の手紙、どんな風な事を書いてゐたのか覚えてゐないけれど。とに角もう、くよくよするのはやめます。私自

身もほとく嫌になりました。あなたはもつと嫌だつたでせう。柄にもない事は駄目なのです。ひねくつたり大げさにしたり、とに角自分でそれを楽しんだ覚えはありません。それが大きな障害になつたとしても、一応は私の歴史はそこを通らねば、前進出来なかつたのだと今でも確信してゐます。そこをすぎたからこそ、謙きよに勉強を求めるところまでゆけたのです。併し其の事が私丈の事でなく、あなたに決定的な害悪を与へてゐたとすると、又問題は別に展開すべきだつたのかも知れませんが。前進のテンポの差にあまりにもこだはりすぎた事は本当です。それが本当に苦勞の種であつたのですから。あなたの云ふ通り、それはたいした重要さはありませんのね。ようく解りました。重要な点は努力してゐるか、それであるかにあるのですね。何と骨の折れた事でせう。ここまで来るのが、で、もうこれで終りにします。



謙一から幸子あて(一九四五年一月二三〜二四日の記)

一月二十三日(火)晴曇

ひよいと鼻風邪だなど気がついてみると、顔の中央部一帯くしやくし、ヒリヒリします。クシヤミをしては鼻をかむので。こんな風にして平家蟹のやうな顔が出来るのでせう。

今日はいよいよお手紙を受取りました。廿日付No.13です。快晴と云ふほどではないが、まづ身心ともにさう不都合はなささうで安心です。だが避妊すべきか否かについては、早く診てもらつてきめる必要があります。今のやうな時局展開では、産むだけでなく育てることも、あなた一人の仕事になる怖れが多いから、それに対するあなたの身体の負担能力の

コーヒーと砂糖、なんとすばらしいでせうね。楽しみにまつてゐます。このごろほしいものはもつぱら絵にして楽しんでゐます。こんなのだとか(上の図の右側のミルクコーヒーとトースト―编者注)、それが実物に当たるとは実にうれしいです。これは(上の図のテーブル―编者注)今ばんのごち走にさしあげます。たつぷり栄養とつて下さい。

計量は、厳密を要します。我々の将来の一切の可能性を含んだ生れ出づべき子供も大切ながら、それよりもっとあなたの身体自身の方が大切です。之は僕にとつただけでなく、歴史にとつても。歴史は一切の真実を知り真実を志す人間を要求してゐるのですから。

リットルペーヂからのあなたの引用は、あなたの本の読み方のしつかりして来た証左を提供してゐます。それだけ読めれば、何に向つて行つてもいいでせう。哲学ノートを読み出したことはいいことです。リットルペーヂであなたが注意したことは、あなたは余り覚えてないかも知れませんが、実は僕が四、五年前にそれを読んで多くの人に紹介しすめるさい、特にとりあげてしやべつたことと完全に一致してゐるのです。ソヴィエトの「原蓄」(小農民「収奪」、その工業化と集団農場化、リットルペーヂが「革命」と呼んでゐるもの)、スタさんのゴールドラッシュ、殊に民族問題、肃正等。この民族問題と人種問題とは、僕がアメリカの黒人問題に引用するつもりだったので、それより一足さきに細川氏が「改造」の例の論文にさんぐく引用して、それが問題になり彼もゐなくなつたと云ふ因縁つきなので、「プランテーション」へは使へなくなつて了つたのです。いづれにせよ、あなたの引用は、僕の前に読んでゐた所を再確認する意味でも、またあなたの物の観方の進歩を頼もしく確認する意味でも、大変興味深く読んでゐます。

アメリカの黒人問題でも、その真の解決は、黒人達自身が「プランテーション制度」を破棄して自らを近代化し、工業化し、それに対して白人の進んだ人々が援助し、黒人達の人口比例に従つて彼等自身の幹部を選出させ、彼等自身に責任をとらせ、その間、説得、教育によつて指導すること、黒人達自身のおくれた諸欠陥を、彼等自身のデモクラチックな努力によつて克服させること、之よりない。「再建」時代は、ステイヴンス等はこの方針に近いものをつたが、アメリカ・ブルジョアジー全体はさう云ふ方針に反対した。

今日は小此木君の所へ訪問しました。丁度帰京中と云ふ電話があつたので。彼は月一回三、四日間出て来るのです。今日はピーナツを御馳走になりました。この三年間毎週やつて来たやうな雑談から、「それはさうと、僕が兵隊に行くかどうかになつたら、仕事をそっくりあなたへ譲りたいんだが」「アメリカ史のこと」「うん、アメリカ史も南北戦争も。僕のこれまでの勉強は大部分君の材料のおかげだし、君としやべつて来たことから分り分り示唆も得て来たし、僕自身はまだ問題をとらへたばかりだし、まだオリジナルなものになり切つてゐないのだから、君がやる時、僕と云ふものを全然はなれて下さつて結構です」「いやさう云ふことはないけれど、たしかにお引き受けします」「僕の材料は信州のフラウの所においてあるから、万一の時はフラウの方から君へ連絡させませう」と云ふことになりました。彼なら僕の問題提

起を充分受けとつて、僕よりも恐らく立派に展開してくれるでせう。僕の「プランティション」も彼は最もよく理解してくれるだらうと思つてゐます。何しろあれを書いてゐる間中、いや之までのアメリカ史の研究を通じて、「ウィルソン」(一九三七年二月提出の卒論「ウッドロウ・ウィルソンとアメリカの参戦」―編者注)の頃から、彼にいつでもきいてもらつて来たのですから。そして彼は本もあり、身分も安全(軍需会社の重役で徴集免除)で、田舎にゐて此の時代を生き残る可能性の一番多い人ですから。彼の住所は

栃木県真岡町荒町 久保貞二郎様方

です。彼の所にはギャラリーも出来てゐるし、いつか訪問するつもりではゐるのですが。夕方から曇つて来て怪しい天気になりました。少し降つてくれないうけいけませんね。此の頃水道の破裂がはやつて、ここでも階下のお勝手が破裂しましたが、なほしてもらふのに十日もかかるさうです。二階は幸ひあたたかいのか、氷ることもありません。汲置きが氷るぐらいのものです。鼻風邪が気持悪いから早く寐ませう。

一月二十四日(水) 晴

お手紙(廿一日夜)を拝受。あなたが自信を失つたと云ふことは、次の飛躍の前提として、今まで考へただけでいいでせう。之からは先便数次に亘つて云つたやうに、その自信を外界へ意識をつき進めることによつて、今度こそ本当の实体として築き獲得して行けばいい。「プランティション」以後のあなたの本の読みかた、精神的欲求のありかたは、内向的になつた場合を除いて、僕が結婚の当初から願望して来たものの実現を感じてゐるのです。それまでの全時期を通じて、僕はあなたの「人間的資質」にはちつとも不満をもたなかつたが、世界観、精神生活の欲求の点で意に満たぬもの多かつた。それが今や克服され、もうあなたの世界観、精神生活の欲求は本当のものになつた。一旦その方法の真髄にふれると、一旦現実のディアレクティクを把握すると、いはば豁然として道がひらける。悟入とか悟りとか達観とか、東洋的な多くの言葉も、若干現実認識の機微をとらへてゐるところがある。無論それら仏教的な言葉は、形式が似てゐるだけで内容はまるで逆ですが。即ち認識の前進の契機でなく認識放棄、現実離脱の契機なのですが。

之から当分あなたは哲学やME、(原文)LやS等、所謂ディアレクティク(原文)の世界的把握者達のものを読んで、それらの人々の方法なるものを学んで行くといい。はじめは言葉使ひが馴れなかつたり、哲学と云ふ風な抽象的な思惟に馴れなかつたりして苦しいでせうが、だん／＼馴れて、面白味がわかつて来るでせう。さうなれば、あなたの人間的資質が物を云つ

て来て、きつと僕なんかよりずつと世界観が進むでせう。僕達が心せねばならぬことは、僕達の心の動きが狭いと云ふことです。その点ではアナトオル・フランスの心情のありかたを学ぶ必要があります。僕はやつぱり勉強型や思索型でなく行動型なのかも知れません。だが行動型にしても、もつと大きい心情をもたないといけない。激する時は激しても、たたへる時はたたへる水の如き精神動態、器に従つて形をかへる柔軟な流動的なありかたが望ましいことです。あなたは僕よりはエネルギーの集中持続が勝れて居り、精神の動きも機敏です。僕のやうにカンシヤクもちでも、怒りつぽくもない。また僕より感受性もたしかです。

今隣で西井君と倉橋君とがケンケンゴウくと戦争史のことを云ひあつてゐます。僕の独立戦争を読んで、「これはあなたでなければ書けない。こんな風にかきたいとは思ふけれど、その力がないんです。これはやつぱり『プランティン』と云ふ大作を書いたあなたにだけ書けることです」と云ひ出し、それはさうかも知れないのだが、結局二人で芦野氏の註文がむつかしすぎると云ふことを中心にケンケンゴウくやつてるわけです。僕も外のものについて書かねばならないかも知れない。

ぼつ／＼火を起さねばならない。四時ですから。で、今日もつまらない手紙ですが、このまま出させう。その中僕の原稿を送れるでせう。

小包みは金曜か土曜日になります。金曜に伊藤君に会つて現代史を借りるから。小包の用紙がありませんが、何かのついでに送れたら送つて下さい。お餅を御送り下さつたさうで感謝します。実際ごはんとかぶらはもう飽き飽きです。農家では水曜と土曜と二回売つてくれるのですが、ずつとかぶらばかりです。それでもかぶらもない人々に比べればましの方です。豆類（何でもい）がは入つたら頼みたいと思ふけれど、之は無理する必要はありませんよ。では又。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二三〜二四日の記、二五日の消印）**

一月廿三日夜。

今日はこれと云ふ勉強出来ませんでした。桃ちやんは風邪で伊那工業を休んで、一日充血した様な顔をして床についてゐました。朝ちやんは炬燵でねたり、起きて小説よんだり喋つたりしてゐましたので、何時もの様にこたつ板を一人で占領してノオトや本を開くのもわるいし、結局漱石の彼岸すぎまでがそばにあつたのでよんだり、再建のところを読み

返したりでございました。

桃ちゃんにはおひる前、何かお話しして下さいと云はれて、南北の対立と南北戦争のところを話してあげました。南部の特殊事情は、此の前、プランテーションで時々話したところですから、南北対立の關係も別に突然の話でなく、精しい始めからの説明なんかしなくても通じるので、大分楽です。リンカーンが政治の表面に浮び上つた理由とか、彼を選んだ共和党の領袖の事情とか、南部のスローガンの説明、それからデモクラシーや自由と云ふ言葉に溺れるアメリカ人の事、大戦時代、これはウエルソンの時の英国の宣伝にウエルソンもアメリカ国民も自由、デモクラシーと云ふ言葉に、内容の追求も究明もなしに引きつられて世界大戦に参加したこととか、あるひは現在の大東亞戦とアメリカ民衆とか、話しました。それから北軍が戦争の目的に奴隷解放と云ふ名目をかかげた時、国内と国外に与へた大きな影響のこと、イギリスには同時にストウ夫人の小説が持ちこまれ、これ又市民に反響あつたこと等々、明確な考へを、徹底した考へを、奴隷制度に対して持つてゐなかつたリンカーンも、彼を動かす圧力、歴史の必然性に押されて、遂に奴隷解放の戦士に至つたこと、一八二〇年に出来たミズーリ協定が、一八五〇年にはどんなプロセスを通つて、憲法違反と云ふ名の下にふみにぢられたか、アポリシヨニストの話、フレデリック・ダグラス、地下鉄組織、ジョンブラウン等々、話しました。

其の間にはカリフォルニアのゴールドラッシュの話とソ聯のゴールドラッシュの話とか、マナサスの「アラン」が南部人から動揺しつアポリシヨニストに至る話とか。大変面白がつて、其の中マナサスを読みたいと云つてゐますから、つい手に風と共ににもよむ様に云ひました。ちゃんと正しい歴史を知つてよめば、二つの本の書き足りぬところも、又、其の叙述の中から真実の姿をもつかめるでせう。此の前プランテーションの話をした時は、「黒い深い河」だとか「笑はぬでもなし」とか、もう一冊何とかをよんでしまつてゐました。

私はあなたの様に問題提起や論理づけは全く出来ませんから、唯相手が関心を起す程度に、其の問題を持ち出すにすぎません。あとは一人でやつてゆくでせう。私は自分の中から新しいものを与へる事が出来ないのです。桃ちゃんも工場さんむは相当辛いらしく、とてもく疲れの様ですから、休みの日とか病気の外は本がよめないので。お話しして、と云ふ時も何か手仕事をし乍らです。

一月廿四日曇、風激し

今日は再建のノオト終り、その後は一気に終りまで読み通しました。これは又すばらしく面白うございました。もつと早くよめばよかつたと思ふが、矢張り中々むづかしいから無理だつたでせう。文章も中々すばらしいし、高潮した感激へ引きずつてゆくところは、普通の歴史と異つて、すばらしい小説に引きずりこまれた時と同じ様な息もつけない感じがします。

ここ暫く毎日来てゐた手紙は今日は来ません。どうしたのでせう。其の代り明朝は来るでせう。

今日は朝の中は春の朝の様に美しく暖かであつたのに、午後から急に曇つて風も強くなりました。お母さんは神風が吹いて敵の飛行機が落ちればいいとか云つてゐます。もう別に書く事もないし、今日はこれでおしまひにしませう。

さようなら

※この一月二三〜二四日に記された手紙文は、一月三日付け、同日消印の封筒中に挿入されていたが、本来は一月二四日付け、二五日消印の封筒にて郵送されたものと推測できる。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二五日の記、二七日の消印）

一月廿五日晴

昨日は小包が届きました。相当大きい包なので何だらうと思ひました。あのシートは洗つて修善（修）してお送りするのでせうね。其の中暖い日に致しませう。煙草もおたん生祝の小箱も大変うれしく戴きました。随分きれいな小箱ね。相当高いでせう。あんなきれいなもの貰つた事がないのですから、本当にうれしゆうございました。少（少）さい仁丹入れも随分華奢なものね。あゝ云ふ女らしいようなもの、私は人から貰つた事が今までありません。朝ちゃんは「幸ちゃんは何時でも紙袋のくしやくのまゝハンドバックかポケットからとり出す様な事をしてゐたから、女らしくするためだわ」と云ひましたよ。中味は丁度不二ちゃんがつてゐるからあげようとのことです。はんけち（はん）は目下一寸も入りませんから、しまつておきませう。あのかわいい下駄は、鼻緒を作つて置いて置かうかな、とも思つたのです。だけど男の子ときまつた訳ぢやないから、生れてからにします。生れても二年位は穿けませんね。たわしも後日のためにしまつておきませう。玉露も本当にうれしかったわ。此のごろ一寸もお茶を買へないので、お客とお父さん丈で、他の者はお湯ばかりで

す。それで不二ちゃんや朝ちゃんやと相談して、二階にしまつておいて時々我々で賞味する事に決りました。八路軍は出して眺めてゐたら、朝ちゃんやが「私それなら持つてゐたのに」と申しました。不二ちゃんもつくづくあの美しい小箱や仁丹入れを眺めて、いいわね、私も年に一ぺん手紙を書いて「菊池さん、一月二十八日は私のおたん生日であります。すこしはおくれても結構です」つて出さうかなアと云ひました。何だかわるい様なきがしました。私ばかりね。それで早速煙草をあげました。朝日はまづいから、お父さんへあげ様と云ふ事に決りました。

小包をすつかり始末して落ちついて眺めてゐると、今度はNo. 12、13のお手紙二ツ、本日に昨日はうれしかつたわ。何となくすがすがしい位いき持になつて、手紙を見たり下駄やいろいろいぢつたり、夕方まであそんでゐました。本日に有難う。お母さんも、私（私）やそんなやさしい事して貰つた事がないよ」と羨やましがりました。

今朝考へて、廿八日はふうちゃんのおたん生日だし、何もあげる様なものはないし、あの白いハンケチ、あれを二枚とつて、刺しゅう糸のピンクとブルウでイニシャルをぬ（ぬ）いました。下手だけど、白い布地にピンクでF、ブルウでFとしたら、中々かわいいのが出来ました。それをうまくたたんで香水のあき箱にいれて、赤いリボンでからげたから、とても女らしいプレゼントが出来ました。

私の手紙があなたの一日の晴雨を決定する、と書いてあつて、本当に困りました。それ程の事を考へもしませんでした。本当に私は随分わるい事をして来ました。今後は天気予報の様な変なものにならぬ様に必ず致します。本当に私の固執は悪かつたと思ひますから、どうぞかんべんして下さい。あなたの手紙をみて、私は随分見落してゐる事があつたと思ひました。廿日附の手紙で、本当に芯から私が部分的に物事をとりあげて、拡大したり胡張（こぢ）した事を思ひ知りました。森の写真の木の様に、一ツの木丈が大きく前面に立ちふさがつて、後の沢山の森を構成してゐる木々は、ずつと遠くぼんやりしてしまつてゐた訳でした。あなたから度々云はれた「一寸した一ツ事」丈にこだはると云ふ意味も、又よく解りました。本当にあなたに云ふ通り、始めから私は建設的でなかつた事を思ひ当ります。すぐ、そんならどうでもいいと云ふ風に、破壊的に悲劇的に運ぶところがありました。それと云ふのも、私が思い出し度くない様な、自分にも随分と責任のある過去を持つてゐた事に相当のこだはりを持ち、それをどうしても捨てられぬ事にありました。それから年令的な差、これも何時も私を悩まします。私対あなたの二人つ切りの場合は、それに悩まされた事はないのに、私共対世間となると、毎日くそれを嫌と云ふ程味はく（く）されました。隣組でも会社でも、友人の間でも、あなたの家族、親類の場合でも、私の家族の中でも。私にはどう変へる事も出来ない此の事情に、始終いろいろの憶測や噂がついてま

はります。年よりも若く見えるのは若作りのためだとか、若作りをするのは云々と云つた風に。又は何処の誰、それも女房が年上のため、始めはよかつたが、段々年とるにつれ、それは決定的な面白くない原因となつた、とか。その他、思ひ出せない位に嫌な思ひをしました。で、此の事は何時もく致命的に私を傷つけてゐました。そしてあなたに對するひげ目を常を感じさせました。又美しくないこと、これも又、自信のない事の一つです。さう云ふどうする事も出来ぬひげ目の多い事は、常に、どうせ私なんか何時かは……と云ふ心持を底の方に形造つて、動かす事の出来ぬものとなつてゐた様に思はれます。だから二人の間の一寸したゆきちがひが起ると、すぐ私は勝目はないのだわと思つて正当に斗ふ事を避けて、「不安」を其のまゝむき出しの形にして、むいてみせる事になつたらしく思はれます。此の事は私の偏見に左右されること、即ち確固たる信念のなさ、愛情に對する眞の理解の欠除を明白に物語つてゐる事です。即ち、あなたの考へ方、あなたと云ふ人間に對する正当な理解をしようとせず、常に防禦的で主観的で消極的であつた事の結果です。

貴方は常に口でも態度でも、私の必要を示してくれました。私は相当期間、それを貴方が世間見ずのため、若げの至りで、私しか見られぬから、今は私を求めてゐるのだ、貴方の私に對する誠実も愛情も、あなたの無経験と憶病のためであること思ひ、過渡的一時的のものに見えたのでした。今にあなたが自信と経験を持つた、一人立ちの人間に成長した暁は、此のまゝの形態で続くわけではない、と思つてゐたのでせう（其のころ、はつきりした形で考へた訳ではないようですから）。其の中に一人の生活は何時か、その事をはつきりした意識に登せる様なチャンスなしに（と云ふのは今から考へると、あなたのひたむきな積極的な奴力でさうなつたのです）、安穩にすぎたのです。それは知らぬまに私をして、眞の理解なしに、イージイな安心観（安心観）に落ちこませたのです。悪く極言すれば、「貴方は大丈夫。ピロトオの妻の口ぐせの様に、私のまはりから離れはしない」と云つた風な見くびりだったのでせう。

さうです。だから一切の積極的な建設努力は、私は一度だつてした事はありません。常に受動的で、其の範囲内でオブローモフ的に動きまはり、好きな事を云ひ放つて省みる所ありませんでした。だから内心からの欲求として勉強を求めた事はなかつた訳で、貴方から云はれる毎にうるさい事だと思ひ、何も自分の仕事にまで私を引きこまなくつても、一人でやればよいと思つてゐたのです。あなたの仕事そのものに対してすら、私は考へてゐなかつたのです。仕事は仕事であつた、私共の生活の中心ではない様に思つてゐたのです。其の仕事はあなたの生活、世界観と切つても切り離す事の出来ぬもの、世界観努力と仕事は一体である方向へ行つてゐる、其の様な仕事とは思つても見なかつたのです。自分

の仕事に私の興味を引きこもうとする事は、一人ではやれぬから誰か相手を求める、あなたの弱味だ位に思つてゐたのです。あなたの考へ方、あなたの生活方針、あなたの世界観努力、あなたの仕事に対する私の消極性であります。充分見究める努力を一寸もしてゐなかつた事は本当です。それなのに自分では、あなたを全的に知つてゐる、見透しだと思つてゐたのです。それが今度の疎解問題にはいつて、ガラリと思惑と異つてゐたと云ふ事をおぼろげに感じ、そんな筈ないわ”と云ふ心持、元通りの状態（主観的）を希求するイージイさと、すこしは事態を解らうとする態度、その間の矛盾動揺が起りかけて、丁度病氣と、それまで一度も聞いた事のない、あなたの無情なつき放しの言葉とが絡りあつて、さうして去年の七月末からの不安、動揺、自信喪失、疑惑に落ちいつたのでせう。前にも書いた、私の”どうせ私には勝目はない”と云ふ、あの化石観念が再び起き上り、再生、拡大、固定の形をとつたと思はれます。最近だつて、もう解つた、解つたと云ひ乍ら、尚解つてゐなかつたのです。あるひは今だつて、まだくく解つてゐないのではないかとお思ひます。

あなたの仕事はあなたの世界観努力と生活努力の統一にあること、そしてそれを私は積極的に理解し、共に前進するのではなくてはいけない事、其のためには今までの私の考へ方一切を根本的に徹底的に変へる他はありません。結局、今度の私のしつこい、くどいこだはり、泥沼は、今までの私の消極的オブローモフ的局限的な考へ方、生活の総決算であつたのです。本当に自分でも、しつこい、くどい、倦々する位の長期間の破壊的な苦しみ方には、ほとく悲しく情なく、死に度いと何度もくも思ひました。あなたを責め散らし、自分をもてあまし、あなたの創造を防害し、自分の健康を破壊しました。ですけれど本当にあなたのためゆめ努力と誠実と愛情が、結局私のどろ泥に光を与たへ、遂にそこを越え、新しい勇氣と熱情と生々しさで、再出発させてくれました。今までの私のいごちと化石した心とすてばちを、氷結を溶して下さつたのです。今更乍ら私はあなたの誠実と努力と愛情を、どんなにうれしく思ふでせう。其の嬉しさも、今までのものと質的に異つたうれしさです。あの総決算から出たからこそ、此のうれしい気持は本質的に異つた、もつとく深い内容を伴つたうれしさです。さうして今更私は、あなたの立派さと善さを知り、それもあなたの一日一日の努力が作りあげた、尊いものである事を感じます。あんまりこんな風な事をくどく書くとは嫌味つたらしくなりますから、あなたは私が本当に力がつき、元氣が出て、前よりもつと確実に進める様になつた事を知つて下されば結構です。ゆうべの鼎村の景色の美しいことと云つたら、雪につつまれた山々、森、家、畑の上に輝く月、山の色も森の色もすこしくすんでゐる丈で、うそのように美しい。ブリュウゲルの絵の様な、お伽話の様な妖しいばかりの美しさでありまし

た。冷めたい風の吹く戸外に顔をつき出して眺め、おしみました。

海外電報、早速問ひあはせて見様と思ひます。一寸三〇〇円と云ふと高い様だけれど、一ヶ月25円ですから、^⑧屋賃や食費を考へると、今それを出してゆくのは一寸も高くも無理でもないと思ふし、そんな海外の記事がのるのなら、是非はしいものです。お金の事は結構です。こないだの200円がそのまゝあるから、あと100円足せばいいんですもの。此の手紙と同時に、同盟に紹介してみます。切手を封入しとけばいいでせうね。

とうとう朝からこまで書くのに十二時になりました。窓は明け放しですから、雪の美しい山や、なごやかな明るい青空、美しいくも、雪を被つた屋根が見え、冷い風が吹きこんで来ます。

朝ちやんはもつぱら足袋製造職人になって、もう黄いろいウールのや、紺のやを四足も作りしました。一足はきいろい糸で名前をいれて、不二ちゃんにあげるのだと云つてゐます。

セガンチニのアルプスの山の様に美しい山が見え、陽は輝いてゐるのに、よく見るとヒラ／＼雪がまつて来ます。

私の健康のこと、心配させて本当にすみませんでした、此の前大変よくなつたと書いて以来、めき／＼と恢復して、もう前の心配はほとんど去つたかに見えます。便秘はまだまだですが、これはねる前に30分位、外を暖にして歩く事を実行すれば、便秘もそれから起る頭痛も不眠もよくなると思ひます。おこたにふとんを敷いてから行つてくれば、帰るとすぐに床にはいつて足を暖め乍らねむれるでせう。本当にもう心配しない様に。気持が定まつたためか、とても良くくなりました。元々私のはすぐわるくなるが、すぐよくなる事も早いのです。肥りも早い、やせるのも早いのですから。だから今度は此の調子を失はぬように、積極的に注意する事を約束致します。さうして丈夫ない子を生みたいと思つてゐます。併し子供が生れたら、勉強出来なくなるでせうね。それを思ふと、一寸淋しくなりますが、すこし大きくなると、こちらもせき立てられて、勉強せすにはゐられぬ事です。

昨夜はスメドレーをさつと読み返しました。矢張り面白いところは印度人と交通始まつてからですね。それ以前は又別の面白さがありますが、何と云つてもあまりにも無意識的な行動で、面白いとは云へません。尤も、彼女の生き方の非妥協性、がむしやら、女としてとりあつかはれる事を非常に嫌ふ独立的なところは、それ以前からも出てゐて、この性質が其の後の勉強体験、デンケンからはつきり理論で裏うちされて磨き出されるわけですから、一概に前半を貶す事はいけませんね。偏見やふんいきや、とかく女の負けやすいものに、彼女程負けぬ女はめつたないでせうね。まるで猪の様に突進するではありませんか。印度人の交通後のところを、もう一ぺんたんねんによんでみる必要あると思ひます。

午後になつて、伊藤さんが先日来の約束の、北ソヴィエト紀行 北極の町 ルス・グルーバ著、を送つてくれました。ヘラルド・トリビューンの婦人記者、哲学博士です。始めの二節程よみました。大変面白い本です。およみになつた？ たぶんまだでせう。リトルページとは又変つてゐる。時代も一九三八年でよりもつと後です。三、四年前のものではないかと思ふ。それに記事の中にチヨイ／＼アメリカの女ならではのところもあるし、新しい北極の町、住民の建設的な姿がまざ／＼と出て来る。ロシア人のむきだしの、出し惜しみをせぬたつぶりした愛情や人のよさに充ちてゐて、行つてみたいと□必思はせるものがあります。

廿二日附の方の返事も書き度いと思ひますが、もう今日は手紙ばかりにかかり切つてしまつたので、一応やめて、勉強の方にとりかかります。今日は大車輪でやらなくてはいけない位たまつてゐるのです。夜にうまく時間が出来たら書きませう。

では、さようなら。お餅の小包、ついてゐるといいわね。お味噌とおしょうゆ貰つた相でよかつたのね。小田中さんにも早川さんにも何か送つてあげたいけれど、まああなたのチヨンガ生活をふびんに思つての事でせうから。

さう／＼小田中さんに「学生と歴史」の中の羽仁さんのあれ、よませてあげたらどうかと思つてゐますけれど、きつとお役に立つと思ふわ。あなたもさう思ふなら送ります。あの中では羽仁さんと小此木さんのをよめば充分でせう。

インデラは二巻の方が役立つでせうね。桃ちゃんもインデラをよんでから他の物をよんでみると、前とまるで變つて考へられると云ひ、此の一年の中、何が一番面白かつた、ときいたら即座にネールの歴史と答へました。友達も皆、あゝ云ふのを求めてゐるんだと云つてゐました。

謙一から幸子あて（一九四五年一月二五〜二六日の記）

一月二十五日（木）晴

お手紙No.15（二十二日）、No.16（二十三日）拝受。

大分元氣になつたやうで安心です。だが便秘や下痢を何とかかなほせないののでせうか。うんとよく咀嚼してはどうかしら。いやになるくらい咀嚼したら。吉武君なんかはびつくりするほどゆつくり咀嚼しますよ。あなたの便秘と下痢とは殆どずつとですからね。何とか真剣になほす工夫をして下さい。胃下垂の方は此の頃どうですか。慢性病を沢山もつてゐる

人間は、特に理性と意志とをきたへる必要がある。意志で以て気分や感情の動搖を克服する訓練が必要です。アレルギー症の人は、理性と意志の訓練は最も重要です。所がアレルギー症の人はどうも理性や意志の訓練を嫌ふ傾向があるのでないかしら。何れにせよ、充分注意して下さい。僕のために。

マナサスの批評は面白く拝見。そのくらい丁寧い、徹底的に読んでみることはいいことせう。僕も一回しか読んでないので、あなたの感想でもう一度想ひ返へせます。だがあなたがマナサスを特に丁寧に読んでしたのは、小説としてよりも、あの頃の歴史について書いたものとしてせう。それでいいのです。マナサスはどうも芸術ではありませんから。大体シンクレアは芸術家でなくて説明者ですね。描くのでなくて説明する。シンクレアの人物は現実の生きた人間、個性ではなくて、シンクレアの説明の道具です。その意味でまさしくシラー的です。傾向文学にはこのシラー的なのが多い。之に比べて、やはりゴリキーの母は決定的にすぐれてゐますね。出た時期はほぼ同じだが。例へばバーヴェルと云ふ人物も、その母も、その他多くの「母」の中の人物は、言葉の本当の意味の典型的性格です。それらはすべて必然的な行動をし、それらの典型が豊富に種々の偏差に於てリアリストイクにあらはされる。事件の経過も必然的です。マナサスでは人物は典型でなくて類型です。南北戦争前の時代を描くには、主人公の選びかたがまちがつてゐる。アランと云ふ人物は南北戦争の本質にとつて歴史的必然性をもつてゐない。南北戦争を本質に於て描くには、もつと別な人物、例へばリンカーンの、ステイヴンス的な（リンカーンでない、ステイヴンスでもない）、さもないければ、まだ「風と共に」の主人公の方が生きてゐます。アランはシンクレアによつて、この時代の南部と北部とのセンセイショナルな凡ゆる場面を一わたり見て歩く人物として、即ち甚だ都合のいい（よすぎる）旅行者としてこさへあげられた感が深い。実際アランは、此の時代の歴史的場面の総てに立ちあひ、凡ゆる歴史的人物に出会ひます。南部のプランテーションに生れて北部へ勉強に行き、そこでアポリシヨニストになつて北軍側で斗ふと云ふ人間はゐるかも知れません。だが南部の議会やヤンシイの演説に立ち合ふかと思ふとアポリシヨニストの集會に出、ジョン・ブラウンの蜂起に立ち合ふと云ふ風な余りお膳立てのそろひすぎた体験者と云ふものは、必然性に乏しい。凡ゆる歴史的人物と歴史的場面とを一人の人物にむすびつけると云ふやり方が、唐突で必然性がなくて、プリミティヴなのでせう。シンクレアは實際歴史的人物を余りやすつぽく出しすぎます。大ていやすつぽくなつてゐて、歴史的人物そのものの生き生きした、独創的なありかたはまるで感じられない。かくてマナサスは、芸術品としては低俗です。だが南北戦争を一通り知つてゐる人間にとつては、事件の面白さ、歴史的人物の出て来ることの興味で、中々面白く読めます。あなたはさう云ふ読者とし

て読んだので、大変面白く読めたのでせう。

だがシンクレアの南北戦争の歴史的理解も、当時としては進んでゐた方だらうが、決して深くない。アポリシヨニスト達は、後のコムニスト・オルガナイザアみたいにあらはされてゐるが、之はアポリシヨニストの一面でしかない。地下鉄道組織についての劃期的研究たるシーベルトの著書が出たのが一八九二年だが、その「アンダーグラウンドシイルロード」は、マナサスよりはるかに面白い。歴史叙述としての「アンダーグラウンド」の方が、小説としての「マナサス」より面白いと云ふことは示唆的です。実際奴隷の運動と云ふものが、南北戦争に於て決定的に重要で、アポリシヨニストもそれと連関してこそ、本当に豊富な力強い生き生きした歴史的形象になり得るのでせう。例へばジョン・ブラウン一人をとつてみても、小説よりも面白い。彼は早くから奴隷をその場で解放することを主張する（リンカーンのやうに海外へ植民させるのでなく）。一八五八年にはカンサスの戦ひへ参加し、オサワトミー襲撃をやる。彼はカンサスの全南部へのひろがりを感じとつて、之を組織しようと思ふ。そこで彼は奴隷暴動の指導者になり得るやうな優秀な奴隷をみつけ出し、十二人のさう云ふ奴隷を救ひ出して、有名な「ジョン・ブラウンの脱走」をやる。この十二人を彼は組織者にしあげる（彼はもつと多くの組織者を作るべきだつたのだが）。その間奴隷暴動の波はたかまる。そこでいよいよその十二人と自分の一族とをひきいて南部に入り、ハーパース・フェリの武器庫を占領し、全南部の奴隷によびかける。だが奴隷達は直ちには立たない。多くのアポリシヨニストはジョン・ブラウンほど徹底的な考へをもたないので、却つてブラウンに反対する。リー將軍の軍隊が来てブラウンは捕はれ処刑される。ところが翌一八六〇年には全南部に奴隷暴動の波が高まる。ジョン・ブラウンへの応答のやうに。この全南部的奴隷暴動はブラウンを恐怖させ、彼等はアポリシヨニストの北部とつながつてゐる限り、この奴隷暴動を鎮圧し得ざるを感じる。民主主義とのつながりは、彼等の制度の維持を困難にするのである。彼等は自らの制度を維持するためには全然民主主義と遮断されねばならない。

ここから南部の脱退運動が実現するのである（これはこの間の「ダイヤモンド」参照）。

北部人はジョン・ブラウンの蜂起に対して共鳴しなかつた。アポリシヨニスト達すら共鳴せず、却つて批難するのが多かった。所が南北戦争がはじまつた時、民衆兵士達が進軍の時うたつたのは、外ならぬ「ジョン・ブラウンの唄」だつた。そしてこの兵士達が自発的にうたつた「ジョン・ブラウンの唄」にこそ、南北戦争の真意義が、リンカーンその他のあいまいな態度にも拘らずあらはれてゐたのである。かう云ふジョン・ブラウンの生涯の方が、はるかに密接に南北

戦争と結びついてみて、小説的な面白さも豊富です。

これらについてその中あなたに話す時もあるでせう。何れにせよ、ジョン・ブラウンとサディウス・ステイヴンスとは南北戦争の前と後との最大の個性であり、恐らくアメリカ史の最大の個性でせう。しかもこの二人ほど、特に後者ほど、アメリカ史に於て歪曲されて解されてゐる人物はないのです。トム・ペーンぐらいでせうね。ペーンもずい分歪曲されたが、之はどちらかと云ふと無神論の故にですが、ステイヴンスの方は彼の黒人への同情の故にです。ステイヴンスは老人（七十才以上）になつてから、ずっと混血の家政婦と二人きりで住んでゐたが、之に対してずい分あくどいデマが流布された。ステイヴンスはそれに対して何にも答へなかつたが、結局ステイヴンスとその黒人寡婦の家政婦との関係は、美しい相互尊敬に結ばれた人間関係（恋愛でも夫婦でもなく、主人と家政婦または友達と云ふ関係）であつたことが認められてゐる。ステイヴンスは一八五一年には有名な奴隷逃亡暴動事件の弁護人として活躍する。それまでも常に逃亡奴隷や貧しい人々の弁護を無料でやつて来たので有名な人物。仏革命のマラーと対比されるほど激しい人物で、七十何才と云ふ老人なのに、再建時代の議會を牛耳つて、極めて急進的な諸立法を成立させた。惜しいことに一八六八年に七十六才で死んだ。南部再建の失敗の原因の一つはステイヴンスが死んだことにも帰せられる。ステイヴンスが死んだ後は、急進派は結束がなくなり、動揺し、結局再建を貫徹出来なかつた。サムナーはニューヨークランド人で、ステイヴンスよりははるかに一般にはよく理解されてゐるが、我々にとつては、やはりステイヴンスの歴史的性格の方が偉大であることを感じる。

僕が将来やりたいことは、ペーンとステイヴンスとジョン・ブラウンの伝記を書くことです。之には日本にゐる材料が手に入らない。

シンクレアはジョン・ブラウンの理解に於て、ピューリタンのな（宗教家的な）常識から余り出てゐない。ラヴジョイの息子か弟か、はちよいと面白い。コフィンには印象乏しい。一般に歴史的人物は、シンクレアに於ては卑俗化されてゐると云ふことは争はれませんね。にも拘らずマナサスは、当時の事件の一応の描写があつて、興味をひかれます。丁ね（原文）に読んで損はありません。

M・E・の芸術論を、早苗ちゃんへの紙芝居とハリガミ等と一緒に送ります。早苗ちゃんのおたん生祝ひに何かさがしておかうと思つたのですが、ついイージーな探しかたしか出来なくて、僕の本でも出た時のことにします。コーヒールはサトウがまだ入らないので、次に「現代史」などと一緒に送ります。小包紙がないのが不便です。

「プランテーション」の講義は、先づみんなに一章乃至数節を読んでおいてもらふ、それを僕が朗読し、必要なことを説明し、あとで質問してもらふ、と云ふ形式をとります。第一回には「プランテーション」の書かれた主観的理由（動機）と客観的理由を説明する予定。主観的理由とは僕があれを書くに到つた動機、客観的理由とはプランテーションそのものの歴史的Ⅱ現在世界的に問題提起してゐるもの。この二つの統一から出来上つた。

次には「プランテーション」の元題「アメリカ南部のプランテーション制度とアメリカ資本主義」、または副題「米國に於ける前資本制度の問題」の説明。特に「前資本制度」について。ここで人間の歴史の発展段階についての説明。歴史の進み方の説明、進歩（量的発展）と革命（質的發展）との問題、歴史主体Ⅱ民衆、歴史推進力Ⅱ民衆の解放欲求、解放運動の問題。封建制度から資本主義制度への移行の歴史。原蓄のこと。さう云ふ人類史のいかなる時期、いかなる諸力の運動、からプランテーションが生れたか。

大体右のやうなのが本題へ入る前の「序」として説明さるべきでせう。原価計算やりなほして校正刷がまだ来ないために、少々読みにくいだらうが、原稿をまはしてあります。白田君はもう第二章（農業）を全部読んで了つた頃でせう。それからいねちゃんはまだ緒論を全部終つてゐないでせう。いねちゃんから森井さんへ廻つて、この火曜日に小田中さんへ来たらしいが、水曜日にいねちゃんとお田中さんとのひつこしがあつたさうで、来週水曜日から正式にはじめます。尤も此の日曜にいねちゃん、小田中さんにおもちをたべに来るやうに云つておいたから、その時白田君も来れば、「序」だけはやつてしまへるでせう。話した内容については、あなたへも書き送ります。

所でオモチ御送り下さつたさうで、どうも有難う。こちらからはタバコぐらいしか送るものがなくて、タバコはもうあなたに大して魅力でなからうし、あなたを慰さめるやうなものが送れないのが残念です。

一月二十六日（金）晴

朝十時、小包届きました。大変有難う。

僕も之から出しに行きます。

中味のハンカチ箱の中はタバコですが、その中の紙包ミ（トンブク式の）はサッカですから御注意あるやう。之だけでも相当なものです。十数回はコーヒーをのめるでせう。コーヒー一杯に耳カキ二、三杯。コーヒーは灰ふるいか何かでいって、少しこげるくらいにして、木槌で叩いて粉にしなさい。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二六日の記、二七日の消印）※

一月二十六日

本日、廿二日附^⑤No.14落手。

あなたの云ふ事、前面的に賛成です。手紙は相手の生活の前進への拍車であること、リクリエーションと生活の苦しみのやわらげになるべきですね。さうあらしめたいものです。

芸術論の方も急ぎませんから、ゆつくり読んで後で結構です。新プランに入るとしても、入った当座はあちらこちら手を伸す余裕は全くないと思はれる。軌道に乗って本格的になつて来たらの事です。ヘーゲル精神現象論の方も同様、一、三ヶ月はシユベグラーとフォアレンダーで、身動き出来ぬでせう。

お金もさう送つてくれなくてもいいです。20円送つて下されば、定期^⑥予金にまはせるし、あとは殆んど使ふ事はありません。西山さんの本のお金もかわせを組みにゆくのがめんどうだし（と云ふのは髪も櫛をいれたり、オーバーを着たり、顔も洗ふ位の事をしなくては出られないから）、なまで同封してはいけないうし、ですから送つて下さる分からは、さし引いて下さった方がいいです。西山さん向と云つても、何と云つて、いいものがあるかどうかかわからないから、本当に何でも結構。なにしろ田舎で本屋なんてない、と云つてゐますから。

合衆国史は今日から第四章にはいります。今日は桃ちやんに、再建と米資本主義の発達を、話してあげました。民主党と共和党の発生と、其の相違をきかれましたが、四章にあつた程度の事しか私は知りません。本質的な差はないのでせう。唯、北部をより多く代表したか、南部的であるか位で、民主主義的内容の点では、どちらも何も持つてゐないでせう。唯、南部の民主党第一主義に就いては、プランテーションの時に得たもので説明しました。三章の四資本主義の発達、独占にはいつて来、東欧農業諸国の農村解体、アメリカ移民の辺のところをよんでゐる時、ジャングルのオーナーの家族を思い出しました。あとで一寸のぞいてみ様と思ひます。どうもあれこれとよこ丁へ逸れるので、中々本道は進めません。

あの白い紙の便箋は、もう終りになりました。随分早く使つたでせう。もうすこし貰へると都合だけど、無理だつたらしいのです。便箋も封筒も売つてなくて困りますね。西山さんなんか、昔伊東屋にあつた様な四角の桃いろのいい紙

の二重封筒で、手紙をよこします。

ここまで書くうち、又々桃ちやんからいろいろ質問あつて、とう／＼知つてゐる限りの話をしてしまひました。ユニオン・パシフィックの映画の話だの、終にはブーア戦争へとんでしまつて、オランダの歴史(但し知つてゐる丈)、セシルローズ、オームクリューゲル、遂には鈴木さんのセシル・ローズと南アフリカを持ち出して来る、と云ふところまで来てしまつて、とう／＼書けませんでした。これも又、勉強のうちですわね。私、もつと三、四人相手がほしいと思ふわ。さうすれば多に勉強して、多に熱心に喋るんだけれど。だけど人に話すと云ふのは、実は自分のためのものね。私は時々桃ちやんに、結局私は桃ちやんを舞台にしてゐるのかも知れないと云ふ事があります。話してゐるととてもはつきり自分でもわかつて来ます。だから『教へてあげてなんかあるんぢやなくて、一諸に勉強してゐる□ね』と、結局は話し合ひます。丁度桃ちやんは風邪引きで、これで四日位ねてゐます。南部の話をしてゐる時、朝ちやんは「武器は教養、知識だわ。鉄ぼうも権力もうばはれても、知と云ふ無形の武器を持つ事は、最後まで徹底的に斗へることなんだわ。おお、無知こそ罪悪なり」と牧師の様に云ふので、三人とも大笑ひしましたが、これは本当ね。あの昔にフィレンツェの詩人は、既にそれを知つてゐたんですね。

今日も予定のノオト、勉強はおくれましたが、しようがない。夜は一応合衆国史をストップして、たまつてゐるものを片つけませう。短い手紙ですみませんが、長いぐち手紙より、かんべんして下されるでせう。原稿は進捗しましたか。うまく進む様に。私は大はり切りですから安心して下さい。

幸子

質問 合衆国第三章ノ四 アメリカ資本主義の発達

p. 65 二行目「資本の「民主」政治を腐敗せしめ」この意味どう解釈するのせう。

p. 65 終から七行目「意味深き象徴の年」これは労働運動の労働組合、政党運動への発展と、支那人苦力排斥に人種偏見を煽つて転化させた事が……民主主義アメリカの帝国主義化の予表……の意味でか、わかりませんか。

p. 68 四の終り、しかるに……ユージンデブスに対して、反トラスト法は発動されてゐた。
ママも意味がわからない。

※この一月二六日付け、二七日消印の封筒中には、一月二八日朝に記した手紙文が挿入されていた。他方で一月二八日付け、同日消印の封筒

中には、二六日記の手紙文が挿入されていた。両者は封筒と中身の用箋とが、何らかの事情により相互に入れかわったのであろう。ここでは中身の用箋を元どおり差し替える形で翻刻・掲載した。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二七日の記、二八日の消印）※

※この封筒中には、A・スメドレーの自伝『女ひとり大地を行く』について、その要約・抜き書き・感想を、細かな字で六ページにわたって記した、幸子の読書ノート風の手紙が挿入されていたが、その掲載は省略した。

謙一から幸子あて（一九四五年一月二七〜二八日の記）

一月二十七日（土）晴

昨二十六日にも書いたのですが、お手紙もなかつたし、大して書くこともなかつたので、破いて了いました。それに今日の空襲のあとなので、開封されるでせうから、つまらないことしか書いてないものをわざ／＼出す気がなくなつたのです。内容は僕が水責め火責めに会ひはじめたと云ふことなのです。水責めと云ふのは、濁水と近隣の鉛管破裂の頻出とで水道の水が出なくなつて、御苦労にも井戸水を汲んで来なければなりません。この井戸はどうやら浅いらしくて、それほど温水でもありません。火責めとは、水責め同様、火の無い責めなのです。一家で石炭をすつかり箱づめにして持つて行つて了つたので、調査会差しまわしの質のよくない亜炭しかなくなりました。まだ当分火が必要なのに、これでは少々弱ります。

一家と云ふのは実に意地悪で、何でもこの間、下の小使婆さんと、石炭を使ったことについて喧嘩したのださうですが、空襲の時のI夫人の醜態以来小使さんが彼等をなめて了つてゐるので、大分強気に出たらしい。「誰でも他処さんでは月給払つて留守番をおいておくのですから、そんな大切なものなら、留守番をおおきになつたらいかですか。私共は調査会のもの番をいたしますが、お宅のものまで手がまはりません」とか何とか。所がI夫人と云ふのは近隣に鳴りひびく吝嗇で、さう云はれてぐつとつまつて了つたのださうです。それから数日経つて、また御殿場から出て来たと思ふと、主人公と誰か若い（と云つても四十前後の）左官か大工のやうなのと二人がかりで、石炭箱へ石炭をつめ込んで、

近日中とりに来るからと云つて（多分軍か何かのトラックで）物置きにしまひこんで了つたのです。「あそこをこちあげてやりませうよ」と小使さんは残念がつてゐました。いや之は小使さんだけでなく、僕にとつても重大問題です。炭の配給は九月以来二俵しかないし、近く来るのは薪ださうですから。

そんなことをもう少しくわしく書いただけの手紙だつたから破いて書きなほすわけです。僕もあとでその話をきいて、真向からケンカをしてみようかなと、もう少しで会見を申し込む所だつたのですが、そのためのいろんな理くつを考へることが面^{めん}づくさくなつたし、相手が不愉快極まる人種なので、勝つても負けてもあとで不愉快になるにちがひないからよしました。何しろケンカと云つても私有権行使とケンカをするわけで、勢ひ時局を笠に着る必要があります、それは余り気持のいいことでない。

お送り下さつたもの、大変おいしくいただいてゐます。雑炊に入れてたべるのが一番食べであります。いねちゃん、小田中さん等は日曜に来るでせう。そしたら雑煮を作るつもりです。若し彼女達が日曜日に来ないと、水曜の「プランテーション」講義までもつかどうか保障出来ません。と云ふのは、竹中君と云ふ四六時中腹の満足しない大供が、丁度僕が小包を作り終り、そこへあなただけが届いて、そこから一面ちらかしたままほく／＼と開いてゐた所へ現はれ、「あつ、運がいいねえ」とさつそく無理往生のお相伴です。無理往生とはいへ、彼も僕には頼りない乍ら数少い「弟子」の一人であり、また銀行家でもありませんからね。「だけど、いいんかい。君の朝飯なんだらう」「朝飯なんかとつくの昔に食つちやつた。之は朝飯後のおやつだ、まあおあがり」「そいぢや。すまんなあ」と遠慮がちだから可愛い／＼もある。

さて今日廿七日。伊藤君の所へ現代史をとりに行きました。一時頃までに行く約束で、少しおくれて経堂のホームまでつくと、サイレンです。これはしまつた、彼は一時までまつて来ないので帰らうとしてゐる所へこのサイレンだから、きつと引きあげるだらう。彼が成城駅まで着くのと、僕の電車が成城へつくとどつちが早いのだが、行きちがひになつたら本屋でもさがさう、とかう思つて行つたのですが、果して駅からちよつと行つた所で پاک／＼パイプをふかし乍らやつてくる彼と出会つて、彼は逆もどりで。彼の所、即ち北条君の家で、彼の所の御大たる土屋喬雄先生の悪口を二人でさんざん云つて、「学者俗物の現代的典型だね」と云ふ結論に至つた頃、空襲警報です。ラジオがないのでわからないが、雲の上で飛行機のとびかふ音、機関銃の音まできこえるから、大分低空でやつてゐるのでせう。

「こないだ山羊を殺して料理してやつたんだよ、人に頼まれてね」「ふうん」「やせた山羊でね、普通なら十二、三貫の目方で四貫匁以上のいい肉と、脂が洗面器に山盛り一杯、肝臓なんか臓腑の一部がくへるから、まあ半分は食へるんで

ね、実は君の所へもつていこ思てたんだがね、そいつは一貫七百しか肉がとれんで、脂が全然なかつたんだ。売ることにきめてからエサやらなんだからしい。肉は牛肉よりずつとうまいしね、皮もいいけど、労力奉仕は引きあはなんだよ」「それはおしかつたな。君は妙なかくし芸をもつてるんだね」「うん。皮のさかきは高分技術が要るよ。どつかに山羊ないかな。此の頃エサに困つて売りがつてる筈やがね」「味をしめたと云ふより、しめ足りんかつたわけか」。

そんな話をしてゐる最中、京橋、銀座の繁華街へバクダンが落ちてゐたのです。僕もよく栄養らしいものを補給に昼頃銀座へちよくく出てゐたから、今日なども出ないとは限らなかつた。通行人が大分死傷したさうですから、僕も、命拾ひしたと思つてゐる東京中の大勢の人間の一人に数へられるかも知れない。

警報がとけて経堂へ帰つたら、二階からはか東の方に黒煙濛々と上つてゐるのが見えました。之が京橋やら銀座だつたのです。昨夜も三回空襲があつたが、月夜の空襲はもう定石のやうになりました。

「笑はぬでもなし」はゴリキーの「幼年時代」を想ひ出させるさうですね。松浦君（此の間来た学生）がさう云ふので、ぢや一つ僕も幼年時代を読んでみようと思つてゐます。「黒人の息子」の裁判の部分には、ドストエフスキーの「カラマーゾフの兄弟」の三巻、四巻を思はせるものがある。所がカラマーゾフでは意味なき絢爛にすぎないものが、「黒人の息子」では実に鋭い現実の根抵（根）への肉薄になつてゐる。その内容上の現実性だけでなく、「黒人の息子」のあのテンポは、映画的なものです。それにしてもアメリカの黒人文学が、ロシア文学の影響を吸収してゐると云ふことは実に示唆的です。ロシアの雇役農（オトラボキ）とアメリカの黒人クローパーは、歴史的に同じ意味をもつてゐるし、何れも一八六一年（農奴解放）、一八六五年（アメリカ黒人解放）の結果、その歴史的制約をなしてゐる。アメリカの奴隷制度はロシアの農奴制度と一番近い類似をもつ。だから「復活」がアメリカのことに触れ、L（原文）さんがアメリカの農業の奴隷制遺制について書いたのでせう。

桃ちゃんの学校生活も本当に辛くて不幸のやうですね。あなたがよく元気づけ、慰さめてあげなさい。その若さを澆刺たる生の謳歌へ、いかやうの形にもしる解放したいのに、時局は若い人に苛酷すぎます。若さを疲労させすぎます。日本の再建に必要な若さを。そして桃ちゃんもまた欲求してゐるのです。いかなるものかわからぬながら、とにかく真実なるものを欲求してゐるのでせう。

「アメリカ史」をとう（たうとう）く読了してくれましたか。本当にありがたう。あれは五十冊もあつた抜きずりの殆どを人に進

呈したのに、本当に読んでくれた人は恐らく半分もないかも知れない。その中でもあなた程度に感想を云つてくれた人は外にありません。面白いとか何とか云つてくれても、どう面白いのか、一向具体的には云つてくれません。あれはたった二週間の、若干非良心的な早や書き原稿で、僕も余りいい出来とは思はず、それほど人に感想を求めなかつたのだ。今井先生の名で書いた「米國史」は、林健太郎君などが「力作だ」とほめてくれてゐたさうですが、之もどう力作なのかくわしくはきかない。

大体今迄僕の書いたものは、余り人から感想をきけない。羽仁さんは僕の「ミケランジェロ書評」を力作だとほめてくれ、今井先生は卒論を「近來の第一等の出来」だと云ひ、「筆力」と「純情」とをほめてくれ、東大春秋へのせた詩は北山氏、北条氏から大いにほめられ、北山氏は「中野重治氏に送つたらどうか」と云つてくれ、と云ふ風に、僕もほめられないわけではないが、実を云ふともつと大勢から認められほめられたのです。僕等はやつぱり本当の理解者からほめられることによつて、次の仕事へのエネルギーを得るのですから。殊に羽仁さんや今井さんや北山氏の言葉は、僕に大きい力づけになつて来てゐます。ところが肝腎のあなたからは、やつと「プランテーション」から感想がきけるやうになつたのですからね。だがおそくても、やつぱりうれしい。

伊藤君から借りて来た「現代史」は、僕が先きに読んでから送りますがいいですか。急いで読みます。

一月二十八日(日) 快晴

今日は水が全然出なくて、井戸水です。所がその井戸水を小使婆さんがくめないで、ぼくは二軒分汲みました。尤も汲み方を教へたから一回きりですが。

廿五日付お手紙拝受。小包を大変喜んでくれて、僕もうれしく思ひました。不二ちゃん、あさちゃん、桃ちゃんにも送りたいとは無論思つたのですが、あなたの元氣のないことが何より氣になつてゐたし、それに会計の方も困難になつて来たので、僕の本でも出た時のことにと延期したのです。それでまあタバコとお茶とコーヒーとを、みんなで一緒にと思つたのです。お茶は玉露なら時々買へさうです。ふところに余いのある時買つておきませう。

今日のお手紙で、あなたの数ヶ月にわたつた精神の内向循環も、意義をもつて来たかと断定出来ませう。僕ももう安心出来ます。此後とも身体と精神との健康をはかつて下さい。

今ラジオで「昨日外出したまま帰宅しなかつた人があつたら、すぐ最寄りの交番に届け出るやうに」と云つてゐます。

ぼつ／＼案じてゐたやうな事態へは入つて来たのを感じます。それにつけてもあなたの疎開はよかつたぢやありませんか。あなたが疎開したればこそ、僕もここへ住み込めたのだし。いねちゃんはまだ練馬へ行つてゐるから大丈夫だと思ひます。

大分昨日の空襲がひどかつたやうですから、心配させないために、此の手紙も早く出させよう。今竹中君がやつて来て、昨日の空襲の状況をはなしてくれました。彼は本室にゐたのです。銀座、日比谷、京橋の方は大分ひどいやうです。だが書かないでおきませう。その中わかつてくるでせうから。では之だけで出します。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二八日朝の記、同日の消印）※

昨日はまる一日、女一人にかかりました。其の感想を書いてしまつたら、もう随分くたびれてゐたので、あとさきの手紙もつけず、それ丈お送りしました。夜、床の中で方方書き足りないところもある事に気がついたし、最後ではもう一歩先へ伸すべきであつた事、彼女の考へと行動は、あなたをよく云ふ世界観努力と倫理努力への統一への努力ではないか、とか考へたのでした。でもあとのめぐくりは、あなたがつけてくれると思つたので、続を書く程の力もない、考へもそこまでゆけないまゝに、一応あれで終りにします。

此の二、三日の寒いこと、手も凍る様です。東京の朝夕もさうでせう。昨日のひる（二十七日）の空襲は、近來の大きかりの様ですが如何でしたか。此の頃は慣れつこになつてしまつてゐましたが、七、八十機と云ふと、又一寸シヨックをうけます。このごろは静岡方面から北上中と云つても、この辺には機影も爆音もみえません。矢張り姿も見えず、音もしないと、警報が出てゐても安心です。

私の身体は目に見えて恢復してゐます。お姉さん肥つた、と桃ちゃんに云はれましたし、食事も嫌だと思はないし、顔色もとても良くなりましたから安心して下さい。これでもうすこし暖になつたら、身だしなみも良くして、ちやんとするつもりです。あんまり寒いので、北向の鏡台のある部屋に一寸でも座る気になれませんので。

みつちゃんは一月末に来るとかでしたが、来るとも伸すとも止めたとも云つて来ません。寒いし混むから一応とりやめたんでせうね。東海道線はまだ不通だし、信越も雪のため始終不通で、東西の連絡は中央線一ツだ相ですから、其の混

雑も今までの殺人的なあれ以上の事です。これは先日、浦和にゐる朝ちやんの友人が、疎解（解）の交渉に来た時寄つたのできゝました。第一、切符も前より大変なんでせうから。

あなたも、そんな訳で前の様にかん単に考へて、やつて来るつもりでも駄目（目）でせうと思ふわ。男一人なら私の思ふ程ではないかも知れないけど。来て下されば、いろいろ話もしたいし楽しみだけれど、其の混雑、苦勞、寒さを考へると、是非来て下さいとは云へません。それに何もおいしいものもないし、お母さんは寒さのために怒つてばかりゐるから、此の頃の家の中と来たら、実に詰らないものです。ふうちやんも、あつちやんも、桃ちやんも、始終お母さんの事でふまんのべない日はありません。配給のものについても隣組の義務についても、一、一する事が昔の自己本位で責任感はないし、年中食物の不足、炭のこと、商人の不親切を楽しみにしてゐると思ふ程、ぐちやら小言やらで、誰かそばへゆけば、まつてゐたと云ふ風にセキを切つて小言がとんで来るんですから、皆、君子あやうきにて逃げ歩いてゐます。さう云ふ訳ですから、来て下さいと云へないんです。自分の家がほしいと、よく皆で云ひ合つてゐます。だから危険でも、喧嘩しても、原宿の家が恋しくなるんです。手まはりの荷物丈持つて東京へ出て、間借りでもいいから住み度いとも思ひます。でも、それは本当に時たま思ふ事ですから、気にかけてぬ様に。今はし様がないから、その辺の事はあきらめて、自分の好きな事の出来る時間は仕事や勉強に没頭しますから、ちやんとうまくおぎなつてゐる訳です。朝ちやんは風越館と云ふ逃げ場があるし、桃ちやんは学校、不二ちやんは病気でない限りは薬局へこもるのです。勿論私は二階の炬燵を一城と見て、駆けつけると云ふ次第です。

今朝は早苗がおばアちやんを馬鹿にしたからと云ふのが因で、ふうちやんの病気が長いのはだらしのないせい（②）で、早苗一人もろくく見られん様な親ぢや私がゐなかつたら一体どうするんだ、私を当にしてのろくくとねて小説ばかり読んでゐる、私らは若い時は一人で三人も四人もの子を見て来たんだ、お父さんは勝手な事をして子供が一寸泣いても、やかましいと云つて怒つたんだと云つて、早苗をたくし早苗は泣きわめく。それが一応おさまると、朝ちやんが足袋を作つて不二子になんぞやつたのはけしからん、病院を休んで自分でこしらへればいい、小説がよみたいから病キだと云つて病院を休んでゐる位なら、足袋位自分でこしらへればいいと云ふので、朝ちやんは「沢山作つたから不自由してゐる人にあげたんだもの、人がやつたものに文句つける事はないぢやありませんか。不二ちやん丈にあげたのぢやなくて、桃ちゃんにも早苗にも幸ちやんにもあげたし、お母さんには二足作つてあげると云ふのに、手縫の足袋なんかはけん」と云つてほうり出したのはお母さん丈ですよ。其のくせ、ないないとわめき立てるのはお母さん一人でせう。自分が不

自由しなきやいいんだ。人のものまで作る事はない。”そんな勝手な事つてないわ。私が私の布で、私の労力で作ったものは、誰にあげ様と、よろこんでくれる人に勝手にあげるのよ。そんな事まで干渉されないわ。”親に向つて対等の口をきくな。さつさと風越館へ行つてしまへ。此の家で足袋なんか作るな”
かう云ふ調子よ。

朝ちやんはさつさと自分の用をするし、ふうちやんは早苗をつれて自分の部屋に引きこもる。私も逃げて来ようと思つたけど、又ぞろ、あとあと二時間もキャン／＼云ふことだからと、そのまゝ座つてゐると、何とか彼とか一寸もすじの通らない事を三十分も云つたあげく、き持がわるいと云つてねてしまひました。誰も下にゐないと困るし、私一人お勝手でウロ／＼と云ふ次第。

こんな事書いても全く馬鹿げてゐますが、大体毎日こんな風なんです。人のする事は皆まちがつてゐて、自分の思ふ通りにならぬとすぐにヒステリイを起して、私たち丈でなくお父さんにも看護婦さんにも馬鹿げた事を怒り立てるから、恥かしい思をします。そしてそれ丈でなく、お世辞やのばアさん連に一人一人にペチャ／＼洗ひざらひ喋りまくり、娘の不足、看護の不平等々さんさんきいて貰つたあげく、ふとん布だとかきものだとか食料とかを呉れてやつてゐます。お母さんの風むき始^{編註}第で、家中はどうでもなるんですわ。私はもう一言も積極的には話をしません。ハイ、いいえ位。それが一番ぶなんです。

従つて赤ん坊の事も、前に一寸話しましたが、お前の様な貧弱な奴に子供なんか出来ん、まちがひだ、わかりもしない事をふいちようするな、と云ふ丈できいてくれませんから、一寸も何も其の後は話してありません。お父さんには時たま一寸きいて見てゐますけれど。で、三月になつて五ヶ月になつたら、西沢医院へ行つて正式に見てもらひます。今のところお父さんは、身体が弱つてゐるから注射をしろとか、何を服用しろと云ふ程度で、積極的な方法は申しません。もうすこし様子を見てからとも云つてゐました。併し、もう目まいもむくみも、心□^{編註}の変なもの、食慾不振もなをつたから、このまゝにして置かうと思ひます。お母さんがそんな風だし、いろんな事一切はお母さんの許可がいるわけですから、何でもやりにくいのです。自分の家でも持つてゐる方が人手がなくて、随分いろんな点合理的にゆくのでせうが、今はそんな事はわがまゝですわね。身体が恢復して来ましたから、もうあまり心配せんでもいいし、なるようにほうつておきませう。三月に見て貰つて安心ゆく様なら、それから何とか支度します。

先達中、本当に苦しくてねてゐる時もお母さんは、東京で勝手まゝをしてゐたからだらしがなくつて、一寸しても弱

音を吹くと云つて怒つてばかりみたんです。それで、私はどこにゐても邪まな人間だと思はれて来て、情なくなりまして、で、弁解してみるけれど、あなたも又、私をさう思つてゐたしと思へて来て、淋しいような悲しい様なきでウツ／＼としたあげく、あんな手紙を書いてしまつたのでせう。あとになつてはすまなかつたと思ひましたけれど、あの当時はさう云ふ考へ方から抜けられず、いろいろねてゐて考へると、本当に自分から自分の存在を否定したくなつて来ました。こんな事を書いてゐると、又あの頃の気持がそのまま、出て来て嫌になりますから止めませう。あなたも不愉快だつたでせう。すみませんでした。

あなたの御手紙は22日No.14が最後で、あときません。では又、あとで書きませう。これからおひるの支度にゆきますから。

廿八日 あさ

幸子

※この一月二八日朝に記された手紙文は、一月二六日付け、二七日消印の封筒中に挿入されていたが、本来は一月二八日付け、同日消印の封筒にて郵送されたものと推測できる。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二八日の記・消印）

一月二十八日

唯今（前十一時）24日附No.15落手。お湯が湧いたから青いポットにたつぷりいれて持つて来たところ、あなたの心づくしの玉露をいれて楽しみつつ、ゆつくり読みませう。本当に私はあなたの手紙で生きてゐる様なものですわ。まあ云つて見れば、天のマン十（？）だと思つて味ひ楽しみ、精気を養つてゐます。本当よ。郵便は何時も内玄関の方へ配達されますから、内玄関のベルには実に敏感です。今日はごまみそをすつたり、竹下へ走つたりしてゐたので、あまり注意してゐなかつたので、何時来たか知りませんでした。

とう／＼風邪を引きましたね。皆はな風邪から本式の熱の出るのへ進んでゐます。早く注意してなをすこと。はな風邪の時は足を暖める事が第一、それから出来たら部屋に湯気を立てて、はなの粘膜を保護する事、早く暖にしてゐること、ねる前に暖いもの（茶、コーヒー、なんでも）を服用すること、位の注意でいいのです。マスクも必要、温度の変化に

粘膜（カゼの時の）はすぐ反応するから。

引用文の事（主としてリトルページ）、私はよく空では覚えてゐなくても、あなたの云つた事が頭に這入つてゐたんだと思ひます。だから自分でも自然、さう云ふ点に注意が向いて行つたのだと思ふ。だから同じ様なことを云つたのでせうね。あなたの話、すぐは解らなくつても五、六年後にはちやんと生きて出て来るんでせう。私は充分、あなたから栄養を吸ひとつて来たんですね。五、六年づつ私があなたにおくれて進んでゐる事の見本ね。すぐ反応しないと人に話す時詰らないけれど、考へて見ると、雨が土に沁みこむ様に自然に沁みこんだものは、おそくてもそれなりの味のついた水として、湧き出して来るのでせうね。穴をほつて水を流しこむと、どろとまぎつて汚い水になつてしまふでせう。むりに機械的のみにこもつとするのは一寸無理なのね。これは尤も時と場合にもよるので、一概に云へません。ですから結局まだく私の考へ方は、独自のものは一つもなく、皆あなたの亜流です。細川と云ふ人の論文の事は聞いた様ですが、内容の事は一寸も知りませんでした。

あなたの仕事は小此木さんが引きつぐ事に（さう云ふときは）なつたのですね。ではさう云ふ時はアメリカ史の方の勉強は小此木さんに指導して貰へる訳ですね。

本の読み方についていろいろほめて下さるが、まだ私は前述の様に私の独自の味などないのです。唯前よりも、すこし多量に本の中から滋養を捕へる様になれた位のところです。新年度のプランにかかつたら、其のつもりで一生^⑧果命やりませう。あなたの賞めて下さる様な人間の資質とか集中とか感受性とかは胡張^⑨です。努力はするけど、それも甚だむらがあるし、感受性に至つては甚だ鈍いと思つてゐます。これはけんそんではない。日常の生活でも読書でも映画の場合も、私は外の人よりその鈍い事を知つてゐます。外の人云つた事、感じた事で刺戟されて、よう／＼考へると云ふ事が始終あります。自分一個の利害には敏感だけれど、其の外の世界の事には至つて不敏感であることは、今までの私の生活が証明してゐます。精神の動きに至つては、些細な点では動く、飛ぶ様に動く事はたしかですが、根本の点になると、動いた事はない様です。だから私は創造型の、自分からふれてゆく溢れてゆく型ではなくて、媒介型よく云へば努力して、ついてゆく型だと思ひます。で、仰言^⑩る如く世界観の把握に誠実に努力してゆきませう。

お豆の事は朝ちやんがどこか当つてくれる相です。家に貰ふものは一寸私の方へ貰ひにくいから、朝ちやんにたのみました。フーチャンも何とか云ふ人の家に、病キがなをつたら交渉してみようと云つて呉れました。家ではお母さんは無い／＼と口癖に云つてますが、実はごまでもくるみでも高野豆ふでも、豆も椎茸もするめも肉も始終這入つて来るので

すが、一寸も計画的に使はず、人に呉れたり、変なときにどつと一度にある中は使ふと云ふ馬鹿な方針なので、何時も
ないくと泣き言を云つてゐるんです。ポテトもさつまいもも大根、にんぢんに至るまで、一俵位づつ貰ふのに、お世
辞婆アさんに流れる方が多い。朝から晩まで、それを責め立てる様に使ふから、三日位でなくなりします。卵も20個位ち
よい／＼はいるのに、朝ひる夜、おぢいちゃん②と早苗、それから客で二日位でなくしてしまふ。たまには一個づつ皆に
朝食につけたら、なんて云はうものなら大変、私の経済は私の勝手にする、と云ふんですもの。

先日の小箱や仁丹入れ、凄く高いものね。もつたないから今後はもうあゝ云ふものは結構です。本当にもつたない
位のものね。仁丹入れは愛用してゐます。仁丹つて、もううつてゐないのね。東京にあつたら買つといて下さいません
か。それから安香水もすこし買つて下さい。なくなると思ひます。それとも、もうないかしら。私もロシア人みたいに
香水スキーよ。どんなのでもとでも／＼すき。香水をつけてゐると心がなごむのです。
では、うすい手紙ですが、又晩かくかも知れません。さよなら。

あなたの此の頃の手紙、悲劇の序幕を思はせる様なところがあつて、一寸恐くなる。今後はもう時代が二人の一諸③の生
活をさせまいだらうとか、其の時はとか、仕事の引つぎを小此木氏に渡す相談とか。それは考へて置かなくてはならぬ
事だけれど、私は暗示にかかり易い様なところがあるから恐い。私の生き方にはあなたが是非とも必要で、あなたなし
にはとてもとてもまだ一人歩きは出来ない現状です。何も彼もあなたに負つてゐるんだから。スメドレーの様に強く歩
いてはゆけ相もない。どれ程あなたは大きな杖であつたかわからない。唯はなればなれの暮なら幾年でも我慢出来るけ
れど、兵隊の最悪の場合を考へると、私は脅えてしまひます。あなたなしにやつてゆける程の内容がないし、自信もな
い。唯、地理的な距離なら耐へてゆけます。私丈があなたを失ふ、と云ふ点丈で、恐いのぢやありません。あなたでな
くつては出来ない仕事を、途中で切られ終らされる事がこわいのです。それを小此木さんが引きついでとしても、それ
は矢張りちがふのです。私はどんなにあなたにキタイしてゐるか、今になつてはつきり知ります。此の上はどんなに私
の暮し方が辛からうとも、どんなに長く別の暮らしをつづけ様とも、それはかまはない。唯あなたさへ、生きて生き抜い
てくれる外はありません。私の出来る丈は、私はあなたの勉強を、考へ方を吸収して、早く私自身であなたと一体のものを作
りあげる外はありません。私は今、唯、目茶苦茶に悲しくなります。去年の夏、アメリカ史に専心しようと決心した時
は、盲へびで、あなたの後を引きついでゆける様に思つたが、とても今は其の力のとても及ばぬことを知つてゐますも

の。いさましい決心を語れません。

謙一から幸子あて（一九四五年一月二九日の記）

一月二十九日（月）晴

昨日は待つてゐたいねちゃん達が来ず、竹中君だけ来て夕方になつて了ひました。竹中君は一昨日の夜、本室で宿直だったので、昨日の朝、帰る途中寄つていろく〜と様子を伝えてくれたわけです。夕方いねちゃんから電話がかかつて、経堂へ行くつもりだったのが、来てゐた利ちゃんやんが盲腸で医者呼んで診てもらつて、とにかく今寐てゐる始末なのだと云つて来ました。公衆電話らしく（向日荘には電話がありません）くわしく聞けませんでしたが、行かざるを得ないので、丁度起しかけてゐた火へ、昼つくつてあつた雑煮をかけてあたためて、調査会の袋へ別のお餅をつめて出かけました。入院させたりいろいろのことを予想して、若干辟易しつつ行つたのですが、幸ひ鎮痛剤と氷とで目下おさまつており、一日安静にして寐ておれと云はれた程度で、いねちゃんの部屋に寐てゐました。いねちゃんには重々御迷惑をかけたことをあやまつて、利ちゃんには火曜日（あ）に井福さんとこへ連れて行く約束をしました。三度目ださうで、別に理由は思ひ当らんさうですから、慢性疲労からでも来たのでせう。井福さんでどこか外科を紹介してもらつて、手術してしませう。一ヶ月は休まないといけないよと云つたらびつくりして、進級のことを心配してゐました。二週間ぐらいで学校へ行けると思つてゐたらしい。所が現在の学校とは市電で一時間近くゆられて通ふ浜松町の工場なんですから、それに近頃の栄養状態などを考へると、いくら若くても一ヶ月では無理かもしれませぬ。

一昨日銀座を通つて帰つたが、銀座がひどくやられてゐるので、いねちゃんが安全だつたかどうかと、日曜の朝早く、と云つても十時頃、向日荘へ来たのださうです。それでおひるごはんを食べて、間もなく盲腸の痛みが発したので。一晩いねちゃんの所へとめてもらつて、今日の朝、アパートへ帰つた筈です。変でもあれば電話をくれる筈ですが、今迄の所何とも云つてこないから、とにかく無事に帰つたのでせう。もうじき（あ）こちらからアパートへ電話してみてもいいです。昨夜の中に入院や手術やら、と考へてゐたのが、とにかく安静に寐てゐればいいと云ふだけなので、僕はすぐ帰りました。起しつばなしの火が心配でもあつたので。

月がすてきで、敵でなくてもこんな夜、飛行機で日本列島上空を散歩したい気になりさうです。果して昨夜も三回空襲

がありました。

今日はお手紙が来なかつた。

僕は昨日から現代史を読んでゐます。バルザックとはまるで肌合ひのちがふ感じでありながら、バルザック的です。第四巻はまだ出てゐないのださうですね。その第四巻こそ問題なのに。本田さんにきいてみて、白水社に残品があつたら、買つてもらはうかなと思つてゐます。アナトール・フランスのいろんな議論は面白いけれど、やつぱりバルザックのやうなダイナミックなドラマの展開に比べて、力が弱いのをいかんとも出来ない。これも時代の差と資質の差との相乗なのでせう。実際バルザックの中の議論は、どれもこれもガムシヤラなくらい猛烈ですが、A・フランスの中の議論は、やはり書齋人のシニシズムを脱し得ない。バルザックの諸人物が歴史的運動の中の諸人物であり、従つてその議論も猛烈だつたが、A・フランスの時代のインテリ(小説内の人物)は歴史的運動の外に脱落してゐて、だからこそその議論もシニカルな調子をもたざるを得ないのでせう。併し恐らくフランス第三共和制と云ふものを描いた最高の文学でせうね、「現代史」は。フランス第三共和制だけでなく、日本の現代などについても相当切実な批判です。早く読んでアンソニー・アドヴァースの続きと一緒に送りませう。第一巻(現代史)は白水社の全集があるのでですか。送るのは二巻、三巻でいいのですか。

今僕はヘーゲルを読んでゐます。之はあなたの読む時は相当解説が要るかなと思ひます。ヘーゲルの前に哲学史やM・Eのもの(「フォイエルバッハ論」「ドイツ・イデ」「芸術論」)等を読んでおけばいいでせう。ヘーゲルやM・Eのものを読めばきつと僕の文章をわかりにくいとは云はなくなるかも知れません。

今日はまだ三時ですが、もう分室中で僕一人になつて了ひました。早く火を起して、早く食事をすませて、早く寐ようかと思ひます。まだ当分続く月夜の間中は、夜中に危険な散歩者に起されるでせうからね。昨夜なども、三度目になるとラジオのスキッチをひねつたきりで、あと覚えがないくらいです。

あなたの身体はどうですか。あなたへお金を送らうと思つたのですが、為替も小包も混んでゐて並ばねばならないし、私用に女の人を頼むことはひかえてゐるので、つい送りそびれて了ひました。来月分と一緒に送ることにします。貯金の方、困つたでせうが、御ゆるし下さい。

では今日は之だけ。今 Margaret Leech と云ふ人の *Reveille in Washington* を読んでゐます。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二九日の記、三〇日の消印）

一月廿九日

No.16 一月廿六日附御手紙唯今落手。シンクレアの注意事項、どうも有難う。シンクレアの人物が説明の道具である点、歴史上の偉大な人物を俗化する点、本当だと思ひます。実は第一部をあれ位に読んでいないに読んだら、もうあとは嫌になつたので、やめてしまひました。入用なところ又吸収出来たと思つたので。シーベルトの著書とかは日本語の無いのでせう。是非読み度いものです。ジョン・ブラウンの事は、シンクレアは狂信者サヴオナローに近い人にしてしまつてゐますから、あの場面は美さい二度読む気は起りませんね。一番最初、五、六年前読んだ時は、混血のニグロの脱走事件が一番生々しい記憶となり、強い印象を残したのですが、二度目、三度目はあの辺はつまらない部分に属する。ラヴジョイはあの脱走に出て来るところが一番感銘あつて、あとはそれ程の事はありません。で、マナサスは今度はあれ丈でやめました。貴方が将来、ペーン、ステイヴンスとジョンブラウンを書き度いと云ふ心持は、私にもすこし解ります。

午後に小包みが来ました。今度は早かつたですね。手紙と一語（巻）に来たんですもの。どうせあと一週間は届くまいと思つてゐました。いろいろ有難う。ちようど一月廿九、早苗のペースデイに届きました。彼女は午後から熱で目が赤くところとして、総毛立つた顔つきでハッハッと息をしてお炬燵にゐました。早苗ちゃん、熱があるからねんねませう、と云つても嫌くくと云つて動かず、何となくきげんわるくしてゐるところへ来ましたので、いいものをおぢちゃんが送つてよこしたの。病氣の時はお薬服んでいいことになったらあげますつて”と云つたら、よろこんで薬を飲んで、あひるの引越を枕元に置いてねむつてしまひました。横にするやいなやグツタリして、すぐ深い息をし乍らねました。大人達の風邪がうつつたんです。ふうちゃんもとても申訳ながつて、お礼を云つてゐました。お母さんは子供の様に、早苗のねたるずに、一寸紙芝居してくんなどせびつてゐましたが、ふうちゃんに駄目く〜今度く〜とこと（巻）はられました。紙芝居はお母さんと早苗が大よろこびなのよ。

M・E芸術論、私もつと異つたていきいの本を思つてゐました。割に安つばいさうていすね。これからチヨイく〜ねる前などによむつもりです。飴でもなめる様にゆつくりと。哲学、あれはフアレンダーの次にいれるものです。何れ、

これもその中の部です。アンソニーは第一部しか買へないの？あと三部は買へ相もないの？一部丈ぢや詰らないのね。皆そろはなくつちや、あとがぢれつたくてたまらないから、すぐよめせんね。

煙草も沢山有難う。お父さんの煙草箱に1²詰めて来ました。一度にあげると駄目ですからね。

伊藤さんからA・フランスの事を書いた、ゆ快な手紙が来ました。A・フランスの他に北極紀行の事だの、バリー島の青年の話などあります。目下お父さんは私の次にA・フランスに凝つてゐます。白き石は未来の世界に於て非常に感激したらしく、前にこれと同様(?)の事を考へた事があつたが云々と盛に喋つたりしてゐます。併し、お父さんはA・フランスをどの程度理解したかを、私は一寸疑つてはゐますけれど。で一応、新一氏の手紙も煙草と一諸に置いて来ました。あれを見て、ジエロームコワニヤール師やタイースやベンギンを刺戟されるかも知れないからと思つて。

コーヒイもサツカリンも、貴重なものを本場に有難う。コーヒイ！どんなに夢にまで憧れたでせう。本場にうれしいわ。夜、桃ちやんが帰つたらさつそく作つて、お父さん、ふうちやんをショータイするつもりです。どうも有難う。厚くお礼申上げます。小包紙と豆は近日送れるでせう。コールドクリームの瓶も。

昨夜から今日の午前中は阿片戦争と大平天国の乱を一寸調(?)べました。第四章で入用ですからね。書きぬきも作つたし、時間をとつた割につまらぬ事しか出来なかつたけど、今は此の程度にふれる丈でいいでせう。

何だかあれもこれも調べたり考へたり書いたりせねばならず、時間が不足でく本場に困ります。そしてすぐ頭が疲れて、引き続き進行しませんの。書く事も随分つかれます。抜書を沢山すると手も肩も疲れて、もう書くのが大へんにうるさく思へて、遂此のごろ、あなたへの手紙も短いものになります。もつとエネルギーをほしいです。わかふらびんやらいなり丸やらヴィタ注射をしてゐますが、あまりいいガソリンにならぬらしい。ぢれつたい位あれこれとよみたい事がたまつて出て来ます。アメリカ史のノオトも早くとつてしまひたいし、その後でもう一度プランテーションの読み返しをしたいし、本場にいそがしいんです。次のプランのものへも食指はムズムズですし。

桃ちやんやあつちやんたちとも喋る事はうんとあるし、本場にいそがしいですよ。まるで私がどんなに勉強家であるかと宣伝してゐるみたいですね。みたいぢやなくつて、本当は宣伝です。私にとつては、あなたに宣伝する事は約束にもなるし、又自分をもとでもシゲキします。皆とのプランテーションの講義は、中々いいプランでやるんですね。羨やましいわ。私は一人で苦しむ乍らやつたんです。だから余分な労力や損失をうんとした割に、把めてゐないのぢやないかと疑つてゐますから。丁度よくある独学の人の欠かん、ドクマ、あんなものが附随してやしないかと思つて心配して

みますから。

さうさう、昨夜臼田さんが私に石けんをくれた夢をみました。一個半位の長いのを封筒に入れて。あゝうれしいと思つてゐると、もう二ツフットウがあるので、手にとると大金さんと内藤さんからも来てゐました。そこはアパートの様なところで、私は病きでねてゐるのです。あなたも一諸にゐる筈だけど、たいていよその部屋へはいりこんでゐて、私のところにはゐないのです。始めはものを貰つてよろこんでゐたのに、終りはがっかりしてゐる様な夢で、目がさめたら涙が出てゐて嫌になつた。私はあなたをどうせ帰らぬ人と思つて、あきらめてゐるのかしら。森ちゃんは四〇キロもなくなつて、40度の熱がまたつづいてゐるとのこと。陸軍病院では一度も診てくれない、水枕さへ用意してくれぬと云つて来ました。食事も麦飯と梅干丈だ相です。軍隊の病院はもつと親切かと思つてゐたら案外ね。

ラモーの甥は此の前いらした時、おもちになつたわね。伊藤さんが入用だと云つてゐましたから、其の様にして下さい。

生きてゆく事は淋しい事です。暗くて冷めたくて風のふく路をゆく様な気がします。夢中で勉強く、その他の生き方は私にはないんだと思つて、其の方向へ駆け出しますが、どうかするとむしように淋しく悲くなつて来ます。これはわるい傾向だと思ひますが、時たま、ふつとさう云ふ感じに襲はれて、其のあげくには狂暴に近い心理で、一切を目茶苦茶にたたきこほしたい、人を殺ろしたい様なき持に追ひこまれる時もあります。ヒステリイなのね。そのあげく死に度い様なきがするんです。人類を信じず、歴史の正道から落伍した者だからでせうか。私はこのごろ本当に、人よりも自分が一寸も信じられませんの。誰か救つてくれないかしら。ジェローム・コワニヤール師なら何と云つてくれるでせう。私は何を求めてゐるのでせうね。何か欲してゐるのですわ。与へられぬものを求めてゐるのでせうか。何か何か、其の中にすつぽりと頭を埋めて、安心と信頼と慰めを与られたいのでせうか。

こんな手紙を書いて、又叱られるでせうね。さう思ふと、—あなたにさへもきばつてゐなくちやいけないのかと思へて悲しくなつて来ます。私は本当に心細い。淋しい。病気のうさぎの様に頼りない。不安なのです。こんな事を書いてゐたら鼻血が出て来た。のぼせたのでせうね。今日はこれでさようなら。

小田中さんから今手紙が来ました。短い、併しあの人らしい(?)かわいいい手紙です。とてもはな血ひどいのでこれだけやめ。

謙一から幸子あて（一九四五年一月三〇日の記）

一月三十日（火）晴

昨日迄のやうな一徹なきびしいほどの青空でなく、うす雲もかかつてぼんやりした晴ですが、風もなく日ざしもやはらかくいい日です。人の声ものどかにひびき、時々遠くまたは近くひびいて来る飛行機の爆音も脅かすやうな調子をもつてゐない。

今日はお手紙三通受取りました。廿六日、廿七日、廿八日（No. 18、19、20）。まづ順番にしたがつて。

廿六日のお手紙で、アメリカ史の三章の四で「ジャングル」のオーナ一家を思ひ出して、のぞいてみたく感じつつ「どうも、あれこれとよこ丁へ逸れるので、中々本道は進めません」とあるが、実は僕はさう云ふ風の一つ一つの問題で立ちどまつて、芸術品や映画を思ひ出してほしいのです。僕もあれを書きながら、さう云ふものを想ひ出してゐるのです。だから短いソッケない文章でも、僕自身書く時の感情は、映画や小説で昂奮させられた熱情を含んでゐるのです。そして読者から、さう云ふ著者の感情をも理解され、著者と共感してくれることを欲求してゐるのです。さうしてこそ映画や小説も生きて来る。いはば個別的偶然的（読者にとつて）に提出された小説や映画が、歴史的普遍^④の中で正当な聯繫の下に位置づけられ、そのことによつて映画や小説をより深く鑑賞し味解し、また歴史そのものをより深く、より生き生きと理解することになるのです。併し余り一つ一つの辻で横丁へ入り込んでゐると、縦の線の普遍^④が獲得出来ないから、一応ずつと通史は通読した方がいい。そして二度目にゆつくりあちらこちらの小ジョウ・ウィンドウをのどきこんで行く方がいい。とにかく一通りずつとおしまひまで読み通さないと、一つ一つの章なり節なりの比重なり何なりがわからなく、後になつて生きて来るやうな歴史的潜在意義などを、理解せずに過ぎてしまふことになる。

朝ちゃんの知識と武器とを結びつけた言葉は同感です。だが知識は「無形」であつて外の武器をすつかり奪はれて後までも、最後まで反抗の要具となると云ふ意味で尊い武器なのではないでせうね。知識は大衆のものとなり、大衆の正しい歴史的行動を惹き起すことによつてこそ武器なのだから。何れにせよ、いつかも書いたかと思ひますが、知ること、学問は歴史の武器であるべきです。事実、我々の享受し得る知識は、何千年來の人類と現代の二十億の人間とが血をながして斗ふ^⑤ことから直接つくられ^⑥きたものなので、従つて知識なり学問なりは、歴史のもの、大衆のものです。

だのに知識的特権階級人は、知識を自分が得て来たもの、自分だけのもの、いや自分の特権的地位の保障だと思つてゐる。公器を私物視し、逆に自分の排他的利益を防衛すること、自分もおちこぼれにあづかる社会の不正を防衛すること、に使つてゐる。歴史のもの、歴史が天才と民衆との血をながしてつくり出してあたへてくれた武器を、歴史の逆行に、歴史の不幸に、歴史の眩下に使つてゐる。ところが歴史自身、民衆自身は自分のものを正当に要求する。黒人達の「教育」へのあのやみがたき欲求、自分達をおとしめてゐる不正を自分達で解決したいと云ふ欲求から出た知識慾のやうに。だからこそ知識的特権階級人は憎むべき、いとふべきなのです。

所であなたの質問への答。

P 65、二行「資本の民主政治を腐敗せしめ」は文字通り資本の集中独占が、資本主義政治を腐敗させると云ふことです。民主政治がいつの間にか、独占王達の金権政治になつて了ひ、流職や買収やが流行するのです。再建の終り頃、グラント將軍の大統領時代は、政治の腐敗で有名です。タマニーホール事件なんかはその最大のもので、グラント時代の政府高官の流職（年表参照）は、前大戦後のハーディング時代と双壁（壁）です。

意味深き象徴とは、南部の再建の挫折、労働争議激発、支那人問題等です。之等はアメリカ資本主義政治が「国内改革の方向」から「帝国主義」への転化をはつきり予兆してゐる。しかも政治的なさう云ふあらはれが資本の集中、独占化の直接の帰結であることも実にはつきりしてゐる、さう云ふ風な意味です。

P 68、シャーマン反トラスト法とは、合衆国の産業・通商（州際）の自由な発達を阻害するやうな独占団体の組織を禁じたものです。之は独占資本の弊害に対するアメリカ民衆の反抗、反トラスト運動の成果であつた。所がそれは、一八九四年のシカゴ・ストに於てデブス等に発動され、デブス等は投獄された。どんな風に適用されたかと云ふと、ストライキをやる労働組合は、合衆国の通商及び産業の自由な発達を阻害する独占団体だと云ふのです。いはば国民のたたかひの成果である法律が、金権政治によつて逆に国民を圧迫する武器にされる。「この所は「プランテーション」の第四章（南部の政治）の終りあたりに、南部の黒人の選挙権剥奪の法律の成立（ポピュリズム運動の「成果」(?)）」と結びつけて書いた筈です」。資本主義政治の露骨な矛盾を示すために、ここへかいたのです。

どうも短い文章へ多くの内容を盛りうとして説明不足が多いやうです。何のことかわからずに読みすごされてゐることです。多くの読者に。外にも質問があつたら、どんく書いて下さい。それにしてもシャーマン反トラスト法の例などにも、「歴史」と云ふもの、支配者と被支配者との対抗、その成果と逆用等々の歴史のダイアレクティブがうかがは

れるでせう。

スメドレーの感想は大変立派です。之は明日「プランティション」の話をする時に借用します。この調子で読んだ本の感想を書いておいて下さい。スメドレーは僕が読まずに送つたのですが、あなたのこのノートで、僕もすつかり読んだことになりました。有難う。スメドレーは僕が読まずに送つたのですが、あなたのこのノートで、僕もすつかり読んだスメドレーと一緒に、ドス・パソスの「北緯四十二度」を御読みなさるといい。丁度同じ時代です。それに、同じ時代と云へばゴリキーの「母」もさうです。あの「母」が本を読むところ、また「母」の亭主の生きてゐたころの家庭生活等は、スメドレーとも共通してゐますね。

スメドレーとコーヒ園の経営者・学者との会話は、僕はまるで記憶になかつた。ここで支那に於ける彼女の後の行動がはつきりわかる気がしますね。僕は「プランティション」をスメドレーに贈りたいと思ひます。「プランティション」が支那人にホンヤクされるやうなことがあり得るとしたら、彼女にも読んでもらへるかも知れないと思ひます。この所は「プランティション」へ引用したかつた所ですね。

スメドレーの考へと行動とは、僕の云ふ「世界観努力と倫理努力との統一への努力」と云ふことで規定するのは、厳密にはあたらない。彼女の行動は実践そのものです。たたかひそのものです。僕の云ふことは、理論の問題です。歴史の波のひきしほによつて、歴史的行動、普遍的行動の直接の実現を妨げられた個人が、歴史的行動の抑止と云ふ条件の中で正しく生きて行く方法、について云つてゐることです。ところがスメドレーは徹頭テツピ歴史的行動です。そしてその歴史的行動の中に理論的努力、即ち「世界観努力と倫理努力との統一」努力が行はれ、行動と理論とのダイナミックな相互前進が歴史（解放運動）と一体になりながら進んで行くのです。

僕は「現代史」に夢中です。そしてA・フランスの魅力とは何だらうかと考へてゐます。まだはつきり云へないが、とにかくアナトール・フランスの魅力の一つは、彼が歴史を知り人間を知つてゐること、だから小さい個別的自我、十九世紀末以来のフランス知識人または十八世紀末以来今に到つてゐるドイツの知識人等が持つて来たあの「自尊の哲学」「個別的自我過大の哲学」に決して固執しないこと、にあるやうです。ベルジュレ氏の考へや行動は第三卷あたりまでは、十九世紀末のフランスの田舎町の知識人の俗悪さを相当もつてゐるが、しかもベルジュレ氏自身、自分のさう云ふ俗悪さを知り、批判し、否定してゐるために、我々はベルジュレ氏に好意をもたざるを得ない。ベルジュレの妻君に対する態度についてはいろいろな見方や意見もあらうが、「夏目漱石」のことを考へると、やはりベルジュレ氏の方が問題

の解決を実現させただけ偉い（その方法に異論あつても）のでせう。その方法はいかにもベルジュレらしく、シニカルで非行動的だが。まあ早く読んであなたに送りませう。

今、利ちゃんが井福さんの所へ行くので来ましたから、之から□宿まで一緒に行つて来ます。中途半端ですが、之だけで。

幸子から謙一あて（一九四五年一月三〇日の記・消印）※

一月廿日

昨日と一昨日はラキサトールの危介（危）にならなくても、ちやんとうまくゆきました。今日もさうだと甚だ善い傾向です。別に思ひ当る療法（新しいもの）はしてゐないから、健康が恢復した証拠（拠）でせう。今朝は朝食後コーヒイ豆をいって、すこし焦しましたが、ふきんでつつんで木槌で叩いて、白いポットで煮出しました。お砂糖はふうちやんが茶色の薬瓶に五人前位詰めて、紙で首を結へてレットル（レ）をはりSUGER（糖）と書いて置いたので、お母さんはてつきり薬だと思つて見逃したのがあつて、それでおいしいコーヒイを作りました。お父さん、お母さん、私、不二子、早苗の五人で楽しく、おいしく戴きました。入れ方はあまりうまくなかつたけれど、久しぶりで本当に気分的にも楽しかつた。本当なら狭い炬燵にギユウ詰でワチャ／＼飲むより、二階へ来てのんびりし乍らとも思つたが、私一人座をはずすのも変だから。陽の当る明るい部屋と暖いおこた、本をよみ乍ら、あなたもゐるんだつたら、まるで天国ね。もう私達の天国は終つたのかしら。さう思つてゐた方がいいかも知れませんね。天国時代は天国とも思はなかつた。当り前の暮しなんだと思つてゐたけれど、後になるとさうだつた事がわかるんでせうね。今だつて何とも別に天国だと思はないけれど、もつと後

になると、まだあの時は云々と云へる様な時が来るでせうか。あはただし暮しではあつたが、なつかしく恋しく思ひ返されてなりません。あなたは全くそんな氣持ないでせうね。何時でも前を向いて過去を振り捨ててゆけるたちだから。まつち箱の様に建付の悪いあの家の朝夕、八月ごろの白いむくげの咲くころの夕立だの、四月の乙女椿の咲いてゐた朝夕、あなたの病氣時代、兵隊検査に行つてまる坊主になつた時等々、それらには必ずプシの姿がチラチラします。業平の様に昔を今に、と思はれる事が時々です。

こんな手紙は、あなたは嫌ひね。又ぞろ私がぐちを云ひ出す前ぶれに思へるから。さうではないの。唯、今の生活の侘

しさに、昔の事を思い返していろいろをつけてゐる位の程度です。

今日は午後小包を作ります。紙は市販なく、桃ちゃんの友人に都合つく人があるとかでたのみましたから、近日、白き石と共に送らせておきます。

あなたの手紙は手紙として保存してありますが、其の外、アナトオール・フランスのスケプティズムに就いてとか、いろいろ参考事項は別にノオトに日附をいれて書き抜いて置いてあります。手紙だと一寸探す時にめんどうですが、ノオトは其の点、ページと日附と題目が有つて、一とまとめになつてゐますから大変便利です。ジョン・ブラウンの事は、これも又書き抜きして置かせておきます。あなたの買ひおきのノオト二冊程食ひこみました。目茶に使ふのぢやないから、かんべんして下さるでせう。世界経済のノオト用紙はどうも使ひにくいし、とぢにくいし、あんまり活用してゐません。ノオトを食ひ込んで困るなら、此の次からあの紙にしますけれど。

先日のお手紙のステイヴンスの事は大変面白く読みました。本當にこう云ふ人の精しい生活は知り度いですね。あなたに其等を書く時が与へられる事を、どんなにか切望することです。

ペインの事、昨夜床の中でアントニイをひろひ読みしたら、一寸名前が出て来ました。彼の事も精しく知りたいですね。ペインはでも随分いろいろな人からにくまれ嫌はれた様ですね。何時か私もペインの事を読めるでせう。

西山さんの本のお金は郵便局行がめんどうで、段々おくれてゐます。私に下さる分の中から差引いて下さいませんか。海外電報は同盟に問合せがありますが、まだ返事が来ません。

あなたの本も随分手まどりますね。二月中には日の目を見るでせうね。何とまあ長く生れ出るまでにかかつた事でせう。これから合衆国史にはいります。早苗は二階へ来て、ねかしました。どうも呼吸も早いし、自分から冷しタオルを求めてぢつとしてゐますから、相当苦し相です。下では皆それぞれ用があるので、私が勉強し乍ら看病役です。今はスウ〜とねむつた様です。ふうちゃんも案外呑気にかまへてゐるけれど、熱も昨夜は9.5もあつたのですから、肺炎の心配あるのぢやないかと思ひます。それでは又、あとでね。

今度四時です。二時まで早苗の食事其の他にかかりました。よう〜第四章の一をすませたところです。今日は私も頭が痛い。咽喉も痛い。早苗のがうつつたかしら。

今日中に大体の方針では合衆国史を終る筈でしたがとう〜駄目らしいわ。結局シュヴェグラーにはいるのは二月中旬

位でせうね。中々プラン通りには進めないものです。

昨日利□さんから手紙が来ました。盲腸の方は大部治つたらしいのね。其の中くと思ひ乍ら、まだ手紙を出してゐません。伊藤さんにも返事やら本の御礼もあるのに。時間を自分一人つ切りでたつぷり使ふと云ふのは不可能な事です。あなたの方はどう？夜だつて空襲もあるし、人も来るでせうし、いくら一人暮しても思ふ様にはゆかないでせう。今日はどうも一日ガサ／＼してゐるので、落ちついて手紙も書けません。又時間があまつたら、夜にでも書きませうね。

さようなら。

早苗が二階でねてゐるからコマ／＼と用があつて、郵便局の時間までに小包はまにあいません。あすにしませう。

さようなら。

※以下に掲載する一月三〇日記の手紙文は、一九四五年一月三日付け、同日消印の封筒中に紛れ込んでいたものである。

幸子から謙一あて（一九四五年一月三十一日の記・消印）※

昭和20年1月31日

今日は又凄く寒い日です。本を持つのもペンをとるさへめんどうになる位、おつとして体温の保存にとめたい程の冷め度く寒い寒い日です。朝早く霧の中から一寸姿を見せた太陽も、とうとう雲の影にかくれてしまひました。こんな日は私はどうも駄目です。積極的な心がまへを失ひ勝です。昨夜は二階にふうちやんと早苗と泊りました（朝ちやんは健民修練所へ、桃ちゃんは夜勤）。一晚、セキ、おしっこ、水でうるさくてねむれませんでした。母親と云ふ仕事は実に大へんなものです。大人の病人の様に事態を子供は理解出来ないのだから、一寸の油断も出来ません。私に母親の役が勤まるかと心配になりました。今朝は大分熱が引きましたが、まだ安心など出来ません。ひるまは私が看病役です。

ゆうべあなたの送つて下さつた本の中、西洋近世哲学史を手にとつて見たら14ページも落丁があります。始めのスコラ哲学のところは皆ありません。あれはとりかへられるか知ら。其の様ならついでに手に送りますが。もうとりかへる分も本屋にないでせうか。昨日はとうとう小包出来ませんでしたから、今から下へ行つて何か集めて作ります。シートはあま

り寒い日ばかり続くので、まだ洗ってありませんから、此の次の時送りませうね。紙もまだ手にはいりませぬから、その時に送ります。

昨夜は変な夢を見ました。私が嫌なイタリイ人の恋人を作るのです。大きな太った男で、どうやらあまり素質の良くない男らしいのです。それを知り乍ら、私は彼に恋人らしく振舞ふ事を平気でゐる様なのです。嫌らしいでせう。私の事だから、あなたがそんな夢でも見たのなら、どんなに怒るか知れませぬわね。

小包の内容は豆と高野豆腐です。cold cream の空瓶は都合でいれませんでした。此の次に。豆は大鹿の人から買ひました。一斤400、高野は1本400です。これはお母さんが煙草とコーヒーの御礼だと申してゐました。紅茶は嫌ふけど、コーヒーはとても好きらしいです。今日は炭がなくなつたので長火鉢に火がないから、コーヒーはいれませぬ。毎日飲んではおしまひになるから、丁度いいです。

桃ちやんが夜勤から帰つての話に、皆お重箱を持つて来て、ある人々は二重にして来た。夜の10時から朝の5時まで仕事はあまりなかつたので、ストーヴのまはりに椅子を集めて、夜つびで食べてゐたとのこと。何を食べたのと云ふと、ぼたもち、味御飯のおにぎり、くるみ入りのオヤキパン、するめ、みかん、おさつ、お煮、海苔巻、干柿だと云ふので、皆羨やましがりました。田舎の家はまだだいろんなものがあるらしいです。みかんなんて私は見た事もないわ。身体(からだ)のせいか密柑(みかん)や林(はやし)ごを欲すること甚しいのに。

こんなに栄養(えいよう)わるくては胎児も中々成長出来ないでせう、と心配してゐます。何か(なにか)に欠かんのある子供になりはしないでせうか。独の様子で日本の将来もほぼ察(さ)しられますが、食料不足は尚激しくなるでせう。前大戦の後は、独では知名の学者たちも飢のために死んでゐるので、私たちの様に田畑(いんげん)を持たぬ者は食料を手に入れる事は出来なくなるのではないかと思ひ、生れた子供に食べさす事も出来ない様になつたらと思つて心配です。きつと母乳(ちゆうに)は出ないと思ふ。牛乳も中々手にはいらず、みすみす飢死させる様な事にならぬとは云へませぬわね。私は鬼子母神(きこぼかみ)の様にならなくてはならない。恐い事ですわ。

昨日も今日もあなたの手紙が来ません。風邪をこじらせたの？ それとも多忙？ 病気でないならいいけれど。私も今日はこれでおしまひ。又あとで書きますから。

さようなら。

※この手紙文は横書きだが、便宜上、縦書きで筆写・掲載した。

幸子から謙一あて（一九四五年二月一日の記・消印）

二月一日、晴

一月廿八日附No.18、昨日午後晩く受けとりました。ちようど夕食の支度に立つた時でしたので、支那鍋でコンニヤクをいため乍ら読みました。昨日は午後、牛が買へたので玉葱（これは患者から四個貰ふ）、コンニヤクと一語にいたため、牛丼を作りました。砂糖はないけれど素的に美味しく出来ました。塩飯の貴方に食べさせてあげたいと思ひます。

コンニヤクは今、飯田を中心に村々に溢れてゐます。何故なら、コンニヤクを使用しての糊を使ふ軍需品の大切な部分が不足して、糊がいらなくなつたので、町も村もコンニヤクが氾濫する事になつたのです。すこし置いて、わるくなる恐れのないものですから、買ひ置してゐたら、又々、私が埼玉の小川の町から貰つて来た様にクツシヨンの様に大きいのを二ツも貰ひました。当分は朝も夜もコンニヤクです。

あなたの水道のトラブル、これは井戸があるから補給つた相ですが、火の方は困りますね。まだ二ヶ月は炊事の外に、日中は火がゐるのですから。炊事用にもつきの悪い亜炭では随分時間と労力があるでせう。お母さんに話したら（Iさんのこと）、何ちゆう金持（ふ）なんでものはけちでわるい者だらう。何ちゆう、何ちゆうと盛に怒つてゐます。一体、では炭もなく、どうしてすこすつもりですの。何とか代るものを探すとか手に入れる外はないが、それが出来れば問題はないんだから。

御餅は無事着いた相で安心しました。あれは小正月についた分の半分をお送りしたもので、一人あたりの量から云へば、あなたに一番沢山行つたのです。家では十人家内ですから一度の雑煮で終りました。よろこんで食べて戴けば、こんなうれしい事はありません。此のごろ又、前通り郵便小包みはあたり前に届く様です。此の分なら昨日のも三日か四日目には着くでせう。田舎でも中々手にはいらず、今度の買へた分は全部そちらにお送りした様な次第ですから、其のおつもりで上手にお使ひになつて下さい。後は何時買へるかわかりませんから、従つて何時送れるかわかりません。若し何なら、あなたの方から直接岩手県の川端さんにお金を送つて、何か頼んで見るのもいいと思ひますが、あなたのとこるなら一人分だから、何とか都合出来る様に思へますが。あなたは併し一度も会つた事もないのだから都合わるいわね。近日中、私からさう云ふ手紙出してみておきませうか。それこそ、するめの頭でも栄養とれるし、だしも出るから。

廿七日のは随分被害あつた様ですね。河東方面もさうだつたんですつてね。此の頃は名古屋、大阪もひどいですね。和歌山はどうでせう。何か音沙汰ありましたか。時々お手紙出してゐますが、あちらからはずっと音沙汰ありません。御無事でゐれば結構です。あき子さん達は尼ヶ崎にまだいらつしやるかしら。あそこも相当キケンなところでせう。※

いろいろ送つて下さるものに、あんまり気を使つてはいけません。お茶も高いのだし、もつたないから矢たらと買つてはいけません。煙草を送つて下さる丈で充分感謝してゐるのですから、其の外に気を使はないようにして下さい。今はとに角用事の多い時代だから、あれこれ下らぬ事に充分時間とエネルギーをとられてゐるんですから。

コーヒイは第二番目のはすばらしくうまく行つて、ミルクさへあつたら一杯一円でも一円五〇銭でもいいなんて云ひましたが、ミルクなしでもサッカのねだんやコーヒイのねだんで、相当高いものについてゐますわね。お父さんはこの外のようにこび様ですわ。うまいくと云つて、私の方のストックしてある分から煙草も一本づつ出してあげると、忝からよろこばし相に味はつてゐます。

合衆国史四ノ二、第一次大戦と米、ノオト終りました。ウイルソンの事、あなたの杂論で読んだ時はアメリカ史など一寸も知らない時で、何もわからずよみました。今度は前後の事情も前とは大分異つて知つて来ましたので、ウイルソンの民主々義の意義や其の斗ひ、其の敗北、どれも皆非常に深い印象を与へられました。あなたの歴史の書き方は確にすぐれてゐます。此のごろすこしフアランドやなにかの歴史との相違がわかつて来ました。一方は乾いてカサ／＼してゐるし、一方は生きてゐる。一口に云へばさうです。従つて惹きつけられ方、魅力がまるで違ひます。歴史の面白さが本當に解つて来ます。こんなに歴史とは人間生活と結びつき、切つても切れぬものとは思つてゐませんでした。そして何この歴史も孤立したものでないことを思ひます。歴史からは学びとる事が実に多い。それなのに人は歴史を捨ててしまふ。真実の歴史の教訓こそ、人類の道しるべになるのですね。とに角私の歴史に対する概念はまるで變つてしまひました。合衆国史も本當に立派な仕事でしたね。研究社のだつて一寸もみ劣りしませんわ。私はノオトの時、両方ひきくらべて一諸に読んでゐますが、唯紙数の都合で充分展開出来なかつた丈でせう。書き方も申分ないと思ひました。前にアナトオル・フランスの刺戟で、哲学の勉強をする気になれたと書いたのですが、あれは不十分な云ひ方でした。アナトオルも又、あなたの仕事から得たもので理解出来たのですから、結局私の哲学への要求は、あなたの歴史から出発してゐます。歴史をやれば哲学はどうしても必要になります。どんな学問も孤立したものはありませんね。今日はロク／＼何もしない中にもう二時になつた。何だかざわめいてゐて落ちつけない。下の診察場からは嬰兒のしつ

きりなしの泣き声と、それにつれて早口に語る母親のまのぬけた声。今ヤミヤが来て、ちり紙を買ひました。うすつぺらの紙200枚で六円です。高いけれど、赤ん坊が生れ、ば入用でせうから、買つておきました。卵一個二円になりました。これから四ノ三の残り分のノオトをとりませう。夜は又私が炊事当番です。

島村さんのおとうさん亡くなつた相ですね。花子さんもおやまさんも教次さんも安心したでせう。詰らない手紙ですみませんが、今日はこれで失礼致します。

八路軍よみ終りましたが、どなたかそちらの人で入用あるなら、白き石や女一人と一諸に送ります。

※ここまでの文が記された用箋 (No. 1~2) は一月二七日付け、二八日消印の封筒に紛れ込んでいたものである。また以後の文はこの二月一日消印の封筒中に挿入されていた用箋 (No. 3~5) であり、双方は一連の手紙文と考えてよいであらう。

幸子から謙一あて (一九四五年二月二日付け、同日の消印)

二月一日午後No. 19、20落手致しました。No. 19は昨日来るべきだつたのですね。今日既に二本届いて居ると、明日は無しでもし様がない。なる丈なら一本づつ毎日の方がうれいすね。

丁度あの手紙が届いた時は、火事の半鐘で窓をあけてゐたところでした。火事は飯田で箕瀬(古本屋のある)方面でした。雨が無いからすぐもえるらしい。ちよいく火事です。

石橋さんが来て喋つてゐたので、今日はもうとてもプランはだめだと思つて、若干あきらめてゐました。朝の中は二階にねてゐる早苗のところ、岩崎さんが見まひに来て、十二時廿分前までゐましたから。夕食は今日も当番だし。ああ嫌になる、と思つてゐた時です。

利ちゃんも矢張り早く処置しておくに限りますね。此のごろはヒンピンですから、わるくすると化膿してゐて、切開すると膿が腹の中一ぱいに流れ込む様なら大変です。今のガーゼは脱脂不十分で血液も膿もちぎりますから、おなかの中に流れこんだのは容易に吸ひとる事が出来ません。栄養もわるいから、すぐ切り口が化膿するし、此の頃の手術は実に危介です。いねちゃんもびつくりしたでせう。とんだ空襲見舞だつたですね。

現代史は相当面白さうですね。私のフランス熱はここ暫くストップです。白き石でとまつてゐます。他に主力を向ける

ところがあると、フランスにかかる□力が二分される様な気がするし、もう一ツは一度に通過するのが惜しいと云ふ感もあります。合衆国史とブランテイションが終つたら、哲学へはいる前に読もうと思つてゐます。バルザックとの比較など考へた事ありませんが、そして今迄そんな風なものにも当らなかつたし。伊藤さんはコワニヤール師に絶讃を送つてゐる。主としてタイースとレーヌ・ペドーク、ペンギンをかつてゐる様に見えます。私なら今のところ、わが友とエピキュールと白き石の三ツです。ジャン・セルビアンや赤い百合は、人のほめる程かへません。

デプスに対して発動されたシャーマン反トラストの意味は、そこまではあれ丈の叙述では読みとる事は不可能ではありませんか。説明されて、やつとわかると思ひます。それ丈の歴史的意義あるものなら、もうすこし書いた方がよかつたですね。成果と其の逆用、始め疑問に思つた時も、どうしてもそこまでは考へられなかつた。あとの二ツはたいいていさうではないか、と思つてゐましたが。

スメドレーの意義も、どうも有難う。さう云はれるとさうですね。私もいささか私の考へ方に無理がある事、ある一定の觀念の無理な押し付を感じてはゐましたが。でもまだ納得ゆかぬ点もあります。彼女の行動の時代と私共の時代との相違の余りないこと（国家が異つていたつて）、それなのに彼女は歴史的な行動へ真直這入つてゆけるのに、我々は……と云ふ様な、本当を云ふと、実は疑問が何の点にあるか、何を指してか、自分でもわからないのですが、とに角どつかにひつかゝりが出来てしまつたのです。

昨日隣組の人がやつて来て、あなたの事をきいて、何時頃こちらに来るのかときゝました。仕事もないし来さうな風もないと云つたら、仕事なんて本人さへ来ればあるものだ、皆一部疎解者は戻つて落ちついた、一体来る気があるのかどうか、とまできいてゆきました。その事でお父さんもお母さんも今まで心配してゐたらしくて、一体どう云ふ風に決めてあるのか、とたづねました。始めは九月ころに、次は十二月ころに、次は三月ころにこちらに来ると云つてゐた様だが、此の頃はそんな風もない。向ふの仕事の方が大事だから、出征まであちらにゐる様に思はれる。ゆかないとは云はないけれど、来るとも云はないと、ありのまゝ話しておきました。出征と云ふ事になると、月が立てば立つ程、私は旅行出来にくくなるし、八月すぎれば、子供をおいて荷物の片附にもゆけないでせう。お母さんは不二子のでんで放りつばなしにするつもりかね、なんて嫌味を云つてゐましたが、そんなつもりはないのだが、仕事の方が大事なのでせうと云つておきました。

一応どう云ふ風なおつもりか云つて下さい。さうすれば其の様に話もし、段どりもつけます。来るのか、来るつもりな

いのか、出征其の他の時はどうするのか（荷物のこと等）等、何時までもあづかつて嫌だと云ふ訳ぢやないが、世間もうるさい事だし、どう云ふつもりかききたいものだとして申してゐましたから、そのまゝとりついでおきます。かう云つたからとてふゆ快がつたり怒つたりせず、本当のところをお話し下されば、その様に話しておきます。来るのか来ないのかときかれても、私は来るとも来ないとも答へられませんが、前は何時ころ云々とあつたが、此のころはこのまゝであると思へ、と云ふ風なところもあるし、それが世間のあたり前だ、私たち丈ではない、と云つておるのですから、来る気はないのだと思はざるを得ません。無理に来てくれと云つてゐるのではありませんから、其の辺わるくおとりにならぬ様に。私自身はあきらめてゐます。けれど、いろいろきかれると返事に困るので。

質問

(一)「自明の宿運」の言葉通りの意味、誰に自明の宿運なのか。

幸子から謙一あて（一九四五年二月五日の記・消印）

二月五日

二日の夜にお風呂へ入つて髪を洗つたのがもとで、とうとう風邪を引き、三日、四日と二日間は何も出来ず、ねとを（ほ）しました。あなたの手紙も一日に二本きて、二日、三日、四日と三日間来ません。早苗のはカタル性肺炎です。二週間（ほ）はかかるさうです。二日間は食事も出来ず、本もよめず、わるくすると私も肺炎かと思ひましたが、今日のはどの腫だけ、きもちよくなりました。まだだるいので、今日はこれで失礼ませう。*

二月五日

二月一日附手紙、本日午後落手致しました。おぢいちゃんが早苗の往診にかばんを持って二階へ来る時持つて来て呉れました。早苗は桃ちゃんの昔のピンクいろのオーバーをきて座つてゐたので、やア、早苗ちゃんはヤースナヤポリヤナに於けるトルストイ翁だなア、と云つて診察をしました。診察料はコオヒイ一杯、葺一服です。まだせきは出ますが、大分良くなつた相です。右肺は左肺の半分の活動しかしてゐないと云つてゐました。二階へ監禁同様ですから、此



の調子なら案外早く恢復するでせう。

今日はふうちやんがへばつて炬燵へごろり、ねんねこを被つてグウ／＼と鼾をかいてねてゐます。外は灰いろ空、冷め度い小雪がチラ／＼降つてゐます。お母さんはここ五、六日、早苗が二階ですから、下はいとも静で埃も立／＼ずですから、夜時々のぞいてみると、炬燵板に被ひかぶさる様な格好で短冊などを書いてゐますが、秘密主義で中々公開に及びません。どうせ下の句は解つてゐる、「如何に見るらん」だらうとひやかしますが、何の／＼と云つてかくしてしまひます。今日は甘酒を作つて呼ぶので下へ行つたら、焦げた甘酒でできなくさい味でした。看護婦さん達は今夜はよくなつた患者さんの招待ですから、下の食事部屋はお母さんと私と桃ちゃんの三人で、とろろです。

浅原さんのお家で御ち走になつたさうでよかつたですね。酔つばらふ前にお湯に入れて貰へばよかつたのに、惜しいことをしましたね。経堂の銭湯より、どれ程き持長くゆつくり垢が落せたかわからないのに。今時お風呂は一番のごち走ですからね。日曜でもない日に行つて、向ふでも其の時都合よかつたのでせうか。調査会では変に思つたでせう。

二、三日風邪引きで何も出来ない時を利用して、シンクレアのジヤングルを読み返しました。いろいろ参考になりました。第一、移民労働者に就いて沢山の知識を得る事が出来ました。独逸人を先頭にアイルランド、ポーランド人、其次に來たのがジヤングルの主人公たち、リトアニア人、次々と質の落ちてゆく移民労働者を根限り力の限り粉々になるまで搾りつくし、此れ以上の生活には耐へられぬところで、スロヴァキヤ人が来る。彼等は皆アメリカを自由の国、資格は平等でチャンスはあるし、日に三弗の高級(高級)を考へて、真面目に働きさへすれば成功すると夢見て、ありとあらゆる財産を投げて集まつて來るところ、全く身につまされる程であります。(以下、用箋およそ三枚にわたつて、U・シンクレア『ジヤングル』について、その要約・感想が記されてゐるが省略―編者注)。

合衆国史はあと六ページ程ノオトが残つてゐますが、これは明日出来る筈、スムーズにゆけば十日一ぱいまでに合衆国史を全部読み返し、プランテーションを読み返せるヨ定ですが、きつと又何か都合が出来るでせうから、十五日まで日をとつておきます。半年間はアメリカの事はかりにかかつてゐたわけで、今となつては愛ちやく深く、急に哲学史へはいるのが嫌な位、心残りが出来てしまひました。本当を云へばまだ充分やつたのでなくて、息せき切つて馳け抜けたと云ふところで、自分の通つた路の景色もみたり、よかつたとかわるかつたとかの感想も、ゆつたり出て來る余祐(祐)はなかつたのが真実のところでは。それにあなたのアメリカ史の原稿六〇〇枚のがまだぜんぜん目を通さずに残つてゐます。あれを一応やつたり、気のすむまでアメリカ史に残るか、それとも新プランへ一応進みつつ、余暇を見てアメリカ史を

やるか、すばつと決定し兼ねてゐます。十五日ころまでに、一応どうするか決め様とは思ひます。自分の考へで、どつちでも最も適当した方法を探る事にしませう。

二月下旬にみつちやんと信州におゐるでなさるとの事、かまはないでせう。うちく同志なら、どうせろくな事は出来なくとも、気が張る訳ぢやないのですし、部屋もこみでどうつて云ふ事はないでせう。あなたがこちらに来たつて、どうせゆつくり話が出来る訳でもないんだから、誰と一諸だつて私もかまひません。

同盟からは返事が来ました。長野支局へ申込んでもいいし、本社直接でもよいとの事でした。本社へ直接にしようと思つてます。風邪がすこしよくなつたら郵便局へゆきませう。

暖房の件、どうになりましたか？「豆類の小包み」とどきましたか。あれはいねちゃんにあげなくてもいいんですよ。彼女は栄養とれるから。では、今日はこれでさようなら。

※こまでの文が記された用箋は一月三〇日付け、同日消印の封筒中に紛れ込んでいたものである。この一枚の用箋だけが別便で送付された可能性、あるいは送付されなかつた可能性もあるが、ここでは以下に掲載する二月五日記の手紙文と同封されたものとして扱つておいた。

幸子から謙一あて（一九四五年二月五日夜付け、六日の消印）

二月一日附の御手紙以来、昨日も今日も届きませんが、其の代り今日正后⑤に小包二個届きました。いろいろお手数をすみませんでした。便箋は早速有難う。もう使ひ始めました。矢張りどの紙よりも此の便箋が一番書き心持がいいですね。お茶も沢山有難う。今日のお茶は、お母さんに寄附致しました。私ども専用は二階の袋戸棚に玉露がしまつてあります。お茶も沸ていですから大変よろこばれました。煙草も毎々すみません。いれものに困るでせうから、今後は缶類⑥すこし送つて置ませう。煙草のは前のが昨日なくなつたところす。矢張りチビく渡しの方が結果はよろしいです。石けんも中々質のよささうなのですね。あれを使つて洗濯して送りませう。アンソニーは第三冊目がないんですね。残念なこと。早苗用の紙芝居も毎度すみませんね。今ねむつてゐますが、目をさましたら、さぞよろこぶことだせう。本当に有難うござりました。これはおばあちゃん用の様ですね。あとで下のお炬燵でやりませう。

こちらからは丁度、ふうちやんが郵便局へ行つたので、同盟のとあなたの小包、送る様たのみました。小包みはいいも

のは何もはいつて(②)みませんから、当にせぬ様に。コールドの空瓶とマスクと女一人大地と青のりです。今度洗濯ものを送る時にはすこしは何か探します。今日は何も家にありませんでした。昨日は岩手県から鮭の□をが来て、久しぶりにおいしいしやけ茶漬を食べました。

今下へ行って、工夫くらべ、早速実演して来ました。大よろこびで、今度お母さんの友人が来たら、やつてくれとの事でした。

合衆国史はとうく(①)一応ノオトも済みました。今日はずつと通して読んで、主要な起伏丈一寸書かうと思つてゐます。大変いい勉強になりました。今日、古い紙くずを出したのを見たら、WBの映画で黄皆(The Sisters)と云ふのがあつて、ベティ・デイヴィス、エロール・フリンで、説明は一九〇六年の桑港地震を中心に、米国の貧苦窮□生活(③)を生きぬく純愛の一女性と云ふのがあつて、実に見たいとそられました。一九三八年度のアカデミー賞で、監督はアナトール・リトヴァックとあつた。ジャングルの時代、独占資本の巨大化と社会党、I・W・W・の抬頭時代ですから、見れば思い出せたかも知れません。通して読んで米国史を充分頭に入れた上、プランテーションをよみ返したら、又新なものが得られるでせう。米国史は実に面白く、こんなに面白い歴史は始めて読みました。もうフアランドもアダムスのも、一寸読む気ありませんわ。

昨日、夕食のあと、あんまり食べて玉錦の様にそっくり返つて、腹ごなしに民謡集を開き、フォスターの故郷の人々を歌ひました(英文の歌詞が抜き書きされているが省略―編者注)。

あんまり意味はわからないけれど、ニグロの悲しみがあふれてゐる様に思はれ、一種の感慨(④)を覚えました。

早苗の肺炎もすこしづつよくなります。家にずつとゐるせいで、頬のひびはなをり、かわいくなりました。病氣をしてゐても食べさすものがなくて困ります。今朝は早苗の枕元の火鉢でコーヒイ豆をいって、おいしいのを作つてのませました。苦いと云ふかと思つたら、おいしいと云つてガブ／＼のみました。

さき程、いねちゃんから手紙が来て、十日ころ、みつちゃん二人で信州へ来るつもりだと書いてありました。すると貴方はもつとおくれますね。切符も中々買ふのがめんどうでせう。

セントクは明日して、出来次第お送りします。外のも遠慮せずよこして下さい。一度にどつとせず、ゆつくりしますから心配しないで。そんな不便なところでやるより、ずつと能率的に上手に仕あげられます。衣類の入用は他にはありませんか。どてらは洗張りがとう／＼まだ出来て来ないのです。何でも手まがとれますね。下駄は如何? 私の行つた時、

切れてゐたのがあつたけど、あれを持つて来ればよかつたわね。切れてゐたらどろつきのみ、送つてよこして下さい。きれいにして緒をつけて送りますから。

寒いのももう嫌ですね。暖くさへあれば、随分一切の能率が上りますものね。身体を太切にして、充分勉強なざるよう（せ）に。私もせつせとやります。身体は日にまし良くなつて、便秘も下痢も十日位やりません。好調です。食事もうんと進むし、顔もふとりました。安心して、こちらの事は心配せぬ様に。伊太利の嬰兒の大半は餓死と云ふ記事を見て、私たちの子供の事が心配になります。

では又夜に書きませう。

合衆国史のことでは、いろいろ感想も（たいした事でないけれど）あります。

① p.94 終から三行目…独ソ戦の勃発はアメリカの急新層^進及労働階級の態度をも一応決定した。↓これは独ソ戦によつて、ソ聯に味方をするため反動的になり、其の事によつて米の英米連帯感と云ふか、戦争への傾斜を彼等も一応肯定すると云ふ意味か。

② p.95 終から三行目より…それによつて、彼は……螺旋形を完結したのである。↓此の全部の意味、わかりません。

幸子から謙一あて（一九四五年二月七日夜付け、九日の消印）

唯今二月二日附（22）、五日附（23、24）とどきました。二日の日は東京も雪だつたのですね。水道のトラブルはまだよくなる相で、困つたものですね。前便で下駄の事を書いたら、今日の手紙に下駄の悩みがあつた。不思議な暗合^謎ですね。

（このあと三行分、缺のようなもので切りとられていて解説不明―編者注）

貴方の風邪はまだよくなつてゐない様で困つたこと。石炭も近日中解決ついて、うまくゆくと本当にいいですけど。三月一杯までは火と離れられませんか。どうもさう云ふ相手では、中尾さんとかの交渉も、あぶないものの様に想像致します。二月五日の手紙で、私の一月卅一の手紙、届いてゐない様ね。たいした事は書かないけれど、あなたの送つて下さった近世哲学史が始めの十五ページ程落丁してゐるので、とりかへられぬかと云ふこと等書きました。No. 24です。

哲学の読み方を教へて下さる相で有難う。十五日すぎでないと、シユウエグラ―にさへかかれない様ですから心配です。

ヘーゲルのノオトは承知致しました。出来る丈でいねいにとりませう。M・E・も今の調子では、そばに置いてあり乍ら読む時がありません。ひるも夜も病児のお守りで、たまに時間があく丈で、イラ／＼乍ら手をつけてゐません。三月いっぱい位、ゆつくり勉強出来るでせうが、その後は赤ン坊のキモノや、いろいろ下手なぬいものに随分時間をさかねばならぬでせうし、そんな事を思ふと、どうしても焦つていけません。でもヘーゲルもM・E芸術論も全然知らぬ世界の事ではないとのことです。すこし安心して居りますが、なにしろ私の頭は吸取紙でなくて油紙ですから、随分骨の折れる事です。

現代史の四巻はよめないので。それは随分と残念な事です。現代史は少々長く拝借してもいいかしら。今いろいろたまつてゐるので、ゆつくりちつきり読めないで、お茶漬式には読み度くないし、すこしゆつくり味ひたいので、其の時まで借しておいて下さる様、伊藤さんに手紙出して置きます。

あなたの目方、本当？ 戦時浮腫とかで水ぶとりぢやないの？ 今度来た時、よく調べてあげます。私の小うるささ、小言がないから、神經の疲労がへつたのかしら。嫌なこと。私も一月十五日後から肥り出した様です。私の顔はすこし変りましたよ。時々鏡を見ると、中島正さんの様な顔をしてゐる事が良くあります。一寸午後の疲れた時なんか、鎌倉へピクニックした時、紺の脊広を着て暫くあとから追ひついて来たときの中島さんの顔です。ふうちゃんにさう云つたら、彼女もさうだと云つてゐました。

合衆国史について、あなたの云つてゐる十年がかりで書くこと、は本当にさう思ひます。さうしたら今までない立派な、本当の歴史が世に出るでせう。ヘーゲルも歴史は次の事を教へる、即ち各民族や民族の政府は、歴史からは何事も学ばず、各時代は其のためには余りに個性的でありすぎる、とは云はなくなくなるかも知れないし、ネールをして如何なる戦争に於ても、又歴史に於ても、其の真の真相は書かれたためしはない、とは云はせないでせうね。合衆国史のみならず、オランダ史もフランスの歴史も、さう云ふ風に書いたものをよみたいものです。

先日、ネールを桃ちゃん又すこしやりましたが、ネールの歴史の書き方もすばらしいものです。又々感心しました。個々の点はどうかと思へるところもありましたが、全体として座談的にあちらこちら話をそらしたりとんだりしますが、其の余談は又、中々味のある内容のあるそれ話で、いろいろと教へられるところがあります。特に英国の事は流石に深く、よく調べてあつて、王室の存在と其の反映、国民、国家への影響の事を書いてゐるところ。トオリイとホキックの説明等、アメリカの共和党と民主党とが、金権政治の手段となつてゐるところと共通するところもあつて面白かつたし、

英国が産業国家として発展すればする程、矛盾におちいるあたりの説明など、おもしろくよみました。今、夕飯をすませたところ、外を見たら又、真白な雪景色です。今日の夕飯は鮭の頭と大根とにんじんのさんべい汁です。漬ものは株菜の長漬。もの凄く二つとも塩からかつたから、あとでお茶をのむことでせう。

いねちゃんのみつちやんが十日頃来ると云つてゐると云つたら、お母さんてば部屋もせまいし食べるものもないから来るなと云つてやれと云ひますの。食べものも部屋も此のまゝでかまないぢやないの、ごち走食べに来る訳ぢやないし、一諸の部屋にねればいと云つたら、わしがいと云ふの、あきれれるわ。別にいと云ふ事なんかはないの。掃除も食事も皆、誰かがしてゐるんだし、お母さんは朝食丈しか作らないのに、変な事を云つてゐます。来ちまへばそれまでだから、私はそんな事を云つてやらないつもり。何と偏狭な人でせうね。あれだから時々本当に嫌になります。お母さんの云つてる事つたら、あとさき合つた事がなく、其の場々の出来心でものを云つてるんですもの。あなたの事だつて、来なければ私の事をほつておくと私に文句を云ふし、来ると云へば食べものがないから困ると云ふし、目茶々々なんだから、本気にきいてゐては馬鹿を見ます。まるでみつちやんとそっくりですから、おどろいて見てゐる事があります。

廿七日のは建物より人の死傷がひどかつたんですつてね。あなたもあまり日本橋や銀座方面に出ぬ様になさいな。

No. 24への返事。

大分怒らした様ですみませんでした。私も書き度くなかつたけど、さう云ふので書いたのですが、お母さんの言葉は前述の如くで深い意味も、考へての言葉でもないのですから、私もそこを考へてなんとか云つておくべきでした。あゝ云はれると、遂感情的にも煽られて、書かずもがなを書いたのです。全く申訳ありません。何も彼もが、私のする事一切が、あなたの邪まばかりするので、本当にすまないと思ひます。あなたの仰言る様な監視的な手紙を書いたつもりはありませんが、そんな風に考へておろでだつたのなら、私の手紙も又邪まをする丈です。又私への手紙も負担になつたり、あらぬ疑をとくために書く、と仰言られると一言もありません。私はさう云ふ存在ではありたくないのでですから、文句も云ひませぬし、来て下さいとお願ひするのでもありませんことを承知して下さい。怒つてもゐないし、すねてもゐません。唯、私も又、あなたの仕事を第一と思ひ、善い仕事の出来る時、力いっぱいやつてもらふ事を願つてゐます。それですから手紙が来なくても心配などしないで、仕事に熱中してゐる事と思ひ、私も又私なりに勉強しますから、今までの様に始終沢山の時間を使つての手紙はやめて下さい。本当にどれ位私への手紙のために、あなたが貴重な時間を

浪費してゐるかわからないのですから、勉強のあいま、気のむいた時に気分転換に書く程度にして、義務として二時間も使ふ様な事はやめて下さい。それ丈短い時間をさく事で、あなたの仕事を毎日、それ丈つづへづつてゐるのです。本当にもつたない事です。私の方は暇で書くのですから、一でも一つ一つ監視的だと思つてよめば、さう思へるかも知れませんが、そんな風に思はずきらくによんで下されば、書かうと思つてゐます。講義の事も私の参考にしたと思つてきかせて下さい、と申したので、他には意味はないのですけれど。でも一応、私はすませたのですから、もうおきかせ下さらなくてもいいんです。監視するつもりで、どんな風かときいたのではありませんから、誤解をといて下さい。詰らぬ事を一、一、云つたのがいけませんでした。本当にすみません。あなたのイラ／＼したき持は充分よくわかりますから、無理ないと思ひ、重々申訳なく存じます。先日のごとも、そんな訳で、たいした意味もない事であつたのですから、気に障つても了解して下さい。本当に何時仕事を中絶させられるかわからないのですから、もう一切、他の事には心を散せぬ様、私も注意しますから、あなたもおつもりで仕事専心になすつて下さる様。私の事は自分できちんとやつてゆくつもりがありますから、今後は気にかけない様にして下さいませ。手紙も毎日お書き下さらなくても心配しませんから、其のおつもりでゐて下さい。邪魔をしない／＼と云ひ乍ら邪魔ばかりして、本当にすみません。では今日はこれでさようなら。

風邪薬ない様ならお送りませう。

幸子から謙一あて（一九四五年二月九日付け、同日の消印）

五日附25、七日附26、九日午後三時頃落手致しました。銀座の模様、想像出来ません。廃きよ、ガラス、石塊、何と恐ろしい様子でせう。森本さんも随分恐かつたでせうね。海外電報のお金を本社に送つて損した様な気がします。日比谷の辺に落ちれば何もならないから。長野支局に送ればよかつた。あの辺、もう来ないとは限らないでせう。あつたら三百円残念です。稲ちやんの手紙で、あの日銀座にゐた相でヒヤリとしました。もう何処つて、東京は安全な所はなささうですね。するとこちらは矢張り空襲も食料も本当に安全です。さつきもお母さんと、何はなくても大根ばかりでも、夜はね起きて防空壕へとびこむ嫌さもないし、爆弾の恐怖もないし、食べものは何と云つても三度／＼お煮付と漬物でも塩飯よりはましだし、不平は云ふまいと話合つた事で

す。何とか云ひ乍ら、矢張り疎解^⑧して良かったと感謝してゐます。私の様なものは神経的にも、まづ先に参つてしまふかも知れません。あなたが私を強力的に疎解^⑧したと云つても、文句は云ふところありません。感謝する外ありません。命あつてももの種だと俗に云ひますが、命あつてこそ人間として生きる事も可能です。愛用した愛朋社なんかも、もう今はないんですね。今度東京へ出る時があつたとしたら、随分びつくりする事でせう。

先日の私の手紙は随分悪いシヨックを与へた様で、本当に返すくも申訳ありません。今後はさう云ふ心配はおかけしない様にしますから、おゆるし下さい。あなたの立場は本当にお気の毒ですし、私はすこしは解つてゐたつもり乍ら、矢張り理解してゐませんでした。併し、そんなケンセキ者と云ふ程の深刻なものはありません。田舎の人のくどさ、しつこさ、不遠慮、おせっかいのあらはれ位なもので、深い意味はないのです。私自身も妻たる位置(？)、そんなものを考へてはゐません。それ程の深刻な内容を持つた手紙のつもりはありません。おせっかいに煽られて書いた程度の心ないわざにすぎません。私のするべき事ではなかつた―ことを、心なしに行つた事こそ悪かつたのですから、あまり深くいろいろ追求^⑨なさらぬ様にして下さい。どつちみち私は、その事で深く心を悩ましてゐるのではありませんから。私があなたの今の状態さへよく解つてゐればそれでいいのです。他の人がどう思はうと、どんなおくそくもたいした事は私自身に影響ありません。私が第三者への説明に苦しむだらうとの心配も無用です。理解出来ず、己も苦しみ乍ら、第三者には二人の結合をかたいものゝ様に見せるため、いろいろ心を使ふことこそ苦しい事です。さう云ふ二人の結合への不信の苦しみがある時は、人は必ず吾から云ひ訳がましい口実を尤もらしく人に語つて、人に納得させると同時に自分も又納得しようとするものです。むしろ人がどうしたくときくのは、こちらが平然たるもので、云ひ訳も弁解がましい口実も与へないから、人がきくのです。で、私は苦しみはありません。従つてあなたがそれを心配するのは無用なのです。何時帰つて来るかと云ふ事は、私が答へられぬ事ではあるが、帰つて来ぬと云ふ事が第三者の憶そくする様な内容でないから、一応は私はきいては見たものゝ、心からそれを心配したりヤキモキしてゐるのではありません。私自身の不安からあなたにきいたのではなく、適当な口実さへあればうるささから逃れる位のところからおききした訳です。すから、あまりその事で気をわるくしたり気にしたり、障害と云ふ風にお考へにならぬ様にして下さい。

私は自分を理解者たる者と妻たるもの、と云ふ二ツのわけ方はわかりませんし、私自身はわかる気はありません。ですからあなたの全力をあげての仕事こそ、第一と思つて暮す事に決めてゐます。だから夫婦と云ふ一語^⑩に暮すと云ふ考へはなくなりまして。あきらめてしまつたのか、望んでも無駄だと思つたのか、自分でも知りません。たとひ仕事のため

にあなたが永久に帰らなくても、不平は云ふまいと思つてゐます。さう云ふ望みは捨てようと努力してゐます。それがいいかわるいか、まちがつてゐるかはわかりません。唯あなたは、私が一諸に住んでほしいと思つてゐないと云ふ事を知つて、来る事に氣を使はず、安心して短い時間を有効に使つて下さればいいのです。手紙も毎々無理して書く事を強いて求める事もやめます。あなたはもう私の事など特別にコリヨする必要を感じなくていいのです。他の女友達並に考へて下されば結構です。暇の時チヨイ／＼と書いて下さる丈で、私はまん足するでせう。私はあなたから特別に扱はれる事を望む事はやめますから。但し私の方は勝手に手紙を書くでせうから、りちぎに返事を下さらなくてもいいのです。今度のも此の前の手紙でも、私があなたを束縛する大きい力である事をつくづく感じ、結婚、妻と云ふものゝ存在は、もうあなたには障害でしかない事を覚りました。それはあなたがわるいとか私がわるいとかではない、今の歴史がさせて来たのでせう。あなたのさう云ふ障害の重荷は、さらでだに沢山の重荷の中で、もつとも重く大きく強い力を持つてゐる事をつくづくと思ひ、本当にあなたが氣の毒に思はれて来ます。身軽になりたいと云ふ心持は、あなた以外の他の男の人も、今強く感じてゐる事ではないでせうか。

私はひにくを云つたり嫌味を云ふ気持はありません。唯本当のところ、誰のせいでもなしにさうなつて来たのだと思はれるのです。かう云ふ時、男と女との要求は対照的でせうね。男には逃れられぬ義務や責任や負担がある。男はかう云ふ時代、それをうるさく思ひ出すし、それが己をしはる事を改めて強く感じ出すのです。女はそれに、こと更強くしがつみつかうとするのではないでせうか。私はあなた一人が其の問題で苦しんでゐるのだと思ひません。同じ□隅（増田の）で同じ様に誠実に苦しんでゐる人が案外多いと思ひます。妻も又、唯夫を逃すまいとする丈でなく、自分達以外の強力なものによつて、それが行はれる事を知つて、夫を理解し事態を納得しようとする苦しんでゐるのだと思つてゐます。

まはりくどい表現ですが、あなたの今の立場を、あなたがいけないと責める氣は毛頭ないこと、あなたの苦しみも又、私は解らうとして出来る丈善処したいと思つてゐる事を告げ度いのです。で、ともすると、あなたが私の云はうとする事を、嫌味とか監視とかに思ひ勝ちの様ですから、はつきりさせるために長くなつたのです。で、要するに私の心持は、あなたが妻と云ふ私の存在に（人は何と思はうとも妻たる私がよく知つてゐる事を理解して）こたわらず、今のあなたの使命に必死に努力する事のみを切望してゐる、と思つて下されば幸甚です。かう考へるまでには、云つてもし様のない事乍ら、私相応の辛い涙も流しました。それを無駄にしたくありません。私は今のところ、自分の決めた方向に進む以外は考へまいと思つてゐます。改めて、私の事を問題にせず、あなたはあなたの使命に全力をおつくし下さるよう。

幸子から謙一あて（一九四五年二月一〇日の記・消印）

昭和廿年二月十日

年が變つてからもう四十日も立ちました。其の間、思ふ通りに出来た日は数へる程しかありません。とに角やつたが廿七日ありますけれど、實質的には廿日位のものでせうか。半分出来ればまあいい方と思つたり、半分ではし様がないと思つたりです。

〈副〉

◎ネール世界史（下）／▲マンスファイルド日記／◎リトルページ／◎レーヌペドック／◎タイース／✓ジャン・セルヴィアンの願／✓赤い百合／○碎氷船セドフ号（二卷）／◎エピキュールの園／✓アロウ・スミス（上・中・下）／◎白き石の上にて／▲日本歴史（中村孝也）／○マナサス（上）／○女一人大地をゆく／✓北極の町／✓第八路軍従軍記／○ジャングル（上・下）

○印はよんでよかつたと思ふもの

✓印は中位

▲印は詰らなかつたもの

◎特によかつたもの

〈正〉

プランティション一応終つたが読み返し不完全、カードも中途

アメリカ史（六、研）一応終る

哲学ノオトところどころ

〈衛生〉

風邪其の他具合わるい日 十三日／下痢 十日／便秘 十日

〈通信〉

来 四七通（K分廿七通）／発四四通（Kへ廿二通）

紅	2.50	4本	10.00
ほ	2.00	4個	8.00
白粉	1.50	4〃	6.00
香水	X	4.	20.00
万年	10.00	2.	20.00
			<hr/>
			64.00

以上が私の四十日の生活です。

昨日(九日)は合衆国史の通読で、ついでにふうちゃんにも話してあげましたところ、大変よろこばれました。私もうれしくなりました。昨日分は、再建にかかるところで用が出来て中断、残りを今日致しやつてしまふつもりです。これでプランテーションをずともう一べん、誰かを鴨に喋り乍らやつたら、相当ゆ快だと思ひます。

今日は早苗も大分良くなつて、起きて部屋中ガサ／＼し始めましたら、代つてお母さんが胃が痛むとて、今朝から寝込みました。胃がいれんでもなく、盲腸でもなく、結局我むしやらのむくるでせう。何も食べずに弱り込んでねて居ります。

昨日は一日降つたり止んだりで相当雪が積りましたが、今日は割に暖かだとけ始めました。午前中警報の出る前にB29が爆音高く東へ飛んでゆきました。家のラジオは故障ですから此の三、四日ニュースもきけません。今日のも一寸もわかりません。

今日午前中にふうちゃん和相談して、私の茶だんすを二階に持つて来ました。荷物をほどこいたら大変、あの中に詰めてあつたら、前の炬燵の下敷ぶとん(赤ん坊用の)はねずみの巣になつてゐました。目茶／＼でもう一度使へる見込みはありません。蓄音器の箱も中はそんな事です。又次の暖い日に出してみます。あの中にはざぶんも二枚位はいつてゐたと思ひます。

今日シートやワイシャツ、モンペ下、洗濯出来上りアイロンもすみましたから、箱に入れて送ります。何かいいものがあればと思ひましたが、あいにく何もなささうだし、お母さんが下でねてゐるから戸棚探しも出来ません。此のまゝ送りませう。

今日は一つお願ひがあります。都心へ出て次手の時、安い香水をすこし買つてほしいこと。万年筆を二本位、なる式速記用のを。ツートーンの口紅を五、六本。ほ、紅、粉白粉三、四種類(化粧品はいねちゃんでも白田さんでも、都合のよい方に頼んで下さいませんか)。(表の合計額六四円―編者注)位になりますね。三、四日中に送りますから、何時でも結構ですから、買つておゐて下さいませんか。いそぐ訳ではありません。唯こちらにはないので、お頼みしてストックしておくのです。

幸子から謙一あて（一九四五年二月一日の記、一二日の消印）

二月十一日晴

昨日夕方、稲ちやん達が来ました。とても賑かになりました。あいにくとお母さんはまだねてゐますけれど二階は大賑か、早苗は大よろこびではしゃいでゐます。いねちやんから木ビーズのオモチャを買つて、昨夜から続け様にそれで遊んでゐます。

いねちやんから東京の爆撃の話もいろいろききまして、こわくなりました。昨日午後の80機と云ふのも凄かつた様ですね。今朝のお父さんの話では、関東北部の爆撃の音が、こちらまでズシン／＼と三時半ころ響いたとか。さう云へば私と早苗と午後二人つ切りで二階にゐた時、地震かしらと思つて電灯のゆれ具合を見ました。又昨夜も警報あつたし、世田ヶ谷方面は如何でしたせう。

今朝は私の炊事当番で、五時半に起きてかまどの火をたきつけましたが、下手なので、三十分もかかつてよう／＼もえつきました。ふうちやんが起きて来た時は、私の顔はまるでかまど猫そっくりです、だらけでした。七時には朝食にする事が出来ました。そんな訳で二階は大入満員になりましたから、私一人本や書物をひろげるものはばかられますから、前の私のゐた六丈（巻）の部屋に置炬燵をもちこんで、うまい具合に避難所を作りました。中々いいせう。こゝで暫くやるつもりです（六畳部屋の簡略な家具配置図が記されているが省略―編者注）。

今稲ちやんがコオヒイ豆を作つて、向日荘で実験した方法とか□（ラッパ）ドでコオヒイ豆をいたためて、すばらしくうまいのを作つてくれる相です。みつちやんはコンデンスを持つて来ましたから、更にうまいのが出来るでせう。もう廿分したら下へ行つておひるの支度にかかります。何だかあはただしくざわついて多少ゆううつにもなります。そんな事を思つちやいけませんわね。今日から本式にプランテーション（ノオトでなし）読み返します。

洗濯ものは小包みにしましたが、いねちやんの帰る時に持つていつて貰はうかと思つてますが、彼女がゆつくりするなら、明日（月）送りませうか。

電球は東京も配給ですか。飯田も電球が買へないので困ります。私の部屋のもこはれてゐるので、夜は勉強出来ません。情けないことですね。みつちやんは一ヶ月のヨ定だ相ですから、その間、私のプランは更に歩みがのろくなるでせう。

ここまでにして、又あとで続けませうね。

今おひるが済んだ所、大根おろし、こんにやくいり煮のおかず、^(漬カ) 株菜の漬ものです。あなたは相変らず塩御飯だけですか。こんにやくは沢山あるけれど、水が出るから送る訳にゆきませぬね。若しもいねちゃんか帰京する頃にまだこんにやくが氾濫してゐる様なら、持つて行つて貰ひませうか。それ程うまくもないし、栄養も無いのでせうけれど、何も無いよりはましでせう。始めからいりして水をすこし取つてから、お醬酒^(醤油)で味をつけると一寸おかずになりませう。六丈の隠居の勉強心持は相当隣がうるさくて、みつちやんの一人舞台、例の通りのペチャク〜うるさい事、うるさい事。でもこれに慣れなくては、あと一ヶ月棒に振つてしまふ事になります。

先日の本の小包み、届きましたでせうか。森井さんに厚くお礼云つて下さい。私も朝ちゃんも桃ちゃんも、読ませて戴きました。前よりずつと面白くよめました。家の女一人はどうしたのでせう。たしか家にもあつた筈ですね。それからイリンの山と人間はどうしたのかみつきりません。二階にあるのはイリンのだと思つてゐるのは、緑の魔術と云ふ本でした。イリンもですけれど、長谷部氏の人類文化史あたりはどうでせう。あれなら二階にあるから、すぐ送れますけれど。今日はどうにもうるさくてヨ定通りゆき相もないから、北達^(北)四十二度^(度)を読もうと思ひます。前に一回読んだ記憶があるけれど、ややこしいところをとばして読んだらしいから、あまり読んだとは云へませぬね。今日はすこしみつちりよんでみますわ。ドス・パソスつてどう云ふ人でせう。人名辞典を見ただけではありませんでした。「北達^(北)四十二度^(度)」は押入れ本棚の方でしたから、今朝出しておきました。訳者の言葉にすこし説明があります。ニュー・マツセーズ^(マツ)の同人なら、さう変つてでもないでせう。

此のごろ詰らない手紙ばかり書いてゐて、すみません。原稿の方、進捗してゐますか。御仕事専心を祈ります。手紙は今までの様に毎日^(毎)のように下さらぬ様。変つた事があつたら手紙が来ると思つてゐますから、手紙に貴重な時間を割かぬように。

陽がさして此の部屋も暖くなつて来ました。では北達^(北)四十二度^(度)へかかります。

十一日午後一時 幸子

幸子から謙一あて（一九四五年二月一二日の記）*

二月十二日

昨日は一日いそがしく夕食の支度や夕方掃除、六人のふとんしき等々、間に二時間も停電もあつて、何も出来ずに終りました。

お母さんは例の通り病気の時の気難しさでいろいろ怒り出す、みつちやんは詰らぬ云ひつけ口をして煽るので、しまひには泣き乍ら怒り出すで本当に困りました。みつちやんはますく／＼ヒステリーがひどくなつた様です。花子さん、お姉さん、サエ子さんとか、いろんな親類の名前をあげて、ヒステリックにわる口とぐちばかり云つてゐます。本当にうるさい人です。

今日は夕方の支度丈、私の責任ですから、それまですこし勉強します。北違四十二度はおいもをいたため乍らと、火を起し乍らよみました。デブスの事やビッグビル、ヘイウツドの精しい事が出てゐますし、中々具体的に当時の社会事情が出てゐて面白うございます。まだほんのすこしで精しい事は云へません。

洗濯ものは矢張り送りませうね。荷造りもしてあるし、いねちやんの帰る時は、他にたのむものも出来て来るでせうから。お金(買もの)もいねちやんにたのみます。

今日は何と冷め度い日でせう。指も氷る様に感じます。では又、続きはあとで。

もう直五時です。夕方掃除を終つたところ。今日は風邪がぶり返して、あまり気持よくありませんが、たいした事はありません。こちらの生活は刻一刻ゆううつなものになつてゆきますが、し方がない。消極戦法で何も云はず耐へてゆきませう。其の代り勉強の方が短い時間でも、もつと効果的にゆくかも知れない。ぐちをこぼしてあなたを心配させ様とは思はない。どうせたいした事ではない。原宿時代の延長がもうすこし強くなつたと思へば。

北違四十二度、読み終わりました。キタイした程の事はありませんでした。あの書き方のせい(せ)でせう。新しい手段かも知れませんが、新聞記事的で其の限界内ですね。今日、伊藤さんが北極の町(まち)の二を送つてくれました。よむもの、するものがたまつてややあせりぎみ、いささかゆううつです。

午後にお手紙二本、八日、九日附が来ました。

カソリンズム原罪意識、面白く拝見致しました。私も一寸いねちやんと一諸(ひと)に上京して見度くなりました。身体の方は一月中旬から好調で、其の心配はありません。唯、帰りの切符が心配です。いねちやんは大丈夫だと云ひますが。本当にこちらにあなたをよんでも、楽しませる事もゆつくり話す事も出来ませんし、家のアトモスフィアは愉快でありませ

ん。ゆかれたら、ゆきたいと思ひますが。お米は不足なので、持つてゆけ相もないし。きのみきのまゝで行つていいんでせう。それなら一寸行つてみ様かしらとも思ひます。さうね、行つてみませう。今週の終りころに。若しかしたら、手紙より私の方が早いかも知れません。ではいそいでプランティション、読み返して置ませうね。今日はこれで。

※以下の手紙は封筒に入っておらず、これに該当するような封筒も発見できていない。

幸子から謙一あて（一九四五年二月二日の記、一二日の消印）

十七日朝④出発、東京へ午後五、六時に着くヨ定、その時刻なら明るいから、一人で調査会にゆけます。
なる丈あて下さい。

十二日夜

幸子から謙一あて（一九四五年二月一三日の記・消印）

二月十三日

今日も晴、一寸も雨が降らないので埃りつぽいですね。早苗の病気も大変良くなりました。もう起きて二階の廊下の辺をちよこくしてゐます。私のも大分よくなつて、セキさへとまれで全快です。今日は家中の模様変へで、私の筆司は皆二階に上り、お父さん、お母さんが下にゆきました。下のフーチヤンの部屋をお母さんとみつちやんとで使ふ事になりましたので、ふとん類も運びました。みつちやんが来て、家中のいろいろをすつかり変へる事にしましたので。今日はプランティションを半分はやつてしまふつもりです。どうも喋り声が相当にうるさいので中々進めません。これから郵便局に行つてお金を出したり、洗濯もの、小包みを出して来ませう。

十七日までに切符がうまく買へるといいけれど。東京からは中々困難でせうね。往復が買へると、あとの心配はないけれど、其の代り何となくきぜはしいし。あなたの事を思ふと、もう今まではほとんどあきらめてゐたせい^⑤か、別世界の人と云ふか、とに角あまり現実感を感じなくなつてゐましたが、近い中に逢へると思つたら、急に生々しく実感を持つて考へられます。東京へゆくまでは、もう今日限り手紙は書きません。私の方が早いきまつてゐるから、私の行つた

あとについても変てこでせう。暫くでも此のフニキから抜けられ、いろんな点で一寸も意志の疎通しないところから、それに対する気兼、気詰り、うつとををしから、まるで逆の世界にゆけると思ふと本當にうれしくなります。なんと毎日の息苦しい事でせう。そんな事を考へると気もそぞろで、中々勉強も進みません。ともすると東京ゆきの事はかり考へてしまつてゐます。本當にうれしく。ゆきはよい／＼帰りは恐いと云ふ歌の様、帰る事を思ふと随分嫌でせう。樂あれば苦あり、だと思つて我慢ませう。

そちらに行つても私は何処へもゆき度くないけれど。唯、家の中におつとゐたい。月曜一日の外は私一人であの部屋にこもつてゐる事になるのでせうね。今度はあなたのピアノもきかせて貰へますね。本當にうれしい。ではさようなら

幸子から謙一あて（一九四五年二月一六日夜付け、一七日の消印）

今日、駅できましたら、切符は浅川までしか売らない相ですから、月曜日にいねちゃん帰る事にし、私は一応とみやめします。切符は往復買つて、いねちゃんがついてゆきますから、来る時は復を使つて来て下さればいいと思ひます。こちらで私の部屋に置炬燵してはいつてゐれば暖いし、静かでもいいでせう。さつきお母さんが私のおみくじを引いてくれたら、旅立ちはいけない相ですから止めよ、と云ひますの。

明日（十七日）電話が通じたら、かけて見ますが、怪しいので一応手紙を出します。明日電報もうつて置ませう。復切符は五、六日余佑あるから、それまでに都合つけて来て下されば、こちらで静養出来るでせう。　　とりいそぎ

幸子から謙一あて（一九四五年二月一七〜一八日の記、一八日の消印）

二月十七日晴

本来なら今頃は電車から汽車へ移乗してゐる時間です。不本意乍ら上京をとりやめて、まだどつちとも判然としてゐないので、一寸落ちつきない心持がしますが、大体に於てゆかぬ事にきめましたから、次の勉強にかかり始めました。今度よむものは、今までの米国史の補助の意味で、オンライ・イエスタデーとローズヴェルト政権十年史をよもうと思ふ。始めローズヴェルトの方を。これで当時の細い経済事情をすこし知る事が出来るでせう。

さき程、ウナ電をうって来ました。普通報は今日中に届くかどうか分からないとのこと。十七日の夕方つくくと云ふ、前に出した手紙が今日中に届いてゐて、実際は今日の夕方着かないと、随分心配する事と思ひ、今朝も電話で東京を呼び出さうとしましたが、東京は禁止区域とか何とか、早口に云つて断はるので結局駄目で、考へたあげくに電報にしました。十九日の朝、いねちやんが出發すると、二十日中にはあなたの手下に切符が届きますね。さうすると廿五日の夕までに出發すれば、有効期間中まにあふ訳でせう。其の間にあとの事を頼んで、休暇をとればよろしいでせう。十日位も、あるひは二週間位も休めたら、すこしは身体も休まるし、暖くもなるでせう。部屋は私の勉強間を二人で使へば、静だし暖いし都合もいいし。なる丈、都合つけていらつしやいね。

今日は暖いし、天きも良いし、散歩に好適の日です。あなたが来て熱もない様なら、すこし此の辺の散歩をしませう。楽しみにまつてゐます。お洗濯ものを出来る丈沢山持つていらつしやい。あなたのゐる中にすっかり上手に仕上げてくださいから。ではこれからローズヴェルト十年史をやりませう。

ローズヴェルトすこし読み、中々面白うございます。書き方の観点は反ローズヴェルト的ですが、事実は具體的なものが出て来るのですから、米国史やプランテーションで精しい説明のなかつたところがわかつて来ます。コグリン師、ヒューイ・ロング、タウンセント等々のアジ運動とかローズヴェルトのブレイン・トラスト、銀行匡救策の前夜とか、中々面白いです。

四時に十五日附お手紙落手。海苔はこちらはもつと高いです。一帳6・50錢です。今日売りに来ましたが、あまり高いので買ひませんでした。せめて三円位なら買つて送つてもいいと思つたけれど。

石炭の件は本当に困りましたね。随分貴方の手も汚れ、あれた事でせう。お気の毒です。こちらに来たら私がセイゼイ手入れしてあげませう。去年の冬は霜焼でひどかつたし、今年もヒビも出来たのでせう。本当にお気の毒です。私の手は近來まれな程ありません。足の毎冬の霜焼も出来ません。疎解のお影です。下駄は女物の台に不二ちゃんの作つた男物の物があり、それを上げて持つてゆくつもりでしたから、いねちやんに持つて行つて貰ひます。少さいけれど、ないよりはましでせう。

森ちゃんも戦友の代筆の手紙が来て、ひどく怪しいので、明日かあさつて、お父さんが朝ちやんあたりをおともに出發するらしい。いねちやんも其の時立つてせう。あなたもこちらの人数の少い時に早目にいらつしやるといいわ。

西井さんが留守だつて病氣ならし様がありません。今は風邪引から因で死ぬ人が多いのですから、いくらでも口実はありますよ。お土産とか何とか余計な心配は無用、うんと熱があつて具合のわるい様子をしていらつしやい。さうすればうるさいお喋りも何もせず、病人らしく二階でねていられて都合がよろしい。

もう暗くなつて来ました。カーテンを引いて電灯をつけませう。スタンドも修繕し、たまも玄関の軒灯で都合しました。では又あとで。

三月十八日。今、下山駅に行つて来ました。切符の件も当分駄目になりました。官、公、軍の公用以外はとも買へぬらしいので、十九日にいねちゃんが入つたのも駄目になりました。此の頃は全く明日のヨ定など立てられませんね。近々あなたに逢へると思つたのも水の泡です。当分あきらめませう。併し、あなたの方で切符の都合ついたら来ませんか。こちらから往復を買ふのも二、三日の間にもう望みます。又二、三日うちにどうなるか、一寸わかりませんけれど。

こちらはみつちちゃんが来てから家中浪風の立ち通し、困つたものです。昔からあの人の私に対する反感は知つてゐますけれど、お母さんに余分な刺戟を与へていろいろ策動をするやら、言葉の一ツ一ツにからんだり、勉強の妨害はするし、本当に困ります。家の件でも、お母さんをつついて早く追ひ出させ様としたり、今貸家なんてありつこないのに「探しもしないでない」と云ふとか、こちらの貸家フツテイの事情も知りもせず、嫌な事の限りをします。理屈を云へても、お母さんもみつちちゃんも訳を納得する人たちはなく、唯感情的に反撥する丈ですから、し様がないとあきらめてゐます。

あなたにも着てほしいと思ひましたが、そんな訳ですから、もう暫く保留して戴きませう。其の中都合ついたら、私の方から行つてもいいと思つてゐます。みつちちゃんにはつきりした事を云つた訳ではありませんが、こちらにずつとゐる様子ですから、早晚貸間でも探して私の方が出る様になるでせう。さうなれば、あなたに来て貰ふのも、気兼ねなしでいいと思ふし。ところが貸間も随分高いので、おいそれとはゆかぬでせう。うっかり何も云へない有様ですから、私もだまつて勉強専心出来て、かへつていいと思ひます。今日明日で十年史とオンリー・イエスタデイを読んで次のプランに進ませう。

幸子から謙一あて（一九四五年二月一八〜一九日の記、二〇日の消印）

三月十八日 今日の後二時から電話を申込んでありますが、もう七時すぎたのに、まだ通じません。結局手紙の方が早いかも知れません。東京行の切符はとも買へさうありません（今日のところでは）。それでお父さんといねちやんと弘前までの切符を手に入れる事丈は、お父さんの顔で出来ました。途中東京へ寄つて診察する相です。其の上で私の行く方がよろしければ電報下さい。切符の買へ始^初第^一上京します。

食事はいねちやんたちから小使ひ婆アさんにも頼んで貰ひませう。又、若し十日位そちらでねて、起きられる様になつたら、いねちやんの復切符の東京↓下山間を東京でうけとつて、お父さんと一^一諸^一にこちらに来てもいいでせう。どうせいねちやんの東京↓下山間は、もういらぬ切符です。こちらあまり最上のコンディションではありませんが、一人で病きしてゐるよりましでせう。私が手厚く看護してあげます。私の上京はみつちやんの妨害あつて、一寸出来にくいですが、そんなものはいした事はありませんから、私の行つた方がよければ電報なり電話（長野県飯田局三二二）下さい。電話はこちらから申込むより、そつちの方が早いでせう。

二月十九日

今日は公務も東京ゆきは売らぬ由。お父さんのは買へる事になりました。卵、持つて行つて貰ひますから、人にあげぬ様に。卵のおぢやして栄養つけて下さい。

昨日から盛にローズヴェルト十年史よんでゐます。北極の町の一は、いねちやんに持つて行つて貰ひませう。「下駄と卵と本と」。牛肉が買へたら持つて行つて貰ひますが、これはちと怪しい。

二月十九日

十七日附御手紙、十九、午後三時落手。本当に私もゆけなくなつたのを残念に思つてゐます。なにしろ切符の都合はわるいし、まはりのよ論も上京をとめますから、とても出にくいのです。ゆく事は私自身も切望してゐますし、そちらも市内程危くないと思つて、其の点の不安は一寸も感じてゐません。それにそちらに行つてからなら、すこし危険あつて

も、あなたと一諸なら一寸も心配ありませんけれど、途中の車中で非業の死をとげるだらうとか、後々の事を考へよとか、二人から口うるさく云はれては、それを押し切る事が出来ません。切符さへ買へる様なら、何とでもしてゆかうとは思ひますが。

併しこちらに来て、病気を口実に二階に一日こもつてゐて、殆んど二人つ切りの様にも暮せると思ひます。病気の時の一人住ひは本当に淋しく心細いし、いろいろ日常の食べものもわずら^わしいし、汗に濡れた下着類も始末に困るでせう、とお察してゐます。そんな訳ですから、あなたの方で入手出来たら、何とか都合してこちらに來ませんか。すこし位邪魔はあつても、逢へるのでから我慢しませうよ。そして若しかうまく行つたら、あなたの帰る時、一諸に行つてもいいと思ふけれど。

幸子から謙一あて（一九四五年二月二〇日午後付け、同日の消印）※

※これは空封筒になっていて、該当する中味の手紙文も発見できていない。

幸子から謙一あて（一九四五年二月二〇日の記、二二日の消印）

廿日

今日はすばらしい天気。但し風は激しく吹きすさんでゐますが、部屋の中は陽がさして暖い。昨夜は二時までねむすれず（考へ事のためでなく、隣室のお喋りのため）、今日は午後になつたらねむくて困ります。ローズヴェルト十年史は終りました。割に参考になりました。今日からオンリー・イェスタデイです。ウエルソンのヴェルサイユ平和条約のところまで來ました。中々アメリカ史に未練があつて、次のプランにかかれません。上京した時、きかうと思つてゐた質問があります、これは此の次、逢つた時にききませう。

私も此のごろ夢の中であなたに逢ふ筈なのに、ゆきちがつて逢へぬと云ふまどろこしい夢を見てゐます。昨日見たのは六丈一^ぢまのアパートにどう云ふ訳か、私とみつちやんと小田部さんとすんでゐます。皆、朝一寸も起きず、やつと起きたと思ふとウクレレをひいたり、男友達がドヤ／＼來たりして、一寸も落ちついて勉強出來ず、其の共同生活を止める

事は、あなたから暫く芯棒(マツ)せよと云はれてゐるので、抜ける事が出来ないのです。我慢して本を読もう、予定を進行させ様と苦しんでゐると、何時のまにか明るい賑やかな街に出て、よう／＼の思ひであなたのゐる事務所の様な横丁を見つけて三階へ登つてゆくと、埃っぽいドアがバタン／＼ゆれてゐる中に大勢の人がゐて、私が訪ねると昔都新聞にゐた八ひろさんが出て来て、もうここにはゐないと云ふのです。私は仕方なく、又暑い／＼陽のグラ／＼してゐる白っぽい舗道に出て大通りまで来ると、其の明るい埃っぽい町を失業者のデモ行進が旗を立てて進んで来ます。もう戦争は終つて深刻な不況が全国に押しよせてゐるのです。ふと見ると、利ちゃん片足義足で、ゆううつな顔で、其のデモを睨む様に見乍ら、反動的な言辞を口走り乍ら、ペツとつばを吐いてゐるのです。私は逃げる様にアパートに帰つた。するともう冬か春の始めのつめたい空気の中に沈丁花が咲いてゐて、私は狭い部屋の台所で肴をやき、こもつた煙を出さうと窓をあけました。みつちやんと小田部さんはまだふとんの中にあつて、ふとんに肴の匂が着くと怒つてゐる、そんな夢です。あなたを探して汽車におくれまいとあせつてゐるのや、いろいろありますが、何時も逢ふ事が出来ません。目がさめると実に淋しくなります。現実ではそんな事はないでせうね。

北極の町は一、二と二巻来てゐます。読んでしまひましたから送りませう。ソ聯の十年と共通したのも割合にありません。ポーランド官憲の反ソ感情の煽りを二人とも食つてゐるところだとか、シベリアに対する想像と其の想像の全く異つてゐる点、ゲーペーウ↑について、職業婦人について、各民族に対するソ聯の方針について等々、中々面白いです。北極の町に来てルス・グルーバはソ聯の女の人たちの社会意識に驚いてゐる。他の国の婦人で、米国のリンチやストライキの事をきいた者は、ほとんどなかつたと云つてゐる。そして彼女もリトルページ↑の様に、何も彼も他の国にゐた時きいたり読んだりした事実と異つてゐる事、わるい期待を良く裏切られた事を指適↑し乍ら、併し私はソ聯国民の代弁者ではない”と云ひ訳の様に云つてゐる。目的は北極の町イガハカで、其の町での生活は光つてゐます。其の町の市長は女である事も私どもには愉快です。此の町の若い娘は明るい輝いた表情で、決断と真摯な好奇心にもえてゐる。子供も大人も明つばなしの暖い友情を、他国人であらうと誰であらうと注ぐ。其のあふれる愛情にグルーバはとまどびする位です。友情、愛情、それは個人間丈でなしに、彼等と政府、国家を一ツに結び合はせ、信頼に充ちたものにしてゐる。一切の活動は其の上に立つてゐる様子がまぎ／＼と見える。精しい事はあなたがおよみになれば解るでせう。リトルページの見方とは深さとか広さとか、仕事の関係で大分異つた点もありますが、著者の主観はとに角、具体的な事実の面白さがあります。

今日は海外電報も来ず、あなたの手紙もない。病気を大切に養生して下さい。これから又すこし勉強します。午後九時。

もうあと残り少くなりました。今夜も相語(マヤ)らずお喋りが激しいけれど、もうあまり気にならなくなりました。四時すぎに海外電報届きました。

幸子から謙一あて（一九四五年二月二一日の記・消印）

二月廿一日

今日は曇り日、東京も寒いことでせう。貴方の風邪の方は如何？早くよくなる様に、毎晩灯を消してねむりに就く前、念じてゐます。昨夜も又、あなたの夢を見ました。あまりいい夢（私にとつては）ではありません。昨夜とうとうオンリー・イエスタデイを終わりました。終りの方のウォール街の話は私にはあんまりわかりません。ほとんどわかりませんが一九二九年の恐慌のよつて来たところはおぼろげに解る様でした。そして此のごろ、「アメリカ」に対する考へ方も、前とはよ程異つて来た事を知りました。今日は世界経済叢書（七）アメリカ資本主義の諸問題を出して来ました。わからぬかも知れませんが、でも一応読んで見度いのです。この調子だと何時、今年度のプランに移行出来るでせう。並行してやる方がいいと思ひ乍ら、どうしても今は米國史關係からぬけ出して、他に主力を注ぐきになれません。私のオナカは気のせい(おん)か、嫌に大きくなつた様な感じがします。双児かしら。私は男でも女でも、どつちでもいければ、どつちかと云へば、男の子がほしいと思ひます。顔や氣質は貴方に似てゐて、色と声は私の方がいいとか、勝手な事を想像してゐます。惻いかな思ひやりのあるかわい(お)い子供であつてほしいものです。みつちやんに云はせると、年とつて身体の弱いあなたの様な人の子は、きつと何処かに欠陥がある、狼咽とか云々、と嫌がらせを云ふので、かわい(お)い子でなくても不具でないと思ひます。全くあの人も勝手の良い人で、云ひ度い放題云つてゐます。私の妊娠は合法的だが、あなたのは疎解(お)してゐて出来たのだから非合法だとか、30以上の妊婦はみにくいものだから、妊婦は汚いからお風呂は後にしろとか、全くあきれてしまひます。よくもまあこんな事が平気で云へるものだと、終にはおかしくなります。それでも本人は云ひ度い事も(お)こらへてゐるとの事です。

今日これから、ドライザーのチェニイをよもうと思ひます。時代は一八八〇年ころからですね。あめりかの小説を、も

つと注意して買つておけばよかつたですね。では又、後程書きませう。今、警報が出ました。又、東京でせうか。十九日のはこちらでも五〇台は見えましたよ。

一時

「ジエニイ」読み終わりました。これはジャングル程、当時の社会的背景は出て来ませぬね。一八九〇年代のトラストの起り始めは一寸出て来ますが。

あなたは毎日床に就いてゐるのでなくて、起きてゐるのではありませんか。そんな風だとこじらして、前の様になるかも知れませぬよ。でも死ぬ脅れがないのなら、今、ろく膜位して置いた方がいい様にも思ふのです。其の方がずっと安全だから。

今、弘前の陸軍病院長から森ちやんが重態だと通知して来ました。明朝位にお父さん達着くでせうから、明日中には面会出来ると思ひますが、一お母さんはもうあきらめてゐると云ひ、どうも心配な事です。わるい時はわるい事が続くものです。あなたも変な事にならぬ様、充分注意して下さい。

私も、これからもつともつと悲しい事や辛い事が来ても、覚悟をして置かなくてはなりませんわね。何と云ふ嫌な時代でせう。まるで私達が結婚して此の方、ろくな事はありませんわね。丁度戦争の起つた年からですもの。

短い手紙ですが、今日はこれで失礼致しますせう。又、今夜でも書きませうね。呉々も注意して下さい。早く逢ふ日が来る事をまつてゐます。

幸子

幸子から謙一あて（一九四五年二月二日の記）

二月廿二日、大雪

東京の方も今日は雪ふりでせう。起きた時は一尺位積つてゐましたが、まだ止み相もありません。九時から隣組の雪かきが始まりました。桃ちやん、二、三日風邪で休んでゐましたが、今朝は三九度も発熱しました。昨夜、彼女がだる相にしてゐるのに、ふうちやんもみつちやんも大喋りをしてゐて、ふとんが敷けないで、とう／＼桃ちやんはうた／＼ねの形でこたつで横になつてゐました。十時ころ、もうねた方が善いと云つて、桃ちやん丈はねかせましたが、二人はとうとう其のわきで一時まで喋つてゐるので、私もねむれず、たまり兼ねてもうねる様に云つて、よう／＼みつちやんが下

へゆきました。案の条、今朝はこんなにひどくなつてゐるんですもの、本当にいやになります。又今日、桃ちやんがねてゐる部屋でガタ／＼ワア／＼やられては、一寸もねむれぬだらうから、強硬にふうちやんにもみつちやんにも、二階に今日は来ぬ様にして貰ひました。みつちやんは独裁とか云つて怒つてゐますが、あの人の馬鹿はわかり切つてゐるけど、ふうちやんまで年がひもない、毎晩／＼二時や一時までワア／＼下らぬお喋りで人の妨害を平気なものには、いさかあきれました。なにしろ朝の九時ころから夜中の一時、二時まで人のわる口、映画の思ひ出、流行唄の展らん会がもう一週間も続いては、全く腹が立ちます。いくら「いいわ、もうなれたから」と、私が社交的な口をきいたつて、すこしは考へ相なものを、ね。どうしたんでせう。今朝、すこし強く云ひました。すこしふかれてゐたけど、し様がない。ルンドパークは中々面白いですね。私は表紙を見てゐた時は、単なる伝記式のものを想像してゐました。まるで異つて、一、一、具体的な数字をあげて、大財閥と大統領の結びつき、策動、陰謀が出て来て、今更モルガン、ロツクフェラー等の社会悪に、其の力に驚いてゐます。恐ろしいシステムですね。大統領個人の力なんて、何もならない事がよくわかります。弗外交の意味も、民主党も共和党も資本の道具であることも、上院も大審院も金融家の番頭に占められてゐる事も、本当に良く理解出来ます。アメリカは恐ろしい国だと思つたのですが、一人アメリカのみではありませんね。陰謀、策動、一切の罪悪は政府、国家の名の下に公然と行はれる恐ろしさ。ルンドパークの其の本は、よくアメリカで出版出来ましたね。出版されたあとでいろいろうるさい迫害、圧迫はなかつたのでせうか。

今お昼食を食べて来たところ、お粥とちやがいもと昆布の煮付。桃ちやんは汗をびつしよりかきましたので、着更へをさせたところです。アスピリンをのむと一応熱が下るので、誰ももうよくなつたと思ひ勝ちですが、熱を下げて呼吸の苦しさを除き、食欲をまさせるため、なをつたと思つてガサ／＼動いてはいけません。あなたもさうだったのでせう。たいいていアスピリンでなをつたと思つて動いて、肺炎を起すらしいです。

こんな雪の日は郵便も、集めにも配達にも来ないでせうね。お父さんたちはもう弘前に着いたでせうが、うまく面会出来たかしら。あちらもひどい／＼六〇年ぶりの雪だとか、足ごしらへはわるいし、どうしてゐる事かと心配になります。足を濡らして、二人とも肺炎にならねばいいけれど、何をするにも妨害だらけの時世で、一ツ困難があると、次々に重なつて来ますから、うつとをしい事です。勝つてもまけるも早いとこ決定してくれ、ばいと思つてゐますわ。

雪はまだ／＼降り止む気配もなく落ちて来ます。もう一尺五寸位はつまつたこととせう。雪掻きの後は、もう埋つてしまひました。流石に自動車も馬力も自転車も通りません。雪のための交通と絶のところもあるでせうね。北日本の方は

もつとく／＼ひどい事でせうね。信越はほとんど動いてゐない相ですし、山形、秋田を通るのも止まったまゝらしいです。こんな日、私の様に自分では食事の支度もせず、炬燵で本をよめる者は一番得ですね。あなたは どうしてゐるかしら。今ごろ起きて、お粥でも煮てゐるかしら。本当におきの毒です。十九日さへ出発出来てゐたら、何かとすこしは役に立てたでせうにね。

では又、あとで書き足しませう。

幸子から謙一あて（一九四五年二月二二～二三日の記）

二月廿二日夜九時

今日の雪（たうとう）とく／＼夕方にやみました。なんとつもつたこと、こんなのは二・二六以来の様に思はれます。ひるま道路わきの河の中に雪をどん／＼投げこんだのが氷つたのか、かたまつたのか、栓の役目をしたので、とう／＼水が溢れて玄関の辺まで水浸しになりました。方々の家から人が出て大さわぎして、シャベルやなんかで何とかした様です。夕方（食後）私がポストへ手紙を出した時は、何ともなかつたのですけれど。夜に這入つて温度が下つたためです。今夜の夕飯は大根とポテトのカレー煮で、あまりおいしくありませんでした。下ではお母さんとみつちやんと、硫黄島の事で憤激してゐます。ふうちやんは隣組の雪掻きに出て疲れたとて、午後は殆んど二階の炬燵でねむつてゐました。桃子は夕方から又9度五分になり、水で冷やしてゐますが、明日は吉川と云ふ医者を受診に来て貰ふ事にしました。今ごろの肺炎はキンが濃いとかで、こわい相です。

あなたは其の後どうでせう。十七日の手紙以来、あなたからのお手紙来ず（尤も十八日の夜、声をききましたが）、何となく心配してゐます。今日は大雪のため手紙類は配達されない事と思つてゐましたが、午後に西山さんの手紙と海外電報とが届きました。あなたの方、私がそちらにゆくだらうと思つて、其のころ手紙を書かなかつたのだらうと思つてゐます。私も上京をきめて以来、手紙を書かなかつて、いよく駄目ときまつてから、又書き出したのですから、あなたの方へ届くのも不定だつた事でせうと思ふわ。こんな大雪では、又あちこち汽車の都合も悪くなつたでせうね。硫黄島の事を思ふと、もう私の上京なんて夢に終る様に思はれます。今までよりも更に空襲も激しいしひんぱんでせう。東京行の乗車券の入手はむづかしいでせう。

西山さんの手紙にも背の君は疎解（解）して帰つておるでなつたでせうと書いてありました。こんなあぶない時に残つてゐるのが不思議に思はれるでせうね。調査会からの月給も必要でせうが、いのちあつての事だとも思はれます。

今までの空襲では世田ヶ谷も安全地帯であつたかも知れませんが、もうそれも長い事もない様に思はれて心配でなりません。それは毎夜ねむる前、あなたの健康、安全を祈つてはゐますけれど、そんなものはほんの一時の心慰めで確実性がありませぬもの。兵隊にとられたのならし様がないけれど、一なんて矢張り心配のあまり考へてしまひます。こんな手紙を書き乍らも、此のごろと来たら、明日の計画すらそこを来たすのだから、ましてや三日も四日も、時には五日もかかる手紙なんて、届くものやらどうやらと思はれても来ます。

ルンドパークもそろ／＼上は終る位よみました。あまり精しい事は記憶に残さぬ様な読み方で読んで来ました。もうそろ／＼嫌になり始めてゐます。あんまり精しい事は私には復雑（雑）すぎて、よくわからないのです。今はウイルソンと其の背後の財閥です。あとはとばしてローズヴェルトとニューデイルのところへゆかうか、それともたんねんに読まうか迷つてゐます。途中で、笑はぬでもなし、をもう一度読みました。

今あなたは どうしてゐるでせう。原稿を書く程の元気があればいいが、又9度も熱が出てゐたら、着更へのねまきもないでせうし、困つてゐると想像したりしてゐます。

今夜はもう私はねむらうかとも考へます。なにしろ毎夜お喋りのうるささで、ずっと睡眠は不足してゐます。今日もひるまは目が□□／＼する程ねむい時もありました。あまり悪くない夢で、あなたに逢ひ度いものです。

では今夜はこれでさようなら。元きでゐる様に祈ります。

二月廿三日

今朝は又雪が降つてゐましたが、もうそろ／＼小やみになりました。昨夜はおぼろの月に照らされて雪女郎でも歩いて来相な眺めで、寒いのも忘れ外を眺めました。

飯田線は雪の為、故障を起してゐる相です。今朝は家中で一とう早く起きました。起きてもする事がなくて、所在ないので困りました。今日は経済叢書の方にかかります。ルンドパークはあれ位にしておきます。又、何か精しく知り度い時に読む事にしませう。段々晴れて明るくなつて来ました。今日、うんと陽が照れば、昨日の雪はぼつさりの春の雪だから、直とけてしまふでせう。今朝の私の置炬燵の心持良い暖かさ、部屋の明るさ、貴方が向ひに座つてゐたら上々だ

と思ひます。

此のごろ一寸もまとまつた手紙が書けず、チヨコくゝの走り書きの手紙ばかり書いてゐますね。あんまりしばしば書き過ぎるせい^で、まとめて書く様^が事がなくなつたのでせう。今日は貴方から手紙が届くかも知れませんか、其の時、又何か書く事にして、今朝はこんな手紙で投函^しませう。

弘前も雪はもつとひどい事^でせう。心配です。ふうちゃんは今朝、森男の夢を見て、夢見が悪いと云つて心配してゐます。桃ちゃんの方は今朝は熱も下りました。頼んだ医者^は二人とも大雪に閉口したのか、口実^つけて来てくれ相もありませんが、熱が無くなつたから、どうでもいいと云ひ合つてゐます。

では又、午後に書きませう。

幸子

幸子から謙一あて（一九四五年二月二三〜二四日の記）※

二月廿三日午後

コーヒーをのんで熱い炬燵^{には}いつてゐたら、又はな血が出て来た。のぼせたのでせうね。ランドパークはやめ様と思ひ乍ら、第二巻へはいつたらジャーナリズムの世界の事、とても参考になるので、遂百ページ近くも読んで来ました。ぼんやり考へてゐた事実はつきりして来て、非常に啓発^{され}ます。もうすこし読みつづけませう。

お母さんは又胃病^でねこみました。十月十日目の割合^で、トットか胃病^かが起ります。随分弱つて来たのでせうね。もう四時になるのに、まだ今日は何処からも手紙が来ません。雪で方々交通故障^が起つたのでせうか。

もう廿分位立つたら、夕方掃除^に下りてゆきます。陽は朝の日照つてゐたのに、午後はくもつてしまひました。此の分ではあの雪も中々溶けさうもありません。

あなたの仕事の方、順調に進んでゐますか。熱があつたりしては、中々思ふ様に進まないでせう。

野菜の配給は相変らず悪いですか。こちらもこずつと、あまりないところへ、休診を続けてゐるので、患者さんから時々はいるのもストップで、大根ばかりになりました。大根も続くと嫌になります。殊に煮た時の一寸おならくさい様なほひはムカ／＼する様に嫌です。お父さん達弘前では林ごをうんと食べられるかしら。お土産にする程買へるといけれど。今一番ほしいものは林ごです。毎日三度とも林ごでいい程、林ごに飢えてゐます。此の前の時も、よく林ご

を食べましたね。あの頃は一山拾銭で四ツ位もあつたけれど、当時は拾銭の林ごも、それ程思ひのまゝには買へなかつたし、林ごを買ふ位のお金の出来た時は林ごが無い。全くままならぬ世の中ですね。

午後七時、外は又、ブリューゲルの冬景色そつくりの冷めたい淋しい雪の夕暮です。現実を離れた世界へ想像がとんでゆきます。冬の中でもいろいろ美しい風景はありますが、今日の夕方の様な、一種のフンキキをかもし出す夕景は少いでせう。日本の田舎の村からお伽話の世界を思はせるものがある。

今日はとうとう海外電報も、あなたの手紙も来ませんでした。あなたの方では近々私がゆくものと思つておるでのせいでせうか。切符はまづお父さんでも帰つて来て話してくれない事には無理ですし、今はお母さん、桃子と病氣、早苗も手はなせない状態ですから、私が上京する事は無理だと思ひます。みつちやんは来たすぐの二日は、あてつけ見たいに朝夕お勝手の手伝ひをしましたが、三日目からは掃除も食事も、ふとんしきすらやめて喋つてばかりですから、あの人を当にする事は出来ません。看護婦さんもお父さんの留守中、代りくく休暇を与へたので、これ又すつかり当には出来兼ねます。防空当番を誰かに代つて貰つて、お父さんといらつしやい。あなたから手紙が来ないので、廿日の朝、お父さんたちがあなたのところによつたのかどうかともわからないし。

今日はき持もわるくなつたし、痔もわるくなつたし、ころりとねころんで雑誌でもよもうかと一これから一思ひます。なにしろ此のころはすこしゆううつすぎる。現実も夢も。のんびりたつぷり本をよむ余祐(祐)を持ち乍ら、こんな事を云ふものぢやありませんね。風が出て来て窓をゆすります。氷つた路を荷馬車の音がする。明治時代の小説を思ひ出します。

これは明日、もうすこし追加を書いてから出させよう。これから横になつて Rund Park をよみます。 さようなら

Rund Park (下巻)の方は実に面白いですね。私はこんな啓モウ的な本だとは全く思ひもよらなかつた。ジャーナリズムもだけれど、社会事業に就いて解剖、批判は凄いと思ひます。一体 Rund Park て、どんな人なのでせう。序文の説明では 20 行位の紹介があるけれど、それでは彼のエッセイだけしかわからない。あなたは勿論、もうおよみになつたのでせう。どう思つて? ね様ね様と思ひ乍ら、あまりの面白さにとうとう引きづられて来ました。今度こそ本当にふとんを敷きませう。

突然うしろで「ああ、おなかやすいちやつたなあ」と蚊のなくやうな子供っぽい声がかすかにする。ふと見ると一人の女、袖がとれて白いジュパンの出た綿入れ着物に赤いたすきをかけ、大分くたびれたモンペにはだし、頭はとりてきのちよんまげのやうにして、ころ／＼肥つて小柄で、一見子供のやうだがよく見ると三十前後のおかみさんと云つた女が、ベンチに干切れた袖と綿切れとをしいて、寒雀のやうにちんまりまるくなつて坐つてゐたのが、よつこらしよと坐りなほしてゐます。罹災者か乞食か区別がつかない。「ああ、おなかやすいちやつた」、もう一度さう云つてキヨロ／＼してゐたが、ついとベンチに立ち上り、それからベンチからおりて、隣で食べ終つたばかりの戦斗帽、パーバリ、ゲートル姿、ひげのそりあとも青い三十五、六の大男に、「ダンナ、昨夜から何もたべてゐません。おなかやすいてしかたがない。何かたべるもの下さい」と手をかさねて、チヨウダイをしました。「わしやね、之から旅行するんで弁当は要るんだよ」とあつさりことはつて、弁当をかばんにしまつて立ち上る。彼女は「しようがない」と云ふ風に小さい眼をまぶしさうにしながら今度は別の方向で、身ぎれいにした五十五、六のおばあさんとその娘か嫁らしい若い女と一人づれが、ふうちやんのおべん当のやうなうるしぬりの大きなお重のやうなべんとう箱を二つか三つピクニクのやうにひらいて、ごまのふつた大きい白米のいかにもうまさうなおにぎりと、何かお煮つけとを食べてゐるところへチヨコ／＼歩いて行つて、やつぱり両手をかさねて出す。「之でも足りないんですよ。まだ之から夜まで旅行するんですからねえ」とそのおばあさん、すげなくことはつて、ちよつとたべにくさうにしながらたべかけをたべ終つて、お弁当をしまひかける。例の女がこんどはその隣の二人の上品な白髪婆さんの組に、之は何もたべてゐないが、そこへ両手を出す。おばあさんたち首をふつて、にや／＼笑つてゐる。女はさうひどくしよげた風もなく、今度は僕の方へ来さうである。女が去ると、さきのおばあさんと嫁か娘の二人づれはさつきしまひかけたお弁当をまたひらいて、何か小声で話しながら食事を再開してゐる。僕は彼女たちになちよつと反感を覚えたので、おにぎり一つ出してやらうかなと、どうしようかなと思つてゐると、「おじさん。何か食べるもの下さい」と蚊のやうな声で云つて両手をさし出す。眼はちよつとまぶしさうだが、卑屈に馴れ切つた表情で、わりあひころ／＼肥つてゐて、何だか白痴で駄にとまりこんでゐる女と云つた風なので、感じがよくない。専門の乞食らしい。かばんからわざ／＼とり出してやけるほどのあはれさも感じなかつたので、だまつて首をよこにふりました。こちらが食べてゐる時なら一つぐらいやつてもいいと思つたが。その女もことはられ馴れて、あつさりあきらめる。そこへ一人、矢沢先生のやうな年かつこうの人が黒い背広にゲートルまいて、書類かばんとふろしきづつみ二つとを持つて、そそくさとベンチにこしかけた。女はまたその前に手を出す。「え、なんだあ、た

べるもの。そんなものもつてやせんよ」と、びつくりするほど大きな声で云つて、さつさとかばんのつめかへをやりはじめ。女は両手をふところへしまつて、またベンチの上へちよこんと坐りこむ。そのおじいさんはかばんのものを出したり入れたりしてゐたが、新聞紙のつまみからムシパンのやうなものの小さい一切れをつまみ出したかと思ふと、くるりとふりむいて、「おい」と例の女へつき出す。彼女はあたふたとベンチをおりて、それを両手に押しただいてベンチへかへる。

そんなことを見てゐる間に改札がはじまつた。汽車は可成り混みましたが坐れました。汽車の中では、諏訪あたりでは、疎開の衆が食べ物がなく、畑へ植えた種いもをほり返して仕方がないとか、田の草をみんなたべて了ふとか、そんな話ばかり。僕は眠くて、おにぎり二つをたべて了ふとすぐうとうとしはじめ。おひるは笹子附近で一時過ぎでしたが、弁当箱のおにぎりと卵たまごとたべました。新宿では小田急がおくれて、帰宅は四時半になりました。それから白米おにぎりと、あさちやんのおかずとたくあんとを食べ、お茶わんでアルコールをのんで、早寝しようと思つてゐるところです。

五月二十二日(曇)

今日はあなたのお手紙四通を一举にうけとりました。おいしいやうな怒つたやうなすねたやうなさびしいやうな四通です。十五日から十八日迄。

僕はもう本拠をそちらへ移して了つて、こちらへ出張して来たやうな感じですよ。何だかすつかり片づいて了つたやうな。我々の住居は思つたより住みよくて、あなたがあちらこちらかゆがることをのぞいて、申し分ありません。あさちやんの云ふやうに、北へ一坪のお勝手が出来れば、全く理想(低い理想かもしれないが)的です。さうすれば六畳もまるまるつかへますからね。何とかうまくそのやうに出来るやうに骨折つて下さい。僕は今月末か来月初旬までにすつかりをうまくやませう。僕は今月末までに片づけたいが、芦野氏は月の下旬は月報でまるで時間にも心にも余猶あまゆいがなくなるので、あるひは来月上旬までのびるかもしれないです。みそ醤油その他はこちらでとつておきませう。その方が簡単でせう。米は十日なので、十日までにはどんなことがあつてもそちらへ移つてゐるでせう。

おにぎりは今日のおひるまでであるので、大助かりでした。今日は午後から、八王子へたくあんと大根とを持って行って、この手紙を出して来ませう。夕飯はよばれて来るかも知れませんが。

今朝、ぬれた亜炭を運び出しましたが、どうもそれを見るにつけてもいいうつで、この燃料の調子から云ふと、ここ十日と持ちません。

では今日はこれだけ。まだ誰も出勤して来ません。

あさちやんがまだあなたの所で泊つてゐてくれるなら、どうかよろしく御伝へ下さい。おにぎりやお弁当のおかずも変おいしく、本当におかげさまでしたと。

あなたも水汲みその他に無理しないやうに。おなかを大切に。明日はユベラかオリザニンを買ひに行きませう。なほ、矢沢さんにもどうかよろしく御礼を御つたへ下さい。

五月二十四日(木)曇

出ようと思ふと人が来て、今日まで八王子へ行けなかつた。浅原ももう帰つてゐるだらうと思ふので、今日午後行きませう。その時此の手紙を投函させよう。

今朝の空襲は、今までに一番スリリングな空襲でした。昨夜は昼抜き（お）のせいがおなかがあつて、今朝の分まで食ひこむほどたつぷりたべた後、眠いので九時頃床には入つて本を読んでゐる中、すぐ眠つて了ひました。だから一時頃のサイレンで眼がさめた時は、もう朝方のやうな気持で、ラジオで「一時何分」ときいて驚いたくらいでした。どうやら大挙来るらしいので、西の窓をあけて月明りでジャンパーと洋服とレインコートと、即ちありつたけの衣類をつけ(実際可成り寒かつたのです)、米を非常袋に入れ、原稿をカバンに、鍋とムシガマとを持ち出して、鉄カブトをかぶり、露台へ出ました。雨のあとであたりがひえびえして、月もうす雲がかかつてゐるが、概して晴れてゐるので、久しぶりのBとて、今夜はゆつくり観戦しようと思ひました。その中思つたより早く、西南方からBが二、三機づつは入つて来ました。照空灯に照らされ乍ら二千米ぐらゐの低空で都心に向つたかと思ふと、もう渋谷の方は火になつてゐました。火はだんく、東南方一面にひろがつて、煙がもくもく、入道雲のやうに湧き、赤々と照り映えました。今日は大ていが此の上空を西から東へ通過するので、これは少々危険だなど思つてゐると、真上をとび去つた大きなBが、追躡する味方機(翼灯がついてゐる)のツツと発射された火砲に忽ち火を吐いて、そこから一面拍手と歓声とがわき起つた中を、暫く火だるまで飛んだ後に下北沢辺か渋谷と覚しきあたりへ、昼のやうに明るい光を発しながら美事な花火のやうに壮麗に落ちて行きました。続いてまた一機が、やはり友軍機の火砲に火を発して、之は可成り長く赤い光の玉になりながらと

びつづけましたが、新宿かもつとさきあたりで、地上の火と煙の湧き上る中へ落ちて行きました。さう云ふ風なBの撃墜を、この露台から割合ひ近く七つか八つも目撃して、戦争始めて以来の観物を体験したのですが、いづれもこの上空を低空でとぶので、そしてこの近辺でもしきりに焼夷弾を落すので、露台の上にあるのは危険だなと感じました。時々照空灯につかまらないBが、此の上空をすぎる頃から地上の煙の中へ入って赤く機体を光らせ乍らとび去るので、思はずひやりとします。すでに経堂の南東北と三方は火の海で、入道雲は赤々と天空一ぱいにもり上り、焼夷弾の花火のやうに落ちる光や、空中戦の火炮の赤い線、高射砲弾の炸裂、そして火だるまか慧星のやうに燃えながら情性でとぶBなど、全く凄絶だが美事な光景でした。

二時もすぎた頃、また一機が此の上空をやや北寄りに、照空灯につかまつたまま低空で西からとんで来ましたが、満を持した此の近くの高射砲（少し西）が一挙にドドドッと発射すると、そのBの巨大な胴体からパッと火が発し、やがて凄火の塊になって此の辺一体の地面の石ころまで見えるほど明るくなりました。そのまま丁度此の上空へ来たので、これは危いぞ、弾倉を開いたにちがひないから、焼夷弾やバクダンが降つて来るぞ、と思はず露台から下へとびおりる手段を考へました。どうにかこの上空をそのまま過ぎたので、助かつたかと思つたとたんに、異様に彎曲する轟音を発して、その火だるまがこの少し東北の上空でぐつと旋回し、僕の真上へうづまきながら落ちはじめました。下では大勢が奇声を発して、「防空濠々々々」と呼びながらとびこむらしい。僕は自分の真上でなく、やや東北寄りに流れたから大丈夫とは思つたが、火になつた巨大な翼がぐらりぐらりまひ乍ら、そのまはり一面に大小の破片が物凄い火の子と一緒に轟音をあげて落ちて来るのを見てみると、思はず胸がどきどきしました。これはここから三町ばかりはなれた風呂屋のこちらの横丁へ落ちたのです。何だか此の四、五軒隣へ落ちたやうな感じがしたほどです。機体が落ちて、夜目にも真黒の煙がもくもくと果てしなく上つてゐる間にも、火になつた大小の破片と火の粉がそこら一面にふり続けました。このあたりへは、火は落ちませんでした。さうかうしてゐる中にあとからあとから不気味なBの巨体が西空からあらはれて、この真上へ来るので、さすがの僕も一まづ非常袋やかばんを持って下へ下りました。芝生は雨でぬれてゐました。小使さん達が、「菊池さん、よく上でゐられましたね」とさはいでゐました。

間もなく敵機の飛来が少くなつたので上へあがりましたが、二百機にはなつてゐないと思ふけれど、その大部分が此の上空を飛んだので、僕には今までで一番スリリングでした。この辺の人はみんな落ちたBを見に走つたやうです。僕もあとから行つてみませう。空襲がやんだ四時頃には、空はもう明るかつたが、今も太陽は煙雲でどんよりしてゐます。

では。(芦野さんとの交渉うまく行くでせう)。

謙一から幸子あて(一九四五年五月三十一日の記、六月二日の消印)

五月三十一日

昨夜は浅原君宅へ泊りました。

昨日桜上水(京王線)から行つたのですが、桜上水の駅と車庫は、附近の人家と共に焼けて了つて、駅員が露天のベンチで証明書を点検して通すのです。僕は身分証明を見せて、重要文書を八王子の分室へ疎開するのだと云つて通過しましたが、多摩まで来ると電線故障で府中まで三キロばかり歩かされてうんざりしました。こんな交通状況では、今日は八王子まで行きつけるかしらと危ぶみつつ行つたのですが、どうやら四時間かかつて彼の家につきました。

丁度彼は出張から帰つたばかりの所で、さつそく二人ともくつろいで、夕食を彼の両親と妹さん(トシコさん)と一緒によばれ、それから彼と二人で、約十丁ばかり浅川の方へ行つたところの「サンド」とか云ふ土地にあるキミヨさんの実家へ行きました。キミヨさんは四月末から痛んでゐたおなかを、五月十二、三日頃にセメンをのんで更にひどく荒して了ひ、ずつと流動食で今に到つてゐるのです。一時は薬をのむための水さへ、口にふくむともう胃腸が痛んで堪えがなくなつたさうです。昨夜はもう床に腹ばひの形で、此の前十八日に行つた時よりはるかに元気さうになつてゐました。腸の敏感症だとか、虫があるんだとか(実際セメンで少し出たさうですが、此の頃は全然ないさうです)、胃ケイレンの一種だとか、胃カイヨウだとか、腹膜炎の怖れがあるとか、黄だんだとか、既に四人まで別のお医者者に診てもらつて、そんないろいろうちがつた見立てで、まだ何ともよくわからないのださうです。山羊の乳とブドウ糖注射とスープとで一ヶ月つづけたのですから、ずい分苦しいわけでせう。併しちゃん化粧をして、さうやつれた感じがしないのは、若さのせいかもしれせん。

福島と云ふのが彼女の実家の姓ですが、福島家は此の辺の旧家らしく、がつちりした昔風の門と塀の外を小さい川(どぶと云ふべき所ですが、それがきれいな水が流れてゐるのです)でとりまかれ、門の中はどこが母屋かと迷ふほど大きな、やはり昔風な棟がいくつか組みあはさつたやうに建つてゐて、商家のやうな(機屋ださうですから。今は農業だけです)農家のやうな、また床屋のやうな家がまへです。玄関をは入つたところにつきが、そのまま十畳ばかりのお座敷の

やうで、部屋のまんなかに大きな立派なテーブルが置いてあり、その向ふが長火鉢がある台所か茶の間らしく、之も広くて十畳ぐらい、座敷の左手に八畳ぐらいの居間があつて、之が本当の座敷かもしれません、そこに六、七年もさまゝな病気で寐つづけてゐると云ふキミヨさんの不幸な兄さんの床がしいてあつて、腹膜、腎子炎、チブス、肋膜炎、背骸カリエス等、一家中の病気を一人で背負つて来たやうな、その兄さんが、一朗君とキミヨさんが平常僕のことを何かと宣伝でもしてあつたらしく、すぐ出て来て朗らかさうな、元気のいい調子で、そのお父さんと二人で僕のお相手になつてくれました。伊藤新一君の所の四彦君のやうな一家の地位にあるが、四彦君より年も多く（二十七、八でせう）、明るい感じの人です。

風呂へは入つて、とまつて、今朝帰りました。今日之からまた少し本を持つて行きます。一緒に配給の酒を持つて行くつもりです。之も、そちらへおみやげにしようかとも思つたが、持つて行くのが大変だし、若し割つたり、時節柄悪くなつて了ふといけないので、浅原に進呈、と云つても結局今夜二人でのもので了ふこととせう。

浅原の所でも、青山の叔父さん（オデコの正基君の一家、正基君は兵隊でゐない）が二十五日の夜焼かれて、福島さんの借屋へは入つてゐます。荷物は前から運んであつたが、それでもずい分焼いたさうです。青山学院も焼け落ち、一丁目の陸軍大学までずつとやられて了つたさうで、死傷も相当あるさうです。今朝の新聞で岡見護郎と云ふ毎日新聞の何とか部長が、一家五人渋谷区内の自宅で空襲で死んだとありますが、あれは我々の元の家から少し三河屋の方へ行つた所、例の梶君の家の向ふあたりにあつた家ですね。僕はプシも今まで生きてゐたとしたら、廿五日夜のあの空襲で死んだことと思つて、「クウシュウの眼はまつか」と云ふ言葉をふいと思ひ出しました。犬猫の焼死も多いさうです。

今朝新宿へ出て、小田急で帰りましたが、冬に寒風の中を、荷物を負つて歩いたり群れたりしてゐた人々の姿にもまして、今、汗づくになつて、ふとんやリュックを背負つた罹災者の姿は悲しいものです。新宿は駅も京王電車側と青梅口（小田急）がすつかりやられ、ホームの屋根も半分ぐらいこはれてゐるし、荷物の起重機の陸橋も焼けてゐます。武蔵野カンと新宿ホテルとは残ガイとなり、三越、イセタン、第一劇場だけがどうにか残つて、あとはすつかり廃跡です。小田急沿線も新宿から代々木上原まで、ずつと焼野原を通り、また世田ヶ谷中原から梅ヶ丘も焼野原ですから、やはり相当なものです。大久保辺では焼けあとに焼トタンのバラックがずい分出来て、人々が炊煙をあげたりふとんをほしたりしてゐます。

東京でもう残つたところはいくらもありません。僕が本をはこぶのも、やむを得ないでせう。

では又。

あとがき

私が大阪市立大学大学院に進学したのは一九七五年四月、それから四十年あまりが経過した。その間の主な研究成果は拙著『日本ファシズムと労働運動』（校倉書房、一九八八年）、同じく『日本労働運動史序説―紡績労働者の人間関係と社会意識―』（校倉書房、二〇〇九年）の二つの論文集におよそ集約できる。だがその二冊の中に菊池謙一の名は一度も出てこない。菊池さんは私の主な研究対象というわけではなかったのだ。にもかかわらず菊池さんとは、長きにわたり不思議な縁があったように感じている。

その理由として、まずは菊池さんが師として仰ぎ、かつ深い影響をうけた羽仁五郎を、私が卒業論文でとりあげたことがあろう（のち「羽仁五郎の歴史思想と人民戦線」『歴史評論』第四一―号、一九八四年〕として発表。菊池さんの先生の歴史思想の批判的考察、そんな難問に向きあうことをとおして、私は研究生生活のスタートラインに立つという気になったわけだ。

それから二、三年、いや四、五年あとのことだったろうか、大阪歴史科学協議会の例会ないし研究部会の終了後、いつものように参会者が居酒屋に流れていったが、そのときたまたま同じテーブルの席にいた故高橋彰先生（大阪市立大学・西洋史）が次のような話をされた。マルクス主義の方法によるアメリカ近代史研究の草分けともいえるべき、すばらしい仕事をなしたにもかかわらず、その人は共産党の活動に献身することで、研究者としての人生をまっとうできなかった、それは学界にとって大変な損失だというのである。

どんな脈絡でそれが話題になったのか、その人の名はなんといったのか、などはまったく記憶がない。だが高橋先生のそのときの話しぶりは、鮮明に思っておすことができる。そこには政治闘争を優先する共産党の犠牲になった知識人、というようなニュアンスが含まれており、私は「なるほど、ありそうなことだ」ぐらいに、軽く

聞き流したのだと思う。のちに当のアメリカ史研究者と「再会」することになるとは想像もできなかった。

十数年にわたるオーバー・ドクターの生活に耐え、信州・上田の長野大学に職をえたのは、私が四十二歳のときであった。新しい研究テーマを模索中だったということ、そしてせっかく信州に赴任してきたのだから、この地域に密着したテーマにとりくみたいと思ったことなどから、やがて私は敗戦直後の下伊那青年団を調査することになった（その成果は「下伊那青年団の平和運動―平和意識論にむけてのモノグラフィ―」〔歴史評論〕第五七三号、一九九八年〕として発表）。かつて青年団運動になった高齢の方々を訪ね、往時の聴き取りも試みたが、印象的だったのは大略次のような語りである。

終戦のあと菊池というアメリカ史の先生が下伊那を巡回して、青年たちを集めては思想や生き方にまつわる講演、あるいは車座の座談会をしたが、私たちはその影響をうけたものだ。菊池先生は自転車に乗れないという噂があったくらいで、とにかくいつも重いカバンをさげ、歩いて村々をまわっていた。

下伊那の村の多くは、中央アルプスと南アルプスに挟まれた急峻な谷あい位置している。私の場合には車でまわったのだが、朝もやのかかる細くて急な坂道を走るときなど、ちょっとした恐怖を覚えたものだった。こんなところを徒歩で移動するなど、私にはとうてい考えられない。またその方々の語り口には、菊池さんと終生政治的立場を同じくした人の場合も、やがて異なる立場に移行した人の場合も、ともに菊池さんを中心に喧々諤々議論した青春時代を懐かしむふうがあったのが、なんだか愉快だった。そこには私たちの世代の体験とは位相差のある、戦後民主主義開花の時代の青年たちの昂揚があったのだろう。

下伊那の菊池さんと高橋先生からお聞きした人物とが、あるいは同一ではないかと気づいたのが、いつのことであったかは覚えていない。おそらく私が菊池さん本人について、調べてみようと思いつ前であつたらう。大阪教育大学に着任した一九九九年には、菊池さんの調査に着手したが、間もなく誌面に掲載された高橋先生の手になる菊池さんへの弔文を見つけ、間違いなく同一人物であることが確認できた。その年末に認めた高橋先生あ

ての賀状に、「いま菊池謙一さんのことを調べています」と添え書きしている。先生は喜んでくださるにちがいないと、少々得意げな気分になっていたようだ。

ただ高橋先生が、菊池さんを政治運動の犠牲者というニュアンスで受けとめておられたのにたいし、私は活字になった菊池さんの時々の文章から、それはそうではなく、さまざまに考えあぐねた結果ではあれ、最終的にはみずからの意志で決めた人生行路なのだと解するようになっていた。住む者のいなくなった旧菊池宅を、史料調査に訪れたのはそんなころだったろうか。段ボール箱いっぱい詰めた大量の英字新聞を目の前にしたとき、私はふいに眼がしらが熱くなるのを禁じえなかった。

研究者としての道をすすむか、それとも運動家として生きてゆくのか、そんな重大な選択を菊池さんが簡単になしたはずがない。たとえ自分の意志で決断したにしても、それで割り切ってすませられるものではないだろう。職業運動家としての多忙をきわめる日々、経済的なゆとりなど想定しがたい暮らし向きではあっても、菊池さんは英字新聞の定期購読をずっとやめなかった。その胸のうちからアメリカ史の専門家でありつづけたい、研究者としての人生をまっとうしたかった、というような思いがつけられることはなかったであろう。こうした人の心のありように思いが至らない自分が情けなかったのか、それとも菊池さんの学問への思いにシンクロしたのか、私はやや感傷的になっていたらしい。

とまれその日の調査により、菊池夫妻の戦時下往復書簡を入手し私は、本篇冒頭の「解説」にも述べたように、同書簡を主な史料とした論文を二〇〇二年にまとめることができた。戦時下往復書簡全文の翻刻刊行は、そのころから意識していたことである。苛酷な時代を懸命に生きた夫婦がのこした心の軌跡の記録、日々の暮らしや出来事の詳細な記録、拙稿はその類をみない貴重な史料のほんの一部を切り取って用いたにすぎない。これで往復書簡が「用済み」になったとは、とても思えなかったのである。しかし当時の私は、「紡績労働者の人間関係と社会意識の歴史」という別のテーマにとりこんでいて、全文翻刻・刊行の仕事は棚上げにしてしまった。

その別テーマの研究が二〇〇九年末、論文集『日本労働運動史序説』の刊行によって、いちおうの区切りがあったとき、私は相応の充実感・達成感とともに、これまで経験したことのない疲労感のようなものを覚えた。自治体史編さん・執筆の仕事を大量にかかえていて、立ち止まることなどありえない状況だったにもかかわらずである。六十歳目前という年齢的な要因が大きかったのであろう。これまで背伸びしてなんとか研究者たちの世界で生きてきたが、獨創性や論証・実証の精度にこだわることであれば、文字どおり浅学非才の私にできることはここまでだ、というような気分にとらわれたのである。

とはいえ私がなすべき研究、なしうる仕事はまだあるはずで、それはいったい何なのか、とりわけ自分の内面からの欲求として、今なしたい仕事は何なのか、というような問いに思いをめぐらせたとき、まっさきに脳裏に浮かんだのは、菊池夫妻の戦時下往復書簡の全文翻刻であった。これだけは自分の手でやっておかないと、後悔することになるだろう。そこで心あたりのある出版社に打診してみたが、期待したような反応はえられなかった。無理もない。今どきマルクス主義者の書簡集など、一般に売れるはずがないのだ。こうして再度の棚上げを余儀なくされた。

だがチャンスは思わぬところにひそんでいた。本学の歴史学研究室では、定年退職する教員がいると、その年度に刊行する紀要『歴史研究』を、同教員の退職記念号として例年より大部の冊子につくり、関係諸氏より寄せられた論稿からなる論文集にすることが慣例となっていた。だから二〇一三年度末ころから、私が退職する二〇一五年度の『歴史研究』のことが話題にのぼるようになっていた。ただ教員養成の学部・大学院で、テーマや内容に統一性のない論文集を編むことに、私は前向きになれなかった。ならばどうするか……。

せっかくの機会だから、これまで私が執筆した「書評」「新刊紹介」「大会報告批判」その他雑文を、一冊にまとめるという計画を考えてみた。四十年余も歴史研究にかかわっていると、私でも活字になった書評文・批判文などは相当な量になって、ちょうど退職記念号一冊ぶんに対応する。これはいい案だと思った。しかし何かの拍

子に気がついた。そんな冊子は私個人にとってはありがたくても、学問的にはなんの意味もない、ただの自己満足のためのものでしかない、と。

『歴史研究』退職記念号を、菊池夫妻の戦時下往復書簡集とすることはできないか、などと考えるようになったのは、その気づきの直後からだ。問題は書簡の分量である。頁数はこれまでの退職（退官）記念号の二倍になろう。ただでさえかつかつの教室予算に、過重な負担をしていることにもなってしまう。しかし他にどんな内容の記念号がありうるのか。それにこの機会を逃せば、往復書簡翻刻刊行の可能性は、永久に閉ざされてしまうかもしれない。そんなことをあれこれ考えながら、とにかく二〇一四年九月の教室会議で、私の希望を話してみた。すると意外なほど簡単に、私案を了解していただくことができた。これは本当に感謝である。

さっそくパソコンにむかい、書簡集の原稿を作成する作業を開始した。以来まる一年と半年間、机の前に座ることのできた時間は、ほとんどこの作業についてやした。連日そのようにすごしていると、戦時下におけるお二人の人生を、そのまま追体験したような感覚にもなってくる。不思議なもので、そのうち生身の人のように、その存在をリアルに感じるようになっていた菊池夫妻は、すでにこの世の人ではない。それに対面している自分もそう遠くないうちに、あるいは明日にでも存在しなくなる。こうして死者と、束の間の生をいきる人とが、史料を介して対話する、それこそが歴史研究の原点というものではないのか、などとも考えさせられた。

全文翻刻のつもりで作業していたが、予想外に頁数が多くなり、一部省略せざるをえなくなったこと、解説の執筆や書簡本文の校正に、最低限必要な時間もかけられなかったことなど、いくぶんかの悔いがある。だが自分がしたいと願った仕事である。現役最後の一年半、その作業を中心に日々すごせたことを、私は嬉しく思っている。その間の大変さ、しんどさをふくめ、私にはとても幸せな時間だった。

本篇の作成にあたっては、まず往復書簡をふくむ史料調査の段階で、斎藤俊江・塩沢英・塩沢みどりの各氏、および飯田市立図書館の方々にたいへんお世話になった。菊池夫妻の長女・前田由理さんには、翻刻刊行につい

て同意・許可をいただくとともに、原稿の段階で全文に目をとおし、私の質問に答え、ありし日のご夫妻の貴重な写真も提供していただいた。高砂市史編さん室の井上雅美さんには、私が作成した原稿と書簡本文の写しとを照合し、修正を要する箇所を見つけたすという、面倒な作業を担当していただいた。また伊藤敏雄・田中ひかるの両先生には、私の勝手な企画・提案をころよく了解していただき、財政的にも具体的な作業の面でも、惜しみないご助力をいただいた。これらのみなさまに心からお礼申しあげたい。

最後に信利印刷の宮地浩史さんには、原稿作成の遅れにより、工程上たいへんな無理をお願いすることになったが、それでも刊行期日に間に合わせていただいた。ここに記して謝意を表する次第である。

二〇一六年三月八日

三輪泰史